

狩人提督、着任ス

サバ缶みそ味

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

新しくできた鎮守府へ配属されることになった白露型駆逐艦6番艦、五月雨。

彼女が着いた鎮守府はとも変わつた人がたくさん!?

黒炎王一式「よっしや、一狩りいこうぜ!」

ザボアZ「ヒヤッハー! 駆逐艦をよこせえ!」

ジンオウ一式「: : :」

五月雨「まじめにやってくださいーい!!」

果たして暁の水平線に勝利を刻めるのか…?

のほほんファイティングほのぼのストーリー開始!?

ホツポ「レツプー、ヨコセ」

EXゴア一式「ハチミツ、ヨコセ」

目次

☆ 提督達の鎮守府名簿 | 1

① 鎮守府へようこそ | 5

② 工廠、そしてはじめての建造 | 10

③ 開発と出撃、それとS勝利 | 16

④ 瑞鶴、活躍と初勝利 | 24

⑤ 探索帰投とお風呂 | 32

⑥ 乾杯、そして紅玉 | 39

● 漂着 | 48

⑦ 南西諸島沖出撃、怪しい背びれ | 56

56

⑧ ハチミツ、我らが霞教官 | 64

● 鎧袖一触? | 73

⑨ 訓練、会議 | 81

⑩ | 1 お魚天国(地獄)前編 | 89

⑩ | 2 お魚天国(地獄)後編 | 89

95

⑪ 帰還、まさかのドロップ | 105

⑫ 遠征、ひとときのお休み 前編 | 116

116

⑫ 遠征、ひとときのお休み 後編 | 124

124

● ホッポの冒険く始まりの巻きく | 134

134

⑬ 進撃II波乱の予感? | 143

⑭ ゴールデンストロング&レッドキャツ | 143

143

スル	153
⑮ 大本營へGo	162
⑯ 留守番の鎮守府、元帥からの依頼	170
● 出航	180
⑰ 雪風と初霜の昆虫記く女王虫編く	188
⑱ バーニンググローブ、オレチャマ登場ツチャ!	199
⑲ 明日の作戦、ベル落ち込む	209
⑳ バシー島攻略、『電竜』ライゼクス	218
☒ 夏が来る、奴を追え	230

● ホップの冒険く喧しい奴等の巻く	240
☒ 初夏の始め、奴との対決へ	250
☒ オリヨールの海を駆けて、『海竜』ラギ	
アクルス 前編	261
☒ オリヨールの海を駆けて、『海竜』ラギ	
アクルス 後編	268
● ダッシュで脱出	279
☒ 沖ノ島の戦い	294
☒ 沖ノ島決戦、次なる海域へ	304
● 納涼、地底洞窟の冒険	315
☒ 始まりの夏、提督の失敗	326
☒ 雪風と初霜の昆虫記く徹甲虫編く	

335

● 納涼、地底洞窟の冒険 脱出編

346

☒ 夏祭りに向けて、『我らの団』 — 357

☒ ようこそ『我らの団』御一行様

367

☒ それぞれの反応、ざわめく予感

376

☒ 夏祭り防衛戦、『金雷公』ジンオウガ

前編

386

☒ 夏祭り防衛戦、『金雷公』ジンオウガ

後編

397

☒ ビバ!!夏祭り (。▽。)

409

☒ さらに『我らの団』、艦隊氷の海へ

425

● 離島、泡まみれ

434

☒ モーレイ海戦、キス島 SOS — 443

☒ キス島救出戦、『化け鮫』ザボアザギル

前編

454

☒ キス島救出戦、『化け鮫』ザボアザギル

後編

467

☒ 提督、砂浜の床を買う(*オプシオン付

き)

479

☒ 鹿島間違える、元帥殿の孫、演習対決勃

発

490

☒ 演習対決、開始ス! 前編 — 500

- ☒ 演習対決、開始ス！ 後編 ————— 509
- 『泡狐竜』タママツネ、離島防衛戦？ 520
- ☒ ジンの悩み、アルフォンシーノ海域戦
： 忍び寄る気配 ————— 531
- ☒ 異常震域、『轟竜』ティガレックス
前編 ————— 541
- ☒ 異常震域、『轟竜』ティガレックス
後編 ————— 549
- ☒ 秘匿報告書『G級作戦』 壱 ————— 561
- ☒ 秘匿報告書『G級作戦』 弐 571
- ☒ 秘匿報告書『G級作戦』 参 571
- ☒ 躍動する波乱 ————— 627
- ☒ 西方海域へ ————— 638
- ☒ ジャム島攻略作戦 ————— 646
- ☒ ボーキサイトは砕けない、『砕竜』ブラ
キデイオス 序 ————— 656
- れっぷー現る ————— 609
- ☒ 艦隊、西の海へ：ラブリーガール訪問 596
- ☒ 秘匿報告書『G級作戦』 伍 590
- ☒ 秘匿報告書『G級作戦』 四 581

☒ボーキサイトは砕けない、『砕竜』ブラ

5 3 バカンス、南の島 その3

キディオス 急

740

●れっぷーに乗って、『鋼龍』クシャルダ

5 4 リランカ島空襲、黒い霧 — 751

オラ

5 5 眠れ宿痾よ目覚めは遠く 『混沌

☒留守番の鎮守府 part 2

に呻くゴア・マガラ』前 — 765

☒予感的中、『黒狼鳥』イヤンガルルガ

5 6 眠れ宿痾よ目覚めは遠く 『混沌

前編

に呻くゴア・マガラ』後 — 772

☒予感的中、『黒狼鳥』イヤンガルルガ

5 7 提督倒れる、ギルドからの増援

後編

787

5 1 バカンス、南の島 その1

5 8 乱刃、すべてを断つ 『千刃竜』セ

721

ルレギオス 前 — 799

5 2 バカンス、南の島 その2

5 9 乱刃、すべてを断つ 『千刃竜』セ

730

ルレギオス 後ろ — 810

	●ようこそ、深海棲艦の島へ	823	6 8	珊瑚諸島沖海戦	930
	6 0 お味噌汁	833	6 9	強敵、南方棲戦鬼	942
	6 1 我が鎮守府のカレー作戦	850	7 0	決戦、珊瑚諸島沖海戦！	958
	6 2 アーロさんのパーフェクトオトモン教室	864	●ウイルの答え	969	
	6 3 南の海へ、孫娘提督の依頼	874	7 1	ギルドからの派遣員	979
	6 4 秋津洲、頑張る!!	886	7 2	姿なきもの 『霞龍』オオナズチ	993
	6 5 南方海域進出作戦	899	前		
	6 6 燃えよ斬○剣 『斬竜』デイノバル	911	7 3	姿なきもの 『霞龍』オオナズチ	1005
	ド 前編		後+α		
	6 7 燃えよ斬○剣 『斬竜』デイノバル	920	7 4	サンマ漁を守れ 『巨獣』ガムート	1017
	ド 後編		7 5	サブ島沖海戦	1028
			7 6	途中経過、雪風と初霜の決意	1077

- 7 7 決戦！サブ島沖海戦 | 1053
- 7 8 火山地帯調査報告 | 1066
- 島探索 壹日目 | 1079
- 7 9 提督、風邪をひく | 1091
- 8 0 破壊と滅亡の申し子 『金獅子』 | 1103
- ラージャン 前 | 1103
- 8 1 破壊と滅亡の申し子 『金獅子』 | 1103
- ラージャン 後 | 1111
- 8 2 サーモン海域、迫る嵐雲 | 1123
- 8 3 舞うは嵐、奏でるは災禍の調べ | 1140
- 壱 | 1140
- 8 4 舞うは嵐、奏でるは災禍の調べ | 1140
- 8 5 舞うは嵐、奏でるは災禍の調べ | 1157
- 参 | 1170
- 8 6 生者を照らす朝日 | 1182
- 島探索 貳日目 | 1196
- 8 7 鎮守府の休日 | 1208
- 8 8 提督達の休日 | 1223
- 8 9 ライダー3級試験!! 前編 | 1235
- 9 0 ライダー3級試験!! 後編 | 1246
- ウイル頑張る、『襲来』 | 1264
- 9 1 冬支度、中部海域へ | 1275
- 式 | 1157

●海の荒くれ者	ラグリアクルス亜種、	98	冥海の雷光	後	1408
ウイルの願い	—	1287	●貪食の恐王	『恐暴竜』イビルジョー	1421
92	中部海域進出!!	1307	前	—	—
93	アーロさんの一日提督、各海域の	1321	●貪食の恐王	『恐暴竜』イビルジョー	1433
異変	—	—	後	—	—
94	絶対零度 『崩竜』ウカムルバス	1338	99話	コタロウの一日	1450
前編	—	—	100	グアノ環礁沖 K作戦	1471
95	絶対零度 『崩竜』ウカムルバス	1351	101話	グアノ環礁沖決戦、西方海域	1486
後編	—	—	の異変	—	—
●ウイル、奮闘ス	—	1365	102	燼滅の劫火	1497
96	MS諸島海戦、仄暗い冥海から	1397	103	燼滅の劫火 後+α	1510
97	冥海の雷光 前	—	104	クリスマス作戦、実行ス	—

エピローグ	1675	1	1	2	暁の水平線に	1654
		1	1	1	深淵の怨霊、帰ってきたアイツ	1641
		1	1	0	深淵の怨霊	1623
		1	0	9	怨嗟の慟哭	1609
		1	0	8	進撃の巨戟龍 後	1596
		1	0	7	進撃の巨戟龍 前	1579
		1	0	6	掻き伏す戦火の海へ	1562
		1	0	5	ピーコック島沖海戦	1547
					● 深海棲艦達	
						1522

室Ⅱ 後	1819	○	3	アーロのパーフエクトオトモン教
室Ⅱ 前	1808	○	2	アーロのパーフエクトオトモン教
	1793	◇	3	真夜中の幻 『夜鳥』ホロロホルル
	1778	△	2	ようこそベルナ村へ
			1767	
		○	1	ウィルの悩み、ホツポの目標
	1751	△	1	艦娘、砂漠の海へ
	1733	◇	2	それぞれの始まり
	1715	◇	1	新しい(?) 鎮守府
	1696			先へ

- 1832 △3 ベルナでゆつくり、次なる街へ
- ◇4 光作戦開始!! | 1845
- ◇5 重量級の砲撃 『砲甲虫』ゲネル・セルタス亜種 | 1861
- △4 紺碧の港、タンジア | 1874
- 4 遠い海からこんにちは | 1888
- ◇6 小笠原諸島航路 | 1900
- △5 新たなる冒険へ | 1923
- 5 介入、輸送作戦!! | 1944
- ◇7 激闘! 黒き熱風 前 | 1964
- 1976 ▲新緑なるカクセの森、荒ぶる鬼蛙
- △6 集いの街、ドンドルマ | 1991
- ◇8 激闘! 黒き熱風 後 | 2005
- 6 暴れん坊將軍 『鎧裂』シヨウゲンギザミ | 2021
- ▲白銀の雪世界、タルジュ雪原 | 2034
- ◇9 トラック沖決戦、新? 連合艦隊結成 | 2050
- △7 グレイとの出会い、迫りくる巨影 | 2062
- 7 激突! 深海双子棲姫 | 2076
- ◇10 獄炎に坐する、覇たる者 『覇竜』アカムトルム | 2094
- ◇11 決戦、さらば光作戦 | 2108

◆14	ようこそ海防艦	225
○9	くつころ系深海棲艦	223
▲	ハンターイーター 前編	223
◆13	ハンター対艦娘 勃発	220
ン	—	219
▲	ハンターとライダーの街、ギルデカラ	219
○8	タルの錬金術師	217
オレン	—	215
△8	迫りくる仙高人 『砦蟹』シエンガ	215
2139	—	—
◆12	アールとグレイの休日 ①	214
先に…	—	212
▲	『雪獅子』ドドブランゴ、洞窟を抜けた	212

◆18	青電主撃退作戦 前	242
○11	西部探索 後	240
2391	—	—
◆17	ライトニングリヴォルト	237
◆16	南方海域調査、襲来の青い稲妻	237
▲	古代林探索、謎の痕跡	236
○10	西部探索 前	234
▲	熱帯の古代林へ	233
◆15	サンマ、撮影開始	231
△9	ちよつとした出会い、次の場所へ	229
▲	ハンターイーター 後編	227

◇ 19	青電主撃退作戦―那珂―	2433
◇ 20	青電主撃退作戦―後―	2452
△ 10	流されてユクモ村	2466
▲ いざ火の山へ	鉾山編	2485
◇ 21	入院も楽しじゃない	2497
△ 11	赤い凶星 『天慧龍』バルファル	2511
ク	―	2527
◇ 22	フカ丸の考察	2544
▲ いざ火の山へ	爆鎚竜編	2557
△ 12	銀翼の流星	2572
◇ 23	出撃準備!!	2572

☆ 提督達の鎮守府名簿

今の鎮守府に艦娘がどれくらいいるのか、まとめておきました
新しい艦娘が着任するたびに更新していきます

*艦娘は登場順で並んでおります。

ヴェールヌイとろーちゃんの話で改二になったので改修後の名前で書いております。
もしかしたら抜けているところもあるかもしれません…

提督：クロード（黒炎王一式）

ハンター：ジン（EXジンオウ一式） ベル（ベリオX一式） アーロ（ザボアZ一式）
兄弟、仲間：ルルカ（カブルX一式ガンナー） アグル（アグナZ一式） グレイ（レッ
クスZ一式）

アイルー+α：黒丸 ミケ マシロ ヨモギ サクラ ブルー スモモ e t c.

チャチャ&カヤンバ

オトモン：アルセルタス ダイミヨウザザミ亜種 クルペッコ リオレウス

艦娘（登場順）

五月雨 大淀 明石 初霜 瑞鶴 天龍 長波 高雄 霞 川内 皐月 雷 加古

五十鈴 時雨

阿武隈 龍驤 長門 磯風 雪風 那智 足柄 初雪 球磨 金剛 龍田 赤城

深雪 白雪 潮

曙 如月 榛名 ヴェールヌイ（響）青葉 不知火 那珂 伊401 伊168 木

曾 北上 愛宕 島風

レーベ ビスマルク 加賀 弥生 鈴谷 矢矧 飛鷹 満潮 鹿島 伊58 秋月

利根 暁 大鳳

山城 秋津洲 プリンツ 大井 摩耶 天津風 リットリオ 衣笠 比叡 夕張

飛龍 江風 妙高

秋雲 朝潮 春雨 時津風 初月 呂500 卷雲 古鷹 ポーラ ザラ 隴 葛

城 伊19

伊勢 荒潮 清霜 伊13

他：『我らの団』御一行様、第二イサナ号、カリスマ美容師アイルー（?）、可愛い妖

精さん達

ウイル（深海棲艦X一式ゴアベース）

北方棲姫 駆逐棲姫 戦艦レ級 空母ヲ級 防空棲姫 駆逐水鬼

離島棲姫 空母棲姫 南方棲鬼 港湾棲姫 戦艦棲姫 重巡棲姫

軽巡棲鬼 泊地水鬼 戦艦水鬼 装甲空母姫 軽巡棲姫 重巡ネ級

空母水鬼 水母棲姫 中枢棲姫 駆逐古鬼 リコリス棲姫

深海海月姫 駆逐イ級（サシミ） 深海双子棲姫（白&黒）

登場モンスター

*種別順に並んでおります。

別個体として再度登場する種類もいることもあります

甲虫種 ランゴスタ ブナハブラ クイーンランゴスタ アルセルタス

ゲネルセルタス亜種 アルセルタス亜種

甲殻種 『矛砦』ダイミヨウザザミ ダイミヨウザザミ亜種

『鎧裂』シヨウグンギザミ シエンガオレン

牙獣種 アオアシラ ドスファンゴ ガムート ラージャン ドドブランゴ

- 鳥竜種 ドスゲネポス イヤンガルルガ クルペッコ ヒプノック ホロロホルル
 両生種 ザボアザギル テツカブラ テツカブラ亜種
 魚竜種 ガノトトス ガノトトス亜種 ヴオルガノス
 蛇竜種 ガララアジャラ
 飛竜種 グラビモス亜種 ライゼクス デイアブロス亜種 ギギネブラ
 フルフル テイガレックス セルレギオス ベリオロス
 ウカムルバス アカムトルム
 牙竜種 『金雷公』ジンオウガ
 海竜種 ラギアクルス タマミツネ ロアルドロス チャナガブル
 ラギア亜種 ラギア希少種
 獣竜種 ブラキディオス デイノバルド イビルジョー
 『燼滅刃』デイノバルド
 古龍種 ナバルデウス クシャルダオラ オオナズチ アマツマガツチ
 ゴグマジオス オストガロア変異種

所属不明 混沌にうごめくゴア・マガラ

①鎮守府へようこそ

皆さん、初めまして。私、白露型駆逐艦の6番艦、五月雨です！

今回は新しくできた鎮守府にて提督が着任なされたということで大本営から私が配属されることが決まりました！一体どんな提督なんでしょうか？気になっちゃいますよーし、頑張るぞー！

…そういえばこの新しくできた鎮守府の近くにある街を通ってきたんですが、ちよつと変わってました。

えーと、耳がつんつんしてる人がいましたね。外国の方でしょうか？

あと猫が二足歩行してました！びっくりしました。猫って二本足で歩けるんですね！それとダチョウウでしょうか？まん丸い鳥に荷車を引かせて荷物を運んだり、今私が乗ってる馬車ですけど毛むくじやらの牛のような生き物が引いたりと見たこともない動物がたつきさんいるんです！でも、街の人たちは元氣いっぱい楽しんでそうです！

「さあ、お嬢ちゃん。着いたよ？」

馬車(?)のおじいさんが声をかけてくださいました。どうやら到着ですね。そうだと、運賃を払わなくっちゃ。

「いやいや、お嬢ちゃんならタダで構わんさ。なんだって提督さんこの子なんだからね！」

「あ、ありがとうございます…。えと、提督さんってどんな人なんです？」

「ここに来てくれた提督さんはいい人だよ！あの人たちのおかげで街は救われたんだからねえ」

それじゃあねとおじいさんは去っていきました。ますます気になりますね！それでは行ってみましょう！

*

大淀さんに案内してもらって、提督室の前まで来ました。鎮守府に入ると中庭には大きな畑がありました。変わった色をした実を持った草もあつたり大きなトウモロコシがあつたり、それとキノコの栽培や養蜂もやっているようです。

それとこの鎮守府内にも猫がたくさんいらつしやいます。みんな二足歩行で歩いてかわいいですね！

「えっと、それじゃあ入る前にひとつ注意しますね」

あれ？大淀さんがなんだか申し訳なきそな表情をしていますね。一体何でしょう？

「まず提督を見ても驚かないでくださいね。ああ見えていい人なんです」

「あつはつはー、大淀さん心配しないでくださいよ。こう見えて立派な初期艦ですから、多少のことは驚いたりしません!」

「そう? それじゃあ入るわよ? …失礼します! 提督、大本営から初期艦が着任いたしました!」

大淀はノックをして提督室の扉を開けた。さあ、張り切つて挨拶するぞ!

「初めまして! 本日、この鎮守府に着任いたしました、白露型駆逐艦6番艦さみ…」

五月雨ヴィジョン

提督

頭装備：トゲトゲした赤い兜

身体装備：黒いマントのついたトゲトゲした赤い鎧

腕装備：トゲトゲした赤い籠手

足装備：トゲトゲっぽい? 赤いグリーブ

雰囲気：怖そうなおーラ?

結果：怖い

「やあ、初めまして。俺がこの鎮守府の提と…」

「ひや、ひやわあああああつ!!」

「あー…やつぱり駄目だったか…」

「提督、やはり防具は外された方がよろしいのでは?」

「えー、つけてる方がいいもん」

―― 10分後 ――

「どう? 落ち着いた?」

「す、すみません…びつくりしちゃいまして…」

「それじゃあ気を取り直して、初めまして。俺がこの鎮守府の提督だ。ここにきてしばらく経つがまだ知識がなくてな、頼りないがこれからよろしく頼む」

「はい! お任せくださいね!」

提督と握手をしたんですけど、提督の手、大きくてあったかいです! 見た目は怖そうなんですけどとても優しい人で安心しました。

「それじゃあ一緒に頑張っていきましょうね!」

「おう!」

「旦那さん! やつと艦娘の子が来たんですかニャ! さつそく鎮守府内を案内するニャ

！

「きやああああつ！?猫がしやべったああああつ！?」
「…あちやー」

②工場、そしてはじめての建造

「へー、猫さんじゃなくてアイルーっていうんですねー！」

「そうニヤ。ボクはその中のオトモアイルーっていうニヤ。よろしくニヤ」

提督「うちの鎮守府には沢山のオトモアイルーがいるからな。とりあず紛らわしいから」のところに名前を入れとくね。で、今五月雨がなでなでしているアイルーはミケだ」

ミケ「旦那さん。色々とメメタダニヤ」

五月雨「？」

提督「そんじやまあ最初は何をすればいい？」

五月雨「はい！えーと、はじめての『編成』、『出撃』、『補給』、『建造』、『開発』を行います。まず最初は工場で新しい艦娘の『建造』をしちやいましょう！」

工場

提督「ほえー、ここで艦娘を建造するんか」

五月雨「はい、最初は小さな工場で建造しますが練度や任務を一定以上熟すと大型建

造ができるようになるんです！」

提督さん、興味津々に見てくれます。最初は怖そうに見えたんですけどやっぱりい人で安心しました！おや？工場に誰かいますね？妖精さんになにか話しているように見えますけど、明石さんでしょうか？それでしたら挨拶をしなくちゃ！

「あ、あの！初めまして！この度、鎮守府へ配属されました白露型駆逐k…」

再び五月雨ヴィジョン

???

頭装備：緑の狼のような耳のある兜

身体装備：体軀がでかそうな緑っぽい鎧

腕装備：狼の爪のような籠手

腰装備：鎧武者のような防具

足装備：狼の足のようなグリーブ

雰囲気：狼っぽくて怖そう

結果：怖い

???
「…？」

五月雨「きゃ、きゃあああああつ!!」提督に抱き着く

提督「うおっ!? 一体何事…つて、またかー(棒読み)」

五月雨「て、提督!? あれはいつたい何ですか!? 新手の深海棲艦ですか!?!」

提督「いやいや、違うがな。おーい、ジン。この子、初期艦として来てくれた子だよー」

ジン「…」ペコリ

五月雨「え? この方は提督のお知り合いですか?」

提督「彼の名はジン。一緒に冒険をした仲間さ。今は俺と一緒にこの鎮守府に住んでいるんだ」

ジン「…よろしく」

提督「寡黙だけど、仲間思いのいい奴さ」

五月雨「あの、私、五月雨っていいいます! よろしくお願いします!」

ジン「…いい子だな」ナデナデ

五月雨「えへへへ、あ、ありがとうございます」

提督「うーん。実にいいけど、五月雨。そろそろ俺に抱き着いてるのに気づいて…」

五月雨「え? あわわ!? ご、ごめんなさい!」

私としたことが…驚きのあまり提督にしがみついちやっっていました…あ、今度こそ明

石さんが来ました。でもなんだかプンスカと怒っているようです

明石「ジンさん！だからダメって言ったじゃないですか！」 プンスカ

ジン「…いけなかった？」

明石「工場にマカライトとかメランジエとか入れちゃダメですってば！もし妖精さんが間違えて建造に使ったらとんでもないことになります！」

ジン「…ザ・大型建造」 ドヤア

明石「できません！」

五月雨「ジンさんって結構お茶目なんですね」

提督「まあな…さて、どうやって建造するんだ？」

五月雨「はい、ここにレシピ表があります。これに鋼材、弾薬、ボーキ、燃料の数値を書いて妖精さんに資材と一緒に渡します。今回は大本営から配当された材料がそれぞれ500ずつありますのでそれを使いましょう！」

提督「よっしゃ！500回すぜ！」

明石「ちよ、ダメですよ！全部使ったら出撃できません！なので30ずつにします！」

提督&ジン「「えー」」

＼マカセロー／＼やってやるニヤー／

レシピを妖精さんに渡してさっそく建造開始！妖精さん達の張り切る声の他にアイルーさん達の声も聞こえた様な…

【00:20:00】

提督「ん？なんか工廠のどこに時間が出てきたぞ？」

五月雨「これは建造時間です。あとどれくらいで完成するかの時間です。これだと20分でできますよ！」

明石「それと、早く完成を見たいのならこの高速建造材を使えばあつという間にできます」

ジン「…なるほど。明石、これもすぐに完成するのか？」

明石「え？何をですか？」

【6:00:00】

五月雨&明石「」「アングリ

提督「…ジン、何か入れたの？」

ジン「…コスモライト鉱石と重鎧玉」ドヤア

明石「だからダメって言ったじゃないですかああつ!!」

明石さんの今まで見たこともないぐらいのアップパーがジンさんに炸裂しました。明石さんも意外とインファイターだったんですね！

明石「提督！ジンさんには変な鉱石を工廠に持ち込ませないようにしてください！」

提督「お、おおう。じゃあさっそく20分の方に使っちゃうぞー」

五月雨「え？提督？」

提督はいつもの作業をするかのように高速建造材を持って使っちゃいました。なん
というかパワフルです！

提督「よーし、完成だ！」

五月雨「新しい艦娘の完成です！さっそく開けてみましょう！」

さっそく工場を開けてみると、そこには黒い制服で黒くて長い髪の子が！

初霜「初春型4番艦、初霜です。皆さん、よろしくおねご！」

提督&ジン「ジー……」

初霜「……ええええええつ!？」

ああ、やっぱり最初は驚きますよね……私もこんな感じだったんでしょか……

提督&ジン「(・ω・) ショボーン」

③開発と出撃、それとS勝利

初霜「すみません…すこし驚いてしまいました」アセアセ

提督「いいの、いいのよ。俺達もう慣れっこだから」(´・ω・´) ショボーン

ジン「…なにがいけないのか？」(´・ω・´) ショボーン

明石「防具を脱いだらどうです？」

提督&ジン「「えー」」

初霜「あの、ところで…」チラッ

5 : 40 : 21

初霜「何か大型建造でもしたんですか？」

五月雨「う、うん…そうみたい」

明石「…これは気にしなくていいと思う…」遠い目

提督「ささ、気を取り直してお次は何をしようか」

五月雨「それでしたら、開発を試してみませんか？」

明石「ここで建造の他にも『開発』というのができまして、建造と同じく資材を使って艦娘の武器を作ることができるんです」

五月雨「それじゃあお手本として私が作ってみせますね！」ワッセワッセ

【失敗ペンギン&モコモコ】テレレ…

提督「これが艦娘の武器か…」

ジン「…かわいいな」

五月雨「違うんです！これは失敗なんです！」アセアセ

明石「まあ最初はよく失敗するから仕方ないわよ…」

初霜「提督、今度は作ってみます？」

提督「よし作ってみるか！」

——5分後——

提督「できた！」

五月雨「どんなのができましたか？」

【ピツケル】ピツケルを入手しました！

初霜「…あれ？成功？」

明石「いやいやいや！鋼材と弾薬とボーキと燃料でなんでピツケルができるんですか

!？」

提督「…クセ？」

明石「おかしいですって！」

ジン「…俺の方がすごい」

初霜「ジンさんのはどうですか？」

【ピッケルグレート】ピッケルグレートを入手しました！

明石「だからなんでピッケルなんですかあああつ!!」ズコー

初霜「グレートってなんだかすごいですね！」キラキラ

五月雨「かっこいいです！」キラキラ

ジン「（…）ドヤア

提督「ぬぬぬ、俺も負けんぞー！」【肉焼きセットを入手しました！】

ジン「…なんの」【トラップツールを入手しました！】

初霜「すごいです！提督もジンさんもなんでもできちやうんですね！」

五月雨「…でも、戦闘に使えるんでしょうか？」

この後提督とジンさんは明石さんに資材の無駄遣いだと怒られました。開発はしばらく私たち艦娘が行うようにするようです。さて、工廠の作業も終えていよいよ出撃で

す！

鎮守府正面近海への出撃ですね！いよいよ私たちの出番ですね！さっそく、初霜ちゃんと一緒に近海へ出撃です！

五月雨「よし頑張つちやいます！」出撃！

初霜「やつちやいます！」出撃！

ここの近海はコバルトブルーの海で綺麗です！南方の地域からでしょうか？カモメさんも近くまで飛んで来たり漁師さん達は私たちに手を振ってくれます。

提督『あー、あー。五月雨、初霜、聞こえるー？』

五月雨「はい！ばつちり聞こえますよ！」

ジン『これが無線機か：俺の故郷のとは違うのな』

提督『そこらの近海は安全圏なんだ。南東方向に大きな島が見えるだろ？その先から警備出撃を頼む』

初霜「はい！了解です！」

提督『あとひとつ。音爆弾と閃光玉を妖精さんに渡しているからバカでかい魚とバカでかい鳥を見かけたらそれを投げて即撤退してくれ』

五月雨&初霜「??？」

大きな魚に大きな鳥ですか？一体何のことでしょうか？

提督『まあなんだ、とにかく無事に帰ってきてくれ!』

五月雨&初霜「はい!」

さあ、提督のために勝利を刻みましょう! むむ? 先の方向に見えるのは駆逐艦型の深海棲艦ですね! さっそく戦闘開始です!

イ級(CV若本)「サア、カカツテクルガイイ!!」ドーン!

五月雨「ものすごく渋い!? ってきやああつ!」中破!

初霜「五月雨ちゃん!?! このっ!」ドーン!

イ級(CV若本)「フツ、ワラエヨベジータ」小ダメージ

五月雨「は、初霜ちゃん! 雷撃戦を開始してください!」

初霜「はい! 見てなさいっ!」魚雷発射!

イ級(CV若本)「ブルアツ!?! ギョライナソツカツテンジャネー!!」大破&魚雷発射

初霜「きやつ!?!」中破!

イ級(CV若本)「オボエテロー!」撤退!

な、なんとか戦闘終了して撃退に成功しましたが…イ級ってあんなに強かったっけ?

提督『だ、大丈夫か!?!』アセアセ

五月雨「は、はいなんとか…あ、でもまだ行けますよ?」

提督『いや…撤退してくれ。お前たちの無事の帰還が第一だ。』

…提督はやっぱりお優しい人です。それでは帰還することにしませう。

艦隊帰還完了！

五月雨「作戦完了です！」

提督「おー、無事でよか…って、ぶふお!？」

初霜「?提督、どうかしましたか？」

提督「お、お前から服が破れすぎ!?!とくに初霜!見えてる!」

ジン「…つけてないだど?」

初霜「あつ…す、すみません。にゅ、入渠してきますね!」赤面

五月雨「そ、それでは私も入渠してきます!」アタフタ

提督&ジン「……………」

提督「…下着の通販ってあったよな?」

ジン「…バスタオルも用意しなくちや」

妖精さん「報酬だよー」つ高速建造材

ミケ「旦那さん!高速建造材が手に入ったニヤ!あれに使ってみるかニヤ?」

i n 工 廠

提督「あんまり時間が経過してねーなあ」

ミケ「明石さん曰く6時間は空母の艦娘の可能性が高いですニヤ」

ジン「…空母?」。。。【(ニニニ(ωω)ニッブーン!空を飛ぶよ!】

提督「よし、ジン使ってみるか?」っ高速建造材

ジン「…よし、焼き尽くす」ゴオオオツ!

00:00:00 ―― <新しい艦娘が着任しました!

提督「何が出るかな♪何が出るかな♪」

ミケ「きつとすぐくかっこいい子ですニヤ!」

ジン「…」。。。【≡≡≡≡≡≡≡≡≡(ωω)(ωω)。(∩)すぐく

飛ぶよ!】

みんなで工廠を開けてみたニヤ!そこにはなんと巫女服っぽい服を着た黒い短いツインテールの子がいたニヤ!

瑞鶴「翔鶴型航空母艦2番艦、妹の瑞鶴です!幸運の空母って?ううん、そうじゃな

いの、一生懸命に……って、え？」

提督「……なんかすごいのが出たな」↑黒炎王一式、見た目怖い

ジン「……かわいいし、かっこいいな」↑EXジンオウ一式、見た目怖い

ミケ「……旦那さん、一体どんな資材をぶち込んだんですかニヤ？」猫が二足歩行、しかもしゃべる

瑞鶴「……」艦載機発射用意

三人「……え？」

瑞鶴「深海棲艦っぽいのがいるし、猫が二本足でしゃべるし、ここは敵の基地ね！私に変なことするつもりだなんてそうはいかないわ！全機爆装！目標、この3匹！やつちやつて！」発射！

提督「いや、ちよ、まつ」

ドカアアアアン！！ S勝利！！

④ 瑞鶴、活躍と初勝利

瑞鶴 「本当にごめんなさい！まさか提督さん達だなんて！」ペコペコ
提督 「あー、気にしなくていいさ。こういうの慣れてるし」プスプス

ジン 「…これが空母か」プスプス

ミケ 「にやんという火力ニヤ…」プスプス

五月雨 「すごい爆発がしたんですけど…あ！瑞鶴さんだ！」ノシ

瑞鶴 「あ、五月雨ちゃん！ここの鎮守府は五月雨ちゃんが初期k…」

明石 「瑞鶴さああああん!!」瑞鶴をタツチダウン!

瑞鶴 「わぎやあつ!?!あ、明石さん…!?!」

明石 「大丈夫?!?なんともない!?!体はどう!?!」ズイズイ

瑞鶴 「あ、あつはい…大丈夫です…ていうか顔が近いっ!」アセアセ

明石 「さつそく精密検査だあああつ!」瑞鶴を担ぐ

瑞鶴 「え!?!ちよ…えええええっ!?!」

瑞鶴さんは明石さんに担がれて明石さんのラボへ運ばれました。まあ、指定の資材以外で建造されたんですから仕方ないですよね…。

提督「瑞鶴には秘密にした方がいいかな…？」

五月雨「そ、そうですね…」

初霜「入渠完了いたしました！」ピカピカ

ジン「…なんで服まで直っているの？」

ミケ「たぶん、妖精さんのおかげニヤ！」

提督「よし！瑞鶴が戻ってきたらお昼にして再出撃だな！」

五月雨&初霜「はい！」（〇〇）／

そのあと、瑞鶴さんがぐたくたになつて戻ってきました。一体どんな精密検査を受けたんでしょうか？瑞鶴さん曰く、二度と精密検査は受けたくないって言っていました。

瑞鶴「…ところでなんで精密検査を受けなきゃいけなかったの？」

明石「…」視線を逸らす

提督「…うん、気にしないで」視線を逸らす

瑞鶴「？」クビカシゲ

そうこうしているうちに食堂に着きました！おや？台所には真っ白な猫に桜色の猫、緑色の猫がいますね。

マシロ「あ！旦那さん、お待ちせですニヤ！」

サクラ「お昼の準備はできておりますニヤ！」

ヨモギ「お嬢ちゃん達のもできてるニャよ！」

瑞鶴「わっ!? ここにもしやべる猫が!」ビツクリ

初霜「この猫はアイルーっていうんですよ」

五月雨「みんな提督のお友達なんです！」

瑞鶴「ま、まあかわいいからいつか。えっと、台所でなにしてるの？」

マシロ「もちろん料理ですニャ！」つ鍋

サクラ「日々旦那さん達のごはんを作っているニャ！」つフライパン

ヨモギ「毛玉も毛並みも衛生面は大丈夫! そんな僕たち」つおたま

三匹「ニ板前ブラザー!!」ポージング

五月雨「か、かっこいいです！」キラキラ

明石「私も最初はびっくりしたけど、味の方はうまいわよ?」

ジン「:そのうち慣れるさ」ポンポン

瑞鶴「な、なんとというか:私、すっごいところに来ちゃったのね:」

なんやかんやしているうちにお料理が運ばれてきました。今日は魚の唐揚げ定食で

すね。

五月雨「!すごく美味しいです!」キラキラ

瑞鶴「:うん! 美味しい!」キラキラ

提督「だろー？板前ブラザーズにかかればなんのその！…たまに失敗するけど」

ジン「…酒と酒を組み合わせたお前が悪い」

組み合わせ？なんのことでしよう？あ、大淀さんも来ました。いろいろ資料を抱えているようですけど大淀さんもお昼でしょうか？

大淀「提督、本日の書類の通達です」

提督「ぬ、ありがとうな。大淀もお昼か？」

大淀「はい。…提督、あとこれを…」

大淀さんが赤色の封筒を提督に渡し、提督は中身を開けて手紙を黙々と読みだしました。なんでしょうか、提督とジンさんの雰囲気が変わって、真剣な様子です。…次の出撃の作戦でしょうか？

提督「…わかった。その件は明日、俺がやろう。住民には溪流に入らないよう伝えてくれ」

大淀「了解しました。では、お伝え致しますね。…では次の出撃ですが…」

提督「おk、正面近海の出撃は…」

あれ？さっきのは出撃の話ではなかったようです。一体何のお話だったんでしょうか…

ジン「…お前たちは気にしなくていい」ナデナデ

五月雨「???'」

15:00

お昼を済まして、さっそく正面近海へ出撃してリベンジです！

提督『瑞鶴、ごたごたしているのに出撃させてすまん』

瑞鶴「提督、気にしなくていいのよ！さっそく五航戦の実力、見せてあげるんだから！」ハリキリ

初霜「ええ、提督に初勝利をあげましょう！」

瑞鶴「ん、さっそく敵艦発見ね！」

イ級（CV若本）「サア！ミセテモラオウカ、キサマラノモガキトヤラフ！」

瑞鶴「渋つ!?…でも、攻撃をさせる暇なんてあげないわ！」攻撃隊発艦！
ブーン

妖精「狙い撃つぜーっ!!」発射！

イ級（CV若本）「ブルアアアアアッ!!」critical!! 撃沈！

五月雨「やったー！」

瑞鶴「どんなもんよ！さあ、次に進むわよ！」ズイッ

提督『よっし、そのまま進撃してくれ！』

第一地点を通過し、いよいよボスがいる地点へ！むむ、向こうに見えるは軽巡型の深海棲艦1機に駆逐型の深海棲艦の2機です！

ホ級「ダメヨダメダメ〜！」ドーン！

五月雨「今度は一発ギャグ!? ってまだですかー!?」小破！

瑞鶴「五月雨ちゃん!? このっ！旗艦は守ってみせるんだから！」艦載機発射！

ロ級「ラッスン!?」critical! 撃沈！

ロ級「ゴレライイッ!?」大破！

瑞鶴「よしっ！初霜ちゃんお願いっ！」

初霜「はい！やっちやいます！」ドーン！

ロ級「ゴレレーライッ!?」撃沈！

五月雨「まだまだ：やあーっ！」ドーン！

ホ級「アケミチャンツ！」小破！

五月雨「雷撃、発射します！」魚雷発射！

初霜「いきます！」魚雷発射！

ホ級「ダメヨダメダメエッ!?」critical! 撃沈！

五月雨「…敵艦隊撃破です。は、初勝利です！やったー！」ピョンピョン

提督『よ、よかつた〜』ヘナヘナ

大淀『ちよ、提督!?! 空気が抜けてます!?! あ、えつとこのまま帰投してくださいね』

ジン『…気を付けて帰ってくるんだぞ?』

瑞鶴「了解。まったく、これから大変になるんだから…まあいつか。提督、お疲れさま」

初霜「瑞鶴さん、あそこに見えるのは艦娘ですか…?」

瑞鶴「ん? あれは…そうね、艦娘だわ。おーい!」

天龍「…ん? あんたたちは、どっかの艦隊か?」

五月雨「はい! よろしかつたら、私たちの鎮守府に来ませんか?」

天龍「おつ、これはスカウトってやつだな? いいぜ! 面白そうだしやってやるよ!」

ニッコリ

天龍さんが艦隊に入ってくれました! 帰ったら提督に報告しましょう。きつと喜んでくれます!

天龍「ところで、その鎮守府の提督ってどんなやつだ?」

五月雨「とっても素敵な提督です!」キラキラ

初霜 「素敵な鎮守府ですよ！」キラキラ

瑞鶴 「…まあ、個性的ね」苦笑い

天龍 「へく、そいつは楽しみだ！」ニヤニヤ

⑤ 探索帰投とお風呂

S i d e 五月雨 無事艦隊帰投いたしました！鎮守府母港近くに着いたころにはすでに夕方です。夕陽に照らされる静かな海がとつても綺麗です！あ、母港にて提督たちがお迎えに来てくれます！

五月雨 「提督ー！初勝利です！」ノシ

提督 「おー！よかった！五月雨達の無事がなによりだ」

ミケ 「とか言つて帰ってくるまでここでそわそわしてたニヤ」

ジン 「：ワロス」 m9（＾皿＾）

提督 「ちよ、お前ら！」ワーワー

ジン 「：ところでその子は？」

天龍 「」ポカーン

瑞鶴 「えーと、所謂ドロップ艦？ほら、自己紹介！」ズイズイ

天龍 「え？ちよ、おまつ、个性的ってレベルじゃねえぞ!?」瑞鶴の後ろに隠れる
瑞鶴 「怖そうに見えるけど、ほんとはいい提督さんたちだよ？」提督達を指さす

提督&ジン 「（・ω・）」 ショボーン

初霜「ほら天龍さん、自己紹介をしてください」

天龍「あ、ああ。俺は軽巡洋艦、天龍型一番艦の天龍だ！」

瑞鶴「フフ怖は言わないの？」ニヤニヤ

天龍「う、うるせえよ！」テレテレ

提督「天龍っていうのか…かっこいいな！」にこやか

ジン「天龍…いいな。。。(。°。∩。°。〇。〇。3。°) ∴ その威力古龍級！」

天龍「な、なあ本当にこの人らは提督なのか」ヒソヒソ

瑞鶴「そうよ。まあ私も今日が初めてだけど…」ヒソヒソ

提督「天龍、まだ頼りない提督だがこれからよろしく頼む」

天龍「…おう！任せとけ！（見た目に反していい提督じゃないか）」

ジン「…大きながもしてないな」頷き

提督「疲れてたり、怪我してたら先に入渠してゆっくりしてくれ」

五月雨「？提督は戻らないんですか？」

提督「んや、ちよいつと待っている連中がいてな…つとこうしてるうちに戻ってきた

ぞ？」

おや？母港に向かって中くらいの大きさな木製の船がやってきました。誰か乗ってますね…

—— またまた五月雨ヴィジョン ——

??

頭装備：サメつぼい黄土色の兜

身体装備：黄土色のトゲトゲつぼい鎧

腕装備：サメのひれを模した黄土色の籠手

足装備：頑丈そうな黄土色のグリーブ

雰囲気：黄土色のサメつぼい

結果：ちよつと怖い

???
②

頭装備：白い獣のような兜

身体装備：白い騎士のような鎧

腕装備：白い獣の爪を模した籠手

足装備：白い獣の足のようなグリーブ

雰囲気：白いタイガー？

結果：あんまり怖くないかも

?? 「おーい！戻ったぜー！」ノシ

??? ② 「ミケから電報みたよ。艦娘がやっと来たんだね！」

提督 「おおう！この子たちが…」

五月雨&初霜 「」 慌てて提督の後ろに隠れる

?? 「なっ！てめえ！うらやまけしからんぞ!!」 プンスカ

??? ② 「やっぱり見た目が怖かったかなー？」

瑞鶴 「提督、ジンさん。この人たちも提督の知り合い？」

提督 「おう。サメっぽいのがアーロで白っぽいのがベルだ。彼らもジンと同様、俺と一緒に冒険した仲間さ」

アーロ 「ゴラあ！てめえ、なんてくあわい子に後ろからギュってされてんだ！うらやましいぞコノヤロー！」

ベル 「ガンナー（弓）の子の足の装備…かっこいい!!」

天龍 「なんていうか提督の仲間も変わってるんだな…」

?? 「オイラのことも忘れちゃ困るニヤ！」 ひよっこり

天龍 「わっ!?!猫がしゃべった!?!」

ジン 「こいつは黒丸。ニヤンターっていう職業をするアイルーで俺達の仲間…」

黒丸 「フフフ、怖いかニヤ？」 ドヤア

天龍 「他人に言われると少し恥ずかしいな…」

五月雨「提督、アールさん達になにかご用だったんですか？」

提督「ああ。アール達には探索に行ってもらって、その成果を待ってたんだ。」

初霜「探索？ 私たちでいえば偵察任務ですか？」ハテナ

提督「探索するのは遠い所や未だ艦娘達が踏み入っていない海域や島の生態調査を行うんだよ。大体短くて3日。長くて1週間以上だ」

天龍「そんな鎧を付けてでか？」

ベル「それほど危険な仕事ってことさ。ところで君の剣、かつこいいね！」キラキラ

ジン「…成果はどうだった？」

アール「おう！ たんまりだぜ！」でっかい木箱を担ぐ

提督「そんじや報告書は明日にして…ひとまずお疲れさま！ 入渠して疲れが取れたらみんな食堂へ来てくれ！」

艦娘一同「はい！」

in入渠

天龍「ふー、提督達は鎧を着てるし、猫は二本足で立ってしゃべるし…面白い鎮守府だな」まったり

瑞鶴「そうね…大淀さんの話によるとブイン基地よりも最南端で…未だ大本營の重鎮でさえ行ったことがない珍しい鎮守府なんだって。」マツタリ

五月雨「そうですね。私もここに来るまでは列車に乗って、途中初めて気球に乗りましたよ！それから提督に聞いたんですけどポポっていう動物が引く馬車に乗ってここまで来ました」

初霜「そんなに遠い所だったんですね」

話が盛り上がっているところに、がちやりと戸が開く音がしました。明石さんでも入ってきたんでしょうか？

アール「ふいふ、仕事の後はあつついお風呂に限るぜ〜！」兜だけ装備、あとユアミ
装備

天龍&瑞鶴「(；。 ㄩ。)!？」

アール「お？お前たちもゆっくりつかってんなー。どうだ、酒でも飲む？」

五月雨&初霜「「きゃあああああああつ」」

アール「え？」

瑞鶴「この変態っ！」桶を投げる

天龍「やっぱこの鎮守府おかしいかもな！」石鹼を投げる

アール「ちよ、ま、なんで？混浴はあかんの？」

明石「だめにきまつてんだろがああああああ!!」駆けつけてドロップキック

10分後

アール「ユクモじやユアミで混浴できた。」正座

明石「ここはユクモじやありません！ちよつとはわかつてください！」プンスカ

瑞鶴「これが文化の違いってやつね…」

天龍「なあ、ちよつと怖くなってきたんだけど…」

五月雨「もー、気を付けてくださいね！」ぶんぶん

初霜「ちよつとびっくりしました」

アール「わ、わりいな。次からは気を付けるぜ」ペコリ

天龍「…あいつらもう慣れてんだ…」

瑞鶴「私たちも頑張ろう…」

しばらく男湯ができるまで提督さんたちはドラム缶風呂、または艦娘がいないうちに
入るといふことです

⑥乾杯、そして紅玉

入渠から出てさつそく食堂へ移動です。あ、アールさんは未だ明石さんに説教されてます。

提督「あつ、もう来たのな。おーい！マシロ、クサモチ、皿と箸を並べてくれ！」料理運び中

ジン「…うまい」ドヤア

提督「くおらあ！つまみ食いしねえでさつさと運ぶ！」

ベル「はーい、みんなお待ちせー！」ノシ

提督さんとアイルーの皆さんがせつせとご馳走を運んでいました。広間のところに高々と『ようこそ、鎮守府へ!!』と書かれた幕がありました！

五月雨「提督、これは…」

提督「えーと、君たち艦娘が内に着任していよいよこの鎮守府がスタートするつてことでの祝いさ。今日はたんと食べて楽しんでくれ」テレテレ

ジン「…今日は無礼講だ」サラダを食べながら

提督「うん、お前は無礼すぎるな」

天龍「…なんだ、提督粹なところもあるじゃねえか」

そんなこんなしているうちにアール口さん達も来てみんな揃いました。
ベル「アール口、遅かったじゃん。長風呂？」

アール口「ああ、明石さんと説教という名の長風呂をな…」遠い目

提督「…なんかしてたの？」

瑞鶴「提督、先に言うけどユクモとは違うんだからね」

提督「…あつ」察し

ジン「…みんな、飲み物は持ったな」つ酒

大淀「それじゃあ提督、お願いします」

提督「え、俺!? えーと…初期艦の五月雨が着任し、その他の艦隊も入り、いよいよこの鎮守府も始動致しました! 最初の海域を突破し新しい仲間も加わり、一歩ずつ歩み始め、これから本格的な活動になることですが…」

アール口「なげぞー」棒読み

ジン「…早く飲ませろー」酒飲みながら

提督「お前ら…オホンツ。この先大変かもしれないが、みんなこれからもよろしく、つてことで乾杯!!」

一同「乾ばーい!!」

この日はとても楽しい宴会になりました! やっぱりこの鎮守府は素敵なところだす

!

初霜「あれ? 提督が5人に増えてます!」フラフラ

五月雨「てーとくー! さみだれ、そらを飛んでますー!」フラフラ

提督「誰だ、お酒を飲ましたのは!」

ジン「: :」視線を逸らす

*翌日

AM4:00 | 鎮守府入り口 |

side 天龍 あーやべ。 やっぱり飲みすぎた: : : とうか提督たち何杯飲ん

でもぜんぜん酔ってる様子が見えなかったし、提督曰く『座ってたら大丈夫』とか意味わかんねーよ。 二日酔いになりかけてるこの時は外へ出て散歩だ。 外の空気を吸って: : : くん? あれは提督と大淀か? 何やってんだらう

天龍「おーっす、提督何してんだ?」

提督「お、天龍か。おはよう」

: : : くん? 提督がしよってるのはなんだ? 大剣か? ていうかかっこいいな!

天龍「なあ、提督が背負ってるのってなんだ？」

提督「ん？ああこれは仕事用だ。」

天龍「仕事？」クビカシゲ

提督「なにここから北に見えるあの山で任務があつてな。9:00には帰ってくるさ。すまないが少し開けるよ」

天龍「早く戻ってくるんだろう？気にすんなって、張り切って頑張ってくださいよ」

大淀「では、提督。お気をつけて」

提督は手を振りながら丸い鳥が引く荷車に乗って出かけて行つた。

天龍「なあ、提督の言う任務ってなんだ？」

大淀「…すみません、秘密任務なのでまだ教えることはできないんです」

天龍「…フーン」

ちよつと気になるけど…まあいっか

AM6:30——空母練習場(弓道場)

瑞鶴「…」狙いを定め弓を引く

シュッ

スコーンツ!! (的)へど真ん中だぜ!

瑞鶴 「…ふう」

ジン 「…なかなかだな」

瑞鶴 「あ、ジンさん！おはようございます」ペこり

ジン 「…訓練か？」

瑞鶴 「はい…ある先輩にバカにされないようしつかり腕を磨くつもりです！」

ジン 「…えらいな」ナデナデ

瑞鶴 「あ、ちよつと、照れますよ…！」テレテレ

ジン 「…弓か。懐かしいな」弓を持つ

瑞鶴 「ジンさんも弓が得意だったんです？」

ジン 「ああ。ガンナー装備ではないが…」キンツ！キンツ！キンツ！

瑞鶴 「ちよ、ジンさん、腕が光って…」

シュバツ！

スコーン！！（的）へ（的）も壁も貫通したぜ！

シュバツ！

ドスツ！！（的）へ二段打ちだと…!?

瑞鶴「」

ジン「ふむ…瑞鶴の弓は三段階目が貫通弓か…」

瑞鶴「いやいやいや、今の弓矢はなんですか!? 貫通してるし、しかも二発目が瞬時に撃てるとかどうしたらできるんですか!?!」

ジン「…弓の特性が分かればすぐにできる」ドヤア

瑞鶴「…やっぱりよくわからないわ…」

AM8:00 工廠

明石「あれ? ベルさんにアールさん、建造ですか?」

アール「おう、提督もジンもやってたから俺たちもやろうってな!」

五月雨「今の艦隊含め、お二方が建造すれば6隻編成できると思いましたよ。やってみました!」

ベル「でも、その前の任務の開発ってオレたちがやったらだめなの?」

初霜「なんでもピツケルができるからだそうですよ?」

ベル「ピツケル…」

明石「それよりもコスモライト鉱石とか鎧玉とか変なの入れませんでしたか?」ジロ

リ

五月雨「大丈夫でしたよ！ちゃんと指定の資材で行ってましたし」

明石「ならいいんですけど…」心配

〇〇：〇〇：〇〇

〈新しい艦娘が建造されました！

アーロ「お！さつそく俺っちの建造が終わったな！」

明石「それじゃあさつそく開けてみましょう」工場オープン！

長波「夕雲型駆逐艦4番艦、長波サマだよー！」ニッコリ

明石「そつとじ

アーロ「あれ？明石さん？」

明石「アールロさん、ここに座ってください。いや座れ」怒りオーラ

アールロ「え、アツハイ」正座

明石「聞きますけど、何入れたんですか？」

アールロ「え？あの、なんかマズった？」

明石「いいから答えなさい」

アールロ「えと…鋼材と弾薬とボーキと燃料と…」

明石「『と』？」

アールロ「えーつと…そうだ！隠し味に『火竜の紅玉』を入れたんだよ！」につこり

side 五月雨　につこりと隠し味を話したアールロさんが明石さんの強烈な右

フックをくらって一発KOになりました。やっぱり明石さんも近接が得意なんです

！それにしても紅玉ってなんでしょう？

長波「あの…もういいのかな？」恐る恐る

明石「あ、ごめんなさいね。ちよつとしたトラブルがあつて…」

長波「あそこで倒れている鎧の人が提督？」

明石「あの人は提督のご友人です。…はあ、なんて報告書に書けばいいのやら」ため

息

五月雨「あ！長波ちゃん！」

初霜「長波さん、お久しぶりです！」

長波「お！五月雨に初霜じゃん！やつほー！」ノシ

ベル「ねえ明石さん、なんか問題でもあったの？」ヒソヒソ

明石「通常の建造や大型建造でも夕雲型は建造報告が無く、寧ろ皆無に等しくて海域じゃないと発見できていないんですよ」ヒソヒソ

ベル「…つまり、建造でできるはずのない子ができちゃったってわけな」ヒソヒソ

明石「…とりあえず提督が戻ってきてから相談します」

長波「え、あの白い鎧の人も提督じゃないのか？」

五月雨「はい、提督は赤いです！」

長波「へえくっ…変わった鎮守府だな…」

初霜「あと猫もしゃべるんですよ！」

長波「マジか!？」

● 漂着

とある島

ホッポ「今日モ、レツプー探ス！」ふんすふんす↑ホッポこと北方棲姫

ワル雨「ホッポちゃん、マタコノ浜デ探スノ？」ビクビク↑ワル雨こと駆逐棲姫（足アリ）

ホッポ「絶対見ツケル！ソレマデ帰ラナイ！」ふんすふんす

ワル雨「アノ蟹ニ見ツカタラ…」ビクビク

いつもそうだ、この浜辺にはレツプーが見つかるのに最近現れた蟹に邪魔をされる。

ホッポ「今度こそ邪魔スル蟹ヲ懲ラシメル！」プンプン

ワル雨「私タチジャア勝テナイヨ…」

ホッポ「…ン!?ナンカ見ツケタ！」

ホッポ・ヴィジョン

???

頭：黒と紫の角が生えた怪物のような兜

身体：黒と紫色でなんだか禍々しい鎧

腕：悪魔の爪のような籠手、腕に何か生き物見たいのが付いている

足：悪魔の蹄のようなグリーブ

雰囲気：怪物のような黒い感じ

結果：新しい深海棲艦？

??? 「海辺で倒れている

ワル雨 「何ダロウ？新シイ深海棲艦？」

ホツポ 「ヒトガタ：モシカシテ水鬼カナ」ツンツン

ワル雨 「チョ、ホツポちゃん!?危ナイヨ!」

??? 「う、うーん：」目覚める

ワル雨 「ワツ!?起キタ!」

??? 「ここは…どこだ：？」

ホツポ 「シマ」

??? 「お、おう：いや島つてのはわかるんだが…」（肌が白い…原住民か？）

ホツポ 「オマエ、ダレダ？」

ウイル 「あ？俺の名はウイル。世界をあちこち周る冒険家さー！」ドヤア

ホツポ「ボウケンカ？」ヒソヒソ

ワル雨「深海棲艦ジャナイカモ…」ヒソヒソ

ウイル「知らないのな…いいもん、そのうち本も出して有名になるもん…」しよんぼり

ワル雨「アノ：アナタハドコノ海カラ来タンデスカ？」

ウイル「んー、出港はタンジアからだったんだが…まさか嵐の日に冥海竜に出くわすとはなあ…」がつくり

ホツポ「メイカイリユウ？」ヒソヒソ

ワル雨「モシカシタラ連中ノ新シイ艦娘カモ」ヒソヒソ

ウイル「ところで、お前らはここでなにしてんだ？」

ホツポ「レップーヲ探シテイル！」えっへん

ウイル「れ、れっぷう？」

ホツポ「レップー、レアアイテム！ホツポモ欲シイ！」

ウイル「レアアイテム!?!これはお宝の臭い！よっしや俺も手伝ってやる！」冒険家魂！

ホツポ「ホントカ!?!才前、イイヤツ！」

ワル雨「ホ、ホツポちゃん!?!イイノ？悪い人カモシレナイヨ!?!」

ホツポ「ダイジョウブ！レツプー、ワカル奴ニ悪イ人ハイナイ！」ドヤア
ズシイイイン

ウイル「ん!?この足音はモンスターか！」

ホツポ「マタ来タナ、デカイ蟹！」ぐぬぬ

ワル雨「コノトコロ、レツプーヲ探シテイルンデスケド、アノ蟹ニ邪魔ヲサレテイルンデス！」

ウイル「なるほど、この地質ならダイミョウだな…よし、俺がなんとかしてやるぜ！」
つエイムオフィリユーズ

予碎き「#、皿、」

ウイル「ちよ：矛盾きかよ!? しかもでけえ!」Σ(；；Ⅱ、)

やべえよ、やべえよ。ダイミヨウかと思つたら矛盾きでしたwいやシャレになんねえし! 砥石もない、回復薬もない、持ち物がねえのがヤバイ。武器は運よくあるけど：勝てるのか? ここはひとまず逃げるのが先決：

ウイル「：」チラッ

ホッポ「ガンバレー!」ノシ

ワル雨「才兄サン：頑張ツテ!」ウルウル

ウイル「：ええい! 緑エキスはどこだっけな! カニ鍋にしてやんよオオオオ!」ウオオオツ

50分後

矛盾き「ε≡ ε≡ ε≡ ε≡ ε≡ ε≡(；、Ⅲ、)」今日はこれぐらいにしてやらあ

!!

ホッポ「オオ! 蟹が逃げたいク!

ワル雨「才兄サン、スゴイデス!」

ウイル「…もうだめポ…」バタリ

ワル雨「オ兄サン!?大丈夫デスカ!?!」

ウイル「は…腹減った…」グウゝツ

ホツポ「昆布ナラアルヨ？」

ウイル「…ハ」

ホツポ&ワル雨「ハ？」

ウイル「ハ：ハチミツください…」

ワル雨「ハチミツ?何ダロウ？」

ホツポ「レツプーノ仲間カモ！」

ウイル「気絶

ワル雨「ドウシヨウ、気ヲ失ツチャツタ」あわわ

ホツポ「ヒトマズホツポタチの秘密基地マデ運ボウ」

—— ホツポ輸送中 ——

ウイル「ううん…知らない天井…じゃない、知らない洞窟だな…」

ワル雨「ヨカッタ目ガサメタンデスネ」

ウイル「いたた…ここは洞窟か？」

ホッポ「私タチノ秘密基地！」ドヤア

ウイル「ふむ：岩場ということは砂浜の場所とは反対側のところか…」

ワル雨「ゴメンナサイ、ハチミツハナカツタンデスケド…」つこんがり魚

ウイル「おつ、ありがたい。…とところでr」

レ級「タダイマー!!ナンカ珍シイノ見ツケタツテ?」

ウイル「(。 ㇿ)」

ウイルの冒険日記 ●月○日

冥海竜に船を壊され、この島に漂着したようだが…この住民だろうか、肌が白い。まあ今まで色んな民族にであつたから驚くことはないだろう。

…いや驚くわこれ。今日出会つたレ級という子は背中か?それとも尻尾か?なんか蛇みたいなのがついてた。ここの武器だろうか…。まあ操虫棍しかり、ウィルスを中心とする石しかり、龍撃砲しかりとトンデモ武器を作れる俺達もすごいのかなと実感できた。

明日はこの島のことを詳しく聞いて、ホッポとワル雨ちゃん、レキューと一緒にレッツプーというお宝を探してみるか!

⑦南西諸島沖出撃、怪しい背びれ

提督「おいつす、ただーいま…？」

明石「提督、お話しがあります」ゴゴゴゴ

提督「あ、明石さん？なんかめっちゃ怖いよ？」アセアセ

——明石説明中——

提督「…マジで？」

明石「マジです。いいですか！指定の資材以外での建造は禁止です！今度やったら憲兵呼びますからね！」プンスカ

アーロ「提督、ゴメンヌw」テヘペロ

提督「明石、もう一発シメていいよ」

天龍「おっ、お帰り、提督ー」

提督「待たせたな。ほれ、お土産」つケーキ

長波「おおっ！提督、太っ腹だなー！」

天龍「サンキューー！さっそく食べようぜ！」

五月雨「…そういえば提督室に机が3つあるんですが…」

提督「ああ、これは俺達の教務机さ。」

初霜「提督にジンさんにベルさんとアーロさん…あれ？一つ足りませんよ？」

提督「いや、ちゃんと4つあるぞ？」ライドオン段ボール

長波「提督が段ボールかよ！」

提督「いやー、じゃんけんで負けちゃってさー」テヘヘ

天龍「というかコインで机を買えよ…」

in 工 廠

ジン「…ベル、工廠にいたのな」

ベル「おお、高速建造材節約でね。完成まで待つてたんだよ」

瑞鶴「時間は？」

ベル「えーと1:25:00だったな」

瑞鶴「それなら確か重巡の建造ね」

0:00:00 〈新しい艦娘が建造されました！〉

ベル「おお、完成したみたいだな」

ジン「…さっそく開けてみよう」工廠オープン

高雄「こんにちは、高雄です。貴方のような素敵な…あれ？」

ベル&ジン「(。 ㇿ、)

高雄「あ、あのー…どうされました？」

ベル「ふむ…でかいな。これが重巡か」ナツトク

ジン「…ガーター…いいな。これが重巡…」なつとく

高雄「?、?、?」

瑞鶴「この変態共が…」ジロリ

*

高雄「貴方が提督ですね?素敵な提督にお会いできてよかつわ」ニコニコ

提督「エヘヘー、素敵だなんてー、照れるやないかー」テレットレ

瑞鶴「まったく、この人ったら…」半ば呆れ

五月雨「提督、いよいよ出撃ですね！」

天龍「よつしやあ!さつそく天龍様の出番だな！」

大淀「次の海域は南西諸島沖ですね。これといった注意はありませんが、たまに雷巡型の深海棲艦もいるようですので雷撃には気を付けてくださいね」

長波「よーし、やるぜ!おーっ！」

初霜「それでは出撃準備いたしますね！」

提督「あ、そうだ。天龍、高雄、瑞鶴はちよつと待つてて」ガサゴソ

瑞鶴「？提督、どうしたの？」

提督「念のため、出撃する際これを持っててくれ」つ〇×3

高雄「提督、この丸いものはなんですか？」

提督「こやし玉」キツパリ

天龍「こや…つ、なにクセエの持たすんだよ!？」

提督「こやし玉を侮るなよ？あるハンターはお守りにも使う大事なアイテムだ」

瑞鶴「…もしかしてお守り用？」

提督「いや…この海域から深海棲艦より危険な奴もいる。バカでかい魚とかバカでかい空飛ぶトカゲとか…。もし出くわしたらそれを投げて即撤退してくれ」

天龍「へっ、そんな奴がいたら俺が蹴散らしてやるぜ！」

提督「いい心がけだ。でも、お前たちの安全と無事の帰還が大事だ。…無事に帰ってきてくれよ？」3人を撫でる

天龍「ちよ、撫でるなよー」

高雄「まさか撫でられるんて…悪くないですね」

瑞鶴「ほんと、この人は…」

*

南西諸島沖

五月雨「よし、頑張つちやいます！」

高雄「…む、さつそく敵艦発見ね！」

ロ級「W r y y y y y y y y y y!!」ドーン！

イ級「W A A A A A A A A A N N A B E E E E E E E E E E!!」ドーン！

天龍「テンション高けえ!?!」回避

長波「わわっ…危なかったー」回避

瑞鶴「なんで駆逐型はこんな奴ばかりなのよ!?!」艦載機発射！

ブーン

妖精さんへ俺が！俺達が!!艦載機だ!!

発射！

ロ級「バカナ、コノロ級ガ、コノロ級ガくッ!?!」撃沈

イ級「ワキガクサイワーツ!!」撃沈

長波「…個性的な連中だな…」

初霜「提督、第一地点通過です！」

提督『おk、どんどん進んでくれ!』

アール『圧倒的ではないか我が艦は』

天龍「瑞鶴ー、次は俺達を活躍させろよー」ムスー

瑞鶴「どうかしらねー」ニヤニヤ

五月雨「…むむむ? 敵艦発見です!」

初霜「雷巡型もいますね…」

雷巡千級「3個力? 魚雷3個モ欲シイノカ? コノイヤシンボメ!」魚雷発射!

長波「開幕雷撃!? あぶねえっ!」回避

瑞鶴「きやあっ! なんて奴なの!」小破!

高雄「この…バカめと言つてさしあげますわ!」ドーン!

駆逐八級「Heeeyyyyy!!」撃沈!

天龍「天龍さまの攻撃だあっ! うっしやあっ!!」ドーン!

軽巡へ級「アアアアンマリダアアアツ」中破!

駆逐八級A「Shhhyyyyaaa!!」ドーン!

長波「あいたつ! やつたなあー!!」反撃!

駆逐八級A「ワムウツ!」critical! 撃沈!

瑞鶴「よし、アウトレンジで決めてやる!」艦載機発射!

ホ級「アンマリダー！」撃沈！

初霜「やっちゃいます！」ドーン

駆逐八級B「ウゲギブゲツ！」撃沈！

五月雨「よし、雷撃発射です！」

魚雷発射！

チ級「ヤッダーバアアアアアア!!」critical!撃沈！

瑞鶴「よし：敵艦隊撃破、勝利しました！」

提督『よつかたー：それじゃあ帰投してくれ』ヘナヘナ

大淀『だから提督、空気が抜けてますって!』アタフタ

長波「面白い提督だな！」ニヤニヤ

高雄「おや？あれは：同じ艦娘のようですね」

瑞鶴「しかも2人もいるね：おーい！」

霞「：あなた達は？」

川内「もしかして鎮守府の艦隊？」

五月雨「はい！まだ鎮守府に着いてない方でしたら私たちと一緒に来ませんか？」

川内「やったー！これで夜戦ができる！」

霞「やっと鎮守府に行けるようね。川内つたら夜戦夜戦とうるさかったのよ」ヤレヤ

レ

初霜「それじゃあさつそく鎮守府へ帰りましょう！」

ザザザ…

天龍「…ん？」

瑞鶴「あれ、天龍どうかした？」

天龍「いや…なんか大きな魚の背びれらしきものが見えたような…」

瑞鶴「…? なにもいないわよ？」

天龍「そつか…気のせいかな。それじゃあ、さつさと帰るか！」

⑧ ハチミツ、我らが霞教官

提督「おーい！みんなおかえりー！」ノシ

五月雨「ていとくー！艦隊帰投でーす」ノシ

長波「長波様、大活躍だったぜ！」

提督「おお、えらいぞ長波」ナデナデ

長波「えへへへ」テレテレ

初霜「わ、私も頑張りました！」

提督「おうおう、よく頑張った」ナデナデ

「あー！私にも撫でてくださーい！／＼ワイワイ

天龍「…」

瑞鶴「撫でられにいけば？」ニヤニヤ

天龍「ばっ、ち、ちげーよ！」耳ピコピコ

高雄「うふふ、艦装は正直のようですよ？」ニコニコ

ベル「おや？その子たちは…？」

川内「軽巡、川内です！夜戦はまかせて！」

提督「やせん？」クビカシゲ

ジン「…野戦？」

アール「…野菜？」

川内「夜間に行われる戦闘の略ですよ！夜間の戦闘で一気に決着をつけるんです！」

提督「おお、かつこいいな！」

瑞鶴「提督、川内が一番やせんやせんとうるさいからね」

霞「…：」ジ

提督「えーと、この子は？」

霞「…貴方が提督？」ジ

提督「おう、ここの鎮守府の提督だ。よろさ」

霞「なによ、その格好は!？」

提督「…：はい？」

霞「提督なら提督らしい恰好をしなさいな!!」

提督「え、あの、これも一応…」

霞「なに？文句があるの!？」

提督「いや、ちよ、話しを…大淀さーん！ヘルプ！」

10分後

大淀「…かくかくしかじかで、この鎮守府の提督はこれが制服なんです」

霞「そう…この地方での制服ならしかたないわね」一応ナツトク

天龍「なあ、どういことかわかったか？」

高雄「色々省かれたようでよくわからなかったわ…」

瑞鶴「高雄さん、たぶんそれメメタよ…」

ベル「ねえ、霞ちゃんって子なかなかのスパルタなのな」ヒソヒソ

長波「でも、ああ見えて提督のことを気にしてんだ…タブン」ヒソヒソ

提督「それじゃあ、艦隊は入渠して休んでくれ…」

五月雨「はい！それではお休みしますね！」

霞「提督！終わったら、さっさと編成、作戦を練るわよ！」

提督「ちよ、待ってくれ！まず先にやることがある！」

霞「なによ！まともに任務もこなしてないの!？」イラッ

提督「先に畑仕事とハチミツ採取!!」\強いられているんだ!／

霞「ズコー」

天龍「あつはつは!!初めて霞がずっこけるとこ見れたぜ！」m9(ハハ)ニヤニヤ

瑞鶴「ふふふ、さすがはマイペースな提督ね…」ニヤニヤ

i n 中庭

霞「…ここは牧場なの？…猫は二足歩行で歩かし、頭が痛いわ…」

川内「わー！大きなトウモロコシですわね！」キラキラ

提督「今日の採取はオオモロコシである！存分に採取してくれ！」ドヤア

長波「提督が畑仕事に養蜂…なんでもやるんだな」

ジン「…洞窟があつたら採掘にもいくぞ？」ドヤア

ベル「ほかにも漁業もやるよ？」

アール「さらに昆虫採取だつてお手の物だぜ！」

霞「なんなのよ…こここの提督たちは…」

——採取完了！——

川内「大量、大量!!」

ベル「川内ちゃんよく頑張ったねー」

天龍「ふうう、いい運動になったぜ」

高雄「なんといいですか…初めての体験でしたね」

提督「ささ、畑を耕して肥料をまいて種をまくぞー」

長波「へー、この灰が肥料なんだな」

ジン「…3日で生え、早くて10日で実が成る」

瑞鶴「はや!？」

五月雨「ていとくー!ハチミツ採取終わりましたー!」ノシ
ミケ「五月雨ちゃん、上手に採取できたニャー!」

黒丸「フフフ、いずれはオイラの弟子にしてやろうニャー!」

初霜「このハチミツはどうしますかー?」ノシ

提督「おお!それじゃあ向こうの倉庫まで運んでくれ!」

瑞鶴「…五月雨、けっこう入れてるから重いんじゃない?」

五月雨「おつとと、大丈夫で…うわあああつ!」ズコ

ハチミツドバー!!

初霜「あいたたた…五月雨ちゃん、大丈夫?」ハチミツベトベト
五月雨「ふえええ…ベトベトですう…」ハチミツベトベト

アーロ「(。 ㇿ、)

提督「あわわわ…だ、大丈夫か!？」アタフタ

ジン「…」

川内「ほら、大丈夫？」つタオル

天龍「しようがねえなあ、残りは俺と川内で運ぶからお前たちは入渠してこい」

長波「…あれ？アールロさん？」

アールロ「…やっぱり、駆逐艦は最高だぜ！」満悦な笑み

ベル「…瑞鶴、アールロに全機爆装」

瑞鶴「了解!!」

このあとアールロはメチャクチャ爆撃された。

ジン（…これが高雄だったら…エロいな）ジー

高雄「?、?、?」

霞「…って、なんなのこの鎮守府は!？」ガーンっ！

i n 提督室

霞「いい？提督は農業だけじゃなくて書類も仕事なの！さっさとたまった書類を整理しなさい!!」

提督&ジン&ベル&アール「はーい！」

霞「なんで4人もいるのよ!! 提督が段ボールなのね…」

5分後

霞「誰よ、こんな汚い字を書いたのは!!」 プンスカ

ジン「…はい」ノ

霞「大本営も読む書類なのよ! 綺麗に書きなさい!! 書き直し!」

8分後

霞「ちよつと!! なにこの訳のわからない文字は!!」 プンスカ

アール「あー、悪いっつい ドンドルマで書記やってた時の癖が…」

霞「ドン…とにかく、わかるように書きなさい!」

4分後

霞「ねえ誰よ!! 印を入れるところに猫の肉球を入れたのは!!」 プンスカ

黒丸「…ごめんニヤ」(´・ω・｀) ショボン

霞「…ま、まあ、この書類は提督に渡して。印とサインする書類は提督のだから気

を付けるのよ?」

アール「ずりいぞ黒丸! 霞ちゃんにデレてもらいやがつてー」

霞「喚く暇があるならさっさと手を動かす!!」

提督「ニヤニヤ

霞「な、何よ提督?にやにやして」

提督「いや、懐かしいと思つてな。昔は俺達4人も新人の時は教官が叱咤してくれてたっけなつて」

ベル「おー、懐かしいなー。初陣は教官と俺達5人だけでドンドルマに迫る砦蟹を追い払つた時は楽しかつたなー」

ジン「…あの時は死ぬかと思つた」

アール「だよなあ、戦える奴は俺達だけ、オトモもいねえし、応援もいねえの最悪の3拍子だったもんな」

提督「教官が怒声を飛ばしながら指示してなんとか撃退できたんだよな。…こうして今も叱咤してくれる人がいるからまた一段と頑張れる。まだまだ頑張らねーとな!」

霞「…段ボールに座つていなくなつたらまともな台詞だったのに」ハア

提督「こ、今度に机を買う!」

霞「はいはい、書類はできたの?…:…ん?なにになに?…『白疾風』調査報告書?」ク
ピカシゲ

提督「ワーワー!!ごめん、こつち!!」慌てて取り換える

霞「間違えないでよね。…まあまあね。大目に見てあげるわ。」

提督「ふう、ありがとうな」

霞「それじゃあ次は訓練よ！ガンガン行くわよ。提督、ベルさん、ついてらっしゃい！！」

提督「イエッサー！！」アタフタ

ベル「それじゃお先ー」ノシ

アーロ「…あれ？俺達は書類整理？」

ジン「…霞教官に花丸もらわなければ帰れません」

アーロ「居残りかよ!？」

●鎧袖一触？

ウイル「ふう…とりあえず腹は満たされた」まんぷく

レ級「デ、コイツハドウスルンダ？」ジーツ

ホツポ「二緒ニレッツプーヲ探ス!!」ふんすふんす

レ級「エー、ワル雨ハ？」

ワル雨「ワ、私モオ兄さん達ト探シマス！」

ウイル「…一つ聞いてもいいか？君たちはいったい何者なんだ？」

ワル雨「ア…」

レ級「フツフツフ、ヤット気ニナツタカ！私タチハ人デハナイ深海棲艦ダ!!」

ウイル「しんかいせいかん？」

ホツポ説明中

ウイル「…つまり、海底からやってきた者たちってことか」

ホツポ「ウン！ウマク説明デキタ!!」

レ級「ドウダ？怖イダロウ？」ニヤニヤ

ウイル「…ふーん」

レ級「ふ、フーンダト!? 怖クナイノカ？」

ウイル「：モガという村には海の民という種族がいてな。外見的に爪が鋭く、指の間に水掻きが見られるのが特徴がある。」

ホツポ「水掻キ：潜ツタリ泳イダリデキルノカ？」

ウイル「そう。所謂亜人族かな？ 彼らは遙か昔から海と海の生物と共に共存している。他にも竜人族や土竜族：世界には人間だけじゃない、色々な種族がいるからな。深海棲艦も同じ自然に生きるもの：俺はそう思うから怖くはないさ」

レ級「ウーン、オ前ノイウコトハワカラン」

ワル雨「：：」

ウイル「はっはっは、今は悩むな。存分に楽しんどけ」ナデナデ

レ級「ワワツ、コラツ！ ニンゲン風情ガ撫デルナツ」

ウイル「残念、俺はシナト村出身の竜人族なのさ」ドヤア

ホツポ「ソレヨリモ、一緒ニレツプー、探シニ行コウ!!」グイグイ

ウイル「よっしや、準備をしつつ『れっぷう』を見つけてるぞ！」

レ級「エ、コイツモ連レテイクノカ!？」とことこ

ワル雨「：：」

レ級「ワル雨、ドウシタ？ ウイルニ何かサレタカ？」

ワル雨「ウ、ウウン！ナンデモナイ！」アタフタ

く＊く

ホツポ「コノ魚デイイノカ？」海から魚を大量捕獲

ウイル「ありがたい。このぐらいあれば大丈夫だ」

レ級「コンナ背ビレガ堅イ魚、何ニ使ウンダ？」クビカシゲ

ウイル「武器を研ぐ砥石がない時、『キレアジ』があれば砥石代わりになる。それに食べると腹も満たされる、一石二鳥つてやつさ」

ワル雨「堅ソウデ食ベラレナイノデハ？」

ウイル「そ、その気になれば食べるーさあホツポ、『れつぷう』はどこで探せばいい？」

ホツポ「ワカラナイ」きつぱり

ウイル「（。 ㊦、）

レ級「レップーハ気マグレダカラネ。浜辺ニ漂着シテイル時モアレバ野良デ飛ンデイル時モアル。」

ワル雨「ト、トリアエズ、浜辺ニ戻ツテミマセンカ？」

ホツポ「ヤダ！アノ蟹ニ邪魔サレル！」ふんすふんす

レ級「へへンダ、蟹ゴトキ、コノ戦艦レ級サマガ蹴散ラシテヤル」エツヘン

ウイル「頼もしいな。それじゃあ浜辺に戻るか？」

i n 浜辺

ホツポ「レップー…ナイ」ドンヨリ

ウイル「うごご…『れつぷう』とはいったい…」ドンヨリ

レ級「ウーン、今日モ無カッタナ」ヤレヤレ

ワル雨「ホツポちゃん、別ノ所デ探ソウ？」

ホツポ「ヤダ！オ姉チャンガ戻ツテクルマデ此処デレップー探ス!!」

ウイル「お姉ちゃん？」

レ級「…ホツポニハ姉ガイルンダ。1週間前、ホツポト私タチヲココノ島ニ置イテ、艦娘ノ進攻ヲ止メニ行ツタ」

ウイル「1週間も待っているのか…」

ワル雨「水鬼ヤ棲姫ノオ姉サマ達モ行キマシタカラきつと帰ツテキマス」

レ級「沈ンデモママ戻ツテクルカラネ」

ホツポ「…」

ウイル「…よし、腹が減ったろ？焼き魚にして食うか？」

ホツポ「…ウン！ホツポ、お腹スイタ！」

レ級「サツキ食ベタロ…マアイツカ」苦笑い

ズシイインツ！

ワル雨「コノ足音ハ…!!」

ウイル「来たな、さっきのリベンジだ！今度は戦艦のレ級ちゃんがいるから、もう何も怖くねえ!!」

レ級「サア、私ニヤレタイ馬鹿ハ貴様カ!!」

グラビモス亜種「(#、皿)」グルルルr…

ワル雨「」

レ級「」

ウイル「…マジで？」

ホツポ「オオオオオ！デカアアアイ！！」キラキラ

グラビ亜種「グオオオオオオオツ」咆哮

レ級「何アレ!?何アレ!？」

ホツポ「モシカシテ…レツプー!？」キラキラ

ワル雨「ホツポちゃん、絶対レツプージャンナイヨ!？」

ウイル「黒グラビとかシヤレになんねえ！」ホツポを肩車、右にワル雨、左にレ級を担ぐ

ホツポ「おおっ？」キラキラ

ワル雨「オ、お兄さん!?!?!」マツカ

レ級「ナンダヨ、アノ怪物ハ!？」アワワワ

ウイル「逃げるオオオオオっ!!」撤退!

グラビ亜種「(#、皿) 三三三三三三〇」熱線!

ウイル「あぶなっ！」

レ級「ビーム!? アイツ、ビームヲ撃ツテキタゾ!」

ホツポ「オオツ! ゴジラダ!」キラキラ

グラビ亜種「三三三(＃、皿、) マテヤゴラア!

ワル雨「ハ、走ツテキマシタ!」

ウイル「なんのこれしきいいいつ」猛ダツシユ!!

く*く

― 浜辺から反対側の対岸エリア

ウイル「ぜえ、ぜえ…ここまで来れば大丈夫だろう…」

ホツポ「ウイル、楽シカッタ!」ウキウキ

レ級「コノ島コワイ、コノ島コワイ…」ビクビク

ワル雨「レ級ちゃん、大丈夫?」

ウイル「…さてと、グラビモス亜種に矛盾ダイミヨウザザミ。どうすつかなあ…」

ホツポ「ウイル、勝テルノ?」

ウイル「ううむ、回復薬の素材の薬草、アオキノコ…ついでにハチミツがあれば…あ

とは落ち着ける拠点らしきものがあればなあ…」

ワル雨「秘密基地ジャアダメデスカ?」

ウイル「そこでもいいが、少し大きな場所がいいなあ…」

レ級「…ソレナライイ場所ガアル。」指さす

ウイル「…ん？ 苔に覆われた石造りのかなり古い廃墟だな…」

レ級「…私ノ記憶ガ正シケレバ、遙カ昔ノ鎮守府。」

ウイルの冒険日記 ●月○日

深海棲艦というのは不思議だな。自分たちは造られた兵器だというが、この子たちには心があり、感情があり、そしてなによりも温もりがある。いくら深く冷たい海にいても抜けることはないかもしれない。この子たちのことをもつと知ろうと思う。

『れっぷう』というお宝を探す黒グラビに行くわす。…俺、火耐性は絶望的ですので消し炭ですわw回復薬がないので一先ず撤退するしかない。兎に角、物を貯めれる拠点が欲しい所だ。レ級が見つけた『ちじゆふ』とやらはよくわからんが1000年前の廃墟のようだ。瓦礫が沢山ちらばり、まるで廃れた遺跡に変わっている。

取りあえず、ここを拠点に『れっぷう』を探すか。それともホツポのお姉さん達を…

⑨訓練、会議

五月雨「…提督、これですね」

提督「…」

五月雨「…スピードの2ですね。揃いました、私の勝ちです！」ヤッター

提督「くそー、また負けたかー」

長波「提督、3連敗じゃーん」1抜け

ベル「相変わらずババ抜きは弱いかな」2抜け

天龍「提督がババ引いた時、すつごくわかりやすいんだよな」

提督「くそー、もう一戦だ！」

霞「そうよ、勝ちあがるまで何度も立ち上がりなさい！…つてちがー！ー！ー！う！！」

提督「え？訓練じゃないの？」

霞「誰がババ抜きで訓練するのよ!?!」

五月雨「…提督、ですか？」

霞「いやそうじゃなくて…ともかく、運動場で訓練を行うわよ!!」

く*く

提督「ところで、訓練とか出撃とかで得られる練度ってのは？」

霞「戦闘でより研ぎ澄まされた技量が活かされ有利になるわ。それと一定以上の練度に至ると『改』や『改二』変わることができるの」

ベル「『改二』？」

霞「艦装も性能が変わり、艦娘自体も変わるほどの大規模改造のことよ」

提督「へー、かつこよくなるんだ。すっげえな！」

霞「ふん、そうなるようしつかり積ませなさい！」

天龍「おーい、準備できたぞー！」ジャージ

瑞鶴「提督、霞ちゃん、まずはなにからする？」ジャージ

提督「…あれは？」

霞「艦娘だって身体を鍛えなくちゃね。大淀さんに頼んで動きやすい運動着を配布してもらったの。ほとんどの鎮守府にあるものよ？」いつの間にジャージ+ブルマ

五月雨「お待ちせしましたー！」体操服+ブルマ

長波「うーん、サイズ間違えたかな？」体操服+ブルマ

ベル「…：」ジー…

長波「?、?、?」

提督「ん?ベル、どうした？」

ベル「アーロが見たら間違いないで発狂してたな」

一方そのころ

アーロ「ハッ：フエハックシャルダオラ!!」くしゃみ

川内「すごいクシャミですね！風邪ですか？」元気に書類整理

アーロ「いや：もしかしたら俺っちは何か絶好の機会を逃したのかもしれないねえな」ドヤア

ジン「：高雄さんの淹れるお茶がうまい：」（*・ω、）まったーり

高雄「う、嬉しいんですけど：ジンさんそろそろ書類を：」

黒丸「：そしてオイラは盗人メラルー共にこう言ったニヤ、『：オイラの背後に立つんじゃニヤい』ってな」

初霜「黒丸ちゃんの武勇伝：：すごいですね！」ワクワク

*

天龍「：なあ、今俺達は鎮守府内を外周しているんだよな？」走り中

瑞鶴「：まあね、走り込みも訓練の一つだからね」走り中

長波「おーい、五月雨。大丈夫かー？」走り中

五月雨「ふう、ふう：な、なんとか着いてこれてますー！」走り中

天龍「そうだよな：：そうだけでも：」

霞「ほら！ぐだぐだ言わず走ることに集中!!」走り中

瑞鶴「いや、あたし達よりもずば抜けて猛ダツシユしている提督とベルさんの体力がおかしすぎるんだけど…」

提督「はっはっはー！ベル、どっちが先にゴールできるか競争だ!!」猛ダツシユ!!

ベル「あっはっは!!残念だが勝たせてもらおうよ!」猛ダツシユ!!

霞「…なんであそこまでずば抜けて走れるのよ…」呆れ

長波「提督曰く、『走り込みなら体力じゃなくてスタミナ調節すればほぼずつと走れるぜ!』ってさ」

天龍「スタミナって…本当に変わった提督だよな…」

30分後

五月雨「ふえええ、久々の走り込みは疲れましたー」グダー

長波「いやー、いい汗かいたぜー!」

瑞鶴「それにしても…」

天龍「提督達、疲れている様子すらみえねえ…」

提督「ふはは、『猫の逃走術』つけていた俺に隙はなかった」(……)

ベル「くそう、提督が先頭だった時、勝負はすでについていたのかー」

霞「…まあ、中々の走りだったわよ？」仕方なく納得

——時間は過ぎて、夜中——

霞「はあ…なんていうかともない鎮守府に来ちゃったわね…」

霞 side 本場にこの鎮守府は変わっている。提督達はなぜか鎧を着ているし、食堂では猫…アイルーが料理をしているし…アイルーが鎮守府内に沢山…かわいいらしいけれど、特に提督達は…どこか抜けているのか、一癖も二癖もある人たちだ

霞「…はあ、明日出撃する海域について理解しているか心配だわ…」

そうだ。次の海域から敵艦隊には戦艦級の深海棲艦がいるという情報がある。いつものように出撃していたら危ない。そのところはわかっているのか…あれ？提督室が何やら騒がしい。こつそり覗いてみよう

提督「…みんな、揃ったな？」

ベル「オーケーだよ」

ジン「…オトモもみんないる」

アール「さつさと会議を始めようぜ！」

会議？提督の他にジンさん達やアイルーたちを集めてなんの会議をするのだろうか…もしかして次の海域の作戦かしら？

提督「それじゃあまず…『お風呂をユクモみたいに混浴にしようぜ!』という案から」
霞「ズコツ」

期待した私がばかだったわ…いきなりそんなことを会議するのバカはいるか!?

提督「家具職人さんから、どうしようかという意見でこういうのがあったが…大淀さん、意見をどうぞ」

大淀「却下です。実行して憲兵に連れていかれるかうスイホンを読むかで満足してください」

アーロ「そんな…ご無体な!」

霞「その案を出したのはあんたか!!」超小声

提督「じゃあ次…『間違えてジャガイモ320個発注しちゃったニヤ』について」

霞「それ、草案じゃなくて懺悔!」超小声

クサモチ「いやー、ごめんニヤさい。ついついうつかりニヤ」

ベル「しばらく朝昼晩とジャガイモ料理だね」

ジン「…ジャガイモの焼酎を作ってみるか…」

ミケ「もう、ジンさんは相変わらずの酒好きだニヤ」

＼ワツハツハツハツハ／

なんとという連中だろうか。提督として、まったく自覚がない…こうなったら乗り込んで喝を入れてやるしかない

提督「…次、『明日出撃する海域について』だ。大淀さん、他の鎮守府からの情報と解説を」

大淀「はい、次の海域には…」

いつの間に頼んでいたのだろうか。攻略を進んでいる他の鎮守府からの情報や、その海域から出現する深海棲艦の説明をしている大淀さんの話をみんな真剣に聞いているじゃないの

提督「ふうむ…戦艦か…こちらにも欲しいなあ」

大淀「そうですね…でも、今の艦隊での編成をうまくこなせば攻略は可能ですよ？」

提督「その線でいこう。アールとジンは再度、建造を行ってくれ」

大淀「くれぐれも指定の資材以外のものを入れないで下さいよ…？」

ジン「…もう明石さんに怒られたくない」

アール「明石さんは最強やでえ」

提督は大淀さん達と出撃編成について会議を始めた…なんだ、ちゃんとできるじゃないの。明日はきつと朝一番に提督が「この編成で大丈夫か？」と聞いてくるだろう…

霞「…ちゃんと、アドバイスしてあげないとね」

…
…
…
ここにおいては提督達の邪魔になるだろう。さっさと部屋に戻って寝ることにするわ

大淀「それじゃあ明日の出撃する艦隊はこの編成でいきましょう」

提督「おk。それじゃあ次は、3人に報告だ。南西諸島沖・製油所地帯沿岸にて漁師たちから『水竜』ガノトトスの大型個体が目撃される情報が入った」

アール「マジ!？」

ジン「…亜空間タツクル嫌い」

ベル「それで、どうするんだい？」

提督「この地域で今動けるハンターは俺達だけだ。これから進撃するウチの子や他の鎮守府の子たちに被害が合わないよう手分けして探して撃退する。以上だ」

⑩—1 お魚天国（地獄）前編

i n 提督室

霞「…」そわそわ

提督「そわそわしてるけど、トイレ？」

霞「ち、違うわよーそれより出撃するんでしょーちゃんと編成の方は考えてるのね！」

提督「お、おう…製油所地帯沿岸への出撃は…川内を旗艦に、霞、長波、天龍、高雄、瑞鶴の6名だ」

川内「やったー！旗艦だー！！」

天龍「うっし、腕が鳴るぜ！！」

霞「…まあ一応良しとするわ」

提督「次の海域は戦艦がいるという…みんな、気を付けていってくれ」

長波「よっししゃあ任せとけって！」

大淀「それでは艦隊は出撃準備を」

提督「…ひとつ、気になることがある」

霞「なに？さっさと言いなさいな！」

提督「……水雷戦隊つてなに？」

艦娘一同「ズコーッ

霞「こ、このクズ!! そのぐらいわかっときなさいよ!!」

艦隊出撃!!

提督「…五月雨、初霜は大淀さんとちよつと町まで買い物にいつてくれないか？」つ
メモ

五月雨「任務ですね？わかりました！」（＾＾ゞ

初霜「あれ？そういえばベルさんが見当たりませんが…？」

提督「ああ、ベルならちよつと出かけててな…それじゃあ大淀さん、お願いしますね」
ぺこり

大淀「ええ…提督もお怪我の無い様に」

五月雨「？、それではいつてきまーす!!」ノシ

提督「いつてらっしやーい! ……さて、俺も出撃と行きますか」

i n 工 廠

明石 side ドッグの掃除もよし、修補もよし、資材よし、今日も艦隊が無事に帰ってきて艀装の強化にメンテナンスができるよう準備は万全！開発もうまくできましたし、後のデイリーは艦娘の建造：今日の担当はジンさんにアールロさんか：うん、不安しかないわ。

明石「あれほど言っても変なのいれるかもしれない：私がしつかりしなくちゃね！」
ふんす

ヨモギ「あ、あの一、明石さん？」チラツチラツ

明石「あら？板前ブラザーズのヨモギちゃんじゃないですか。どうかしましたか？」
ヨモギ「そ、その：っというっかり大鍋に穴が開いちやったニヤ。明石さんに見てもらいたいニヤ」

明石「修理ですか？いいですよ！」ニツコリ

ヨモギ「じゃ、じゃあ一緒に食堂に来てほしいニヤ！直してくれたら柏餅あげるニヤ」
チラツチラツ

明石「うふふ、それじゃあ行きましようか」スタスタ

シーン

ジン「…いったな？」一ム。チラツ

アールロ「フッフ、計画通り」一ム。チラツ

ジン「…明石さんに見つかる前に建造するぞ」

アール「好奇心には負けちゃうもんなー！」ニヤニヤ

ジン「…鉱石のボックスにカギが掛かっているだど？」

『こんなこともあるうかとロックしておきました。真面目にやっってくださいb y明石』
メモ

ジン「…これではできないな」

アール「フツフツフ、こんなこともあるうかと、俺の手持ちから持つて来たぜ！」

ジン「…さすがだ」

アール「ここに『虹色鉱石』と『マカライト鉱石』があるじやろ？」

ジン「…これをどうするんだ？」

アール「これを『虹色鉱石』は3分割にして、『マカライト』は丸ごと入れる！適当にレシピを4つ書いて！妖精さんに渡す！」

ジン「…なんとという簡単な作業だろう」

アール「それじゃあこれで頼む！」つレシピ

妖精さん達とアイルー達「はい！」

／やっつてやるぜー！／やっつてやるニヤー／

アール「ふっふっふ、これなら明石さんにバレはしねえ、完全勝利!!」ドヤア

第一ドツグ | 0 : 2 2 : 0 0 |

第二ドツグ | 1 : 1 5 : 0 0 |

第三ドツグ | 2 : 2 5 : 0 0 |

ア—ロ「ほらね！うまい具合にできてるぜ！」

ジン「…これなら明石さんに怒られずに済む」

ア—ロ「さあこの調子なら…！」チラッ

第四ドツグ | 5 : 0 0 : 0 0 |

ア—ロ「（。 ㇿ、）

ジン「…やばい」

ア—ロ「あかん、は、はやく高速建造材を使って…」

???「はい、どうぞ」つ高速建造材

ア—ロ「おおう、たすかry」

明石「…さて、じっくりとお話ししましょうか」ニコニコ

ア—ロ「（ o、） / オワタ

ジン「／＼（＾o＾）＼ナンテコッタイ
ヨモギ「明石さん、直してくれてありがとうニヤ！」大鍋ピカピカ

⑩—2 お魚天国（地獄） 後編

天龍「霞、ぼーっとしてるけど大丈夫か？」

霞「あつ…だ、大丈夫よ！」

川内「まあ第一地点は大変だったからねー」

長波「さあ、そろそろボスのいる海域に入るぜ！」

提督『ザザツ…ようし、そのまま…ザザツ…進撃っ！』ノイズ有
高雄「提督？ノイズが入ってますけど大丈夫ですか？」

提督『ん？ザザツ…ああ大丈夫…ザザツ…すぐに直るさ』

瑞鶴「っ！敵艦発見よ！戦艦もいるわ、気を付けて！」

戦艦ル級「オイヨイヨツ」ドーン！！

長波「わあっ?!?こ、このやろーっ!!」中破、反撃っ！

駆逐口級A「ソリヤナイレシヨ!!」critical!撃沈!

瑞鶴「このまま攻めるわよ！」艦載機発射!

ブーン

妖精さん「深海棲艦とは違うのだよ、深海棲艦とは！」発射!

雷巡千級「オツペケテンムツキー!!」撃沈!

軽巡ホ級「オンドウルルラギツタンデイスカー!!」ドーン!

川内「よつと!突撃よつ!!」回避、反撃つ!

戦艦ル級「キャツ!…ムツコロス!!」小破!

天龍「よつしやあ、いくぜ!」ドーン!

戦艦ル級「タチャバラサンっ!?」小ダメージ!

霞「よし、行けるわよ!!」ドーン!

軽巡ホ級「オデイノカラダハボドボドダ!!」中破、反撃!

高雄「いたつ…!敵艦を叩くわよ!」小ダメ、反撃!

駆逐口級B「ウェイ——(0w0)——イイ!!」撃沈!

川内「みんな!雷撃用意!!」魚雷装填

雷撃戦開始!!、発射!

軽巡ホ級「ムワアアアアッ!?」撃沈!

戦艦ル級「フォ——(0v0)——ウウ!?」中破!

瑞鶴「よし、あと一息ね!」

川内「提督、夜戦に突撃するか指示を!」

提督『ザザッ…そうなれば…ザザッ…このまま夜戦に突撃だ!』

夜戦開始!!

提督『え? ザザツ…なんかいきなり夜になったんですけど!? ザザツ…外も暗い!?』

瑞鶴「提督、そこは気にしちやダメよ…」

霞「…」

川内「夜戦だ! ヤッター!!」

＼61cm四連装酸素魚雷／＼20・3cm連装砲／＼61cm四連装酸素魚雷／

川内「さあつ!! 私と夜戦しよつ!!」ドドンツ!!

戦艦ル級「ウゾダドンドコドン!」critical! 撃沈!

提督『ザザツ…あ、なんか明るくなった…ザザツ』

高雄「戦闘終了、私たちの勝利です!」

天龍「長波、大丈夫か?」

長波「な、なんとか…夜戦は川内さんが全部持ってちやったなあ」

川内「えへへ、久しぶりの夜戦だったんでつい…」てれてれ

提督『ザザツ…無事でなにより…ザザツ…それじゃあ帰投してくれ』

瑞鶴「わかりました、艦隊帰投しますね!」

天龍「…ん? あれは…おーい!」ノシ

臯月「んお？僕たちに何か用かい？」

雷「もしかして、どこかの鎮守府の艦隊ね！」キラキラ

川内「うん！よかつたら私たちの鎮守府にこない？」

加古「ほんとかか!?!もう長い事迷つてたから眠たくて眠たくて…」（☒ω☒）ス

ヤア…

五十鈴「ちよ、ここで寝ちやだめよ!？」加古を担ぐ

雷「それじゃあ私たちもあなた達の艦隊に加わるわ!」

高雄「ずいぶんと賑やかですね」ニコニコ

五十鈴「ここまで来る道中、大変だったんだから…」疲れ顔

霞「…」

天龍「？霞、どうかしたのか？夜戦の時も考え事をしていたが？」

霞「…ちよつとね。…ごめんさい、少し見回りしてから鎮守府に帰るわ」

瑞鶴「？このあたりなら深海棲艦はもういないけど、出くわしたら大変よ」

天龍「…それじゃあ俺もついていく。危なかつたら引き連れてすぐ逃げるさ」

川内「わかつたわ。でも気を付けてね」

く＊く

ある沿岸地帯の岩場

天龍「どうして残ろうとしたんだ？」

霞「気になることがあってね…やっぱりいたわ」覗き見

提督「…このあたりだな」

天龍「なっ、提督!?なんでこんな所に…?」—ム。—チラツ

霞「鎮守府にいる提督がなんで夜戦の状況をわかったのか疑問に思ったけど…やっぱりついて来てたのね」

天龍「でも、提督は何しようとしてんだ？」

提督「さあ釣るぞ」つ釣りカエル

天龍「つ、釣り!」

提督「♪♪♪」ノリノリ♪

霞「…呆れた。私たちが戦ってるのに呑気に釣りなんかして…っ!!」

天龍「待て、様子が変だぞ…何かがかかった!」

提督「きたきたきたあああっ!!」グイグイツ

霞「ちよ、海の方が荒れてる…」

天龍「もしかして深海棲艦を釣ろうとしてんのか…?」

提督「そおおおおいっ!!」グイッ!!

ガノトトス「Σ(川、皿)」ザッパーン!!

霞&天龍「(。 皿、)

提督「さあ、一狩りいくぜっ!」つ輝王剣リオレウス

ガノトトス「(#、皿) 三三」

天龍「な、なんだよあれ!? さ、魚!」アセアセ

霞「二本足の魚なんて聞いたことないわよ!」アセアセ

ガノトトス「(#、皿) 三三三三 水ブレス!

提督「ぬわーっ!」

霞「直撃!? 提督っ!!」

提督「受け身っ! くそーエリアルじゃなくてブシドーにすればよかった!」

天龍「なんでぴんぴんしてんだよ!」ガーン

ガノトトス「三(#、皿、)「タツクル!!

提督「亜空間タツクル?!」

天龍「ちよ、今のおかしいだろ!?!当たることのない個所だったろ!?!

ガノトトス「(、皿、)「ガブリッ

提督「あ、やば、寝ちやう:(⊠ ω ⊠) スヤア:

霞「ちよつと、何寝てるのよ!?!」

天龍「やばい!また意味わかんないタツクルをしてくるぞ!!」

霞「もう!見てらんないっ!!」タタタッ

天龍「霞!?!」

ガノトトス「?(、皿、)」

霞「くらいなさいっ!」ドーン!

ガノトトス「Σ(、皿、;)小ダメージ!

霞「早く起きなさい、このクズ!!」ゲシッ

提督「あばふっ!?!か、霞:~!」

霞「説明はあと!!こんなところで死んだらこっちが困るのよ!」

天龍「俺もいるぜ、提督!!」ドーン!

ガノトトス「Σ(×皿、;)」

天龍「へへへ…こんなバカでかい魚がいるなんて…まじでビビるぜ…!」

提督「…本当は艦娘に危険な目を合わせてはならんのだが…二人とも、ありがとうな

!」ダツシュ

ガノトトス「(、皿、#)三三

天龍「提督!タツクルがくるぞ!」

提督「よいしょっ!!」エリアル回避!

霞「ちよ、なんでそんなに高くジャンプできるのよ!」

提督「からのく、空中溜め切りっ!!」

ガノトトス「Σ(×皿×)」

天龍「おおっ、怯んだ!」

ガノトトス「三三(、;×皿×)」海へドボンっ

提督「あ、海へ逃げた!?!音爆弾忘れた…」(、ω、)シヨボン

霞「あと一撃なんですよ?提督、雷撃の許可を出してくれればいけるわよ!」

提督「霞…よし、雷撃戦開始だ!」

霞「さあガンガンいくわよ!!」 魚雷発射!!

ガノトトス「三三Σ（；×皿；）」 大ダメージ！撃退っ！

提督「…よし、もうここの海域には来ないだろう」 一息

霞「なに一息ついてるのよ、このクス!!」 ゲシッ

提督「あばすっ!?か、霞!？」

霞「たった一人で…あんな化け物と闘って、もし死んじゃったら…私…私!」 グスッ

提督「…」 ナデナデ

霞「ばかあ！撫でるなあ!」 グスッ

天龍「オレも心配したんだからな。提督、ちゃんと説明してくれよ?」

提督「…二人には説明する。でも、他の艦娘達には黙っていてくれ」

天龍「…わかった。オレたちだけの秘密にするよ」

提督「ありがとうな。それじゃあ帰ろう。みんな待つてるしな」

天龍「ああ、ほら霞。泣かないで帰るぞ?」 ナデナデ

霞「な、泣いてなんかないっ!」

く一方そのころく

ベル「……」小舟操作中

黒丸「……」

ベル「……()ど()?」

黒丸「えっ」

—— ベル、絶賛迷子中! ——

①帰還、まさかのドロップ

明石「……です、今度また変な鉱石入れたり変な物を入れたら追い出しますからね！」プンスカ

アーロ「あ、ハイ……」正座

ジン「……まさか5時間も正座されて説教を聞くとは……」正座

明石「さて、5時間過ぎましたね。お待たせしました、すべてのドッグを開けてみましょうか」

ヨモギ「それじゃあ一番ドッグを開けてみるニヤ！」工場オープン

時雨「僕は白露型駆逐艦、時雨。よろしくね」ペこり

アーロ「僕つこかあ……いいね！」正座

ジン「白露型……五月雨のお姉さんか？」正座

時雨「あ、あの……どうして鎧を着て正座をしているの？」アセアセ

明石「諸事情です」キツパリ

ヨモギ「おしとやかでいい子ニヤ！」

ミケ「ふむふむ…ようこそですニヤ！」

時雨「…驚いたよ、猫って二本足で立ってしゃべれるんだね」ナツトク

明石「この鎮守府だけだと思わ。あと、正座している人たちは提督じゃないの」

ミケ「提督さんは出撃しているニヤ！」

時雨「そうなんだ。うん、皆、これからよろしくね」

アーロ「いい子やあ、めつちやいい子やあ」正座

明石「よし、大丈夫そうね…それじゃあ次！」

ミケ「了解ニヤ！」工場オーブン

阿武隈「こ、こんにちは、阿武隈です…」

アーロ「グツジョブ!!」正座

ジン「…アブドウル？」正座

阿武隈「きや、きやあああ!?!な、なんですか!?!」ビクビク

明石「阿武隈ちゃん、落ち着いて。提督の友達だから大丈夫よ？」

ミケ「さあ、落ち着いて深呼吸ニヤ！」

ヨモギ「息を吸って吐くニヤ！」

阿武隈「ね、猫が：しゃべった：あふう」気絶

明石「あ、気を失っちゃった。」

ジン&アール&ミケ「(・ω・) ショボーン」

明石「うん、阿武隈ちゃんが普通の反応だからね」阿武隈を担ぐ

時雨「面白い人たちだね」

ヨモギ「提督さんももつと面白い人だニヤ！さあ、次行ってみるニヤよ！」工廠オーブン

龍驤「軽空母、龍驤や！独特のシルエツトでしょ？」

アール「なるほど：駆逐艦だな！」正座

ジン「：駆逐艦か」正座

龍驤「軽・空・母!!てかなんで正座しとんねん!？」

明石「ごめんなさい、諸事情ですのぞ」

龍驤「ま、まあいいや。って阿武隈気絶してるし!？」Σ(・□・)；

ミケ「元氣いっぱいな子ですニヤ」

龍驤「うわっ?!猫がしゃべってんの!?!この鎮守府はすごいなあ!」

時雨「龍驤さんならすぐに慣れそうだね」

ジン「…明るい子は好きだ」

アール「軽空母の龍驤ちゃんね、よろしくな！」

龍驤「えへへ、任せときや！ところでなんで鎧着て正座してるん？」

明石「話すとき長くなりますのでまた後日…さて、いよいよ問題の5時間ですね…」
工
廠
オ
ー
プ
ン

長門「戦艦、長門だ。敵艦との殴り合いなら任せておけ」

アール「戦艦キター!!」正座

ジン「…これが、戦艦」。(。°。∩。)(|| ○)、3。) ∴ この威力G級!」正座

長門「…ほほう、面白い恰好をした提督たちだな」

明石「よかったー、長門さんでよかったー」

長門「??」クビカシゲ

明石「もしビスマルクさんだったら大問題でしたが…まあ今回は大目に見ましよう」
た
め
息

アール「やった！明石さんマジ天使！」正座解除

大淀「わかりました。それでしたら皆さんでお迎えしましょうか」ニツコリ

五月雨&初霜「はい！」（〇ゝ）／

時雨「阿武隈さん、起きて」つんつん

阿武隈「ううん…ね、猫が、鎧武者が…」

ジン「…軽空母って弓を使うのか？」

龍驤「えっへん、弓を使うのもいるけどウチは特殊やで！」ドヤア

長門「猫…かわいい…」うっとり

明石「長門さん？」

アール「足があああ!?!足があああああつ!!」ゴロゴロ、じたばた

in 母港

川内「艦隊帰投です！」ビシツ（ゝゝゞ

五月雨「おかえりなさい!!」ノシ

長波「あれ?いつの間にか増えてね？」

ジン「…出撃の間に建造しておいた」

臯月「か、かつこいいい!その鎧かつこいいいな!」キラキラ

雷「なんだかカミナリのように強そうね！」キラキラ

ジン「（……）ドヤア

瑞鶴「ジンさん、初めて褒められたからものすごく喜んでる…」

高雄「それと、アールさんが這い蹲ってますけど…」

明石「自業自得です」

アール「お、お助けえ…」地を這う蛇のポーズ

五十鈴「…ほんと個性的を通り越してゐるわね…」呆れ

加古「（☒ω☒）スヤア…」

初霜「あれ？霞ちゃんと天龍さんは？」

川内「二人なら少し見回ってから戻るって言ってたよ」

ジン&アール「…」

瑞鶴「大丈夫よ。すぐに戻るって言ってたし、心配いらないわ」

天龍「おーい！帰ったぜー!!」ノシ

高雄「あ、戻ってきましたよ…って、提督も!？」

提督「やつほーただいまー！」ノシ

五月雨「提督！なんだか怪我をしているようですけど…？」
提督「あ、あーと…」アセアセ

霞「調子に乗って遠くの島で山登りしてこけたんですって。」

瑞鶴「だからちよつと見回ってたのね…」

長波「提督もおつちよこちよいだなー！」ニヤニヤ

提督「か、霞…」

霞「ほんとバカよ。もう心配かけさせないでよね…」ぶいっ

提督「…ありがとうな」ナゲナゲ

霞「だから撫でないでってば！」テレテレ

長門「あれが提督か…」ナツトク

時雨「うん、面白い人だね」

阿武隈「ま、また鎧の…あふう」気絶

龍驤「ちよ、ビビりすぎやで!？」

提督「さて、こつちの任務も完了したし…みんなで飲みと行きますか！」

アーロ「やったー！宴会だー！」

ジン「…酒が飲めるぞー」

初霜「…あの、ところでベルさんは？」

提督「…あ」

アール「やべえ、あいつ羅針盤の使い方知ってねえから絶賛迷子だ…」

瑞鶴「絶賛迷子って…」

ジン「…迷うのが得意。」

提督「あいつ、マップを理解せずすぐに道に迷うからなー」

皐月「？あの母港に入ってくる木の小舟は？」

提督「おお！あれはベルの船だ！」

ベル「ただいまー、ちよつと道に迷っちゃってさー」テヘペロ

黒丸「羅針盤の使いからわからないから焦ったニヤ」

時雨「提督達、みんな鎧を着てる…」

雷「あと、猫もしゃべってる！」キラキラ

皐月「ここの鎮守府すつごいな！」キラキラ

アール「それにしても、迷子のお前がよく戻ってこれたなー」

ベル「誰が迷子だ。道中でこの子達に会わなかったら大変だったよー」
明石『「この子達」？』

??? 「おお……ここがベルさんの仲間のいる鎮守府か」

ベル「そうだよ。羅針盤の使い方教えてくれてありがとうね！」

磯風「なに、放浪して飽きていたところさ。喜んでこの鎮守府に就こう」

雪風「はい！私も頑張ります!!」

大淀&明石「」

長門「ん、磯風ではないか」

磯風「長門さんもこの鎮守府にいたんですね、よろしくお願いします」ペコリ

長波「おお雪風じゃん！」

初霜「雪風ちゃん！」ニコニコ

雪風「長波ちゃん！初霜ちゃん！会えてうれしいです！」

ベル「この子達のおかげで無事に戻れて……あれ？明石さん？顔がこわry」

明石「今度はお前かあああああああつ!!」助走をつけてドロップキック

ベル「な、なんでえええつ!?」海へドボン！

ベル、まさかのレア艦ドロップ(?)

磯風曰く、このままベルが船を進んでいたらあうやく南方海域に行くところだったの
事であつた

⑫遠征、ひとときのお休み 前編

i n 工 廠

明石「…さて、何か言うことはありませんか？」ゴゴゴゴ

提督「いえ、何もございません」正座

ジン「…反省しております」正座

ベル「ちよつとした慢心です」正座

アール「なにとぞお許してください」正座

川内「あれ？提督たちなんで正座しているの？」

五十鈴「…あれを見なさいよ」呆れ

天龍「うわっ!?!なんだよこのピツケルの山は!?!」

明石「言いましたよね？開発は艦娘がやるって」ゴゴゴゴ

提督「いやあ…そろそろできるかなーって思ってたさ…」正座

ジン「…好奇心？」正座

ベル「いやいや、挑戦する意気込みかな？」正座

アール「数やりやできるかなってさー」正座

明石「だからといって資材が底をつきかけるまでやらないでください!!」
 プンスカ
 五月雨「あわわわ、資材が…」

龍驤「これじゃあ出撃できんなあ…」

磯風「…」
 ジーツ

高雄「磯風ちゃん？」

磯風「…これは使えるな」

瑞鶴「いや、これは使えないからね!？」

霞「はあ…なんでバカばかりなのよ…」
 呆れ

大淀「大本営からの支給は来週になりますし…しかたありません、遠征で溜めるしかありませんね」

提督「遠征?」

五月雨「はい!艦隊におつかいを出して、資材を運んだりするんです!」

霞「文字通り、遠くまでいくから時間は掛かるけれどその分資材を得ることはできるわ」

a t 母港

提督「えーと、編成は天龍、五十鈴、阿武隈、皐月、時雨、長波の6名で遠征を行つてくれ」

天龍「うっし、たんまり取ってくるぜ！期待しとけよー！」つドラム缶
長波「久々のドラム缶だー！」キラキラ

ヨモギ「みんなちゃんとお弁当もってるかニヤ？」

臯月「うん！猫ちゃんのお弁当もちゃんと持つてるよ！」

提督「絆創膏持った？おやつも持った？水筒も忘れてない？」そわそわ

五十鈴「あんたはママか!？」

時雨「大丈夫。心配しないでね」

阿武隈「に、任務はしっかりこなしますから！頑張ります！」

提督「そうか…よし、それじゃあ気を付けて行ってらっしゃい！」

艦隊「いつてきまーす!!」ノシ

提督「おう!…嗚呼、心配だあ」アワワワ

五月雨「て、提督、大丈夫ですよ！」アワワワ

アーロ「やっべえ、離れてみるとすげえうけるww」

in 提督室

霞「…それじゃあちゃんと説明してよね」

提督「そうだな：霞たちが見たあの魚は『ガノトトス』っていう生物だ」

ジン「…この世界の自然の中には人よりも遥かに凌駕する生物がいる。」

ベル「生活や命を脅かす自然の災害であると同時に人が繁栄していくには必要不可欠な自然の恵みなんだ」

提督「特にこの地域、この地方はそういった大型の生物が沢山いる。もちろん、その生物が他の地域へと足を延ばすんだけどね。だから先のガノトトスのような場合もある。」

アール「下手したらその住民や艦娘に被害が及ぶかもしれない。そのようなことが起きないように大本営の依頼でギルドから配属されたのが俺達ハンターさ」

提督「ハンターといえどその生物たちを駆逐してはいけない。それらの脅威を払いつつ、人間と生物との共生、自然の調和を図るのが使命なんだ。まだ足を踏み入れていない海域や島での生態調査をしつつ、この地域、この街、そして君たち艦娘を守るのが俺達の仕事さ。まあ、提督としての自覚も必要なんだけどね…」

霞「…わかったわ。提督達のことも知ることができたし、よかった。ちゃんと他の子達には秘密にするから」

提督「そっか。霞、ありがとう」

霞「でも！ 私たちの提督なんだからそこは自覚してよね！ 大怪我したら承知しないん

だから！」

提督「おうとも、気を付けるさ」ナデナデ

霞「だ、だから撫でないでってば！／＼／＼／＼」

アール「う、羨ましい：：！！」

く＊く

in 中庭牧場

長門「：」ジーツ

ミケ「な、長門さん：どうかしたのかニヤ？」

長門「：誰も見てないな：」チラツチラツ

ミケ「あ、あの一、そろそろ畑仕事をしにやきやいけないですけどニヤ：」

長門「かわいいいいいっ！！」ミケを抱きしめる

ミケ「にやぎやつ！？」ギユーツ

長門「な、なんてかわいいんだ！！おおつあそこにもアイルーがつ！！」

ブルー「初登場ニヤのにーっ！？」ギユーツ

川内「あ、長門さん！！」ノシ

長門「Σ（・□・；）」アイルーを素早く離す

川内「探しましたよー！」

長門 「…なんだ？」 キリッ

川内 「提督が今日は出撃しないからせつかくだしみんなで街へ出かけてらっしゃいて！ 行きますか？」

長門 「うむ…悪くはないな。そうするとしよう…とことで川内」

川内 「？ どうかしましたか？」

長門 「…さつきのは見てないな？」

川内 「なにをですか？」 クビカシゲ

長門 「いや…いい…」 スタスタ

ミケ 「なんというパワーニャ…」

ブルー 「これが…ビツクセブンにや…」

く*く

in 食堂

アール 「へー、雪風ちゃんと初霜ちゃんはヨモギたちのお手伝いか！」

雪風 「はい！ 今はヨモギさんとお野菜を切ってますよ！」

初霜 「今日の晩御飯はカレーですよ！」

アール 「ほほう、感心感心。てかかわいいな」 につこり

ヨモギ 「この子たちは才能あるニャ」

マシロ「新たに板前ブラザーズに就任するかニヤ？」

サクラ「板前ブラザーズ改め板前レンジャーニヤ！」

初霜「お味噌汁も作ってみたんですけどどうですか？」

アーロ「どれどれ……うまい！初霜ちゃん、いいお嫁さんになれるぜ！」

雪風「初霜ちゃん、すごいです！お嫁さんになれるって！」キラキラ

初霜「ま、まだ早すぎますよ」テレテレ

磯風「アーロさん、よかつたら私の作ったのも味見してくれないか？」

アーロ「……えっと、この黒いのは？」

磯風「これは卵焼きだ」ドヤア

アーロ「ほほう、所謂海軍料理っていうやつかな？どれどれ……」パクリ

【力尽きました】

アーロ「」ガクリ

雪風&初霜「あ、アーロさああああん!?」(; ㉿ ㉿) !!

初霜 side ガクリと倒れたアーロさん、この後どこからともなく荷車を引いたアイルーちゃん達が現れてアーロさんを運んでいきました。

磯風「：：ふむ、塩を入れすぎたか：」

マシロ「うん、違うと思うニヤ」

⑫遠征、ひとときのお休み 後編

i n 提督室

霞「だから、この書き方はだめだって言ってるでしょ！」プンスカ

提督「お、おう…」

雷「大丈夫よ司令官。私が書き直してあげるわ！」ニコニコ

提督「お、おう…」

霞「提督！早くしないと書類がたまつたままよ！」プンスカ

雷「司令官、慌てなくていいのよ。私がいるじゃない！」ニコニコ

提督「あ、あのー…」

霞「ちよつと！甘やかしたらダメよ！」ジロリ

雷「そつちこそ厳しくしすぎじゃないの？」ジロリ

提督「な、仲良くしような、な？…」アセアセ

五月雨「失礼しまーす！提督、お茶を持ってきましたー！」ニコニコ

提督「おお、サンキュー」

五月雨「それじゃあこちらに…きやあつ！」ズルっ

提督「あつちいいいっ!」頭にお茶がかかる

五月雨「あ、あわわわ!?ご、ごめんなさーい!!」アワワ

黒丸「…羨ましいようで羨ましくないような…」

加古「所謂『飴と鞭とお湯』ってやつだね」頷き

in 街中（北方面）

瑞鶴「鎮守府にずっといたので街中を散策するのは初めてです」

ジン「…ちなみに街並みのイメージはスペインのフリヒリアナみたいな感じだ」

瑞鶴「?ジンさん、誰に話してるんです?」クビカシゲ

ジン「…ここからの景色は好きだ」フリヒリアナで検索してみよう!

瑞鶴「…綺麗ですね。はやく翔鶴姉えにも見せてあげたいなあ…」

ジン「…そうだな。はやく会えるといいな」ナデナデ

カフェの女将「おおっ!ジンさんじゃないの!今日も飲みに来たのかい?」ノシ

ジン「…マスター、おひさー」ノ

女将「この間ありがとうね!ジンさんがドスマツカオの群れを追い払ってくれたおかげで無事に帰れたよ!」

ジン「…マスターのお茶は格別からな。こんなのは朝飯前だ」

瑞鶴「ジンさん、この喫茶店にはよく来るんですか？」

女将「おんやあ？ ジンさんやるねえ。こんな可愛い彼女とデートかい？」ニヤニヤ

瑞鶴「え!? あ、あのつ、私は…」アセアセ

ジン「…Yes!」(∨、) bグツ!

瑞鶴「即答?!」Σ(。D。ー)

女将「あつはつは！ それじゃあ今日はサービスしちやおうかなー!!」

瑞鶴「あ、あの、ジンさん!」アセアセ

ジン「…心配するな、ポケットマネーは大丈夫!」bグツ!

瑞鶴「そういう問題じゃない!!」

in 提督室

提督「ふー。書類整理、終わったあー」ヘナヘナ

五月雨「提督、お疲れ様です!」つおにぎり

提督「おお、ありがとう…うまいっ! こいつはオカカだな」もぐもぐ

五月雨「えへへ…まだ沢山ありますから」ニコニコ

霞&雷(どうやって兜をつけたまま食べてるんだろう…)

磯風「提督、失礼する」

提督「ん？磯風、どうかしたか？」

磯風「私も提督におにぎりを作ってきたぞ。」につこり

霞&雷「!!」ビクッ

提督「おお、磯風も作ってきたのか！これは嬉しいな！」

霞「あ!!あんなところでつかい鳥が!!」窓の方を指さす

提督「む！でつかい鳥だと!」窓を覗く

磯風「どこだ？」窓を覗く

五月雨「どこですか!」窓を覗く

アーロ「うーん、あの後食堂でなにがあったか思い出せんな…」スタスタ

雷「アーロさん！丁度よかったわ！」ささっ（磯風のと取り換えて渡す）

霞「おにぎりあまったの！あげるわ！」ささっ（磯風のと取り換えて渡す）

アーロ「おお、これはありがたいぜ!!」ニッコリ

磯風「…でかい鳥はいなかったぞ？」

霞「ご、ごめんなさい。気のせいだったわね」

提督「さてさて、それじゃあいただきます!…うまいっ!」ほんわか

磯風「ほんとか!?!うん、頑張った甲斐があった」うなづく

霞&雷「よしっ！」ハイタツチ

五月雨「うーん、でっかい鳥：あ！カモメですね！」

黒丸「王手ニヤ」将棋中

加古「わっ?!黒丸つよっ?!」将棋中

廊下では：：

アーロ「チーン

雪風「た、大変です！アーロさんが倒れてます！」（；。D。）

初霜「あ、アーロさん！大丈夫ですか!」（；。D。）

in街中（港町方面）

川内「おおっ!!船や魚がいっぱい!!」キラキラ

高雄「鮮魚市はかなりの賑わいですね」キラキラ

龍驤「ほおっ！出店も美味しそうやな！」キラキラ

ベル「美味しい魚に逞しい漁師たち。故郷のタンジアを思い出すよ。」

長門「ベルさんの故郷か、是非とも行ってみたいな：ん？あそこの広場の真ん中に置

かれている樽はなんだ？」

ベル「これは腕相撲用の樽だよ。漁師たちはこの樽の上で腕相撲をして力自慢をして

いるんだ」

漁師A「おお！ベルさんじゃねえか！いいカジキマグロが獲れたんだ！いるかい？」
龍驤「でかつ!？」

ベル「大将、気前いいねえ」ニコニコ

漁師A「でも、腕相撲に勝てたらただで上げるぜ？」ムキムキツ

長門「力自慢か：ベルさん、私にやらせてくれ」はりきり

ベル「おつ、それじゃあやってみるかい？」

漁師A「ほほう？お嬢ちゃんが相手かい？そんな華奢な腕じゃあ折れちまうぜ？」ムキムキツ

長門「レディー…ゴ…っ!!」グイッ

漁師A「あばっ!？」負け

川内「やったー！さすがは長門さん！」わいわい

漁師B「何やられてんだい！こんどは俺が相手だ」ムキムキツ

長門「そおいつ!!」グイッ

漁師B「へぶっ!？」負け

「よーし俺が…わぎやっ／＼なんの…あひっ／＼つ、つええつ／
ベル「…さすがは戦艦だね」

高雄「なんだってビッグセブンですから…」

龍驥「…これ漁師さんたち大丈夫なん？」

漁師G「な、なんて強さなんだ…!!」片腕負傷

長門「(・・▽・・)」ドヤ!!

こうして港町の腕相撲チャンプなった長門であつた

夕刻

in 母港

天龍「遠征終わったぜー!!」ノシ

提督「おう、みんなお疲れー!」ノシ

長波「天龍さん、かなりはりきってたなー」

臯月「こーんなにいっぱい集めたよ!」につこり

阿武隈「も、もう肩が疲れたよーっ!」ぐだーっ

ジン「…ご苦労さん。これ、お土産」つケーキ

五十鈴「え!?!いいの? やったー!」

時雨「あれ? 瑞鶴さん顔が赤いけどどうかしたの?」クビカシゲ

瑞鶴「な、なんでもないわ!」アセアセ

加古「ジンさーん、あたし達のはないのー?」黒丸をだっこ

黒丸「オイラ達も欲しいニヤー」

長門「ふふふ、安心するがいい！魚なら沢山あるぞ！」ドヤ!!

アーロ「一体何をしたらそんなに海産物を持ち帰れたんだ」

龍驤「港町に新しいチャンピオンが生まれたんや…」

ヨモギ「皆さんお疲れさまにや！ごはんの用意はできてますニヤー！」

サクラ「長門の姉御さんはその魚達を厨房に運んでほしいニヤ」

提督「遠征組もご苦勞様。ゆつくりお風呂につかってから食べにおいで」

マシロ「今日はカレーですニヤー！」

雪風「初霜ちゃんとお手伝いしたのです！」

初霜「雪風ちゃんと頑張りました！」

長波「おお！こいつは楽しみだぜ！」

ベル「それじゃいただこうかね」

天龍「…ところで提督、指示通りに鋼材以外をたんまりと集めてきたんがよかったのか？」

提督「ああ、鋼材の方は俺達が何とかすつから。ありがとう」

天龍「？」

艦娘全員が寝静まった時刻

inどつかの島の火山

提督「…みんな、丸太…じゃなかった。ピッケルは持ったか？」つピッケル
アーロ「ぼつちりだぜ！」つピッケル

ベル「開発で作ったのがたんまりあるからね。不足はない！」つピッケル

提督「よし、それじゃあ『第一回、ドキドキ炭鉱夫大作戦』を開始するぞ！」

ジン「…沢山鉱石、鋼材を採取して、みんなを驚かせるぞ」

ミケ「僕たちも頑張るニヤー!!」

黒丸「クーラーの補充も忘れずに！」

ズシイインツ!!

ジン「…来たぞ、主任だ」

ウラガンキン「(#、皿)」またテメーらか!

提督「きやがったな現場監督! さあ、みんな行くぞつ!!」

ハンター達「うおおおおおっ!!」
こうして、鎮守府のハンター達は現場監督兼主任兼ウラガンキンと戦いつつ鋼材をめちやくちや採取した

次の日

明石「…鋼材だけずば抜けてあるんですけど、なにかしましたか?」ゴゴゴゴ

提督「…」視線を逸らす

ジン「…」視線を逸らす

ベル「…」視線を逸らす

アール「zzzz」寝てる

●ホツポの冒険く始まりの巻きく

ウイル「この小松菜みたいで美味しそうなのが薬草な」つ薬草

ホツポ「ウンウン」頷く

ウイル「で、この青いのがアオキノコな」つアオキノコ

ホツポ「ウンウン」

ウイル「で、ホツポが持ってきたのは毒草と毒キノコな」

ホツポ「ナンダツテ!？」

ウイル「てかその辺に生えてたのを持ってきたろ」

ホツポ「ダツテレ級ガ遠クニ行クノヲ嫌ガツテタモン」

レ級「黒イノ怖イ、デカイノ怖イ…」ガクブル

ウイル「まあいつか。ワル雨と集めた奴で十分だ」

ワル雨「集メタ空き瓶ハドウスルンデス？」

ウイル「この石臼に薬草とアオキノコを入れて潰して…できたエキスを瓶に入れたら

回復薬の完成!!」

ホツポ「苦イ」オエー

ウイル「さっそく飲むなよ！」（；。D。）

レ級「コンナニ沢山作ッテ何ニ使ウンダ？」

ウイル「もちろん怪我をした時に使うんだ。俺もお前たちもな」

ホッポ「苦イノヤダ！」ぶんぶん

ウイル「だよなー。苦くない回復薬グレートつてのが作れるんだが…」

ワル雨「ドウカシマシタカ？」

ウイル「ハチミツがいるんだよなー」

レ級「ハチミツ？」クビカシゲ

ワル雨「何カ重要ナ物ラシイノ」

ホッポ「レップト同じクライスゴイ！」

ウイル「うし、こうなったらハチミツを探しにいくか！」

ホッポ「レップトハチミツ探ス！」ぶんすぶんす

ワル雨「ハチミツハドコニアルンデスカ？」

ウイル「今度は島の中央、原生林の中へ進む！」

ホッポ「オオツ！冒険ダー！」キラキラ

レ級「ワ、私ハ残ルゾ！アンナ化け物ニ出クワスノハ懲リ懲リダ！」

ホッポ「ワカッテナイ。冒険ニスリルハ付キ物ダ！」フンス

ウイル「おつ、いい心がけだ。冒険者はスリルとロマンにあふれている！」フランス
 ウイル&ホツポ「いくぞー!!」ダダダダ

ワル雨「マ、待ツテクダサーイ!!」アタフタ

レ級「チョ、ワル雨モ行クノカヨ!?!」

シーン……

レ級「ヒ、一人ニシナイデー!!」ダダダダ

ナレーター：こうしてウイル探検隊は『れつぷー』と『ハチミツ』を求めて原生林
 の奥地へと進んでいったのであった!

ある時は

ババコンガ「(#、皿) つ三三三三(糞)」

レ級「クサツ?!?アイツ糞ヲ投ゲテキヤガツタゾ!?!」

ホツポ「爆雷ヨリ怖イ!!」

またある時は

ドスゲネ波斯「(、皿)」ガブリ

ウイル「アバババ」麻痺

ワル雨「ウイルさん!？」

ホッポ「蹴ツタラ大丈夫ツテ言ツテタ！」ゲシゲシ

レ級「コノツ起キロー!!」ゲシゲシ

ウイル「ちょ、お前ら、蹴りすぎっ!!」

ドスゲネポス「ススス…（；――）」ドンピキ

またまたある時は

グラビモス亜種「(#、皿)三三三〇」グラビームツ!

ウイル「逃げろー!!またきやがったぞ!!」ワル雨を抱えてダツシユ

ホッポ「逃ゲロー！」

レ級「ツテ、ワル雨!ナニ顔ヲ赤ラメテンダヨ!!」

ワル雨「ソ、ソソナコトナイデス!／／／」テレテレ

そうして山頂へ

ウイル「つてか、ハチミツがねえ!!」―?―〇 ガーン

ワル雨「ウイ、ウイルさん!元気をダシテクダサイ!」アワワ

レ級「ハアハア…深海棲艦ナノニ、ナンデコンナニ走ラナクチャイケナインダ…」ク

タクタ

ワル雨「ソレニ、レツプーモアリマセンデシタネ…」
レ級「アレ？ホツポ、何シテンダ？」

i n山の頂上

ホツポ「…」

ホツポside 『それ』は空高く飛び立ち、遙か遠くへと飛んでいった。それは光り輝く銀色の生き物だった。私たち深海棲艦でさえ見たことがない不思議な生き物。山の頂上から見る景色は遙か先まで見える海に行ったこともない島々。なんだかきれいだ

ウイルが言つてた通り、世界は不思議で…たのしい。

ホツポ「？何カ落ちテイル」

飛び立ったところに何か白く光るものが落ちてる。どれどれ…汚れが全くない銀色の鱗の様なものだ

ホツポ「コレハ…モシカシテ！」ハッ

ウイル「おーいホツポ！そんなところにいたのか！」ノシ
ワル雨「？嬉シソウニシテイルケド何カアツタノ？」

ホツポ「ウイル！レツプーのカケラ見ツケタ！」キラキラ

レ級「マジで!？」

ホッポ「嘘ジャナイ!ホラ！」

ウイル「これが…れっぷーっ！」

ワル雨「綺麗ナ銀色…」

レ級「本当ニアツタンダ…」

ホッポ「ウイル、私決メタ！」

ウイル「うん?どした?’

ホッポ「私、コノレップーヲ探ス冒険ガシタイ!’キラキラ

ウイル「…まじで?’(。D。)

――夜中の鎮守府跡地

ホッポ「ムニヤムニヤ…レップー…」熟睡

ワル雨「スヤスヤ…お兄さん…」熟睡

ウイル「ぐっすり寝てんなー…」

レ級「…」ジーツ

ウイル「レ級、まだ起きてたのか?’

レ級「イヤ…気ニナツテ眠レナクテサ」

ウイル「…ホツポのことですか？」

レ級「ウン、アンタハドウスルンダイ？言ツテタケドモホツポニハお姉ちゃんガイル」
ウイル「…」

レ級「コノママ連レテ行ケバ戻ツテキタ姉さん達ニホツポを攫ツタトミナサレテ殺サ
レル。流石ノ私デモ擁護シキレナイゾ？」

ウイル「そこなんだよなあ…とどうか心配してくれてんだ」

レ級「ウ、ウルサイ！お前ガイナキヤあの化け物達を追イ払エナイ！」テレテレ
ウイル「まあ、一応だが考えはついてる。問題はもうひとつあるんだ…」

レ級「ソレハ何ダ？」

ウイル「この島にはハチミツがなかつたんだよなー」ガツクリ

レ級「…モウ寝ルツ!!」

翌朝

ホツポ「…むにゃ？イイ匂イ!!」ガバツ

ワル雨「…んん…美味シソウナ臭イ…」

レ級「…コノ臭イハ…焼肉ダ!!」キラキラ

ウイル「おはよう！魚ばかりじゃ飽きるから今日はこんがり肉だぜ！」ジヨウズニヤ

ケマシター！

レ級「ヤッター!!」

ワル雨「お兄：ウイルさんガ焼イタンデスネ！」

ホッポ「焼肉！焼肉！」ワクワク

ウイル「さあ、みんなの分は焼いてるからな。存分に味わえよ」

空母ヲ級「ヲツ！」キラキラ

ウイル&レ級&ワル雨「……」

ヲ級「…ヲ？」

ウイル「増えたあ!?!しかも頭になんかついとる!?!」(；。D。)

—— ウイル冒険日記 —— ●月□日 ——

まず言えることとしてはこの島にはハチミツがない!?!どういうことだ!ありえんぞ!ハチミツがない島なんてサイテーよ!……とまあ言えることは言えたしとりあえずおいておこう。

ホッポが冒険したいと言い出してきた。嬉しい話なのだが、その反面どうしようか悩んでいる。ホッポにはお姉さんがいるし、ホッポは彼女の帰りを待っているのではないか。この子の好奇心に答えるべきか：一応考えがある。聞いてくれるだろうか：

そういえば、ホツポが見つけた『れつぷう』のカケラ。何かの鱗のようで……うーん、どっかで見たことがあるんだよな……

⑬進撃Ⅱ波乱の予感？

i n 甘味処『間宮』

提督「いやー、ここにくるのは初めてだ」ノビノビ

間宮「提督、初めまして。間宮です」ニコニコ

提督「おー、貴女が間宮さんか。鎮守府の子たちがお世話になっております」フカブ

カ

間宮「いえいえ、これからもよろしくお願いします」フカブカ

五月雨「提督！ここの間宮スペシャルがおススメですよ！」

提督「おつ、それじゃあそれをお願いしようかな？」

数分後

間宮「お待ちせしました。『間宮スペシャル』です！」ニコニコ

提督「これが…世にいう『パフェ』というやつか！」キラキラ

五月雨「提督は初めて見ますか？」

提督「ああ、今まで食べた甘いものは…木の実とハチミツと温泉まんじゅうぐらいだ

もんなー」ウマーイ

間宮&五月雨「…」ジーツ

提督「あとケーキつてのもこの街で初めて見たんだよな…：…ん？どした？」モグモグ
間宮「…提督、おかわりもありますから、遠慮なくいただきます！」

五月雨「私、提督のために沢山甘くておいしいものを作ります！」

提督「お、おう。ありがとうな」

霞「ここにいたのね…提督、何か忘れていないかしら？」

提督「んー…そうだ!!」ハッ

霞「うんうん」

提督「ジンたちのお土産を買わなくっちゃ！間宮さん！羊羹4つ！」

霞「ちがーう!!出撃よ出撃!!」プンプン

提督「エ…今から？」

霞「当たり前じゃないの!!そんなところでのんびりしないでさっさと…」チラッ

提督「(・ω・)」シヨポーン

霞「…ま、まあ、食べてからでも構わないわ」

提督&五月雨「やったー♪」

i n 提督室

提督「さてと…いよいよ鎮守府近海最終海域か」

大淀「次の海域からは軽空母型、空母型の深海棲艦が出現します」

霞「新米提督の最初の関門よ。ちゃんとした編成を組むことね」

提督「よし、天龍を旗艦に、長門、高雄、加古、龍驤、瑞鶴の6名で出撃をしてくれ」

長門「ふむ、さつそく戦艦の出番か。腕が鳴る」フンス

天龍「提督、任しときな！」ガッツポーズ

龍驤「ほえ、うちも出撃かー。緊張するなあ」

加古「スヤア…」（ーωー）スヤア

高雄「か、加古さん起きてください！」

皐月「ねえ司令官。私たちはー？」

雷「私も出撃したいわ！」

霞「貴女達は私と雪風、阿武隈さんと遠征に行くわよ！」グイグイ

提督「それじゃあみんな、健闘を祈る！…言ってみたかったんだよね、このセリフ」

テレテレ

艦娘一同（…天然だ）

in 出撃前

ジン「…よっ」ノ

瑞鶴「あれ、ジンさん。どうしたの？」

ジン「…誰も見てないな」チラツチラツ

瑞鶴「？」

ジン「…これお守り」つ『護石』

瑞鶴「あ、ありがとう。ジンさんにしては珍しいわね」

ジン「…無事に戻ってこい」(・ω・) bグッ！

瑞鶴「もちろん！任せといて！」ニッコリ

ベル「…」一匹。チラツ

一方、工廠では…

アール「なにとぞ明石さん、俺に回させてくれ」ググググ…

明石「だめですって。また変なの入れるつもりでしょうが！」ググググ…

初霜「あ、アールさんが明石さんと取っ組み合ってる…」

磯風「？あれは訓練の一種か？」

長波「それじゃああたし達で回そうぜー」ニヤニヤ

——南西諸島防衛ライン

天龍「おらおらあ!! 順調だぜ!!」

龍驤「ほとんどがうちら空母と長門さんのワンパンで突破してるし。天龍の出番はな
いんちやう?」ニヤニヤ

加古「これは私は寝ていいやつだな?」(・ω・)チラッ

高雄「寝ちやいけません」ビシッ

ブーン……

瑞鶴「あれは……気を付けて! 8時の方向、3里先から敵艦載機が来るわ!!」

長門「よし、回避しつつ対空射撃用意!」

龍驤「ほんならうちらも飛ばすぞ!!」艦載機発進!!

敵艦載機へキサラギシヨックダー ババババ

艦載機「艦これ3話のようにはいかんぞー」ババババ

天龍「よつと!」刀で敵艦載機を斬る

加古「ちよ、それかっこいいな!」ババババ

天龍「へへっ、このための刀なんだぜ?」ドヤア

高雄「でも、危ないから砲撃もしてくださいよ」

長門「敵艦載機を落としたな。瑞鶴、敵艦は見えたか？」

瑞鶴「もちろん、見えたわ。空母型2隻、あとは重巡、軽巡、駆逐の2隻よ」

長門「あれだな。さつそくビッグセブンの力、見せてやる！主砲、放てーい！！」ドドー
ン！！

軽巡へ級「聞イテナイヨー!!」c r i t i c a l ! 撃沈!

瑞鶴「龍驤、反撃するわよ！」艦載機発射!

龍驤「艦載機のみんなー！お仕事や!!」艦載機発進!

駆逐口級A「ハンカチ王子!」撃沈!

重巡り級「ソフトモヒカンっ」小破

空母ヲ級A「冬ノソナタ！」艦載機発射

空母ヲ級B「六本木ヒルズ！」艦載機発射

天龍「ちよ、ここの奴らは流行語をしゃべんのかよ!」対空砲掃射

加古「あいたつ、もうすでに古いのに!」小破

高雄「きやあつ!!…このっ、反撃よっ!」中破、反撃!

空母ヲ級A「セガサターンっ!?」小破

加古「よし、加古スペシャルをくらえーっ!!」ドーン!

長門「このまま砲撃!副砲、うてーっ!!」ドーン!

駆逐口級B「ダツチューノツ!?」撃沈!

空母ヲ級B「テイラミスっ!」critical!大破!

重巡リ級「イチローっ!!」ドーン!!

龍驤「きやあっ!!うそっ!?こんなものあり!?」critical!中破

瑞鶴「このっ!アウトレンジで決めてやる!」艦載機発射!

艦載機へヤラセハセンゾー!! 爆雷発射!

重巡リ級「タマゴツチ!?」critical!撃沈!

天龍「さあ天龍様の一撃だ!」ドーン!

空母ヲ級A「長野オリンピック!?」critical!大破!

天龍「よし、一気に押し切るぜ!加古、雷撃発射だ!!」魚雷発射!

加古「任せとけ!加古サンダースペシャルをお見舞いしてやるぜ!」魚雷発射!

空母ヲ級A「タイタニック!?」撃沈!

空母ヲ級B「トリプルスリー!!」撃沈!

長門「：敵艦隊撃破。提督、我々の勝利だ」

提督『ほ、ほんとか!? よかった：：みんな、大丈夫か?』

龍驤「な、なんとか大丈夫やで。ふー、ピンチやったから安心したでー」

高雄「敵艦隊撃破できましたけど、まだ何かあるかもしれないから注意しないと」

瑞鶴「それじゃ偵察機を飛ばしておくわね」ブーン×4

天龍「提督、俺の活躍してくれたか?」キラキラ

提督『おお、天龍。かっこよかったぞ』

加古「ちよ、私も活躍したんだからな!」

龍驤「とか言いつつ道中は長門さんとうちらが奮闘してたんだけどねー」ニヤニヤ

提督『ははは、皆ご苦勞様。無事に帰投してくれ。』

長門「了解だ。帰還中、中破した艦隊の護衛は任せろ」

???「おーい!」ノシ

加古「ん? あれは：：」

那智「気づいてくれてよかった。また海を駆けつばなしになるところだった」

足柄「もう長い事うろろしたから疲れた」クツクツ

初雪「んー…眠い…」

球磨「すっかりするクマ。どうか球磨達も艦隊に入れてほしいクマ」

長門「実に嬉しい事だ。よろしく頼む」

龍驤「一気に人数が増えていくなー」

天龍「うちの鎮守府は歓迎するぜ！…でも、個性的な提督たちだけ？」ニヤニヤ

高雄「そうですね…面白い鎮守府ですよ？」ウフフフ

那智&足柄&球磨「??？」

初雪「ZZZZZ」

加古「あ、やば、あたしも寝そう…」

龍驤「こ、こら寝たらあかん！」

長門「それじゃあ皆、帰ろうか」

瑞鶴「ええ。…艦載機も戻ってきたわ…あれ？一機いない…」

瑞鶴 side おかしい。さつき偵察機を4機飛ばしたのだが、戻ってきたのは3機だ。もしかして敵艦が潜んでいる？戻ってきた偵察機を戻し、偵察機が写してきた情報を見る。

瑞鶴「敵艦はいない…でも…うつ!？」

バチンと頭痛が走った。残った一機が壊された。敵艦が潜んでいる!? 落とされた偵察機がやられる寸前まで写してきた情報が脳裏に伝わってきた。

…ところどころ映像が切れていてはつきり見えないが必死になにかから逃げてる。速くて…でかく…バチバチと電気が飛ぶ音。そして最後に見えたのは緑の蛍光色に光る大きな爪にステンドグラスのような綺麗な翼が偵察機に襲い掛かった映像だった。

天龍「瑞鶴、大丈夫か？」

瑞鶴「…あ。う、うん大丈夫よ。ちよつと疲れただけ…」

今のはいったい何？ 敵艦？ 敵の新しい戦闘機？ …落とされた場所はこの南西諸島のどこか…そんなに近場ではないのは確かだ。兎に角、今は早く帰ろう。

瑞鶴「さ、早く帰ろう。提督やジンさん達が待つてる…」

⑭ゴールデンストロング&レッドキャッスル

i n 工廠

ミケ「ドンドコドンドコ

ブルー「ドンドコドンドコ

アーロ「ドンチキ♪「(^ ω ^)」♪「(^ ω ^)」ドンチキ

川内「…アーロさん達何やってんの？」

長波「ドンドルマ流、『レア護石を出すための踊り』だつてさ」

明石「どう見ても怪しい踊りなのよねえ…」

磯風「?あれは訓練ではないのか？」

00:00:00 ―― 〈新しい艦娘が建造されました!〉

アーロ「キタキタアっ!!」

ミケ「さつそく開けてみるニヤ!」

アーロ「工廠、オ――ポンっ!!」

―― 一方、提督室

提督「ん？任務報酬でうちに着任する子？」

大淀「はい、ある編成任務、出撃任務にて成功すると報酬として大本営から艦娘が配属されます」

時雨「それにしてもうしてその報告が今になってきたの？」

提督「まあ大本営からうちの鎮守府まですんげえ遠いからなあ」

五月雨「大本営から汽車に乗って、飛行船に乗って、それからポポが引く馬車に乗ってとかなり長いです！」

那智「ふむ、そんなに遠いのか…」

提督「それで、どんな子がくるのか？」

大淀「そうですね。吹雪型駆逐艦『白雪』と『深雪』、天龍型軽巡洋艦『龍田』、そして正規空母『赤城』の4名ですね」

五月雨「いよいよ赤城さんが私たちの鎮守府にくるんですね！」ワクワク

提督「うちにもぎやかになってきたな。そろそろ艦娘寮とか施設もしっかりしていかなくては…」

大淀「あの、それともう一つ。大本営から通達です」

提督「ん？俺宛にか？」

大淀「薄井本鎮守府から、綾波型駆逐艦『曙』と『潮』がこの鎮守府へ異動とのこと

です」

in 艦娘教室

ベル「ふう、しばらく使ってなかったから埃や汚れが溜まってるねー」つ雑巾

雷「やりがいがあるわね！頑張るわ！」つ箒

皐月「ここの鎮守府にも教室があつたんだね」

初雪「勉強…だるい」

ベル「艦娘には戦うことだけじゃなくてもっと色んなことを見て学んでほしいからね。提督が教室や運動できる施設がある鎮守府へ研修しに行つて参考にしたんだ」

足柄「ところで教師は誰がするのかしら？」

雷&皐月「…」ジーツ

足柄「え!?!私!?!」

ベル「そういえば研修に行つた鎮守府でも足柄さんが教師をしてたね…ピツタリなんだよ」

提督室

アーク「提督!! ついにやったぜ!!」ドカドカ

提督「あ? また明石さんを怒らせたのか?」

霞「また変なのを工廠につつこんだの？」

五月雨「もしかして憲兵さんきたんですか!？」アワワ

アロー「ちげえよ!？工廠ですんげえのが出たんだぜ!」

提督「もしもし明石さん？アローの奴またやらかしたんですか？」電話中

霞「ほら、正直にいいなさい。こんどは何の鉱石を入れたのよ?」

アロー「くそう…日ごろの行いか…まあいい。彼女を見て驚くなよ?」

ドドドドドドドド…

提督「ん？誰かが走ってきたるな…?」

金剛「てええええええええとくうううううううつ!!」提督にダイレクトアタック!!

提督「あばーっ!」（#）, 3、.;.;.; ;、;

五月雨「て、提督ーっ!」Σ（。D。一）ガーン

金剛「Oh、これは失礼しました。提督、大丈夫デスか?」

提督「だ、だいじょうぶ…そ、それで君は…?」プルプル

金剛「Hi！高速戦艦、金剛型の長女、英国生まれの金剛デース!」キラキラ

霞「…高速戦艦を建造したのね」

アロー「すげだろ！高速だけ、高速!!」（∪ω∪）三（∪ω∪）

五月雨「た、たぶんそういう高速じゃないと思います…」

金剛「H m m : : 紅くてかつこよくてストロングなアーマー! : : 提督、かつこいいデス!」
 提督「か、かつこいいか? て、照れるなーえへへ」テレテレ

金剛「私に加われば百人力デース!! 提督、私から目を話しちゃノーだからね!」ビシッ

!

黒丸「旦那さん、大本営から艦娘がきたニヤ」

金剛「What!? キヤ、キャットがしゃべってる!」Σ (。D。:)

長門「: : 私も含めて二百人力かな:」—ω・・(チラッ

金剛「な、長門さん!」(;。D。)

霞「はあ: : だんだん喧しくなってきたわね」

五月雨「でもにぎやかなのは大好きですよ?」

アール「そういえば: : 金剛ちゃん、俺は?」

金剛「: : : : ここにもアーマーを着た人が!」(。D。)!

アール「今頃!」

金剛「Sorry、はやく提督に会いたかったから気づかなかったデース: :」(。・ω・

)

アール「: : : : これがアウトオブ眼中ってやつか: :」(。・ω・)

——鎮守府門前

天龍「よつ、龍田。ここまでの長旅はどうだったか？」ノ

龍田「あら天龍ちゃん！ここまで来るの結構大変だったわ〜」ニコニコ

深雪「というか初めて飛行船に乗ったよ。船も空を飛ぶんだな！」

白雪「ポポっていうんですか？見たこともない生き物もいました」

龍驤「どうか来る予定時間をちよつと遅れてきたみたいだけど大丈夫だった？」

赤城「ご、ごめんなさい。道中、商店街の露店の食べ物美味しそうだったのでつい

道草を……」

潮「……」

曙「……」

深雪「ところでこの鎮守府はどんな感じなんだ？」

天龍「そりやあ面白いとこだぜ？」ニヤニヤ

龍驤「うちも初めて見たときは驚いたけどね〜」

深雪&白雪「？」

天龍「おつ、そんな話をしてたら提督達がきたぜ？」

龍驤「提督ー！こつちやでー！」ノシ

提督「おお！君たちが大本営から配属される艦娘だね？初めまして、俺がここの鎮守

府の提督だ」ニッコリ

白雪&白雪「(。(。D。D)

アーロ「んでその親友のアーロだぜ！他にもあと2名ほどいるんだが会ってから話そう」

黒丸「ニヤンターの黒丸ニヤ。アイルー共々よろしくニヤ」

白雪&白雪「(；。D。)アワワ

龍田「あらあら、天龍ちゃんの言う通り面白い人たちね」ニコニコ

赤城「貴方が提督ですね。一航戦の赤城です！よろしくお願います！」ピシッ

提督「ああ、よろしくな。…ところで口にソースがついてるよ？」

赤城「あつ…す、すみません。長旅でお腹がすいてまして…」アワワ

龍田「赤城さんは食べるのが大好きですからね」ウフフ

黒丸「にやんと、そうだったのかニヤ。赤城さん、それならば板前ブラザーズがご馳

走してあげるニヤよ」

赤城「ほんとうですか!？」キラキラ

白雪「あ、ご、ごはんは後にしといたほうが…」

提督「遠慮せずに楽しんでくれ。アイルー達の作る飯はうまいぞ？」ニコニコ

白雪「…ほんと変わった鎮守府だな」ニヤニヤ

曙「…」ジーツ

潮「…」

提督「お？君たちがうちに来てくれる曙ちゃんと潮ちゃんだね？よろしくね」スツ

潮「ひっ…」ビクッ

曙「さわんな！クソ提督！」パーン！

提督「あ…すまない…見た目が怖かったのかな？」（…ω…）

曙「いいこと？潮とあたしにはさわらないでくれる！このクソ提督！」ギロリ

潮「ご…ごめんなさい…」ビクビク

提督「（…ω…）シヨボーン」

天龍「おい、あんまり提督を弄んなよ？見た感じちよつと抜けてるかもしれねえけど俺らを大事に思ってくれる提督なんだからよ？」ジロリ

提督「…抜けてるって」（…ω…）シヨボーン

アール「抜けてるってさww」m9（…ω…）プギャー

曙「ふん！そんなのあたしの勝手だし！」

龍田「提督、曙ちゃんはツンツンしている子だから慣れて親しむのが一番よ？」ナデ

ナデ

提督「うん、頑張る」（…ω…）シャキーン

深雪&白雪（面白い提督だ…）

提督室

ジン 「…これでよしと。」書類をファイルに入れる

瑞鶴 「あれ？ジンさんなにやってるの？」

ジン 「…明日の準備だ。本当は提督がやんなきゃいけないんだがな」

瑞鶴 「明日？」

ジン 「…提督とベルは会議と報告をしに大本営へ行く。その準備だ」

瑞鶴 「わざわざ遠くまで行ってなんの報告するの？」

ジン 「…秘密」 bグッ

⑮ 大本営へGO

夕飯

提督「いやー…赤城さんよく食べてたね」

ベル「大食いのチャンピオンだよ。ドンドルマの大食い大会に連れて行きたいぐらいだ」

赤城「す、すみません。アイルーさん達が作る御飯がとても美味しくて、つい…」
レテレ

ヨモギ「…燃え尽きたニヤ」マツシロ

マシロ「こんなに動いたの…老山龍が攻めてきた時以来ニヤ」マツシロ
サクラ「…も、もう動けないニヤ…」マツシロニモエツキタゼ…

金剛「猫さんたち、真つ白に燃え尽きてマス…」

時雨「板前さん、猛奮闘したもんね…」

深雪「米櫃のお米がなくなったときの顔が…かわいそうだったな…」

アール「チーン」

阿武隈「あ、アールさん!?大丈夫ですか!」アワワ

天龍「で、なんでアールさんは倒れてんだ？」

磯風「私を作った卵焼きを美味しそうに食べてくれたんだ」ニコニコ

龍驤「アールさんは犠牲になったんや…卵焼きのな」

球磨「ご愁傷さまクマ…」

那智「提督、どうだ？一献飲まないか？」つお酒

足柄「どんどん飲むわよー！」ほろ酔い

提督「おお、これはいただこうか」

ジン「…明日に響くからやめとけ」

提督「あ、そうだった。…皆に言うの忘れてたぜ」テヘペロ

初霜「？明日になにかあるんですか？」

提督「申し訳ない。明日にベルと大本營へ行く用事ができたんだ」

ベル「大本營の重鎮クラスの提督さん達に重要な書類の提出と報告があるからね」

長門「どのくらいかかるんだ？」

ベル「んー…3日には戻れるかな？」

加古「結構遠くまであるんだねー」

提督「少し開けることになる。すまないな」

霞「…重要な報告なら仕方ないわね」

天龍「全然大丈夫だぜ。心配しないで行ってきなよ」

長波「まだジンさんとアールさんがいるんだし心配いらないぜ！」

五十鈴「そのアールさんは今倒れてるんだけどね……」

瑞鶴「……こんな感じだし、気にしないでいってらっしゃい」

提督「ああ。みんな、ありがとう」

曙「……」

五月雨「あ、あの、提督！」

提督「ん？どうした？」

五月雨「わ、私も……秘書官として、い、一緒に行ってもいいですか？」

提督「ん……」

ベル「いいんじゃないか？こういうのも悪くはないと思うし」

提督「……よし、五月雨。一緒に行くか？」

五月雨「は、はい！」キラキラ

翌朝

提督「とはいったものの……」チラッ

金剛「てーとくう……3日ほど会えなくなるのは寂しいデース……」ウルウル

提督「金剛が抱き着いて離れないんですけど……」

川内「ほら、金剛さん。提督は出発できないよ?」

龍田「3日待ったら提督と好きなだけハグできるからね」

高雄「金剛さん、少しの辛抱ですから…」

金剛「うゝ…私も行きたかったデース」シブシブ

ベル「忘れ物はないかい?」

五月雨「はい!ばっちりです!」

雷「司令官!いつてらっしゃい!」ノシ

雪風「お土産!期待してます!」ピシッ

皐月「がんばってお留守番してるからね!」ノシ

提督「おう!お土産も買ってくるからねー!」ノシ

ベル「それじゃあ行ってくるよー」

五月雨「私、頑張ってます!!」ノシ

艦娘一同「いつてらっしゃい!!」ノシ

提督室

ジン「…さて、留守の間は俺とアール口で指示をする」

霞「ひとまずは鎮守府近海の見回り、漁船の護衛、遠征を行えばいいわね」

明石「それと、提督から艦娘寮や運動場等の設備を整えてほしいと頼まれました」

ジン「…酒場を作りたい」

足柄「ok」b

那智「それはいいな！」

明石&霞「却下」

ジン&足柄&那智「(・ω・) ショボーン」

明石「…あれ？　そういうえばアーロさんは？」

足柄「そういうえばスキップしながら工廠へ向かったのを見かけたわね…」

明石「しまった！　阻止しなくては!!」　ダダダダ

霞「…3日の間大丈夫かしら…」

——時は進み、大本営、会議室

ベル「——ということ、以上が西方海域、南方海域の諸島に棲息する大型生物の生態報告です」

元帥「うむ…ご苦勞である。質問はないかね？」

女性提督「その『リオなんとか』や『チャナなんとか』といった生物は艦娘にも被害を及ぼすのかしら？」

提督「たいていは縄張りに入った時、生命に危険を及ぼすと判断した時ですね。ただ、

彼女たちを『餌』とみなして捕食をする種や『視界に映った』だけで攻撃する種もいますね」

シヨタ提督「ほ、捕食：!?!」ビクビク

男提督A「じゃあよ、ハンターさんたちがそいつらを駆逐すればいいんじゃないか?」
ベル「残念ながら我々ハンターは生物の殲滅を生業としていない。それに駆逐することも禁じられています」

提督「あくまで人間と自然の調和を図るのがハンターの仕事ですから。艦娘に被害が及ばないよう最善は尽くすつもりです」

壮年提督「自然との調和：か。」

男提督A「ハンターができなきや艦娘にやらせればいい! 深海棲艦も棲鬼も水鬼も倒せるあいつらなら殲滅できるからな!」

提督「：お言葉ですが。それは無理でしょう」

男提督A「んだとお!?!」

提督「彼らは人間にとって自然の恵みであるとともに脅威でもあるのです。：自然の脅威は人智を超える力を持っています。深海棲艦同様、甘くは見てはいけません。」

男提督B「聞くけど貴方は深海棲艦をどう思うのかい?」

提督「一ハンターとしての意見ではありますが、深海棲艦も『自然』から生まれたもの、

ただただそれが人間にとつて脅威と感じてしまったものと考えております」

壮年提督「…彼奴らも自然と調和できる、というわけか？」

提督「ええ…私はそう感じています。」

元帥「そうか…では次の報告だ。製油所地帯沿岸に出現した『水竜』撃退成功の報告をしてくれたまえ」

——会議は進み…

提督「えー『水竜』は高水圧の水のプレスが危険ですが、特に巨躯な身体を活かして全体重をかけたタツクルが…」

男提督A「な、なあ。絵での解説はわかりにくいんだが…」

女性提督「なんかこう…実物が見れたらいいわね」

ベル「そうですね…では剥製にした部位がありますのでこちらをご覧ください」

ゴトツ

提督「こちら『水竜のお頭』です。小サイズの個体ですが牙には相手を眠らせる…」

男性提督A「ちよ、でか!?グロ!?!」(；。㊦。㊦)

シヨタ提督「」気絶

女性提督「う、海にはこんなのがいるの!?!」(川。㊦。㊦)

提督「…あ、やっぱだめですか？」

元帥「…うん、とりあえず報告はそこまでいいや」

男性提督B「ふむふむ、実に興味深い」ウムウム

壮年提督「…で、味は？」

⑩留守番の鎮守府、元帥からの依頼

casel『鬼ごっこ』

皐月「鬼さんこちら〜♪」タタタ

雷「こつちまでおいで〜♪」タタタ

深雪「ほらほら捕まえてみろ〜♪」タタタ

五十鈴「ん？駆逐艦の子たち楽しそうね」

高雄「提督がお戻りになるまでしばらく出撃はお休みですからね。」

龍驤「退屈しないように身体を動かすのはいいことや」ウンウン

アール「ははは！待て待て〜！やっぱ駆逐艦は最高だぜ〜!!」ドドドド

五十鈴「：：うん、龍驤、アールさんを捕まえようか」

龍驤「よっしゃ、任せとき」

高雄「あ、あははは：：」苦笑い

この後アーロは五十鈴と龍驤にめちやくちや怒られた

case 2 『お手伝いさん募集中』

ヨモギ 「赤城さんは強敵だったニヤ：と、言うわけでお手伝いさん募集中ニヤ」

時雨 「それで僕たちを呼んだんだね？」

龍田 「あの時は板前さんたちも大変だったわね」

マシロ 「簡単な作業ニヤ。お料理もできるならとつても助かるニヤ」

足柄 「任せて！おつまみとか作るのは得意なの！」フンス

時雨 「それなら僕もしぐれ煮とか作れるし頑張るよ」

龍田 「それじゃあ私も竜田揚げを作ろうかしらね」

サクラ 「おお！これは心強いニヤよ。」

磯風 「うむ、私も手伝ってもいいだろうか？」

ヨモギ 「たくさんいると僕たちも助かるニヤ！」

時雨 「磯風、大丈夫なの？」ソワソワ

磯風 「心配はない。卵焼きを作ってみたんだ。板前さん、味見をしてくれ」

ヨモギ 「どれどれ：」パク

マシロ 「緑色の卵焼きは珍しいニヤ」パク

サクラ「スパイシーでスイートな風味ニヤ」パク

【ヨモギが力尽きました】

【マシロが力尽きました】

【サクラが力尽きました】 【クエストに失敗しました】

磯風「…あれ？」

時雨「やっぱりだめだったよ…」ゴメンネ

この後、板前のお手伝いさんは時雨、龍田、足柄に決まり、磯風は週一で板前ブラザーズに料理の指導を受けることとなった。

case 3 『港町のアイドル クマちゃん☆』

球磨「おおく、ここが港かクマ？美味しそうな魚が沢山クマ」キラキラ

川内「提督が言うには遠方からの貿易船も多々くるみたいだから毎日にぎわってるんだってさ」

漁師A「お、長門の姉御！今日も漁船の護衛ありがとうございます！ごさいやす！」

漁師B「押忍！可愛い艦娘の皆さんの為に美味しい魚用意していますぜ！」

長門「ああ、今日も新鮮な魚をよろしく頼む」

漁師C「！姉御、こちらのお嬢さんは…？」

長門「ああ、新しく鎮守府に来てくれた球磨だ」

球磨「よろしくクマ〜」ノシ

漁師D「…これをどうぞ」つロアルドロスのぬいぐるみ

球磨「クマ？かわいいクマね」ニコニコ

漁師A「…これもどうぞ」つサーモン

球磨「！クーマー、クマクマ♡」ニッコリ

漁師たち「か、かわいいー!!」ウオオオ

／＼キヤー、クマチャーン／＼オレ、クマチャンのファンにナリマス！／＼ワラッテー

！／

長門「…新たなライバル出現だと？」

川内「ち、違うと思いますよ？」

この日、港町のチャンピオンに続いて港町のアイドルが爆誕した

case 4 『チコ村の元臆病なオトモアイルー』

in 廊下

潮「…」うつむき加減

阿武隈「あ、潮ちゃん！」ノ

潮「！」ビクッ

天龍「どうした？元気がないぞ？」

潮「ご、ごめんなさーい!!」タタタツ

阿武隈「潮ちゃん…人に会うたびにびっくりして逃げちやうみたい…」

天龍「…どうしたんだろうな？」

——中庭の隅

潮「…はあ。また逃げちやつた…」

——駆逐にしては…いい体じゃないか——

——大破しているから入渠させてくれと？…じっくり見せろよ——

潮「っ！…私、どうしたらいいの…」グスツグスツ

??「どうかしたのかニヤ？元気を出すニヤ」

潮「うひやああっ!」ビックリ

??「わわわ!?!ごめんニヤ。驚かすつもりはないニヤ」

潮「あ、猫さん…えつと…」

ニコ「ボクはチョコ村出身のニコっていうニヤ。みんなから『元臆病なオトモアイルー』って呼ばれてるニヤ」

潮「も、元臆病？」クビカシゲ

ニコ「これを食べて元気を出すニヤ」つ熱帯イチゴ

潮「あ、ありがとうございます…！おいしい！」モグモグ

ニコ「何か困っていることがあるのかニヤ？良ければボクが相談に乗るニヤ」

潮「…あ、あの…」

曙「潮！探したわよ！」タタタタ

潮「あ、曙ちゃん」

曙「このクソねこ！潮に変な事してないわよね？」ギロリ

ニコ「大丈夫ニヤ。何か困り事がありそうで相談に乗ってたところニヤ」ニコニコ

曙「！ふんっ、余計なお世話よ。ほら潮、戻るわよ？」グイッ

潮「あっ…えと、ニコさん、また今度で…」ノシ

ニコ「いつでも待ってるニヤー」ノシ

case5 『弓はそうじゃない』

in 空母練習場

瑞鶴「…」弓を引いて狙いを定める

キンッ

シュバツ!

的へど真ん中を貫いたぜ!

ジン「…慣れてきたじゃないか」ウンウン

瑞鶴「どう?貫通弓はやつと一段目が撃てるようになったのよ?」ニコツリ

赤城「あ、あのー…貫通つて…」ポカーン

瑞鶴「ジンさんが教えてくれたおかげで艦載機がより速く飛べるようになったんです
!」

ジン「…まだまだ伸びしろはある。」

赤城「ジンさんも弓が得意なんですか?」

ジン「…新米だった頃は使っていた。どれ、赤城の弓は…」キンツキンツキンツ!

赤城「ジンさん、腕が光ってますよ!」

シュバツ

的へ一度に4つの弓矢だと!?

シュバツ!

的へまた2回目もあるのかよ!?

赤城「」

ジン「…赤城の弓は連射か。クリティカル距離を掴めばうまくいける」

瑞鶴「2回目の動作は『剛射』っていうんです。私もはやくできるようにしたいな」

赤城「ゆ、弓ってそうじゃないのでは…」

——大本営——

元帥「わざわざ遠くまで来てくれてすまないな…」

提督「いいえ構いませんよ。こうやって大型種について教えることができて光栄です」

ベル「少しでも他の鎮守府の艦娘や提督達のためになれたらいいですよ」

元帥「…君たちハンターと初めて出会った『アイアンボトムサウンド』の『緊急任務・G級作戦』以来、自然の脅威を知ることができた。あの作戦では君たちのおかげで多くの艦娘を失わずにすんだのだからね」

提督「…特に『古龍』と呼ばれる種は危険です。彼らが持つ超越した力や想像を遥かに超える巨体は時に災厄とも呼ばれます」

元帥「だからこそ、私たちはもつと知らなければならぬようだ。」うなずき

提督「…ところで、他にも私たちを呼んだ理由があると聞きしました。」

元帥「ああ…実は南西諸島海域のバシー半島、東部オリョール海付近で奇妙なことが

あつてね」

ベル「奇妙なことですか？」

元帥「バシー半島付近の海域で空母が飛ばした艦載機が行方不明になったこと、オリョール海域で出撃中の潜水艦の艦娘が謎の襲撃を受けたと報告があつた」

提督「それはどういう状況でしょうか？」

元帥「バシーの方は行方不明になつた艦載機が最後に映した映像がどれも突然『大きな緑の蛍光色の爪とステンドグラスのような翼を持つなにか』に追われているものばかりなのだ。『紫電』や『晴嵐』を失つた多くの提督が嘆いている。オリョールでは潜水艦の子が襲われて大破、轟沈をしかける事態になつた。なんとか帰投できた彼女たちの目撃情報によると『大きな生物が電気を放電したり、吐いたりしてきた』とのことだ」

提督「…」

元帥「しばらくの間、全鎮守府に南西諸島海域の出撃を控えるよう知らせている。すまないが調べてきてほしい。危険な種であれば撃退をお願いする。彼女たち艦娘を守ってくれ。」

提督「…わかりました。その任務、受けましょう」

—— 大本営、控室

五月雨「ウトウト」

提督「五月雨、終わったよ♪」

五月雨「ふえ？…あつ！お、お疲れ様です！」

ベル「ごめんね随分と待たせちゃって」

五月雨「いえいえ！お疲れ様です！」

提督「それじゃあ、下町に行ってお土産を買って帰ろう！」

● 出航

ウイル「こ、この子はヲ級ちゃんていうのな」

ホツポ「空母ヲ級ダカラヲ級チャン！」

ヲ級「ヲツ!!」ビシッ

ウイル「てか頭に着けてるのは？」

ワル雨「艦娘デイウ艤装デス」

ヲ級「ヲオ？」（・：・：・）ドヤ？

ウイル「：：おっ」（^ω^）／

ヲ級「ヲ!？」（ω，ω）!?

ウイル「おっ、おっ、おっ」（^ω^）おっ

ヲ級「ヲ！ヲツヲツ！」（*，▽，▽）

ウイル「おっ、おっおっ！」おっ（^ω^）三（^ω^）おっ

レ級「ヲ級ガ言ツテルノガワカルノカ？」

ウイル「わからん！」キツパリ

レ級&ワル雨「ズコーッ

ウイル「…で、この子はなんて言ってるの？」

ワル雨「エエト…艦娘トノ激戦ノ末、何トカ休戦ニハ持チ込ンダヨウデス。棲鬼ヤ水鬼ノ皆サンハ安全ナ島ヘ行キ、傷ヲ癒シテカラ迎イニ来ルソウデス」

ホツポ「お姉ちゃん達ハ!？」

ヲ級「ヲ…ヲッ!」(＋――＋)

ワル雨「港湾棲姫サント飛行場姫サンハ大丈夫ダソウデスヨ。でも、戦艦棲姫サンガ大怪我ヲシテイルミタイデ暫ク移動デキナイソウデス」

ホツポ「ソウナンダ…」

ヲ級「ヲ!」(、◇、)ゞ

ワル雨「デモ心配シナイデ待ツテイテトノコトデス!」

ウイル「一文字だけでこんな情報量なのはつつこんでいいのかな？」

レ級「…気ニシタラダメ」

ホツポ「…」シヨンボリ

ウイル「…ホツポ、こんな時に聞くのは野暮と思うが…昨日一緒に冒険したいっていったことでさ」

ホツポ「?ドウカシタノ?」クビカシゲ

ウイル「実のところ…本当はどうなんだ?冒険をしたいのか、お姉ちゃんに会いたい

か

ホッポ「…私、お姉チャンニ会イタイ！デモ…ウイルト冒険モシタイ！」

ワル雨「ホッポチャン…」

ホッポ「ウイルハ教エテクレタ！世界ニハホッポ達、深海棲艦ガ知ラナイ物ガイツパイ！ソレニ、コノ『レップー』ヲ見ツケタイ！」

ウイル「そうだな…でも、一度に二つをこなすのは無理だ」

ホッポ「ソナナ…」シヨンボリ

ウイル「そこで、一つ提案がある。『一緒に冒険しながらお姉ちゃんに会いに行く』ってはどうだ？」

ホッポ「!!」

ウイル「二つができないならそれらを一つにすればいい。冒険者には柔らかい考えも大事さ。…ダメかな？」

ホッポ「ウイル、一緒ニ冒険スル！お姉チャンニ会イニ行ク!!」ダキツ

ウイル「そうこなくっちゃな！ホッポが見たれつぶも気になるし、お前のお姉さんにも会ってみたいんだ」

レ級「…トイウケデヲ級、艦載機ヲ飛バシテ伝エテクレ」

ヲ「ヲツ」ピシツ（ωゝゞ

数分後

ホツポ「鞆ヨシ、艤装ヨシ：『レツプー』のカケラ、ヨシ！」

ワル雨「ホツポちゃん、ヤル気満々だね」ニコニコ

レ級「ソウイウワル雨ダツテウイルト一緒ニイレテ嬉シインダロ？」ニヤニヤ

ワル雨「レ、レ級ちゃん!!／／／」プンスカ

ヲ「ヲ?」(・ω・?)

ウイル「さて…ホツポ、この『れつぷー』がどこへ飛んでいったかわかるか？」

ホツポ「エート…タブンアツチ！」

ウイル「うむ…南方か」

ワル雨「偶然ニモ棲姫や水鬼ノミンナガイル方角デスネ！」

レ級「…トコロゴデ、私達ハ海上ヤ海中ヲ自由ニ駆ケレルケド、ウイルハドウスルンダ

？」

ウイル「」(。D。、)

レ級「ヤツパ考エテナカツタカ…」ニガワライ

ウイル「船は造るのに時間掛かるんだよなあ…筏は、すぐに壊されるもんな…」遠い

目

ホツポ「心配ハナイヨ！私ニ任セテ！オーイ！」ノシ

駆逐イ級「キュー！」海からこんにちは！

ウイル「おお！こいつは可愛いな」ナデナデ

ホツポ「後期型ダカラ丈夫デ強い！」ドヤア

ウイル「お前にも名前がいるな…よし今日からお前は『サシミ』だ！」

サシミ「キュキュー！」（ω^ω）

レ級「…ネーミングセンス悪いナ…」

ウイル「よっこらせつと」サシミにライドオン

ホツポ「準備ハイイ？」

ワル雨「イヨイヨ出発デスネ！」

レ級「私ハ早クコノ島カラ出タイ…」

ヲ級「ヲっ」（O^O）ノ

ウイル「羅針盤が残っててよかった…それじゃあ出発だ！」

ホツポ「オーっ!!」フンス

レ級「フリー、ヤット化け物ノ島トオサラバダヨ」

ワル雨「見たコトノナイ生き物ガイッパイダツタネ！」

ウイル「…ハチミツはなかつたけどな」ホロリ

レ級「空母ヲ級ニ駆逐棲姫、北方棲姫ト戦艦レ級、ついでにウイル…艦娘ニ遭遇シテモ何トカナリソウダ！」ニシシ

ホッポ「ウイル、海ニモデツカイノハイルノ？」

ウイル「もちろん。海にも危険な奴がいるさ。例えば…ガノトトスっていうでかいやつがいてな…」

ヲ級「ヲ？」（・ω・？）

ワル雨「ドンナ生き物ナンデスカ？」

ウイル「見た感じ足の生えた魚かな。えーと…」

ホッポ「アンナ感じ？」指さす

ガノトトス亜種「（皿）？」

ウイル「そーそー！緑色は亜種…って、え？」

レ級「」

ワル雨「」

ヲ級「(。D。、)

ガノトトス亜種「(、皿、#)三」

レ級「ヤバイ! コツチニ来タ!!」

ウイル「逃げるー! サシミ、全速前進だ!」

サシミ「きゅ、キュー!」(；。D。)

ヲ級「ヲツヲ?!」Σ(。D。ーー)

ワル雨「トイウヨリ、アンナノモイルンデスカ!」

ホツポ「ウンウン、世界ハ広イナー」ウンウン

ウイル「はっはっは! まだまだ、不思議がいっぱいあるかな!」

レ級「呑気ニ笑ツテイル場合カー!?! モウデカイノハコリゴリダー!!」ウワーン

—— ウイルの冒険日記 —— ●月◇日 ——

ホツポが喜んでくれてよかった。お姉さんのところに向かいつつ、銀色の『れつぶー』の正体を探るべく冒険をする、一石二鳥だ。次の島まで海を渡るんだけど…イ級ことサシミの乗り心地はいいな! ついつい島のの上陸を忘れれしまいそうだ。それに、次の島にハチミツがあればいいんだけどなあ…。

ヲ級ちゃんという子は『ヲ』しか言えないのだろうか……『深海棲艦は恐ろしいぞ!』とレ級は言うけどもなかなかどうして怖いと感じない。彼女たちはどこからきたのか、もし聞くことができるのならば聞いてみよう

……そういえば、ホツポ達には聞いてなかったがああ島は台風でも通つたのだろうか？ ちらほら暴風でなぎ倒された場所があった。他にはそんな場所がなかったけども……うーん、暴風、ホツポが見つけた『れつぷー』のカケラ……うん、やっぱりどっかで見たことがあるぞ？ でも思い出せないなあ……

⑰雪風と初霜の昆虫記く女王虫編く

提督が鎮守府に戻る1日前

母港

ジン「…提督から電報がきた。どうやら飛竜種と海竜種が被害を及ぼしている可能性が高い」

アール「内容からして『あ、こいつにちげーねえ』って思うんだよな」

ジン「…俺はバシー島の調査に行くてる。」

アール「それなら俺がオリョールに行くてこようか？」

ジン「…いや、鎮守府に提督代理が誰もいなかったら大変だ。留守番を頼んだ」ノシ

アール「…つーことは、自由だ〜！」イヤッフー

in入渠

アール「…」

【女湯】 【男湯】

アール「まじか…できてたのな…」——?——〇

ミケ「安心するニヤ。中は職人さんに頼んでユクモみたいな露天風呂と足湯も作ったニヤ」

アール「いや待てよ。今は誰もいねえから…行けるっ!」

ε≡≡≡へ(、旦、)ノ【女湯】 【男湯】

アール「さあ入渠の中はどうなってるのかな?」

赤城「入渠中

球磨「入渠中

白雪「あ、アールさん!」入渠中

アール「…ゆ、ユクモじゃ混浴できたから間違えちゃったぜ☆」(。・ω<)ゞてへ
 ぺろ♡

ドドドドド

明石「だから、ユクモじゃないと言ってるでしょうがああああつ!!」ラリアット!

アール「ふべしっ!」(#)☒3、;;;)・;☒、

i n 運動場

アール「あいたたた：最近明石さんのパワーがやばいんだが。鍛えてんのな…」
雪風「アールさん！」ノシ

アール「どうした？なんだか慌ててるようだが？」

初霜「鎮守府の裏山から大きな虫をみつけたんです！」

雪風「一匹捕まえてみました！」つらんゴスタ

アール「ちょ、らんゴスタ!？」

初霜「蜂でしょうか？こんな大きな虫、初めて見ました」

雪風「裏山付近にまだいっぱいいました！」

アール「らんゴスタの群れか…このままだと鎮守府だけじゃなくて街にも被害が及ぶな。他の子達にも見せたのか？」

雪風「天龍さんに見せたら一目散に逃げちゃいました。」

初霜「長門さんにも見せたんですけど…気絶しちゃって…」

アール「やっぱ虫は苦手なのな…お前らは大丈夫か？」

雪風「はい！へっちゃらです！」ニコニコ

初霜「私も大丈夫ですよ？」

アール「他の子たちは遠征にも行ってるし人手は少ないが…黒丸と虫が苦手じゃなさそうな子呼んできてくれ」

初霜&雪風「はーい！」（〇〇）／
数分後

黒丸「ランゴスタの群れとか懐かしいニヤ」

アーロ「だろ？ぜってえでかいのがいるぜおい」ニヤニヤ

川内「今から何をするんですか？」

雪風「今から虫退治です！」ワクワク

龍驤「まさかあんなでっかい虫に砲撃でもするん？」

黒丸「ランゴスタの群れは鎮守府に降りてくるニヤ。あんなのが鎮守府に沢山いたら
嫌ニヤ」

加古「た、確かにいっぱいいたらキモイな…」

アーロ「砲撃しても構わんぜ？」

加古「え!? やつてもいいのか？」

アーロ「かつてランゴスタはガンナーの怨敵だったからな…」プンスカ

川内「ガンナー？」クビカシゲ

アーロ「訓練と思ってくればいい。あ、でも派手にやったら怒られるからな」

黒丸「それじゃあ雪風ちゃん達はオイラと一緒に虫退治ニヤ」

雪風「はーい！」

初霜「アーロさんは別行動ですか？」
 アーロ「ああ。俺は大元を叩く。てなわけでガンバレー」ノシ

裏山付近

加古「うわー、結構沢山とんでるなー」

黒丸「ランゴスタの針に気を付けるニヤ。刺されたら……」

ランゴスタ「(´ω´)っー」ブスリ

黒丸「アニヤニヤニヤニヤ」麻痺

川内「なるほど、そういうふうに痺れるのね」ナツトク

黒丸「ま、まずは毒煙玉を投げて煙を燻して退治するニヤ……」つ毒煙玉

雪風「了解です！」つ三〇ポイー

モアモアモア……

龍驤「ど、毒々しい煙やな……」ウゲエ

黒丸「毒性は低いニヤ。害虫駆除用として使われるニヤ」

ランゴスタの群れ「(×皿×)プーン……」

加古「おお！効果はてきめんじゃん！」

初霜「まだ残った虫がいますね」

川内「よし、それじゃあ輪形陣を組んで打ち落とすよ！」

10分後

龍驤「ふー、あらかた片付いたなー」

加古「訓練になったような気がするぜ」

川内「気がついたらきれいさっぱりいなくなりましたね」

黒丸「…うん、みんなありがとうニャー！あとはオイラが片づけるから皆は戻ってゆつくりしてニャー」

龍驤「OKや。またこのようのがあつたら任しとき！」

加古「それじゃあ…ひと眠りしよーっと」

雪風「初霜ちゃん、初霜ちゃん」ヒソヒソ

初霜「?どうしたの？」

雪風「このままアーロさんのところへ行ってお手伝いしましょう！」ヒソヒソ

初霜「そうね！アーロさんは一人でやってるし、手伝ったほうがいいかもね！」ヒソヒソ

——裏山山中

雪風「うーん…アーロさんはこの山の中に入っていったんですけど…」

初霜「かなり奥まできちやったわね…あ！アーロさんいましたよ！」

アール「…」

雪風「なんでしょう？何かを待っているようですね…」茂みから覗く

ブブブブブブ…

初霜「？大きな羽音が…」

アール「来たな。久々だぜ」つディアⅡへカテリア

クイーンランゴスタ「(皿 #)」ブブブ…

雪風「すごいです！とつても大きいです！」キラキラ

初霜「あんなに大きい虫…初めてみる！」

アール「そりゃあっ」つ三【閃光玉】

ピカーカーンッ

女王ランゴスタ「Σ(×皿×)」

アール「ひゃっはー！閃光ハメジャーい!!」ズバズバ

雪風「ううー、眩しいですー」アワワ

ランゴスタ「三(#、皿)「ブスリ

アール「うげっ、ランゴスター!」麻痺!

初霜「たいへん!アールさんがしびれてます!」

女王ランゴスタ「(皿、#)三」ブーン

雪風「!そうだ、この毒煙玉を…えーい!」つ三〇

初霜「ええ、ありったけ投げましょう!」つ三〇

モクモクモクモク…

ランゴスタの群れ「(×ω×)」ブーン

女王ランゴスタ「(;、皿)!!」

アール「ちよ、煙出すぎ…っておまえら!」

雪風「アールさん!頑張ってくださいーい!」ノシ

アール「…サンキュー!この隙に、属性解放斬りじやーい!!」ズバンツ!

女王ランゴスタ「Σ(×皿×)」【目的を達成しました】

アール「…うっし、討伐完了っ」と

雪風「アールさん、今のかっこよかったです!」

初霜「この大きな虫は…?」

アール「クイーンランゴスタって言ってな、こいつらの親玉だ。」

初霜「世の中にはこんな大きな生き物もいるんですね…」

アール「さてと…二人とも、これは提督達に内緒な?こんなのなら皆ビックリするしな」

雪風「私と初霜ちゃんとアールさんの秘密ですね!お任せください!」

初霜「皆さんには秘密にします。安心してください」

アール「お前らほんといい子だ!」ナデナデ

黒丸「…出遅れたニヤ…」

翌日

i n 執務室

金剛「てー！ー！ー！とくー！ー！ー！っ!!」提督にダイレクトアタック!!

提督「またかーっ!?」(#) ㊦、; ;)

金剛「3日も待ちくたびれましたヨー! さあ私と一緒に紅茶を飲みマシヨー!」グイ
グイ

霞「待ちなさいよ! 先に提督に報告が先!」

那智「いやいやまず先に提督の帰還に祝杯だ」つ酒

瑞鶴「酒が飲みたいだけでしょ!?! : 提督、おかえり!」ノ

提督「おう、ただいま。みんな元気でなによりだ」ウンウン

五月雨「皆さんにお土産もありますよー!」

皐月「やったー!」

雷「さすがは司令官ね!」

ベル「ジン、アール。留守番ありがとうね」

ジン「:留守番、楽しかった」(・:・:・) b

アール「これといったこともなかったし、何とかなったぜ!」

ベル「それはよかった」ウンウン

提督「ところでアール。今朝、雪風と初霜が嬉しそうに『ランゴスタの標本』と『女

王虫の冠殻』を見せてくれたんだけど、あれはどゆこと？」ジーツ
アロー「♪く（ε、；）ウーン…」視線を逸らす

⑱バーニングlove、オレチャマ登場ツチャ!

提督「よし…みんな待たせたな! いよいよ南西諸島海域へ出撃だ!」

金剛「提督! やつと私の出番デスね!」フンス

提督「おk、カムラン半島の出撃は…旗艦を磯風、潮、阿武隈、足柄、金剛、赤城の6名の編成で出撃する」

磯風「遂に来たか! 旗艦は任せてくれ!」

足柄「戦闘が…私を呼んでいる!」イヤツフー

阿武隈「ひえ、わ、私ですか…い、いけますけど」ソワソワ

赤城「一航戦の名にかけて、赤城奮闘して参ります!」ビシツ

潮「…」うつむき加減

提督「潮、大丈夫? いけるかい?」

潮「っ!」ビクッ

曙「!このクソ提督!!」、(#。皿。ノ)ノ「ゲシツ

提督「ふべしっ!」? (; ノ、皿、ノ)

曙「潮に変なことしようとしたでしょ!」ギロリ

提督「いやいや、これは失礼した…潮、気分が悪いのなら休んでもいいんだぞ？」

潮「あ、あの、私は大丈夫です…」

提督「そうか、でも無理はするんじゃないぞ？」

—— 出港 ——

提督「いつてらっしゃーい！」

金剛「提督ー！私の活躍に期待してください！」ノシ

霞「それじゃあ提督、私達は遠征に行くてくるわよ？」

提督「霞、任務のリストの中に観艦式つてのがあったんだがこれってなに？」

霞「観艦式つていうのは海軍艦艇による海上のパレードのことよ。鎮守府にとつても一大イベントのひとつでもあるわ」

提督「へー、ドンドルマの訓練兵のパレードみたいなものか…面白そうだな！」

霞「やりたいのなら、艦隊を多く迎え入れて、編成や訓練をしっかりとしないといけないわよ？」

提督「そっかー、頑張らねえとな！」

霞「それと…ベルさんとアークさんが船に乗って出たのをみたけど…提督達の仕事かしら?」

提督「機密事項だけど…南西諸島海域の調査だ。他鎮守府に被害が出ていてな、バシー、オリヨールには出撃を控えるよう伝わっている。交代で俺やジンも出る」

霞「そう…あまり無茶しないでよ?」

提督「霞はやっさしいな」ナデナデ

霞「ちよ、違うわよ!」テレテレ

長波「あの霞がデレてるだと…!?!」

五十鈴「明日は土砂降りね…!」

——カムラン半島

金剛「さあ!どんどん行きマスよ!!」フンスフンス

足柄「突撃よ!戦場が、勝利が呼んでいるわ!」フンスフンス

阿武隈「い、今まで溜まっていた鬱憤を払う勢いですね…」引き気味

磯風「さすがは戦艦に重巡の二人だ。意気揚々で輝いている！」

提督『二人の大活躍で順調だな！その意気で進撃してくれ』

金剛&足柄「ラジャーっ!!」(ハハッ)

潮「…」うつむき加減

赤城「潮ちゃん、どこか具合が悪いの？」

潮「あ、いえ…大丈夫です…」

ブーン!

艦載機へ敵艦発見ですぞ!

赤城「!敵艦隊を発見しました!戦艦一隻、空母、軽空母一隻、重巡一隻、駆逐二隻

です!」

金剛「私達の出番ですネ!皆さん、戦闘準備デース!

赤城「敵艦載機の爆撃!2時の方向!」

磯風「敵艦載機を打ち落としてつつ回避!」

足柄「全部打ち落としてやるわよー!」バンバン

阿武隈「ちよ、足柄さん、テンション上げすぎです!」アワワ

敵艦載機へ艦コレ3話ニシテヤルゼー!

ヒューン三三三●

金剛「Ha! 痛くもかゆくもないネ!」

赤城「反撃します! 一航戦の名にかけて!」艦載機発射!

ブーン

艦載機へ狙い撃つぜー!! ババババ

駆逐八級B「グワーっ!」critical! 撃沈!

軽空母又級「グワーっ!」critical! 撃沈!

重巡り級「アイエエ!? 艦載機ナンド!?」中破

阿武隈「…どつかの夜戦バカが聞いたら喜びそうな連中ね…」

戦艦ル級「ザツケンナ、コラー!」ドドーン!!

ヒューン…三三●

赤城「敵戦艦の主砲きます! 潮ちゃん、よけて!!」

潮「ひっ…」ビクッ

阿武隈「潮ちゃん!! きゃああつ!!」潮をかばって大破

潮「あ、阿武隈さん!?!」

阿武隈「うう…わ、私に構わず反撃を!」

足柄「おらー!!うちの阿武隈になにすんじやー!!」ドドーン!

駆逐ハ級A「アバーツ!?」撃沈!

金剛「counterをくらいなサーイ!!」ドドーン!

空母ヲ級「グワーっクリティカル!」critical!撃沈!

重巡リ級「スッゾオラー!」ドーン!

磯風「おっと、撃ち返しだ!!」小ダメージ、ドーン!

戦艦ル級「ザツケンナ、コラー!」小ダメージ

磯風「よし、雷撃戦開始だ!」魚雷発射!

足柄「逃がさないわよー!!」魚雷発射!

戦艦ル級「グワーっ!」小破

金剛「提督、夜戦突入の許可をくだサイ!」

提督『阿武隈、潮、大丈夫か!?』

阿武隈「わ、私はなんとか:」

潮「:」ガクブル

赤城「提督、二人は私が守ります。大丈夫ですから夜戦の許可を」

提督『:わかった。気を付けてくれ』

夜戦突入!

金剛「よし! 一気に finish にさせますよー!」ドドド

足柄「第二幕、いくわよー!」ドドド

磯風「赤城さん、二人をお願いします」

赤城「任せて!」

戦艦ル級「アイエエ!? 夜戦、ナンデ!?」ギョツ

金剛「バアアアニングウウウ: ラアアアブツ!!」全砲門、ファイア!

戦艦ル級「サヨナラッ!?」撃沈! 爆発四散!

磯風「残敵、掃射! 磯風に続け!」ドドーン!

重巡り級「アバーツ!?」critical! 撃沈!

金剛「Yes! 提督、敵艦隊撃破しまシタ!」

磯風「この海域のボスの撃破に成功したぞ」

提督『よかった: 皆ご苦勞! 阿武隈は戻ったらすぐに入渠して怪我の手当てをしてくれ』

阿武隈「はい: いたた、潮ちゃん大丈夫?」

潮「: : : ごめんなさい: : : 今の私には勇気がなくて: : :」ポロポロ

金剛「: : : 心配しなくて大丈夫デース。」ナデナデ

赤城「そうね。今は帰ることが大事よ。提督達も待つてますしね」ニコニコ
潮「…」グスツ

磯風「？足柄さん、どうかしましたか？」

足柄「あれは…艦娘ね。おーい！」ノシ

如月「…あら？もしかしてどこかの鎮守府の艦隊かしら？」

金剛「Yes！どうですか？私たちの鎮守府に…つて榛名!？」

榛名「金剛お姉さま！お会いできてよかったです！」

金剛「Oh、これはn i c e t i m i n g！一緒に私たちの鎮守府に来ませんか？」

如月「ええ、喜んで行きますわ？」

金剛「おK。私たちの提督はストロングでナイスガイよ！」

榛名「榛名、楽しみです！」

阿武隈「…たぶん、最初はビックリするわね」

母港

ジン「…ん？」

瑞鶴「ジンさんどうかしたの？…あれ？あんなところに小さな筏ってあったかしら

「？」

「??????」
「おお! 団長の話どうりツチャ! ジン殿、久しぶりツチャ!」
「綺麗なお嬢さんがいっぱい羨ましいンバ!」

瑞鶴「わつ?! なにこの小人!？」

ジン「…チャチャ、カヤンバ、久しぶりだな」

チャチャ「ジン殿は相変わらずの無愛想で安心したツチャ!」

瑞鶴「ジ、ジンさん。この小人は何んですか?」ジンの後ろに隠れて何う

ジン「奇面族のチャチャとカヤンバだ。」

カヤンバ「ワガハイ達はジン殿達と冒険した仲間ンバ!」

瑞鶴「世の中にはこんな不思議なのがいるのね…」

ジン「…ところでどうしてここに?」

チャチャ「そうだツチャ! オレチャマ、冒険のついでに提督になつた旦那さんに緊急事態を伝えにきたツチャ!」

ジン「…緊急事態?」

チャチャ「そうだツチャ! 見かけたんだツチャよ、道中にかなり凶暴なライゼク…ム

ゴゴっ!？」

ジン「…そのことは提督だけに伝えるんだ、いいな？」チャチャの口を押える
カヤンバ「了解ンバ!…ところで他にもこんな可愛い子はいらんンバか？」

ジン「…後だ。ほら、行くぞ」スタスタ

瑞鶴「…ライゼク?なんのことかしら?」クビカシゲ

⑱明日の作戦、ベル落ち込む

i n 執務室

提督「チャチャ！カヤンバ！久しぶりだな！」

チャチャ「おお、久しぶりッチャ！今は提督ッチャか？元気にしていたッチャ？」ノ

シ

カヤンバ「ワガハイ達も絶賛冒険中ンバ！」ノシ

提督「よし、再会の祝いだ。さっそくあれやってみるか！」

チャチャ「やるッチャ！久々のダンスッチャ！」

数分後

金剛「ヘーイ！提督ー！ただいま帰投しまシター！！」

ドンドコドンドコ♪「(〒)(ム)(ハ)(エ)(ム)(ム)(W)ドンドコドンド

コ

金剛「」

提督「あ、金剛おかえり！」

金剛「て、提督。何をしているんです？それにこのsmallな客人は？」

カヤンバ「なんと綺麗なお嬢さんバ！鎮守府って可愛い女の子ばかりンバ？」
「(T

)」♪ドンドコ

チャチャ「さあ一緒に踊るツチャ！」♪「(W)」♪ドンドコ

金剛「えと、提督：」チラッ

提督「彼らにとってこれは親睦の印だ。一緒に踊ろう！」ニッコリ

金剛「Yes！ていとくー♡」

数分後

龍驤「はーい遠征から帰ったでー！」ノシ

ドンドコドンドコ♪「(T)」♪「(^ ω ^)」♪「(^ ω ^)」♪「(W)

」♪ドンドコドンドコ

龍驤「あんたらなにしとんねん!」Σ(？口？！ー！)

——やかましいと龍驤に怒られました——

榛名「高速戦艦、榛名です。貴方が提督ですね？よろしくお願いします！」ペコリ

提督「金剛の妹なんだね。いやーちよいと抜けてる提督だけでもよろしくな！」

霞「提督、鼻が伸びてるわよ」ジロリ

提督「うえ!?そ、そのようなこと、あろうはずがございません」アタフタ

龍驤「最初はびっくりしやろー？こんなごつい鎧きた人が提督だなんてさー」ニヤニヤ

榛名「はい。最初は驚きまいしたけども、素敵な提督でよかったです」ニツコリ

霞「榛名さん、それ以上提督を褒めたら照れまくるから」

如月「ポカーン

アール「…ふつくしい」

如月「え？あつと…」アタフタ

アール「心配せずとも大丈夫！このアール様がノウハウを教えて進ぜましょう！」

龍田「駆逐艦の子にちよつかいを出す悪い子はどこかしら〜？」ウッフ

アール「ヒエツ」ε≡≡へ（；・皿、）ノ

皐月「如月姉さん、びっくりしたでしょ？アールさんは取って食わない人だから大丈夫

夫だよ！」

如月「色々と驚いてるわよ…でも悪くはないわね」

金剛「これが紅茶デース！」つじ

チャチャ「いい香りツチャ…熱いツチャ!？」

カヤンバ「スーパージェット奇面族たるものこの紅茶もたしなむのも余裕ンバ」

如月「…早く慣れなきやね」遠い目

i n 中庭

黒丸「ん？オイラの武勇伝かニヤ？」

磯風「うむ、五月雨や長波から黒丸の武勇伝を聞いて、私も興味を持ったのだ」

深雪「あたしは提督達の冒険譚も聞きたいなー！」

五月雨「黒丸さん！もつと教えてください！」

黒丸「ううむ…どうしようかニヤ…」

初雪「ん…マタタビあるよ？」つマタタビ

黒丸「のつたニヤ！さあさあ駆逐艦の子達、遠からん子は音に聞くニヤ！近くの子は目にも見るニヤ！」

長波「おつ！今日も黒丸の武勇伝が聞けるのか！」

時雨「今日はどんなお話かな？」

黒丸「そうだニヤ…今日は旦那さんと見た『熱帯の湖に潜む巨大チヨウチンアンコウ』の話をするニヤ」

／オオー！／

曙「…ふん、ウソばかり。そんなでつかい生き物なんているわけないわよ」

長門「…駆逐艦の子とアイル…羨ましい！」—ド。ヒヨッコリ

i n 艦娘寮 テラス

潮「はあ…」うつむき加減

ニコ「やあ潮ちゃん、元気がないニヤ？」

潮「あ…ニコさん…」

ニコ「何か困ったことがあるのかニヤ？よければ相談に乗るニヤ」

潮「…キヨロキヨロ

ニコ「？」

潮「…実は、私…あることがきつかけで提督達と話すことも出撃することも怖いんです」

ニコ「そういえば潮ちゃんと曙ちゃんは別の鎮守府から来たって聞いたニヤ。何かあったのかニヤ？」

潮「…」コクリ

i n 工廠

瑞鶴「さーて、今日もデイリーの開発をやっておきますか！…ん？あれはジンさんと

明石さんだ」

ジン「…明石さん、頼んでいたものはできた？」

明石「はい…でもこれでいいんですか？」つレプリカ艦載機

瑞鶴「？レプリカの艦載機？何につかうんだろ？」—ㄩ。ㄿ）チラツ

ジン「遠隔操作…操虫棍の感覚でできるな」

明石「怪我には気をつけてくださいよ？知らないところでも艦娘の子たちは提督達のことを気にしているんですから」

ジン「…大丈夫だ、問題ない」(・：：：) b

明石「…それが心配ですってば」

瑞鶴「…？」

i n 母港

ベル「へー、チャチャとカヤンバが来てたのかい」

天龍「ベルさんの故郷から来たって聞いたんだけどどんなとこなんだ？」

ベル「…海がきれいで、港町、でっかいお魚、でっかい生き物いっぱい」

天龍「…なんだらう。なんとなく想像できそう」

ベル「そっかー…タンジアの受付の子たちは元氣かなー…」

天龍「お、そんなに気になる子でもいんのか？」ニヤニヤ

ベル「めちゃんこかわいい」キツパリ

天龍「お、おう…」

ベル「セーラー服がさ、とーっっても似合う子でさ！笑顔が可愛いんだよねー！」キラキラ

天龍「…もしかしてベルさんはセーラー服が好きなのか？」

ベル「その通り!!」(・・・∇・・・) b!!

天龍「お、おう…(まだここにはいないが木曾とか好きそうだな…)」

チャチャ「おおー！ベル殿！久しぶりッチャ！」

ベル「チャチャ、カヤンバ！元気にしてたか？」

カヤンバ「タンジアのみんなも元気ンバ！あ、そういえばお知らせがあるンバ」

ベル「ん？お知らせ？」

カヤンバ「タンジアの受付のキャシーちゃん、結婚したンバ」

ベル「(。D。D。)

チャチャ「モガの村長の息子さんと仲良くなってゴールインしたッチャ」

ベル「(ノD、)

天龍「べ、ベルさん？」

ベル「そおおいっ!!」ε≡≡へ(・、)ノ 海へドボーン!!
 天龍「べ、ベルさーん!」(；。、)。

――夜、執務室――

提督「つてわけでベルは物凄く落ち込んでいるので天龍が付き添いで来てくれたと」

天龍「あ、ああ。会議があるのにこれじゃあなあ…」チラツ

ベル「」イイモン… ρ(；エ；、○) イヂイヂ

チャチャ「ベル殿、元気を出すツチャ」

カヤンバ「冒険者故、仕方ないことンバ」

アール「m9(～)プギヤー」

ジン「天龍もいるし、明日の作戦について話すか」

提督「ああ、ちようどいい。」

天龍「?明日の作戦?」

提督「次のバシー島沖の出撃の件でな、実は緊急事態で全鎮守府が出撃を控えるよう

伝わっている」

天龍「え? そうだったのか? 掲示板には書かれてなかったけど…」

アール「ハンターの俺らがいるつてことうちらだけ出撃許可があんだとさ」

天龍「…もしかして提督達が出なきやいけねえ奴がいんのか？」

提督「ああ、艦娘が出撃して勝利しつつ、同時に俺らがそいつを抑えるっていう感じだ」

天龍「…つーことは早い機動できる水雷戦隊の編成出撃ってところか」

ジン「…明日は俺と提督が先に出る。」

提督「無理をさせるようですまない。天龍、頼めるか？」

天龍「何水臭いこと言ってるんだよ、俺らの提督だろ？任せとけて」ニシシ

チャチャ「おお！さすがは姉御ツチャ！太っ腹ツチャ！」

天龍「姉御って、照れるな…」エへへ

ジン「…太っ腹というよりデカツちちでは？」

天龍「やかましいわ！」ワーワー

ベル「（m、p、）mグスン

②0 バシー島攻略、『電竜』ライゼクス

i n バシー島沖

天龍「さあお前ら、ぶっ飛ばしていくぜー!!」ドドド

皐月「天龍さん、気合入ってるねー」

雷「おかげでどんどん進んでるわ!」

雪風「なんでもスピード撃破を目指しているぞうですよ!」

深雪「なるほどー、俄然ヤル気が出てきたぜ!」

瑞鶴「…」

——明朝、母港にて

提督「そんじゃあ先に行ってくる」

天龍「ああ。提督、ジンさん、気を付けてな」

ジン「…旗艦、頼んだ」

天龍「おうよ!任せとけ!」

提督「それじゃ行ってきまーす!」ノシ

天龍「がんばれよー！」ノシ

瑞鶴「…ねえ天龍、提督さんたちどこへ出かけたの？」

天龍「あ、瑞鶴か。えーとちよ、ちよつとな」アセアセ

瑞鶴「ふーん…アイルーさん達から聞いたんだけど、近頃提督さんやジンさん達はバシー島やオリョールに行き来してるみたいだけど？」ジーン

天龍「え？あ、ああ。せ、生態調査だつてさ！」（アイルー達ちよろすぎだろ!?!）

瑞鶴「ふーん…」

—— バシー島沿岸海域

提督「うーん、見つかったか？」

ジン「いや…わからんな」レプリカ艦載機捜査中

三三三（二二二（ωω）二二）

ブーン

ブーン

提督「…てかあの艦載機じゃダメじゃね？」

ジン「んなばかな」

ギヤオオオオオツ!!

ジン「…！きたぞ！」

提督「マジで!?どこどこ!」

三三(＃、皿) 三三三三三三三三三三(、ω、)二二

提督「マジできた!」

ジン「間違いない、『電竜』ライゼクスだ」

ライゼクス「ゴラアアアアア!!!、《＃、皿》ノゴラアアアアア!!!」

ジン「…やけに凶暴すぎないか?」

提督「おそらく艦載機を餌と間違えて食べてお腹を壊して機嫌を物凄く損ねている」

ジン「…どうする?」

提督「…ギルドには連絡している。捕獲してギルドに遠い所へ移してもらおう」

ライゼクス「(、皿、＃)三三三」

提督「やばッ!こっちに来た!」

ジン「沿岸におびき寄せて戦うぞ!」小舟の舵を取る

——バシー島沖——

天龍「よし、ボス艦隊のどこまで来たぞ!」

瑞鶴「天龍、先頭に立って撃ちまくっているけど残弾の方は大丈夫なの?」

天龍「心配すんなって、もし弾切れの時は斬りこむからよ」

瑞鶴（何を焦っているのかしら…？）

艦載機へ敵艦発見ダヨー！

瑞鶴「ん！どうやら敵艦が見えたようね！」

雷「瑞鶴さん、先制頼みます！」

瑞鶴「OK、任せてちょうだい！」艦載機発射！

ブーン

艦載機へトラン Ом！ ババババ

軽巡へ級A「ヒデブツ！」撃沈！

駆逐二級B「アベシツ！」撃沈！

天龍「…気のせいか艦載機がやけに速く飛んでねえか？」

瑞鶴「えっへん、貫通弓の恩恵ね！」（・・・∇・∇）エッヘン！！

重巡り級A「ジョイヤーツ！」ドーン！

阜月「うひやあっ?! い、痛いじゃないかー！」中破

深雪「こんのっ！深雪スペシャルをくらえーっ！」ドーン！

重巡り級B「ナニイ？キコエンナア？」小ダメージ

天龍「これならどうだっ！」ドドン！

重巡り級B「アロツ!? ナ、ナカナカヤルナ…」critical! 大破

軽巡へ級B「オレノナライツテミロー！」ドーン！

瑞鶴「おっと、知らないわよ！」艦載機発射！

重巡り級A「サラダバー！」critical！撃沈！

雷「雷の出番ね、見てなさい！」ドーン！

駆逐二級B「ウワラバツ！」撃沈！

皐月「ぼ、僕だつてやつてやるー！」ドーン

軽巡へ級B「ジャギギギツ」小破

雪風「雪風も撃ちます！」ドーン！

軽巡へ級B「タワバツ！」critical！撃沈！

天龍「よし、雷撃だ！いくぜーっ!!」魚雷発射！

深雪&雪風&雷「おーっ！」魚雷発射！

重巡り級A「ワガシヨウガイニイツペンノクイナシー！」撃沈！

瑞鶴「…敵艦隊全滅、S勝利ね！」

皐月「やったー！」

天龍「うっし。大淀さんこっちは片付いたぜー」

大淀『天龍さん、ご苦労様です。それでは気を付けて帰投してください』

アール『とりあえず、提督とジンが頑張つてから今のうちに急いで帰投してくれ』

天龍「了解。それじゃあ急いで帰るか！」

雷「そうね、帰りましょうか！」

皐月「うん、死ぬかと思っただよー！」

雪風「おや？あれは…おーい！」ノシ

響「…ん？雷？」

青葉「おやおや？もしかして艦隊の方々ですわね！」

不知火「これは助かります」

那珂「やったー☆これで鎮守府でデビューできる！」キラッ

深雪「そうだぜ！面白い鎮守府だから一緒に来ないか？」

青葉「喜んで！ぜひ皆さんの鎮守府を取材させてください！」

響「ハラショー」ウンウン

皐月「そうとなれば一緒に帰ろうか！」

那珂「ふー、これで安心してできるー☆道中奇妙なことがあって怖かったからね☆」

瑞鶴「奇妙な事？」

不知火「道中、晴れているのにカミナリの音と大きな生物の雄叫びを聞きました」

青葉「それに、赤い鎧の人と狼っぽい鎧を着た人が船をこいでいるのを遠くで見かけ

ましたね」

天龍「!!そ、そいつらはどこへ行ったかわかるか!」

青葉「それでしたら向こうに見える島のあたりに…」

天龍「瑞鶴、わりい!ちよつと先に行つててくれ!」

瑞鶴「ちよ、どこに行くのよ!」

天龍「提督達を見に行つてくる!すぐ戻るからよ!」ドドド

那珂「え?あの人達つて提督なの!」

深雪「たぶんそうだと思うけど、なんでいんのかな?」クビカシゲ

瑞鶴「…:ねえ雷ちゃん、ちよつと頼めるかしら?」

どっかの島の沿岸

天龍「提督達の船も見かけたしこのあたり…」キヨロキヨロ

提督「もっと遠くにおびき寄せるぞ!走れ走れ!」C || C || C ||
 「(; . ω .)

└

ジン「こつちだ!」C || C || C ||
 「(; . ω .)└

天龍「お、いた!おーいていと…」

ライゼクス「三三(＃、皿)つ」ドドドドド

天龍「(皿) ? ?

ジン「: : : : :ここでやるぞ!」つ南蛮太刀

提督「おう! 荷電状態だから気を付けろよ!」つ輝王剣リオレウス

ライゼクス「(＃、皿)つ」爪攻撃

提督「あぶねっ!」ジャスト回避

ジン「ナイス回避」

ライゼクス「(皿、＃)つ三三三〇」尻尾からのカミナリビーム

提督「あばーっ!?!」(、ω。)...ガッ

ジン「: : : : :斬る!」気刃斬り

ライゼクス「(皿、＃)!!」カウンターで爪攻撃

ジン「: : : : :ぬうっ: :」太刀で受け止める

提督「よっし! 俺の溜め切りをくらえーっ!」

ライゼクス「Σ(皿、;)」尻尾切断

ジン「ごり押しだ!」大回転気刃斬り

ライゼクス「(×皿、;)」角破壊

ジン「今のうちに落とし穴を！」

提督「おK！こつちに仕掛けたぞ！このままこつちへ…」 つ【落とし穴】

ライゼクス「C（、皿、#）C」バサツ

提督&ジン「あ」

提督「ちよ、やば、逃げるぞあいつ！」

ジン「こつちにこい！」ノシ

ライゼクス「（（（（（C（#、皿、）C）」

提督「やばい！このままだと逃げられる！」

天龍「…あれをあの落とし穴におびき寄せればいいんだな。よ、よーし」

ブーン

艦載機×5〈逃ガサンゾー!! ババババ Σ（、皿、#）三

天龍「艦載機?…まさか」チラツ

瑞鶴「…:」

天龍「げっ、瑞鶴!？」

瑞鶴「話はおと、あれをこつちにおびき寄せればいいんでしょ？」

天龍「お、おう…」

提督「あの艦載機……もしかして」

ジン「……向こうに天龍たちがいる」ダダダッ

天龍「おい！空飛ぶ蜥蜴野郎！こつちだ！」ドーン！

ライゼクス「（、皿、＃）三三」

瑞鶴「ちよ、こつちに来たけど効いてないし！」ザザザ

天龍「おらさつさと駆けるぞ！」ザザザ

瑞鶴「で、機動したまま岸边まで行けると思う？」

天龍「ぎりぎりまでなら……ん？」

ライゼクス「（、皿、＃）三三三」マテヤゴラア！！

天龍「は、速っ!？」

ジン「そおいつ！」ライゼクスにライドオン

ライゼクス「（（（（（（（（（（（（；、皿、））））」

瑞鶴「ジンさん！」

天龍「すげえ！空飛ぶ蜥蜴に乗ってる！」

ジン「……」ザクザクツ

提督 「いいぞ！こっちにこさせろー！」【落とし穴】

ジン 「…行くぞ！」ソオイ!!

ライゼクス 【Σ(×皿×)】

提督 「よし！麻酔玉だー！」つ三三三●●

ジン 「ほれほれ」つ三三三●

ライゼクス 【(×皿×)】スヤア

提督 「…ふーっ、なんとか捕獲成功だ」

ジン 「…なんとかなったな」

天龍 「提督、ジンさん！やったな！」ニヤニヤ

瑞鶴 「この…なんなの？ドラゴン？」

提督 「お前ら…」

ジン 「えいつ」チヨツプ

天龍 「いてっ」

瑞鶴 「あいたっ」

ジン 「…下手したら大怪我じゃすまなかつたぞ」

提督 「俺達にとつてお前たちは大事な家族みたいなもんだ。」

ジン 「…命を大事にしてくれ」

天龍&瑞鶴 「……」

提督 「……でも、助かったよ。ありがとう」 ナデナデ

天龍 「あ、こら、な、撫でんなよ」 テレテレ

ジン 「お前たちが無事でほんによかった」 ギユツ

瑞鶴 「ちよ、ちよつとジンさん!?!?!?!」

提督 「さてと、後はギルドの船がそろそろ来るはず……」

ジン 「あ……俺達の船が壊されてるから帰りはどうする?」

提督 「……」 チラッ

天龍 「い、一応『艦』娘だけどさ……」

瑞鶴 「ま、まあいけるけどさあ……」

【元帥から依頼その壱】 ライゼクスの捕獲により成功す

☒夏が来る、奴を追え

i n 母港

ベル「電報で聞いたよ。うまくいったんだって？」

提督「ああ、天龍達のおかげで無事に成功した」

瑞鶴「本当にあんな大きな生物がいるなんて初耳よ」

天龍「提督達はそれを相手するのが生業の人たちなんだよ。こつちでいう…自然保護員みたいな？」

ジン「ハンター兼冒険者だ。」

アール「いや、それはいいんだけどよ…」チラッ

提督「ん？」天龍におんぶ

ジン「…なんだ？」瑞鶴におんぶ

アール「船が壊れたからっておんぶされるとかワロスw」m9（＾皿＾）プギャー

ジン「…瑞鶴、アールに全機爆装」

瑞鶴「了解！」艦載機発射！

アール「え、ちよ、おま」

ドドーン!!

青葉「なるほどー、あれがここの鎮守府の提督達ですかー!取材の遣り甲斐がありませんね!」

加古「毎日が騒がしい人たちだから退屈はしないよ」

霞「ほんと心配かけさせてくれる人たちなのよねえ」

不知火「: :」ジーッ

霞「な、なによ。はつきり言いなさいな」

不知火「: :」なんだか性格が丸くなってますね、霞」

霞「う、うるさいわね!こうでもならなきゃやっていけないわよ!」テレテレ

響「: :」

翌日

那珂「はーい☆艦隊のアイドル那珂ちゃんだよー!よろしくー!」キャピッ

提督「愛怒留?」

ベル「アイドル?」

ジン「…タイトル？」

那珂「違いますよー！アイドル！アイドルですってば！！」

提督「アイドルっていったらなあ…」

提督&ジン&ベル「受付嬢!!」(*, ω, *)

大淀「ぶ、ぶれてないですね…」ニガワライ

提督「やっぱりアイシャちゃんかなー」

ジン「…コノハだろ」

ベル「キャシーちゃん…」グスン（ノド、）

那珂「そうじゃなくて艦隊のアイドルです！」

提督「ああ！艦隊のアイドルね！」

ジン「大淀さんじゃないのか」

ベル「大淀さんかと思った」

大淀「受付嬢と間違えてませんか？」

川内「まあまあ、私の妹を弄るのはそこまでにして…神通がそろえば華の二水戦の完

成だよ！」

in 中庭の原っぱ

アーロ「そんでこいつが王族カナブン。」

初霜「すごい綺麗ですね！」キラキラ

雪風「アーロさん、これはなんですか？」

アーロ「おお！マレコガネってんだ。すごいレアだぞー」

雪風「えへへ、やりました！」（・・・）エツヘン!!

初霜「さすがは雪風ちゃんね！」

アーロ「マレコガネもすげえがやっぱ凄いのは…『ドスヘラクレス』だな！」

雪風&初霜「ドスヘラクレス？」

アーロ「普通のカプトムシよりも強くて…世界一強いと言われるカプトムシだ！」

初霜「私、見たくなりました！」キラキラ

雪風「初霜ちゃん！一緒にドスヘラクレスを捕まえましょう！」ギョツ

アーロ「…夏が来るな…」暖かい笑み

五十鈴「…なにやってんの？」

i n 甘味処『間宮』

ニコ「…そういうことがあつたんだニヤ？」

潮「…はい。それ以降、人と話すことや出撃することが怖くなつたんです」

ニコ「…一つだけ方法はあるニヤ」

潮「え、あるんですか？」

ニコ「話しかけなくてもいいニヤ。僕たちの旦那さん。提督さん達をじっくり見るとだニヤ」

潮「て、提督をですか!」ビクッ

ニコ「そうだニヤ。その前にボクの話聞いてからニヤ」

潮「は、はい…」

ニコ「ボクはかつてとても臆病なアイルーだったニヤ」

潮「元臆病つて言つてましたし、なにかあつたんですか？」

ニコ「ボクは子供の頃、かつて巨大な商船を持つ商人だったチコ村のお婆様か船で海中、『アカムトルム』という黒い巨大な怪物に襲われて島に漂着したのニヤ。そしてお婆様の旦那様はみんなを守るために『アカムトルム』と戦つて行方不明になつたと、亡くなるまでチコ村を守つたお父さんから話を聞いて怖くなつてしまい動物に触れたり人と話すことすらさえできない臆病者になつたのニヤ」

潮「…」頷く

ニコ「ボクの心の中に『アカムトルム』という化け物の幻が潜み、ずっと僕を臆病者のままにしたニヤ。…潮ちゃんもたぶん自分の心の中に怖い幻が潜んでいるニヤ」

潮「私の心の中に…」

ニコ「そんな時、ボクは旦那さんこと提督さん達に出会ったニヤ。最初は怖かったんだけど…こつそりと提督さん達を見ていたニヤ」

潮「そ、それでどうだったんですか？」

ニコ「提督さん達の戦う姿は勇敢でボクに勇気を教え、勇気をくれたニヤ」

潮「勇気…ですか？」

ニコ「そうだニヤ。提督さん達のおかげでボクは勇気を出して自分の中にある幻を追い出すために『アカムトルム』を提督さん達と一緒に戦って倒したんだニヤ。そして勇気を取り戻して臆病な自分とオサラバしたニヤ」

潮「…私も、私も勇気を出すことができますか？」

ニコ「大丈夫ニヤ。提督さん達はとっても優しくて勇敢な人達だニヤ。きっと潮ちゃんに勇気をくれるニヤ」

潮「…ニコさん、ありがとう。わ、私、頑張ってみます！」

阿武隈「…」
（一瞬）チラッ

執務室

提督「…さて、次はオリヨール海域なんだが…」

ジン「どうだ？これまで情報はあつたか？」

アーロ「うーん難しいなあ。というか他鎮守府からいつになったらオリヨール解禁なのか苦情がきまわってんだが」

ベル「オリヨールへ出撃禁止しているのは俺達のせいだと思ってる連中と、勝手に出撃させて潜水艦の子達を轟沈しかけた連中が主だけだね」

アーロ「後者は自業自得だろ。」ポンポン

提督「もつと情報もある。『ヤツ』がどこに潜んで、どこから襲っているのか…捜査を続けるしかない」

チャチャ「提督！オレチャマも一緒にいくツチャ！」

カヤンバ「一宿一飯の恩義ンバ！ワガハイ、提督達と久々に組めて滾るンバ！」

ジン「…チャチャ、カヤンバ。助かる」

チャチャ「なんたつて『ヤツ』は提督の因縁の相手ツチャ！」

提督「『海竜』ラギアクルス…はやく見つけないとな！」

ドア越し

瑞鶴「どう？聞こえた？」

天龍「うーん…そのラギなんちやらつてのは提督の因縁の相手らしいぜ？」

金剛「ヘーイ！提督の因縁がなんデスか？」ノシ

榛名「瑞鶴さん、天龍さん？何をしていますか？」キョトン

天龍「わつ、しー！静かにしろつて！」小声

大淀「…天龍さん、瑞鶴さん？盗み聞きは良くないですよ？」ゴゴゴゴ

瑞鶴「わ、私は何も聞いてないからね！」ε≡≡ε(； 皿、)ノ

天龍「お、俺もだかんな！」ε≡≡ε(； 皿、)ノ

大淀「まったく…提督、失礼します！」

金剛「ヘイ、テイトクー！チャチャ、カヤンバー！私たちと一緒にお茶しませんか？」

？」ノシ

チャチャ「オレチャマ、お腹すいてたツチャ。今日は何があるツチャ？」

榛名「今日はアツプルパイを焼いてますよ？」ニツコリ

カヤンバ「ヤツタ！あと紅茶の淹れ方を教えてほしいンバ。」

金剛「OK！任せなサーイ！提督も一緒にいかがデス？」

提督「おお、ちょうど休憩するところだ。大淀さん、大本営から通達があるとか？」

大淀「はい、昨日のバシー島の件で元帥から特別任務報酬として『伊168、伊401』を配属させるとのことですよ」

提督「(。 ㄩ、)

ジン「…まじか」(。 ㄩ、)

—— 昨日の夜、通信にて ——

元帥「そうか、ライゼクスという竜が原因だったのだな」

提督「ええ、これでバシー島の方は大丈夫ですよ。ですが…」

元帥「?どうかしたのかね?」

提督「オリヨール海域の方は難航してますね。次の相手は海に潜んでいますから」

元帥「海に? 深海棲艦かね?」

提督「いえ、おそらく犯人は海竜種という種で一番凶暴な『ラギアクルス』という竜ですよ。奴はオリヨール海域を縄張りにして彼方此方を泳いでますので見つけるまで時間がかかりますね」

元帥「…かつての『アイアンボトムサウンド』の『緊急任務G級作戦』と同じような海に潜む竜か」

提督「まあ『G級作戦』の『アレ』よりも大きさは小さくなりますが…」

元帥「…つまり、君たちハンターでも海中で見つけるのは苦戦中かな?」ニヤニヤ

提督「ちよ、おちよくらないで下さいよ。これでも海中でもちよちよいのちよいですよ」

元帥「ははは、冗談だ。…ではこちらも何か手助けをしよう」

提督「あ、ありがとうございます」フカブカ

提督「…元帥さん、はやいですよ…」遠い目

●ホツポの冒険く喧しい奴等の巻く

ウイル「な、なんとか次の島に着いたな…」ゲツソリ（、” ω、）
サシミ「きゅ、キュー…」（、” ω、）ゲツソリ

レ級「マサカ二日ニカケテ魚ニ追イ回サレルナンテ思ワナカッタゾ…」

ホツポ「水上ノチェイス楽シカッタ！」キラキラ

ヲ級「ヲツ！」（▽、*ゞ）エへへ

ワル雨「艦娘ニハ出クワサナクテ良カッタデス」

レ級「デ、コノ島デ何ヲスルンダ？」

ウイル「水、食料確保と…ハチミツを探す」キツパリ

ホツポ「後、レップーモ探ス！」フンス

レ級「レップーハマダシモ…ハチミツツテヤツハ必要ナノカ？」

ウイル「お前はハチミツの凄さを分かっていない！」クワツ

レ級「オ、オウ…」

ウイル「ハチミツつてのはなああれだぞ、栄養満点で、苦い回復薬を甘くておいしく

するし…とにかくすごいんだぞ！」クワツ

ホッポ「レップーモスゴインダゾ！」クワツ

レ級「…ナンデ私ハ怒ラレテンダ？」

ホッポ「ウイル！レップー探ソウ！」

ウイル「おK！ハチミツも探すぞ！」

レ級「オイ水ト食料ハドウシタ」

ワル雨「ジャア私達ハココデ待ツテマスネ」

ヲ級「ヲツヲツ！」（へ・へ）ノシ

ホッポ「ソレジャ行ツテキマース！」ダダダダ

ウイル「成果を期待してくれー！」ダダダダ

レ級「…ヤレヤレ、楽シソウナヤツダナ」

ワル雨「ホッポちゃんモ前ヨリモ元氣ニナツテヨカッタデス」

レ級「ソレデ、私達ハナニスンダ？」

ワル雨「ソウデスネ、お魚デモ獲ツテオキマシヨウカ！」

ヲ級「ヲツヲツ！」フンス（、・ω・）フンス

??「…貴女達、ナニ呑氣ニヤツテルノカシラ？」

レ級&ワル雨「!？」

?? 「港灣棲姫サンニ頼マレテ探シニキテミタラ：何ナノソノ体タラクハ？」

レ級「お前ハ：防空棲姫：」

防空棲姫「レ級ニワル雨トお供ヲ付ケテタノニ何勝手ニ動イテルノカシラ？」

ヲ級「ヲツヲツ！」（——ω——）ノシ

防空棲姫「ヲ級ノ艦載機カラノ伝達ヲ聞イテ驚イタワ。貴方達ガイナガラナニシテンノヨ」

ワル雨「ソレハ：」シヨンボリ

レ級「お前ハワカツテナイ。アノ島ニ長クイタラ危ナカッタ」

防空棲姫「アラア？艦娘ドモハ来ナイ島ダシナニ怖ガツテルノカシラア？」ニヤニヤ

レ級「お前ハグラビームノ恐ロシサヲワカツテナイ！」クワツ

防空棲姫「グ、グラビ？：兎に角、『ウイル』トイウ奴カラホツポヲ取り返スワヨ？」

ワル雨「！ウ、ウイルさんは悪イ人ジャアリマセン！」

防空棲姫「何言ツテンノ？私達ハ深海棲艦。誰ノ指図モ受ケナイ」

レ級「：デモ、ウイルノオカゲデ助カツテンダ。自然ニハ艦娘ヨリモ恐ロシイ化け物

モイルコトモ教エテクレタンダ」

防空棲姫「ハツ、面白イコト言ウワネ？ソナンノイタラ私ノ連装砲デ沈メテヤルワ！」

レ級「：ジャ、ウイルヲ探スカ。ワル雨、ヲ級、ココデ待ツテテ」ヨツコラセ
防空棲姫「：エ？海ジヤナイノ？」

レ級「陸地デスケドナニカ？」

一方その頃

ホッポ「ウイル！島の中ニ砂漠ガ！宝石ミタイノガ！」ワクワク

ウイル「ピツケルも作ればよかつたなー。レアなお守り出るかもしれないのに」

ホッポ「任せテ！ピツケルガナクテモ頑張ツテ取ツテミル！」フンスフンス

ウイル「しかし参つたなあ：この砂漠エリアじやハチミツはなさそうだ。もつと最深部まで行かないとねえかな」

ホッポ「ウーン、ナカナカ取レナイ！」ウンシヨウンシヨ

ウイル「ホッポ、先にアオキノコと薬草を探そう。回復薬を作りつつれつぷー&ハチミツ探しだ」

コロコロ () () () ◎へ チョットトオルゼ！

ホッポ「アイタツ！」ズコツ

ウイル「大丈夫か？」

ホッポ「アイタタ：アノ虫ハナニ？」

ウイル「あれはクンチュウだ。何かと転がってくる堅い虫さ」
クンチュウへザマアww

ウイル「蹴とばせば遠くまで転がっていくぞ?」

ホツポ「ムー…ヨクモヤッタナー!」ゲシッ

クンチュウ「ヒエッ」三三◎ ゴロゴロ

ゴンッ!!

ホツポ&ウイル「ゴン?」

——そのまた一方その頃

防空棲姫「リ、陸地ナンテ聞イテナイワヨ!」

レ級「ビックビクススナヨ。棲姫ダロ?火力強ンダロ?」

防空棲姫「ほ、防空ダシ!防空ナラ得意ダシ!駆逐艦デモ火力強イシ!」

レ級「ワカッタカラ、ソナニクツクナ」

防空棲姫「ワ、悪カッタワネ。テカナンデソソナニ落ち着イテルノヨ」

レ級「…慣レタ」遠い目

イーオスA「ナンカキタゾー

イーオスB「テカカワイククネ?

イーオスC「ドウスル? タベリユ?

防空棲姫「ナ、ナニアノトカゲは!?!」ピクツ

レ級「アー、確カウイルノ話ダト…赤イノハ『イーオス』トカイウ奴」つ『ウイルのメモ』

防空棲姫「コ、怖クナイノ?」

レ級「小サイノナラ追イ払エルゾ」尻尾ブンブン

イーオスA「ウワツアブネ!

イーオスB「シツポハエテヤガル!

防空棲姫「ナンダ見掛ケ倒シジャナイ…イタクシテヤル!」ドーン!

イーオスC「アダフツ!?

イーオスA「強スギル!…アツ、アレハ…

イーオスABC「逃げろー!」ε≡≡へ(; 皿、)ノ

防空棲姫「フッフ、化け物ツテ聞イテミレバ大シタコトナイジャナイ」

レ級「未だ序の口ダゾ?…トイウヨリ何かニ驚イテ逃ゲタダケジャ…」
 防空棲姫「フン!何が来テモ怖クハナイ!」

ゴゴゴゴ

レ級「…何か後ロニイル…」

防空棲姫「フフ…キタンダア…ヘーエ、キタンd」チラツ

ガララアジャラ「グルルルル…」

防空棲姫「(。ω、)

レ級「(。D、)

ガララアジャアラ「グルルアララララ!!」咆哮

防空&レ級「でかあっ!」

防空棲姫「ちよ、ナニアレ!?デカイシ、ウルサイシ!!アンナノイルナンテ聞イテナイ!!」

レ級「ダカラ言ツタジャン!!ダカラ言ツタジャン!!」

ガララアジャアラ「三三（、皿、）」

レ級「ヤバツ、囲マレタ！」

防空棲姫「獣風情ガ：深海棲姫ヲ舐メルンジャナイ！」ドーン！

ガララアジャアラ「!!（#、皿、）」激怒

防空棲姫「ウソ：怯マナイデスツテ!？」

レ級「ヤバイ！コノママダト締め付ケラレル！」ドンドン！

ブーン 三三〇へコツチヲミロー！

ガララアジャアラ「（、皿、）？」

レ級「アノクワガタムシ：マサカ」

ホッポ「オーイ！レ級チャンモ来タンダネ！」ウイルに肩車してもらってる

ウイル「ぎりぎり間に合った！」ダダダダ

レ級「ホッポ！ウイル！」

防空棲姫「アレガ：ウイルネ：」

ホッポ「む？防空棲姫ちゃんモ来テルミタイ」

ウイル「兎に角！こつちを見ている隙にそいつの足を狙え！ずつこけるから！」

レ級「ヨーシ！任せろ！」ドドーン！

ガララアジャアラ「Σ（、皿#）；」ズコツ

レ級「ヤッター！抜ケ出セタ！」

防空棲姫「：アナタガウイルネ？ホツポヲ：」

ウイル「話は後！。：：逃げるのが先決だ！」

レ級「エ？」

ドドドドドド…

ディアブロス亜種「（、皿#）三三三」マテヤゴラア！！

防空棲姫「（、皿）。。。

レ級「（、皿）。。。

ホツポ「怒ラセチャッタ」（。・ω<）ゞてへぺろ

ウイル「黒いのは凶暴だから逃げるぜ」（。・ω<）ゞてへぺろ

防空棲姫「イヤ、ナンナノヨコノ島ハアアア!？」ウワーン

レ級「モウ黒イ奴ハコリゴリダー!!」ウワーン

ウイル「ほーれ走れ走れー!!」

ホッポ「楽シイ!コレガ冒険!!」

ガララアジャアラ「(皿 #) 三三三」

ディアブロス亜種「(皿 #) 三三三」

ウイルの冒険日記 ●月◆日

ガノトトスに追われつつもなんとか次の島に到着。あいつの執念の恐ろしさを垣間見たぜ…。とりあえず、水と食料の確保、それとハチミツ探し!あとは『れっぷう』の手がかりになりそうな物を探るか…。どうかハチミツがありますように!

…ここは砂漠エリアが多いところでした。あ?成果だと?…期待スンナヨ…ハチミツもれっぷうもないんだよ。

ホッポが蹴ったクンチュウが熟睡中の黒ディアにぶつかり案の定激昂。久々にディアブロスと鬼ごっこしたぜ。しかもレ級がガララアジャアラに襲われそうになってたし…ガルルガも揃えばこの島は喧しい奴等の島になるな

あと誰だっけ?防空…なんちやらっっていう子がいたな。名前が長いからあだ名で呼んでいいか聞いてみるか。でもこの島からの脱出が先だけどね!

☒初夏の始め、奴との対決へ

i n 執務室

【風鈴】へおっと、もう俺の出番か

五月雨「うう…暑いですー」グダー

球磨「もう初夏クマー、最近暑くなってきたクマー」グダー

初雪「うー…溶けるー」グダー

高雄「ほらほら、お冷持つてきましたから頑張ってください」つお冷

五月雨「それにしても…」チラッ

ジン「…高雄さん、この書類はこれでいいかな？」

高雄「はい…問題ありませんよ？」ニコッ

五月雨「どうしてジンさん達はそんなに暑そうな鎧着てても平気なんですか!？」

ジン「…仕様だ」(……)

球磨「意味が分からないクマー！」ウガー

ジン「…あとクーラードリンク」つクーラードリンク

初雪「どれどれ……キンツキンツに冷えてやがる！」（ΦΦΦ）カッ

五月雨「初雪ちゃん!」

i n 母港

提督「……」ボート

龍驤「提督ーなに海の方を見とるん？」ポンポン

提督「…む？ああ、すまんすまん。考え事さ」

長門「遠征の部隊なら帰ってくるにはまだかかるぞ？」

提督「そうだったな。少し耽つてしまうといぼーつとしてしまう」

天龍「おーい提督！大本営から配属される潜水艦の子が来たつてよ！」ノシ

提督「おー、今から行く。龍驤、赤城と一緒に駆逐艦の子に対空訓練を長門は重巡、軽

巡の子と模擬訓練を頼む」

龍驤「了解！」

長門「ああ、任せておけ」

提督「そんじや後よろしく」εεεεε Γ（・▽・）L

龍驤「…最近、提督は母港にいては海の方をじーつと眺めてるみたいやな」

長門「南西諸島海域の敵艦も強くなっている。色々と考えているんだろう」

天龍「……」

龍驤「天龍、なんか知つとる？」

天龍「な、なんも知らねえなあ」

in 鎮守府門前

提督「おいーっす！お待たせー」

金剛「ていとくー！遅いデース！」

大淀「大本営から潜水艦の子が着任しましたよ」

伊401「あ！赤い提督だ！久しぶりー！」ダキツ

提督「おうふ！」三（#）四、；；

金剛「」

伊168「提督、お久しぶりです！」ノシ

提督「まあ元帥からつてことだからやっぱり君たちだったんだね」

伊401「『G級作戦』以来ですね！」

金剛「て、提督ー、この子達とは知り合いだったんデス？」

伊168「はい！提督とは提督になる前から知り合つてました！」

伊401「イムヤ、それを言うならまだハンターだった頃の提督でしょ？」

金剛「Hunter？」クビカシゲ

提督「ワーワー！ふ、二人とも、先に執務室に案内しよう！金剛はあとで一緒にお茶しよう！だから先に長門の手伝いをして！」アタフタ

金剛「！yes！ていとくー、楽しみにしててネ！」ダダダ

提督「ふう：イムヤ、しおい、未だこのことは一部の子しか話してないから秘密な」
伊401「あ、そうだったんですかー」

伊168「そういえばアーロさん達も元気でですか？」

提督「ああ、みんな元気だ。これまでの事はゆつくり話そうか」ニコニコ
in工廠

明石「うん、やつぱり提督やベルさんだと安心して任せれるわ」ウンウン

ベル「いやー、買い被りすぎですよー」アハハハ

明石「ジンさんとアーロさんはどうしても見たことのない鉱石で試したがるが多
いんですから」ヤレヤレ

五十鈴「この間もロツクした鉱石の箱を無理やり開けようとしてるところも見たわね
…」

ベル「あいつらは好奇心旺盛ですからねー」

明石「そのレベルじゃないと思うんですよね…」

ミケ「それが旦那さん達の癖ですニヤ」ウンウン

00:00:00 ―― 〈新しい艦娘が着任したぜ！

ミケ「お、完成したニヤ！」

明石「さっそく開けてみましょうね」 工廠オープン!!

木曾「木曾だ。お前に最高の勝利を与えてやる」 ビシッ

ベル「(。ω。)

明石「え？ベルさん？」

五十鈴「ど、どうしたんです？なんか固まってるけど…」

ミケ「あ、しまったニヤ」

木曾「お、おい？大丈夫k」

ベル「セーラー服キタアアアアアアアッ！」

キター(。△。) ― (△。) ― (。) ― () ― () ― ()

△) ― (。△。) ― !!

明石「べ、ベルさん!?」ギョツ

ミケ「旦那さんが好きだったセーラーの子が結婚したショックの反動でテンションが
高いですニャ!」

五十鈴「それ早くだいさいよ!」

ベル「いよつしやあああ!」木曾を抱き上げる

木曾「わわっ!」

ベル「キター(。△。)―(△。)(。(。(。(。(。(。)
―(。△)―(。△。)―!!」

木曾「ひええええっ!」

五十鈴「ちよつと球磨さん呼んできます!」ダツ!!

この後ベルさんは駆けつけた球磨さんのラリアットで沈められたそうです。当の木
曾さんは『ス、スキンシップは大事だな!』と少し涙目で笑ってました。よほどベルさ
んはキャシーちゃんというセーラー服の受付嬢が気に入ってたんですね…

i n 農場

響「…大きな花が咲いてるね」

アール「こいつはドスビスカスっていう花さ」

響「…私も見たことのない花。綺麗だ」

アール「えーと…ほれ」一輪摘んで、響の頭につける

響「Σ（。㇀。㇀）」

アール「うん、似合うぜ？くーるびゅうていつてヤツだな！」ニシシ

響「…スパシーバ（ありがとう）」テレツ

皐月「あー！ずるい！僕にも！」

雷「アールさん！私にもちようだい！」

時雨「ほ、僕にもいいかな？」

＼ワイワイワイワイ／

アール「ほらほら、順番だぞー！」

曙「…ふん、バカじゃないの？そんなものつけたって…ん？」

潮「あ、あの！アールさん！」

アール「ん？どした？」

潮「わ、私もその花…く、ください！」

アール「H A H A H A！ほらどうぞ」つドスビスカス

潮「あ、ありがとうございます！」ダダダッ

曙「（。㇏。）

——演習

長門「それでは駆逐艦の訓練を行う！」キリッ

響「㇏a（了解）！」頭にドスビスカス

雷「はい！」頭にドスビスカス

皐月「はいい！」頭にドスビスカス

時雨「はいい！」頭にドスビスry

潮「は、はいい！」頭にドスビry

曙「…はい」

長門「…」

アール「」？d||（・ωー、o）グッ♪

長門（アールさん、ナイスだ！）グッ（*・。▽。、）||b

この日、長門とアールは『駆逐艦大好き同盟』を組んだ

i n 執務室

伊401「それで、オリヨール海域の方はどうですか？」

提督「うーむ…未だ発見されずってところだ」

伊168『『G級作戦』と同じように私達も探してみますか？』

ジン「…今回の奴はお前達にも襲い掛かる凶暴なやつだ」

提督「実際のところ、二人に危険な目に合わせたくないところなんだが…」

伊401「安心してください！こんな時の『晴嵐』ですよ！」つ晴嵐

提督「ん？それは？」

伊168「しおいちゃん『晴嵐』は対潜も備わってます。水中にいる大きなトカゲ

だっつてすぐに見つけますよ！」

ジン「…ライゼクスのも片付いたんだ。安心して艦載機を飛ばせるし、どうだ？」

提督「うーん…わかった。その代りチャチャとカヤンバ、ジンとアークを付けて行動してくれ」

168&401「了解です！」ヤッター!!

こうしてオリヨール海域の搜索は伊168と伊401が加わり捜査網を広げて行った。

3日後

ジン「…しおい達のおかげで手がかりは掴めたぞ」

アール「あいつが休んでいた跡が見つかってな、島に上陸して休んではなわばりの海域をぐるぐるの周回しているようだ」

チャチャ「もうすぐ『ヤツ』の尻尾を掴めるツチャ！」

提督「ああ、イムヤ、しおい。助かったよ」

伊401「えへへへ、どういたしましてー」(▽、*ヅ)エへへ

伊168「それで、次はどうするの？」

提督「…艦娘はオリョール海域に出撃は一時禁止。俺ひとりでもオリョール海域に行く」ガタツ

伊401「え？提督一人ですか!？」

ジン「…」

提督「もちの論。今から皆に伝えてくるぜー!」ε≡≡へ(・旦、)ノ

伊168「と、止めなくていいんですか!？」

アール「無理。今のあいつは意地でも行くさ。提督、死ぬんじゃねえぞー」ノシ

提督「任せとけ!」ε≡≡(・ω・、)b

大淀「ほ、本当に止めないんですね…」

ジン「…行かせてやってくれ。『ヤツ』はあいつにとって因縁の相手。」

ヤ
ベル「ま、『ひとりで行く』って言って『ついてくんない』とは言っていないしね」「ニヤニ

カヤンバ「こっそりと支度するンバ！」

☒オリヨールの海を駆けて、『海竜』ラギアクルス 前編

艦娘寮前の掲示板

【艦娘の皆へ：明日のオリヨールリユ海域への出撃は中止です（・ω・）ゴメンヌ】

「 追伸：ちよつとオリヨールリユ行つてくるb b y提督 」（ ）

瑞鶴 「は、はああああつ!」（㊦。㊧。）

川内 「えー、楽しみにしてたのにー」ブー

赤城 「きつと何か理由があるんでしょう…」

天龍 「ちよつと提督はどこ行つた!?!」

五月雨 「そういうえば、母港にもいませんでしたね…」

磯風 「ただ、ひとつわかったことがある…」

長波 「ん？わかつたこと?」

磯風 「…『オリヨールリユ』じゃなくて『オリヨール』だ。」

長波 「ズコーツ

港町の港

提督「砥石よし回復薬よし…これを積んでくれ」

黒丸「了解ニヤ」

ミケ「旦那さん、皆にちゃんとかわなくてよかったのかニヤ？」

提督「…普通にいったら心配するだろ？仕方ないことさ」

ミケ「…わかったニヤ。でも無理はだめニヤよ？」ヨツコラセ

提督「…はあ。まったく、提督失格だなあ俺は…」

曙「まったく本当にクソ提督ね」

提督「うへえあ!?あけぼの!」ギョツ

曙「なにこそこそしてるのよ?…ひとりで行くとかかっこつけてんの?」

提督「…これから行くところは危険なところだ。俺みたいな奴が行かなきゃならぬ」

曙「はっ!こちら艦娘っていう兵器が失うのが怖いのかしら?」

提督「!!」

曙「教えてあげるわ。私と潮がなんで異動されたか。前の鎮守府では潮はそのクソ提督に厭らしい目で見られしまいには大破したまま身体を触られるやら嫌な思いをしたわ！ 気づいた私はそいつを殴り飛ばしたけど、そいつは潮と私を捨て艦にしようとしたのよ」

提督「……」

曙「なんとか別の所へ異動できたけど……どうせあんたも同じなんですよ？ 私達をただの捨て駒しか見ていないんですよ！ 嫌だったらさっさと解体……」

提督「だまらっしゃい!!」クワツ

曙「な、なによ……」ビクッ

提督「そう軽く命を捨てるとか死ぬとか容易く言うもんじゃやない!」

曙「うっ……なんなのよ」

提督「いいか？ 俺の前で軽々と死ぬとか命を粗末に扱うようなことはすんじゃねえぞ？」

曙「……」

提督「俺の目の前で誰かがいなくなるのはいやだからな……」

ミケ「旦那さん、準備できたニャー」

黒丸「本当に一人で行くのニヤ？」

提督「おお、助かる。それじゃあ行ってくる。…あと、曙。俺はどんな時もお前たちを兵器だのと思ったことはない。お前たちも大切な家族、大事な子達だからな」ノシ

曙「…：あいつ…」

霞「もうちよつと時間を稼ぎなさいよ。あと少しでみんなを呼んで止めてたのに」

曙「うげつ！か、霞!？」

潮「あ、曙ちゃん…」

曙「潮もいたのね…」

天龍「俺もいるぜ！」（…：…：） b

曙「…もうつつこまないわよ」

霞「それにしても、提督の怒ったところ初めて見たわ」

天龍「だなー、ちよつとびびった」

潮「でも…：なにか思い詰めていたように見えました」

ジン「…：仕方ない。『アイツ』に二度も大事な仲間を失わせたくないからな」

天龍「ジ、ジンさん、いつの間に!？」（；。∩。∩）

ジン「こつそりついてきた」 b

曙「ちよつと待つて、今『二度』って言つてたけど……」

ジン「……ああ、実のところ俺、提督、ベル、アーロの4人の他にもう一人、仲間がいた」

霞「5人目がいたの？」

ジン「……話は少し長くなる。俺達が『我らの団』というギルドにいた頃だ。道中でな、その5人目が加わつたんだ。かなりの冒険好きで提督と団長とよく彼方此方を巡り周つていた」

曙「わ、我らの団？」クビカシゲ

ジン「そして5人目と提督は団長に頼んでギルドを離れもつと遠くの海へと冒険に行こうとしていたんだ」

潮「提督も海が好きだったんですね……」

ジン「……それは嵐が吹き荒れる夜だった。提督と5人目は船で航海中、突如海から黒い『ラギアクルス』という竜が現れその船を襲つた。」

天龍「て、提督はどうなつたんだ？」

ジン「……俺達『我らの団』が駆けつけた頃には傷だらけの提督を助けることができた。だが、5人目は……すでにその海にはいなかった」

霞「……」

ジン「5人目は身を挺して大怪我をした提督を逃がし、行方不明となったんだ。提督は『あいつを助けることができなかった。死なせてしまった』と大泣きさ」

天龍「……」

ジン「狩人はいつでも死と隣り合わせの戦いをしているが……目の前でいなくなると本当に悲しい。それ以降提督は『ラギアクルス』には少しトラウマがある」

霞「で、でも。一人で行くのは危険じゃ……」

ジン「……もう自分の目の前でいなくなるのが嫌なんだ。だからあいつは意地になつてる」

天龍「だ、だからってここで待ちぼけするのはい！」

ジン「……別にあいつは『ついてくんない』って言うてなかったら？」

天龍「……」

ジン「……ベルとカヤンバが支度している。責任は俺がとる……意味わかるな？」

天龍「よっし！任せとけ！お前ら、行くぞ！」

霞「……仕方ないわね。少しクス提督にお灸をすえなくちや」

曙「ちよ、私も!?!」

ジン「それと一言、……死ぬんじゃないぞ？」

霞「当たり前じゃない！誰の提督の艦娘だと思ってるのかしら？」

ジン「……まったく、今回は俺達もいるのに。本当に無茶してくれる提督と艦娘達だ」ニ
ガワライ

潮「あ、あの……」

ジン「……ん？」

潮「そ、その5人目の人の名前は……？」

ジン「ああ……『ウイル』っていう冒険好きでハチミツ好きの男だ」

☒オリヨールの海を駆けて、『海竜』ラギアクルス 後編

オリヨール海域、船にて

提督「……」

◆◆嵐の夜◆◆

提督「……ぐう、ウイル、大丈夫か？」グツタリ

ウイル「なんとかか……でも、奴はもう一度攻撃してくるぜ？」

提督「冒険は危険が付き物つつうけど……黒ラギアとか反則だろ……」

ラギアクルス希少種「(#、皿)」グルルル……

提督「ハンターは死と隣り合わせなんだ。いつだって覚悟できてる」

ウイル「……いい考えがある。俺が奴の気を引かせている隙に大タル爆弾を仕掛けろ」

提督「ああ。……ちよい待ち。俺は持ってねえぞ？」

ウイル「そこに置いてあるヤツを使え。いいか？絶対に放すなよ？」

提督「任せろ。……ん？なんか軽いぞ？爆薬が入ってないんじ(r y)」

ウイル「そおおい!!」キック!!、(・▽・)ノ「」

提督「おおおっ!!」三Σ(ノ、㊦)ノゲシツ

ドボーン!!

提督「ウイル!?なんでだ!?ま、待ってくれ!!」

ウイル「達者でな!お前は生きろ!」ノシ

ラギア希少種「(#、皿)三三三●」

ウイル「このトカゲ野郎!俺のダチは絶対にやらせんぞ!うおおおっ!」ダダダッ

提督「ウ、ウイルウウウウツ!!」

◆ ◆

提督「……」

ゴゴゴゴ

提督「…来たな?この時を待ってたぜ!」つ三三【小タル爆弾G】×5

ドボボーン!!

提督「姿を現しやがれ!」つ輝王剣リオレウス

ラギアクルス「グオオオオオツ(#、皿)」

提督「最大金冠サイズだな…さあ一狩りいこうか！」

ラギア「三三三（＃、皿、）」船に体当たり

グラッ

提督「わっ、ちよっ」海へドボーン

ラギア「????」（皿、）「放電」

提督「あぶねっ!?」ジャスト回避

これはまづい。水中戦はあちらの方が有利。だけど時間をかけて戦えばなんとかなる。ひとまず距離を取って回復薬と酸素玉で…あれ？

提督「やべえ！砥石とか回復薬とか酸素玉は船の上に置きっぱだ！」

チラッ

応急薬×4、元気ドリンコ×5

提督「やらいでか！このままやってやんよおおおっ!!」

ラギア「（＃、皿、）三三三〇」拡散プレス

提督「うおわああっ?!それもあんのかよっ!」（＃）皿、；；

ラギア「三三三（＃、皿、）」突進

提督「ふんぬっ!!これでもくらえ!」躲して抜刀切り

ラギア「Σ（；、皿、）」

提督「もういつちよ!!」

ラギア「三(#、皿)」スツ

スカツ

提督「しまっ…躲され…」

ラギア「(#、皿)」「ガブリ

提督「あだふっ!?足を噛みやがったな!」

ラギア「三三三三(#、皿)」「啜えたまま物凄い速さで潜行

提督「おおおっ!?このやろっ…潜行して俺を溺れさす気かつ!!」大剣で叩く

ラギア「三三三三(、皿)」「ポイツ

提督「おうふ…結構な深場に…」

【酸素ゲージ】へもうすぐ酸欠になりますぜ!!

提督「うっぷ…まずい…さっきの水流で一気に酸素が…」ε≡≡≡へ(；皿)ノ

ラギア「三(#、皿)」「タツクル

提督「ぼふっ!?」○)。3。)…

この野郎。あくまで溺死させるつもりだ。…まずい。さっきので頭がふらふらする、意識がやばい…

あいつが大口を開けてこっちに来る。嗚呼、結局トラウマは拭えずか。…皆、怒るだ
 ろうなあ、悲しむだろうなあ

ウイル…俺を叱ってくれ

() ○ ? (; 皿) ? ○ ()

…ん?なんかラギアの周りに丸っこいものが…

ドドドーン!!

ラギア「Σ (; 皿)」

は!?!なんか爆発したぞ!?!一体誰が…まさか

伊401「提督!つかまって!」っ

提督「しおい!?!ということは…!!」

伊401「話は後!このまま水上へ行くよー!」

水上

伊401「提督救出成功!!」ザバツ

提督「ぷはっ!!あれ?あそこにある船は…」

ベル「やあ、本当に無茶してくれるねー」ニヤニヤ

提督「ベル!?!来たのか!?!」

カヤンバ「ワガハイとチャチャもいるンバ」

チャチャ「提督、忘れ物しすぎッチャ!!」つ回復薬、増息薬

提督「すまん…爆弾を投げたのはお前らか?」

ベル「いいや?あれを見てごらん?」ニヤニヤ

提督「あれって…」

天龍「いいか!ありつたけの爆雷を投げ入れる!」つ三【爆雷】

曙「なんで私までやんなきやいけないのよー!!」つ三【爆雷】

潮「て、提督をお守りします!」つ三【爆雷】

提督「(。 ㇿ、)

ベル「みんな、爆雷を必死に作ってたよ？」

提督「いや、ちよ、あんな無茶を……！」

霞「無茶してんのはあんたよ！このクス！」、（#、㊦）ノ「」踵落とし！！

提督「あばすつ!?か、霞!」（#）㊦、；；）

霞「貴方は私たちの司令官なのよ!?自覚しなさいよ！もし死んじやったら、私……私……！」グスツ

提督「……」

霞「勝手にいなくならないですよ！」ウワーン（ノ㊦、）

提督「霞……」

ベル「少なくとも、俺達がいるだろ？もうソロじゃなくて、マルチプレイだってできるんだ。もう意地を張るなよ」

提督「……ああ、帰ったらみんなに謝るさ。その前に……！」

ラギア「＼（#、皿）／」グオオオオオツ

天龍「で、でけえっ!？」

曙「うそでしょ!?!あんなの本当にいたの!?!」

潮「ひゃああああああっ!?!」

カヤンバ「後ろへ避難するンバ!!」

ベル「このまま目をつぶって駆ける!」つ三【閃光玉】
カッ

ラギア「Σ(×皿× ;)」

天龍「うおっ、まぶしっ」

霞「…こんの!くらいなさいっ!」ドーン!!

伊401「酸素魚雷、いっくよー!!」魚雷発射

ラギア「Σ(、皿 ;)」中ダメージ

ベル「チャチャ、カヤンバ!船で突撃!」

チャチャ「オレチャマのお舟アタックをくらえッチャ!!」ドド、ドド

カヤンバ「突撃ンバ!!」ドドドd

ラギア「(#)、皿 ;)」大ダメージ

ベル「提督!一気に決めろ!」

提督「よっしゃああっ!」ベルを土台にエリアルジャンプ

| i n 母港

金剛「ていとううううううつ!!」提督にダイレクトアタック!!

提督「ゴメンヌ!?」（#）, 3、; ; ; ; ; ;

五月雨「提督がいなくなつて皆心配したんですよ!」プンプン

長門「金剛なんかは鎮守府を泣きながら探し回つていたんだからな」

金剛「もういなくならないでください!!」（ん ; ω ; ; ; ）ウウウ

提督「あはははは ; ; 皆、本当にすまなかつた」ナデナデ

榛名「提督が私達を大事に思うように、私達も提督を大事に思っています」

長波「もつとあたし達に頼つていいんだからな?」

川内「そんな時は私達に任せてよ!」

提督「 ; ; ああ、ありがとうな」

ジン「 ; ; おかえり。どうだ? すつとしたか? 」

提督「 ; ; ; ; この子達は皆優しいなあ」グスツ

アール「おw提督が泣いてやがるw」m 9（ん ; ; ）プギヤール

提督「…そおいつ!!」c||。(。口。#
アール「ゴメンっ!?!」.:.(。ε。(

／あははははははっ!!／

霞「…本当によかった」ニッコリ

【元帥からの依頼その弐】ラギアクルスの討伐により成功す

●ダッシュで脱出

「ウイルのミッション」ガララアジャラとディアブロス亜種の猛攻を潜り抜き島を脱出せよ

どっかの洞窟

ウイル「いやー、ここまで来れば大丈夫だろ…」

ホッポ「トツテモ楽シカッタ！」ワイワイ

防空棲姫「イヤイヤ!!ナンナノヨ!?アンナノイルナンテ聞イタコトガナイワ!」

レ級「ナ、言ツタダロ? 舐メタライケナイツテ」

ウイル「で、その子誰?」

ホッポ「防空棲姫チャン!! 私達ノ仲間!!」

防空棲姫「貴方…余計ナコトヲシテクレタワネ?」ジロリ

ウイル「防空棲姫かあ…」ジーツ

防空棲姫「ナ、何ヨ…」アセアセ

ウイル「かわいいね。ポーちゃんって呼んでいい?」ニッコリ

防空棲姫「フンツ!!」(#。D。)() 〇〇

ウイル「ゴメンヌ!?」()、3。) ∴ ∴

防空棲姫「人間風情ガ∴私達深海棲姫ヲ舐メルナ!!」

レ級「マテ、防空棲姫!!」

防空棲姫「ナニ? マサカ此奴ニ肩ヲ持ツ氣!？」

レ級「ウイルハ人間ジャナイ。竜人族ダ」

防空棲姫「エ?」(。D。)()

ウイル「ゴア一式装備で顔が見えないけども、立派な竜人族さ」ドヤア

防空棲姫「ト、トモカク!! ホツポヲ返シテモラウワヨ!! アンタノ様ナ訳ノ分カラナイ

奴ニ振り回サレルノハゴメンダワ!」ジャキンツ

ホツポ「∴ダメ」ウイルの前に立つ

防空棲姫「ホツポ? 何デ此奴ノ味方ヲスルノ?」

ホツポ「ウイルト冒険シタイ。ウイルト一緒ナラ『タノシイウミ』ガデキルト思ウ!!」

防空棲姫「∴∴っ」

ウイル「まあまあ、ホツポ。喧嘩は良くねえ。まずはワル雨とヲ級の所へ戻るのがま

ず先さ」

ホツポ「はーい!!」(。O。)()ノ

レ級「エー、マタ走ルノー？」

ウイル「心配すんな。バレねえように逃げれば大丈夫！」

防空棲姫「……」

『タノシイウミ』：わからない。なんでこんな奴にホッポが、深海棲姫が心を許してしまつたのか。

ウイル「この赤いキノコはニトロダケだ。んでこの真つ赤な『火薬草』と混ぜれば……爆薬の完成だ！」

防空棲姫「」

ホッポ&レ級「オオ〜!!」

ウイル「あとは鳴き袋があれば……」

防空棲姫「イヤイヤイヤ!? オカシイツテ!? 何デ簡単ニ火薬ガデキルノヨ!?」

ウイル&ホッポ「冒険者だからさ！」ドヤア

防空棲姫「ヤダ、頭イタイ」

レ級「マ、ウイルノイウ通りニスレバイイサ……」ポンポン

—— 砂漠エリア ——

シーン

ウイル「キヨロキヨロ

ホツポ「ダイジヨウブ？」キヨロキヨロ

ウイル「いいな？抜き足差し足忍び足だかな？」ソローツ

ホツポ「ヌキアシ、サシアシ、シノビアシツ」ソロソツ

防空棲姫「ナニヤツテンノ」ツカツカ

レ級「日ガ暮レチャウヨ」

ウイル「わ、ダメだって!!」小声

防空棲姫「ダツテアノ黒イ角ノ奴ハイナインデシヨ？堂々ト歩ケバイイジヤナイ！」

大声

ディアブロス亜種「＼（皿）／」ヘグオオオオツ!!

「地面の中からこんにはは」

防空棲姫「（皿）？」

レ級「（皿）。

ウイル「こいつ等…地中を掘り進めるんだ…」

ホッポ「スゴイ!!」キラキラ

ディアブロ亜種「グオオオオオツ!!」突進

防空棲姫「ソレヲ先ニ言イナサイヨオオオツ」ダッシュ

レ級「何デ!? アイツヲ翼モツテルノニ何デ潜ルノ!?」ダッシュ

ディアブロ亜種「」地中を潜る

ホッポ「マタ潜ツタ!」

レ級「今ノウチニ遠クマデ走るゾ!」

ボフンツボフンツ

ウイル「!!お前から伏せろ!!」ドンツ

防空棲姫「キヤツ!? ナニスルry」

ディアブロ亜種「(皿 #)三三三」地中からジャンプ!!

ウイル「ぬわー!」ウイル君ふつとばされた!

ホッポ&レ級「ウイルーツ!?」Σ(。D。llll)

ウイル「むつちや痛い…」ウウ…(・ ; ε (・ ; ; ;)

ディアブロ亜種「三(#、皿)」突進!

レ級「コツチニ来タ!!」

ブーン 三三三(猟虫)へヤットオレノデバンダ

ディアブロ亜種「Σ(、皿、；)」#」

ウイル「そおおいっ」ジャンプ切りしてライドオン

ディアブロ亜種「Σ(、皿、；)」ジタバタ

レ級「オオ!!乗ツタ!!」

ホツポ「イイナ〜!」キラキラ

防空棲姫「今ネ!狙イ撃チヨ!!」ドドーン!!

ディアブロ亜種「Σ(、皿、；)」ビックリ

ウイル「あーれー」防空棲姫達の所へ滑り落ちる

ホツポ「アー!!折角乗ツタノニー」ブーブー

レ級「ソコハ邪魔シチャダメダヨ」アチャー

防空棲姫「エ?ア、ゴ、ゴメンナサイ:」(・ω・;)シヨボーン

乗り状態中のモンスターを攻撃するとき、友達以外のマルチプレイの際は怒られるかもしれないので気を付けよう!(MH4の場合) byウイル

ウイル「だ、大丈夫さ:」アハハハ

ディアブロ亜種「」再び潜る

ウイル「よっし潜ったな？これでもくらえっ!!」つ三【音爆弾】

ピキイイイイン!!

ディアブロ亜種「＼(×皿×；)／」地面から半身飛び出す

レ級「ナンカ怯ンダゾ！」

ホッポ「サツキノハナニ？」

ウイル「音爆弾さ。高周波を周囲に出して水中や地中に潜るモンスターの聴覚を刺激しビツクリさせる道具だ」

防空棲姫（潜水艦ノ艦娘ニモ効クノカシラ…？）

ウイル「さああいつがビツクリして動けないうちに逃げるぞ！」

ホッポ「ワ—イ！」

防空棲姫「…イタツ」

レ級「ドウシタ？」

防空棲姫「チョット足ヲ挫イタワ。…私ガ此奴ヲ食イ止メトクカラ貴方達ハ先ニ行キナサイ」

ウイル「…やれやれ、どつかのバカみたいに命を投げ捨てるなつての」防空棲姫を背負う

ホツポ「ウイル、艤装ヲ背負ツテルミタイダネ！」

防空棲姫「ヤ、放セ!! 深海棲艦ヲシク死ヌマデ戦ワセロ!!」ジタバタ

ウイル「馬鹿者、死んだら元も子もないでしょうが。」

防空棲姫「ウ…」

ウイル「それにこんなところで死んだらホツポ達が悲しむぞ?」

防空棲姫「…」

ホツポ「ボーちゃん、イナクナツタラダメ!」ポンポン

防空棲姫「…ゴメンナサイネ…ツテ今ボーちゃんて」

ウイル「さあ急ぐぜボーちゃん!!」

防空棲姫「ボーちゃんって呼ブナア!!」ワーワー

レ級「ボーちゃんwww」m9(へ皿へ)プギャー

ダダダダダッ

レ級「チヨ、コノ先崖ジャン!!」

ホツポ「断崖絶壁!!」

ウイル「あ、でも防空棲姫は…」

ホツポ&ウイル「豊満!!」(*、▽、*)ワイイ

防空棲姫「絞メル…」ググググク

ウイル「ごめんなさい、ごめんなさい!?調子乗ってました!」ギャー

ディアブロス亜種「三三(＃、皿、)」マテヤゴラア!!

レ級「ゲツ!?アイツマデ来タヨ!」

防空棲姫「ドウスル?砲撃ナラデキルワヨ?」

ウイル「…お前らしっかり俺にしがみつけよ?」

ホツポ「ワカッタ!!」

レ級「…モシカシテ」

ウイル「ダアアアアイブツ!!」ダイブツ

ホツポ「オオオオオオツ」キラキラ

レ級「エエエエエエ!?」

防空棲姫「キヤアアアアツ!?」

ボイーン

ウイル「からの着地!!」

レ級「何デ高所カラ落ちテモ無事ナンダヨ!?」

防空棲姫「本当に貴方ハ人類ナノ?」

ウイル「ハンターだからな朝飯前さ」ドヤア

レ級「ウン、モウツツコマナイ」

ホツポ「楽シイ!!モウ一回シヨ!!」キヤツキヤツ

ウイル「さっきのは何かクツションになってt」チラツ

ガララアジャラ「(、皿、#)」グルルルルツ

レ級&防空棲姫「」

ウイル「あ、お前もいたの忘れてた…」

ガララアジャラ「グルアアアアツ!!」咆哮

ホツポ「ウルサーイ!!」(η。Δ。)

ガララ「〇三三〇(、皿、#)」鱗を飛ばす

レ級「尻尾から鱗を飛ばしてきた!」

ウイル「あいつが鳴く前に壊せ!」

ガララ「(、皿、(」)」背中の鳴甲を鳴らす

パーン パーン

ウイル「そおいつ!!」ホツポ達を担いで回避

レ級「ナンカ鱗ガ爆発シタ!」

ウイル「鳴甲っていつて。特殊な音波を出す鱗だ。あれをくらうとスタンしちまうぞ

？」

ホツポ「キュー」グルグル

ウイル「こんなふうには」

レ級「……ウン」

防空棲姫「デ、ドウスルノ？」

ウイル「よっしゃ、走るけど砲撃できるか？」

防空棲姫「……お手の物ヨ！」

ウイル「あいつの顔と足を狙ってくれ。そこだけは良く通るからな」

防空棲姫「任せテチヨウダイ！」ドドーン!!

ガララ「Σ(；×皿)」グヌヌ

レ級「オオ!! 怯ンダ、コレハイケルナ！」

防空棲姫「一応対空砲ナンダケド……」

ドドドドドド

ウイル「この音はまさか……」

ディアブロ亜種「三三(＃、皿)」ミツケタゾオ!!

ウイル「ギヤー！ディアブロス!!」

ディアブロ亜種「グオオオオオオオオツ!!」 咆哮

ガララアジャラ「グルアアアアアアツ!!」 咆哮

レ級「ウワア!?!ウルサイ!!」

防空棲姫「重巡棲姫並ミニウルサイ!!」

ウイル「あああつ!!うるせえつ!!」レ級達も担いで走る

ワル雨「木ノ実モアツタシコレダケアレバイイカナ？」

ヲ級「ヲツヲツ」(ωω)ノ

サシミ「キュー」

ワル雨「ソウダネ、ウイルさん達ハハチミツトレップー見ツケタカナア？」

ヲ級「ヲつ、ヲツ？」(ωω)？

ワル雨「エ？ソンナニウイルさんガ氣ニナルカツテ？」

ヲ級「ヲ々？」ニヤニヤ

ワル雨「べ、ベツニそんなつもりじゃ…いや、そうかも…／／／／／」テレテレ

ウイル「うおおおおつ」ダダダダダ

ワル雨「ホ、ホラ!! ウイルさん達ガ帰ツテキタヨ!! おかえりなさい」ノシ

ヲ級「ヲ」ノシ

ウイル「二人とも、今すぐ出港おおつ!!」

ワル雨「え? どうしてd (ry)」

ディアブロ亜種「(、皿、#)三三」ドドドドド

ガララアジャラ「グルアアアア」ドドドドド

ワル雨&ヲ級「(、皿)。。」

レ級「サツサトコノ島カラオサラバダー!!」

ホツポ「コノ島モスリル満点デ楽シカッタ!」

ウイル「サシミ!! 今すぐ出港!」サシミにライドオン

サシミ「キュキュー!!」

—— よなーか ——

レ級「ハア… エライ目ニアッタ…」ゲツソリ

ワル雨「ご苦勞様ですな」ニガワライ

ウイル「まあ冒險はスリルとロマンで満ち溢れてるからな」

防空棲姫「意味ワカラナイワヨ。ソレヨリ夜モ移動シテイイノ？クラクテコワイノヨ？」

ウイル「心配ご無用。ちゃんと見上げてみなさい」

ウイルに言われて見上げてみると…暗い夜を照らす様に輝く満点の星空だった。

ホッポ「オオー!! スツゴイキレイ!!」

ワル雨「…コンナノ初めて見ます…」

ヲ級「ヲツヲツ!!」(☆▽☆)ノシ

ウイル「だろ？海原や孤島で見上げる夜空は綺麗だな。おまけに方角もわかると一石

二鳥!!」

レ級「方角モワカルノカ？スゴイナア」

防空棲姫「…」

こんなのんで忘れていたのだろうか。月と一緒に明るく照らす夜の星空、硝煙の臭いもやかましい砲撃もない静かな海。私は…戦うことばかりでこんな光景を忘れてしまったんだろう…

防空棲姫「…キレイ」ツウ・・

レ級「ア、ウイルが防空棲姫ヲ泣カシター!!」
ウイル「ちよ、泣かしてねー!! 感動してるだけだし!!」

ウイルの冒険日記 ●月◆日

なんとかディアブロ亜種とガララアジャラの猛攻を潜り抜けて脱出することができた。この喧しい島とはおさらばだ! ハチミツもれつぶも結局見つけることはできなかった。

残念だがその反面、防空棲姫もついてくるとなった。レ級曰く『かなり強いから大丈夫、本編も私の出番をよこせ』と言っていた。まあ大丈夫だろう。ワル雨たちのおかげで水と食料は確保できたが今度は彼女たちの弾薬、燃料を確保しなくてはならない。

防空棲姫は道中別れた『駆逐水鬼』が補給品を持って彼女達の駐屯地で待機していると言っていたのでその島へ向かうことにする。…ところで防空棲姫をおんぶしたんだけども、けつこような豊満で…あ、防空棲姫ちゃん、ちよ、なんで主砲をこっちに向けて

##このページは焦げた部分が多いため解読不能となっております##

☒ 沖ノ島の戦い

執務室

提督「ついに来たな…」

大淀「はい、次の沖ノ島海域ほどの提督も必ず通る難関海域です
ベル「で、どう攻略すればいいのかな？」

大淀「運です」

提督&ベル「え？」(。D。)

大淀「運です」

提督「な、なるほど…あの子達を信じることなんだな…」

in 工廠

ジン「…明石さん、これで瑞鶴を強化して」つ重鎧玉

明石「だから、それはダメだっていつてるじゃないですか！」

瑞鶴「というよりその玉みたいなもので強化できるの？」

ジン「…俺達の装備ならできたのに…」(。ω。)

ショボーン

瑞鶴「ね、ねえ明石さん。私ちよつと興味あるなーって思ってるんですけど…」チラツ
明石「だめです！」クワツ

瑞鶴「そ、そうですね！ごめんなさい」アセアセ

明石「もう。ジンさん、瑞鶴さんが次の海域の攻略メンバーだから大事に思うのはわかりますが、瑞鶴さんのことも信じてあげるのも大事なんですからね！」プンプン

ジン「(・ω・)」

瑞鶴「え!?私、出撃メンバーに入ってるの!？」

明石「ええ、提督がぶつぶつ考えながら歩いてたのを見ましたし、聞こえてましたからね」

瑞鶴「ええええツ!？」

赤城「瑞鶴さん！提督がお呼びです！一緒に行きましょう！」ノシ

瑞鶴「は、はいいつ」アタフタ

ジン「せめて…瑞鶴に昨日作った弓を装備させても…」つヒドウンボウ

明石「だからダメですってば！」

in 母港

提督「…てなわけで沖ノ島の出撃メンバーは旗艦を長門で、那智、金剛、榛名、赤城、瑞鶴の6名で出撃してくれ」

長門「艦隊決戦か…腕が鳴るな！」

金剛「Yes! ていとくー、私頑張るからしつかり見てね！」

那智「提督、任せてくれ」

榛名「榛名、頑張ります！」

赤城「一航戦の誇りにかけて、参ります！」ピシッ

瑞鶴「き、緊張するなー…」

提督「沖ノ島はかなりの難関と聞く。艦娘は怪我したり疲弊したり、出撃したくないと思ってしまうことさえあるという。…だが、それを憂いなくてほしい」

艦娘一同「…」

提督「俺達がバックにいる。俺達の大事な子たちなんだ。だから俺達はみんなのサポートに徹するし、相談だつてのつてやる。…だから…無理しないで無事に帰ってきてくれ。」

艦娘一同「はいっ！」ピシッ

—— 出撃!! ——

i n 出撃準備室

アール「よし、皆準備はできてるか？」

五月雨「準備万全です！」フンス

長波「ひっさびさにドラム缶積んだなー」ヨイシヨ

雷「な、なんのこれしき…っ」プルプル

天龍「残りの軽巡と駆逐の皆は遠征で資材を補給させて沖ノ島に出撃してるメンバーのサポートをするぜ!!」

不知火「道中で高速修復材を拾える可能性もありますからね」

霞「水雷戦隊で編成する分、敵の襲撃にも気を付けるのよ」

伊168「アールさん、私達潜水艦も遠征なの？」

伊401「任務に潜水艦の遠征任務があるけど…人手が足りないよ？」

アール「安心しろ！俺達もついでる！」b

チャチャ「オレチャマも手伝うツチャ！」b

五十鈴「え!?!アールさん潜れるの？」

カヤンバ「心配ご無用ンバ！ワガハイ達は潜るのは得意ンバ!!」

アール「7分は長く潜れるし、酸素玉や増息薬、または泡を吸えば半永久的に潜れるぜ！」

川内「すつごーい!!もしかしてアールさんも潜水艦なのかな？」キラキラ

球磨「もう突っ込んだらだめクマね…」

提督達も艦娘一同も皆、いつものように沖ノ島も難なくクリアできるとこの時、思っていた。

だが、現実には厳しい

重巡り級「ジョイヤヤー!!」

那智「きやああっ!?!」大破

第一戦でワンプン大破や

戦艦ル級A「セツカツコー!!」

赤城「ひやあっ!?!」大破

戦艦ル級B「シユウネンガタリン!!」

瑞鶴「いたいつ!?!」大破

道中、戦艦の砲撃による大破

空母ヲ級「テンハカツサツ!!」

長門「ぐう…まさかそんな攻撃があつたとは…!」大破

あともう少力でボス戦のところ、旗艦が大破

羅針盤妖精「コツチダヨー」

金剛「Shit!このルートじゃ戻っちゃいマース!」プンスカ

榛名「金剛お姉さま、羅針盤は安全のルートを導いてくれます。仕方ありません」

羅針盤による危機回避（涙）。

金剛「沖ノ島突破できませーん!!」ウガーツ

強い敵艦、羅針盤のルートにより、沖ノ島は苦戦を強いられていた。出撃艦隊は撤退、進撃を繰り返し、疲労も増していた。しかし、辛い事ばかりではなかった。

提督「は、榛名。大丈夫か？」包帯マキマキ

榛名「はい、榛名は大丈夫です」テレテレ

提督「今日は疲れたろ。無理はせずしっかり休むんだぞ？」ナデナデ

榛名「…あ、ありがとうございます／＼／＼」

金剛「いいなあああ…」（一匹）チラツ

提督が手当をしてくれたり

ベル「焦らなくてもいいさ。ゆっくりしていこう。というわけで今日は飲もう！」つ

お酒

那智「…ありがたい。たまには飲むとしよう」つお酒

赤城「おかわりください！」つお椀

ヨモギ「赤城さん、たとと食べて元気だすニヤ！」

マシロ「今日はたくさん作ってあるニヤよ！」

美味しいごはんやお酒を賄ってくれたり

長門「…ん？あれは艦娘だな。おい！」

北上「およ？もしかして鎮守府へ戻るところかい？丁度良かった、あたしも連れてって〜」

愛宕「長旅で肩がこつちやたところなのよー。助かったわー♡」

(撤退) 道中で艦娘と出会ったりと提督達の徹底したサポートなどもあり、出撃メンバーは辛いとは思わなくなった

i n 母港

天龍「た、ただいまー」プスプス

提督「おお遠征お疲れ…って大丈夫か!？」

天龍「遠征の途中で出くわしちまってよー、俺が追い払ったから駆逐の子達は大丈夫だぜ!!」中破

龍田「天龍ちゃん、無茶しすぎよー」

皐月「でも天龍姉ちゃんかっこよかったよ！」キラキラ

白雪「先頭に立って果敢に向かいましたしね」

深雪「単騎で敵艦に斬りかかったところとかすごかったぜ！」

磯風「私も手伝ったぞ！」プスプス

提督「こら、無茶するんじゃないぞ？」軽くチヨツプ

天龍「えへへ、次は気を付けるさ」

磯風「援護は任せろ」(……)

提督「お風呂に入っってしっかり休みなさい」

天龍「あいよー」ノシ

龍田「…？」

皐月「そうだ、高速修復材も見つけたから赤城さんにあげて！」

提督「おう、助かる」

in入渠

天龍「はく、あつたまるぜー!!」

龍田「…」ジーツ

天龍「な、なんだよ龍田？」

龍田「珍しいな〜って。普段の天龍ちゃんなら入渠すると『死ぬまで戦わせろ!!』と

怒るのにね〜」ニヤニヤ

天龍「…ま、まあ普通だったらそう言うけどよ。」

龍田「？」

天龍「提督達の姿見てたらさ、そう喚いてる自分がアホらしく思ってたさー」ブクブク
龍田「ふーん」ニヤニヤ

天龍「なににやけてんだよ？」

i n 工廠

瑞鶴「ジンさん、私に何か用事って？」

ジン「…できたからあげる」つ艦載機

瑞鶴「うそ!?これって『紫電』じゃない!?ジンさん作れたの？」

ジン「(…：…：) b」ドヤア

瑞鶴「…ジンさん、ありがとう！」

ジン「…資材じゃなくてメランジエ鉱石と火竜の逆鱗で作ったらできたのは黙ってお
(う)」

明石「ジンさん、鉱石のボックスのカギが開いているんですけど？」ゴゴゴゴ
ジン「ギクッ

瑞鶴「…あれ？そういえばアールロさんはどこいったのかしら？」

—— 一方その頃

どっかの海域

アール「いやー、ずいぶんと長く泳いだなー」

伊168「アールさんすごいね！こんなに潜れるなんて！」

チャチャ「オレチャマもやればできるツチャ！」

カヤンバ「資材も集まったけどまだ進むンバ？」

伊401「うん、この任務は時間が結構あるからねー」

アール「ん？どれくらいの時間だっけ？」

伊401「うん、48時間」

アール「」

チャチャ「」

カヤンバ「」

伊401「…まさか知らなかったの？」

☒ 沖ノ島決戦、次なる海域へ

いくら大破して帰還しようとも

金剛「提督ー!! 私にもナデナデしてくだサーイ!!」 提督にダイレクトアタック!!

提督「ふもつふ!?」()。3。*()

榛名「て、提督ー!?!」

提督が傍にいて支えてくれたり

那智「さあもつと飲むぞ!」ヒヤツハー(*。▽。) / 且

ベル「いいよー!! なつちちゃんいい飲みっぷりー!!」且 \ (。▽。*) ヒヤツハー

龍驤「あ、あんたら飲みすぎや…」被害者A (飲みすぎた)

高雄「バ、バカめと言つてやりますう…」被害者B (酔った)

赤城「あ、あの…私もうお腹いっぱいば…」ゲフウ

ヨモギ「まだまだ!! いっぱい作つてるニヤ!」

マシロ「たーんと召し上がれニヤ!!」

赤城「あ、ありがとうございます…」ゲフウ

仲間たちが傍にいて支えてくれたり

天龍「よしこんだけあれば行けるだろ」

長門「…」ジーツ

龍田「長門さん、こっそり資材を持ってって建造に使ったらだめですよ」ウフフ

長門「そ、そのつもりはないからなっ！」アセアセ

霞&不知火（図星だ…）

軽巡や駆逐艦の子たちの遠征によるサポートもあつたりと鎮守府は賑やかで、士気は下がることはなかった

——一方その頃

アーロ「ま、まさか48時間任務だとはな…」ゲツソリ

チャチャ「船なら慣れてたけど、水中は苦勞したツチャ」ゲツソリ

カヤンバ「これももうすぐ終わるンバ」ゲツソリ

伊168「アーロさん、チャチャ、カヤンバ、お疲れさま！」ニコニコ

アーロ「おう！これも皆の為さ。粉骨碎身の覚悟で頑張れるぜ」

伊401「アーロさん達なら頼もしいね！じゃあ次もがんばろ！」

カヤンバ「え？次も？」

伊401「あと3回、この任務を行うよー」

伊168「それが終わったらもう2時間の任務があるから、頑張っていきましょう！」
ア—ロ—」

チャチャ—」

カヤンバ—」

—そして

長門「提督、準備万端だ！」

提督「そうか…皆、健闘を祈る…：の前にこれを皆にあげよう」つ護石

金剛「提督、これは？」

提督「これは俺達でいうお守りってやつさ」

那智「ありがたい…感謝するぞ」

提督「まあそのなんだ…今日こそクリアしようという意気込みと…無事で帰って来て

ほしいつてとこだな。皆、頑張ろう！」

艦娘一同「はいッ!!」ビシッ

—出撃—

長門「これは気を引き締めていかなければな！」

榛名「そうですね、それに…」

瑞鶴「？榛名、どうかしたの？」

榛名「提督：私たちの為に海域の戦略を考えたり、装備の強化や開発に携わったり、そして私たちのお守りを作ったりと一睡もしないで頑張ったのを見たんです」

赤城「：提督、私達よりも無理をしているようですね：」

金剛「Yes！今日こそ提督に勝利を刻んであげなくてはなりませんネ！」

那智「うむ！滾ってきたぞ！」

この日の出撃メンバーは一味も二味も違っていた

那智「どけっ！」

重巡り級「タワバツ！」

敵艦をワンパン撃破

瑞鶴「どんどん飛ばすわよー!!」

ビューンツ!!

戦艦ル級「ウワラバツ!」

那智「：瑞鶴の艦載機、やけに速く飛んでないか？」

赤城「：瑞鶴さん、それ弓ですか？」

瑞鶴「え？：：ってなんじゃこりゃ!？」つヒドウンボウ

ジンさんのサプライズがあったり（もちろん、明石さんに無茶苦茶怒られた）

金剛「ヘーイ、羅針盤妖精さん、今日はこれで勘弁してくれませんか？」つボーキ
羅針盤妖精「エー？」

榛名「金剛お姉さま、それはだめです！」

羅針盤の良いルート（ズルはしてませんよ！by榛名）だったり順調であった

長門「提督、順調に進んでいるぞ！」

提督『よし、一気にボス艦隊がいるところまで進撃してくれ!!』

金剛「みなさーん！気合い入れていきましょー!!」

赤城「!!艦載機が敵艦を捉えたようです！戦艦3機、重巡1機、駆逐2機です！」

瑞鶴「!!気を付けて！戦艦の掃射がくるわ！」

戦艦ル級A「ル級B、ル級C！ジェットストリームアタックヲシカケルゾ!!」ドド

ン

戦艦ル級B「オオー!!」ドドーン

戦艦ル級C「クラエー」ドドーン

瑞鶴「ただの砲撃じゃん!？」回避

金剛「しゃー、コンニャロー!!」回避

長門「ううむ、さすがはボス艦隊：我々もジェットストリー」

瑞鶴「やりませんよ」キツパリ

赤城「でも…着弾観測はできませんよ！」艦載機発射!!

艦載機へ榛名さん、主砲を少し右へ…

榛名「こちらですね？」狙いを付けて主砲を動かす

艦載機へ今です！撃ってください！

榛名「いきます！主砲放て!!」ドドーン

重巡り級「バカナーツ!?」critical!!撃沈!

戦艦ル級A「重巡り級ガ踏み台ニサレタ!?!」

金剛「私もいきますヨー!!バーニングラブ!!」主砲連射

駆逐二級「ゴクー!!」critical!!撃沈

戦艦ル級B「クリリンノコトカー!!」ドーン!!

赤城「きやあつ!?ま、まだやれます！」中破

長門「なんの!一気に押し込む!」ドドーン!!

戦艦ル級C「フオオツ!?ク、クソツタレー…」critical!!大破

那智「追撃だー!!」ドドーン

駆逐二級「ヤラセハセンゾー!!」撃沈!

戦艦ル級B「マカンコーサツポー!!」ドドーン!!

金剛「Shit!!こんな時につ…!!」中破

戦艦ル級A「私ノ戦闘力ハ53万デス」ドドーン!!

長門「まずい!瑞鶴、避ける!」

瑞鶴「え?…しまつ」 ●三ヒューン…

◆◆出撃前夜◆◆

瑞鶴「ジンさん?私に用事?」

ジン「…明日の出撃で、少し技を教えてやろうと思つてな」

瑞鶴「技?艦娘にはジンさん達のような技はいらないんじや?」

ジン「…きつと役に立つさ」

瑞鶴「そうかな?…一応聞くけどどんな技なの?」

◆◆◆
ジン「…『フレイム回避』つてのを知ってるか?」

瑞鶴「あぶなっ!?」回避!

長門「」

戦艦ル級A「」

金剛「瑞鶴すごいデース!」キラキラ

戦艦ル級B「マサカ…ミキリ!」

瑞鶴「このっ…危ないじゃないのよ!!」艦載機発射!!

ビューン!!

紫電さんへ俺は今!風になっている! バババババ

戦艦ル級A「ソ、ソソナバカナ!?」critical!!撃沈!

長門「よし…行けるぞ!提督、夜戦の許可を!!」

提督『おお!皆、もうひと頑張りだ!夜戦に突入!』

《夜戦開始!!》

長門「いくぞ!全主砲、斉射!てー…っ!!」ドドドーン

戦艦ル級C「サラダバツ!!」撃沈!!

戦艦ル級B「コウナツタラ、刺シ違エテヤル」ドドーン!!

金剛「きやああっ!?!」大破

榛名「お姉さま!?!」

金剛「は、榛名！決めてやりなサイ！」

榛名「：勝手は！榛名が、許しません!!」ドドドーン!!

戦艦ル級B「ヒツヒデブーツ!」critical!!撃沈!!

長門「やった…やったぞ、提督！敵艦隊撃破！我が艦隊の勝利だ!!」

提督『ほ、本当か!?や、ヤッターっ!!』

赤城「提督、お疲れ様です！」

提督『みんな、よく頑張ってくれた!…無事でよかった…本当によかった!』グスツ

瑞鶴「提督さん、泣くのはまだ早いよー」ニヤニヤ

金剛「そうデス。帰ってくるまでが出撃、ですよネ?」ニヤニヤ

提督『ああ、そうだったな。みんなこれから帰投してくれ』

那智「よし、皆帰ろう」

榛名「あれ?あれはもしかして…おーい!」ノシ

島風「おつ?どこかの鎮守府の艦隊?」

長門「こんなところで珍しいな。どうだ?よければ私たちの鎮守府に来ないか?」

島風「ん…いいよー!でも、私が一番はやいよ!」ビューン

那智「ちよ、そつちじゃないぞ、こつちだ！」

in廊下

明石「それで…ジンさんには一日中工廠で正座してもらってるのよ」ヤレヤレ

大淀「ま、まあ少し多めに見てはどうですか？」ニガワライ

天龍「おつす！聞いたぜ？沖ノ島クリアしたんだって？」

大淀「ええ、今から提督のところへ…あれ？」

天龍「ん？どうした？」

提督「（ \otimes ω \otimes ）スヤア…

天龍「…熟睡してやがる」ニガワライ

大淀「この頃寝ないでいましたからね」

明石「…しばらくくこうしときましようか」ニコニコ

【沖ノ島海域：クリア】

アーロ「た、ただいま…」ゲツソリ

阿武隈「あ、おかえりなさい。しばらくの間どこに行ってたんですか？」

チャチャ「まさか8日間+2時間も泳ぐとは…疲れたツチャ」ゲツソリ

カヤンバ「本当に粉骨砕身するかと思ったンバ……」ゲツソリ
伊401「でも、よく頑張ってたよ三人とも！」

伊168「よつ、海の男！」ニコニコ
木曾「ところで……」

北上「後ろにいる子は誰？」

アーロ「え？」チラッ

レーベ「え、えつと……」アタフタ

アーロ&チャチャ&カヤンバ「誰!？」Σ(？ロ？lll)

次なる海域へ……

●納涼、地底洞窟の冒険

ウイル「は、ハチミツ〜…」ゲツソリ

ホツポ「れ、レツプー…」シヨンポリ

ワル雨「アノ島カラ出テ5日目…二人トモシヨンポリシテルネ…」

レ級「マダ見ツカツテナインダモンナ。後ドレクライデ水鬼ガ待ツテル島ニ着クンダ？」

ヲ級「ヲツヲツ！」（、旦那）ノ

防空棲姫「ウ、ウルサイワネ!!…ホラ、見エタワヨ。アノ島ニイルワ」

——次の島に到着——

防空棲姫「駆逐水鬼ハコノドウクツニ補給分ヲ置イタト言ツテタワ」

ウイル「海へと続く洞窟か…」キョロキョロ

レ級「ハチミツガアルノカ？」

ウイル「…ない」（ω・ω）シヨポーン

ホツポ「補給ミツケタ！」ノシ

ヲ級「ヲっ！」（ω、ω）ノシ

ワル雨「アレ?…駆逐水鬼サンハイマセンネ…?」

防空棲姫「オカシイワ…水鬼ナラココデ待ッテルハズナノニ…」キヨロキヨロ
ウイル「奥にいるんじゃないか?」

ワル雨「奥ッテ…」

《先は真つ暗な洞窟》

レ級「…マ、マサカ…」ニガワライ

防空棲姫「ソ、ソウヨ。モシカシタラ周回シテルカモシレナイシ…」

ウイル「なら俺が見に行こうか?」

ホッポ「ソレジャア、ホッポモ行ク!!」

深海棲艦一同「えっ」

ウイル「もしかしたら水鬼ちゃんの他にもハチミツが見つかるかもしれないな」

ホッポ「レップーガイルカモシレナイ!」フンスフンス

ワル雨「じゃ、ジャア私モ行キマス!」

レ級「アッ!ズルイゾ!」

防空棲姫「べ、別ニイインジャナイ?陸地ハコリゴリヨ…」ガクブル

ヲ級「ヲツヲ」(ω—)ノシ

ウイル「それじゃあ行つてくるぜ」

ホツポ「レッツゴー！」

数分後

ウイル「けっこう深いな……」つ松明

ホツポ「お先真つ暗！」

ワル雨「す、水鬼サーン!! イタラ返事シテクダサーイ!!」

サーン……

ワル雨「返事ガナイ……大丈夫カナ？」

ホツポ「ウイル! アンナトコロニ光ルキノコガ!」

ウイル「あれはドキドキキノコだな……となると奥は平地があんのかな? まだ暗いから
しつかり捕まっとけよー」

ズルツ

ホツポ「オ?」

ワル雨「エ?」

ウイル「あつ……」

ウオワアアアア……

キャアアアアツ：

レ級&防空棲姫「」ビクッ

レ級「い、今ノ悲鳴：ウイル達ジャア：

防空棲姫「ち、違ウワヨ！キ、氣ノセイジヤナイノ？」

レ級&防空棲姫「：：」

レ級「チヨット見テクル」

防空棲姫「チヨ、待ツテタ方ガイイワヨ！」

レ級「怖イケド：ウイル達ガ心配ダ！！」

防空棲姫「エ、エツト：」チラッ

ヲ級「ヲ？」（・ω・？

サシミ「キユー？」

防空棲姫「アンタ達ハソコデ待ツテテナサイヨ！」

ヲ級「ヲ：」（・ω・、）シヨボーン

サシミ「キユー：」（・ω・、）シヨボーン

—— ウイル・ホツポ・ワル雨チーム ——

ウイル「あたたた：大丈夫か？」

ワル雨 「は、はい…途中で崖ニナツテタナンテ…」

ホツポ 「モノスゴク落ちタネ！」

ウイル 「こいつはたまげた。地底洞窟につながってたなんてな」

ホツポ 「地底洞窟!? カツコイイ！」 キラキラ

ワル雨 「とても広いデスネ…」 ボーゼン

ウイル 「こんだけ広いんだ。たぶん地上とつながる所がある。まずはそこを目指そう」

ホツポ 「ハイ！」

ワル雨 「…」

ウイル 「ワル雨ちゃん、どした？」

ワル雨 「エ!? あ、あつと、ナンデモナイデス！」 アタフタ

レ級&防空棲姫チーム

レ級 「ダカラ抱キ着クナツテ…」 ウーン

防空棲姫 「ダ、ダツテ…暗スギテ見エニクインダモノ」

レ級 「イベントデラスボス務メタンデシヨ? モット強気デイテヨ」

防空棲姫 「ダカラ艦娘ニハ強イワヨ! デカイ蜥蜴トカ反則デシヨ!!」 ワーワー

ブニヨツ

防空棲姫「キヤアツ!? ナンカ変ナノ触ツタ!」キヤーキヤー

レ級「イチイチウルサイナー。ホラ照明灯」ピカー

グニユグニユ…

防空棲姫「ナ、ナニコレ… 気持チ悪イワ…」ウゲー

レ級「ナンカノ塊ダネ… 動イテル?」

防空棲姫「変ナコトニナラナイウチニ壊スワヨ!」ドーン

グシヤツ

レ級「ウワツ、スゴイ飛ビ散ツタ」

防空棲姫「フウ、一先ズ落チ着イタワ…」

レ級「ソナコトヨリ早くウイル達と駆逐水鬼ヲ… アツ…」

防空棲姫「ドウシタノ? 見ツケタノ?」

レ級「アワワワ… (川。ㇿ。ㇿ)」

防空棲姫「チョット!! ハッキリ言イナサイヨ!」

レ級「ウ、後口…」

防空棲姫「エ? 後ろ?」クルツ

レ級「ハイ、何モイマセンデシター!」m9 (ㇿ。ㇿ) プギヤー

防空棲姫「モ、モウツ! ビックリシタジヤナイ! イツモイツモ私ヲ驚カセテ… アツ」

レ級「ん？同ジ手ハ私ニハ通用シナイヨ？」ニヤニヤ
防空棲姫「ウ、ウシロ……」アワワワ

レ級「マタマター、ソナナノニハ乗ラナイツテ」
防空棲姫「ダカラ後ロ！」

レ級「モト、イナイツテオチデシヨ？」クルリ

ギギネブラ「(◎皿◎)」ジーツ
レ級「……ウソ」

—— ウイル&ホツポ&ワル雨チーム ——

キヤアアアアア……

ホツポ「？何力聞コエタ？」

ウイル「ん？そうか？」

ワル雨「ウイルさん、何ヲ作ってるんデスカ？」

ウイル「げどく草とアオキノコを混ぜて解毒剤を作っている」
 ホツポ「苦ソウ…」ウゲー

ウイル「地底洞窟には独自の進化をした生物がいてな、数少ない餌を確実に仕留めるための毒を持っている奴もいるし不気味な形をした奴もいる。」

ワル雨「こ、怖そうデスネ…」

ウイル「見た目はな。でも慣れたらヘツチャラさ」

ホツポ「サスガハ冒険家!!」パチパチ

ワル雨「アツ…アレハ…」

ウイル「どうした？なんか見つけたか？」

ワル雨「コレは駆逐水鬼さんノ帽子…」

ホツポ「コンナトコロマデキテタンダ…」

ウイル「もしかしたらこの近くにいるかもしれないな。探してみよう」

レ級&防空棲姫チーム

レ級「ワアアアッ！何アレ!？」ダダダダダ

防空棲姫「怖いシ気持チ悪い！」ダダダダダ

防空棲姫「ト、トニカク!! サツサトウイル達ヲ見ウケテ、ウイルニ何トカシテモラウ

ワヨ！」ウワーン

レ級「ウイルウウウウツドコオオオオツ!」ウワーン
ブニヨツ

レ級「アフツ」

防空棲姫「キヤツ、こ、今度ハナニヨ…」

フルフル「(皿)？」

レ級「」

防空棲姫「」

フルフル「?(皿)三(皿)?」キヨロキヨロ

レ級「ナ、ナニアレ…」小聲

防空棲姫「私達が見エテナイミタイ。コッソリ逃ゲルワヨ…」小聲

フルフル「(皿)三(皿)」クンクン

レ級「…ニオイヲ嗅イデナイ?」

防空棲姫「…走ルワヨ!」

フルフル「ヴェアアアアアアアアッ!!」

ギギネブラ「ヴェアアアアアアアアアッ!!」

レ級&防空棲姫「キヤアアアアアッ!!」

—— ウイル&ホツポ&ワル雨チーム ——

キヤアアアアアア…モウイヤアアアア…

ウイル「…なんか聞こえた？気のせいかな」

ホツポ「ウイル！ココネバネバスル!!」フンス

ワル雨「コノ形、蜘蛛ノ巣…？」

ウイル「まずいな。ここはあいつの巣か…」キヨロキヨロ

ホツポ「イロンナモノガ釣り下ガツテル！」

ウイル「ネルスキュラっていうデツカイ蜘蛛が捕まえた餌をここでぶら下げてんだ」

ワル雨「こ、怖いですね…」

ウイル「主にゲリヨスという鳥なんだけど…あれもゲリヨス、あそこもゲリヨス、あれは…」

駆逐水鬼「ウーン…」気絶中

ウイル「誰!」(; 旦。)

ホツポ「駆逐水鬼ダー」

ワル雨「早く助けナキヤ!!」

ウイルの冒険日記 ◆月▲日

次の島、駆逐水鬼が待っているという島に到着した。彼女たちのいう資材は置いてあつたが肝心の駆逐水鬼が見当たらないようだ。もしかしたら奥にいるのかもしれないということで探すことにした。ついでにハチミツが見つかればいいなあ

なんてこつた、この先は地底洞窟となつていたのか。あまりにも広いから迷子になり兼ねない。早く見つけて地上へ出よう。道中ホツポもワル雨ちゃんも地底洞窟の広さには感動してたな。まあ良しとしよう。

まさか、ネルスキュラの巣で見つかるとは…奴が戻つてこないうちに助け出して脱出しよう。実はオレ、蜘蛛が苦手なのよね…

…そういえば、ワル雨ちゃん、時折しゃべり方が片言じゃない時があるな。俺との会話で慣れちゃつたかな？

☒ 始まりの夏、提督の失敗

提督「夏祭り？」

五月雨「はい！毎年夏に行われるお祭りです！」

提督「そんなんあったの？」

ジン「：：ユクモにはあったな」

ベル「でも俺達一度もそういうお祭り体験したことないね」

アール「なんたつて俺達にはそういう機会なかったからな」

五月雨「：：」ジーツ

提督「さ、五月雨、どうかしたのか？」

五月雨「提督!!その時はぜひ堪能してください！」

提督「お、おう：：」

in 中庭

島風「なーがーなーみー!!」

長波「おうっ!?!な、なんだ島風か」

島風「あそぼ、遊ぼー！」グイグイ

長波 「わかったわかった、何して遊ぶか？」

島風 「それじゃあかけっこしよー！」

提督 「おっ、仲いいな。」ニコニコ

島風 「提督もかけっこしませんか？私、とつても速いんです！」フランス

提督 「ほほう？面白そうだな？」

長波 「提督、島風はほんと速いんだぜ？かけっこじゃあ負けなしだし」

提督 「よし、ちよつと待ってる？」コッソリ何かを飲む

島風 & 長波 「？」クビカシゲ

数分後

那珂 「一緒にバンドを組みませんか？」キラキラ

阿武隈 「え!?私!？」

那珂 「はい！阿武隈ちゃんならベースかギターね。でも、センター是那珂ちゃん！」ド
ヤア

加古 「あれなにやってんの？」

高雄 「港のアイドル球磨ちゃんに対抗するためにバンドを結成するとか…」

ドドドドドドドド…

高雄 「あれ？何の音かしら？」

島風「提督ー！はっやーい！」ドドドドド

提督「フハハハハ！強走薬グレードを飲めば島風だつて追い越すぜ！」ダダダダダ
島風「でも、負けませんよー!!」ドドドドドド

那珂「ナカチャンクラッシュ!?」()、3、()…ドガッ
阿武隈「那珂ちゃん吹っ飛んだー!?!」

加古「…時折、提督が人間離れしているような気がする」

高雄「そうですね…ついつい忘れてしまうからほんとビックリするわ」

長波「ま、待ってくれー」タタタ…

in 甘味処 間宮

間宮「はい、間宮スペシャル2つですネ」つ間宮スペシャル

チャチャ「おおくっ！これはうまそうツチャ!!」

カヤンバ「初めて見るンバ!!」

天龍「へへへ、喜んでくれてよかったぜ」

初雪「てんりゅー太っ腹」

龍田「今日は天龍ちゃんの奢りねー」

チャチャ「そーいえば、夏祭りっていうのがあるツチャ」

雷「チャチャ達は知ってるの？」

カヤンバ「うむ！ワガハイ達、屋台を出したこともあるンバ！」

チャチャ「冒険の路銀稼ぎでやってたツチャ」

天龍「へー、どんな屋台を出してたんだ？」

カヤンバ「お面売ったり、花火を作って打ち上げたりしたンバ」

チャチャ「間違えてオレチャマ、花火になりかけたツチャ」

初雪「きたねえ花火にならなくてよかったね」ウンウン

雷「へー、チャチャとカヤンバの作る花火も見てみたいわ！」

チャチャ「よし、オレチャマ、一肌脱ぐツチャ！」

カヤンバ「ワガハイ達も花火を打ち上げるンバ！テンリユーの姐サン、手を貸してくれンバ!!」

天龍「は!?!オレが!?!」

チャチャ「そうと決まれば町役場に申請してくるツチャ!!」グイグイ

天龍「おい、ちよつと待てよ！」

in 街中

金剛「Yes! 素敵な浴衣を買って、提督のハートを鷲掴みにするデース!!」フランス龍驤「買い物はいいけれどこんな高い浴衣、金剛買えるん？」

時雨 「ゼロが五つもついている…」 値札を見る

青葉 「高いですねー…」

金剛 「もちろん…請求書は提督デス」 ドヤア

龍驥 「そこは自腹やろ!？」

時雨 「あれ? あそこにいるのは瑞鶴さんと…ジンさん?」

青葉 「あややや!?! これはスクープの予感!」

金剛 「気になりマスね…つけてみまシヨウ!!」

瑞鶴 「え? 私に浴衣を買ってくれるの?」

ジン 「…ああ、好きなを選んでくれ」

瑞鶴 「ほんと!?! ジンさんありがとう!」

金剛 「これは…デート!?!」 コツソリ

青葉 「これは…スクープです!!」 コツソリ

龍驥 「なんやて!?! これはえらいこつちや!?!」 コツソリ

時雨 「お、怒られちゃおうよ?」 ニガワライ

瑞鶴「でも、なんで私に？」

ジン「…いや、夏祭りとやらが近いだろ？故郷のユクモを思い出してな」

瑞鶴「？」

ジン「…ガキの頃だ。…まだあの溪流にもまだ村があつた時…」

瑞鶴「??」

ジン「…いや、…瑞鶴と楽しみたいだけだ」

瑞鶴「ちよ、ちよつと照れるじゃない！／／／」テレテレ

青葉「青葉、見ちゃいました！」コツソリ

金剛「私も提督に言われたいデース!!」コツソリ

i n 倉庫

不知火「アールさん、何しているんですか？」

アール「お？今は武器のメンテナンスさ。使つてない武器はほつたらかしにすると錆

びたり壊れたりしちまうからな」

霞「…見たことないものばかりね」

響「…？」

不知火「ぬいつ!?こ、これは…なんですか？」キラキラ

竜砲

アール「こいつはヘビイボウガンだ。(今、ぬいって言わなかった?) 重いぞ?」つ妃

響「…これは?」キラキラ

アール「それはライトボウガン。ヘビイよりも軽くて持ち歩きに便利だ」つ火竜砲

不知火&響「…」キラキラ

アール「…しゅ、出撃以外なら貸してもいいぞ?」

不知火&響「やったー!!」

—— 不知火、響、ボウガンの魅力にはまる

霞「…だ、大丈夫かしら…?」

in 工廠

提督「さーて、たまには建造でもするか」

レーベ「アドミラル、今日は僕も手伝うよ」

提督「あ、阿戸ミラバルカン?」

レーベ「アドミラル、提督の意味だよ。」

提督「あ、なるほど。大淀さんから聞いたけど、レーベは海外艦なんだね」

ミケ「旦那さん、どれくらい入れるかニヤ?」

レーベ「うん。ドイツの駆逐艦だよ。」

提督 「ヘードイツか…行ってみたいなあ」

ミケ 「旦那さん、どうするかニヤ？」

提督 「ん？じゃあA11500ぐらいでいいかな」

黒丸 「任せるニヤ！」

レーベ 「でも、提督のようなアーマーを着た人は初めて見るし、『ベルナ』や『ドンドルマ』なんてボクも見たことないよ？」

提督 「そつかー…今度、ドンドルマ流ケバブサンドでも作ってあげよう」

レーベ 「ほんとう!?提督、ダンケ！」

黒丸 「あつ、間違えてノヴァクリスタル入れたニヤ」

ミケ 「大丈夫ニヤ。バレなきや怒られないニヤ」

提督 「でも、レーベは寂しくないかい？」

レーベ 「ううん、心配しないで。ここの鎮守府は楽しいから寂しくはないよ」

提督 「よかった。…そういうえば他にも海外艦はどんなのがあるんだ？」

ミケ 「あ、5時間ニヤ」

黒丸 「バレないうちに高速建造材を使うニヤ」

妖精さん 「マカセテー」 つ 高速建造材

レーベ 「そうだね…駆逐艦はマックス、重巡はプリンツ。ボクを秘書官にして建造を

行えば戦艦のビスマルクお姉さまに会えるみたいだよ?」

提督「へー、戦艦もいるのか。じゃあさっそくやってみるか?」

レーベ「大型建造だから今は難しいかな。それに結構運もいるみたいだよ?」

00:00:00 ―― 〈新しい艦娘が建造されました!〉

提督「おつ、さっそくできたみたいだ」 工廠オープン

ビスマルク「Guten Tag. 私はビスマルク型戦艦のネームシップ、ビスマルク。よおく覚えておくのよ!」

レーベ「」

提督「」

ビスマルク「…あ、あれ?ど、どうしたの…?」アセアセ

―― 提督、さっそくやらかす ――

☒雪風と初霜の昆虫記～徹甲虫編～

明石「麦わら帽子は被った？」

雪風「はい！ばつちりです！」麦わら帽子を被る

明石「水筒はちゃんと持ってる？」

初霜「準備万端ですよ？」

雪風「虫取り網と虫かごもばつちりです！」

愛宕「…頑丈そうな虫網ですね」

アーロ「なんだって俺が作った虫あみグレードだからな！」フンス
五十鈴「資材を使った開発でどうやったら虫あみができるのよ…」

北上「鋼材、弾薬、ボーキ、燃料で虫アミを作る人初めて見た」

球磨「大丈夫クマ、提督なんかそれでピツケルを作ったクマ」

明石「虫よけスプレーもつけた？」

雪風「大丈夫です！」エツヘン

明石「じゃあ…アーロさん、ちゃんと見ていてくださいよ？」

アーロ「おう！任せとけ！」

初霜 「それでは行つてきます！」

雪風 「雪風、がんばりまーす！」

明石 「いつてらつしやーい!!」ノシ

提督 「…アール達、どつか行くのか？」

明石 「ええ、雪風ちゃん達と裏山へ行つて虫取りに行くみたいですよ」

長門 「…いいなあ〜」—ω・・〜チラッ

in 裏山

雪風 「初霜ちゃん！一緒にドスヘラクレスを捕まえましょう！」

初霜 「ええ！頑張りましょうね！」

アール 「ふふふ、このために昨日、あちこちにロイヤルハニーを塗っておいたぜ！」

初霜 「ロイヤルハニーですか？」

アール 「これさえ塗ればどんな虫も寄ってくるんだ！その中にドスヘラクレスがいる可能性があるぞ？」

雪風 「なんと！これは楽しみです！」

—— 第一ポイント

雪風 「沢山昆虫がいます！」キラキラ

アール 「おお、いっぱいいるな〜」キョロキョロ

初霜「アールロさん、このキラキラしたカブトムシはなんですか？」

アールロ「これはキラビートルだな。寒い所で飼わない限り長生きするぜ」

雪風「アールロさん！このピカピカのカブトムシはドスヘラクレスですわね！」

アールロ「こいつはロイヤルカブトだ。ドスヘラクレスじゃないけど結構レアな虫さ」
数分後――

雪風「うーん…ドスヘラクレス、いませんでしたね」シヨンボリ

初霜「落ち込まないで、まだ他の所にいるかもしれないわ」

アールロ「心配すんな、まだまだロイヤルハニーを付けた場所はあるんだ。次行ってみよー！」

第二ポイント

雪風「…」

初霜「…」

アオアシラ「クマー」(エ)、」ハチミツ食事中

雪風「…青いクマさん、初めて見ました」

初霜「…可愛いですね」

アールロ「…ま、まだ他にあるぜ！」

第三ポイント

雪風&初霜「……」

アオアシラ「クマー（（||?（エ）?||））ハチミツ食事中

雪風&初霜「（・・ω・・）シヨボーン」

アール「このクソクマがあああつ!!」

、（#。D。）ノ「Σ（∴（エ）。）ノクマー!?」
 「こやし玉で追い払いまし

た」

第四ポイント

アール「ここは大丈夫だな」

雪風「アールさん!あそこに虫がいつぱい飛んでいます!」

初霜「虫アミで捕まえましょう!」

アール「おつ?そんなに飛んでいるのか?」チラツ

ブナハブラの群れへ駆逐艦と聞いて飛んできました! p r p r :

アール「:そおいつ!!」つ【閃光玉】

ブナハブラの群れへあああつ!?目が、目があああつ!?

雪風「ま、まぶしいですー」

アール「ふ、二人とも、あれはいいんだよ?ドスヘラクレスを見つけよう!」

数分後

アーロ「うおおおっ！ドスヘラクレス、出てこいやー!!」虫アミを振り回す

雪風「初霜ちゃん、向こうに大きな木が見えます。行ってみましょう！」

初霜「そうね、あそこの木ならいるかもしれないですね！」

スタスタ

雪風「おおー！思った以上にでかいです！」

初霜「これなら…あれ？雪風ちゃん、あそこにいるのは…」

雪風「!!あれはもしかして…ドスヘラクレスですね！」

初霜「アーロさんをお願いします！」

アーロ「…ついに、ついに見つけたぞ！ドスヘラクレス！」ウオオオオ

ドスヘラクレスへ遂にお縄についちまったぜ

初霜「アーロさん！ドスヘラクレスを見つきました！」

アーロ「マジか！こっちも捕まえたぞ？」

ドスヘラクレスへ今のうちに逃げるぜっ!!

アーロ「あつ、逃げられた…」(っ・ω・っ) ショボーン

初霜「とつてもでかいんです！来てください！」

スタスタ

アーロ「雪風、ドスヘラクレスを見つけたんだって？」

雪風「はい！とつてもでかいです！」

初霜「あそこに大きな虫が！」上を指さす

アーロ「ん？どこらへんにい r！」

アルセルタス「モグモグ」食事中

アーロ「（ ㄩ ）??

雪風「初霜ちゃん！やつと見つけましたね！」キヤツキヤツ

初霜「ええ！あのドスヘラクレス、とてもかつこいいです！」キヤツキヤツ

アーロ（あ、アルセルタスウウツ!?）

雪風ちゃん、初霜ちゃん、あれカブトムシじゃなくてカマキリ……。まずいな……。近くにメスのゲネルセルタスがいるかもしれない。まだ小さい個体だし、追い払うか？いやしかし、この子達はドスヘラクレスだと喜んでるし……

雪風「さつそく捕まえましょう！」フンス

アーロ「えっ？」

初霜「この大きさならみんなびつくりしますね！」フンス

アーロ「えっ!？」

いやいや!?いくら小型でも結構危ないのよ!?どうする?この子達にもしものことがあつたらあつたら…

雪風「…アール口さん?捕まえないんですか?」

アール口「エツ!?あ、ああ、あれね。実はちよつと捕まえるのは難しいかなーって」アハハハ

初霜「?どうしてですか?」

アール口「えーと…あ、あれはドスヘラクレスの中でめちゃんこ強い、ドスヘラクレス・アルセルタスっていう虫で…」

雪風「一番強いんですね!」キラキラ

初霜「大きいですからね、でもかっこいいです!」キラキラ

アール口(ぎや、逆効果あああつ!?)

▶『これは危ないからあきらめよう』『俺に任せろ!捕まえてやる!』
アール口「ふ、二人とも、これは危ないからあきらめ…」

雪風「アール口さん、ダメですかあ?」ウルウル

初霜「一緒に捕まえましょうよ?」ウルウル

雪風&初霜「つぶらな瞳

アール口「…」

『これは危ないからあきらめよう』 ▶ 『俺に任せろ！捕まえてやる』ピコーン
 アーロ「そおおおいっ!!」、(#。D。)ノ」

アルセルタス「!?」落下

アーロ「俺に任せろ！捕まえてやる！」ウオオオオオツ

アルセルタス「、(#、D。)ノ」威嚇

雪風「すごいです！あのドスヘラクレス、かまを持っています！」

初霜「まるでカマキリみたいですわね！」

アーロ「うん！まんまカマキリなだけだね!?」つディアールテミス

さて、どうやって捕まえようか…その1、部位破壊せずに捕まえる。その2、弱らせ
 ないで捕まえる。その3なるべく無傷で捕まえる…うん、普段やつてる捕獲クエストよ
 り難しくね？

アーロ「ほ、捕獲麻醉玉を投げてみるか？」

雪風「アーロさん！ハチミツをあげたらどうですか？」

初霜「ロイヤルハニーです！」

アーロ「お、おお、まだ残りはあつたしな…餌付けできるか？」

雪風「アーロさん！雪風、あげてみます！」つハチミツ

初霜「こんなこともあるうかと、養蜂場から採取してきました！」つハチミツ
 アーロ「いや、ちよ、あぶな…」

アルセルタス「(#、㇗)？」

雪風「ドスヘラクレレスさん、どうぞ！」つハチミツ

アルセルタス「?(、㇗)三」チラッ

ス
 アーロ「(#、㇗)」ケガサシタラコロス ケガサシタラコロス ケガサシタラコロ
 ス

アルセルタス「Σ(。㇗)ー」ビクッ

初霜「お腹すいてないのかしら？」

アルセルタス「(；㇗)」モグモグ

雪風「おおっ！食べてくれてます！」ニコニコ

初霜「かっこいいですね！」ニコニコ

アーロ「：優しい世界や」ホッコリ

アルセルタス、捕獲成功

初霜「皆には秘密ですか？」

雪風「せっかく捕まえたのに…」

アーロ「こんなでつかい虫を連れてきたらみんなビクリするだろ？」

アルセルタス「(；；ω；)」つれてこられた…

アール「だから、ちゃんとお世話できるなら裏庭の林の所でこつそり飼育する。もちろん、俺と雪風と初霜の秘密だ」

雪風「はい！雪風、ちゃんとお世話します！」

初霜「私も頑張ります！」

アール「よし、いい子だ。ちゃんとお世話するんだぞ？」ナデナデ

雪風&初霜「はい！」

アール「お前は…この子達に怪我さしたらどうなるかわかってるなあ？」ジロリ
アルセルタス「(；；ム；)」ビクッ

翌日

提督「そつかー、ドスヘラクレスは見つかなかったか」

アール「まあな。なかなか見つからん。そうとうレアな虫だし。でも、二人とも喜んでくれたぜ」

提督「そいつはよかった。俺も虫取りしたかったなー」

アール「はははは、またの機会だな！」

提督「…ところで。今朝、裏庭で雪風と初霜が楽しそうにアルセルタスに乗って飛ん

でたけど…どういうことだ？」

アーロ「」ダッ

提督「にがさああああん!!」ダッ

このあとメチャクチャ怒られた。…取り敢えず被害はないのでしばらく飼うことになりました。

名前はまだない。天龍が雪風と初霜を乗せてとんでるアルセルタスを見て気絶したのは後の話。

●納涼、地底洞窟の冒険 脱出編

駆逐水鬼「ウ〜ン…」

ワル雨「ヨカッタ！怪我ハナイミタイデス！」

ウイル「むむ？この子、毒にかかっているな」

ホツポ「毒？治ル？」

ウイル「こんな時の為の解毒薬さ」つ解毒薬

駆逐水鬼「ンン…ココハ…ホツポ？」

ホツポ「蜘蛛ノ糸デグルグル巻キダッタケド大丈夫ダッタ？」

駆逐水鬼「ソウダッタ…洞窟ヲ探索シテイタ時、何カ大キナ物ニ背後ヲ取ラレテ…油断シタ」グヌヌ

ワル雨「デモ、もう大丈夫です！ウイルさんモイマスシ、一緒に洞窟を抜けましょう！」

駆逐水鬼「ウイル…？」

ウイル「ど、どもーっ。俺がウイルだ」（よく見ると臙装とかすげえな）

駆逐水鬼「…才前ガウイルカ」ジーッ

ウイル「お、おお。もしかして俺って悪評？」

駆逐水鬼「…ドンナ悪漢カ気ニハシテイタガ…ホツポヲ助け、私ヲ助けタ。お前ハ悪イ奴ジヤナイト信ジヨウ」

ウイル「よ、よかったー」

ホツポ「ウイル、トツテモイ人！」フンス

駆逐水鬼「ヨシ、コノ洞窟ヲ出ヨウ。ドコカラ行ケバイイノカワカルカ？」

ウイル「ネルスキュラの巣だから…多分中間のとこだ。地上までそこまで遠くないはず…」

ガサガサツ

ウイル「むっ!?この気配はっ！」

ネルスキュラ「(皿#) あ!野生のネルスキュラが飛び出してきた!

ホツポ「オツキイ蜘蛛ダー!!」

ワル雨「ド、毒々シイデスネ…」

駆逐水鬼「アイツダ!私ニ襲イ掛カツタ奴ニ間違イナイ!」

ウイル「お、お前達はさ、先に上へ目指してくれ!」ガクブル

ホツポ「ウイルガ武者震イシテル!」

ワル雨「あの蜘蛛、相当強インデスネ：ウイルさん！気ヲ付ケテ！」
 ウイル（ああは言つたけど：く、蜘蛛だけは苦手なんだよなああッ!!）ガクブル
 ネルスキュラ「、（#。皿。）ノ」

——一方その頃

レ級「ゼエ：ゼエ：ココハドコラ辺ダ？」

防空棲姫「ウ、ウイルく!!何トカシテヨく!!」ウワーン

レ級「モウ泣クナヨ、駆逐艦ナノニ強火力ナンドロ？」

防空棲姫「ウ、ウルサイワネ!!コンナ時ハウイルニ頼ルシカナイジヤナイ！」プンス

カ

レ級「コノ前マデハウイルガ嫌イダツタノニネー」ニヤニヤ

防空棲姫「ウ、ウガー!!ト、時ト場合ヨ！」

レ級「マアイイケド、兎に角ウイル達ヲ探サナクチャ」

防空棲姫「デモアノブヨブヨシタ奴等ニ出クワスノハイヤヨ」
 ガリツ

防空棲姫「キヤツ!?ナンカ臆装ニ噛みついてる!？」

レ級「ン?ナンダコイツハ？」

ギイギ「ヒギー」

防空棲姫「……」

レ級「……」

ギイギ「ピギ？」

防空棲姫&レ級「カ、カワイイ〜!!」

ウイル「うおおわあああつ?!」ε≡≡≡へ(； 且、)ノ

ネルスキュラ「三、(#。皿。)ノ」

ウイル「こ、ここまで離ればあいつらにも被害は及ばねえだろうな」

ネルスキュラ「、(#。皿。)三〇」糸の弾を出す

ウイル「うげつ!?糸が!」巻き付かれて身動きができない

ネルスキュラ「(#。皿。)」テクテク

ウイル「やばい、やばい!鋏角に噛まれる!」ジタバタ

ネルスキュラ「グルルアアアツ」口から鋏角を出す

ウイル「だから蜘蛛は苦手なんだよおおつ」ウワーン

駆逐水鬼「セイツ!!」艀装の手腕で鋏角を受け止める

ウイル「おっ!?!なんというパワー!」

駆逐水鬼「グウウツ…」プルプル

ネルスキュラ「(；；皿)」ググググ

駆逐水鬼「コノツ；；ホツポノ友達ヲ傷ツケハセンゾ！」

ウイル「ありがとう！助かったぜ！」糸を解いてネルスキュラに飛び乗る

ネルスキュラ「(；；皿)」ジタバタ

ウイル「オラオラオラあッ!!この御自慢のゲリヨスの皮と毒針を剥いでやる！」ザク

ザク

ネルスキュラ「(；；皿)」ジタバタ

ウイル「おらーっ！」毒針と外皮を破壊する

ネルスキュラ「Σ(；；皿)」マツシロ

駆逐水鬼「ヤツタ!!」

ネルスキュラ「三三(；；皿)」ウワーン

駆逐水鬼「アノ蜘蛛、逃ゲテイクゾ！」

ウイル「く、蜘蛛と戦うのはもう疲れた；；」ゲツソリ

ダカラコツチジャンイッテ!!

イヤコツチヨ!!

ピギー

ウイル「ん？この声は；；」

レ級「ダカラコツチハ何度モ通ツタツテノ!!」

防空棲姫「コツチハ通ツテナイツテバ!」

駆逐水鬼「レ級!防空棲姫!!」タタタツ

レ級「アツ!駆逐水鬼!」

防空棲姫「ヨカッタ無事ダツタノネ!」

駆逐水鬼「エエ、ウイルノオカゲデ助カツタ」

防空棲姫「ウイル!!ヨカッター!」ウワーン

レ級「ウイル、探シタヨー」

ウイル「お前たちも来てたのか。丁度いいや一緒に洞窟をで r y」

ギギネブラ「(◎皿◎)」天井からバクリ

レ級&防空棲姫&駆逐水鬼「タ、食ベラレタアアツ!」Σ(?!ロ?īīī)ガーン

ギギネブラ「(◎皿◎)」モグモグ

レ級「ヤメトケ!ウイルヲ食ベタラ腹下スゾ!」

防空棲姫「コノツ?!ウイルヲ食ベルンジヤナイ!」ドドーン

ギギネブラ「(◎皿◎)」ペッ

ウイル「おおっ！ビツクリしたあ…」

駆逐水鬼「ウイル！大丈夫？」

ウイル「ちよつと一瞬焦った」ニガワライ

防空棲姫「コノツコノツ！！イタクシテヤル！！」ドド、ドーン

ギギネブラ「(◎皿◎) #」ウガー

レ級「ウゲツ!?コイツモ黒クナツタ!？」

ギギネブラ「●三(◎皿◎) #」

ウイル「気を付けろー、こいつは毒を吐くぞー！」毒を避ける

防空棲姫「ソナモノ!!撃ち落とシテヤル！」ウガー

駆逐水鬼「ウイル、コイツハドウスレバイイ？」フンス

ウイル「あ、この子達、意外と武闘派なのね…」

レ級「ソリヤア…ネエ？」ニヤニヤ

ウイル「えーと…こいつはほつといて先に地上をめざそ？」

防空棲姫「ウイル！護衛ハ任せナサイ！」

駆逐水鬼「ウイルノ邪魔スルモノハ私ガ撃ち払ウ！」

ウイル「…本当に武闘派なのね」

ホツポ「ヨイシヨ、ヨイシヨ……」

ワル雨「ア！ホツポちゃん、外ノ光ガ見エルヨ。モウスグ出口ね！」

ホツポ「ヤッター！一番乗り！」タッタッタ

ワル雨「ホツポちゃん、危ないよ！」アタフタ

ホツポside

外の光が照らしている。出口に辿り着いたのだ。楽しい洞窟の冒険もこれで終わり。ハラハラとウキウキで楽しかったけどなんだか名残惜しい。ウイルと冒険したらまたきつと同じようなところに行けるだろう。そんなことを考えていた時だった。

外は一瞬、暴風雨が起きるかのように風が強く吹き荒れた。外は明るいのに何事かとビククリして洞窟の岩に屈んで様子を見た。目を凝らして視ると、銀色に光るものが見えた

レツプーだ！見とれている間に悠遊に歩く銀色のレツプーは、再び大きな風を巻き起こして空高く飛んでいった。

ホツポ「……」ポカーン

ワル雨「ホツポちゃん、どうかしたの？」

ホツポ「…カツコイイ」

ワル雨「？」

ウイル「や、やつと出られたあああ」ゲツソリ

レ級「デ、出口ダアアツ！」ヤツター

ホツポ「ウイル！レツプーガイタヨ!!」

ウイル「マジで!?どこだ!?俺が捕まえてやるぜ！」

ホツポ「向コウノ空へ飛ンデッタ！」

ウイル「そうか…見たかったな…」(・ω・)シヨボーン

駆逐水鬼「ウイルノオカゲデ外へ出ラレ、感謝スル」ペコリ

防空棲姫「モウ洞窟ハ嫌ネ…」ゲツソリ

ウイル「まあ冒険には時には洞窟だつて探検するもんさ。それじゃあヲ級の所へ戻つ

て移動しよう」

ホツポ「ハイ！」

ノツシノツシ

フルフル「(皿)三(皿)クンクン

ウイル「げっ、他にもフルフルもいたのかよ!？」

駆逐水鬼「ウイル、撃退ナラ任セロ!」フンス

防空棲姫「ウイルガ入レバ百人力ヨ!ナンダツテ撃チ落トシテヤルワ」ジャキンツ

ウイル「ちよ、君たち!?!一先ず合流が先だからね!？」

ウイルの冒険日記 ◆日▲日

やはり久々の地底洞窟の探索は楽しかった。次こそはピツケルを作つて採取をしようか。いや、ハチミツを見つけてけるのが先だな(キリツ

どうやらホツポがまたレップーを発見したらしい。ホツポ曰く『銀色にピカピカ!で風がビューン!で勢いよくシユバーツ!』らしい。うん、想像がつかない。レップーとは一体、ウゴゴゴ。俺も早くレップーを目の当たりにしたい。

ヲ級とさしみと合流して次の島へ出発。次こそはレップーとハチミツを見つけない!

防空棲姫ちゃんやんは駆逐水鬼ちゃんと一緒にいるといつもよりアグレッシブになるよ。うだ。息がぴつたりだね!…え?レ級、そうじゃないって?どういうことだ?

ウイル「…とここで、なんか俺の背中にひつついてる気がするんだけど…」

ギイギ「ピギー」

レ級&防空棲姫「♪くくく　ε、ε、ε；　ウーン…」

夏祭りに向けて、『我らの団』

母港

ビスマルク「鎧を着たアドミラル達、言語を話す二足歩行の猫、踊る不思議な小人……この鎮守府って変わったものが多すぎるわ」ハア

私が建造された途端に明石が提督にラリアットするわ、鎮守府内を歩いてみたらアールという人が入渠の女湯に突撃して龍田さんに磔にされるわ……どうなってるのこの鎮守府は!?

ビスマルク「私がすっかりしなくちゃ!じゃないとこの鎮守府はたるんでしまうわ!」フンス

長門「ビスマルク、なに怒っているんだ?」

ビスマルク「あら、長門。丁度よかったわ、貴女と一緒に提督達を叱ろうと……」

長門「?」両手にアイルー

ビスマルク「な、長門、そ、それは……?」

長門「アイルー達のことか?可愛いだろ?」キリッ

ビスマルク「」

ブルー「今から長門さんと街の祭りの資材を運ぶ力仕事をするニヤ!!」
スモモ「オイラ、初登場だけど…長門の姐さん、頼みますニヤ!」

長門「ビッグセブンに任せろ。そうだビスマルク、お前も手伝ってくれ」グイッ
ビスマルク「え、ちよ、えええっ!?!」

工廠

ガサゴソ、ガサゴソ

磯風「む?なんだこの音は?」

曙「な、なんか漁っている音ね…アーロさんかジンさんがまた懲りずにへんな鉱石を使つて建造しようとしてるのかしら?」

ガサゴソ

曙「あれ?アーロさん達じゃなさそうね」

磯風「あのボックスに何かいるぞ…!!」

ガサゴソガサゴソ

曙「コラー!!勝手に漁っちゃダメじゃないの!!」

??「O o p s !?!」ビクッ

磯風「これは…アイルー?」

?? 「Hey☆Babe、ビックリするじゃないか。話しかけるときはちゃんと目を見てTalk meだぜ？」

磯風（アフロだ）

曙（アフロ：：？）

?? 「Hey、俺が誰か気になるかって？」

曙（誰も言っていないわよ…）

磯風（このアイルー、私の考えを読めてるだど!?!）

美容師ネコ「俺は世界で有名な、カリスマ美容師ネコさ」

曙「知らないわよ」

磯風「知らないな」

美容師ネコ「What!?!俺を知らないとは…なんとフアーマーなどこへ来ちまったぜ」

磯風「アイルーのようだが、提督達の知り合いか？」

美容師ネコ「提督? Ok、彼らのことなら俺はよく知ってるぜ☆」

曙「…なんかうさんくさい」

美容師ネコ「Oops、お嬢ちゃん。舐めちゃいけないえ、こう見えても腕はカリスマさ」

曙「いや、人のボックスの中を漁る時点でおかしいわよ」

美容師ネコ「俺はここで有名になるためしばらくこの街にいる。待っているぜ、See you」ノシ

磯風「出て行ってしまったな。一体何者だったのか…」

ベル「おや、二人ともどうしたんだい？」

曙「あ、ベルさん。カリスマ美容師ネコっていうアイルーがいたんだけど…」

ベル「なんだって!？」

磯風「む、厄介な奴なのか？」

ベル「あいつは男限定で要望に応えずアフロにさせてしまう美容師なんだ！女性はいまくできるのに：!!」プンスカ

曙「：」ニガワライ

in中庭

那珂「愛宕さん！一緒にバンドを組みましょう！」

愛宕「え？私？？」

那珂「ええ！阿武隈ちゃんと私と一緒に！」

阿武隈「え!?私、確定なの!？」

愛宕「うーん、面白そうね、やってあげるわ」

那珂「いよっつしやあああっ!!」

高雄「那珂ちゃん!? そういうキャラだっけ!」

那珂「打倒、港町のアイドル『球磨ちゃん』!! 夏祭りまでに結成するんです!!」フン

ス

愛宕「張り切ってるわね」ウフフ

高雄「一応聞くけど、誰が何をするか決めてるの?」

那珂「もちろんです! ボーカルは那珂ちゃん!」

阿武隈「うん、そんな気はしてたわ」

那珂「ギターは阿武隈ちゃん! シンセサイザーは愛宕さん」

高雄「あとはベースとドラムね」

那珂「あつ、あと狩猟笛です」

高雄&阿武隈「えっ?」

那珂「ジンさんにバンドの話をしてたら『狩猟笛いれたら盛り上がるぞ』って言ってみました!」

阿武隈「…私、不安になってきました」

高雄「…阿武隈ちゃん、頑張つて」ポン

一方、港町のアイドルこと『球磨ちゃん』は…

木曾「ここが鎮守府の近くの街中か…」

北上「賑わってるねー」

球磨「夏祭りが近いクマ。いつもよりとても賑わってるクマ」

子供へあ、クマちゃんだー!! 子供へクマチャーン!!

街の人へウオオオオツクマチャーン!! お爺さんへクマチャンダ、アリガタヤアリガ

タヤ

球磨「クマー♪ありがとクマー」ノシ

木曾「…やけに人気じゃないか?」

漁師A「おっ!球磨ちゃんじゃないか!」

球磨「こんにちはクマ!! 今日美味しいサーモンを買いに来たクマ」

漁師B「いつもありがとうよ!」

漁師C「ん?後ろの子達は…?」

球磨「妹の北上と木曾クマ」

漁師ABC「…」ジーツ

北上&木曾「?」

漁師ABC「かっこかわいい!!」キタ(・▽・)ー!!

その日、港町のアイドル『球磨ちゃん』から『球磨ちゃんず』に変わった…

i n 港町

五月雨「♪」ウキウキ

提督「五月雨、今日は機嫌がいいな」

五月雨「だって、久々に提督と一緒に出かけなんです！」ウキウキ

提督「まあ…色々とお世話になってるからな」

五月雨「えへへへ、そうですかー？」ニヤニヤ

霞「一応私たちもいることを忘れてない？」

響「五月雨はうっかりさんだね」

レーベ「五月雨、とっても楽しそうだよ！」ニコニコ

五月雨「あわわ、ごめんなさい！」アタフタ

提督「さて、今日はシー・タンジニヤの料理が楽しめるカフェで好きな頼んでいいぞ！」

響「司令官、スパシーバ」

五月雨「ここでもアイルーさんがお料理してるんですね！」

霞「アイルーってなんでもできるのね…」

レーベ「タンジアビール…マスターベール…見たことのない料理がいっぱい！」キ

ラキラ

提督「あ、ちよつとお冷を取りに行つてくる」ガタツ

五月雨「チラッ

霞「五月雨、どうかしたの？」

五月雨「実は…さつきから私の方を見ている人がいるんです」

響「もしかして、あれ？」

??「ジーツ

レーベ「あの赤いウエスタンハットの西部風の服を着たおじいさん？」

霞「確かにこつちを見てニヤニヤしてるわね」

??「ニヤニヤ

五月雨「わ、私狙われているんでしょか」ビクビク

霞「そうはさせないわ。はやいとこ憲兵さんを…」

天龍「おーい、提督見なかつたか？提督に電報が来てるのを伝えに来たんだが」

レーベ「あ、天龍さん！丁度よかつたです！」

響「あそこで五月雨をニヤニヤと見ている人を追い払つて」

天龍「むつ、あのじいさんか…よし、任せろ」

?? 「…ん？」

天龍 「おい、じーさん。あんたあの子をジロジロ見てるんだが何か用か？（い、意外と体格が逞しくて強そうだ）」

?? 「…なに、あの子を見てたら『アイツ』の言う通りだなと感じてね」

天龍 「ん？何言ってるんだ？」

?? 「…いやー、（冒険に）連れて行きたいなーと思っつてついニヤニヤしてしまった、失礼をry」

天龍 「このつ変態があああつ!!」 ラリアット

?? 「へぶっ!!」

五月雨 「さすが、天龍さんです！」

霞 「このまま抑えといて！いますぐ憲兵さんを…」

提督 「な、なんか騒がしいけど大丈夫か!？」

レーベ 「アドミラル、危ない人を捕まえたよ！」

響 「今、天龍が抑えてる」

提督 「天龍、お前も無茶を…あつ」

天龍 「提督!!こいつ、ずっと五月雨を見てニヤニヤしてたんだぜ」

?? 「うーん…」

提督「だ、団長おおおお!?」

天龍「えっ?」

団長「ん? おおっ! 久しぶりだな! この街で『提督』とやらをしてると聞いてやってきたぞ!」

五月雨「で、提督、この人と知り合いなんですか!?!」

提督「ああ、俺達4人がこの鎮守府に着任する前、『我らの団』というキャラバンにいた頃に一緒に冒険してきた人でそのキャラバンのリーダーなんだ!」

天龍「…マジで?」ヤベエ

㊦ようこそ『我らの団』御一行様

天龍「ほんつとすみませんでしたあああつ!!」

団長「はっはっは、気にするな。それにしてもなかなかのパワーだったな」ニヤニヤ

提督「というか団長、来るなら来るでちゃんと知らせてくださいよー」

団長「いやー、居ても立っても居られなくなつてな!!」ハツハツハ

五月雨「提督達のご親友だったんですね…」

霞「司令官達がぶっ飛んでるわけがなんとなくわかつた気がするわ…」

提督「まさか一人で来たんですか？」

団長「いや、皆港町に来ているぞ。お前を見かけてなつい走つてしまつてはぐれたん

だかな。それにしても…」チラッ

レーベ「？」

響「？」

団長「この子達が『艦娘』という海の上を走る子なんだな」

五月雨「はい！私、五月雨って言います！」ニツコリ

霞「私は霞といます」ペコリ

天龍「お、俺は天龍っていうんだぜ！」

団長「ふむ、元気でいい子達じゃないか！やっぱり世界は広いな！」ワツハツハ

提督「天龍、すまないけどジンたちに『団長が来たって』伝えに行つてくれないか？」

天龍「おう！任せときな！」ダッ

団長「いや大丈夫だ。俺がソフィア達と合流して鎮守府に向かおう。お前たちは鎮守府で待つてくれ」ノシ

提督「あ、だんちよー…ほんとあの人は有言実行する人なんだから」

レーベ「団長さん、とっても賑やかな人ですね」

提督「こうしちやいられない！みんな、すまんけど俺は急いで鎮守府に戻らなくちゃ
！」

霞「いいわよ。私たちも行くわ。」

響「また別の機会に行けばいいしね」

五月雨「よーし、頑張つちやいます…ひゃっ！」ズコツ

天龍「ずっこけるなよー」

しばらくして、鎮守府門前

アーロ&ベル「だんちよおおおおおつ!!」

団長「アーロ、ベル！元気にしていたか？」ノシ

アーロ「マジで来たんっすか!? ちよう嬉しいですよ!」ウワーン
 ベル「団長も相変わらずですね!」

ジン「:ソフィア達も久しぶりだな」

ソフィア「ジンさん!! 皆さん、お久しぶりです!!」

加工担当「ここがお前たちの『鎮守府』という所か:」

加工屋の娘「みんなー! やっほー!」ノシ

竜人商人「わっはっは!! こりやまた賑やかなとこじやのう!」

屋台の料理長「本当に女の子ばかりで綺麗なとこニヤルね」

提督「みんな:鎮守府によるこそ! 部屋も用意しているしゆっくりしてください」

団長「お前たちと久々にゆっくりと話そうじゃないか! お前の提督業の話を聞きた
 い」

五月雨「それでは『我らの団』の皆さま! 鎮守府内をご案内いたしますね!」

ソフィア「この子がジンさん達が言ってた『艦娘』ですね! かわいいですねー」

加工担当「どうやって海の上を走るんだ? :」

加工屋の娘「可愛らしい衣装だね! じっくり見せて!」

五月雨「あわわわ!? そ、そんなに迫られると恥ずかしいです」アワワ

i n 工廠

加工担当「ここが艦娘の『艤装』という防具を造っているところか…」キョロキョロ
明石「ぼ、防具じゃないけど…同じ感じかしら」

白雪「ここでは艦娘を建造したり艤装の強化もしているんですよ!」

加工担当「強化…鎧玉を使って強化するのか?」

明石「…ジンさんが鎧玉を使ったがる訳がなんだか分かる気がする」

青葉「遠征から帰投いたしました!! さっそく『我らの団』の加工担当さんにインタビューを…」

加工担当「これが艤装か…」ジーツ

青葉「うえっ!? あ、あのー、ジーツとみられると照れますよー」アセアセ

加工担当「この子の持つてるもの、新しいライトボウガンのいい案になりそうだ…」ウ
ンウン

白雪「加工担当さん、物凄く熱心に見えますね」

ミケ「あの人は武具防具になるとすっごい夢中になるニヤ」

加工担当「そういえば、艦娘の建造は鉱石をどれくらい消費するんだ?」

明石「…アールさん達が鉱石を使ったがる気もなんとなくわかった気がするわ」

i n 食堂

屋台の料理長「食堂は結構広いニヤル。」

ヨモギ「女将！久しぶりですニヤ！」

マシロ「お頭、元気にしていましたかニヤ？」

サクラ「親方!!僕たち板前ブラザーズ、日々精進していますニヤ！」

龍田「屋台の料理長は女将なのか親方なのかわからないわねー」ウフフ

屋台の料理長「鎮守府内の艦娘全員のごはんを作っていると聞いて私もやる気がでたニヤル。今晚は私が料理を振るうニヤル」

赤城「豪勢な中華料理と聞いてきました！」ガタツ

磯風「中華と聞いて私も手伝いに来た！」ガタツ

時雨「あ、赤城さんと磯風はそこで待ってて」

五十鈴「わ、私たちが手伝うから大丈夫よ？」

赤城&磯風「(´・ω・´) ショボーン」

in 母港

加工屋の娘「すっごーい!!本当に海の上走ってる!」艦装に乗っている
長門「どうだ?もつと速く動くぞ!」

加工屋の娘「いやっほーっ!」

ビスマルク「提督の客人って聞いたけど…」チラッ

ソフィア「すごい武装ですね!スケッチしてもいいですか?」キラキラ

ビスマルク「ま、まあいいわ。構わないわよ！」

ソフィア「どうですか？とつても可愛いですよ！」

ビスマルク「描くのはやつ!?!しかもすつごくポップ!？」

竜人商人「不思議な光景じゃのう…海を走る少女、世界はまだまだ不思議でいっぱいじゃ」

皐月「商人のおじいちゃんに乗ってる動く筆筒も不思議だと思うよ？」

竜人商人「わっはっは、これでお相子じゃのう!…ん？その箱に入っているのはなんだい？」

如月「これですか？これは『失敗ペンギンとモコモコ』です。開発に失敗したら出てくる不思議な物ですわ」

竜人商人「!!」

その時竜人商人に電流走る

竜人商人「そ、それはどうするのかのう？」

如月「倉庫に置いてあるんですけど、そろそろいっぱいになって司令官も対処に困ってるんです」

竜人商人「よ、よければわしが全部貰ってもいいかのう？」

如月「ええ？えつとー…司令官に聞いてみますね？」

その後、大量の『失敗ペンギンとモコモコ』を持ち帰った竜人商人はバルバレにてそれを売り出し、買い物客やハンター達に好評でバカ売れしたのは艦娘達は知らない

i n 執務室

提督「…とまあ、鎮守府に移っても色々とありましたよ」

ベル「提督になって着任するまで長かったけどね」

団長『我らの団』を離れて、どうやっていのか気になっていたがお前たちが元気でよかった！」ワツハツハ

アーロ「ほんと団長来たって聞いた時はビックリしたぜー」

団長「ハツハツハ！お前の言う『さぶらいず』というやつさ！この鎮守府にいる艦娘達を見ているとみんな元気だ。お前たちを信頼しているし、活き活きしている！うらやましいぐらいさ」

ジン「…照れるな」(n*、ω、*n)

金剛「とってもダンディなおじ様デース」チラッ

龍驤「提督達にお茶を運ぶんやけど…」

榛名「さ、五月雨ちゃん大丈夫？」

五月雨「だ、だいじょうぶでーすう…」プルプル
不知火「一度に5つも運ぶのに少々無理なのは？」

五月雨「わ、わたし、頑張りますう」プルプル

川内「五月雨ちゃん、頑張つて！」

五月雨「し、失礼します！お、お茶を持ってき…」

ズコツ

五月雨「ひゃあああつ!?」湯呑ポーン

提督「おつと」パシパシッ

ジン「…ん」パシッ

ベル「ほいさ」パシッ

アール「あつづうううつ!?」

提督「はい、団長」つお茶

団長「おおつ！これは珍しいお茶の渡し方だな！」ウキウキ

五月雨「提督、すごいです！」キラキラ

龍驤「約一名、あかんけどな」

団長「ところで、屋台を建てたりと街の方がとても賑わっていたが何かあるのか？」

提督「夏祭りという祭りの準備だそうですよ」

団長 「『なつまつり』？これは面白そうだ！ぜひ見てみたいな！」
ベル 「それまでぜひこちらでゆつくりしてください！」

五月雨 「それで提督達は夏祭りは誰と一緒にいきますか？」
提督&ベル&アール 「えっ？」

五月雨 「え？」

団長 「？」

金剛 「これは……Chance!!」キラッ

ジン 「……」ズズズ

☒ それぞれの反応、ざわめく予感

i n 鎮守府廊下

川内「ん？あそこにいるのは大淀さん？」

雷「大淀さーん！」ノシ

ソフィア「大淀さんと思いましたが？残念、ソフィアちゃんです！」

川内「え!?遠くからみたら大淀さんに見えたよー」

加古「大淀さんの来ている服と取り換えたんだ」

大淀「こ、この服、ど、どうでしょうか…?」

ソフィア「大淀さん、結構似合いますよ！」

川内「こう並んでいるとどっちかわからなくなるね」

長門「大淀、丁度よかった。ちよつと来てくれ」

ソフィア「え？あ、私大淀さんじゃなくて…」アタフタ

長門「なに、ちよつと書類整理を手伝ってもらうだけだ」

大淀「な、長門さん、そっちはソフィアさんで…」

長門「ソフィアさん、今日もゆっくりしてください」

ソフィア「あーれー」

加古「…連れてかれちやったよ」

川内「だ、大丈夫かなあ…」

数十分後、人間違いしたことに気づいた長門はフライング土下座をしたらしい

i n 執務室

提督「うーむ…」

金剛「ていとくー!!何やらお悩みのようデスネー!」

提督「あ、ああ。今日のお昼ご飯は何頼もうかなーって」

金剛「ズコーツ

提督「?」

金剛「と、ところで団長さんはどこに行ったんデスか?」

提督「団長なら街の方へお出かけに行ったよ?」

金剛「そうデスか…」

提督「団長も『夏祭り』とやらに興味があつてな、俺も行ってみようかな?」

金剛「(これはChance!!) 提督、よかつたらわたry」

天龍「提督！役場の人たちが来てくれて連絡が来たぜ！」
提督「役場？急用か？」

天龍「ああ、なにやら慌ただしい感じだったぜ？」

提督「よし分かった、役場の方に行つてくる」

天龍「おう、行つてらっしゃい……ん？」

金剛「うー……」ゴゴゴゴゴ

天龍「……な、なんかわりい」

in 裏庭

雪風「アルちゃん、どうかしましたか？」

アルセルタス「(。D。；)三(；。D。)」ソワソワ

アール「んん？どうかしたのか？」

初霜「アールさん、アルちゃんの様子が落ち着かないようです……」

アール「おーよしよし……なにやら何かを感じてビツクリしているようだな。ストレスか？広い中庭に連れてリラックスさせればいいかもしれない」

雪風「わかりました！アルちゃん、中庭に行きましょう！」

アルセルタス「(；——ω——)」

アール「うーむ、虫の知らせ？……んなわけないか」

雪風「そういえばアーロさんは夏祭りは誰と行きますか？」

アーロ「ん？夏祭りっていうのはみんなで行くもんじやないのか？」

初霜「夏祭りは皆で行くのもあるんですけど誰か1人、二人きりで行くのもあるんですよ！」

雪風「二人の方がロマンチックだつて金剛さんが言つてました！」

アーロ「誰か1人、かあ……うーん、俺は選べねえなあ。皆で行くのが楽しいと思うぜ？」

雪風「それでしたら潮ちゃんやレーべちゃんも呼んで皆で行くのはどうでしょうか！」キヤツキヤ

キヤツキヤ
初霜「それも楽しそうね！それじゃあ響ちゃんや皐月ちゃんも呼びましょう！」

アーロ「微笑ましいなあ……だがアルセルタス、お前は留守番な？」

アルセルタス「Σ（。D。111）ガーン

i n 中庭

加工担当「……」ジーツ

連装砲ちゃん①「キュー？」クビカシゲ

加工屋の娘「カワイイーツ!!」ギユツ

連装砲ちゃん②「キュー！」ジタバタ

島風「どうでしょ？連装砲ちゃんもカワイイでしょ！」

長波「これはアイルー達の新しいライバルかもな？」ニヤニヤ

黒丸「なんと驚いたニヤ!?!オイラ達より不思議なのがいたとは!?!」ツンツン

連装砲ちゃん③「キュー」フンス

ミケ「自律型の連装砲、珍しいニヤ。島風だけなのかニヤ？」

島風「うーん、私の他にも『天津風』や『秋月』、『秋津洲』が持っているけど…」

長波「出会うのにけっこう難易度が高いから難しいかも」

加工屋の娘「ねえねえ！ちよつとデコつてもいい？水玉模様とかリボンとか」

島風「オウツ!？」

長波「め、迷彩柄ならまだいいんじゃないかね？」

加工担当「…オトモ連装砲」ボソ

黒丸「それちよつとシヤレにならないニヤ」

加工担当「もしくはオトモの連装砲ちゃん装備とか…」

連装砲ちゃん①「キュ!？」

ミケ「本当にやりそうなんでダメですニヤ」

i n 母港

ベル「え？ジンが瑞鶴と？」釣り中

青葉「ええ！これはスクープですよ！熱愛発覚です！」フランス

龍驤「来週に出す青葉新聞の一面記事にするとかで止まらないんや」

ベル「俺と提督は知ってたよ？」

青葉「え、!?本当ですか!？」

龍驤「い、いつからなん？」

ベル「うーん、ジンが瑞鶴に自分のお守りをあげちやう時だったかな？」

龍驤「へー、ジンさん意外とやり手やなあ」

青葉「で、どうなんですか!?!恋愛とか！」メモメモ

ベル「ジン、ああ見えて結構不器用だからわからないな。あ、でもジンが瑞鶴を気

に入るのとはなんとなくわかる気がする」

青葉「ほほう！それはどういうことでしょうか！」メモメモ

ベル「ん？それは秘密さ」

青葉「えー…仕方ありません、ここは諦めましょう…とところでベルさんは誰と行きま

すか？」

龍驤「あ、あかん！青葉その振りにはあかん！」

青葉「え？」

ベル「俺か？俺は……セイラーが似合う子がいいなあ……そうキャシーちゃんみたいに……」フルフル

青葉「あれ？ベルさん？」

ベル「……キャシーちゃん……結婚、おめでと……」グスン（ノド、）

龍驤「は、はやく止めないと！」

ベル「うわああああああああんっ!!」泣きながら海へドボーン

青葉&龍驤「ベルさああああああん?!」（；。D。）

——その後引き上げられたベルは酒場で那智と足柄と一緒に酒を飲みあった。もちろん、高雄と龍驤も巻き込んで

in 商店街

ジン「……と、言うわけで俺と行くぞ」キリッ

瑞鶴「え?……ええええっ?!私ですか!？」

ジン「……何か問題でも？」

瑞鶴「だ、だから浴衣とか買ってくれたんだ……」

ジン「……嫌だったか?」（ω・ω・）

瑞鶴「ぜ、全然嫌じゃないです!寧ろ嬉しいぐらいですよ!」

ジン「無言でガッツポーズ

瑞鶴「(ジンさんがあんなに喜んでるの初めて見た…)で、でもなんで私なんですか？」

ジン「…」ガタッ

瑞鶴「え？ジンさん？」

ジン「ガッツポーズしたままダツシユ

瑞鶴「ちよ、ジンさーん!? 喜びすぎですよ!」ダツ

i n 港町

霞「…それで、司令官は私に任せつきりで本当に困るのよねー」

団長「はっはっは、彼らは不器用だからな！」

霞「あつごめんなさい！団長さんに街を案内しているのに、なんだか愚痴を言ってる感じで…」

団長「なに、気にするな。もつと鎮守府とかの話聞きたいんだ」

霞「あ、あの!!司令官達が『我らの団』にいた頃の話とか聞きたいんです!!」

団長「ん？彼らからは聞いてないのか？」

霞「はい：司令官達は艦娘達に秘密にしているんです。私も最初は変な鎧を身につけたただの変な人達と思っていたんですけど…私達艦娘と同じように戦っているのを見て、もつと司令官達の事を知りたいと思っただけです」

団長「ふむふむ…いい子だな！実に気に入った！」ナデナデ
霞「ひやあつ!?な、撫でないでください！」

団長「いいだろう！『我らの団』のいた頃の話をしよう！そうだな…最初は彼らがパ
ンツ一丁でダレン・モーランを追い払った時の話をしようか」

霞「パ、パンツ一丁!？」赤面

団長「俺と彼らと最初にあつた…おや？あれはチャチャとカヤンバだな。何か慌てて
いるようだが…？」

i n 役場

提督「街を繋ぐ道の通行ができなくなった？」

役場の人A「はい、この街に続く道が木々が沢山倒れてたり岩が崩れていたりで通れ
なくなってます」

役場の人B「屋台に使う道具とか色々な物資が運ばれなくなって大変なんです」

役場の人C「ほかにも山からアオアシラやドスファンゴ達が下りてきたり、彼らは慌
ただしく怯えてる感じです」

役場の人D「何やら山の方で雨が降ってないのにカミナリが見えたり、恐ろしい獣の
雄叫びが聞こえたりするようです」

町長「このままでは…街に危険が及ぶかもしれせん」

提督「そうですか……山の方を調査しましょう。それまでは夏祭りも中止で街の人達には山に入らないよう伝えてください」

チャチャ「提督ー!! 一大事ツチャ!!」ドタドタ

提督「チャチャ、カヤンバ? どうした?」

カヤンバ「花火の材料のニトロダケを採取に山に登ってたら、いたんだンバ!」

チャチャ「すつごいジンオウガを見たツチャ!! 街に近づいているツチャ!!」

提督「やはりジンオウガか……俺がすぐに追い払っておこう」

カヤンバ「それがただのジンオウガじゃないンバ!!」

チャチャ「角がでつかくて……しかも金色に光ってるツチャ!!」

提督「……マジで? それ……『二つ名』やん!? ジン達に至急、知らせてくれ、『金雷公・ジンオウガ』が出たって!」

☒夏祭り防衛戦、『金雷公』ジンオウガ 前編

in 執務室

提督「緊急事態だ。二つ名、『金雷公・ジンオウガ』がこの街に近づいてきている」

ジン「…二つ名か、手強い奴だ」

ベル「街の人たちには避難指示はだしているのかい？」

提督「ああ、街の境目の所はチャチャやミケ達がバリケードを張っている。万が一の為街の人たちには避難するよう言った」

アール「輸送の物資や街に続くの道も閉じられてるからな…早く片付けねえとまずいぜ」

提督「金雷公を討伐もしくは撃退しない限り、夏祭りは中止だ」

ジン「…なんだと？」ピクリ

アール「…なんですと？」ピクリ

ベル「ちよ、二人とも怖すぎっ!？」

団長「提督!! 話は聞いたぞ! 『我らの団』も協力しよう!」

提督「団長、ありがとうございます!!」

団長「ああ、久々に『我らの団』の任務の開始だ!!」

i n 艦娘寮前の掲示板

【お知らせ 山の方で緊急事態が起きたため、解決するまで夏祭りは中止】

【 本当にスマヌ (´・ω・｀) b y 提督]

伊401「ええー…楽しみにしてたのにー」

五月雨「ううー、山の方で一体何があったんでしょっか…」

高雄「仕方ないわよ。山の方で事故が起きて道が通れなくなっただって聞いたわ」

時雨「それに解決するまでだから、無事に済んだらきつと再開するよ」

金剛「せっかく浴衣買ったのに残念デース…」

霞「…」

不知火「霞、どうかしましたか？」

霞「え？あ、な、なんでもないわ!」

響「物凄く怖い顔してたよ？」

初雪「よっぽど夏祭りを楽しみにしてたんだー」

霞「ち、違うわよ!」

i n 工廠

明石「あれ？何をしてるんですか？」

加工担当「…提督達にできることといたら俺は装備と武具の補強ぐらいだからな」
加工屋の娘「今こうしてみんなの防具の補強してるんですよ！」

明石「この鎧…全部提督達がつけてたやつですね…」

天龍「と、いうことは!!」

皐月「今の司令官達は鎧を付けていない！」

曙「つ、ついにクソ提督達の素顔が見れるのね!？」

伊168「そ、それで提督達は!？」

加工担当「…今は風呂に入っている」

加工屋の娘「そろそろ戻ってくると思うよ！」

提督「いやー、いい風呂だったなー!!」

伊168「き、来たっ!!」

皐月「ど、どんな顔かな…っ!!」

提督「お、さっすが加工担当!! いい感じじゃないか！」スカルヘッドそれ以外ユアミ

装備

ジン「…前よりも頑丈そうだ」ガークアフェイク

ベル「武器も一層綺麗になってるね！」ガルルガフェイク

アール「ん? どうした? 天龍達なんかスツゴイ落ち込んでいるが…」ファンゴフェイ

ク

天龍「…なんで頭だけ隠してんだよ！」

曙「へ、変態！タオル一丁で歩き回らないでよ！」

in 執務室

団長「支度はできているな？」

提督「勿論ですよ。うちけしの実とか砥石とか準備はできてます」

団長「あと…艦娘達には事情は話さなくていいのか？」

提督「…これを言ったら皆心配しますから。」

団長「かと言つても、お前達を気に掛けている子もいる。お前たちが気づいていないところで心配をしている子もいるんだ、あまり女の子を泣かせるちゃいかなぞ？」

提督「わ、わかってますよ。その為に無事に帰ってくるつもりなんですから」

団長「ま、『我らの団』のハンター達だ。俺みたいに無茶をする連中だからな！しつかりやつてこい」

提督「…時間ですね。そろそろ行かなくては」

団長「…ところで、お前もしかして『あの子』に『あ的事』を話していないな？」ニ

ヤニヤ

提督「ちよ、それはまだ言っていないですよ！照れますし、それに話しても引かれるだ

けですよー」アセアセ

団長「はっはっは!! 言ってみなきやわからんぞー?」ハツハツハ

ソファイア「提督さん、団長さん!! ギルド本部に通信して『金雷公・ジンオウガ』の討伐および撃退の許可が下りました!」

団長「うむ、いよいよだな…」

in母港

瑞鶴「うーん、折角ジンさんに浴衣を買ってもらったのに残念だなー」

ジン「…安心しろ。夏祭りは必ず再開させる」(・ω・)b

瑞鶴「ジンさん…」

ジン「…瑞鶴と楽しみたいからな。夏祭りを邪魔する輩は何人たりとも許さん」プンスカ(、口)ノ

瑞鶴「ジンさん、どうして私に気をかけてくれるの? これまで気にしてなかったけど…気になってきたの」

ジン「…瑞鶴、実はな…」ズイツ

瑞鶴「ジ、ジンさん!? ち、近いですっ!?」アワワ

ジン「…ス」

瑞鶴「ス?」

ジン「…スス…ス…ススス」ガクガクガク

瑞鶴「ジンさん!?物凄く震えてるよ!」

アール「おーい!もうすぐ出発だそうだぞ!ジン、支度できたか?」ノシ

ジン「ジロリ

アール「え?ジン、な、なんで怒っての?」

ジン「ε≡≡≡へ(≡、≡)ノ

アール「ちよ、なんで追いかけてくるんだ!」ε≡≡≡へ(≡、≡)ノ

瑞鶴「…」キョトーン

鎮守府門前

提督「アール、なんでたんこぶできてんだ?」

アール「…俺にもわからん」

ベル「ジン、なんかあったのかい?機嫌が悪そうだけど…?」

ジン「…」ムスツ

提督「さてと、本作戦は金雷公を発見し討伐および撃退をする。そして街へとつなぐ道の安全の確保!!…そして、夏祭りを再開させること!!」

屋台の料理長「これは私が作った中華おむすびニヤル。これを食べて気合いだすニヤルね」

ソフィア「提督さん、皆さんもけがなく無事に帰ってきてください」

団長「あとと俺に任せとけ！…それと、お前さん達ならできる、できる！」

アール「懐かしいな。よく団長さんに言われてたぜ」

ジン「…結構無茶されたけどな」

霞「司令官!!」

提督「ん？霞か。すまないな、ちよつと山の方にでかけr y」

霞「もう、また何も言わず勝手に行くんだから!!ちゃんと言を見て話さないよ！」プンスカ

提督「あー…そうだったな。ちよいと街の人たちと、お前たちを守りにいってくるー」

霞「…私達艦娘も行っちゃ駄目なの？私も戦えるのに、また何もできないなんて嫌よ

…!!」

提督「…お前には心配かけさせてんな。悪い」ナデナデ

霞「ちよ、撫でないでよ！子供じゃないんだから!!」

提督「大丈夫、無事に帰ってくるさ。…あと、この任務が終わったら…」

アール「それフラグやん」

ベル「アール、そこは空気読もう」ゲシツ

ジン「…無言のパンチ

アーロ「ゴメンヌ!?」() : (3) : () : () : () ドガツ

提督「…か、帰ってきてから話すわ。んじや行つてきまーす!!」ノシ

ソフィア「気を付けてくださいねー!!」ノシ

霞「…」ノシ

団長「霞ちゃん、あいつらは本当に不器用な連中さ。彼も心中は君たちを心配しているんだ」

霞「…でも、司令官はどうして私にああ言うのかわからないんです…」

団長「…提督が、彼が君を信頼している理由を知っているよ」

霞「え?」

団長「そうだな…彼が提督になろうとした理由でもある。彼が黒いラギアクルスに襲われ話は聞いているかい?」

霞「は、はい…ウイルっていう人を失った日のことですね?」

団長「そう…あれには話がもう少し続いていた。『我らの団』総員で彼らを探していた時、提督は無事に無人島の浜に打ち上げられていたのを見つけたんだ。数週間泣いていたが…提督は語つたんだ」

■ 『我らの団』にいた頃 ■

団長「…もう大丈夫か?」

提督「ええ……心配をおかけしました」

団長「よかった。……それにしても運がよかったな。黒いラギアに襲われずに島に無事に流れ着くなんてな」

提督「……実は、助けてもらったんです」

団長「？誰にだ？他のハンターもいなかっただはずだぞ？」

提督「……大樽にしがみ付いて流れていたんですけど、体力は消耗してて意識が朦朧としてたんです。あのまますり落ちて海の底に落ちていたかもしれませぬ。……でも、そんな時、見たんですよ。」

団長「な、なにをだ？」

提督「大きな鉄を背負って海の上を走る女の子です。『この手に掴まれ』って言って手を差し伸べて運んでくれたんですよ」

団長「……」

提督「背は子供ぐらいで……髪の色は銀色かな？あと緑のリボンをつけた小さなサイドテールで……でも途中で意識を失っちゃってあまりおぼえてないんですよね」

団長「……お前さん、寝ぼけてないか？」

提督「ちよ、マジですから!!」

団長「いやいや、海の上を走る時点で軽くホラーじゃないか！あ、でもなんか面白そ

うだな」

提督「俺、気になってしかたないです。団長、この真相、探ってみます!!」

団長「そうだな…気になるな!よし、俺も手伝おう!!」

■ ■

団長「と、まああちこちを転々として遂に遠い国で『艦娘』という海を走る女の子の話を聞いてぜひ提督をやりたい!と言って提督を目指したんだ」

霞「た、確かに司令官を助けたのは『霞』ですけど…」

団長「ああ、それにな…」

■ ■ 『我らの団』を離れる前□ ■

団長「そうか…『艦娘』のいる『鎮守府』という所で『提督』になるんだな」

提督「狩人兼提督のようです…団長、ご迷惑をおかけしました」

団長「なに、気にするな!」ハッハッハ

提督「元帥の話によると、俺を助けた子はいないがそれと同じ姿の子は沢山いると聞きました」

団長「そうか…もしその子に会ったらどうするんだ?」

提督「そうですね…まずは『ありがとう』と言おうと思います。そんでその子を守れるような提督になろうと思います」ニッコリ

■ ■
霞「(”。㇏)」

团长「でもあいつは不器用だ。ちゃんとまだ『ありがとう』って言ってないしなあ」ニ
ヤニヤ

霞「／／／／」ボンッ

团长「ハッハッハ!!後はあいつらの帰りを待とうか!」ナデナデ

霞「わ、私!!待ってられないわよ!」

团长「…あれ?」

霞「团长さん!!お願い!!」

团长「…多少はいつか。よし!『我らの団』もこっそり行こうか!!」

㊦夏祭り防衛戦、『金雷公』ジンオウガ 後編

溪流山中

アール「ここも派手に荒らされているなあ」

提督「よし、ここから手分けして探そう。金雷公を見つけたら『信号弾』を打ち上げてくれ」

ジン「…了解」

ベル「気を付けて行こう」

——アール side

アール「とは言ったものの…なかなか見つかんねーなあ」スタスタ
ガサガサツ

アール「む?! 茂みから何か来る!」つブラックフルガード

アオアシラ「(? (エ) ?)」クマー

アール「…ちよ、アオアシラか。ビビらすなよ」

ガサガサツ

ア—ロ「ややつ!」ビクッ

アオアシラB「(*? (エ)?*)」クマー

ア—ロ「…あ、アオアシラか…」

ガサガサッ

ア—ロ「むおっ!」ビクッ

アオアシラC「(、(エ)、)」クマー

ア—ロ「…」プツッ

クマー!?(。(エ)。;)\(#、∩)ノ「」(;) (エ)。)(;) (エ)。)ク

マー!?

—— ジン side

ジン「…ここにはいないな」キヨロキヨロ

ガサガサッ…

ジン「…風か。ん?これはススキ…」

ススキへ風でなびいてるぜ!!

ジン「…」ジ—ッ

ススキへ。。。ちよ、何見てんだよ!?

ジン「ススキ…ス、スキ…ジンオウガ、許すまじ…」ゴゴゴゴ
ススキへな、なんという恐ろしさだ…!?

——ベル side

ベル「森林のあたりもないなあ…」

シーン…

ベル「まったく、夏祭りの時にやってくるとはタイミング悪い。」

シーン…

ベル「夏祭りは皆と行こうかな。二人つきりは俺には照れるな…二人つきり…二人つきり…」プルプル

シーン…

ベル「二人つきり…キャシーちゃん…ウオオオオ！金雷公はどこだあつ」涙目
静かな森にただただベルの悲しみが木霊するだけだった…

——提督 side

提督「ふう…結構歩いたな…」

森林くザワザワ…

提督「森もざわついてる…奴はこの近くにいるかもしれない」

『それフラグやん』

提督「…いやいや、それはない…はず」ウーン…

ズーン…ズーン…

提督「ぬっ!?!この足音と電気の音はっ!!」

金雷公「Σ(、皿、)「グルルル…

提督「金色の毛色に大きい角、金色に帯びた電気…間違いない、二つ名『金雷公』ジ
ンオウガだ!!」っ信号弾

ピューン…

提督「早く駆けつけて来てくれよ…よし、いつちよやるぜ!!」っ輝王剣リオレウス

金雷公「>>(、皿、)《「ウオオオオ…ン!!

提督「ちよ、いきなりチャージかよ!真帯電状態にはさせねえぞ!」ダダダッ

金雷公「《、皿、》「ワオオオオオン!!

提督「ハイ駄目でしたー!!」三(3、)…

金雷公「《、皿、》ノ」尻尾叩き付け

提督「追撃の叩き付けか!!そうはいかんぞ!」大剣ガード

ダダダダダ

提督「…ん?」

ジン「見つけたぞ…祭りを邪魔する輩は貴様か…」っ氷刃【雪月花】

金雷公「Σ<<、皿、; >>」!?

提督「ちよ、ジン!? 気迫が恐ろしいことになってんだけど!」

ベル「や、やっと追いついた!」つジョーズクリーバー

アール「皆追いついたぜ!!」

提督「おっし、皆そろったな…行くぞ!」

アール「へへへ、4人そろってやるのは久しぶりだな」

ジン「…速攻で片づける」ゴゴゴゴ

ベル「相手は二つ名だ。油断は禁物だよ!」

金雷公「<<#、皿、>>」三〇 三〇

ベル「雷球の変化球が来る!」

アール「おら、ガードッ」盾で防ぐ

ジン「…むんっ」ジャスト回避

提督「どっこいしょ!!」エリアル回避

ジン「…まずはこかす」一文字切り

金雷公「Σ<<、皿、>>」!!

ベル「それじゃ俺は左側を!!」鬼人化して攻撃

金雷公「Σ<<、皿、; >>」ヨロッ

アール「バランスを崩したところを：」

提督「アールの高出力属性切りと俺の溜め切りを角に叩き込む！」

金雷公「三《、皿、#》」スッ

アール「なっ!? バックステップで避けやがるかよ!?」

金雷公「O《、皿、#》三」飛び掛り

アール「ふべしっ!?」Σ(；；)Π(

提督「あばす!」Σ(；；)Π(

ベル「二人とも!! 大丈夫か!?」っ生命の粉塵

提督「す、すまん、助かった：」

アール「た、体力が半分も減らされた気分：こいつG級かよ：」

金雷公「ウオオオン：」バリバリ

し

ジン「走れ、放電するぞ！」ダッ

アール「無規則に落雷しやがるー！」ダッ

金雷公「ワオオオオン!!」バリバリイッ!!

ベル「そいつ!!」エリアル回避からのジャンプ攻撃

金雷公「Σ《、皿、；》」乗られて暴れる

アーロ「ナイス乗り！」

提督「そのまま頼んだ！」

ベル「任せてちょうだい！」ザクザク

金雷公「《、皿、；》」転倒

提督「一気に畳み掛けろー!!」溜め切り

ジン「押しきる…!!」鬼刃斬り

アーロ「そりやそりやそりやあつ」属性解放切り

金雷公「《、皿、#》ワオン!!」起き上がる

ベル「!!あの動きは…皆、離れろ！」

金雷公「○∥《、皿、》∥○」回転薙ぎ払いサマーソルト

提督「ふぎやっ」Σ(； ㇿ)

アーロ「んなのありかよ!」Σ(； ㇿ)

ジン「ぐうっ!」Σ(#、ㇿ)

ベル「これでっ!!」つ生命の粉塵

アーロ「サンキュー！」

提督「ゆ、油断はできないな！」

ジン「…許すまじ」

金雷公「《#、皿》〇」ワオンツ

アーロ「やべえ!? ダイナミックお手が来るぞ!」

金雷公「《#、皿》〇」バリイッ!!

ジン「…っ!!」ジャスト回避

提督「まずい…こっちだ!」

金雷公「〇《、皿、#》」バリイッ

提督「よいしよっ」回避

金雷公「〇〓《、皿、》〓〇」二連続サマーソルト

提督「避けきれませーんっ!?」Σ≡つ); ∩。):…

アーロ「提督ー!?!」

提督「うう…『ネコのご根性の術』がついててよかつ…」

金雷公「〇《、皿、#》ワオンツ」超ダイナミックお手

提督（あ、やば…これくらったら…死ねる）

ベル「粉塵が…間に合えっ…!!」

ジン「…っ!!」ダッ

提督（フラグは…立てるもんじゃねえなあ…）

ヒューン… 三〇

金雷公「Σ《×皿× ;》」被弾っ!

ベル「粉塵、間に合った!」

アール「つか…今の砲弾って…」

ヒューン… 三●

ジン「もう一発くるぞ…?」

ピカッ

金雷公「Σ《×皿× ;》」眩暈

提督「閃光弾!?!…もしかして…」

——提督達がいるところから離れたところ

団長「おおっ!…さすが、砲撃は得意というだけあるじゃないか!」

霞「な、なんとか間に合ったわね…というよりあのでっかい狼は何なのよ!?!」

団長「あれが二つ名『金雷公』ジンオウガさ。結構強いぞ?」

ソフィア「はい霞ちゃん、メガホンです」つメガホン

霞「ありがとうございます。…」スウーッ

『このクス指令かあああんっ!!』

提督「は、はいっ!? てか霞!？」

アーロ「やーい怒られてやんのー」 m9 (ハハ) プギャー

『私に言いたい事があるんでしょ! だったら…:そんなところで倒れてないで立ち上がりなさい!!』

提督「…」

『それで、無事に戻ってきなさああああいつ!!』

ベル「流石、提督が信頼している子だね」ニヤニヤ

ジン「…羨ましい…」ボソツ

提督「…うっし!! 気合いが入ってきたぞ!」フンス

アーロ「それじゃあ、一気に蹴散らしてやろうぜ!!」

金雷公「○《、皿、#》三」飛び掛り

提督「そいやああっ!」ガードで押す

金雷公「Σ《、皿、;》」グググ:

アーロ「いくぜっ! ドタマに叩き込んでやる!」高出力属性解放切り

金雷公「Σ《×皿×》」スタン

ベル「ナイスタン! このまま切り刻む!」鬼人化して乱舞

ジン「…斬るっ!!」大回転鬼刃斬り

金雷公「Σ《、皿、；》三」尻尾切断

提督「そして…」つ大タル爆弾G

ドカアアアン

提督「これで決めるっ!!」エリアルジャンプして空中溜め3斬り

ズバンッ

金雷公「》(×皿×)《」ボタンキュー【目的を達成しました】

アーロ「…よっしやあー!!」

ベル「なんとか倒したね…」フウ

ジン「…討伐完了…街と夏祭りは守られた」

提督「あとはギルドに報告して任せておこう…さてと、確かあっちの方だったな」キョ

ロキョロ

アーロ「ん?どうかしたのか?」

提督「…」グツ(●、▽、) b

ベル「…なるほど、そういうことね」ニヤニヤ

ジン「…いいなあ」

i n 鎮守府門前

提督「団長、勝手に来たら危ないじゃないですかー」ジーツ

団長「はっはっは。す、すまん、どーしても見ていたくてな…」アセアセ

ベル「でも、団長達が援護してくれたおかげで無事に終わったんだしいいでしょ」
アール「まあ、誰かさんを叱咤する応援もあつたしね？」ニヤニヤ

提督「…あ、か、霞？」

霞「…」ムスーッ

提督「な、なあ霞？」アセアセ

霞「…なによ？」

提督「…ここで言うのもなんだが…な夏祭り、一緒に見に行かないか？」

霞「…」チラッ

ベル&アール&団長「(。ー。)」ニヤニヤ

ソフィア「ガンバレーっ」ノシ

霞「…か、構わないわよ？」

提督「…よしっ」

夏祭り防衛戦、金雷公・ジンオウガの討伐により成功す

☒ビバ!!夏祭り (。▽。)

夏祭り前夜

i n 艦娘寮

不知火「それで、浴衣は用意してなかったのですか？」

霞「だ、だって私が誘われるなんて思ってたし！」

磯風「そう言っつて、満更でもなさそうだな」

霞「う、うるさいわね！」 テレテレ

五月雨「それで浴衣は着ないんですか？」

霞「そうね、明日かっつても間に合わないし…」

足柄「そんなことがあるのかと!!」 バンツ!!

大淀「私達があらかじめ用意しておきました!!」 バンツ!!

霞「ポカーン

磯風「朝顔の絵がある浅葱色の浴衣か」

五月雨「とっつても綺麗ですね！」

足柄「さあ！これを着て行くのよ!!」 ゲツ

大淀「サイズも合わせてあるから大丈夫です！」

霞「あ、あんたたちは……」——？——〇ガクリ

in 執務室

アーロ「つかなんて徹夜して書類整理してんだよ!？」

提督「今夜は寝かさなぞ☆」

アーロ「やかましいわ！」

ベル「まあまあ、明日は祭りなんだからさ。それまでに終わらせとけば出掛けられるし」

ジン「……」コーヒー22杯目

団長「はっはっは、お前たちも根気強くやっているなあ！」

提督「まあ明日が明日ですからね」

ジン「……朝までに終わらせる」コーヒー23杯目

アーロ「もう眠いんですけどお……」ウトウト

ベル「ささ、もうひと頑張りだよ」

——翌朝……

アーロ「(⊗ ⊗ ⊗) スヤア……

団長「ぐぐぐ」zzzz

提督「お、終わったあ〜」グダア

ジン「…じゃ、行ってくる」ノシ

ベル「え、ちよつと休んでから行かないのかい？」

ジン「仕事の合間に寝たから大丈夫」(・ω・) b

提督「あ、だからじつとして動いてないなあと思ってたら寝てさぼってやがったな！」

ジン「…作戦なのだよ」ノシ

提督「俺だけ2倍苦労した気分だ…ちよつと寝る」(☒ω☒) スヤア…

ベル「…実際の所、ほぼ書類整理してたの俺だけなんですけど…」(・ω・) ショ

ポーン

i n 鎮守府門前

天龍「チャチャ、カヤンバ、支度はできたか？」

チャチャ「もうばつちりツチャ!!」

カヤンバ「しっかり調合したから花火を打ち上げるのが待ち遠しいンバ!!」

龍田「あら〜、天龍ちゃんお出かけなの〜？」

天龍「祭りの支度の手伝いさ。花火の準備の手伝いで俺は祭りが始まるまでには戻っ

てくるぜ。」

龍田「そういえば他の子達も祭りの支度の手伝いとかするみたいわね〜」

ビスマルク「あ！天龍、丁度よかったわ！ヘルプ!!」ダダダッ
天龍「ビスマルクじゃないか、どうかしたのか？」

ビスマルク「長門が私を祭りの手伝いに無理やり行かそうとしてるの！」
龍田「それはいいことじゃないのかしら？」

長門「ビスマルク!! さあお前も神輿の手伝いに行くぞ！」

ビスマルク「いやよ！なんで着替えなくちゃいけないのよ！」

長門「それは祭りだからさ！祭りと神輿と言えばハッピと……禪だっ!!」クワッ
天龍&龍田「それはだめです」

長門「む？ダメなのか……？」

――天龍と龍田の説得あって、禪は諦めたようです

――そして、夏祭り開始前――

i n 母港

ソフィア「皆さんとつても素敵ですね！」ウンウン

加工担当「……これがこの地方の『浴衣』というものなのか」

加工屋の娘「いいなく、私も買えばよかったなあ」

金剛「Yes、これで提督のハートをGetデース!!」フンス

球磨「クマー、今日はたつくさん食べるクマ」フンス

赤城「今日は…楽しみましょう」ジュールリ

木曾「赤城さん、食べることにしか考えてない…」

竜人商人「ふむふむ…スキルはないが『浴衣』というのもいいものじやのう!」

団長「うむ!彼らの反応が楽しみだ」ニヤニヤ

時雨「提督、まだ来てないね…」

臯月「司令官達、どんな格好で来るのかな?」

深雪「ここは空気を呼んで甚兵衛を着てるんじゃないかな?」

龍驤「そう思うやろ? たぶん…」

提督「やおお待たせ!!」いつもの黒炎王一式

ジン「…支度に遅れた」いつものEXジンオウ一式

アール「お!!皆、イイ浴衣じゃないか!」いつものザボアZ一式

ベル「皆よく似合ってるよ!」いつものペリオX一式

加古「やつぱりいつもの鎧姿だった!」

那珂「といふかなんで鎧着て遅れるんですか!」

阿武隈「まあ…そうですねー…」ニガワライ

ジン「瑞鶴、行こうか」瑞鶴を姫抱っこ

瑞鶴「え!?!ちよ、なんで姫抱っこですか!?!」

ジン「善は急げ、有言実行。真っ先に楽しむぞ」ダツ

瑞鶴「いや、まっ…ひゃああああつ!？」

アーロ「あいつはほんと気にしないタイプなのな。…お前ら、支度できたかか？」

雪風「はい!できてます!!」

雷「お小遣いもちやんと持つてるわ!」

アーロ「よし、夏祭りは人が多いからな?はぐれ無い様に手を繋いでいくぞ」

潮「は、はいっ!」

響「潮、はぐれ無い様にしよう」

皐月「最初はどこに行く?」

初霜「綿菓子を食べに行きましょう!」

レーベ「アドミラル、行ってきます!!」

アーロ「よし、それじゃあ出発!!」

駆逐艦ズ「はーい!!」

ベル「やれやれ、駆逐艦の子達を引き連れる姿はまるで遠足の先生みたいだ」ニヤニ

ヤ

長門「…ぐぬぬ、羨ましい」

ベル「さてと…俺はry」

那珂「ベルさんは誰と行くんですか？」

龍驤&青葉「あっ…」

ベル「…」ダツ

那智「これから、海水浴はまだ早いぞ？」ガシツ

榛名「よろしかったら私達と行きませんか？」

足柄「それで飲みましょう！」bグツ

ベル「…天使や」グスン（；ω；）

龍驤「ほな、提督。行ってくるでー」

青葉「取材、開始です！」

金剛「皆さん行ったみたいですね…よし！てーとry」

霞「クス司令官、遅いわよ！」プンスカ

提督「す、すまんな。祭りで挽回するさ」

霞「そう、それは楽しみね。じゃあ行きましようか」

金剛「…」（…ω…）シヨボーン

団長「あ…実は夏祭りは初めてでな、よかったら案内してくれないか？」

金剛「…yes!!それでは行きまシヨウ!!」

in夏祭り

瑞鶴「も、もう。二人で楽しみみたいならそう言ってくださいよー」

ジン「…」(トノソソ、)テヘペロ

瑞鶴「はあ…あ、射的がありますね!」

屋台のおっちゃん「へいらっしやい!」

瑞鶴「面白そうね…あ!!あの人形可愛いですね!」

ジン「8段目にあるクルペッコ人形か…俺が取つてやろう」

屋台のおっちゃん「ジンさんかー、ジンさんでもこいつは難しいぜ?」

ジン「なに、朝飯前さ」スツ

瑞鶴「ジ、ジンさん?なんで鉄砲を構えたまま座ってるんですか?」

ジン「え?しやがみ撃ちだけど?」ジャキンツ

Pon!! Pon!! Pon!! Pon!!

瑞鶴「なんでコルクが連続して発射できるんですか!?!」

屋台のおっちゃん「あちやー、やっぱりジンさんには敵わないぜー」

瑞鶴「おじさん、それでいいの!?!」

ジン「ほら、Getできたぞ?」ドヤア

瑞鶴「ま、まあいつか…ジンさん、ありがとう!」

雪風「アー口さん!!次は焼きトウモロコシにしましょう!」肩車してもらっている

皐月「いや、ここは林檎飴だよ!」

響「アールさん、焼きそばにしよう」

アール「あー、食べるのはいいけどな? ほぼ俺の奢りになってるんだけど?」

レーベ「アールさん、ボクはチョコバナナがいいなあ」

潮「き、金魚すくいがしたいですつ!!」

五月雨「アールさん、行きましょう!」

駆逐艦の子達「」つぶらな瞳でアールを見る

アール「:OK、金魚すくいして、チョコバナナと焼きそばと林檎飴とトウモロコシを買ってやろう!!」

その日、アールの財布の中身が力尽きた

―屋台『シー・タンジニャ』

ベル「タンジアビール追加おねがーい!!」

足柄「こっちは焼き鳥もちょうだい!!」

那智「やれやれ、いつもの飲みと変わらないなあ」

榛名「でも、いつもと違って楽しいですよ?」

スモモ「はーい、追加のタンジアビールと焼き鳥ニャ!!」

ブルー「今日は楽しんでってニャ!!」

ヨモギ「これは僕たちのサービスマン」つハジケイワシのアンチヨビサンド
榛名「ありがとうございます！」ニッコリ

ヨモギ「榛名さんのスマイルは天使ニヤ」うっとり

ブルー「これでネコ飯三杯もいけるニヤ」

ベル「どんどん飲むぞー!!」

足柄「ヒヤッハー!!」

龍驤「や、やっぱりうちは巻き込まれるんかい…」酔った

金剛「団長さん、屋台もいいけどステージの出し物も見物デスよ!!」

団長「うまい屋台の料理に楽しい出し物…実に面白いな!!」ワツハツハ

ソフィア『腕相撲 長門VSビスマルク』に『港町たこ焼き大食い大会、赤城襲来』、

『島風と長波のはつやくい手品』…どれも面白そうですね!」

時雨「今やる演目はなにかな？」

加工屋の娘「えーと…『那珂ちゃんのライブ狩猟笛乱入』?」

那珂「みんな〜!!今日は来てくれてありがとう〜!!」ノシ

観衆「ウオオオオオオッ!!」観衆「ナカチャーン」

那珂「今日はー、私たちのライブを楽しんでいってねー!!」

不知火「…これ本当に笛なのですか？」つ王牙琴「鳴雷」

阿武隈「う、うん…ジンさんが言ってたから「笛」じゃないのかな？」

愛宕「それじゃあ始めましょうか！」

那珂「楽しんでいってねー!!」

——— 那珂ちゃんのライブは成功した…しかし不知火のソコの演奏と狩獵笛の演技が一番盛り上がったと見ていた金剛はそう語る。

提督「いやー童心に帰った気分だ。霞、楽しんでいるか？」

霞「え、ええ！一応楽しんでるわよ！」お面も買ってる

提督「よかったよかった、楽しんでもらえてなによりさ」

霞「ま、まあ楽しいわね。次は綿菓子を買いますよ」

提督「よーし、それじゃあ行こうか」

霞「…ん」つ

提督「？」

霞「ほ、ほら手を繋ぎなさいよ！」テレテレ

提督「おつ、そうだな！」ニッコリ

霞「ほんとちよつと抜けてるんだから…」ハア

数十分後

提督「…もうすぐ花火が打ちあがる時間帯かな」懐中時計をチエック

霞「もうそんな時間なの？」

提督「そうだ、青葉に教えてもらったんだが絶景の花火スポットがあるらしいぞ？
行ってみよう！」

——移動中

霞「ちよつと離れた神社の石段ね…」キョロキョロ

シーン…

霞（ひと気のない所じゃないの!?!こ、これつてもしかして…!?!）顔真っ赤

提督「誰もいないのかー、いい景色なのにもつたいないなー。皆も来ればいいのに」

（。ー。）ウーン

霞「ズコーツ

提督「おっと、大丈夫か？」

霞（ほ、ほんとにこの司令官は抜けてるんだからー!!）プンスカ

——神社からちよつと離れた丘

瑞鶴「ここから花火が一望できそうですね！」

ジン「ああ…サンキューアオバ：」グッ

瑞鶴「あの、ジンさん、聞きたいことがあるんですけど…」

ジン「…ん？」

瑞鶴「聞きそびれてたんだけど、どうして私に気をかけてくれるんですか？」

ジン「…最初見たときはビックリした」

瑞鶴「え？」

ジン「…運命というのは不思議なものだな…」

瑞鶴「？」

ジン「…いや、気にしないでくれ。瑞鶴、率直に言おう」ズイツ

瑞鶴「は、はいっ!」ドキッ

ジン「…俺は、お前のことが…:sry」

アール「いやー、さっすが青葉だぜー!!こんなところにいいスポットがあるなんて
よー」

皐月「すっごーい!!いい眺め!!」

五月雨「花火が楽しみです!!」

潮「あ、ジンさんと瑞鶴さん!!」ノシ

アール「おっ?お前たちも青葉に聞いて…あれ?」

ジン「三バ(#、㊦)ノ

アーロ「だからなんで怒ってんだよおおっ!?」三々(; ㇏)ノ
瑞鶴「ポカーン

チャチャ「いよいよ時間だツチャ!!」

カヤンバ「大筒用意、でっかい花火を打ち上げるンバ!!」

妖精さん達&アイルー達「打ち上げよーい!!」

ウオオオオツノ

ヒューン…

ドドーン!!

ベル「おつ!! さっそく始まったな!」ほろ酔い

足柄「タマヤー!!」ヒヤッハー

榛名「綺麗な花火ですね!」

青葉「わ、私までなんで飲まされてるんですか〜」酔った

那智「さあ、花火を肴にどんどん飲むぞ!」

ドドーン!!

瑞鶴「ジンさん! 花火が上がりましたよ!」

ジン「…キレイだ」ウンウン

瑞鶴「…ジンさん、今日はとっても楽しかったです!!」ニッコリ

ジン「…カワ(・∇・) イイ!!」瑞鶴を抱き寄せる

瑞鶴「ちよ!?! ジンさん!?!」／／／／／

アーロ「…俺、なんでジンに怒られたんだ?」たんこぶ

響「…アーロさんが悪い」ナデナデ

レーベ「スツゴイ綺麗な花火だね!」

皐月「どんどん打ちあがってきたよ!」

ドドーン!!

団長「おお、これはいいものだな!」ウンウン

金剛「楽しんでもらえてよかったデース」

長門「いい腕相撲だった。またやろう!」勝者

ビスマルク「盛り上がったけど…も、もうやらないわよ!」

赤城「花火もいいですね…すみません、たこ焼き追加で!」

長波「不知火のソロすごかったぜ!!」

島風「すっごいはやーい!!」

不知火「これもいいものですね…」満足
ドドーン!!

提督「おお！見事な美しさだな！」ウンウン

霞「そうね、綺麗ね…」ウツトリ

提督「あ、そうだ。霞、言うの忘れてたことがあったよ」

霞「な、なによこんな時に…」

提督「…霞、『ありがとう』」ナデナデ

霞「…：ウン…」ギユツ（提督の手を握る）

提督「お？今日は怒らないのな？」

霞「も、もうバカア!!そこは空気読みなさいよ！」ポカポカ

——それぞれの夏祭りはそれぞれ楽しんだようです——

㊦さらば『我らの団』、艦隊氷の海へ

i n 執務室

提督「ええ!?!団長達帰っちゃうんですか!?!」

団長「ああ、お前たちの元気な姿も見れたし、艦娘達にも会えたし、この街も堪能したし、実に満足だ!」

ソフィア「ほ、本当はもう少し良かったんですけどね」

加工担当「…金雷公の事もあってギルド本部に伝達をしなくてはならなくなっただけ」

団長「それに龍歴院から手紙も来ててベルナに向かう用事もできたんだ」

ベル「団長達も忙しそうですね…」

ソフィア「でも、こちらの用事が済んだらまたこの鎮守府に来ようと思ってますよ!」

加工担当「…この街や鎮守府が気に入った。是非とも行きたい」

ジン「…いつでも来てくれ」

アール「それで団長、出立はいつなんです?」

団長「うん? 今日だ」

提督&アール&ベル「今日!?!」

ジン「…早いな。まあ団長らしい」ウンウン

団長「いやー唐突ですまん！その代り、お前たちにプレゼントがある。港に来てくれないか？」

i n 工 廠

加工屋の娘「よし…これで完成!!」

皐月「やったー!!ありがとう！」

深雪「今度は私にもお願いするぜ!!」

加工屋の娘「はくい、並んで並んでー」

明石「おや？何をしてるんですか？」

雷「明石さん、今艀装をデコってもらってるの！」

明石「で、デコ？」

皐月「じゃーん！かっこいいでしょ！」水玉模様

響「…ハラショー」迷彩柄

明石「これまた見事に彩られてるわね…」ナツトク

長門「…」ジーッ

明石「あ、長門さん？」

長門「…私のもデコってもらおうかな？」キリッ

i n 港町

屋台の料理長「美味しそうな食材も沢山入れたニヤル。…お前たちもしつかり料理の腕を磨くニヤルよ？」

ヨモギ「勿論ですニヤ!!」

マシロ「僕たち板前ブラザーズ、教えられたことは忘れないニヤ!!」

サクラ「これからも精進するニヤ!!」

竜人商人「さてと、『失敗ペンギンとモコモコ』も積んだし、『浴衣』も入れた…珍しいのを仕入れたわい！」

加工屋の娘「沢山お土産も買ったし、ばっちりだよ！」

間宮「これ…間宮羊羹です。また甘味処間宮にお越しく下さいね！」

ソフィア「ありがとうございます！また来たら『間宮スペシャル』のレシピ教えてく下さいね！」

団長「さあごらんあれ、『我らの団』の船、『イサナ号』だ!!」フランス

五月雨「わあ〜!!お魚さんの形をした船ですね！」キラキラ

天龍「これ…気球もついているから空を飛べるのか!？」

金剛「ワーオ!!とつてもstrongなホエールデスネ!!」

霞「これに乗って司令官達は冒険をしてたのね…」

提督「懐かしいな、イサナ号」

ジン「…よくこれに乗って旅をしたものだ」

アール「それで団長、プレゼントってやつは…？」

団長「ああ、あれを見てくれ!!」

提督「…あれはもう一隻のイサナ号!?」

ベル「ちよつと小さめだけど同じイサナ号だね」

団長「いかにも。お前たちの船として使ってくれ!! きつと役に立つさ!」

提督「団長…ありがとうございます」

加工担当「…支度は整った。いつでも出発できるぞ」

団長「おお。…名残惜しいが、いつもと変わらないお前達に会えてよかった」ウンウ

ン

ベル「水臭いですよ! またいつでも来てくださいな」

団長「おう。アール、お前は優しい男だがも少し空気を読める様にしとくんだな」

アール「おお!…え?」クビカシゲ

団長「ジン…慌てずゆっくり、そしてお前らしくガツン!! と、頑張るんだぞ」

ジン「…わかった」

団長「…それから瑞鶴ちゃん、ジンをよろしく頼んだ」

瑞鶴「え!? は、はいっ!」

団長「ベル、くよくよしないで男らしく、まっすぐ進むようしつかりするんだぞ?」
ベル「わ、わかってますよ団長う…」グスン（ノド、）

団長「提督…胸を張って、立派な男になれ。お前さんならできるぞ!」

提督「団長…やってみせますよ!」

団長「それから霞ちゃん…少し抜けてる提督だが、コイツの傍で支えてやってくれ」
霞「…ええ、もちろん。司令官をしつかり支えてあげるわ!」

団長「はっはっは、さあ出発だ!! 実にいい冒険だった! では皆、また会おう!!」ノシ
加工担当「…またな」ノシ

加工屋の娘「きつとまた来るからね!!」ノシ

竜人商人「いい思い出になったぞー」ノシ

屋台の料理長「またご馳走を振るまつてあげるニヤル!!」ノシ
ソフィア「それではまた会いましょう!!」ノシ

提督「待ってますからね!!」ノシ

艦娘達「さよなら!!」ノシ

天龍「すっげえ! マジで空を飛んだぞ!」

金剛「空飛ぶホエール: ファンタスティック!!」

瑞鶴「空飛ぶ船かあ…いいなあ」

ジン「…また会えるかな」

ベル「きつとすぐに会えるさ」

霞「ほんと…面白くて素敵な人達ね」

アーロ「（ノド、）シクシク

不知火「ほら、元気をだしてください」つハンカチ

提督「…さて、鎮守府に戻ったら任務に就こうか…明日で！」

艦娘達「明日かよ!?!」

i n 執務室

大淀「提督、次の海域は『北方海域』『西方海域』の二つの海域ですね」

アール「北方海域は氷海や雪山のある所だったな」

ベル「西方海域は確か原生林や古代林もあつたね」

提督「二つか…北方海域にしよう。」

ジン「…いや、ここは西方だ」

提督&ジン「…」

提督&ジン「じゃんけんポン!!」 提督：グー ジン：チョキ

大淀「ど、どちらから始めても問題はありませんよ…」ニガワライ
ベル「北方は寒そうだねー」

アール「ここはあれだなホットドリンクを常備させとくか」

in母港

提督「まずは北方海域、モーレイ海へ出撃だ！潮を旗艦に、那珂、愛宕、ビスマルク、龍驤、赤城の6名で編成する」

ビスマルク「やつと私の出番ね…ドイツの戦艦の実力を見せてあげるんだから!!」

那珂「よーし歌も戦闘も頑張っちゃうからね☆」

曙「う、潮、旗艦は大丈夫なの？」

潮「うん、大丈夫!!ちゃんと務めてみせるからね！」

愛宕「龍驤さん、二日酔いの方はどう？」

龍驤「う、うんなんとか…もしもの時は胸貸して…ってやかましいわ！」

愛宕「うふふ、大丈夫そうね〜」ウフフ

提督「北方は寒いと聞いたのでこれを配布する」つホットドリンク

赤城「これは…飲み物？」

ジン「…ホットドリンクだ」

龍驤「真つ赤で明らかーに辛そうな気がするんだけど…」

ベル「これさえ飲めば寒さはへっちゃらになるよ」

アール「忘れたらクエストをリタイアするぐらい重要なもんだからな！」

ビスマルク「ほんと提督の住んでたところの道具って色々とおかしいわよね…」

提督「よし…潮、頑張れるか？」

潮「提督、私頑張ってみせます!! それでは行つてきます!!」ノシ

提督「おーし、頑張つてなー!!」ノシ

艦隊、北方海域へ出撃

i nキス島守備隊基地

兵士A「はあつ…はあつ…た、助けてくれ!!」

兵士B「どうした?急に大慌てで入つてきて、何事か?」

兵士C「また深海棲艦が襲撃してきたのか?」

兵士D「それより今日入ってくる物資はどうしたんだ?」

兵士A「そ…それが…確かに物資は受け取つて…基地まで輸送してたんだが…」

兵士B「落ち着けてほら深呼吸」ポンポン

兵士C「ほら水も飲むか?」つ水

兵士A「あ、ああ…それで、その途中で襲われたんだよ!」

兵士D 「何に？まさかマジで深海棲艦か？」

兵士B 「でも最近見かけないよな？」

兵士A 「深海棲艦よりもやべえんだよ！」

兵士C 「落ち着けて…何に襲われたんだ？」

兵士A 「…サメだ…バカでかいサメが襲って来たんだ！」

兵士B 「サメエ？何言ってるんだよ。サメが陸地にいるわけねえだろ」

兵士A 「サメだったんだよ！しかも4本も足がついてて…物資を丸のみしやがったんだ！」

兵士D 「…お前は新人だったな。最近疲れてんだろ。今日はしっかり休めや」

兵士A 「本当に見たんだって！しかもそのサメ、こっちに向かっているんだ！」

兵士B 「おーよしよし、わかったからしっかり休め」

——その後、キス島守備隊基地からSOSの緊急報告が来たのは提督たちがモーレイ海を攻略した後のことである

● 離島、泡まみれ

ウイル「フンフンフフーン♪」カキカキ

ホツポ「ウイル、何書イテルノ？」

ウイル「冒険日記さ。これだけは海の藻屑にならなくてよかった」

レ級「普通水に濡れたらダメなんじゃ……」

ウイル「細かい事は気にするな！」ドヤア

ホツポ「ホツポモ日記書キタイ!!」

ウイル「いいぞ！まだ道具の袋の中にはまだ白紙の日記があるからな！」

ホツポ「ヤッター!!」

防空棲姫「時折、ウイルノ道具袋ノ容量ガオカシイト思ウノヨネ……」

駆逐棲姫「ア、アマリ気ニシナイ方ガイイト思ウヨ？」ニガワライ

ヲ級「!!ヲツ!!」Σ（・ω・）

ウイル「ん？どうした？何かあったのか？」

ヲ級「ヲ……ヲツヲツ!!」（・ω・）

駆逐水鬼「コレハ通信ダネ……ヲ級、誰カラ？」

ヲ級「ヲツ：ヲツヲツヲ!!」(、ω、)三(、ω、)

駆逐水鬼「フム：離島棲鬼カラ：フムフム」

ウイル「離島棲鬼？」

ホツポ「離島二拠点ヲ置イテルノ!!冬ニナルト暖カイカラホツポ達モ遊ビニ行ツテルヨ！」

レ級「ソレデ、離島棲鬼カラナンテ？」

ヲ級「ヲツヲツ!!」(、ω、)三(、ω、)

駆逐水鬼「住処、メチャクチャ：助ケテクレトノコトダ」

防空棲姫「離島棲鬼ガ慌テルナンテ珍シイワネ…」

ウイル「こうしちやいられないな！助けに行こう！」

ホツポ「離島棲鬼ノ所へ行コウ!!」

防空棲姫「別ニ私達ダケデモ構ワナイノニ、ウイルガ行ク必要モナイカモシレナイワヨ？」

ウイル「何言つてんだ、俺はこういうのはほつとけないんでね」

駆逐棲姫「ア、アノ、ウイルさんモコウ言ツテマスシ皆デ行キマセンカ？」

防空棲姫「：仕方ナイワネ。」ヤレヤレ

レ級「ウイルツテナンダカンダ言ツテ世話好キナ性格ダナ」ニヤニヤ

ウイル「…『困っている人がいたら助けてやる』。団長がよく言ってたからな」
 ホツポ「ダンチョー？」クビカシゲ

ウイル「ああ、『我らの団』っていうキャラバンのリーダーでな、俺が離れる前に一緒に冒険した仲間さ」

防空棲姫「ウイルガアレダカラ団長トイウ人ハモットブツ飛ンデイソウネ…」

離島沿岸

駆逐棲姫「見エテキマシタ、アレガ離島基地デス」

ウイル「おおー、見る感じハチミツがありそうな南国系の島だな！」

防空棲姫「見た感じジヤ何モナサソウダケド…」

ヲ級「ヲツヲツ!!」(´ω´)ノシ

レ級「ソウ言ツテタラ見エテキタゾー」

離島棲鬼「モウ、遅イジヤナイ! コツチハ住処ヲ追イ出サレチャツタワヨ!!」ウワー

ン

ウイル「あの子が離島棲鬼…(すごい髪が長いなあ…)」フムフム

離島棲鬼「ゲツ!? アンタ誰ヨ!? 人間!?!」ギョツ

防空棲姫「安心シテ、ウイルハ竜人族? ダケド私タチノ味方ヨ」

ホツポ「ホツポガ証明スル!! ウイルハイイ人!!」フンス

離島棲鬼「アツ、モシカシテ先週防空棲姫が通信テ知ラセタホツポヲ勝手に連れ出した奴？」ジーツ

防空棲姫「ア、アレハ誤報ヨ！ウ、ウイルハ悪イ奴ジャナイ！！」アタフタ

レ級「ソウイエバ離島棲鬼、艦装ハドウシタ？」

駆逐水鬼「ソレニ住処ニ何がアツタノダ？」

離島棲鬼「ソウネ…今ノ時間ナラ『ヤツ』ハ現レナイダロウシ、ツイテキテ。見レバワカルワ」

i n 離島棲鬼の住処

ウイル「これは…ひどいな」

ホツポ「スツゴイ泡まみれ！！」

駆逐棲姫「離島棲鬼さんノ艦装モ泡まみレデスネ」

防空棲姫「何がアツタノカ話セル？」

離島棲鬼「エエ…三日前ノ出来事ダツタワ。海域デ艦娘達ト戦闘ヲシテ夜戦デ敗北シタカラ住処ニ戻ツタラ『ヤツ』ガイタノヨ。」

駆逐水鬼「奴？」

離島棲鬼「寝床モ弾薬庫モ彼方此方泡まみレニシテ、追イ払ウモチヨコマカト避ケルシ、仕舞には私も泡まみれにナツテ艦装ガ使エナクナツタノヨ！結局住処ヲ追イ出サレ

シマツタワ!」ウワーン

レ級「オオ、ヨシヨシ、泣クンジャナイヨ」ナデナデ

ウイル「うーん…」ジーツ

ホツポ「ウイル、何トカナラナイ?」

ウイル「なあ、その『ヤツ』は細長くて、長い爪を持ったキツネみたいな奴じゃないか?」

離島棲鬼「!!ソウヨ!!貴方、ヨクワカッタワネ?」

ウイル「…この泡は『泡狐竜・タマミツネ』の仕業だな」

駆逐水鬼「ホ、ホウコリユウ?」

ウイル「海竜種の仲間で、ピンクと白の色鮮やかな体色、艶やかな紫色の尻尾、そして花の様な色合いの顔と見た目は鮮やかで美しい竜なんだが…奴が分泌する体液と体毛をすり合わせる事によってこのような泡を出すんだ」

ホツポ「」ポカーン

防空棲姫「ワ、ワカル様ニ説明シテ!!」

ウイル「まあ要約するとこの泡を浴びてしまうとすんごい滑る」

レ級「ソレデドウシテ離島棲鬼ノ住処ニヤツテキタンダ?」

ウイル「この住処の環境がタマミツネには最適な場所と判断したんだろうな。離島棲

鬼を追い払ってここを自分の縄張りにしたところだ」

ヲ級「ヲツヲツ？」

ウイル「…うん、わからないんだけど」(；；ωω)

駆逐棲姫『ドウニカデキナイノ？』ツテ言つてますよ？」

ウイル「この泡なら…」ガサゴソ

ホツポ「ソレハ何？」

ウイル「消散剤だ。これをかければ泡を消せるぞ」

駆逐棲姫「凄イデスネ!!ウイルさんの道具袋ニハナンデモアルンデスネ!」キラキラ
レ級「ウン、ウイルの道具袋ハ四次元ポケットナノカト思えてきた」

離島棲鬼「デモ…マタソノ『タマミツネ』ハ戻ツテクルワヨ？」

ウイル「それなら、俺に任せる!タマミツネをこの住処に近づけないようにさせるさ」

離島棲鬼「ア、貴方ガ?...デキルノカシラ？」

レ級「ウイルナラ心配ナイ」

防空棲姫「私達カラ艦娘達ヨリモ凄イ化ケ物ヲ追イ払ツテクレタノヨ？」

離島棲鬼「ナライイノダケド…早メニ片ツケテチヨウダイ。艦娘達ガコノ島ニ近ツイ
テキテルツテ知ラセモアツタワ」

駆逐棲姫「艦娘達ガ来ルツテ本当デスカ!？」

離島棲鬼「コノ海域ノ戦闘ハ終ワツタノニ：レア艦ドロップヲ狙ツテウロツイテル艦隊ヨ。本当ニシツコインダカラ」

ホツポ「ソレハ大変!!」

ウイル「…それは戦闘になるのか？」

防空棲姫「エエ：激シイ戦闘ニナルワネ。」

レ級「私達ハ沈ンデモ大丈夫ダケドネ!!」ニシシ

ウイル「…その戦闘、ちよつと待つてくれないか？」

駆逐水鬼「ドウカシタノカ？」

ウイル「俺にいい考えがある。…ようはこの島周辺の海に来させなきやいいんだろ？」

—— ウイル説明中 ——

防空棲姫「：ソレ、本当ニヤルノ？」

レ級「私ハ面白ソウト思ウナー」

駆逐棲姫「相手ヲ傷ツケズニ追イ払ウ：深海棲艦トシテハ初メテニナリマスネ」

ウイル「ああ、三人はできるだけ足止めをして時間を稼いでくれ。そうだこれを使つていいぞ」

レ級「コレハ？」

ウイル「音爆弾、閃光玉に煙玉。後危なくなったらモドリ玉を使つてくれ」

防空棲姫「…ナンデモアルノネ」

ウイル「ホツポとヲ級、離島棲鬼はこのリストに載つてるものをありつたけ集めてくれ」

ホツポ「マカセテ！」フンス

ヲ級「ヲツ!!」フンス

離島棲鬼「…コ、コンナモノヲ集メテ艦娘達ヲ追イ払エルノ？」

ホツポ「ウイルヲ信ジテ!!ウイルナラキツトウマクイクヨ！」

ウイル「それから…」チラツ

駆逐水鬼「私モオ前ト共ニ戦ウゾ？」フンス

ウイル「…うん、言つても聞いてくれないからいいか。無茶と怪我はしないでくれよ？」

駆逐水鬼「アア!!ウイルト私ハ早急ニ『タマミツネ』ヲ追イ払ウ!!」

ウイル「時間との勝負だ。皆、張り切つていこう！」オオー

深海棲艦達「オオー!!」

離島棲鬼「ダ、大丈夫カシラ…」アセアセ

離島棲鬼からの通信で急遽彼女がいる島へと向かう。彼女の住処を目の当たりにして広い空間に大量の泡があちこちにに……これはもうタママミツネの仕業だと一目で分かった。

泡の量に彼女の話の話を聞くと……離島棲鬼ちゃん、そのタママミツネ、遊び感覚で貴女を追い払ったようだ。言ったら怒ると思うのでここで書いておく。

艦娘達がこの島にやってくるらしい。レア艦ドロップ？聞いたことがない言葉が出てきて戸惑うが、離島棲鬼だつて戦いたくない時があるのだ。そつとして欲しいよね

深海棲艦は沈んでも大丈夫というが、目の前でいなくなるのは嫌だな……と、言うことで俺はうまく追い払う方法を思いついたんだけど……うまくいくかなあ？

☒モーレイ海戦、キス島SOS

ビスマルク「順調に進んでるわね…」

龍驤「でもやっぱり寒いなあ」ブルブル

那珂「提督から頂いたホットドリンクだけ…」チラツ

龍驤「これ、見た目からして辛い気がする…」

潮「…あれ？辛くないですよ？」

赤城「そうね…しょうゆ味？ラーメンのスープを飲んでる感じですね」

愛宕「体が温まるわあ」ウフフ

龍驤「本当!?! ホンマや、寒さがへっちゃらになったで！」

那珂「ビスマルクさんは飲まないんですか？」

ビスマルク「こういうので寒さに強くなるとか色々おかしいわよ!?!」

龍驤「ビスマルクさん、こういうのは慣れやで？」

潮「提督が心配して配ってくださったのに…」シヨポーン

ビスマルク「もう!! わかったわよ、飲んであげるわよ!…うそ、寒く感じなくなつた

!？」

那珂「提督の持つてる道具って不思議ですよね…」

赤城「!!艦載機が敵艦を発見したよですね。…空母1隻、戦艦2隻、駆逐2隻、輸送船1隻です!!」

龍驤「おっと、見えてきよったで!!ボス艦隊や!!」

ビスマルク「来たわね!赤城、龍驤、先制をかけるわよ!」

潮「お、お願いします!!」

龍驤「よっしゃ!!艦載機の皆!お仕事や!」艦載機発射!!

赤城「第一次攻撃隊、発艦してください!」艦載機発射!!

艦載機へ「ブツトバセ、バカヤロー!!」バババババ

戦艦ル級B「コハダツ!」中破!

駆逐ハ級「シメサバツ!」critical!!撃沈!!

空母ヲ級「flagshipノパワー、見セテヤル!!」艦載機発射!!

敵艦載機へ「ヒヤッハー!!ススクイネー!!」バババババ

愛宕「きやあつ、いったーい!!」小破

潮「flagshipです!!た、対空お願いします!!」ドーン

ビスマルク「こんなの追い払ってやるわ!」ドドーン!!

敵艦載機へス、スシクネー!! 撃墜!!

那珂「ボーカル、那珂ちゃんの見せ場ね! えーい☆」ドーン

輸送ワ級「アマエビツ!」大破!!

戦艦ル級A「コレZflagshipト寿司ノパワー!!」ドーン!!

龍驤「うひやあつ!?! こ、これはアカンで!!」大破!!

ビスマルク「さあ戦艦ビスマルクの威力、見せてあげるわ!!」ドドーン!!

駆逐二級「大将ハハラセハセンゾー!」空母ヲ級を庇つて撃沈

戦艦ル級B「ガリモクラエー!!」ドーン!!

那珂「い、痛いじゃないですかー!! 後ガリは食べませんよ!」中破!

愛宕「よーし撃つわよー♪」ドーン!!

空母ヲ級「ウニツ!」小破

潮「い、いきます! えーい!!」ドーン!!

戦艦ル級A「フフフ、効カンナア」小ダメージ

赤城「それでしたら…これをくらいなさい!」艦載機発射!!

戦艦ル級B「エンガワー!」critical!! 撃沈!!

潮「ら、雷撃戦開始します!!」魚雷発射!

愛宕「ウフフ、行くわよー♪」魚雷発射!

輸送ワ級「サーモンツ!?」撃沈!!

戦艦ル級A「痛クモ痒クモナイゾ!」小ダメージ

潮「て、提督!!夜戦の突入許可をお願いします!!」

提督『潮…皆、大丈夫か?』

ビスマルク「アドミラル、今なら一気に叩けるわ!!」

愛宕「二人なら私が守ってあげるわ♪」

龍驤「なんか愛宕に負けた気がする…うちも心配せんでええ。」

提督『うむ…夜戦突入を許可する!!』

夜戦開始!!

潮「わ、私が頑張らないと…!!」

＼61cm四連装(酸素)魚雷／＼12.7cm連装砲／＼61cm四連装(酸素)魚雷／

潮「仲間を傷つけるのはだめですー!」バシユーン!!

空母ヲ級「オ、オアイソデーツ!?」critical!!撃沈!!

龍驤「おおっ!ナイスや潮ちゃん!!」

戦艦ル級A「コノツ!!flagshipヲ舐メルナアツ」ドドーン!!

愛宕「仲間を落とさせないわっ!」龍驤達を庇ってガード、中破

那珂「あ、ありがとうございます!」

ビスマルク「よし…一気に決めさせてもらうわ! Feuer!!」ドドドーン!!

戦艦ル級A「ス、スシクイネーッ!?」critical!! 撃沈!!

龍驤「や、やったー!!」

潮「て、敵艦隊撃破です! 提督、勝利しました!」

提督『皆、よく頑張った! 潮、ビスマルク、よくやってくれた』

潮「え、えへへ…ありがとうございます」

ビスマルク「そうね、もつと褒めてもいいのよ?」

提督『よし、皆気を付けて帰投してくれ。そこは寒いだろ、戻ってきたら温かいおうどんを用意してるからな!』

赤城「うどん!!…さあ皆さん、急いで戻りましょう!」フンス

龍驤「赤城さん、本当に食い気は強いんだから…」

愛宕「あら? あそこに見えるのは…ヤッホー!!」ノシ

加賀「…赤城さん?」

弥生「…もしかして鎮守府の艦隊ですか?」

龍驤「これまた変わった組み合わせやな…」

赤城「加賀さん! 丁度よかったわ! 一緒に来ませんか? 今ならうどんが食べれますよ

!

加賀「…そうね、寒かったし嬉しいわ」

弥生「…うん、私も一緒に鎮守府に行く」

潮「それでは一緒に鎮守府に戻りましょう！」

ビスマルク「…あれ？」

愛宕「?どうかしましたか？」

ビスマルク「…なんか潮の身体が光ってたような…気のせいね」

i n 食堂

提督「急げー!! たくさんうどんを用意しろー!」うどん生地コネコネ

霞「クズ司令官!! なんでうどん用意するなんて言ったのよ!」ゲシゲシ

提督「だって寒そうだと思ったんだもん!」ウワーン

ジン「…その半分、うどん食べてみたいと思ったのが本心」

阿武隈「赤城さん、よく食べるからね…」

時雨「たぶん沢山作っておかないといけないね」

曙「クソ提督! さつき潮から連絡で加賀さんと弥生が艦隊に加わったって報告が来た

わよ!」

瑞鶴「え!? 加賀さん!」ギョツ

天龍「やべえ、もつと作らねえとすぐ無くなるぞ!」

アール「その加賀さんって人もよく食うのか?」

五十鈴「そうね、物凄く食べるわ」

響「大食いタッグ再結成」

金剛「後、大型戦艦の人もよく食べマース」

ベル「…もつと作れと」

大淀「提督!! 大変です!!」ダダダッ

提督「今度はなに!? 更なる大食いキャラの登場か!」

大淀「ち、違います! 元帥から緊急の電話です!!」

提督「元帥から? 緊急?」

in 執務室

提督「も、もしかもし? 緊急事態と聞きました!!」

元帥『ああ…実のところ、キス島守備隊基地が襲撃されたんだ』

提督「!? まさか深海棲艦ですか!」

元帥『いや…奇妙なことに兵士から『大きなサメが陸上を歩いて襲って来た』と通信が来たんだ』

提督「……守備隊基地の方は大丈夫ですか？」

元帥『基地の被害は修復可能だが……負傷した島の守備隊を一時収容しなければなら
ない』

提督「……元帥殿、その任を私に？」

元帥『ああ、君にはその『サメ』を撃退し、島の守備隊を収容してくれ』

提督「……わかりました。その任務、やりましょう」

元帥『……しかし本当に困ったな。まさか深海棲艦ではなく『陸上を歩くサメ』に襲
われるとは』ため息

提督「あ、元帥殿。あれは『サメ』じゃなくて『サメの様なカエル』です」

元帥『カ、カエル!?……ゴホン、た、たのんだぞ?』ガチャリ

提督「……さてと、どう言おうか」

霞「司令官、出撃なの?」

提督「ああ……って霞!?!」ギョッ

霞「まったく、どうせ勝手に行くと思っただわ。ちゃんと説明して頂戴!」プンスカ

提督「……キス島にいる守備隊の人たちを収容しなければならぬんだ」

大淀「キス島撤退作戦ですね……移動が速い艦じゃないといけない海域です」

提督「速い艦ってもしかして駆逐艦の編成で行くのか……よし、ジン達を呼んでくれ、作

戦会議だ」

——数分後

アール「あれって『サメ』じゃなくて『サメの様なカエル』だったのか!？」

ベル「い、今更驚かれても：知らなかったの？それでどうするだい？」

提督「駆逐艦6隻編成で出撃をする。急いで収容しないといけないからな」

アール「あれ？ジンはどうした？」

提督「今、工廠で出撃する駆逐艦の子達の近代化改修を行ってる」

ベル「それで出撃する子は？」

大淀「霞ちゃんを旗艦に、時雨、島風、長波、響、不知火の6名ですね」

提督「そして、俺とベルで団長が俺達にくれた船、『第二イサナ号』で向かって守備隊の人たちを助けに行く」

ベル「そうと来れば準備しないとね！」

in 工廠

島風「連装砲ちゃんもすっかり強化してよね！」

連装砲ちゃん達「キューー!!」

明石「もちろん、しっかり強化してあげるわ」

霞「ジンさん、近代化改修はできるの？」

時雨「僕も手伝おうか？」

ジン「…強化なら加工担当にしっかりと教えてもらったからな。得意だ」ガサゴソ
時雨「…ジンさん、何してるの？」

ジン「強化といたら…やっぱり『鎧玉』だ」つ真鎧玉×10個
霞&時雨（…嫌な予感しかない）

数十分後

ジン「…」

明石「あれ？霞ちゃんと時雨ちゃんの改装は終わったんですか？」

ジン「……」

明石「ジ、ジンさん？」

ジン「…明石さん、一つ聞いていいか？」

明石「は、はい？」

ジン「……近代化改修って艦装だけじゃなくて服装や見た目も変わるのか？」（； 丱
、
）
明石「えっ？……えっ!?」

☒キス島救出戦、『化け鮫』ザボアザギル 前編

in 母港

提督「さてと、第二イサナ号の準備はできた」

ベル「後は霞達を待つだけ……ってあれ？」

不知火「司令官、準備はできてます」

島風「いつでも出れるよー!!」

ベル「その……霞と時雨は？」

長波「えーと……それが……」ニガワライ

響「ほら、こつちにきて」グイツ

霞「ちよ、ちよつと待ちなさいよ！」

提督「……あれ？二人ともなんか雰囲気変わってない？」

時雨「え、えーと……その……」アセアセ

提督「……あ、もしかして防寒使用？」

霞「ちがーう!!」ゲシツ

ベル「……あれ、どうなってるんだい？」

島風「改二だよ！」

提督「…はい!？」

霞（改二）「ジンさんがやらかしちやったのよ」

時雨（改二）「なんか鎧玉だけじゃなくて色々つき込んだらこうなっちゃって…」アハ

ハ

—— 工廠では

明石「…ジンさん、はつきり答えてくださいね」ゴゴゴゴ

ジン「…は、はい」i n ドラム缶

明石「近代化改修に使ったのは『鎧玉』だけじゃないですね？」ゴゴゴゴ

ジン「…は、はい」（； ㊦、）

明石「では…他を入れたんですか？」ゴゴゴゴ

ジン「…です」ボソツ

明石「…聞こえませんか？」ゴゴゴゴゴ

ジン「…ここ、古龍の大宝玉です」（； ㊦、）

明石「…『ドラム缶回しの刑』、実行しますね」ニツコリ

ジン「（； 3；）」

提督「…あちゃー、どうしよう」(ノ口、)アチャー
霞「も、もう仕方ないわよ!」

時雨「そうだね。これで行くしかないよ」

不知火「でもどうやって改二になれたんでしようね」

長波「いいなー、ジンさんに近代化改修してもらったらあたしもパワーアップしてたかもね」

響「…たぶん今頃ジンさんは明石さんにしごかれていると思うよ?」

島風「ていとくー!!おっそーい!!速く出撃しよー!!」ノシ

提督「あつ、島風!?もうあんな遠くに!…仕方ない、準備はできたな?それじゃあ出発だ!!」

——キス島海域

提督「マジで寒っ!?」ブルブル

ベル「これ以降もホットドリンクは必須だね」フウー

島風「提督の船、はっやーい!」キラキラ

時雨「第二イサナ号って帆船だよね…?」

霞「どうして艦娘より速く進めるのよ!」

長波「燃料とかないのにすごいよなー」キラキラ

提督「そりゃあ団長達が作った船だもの」ドヤア

ベル「大海原だけじゃなく砂漠の海だって渡れるさ」ドヤア

不知火「さすがはあの団長さん達と同じ船ですね」ウンウン

響「：ハラシヨー」ウンウン

霞「そうね：ってあんた達はなんで第二イサナ号に乗ってんのよ!？」

不知火「一応司令官が乗っていますから」グツ b

響「私たちはその護衛だ」グツ b

提督「それに：霞達には申し訳ないが今回は守備隊の救出が最優先だ」

ベル「なるべく敵との戦闘を避けて、最悪の場合は強行突破してほしい」

霞「わかったわ：でもボス艦隊の場合は戦闘になる可能性は高いわよ？」

提督「おうとも、その時は：ry」

長波「提督!! 敵艦隊が見えてきたぜ!!」

島風「深海棲艦より速く駆けるんですね？私、得意ですよ!」ビューン

提督「よし！皆も遅れないように駆けるぞ！ベル、全速前進だあ!」

ベル「一気に行くぞー!」

霞「：最後尾は私が行くわ。あと、後ろから来る魚雷に注意しなさい!」

長波「あいよつ!!」

雷巡チ級A 「フアツ!?」ギョツ

雷巡チ級B 「ナニアレ…クジラ!?」

雷巡チ級C 「モシカシテ…ガチノ方ノ艦娘!？」

駆逐口級A 「姉御、ドウシヤスカ？」

駆逐口級B 「アノクジラ…速イシ何シダスカワカンネエツスヨ？」

雷巡チ級A 「…ト、トニカク!! 艦娘達ヲ狙ツテ撃テ! 逃ガスナ!」ドーン!!

駆逐口級C 「姉御! アイツラ速イツス」

雷巡チ級B 「マアイイ…次ノ戦艦ル級ノ姉御ニカカレバ怖クハナイ!」

響 「流石だね、初戦は切り抜けたよ」

時雨 「ふう…少し焦ったけどすごいや」

提督 「はーっはっは! どんなもんよ!」

不知火 「ベルさんの舵がすごいと思いますね?」

提督 「そんなー」(・ω・) ショボン

ベル 「(・ー・) b」

霞 「司令官、気を抜いたらだめよ! 次が難関だから!」

長波 「見えてきたぜ…戦艦と重巡がいるぜ…!」

戦艦ル級「ココハ通サンゾー!!」ドドーン!!

長波「島風、危ねえっ!!」島風を引っ張る

島風「おうっ!? 長波、ありがとー!」

霞「司令官、先に島の方へ:」砲撃用意

提督「ベル! 敵陣に駆けるんだ!」

ベル「任せてちょうだいってね!」舵を取る

霞「ええっ!?」Σ(; ㉔)

重巡り級「ク、クジラガコツチニ来ル!」

戦艦ル級「コノツ! 沈メツ!」ドドーン!!

ベル「おおっと! その程度の弾幕じゃあ第二イサナ号は沈まないさ!」

霞「(。㉔)」

響「ハラシヨー! すごい装甲だね!」

戦艦ル級「ナツ!? ビクトモシテナイダト!」

提督「しっかり造られた龍撃船はなあ、ダレンやジエン・モーランの体当たりや古龍

のブレスをくらっても沈まないんだよおっ!」

戦艦ル級「シ、シマツタ!!」

提督「これでもくらえー!」つ三三〇ポイー

ベチャツ（敵艦の艤装に当たる）

戦艦ル級「…クサツ!?」ヒーッ

重巡リ級「物凄ククサイツ!!」キヤーッ

軽巡ホ級「ハ、鼻ガ曲ガリソウナニオイダッ!」ウワーッ

時雨「…提督、何投げたの?」

提督「ん?こやし玉だけど?」

霞「こ、こやし!」ギョッ

長波「なんでそんなもん持ってたんだよ!」

提督「あれだぞ?どんな奴だって逃げ出す凄イアイテムなんだぞ?」

ベル「…とある伝説のハンターがお守りに使ってるぐらい凄イんだよ」

戦艦ル級「クツ…オボエテローッ」ウワーン

重巡リ級「テ、撤退ダー!」ヒエー

長波「本当に逃げ出しちゃったよ!」

不知火「…すごい効果ですね」

提督「こやし玉は緊急用だ。今回しか使わないから」

霞「当たり前よ!そんなのあつたらバランスが崩れるからね!」

島風「提督！島が見えてきたよー！」ノシ

提督「よーし、もう一息だ！」

響「！司令官、敵艦隊だ、気を付けて！」

軽巡ホ級「…クジラトカ、ナンデヤ！チートヤ！チーターヤ！」

軽巡ト級「真ツ先二鯨ヲ狙エー!!」ドーン！

駆逐二級A「強イラレテイルンダッ！」ドーン！

ベル「うわつと!?!提督、帆を畳んで！」グラグラ

提督「わかった！船がやられたらいかんからな！」

長波「やつとあたしたちの出番だな！」ドーン!!

島風「よーし、撃っちゃうよ！連装砲ちゃん、やつちやつて！」

連装砲ちゃんズ「キュー！」ドドーン!!

駆逐二級B「ムワアアアッ!」撃沈!!

軽巡ト級「デッテイウツ!」小破

霞「いくわよ！沈みなさいっ!!」ドーン!!

時雨「時雨、いくよっ!!」ドーン!!

輸送ワ級A「フタエノキワミツ!」(。ド、)critical!撃沈!!

輸送ワ級B「アーツ!」(。ド、)critical!撃沈!!

ベル「すごいや、これが改二の威力…」

提督「か、かつこいいー!!」

霞&時雨（…ジンさん、絶対に他に変なの入れたと思う）

不知火「速攻で撃ちます！」ドーン!!

響「反撃する手を与えないよ！」ドーン!!

軽巡ホ級「ナンデヤツ!?」中破

駆逐二級A「サラマンダーヨリズツト速ーイ!?」撃沈!!

霞「決めるわよ！雷撃開始！」魚雷発射!!

時雨「これで決める！」魚雷発射!!

長波「いつけー!!」魚雷発射!!

響「遅いよ」魚雷発射!!

不知火「沈めっ」魚雷発射!!

提督「よし俺も！」つこやし玉

島風「提督、それはいらなと思う」

軽巡ホ級「ナンデヤアアアツ!?」critical!撃沈!!

軽巡ト級「マンマミーアーツ!!」critical!撃沈!!

提督「や…やったー!!」ワイイ

霞 「敵艦隊撃破ね…このまま島まで向かうわ！」

島風 「急げー！」 ビューン

キス島上陸、守備隊基地

提督 「皆さん！大丈夫ですか！」

ベル 「元帥の指令より参りました！」

兵士B 「お、おお！助かった！」

兵士C 「基地の防壁とかメチャクチャにされてもうダメかと思ったよー！」

提督 「それでは船まで案内します！けが人はいらつしやいませんか！」

兵士D 「新人の兵士が引つかかれて怪我してる」

提督 「よし…長波、すまないが背負えるか？」

長波 「任しとけ！ドラム缶を沢山持てるんだ。力には自信があるぜ？」

兵士A 「ご、ごめんよ？ありがとう…」

ベル 「それとこの『ウチケシの実』を。凍傷にも効きます」

提督 「よし、それじゃあついてきてください！」

霞 「こつちに船を停めてあるわ！」

兵士B 「や、ヤツに見つからないうちにお願ひします！」

しばらく歩いて

ザザザ：

島風「おっ!? 提督! 陸上にサメのひれが見えるよ!」

兵士C「ひいつ!? ヤ、ヤツだ!」

兵士B「あ、あいつです! 基地を襲って来た…サメです!」

ザザザザザツツ!!

兵士D「こ、こつちにくるうううつ!」ヒイツ

提督「ベル! 音爆弾をつ!」

ベル「これでもくらえーつ!」つ三三●

キーンンツツ!!

ザボアザギル「Σ(、皿、 ;)」ピヨーン!

長波「サ、サメっ!? でけえぞ!」

島風「しかも足がついてるー! 速そう!」キラキラ

ザボアザギル「(、皿、 ;)」ジタバタ

提督「やつぱりザボアザギルか…霞達は急いで船に戻るんだ」つ輝王剣リオレウス

兵士B（大型生物と戦う狩人で有名な提督達+艦娘達…）

兵士D（それに俺達も加われば…）

兵士C（あのサメに勝てるんじゃないね?）

兵士B 「て、提督殿！我らも戦います！」

兵士D 「こ、これだけの人数でいればあのサメに勝てますぞー！」
ベル 「いや、それは…」

霞 「あのサメなら私たちの砲撃でもいけるんじゃないの？」

ザボア 「(、皿、#)」パキパキパキ

兵士A 「…あれ？」

長波 「なんかあのサメの周りに冷気が…」

ザボア 「《《、皿、# >>」バキンッ!! (氷の鎧を纏う)

兵士達 「(皿) ? ?

霞&長波 「Σ (; ; 皿)

島風 「か、かっこいいー!!」キラキラ

ザボア 「《《、皿、# >>」ギャオオオオオンッ!!

提督 「よしお前ら急げー！」

兵士達 「は、はいいいっ!!」

霞 「クス司令官!!…怪我しないでよね！」

提督 「…おうっ！」

ベル「…」一応、俺もいるんだけどね…」
（っ・ω・ゝ）

☒キス島救出戦、『化け鮫』ザボアザギル 後編

第二イサナ号

長波「よし、着いたぜ！」

兵士A「あ、ありがとうございます！」

兵士B「た、助かったあ〜」

響「あれ？司令官達は？」

島風「提督とベルさんは今でっかいサメと戦ってるよ！」

時雨「さ、サメ？提督は海で戦っているの？」

長波「それが陸上を歩くサメですよ！しかも急に氷の鎧を纏ってたんだぜ！」

島風「とつても凶暴そうだった！」

霞「……」

不知火「…霞、司令官達が心配ですか？」

霞「ええ…でも私たちが行くとかえって危ないかもしれないわ…」

響「でも気になるよね？」

霞「…うん」

不知火「だとすれば、司令官の援護に行きましょう」

霞「ちよ、人の話を聞いてた!？」

響「第二イサナ号の中を探ってたら『団長の贈物』があった」フンス

不知火「さっそくこれを使ってみましょう」フンス

霞「あ、ちよつと!…ああもう!時雨、長波、島風。ごめんけど船のお守りをお願い

!

提督「来るぞ!ブレスだ!」

ザボア「<<<#、皿、>>>三三三」

ベル「あぶなっ!」緊急回避

提督「ろっしょいっ!!」抜刀切り

ガキーンッ

提督「くっ、堅いっ!!」仰け反る

ザボア「三<<<、皿、>>>三」スピン攻撃

提督「あばすっ!?!」。皿。…

ベル「提督!大丈夫かい!？」

提督「いってえ…はやく氷の鎧を壊さないと、刃が通らないぞ」サスサス

ザボア「三<<<#、皿、>」突進

ベル「それじゃあまずほかさないとね！」ジャスト回避

提督「よいしょっ!!」エリアルジャンプ

ベル「よし、こつちを見る！」ザボアの顔面に攻撃

ザボア「<<<、皿、>>>三」ベルの方に向ける

提督「よっしゃあ！乗りいつ！」ザボアに乗り攻撃

ザボア「Σ<<<、皿、；>>>」提督を振り落とそうと大暴れ

提督「そんなロデオじゃあ俺を落とすことはできねえぜ！」ザクザク

ベル「…」コソコソ

提督「おらあ！こかしてやったぜ！」

ザボア「<<<、皿、；>>>」ジタバタ

ベル「ナイス！この勢いで氷の鎧を壊していこう！」鬼人化、乱舞

提督「おらおらおらあ!!」大剣を振るいまくる

バキツ（尻尾と顔の氷が壊れる）

ザボア「<<<、皿、#>>>」むくり

ベル「提督！あつちにシビレ罫を仕掛けてあるよ！」

提督「わかった、あつちに誘き寄せるか！」

ベル「さあ来い！」

ザボア「(《《《《、皿、》》》)」フルフル

提督「…あ、あれつてもしかして…」

ザボア「(、皿、)」「ボヨーーーーン

ベル」

提督「…今日も一段と膨らんでおりますな…」

不知火「…この先に司令官達が戦っているんですね？」

霞「そうね…でも危ないから気をつけなさいよ」

響「心配はない。司令官に迷惑をかけないようにする」

不知火「おや？あの向こうに見えるのは司令官達では？」

提督「ぬおおおおっ」ダダダダ

ベル「走れえええっ！」ダダダダ

響「なにやら慌てて走っているようだけど…」

不知火「で、例のサメは…」

ザボア「三三三（#、皿）（）ゴロゴロ ε≡≡へ（；D、）ノ
霞&不知火&響」

響「：と、とつても丸くて大きいね」

不知火「氷の鎧を纏っていたのでは？見たかったのに：」

霞「た、確かに鎧を纏つてて凶暴そうだったのよ!？」

ベル「こ、このまま逃げてもきりがいいよ!」

提督「しゃあない! いっちよやるかあ!」溜め横切りで受け止める

ザボア「（#、皿）「ググググ」

提督「お、重い、はやく何とかして!」プルプル

ベル「任せてくれ!」回転斬り

ザボア「（Σ（；、皿）「ゴロン

提督「お、重かったあゝ」フー

ザボア「（皿、）（（「プシユ」

提督「よっしゃ、やつと縮まったか! 今がチャンス!」ダッ

ベル「また氷の鎧を纏わる前に倒すよ!」ダッ

ザボア「〇三（皿、#）「球状3wayブレス

ベル「あだつ!」雪だるま状態に

提督「こんなものっ！」エリアルジャンプして回避
ザボア「Σ（、皿、#）」

提督「そおおいっ」ザボアめがけて高くジャンプ

ザボア「（、皿、#）三」提督めがけてジャンプ

提督「えっ？」

三三（；ω^）（、皿、#）三三

バクリ

（、皿、）三三

ベル「（。D、）

不知火「

響「

霞「た、食べられたあああっ!？」

ザボア「（（、皿、）（）」モグモグ

ベル「ま、待ってろー！雪だるま状態が解けたらすぐにこやし玉を…」ジタバタ

ヒューン 三三□

ザボア「Σ（、皿、；）」ドドーン!!

ベル「あれは…JUMPタル爆弾!？」

ヒューン 三三〇 三三〇 三三〇

ベル「しかも沢山来てる!？」

霞「どンドン飛ばすわよ！」

不知火「このっ！サメが!!」つJUMPタル爆弾

響「はやく司令官を吐き出せ！」つJUMPタル爆弾

霞「私の…クズ司令官を食べるんじゃないわよ！」ドドーン!!

ザボア「Σ（、皿、；）critical!!

オエツ（；、皿、）三（；、皿、）<ヒエツ

提督「あゝあゝ、つ、た、助かったあ！」フー

ヒューン 三三〇 三三〇 三三〇 ● 三三〇

提督「つかなにあのJUMPタル爆弾の量は!?!めっちゃふってるやん!？」

ベル「…たぶん、心配になって援護しに来てくれたんだらうね」

提督「…怯んでいるうちにカタを付けるぜ！」

ベル「いくぞーっ!!」鬼人化、連続切り

提督「これがごり押ししてやつだあーっ!!」溜め3斬りからの超溜め切り

ザボア「Σ(×皿) ;」顔面部位破壊、両ヒレ破壊

ヒューン 三三〇□ 三三〇□ 三三〇● 三三〇□

ザボア「三三三(; ; 皿×) <ヒエーツ」氷海に飛び込み遠くへ逃げていく

【撃退に成功しました】

ベル「よし…あれならもうこの周辺には来ないだろうね」

提督「ふう、キス島の守備隊基地の方ももう心配ないだろうな」

ベル「後は…ちやんとお礼言わなくちやいけないよ？」ニヤニヤ

提督「？」クビカシゲ

響「司令官、すごい戦いっぷりだったね」

不知火「霞からいろいろ聞いていましたが…実際目の当たりにすると驚きますね」

提督「やつぱり来てたんだな…ありがとう、助かったぜ」

不知火「お礼を言うなら霞に言ってください」

響「司令官が食べられたとき、この世の終わりの様な顔をしてたしね」

霞「ジロリ」

提督「うっ…そのなんだ、し、心配かけてすまない」

霞「もう…心臓が止まるかと思ったわ。でも、よかった」クスリ

不知火「『私のクズ司令官』って言ってましたからね」ニヤニヤ

ベル「え？それほんと？」ニヤニヤ

提督「え？なんていったの？」

霞「わーわーわー!!」アタフタ

響「それより司令官、はやく戻って帰ろう」

提督「そうだったな。途中で大本営の船と合流して兵士を送る予定もある。さあ行く！」

鎮守府海域

提督「なんとか無事に兵士の皆を大本営の船に送ることができた」

ベル「けが人もそれほどいなくてよかったよ」

時雨「でも大本営の船員は第二イサナ号を見て驚いてたね」

不知火「見た目もそうですし帆船であんなに速く動くんですもの」

長波「大本営の護衛の艦娘達もビックリしてたな！」

響「『まさかクジラの船があるなんて』って言ってたしね」

霞「自慢していいのか恥ずかしくていいのか……」ため息

提督「皆も寒い中ご苦勞様。鎮守府に戻ったらあったかいうどんを食べようか」

島風「やったー!!もうお腹ペコペコー!」

in 母港

天龍「あ、提督！」ノシ

榛名「おかえりなさい！」ノシ

島風「ただいまー！」

ベル「なにやら慌ただしそうだけど、何かあったのかい？」

天龍「それが…赤城さん達が戻ってきて」

榛名「さつそくうどんをまかなっていたら…」

曙「おかえり、クソ提督、ベルさん！悪いんだけど手伝って！」

提督「…何事？」

in食堂

赤城「すみません、おかわりお願いします!!」うどん110杯目

加賀「…ごめんなさい、私もお願いします」うどん108杯目

アール「もうおかわり!?!二人ともはええよ!?!」

ヨモギ「旦那さん！口より手を動かすニヤ!!」うどん生地コネコネ

マシロ「お、追いつかないニヤ！」うどん湯で係

サクラ「め、めんつゆの補充お願いにゃ!!」うどん盛り付け係

皐月「強力粉の補充分、買って来たよ！」

如月「あとネギと天かすも買ってきましたわ！」

五月雨「ち、竹輪もあります〜!!」

龍驤「も、もう食べきれん…」ゲフウ

レーベ「こ、これがUDON…」グツタリ

那智「め、めんつゆがあれば…」ゲフウ

提督「…なにこれ？」

天龍「最初は赤城と加賀がよく食べるなーって感心してただけなんだよ」

榛名「そしたら長門さんと金剛お姉さまが張り合っちゃって…」

長門「まだまだ！ビッグセブンは倒れんぞ、おかわり！」うどん107杯目

金剛「な、なんのこれしきデース…お、おかわりデス!!」うどん95杯目

ビスマルク「な、なんで私まで…ウツプ…」うどん100杯目

曙「いつの間にかうどん大食い大会になっちゃってこの有様よ」

アール「お、提督！戻ってきたか！手伝ってくれ！てか助けてくれ！」

ヨモギ「猫の手も借りたいとはこのことニヤ！」

提督「よ、よし手伝ってやるか！お前たちはゆっくりしていいからな！」

霞「仕方ないわね…私も手伝うわ」

響「なんだかんで仲いいよね…」

不知火「司令官は天然のようですけど」

ベル「微笑ましいなあ…あれ？そーういえばジンは？」

in倉庫

ジン「……」indラム缶

シ——ン

ジン「(；ω；)」

——倉庫の中で反省中であつた

㊦提督、砂浜の床を買う（*オプション付き）

i n 執務室

大淀「北方海域の生態調査ですか？」

提督「ああ、キス島に現れたザボアザギルの一件で大本営の依頼が来たんだ」

ベル「またあのよう凶暴な生物がどこかにいるかもしれないからね」

提督「実際の話、ザボアザギルは洞窟付近の氷海に縄張りを持つ。あのような場所に現れるのはすこし妙なんだ」

大淀「：なにか原因でもあるのでしょうか？」

ベル「たぶんね。：あまり考えたくない場合もあるかもしれないけど」

黒丸「ベルの旦那さん！出港の準備ができたニヤ」

ベル「そういうわけで、行ってくるよ」ノシ

提督「おう、気を付けてな！」

i n 工廠

アーロ「へー、ジンの奴しばらく工廠に出入り禁止されたのかー」

明石「まったくもう！あれほど勝手なことをするなど言っても聞かないんですから

！」プンスカ

雪風「でもどうしてジンさんはこう使いたがるんですか？」

アール「うーん…ドンドルマであいつは鍛冶や武器、防具の開発の資格を取ってて、加工担当と一緒に開発してたんだ」

磯風「つまり、鍛冶屋の性なのか？」

アール「だろうな。こういった素材で造ってたんだ。癖で使いたいんだろうな。…まあ改二の件はどうしても強くしてあげたいと思っただら。明石さん、そこは堪忍してほしい」

明石「うーん…ってアールさんもなにこっさり鉱石を使おうとしてるんですか！」グググ

アール「ジョーク、ジョーク！ほら、俺の建造のほうはミケ達に任せて…」

ミケ「(ε、ε、ε) ウーン…」

チャチャ「(ε、ε、ε) ウーン…」

カヤンバ「(ε、ε、ε) ウーン…」

アール「…おまえら？」

ミケ「い、いつものでって言うから…ドラグライト鉱石を…」

チャチャ「オレチャマ、興味本位で…獄炎石を…」

カヤンバ「ワ、ワガハイはつ、ついうっかり…マカライト鉱石を…」

明石「（#??）」

アーロ「あ、やべっ…ゆ、雪風、高速建造材を使って4つの工廠をオープンさせといて」

雪風「わかりました！」つ 高速建造材

磯風「それでは開けるぞ」 工廠オープン

鈴谷「鈴谷だよ！よつろしくー！」ニシシ

矢矧「軽巡矢矧、着任したわ！」ピシッ

飛鷹「名前はいずもま…じやなかつた飛鷹よ」アセアセ

満潮「…朝潮型駆逐艦、満潮よ」シラッ

明石「言ってる！そばから！どーしてそうなるんですか！！」アーロにコブラツイスト

アーロ「あだだだだ！俺はわるくねえ！」ググググ

チャチャ「アーロさん！！ファイトツチャ！！」

カヤンバ「反省を踏まえてアーロさんを応援する踊りをするンバ！！」

アーロ「いらねえよ！」

ミケ「ほ、ほら！なかなかのラインナップニヤ！！」

アーロ「そういう問題じゃないから!?!あだだだ!?!明石さん、ギブギブ!!」

雪風「あ!矢矧さん!」ノシ

磯風「矢矧さん!!」ノシ

鈴谷「…賑やかな艦隊だね!」ニッコリ

矢矧「雪風、磯風!!元氣そうでなによりだわ!」ノシ

飛鷹「か、変わった所ね…」アタフタ

満潮「…私、本当になんでこんな部隊に配属されたのかしら」

in 母港

加賀「…瑞鶴、なんですかさっきの動きは?」ジロリ

瑞鶴「え、えーと…フレーム回避?」アハハ…

加賀「演習とはいえ無駄な動きが多すぎよ?そのなんたら回避というのは見ててぎよつとしたけども…」

瑞鶴「で、でも当たらなかつたらどうということとは…」

加賀「でもじゃありません」ジロリ

瑞鶴「は、はい…」シヨンボリ

龍驤「今日もしつかりしごかれてるなあ〜」ニヤニヤ

ジン「…加賀さんは厳しく指導するんだな」

赤城「そうですね、ああも厳しいですが、ちゃんと彼女を思っ
て指導してますし」ウ
フフ

加賀「赤城さん、瑞鶴に優しくすぎです。」ムスー

赤城「え？でも私もやりますよ、フレーム回避」

加賀「（。 ㇿ。 ㇿ）」

赤城「最近は一丁目と溜めて撃つことができるようになりましたし」

瑞鶴「ジンさん！私、二段目の貫通弓が撃てるようになってんです!!」

ジン「…よく頑張ってるじゃないか。次は二段撃ちのコツも教えよう」ナデナデ

瑞鶴「エヘヘ：／／／」テレテレ

加賀「い、一体何の話をしてるの…？」

龍驤「加賀さんも最初は戸惑うような、でも慣れるのが大事やで？」

in 執務室

天龍「よー、遠征から戻ったぜー？」

弥生「…ただいまです」

不知火「無事、遠征任務を終えてきました」

提督「ああおかえり！…ん？その大きな箱はなんだ？」

弥生「…これは家具箱」

天龍「中には家具コインが沢山入っているんだぜ？」

提督「へー…家具コインって？」

不知火「明石さんの道具屋で家具と交換できるコインのことです」

天龍「提督、使わずに置いてるからたつぷり溜まつてるぜ？」

弥生「…これならいい家具も買えます」

不知火「さっそく買つてみましょう」

〈数分後〉

明石「あ、提督!! いらっしやいませ！」

提督「…鎮守府内にこんな店があつたの知らなかつた…」

明石「提督、忙しかつたですからね。それでどの家具を買います？」

提督「うーん…ん？ 砂浜の床？」

明石「これは海辺の砂浜と同じ感じになり、広い空間になつて堪能できますよ！」

提督「スイカに浮き輪…海まんまだな。面白そうだ、これを買おう!!」

明石「まいどありがとうございます!! これで実装済みですよ？」

提督「早っ!? さっそく見てみようか！」

弥生「やった…うれしいです」

〈数分後〉

金剛「明石さんの話によると提督が砂浜の床を買ったようネ…ふっふっふ、水着を買って正解デース!!」

i n 執務室の前

金剛「水着を着て、さっそく提督にアタックしマース!」

ドンっ（扉を開ける）

金剛「Hey、ていとくー!! 私と一緒に楽しいビーチに…」

ダイミヨウザザミ亜種（最小金冠）「(V) (o?o) (V)」地面から飛び出す

提督「あゝれゝっ!」提督高く飛ばされる

弥生「しれいかーんっ!」Σ (?口? ;)

天龍「なんでオプションで牛並みの大きさの蟹がいてくるんだよ!」

不知火「この蟹めっ!」っ 姫竜砲

金剛「そっとじ

榛名「あれ?金剛お姉さま、どうかしましたか?」

金剛「は、榛名…執務室を開けたら…か、蟹が提督をホームランしました…」

榛名「?」クビカシゲ

金剛「そうだつ！ていとくー！今金剛が助けに行くよー！」ガチャツ

提督「不知火、この書類を頼む」テキパキ

不知火「わかりました」テキパキ

天龍「提督ー、この書類にハンコを頼む」テキパキ

弥生「」ウトウト

金剛「…あれ？提督？あれ？いつもの執務室？」

提督「お？金剛、どうした？」

金剛「え？さつき執務室のビーチに蟹がいませんでした？」

天龍「ビーチ？蟹？何の話だ？」

弥生「…蟹はいませんでしたよ？」

不知火「すみません、今書類整理をしていますので後程…」

金剛「そ、そうね…失礼しマシター…あ、あれー？」ガチャリ

榛名「？」クビカシゲ

金剛「は、榛名、先に戻っててネ」

榛名「は、はい…」クビカシゲ

金剛「…いや、蟹はいたはず…提督、ちよつといいデスカ？」ガチャツ

ザザミ亜種「♪（V）（O?O）（V）」提督を捕まえる

提督「やばいつ捕まった!」ジタバタ

弥生「司令官を離してっ!!」ドーン!!

天龍「てか、こいつマジで堅い!」刀を振るうも弾かれる

不知火「撃ち抜く!」しゃがみ撃ち

金剛「そつとじ

五月雨「あれ?金剛さん、どうかしましたか?」

金剛「い、今、提督が蟹に食べられそうに…」

五月雨「ふえっ!?て、提督!」ガチャツ

弥生「…司令官、お茶」つお茶

提督「おお、ありがとうな…おや?どうかしたか?」

五月雨「て、提督が蟹に襲われたと聞きました…」アタフタ

不知火「安心してください、司令官は蟹には襲われてませんよ?」

金剛「またいつもの執務室に戻ってる…」

天龍「とうかなんで金剛は水着を着てるんだ?」

金剛「え、えーと…失礼しマシター」アハハハ…

ガチャリ

五月雨「よ、よかったです、提督が蟹に襲われなくて…」

金剛「し、心配かけてしまったネ、ごめんね？」

五月雨「はい、もう大丈夫です！」ニツコリ

金剛「さてと…やっぱり私の気のせいだったネ。提督、ちよつといいデスカ？」ガ
チャツ

ザザミ亜種「キュー(V)(?)^X(V)「捕獲

提督「ふう…な、なんとか捕まえたぞ」

不知火「まさか泡のプレスをしてくるなんて…服がびしよびしよです」ピツシヨリ
天龍「それよりどうすんだ？返品するか？」

提督「せっかく明石さんが家具職人なしで渡してくれたんだ…もつたいない」

弥生「…弥生、この子飼ってみる」ナデナデ

提督「うーん…試しに見てみよう」ウンウン

金剛「…そつとじ

ガチャリ

金剛「…き、今日は疲れてるようデスね…早めに寝マース…」

翌日 | in 中庭

龍驤「へー、砂浜にでつかい蟹がいたんやな？」

金剛「そうデスね…でも、私の気のせいデシヨウカ？」

龍驤「たまにはしつかり休むのがええって」ウンウン

金剛「Yes! おかげで元気ができました! 提督に聞いてみマス!

響「弥生、お散歩？」

弥生「…うん、『ムラサキ』と一緒に」

霞「この子、大人しいの? 司令官達が心配してたけど…」

弥生「元気でいい子…『ムラサキ』、行くよ?」

ザザミ亜種「♡♡(V)(O?O)(V)(())

金剛「…あれ?」

アルセルタスに続き、鎮守府に新しいオトモンができました

☒鹿島間違える、元帥殿の孫、演習対決勃発

i n 鎮守府門前

皆さま初めまして、香取型練習洋巡艦2番艦の鹿島と申します！本日は大本營の指令の元、こちらの鎮守府へ配属されることとなりました！！

鹿島「それにしてもこんな遠いところにも鎮守府があつたんですね…」

列車に乗って、飛行船に乗って、馬車に乗って…3日ほどの長旅でやっとここまで着きました。街のごはんも美味しそうでつい道草を食べてしまう始末…でも素敵なところでした！

鹿島「さあ、この鎮守府に着任して頑張ります！」フンス

ミケ「ふあゝ、眠いけど鎮守府門前の掃除をしなくちゃいけないニヤ」つほうき

ブルー「…おや？そこのお嬢さん、この鎮守府に何か用かニヤ？」つほうき

鹿島「」

…え？猫が二足歩行してしゃべってる!?わ、私が知ってる猫は4足歩行でニヤーし
 可言わないはずなのに!?

チャチャ「今日もはりきって掃除をするツチャ!…オヨ?そここのヒト!どうかしたツ

チャ?」

鹿島「!?」

：…え!?こ、これはなんですか!?小人!?な、なんなんですかこの鎮守府は!?香取姉、助けて!?

天龍「おーい、どうかしたのか?」

ミケ「あ、天龍の姉御さん!」

ブルー「こちらのお嬢さんが鎮守府に用があるらしい見たいニヤ」

鹿島「て、天龍さん!よ、よかったー!」ウワーン

天龍「ん?鹿島じゃないか?どうしてここに?」

鹿島「じ、実は、本日こちらの鎮守府に配属になりました!」アタフタ

——執務室前

鹿島「あの子たちは提督のオトモの方々なのですね…?」

天龍「まあな。俺達の知らない地方から来たからな」

鹿島「それで…なぜ執務室前で待たされてるんでしょうか?」

天龍「あー…たぶん鹿島は今の提督達を見てびびるんじゃないかと…」

鹿島「そんな大丈夫ですよー!初めて会うのに驚いたら失礼じゃないですか!」

天龍「そうか?じゃあ入るぞ…提督!失礼するぜー!」ガチャリ

提督「おお、天龍か。どした？」書類整理中

霞「ごめんなさい、今、書類整理中だから……つてあれ？」

鹿島「（。 ㇿ。 ㇿ）」

天龍「……まあうん、そんな気がした」

鹿島「な、なんで提督服じゃなくて鎧を身につけてるんですか!？」

天龍「だからいつたろ？俺達の知らない地方から来たつて」

提督「おーい……というよりその子は？」

鹿島「あ、も、申し遅れました！大本営の指令により本日配属されることになりました、練習巡洋艦、鹿島と申します！よろしくお願いします！」

提督「……えっ？」

鹿島「え？」

提督「あー……ごめん、大本営の指令なんて初耳なんだけど？」

鹿島「ふえ？あ、あの一、配属前に大本営の宛ての手紙が配属先の鎮守府に届いていないはずですが……」

提督「え？そんな通達きてたか？」

霞「いいえ、来てなかったわ」

鹿島「ええっ!?で、でもこの鎮守府に配属されるとこの手紙に……」つ手紙

提督「どれどれ?…うん?これ、違うぞ?」

霞「そうね…一文字違ってるわ」

天龍「本当だ、それに俺達の鎮守府の名前は濁点がついてないしな」

鹿島「…ええええええええつ!」ガーン

数時間後

鹿島「シクシク」(ノ口、)。。。。

ベル「ただいまく!!北方海域の生態調査、終わったよー!!…って誰この子!?!」

長門「どうやら行先の鎮守府を間違えたらしい」

アール「どうしてこうなった…」

ジン「…五月雨並みのドジっ子だな」

五月雨「そ、そうなんですか?ううう…そんなにドジっ子じゃないつもりでしたのに

くムスー

鹿島「ウワン(ノ口、)」

アール「あらら、油に火を注いじまったな」

五月雨「ふええつ!?!ご、ごめんなさいいっ!」アタフタ

ベル「ほらほら、泣かないで元気を出しなつて」つハンカチ

鹿島「グスツ、あ、ありがとうございます…」フキフキ

ベル「それで…提督は？」

長門「いま大本営に電話して元帥殿に話を報告しているところだ」

提督「ふー、これは一苦労しそうだ」

天龍「提督、どうだった？」

提督「手紙を出したのは確かで、その鎮守府から『三日たつても鹿島が着任してこない』と報告があつたようだ」

鹿島「す、すみません。私が出たことがつい…」シヨンボリ

提督「それで『もし鹿島が別の鎮守府に着任していたのなら迎いに行く』とのことだつたんだが…」

天龍「だが？」

提督「ややこしいことにその鎮守府に『イベント海域』とやらで別の鹿島が来てしまつたんだ」

鹿島「ええ!? わ、私…どうしたら…」真つ青

提督「うん、元帥殿からはもし別の鎮守府に着任してしまつたのなら報告し、その着任を許可すると」

アール「よかつたじゃないか！ いていいんだな！」

鹿島「ほ、本当ですか！」パアツ

提督「…そのはずだったんだが」

霞「?どうかしたの?」

提督「うちのところに来たと報告したんだけど…うちの鎮守府の名を聞いた途端、『鹿島を迎い入れる予定だった』鎮守府の提督が鹿島を返せと言って来たんだ」

ベル「なんだって!?!」

天龍「もう別の鹿島が来てるんだから十分だろ!」

霞「呆れた司令官ね…どんな根性してんのよ」

提督「その提督…元帥殿の孫らしくて、うちの鎮守府のことを聞いたら意地でもそっちに向かうとのことだ」

長門「元帥殿はなんと?」

提督『『いうことを聞いてくれない孫で申し訳ない。どうかよろしく頼む』と。お孫さんは3日後にくるようだ』

霞「厄介なことになったわね…」

鹿島「わ、わたしのせいでこんなことに…ご、ごめんなさい!」ウルウル

ジン「…君は悪くない」

長門「なんとか私達と提督達が説得させよう」

鹿島「は、はい…」

アーロ「ところで元帥殿のお孫さんってどんな子？」

提督「えーと…元帥殿曰く、とにかくかわいい、世界最高かわいい、世界最強かわいい孫」

天龍「…かなりの孫スキーなんだな…」

— 3日後

in 港町

提督「確かこの時間帯には到着しているはずなんだけどな」

ジン「…わざわざ来なくてもこっちから行くのに」

アーロ「お、見えたぞ？あの鉄製の船だな？」

ベル「…あの提督服を着た金髪ロングの女の子が提督？」

孫娘提督「…まったく、魚臭いとこね。」シラッ

大和「そうでしょうか？とても活気があって素敵な所だと思えますよ？」ニッコリ

ベル「17、18歳ぐらいだろうかな」

ジン「…ツンツンしてるな」

提督「ようこそお待ちしました。長旅、ご苦労様です」ペコリ

孫娘提督「なっ、なんなんのあんた達!?!私は元帥の孫娘と知っての狼藉かしら!」

ギョッ

大和「あ、提督殿、わざわざ迎いに来てくださいますすみません」ペコリ

孫娘提督「あつ…そう、あんた達がこの街の鎮守府の提督だったわね…」ジロリ

提督「あははは、どうも初めましてかな？」

孫娘提督「子供扱いするな!!」

アーロ「…七光りっばい」ボソツ

孫娘提督「…場所を変えてちょうだい、魚臭くて鼻が曲がりそうだわ」

提督「それでは…『シー・タンジニャ』はいかがですか？美味しい料理もございます」

大和「まあ、ありがとうございます。そこに行きましよう」

孫娘提督「こ、こら大和！あたしが指示するんだからね！」

inシー・タンジニャ3号店

スモモ「お待ちどうさま、こちら『ポポのタンの猛牛バター焼き』、『ドス大食いマグ

口のこんがり焼き』ですニャ」

孫娘提督「ね、猫がしゃべって料理を運んできた!？」ギョツ

提督「どうぞ召し上がってください。タンジアの地方じゃ有名な料理店です」

孫娘提督「…け、毛玉とか入ってないでしょうね」ウゲエ…

大和「提督、とっても美味しいですよ！」ムシャムシャ

孫娘提督「あんたは…はあ、率直に言うわ。鹿島をよこしなさい」

大和「えー、もう私達の鎮守府にはいますよ?」

孫娘提督「う、うるさいわね!」

ジン「…元帥殿はすでに鹿島がいるなら他の鎮守の着任を許可すると言っていたが?」

孫娘提督「お、おじいちゃんはそう言っても私は納得いかないわ!」プンスカ

アール「!?ま、まさか…二股!」

孫娘提督「ちがーう!そんな趣味はないわ!!」

ベル「着任は元帥殿の許可は頂いているんだけど…」

孫娘提督「だから、あんた達のようなわけのわからない鎮守府に着任するのが納得いかないのよ!」

ジン「…」はあ

アール「…」(#^ω^)

孫娘提督「ええい、こうなったら演習で勝負よ!」

提督「演習ですか?」

孫娘提督「2本勝負で勝ったら鹿島の着任を認めてあげるわ。勝負は三日後よ!いいわね?」

提督「三日後ですか!」

孫娘提督「あら？臆病風に吹かれたのかしら？」ニヤニヤ

提督「三日後でしたら…ここまで来るのに3日かかりますし、今戻って来るのでしたら6日…間に合わないのでは？」

孫娘提督「…い、一週間後よ！いいわね！」ガタツ

提督「ええ!?!今からですか!?!」

孫娘提督「こ、今度は何よ!?!」

提督「もうちよつとこちらでゆつくりすればいいのに…」(ん・ω・ん) ショボーン

孫娘提督「ああもう！ちよつと観光するわよ！」プンスカ

大和「…面白い提督殿ですね」モグモグ

☒ 演習対決、開始ス！ 前編

in 執務室

提督「…と言うわけで元帥殿のお孫さんと演習対決することになりましたー」パチパ

チ

霞「このっ！クズ司令官!!」タイキツク

提督「ヒデブツ!?」()、3。()…

長門「霞、許してやってくれ。提督は精一杯説得してた…と思うぞ?」

霞「よりによってなんで元帥殿のお孫さんと演習対決になるのよ!」

ジン「…ああでもないし納得しないだろうな」

ビスマルク「アドミラル!! 話は聞いたわ!!」バンツ!!

提督「び、ビスマルク…」

ビスマルク「要は勝てばいい話でしょ? だったら訓練あるのみよ!!」

鹿島「わ、私も手伝います!! 練習巡洋艦として努めますから!!」

天龍「提督!! 俺達も頑張るからよ!」

霞「…司令官、私も貴方の為に頑張るわ」フウ

提督「皆：よーし！ いっちよやるかあ！！」

——こうして1週間後の対抗演習に備え訓練が続いた

龍田「それじゃあよく狙って撃つ訓練をしましょうね〜」ウフフ

白雪「あ、あの龍田さん：標的ってあれですか？」

アーロ「〜！〜っ！」縛られて磔にされている

龍田「ええ、昨日女湯へ入渠しようとした不屈き者よ〜」ウフフ

雪風「よーし『アル』ちゃん！突撃です！」アルセルタスに乗って突撃

アルセルタス「三（、ω、）」

鹿島「そ、それはだめです〜！！」

明石「ふう、近代化改修も忙しくなってきたわね〜」アタフタ

川内「明石さーん！ 艀装の近代化改修、お願いしまーす！」

加古「ね、眠い：お、お願いします〜」

明石「あ、ちよと待つてくださいね：色々忙しくてあと30分ぐらい：」

ジン「：じゃあこっちで改修しようか」オイデオイデ

加古&川内「はーい！！」

明石「それじゃあお願いしますね。はあ忙しくて手が回らないわ：：ん？今ジンさん

がいたような…」

川内「あれ？加古、見た目変わった？」

加古「うーん、なんか目がさえてきたような…」

明石「…しまったあああああつ!!」ダツ

——そして一週間後…

i n 母港

アーロ「おつ、見えてきたぜ、お孫さんの船だ」

ジン「…挨拶してやらんとな」

アーロ「おうとも、びっくりこかしてやるぜ!…ところでジン、なんでドラム缶にi
nしてんだ？」

ジン「…察しろ」

孫娘提督「…ほんつとちんけなところに鎮守府を建てたものね」シラツ

大和「そうでしょうか？綺麗な海でも素敵な所だと思えますよ？」

アーロ「ヒヤツハー!!俺達の鎮守府へようこそー!!」ヒヤツハー

孫娘提督「ひっ!?!」ギョッ

摩耶改二「おい、ウチの提督を怯えさせんじゃねえぞ？」ジロリ

アール「…す、すみませんでした」シヨボーン

ジン「…提督がお待ちしている。案内しよう」

孫娘提督「は、はやくして頂戴（…なんでドラム缶？）」

大和「それじゃあ皆さん、行きましようか（…ドラム缶？）」

摩耶（…箱ガ○ダム？）

提督「あ、ようこそお越しくございました！わざわざ遠くまでご苦労様です！」ニコ

ニコ

黒丸「さあさあ、ごゆっくりしてくださいニヤ！」

摩耶「で、テントまで建ててるし…それにすげえ御もてなしじゃないか」

孫娘提督「ふ、ふんっ!! さっさと演習試合を始めるわよ！」

提督「えー、少し休んでからのほうがいいですよ？」（…ω…）

孫娘提督「わ、わかったわよ！ ゆっくりするわよ！」グヌヌ

数十分後

孫娘提督「さあ第一試合を始めるわ！」

大和「あら、このお茶美味しいですね」

提督「こちらは『堅米茶』です。和菓子もいかがですか？」

摩耶「おつ、これもうまいな！」

孫娘提督「…さつきと試合を始めなさいよ！」

第一試合

天龍、川内、加古、矢矧、霞、島風

V S

摩耶（改二）、妙高（改二）、神通（改二）、秋月、夕立（改二）、暁（改二）

アール「…な、なんか強くね？」

ベル「まあ元帥殿のお孫さんだしね。イベント海域の総司令官を務めるほどなもの」

ジン「…全員に指輪をしてないか？」

孫娘提督「ふふん、どの子も練度は最高よ？貴方達の艦隊なんてコテンパンにしてあげるわ！」

天龍「…川内、加古、お前ら見た目変わってね？」

川内改二「そうかなー？でもかっこよくなっただよね！」フランス

加古改二「ジンさんのおかげで目が冴えてるぜ！」フランス

摩耶「さあ、あたしに勝てるかな？」

夕立「この試合、勝てるっばい！」

天龍「…絶対に勝つぞ！」

島風「おーっ！」

妖精さん「試合開始！」ピーッ

島風「いっちばん撃ちまーす！」ドーン！！

暁「ぴやあつ!? れ、れでいになってことするのよ！」大破、プンスカ

霞「いい感じよ! このまま続けるわ！」ドーン！！

妙高「くつ!! 速いわね: でも負けないわよ！」小破 ドーン!!

川内「おっと! なんだか体が軽い！」回避っ

神通「よく狙って: ここですつ！」ドーン！！

島風「おうっ! い、いったーい!!」critical! 大破

夕立「このまま押しかけるっほい!!」ドドーン!!

矢矧「つ: 倍返しにしてあげるわ！」防御して反撃

秋月「きやあつ!?: なかなかやりますね:」critical! 大破

加古「よーし、加古マグナムをくらえーっ!!」ドドーン!!

妙高「くうっ!?! な、なんて火力なの: つ」critical! 大破

摩耶「なかなかやるじゃねえか: だが、これはどうだっ!!」ドドーン!!

加古「あだだっ!?!」critical! 大破

矢矧「連続砲撃!?! くうっ: 強いわね:」critical! 大破

川内「このーっ! よくもやったなー!!」ドーン!!

神通「摩耶さん！くっ…反撃をお願いします！」摩耶を庇って中破

摩耶「サンキュー！もういつちよいくぜえっ！！」ドドーン！！

天龍「そうはいかねえよ！」刀で砲弾を斬る

摩耶「なっ!?!斬っただど!?!」

天龍「こんな砲撃、提督達が奴等と戦つてる時と比べたら…屁でもねえ!!」ドドーン

!!

摩耶「あぐっ!?!」critical!中破!

天龍「霞、川内！雷撃戦で決めるぜ！」魚雷発射!!

霞「ええ、これで仕留める！」魚雷発射!!

川内「いっけー!!」魚雷発射!!

夕立「ぼ、ぼいっつ!?!」大破!!

摩耶「ぐうっ!?!」大破!!

妖精さん「試合終了!!提督チームの勝利ー!」

川内「やったー!!」ピョンピョン

霞「な、なんとか勝てたわね…」フウ

摩耶「…なかなかやるじゃねえか。あたしの負けだぜ」ニシシ

天龍「そっちこそ強かったぞ？」ニシシ

／パチパチ／カッコヨカッタゾー／

孫娘提督「」

提督「とつてもいい試合でしたね！手に汗握るといふか皆かつこよかった！」

大和「ええ、提督殿の艦隊もなかなかですね！」

孫娘提督「…ま、まだよ!! 次の試合でコテンパンにしてあげるわ！」

ベル「ジン、何混ぜたの？」

ジン「…川内には『迅竜の骨髄』、加古には『モノブロスハート』」

チャチャ「やばいツチャ！明石さんが物凄いスピードでジン殿に向かつていったチャ

!!」

第二試合

ビスマルク、長門、金剛、榛名、加賀、瑞鶴

VS

大和、日向、比叡（改二）、霧島（改二）、飛龍（改二）、蒼龍（改二）

アール「…むちやくちや強くね？」

ベル「それにしてもどの子も指輪してるね…」

孫娘提督「この試合に勝ったら鹿島は頂くわよ！」フフン

摩耶「さっきの試合で負けたから勝っても引き分けじゃね？」

孫娘提督「い、いいのよ！ルールを決めるのは私よ！」

霞「…司令官、怒ってもいいのよ？」

提督「みんな頑張れー！」ノシ

孫娘提督「ズコーッ

摩耶「…本当に面白い提督殿だな」

――後編に続く――

演習対決、開始ス！ 後編

金剛「相手は改二の子達もいますネ…」

ビスマルク「手強い相手程、腕はなるわ！」

長門「相手は強い…気を引き締めろ！提督のために、勝つぞ！」

榛名「榛名、頑張ります！」

加賀「いいですか？油断は禁物です」

瑞鶴「わ、わかつてるわよ！」

比叡「あちらの方には金剛お姉さまが!？」イヤツフー

霧島「比叡姉さま、あちらには金剛お姉さまがいても演習対決よ。しっかりしてください」

さい

飛龍「あつちには加賀さんに瑞鶴かー」

蒼龍「あつちの瑞鶴…なんか強い雰囲気してるわ…」

大和「皆さん、あの『G級作戦』をこなした提督殿…一筋縄ではいかないので気を引

き締めてくださいね」

日向『G級作戦』…なるほど、舐めてかかると痛い目に合うな
妖精さん「それでは…試合開始!!」

加賀「航空戦、制空権を取られても意地で相手を倒す気でいきなさい」艦載機発射!!
瑞鶴「も、もちろんよ!」艦載機発射!!

蒼龍「さあ頑張つて!!」艦載機発射!!

飛龍「よし、行くわよ!」艦載機発射!!

日向「瑞雲の力、見せてやる」瑞雲発射

艦載機達へウオオオオツ ババババ

長門「制空権は取られずに済んだな…対空砲、用意!」ドドドド

大和「こちらも対空砲で備えて!」ドドドド

金剛「シット!ちよつとかすりマシタカ!」小破

蒼龍「くつ…やだやだ!」中破

飛龍「あつちの空母はなかなかやるわね…」

榛名「榛名、撃ちます!」ドドーン!!

日向「ぬっ…いい火力だ。」中破

比叡「おねー様、すみませんっ!!」ドドーン!!

金剛「NOっ!?ご、ごめんなさい…」ビスマルクを庇つてcritical!大破

ビスマルク「心配しないで：狙い撃つわ!!」ドドーン!!

比叡「ひっひえくっ!!」critical!大破!

大和「全主砲、用意：」ジャキンッ

長門「!くるぞ、大和の主砲に備えろ！」

大和「放てっ!!」ドドドーン!!

榛名「きやああつ」critical!大破!

加賀「くうつ：頭に来ました：」critical!大破!

ビスマルク「加賀、榛名っ!!：くっ、さすがは主力艦隊ね…」

孫娘提督「ふふふ、圧倒的ね」ニヤニヤ

提督「すごいなー、戦艦大和の火力は恐ろしいですね」

孫娘提督「ふん、貴方達の艦娘達なんてコテンパンにしてあげるわ」

提督「：それでも、我々が勝ちますよ？」ニッコリ

孫娘提督「は、はあ？あんた何言ってるのよ？」

提督「最後まで、あの子達を信じてあげないと：提督失格ですから」ス〜ツ：

孫娘提督「え？」

提督「みんなー!!ファイトだあつ!!」うおおおおつ

孫娘提督「ひやつ!? な、なんて大きな声なのよ…」

アール「長門、ビスマルク!! いっちょかましたれ!!」

ベル「負けるなー!! 頑張れー!!」

ジン「…俺達がついてる。自信を持って!」

天龍「…へへへ、さすが提督だよな」

霞「もう、恥ずかしいじゃない…でも悪くないわ」

ミケ「アイルー達よ! 僕らも応援するニヤ!!」

アイルー達「おおおっ!!」

チャチャ「頑張るツチャ!!」フリフリ

カヤンバ「ワガハイ達の踊りを見て士気をあげるンバ!!」フリフリ

〈ガンバレー!!〉

ビスマルク「アドミラル達…」

長門「ふふ、そうだな…まだ勝負はついてない! ビスマルク、合体技だ!」

ビスマルク「は、はあ!? が、合体技!」

長門「全砲門、装填用意!!」ジャキンツ

ビスマルク「えっ、ちよっ…」

長門「全砲弾、うてえええええっ!!」ドドドーン!!

ビスマルク「ただの一斉掃射じゃないの!! ああもう!! 仕方ないわね…全砲門、Feuer!!」ドドドーン!!

霧島「ちよ、砲弾多すぎよーっ!」critical! 大破

飛龍「ごり押しすぎですーっ!」critical! 大破!

日向「くうっ…瑞雲が負けるとは…」大破!

瑞鶴「(。 ㇿ)

大和「やりますね…ですが装填済みです、第二砲撃!! 放てっ!!」ドドドーン

長門「うぐっ!? 旗艦はやらせはせん!!」ビスマルクを庇って大破

ビスマルク「長門っ!」

大和「まだまだ、第三砲撃…撃ちます!!」ドドドーン!!

瑞鶴「しまった!」

ビスマルク「いけない…瑞鶴、避けて!!」

瑞鶴「…っ!」 ●三ヒューン…

■ 対抗戦前夜 ■

瑞鶴「ジンさん、どうしたの!? ドラム缶に突っ込まれるんだけど!」

ジン「…細かいことは気にするな」

瑞鶴 「気にするよ!？」

ジン 「…それで話とはなんだ？」

瑞鶴 「えつとね…明日の対抗戦、ちよつと不安なの」

ジン 「…」

瑞鶴 「私、頑張るかなって…」

ジン 「…瑞鶴なら頑張る。俺はそう信じてる」 ナデナデ

瑞鶴 「ジンさん、ありがとう…」

ジン 「…そうだ、もう一つ技を教えてやろう」

瑞鶴 「わ、技ですか？」

■ ■ ■ ■ ■
ジン 『ジャスト回避』って知っているか？」

瑞鶴「えへへへ…ジンさん、私頑張ったわ！」ブイツ

ジン「…っ!!」瑞鶴を抱きしめる

瑞鶴「ひやあああつ!?ちよ、ちよっとジンさん!?!/ / / /」

ベル「ニヤニヤ

提督「とても白熱した試合でした。…あの、それで…」

孫娘提督「…み、認めないわ!!あ、あんた達に着任をみとm」

摩耶「提督、負けは負けだけぞ?認めてやんねえと」

大和「…どんな艦隊だつて最初から『負けたことのない』なんてないんです。『負けた』経験を得たことよつて強く、そして『負けたい』艦隊になつていくんですよ?」

孫娘提督「…ぐぬぬぬ。わ、わかつたわよ。あんた達の鎮守府に鹿島の着任を認めて

上げるわ」

提督「ありがとうございます。」ペコリ

鹿島「あ、ありがとうございます!」

アール「よかつたな」ナデナデ

孫娘提督「でも!!次の演習対決があつた時!!絶対にコテンパンにしてあげるからね

!」ザッ

提督「あ、ちよつと待つてください!」

孫娘提督「なによ！今から帰るとこなのに！」

提督「夕食の準備もしていますし…どうですか、夕食を食べていかれませんか？」

孫娘提督「ズコーツ

大和「あらあら、すみません」

摩耶「じゃあ頂こうぜ！」

―― 夕食を終え、帰りの途中 ――

i n 孫娘提督の船

孫娘提督「…なんなのよあいつら…」ムスーツ

本当に気に食わない連中だわ…何食わぬ顔で私の顔に泥を塗って…腹が立つ。

そう、あのG級作戦とかいう意味の分からない作戦が出てきた時だ…

■ ■ ■ G級作戦時 ■ ■ ■

i n 総司令部

孫娘提督「おじいちゃ…元帥殿!! どういうことですか!？」バンツ

元帥「…どうということとは？」

孫娘提督「なんで私の連合艦隊や他鎮守府の主力連合艦隊を行かさずにあんな意味の分からない鎧を着たたった4人の男たちに全てを任せるんですか！」

元帥「…」

孫娘提督「意味の分からない地方から来た新米共に何ができるんです!?!しかもまだ艦娘達もいないといいますし!」

元帥「…」

孫娘提督「今作戦、鋼鉄海峡（アイアンボトムサウンド）の総司令は私ですよ!?!G級作戦とかそんな作戦のなんかほつといてこのまま全艦隊を突撃させましょう!」

元帥「…一つ聞くが我々の敵は何だと思うかね?」

孫娘提督「は、はあ…深海棲艦に決まってるではないですか!」

元帥「…それは違う」

孫娘提督「…え?」

元帥「深海棲艦だけではない…『自然』も時として我々に牙を向くのだ」

孫娘提督「し、自然?」

元帥「…彼らは『アレ』を龍と呼んでいる。今回の奴は…ナバル…なんとかだっけかな?」

孫娘提督「りゅ、龍?元帥殿、一体なんのことを…」

元帥「自然も脅威であることを我々は思い知らされたのだよ。だから自然のことを知っている、そして均衡を取れる彼らに任せただ。我々では『勝てる』相手ではない、

彼らを信じなさい」

孫娘提督「…わ、わかりました」グヌヌ

■ ■ ■

孫娘提督「…おかげで私が恥をかいてしまったのよ…あいつら…絶対に許さないんだから！」

大和「提督！、そろそろお休みしますよ、一緒に寝ましょう！」

孫娘提督「だからもう子供じゃないってば！子供扱いしないでよね！」ギャーギャー

● 『泡狐竜』 タマミツネ、離島防衛戦？

ホツポ「木の実沢山集メタ!!」フンス

離島棲鬼「ペ、ペイントの実、ネンチャク草…コンナモノデ行ケルノカシラ？」

ヲ級「ヲツ、ヲツ!!」(*, ω, *)

ホツポ「コレヲ混ぜテ『ペイントボール』ヲ作ル…スツゴイニオイ!」クサー
離島棲鬼「こ、コノ臭イ…キツイツ!」ヒー

—— 防空棲姫、駆逐棲姫、レ級チーム

防空棲姫「…来タワネ、艦娘達ガ見エテキタワヨ」

レ級「…陸奥、伊勢、羽黒、最上、赤城、瑞鳳ト、カナリノヤリ手ダネ」

駆逐棲姫「ア、足止メ頑張りマス!」

陸奥「あれは…防空棲姫!？」

最上「な、なんでこの海域に!？」

赤城「戦艦レ級に駆逐棲姫…氣を付けていきましよう!」

防空棲姫「艦載機ハ対空デ私ガ抑エルワ」

レ級「中破モサセズニ抑エルノハ難シイケド…ヤツテミルカ!」ニシシ

—— ウイル&駆逐水鬼チーム

ウイル「さて：久々の戦いだなー」つエイム of イリユース

駆逐水鬼「ウイル、消散剤ヲ撒キ終エタゾ？」

ウイル「ようし、こつからが本腰だ」

駆逐水鬼「ムツ：何カガ来ル！」

タマミツネ「グルルル：」イライラ

ウイル「人の縄張りを荒らされて怒っているのか。でも：ここ人んちだからな！」

駆逐水鬼「離島棲鬼ノ住処ヲ荒ラサセハシナイ！」

タマミツネ「（、皿）：。〇〇」泡のプレス

ウイル「おっと、それに当たるなよ？泡まみれになっちゃうからな！」

駆逐水鬼「ウム、コノ泡ヲ壊セバイイノダナ！」泡を割って泡状態に

ウイル「人の話聞いてた!？」Σ（。D。；）

タマミツネ「三（、皿）」泡の摩擦でカーブして尻尾攻撃

ウイル「どっこい!?!あぶねえ!?!」緊急回避

駆逐水鬼「ウイル!!コレ凄ク滑ルナ！」ツルツル

ウイル「うん、それが泡まみれって言ってたよな!?!」（；。D。；）

タマミツネ「（、皿）」泡を纏ってのしかかり攻撃

ウイル「くらわねえよ！これでもくらえっ！」ジャンプ攻撃

タマミツネ「三（、皿、）〇〇」ひらりと躲して泡を撒き散らす

ウイル「いけっ、俺の猟虫ちゃん！」

アルマスタツグ「エキスをいただくぜー ブーン

タマミツネ「Σ（、皿、）」背びれからエキスを取られる

ウイル「猟虫ちゃん、どんどん取っちゃって！」タマミツネの周りを走る

アルマスタツグ「尻尾と前足のエキスも取ったぜー ブーン

ウイル「よっしやあ、パワーアップ！」キンピカー

駆逐水鬼「ウイルガ金色二輝イテル！」キラキラ

タマミツネ「三（、皿、）」泡を纏って突進

ウイル「あらよつと！」躲して攻撃

タマミツネ「（、皿、 #）」少し怯むが尻尾で振り払う

ウイル「ぐおっ!」三（、皿、）； ㊦（、皿、）

タマミツネ「（、皿、）三〇」大きな泡を吐く

ビシヤッ

ウイル「しまった!?!俺も泡まみれに！」アワアワ

ツルツ

ウイル「あゝれゝ」三三(；；。D。() ツルーン

駆逐水鬼「ウイル!? 今助けに…」

ツルツ

駆逐水鬼「アゝれゝ」三三(；；。ω。() ツルーン

ウイル「ちよ、こつちくんなし!?」ゴットン

タマミツネ「(、皿()三三三)」流水ブレス

ウイル「やべえ! 流水ブレスだ!」

駆逐水鬼「オオ、アレデ泡ヲ洗エルノカ?」

ウイル「洗えるとかそういうレベルじゃねえからね!? めっちゃいてえからね!?」水鬼を抱えて回避

駆逐水鬼「ソウダ、イイコトヲ思イツイタゾ!」

ウイル「い、嫌な予感がするんだけど…?」

駆逐水鬼「私ニ任せテオケ!」艦装の腕でウイルを担ぐ

ウイル「ふお!? え、ちよ、まつ…」アセアセ

駆逐水鬼「ウイル、反撃スルヨ!」泡を利用して滑っていく

タマミツネ「Σ(；；。皿()三」踊る様に躲す

駆逐水鬼「奴モ滑ルナラ私達モ滑レバイイ!!」ツルーン

ウイル「ハンターもそんなごり押し考えたことがねえ！」ヒエエエツ
タマミツネ「(、皿、) 三三三」流水ブレス

駆逐水鬼「ソコダツ!!」躲して艀装の腕で顔面に右フック
タマミツネ「Σ(、皿、;、)」「バランスを崩してこける

駆逐水鬼「ウイル、今ダヨツ!!」ウイルを投げる

ウイル「よっしやー!任せとけ!」

ズバンツ

タマミツネ「Σ(、;、皿、)」「尻尾切断

ウイル「おらおらおらあつ!!」ごり押し!!

タマミツネ「三(、×皿、)」「アタフタと逃げる

ウイル「もうここには来るんじゃねえぞー!」

駆逐水鬼「ウイル、ヤツタネ!!」ハイタツチ

ウイル「おう：つて艀装の腕でかよ!?!」

ホツポ「タダイマー!!ウイル、駆逐水鬼、カツコヨカッタ!!」

離島棲鬼「ス、スゴイワネ：アノ狐ヲ追イ払ツタノネ」

ヲ級「ヲツ、ヲツ!!」(*、ω、)ノシ

ウイル「おかえりホツポ。あれは用意できたか?」

ホツポ「ペイントボール、沢山デキタ!!」フランス

ウイル「えらいぞー。よし、防空棲姫達を呼び戻してくれ」

ヲ級「ヲツ」(ωゝゞ

駆逐棲姫「あつ、ヲ級カラ通信ガ来タヨ！」

レ級「ウイル達ノ方ハ片付イタミタイダネ」

陸奥「もうなんで防空棲姫がいるのよ！」プンスカ

伊勢「こつちは被弾はしてないけど…防御力高すぎい！」

防空棲姫「アハハハ!!ソナ攻撃痛クモナイワ!!」↑装甲値333

駆逐棲姫「防空棲姫チャン、ウイルさんカラ戻ルヨウニツテ!!」

レ級「夜戦ニ持チ込メツテサ」

防空棲姫「エエ…仕方ナイワネ、戻リマシヨウカ」

最上「あ、逃げるみたいだよ！」

瑞鳳「このまま追い込みましょう！」

離島棲姫「ト、トコロデ…ナンドコンナボールヲ？」

ウイル「ねえ知ってる？ペイントボールって…意外と臭いんだぜ？」

駆逐水鬼「ソウナノカ？」

ウイル「忘れもしねえ…ジンってやつにな、ポイントボールぶつけられたせいで…その臭いでイビルに追い回されたことがあるんだ」遠い目

ホツポ「ジン？」クビカシゲ

駆逐水鬼「イビル？」クビカシゲ

ウイル「…まあいいや、さあ行くぞサシミ、出撃だ!!」

サシミ「キュー!!」

陸奥「ついに離島棲鬼のエリアに来たわね…」

羽黒「今度こそ、『風雲』ドロップできるでしょうか…」

赤城「夜戦ですけど、一気に叩きましょう」

伊勢「むっ、さっそく敵艦隊が見えてきたぞ！敵艦は…」

防空棲姫、北方棲姫、駆逐水鬼、駆逐棲姫、戦艦レ級、離島棲鬼、『??』

伊勢「（ ㊦ ）。

最上「（ ㊦ ）。

陸奥「…ど、どこのイベント最終海域のボス戦よ!？」

瑞鳳「というか鬼畜な編成じゃないですか!？」

羽黒「ま、待っててください…あそこに何かいます!!」

ウイル「コーホー…」

最上「な、なにあれ!？」

赤城「駆逐イ級に乗った…し、新種の深海棲艦!？」

ウイル「…よこせえ…をよこせえ…」ユラー

伊勢「な、何か言ってるぞ?」

ウイル「ハチミツよこせー!」ウオオオオツ

羽黒「ひいつ!?こ、こつちにきますー!？」

陸奥「といひかなんでハチミツ!？」

伊勢「と、とにかくあいつを撃つわよ!」ドドーン!!

防空棲姫「全ク、砲弾ヲ撃チ落トスotte難シイノヨ!」ドーン!!

ホッポ「レップー、ヨコセー!!」ウオオオオツ

伊勢「ちよ、北方棲姫までこつちに来た!？」

ウイル「ハチミツよこせー!!」つペイントボール

陸奥「なに?!…つてこれ臭いがきついわ!？」キヤー

ウイル「ハチミツよこせー!」(?▽?) 三 (?▽?) (三 (?▽?)

最上「ぶ、不気味な動きで怖い！」ヒー

ウイル「ハチミツくれずにドロップしかしないのなら…かえれー!!」ポイポイ

ホツポ「カエレー!!」ポイポイ

陸奥「て、提督から通信!! 急いで退却せよって!!」

伊勢「いや怖すぎるでしょ!?!」

羽黒「撤退しますー!!」

防空棲姫「…ホラ、追ワナイカラサツサト帰りナサイ」

離島棲鬼「ソレカラ、何度モクルナー!!」

敵艦隊撤退!!

ホツポ「ヤツタ!! 追イ払ツタ!」フンス

レ級「ホトンドウイルノ気迫ダツタナ…」

とある鎮守府

他提督A「…ということそんな奴が現れたんだよ」

他提督B「…防空棲姫や駆逐水鬼がいる海域とかなにそれ怖すぎる」

他提督C「つていうか最後にでた…『ハチミツよこせ』だっけ? 不気味すぎるんだけ

ど」

そして全鎮守府にしつこくイベント海域にレア艦ドロップ狙いで回ると、謎の深海棲艦『妖怪ハチミツよこせ』が防空棲姫とかを引き連れて強制撤退をさせる、という噂が広まり周回を控えるようになったという：

離島棲鬼「アラ？モウ出立スルノ？」

ホッポ「レツプー探ス！」

防空棲姫「チャント港湾棲姫サンノ所ニ向カツテイルカラ大丈夫ヨ」

駆逐水鬼「ウイルモイルカラ私達ヨリデカイ怪物ガ出テモ大丈夫」

ウイル「ハチミツ：くれなかつた：」シヨンボリ

レ級「マ、マア何トカナルヨ」

離島棲鬼「：ウイルニハ感謝スルワ、アリガトウ：」

ウイル「お、おう：またいつか遊びに来るからな！」

ホッポ「ソレジャア行ツテキマース！」

駆逐棲姫「マタ会イマショー!!」ノシ

ウイル「またなー！」ノシ

離島棲鬼「サヨウナラー：サテト、貴方達ノ意見ハドウカシラ？」

南方棲戦姫「…ドウモコウモ、納得ハイカナイ」

空母棲姫「…ナゼ人間ニ従ツテイルノカ気ニ食ワナイワ」

離島棲鬼「ウイルハ…人間ジャナクテ竜人族ラシイワヨ？」

南方棲戦姫「…ソシテハドウデモイイ、何故ヤツヲ仕留メナカッタ？」

離島棲鬼「…彼ハ世界ノ広サヲ教エテクレタワ…ソウデモナキヤ、アンナ狐ニ全主力ヲ呼ンデ島ゴト消シテイタノヨ？」

空母棲姫「…マアイイワ。ホツポ達ガ次ノ島ニ到着シタ時ニホツポヲ取り返スワ」

南方棲戦姫「ソコデ『ウイル』ヲ始末スレバイイ」

離島棲鬼「…ウイル、貴方ハドウ立ち向カウノカシラ…」

☒ジンの悩み、アルフォンシーノ海域戦…忍び寄る気配

i n 食堂

提督「皆、前は本当にご苦労様!!」

天龍「こんなの楽勝だったぜ!!」エツヘン

金剛「とか言いつつすごい冷や汗かいてましたヨ?」ニヤニヤ

鹿島「ほ、本当にありがとうございました!!」

提督「つてなわけで昨日はできなかつたけど…鹿島の着任と頑張った子達に乾杯!」

ノ(酒)

艦娘一同「かんぱーい!!」

長門「ビスマルク、よく頑張ってたな」

ビスマルク「ま、まあ当然よ!…でも、アドミラルのおかげね。思った以上しつかりした人達でよかつたわ」

加古「ジンさんの整備のおかげかなー」

川内「そうだ!他の子達にもやってあげようよ!」

明石「だめです」キツパリ

鹿島「提督さん、ほ、本当にありがとうございますー！」ウワーン
提督「ちよ、酔うのはやいよ!?しっかりして!」

五月雨「エヘヘへーアーロさんが4人いますねー」ウイ
アーロ「ちよ、またかよ!?誰だ、五月雨にお酒飲ませたのは!」

鈴谷「…鎧のコスプレした提督達、すごいねー」

那智「あれ、本物の鎧だぞ?」

鈴谷「え!?マジモンの鎧なの!?すっごい徹底したコスプレ初めて見た…」

in 工廠

ジン「…」ハア…

■ ■ 孫娘提督達が帰る前 ■ ■

ジン「…少し聞いてもいいか?」

摩耶「ん?どうかしたのか?」

ジン「…君たちの全員に指輪の様なものを付けているが、それは…?」

大和「これですか?『ケツコンカッコカリ』の指輪です」

ジン「…ケ、ケツコン!」

大和「ケツコンとはいっても艦娘の能力をより強化するアイテムのようですけどね」

摩耶「でも、こいつは提督との信頼と親愛の証でもあるって言われてるぜ?」

ジン「…(仮)なのか…」

摩耶「まあ中にはモノホンの指輪を渡してゴールインしている提督もいるし、人それぞれさ」

大和「…提督殿達にもいつか指輪を渡せる時がくれればいいですね」ウフフ

ジン「…」

■ ■ ■

瑞鶴「いた、ジンさん？」

ジン「…瑞鶴…」

瑞鶴「?どうかしたの?すっごい悩んでるみたいだけど?」

ジン「…瑞鶴…飲むか?」つ(酒)

瑞鶴「一人酒してたの?一人じゃさびしいじゃない、一緒に飲んであげるわよ」

ジン「…こいつは故郷のユクモで作られた酒だ」

瑞鶴「どれどれ:うん、美味しい!!」

ジン「…ユクモの溪流にある集落で作られた最後の酒なんだ」

瑞鶴「…?それともう作られていない貴重なお酒ってこと?」

ジン「…俺はユクモの溪流地区にある集落の生まれでな、その集落で作られた自慢の

酒さ。…だが、もうその集落は」

ベル「ジン！そこにいたのか、手伝ってくれ!! 駆逐艦の子達が間違えて酒を飲んじゃって大変なんだ!」

ジン「…わかった、俺が行こう」ガタッ

瑞鶴「…あの、ベルさん」

ベル「珍しいなあ、ジンの奴が故郷のお酒を誰かに飲ませるなんて…」

瑞鶴「め、珍しいんですか!」

ベル「あいつにとつて『唯一、崩壊した集落に残っていた』大事な物なんだ。」

瑞鶴「ほ、崩壊!?ベルさんはジンさんの過去の事、何か知っているんですか?」

ベル「…酔わせて聞いたことがある。でも、今は話すべきじゃないね…ジン、泣くし」

瑞鶴「な、泣くんですか!」

ミケ「ベルさん!大変ですニヤ!! 酔った磯風がアール口さんにシャイニングウイザード

をかましたニヤ!!」

ベル「マジでか!これは大変だ!」ダッ

瑞鶴「…」

i n 執務室

霞「もう駆逐艦にお酒を飲ませるのは禁止よ」

提督「…一時はどうなることかと…」

アール「磯風のシャイニングウイザードに曙のジャーマンスープレックス…お花畑が見えたんだけど」

磯風「も、申し訳ない…」

曙「あ、あれは酔ってたんだし仕方ないでしょ…」

提督「さて、次なる海域はアルフォンシーノ海域か」

大淀「この海域は敵艦の航空戦力が高いと言われています」

霞「下手にこちらの対空、制空力が低いと痛い目に合うわよ？」

ベル「さしずめ空母を2隻以上入れた編成が大事だね…」

提督「それじゃあ…球磨を旗艦に、鈴谷、長門、飛鷹、加賀、瑞鶴の6名での出撃にしよう」

霞「司令官、水上偵察機の搭載もしてみたら？」

磯風「より航空戦は有利になるし、こちらとして有利になる」

提督「なるほど…やってみようか」

アール「あれ？そういえばジンの奴は？」

ベル「二日酔いだってさ」

アール「m9（ハハ）プギャー」

i n 母港

ジン「…頭がずきずきする…」(川、口、)

球磨「あれから飲んだってきいたクマ」

瑞鶴「の、飲みすぎよ…」

鈴谷「提督！しっかりと練度をあげて行けば航空巡洋艦になれるから期待してね！」

提督「おお、それは頼もしいな！」

飛鷹「き、緊張する…」

加賀「大丈夫よ、私達がフォローするわ…瑞鶴、演習の時みたいな避け方は控えなさいよ？」

瑞鶴「え、ええー」

提督「それじゃあ球磨、皆、気を付けて！」

球磨「旗艦は任せるクマ!! いざ出撃クマ!!」

長門「クマアアアツ!!」オオオオオオツ!!

鈴谷「長門さん!? 台詞が逆ですよ!？」

瑞鶴「…ジンさん、行つてきます！」ノシ

ジン「…ああ」ノシ

アルフォンシーノ海域道中

球磨「渦潮なんて屁の河童クマ」ウオオツ

鈴谷「開幕は焦ったけど…順調に進んでるね！」

加賀「…瑞鶴、考え事は帰ってからにしないさ」

瑞鶴「ふえ!?べ、別に考え事なんてしてませんよ!？」

加賀「丸わかりです。さっきはそのせいで被弾しかけたのですから」

瑞鶴「…す、すみません」

加賀「今は戦いに集中しなさい…その後、相談にも乗ってあげるわ」

長門「このまま…進撃するぞー!!」

鈴谷「…まさか、長門さんまだお酒に酔ってませんか？」

球磨「昨日はビスマルクが泣いても止めずに飲んでたクマね…」

飛鷹「…!! 敵艦発見です!! 敵艦載機が来るわよ!」

加賀「さっそく航空戦ね…瑞鶴、いきますよ」艦載機発射!!

瑞鶴「わ、わかつてるって!!」艦載機発射!!

艦載機<オレノウタヲキケー ババババ 敵艦載機<ヒヤッハー!!

球磨「クマ!! 対空砲用意クマ!!」

長門「撃ち落とすぞ！」ババババ

加賀「：航空戦はこちらが有利ですね。追撃します」艦載機発射!!

飛鷹「私だって、やれるんだから!!」艦載機発射!!

艦載機発射!!<ネライウツゼー!! ババババ

駆逐二級A「ハンバアアアグツ!?!」c r i t i c a l! 撃沈!!

空母ヲ級A「ヘイテンガラガラッ!?!」中破!!

長門「よし：続けて撃つ！」ドドーン!!

駆逐八級「ザラザラヤナイカイツ!?!」c r i t i c a l! 撃沈!!

戦艦ル級「切レタナイフダヨ！」ドドーン!!

球磨「クマアツ!?!い、痛いクマー!!」大破!!

空母ヲ級B「ポーツマス、ポーツマス!!」艦載機発射!!

飛鷹「きやあつ!?!くう・お笑いネタなのに強いっ：」中破

軽巡ホ級「ソソナノカンケーネー!!」ドーン

瑞鶴「おっと！」フレーム回避

鈴谷「ズイズイ、すごい！」ワー

瑞鶴「ズ、ズイズイって：そんな事より反撃よ!!」艦載機発射!!

鈴谷「オツケー！やっちゃいましたよー!!」ドドーン!!

空母ヲ級A「アマー…イツ!?」critical! 撃沈!!

軽巡ホ級「オツパッピー!?」critical! 撃沈!!

戦艦ル級「ワイルドダロ〜!!」ドドーン!!

加賀「!!」

瑞鶴「か、加賀さん、危ない!」

加賀「…こんなの、朝飯前です」フレイム回避

瑞鶴「(。 ㇿ。)」

鈴谷「ちよ、ええええ!?!」

瑞鶴「な、なんでできるんですか!?!」

加賀「赤城さんができるなら私だってできなくては」

球磨「ずるいくマ!! 球磨にも教えるクマ!!」

長門「よし、反撃するぞ!」ドドーン!!

戦艦ル級「フ、フライングゲツトオオツ!?」critical! 撃沈!!

加賀「これで、仕留めます…!!」艦載機発射!!

艦載機<ナンデヤネン、モウエエワ!! ババババ

空母ヲ級B「オ、オアトガヨロシイウデッ!?」critical! 撃沈!!

加賀「…ボス艦隊、撃破。提督、艦隊の勝利です」

提督『よ、よかったー…皆ご苦労様』

球磨「球磨はもつと活躍したかったクマー」プンスカ

飛鷹「でも何とかなったからいいんじゃないの？」

鈴谷「あれ？あそこにいるのは…おーい！」ノシ

伊58「うん？私に用デチ？」

加賀「おひとりなのですか？」

伊58「そうデチ。艦隊の方なら私もついてつてもいいデチか？」

瑞鶴「もちろんよ！一緒に行きましょう？」

伊58「ふうー、安心したデチー…道中、大変だったデチ」

長門「？何かあったのか？」

伊58「北方海域の奥地の所を遊泳してたら…轟音を撒き散らして大暴れする怪物を見かけたデチ。岸边にいた深海棲艦や他の生物たちも襲われて一目散に逃げててんやわんやデチよ」

長門「…そんな事があったのか」

加賀「そうなると北方海域全域に深海棲艦が流れ込むわね…」

瑞鶴「大変…提督たちに知らせなくちゃ！」

鈴谷「え？え？あの…フィ、フィクションよね？」

異常震域、『轟竜』ティガレックス 前編

金剛「Hey!! ていとくー!!」バーン!!
シーン:

金剛「…あれ? 提督がいないデース」

大淀「金剛さん、どうかしましたか?」

金剛「あの、提督はどこにGOしたかしりませんか?」

大淀「そうですね:伊58ちゃんの話聞いた途端血相を変えて出て行きましたよ?」

金剛「て、提督ー、どこへ行ったのデース!」

in 母港

ビスマルク「はあ!?! 北方海域奥地への進撃は中止!?!」

ミケ「そ、そうですニャ:元帥にもしばらく安全が確認されるまで全鎮守府の出撃を控えるよう伝えてるニャ」

鈴谷「えー?なんでー?」

ブルー「それはティガ:げふんげふん、今はその地付近に行くのも危険ですニャ」

鈴谷「理由になつてないじゃん？教えてよー、誰にも言わないからさー」ギューツ
ミケ「そ、それだけは言えないニヤー!!」

ブルー「やわからか…じゃなかった、旦那さんに言うなと言われてるニヤー!!」

提督「こらこら、ミケ達を弄るんじゃないぞー」

ビスマルク「アドミラル!! どういう事なの、説明してちょうだい!」

提督「言つた筈だ。今はあの地は危険なんだ。俺達が行つて安全が確認されるまで出撃はしない」

ビスマルク「ア、アドミラル自ら敵地に向かうなんて危険すぎるわ!!」

天龍「ビスマルク、考えすぎだぜ。提督達なら大丈夫さ」

ビスマルク「で、でも…」

提督「…まあ第二イサナ号だけつてもあれだし、随伴艦として来るのなら構わないぞ?」

ビスマルク「…そ、それなら仕方ないわね」

天龍「よっしゃあ、俺もついてきていいか?」

アール「こら、ついてくるのはいいが今回は陸地にはくんなよ?」軽くチョップ

天龍「ええー、なんでだよ?」

提督「なんでもだ…じゃあビスマルク、編成は任せる。支度ができたら教えてくれ」

ビスマルク「任せてちょうだい！」

―数分後―

ビスマルク「私を旗艦に、天龍、鈴谷、川内、赤城、瑞鶴の6名で出撃するわ!!」

提督「おお、いつでも行けるな。本作戦はただ真つ先に北方海域奥地に到着すること
!」

赤城「それは…敵との戦闘は避けるといふことですね？」

アール「艦隊も深海棲艦も、他の生物たちも安全にいられるようにするためだからな。
戦う暇はない」

天龍「さつすが提督たちだなあ…じゃあ提督の船の守りは任せとけ！」

瑞鶴「あ、あのージンさんは…？」

提督「うーん、あいつ珍しく二日酔いで寝込んでる」

アール「はっは、飲みすぎワロス」 m9（㊦㊧）プギヤー

提督「よっぽど瑞鶴の活躍が嬉しかったんだらうなあ」アハハ

赤城「あらあら、ジンさんったら」ウフフ

瑞鶴「／／／／／」

提督「さあ準備はできたな？いざ出発!!」

艦娘一同「はいっ!!」

ミケ「旦那さん!! ホットドリントクを忘れてるニヤ!!」

提督「あつ、いっけねー」テヘペロ

艦娘一同「ズコーツ

in 北方海域奥地、沿岸部

ビスマルク「…この船、帆船よね？」泊めてある第二イサナ号を軽く叩く

瑞鶴「な、なんで私達より速く進めるのよ…」

鈴谷「道中出くわした深海棲艦なんてあまりの速さに顔がポカーンとしてたよ…」

川内「島風達の話の聞くと戦艦レ級の砲撃にも耐えるつてさ」

赤城「さすがは提督の船ですね」

天龍「…」

川内「天龍、何考えてるの？」

天龍「…提督たち、『ここで待ってろ』つて言つてたけど気になるよな…見て行かないか？」

瑞鶴「だ、だめよ! 今回は危険だからここで待機しろつて言つてたじゃない!」

ビスマルク「…私は天龍の意見に賛成よ。アドミラル達が何をしているのか気になるわ」

鈴谷「鈴谷も気になるー!!」

天龍「決まりだな。こつそり見に行こうぜ!!」

瑞鶴「で、でも…ああもう、危ない時はすぐ戻る様にしなさいよ」

赤城「じゃあ私が待機してますから、ですが提督の指示はちゃんと守ってくださいよ？」

川内「私も待つとくねー!!」ノシ

アーロ「ブヘックシヤル!!」クシヤミ

提督「…お前のクシヤミすごいよな」

アーロ「寒いのは苦手なんだよー、氷耐性低い防具なのに寒さにヘツチャラなジンが羨ましいぜ」

提督「ゴーヤが見たという場所はこの辺りなんだが…」キョロキョロ

アーロ「ヤツが狩り以外に大暴れするなんて珍しい」

提督「縄張り争いに負けたか、繁殖期か…見てみないとわかんねーな」ズウウンツ

アーロ「ぬっ…いたぞー!」

ティガレックス「(#、皿、)「グルルル…」

提督「あれは…かなり機嫌が悪そうなティガレックスだな」

アール「どうする？『あの病気』はかかってなさそうだけど…」

提督「ひとまず捕獲だ。調べてからギルドに遠くへ逃がすよう申請するさ」つ輝王剣
リオレウス

アール「オツケー、いつちよやってやるぜ!!」つブラックフルガード

ティガ「三三(＃、皿、) 突進

アール「よつと！」回避

ティガ「(、皿、＃)三三<」Uターンして突進

提督「あぶねっ!!…ティガは何度も戦って来たからな、慣れて来てるぜ」ジャスト回
避

ティガ「(、皿、)つ三三〇」三方向に雪玉を飛ばす

提督「ふべすっ!？」三〇()。3。*)

アール「おおいっ!?!慣れてないじえねえか!？」

提督「ま、慢心は捨ててかかるぞ！」(； 皿、)

少し離れた所

ビスマルク&鈴谷「(皿)。。。

天龍「…何アレ、マジで怖いんだけど!？」

鈴谷「う、うそでしょ!?あれ、本物!?撮影とかじゃなくてマジでいる奴!?」

ビスマルク「ア、アドミラル達はあんなのと互角に渡り合えてる…」

瑞鶴「だから言ったじゃない!ほら、提督さん達に任せてさっさと…」

天龍「ず、瑞鶴?どうした?」

瑞鶴「…あれ、なんかこっちに飛んできてるんだけど…」

天龍「…え?」

ティガレックスB「(皿)」ズウウンツ

アール「…はあ!ちよ、もう一頭来た!」

提督「何だ?!くそつ…2頭いたのか。アール、こやし玉!」

アール「…:忘れたでゴザル」(ωω)

提督「」

ティガA「(#、皿)」ギヤオオオオオンツ!!

ティガB「(皿)」ギヤオオオオオンツ!!

提督「…くそつ、アール!二手に分かれさせるぞ!」

アール「了解!おらつ、この新手野郎、こっちに来やがれ!」つ【ペイントボール】

テイガB「三（、皿）」ア一口を追いかけていく

ビスマルク&鈴谷「」

天龍「…ウソだろ、あんなのが2頭とか…」

瑞鶴「大変…なんとかしなくちや！」

㊦異常震域、『轟竜』ティガレックス 後編

アール「フーハハハ!! 地を這う蜥蜴野郎! こつちに来やがれ!」ヒヤツハ

ティガB「(皿) 三」突進

アール「へいへーい!! こつちこつち!!」ノシ

ティガB「C(皿) 三」ジャンプ!!

アール「ちょ、飛び掛ってくんなああつ!」(皿) ; (三)

提督「アールはうまく分断させただろうか: それよりもこつちに集中しなくちやな」

ティガA「三(# 、皿) 」突進

提督「おいしよつ!!」ジャスト回避

ティガA「(皿) # (三) Uターン突進

提督「おわつと!」回避

ティガA「(; 、皿) 三3」ゼエゼエ

提督「やつとスタミナが切れてきたな。この時を待ってた!!」抜刀切り

ティガA「(; 皿) 」左爪部位破壊

提督「もういつちよ!!」横切り

ティガA「(＃、皿、)」右爪で受け止める

提督「ぬっ!?!」

ティガA「(、皿、)三(、皿、)」スピン

提督「イダスッ!?!」三(、皿、;)」

ティガA「三(＃、皿、)」突進

提督「ガードッ!!」大剣ガード

ティガA「〇三〇(、皿、＃)」振り向いて雪玉

提督「見切ってるぜ!!」ジャスト回避で迫る

ティガA「(、皿、＃)」噛みつき

提督「しやあおらっ!!」大剣で右側面を叩く

ティガA「Σ(；、皿、)」ギャオオンッ!?!

提督「…な、なんだ？物凄く痛がってたぞ…?」

ティガA「(、皿、＃)」激昂

提督「そんですげえ怒った!?!」

アーロ「イヌガミケ

ティガB「三(三)、皿(皿)」突進

アール「(；、皿、)」ジタバタ

ビスマルク「Feuer!!」ドドーン!!

ティガB「Σ(；、皿、)」critical!

アール「うっ!! うっ!!」ジタバタ

鈴谷「ほら、動かないで!!」

天龍「せーのっ!!」

ズポッ

アール「ぶはっ!! お、お前ら、なんで来てんだ!?!」

ビスマルク「アドミラル達のピンチを黙って見ていられないわよ!」

天龍「すっげえ怖いけど…やるしかねえだろ」

鈴谷「あのー…鈴谷、すごく泣きそう…」ガクブル

ティガB「(#、皿、)」ギャオオオオオオオ!!

天龍「うわっ!?!めっちゃ怒った!?!」

ビスマルク「うそ…戦艦の砲撃に耐えられるの!?!」

アール「…鈴谷、離れた所にこれを埋めてくれ」つ ■

鈴谷「うそ、私!?ど、どうすればいいの!」

アール「いいか?真ん中のボタンを押して、地面に埋めればいい。できたら合図をくれ、頼んだぞ!」ダッ

鈴谷「ええええっ!?や、やってみる!」

アール「ビスマルク、天龍、あぶねえから下がってる!」

ビスマルク「…っ、わかったわ」

天龍「…っ」

ティガB「(#、皿)」連続噛みつき

アール「おらっ、ガードポイント!!」GP

ティガB「(#、皿)っ」右爪叩き付け

アール「ぬううんっ!!」ガード

天龍「…提督達ってあんな凶暴な生物を恐れずに相手してるんだってのを思うと…すげえよな」

ビスマルク「おかげでアドミラル達の見er目が変わったわ…でも、私だって力になりたい…」

天龍「やること、わかってるよな?」

ビスマルク「もちろん!!」

アール「そいやっ!!」属性解放斬り

ティガB「Σ(皿、;)」顔面にダメージ

アール「これで…スタンしやがry」

ティガB「(皿、#)」スーッ:

アール「うそ!?そこでバインドボイスはやべえ!?!」Σ(；皿、)

天龍「オラーっ!!撃ちまくるぜー!!」ドーン!!

ビスマルク「やらせはしないわよ!Feuer!!」ドドーン!!

ティガB「Σ(皿、;)」critical!

アール「このままスタンしやがれえっ!!」高出力属性解放斬り

ティガB「(×皿×)」スタン

アール「このままごり押しだー!!」ザクザク

鈴谷「えーと…これをこうして…」アタフタ

落とし穴<ジョウズニデキマシター

鈴谷「あ、アールさん!なんかできたー!!」ノシ

アール「おっし:お前ら、後ろを見ないで鈴谷のところまでダッシュだ!!落とし穴は

飛び越えろよ!!」ダッ

ビスマルク「艤装を付けたまま走るの大変なのよ!」

天龍 「つかなんで後ろを見ない方がいいんだよ…」チラツ
ティガB 「三三(＃、皿、) 突進

天龍 「見るんじやなかったあああつ!!」ダダダッ

鈴谷 「は、走ってー!! 物凄い勢いでこっちに来てる!」

アール 「よっしゃ、ここで飛び越えろ!!」ジャンプッ

ビスマルク 「S i r ツ!」ジャンプッ

ティガB 「Σ(；、皿、) 落とし穴にはまる

アール 「ヒヤッハー、麻酔玉だー!!」つ三〇三〇

ティガB 「(☒☒☒) スヤア」

アール 「よーし、捕まえたぜ…」フー

鈴谷 「こ、怖かったあゝ」ヘナヘナ

天龍 「し、死ぬかと思っただぜ…」

ビスマルク 「まあ、何とかなつたわね」

アール 「お、ま、え、らあゝ…」ゴゴゴゴ

鈴谷&天龍 「ひっ」

ビスマルク 「ご、ごめんなさい!」

アール 「はあ…今回だけ大目に見てやる。助かったし、ありがとうよ」ヤレヤレ

鈴谷&天龍「よ、よかったー…」

アール「さてと、提督のところに行かねえとな！」ダツ

提督「おおおっ!?」ダダダダダ

ティガA「三(#、皿、)」突進

提督「おらっ!!」ジャスト回避

ティガA「C(、皿、C#)三」Uターンしてジャンプ

提督「んなのありかよーっ!?」…・(、ε。(

ティガA「C(、皿、#)」両手で抑える

提督「ぐうっ!?動けん…」ジタバタ

ティガA「(、皿、#)」大きく口を開けて噛みつかうとする

艦載機<こつちを見ろおー!! ブーン

ティガA「?(、皿、三、皿、)?」キョロキョロ

艦載機<爆撃開始!! 三●

ティガA「Σ(×皿、;)」

提督「あの艦載機…」

瑞鶴「…っ、提督さん!!無事ね!」

提督「瑞鶴!？」

ティガA「(皿、#)三」突進

提督「しまつ…そつちに行くくんじやない！」

ティガA「(皿、#)三」突進

瑞鶴(ジンさんや提督さん達がやってた様に…私も勇気を出してっ…)

ティガA「(皿、#)三」

瑞鶴「ここねっ!!」ジャスト回避

提督「おおっ!? ナイス回避…じやなかつた、瑞鶴!! 急いでこつちに来い!」ガサゴソ

…

瑞鶴「は、はいっ!!」ダッ

ティガA「三(皿、#)三」突進

提督「よしっ…後ろを見ずに走れッ!!」【シビレ罨】

瑞鶴(後ろを見ない、後ろを見ない、後ろを見ない!!) ダダダッ チラッ

ティガA「三三(皿、#)三」ドドドドド

瑞鶴「っっ!!」ヒーッ

提督「このまま飛び越えろ!!」グイッ

瑞鶴「は、はいっ!!」ジャンプ

ティガA「Σ（；×皿×）」ビリビリ

提督「おらおらおらっ!!」つ三〇三〇<麻酔玉だあゝ

ティガ「（皿）」スヤア 【目的が達成しました】

提督「ふゝ、ひとまずよしつと…」

瑞鶴「て、提督さん…その…」

提督「危険だからって言ってたけど…助かったよ」

瑞鶴「あ、ありがとうございます!!」

提督「でも、ジンが心配するから無茶は禁物だよ?」

瑞鶴「あ、あははは…」

提督「さてと…こいつが大暴れた理由を調べないとな」歯茎を見る

瑞鶴「何を見てるんですか?」

提督「ふゝむ…やっぱりな…」

in 北方海域の帰り道

天龍「はああっ!?! 暴れた原因が『虫歯』!?!」

鈴谷「それだけで大暴れしてたの!?!」

提督「自然じゃ歯医者はないんだ仕方ない。抜け落したり自然回復が普通なのだが

今回はかなり重度の虫歯だったようだ」

アール「もう一頭の奴も虫歯だったが軽度の状態だったぜ」

ビスマルク「でも、なんで虫歯になったの…?」

提督「道中、へんな噛み跡がついた深海棲艦がいただろ? テイガが岸边にいた深海棲艦を襲って無理に噛みついたり、金属部品を何度も噛んだりして歯を痛めたのが原因だ」

瑞鶴「し、深海棲艦も襲うの!？」

提督「よほど空腹でない限りテイガは変なのを食べない。今回はよほど空腹だったんだろ? うな」

アール「でも、なんでも食うからなんでも襲う腹ペコなヤツもいるけどな…」

赤城「それで提督、北方海域奥地の方はもう大丈夫なのでしようか…?」

提督「ああ、ギルド本部があとは安全な場所を移してくれるようだし、もう大丈夫だ」
アール「これで深海棲艦も他の生物も安心して暮らせるだろうな」

提督「…というわけだ、安心して暮らせよー!!」ノシ

戦艦レ級「…」

川内「つて、深海棲艦があんなどころにいたの!？」

鈴谷「もうこんな時に戦闘はマジ勘弁だし!!」

ビスマルク「アドミラル、どうするのかしら？」ウフフ

提督「無駄な戦闘はしない…というわけで急いでお家に帰ろう！」

天龍「了解だぜ!!」

—— 北方海域、(一応) クリア!!

i nキス島防衛基地

兵士B「元帥殿から電報だ！北方海域奥地の安全が取れたようだぞ！」

兵士C「さすがあの提督殿達だな！これで安心していられるー」

兵士D「どうやら深海棲艦も静かに暮らしているらしい、よかったよかった！」

兵士A「…」

兵士B「どうした新入り？浮かない顔して…」

兵士A「あ、ああ…これで本当に大丈夫なのかなって…」

兵士C「あの提督殿達が何とかしてくれただぞ？もう心配することはないぜ？」

兵士A「…実は、誰にも言っても信じてくれないから黙ってたことがあるんだ」

兵士B「なんだ言ってみ？」

兵士C「陸地を歩くサメもいたんだからよ、たいていは信じてやるよ！」

兵士A「あ、ああ…実は…深海棲艦の調査で北方海域の更に奥地、『極圏』と呼ばれる

所まで調査した時なんだ…」

兵士D 「うんうん…あの氷山が沢山あつた地域だな？」

兵士A 「俺が調査していた時…突然、巨大な氷山が崩れ落ちたんだよ…その時、俺は見ただ…」

兵士C 「…何を見たんだ？」ゴクリ

兵士A 「いたんだ…崩れた氷山の所に動く白く巨大な『何か』がいたんだよ！」

兵士BCD 「…」

兵士A 「…その四日後にあのサメが基地に現れたんだ…きつと白く巨大な『何か』が原因じゃ…」

兵士B 「あれだ、気のせいだよ」

兵士D 「うんうん、氷山の中に氷山つてのもあるしな」

兵士C 「ままま、もう安全なんだ。気にしすぎだ」

兵士A 「…そ、そうかなあ…」

兵士Aが見た『何か』が北方海域に波乱を巻き起こしたのは…後の話

ext ra 海域に続く…

㊦秘匿報告書『G級作戦』 ㊦

i n 執務室

提督「あ、あ、あ、肩こりが、書類整理

霞「あれから手つかずだったのがいけないのよ。弱音を吐かないでさっさとやる！」

提督「あひいゝ」（； 且、）

金剛「Hey、ていとくー!! 一緒にお茶しませんか?」つ紅茶

提督「おお、金剛。そうだなーお茶にしようかなー」チラッ

霞「…仕方ないわね。ちよつと休憩よ」

金剛「ゝゝ」

提督「霞、次の西方海域ってのはどういう感じなんだ?」

霞「そうね…潜水艦型の深海棲艦が潜んでいたり、戦艦夕級が目撃されているところ

ね…」

提督「ふむ…色々大変だなあ」

金剛「ていとくも大変ですネー」つ紅茶

提督「あははは、なんのこれしきさ」

金剛「私達よりもでかい Monster と戦ってたりと提督達はストロングでかつこいい德斯!!」

提督「(. . . ω . . .) ; ; ; ; ; ブツ

霞「あ、あんた何で知ってんのよ!?!」

金剛「え? 昨日、鈴谷が熱弁してマシタよー」

提督「あ、ははははは」ニガワライ

金剛「でも、ずるい德斯。私も見たかった德斯」プンスカ

霞「ねえ司令官、そろそろ皆に話してもいいんじゃないかしら?」

提督「うーん：何人か見てる子もいるし、ちようどいい機会か。よし、食堂に皆を集めてくれ」

i n 食堂

提督「∴というわけなんだ。俺達は冒険しつつ狩人という仕事もしていたってことさ」

アーク「自然の管理人みたいなもんだなー」

長波「ああ、提督達のことなら知ってたぜ?」

時雨「駆逐艦のみんなは知ってたよ?」

ベル「な、なんだって!？」

潮「よく黒丸さんやミケさんから提督達の話聞いてました」

初雪「マタタビあげたら喜んで司令官達の活躍を語ってた」

ジン「…」

黒丸「め、面目ないニヤ…」テヘペロ

ミケ「ま、マタタビの誘惑には勝てなかつたニヤ」テヘペロ

加賀「通りで、普通の提督とは違うと思っていました」

瑞鶴「あれだけ人離れた提督さん達だもんね」

長門「ふむ…人知を超える生物と戦っているからこそ提督達は勇敢な感じだったのだ

な」

高雄「まあ…なんとなくそんな気がしてましたけどね」アハハ

阿武隈「そうだとわかれば納得しますし…」

提督「実際の所お前達を巻き込むわけにいかないから黙ってたけど…俺達の事を思う

子達だから、無茶する子もいるし…本当のことを話せてよかった」ウンウン

天龍「…なあ提督、もう一つ聞いてもいいか？」

提督「うん？」

天龍「孫娘提督の艦娘が言ってた『G級作戦』ってのはなんだ？」

瑞鶴「しおいちゃんとイムヤちゃんだけこの事を知ってるみたいだし、気になるーって」

伊168「司令官、もう話したら？」

提督「そうだなー、話すか。その作戦は俺達がこの鎮守府に着任する前の話、俺が提督になる前の話だ…」

in 大本営、講堂

元帥「…以上、私からの話は終わる。それと一つ、『自然』を舐めてはいけない…我々、そして艦娘達が海を制しているわけではない、このことを思い慢心しないように!!」

新人提督一同『はいっ!!』

しばらくして

青年提督「いやー長かったぜー…ほんと眠たかった〜」背伸び

幼馴染提督「コラ!ほとんど聞いてなかったでしょ!」ゲンコツ

青年提督「あだっ!!だつてさっさと着任して艦娘達とイチャイチャしたかったんだからよー」

幼馴染提督「ほんつとあんたつて人は…元帥殿の話は重要な事ばかりなのよ?」ため息

青年提督「でもよー、元帥殿が言つてた最後の『自然を舐めるな』つてのが意味わかんねーし」

??「それは…元帥殿は目の当たりにしたのだからね」

青年提督「ああ？おっさん誰だ？なんかダンディだな」

幼馴染提督「ちよ、あんたなんて態度をとつてんのよ!!?この人は元帥殿の息子、大将の孫市提督殿よ!!」

青年提督「うっそマジで!?あ、ああとすいませんっす！」アタフタ

孫市提督「あははは、そう硬くならなくてもいいさ」アハハハ

青年提督「あ、あの…さっきの目の当たりにしたつていうのは…」

孫市提督「うむ…話は長くなるし、別の所で話そうか」

—— i n 応接室

青年提督「ガチガチ

幼馴染提督「ガチガチ

孫市提督「あははは、大丈夫だ。取り締まるわけじゃないからさ」つお茶

幼馴染提督「そ、それで…元帥殿は何を見たのでしょうか…?」

孫市提督「そうだね…君たちは新人提督だけど、『G級作戦』というのは知っていかい?」

青年提督「えーと記録によると…1、2年前に『アイアンボトムサウンド』の作戦の時にならんと出てきた作戦ですよね？」

幼馴染提督「でも、全容が明かされておらず上層部しか知らないみたいですし、新人提督の皆はその作戦自体存在が怪しいとされています」

孫市提督「そう。『G級作戦』はあまりにも危険な作戦だったからのと…艦娘達には危険すぎる理由で詳しい内容は教えていない」

青年提督「そ、その作戦は沢山の艦娘達が…犠牲になつたからですか？」

孫市提督「いいや…たつた4人の男達が遂行した作戦だからさ」

幼馴染提督「た、たつた4人!？」

孫市提督「正確に言えばプラス潜水艦の子が2人かな？」

青年提督「そ、その深海棲艦が強敵だったんですか？」

孫市提督「いいや…敵は深海棲艦じゃないんだ…」

青年提督「深海棲艦じゃない?…一体何ですか？」

孫市提督「説明するのは長くなるかな…まずは『G級作戦』が始まる前の話をしよう」

——アイアンボトムサウンド、夏季に出現する強大な力を持つ深海棲艦が出現する海域で戦う作戦。大本営と各地の鎮守府との連携をとり、連合艦隊を編成して戦う所謂『イベント海域』だ。この時は私の娘、元帥殿の孫娘提督が総司令としてアイアンボトム

サウンドに向け艦娘達と共に戦っていた。

孫市提督「前哨戦、輸送作戦、航空混合決戦…空母棲姫や中間棲姫といった強敵と戦いつつも、我々の連合艦隊が優勢となつて勝ち進んでいた…しかし、アイアンボトムサウンドに続く海域へと出撃した時『異変』が起こつた」

青年提督「…」ゴクリ

幼馴染提督「な、何があつたんですか？」

孫市提督「とある海域に艦娘達が進んでいた時…海中から謎の襲撃に合い、連合艦隊が全機大破したりと大規模な被害にあつた。我々の船もその襲撃に合つたよ…一体何が起こつたのかわからなかつた」

「…いくら強豪な艦娘で編成しようがその海域で海中から襲われて撤退する羽目になつた。…中にはダメコンを積んでいなくなつたら全機轟沈していたこともあつた。また、その何かを目撃した艦娘もいたが恐怖のあまり何も話すことができなかつた。…アイアンボトムサウンドに到達する前に連合艦隊は甚大な被害を被つてしまつた」

青年提督「その正体はわかつたんですか？」

孫市提督「あの時はわからなかつた…何かを見たものは『巨大な魚のような何か』だと話していた者もいる」

幼馴染提督「そ、それでどうなつたんですか？」

孫市提督「私と娘、元帥殿と上層部で緊急会議を開いた。『あの海域に化け物が潜んでいる』そういう話になり、どうすればいいか誰もが悩んでいた時だった…」

青年&幼馴染提督「??」

孫市提督「元帥殿の近くにいた見たこともない鎧を着た、聞いたことのない地方から来た男が手をあげたんだよ」

■ ■

??「あ、あのーちよつといいですか？」ノ

上層部A「む？誰だ貴様は？」

元帥「ああ、彼はこの度提督になる新人だ」

孫娘提督「なによその真っ赤なへんちくりんな鎧は!?提督服はどうしたのよ!」

??「あははは、あれを着るよりもこの『黒炎王』を着た方がしつくりくるんですよー」

孫市提督「…お前さん、何か意見があったようだけど何かいい案でもあるのかい？」

??「はい…その海域、私達に調べさせてもらえませんか？」

上層部B「なっ、貴様、何を言っている!」

孫娘提督「あ、あんた新人でしょ!?新人の分際で何をほざくのよ!」

??「まあ新人ですが…話を聞いているとどうも『深海棲艦』ではなくて『別の生物』の仕業のようで気になったんです」

元帥「…君はその正体をしっているのかね？」

??「はい、まだ確信していませんが…『龍』の仕業でしょうね」

…アハハハハ!!

上層部C「何を言うかと思えば…龍なぞ空想の生物だろ！」

孫娘提督「頭がおかしいんじゃないの？」

孫市提督「…」

元帥「…何故そう思うんだ？」

??「はい、艦娘という子の目撃証言、提督達の証言を聞いて…そして『巨大な生物』と聞いてもしやと」

元帥「君は…君たちは『ソレ』をどうにかできるのか？」

??「まあ…撃退はできません。『自然』が相手ですし、多少は苦戦しますけど」

孫市提督「…あんた、名前は？」

クロード「私は『ベルナ』から来ました、クロードと申します」

上層部A「べ、ベルナ？」

孫娘提督「聞いたことないわね…」

クロード「本土から遙か遙か遠くの地ですからね」ニッコリ

上層部B「元帥殿…もしや彼らが…『ギルド本部』とやらから来た手紙に書かれてい

た人物ですか？」ヒソヒソ

元帥「間違いない……クロードくん、君の意見も取り入れよう。」

孫娘提督「お、おじいちゃん!?なんでこんな奴の話聞くの!?!」

元帥「おじいちゃんではない、元帥だ。今は緊急事態なのだよ、我々はあの海域に潜む『何か』の正体を突き止め対処をしなければならぬ。彼に心当たりがあるのなら調べてもらおう」

孫娘提督「で、ですが……」

元帥「目付け役として……孫市提督、君が彼らをしっかりと見張れ」

孫市提督「お、俺ですか!?!」

元帥「彼の言っていることが本当かどうか確かめるのだ……そして彼ら『狩人』についてしっかりと見て行きなさい」

孫市提督「は、ハンター?」

元帥「クロードくん……我々連合艦隊の為、海を守る艦娘達の為に、精一杯働いてくれ」
クロード「はいっ、お任せください!」

孫娘提督「……っ」ギリッ

㊦—2 秘匿報告書『G級作戦』 式

青年提督「へ、へえ〜…クロードさんって何者なんですか？」

孫市提督「彼らは故郷の地では『狩人』という仕事をしていたようだよ」

幼馴染提督「か、狩人？所謂猟友会みたいなものですか？」

孫市提督「私も彼に同じようなことを言ってみたら彼は少し考えて『ただ狩猟をするんじゃないくて人と自然の調和のバランスを取るようなものだ』と言っていたね」

青年提督「な、なんだかスケールが大きいですね…」

幼馴染提督「それでクロードさんは何をしてたんです？」



彼は私が指揮する第二連合艦隊の泊地に仲間達を連れてやってきた。彼だけで

なくその仲間達も見たこともない鎧を身につけていたよ

孫市提督「く、クロードくん、その彼らは…？」

クロード「はい、彼らは私と一緒にきてくれた仲間達です」

ジン「…ここが俺達の活動場所か？」

ベル「新天地での初仕事だ、張り切っていこうか！」

アール「も、もう鉄の船の中でごろ寝するのは嫌だ…うつぶ…」（川、凧、）
 クロード「すみません、孫市提督殿。しばらくやっかいになります」ペコリ
 孫市提督「あ、ああ…こちらこそよろしく」

クロード「じゃあまずは荷物を下ろしておこうか。黒丸、皆もよろしく」

黒丸「了解ニヤ!!」

ミケ「旦那さん、テントは立てるかニヤ？」

ヨモギ「すみません、キッチンをお借りしてもいいでしょうかニヤ」

孫市提督「（。凧。）」

■ ■ ■

幼馴染提督「ええっ!?猫が二足歩行してしかも人語を話すんですか!?!」

孫市提督「彼らの地方では猫は二足歩行ができるらしい…」

青年提督「マジかよ…」

■ ■ ■

in 第二連合艦隊泊地総司令官室

叢雲改二「…」チラッ

ジン&ベル「…」ジーッ

叢雲「ちよつと提督!!なんなのこの人たちは!?!」

孫市提督「すまない…ちよつとした調査で彼らをここにいさせることになってしまったんだ」

ジン「…この子が…艦娘？」

ベル「この子が海の上を走るんですかー」

叢雲「もう、ジロジロ見るな！」

クロード「いやー申し訳ない、初めて艦娘をこう間近で見れて嬉しいんですよ」アハハハ

孫市提督「あ、あまりうちの秘書艦を弄らないでくれ…叢雲、海図を広げてくれ」

叢雲「は、はい！」サツ

孫市提督「今ここにいる第二連合艦隊の泊地から離れたところ…第一連合艦隊の向かうこの海域で謎の襲撃を受けている」

叢雲「出撃しても全機大破で強制撤退する始末で私達は厳しい状況になっているわ」

クロード「ふむふむ…必ずこのエリアで起きているんですね」

ジン「…迂回ルートは考えてないのか？」

叢雲「この海域を通った方が早くアイアンボトムサウンドに着くの。ルート変更は難しいわね」

クロード「…」ウーム

孫市提督「クロードくん、君のいう『龍』とやらが原因と考えているのなら君はどうするんだい？」

クロード「その海域に行つて調査するのが普通なんです……今回の場合はもう少し情報が必要ですね……」

孫市提督「今回の場合？」

クロード「私の地方では『飛竜種』『獣竜種』『海竜種』と様々な『竜』がいるんですが……『古龍』と呼ばれた『龍』というがいます」

ジン「……『古龍』というのは『雷』『風』『嵐』など自然や人知を超越した力を操る龍のことだ」

ベル「彼らの力は天災でもあり、脅威でもあるんです」

孫市提督「う、ううむ……君たちの言いたいことは分かるんだが……その古龍とやらは危険なのだな？」

クロード「はい、避難して『遠くへ去るのを待つ』か『狩人が撃退する』しか方法はないですね」

ジン「……もしクロードの考えが合っていたら、かなり危険の状況だ」

ベル「今の目撃証言を見て明らかに『アレ』っぽいよね」

クロード「それを明確にするために、調査が必要です……孫市提督殿、少しやつかいに

なりますがよろしくお願いします」

——数分後——

叢雲 「はあ…なんだか面倒な事になってるわね」

孫市提督 「ははは、彼らは上官も恐れず、しかも娘の威圧もなんとも思わず意見を言っていた…なかなかの連中だと思うな」

叢雲 「…で、あんたは信じるの？その『龍』とやらを」

孫市提督 「彼らは『龍』ではなく『自然に生きる物』と見ていると言っていた…俺達の知らない世界を知っているんだ。少しは信じている」

叢雲 「そう…」

孫市提督 「心配するな。」 ナデナデ

叢雲 「もう、バカ…／＼／＼」

孫市提督 「…叢雲」 ズイッ

叢雲 「…で、提督…」 ズイッ

ア—ロ 「すいませ—ん、ちよつとお願いがあ—るんですけど…あ—つ」

孫市提督&叢雲 「（。 ㊦）。（。 ㊦）

ア—ロ 「…さ、俺に構わず続けてください」 bグッ

叢雲 「つ、続けられるかあ—あ—あ—つ!!」 ドロップキック

アール「ゴメンヌ!!」(;)

孫市提督「…ご、ごほん、何か用か？」アセアセ

アール「は、帆船を2, 3隻お借りしたいのですが…」((;))

in 泊地港

孫市提督「こちらの帆船を使ってくれ」

クロード「いやあすみません、ありがとうございます」ペコリ

ベル「アール、物凄いたんこぶがついてるんだけど何かしたの？」

アール「…気にしないでくれ…」シヨンボリ

孫市提督「しかし、第一連合艦隊の泊地で借りたのではないのか？」

クロード「あはは、そうしなかったのですが…総司令官に『あんた達のようなちんけ

な連中に貸す船はない』と怒られました」アハハ

ジン「…だからタンジアから帆船も持ってくればよかったです」

孫市提督「…あのバカ娘、何考えんだ…」

叢雲「でもなんで帆船なの？こっちの船の方がいいわよ？」

クロード「帆船の方が動きやすいんです。それに鉄の船は動力で大きな音が出るの

で、他の生物に見つかりやすいんですよ」

— そう言った後、支度をした彼らは二組に分かれて海へと出て行った —

■ ■ ■
 青年提督「そのアークってヤツ、空気読めないのな」

幼馴染提督「あんたにそっくりね」フンッ

孫市提督「ほんとあの時はヒヤッとしたよ…」ニガワライ

幼馴染提督「でもなんで二手に分かれて行動したんですか？」

孫市提督「…彼の『考え』で二手に分かれたんだ」

青年&幼馴染提督「??」

■ ■ ■

——彼らに戻ってきたのは夕方ごろだ。クロードとジンはなぜか濡れていた。彼らはテントで各々報告し、情報を整理していたよ——

孫市提督「どうだい、成果はあったか？」

クロード「あ、どうもお疲れ様です。調査は…まずい方向に進んでますね」

孫市提督「…まずいこととは？」

ジン「…クロードの予想が当たりそうだということだ。もしそうだとすれば緊急事態になる」

孫市提督「…その根拠は？」

ジン「…他の生物が皆恐れてあの海域から離れていることだ。強大なものに怯えてい

る」

クロード「あの海域の道中、深海棲艦は一度も見えていませんよね？」

孫市提督「…確かにそうだ。あの海域に深海棲艦に出くわしていないな」

クロード「念のためギルド本部には連絡してあります。最悪の場合もありますので考慮してください」

孫市提督「最悪の場合とは？」

クロード「その海は危険になります。全連合艦隊、ここから撤退することですね」

孫市提督「馬鹿な…津波が起こるわけじゃあるまいし、海を制している我々が撤退をする必要は…」

クロード「孫市提督殿、最初から人は海を自由に制してはいません。海や自然はいつでも人の味方ではないんです。その事を心掛けないと、大変なことになるんですよ」

孫市提督「…」

クロード「納得はできかねないと思います。しかし、事は急いでます。どうかご理解ください」

孫市提督「…君は、同じ事態に出くわしたことがあるのか？」

ジン「…ある。何度も体験した。雪山にある村がピンチになったり」

ベル「故郷が危険な目にあったり」

アール「危険なウイルスばらまく奴がいてでとある村が立ち入り禁止地区になりかけた」

クロード「俺達は何度もそんな状況に出くわしています。そして力を合わせて乗り越えていきました」

孫市提督「：わかった君たちを信じよう。元帥殿や上層部達には俺が伝えておこう」

クロード「あ、ありがとうございます!!」

孫市提督「それで：俺に手伝えることはあるか？」

クロード「そうですね：その前に、御飯にしましょう！」

孫市提督「」、(・ω・) /ズコー

クロード「厨房でヨモギ達が第二連合艦隊の皆様盛大に料理を用意しています。美味しいですよ！」ニッコリ

アール「ほかにもドンドルマから取り寄せてきたうまい酒も用意してあるぜ!!」

孫市提督「あ、あははは：それじゃあ遠慮なくいただこうか」

その後、彼らが振る舞う料理はとても美味しく、酒も美味しかった。見たことない料理の数々だったが、長い戦いに疲弊していた提督達や艦娘達の心は癒された：第二連合艦隊は彼らを受け入れてくれたようでよかった

アール「うっぷ：飲みすぎた：」(川、旦、)

隼鷹「あ、あたしも飲みすぎた……」（川、口、）

孫市提督「ふ、不覚……」（川、口、）

叢雲「……全く、あんた達は」ハア

㊦—3 秘匿報告書『G級作戦』 参

■ ■ ■
——それから4日が過ぎた。第一連合艦隊は資材を溜めて戦闘がすぐに行けるよう備えている間、彼らは朝から調査に出て夕刻に帰ってくるの繰り返しをしていた——

アーロ「…よし、これで大丈夫だ」 包帯を巻いてあげる

文月「わり、鎧のおじさんありがとう」 ノシ

電「ありがたいのです!!」 ノシ

アーロ「おじさんじゃない、お兄さんだ!! もうこけるんじゃないぞー」

鳥海「けがの手当てまで…わざわざすみません」

ベル「いいってことさ、今の俺達に手伝えることはこれぐらいだし」

ジン「ふむふむ……これで王手」 パチンツ

他提督A「うおっ!? あんたなかなか強いな!」

ヨモギ「うん? 料理のレシピを教えて欲しいのニヤ?」

他提督B「ああ、大好評だったからね。私も作ってみたくなったよ」

——第二連合艦隊の提督達や艦娘達は彼らと意気投合し、親しくなっていた——

クロード「ウーン…」

孫市提督「やあクロードくん、何か悩んでいるようだな」

クロード「孫市提督殿、あともう少しで調査結果がまとまるんですが…」

孫市提督「何か足りないのか？」

クロード「まとまってはいるんですが…元帥殿達に報告するにはまだ足りないんです。『ヤツ』だと正確にわかる情報が必要ですね」

孫市提督「正確な情報：『巨大な何か』を目の当たりにした艦娘の証言も必要か。となると第一連合艦隊の子達だな」

クロード「そうですね…この間第一連合艦隊の泊地に寄ったんですけど、孫娘提督殿に『許可なく寄って来るな』と追い返されちゃいました…」アハハハ

孫市提督「はあ…俺は元帥殿に報告する用事がある、よかつたら一緒に来ないか？」

クロード「本当ですか!?!ありがとうございます!」

i n 第一連合艦隊泊地

孫娘提督「ちよつと!また許可もなく勝手に来たのね!?!」

クロード「あ、わざわざ来てくださるんですか、どうもすみません」ペコリ

孫娘提督「ちやうわ!!あんたなんか元帥殿の下へ通す許可なぞ…」

孫市提督「許可なら俺が出した。」

孫娘提督「ば、パパ!?なんで!」

孫市提督「元帥殿もこの事態を早急に解決したい。その為なら彼らの協力も惜しまんからな。クロードくん行こうか」

クロード「あ、はい…それでは孫娘提督殿、失礼します」ペコリ

孫娘提督「グヌヌ…」ギリイッ

i n 第一連合艦隊、元帥の部屋

元帥「なるほど…『自然』とやらがこの件の原因というのか…」

孫市提督「彼らはそう言ってます。しいて言うなら『古龍種』の可能性が高いのとこのです」

元帥「『古龍』?…ますます気になるな。それで、クロードくん。私に頼みとは何かね?」

クロード「はい、『巨大な何か』を目の当たりにした艦娘達の話を知りたいのです。どうか接触する許可をいただけませんかでしょうか」

元帥「…彼女たちは確かに目の当たりにした。だが、どう言い表しているのかわからない者、何が起きたのかわからない者と正確な情報は得られにくいと思うが?」

孫市提督「彼が会いたいののは潜水艦の子でしょう。彼女達は水中で見た可能性が高いようですし」

元帥「…」ピクリ

クロード「怖い思いをした子もいるかもしれませんが。その恐怖をぶり返すつもりはありません、俺が怖い思いを取り払います。どうかお願いします」

元帥「…わかった。許可を出そう。だが、面会していいのは一人だけだ」

クロード「あ、ありがとうございます！」

――数分後――

イムヤ「…」ガクブル

孫市提督「彼女は…元帥殿の潜水艦の子では!？」

元帥「…私も采配を間違えた。調査で彼女達を向かわさせ、死ぬかもしれない怖い思いをさせてしまった。あれ以降、震えているのだよ」

クロード「や、やあイムヤちゃん。初めまして、俺はクロードっていうんだ」

イムヤ「っ!!」ビクッ

クロード「実は…君の見たものについて知りたくて来たんだ。どうか話してくれるかい?」

イムヤ「い、いやっ…いやっ!!」ガクブル

元帥「…」

孫市提督「クロードくん、とても話せる状況じゃ…」

クロード「…」ズイツ

イムヤ「きやつ!?」グイツ

孫市提督「クロードくん!？」

クロード「もう大丈夫だ。」ギユツ

イムヤ「…」

クロード「怖かったら…だがもう安心してくれ。俺達がもう怖い思いをさせはしない。だから、今は怖かった分うーんと泣きなさい」ナデナデ

イムヤ「…う…グスツ…うわああああんっ!!」

クロード「おーよしよし」ナデナデ

元帥「…彼はすごいな。彼が住んでいる土地や人達を見たくなってきた」

孫市提督「…」頷く

―数分後―

クロード「もう大丈夫かい？」

イムヤ「…う、うん…」グスツ

クロード「じゃあ見たものについて質問してもいいかい？怖かったら話さくてもいい」

イムヤ「…も、もう大丈夫、怖くないわ」

クロード「よしよし、その意気だ。…まずは君が見たものの全体を話してくれないか？」

イムヤ「う、うん…あれは私達よりもとっても大きくて…白かったわ。あと…ヒレも見えた」

クロード「うんうん…それは大きく、長かったかい？」

イムヤ「ええ、細長くて…あと青白く光ってる個所もあったの」

クロード「…もしかしてそいつ…湾曲した角をしていなかった？」

イムヤ「!!…そうだわ!! とつても長くて曲がった角を持つてた!」

クロード「…ありがとう。これでわかったよ」 ナデナデ

元帥「クロードくん、何かわかったかね？」

クロード「ええ…あの海域に潜む正体がわかりました。それと…非常事態です」

孫市提督「ひ、非常事態!」

元帥「…あの海に何があるのだ？」

クロード「海に潜む『古龍種』の中で最大級の生物、『大海龍』ナバルデウスです」

■ ■ ■

青年提督「な、ナバル…? 何ですかそれ？」

孫市提督「…言葉通り『龍』だ。かなりの巨体で確か…5837.2cmにもなると言っ

ていたな」

青年提督「えーと：1mが100cmだから：兎に角でかいんだ!？」

幼馴染提督「で、でもその巨体だけで非常事態になるんですか？」

孫市提督「ただでかいだけでも十分な脅威になる。奴が海底の岩盤に強く当たるものなら大きな揺れを引き起こすといわれている」

青年提督「でもなんでそんな奴が急に現れたんです？ そんなにでかいのならすぐに見つかるのに……」

孫市提督「そう、急に現れたことが彼らにとつて非常事態だったんだ」

■ ■ ■

元帥「…君の言う『ナバルデウス』が巨体ならすぐに見つかっていたのでは？」

クロード「ナバルデウスは普段は縄張りを取らず遙か深く暗い深海を回遊し、誰にも見つかることがないんです。しかし、あの海域に海面付近まで上昇して潜んでいることがありえない」

孫市提督「……」

クロード「そしてナバルデウスは基本的には攻撃的な性格ではありません。それが人も襲うような攻撃的な性格になっていることもおかしいのです。俺の考えが正しければこのままだと……」

元帥「このままだと？」

クロード「おそらくナバルデウスは海域を経て、この泊地に襲撃をするでしょう」

元帥「!?…だから非常事態なのだね」

孫市提督「では…排除をするのか？」

クロード「いいえ、撃退をします。彼には非はないのです、きつと原因があるのでしよう」

孫市提督「自然に生きる物だからこそ、か…人と自然の均衡を守る『狩人』は大変なのだな」

元帥「…しかし、不思議だな。君たちが知っていて我々が知らない生物がいるとは…」
クロード「実は…本土にも潜んでいます。ただお互いの境界線があり、それを干渉せず均衡を保っているからこそ見つからないのです。そしてその均衡を守るために各地に『狩人』がいるんですよ。ただ強大すぎるので秘匿されるのがほとんどね」
ニガワライ

元帥「…ははは、君たちも苦労をしているようだね」

クロード「あはは、それが『狩人』ですから」

元帥「…率直に聞こう。君たちならその『ナバルデウス』を退けることができるのかな？」

クロード「…できます。やってみせます」

孫市提督「元帥殿、俺も手伝ってよろしいでしょうか…」

元帥「実は私も手伝おうと思っていたよ。…クロードくん。緊急任務を君に頼もう。総指揮は君が取るんだ」

クロード「お、俺ですか!?!」

孫市提督「いいじゃないか、提督として最初の任務だ」ポンポン

元帥「『ギルド本部』とやらでは難関な任務に『G級』がつくと聞いていたな…よし、緊急任務『G級作戦』を開始する！」

クロード「は、はいっ！」アセアセ

☒ 4 秘匿報告書『G級作戦』 四



i n 第二連合艦隊泊地、総司令室

クロード「と、言うわけでナバルデウスを撃退しまーす」

アール「はあああっ!」

ベル「あははは…やっぱりナバルだったんだね」

ジン「…そんな気がしていた」

クロード「俺達が前線に出てナバルと戦う。ね、簡単でしょ?」

ジン「…バリスタの弾は?」

クロード「ない」キリッ

ベル「対巨龍爆弾は?」

クロード「ないっ」キリッ

アール「げ、撃龍槍は?」

クロード「ない!!」キリッ

アール「おいいっ!? 撃龍槍やバリスタ無しでやるとかマジかよ!」

クロード「確かにバリスタや撃龍槍はない。だが、彼らと協力して戦う」

孫市提督「及ばずながら力を貸すよ。そうだろう、皆？」

他提督達「おおおっ!!」

アール「これまた、かなりの人数で……」

元帥「それで、どう戦うかね？」

クロード「そうですね……先ほど言っていたとおり俺達が海に潜り、ナバルと戦闘をします。」

孫市提督「……え？海に自ら潜るのか？」

ジン「……大体7分は潜れる」

アール「あと増息薬や酸素玉、イキツギ藻を使えば半永久的に潜水できるぜ!!」

孫市提督「……一応聞くけど、人だよな？」

元帥「たった4人でその巨体の怪物と戦うのか!？」

クロード「そうですね狩人の務めですから……ですが、バリスタの弾、撃龍槍がない分、火力不足で長期戦になるでしょう。ナバルが怯むような強い一撃が必要ですね」

アール「対巨龍爆弾みたいな火力があればなあ……」

イムヤ「それなら似たようなものがあるよ？」

アール「あるの!？」

イムヤ「…私達潜水艦の雷撃を一斉に撃てばそれなりの火力はあると思うわ」

ジン「…それなら可能かもしれない。問題はどこを狙うかだな」

クロード「それだ。その為にもちよいつと作戦がある…」

翌日、元帥殿の艦隊含め第二連合艦隊は彼らと共に例の海域へ出撃した

クロード「元帥殿、孫市提督殿。全艦隊はこの付近で待機を。後の指示はオトモの黒丸が伝達に参ります」

元帥「まさか本当に4人で向かうのか…」

クロード「こういう仕事ですので」アハハ

元帥「…君たちだけでは心もとないだろう。せめて潜水艦の子を供として着いて行かそう」

伊401「初めまして!! 伊400型潜水艦、伊401です。しおいとお呼びください
!」

イムヤ「クロードさん、お願いします。私も連れて行ってください!」

クロード「…ウーム…」

ジン「…クロード、彼女達を信じてあげたらどうだ?」

クロード「…わかりました。お願いします」ペコリ

元帥「…どうか、無事に戻ってきてくれ」

クロード「はっ！それでは行ってまいります!!」

■ ■ ■

青年提督「本当に水中に潜ったんですか：その人達本当に人!？」

幼馴染提督「もう超人よね：それで戦闘はどうなったんですか？」

孫市提督「ここからは実際に目の当たりにしたイムヤとしおいから聞いた話になる」

■ ■ ■

i n 例の海域海中

イムヤ「ほんとに息継ぎしないで長く潜水してる…」

アール「はっはっはー!!どうだ潜水艦顔負けだろう!」

しおい「しかも水中でしゃべれるの!？」

ジン「ハンターだから、できたこと」ドヤア

ベル「こらこら、ここから気を引き締めていけないといけないんだから」

クロード「…くるぞ!防御態勢っ!!」大剣ガード

アール「しっかりしがみつけよー!!」

しおい「ひゃあっ!?!急に早い流れが!？」

イムヤ「っ!?!何かくるわ!!」

クロード「さっそくナバルデウスのおでましか!」

ナバルデウス「（、皿▼）」グオオオオオオ：

「しおい」と、とつてもでかい…」

イムヤ「あ、あれです！ 私達に襲い掛かってきたのはあのでかい生物です！」

ベル「左の角が以上に大きい…やっぱりクロードの予想通りだね」

クロード「ああ、左の角が異常に発達して視界が遮られたり、重かったりでストレスが溜まって攻撃的になっていたようだな」

ジン「…黒丸、艦隊に進撃し、砲撃、雷撃用意の伝達を頼む」

黒丸「了解ニヤ!!」つ【モドリ玉】

イムヤ「ワオ!? 黒丸さんが消えた!？」

黒丸「ぶはあつ!! なんとか戻れたニヤ!!」ザパツ

叢雲「あんたあのクロードのこの猫!! というよりどうやってここまですぐに戻れたの!？」

黒丸「ちょうどよかったニヤ!! 皆さんに進撃、砲雷撃戦用意してほしいニヤ!!」

叢雲「!! わかったわ。提督、元帥殿!! クロードさんから進撃、砲雷撃戦用意の合図が来たわよ!!」

元帥「…よし、全艦隊進撃!! 潜水艦は黒丸に続け！」

黒丸「それじゃあオイラについてきてほしいニヤ!! 旦那さんが合図をしてくるからそれまで発射は待つニヤ!!」

叢雲「黒丸、またあそこまで泳ぐのは大変でしょ。私に乗りなさい」

ナバル「(#、皿▼)」グオオオオオオツ!!

アール「相変わらず機嫌が悪いとやっかいなヤツだぜ」つノブレスオブリージュ

クロード「顔と角を狙って攻撃するぞ!」つ王牙大剣【黒雷】

ジン「…二人は安全なところに隠れている」つ雷刀ジンライ

ベル「さあいくぞ!」つ双雷剣キリン

しおい「…あの人達、恐れずに果敢に向かっちゃったよ」ポカーン

イムヤ「…はっ、こうしてはいられないわ。早く隠れましょ!」アタフタ

ナバル「(、皿▼) 三三 尻尾薙ぎ払い

アール「ガードっ!!」

ジン「…ぬんっ」ジャスト回避

クロード「いいか、艦隊が来て砲雷撃戦ができるようにそれまでしつかり角にダメー

ジを与えるんだ!!」

☒ 5 秘匿報告書『G級作戦』 伍



ナバル「(、皿▼)三」タツクル

クロード「あぶなっ!!」大剣ガード

ジン「っ、体が大きい分範囲もでないな…」

アール「おらおらっ、暴れるんじゃねえ!!」斧モードに変えて攻撃

ベル「どんだん攻めていこう!」鬼人化乱舞

ナバル「(、皿▼)(三)ゆっくりと突進

アール「イダスっ」(；)皿、(

ベル「おうふっ」(；)皿、(

クロード「どっせい!!」抜刀切り

ジン「…斬るっ!!」鬼刃斬り

ナバル「(、皿▼)(し)っぱで薙ぎ払

ジン「…やはり手強いな」

クロード「それでも時間内にダメージを与えなきゃいけない。やるしかないさ!」

ナバル「（、皿▼）「スーツ…

ベル「あつ、大きく息を吸ってる…」

クロード「まずい、激流プレスが来る。奴の直線状から離れる!!」

ナバル「(三三三三(、皿▼)「激流プレス

ジン「ぬうつ」ジャスト回避

クロード「危なかったー」ナバルの背後まで泳いで回避

ベル「あれ？アローは？」

アロー「あ〜れ〜っ」(； 皿、 ((三

ベル「アローが流されたー!」

クロード「ベル、粉塵の用意を。俺とジンはこのまま攻撃!!」

ジン「…ほつといていいのか？」

クロード「大丈夫。あの子達がいる」

アロー「ちよー流されるー!!」(； 皿、 ((三 ヒーツ

イムヤ「アローさん、つかまって!!」

しおい「物凄い速さで流れてたね」

アロー「ふ、ふう…助かったあ。二人ともマジ女神!」

イムヤ「やっぱり4人だけじゃあ力不足なんじゃ？」

アール「いや、十分き。まあ欲を言えば撃龍槍があれば少しは楽になるんだけどなあ」
しおい「私達の魚雷はどう？」

アール「うーん、外皮は丈夫だからなあ…いや待てよ…」

ナバル「(、皿▼) (三)溜めてから突進

クロード「避けろっ」ジャスト回避

ベル「あれをくらったら龍属性やられになっちゃうからね」ヒヤアセ

ジン「…なかなか怯まんっ」ひたすら顔面を攻撃

アール「悪い、なんとか追いついたぜー」

クロード「無事だったな。よし、このまま攻めてくぞー」

ナバル「(、皿▼) (二)回噛みつき

ベル「ぎやふんっ」..:(ε。(

クロード「せーのっ!!」溜め3斬り

アール「くらいやがれー!!」属性解放斬り

ナバル「(;、皿▼) (一)

クロード「怯んだぞ！畳み掛けるんだ!!」

ジン「角を狙え！」

ベル「それぞれそれえっ!!」

アール「このっ！かてーなおい!!」

ナバル「(#、皿▼)」回転攻撃

クロード「あばすっ!!」三)。3。)。…:

ジン「ぬっ」…。(ω。(

ベル「ビギンツ」…。(ε。(

アール「へブツ」三)。D。)…:

ナバル「(、皿▼)」スーローツ

クロード「げっ、このままだと激流プレスがくるっ!!」

ジン「…間に合うか?」

アール「あたたた…大丈夫だ。この時を待つてたぜ!!イムヤ、しおい!!あいつの口の中にぶちかませ!!」ノシ

イムヤ「さあ、ありったけの魚雷で狙い撃ちよ!!」魚雷発射!!

しおい「よく狙って…いつけえーっ!」魚雷発射!!

大量の魚雷<オフザケハ、ユルサナイ!!

ナバル「Σ(、皿▼);」critical!

アール「よっしやあ!!大打撃だぜ!!」イヤッフー

ベル「今のでけっこう怯んだね」

ナバル「(、皿▼ ; ()」ゴホツゴホツ

ジン「あれをくらったら咽るな…」

クロード「ナイスアシスト…俺達も続けー!!」

ベル「おらおらおらおらおらあつ!!」連続切り

アール「こいつを叩きこむぜ!!」高出力属性解放斬り

ジン「…いくぞ!」大回転鬼刃斬り

クロード「そいやあつ!!」超溜め3斬り

バキツ

ナバル「Σ(、皿▼ ; ()」

ベル「今のでヒビが入った!」

ジン「…もう一息だな」

クロード「うし、信号弾を撃つ。射程距離へ誘い込むぞ!」

アール「いそいで泳げー!!」

ナバル「(、皿▼ # () 三三三」

アール「ひーっ!!マジで怖えっ!!」(; ㇗、) 三

ジン「…後ろは振り向くな」

ベル「でも俺達のスピードじゃ追いつかれるんじゃ…」

イムヤ「皆、私達につかまってく下さい！」

しおい「全速力で泳ぐよー!!」

クロード「おおっ、速いな！」

ジン「…クロード、信号弾を」

クロード「おっしやあ、撃ち上げるぞー!!」 パシユツ

ピューン

黒丸「ニヤっ!! 旦那さんたちがナバルを射程距離に誘い込んでくるニヤ!!」 ノシ

元帥「うむ…全艦隊の潜水艦は魚雷発射用意!!」

孫市提督「同じく全艦隊は砲撃用意を!!」

黒丸「よし、オイラが合図を出すニヤ!!」 海へドボン

叢雲「…猫って泳いで潜れるのね…」

ナバル「(皿▼ #) 三三三三」

アール「ナバルも速えええっ！」

しおい「もつと急いで泳ぐよー!!」

ベル「お、お願いしますー!!」

イムヤ「クロードさん、射程距離の場所は!？」

クロード「もうすぐだ!! 頑張れええっ!!」

ジン「:見えた! 黒丸がいる場所だ!!」

クロード「黒丸!! 今だ、魚雷発射だ!!」ノシ

黒丸「了解ニヤ!! 潜水艦の皆さん、発射してくださいニヤ!!」

全艦隊の潜水艦の皆さんへいっつけえー!!、発射なのね!、狙い撃つデチ!!

三三三●くオフザケ、キンシイーツ!!

ナバル「(×皿× .:)」critical!

アール「や、やったああっ!!」

ベル「遂に取れたーっ!!」

ジン「左の角、破壊成功だな」

ナバル「(;皿× .:)」ヒーッ

イムヤ「あつ、上昇していくわ!!」

クロード「大丈夫、あれは呼吸をしにいくだけだ」

黒丸「それじゃあ砲撃中止を伝えていくニヤ!!」っ【モドリ玉】

叢雲「」

孫市提督「」

元帥「」

全艦隊の皆さま「で、でつかあああああつ!!?」

ナバル「(、皿) ドボーンツ

孫市提督「…あ、あれがナバルデウス…」

元帥「なんて強大で、なんて美しいんだ…。我々は『自然』の大きさ、恐ろしさを知らなかったのだな…」

しおい「ねえ、もう暴れてこないのかな？」

ベル「左が見える様になったからね。しこりが取れて安心して深く潜っていったよ」

ジン「…あの一呼吸で深海を数日間もしくは数か月も回遊する」

イムヤ「そんなに!?!?すごいわ」

アール「ま、これでこの海域は安心して通過できるようになったさ」

クロード「ふう…これで作戦終了。孫市提督殿、元帥殿!! もう大丈夫ですよー!!」ノ

シ

元帥「…作戦成功。あれが『狩人』なのだ。全艦隊、敬礼!!」ピシツ

全艦隊く敬礼!!

クロード「??」アタフタ

孫市提督「よくがんばった、クロードくん!!」

■ ■ ■

孫市提督「そしてその海域は平穏を取り戻し、第一連合艦隊は無事にアイアンボトムサウンドへと出撃できるようになったのさ」

青年提督「そ、その話、本当なんですか?」

幼馴染提督「ちよ、ちよつと!?失礼じゃないの!」

青年提督「だって、そんなでかい生物と戦ってたのになんで『G級作戦』の全容が秘匿されたんだよ?」

孫市提督「理由としてはあまりにもでかすぎるからだ。『G級作戦』後、上層部がそんな生物がいるわけがない、戦った証拠をみせろと言ってきてね。彼らは部位破壊したナルデウスの左の角を持ってきたんだ。その写真がこれだ」

青年提督「うえっ!?!これが角!?!で、でかすぎ!?!」

幼馴染提督「この角だと…身体もかなり大きいですよね?」

孫市提督「それから角を回収しに来た『ギルド本部』の話もあつて決定的になった。だが、海にあんな巨大な生物がいると聞けば深海棲艦どころじゃなくなる…だから秘匿に

なつたんだ」

幼馴染染提督「深海棲艦は私達艦隊が、そのような生物は狩人に、というわけですね？」
 元帥「しかし、我々も前線に立つ。そういつた『自然』の脅威にぶつかるともいれない。だからこそ甘くは見えていけないのだ」

青年提督「うえっ!?げ、元帥殿!?!」アタフタ

幼馴染染提督「ご、ご苦勞様です!!」

元帥「ぜひ君たちも会ってみるといい。人と自然の均衡を取るために戦っているロードくん達、彼らがその前線に立っている鎮守府へ」

孫市提督「きつといい経験になると思うよ?頑張りたまえ!」

青年&幼馴染提督「は、はいっ!!」

提督「:と、言うわけだ。これが『G級作戦』の全容さ」

ジン「(⊗ ⊗ ⊗) スヤア」

初雪「(⊗ ⊗ ⊗) スヤア…」

加古「(⊗ ⊗ ⊗) スヤア…」

提督「おい、寝るな」

那智「さつすがは私達の提督だな!」お酒を飲みながら

ベル「あの時はほんとーに焦ったよー」お酒を飲みながら

鹿島「ベルさん…かつこいいです！」お酒を飲み

龍驤「だからなんでもちまでえ」酔った

提督「おい、酒を飲むな」

イムヤ「あの頃を思い出すわね。とつてもドキドキしてたわ」

しおい「ぜひ司令官の所に配属したいなーって思ってたもんね。今は配属できてほん
とよかった！」

アーロ「…提督…ごめん、もう一回説明して」

提督「無言の腹パン

アーロ「ぶぼっ!?!じよ、冗談です…」（…シ、皿、）

天龍「て、提督達、かつけえ！」キラキラ

金剛「しかも本名がクロードだなんて…ああっ、提督ーかつこいいデース!!」ヒヤッ
ハ

長門「だからこそんなにも勇敢なのだな」ウンウン

青葉「提督の貴重な情報…いい記事が書けそうです！」

響「ハラショー」

霞「…まあ、私達の司令官だし、それぐらい当然ね」

曙「とか言つて、内心超喜んでるでしょ？」

霞「う、うっさいわね!! // // //」

提督「いやー、霞に照れられるとこっちも照れるなー」アハハハ

霞「うっさい!! このクズ司令官!! // // //」シャイニングウイザード

提督「critical!

イムヤ「て、提督ーっ!!」

弥生「しれいかーんっ!?!」

—— 今日も鎮守府は平和(?)です ——

●れっぷー現る

ウイル「さてと、次なる島に到着だー!!」ヨツシヤー

ホツポ「レツプーガ呼ンデイル!」フンス

レ級「楽シソウデ何ヨリダ」ヤレヤレ

防空棲姫「ココデモ探スノ?」

ウイル「もちの論!!この原生林、熱帯的な気候、生い茂る木々!!間違いない、ハチミツはここにある!」

ホツポ「レツプーモ間違イナクココニイル!」

ヲ級「ヲツヲツ」(ω,)ノシ

駆逐棲姫「ソレ ज्याア私とヲ級ちゃんハ食ベ物ヲ集メテオキマスネ」

駆逐水鬼「私ハウイルとホツポノ採取ノ邪魔ヲスル輩ヲ追イ払ツテオコウ」

レ級「前ノ島デウイルノケツニ虫ガ刺シテキテ、ウイルガ痺レタ時ハ笑エタネー」

防空棲姫「アノ時ハ本当ニ大笑イシタワ」クスクス

ウイル「よ、よせやい。もう油断はしないぞ。それじゃあ行ってくる」ナデナデ

駆逐棲姫「は、ハイ!!気をつけてクダサイネ」

ホッポ「イツテキマース!!」ノシ

駆逐棲姫「さてと：私も頑張ラナクチャ!!」フンス

ヲ級「ヲツヲツ?」(・ω・?)

駆逐棲姫「え?なんで一緒ニ行カナイノカッテ?」

ヲ級「ヲつヲ」ニヤニヤ。(。▽。)

駆逐棲姫「てっ照レテイナイデスヨ!デ、デモ緊張シテテ：」テレテレ

ヲ級「ヲツ!!」(・ω・)

駆逐棲姫「わ、私も：ウイルさんと一緒に：」

南方棲鬼「深海棲艦ノ姫デアリナガラナンダソノ体タラクハ?」

空母棲姫「ヤット追イツイタワ：」

駆逐棲姫「な、南方棲鬼さん、空母棲姫さん!?ナンデココニ：?」

南方棲鬼「ホッポヲ連レマワシテイル『ウイル』トイウ奴ヲ始末シニ来タ」

空母棲姫「防空棲姫ヤ駆逐水鬼ガイナガラ何故奴カラ奪還シナイノカシラ?」

駆逐棲姫「ま、待ツテクダサイ!ウイルさんは悪い人ジャアリマセン!!」

ヲ級「ヲツヲツ!!」(#。ヅ。)

南方棲鬼「深海棲艦ハ誰ノ言ウコトモ聞カナイワ。」

空母棲姫「アナタ達ヲ惑ワシテイルアノ忌々シイ人間ヲ始末シテ戦艦棲姫ノ下ニ戻ル
ワヨ」

駆逐棲姫「だ、ダメです!! ウィルさんを殺させは」

南方棲鬼「無駄よ。貴女ダケデハ私達ヲ止メルコトハデキナイ」ジロリ

駆逐棲姫「…っ」ビクッ

空母棲姫「イイ? ソコデ待ッテナサイ。」

駆逐棲姫「…ッ」

ヲ級「ヲツ…」(…・ω・…)

駆逐棲姫「何もできないなんて…私…」

ホッポ「ウィルハ以前ハ何シテタノ?」

レ級「ソウ言エバアノ島ニ漂着スル前ノ話ハ聞イテナイナ」

ウィル「冒険家」キリッ

レ級「イヤソウイウ意味ジヤナクテ」

ウィル「前は…仲間がいてな、その仲間達と一緒にあちこち冒険をしていたのさ」

防空棲姫「へえ、ウィルニモ仲間ガイタノネ」

ウィル「今思うと懐かしいなあ。クロードにジン、アール、ベル、そして『我らの団』

の皆…とつても賑やかだった」

駆逐水鬼「…会イタイト思ワナイノカ？」

ウイル「会いたいさ。でも今会つたら『化けて出てきた』とか言つて大慌てで塩をまかれそうだな」アハハ

ホツポ「寂シクハナイ？」ナデナデ

ウイル「寂しくはないよ。今はこうして新しい出会いと冒険ができてゐるからな。まつ、いつか会いに行くさ」

防空棲姫「…ウイルノ仲間ツテ、同ジヨウナ鎧ヲ身ニツケテイソウネ…」

レ級「ソレト人間離レシテソウ」

ホツポ「ウイルノ仲間ニモ会ツテミタイ！」

ウイル「あつはつは、会えるといいなあ。でも、まず先にレツプー見つけて、お姉さんの所に行かないとな」

ウイル「ウン!!レツプー、見ツケル！」フンス

三〇 三〇 フヨフヨ

ウイル「うん？あの白いのは何だ？大雷光虫か？」

防空棲姫「アレハ…ウイル、伏セナサイ！」

ドドドドド

ウイル「あぶねっ!？」緊急回避

ホツポ「爆撃ダー!!」アタフタ

防空棲姫「アノ艦載機……」

駆逐水鬼「間違イナイ……何デココニ来タ」

空母棲姫「アラ、案外ウマク避ケルノネ」

南方棲鬼「ソウ睨ムナ。ウイルカラホツポヲ取り返スダケヨ」

ホツポ「空母棲姫さんニ南方棲鬼さん!!」ノシ

ウイル「知り合い?あの人達なんかナイスバディーだけど」

レ級「ソコ気ニシテル場合ジヤナイヨ!？」

南方棲鬼「貴方ガ『ウイル』ネ?」

ウイル「なんだか……深海棲艦じや人気者になっちまつてるな」テヘヘー

レ級「ダカラソウイウ場合ジヤナイツテバ!？」

空母棲姫「ホツポヲ私達ニ返シナサイ。ソウスレバ命ダケハ見逃シテアゲルワヨ?」

ウイル「……俺、なんか悪いことした?」

ホツポ「サア?」

南方棲鬼&空母棲姫「」(#^ω^)ピキッ

防空棲姫「待チナサイ、ウイルハ悪クハナイワ」

駆逐水鬼「ソレヨリモウイルハ私達ノ味方ダ」

南方棲鬼「ソモソモコウイウ事態ニナツテイルノハ、防空棲姫、貴様ガアイツヲ始末シナカツタノガイケナイノヨ」

防空棲姫「最初ハ始末シヨウト思ツタワ。デモ、ウイルハ大事な事ヲ教エテクレタワ。」

レ級「深海棲艦モ『自然』ノ一部、大自然の中ジャ人ト同ジデチツポケナンダ」

空母棲姫「…ツ。ウイル、貴方私達ノ仲間ニ一体ドンナ洗脳ヲシテクレタノカシラ？」
ウイル「？」（ω・ω・ω）？

南方棲鬼「フザケルナ！モウ我慢ナラナイワ、貴方ヲ始末シテアゲル！」

駆逐水鬼「待て、そうはさせないぞ」

空母棲姫「アナタ達、ヤル気ナノ？」ジロリ

防空棲姫「構ワナイワヨ？私、対空モ火力モ高イシ？」ジロリ

ウイル「まあまあ、待ちなさいって。貴女達の言い分もわかる、でもホツポの意見も聞かないとさ？」

南方棲鬼「落ち着ケルカ!!」ブンツ

ウイル「ヒエツ」回避

ホツポ「南方棲鬼さんハ怒ツタラ怖い!!」

ウイル「ひ、一先ず落ち着くまで退避―!!」

南方棲鬼「コノツ、ココデ始末シテヤル!」ドドーン

ウイル「おっと!」フレーム回避

空母棲姫「死ネツ!!」ドドーン

ウイル「ちよ、落ち着きましよ!?!」ジャスト回避

空母棲姫「クツ!!ちよコマカトスバシツコイ奴!!」

南方棲鬼「ナンデ回避デキルノヨ!?!」

空母棲姫「コウナツタラモウ一度艦載機ヲ飛バシテ…」

防空棲姫「ソウハサセナイワヨ?」

駆逐水鬼「ウイルヲヤラセハシナイ!」

ホツポ「皆落ち着イテ!!」アタフタ

ウイル「そうだぞー、喧嘩よくな…おや?空模様が怪しくなってきたぞ?」

ザアアアアアツ

ホツポ「スゴイ雨!!」

レ級「ウワツ、急ニ風ガ強ク吹イテキタ!」

ウイル「突然の暴風雨…まさか…」

南方棲鬼「ナンダコレハ?」

空母棲姫 「ン？金属音が聞こエテクル…」
 ダダダダッ

防空棲姫 「何力来ルワ!!」

ホッポ 「…アレハ…ウイル!! レップー、レップーガ見ツカッタヨ!」キラキラ
 ウイル 「れ、れつぷー?…ホッポ、『あれ』がお前の言うレップーなのか?」
 ホッポ 「ウン!! ホッポ、レップー捕マエル!」フンス
 ウイル 『あれ』…れつぷーっほいけどさあ…でも」

クシャルダオラ 「(、皿、)」グルルルr…

ウイル 「レップーちゃう、クシャルダオラやん!」Σ(； 皿、)

ウイルの冒険日記 — 月●日 —

やばいよやばいよ、日記どころじゃねえ!!

まさかほつぽの探している『れつぷー』の正体がクシャルダオラだったとは!!

やべえよやべえよ、古龍はやばいって。どのくらいやばいかつて?もうやばいくらい
 やばい

㊦艦隊、西の海へ…ラブリーガール訪問

i n 港町

?? 「ふう、やっと着いたわね…漁師さん、ありがと〜」ノシ

漁師A 「おうよ！この街は素敵どころだから、しっかり楽しんでくれや!!」

?? 「さてと…筆頭リーダーさんの話なら彼らはこの街にいるようだけど」キョロキョ

口

ワイワイガヤガヤ

?? 「参ったわね、こうも賑わっていると見つかりそうもないわあ…ん？」

木曾 「おじさん、今日も新鮮な魚を買いにきたぞー」

北上 「いつものサーモンもちょうだいーい」

漁師B 「おう！いつもありがとよ!!」

?? 「この街の人達とは違う服装ね…よしっ」

漁師B 「今日はトロサシミウオが沢山獲れたんだ!! 安くしとくぜ!!」

木曾 「へ〜、美味しそうだ!」

北上 「板前ブラザーズに頼んで刺し身にしようかなー」

?? 「ねえ、あなた達？ちよつといいかしら？」

北上 「うん？おおつ？綺麗なチャイナドレスだ!!」

木曾 「え、えつと、なんででしょうか？」

?? 「この街に…『クロード』っていう人がいるって聞いたんだけど、知ってるかしら？」

北上 『『クロード』？…もしかして提督のことかな？』

?? 「て、提督？えつと…赤い鎧を着てて、他にはジン、アーク、ベルっていう人もいるのだけど…」

木曾 「あ、それ俺達の提督だ」

北上 「おねーさん、提督の知り合い？」

?? 「まあね、腐れ縁というか…知り合いよ。実はその人たちに会いたいのだけど…どこにいるか知ってる？」

木曾 「それなら俺達の鎮守府にいるぞ？」

北上 「提督の知り合いなら、来る？買い物の帰りだしー」

?? 「ほんと？助かるわあ」ニッコリ

木曾 「北上姉さん、あの人…提督の知り合いらしいけど、どんな関係なのかな」ヒソ

ヒソ

北上「うーん、提督たちを考えたら…ドロドロはしてないと思う」ヒソヒソ

in 執務室

提督「ブルッ

霞「どうかしたの？風邪？」

提督「なんか寒気がした…嫌な予感じゃないのだけでも、ウーン」

霞「もう、考えすぎよ。ほら、書類整理する」

提督「あひい…霞、次の海域は西方海域だが潜水艦がいるのだよな？」

霞「ええ、対潜値が高い子、駆逐艦や軽巡がいれば対策はとれるわ。後はソナーや爆雷を装備すれば効率よく撃退できるのよ？」

提督「水中かあ…音爆弾」

霞「音爆弾はダメ！」メッ

満潮「…霞が優しいだど!？」

曙「クソ提督の着任前の話を聞いて更に熱心になってるわねー」ニヤニヤ

初雪「あれが…フーフ!!」

霞「外野うっさい!!」

提督「ソナーや爆雷かあ…開発してみるか」

霞「司令官はやつちやダメよ?…なんでピッケルができるのかわからないんだから」
提督「ははは、俺はやらないさ。あ、でもジンが今朝『俺ならできる』とか言つてたから任せただけ」

霞「満潮、曙、初雪!!急いで工廠へ行ってジンさんを止めに行つて!!」

初雪「ラジャー」ダツ

曙「急げーっ!!」ダツ

満潮「えっ?えっ!?!」ダツ

i n 工廠

ジン「…」

カヤンバ「ジン殿、いかがしたンバ?」

ジン「…」キヨロキヨロ

チャチャ「開発で何か作つてたけども何かあつたチャ?」

ジン「…やつちまつた」

カヤンバ&チャチャ「???」

ジン「チャチャ、カヤンバ。これを持って俺の部屋に隠してくれ」

チャチャ「なにやらでかい板みたいなものツチャね」

カヤンバ「これを持っていけばいいンバ？」

ジン「頼んだ。明石さんに見つからないようにな」

初雪「ジンさん、発見」

曙「コラー!! 勝手に変なの造ってないでしょうね？」

ジン「…なにもー」(; ω)

曙&初雪(怪しい：)

in 母港

鹿島「はい、今日の演習はここまで。皆さん、お疲れさまです」

雷&皐月「ありがとうございます！」(^ O ^)ノ

川内「ふー、今日もよく動いたー」

加古「ああ、眠いー」

足柄「よーし、一段とうまくなってきたわ」フンス

龍驤「鹿島さんのおかげで演習もよりはかどれるなあー」

ベル「やつほー、皆よく頑張ってるねー」ノシ

鹿島「あ、ベルさん!!」

雷「その持つてるカゴは何？」

ベル「鹿島に教えてもらって作ってみたサンドイッチだ。よかったら食べてみて」

臯月「やったー!! お腹ペコペコだったんだー」

加古「やつほーい、いただきまーす!!」

鹿島「うん! 美味しいですよ!!」

ベル「あははー、喜んでくれてよかったよ。そうだ、鹿島。次はコーヒーとやらも教えてくれないかい?」

鹿島「はい、喜んで!!」ニコニコ

足柄「最近、ベルさん機嫌がいいわねー」

龍驤「アーロさん曰く、アーロさんの『鹿島がセイラー着たら可愛いんじゃない?』という一言でベルさんの様子がかわったらしいで?」

足柄「いいような、悪いような…」ウーン

龍驤「まあ鹿島さんも喜んでるようだしいいんじゃない?」

大淀「あ、ベルさん!! 丁度よかったです」

ベル「うん? どうかしたのかい?」

大淀「はい、先ほど、北上さんから通信がありました…何やら提督達の事を知っている方を連れてきているようで」

ベル「んん? 俺達を知っている? 『我らの団』の皆と違うとしたら限られるなあ…」

大淀「はい、たしか女性の方ですね」

ベル「…『女性』？」ピクリ

鹿島「？ベルさん、どうかしましたか？」

雷「急に焦っているようだけど、大丈夫？」

ベル「…大淀さん、その女性の服装はわかるかい？」ガクブル

大淀「ええ、確か…『チャイナドレス』っぽい服装だと聞いてます」

ベル「そおおいっ!!」海へドボン

鹿島「べ、ベルさん!？」

川内「急に海に飛び込んでどうしたの!？」

ベル「大淀さん!!その女性が来ても俺はいないと言つといてくれ!!」

龍驤「ちよ、どこに泳いでいくねん!？」

加古「あらら、どうしようか」

i n 鎮守府門前

アール「弥生、ムラサキのしつけも随分と手なずけたものだなー」ナデナデ

弥生「うん、弥生頑張りました」

ザザミ亜種「♡♡(V)(o?o)(V)」

雪風「アルちゃんも絶好調です!!」アルセルタスにライド

アルセルタス「三（、ω、）」

アール「：」

初霜「アールさん、どうかしましたか？」

アール「こうも見てるとほっこりするなーって」ホッコリー

潮「はい、和みますよねー」ホッコリー

北上「たっだいまー」ノシ

アール「おお、おかえりー」

木曾「なあ、アールさん。あの人って提督達の知り合いなのか？」

アール「うん？あの人って一体だー」

??「あらあ、アールじゃない。随分とかわいい子達に囲まれているわねー」

アール「（ ㊦）。。」

潮「あ、アールさん!？」

??「ダイミヨウザザミ亜種にアルセルタス：よく手なずけたわね」

弥生「綺麗なチャイナドレス：」

雪風「アールさん、この人お知り合いですか？」

アール「知ってるも何も：何の用だ？」

??「クロードに用があるの。会ってもいいよね？」

アーロ「…仕方ねーなあ。潮、大淀さんと呼んで執務室に案内してくれ」

潮「わ、わかりました!!」

??「ありがとお♡それにしても…面白い所ね」

アール「どーも。提督に用があんだろ? さっさと行けよ」

??「あーん、いけずう♡」

北上「あのアールさんが邪険に扱ってる…」

木曾「あの人、一体誰なんだろう…」

執務室

大淀「失礼します。提督、少しよろしいですか?」

提督「おお、なんか用かい?」書類の山

霞「ほら、さっさと書類整理する!」

金剛「ていとくー、お茶にしませんカー?」

提督「あ、大淀さん続けてー」

大淀「実は、提督にお会いしたいという方がいらっしやいました…」

提督「うん? どちら様?」

大淀「はい、会ってみればわかるとおっしゃっています」

提督「??? 団長達じゃなさそうだな。とりあえず通して」

?? 「はあい。久しぶりね、クロード」ノシ

提督「」

金剛「What's!?!綺麗なチャイナドレスの女性デスカ!?!」

提督「こいつは驚いた…久しぶりだな、ルルカ」

ルルカ「あははは! やっぱりクロードはマイペースね」

提督「よく皆に言われるよ。というかどうかどうしてここへ?」

ルルカ「筆頭リーダーさんに言伝を頼まれて会いに来たの。『鎮守府』っていうの? 可愛い女の子ばかりじゃない」

提督「へー筆頭リーダーさんがか。遠方からご苦勞様。ゆっくり休んでくれよ」

ルルカ「はい、それじゃあお言葉に甘えようかしらあ♡」

霞「し、司令官。この人誰よ!」

金剛「そ、そうデス!! この女性は一体、提督の何なのデスカ!?!」

提督「あ、紹介するよ。彼女はルルカ。ギルド本部のハンターで…自称『ベルの恋人』ルルカ「そうでーす、自称恋人でーす♡」ブイツ

霞「」

金剛「…ええええええつ!?!」

㊦躍動する波乱

霞「司令官の知り合いだったのね…」

金剛「でも以外デース」

ルルカ「団長さんから聞いたわよー、クロード達の活躍の話とかー」ニヤニヤ

提督「そっかー、照れるなあ」アハハハ

ジン「なにやら騒がしいと思えば…ルルカじゃないか」

ルルカ「あつ、ジン!! 久しぶりね!」ノシ

ジン「久しいな。ドンドルマでウィルを含めて6人がかりでシエンガオレンを撃退した時以来か?」

ルルカ「あの時が懐かしいわねー」ウフフ

天龍「…あの人、提督たちの知り合いなのか?」

響「すっごい美人さん…」

ルルカ「ねえクロード、ジン。鎮守府の中を案内してくれるかしら? 興味あるのよ」

ジン「提督は今仕事で忙しい、俺が案内しよう」

ルルカ「ありがとね。じゃあクロード、話はまた後でー」

提督「ああ、ゆっくりしていつてくれ」ノシ

金剛「…とつてもbeautifulな人でしたネ」

大淀「でも自称『ベルさんの恋人』って本当なんですか？」

天龍「え!?!ベルさんの恋人なのか!?!」

提督「あくまで自称さ。ルルカとは『我らの団』の皆とよく一緒に行動するし、仕事で一緒になることが多いんだ。ベルとの関係は…よくわかんないや」

霞「まあ司令官はマイペースだものね」ウンウン

提督「？」

in工廠

ルルカ「へー、あの子達は艦娘っていうのね。海の上を走れるとかロマンチックじゃない!」キラキラ

ジン「ここで艦娘を建造したり、装備を開発したりしている」

明石「あ、ジンさん!!と…その女性は？」

ルルカ「あ、初めましてー。提督さんの知り合いのルルカですー」

明石「あ、えつと、初めまして明石といいます」アタフタ

ルルカ「もしかして所謂整備士ですか? かつこいいわね!」

明石「え？ かつこいいですかー？ あははは、照れますねー」テレテレ

ジン「明石、何か用じゃなかったのか？」

明石「あ、そうだ。資材が減ったのですが、勝手に開発してませんか？」ジトー

ジン「いや、べつにー（棒読み）」

明石「怪しい…」ジトー

ジン「よし、ルルカ、次は母港へ案内しようー」ガチガチ

ルルカ「あ、その前に私も建造とかしてみたいわあ。いいかしら？」

ジン「…」チラッ

明石「う…へ、変な鉱石を入れなければいいです」

ルルカ「やったー♡」

明石「ジンさん、大丈夫でしょうか…？」

ジン「大丈夫さ、ルルカはあ見えて真面目だからな」ウンウン

ルルカ「えーと、これとこれと…それからこれも入れて…よしっ!! これでいいわ」

妖精さんくらジャー!!

2 : 25 : 00

ジン「な？」

明石「いや、『な?』といわれましても…」

ルルカ「意外と建造も楽しそうね」ウキウキ

明石「あ、あのー、変なの入れてませんか？」

ルルカ「大丈夫よ！ 鉱石は入れてないし…代わりにジンのボックスから『雌火竜の紅玉』を入れといたわ」

ジン「よし、逃げろ」

ルルカ「エ？ えっ？」

明石「やっぱりダメじゃないですかああああっ！！」

i n 母港

ルルカ「わー!! 綺麗ね！」

ジン「ここで艦娘の出撃や演習を行っている」

雷&皐月「ジンさーん!!」ノシ

鹿島「ジンさん、お疲れさまです」ノシ

龍驤「わっ、めっちや綺麗な人がおる！」

足柄「チャイナドレス…強敵だわ…」

ルルカ「やーん、かわいいー♡」ナデナデ

雷&皐月「くすぐったいよー」

ジン「丁度演習が終わった所か」

加古「いやー、今日もよく頑張ったなー」

川内「あの人って提督の知り合い？」

ジン「彼女はルルカ、俺達の知り合いだ」

ルルカ「…そういえば、アーロやジンがいるのに『ベル』が見当たらないわねえ」キョロキョロ

鹿島「ギクツ

臯月「ルルカお姉さんはベルさんの知り合い？」

ルルカ「もちの論よおー、せつかくここまで来たのにベルはどこに行ったのかしらあ？」

ジン「確かに見当たらないなあ」キョロキョロ

龍驤「べ、ベルさんなら…お出かけしたかなあ？」アハハハ

加古「どつかへ泳ぎにいったよなあ」アハハ

ルルカ「あらあ、残念…ところで、あんな所に木箱が不自然に置かれているけど？」ガタガタツ

ルルカ「…」ジリジリ

ガタツ…

ルルカ「セイヤーツ!!」踵落とし

ベル「あぶなっ!？」回避

鹿島「アワワワ：見つかっちゃいました」アワワ

ベル「る、ルルカっ、なんでこっちに来たし!？」

ルルカ「ふふふふふふ、久しぶりねえ、ベルう?」ウフフフ

ベル「ちよ、不気味な笑みでこっちに来ないで!？」ヒー

ルルカ「待てーい!! 今日こそあなたのハート(心臓)を射止めてあげるわ!!」ダッ

アーロ「あーあ、始まったか」ヤレヤレ

川内「アーロさん、始まったって?」

ジン「ルルカはベルに会うといつもああなる。そのせいで周りから自称恋人と呼ばれるようになってしまったな」

アーロ「元言えば酔ったベルが悪いんだけどよ」

◇ドンドルマにいた頃◇

i n 酒場

ルルカ「あーん、マスター!! もう一杯頂戴!」ヒック

団長「ん? ルルカの奴、かなり酔ってるな」

ジン「話によるとふられたらしい」

アーロ「はっはwワロスw」m9(゜Д゜)プギヤー

ルルカ「無言の腹パン

アール「ごふっ!?!」、ω。）。∴∴

提督「元気出しながら、そんな日もあるさ」

ルルカ「ふえーん∴今日は飲んで飲みまくってやるんだからー」

ベル「∴そうさ、元気をだしたまえ」酔ってる

ルルカ「ベル∴?」

ベル「人生、色々あるんだ∴だから」

ルルカ「だから?」

ベル「You、もっと恋しちやいなYO」ウイソク

ルルカ「トウソク

ジン「酔ってるな」

アール「あれは酔ってるぜ」

提督「うんうん、元気になってよかった」

◇

足柄「酔いっこわいわね」

龍驤「うん、足柄が言うど説得力ないんやけど」

ジン「次の日からああなった」

アーロ「ベル本人は身に覚えがないから更にやっかい」
加古「酔いつて怖いなー」

ジン「まああの頃のベルはお酒に弱かったからな」

ベル「ちよつと!?!呑気にしないで助けてー!!」

ルルカ「さあ私に全てを委ねなさい!いや委ねろ!!」

in 執務室

提督「や、やつとこさ終わったあゝ」ヘナヘナ

霞「司令官、お疲れさま」

提督「よーし、さつそく遊ぶぞー」

霞「その前に西方海域の第一海域へ出撃する艦隊の編成を考える」ピシッ

提督「そんなー」(・ω・、)

ルルカ「あーん、まさか戻り玉を使われるなんて…逃げられたわ…」

提督「おつ、ルルカ。鎮守府内は回れたか?」

ルルカ「ええ、ずいぶんと楽しんでるじゃないの。それに…」チラッ

霞「?」

ルルカ「可愛い子女の子ばかりだし、色目使ってるんじゃないのー?」ニヤニヤ

提督「?俺は霞一筋だぞ?」クビカシゲ

ルルカ「」

霞「ブッ!?」顔真っ赤

提督「?」

霞「こっつ、このクズ司令官ツ!」チヨツプ

提督「なぜにつ!?!」)。3。*)

ルルカ「いやー天然は怖いわー(棒読み)」フルフル

提督「る、ルルカ、何か俺に言伝みたいのがあったとか…」

ルルカ「あつそうだったわね。えーと…いい知らせと悪い知らせがあるんだけど、どっちがいい?」

提督「…わるry」

霞「そこはいい知らせからでしょ!?!」

提督「…いい知らせからで」

ルルカ「わかったわ…ギルド本部の指示で『あるモンスター』を討伐するまでしばらくこの街にいるし、あなた達の狩猟にも協力するわ」

提督「それは助かる。それで悪い知らせは?」

ルルカ「そうね…2つあるわ。まず一つ、あなた達が討伐した『狂竜ウイルス』を克服した個体、『極限化』セルレギオスのことは覚えてる?」

提督「…ああ、そいつのせいであの後、セルレギオスの生態が変わって各地に散らばって棲息して生態系がおかしくなりかけたやつだな」

ルルカ「ええ、各地のハンターに呼びかけたおかげで『極限化』したモンスターは全て討伐できたわ。『極限化』はいなくなっただけ…それでもセルレギオスの生態を治すことはできなかった。理由は分かる？」

提督「…おいまさか」

ルルカ「…調査したら、もう一頭いたのよ。『極限化』したセルレギオスが。私と筆頭リーダーさん達と何とか討伐しようとしたけど…奴は逃げ出したわ」

提督「ギルド本部には知らせたのか？」

ルルカ「緊急事態だというわけで各地に知らせたわ。でも、奴は前の個体よりも狡猾だった。奴は絶対に見つからないように飛んで逃げていた。ようやく目撃した場所が…本土に近い海域よ」

提督「…まずいな。本土には『狂竜ウイルス』の影響がなかったから対策は未だとれていない。元帥に知らせておくよ」

霞「し、司令官、その『狂竜ウイルス』って恐ろしいの？」

提督「ああ、下手したら本土の生物が絶滅する」

霞「!？」

提督「まあでも、本土には影響はなかったし、大丈夫だろ」

ルルカ「それともう一つ。クロードがオリヨール海域で討伐したラギアクルスの件」
提督「ん？その件は大本営とギルド本部に知らせたはずじゃ？」

ルルカ「ギルド本部に死骸を回収させ解剖した結果、あることがわかったの」
提督「あること？」

ルルカ「そのラギアクルス、生前は衰弱していたことがわかったのよ」

提督「衰弱？んなばかな、ラギアクルスが衰弱するわけが…」

ルルカ「体内から『狂竜結晶』が抽出されたわ」

提督「…うそん。『狂竜病』になりかけていたってか。ということとは…」

ルルカ「どこかの海域に『ゴアマガラ』が潜んでいるわ。もしくは…」

提督「とにかく、元帥に報告をする。んで緊急対策をとるから手伝ってくれ」

ルルカ「まっかせてといて☆」

霞「」ポカーン

☒西方海域へ

i n 工廠

00:00:00

〈新しい艦娘が建造されました!!〉

明石「……あれから待ってみたものの、何ができてるのでしようか……」

ジン『『紅玉』を入れたからな。すごいのが出そうだ』 i n ドラム缶

ベル「というよりなんでドラム缶に入ってるの?」

ミケ「それでは工廠オープンニヤ!!」

秋月「秋月型一番艦、秋月。ここに推参致しました。お任せください!」

明石「……やっぱりねー」

ミケ「ああつ!! 明石さんが遠い目をしているニヤ!?!」

ジン「……これはすごいのか?」

明石「ほんとこれどうしようかしらー」

ミケ「だ、大丈夫ニヤ!!」

秋月「えつと…」アセアセ

ベル「ようこそ。変わった鎮守府だがよろしく」

ジン「…すぐに慣れるさ」

秋月「は、はい！（なんでドラム缶に入ってるんだらうか？）」

i n 食堂

ルルカ「うまい!! さすがは板前ブラザーズの料理ね!」

ヨモギ「ルルカの姐さんが喜んでくれてなによりニヤ」

マシロ「ささ、しつかり味わってくださいニヤ!!」

赤城「すいませんおかわりください」

加賀「私もおかわりください」

アール「ほんとよく食うのな」つ【御飯】

時雨「アールさん、僕も手伝うよ」

龍田「最近はアールさんも厨房にいるようになったわね」

アール「えっへん、これでも板前ブラザーズと料理の修行をしていたもんさ」フランス

瑞鶴「さーて、今日の献立はなんだろうな」

飛鷹「今日はハヤシライスみたいよ?」

ルルカ「むむっ!! あの子は…とうっ!!」ダッ

飛鷹「あれ？あの人は…提督の知り合いの…」

瑞鶴「な、なんかこつちに来てる!？」

ルルカ「ふっふっふー、貴女が瑞鶴ちゃんね？」

瑞鶴「は、はい、えつと…」

ルルカ「うふふ、団長さんから話は聞いているわ。頑張つて!!」ポンポン

瑞鶴「え？えつ？」

ルルカ「大丈夫、私が色々アドバイスしてあげるから。応援しているわよー!!」ノ

シ

瑞鶴「あ、ありがとうございます？」

飛鷹「ねえ、なんのこと？」

瑞鶴「さ、さあ？」クビカシゲ

in 執務室前

ビスマルク「あら？霞、お食事を持ってきてどうしたの？」

霞「司令官、ルルカさんから話を聞いたあとずっと執務室から出てないの。」

レーベ「そういえば晩御飯の時も来てなかったね」

霞「もう、世話が焼けるんだから…司令官、入るわよ」ガチャリ

提督「…」書類製作中

黒丸「旦那さん、ドンドルマの狂竜ウイルス研究所から万能湯けむり玉を発注して
いたニヤ」

提督「到着まで数週間かかる。それまではウチケシの実でなんとかする」

チャチャ「提督、倉庫にあるウチケシの実の数を数えてきたツチャ!!」

霞「ねえ、司令官」

提督「数量はどうだ？」

チャチャ「たくさんあつたチャ!!」

カヤンバ「それじゃあわかんないンバ!! 99個が500セットあるンバ」

提督「うーむ、毎日畑から取れる数と比較して…足りるかなあ」

霞「…ねえ、司令官」

カヤンバ「でも以前のデータと比べたら倉庫の木の实も減つてるンバ」

黒丸「たまに赤城さんがつまみ食いするニヤ」

提督「マジで? うーん、一応農場にも発注をかけてくれ」

霞「司令官、御飯持ってきたわよ!」

提督「おおうっ!? 霞、いたのか」アセアセ

霞「まったく、いつまで待たせるのよ」プンスカ

レーベ「アドミラル、何書いてたの?」

提督「大本營に送る資料とドンドルマに送る『抗竜石』の配布申請だ」

ビスマルク「かなりの量の資料ね…」

提督「明日は西方海域に編成して出撃もさせなくちゃならんからな。てんやわんや
「さ」

霞「…仕方ないわね。手伝ってあげるわ」

翌日

i n 工廠

明石「ふう、これで完成です」

五十鈴改二「やったあ!! 待ちに待った改二だわ!!」ウキウキ

潮改二「明石さん、ありがとうございます!」

明石「よかったわ。やっと私の手で普通に改二に改良できたわ」ウルウル

青葉「あははー、それまではジンさんが魔改造しちゃってましたからねー」

明石「もうこれで安心ね!」

ルルカ「明石さんちよつといいかしら?」

明石「ルルカさんどうかしましたか?」

ルルカ「そのー、工廠の空いているスペースがあるじゃない? ちよつとそこをお借り
してもいい?」

明石「あそこですか？もちろん、構いませんよ」

ルルカ「ありがとー、それじゃあさっそく…持ってきていいわよー」ノシ

アール「うーっす」つ木箱

黒丸「皆のもの、しっかり運ぶニヤー」

アイルー&妖精さん達へハイイ！

明石「す、すごい荷物の量ですね」

アール「おい、水はどうする？」

ルルカ「そうねー、ここから中庭にある水車につなぐことはできるかしら」

アール「りよーかい、久々の力仕事だな」

黒丸「ルルカの姐さん、ろ過装置はここでいいかニヤ？」

五十鈴「かわった装置や道具ばかりね」

潮「これって何ですか？」

ルルカ「小さな狂竜ウィルス研究所よ。ちよつとここで研究開発させてちょうだい
ね」

アール「こう見えて研究所の手伝いもしていたんだ。一応、できるんだよな？」

ルルカ「エッヘン、こう見えて助手もやりましたから」エッヘン

i n 母港

霞「それじゃあジャム島海域の出撃メンバーを言うわよ。五十鈴を旗艦に秋月、レーベ、矢矧、青葉、加賀の6名で出撃よ」

五十鈴「よし、五十鈴の出番ね。任せて!!」

秋月「さっそく出撃ですね…頑張ります!!」

矢矧「腕が鳴るわね」

大淀「駆逐艦の方は爆雷の装備をしてくださいね」

青葉「あれ?提督はどうしたんですか?」

レーベ「昨日から夜明けまで書類を書いてたんだ」

霞「執務室でぐっすり寝てるわ」

提督「(☒ ω ☒) スヤア…」

加賀「だから代わりにやっていたのね」

ジン「…今回の海域は潜水艦の他にルートによつては戦艦もいると聞く、いうわけで気を付けてな」

艦娘一同「はいっ!!」 敬礼

i n 中庭

ベル「…ふう、ひとまずルルカに見つかる前にこつそり街へ行くかな…」

鹿島「あ、あのーベルさん？」

ベル「ひやいつ!?…あ、鹿島かー」ホツ

鹿島「そ、その、お聞きしたいことがありますて…」ソワソワ

ベル「うん？」

鹿島「ルルカさんはベルさんの自称恋人と聞いていますけど…」

ベル「あー、あれね。ヤンチャだった頃の自分がいけないんだけどねー…あれは違うからね」

鹿島「そうでしたか…そのこーういのも失礼かもしれませんが、少し安心しました」ホツ

ベル「…え？鹿島？それってもしかしry」

ルルカ「ヒヤッハー!! 見つけたわよおおおつ!!」グワツ

ベル「うわあああああつ」ダダダダツ

ルルカ「ぬう、逃げ足は速いわね…よし、そこの貴女!!」ビスツ

鹿島「ひや、ひやいつ!?」ビクツ

ルルカ「私も負けないからね!…よつしやああつ!! ベル、逃がさないわよおおおつ!!」
ダダダツ

鹿島「」ポカーン

☒ ジヤム島攻略作戦

i n ジヤム島沖

加賀「初戦は難なく通過できましたね」

青葉「加賀さんすごい避け方をしましたね。フレーム回避っていうんですか？」

矢矧「さすが一航戦ね。私も身に着けることができるかしら？」

加賀「ジンさんに指導してもらえばできると思うわ」

秋月「い、今まで見たことがない動きでしたね…」

レーベ「今のところ赤城さんと加賀さんと瑞鶴さんができるみたいだよ」

秋月「え!?!ほんと!?!」

五十鈴「ほとんど提督さんたちのせいなんだけどね…」

秋月「提督、一体何者なんですか？」

五十鈴「とりあえず超人的な身体能力はあと思うって」

加賀「む…艦載機が敵艦隊を発見しましたわ。軽巡一隻、駆逐艦二隻、少ないわね」

五十鈴「潜水艦がいるわ…爆雷の準備をして!!」

秋月&レーベ「わかりました!!」

加賀「先制をかけます」艦載機発射!!

艦載機<オオ、ブラボー、ブラボー!!

ババババ

駆逐二級A「アツダバアアツ」critical!撃沈

潜水力級A「敵ノ潜水艦ヲ発見!!」

潜水力級B「駄目ダ!!」

潜水力級C「駄目ダ!!」

潜水力級A「駄目カ」魚雷発射

青葉「あぶなっ!?駄目といいながら撃ってるじゃないですかー!!」

五十鈴「さあ爆雷をくらいなさい!」つ爆雷

潜水力級B「マターリ!?」撃沈!!

秋月「えーい!!」つ爆雷

潜水力級C「駄目ダッッ!」critical!撃沈

レーベ「Feuer!」つ爆雷

潜水力級A「駄目カーッ!」撃沈!!

軽巡ホ級「ゴアヘッド!!」ドーン!!

青葉「あいたつ、やりましたねー!!」ドーン!!

駆逐二級B「HolyShit!!(ヤッバライ!!)」critical!撃沈

矢矧「これで終わりよっ!!」ドーン!!

軽巡ホ級「ギヤースツ!!」critical!撃沈

五十鈴「よし、敵艦隊撃破ね。次へ進むわ!!」

提督『敵潜水艦も撃破できたな。よかったー』

大淀『次が東方派遣艦隊がいると聞いてます。気を付けてください』

加賀「わかったわ。偵察機を飛ばしておく」

レーベ「羅針盤妖精さん、次はどっち?」

羅針盤妖精「コッチー!」

五十鈴「西南ね…進撃するわ!!」

秋月「提督達は鎧を身に着けているのですが、あれはどうしてですか?」

レーベ「もともとアドミラル達は遠い故郷では狩人をしてたんだって、着けている鎧

は提督着のようなものだよ」

秋月「なるほど…でも提督達の素顔は見てみたいですね」

矢矧「…そういえば提督達の素顔は見たことがないわね」

加賀「…確かに気になるわね」

青葉「これはスクープになりそうですねー」ウフフフ

五十鈴「ほ、ほら!!今は戦闘に集中する!」

加賀「そうしているうちに敵艦発見したわ。重巡一隻、軽空母二隻、軽巡一隻、駆逐艦二隻ね」

軽空又級A「ヒヤッハー!!」艦載機発射

軽空又級B「汚物ハ消毒ダー!!」艦載機発射

敵艦載機<ヒヤッハー!!艦娘ダー!!

加賀「ずいぶんと物騒な艦載機ね…」

秋月「敵艦載機は任せてください!長10cm砲ちやん、防空射撃開始!!」

長10cm砲ちやん<キュー!!ドドドドドツ

敵艦載機<ヒッ、ヒデブー!!撃墜

青葉「おおく、さすがですね!」

加賀「おかげで制空権はとれたわ。このまま攻めます」艦載機発射

艦載機<何よりもおおおつ、速さが足りないっ!!ババババツ

軽巡ト級「パツビツブツペツポウツ!」critical!撃沈!!

軽空又級A「アワビユツ!」critical!撃沈!!

重巡リ級「矢ヲ放テー!!」ドドン!!

青葉「あうっ!?矢じゃなくて砲弾じゃないですかー!!」中破!!

矢矧「このっ、軽巡を甘く見ないで!!」ドドン!!

駆逐口級「チニヤッ!」critical!撃沈

秋月「続きます!!砲雷撃戦用意っ!!」ドーン!!

軽空又級B「タワバツ」中破!!

五十鈴「五十鈴には丸見えよっ!!」ドーン

重巡り級「アロッ!」小破

レーベ「狙いを定めて：Feuer!」ドーン!!

軽空又級B「ヒビヤッ!」大破!!

加賀「鎧袖一触よ。心配はいらないわ」艦載機発射!!

重巡り級「モポエーツ!」critical!撃沈!!

青葉「中破だって、やってみせます!!」ドーン!!

駆逐二級「ナニヲパラッ!」撃沈!!

五十鈴「よし!雷撃撃つわよ!」魚雷発射!!

秋月「いきます!!」魚雷発射

レーベ「いっけー!!」魚雷発射

軽空又級B「ウワラバアアッ!」critical!撃沈!!

加賀「…やりました。敵艦隊撃沈です」

五十鈴「提督、やったわよ!」

提督『よしっ!!皆よく頑張った!!』

大淀『お疲れ様です、気を付けて帰投してくださいね』

レーベ「うん、気をつけるよ」

矢矧「あら?あそこにいる子は:おーい!」

利根「:おおっ!!もしや鎮守府の艦隊か!!」ノシ

暁「来たわね!遂にれでいのスカウトが!!」ノシ

レーベ「れ、れでい?」クビカシゲ

加賀「よかったら私達の鎮守府に来る?」

青葉「うちの鎮守府は面白いですよー!!」

五十鈴「まあ、ある意味面白いわね」

利根「うむ、参ろうか!!」

暁「ふふん、れでいのすごさ見せてあげるわ!!」

——鎮守府に帰投後、アーロを見て暁はガチ泣きし、アーロはガチへこみしたのは後

の話

i n 執務室

提督「えーと、書類はどこに置いたっけ?」ガサゴソ

ジン「…ここだ。お前はいつも忘れる」

ルルカ「クロード、はいこれ。ドンドルマの狂竜ウイルス研究所からの資料よ」

提督「おつ、サンキュー」

霞「司令官、なにしてるの？」

提督「ああ、急ぎよ大本営に来るよう呼ばれてな。支度をしているところなんだ」

天龍「また大本営に行かなくちゃならないのか」

五月雨「どうして呼ばれたんです？」

提督「昨日送った書類を見て元帥殿は納得していただけたんだが：孫娘提督殿が納得していないみたいでこつちに来て説明しろとのことだ」

龍驤「まーた面倒なことになってんなあ」

ルルカ「ホント面倒よ。本土のギルドは了解してハンターに通達したのに、こつちは納得してないなんてね」

提督「仕方ないさ。：明日の早朝に出発する。皆には悪いが3日ほどの留守を頼む」

天龍「任せとけて!!提督は大船に乗った気分で行ってくれ」

霞「ねえ、司令官。私もついていってもいいかしら？」

ジン「…提督、連れて行け」

ルルカ「そうねー、せっかく誘ってるんだから乗ってあげないとねー」ニヤニヤ

提督「そうだな。霞、一緒に来てくれ」

霞「そうしなさい、司令官はほんつと天然だから」

不知火「そう言つて内心大喜びですね」

響「ニヤニヤ」

霞「こらーっ!!」ダッ

不知火&響「(・▽・)ニヤニヤ」ダッ

五月雨「提督、あとお土産もお願いしますね!」

提督「おう、任せておけ!」

inカレー洋採掘地区第一採掘場管理局

ドゴオン…

兵士E「今日も派手に採掘してるなあ…」

兵士F「なあ、聞いたか?第二採掘場の噂?」

兵士G「なにそれ?」

兵士F「あそこの採掘場の近くにある森林の中で夜な夜な化け物の叫び声が聞こえるんだとき」

兵士E「へー、どんな声なんだ?」

ドゴオオン…

兵士F 「…やけに派手に爆破してんなあ」

兵士G 「で、どんな鳴き声なんだ？」

兵士F 「えーと話によると…鳥のような甲高い声で耳が痛くなるくらい五月蠅いらしいぜ」

兵士E 「おいおい、そりゃあ夜泣き鳥の間違いじゃねえの？」

ドゴオオン…!!

兵士E 「ちよ、爆破しすぎだろ」

兵士H 「た、ただいま…」ゼエゼエ

兵士G 「おい、今日はやりすぎじゃねえか？カスガダマ沖の決戦に備えて備蓄しておけといわれてるにしてもよー」

兵士H 「…違うんだよ」ゼエゼエ

兵士F 「何が？」

兵士H 「今日はまだ採掘作業をしてないし、爆発音は別の場所で起きてるんだよ！」

兵士G 「…ちよ、ちよい待て、じゃあさつきまでの爆発は…何？」

兵士H 「い、いいか。よく聞いてくれ!!なにやら爆発音がするなーと思って調べた

らよ…道中に緑のネバネバしたのがあったんだ」

兵士E 「…それで？」

兵士H 「よく観察したら…急に赤くなって爆発したんだ!! しかもそのネバネバ…遠回りで採掘場に近づいてるよ！」

兵士G 「…グレートですよ、こいつはあ…!!」

兵士E 「おいやめろ、マジでヤバイからやめろ」

☒ボーキサイトは砕けない、『砕竜』ブラキデイオス 序

i n 鎮守府内廊下

金剛「うう、また提督はお出かけですかあ」シヨンボリ

五月雨「大丈夫ですよ。3日経てば帰ってきます!!」

金剛「Nooっ!! 待ちきれないデース!!」

加賀「我慢しなさい。提督がいなくてもジンさん達がいいますから大丈夫です」

ダダダダダッ

ルルカ「ベルウウツ!! 今日こそ私のハートでヒートエンドオオオツ!!」ダダダダッ

ベル「それ俺死んでるよね!? バッドエンドだよね!」ダダダダッ

五月雨&金剛「:::」

響「暁、大丈夫だよ。アールさんは怖くないから」

雷「それにアールちゃんもムラサキちゃんもいい子よ!」

アール「ほーらおいでー」ノシ

アールセルタス「(*、ω、)」

ザザミ亜種「(V)(o?o)(V)」

暁「びゃーっ!!」ウワーン

アール&アルセルタス&ザザミ亜種「(・ω・) ショボーン」

加賀「…やっぱり早く戻ってきてほしいですね」

i n 大本営講堂

提督「あゝ、緊張するなー。うまく説明できるかなあ」

霞「ほら、しゃきつとする！ナヨナヨしてたらダメよ！」

提督「おおお、しつかりしなくちやな…」チラッ

ズラッ（提督達が座って待っている）

提督「よし落ち着けー、おちけつー…やればできるやればできる…」スーハー

霞「もう、さっさと行きなさいな！」ゲシッ

提督「おつとつと…あ、ど、ども…おほん…本日はお日柄もよく…」ガチガチ

霞「ちよつと!! 結婚式のスピーチじゃないの!!」ビシッ

ワハハハハ!!

孫娘提督「」イライラ

青年提督「あの人がクロードさんか…なんか思ったよりのんびりしてんな」

幼馴染提督「本当にマイペースな人なんですな…」

数分後

提督「えーと、まずは狂竜ウイルスについて。こちらは『ゴアマガラ』という生物とその成体『シャガルマガラ』、そしてウイルスを克服した個体『極限化』した大型生物が撒き散らす物質の総称です。このウイルスに感染し、一定の潜伏期間が経過すると『狂竜症』という病気にかかります」

元帥「その『狂竜症』はどのような影響を及ぼすのかね？」

提督「はい。まずは生物に感染した場合、瀕死状態になると凶暴化し死ぬまで暴れ続けます。これは『狂竜化』といい身体にかかっている命に関わるリミッターがすべて外され暴走状態に変化します。そして『狂竜化』した生物は他の生物へと感染させ、大規模な感染被害へと広がっていくのです」

子供提督「そ、それって人にもかかるんですか？」

提督「人にもかかります。ですが人にかかった場合、凶暴化することも死ぬまで暴れ続けることはありません。ただし『狂竜症』が発症した場合、体力の低下、虚脱状態、高熱等々：様々な症状が起こります」

老獺提督「：対処法はあるのか？」

提督「感染した時は感染を抑える効果があるウチケシの実を食べ続けることで感染力を抑え自然回復するまで待ちます。『狂竜症』時は：：前述同様、ウチケシの実を食べつつ

自然回復するまで待つしかありません」

他提督「そ、それってつまり…」

提督「はい、今現在『狂竜症』を完全に治す薬はないのです」

ザワザワ…

提督「なので本土のギルド本部、各地のハンターから各鎮守府へウチケシの実を配布致します」

孫娘提督「ちよつと!!何故配布するのか、なんでこんな解説をしてるのか説明しなさい」

提督「そうですね…先日、私の友人つまり遠方の狩人から本土近海に『極限化』した生物が潜んでいる事とどこかの海域に狂竜ウイルスを持つ生物が潜んでいる可能性があることを知らされました。狂竜ウイルスは生物にも、人にも…そして艦娘にも危険です。どうか理解していただき、調査のご協力をお願いします」

元帥「…わかった。本土のギルド本部と連携をとり、警戒しよう」

孫娘提督「解せないわね。なぜ病原の生物を滅ぼさないのであるのかしら」

提督「…ゴアマガラは希少な生物であり、そしてゴアマガラ自身にもその狂竜ウイルスの影響がかかっているんです」

孫娘提督「それが意味わからないのよ。敵同様にさっさと駆逐しなさいよ」

提督「…」

兵士「元帥殿!!カレー洋採掘地区第一採掘場から緊急連絡が!!」

元帥「むっ、どうしたっ!!」

in 執務室

提督『カレー洋採掘地区第一採掘場に爆破する緑のネバネバを撒き散らす生物が暴れてるとのことだ。すまないがそいつの撃退に行ってくれないか?』

ジン「…任せておけ。俺達が代わりに行く、だからお前はゆっくりしとけ」

提督『悪いな、それじゃ頼んだ』ガチャリ

ジン「…と、いうわけだ。支度をするぞ」

ルルカ「それじゃあ私も行こうかしら。その生態の調査もしなくちゃいけないしね」

ジン「…ああ。じゃあアーク、留守番を頼む」

アーク「おうよ。俺は今日中に暁に慣れてもらう必要があるからな!」フンス

ベル「エ?ちよ、待って?俺は?」

ジン「…お前は何を言っている。来い」

ベル「え、えええっ!?」ガーン

ルルカ「いよっしやああああっ!!」ガッツポーズ

アール「はっはwワロスww」m9(゜D゜)プギヤ

ベル「ちよ、アール、代わって…どうやら俺はあの島に行くとかバイ病にかかっていてな…」

アール「そんなこというなよ。ほら、鹿島だってお前を応援してんだぜ？」チラッ

鹿島「え、えっと…ベルさん、頑張ってください！」アタフタ

ベル「いよっしやあああっ!!もう何も怖くない！」ウオオオオ

鹿島「アタフタ

ジン「…ちよろいな」

ルルカ「ちよろいわね」

アール「ほんとちよろいな」

in母港

雪風「よーし、かくれんぼしますよー!!」

島風「おっ!!」

長波「かくれんぼは得意だぜ!!」

響「ハラショー」

初霜「最初は雪風ちゃんが見つける番ね」

雪風「それじゃあ100数えるので皆さん隠れてくださいね！」
イチチ：ニー：サーン：

島風「長波ー!!一緒に隠れよー!!」

長波「仕方ねえなあ。どこに隠れる？」

島風「ふふーん、とつておきの場所があるの。こつちこつちー!!」

数分後

島風「これなら強運の雪風にも見つからないよ!」

長波「だからと言ってさあ：第二イサナ号船内にある樽の中つてどうなのさ。しかも二人も入ると狭いし!!」

ドカドカッ

島風「静かにつ：誰が入って来たみたい：」

長波「：なあ、船が揺れてるような気がするんだけど：」

i nカレー洋探掘地区

ルルカ「さすがイサナ号ね。他の船より速いわ」

ジン「消臭玉は持っているな?ここから二手に分かれていくぞ」

ベル「：」

ルルカ「…」

ジン「…よし」

ベル「いや全然よしじゃないよ!」

ジン「見つけたら信号弾をあげてくれ。じゃ、頼んだ」

ベル「ちよ、ジン、待ってーっ!」

ルルカ「さあ、ベル。行くわよー」ガッ

ベル「ああもう!!あまりべた付かないでしっかり探してくれよ?」

ルルカ「…二人つきりね?」ニヤリ

ベル「もうやだあああっ!!」ダッ

しーん…

島風「…」

長波「…ここ、どこ?」

島風「もしや…ビーチの視察!」

長波「うん、絶対に違うと思う…あたしが思うにジンさん達のお仕事にあたし達はつ

いてきちやっただよ」

島風「ふーん、じゃあお手伝いしないとね!」

長波「いや、ここで待ってた方がいいって!!」

島風「ぶー、だつて霞ばかりずるいもん。私がいっちばん速いのになー」
長波「あ、待てよ！あーもう…あたしも行くよ！」

「しばらく歩いて」

長波「なー、もう戻ろうぜー？」

島風「だーめ、島風探検隊の冒険はまだ始まったばかりよ!!」ダツ

ゴツン

島風「おうっ!」尻もち

長波「ほらーちゃんと前をみなよ」

島風「もー!!なんでこんなところに柱があるのよ!」ゲシゲシ

長波「…なんか色変わってね?」

島風「ほんとだ!緑に変わって…」

グルルルr…

島風&長波「…え?」

ブラキディオス「(#、-)」グルルルr…

長波「」

島風「おおーっ!!すっごいリーゼント!!」

ブラキディオス「(ノ#、㊦)ノ」グルアアアアアッ!!

長波 「なんかヤバイのがいたああつ!!」

☒ボーキサイトは砕けない、『砕竜』ブラキディオス 急

ベル「…」キヨロキヨロ

ルルカ「ふむふむ…よし、この辺りは大丈夫そうね」

ベル「…」キヨロキヨロ

ルルカ「やーん♡そんなにあたしが気になるの?」

ベル「そのようなことであろうはずがございません。というか調査の方はちゃんとするか?」

ルルカ「失礼な。それでも筆頭リーダー公認の狩人なんだからね」

ベル「はあ、はやく提督帰ってこないかなー」

ルルカ「…ねえ、ベル?少し聞いてもいいかしら?」

ベル「何を?変な事だったら速攻逃げるからね?」

グオオオオオツ!!

ルルカ「っ!!あの雄叫びは…」

ベル「ああ、間違いない。ブラキだ!!急ごう!」ダツ

ルルカ「…ちっ、ブラキエ…」

ブラキ「(#、皿)」グルルルr…

長波「いい、いいか島風。ゆつくり、ゆーつくりと背を見せずに後ろに下がってくんだ」

島風「おつそーい!!」長波をおんぶして走る

長波「ちよ、おおいっ!?!」

ブラキ「三(#、皿)」田植え攻撃

長波「なんか爆発しながら追いかけて切れるんだけど!?!」

島風「ふふーん、まだまだおつそーい!!」ダダダッ

ブラキ「三(#、皿)」ドドドッ

島風「いやっほー!ここまでおいでー!!」

長波「こ、こら!あまり挑発させるなって!!」

ブラキ「三(#、皿)」ジャンピング攻撃

島風「おおうっ!?!すっごいジャンプ!!」

長波「あぶなっ!?!ほらかなり怒ってるじゃんか!」

島風「よーし、私も負けてらんないよー!!」ダッシユ

ブラキ「(#、皿)」ドドドッ

島風「わっ?!はっやーい!!」

長波「やばっ、もう追いついてきやがった！」

ブラキ「(#。D。)つ」右ストレート

ジン「せいっ!!」南蛮刀で受け止める

長波「ジンさんっ!?!」

ジン「…船に誰か乗ってるなと思えばお前達だったか」

島風「ジンさん、気づいてたのー?」

ジン「…ブラキは爆発する粘菌を持っている。このまま下がるんだ。」

長波「りよ、りよーかいつ!!」

ブラキ「(#。つ。D。)」左フック

ジン「ぬっ!!」ジャスト回避からの一文字斬り

ブラキ「(皿。皿。皿)」右ヘサイドステップ

ジン「しまった、後ろかっ」

ブラキ「(皿。皿。皿)」右フック

ジン「ぶべらっ」。(D。D。)(O三

長波「ジンさん吹っ飛んだー!?!」

島風「ジンさんがパチパチしてる!!」

ジン「転がれ転がれ」☒ω☒三(ε:(三)。(ω)三)∴3(三)☒☒☒

ブラキ「(、皿)っ」右ストレート振り下ろし

ヒューン三●

ブラキ「Σ(；、皿)ドーン!!

ジン「あれは…徹甲弾。やつと来たか」

ルルカ「お待たせー!!」つネビユラシユトローム

ベル「やつとこさ追いついた…って、なんで島風と長波がいんの!?!」

ジン「かくかくしかじか」

ルルカ「なるほどね…あの子達に被害が及ばないようにしなきゃね」

ジン「ひとまず、ブラキは捕獲するぞ」

ベル「え!?今ので把握できたの!?!」

ルルカ「オツケー、まずはこっちにヘイトを稼がないとね!」水冷貫通弾速射

ブラキ「(。皿) #三三 田植え攻撃

ベル「おっと!!」エリアル回避

ジン「たたみかけろー!」気刃踏み込み斬り

ブラキ「○(、皿)○」全方位爆破

ルルカ「!!二人とも下がって!!」

ボボボーン

ジン「Bombっ!?」.. . () ε ° () ()
 ベル「ボンバーツ!?」()、3、().. . :

ルルカ「まったくもう…はいっ!!」っ【生命の粉塵】

ジン「…ナイスデース」

ベル「た、助かったあー」

ブラキ「三()、皿()」直線爆破

ルルカ「そんな攻撃、当たらないわよ!」ジャスト回避

ベル「そいやっ!!」鬼人化回転斬り

ジン「斬るっ」抜刀気刃斬り

ブラキ「Σ()、皿() ; ()」右腕甲破壊

ルルカ「ナイイスっ、この隙に狙い撃つわよ!」パパーン

ブラキ「()×皿×()」麻痺

ルルカ「やっときさ痺れたわね」フウ

ジン「グッド!!今のうちに攻めたてるぞ!」連続気刃斬り

ベル「よしっ、いくぞ!」鬼人化乱舞

ルルカ「もうそろそろね…罨を仕掛けるよ!」っ【シビレ罨】

ブラキ「()、皿() # ()」尻尾攻撃

ベル「ぶっ」三)。3)。…。

ジン「ルルカの下へ誘き寄せるぞ」グイッ

ベル「りよ、了解っ!!」ダッ

ブラキ「三(#ノ。D。)ノ」ジャンピング攻撃

ルルカ「飛び上がってきたわよ!ダイブしてっ!!」

ジン「そおおいっ!!」三(つ・ω・)っ

ベル「ひええっ!!」三(;つ、D、)っ

ブラキ【((;×D×)】

ルルカ「かかった!麻酔をかけるわ」捕獲弾

ブラキ「(☒ω☒)スヤアヤカ…」

ジン「…うむ、捕獲成功だな」

ベル「ブラキと戦うときはほんとハラハラしたよー」ヒエー

長波「お、終わったの?」ドキドキ

島風「ルルカさんかつこよかったー!!」

ルルカ「うふふ、どうもありがと」ウインク

ジン「ルルカ、調べるんだろ?」

ルルカ「ええ…ごめんなさいね、ちょっと調べさせて頂戴」ナデナデ

ブラキ「(⊠ ⊠ ⊠) スヤア」

ルルカ「: :」 テキパキ

長波「あれって何やってるの？」

ジン「触診と血液検査。急に暴れる生物にはストレスが原因の他、体内に疾患がある可能性がある。また、薬品を使って血液の変色具合で狂竜ウイルスの有無がわかる」

島風「へー、なんだかお医者さんみたいだね」

ルルカ「血液は: :よし、大丈夫。この子はウイルスの感染はしてないわよ」

ジン「一先ず安心だな」

ルルカ「じゃ次、口を開けてさせられる？」

ベル「おっけー」

長波「そ、そんなことして大丈夫なのか!？」

ジン「大丈夫、麻酔がかかっている間は暴れたりしない」

ベル「でもなんで口を確認するんだい？」

ルルカ「この子、通常のブラキと違って痩せてるのよ。えーと: :やつぱり口内に共生している粘菌が死んで減っているわ」

ジン「この粘菌は長時間の低温、水に弱い。: :海水でも飲んだのか？」

ルルカ「死んだ粘菌に塩が付着してる。間違いないわね、海を泳いで来たのよ」

ベル「どこから来たかわかる？」

ルルカ「うーん、見た判断だと…たぶんこれより西の方角の島じゃないかしら？」

ジン「つまり、こいつは元いた島から何らかの原因で追い出され泳いできてこの島まで来た。しかし棲むには小さく餌も少ない。空腹状態のままストレスが溜まり暴れたところか」

ルルカ「付け加えると島を転々としてたかも。他の種と争った傷もあるわ」

島風「大変だったね…」

ジン「…とりあえずギルドには保護区へ移すよう申請する。次はその原因を探さなくてはな」

ベル「でも、こいつの身になにがあつたんだろうな…」

長波「…ちよ、なんか向こうから飛んできてるぞ!？」

ルルカ「…ね、ねえあれってもしかして…」

ジン「ああ…いいな？ 奴がここに来たら絶対に目を合わすな動くな」

島風「なんで？」

ジン「…死ぬまで追いかけるぞ」

ドオオオンツ

イヤンガルルガ「(、皿▼)」

ベル「い、イヤンガルルガか…」ヒソヒソ

長波「なにあれめっちゃこわい」

ジン「ガルルガは執拗に追い詰める性格だ…たぶん弱っているこいつを追いかけてきたんだろうな…」

ガルルガ「Σ(、皿▼)」

島風「おうっ…目があっちゃったかも…」

長波「こ、こつちを見てないか？」

ルルカ「まずいわね…標的にされたわ」

ジン「俺が行く！」ダッ

ガルルガ「(、皿▼) 三」突進

ジン「そいつ!!」つ三【こやし玉】

ガルルガ「Σ(、皿▼;)」アタフタ

バサッ

ガルルガ「(二(、皿▼) 二)」ブーン

ベル「よ、よかったー…移動してくれた」

ジン「あつちの方角には：第二採掘場がある島があつたな」

ルルカ「こつちは片付いたけど、こんどはあつちね」

ジン「提督には伝えておく。ギルドの船が来るまで俺は待つ。後はルルカとベルで周りの生態を調べてくれ」

ルルカ「はい♡さあベル、行くわよおつ」イヤツフー

ベル「え、ちよ、待つて、離してー!!」イヤアアア

ギルドに回収してもらいイサナ号で帰投した後、鎮守府では島風&長波を一斉に大捜査していたのは後の話――

in 汽車

霞「電報が来てたわよ。ジンさんから、第一採掘場の件は片付いたけど別の件が発生したからその調査を行うようよ」

提督「……」ボー

霞「司令官?」

提督「あ、ああ。ちよつと考え事」

霞「……孫娘提督に言われたこと、気になってるの? どうして駆逐しないのかつて」

提督「……確かに狂竜ウイルスの原因は彼らにある。でも、彼らに責任はないんだよ」

霞「……」

提督「シナト村の僧正もおっしやっていたんだ。彼らは悪意なんてない。ただ生きてい
るだけ、ただ生きるためにその力を持っているが故に恐れられているだけなんだ」

霞「…」

提督「対峙するときそう考えるんだよ。だからこそ古龍種が、ゴアマガラやシャガル
マガラが、狂竜ウイルスが恐ろしいんだ」

霞「…もし、それが私達に降りかかってきた時はどうするの？」

提督「そりやもちろん戦うさ。霞や艦娘の皆、他の提督さん達、街の人達を守るのも
ハンターの仕事だからね」

霞「司令官も大変ね」

提督「…（ ）スヤア…」

霞「あ、寝ちやった…仕方ないか、こここの所張り詰めてたし…」

提督「（ ）スヤア…」

霞「…」キヨロキヨロ

提督「（ ）スヤア…」

霞「…いい、いつもありがと。こう厳しくしてるけど、ほんととは感謝してるんだから…」
ナデナデ

提督「ああしまった!!」ガバツ

霞 「ひやうっ!?ど、どうしたのよ!？」

提督 「お土産買うの忘れてた!!どーしよ、途中下車してお土産を買うか!」

霞 「…このっクス!! 空気読みなさいよ!」 ビンタツ!!

提督 「ご、ゴメンヌっ!」 (#) ㇿ、 ; ;)

● れっぷーに乗って、『鋼龍』クシャルダオラ

—— 前回のあらすじ、れっぷーがクシャルだった。まじでヤバイ

ウイル「クシャルダオラかよ…こいつはヤバイ…」

レ級「そ、ソレツテドレクライヤバイノ？」

ウイル「歩く災害レベルでやばい」

クシャル「(皿皿)」ジロリ

南方棲鬼「ナンダコイツハ…」

空母棲姫「邪魔ヲスルナラオ前モ排除スル！」艦載機発射

艦載機くハイジヨスル!! ババババツ

クシャル「(((皿皿)))」風纏い

艦載機くヒャー!! フラフラ

空母棲姫「ナツ!? 艦載機ガ!!」

南方棲姫「ダツタラ：クラエ！」ドドーン

クシャル「(皿皿)」翼で防ぐ

南方棲鬼「効イテイナイダト…!?!」

ウイル「風を纏っている時は弾丸は弾かれるんだ!!」

防空棲姫「ジャア私達ノ攻撃ハ効カナイジヤナイノ!？」

クシャル「〇三、皿、()」風ブレス

ウイル「避けてっ!!」ガバッ

南方棲鬼「オワッ!？」

空母棲姫「邪魔ダドケッ!!」

ウイル「今の状態で古龍と戦うのは危険すぎる。ここは安全な場所まで退くのがいい」

南方棲鬼「私ニ指図ヲスルナ!!」ブンッ

ウイル「ヒエッ」

空母棲姫「コウナツタラ艦装ヲ使ツテブチノメスシカナイワネ」艦装展開

南方棲鬼「何が何でもコイツゴトマトメテ消シテヤル!」艦装展開

ウイル「ちよ、なんで脱ぐんですかねー!？」(; η ∩ η) イヤン

ホッポ「ソウイウ仕様ダカラ」

レ級「ピユアダナ」

防空棲姫「ピユアネ…」

駆逐水鬼「ウイル…ピユアダッタんだネ」

クシャル「○三、皿、皿、皿」風ブレス

空母棲姫「っ!! 凄イ風圧ネ…デモソナ攻撃効カナイワヨ!

南方棲鬼「全砲門展開ッ! 消エロオオッ!!」ドドドドーン!!

クシャル「Σ、皿、皿」

ドドドオオオンッ

ウイル「うわっ!? すっごい爆発!!」

ホッポ「スゴイ火力!!」

防空棲姫「サスガハ南方海域デ戦線ニ出テル程ノ実力ネ…」

駆逐水鬼「空母棲姫トノ同時攻撃…アレヲクラツタラマズイ」

空母棲姫「フン、深海棲艦ヲ舐メルカラダ」

南方棲鬼「次ハウイル、貴方ガ消シ炭ニナル番ヨ!

ウイル「…やばいな」

防空棲姫「本気ニナツタ二人ハ危ナイワ。ウイル、私達ガ時間ヲ稼グカラホッポヲ連

レテ逃ゲナサイ」

ウイル「いや、そっちじゃなくて…あの攻撃でたぶん奴はブチギレたぞ」

ゴウッ

ホッポ「ワッ!? 爆炎ガ一気ニ消シ飛ンダ!?!」

レ級「サツキノ暴風ヨリモ凄イ風ダツ」

南方棲鬼「ッ!?アレハマサカ…」

クシャル「(一)、(皿)、(皿) # (二)」龍風圧

ウイル「まずい。黒い風、『龍風圧』だ!!いますぐ退け!!」

南方棲鬼「フン、タカガ黒イ風ヲ纏ツタダケジヤナイカ」

空母棲姫「コンナ見掛ケ倒シニ引ツカカルワケガ…」

クシャル「▼三(一)、(皿)、(皿) # (一)」黒い巨大竜巻

南方&空母「」

レ級「アンナノ出スノカヨ!?!」

南方&空母「キヤー!」竜巻に巻き込まれる

ホッポ「竜巻ニ巻き込まレテ飛ンダ!」

防空棲姫「アノママダト空ノ旅ヘフライアウエイシチャウワ!!」

ウイル「よし、今助けるぞ!」

駆逐水鬼「私モ行コウ!」

空母棲姫「落ちルーツ!!」(; 皿、)

駆逐水鬼「ヨット!」受け止める

空母棲姫「す、スマナイ…助カツタワ」

南方棲鬼「ヒヤーツ!」(； ㊦、)

ウイル「よし俺が受け止め…ふぎやつ!?重いっす!!」(#)㊦、；；)

南方棲鬼「艤装ノセイダケド…男ナラシツカリ受ケ止メナサイヨ!」プンスカ

レ級「ソレデ、ドウスルンダ?」

南方棲鬼「クツ…悔シイガココハ退クシカナイ…」

空母棲姫「陸地ニアンナ生物ガイルナンテ聞イタコトガナイワ」

ウイル「そうと決まれば話がはやい。俺が時間を稼ぐから早く行きな」つエイム of
マジック

防空棲姫「!?アンナ化ケ物ヲ一人デ戦ウノ!」

レ級「アノ二人ガ敵ワナカツタンダゾ!」

ウイル「古龍と対峙して撃退するのはハンターの役目だからね。俺は大丈夫だから早
く!!」

レ級「…モウ!!絶対ニ戻ツテキテヨ!!」

駆逐水鬼「二人トモ行クヨ」グイッ

南方&空母「…」

クシヤル「(一)、(三)、(四)、(五)」「威嚇

ウイル「…さてと、毒投げナイフも閃光玉もない、回復薬グレートがない中でどうやっ

て龍風圧のクシャルと戦おうかな」

ホツポ「ネエネエ、ウイル？」グイグイ

ウイル「…つて、ホツポ!?ここにいたら危ないぞ!」

ホツポ「れっぷート戦ウノ？」

ウイル「ま、まあ、撃退する程度だが？」

ホツポ「私、れっぷーニ乗リタイ！」

ウイル「うーん、こいつに乗るのは流石に難しいなあ。ささ、ここは危ないからお前も早く…」

ホツポ「ウイルハ冒険家デ、色ンナ危険ニ出会ツテ乗リ越エタンデシヨ?ホツポモ冒険家ニナリタイ!!」

ウイル「…冒険には様々な危険がある。それを乗り越えるためには勇気が必要だ。これも勇気があるんだぞ？」

ホツポ『「ユーキ」?ユーキならアル!!」フンス

ウイル「…仕方ないなあ。俺の背中にしがみ付け。いいか?絶対に離すなよ?」

ホツポ「ラジャー!!」グイツ

ウイル「よっしやあ!!行くぞ!」ダッ

クシャル「▽▽▽三【(、皿 #)】ダブル竜巻

ウイル「おおおっ!!」ダダダッ

ホツポ「竜巻ノ間ヲ通り抜ケタ！」

クシヤル「▼三【(、皿、#)】」

ウイル「チョイサーツ!!」ジャスト回避

ホツポ「竜巻ノ中モ通り抜ケタ!! 当タリ判定ハ？」

ウイル「ジャスト回避中は無敵なのさっ」メメタア

ホツポ「スゴイツ」

クシヤル「【(、皿、#)】」ヒツカキ

ウイル「この時を待っていた!とっ」ジャンプ

ホツポ「オオツ!？」

ウイル「クシヤルのひっかきを見越してジャンプして回避しクシヤルに乗る!これが

俺の算段よおっ!!」

クシヤル「二【(、皿、#)】」バックジャンプして飛ぶ

ウイル&ホツポ「あつ…」

ウイル「う、後ろに飛んだとおおっ!？」

ホツポ「ウワツ!?!強イ風ッ」

ウイル「しまった、龍風圧だっ」ヨロツ

クシャル「(、皿 #)」「ギロリ

ウイル「あ、やばっ…」

三● ヒューン

クシャル「Σ(、皿 ;)」hit!!

ホツポ「今ノ砲弾ハ…」

防空棲姫「飛ンデル奴ナラ狙イ撃テルワヨ!」ドヤア

ウイル「ナイス!!顔面にヒットだぜ!!」

防空棲姫「『とにかくヤバそうな奴は頭を狙え』、ウイルノ教エノ賜物ネ!」ドヤッ

ウイル「今ので龍風圧が解けた!今だああっ!!」ジャンプしてライド

ホツポ「遂ニ…れっぷーニ乗レタ!!」

クシャル「Σ(、皿 ;)」ジタバタ

ウイル「おおっと、ホツポ!!絶対に離すな!振り落とされるぞ!」

ホツポ「ウンッ!!」

クシャル「(、皿 ;)」バサッ

防空棲姫「アッ…飛ンデッタ…」

in上空

ホツポ「スッゴイ!!レップーニ乗ッテ空ヲ飛ンデル!!」ウキウキ

ウイル「…ここまで長く乗るの初めてなんだけど…」アセアセ

クシャル「CCC(、皿、)CCC三三」

ホツポ「ハツヤーイ!!」ウキウキ

ウイル「クシャルに乗って楽しい空の旅…いつか団長に自慢できるな。そうだ、ホツポ。遠くを見てみ?」

ホツポ「!!…島ガ小サクアチコチニアツテ、果テシナク広ガル海…」

ウイル「そ、世界はすごい広い。こつから見たら俺達なんかちつぽけなもんさ。まだ見ぬ世界があるからこそ、自然っていうのはすごいし、冒険も楽しいんだ」

ホツポ「…冒険ツテスゴイネ!!」

クシャル「(、皿、#)「ジタバタ

ウイル「あ、まだ怒ってるんだった」

ホツポ「それでウイル、ドウヤツテ降リルノ?」

ウイル「そうだった。おいつ、地表に戻るぞー!!」

クシャル「三三(、皿、)「急降下

ウイル「ちよ、急降下ああっ!」

ホツポ「イヤッホー!!」

クシャル「三三CCC(、皿、)CCC「海面ぎりぎり飛行

ウイル「ひ、ひえええっ!?!」

ホツポ「オオオオツ」ウキウキ

ウイル「むっ!! 砂浜に飛び降りるぞ! しっかり捕まれーっ!!」

ホツポ「ウン!!」

ウイル「それっ!!」ジャンプツ

ズザーツ 三(つ・ω・)つ

ウイル「な、なんとか着地できた……」

ホツポ「楽シカッタ!!」

クシャル「(皿)」ジロリ

ウイル「こ、こんにやろう、まだやるか?」

クシャル「(皿)」プイッ

バサツ

クシャル「三三(皿)」

ホツポ「ドコカ飛ンデツチャッタ……」

ウイル「……ふー、すっげえ緊張したあ……もう古龍はこりごりよ……」

ホツポ「デモ『れっぷー』見つケルコトガデキタ! ありがとうウイル!!」ニコツリ

ウイル「おう。お前の夢が叶ってよかったな」

ホツポ「今度ハ『れっぷー』ヲ捕マエヨウ！」

ウイル「うん、今度は古龍じゃないことを願う！」

駆逐水鬼「オーイ!!」ノシ

防空棲姫「無事ダツタノネ!!ヨカッタ!!」

駆逐棲姫「ウイルさああんツ!ヨカッタ、無事でよかったですー!!」ウワーン

ウイル「おおよしよし。泣くな泣くな」ナデナデ

レ級「ナ?ウイルガイタカラ無事ニ済ンダンダ。チョットハホツポノ気持チモワカッタヤツテヨ」

ヲ級「ヲツ!!」へ(、旦)ノ

南方棲鬼「…」

空母棲姫「…仕方ナイワ。今回ダケハ認メテアゲル」

南方棲鬼「借りがデキタガ:奴ノ次ノ行動ニヨルワ」

ウイル「さてと:『れっぷー』も見れたし、お姉さんの所へ行こうか!!」

ホツポ「ワイー!!」

南方棲鬼「ズコー

レ級「(・▽・)ニヤニヤ」

空母棲姫「ワ、ワカッタワヨ!認メテアゲルワヨ!チョットウイル!!」

ウイル「うん？」

空母棲姫「港湾棲姫ノ所ニ行クンデシヨウ？私達ガ案内スルワ!!」

ウイル「おつ、ほんとか!？」

南方棲鬼「エエ、港湾棲姫ト戦艦棲姫、その他の棲姫ヤ水鬼モイル島ヘ行クワヨ」

—— ウイルの冒険日記 —— ■月●日 ——

『れっぷー』の正体はクシャルダオラだった。風を纏うからあながち間違っではないけども…たぶん、違うんじゃないかな？もしそうであるならそうであってほしい。クシャルの捕獲は無理だから（；ω；）

操虫棍を使ってモンスターに乗って攻撃もしていたが、ああも長く乗るのは初めてだ。しかも少しの間空の旅ができたのはいい体験になった。もし団長やクロード達に会えるのなら自慢してやろう。…信じてもらえるかなあ…

遂にホッポのお姉さんのいる島へ向かうことになった。ホッポはきつと喜ぶだろう。

…さて、『れっぷー』も見ることができ、お姉さんにも会えるからホッポとの約束はこれで終わりに近い。この次はどうしようかな…

☒留守番の鎮守府 part 2

i n 中庭

アーロ「……」ズイツ（前へ）

暁「……」ズイツ（後ろへ）

響「ホールド」ガッ

暁「みやっ!?響!」

アーロ「グッジョブ!!おりやー!!」ナデナデ

暁「ぴやー!ナデナデしないでー!!」

アーロ「そりやーっ!!」抱っこしてグルグル

暁「ぴやー!?!」グルグル

雷「いいいなー!!私もやってー!!」

雪風「雪風にもグルグルしてほしいです!!」

皐月「僕も僕もー!!」

ワラワラ

満潮「……」ムスーッ

曙「そんな隅でなにやっつてんの？」

満潮「普通におかしいから」

曙「何が？いたって普通だともうけど？」

満潮「いやおかしいでしょ!?!なんで司令官が4人いてしかも変な鎧着てるし、なんで駆逐艦はでっかい虫と蟹の世話までしなきゃなんないのよ!?!」

曙「?」(・ω・?)

満潮「首をかしげる要素一つもないんだけど!?!」

深雪「まあまあ、そんなにかっかしなくてさー楽に行こうぜ？」

満潮「いやいやいや!?!それに曙はもっとうツンツンしてるんじゃないの!?!」

曙「まあ最初はね…クソ提督達見てたらなんだか捻くれてる自分がバカみたいだなーって思ってたさ」

深雪「まあ司令官達は少し人離れしてるもんなー」

満潮「あ、ありえない…霞といい曙といい…性格少し変わってるしここの鎮守府は一体何なの：」

深雪「あまり考えない方がいいぞ？」

満潮「むー：」

i n 空母練習場

加賀「……」狙いを定めて弓を引く
シュバツ

スコーンツ!! 的くど真ん中、命中だぜっ!!

不知火「……」姫竜砲しやがみ撃ち

バスンツ!! バスンツ!! バスンツ!!

的くちよ……狙いすぎっ!?! ひぎいつ!?

加賀「あの……ちよつと気になるんだけど」

不知火「すみません。しやがみ撃ちの方が早く連射できるとジンさんが言ってたもので……」

加賀「いやしやがむとかそう言うことじゃなくて……」

不知火「大丈夫です。出撃の時はこれは使いません」

加賀「いやそう言うことでもなくて……」

瑞鶴「へー……ジンさんは色々詳しいんだねー」

赤城「この間は弓に強撃ピンを取りつけたら威力が増すと聞きましたよ?」

加賀「赤城さん、戻ってきて」

ルルカ「ふむふむ、ここが弓とボウガンの練習場ねー」

瑞鶴「あ、ルルカさん。練習ですか?」

ルルカ「まあね、次の調査に向けてちよつと練習：あら？それって姫竜砲じゃない」
不知火「はい、アーロさんがくれました」

ルルカ「懐かしいわねー。アーロが新米ハンターだった頃よく使ってたのよ」

不知火「アーロさんが新米だった頃からですか？」

ルルカ「ええ、あの頃はほんつとへたつぴでね、よく散弾を撃ちまくってたの。被弾してるジンやクロードは苦労してたわねー」

瑞鶴「被弾するんですか!？」

ルルカ「大丈夫よ。ただ仰げ反るだけだから」ウフフー

赤城「提督達なら大丈夫そうですねー」

加賀「色々とツツコミどころ多い」

ルルカ「ところで：ジンとはどう？うまくいつてる？」

瑞鶴「え？ど、どうってどういうことですか？」

ルルカ「団長さんから聞いてるわよー。ジンはああ見えて不器用なの、だからガツンと行けば大丈夫よ!!」

瑞鶴「??」クビカシゲ

ルルカ「…え？」

不知火「ルルカさん、どうやら自覚がないようです」

ルルカ「うそ、もったいなーい!!」

赤城「てつきり気にはしているとは思ってたんですが…」

加賀「ジンさん、気の毒ね」

瑞鶴「何が!?!すっごい気になるんですけど!?!」

ルルカ「うふふ、そのうちジンが言ってくるわよ」ニヤニヤ

不知火「ですがジンさんは不器用のはずでは?」

in工廠

ジン「…」

明石「ジンさん、どうかしました?」

イムヤ「ジンさん、上の空だよ?」

ゴーヤ「おーい、どうしたんです?」

ジン「…今誰か俺の噂をしたような…」

明石「気のせいですよ、たぶん…」

ジン「…ところで呼んだのはなんで?」

明石「本当はベルさんか提督に言おうと思ってたんですが…遂に大型建造が可能にな

りました!!」

ジン「…大型建造?」

ゴーヤ「普通の建造よりも大掛かりな建造でち」

イムヤ「資材はかなり消費する分、今まで建造できなかった大和型といった大型戦艦や装甲空母などが建造できるようになるんです!!」

ゴーヤ「その分、建造時間は小さなものなら17分、大きなものなら8時間とバラバラでち」

ジン「…それはいいなあ」キラッ

明石「ぜつつつたいに指定の資材以外の鉱石や変な素材は入れないでくださいよ?」

ギロリ

ジン「…フリ?」

明石「フリな訳ないでしょうが!!」

妖精さん<レシピ表だよー

ジン「…ふむ、10000〜90000か。結構な量を入れるな…むっ、閃いた」ピコー

ン

明石「ジンさんの閃いたとかもう嫌な予感しかないんですけど?」

ヨモギ「明石さん、手伝ってほしいニヤ!! 鉄鍋に大穴が開いて大変だニヤ!!」

明石「えっ?! ジンさんが気になるけど…わかりました、行きましょう!!」ダッ

ジン「…イムヤ、ビスマルクを呼んできてくれないか?」

イムヤ「はーい!!」

――数分後――

ビスマルク「ジンさん、私に大型建造を手伝って欲しいの?」

ジン「…ああ、頼む」

ゴージャ「でもなんでビスマルクさんでちか?」

ジン「…各鎮守府ではレーベを秘書官にし大型建造をすればビスマルクが建造できると聞く…すなわち」

イムヤ&ゴージャ&ビスマルク「すなわち?」

ジン「…レーベでビスマルクなら…ビスマルクで他のドイツ艦ができる!」ドヤアツ

イムヤ&ゴージャ「ジンさん天才!」オオツ!!

ビスマルク「バカじゃないの」キツパリ

ゴージャ「でも大型建造には運があるって聞くでち」

ジン「…ふつ、安心しろ。今日のネコ飯でネコの激運がついている!」

ビスマルク「その理屈よくわからないんだけど?」

ジン「…よし、回すぞ!」

イムヤ&ゴージャ「ラジャーツ!!」

――5分後――

明石「ふう、思った以上に時間がかかりました。…おや？」

ビスマルク「…」

明石「ビスマルクさん、どうかしましたか？」

ビスマルク「…ああ、明石か…これって私の責任になるのかなあ？」

明石「え？一体どうしたんでry」チラツ

6 : 3 5 : 0 0

4 : 1 5 : 0 0

2 : 0 5 : 1 0

3 : 3 5 : 2 0

明石「5分前だとして上二つのドツグの建造時間は大体わかるけど残り二つのが意味わからないんですが!？」

ビスマルク「途中までは良かったんだが…チャチャとカヤンバ、黒丸まで乱入してきて海外艦を当てるために多くの資材と…マカライトなんとかまで入れてたわ…」遠い目で

明石「ああっ!?資材が物凄く減ってる!?!?ジンさんはどこに行きましたか!?!？」

ビスマルク「ジンさんはイムヤたちと一緒に『オリョールクルージング』に行つてくるって言って逃げたわ…」

明石「…提督、はやく戻って来てください…」

i n 執務室

ベル「…ああ平和だ…」書類整理中

鹿島「ベルさん大げさすぎますよ」ニコニコ

ベル「静かな執務室、誰にも邪魔されずに書類整理できて捗れるし、鹿島が手伝ってくれるし…ああ平和だあ」

鹿島「うふふ、ありがとうございます。ベルさん、コーヒーのおかわりいかがですか？」

ベル「ありがとう。そうだ、街の方で美味しい喫茶店を見つけたんだ。午後の休みにでも一緒に行かないか？」

鹿島「えっいいんですか？」

ベル「ああ…その、是非とも…」テレテレ

鹿島「は、はいっ!!喜んで!!」ニコニコ

利根「おー甘い甘いのおー」

時雨「一応僕たちも書類整理手伝ってるんだからね」

ベル「あ、ああごめん」アハハ

利根「街で甘いもの買ってきてくれたら許す!」ピシッ

ベル「かるっ!」

時雨「それじゃあ鹿島さんの為に早く終わらせないとね」ニコニコ
鹿島「あ、ありがとうございます。ベルさん、頑張りましょう！」

ベル「よし、がんばry」

ルルカ「ベルウウウツ!! 今日こそあなたのハートをレイジングハートよ!!」バンツ
ベル「とうっ!!」窓から飛び降りる

利根「ちよ、何事じゃ!？」

鹿島「べ。ベルさん!？」

スタツ タタタタタ：

利根&鹿島「」

時雨「こ、ここ4階だよ? その高さから降りてそのまま走るなんてすごいや」
ルルカ「逃がさないわよおおおっ!!」窓から飛び降りて追いかける

鹿島「あうう：私も追いかけた方がいいんでしようか：？」シヨンボリ
利根「いや、人離れしてるからやめた方がいいと思う」

時雨「：提督、はやく戻ってこないかなあ：」

——— なんかかんやで翌日、提督は戻って来ました ———

i n 執務室

提督「：：」ジーツ

霞「…」ジーツ

ベル「…い、一応ちゃんと留守番はできたよ？」

提督「いろいろ言いたい事があるんだが…どうしようか？」

霞「一つずつ解消していきましょ」

提督「じゃあ…まず一つ、資材が4分の1に減ってるんだけど？」

明石「…ジンさんが大型建造にほとんど使ったんです」

霞「なるほどね。だから今朝、鎮守府門前で磔にされたのね」

提督「…で、その大型建造の結果は？」

明石「…え、えーと…一応来てますので呼びますね？入ってくださいーい」

大鳳「初めまして、装甲空母の大鳳です!!提督、宜しくお願ひします!!」ビシッ

山城「大型戦艦、扶桑型二番艦の山城です…あの、扶桑姉さまはいらっしゃいません

か？」

秋津洲「水上機母艦の秋津洲です!!大艇ちゃんともどもよろしくお願ひいたします!!」

プリンツ「Guten Morgen!!私は重巡プリンツ・オイゲン。よろしくね!」

ニッコリ

提督「…あの、これ…」

明石「色々アウトです」

提督「…うん、ごめん…」(・ω・)

in 母港

提督「と、言うわけでジンは今出れない」

アール「自業自得だよな」

ルルカ「仕方ないわよ。ジンは楽しそうでなによりでしょ？」

ベル「それフオローしてるんだよね？」

提督「アール、すまないが遠征に行ってくれないか？」

アール「えっ!? またウラガンキン主任のとこまで行かないか!?」

提督「まあ、そこまでしなくていいさ。駆逐艦の子達と一緒に行って遠征の手伝いをすればいいさ」

アール「はあ、しようがねえなあ…俺もガルルガの調査をしたかったなあ」

ルルカ「故郷に戻ればガルルガに会えるクエストが沢山あるわよ」

アール「はいはい、わーったよ。支度してから行ってくらあ」ノシ

提督「…しかしブラキの次はガルルガかあ。厄介だな」

ルルカ「そうね…急ぎましょ。あの時はジンが追い払ってくれたけど…あのガールが、少し様子が変だったわ」

ベル「うーん、そうは見えなかったけど？」

ルルカ「こちとら長く狂竜ウイルスの研究もやってるのよ？私の直感がヤバイと言ってるわ」

提督「ルルカの嫌な予感はいよく当たるんだよなあ。頼むから当たらないでほしいよ」アハハ

in 鎮守府門前

ジン「…」

カヤンバ「まさかワガハイ達まで怒られるとは…」

チャチャ「明石さん怒ったらこわいッチャ」

黒丸「イビルジョーに食べられそうになっただくらい恐かったニヤ…」

瑞鶴「…」チラッ

ジン&チャチャ&カヤンバ&黒丸「(・ω・)」

加賀「駄目よ瑞鶴。心を鬼にして我慢しなさい」

瑞鶴「…っ、ジンさん、ごめん！」プイッ

ジン&チャチャ&カヤンバ&黒丸
〔 ; ω ;)
「

☒ 予感的中、『黒狼鳥』イヤンガルルガ 前編

カレー洋採掘場第二地区、波止場

ルルカ「さあ探すわよー!!」オオオーツ

提督「よし、張り切っていきますか!」

ベル「二人とも元気がいいねえ…」

提督「はやく安全を確保させて皆に安心して船を進めさせてあげたいからね」

ルルカ「ガルルガは闘争本能が強い生物、各地を転々として暴れてるの。下手したら狂竜ウイルスに感染した生物に接触している可能性があるわ。早く捕まえて調べないと」

ベル「確かにその通りだね。じゃあ俺は提督と一緒に探すよ」

提督「あ、俺はまず先に管理場にいる軍の皆さんに挨拶しなきゃいけないから。お先く」

ノシ

ベル「え、ちよっ」

ルルカ「さあ行くわよAIBOー!!」グイッ

ベル「そんな相棒いやなんだけど!?!ちよ、まつ。あくれく」

提督 side

提督「…と、言うことで調査のご協力をお願いします」ペコリ

兵士I「いえいえ、こちらこそよろしくお願いします」

兵士J「提督殿がいれば危険な生物もへっちゃらですよ!」

提督「アハハ…ですがイャンガルルガは危険な生物です。安全な場所で待機をお願いしますね」

兵士K「お任せください!!」

提督「ところで、波止場で2隻の船が既に停泊してあったのですが…あれは?」

青年提督「あつ! お久しぶりです!!」ノシ

提督「うん? 君は確か…講堂で質問してくれた…」

青年提督「あ、名前がまだでしたね…初めまして。俺、『呉広 剛(くれひろ ごう)』と申します!!」

提督「おお、呉提督ですか。よろしくお願いしますね」ペコリ

青年提督「そ、そんなに畏まらなくていいですよ! 俺の方が新米なんですから」

幼馴染提督「ちよつとー!! なにさぼってるのよー!! …って、貴方は確か…!?!」

提督「あ、君は彼の隣にいた…」

幼馴染提督「え、えつと、失礼しました!! 私、『舞鶴 優香(まいづる ゆうか)』と

言います!!」ビシッ

提督「舞鶴提督、そんなに硬くならなくていいよ。気楽にいこう」ニコニコ

青年提督「孫市提督殿から聞きましたよー。『G級作戦』こと、クロードさんとでもかつこよかったです!!」

幼馴染提督「こら、媚びを売らないの!!す、すみません。」

提督「へー、孫市提督殿からかあ。あの時はお世話になったなあ」シミジミ

青年提督「…やっぱりのほほんとしてるな、クロードさん」ヒソヒソ

幼馴染提督「でも多くの大型生物を相手してきたって聞いてるわよ」ヒソヒソ

提督「ところで、どうして君たちがここに？」

幼馴染提督「夏のイベント海域に備え、大量の資材の準備が行われています。この件で私と彼がその準備の任務に就かれました。今はこうしてボーキ、鋼材の輸送をしているのです」

青年提督「俺と舞鶴は二人で一つの鎮守府にいるんです。幼馴染だからということに着任されたけど…こういう面倒くさい任務が多いんですよー」

幼馴染提督「こら、文句を言わずやるの!!」

提督「ふふふ、仲がいいんだねー」ニコニコ

幼馴染提督「あの、提督殿はどうしてこの島に？」

提督「ああ、実は…かくかくしかじか…」提督説明中

青年提督「え、っ!? そんな生物がこの島にいるのかよ!?!」

幼馴染提督「丁度タイミングが悪い時に来ちゃったのね…」

提督「しばらくは管理区内から外へは出ないようにしてください。それでは俺は引き続き調査を行いますので」

幼馴染提督「クロードさん、大変そうね…」

青年提督「…あの人、どんな風に戦うのか見たくなくなってきた」ワクワク

—— ベル&ルルカ side ——

ベル「ふう…けっこう深いところまで来たね」

ルルカ「ケルビ、フアング、クンチュウと色々観察できたけど今のところは問題なさそうね」

ベル「はやくガルルガを見つけて捕獲しないと…下手したらもう他の島へ移動しちゃうよ」

ルルカ「そんなことなになったら水の泡よ。弱音吐かないで進む進む!」グイグイ

ベル「りよーかい、携帯食料を食べて頑張りますか!」ガサゴソ

ルルカ「…ねえ、ベル。この間聞きそびれたけどちよつといいかしら?」

ベル「うん? あああの時だね。何か言おうとしてたけど何?」

ルルカ「…ベルは私のこと、どう思ってる？」

ベル「戦友」キツパリ

ルルカ「うん、そういうことじゃなくて、私が言いたいのは…」
ガサガサッ

ベル「ぬっ?!?向こうの茂みから何か来る!」

ファンゴの群れ「(・ω・:・) 三三三」ダダダダダッ

ルルカ「わっ?!?ファンゴの群れ!」

ベル「なんだか逃げているように見えるけど…」

ドドドドドッ

ルルカ「っ!!気を付けて、何か来るわ!!」

ガルルガ「(皿▼#)三三」ドドドドッ

ベル「ここでイヤンガルルガかつ!!」つジョーズクリーパー

ルルカ「おんどりやあ!!乙女の邪魔をしやがって!!」

ベル「ルルカさん!」ビクッ

ルルカ「ヤロー、ブツ転がしてやらああつ!!」機銃砲バトルビトリア

ベル「激昂ラージャン並みに怖いんですけど!」

ルルカ「ぶちかましてやるわ!!」水冷弾速射

ガルルガ「(◇▼) # (三) ついばみ攻撃

ルルカ「よっと！」回避

ガルルガ「(皿▼) # (三) 突進

ルルカ「きやあつ?! ノーモーション突進は狡いわよ！」

ガルルガ「(皿▼) # (三) サマーソルトの予備動作

ルルカ「ちよ、起き攻めっ?!？」

ベル「よいしよっ!!」ジャンプ攻撃からの乗り

ガルルガ「(皿▼) ; (三) ジタバタ

ルルカ「ありがと、助かったわ!!」

ベル「このっ暴れるんじゃないっ!!」ザクザク

ガルルガ「(皿▼) ; (三) ジタバタ

ベル「よしっ倒れるぞ！」

ガルルガ「(皿▼) ; (三) 転倒

ルルカ「ベル、先に尻尾をお願い!!」麻痺弾速射

ベル「任せといて!!」鬼人化乱舞

ガルルガ「(皿▼) ; (三) バックジャンプ咆哮

ベル「くうっ?!? うるさっ」耳を抑える

ガルルガ「三(＃、皿▼)」空中サマーソルト

ベル「ぶべっ!?」☆() 皿、)

ルルカ「ベルっ!?!」

ベル「お、俺はいいから、撃ち続けて!!」

ガルルガ「三(＃、皿▼)」ノーモーション突進

ベル「あひーっ!?!」(; 皿、)

ルルカ「このっ!! はやく麻痺って!!」麻痺弾速射

ベル「ふらふらあく」(; * 皿*)

ルルカ「ちよ、そこで気絶してる場合じゃないわよ!?!」

ガルルガ「(＃、皿▼) 三三三●」火球プレス

提督「大剣ガードっ!!」つザツシユナイダー

ベル「んん…? あ、提督!!」

提督「ごめん、遅れた!」つ【生命の粉塵】

ルルカ「クロード!! ナイスタイミングよ!!」麻痺弾速射

ガルルガ「(; 皿▼)」麻痺

ルルカ「やっつと麻痺った!!」

提督「よし、まず先に尻尾をカッタだ!!」抜刀斬り

ベル「いつけー!!」回転斬り

ガルルガ「三(…皿▼)」尻尾切断

ルルカ「ナイスカット!!」

ベル「今のうちに回復を…」つ回復薬グレート

提督「この調子で捕獲に行けるか？」

ルルカ「ええ、いい調子よ」

ガルルガ「(×皿×)」バタリ

提督&ベル&ルルカ「え？」

ガルルガ「(×皿×)」チーン

ベル「ちよ、いきなり倒れたよ？」

提督「…なあ俺が駆けつけてくる前に結構攻撃してた？」

ベル「?いや、そんなに攻撃してないはずだよ？」

ガルルガ「(×皿×)」

提督「…なあルルカ、これってさあ…」

ルルカ「常時怒り状態、倒れるまで走り続けていたとして、そして突然の意識不明の

状態…」

提督「…はあ、ほんとにルルカの予感良く当たるなあ」

ベル「え？なんのこと？」

ガルルガ「むくり」

ルルカ「ベル、よく見なさい。ガルルガの口から黒い煙みたいのが見えるでしょ？」
ベル「うん？…あつ（察し）」

提督「いいか、二人とも。気を引き締めて倒せ…あいつはもうただのガルルガじゃない」

ガルルガ「(▼皿▼ #) ヴオオオオツツ

提督「狂竜化したガルルガだ!! マジで速いからな、気を付けろ!!」

㊦予感的中、『黒狼鳥』イャンガルルガ 後編

提督「くるぞっ!!」

ガルルガ「(▼皿▼ #) 三」突進

ベル「ちよ、はやっ!!」

ルルカ「気を抜いちゃダメよ! 狂竜化したガルルガは数倍の速さと攻撃力があるからね!」

ガルルガ「(▼皿▼ #)」連続ついでばみ攻撃

提督「おおっと!」ガード

ガルルガ「(▼皿▼ #)」8の字サマーソルト

提督「うっそ!?! 8の字!?!」(； 皿、 (三

ルルカ「まずいわ。生命のリミッターが外れて闘争本能に歯止めがかからなくなったわ」

ベル「何それ超コワイ」

提督「速すぎてよけきれん。それに狂竜ウイルスの感染を止めないと」モワモワ
ルルカ「クロード、今はウチケシの実でしのいで!!」

ガルルガ「(# ▼皿▼) 三●」 火球プレス

ベル「あぶなっ!?」 緊急回避

ルルカ「クロード、ベル!! これを使って!!」 つ三◇

提督「おっ、抗竜石か」

ルルカ「もしものことを考えて持ってきて正解だったわね」

ベル「ナイスっ!!」

提督「よーし行くぞーっ!!」

ガルルガ「(▼皿▼ #) 三」 突進

ベル「と思ったけどはやーい!」 (； 皿、 (三

提督「ルルカ、もう一度麻痺らせて動きを止めることはできるか?」

ルルカ「調合分も用意してあるわ。でももう一度麻痺にするには時間がかかるわよ

?

提督「俺とベルでヘイトを稼ぐ。その間に狙ってくれ!!」 ダツ

ルルカ「了解よっ!!」

提督「ベル、お前はウチケシの実を食べておけ!」 ダツ

ガルルガ「三(# ▼皿▼)」 提督を追いかける

ベル「わかった!」

提督「おらっつ、こっちに來いっ!!」拔刀斬り

ガルルガ「(; ▼皿▼)」嘴部位破壊

提督「もういつちよ!!」叩き付け

ガルルガ「(# ▼皿▼) <<<」バックジャンプ咆哮

提督「うるさーい」(; U、D、)

ガルルガ「三(# ▼皿▼)」急襲サマーソルト

提督「おつと!! その攻撃は避け…」回避

ガルルガ「三(# ▼皿▼)」二回目サマーソルト

提督「もう一回あるんかーい!!」○。3。)。∴。ガッ

ルルカ「クロード!? 解毒薬は!?!」

提督「わすれた☆」(*、ω、*) ヅエへ

ルルカ「バカじゃないの!?! もうっほら!!」つ【解毒笛】

提督「おおつ、助かる!」

ルルカ「狙い撃ちしてるんだから、しっかりしてよー」つ【生命の粉塵】

提督「サンキューっ!!」ダッ

ガルルガ「(# ▼皿▼) 三●●●」三方向火球ブレス

提督「はええっ!?!」緊急回避

ベル「横からいくよーっ!!」段差ジャンプ攻撃

ガルルガ「(▼皿▼ ;)」よろめく

ルルカ「よし、今度は顔面に狙い撃ちっ!!」麻痺弾速射

ガルルガ「(▼皿▼ ;)」麻痺

ルルカ「よーし、麻痺ったよー!!」

提督「今だかかれーっ!!」溜め切り

ベル「抗竜石が切れる前にやらないと!!」鬼人化乱舞

ガルルガ「(皿 ;)」こける

ベル「よしっ!!狂竜化の鎮静に成功っ!!」連続斬り

提督「狂竜化が再発する前に倒すんだ!!」振り下ろし

ガルルガ「三(#、皿)」ノーマーション突進

提督「アヒーツ!?!」、3、)・・・

ベル「ヒエーツ」・・・(ε。(

ルルカ「ちよ、油断しないでよ!?!沈静化させても相手はガルルガなんだからね!?!」(;

、
皿、)

ガルルガ「三(、◇)」突進と見せかけてついでにばみ攻撃

ルルカ「よっと!」ジャスト回避

ガルルガ「》(、皿、#)」咆哮

ルルカ「くっ：」(；∩、旦、)

提督「サマソはさせんっ!!」ジャンプ溜め切り

ガルルガ「(、皿、；)」怯み

提督「ライドオンっ！」そのままガルルガに乗る

ガルルガ「(；、皿、)」ジタバタ

ベル「今のうちに砥石で研いで：」

ガルルガ「三(；、皿、)」ノーモーション突進

ベル「なぜにっ!」(；、ω、)・・・

提督「このっ、暴れんなっ：」ザクザク

ルルカ「まずいわね、かなり暴れてるわ」

ベル「いたた：このままだと振り落とされて踏まれちゃうよ」

ルルカ「：よし、ここは：」ダッ

ベル「??」






ガルルガ「(#、皿、)」ジタバタ

提督「このっ!!：ってルルカさん？」

ルルカ「そおおいっ!!」バレットゲイザー

ドドドーンッ!

ガルルガ「(; 、皿)」こける

提督「ひえええええっ!?」   三 (ε ∴) 三 (ω) 三 (∴ ∴) 三  

ゴロゴロ

ルルカ「イヤッホーっ!!」

ベル「そこで狩技!? 派手に爆発したんだけど!？」

提督「ふ、ふう…びっくりしたー」アセアセ

ルルカ「さあ今よ!」通常弾

ベル「お、おお!!」鬼人化回転斬り

提督「これで決めるっ!!」超溜め斬り

ガルルガ「(×皿×)」ズズーンッ!! 【目的を達成しました】

ルルカ「ふう…まずは討伐成功ね」

ベル「ガルルガの狂竜化とかもう怖すぎるんだけど」ヘナヘナ

ルルカ「今回だけよ。ただこの島の生態に影響は出てないかを調べて、感染源は何処か見つけて対処しないとね」

提督「…」

ルルカ「…クロード、仕方ないわ。抗竜石は狂竜化を沈静化させる道具、まだ狂竜化

を無効化にする方法は見つかってないもの。被害を抑えるためにはこうするしかないのよ?」

提督「…ああ、わかってるさ。はやく感染源を見つけなないと。こうしているうちにも被害は広がるからな」

ルルカ「…ギルドには報告するわ。念の為、筆頭リーダーさんにも伝えておく」

—
i n 波止場

青年提督「クロードさん、こっそり見てたけどかつこよかったですよ!!」

提督「マジでか。あははく照れちゃうな」テレテレ

ルルカ「…」無言の膝蹴り

提督「すまないが元帥に報告をしてくれないか? 狂竜化生物が発見されたため西方海域全域の島を生態調査しなければならなくなった」

ルルカ「これはギルド本部がまとめた狂竜化生物の危険性と対処が書かれている資料よ。これを届けてくれる?」

幼馴染提督「わかりました!! …それでクロードさん達はどうするんですか?」

提督「ギルド本部から調査せよと通信が来たからね、しばらくこの海域の島をくまなく調査さ」

青年提督「た、大変ですね…」

提督「まあね。提督兼狩人だもん」

ベル「提督！、俺達の鎮守府には伝えておいたよー」

提督「おお。それじゃあ二人供、お願いねー」

青年提督「任せてください。ちやーんとお渡しします!!」ノシ

幼馴染提督「クロードさん、頑張ってください!」ノシ

提督「ありがとねー!!」ノシ

ベル「なんだか仲がよさそうなお二人さんだね」

ルルカ「うふふ、まるでどっかの誰かさんみたいね」

ベル「うーん、だれのことでしょうか(棒読み)」

提督「さあ、3日以内にこの海域の島を片っ端から調べるぞ!」

ルルカ&ベル「おーっ!!」

提督「その前にご飯を食べて寝るっ!! 調査は明日からッ!!」クワッ

ルルカ&ベル「ズコーッ

5 1 バカンス、南の島 その1

i n 執務室

アーロ「そつかー、出ちまったか」

ベル「ああ、今は提督とルルカが調査している。隅々まで調べなくちゃいけないからね」

霞「司令官はどのくらいで帰ってくるの？」

ベル「カレー洋沖にある島を全て調べなくちゃいけないからね…早くても一週間ぐらいはかかるかな？」

霞「…」 ションボリ

ジン「…ベル、テントや道具を取りに来たんならついでに霞も連れてつたらどうだ？」
アーロ「食料も運ぶんだし丁度いいじゃねえか。霞がいりやあ提督もしゃきつとして
拂るぜ？」

ベル「そりゃあいい!! どうだい？」

霞「え、えつと…」

天龍「霞が行くなら俺も連れてくれ!!」 ドヤア

不知火「物資を輸送するなら船の護衛も必要です」ヌイツ

金剛「ヘーイ!! 私もお手伝いするネー!!」ドンツ

鹿島「わ、私もお願ひします!!」アワワ

アール「賑やかだなおい」

ベル「よし、そうとくれば支度だー!!」

艦娘一同「おおーっ!!」

ジン「で、霞は行くのか?」

霞「し、仕方ないわね。クズ司令官におにぎりを作っておかないと」テレテレ

アール「(ゝωゝ)」ニヤニヤ

in母港

霞「いい?ちゃんと留守番するのよ?」

ジン&アール「はい」(ゝωゝ)

霞「それに書類も整理して司令官に負担をかけること」

ジン&アール「はい」(ゝωゝ)

霞「ええとそれから…」

不知火「霞、そろそろ行きますよ」グイッ

金剛「待っててねタイトクー!! 私が今からヘルプしに行くヨー!!」

ベル「それじゃあ行ってくる」

ジン&アール「いってらっしゃーい」(・ω・)ノシ

ジン「：行つたな」

アール「ああ、行つたな」

ジン「ベルも提督もいない：故に自由」

アール「出撃も演習もない：故に自由」

アール「よーし、遊ぶぜーっ!!」

ジン「よし：遊ぶかつ!!」

明石「二人とも？資材の補充、しつっかりお願いしますね？」ゴゴゴゴ

ジン&アール「は、はーい」(・ω・)

in 執務室

アール「どうするよ、兄弟？」グデー

ジン「どうしようか、兄弟」グデー

加賀「ちゃんとしてください」ビシッ

大淀「ほとんどグデーしてただけじゃないですか」

瑞鶴「いつもどこから鋼材を大量に集めてるじゃない？すぐにできるのに：」

アール「知ってる？火山に行けばピッケルグレートで鋼材なんてざっくざく。でも

ね、いつもウラガンキンという主任にでくわさなきゃならんよ」

加賀「ウラガンキン？」クビカシゲ

瑞鶴「主任？」クビカシゲ

アーロ「しかもね、クーラードリンクを忘れた日にやもうリタするしかない」

瑞鶴「つまり：アーロさんは何が言いたいのかしら？」

ジン「要約すると飽きた」

加賀「この所、よく出かけては鋼材を集めて戻ってきてましたからね」

アーロ「元はというとどっかの誰かが大型建造にほとんど費やしたのになあ？」ジ

トーツ

ジン「：そんな日もあったさ」サラアツ

瑞鶴「あつ!? 無かったことにしようとしてる、ずるい!!」

ジン「俺はイムヤとゴージャ、チャチャにカヤンバと一緒にオリョールクルージングをして集めた。五分五分じゃないか」

アーロ「ダウト!! てめーはウラガンキンに出くわしてない!」

大淀「：はあ、埒があきませんね。仕方ありません、奥の手を使いましょう」

瑞鶴「奥の手？」

大淀「はい、ある鎮守府の知り合いに教えてもらった『全艦娘遠洋任務』という任務

があります」

加賀 「『全艦娘遠洋任務』?」

大淀 「これはとある鎮守府の艦隊がFS作戦及びMI作戦を成功させてできた任務なんですよ。鎮守府にいる秘書艦を除く全艦娘が出撃するのですが大量の資材を獲得できる遠征任務です。」

アール 「あ、それって提督と秘書艦が二人つきりになってイチャコリ」

ジン 「…それ以上いけない」アームロック

大淀 「ですが提督がいませんし、鎮守府を空にするわけにはいきませんので私と何人か留守番しておきますね」

加賀 「それでその遠征はどこに向かうのですか?」

大淀 「それはですね…」ヒソヒソ

加賀 「…なるほど。わかりました、すぐにやりましょう」

瑞鶴 「それで何処に行くの?」

加賀 「トラック島です」

アール 「それって…」

ジン 「…もしや…」

ジン&アール 「ドコ?」(・ω・?)

加賀「ズコッ

瑞鶴「南の島よ!!」

inトラツク島

アール「夏!!ビーチ!!海!!そして南の島!!」

ジン「…これってバカンス!!」

アール「間違いねえ。それにジン、あつちを見て見ろよ」

キヤツキヤツ アハハ

アール「水着を着た艦娘達!!セクシー&キュート!!」

ジン「…天国はここにあった」

アール「オウ!!俺達も泳ぐぜ!!」

ジン「…一式装備だけだな」

ジン&アール「A H A H A H A H A!!」

加賀「ジンさんとアールさんはこれです」つピツケルグレード

アール「…エ?なんつすかこれ?なんでピツケル?」

加賀「この付近の島には火山もありますし採掘できる場所が沢山あります。頑張つて

くださいね」

ジン「…まかせたぞ」ダッ

アール「あ、裏切り者!!ちくしよう、逃げやがった!」

加賀「それじゃあアールさん、よろしくお願いします」

アール「いやだああああっ!」(；ω；)ジタバタ

加賀「…仕方ありませんね、明日には行ってくださいよ?」

アール「おお、加賀さんは天使やでえ」(；▽；)＜アリガタヤー

瑞鶴「遠征任務だとか言ってるけど…これってただのバカンスじゃあ…?」

五十鈴「駆逐艦の子達は臨海学校だと思っっていますよ?」

赤城「皆さん楽しんでますし、楽しみましょ」

ジン「…その通り、楽しまなきや損だ」ウンウン

瑞鶴「ちよ、ジンさん!?!いつの間に!?!」

ジン「瑞鶴、カワイイ水着じゃないか」マジマジ

瑞鶴「あ、あの…こ、これは…ちよつとまじまじと見ないでよ!」アセアセ

五十鈴&赤城「(・▽・)ニヤニヤ」

瑞鶴「ちよつと二人とも!?!なんで距離を取ってニヤニヤしてんのよ!?!」

ジン「よし、一緒に泳ぎに行こうか」

瑞鶴「え!?!鎧のまま!?!って、なんで姫抱っこするの!?!」顔真っ赤

ジン「いざ行かん!!」ダッ

瑞鶴「ちよ、皆見てるっ!! あゝれっ!!」

赤城「…ジンさん、物凄く喜んでますね」

五十鈴「というか鎧のまままで泳ぐんだ…」

アール「はやく俺も泳ぎたい」

加賀「絶対明日から資材の採掘をしてくださいよ?」

アール「えー」

加賀「…」ジトーツ

アール「わ、わかってます。明日頑張ります」

加賀「本当に大丈夫かしら…じゃあまず先にこの島の管理している方に挨拶しますよ?」

アール「その管理している方がいるとこって…このホテルっぽいとこ?」

大和「本日はようこそおいでくださいました。このトラック島前進基地を管理しております大和型一番艦、大和です」ペコリ

アール「…ここ、孫娘とこの島?」ヒソヒソ

加賀「違います。別の鎮守府の大和さんです。大和さん、急な来訪申し訳ありません」

大和「いえいえ、大淀さんから聞いてます。どうぞよろしく願いますね」

アール「はへー、鎮守府によって性格は違うのな」

大和「えと、こちらの鎧を着てる方は…?」

加賀「一応、提督代理です。たぶん」

アール「おいこら、一応ってなんだよ一応って…おほん、どうもよろびくね☆」

加賀「…無言のキック」

アール「痛い!!ごめんなさい!真面目にやります!!」

大和「あ、あははは…」ニガワライ

吹雪「大和さん!!お待たせしました!!」パタパタ

アール「!!こ、このお方は…!!」

吹雪「あ、どうも初めて!!本日は大和さんのお手伝いをします、吹雪型一番艦の吹雪

と申します!!」ビシッ

加賀「ええ、こちらこそよろしく願いますね」

アール「…M I 作戦に出てた?」

吹雪「はい!大和さんと共に出撃して奮戦しました!!」ビシッ

アール「間違いねえ…サインしてください!」

吹雪「ええっ!?わ、私ですか!?!」

52 バカンス、南の島 その2

アローロ「サインもらった!!イヤツフゝツ!!」超エキサイティン!!

加賀「どうもすみません…」

吹雪「わ、私のサインでいいのなら…」ニガワライ

大和「鎧を着た提督たち…私達の鎮守府の提督から話は聞いていますよ」ニコニコ
アローロ「いっちょ泳ぎに行くぞぜえっ!!」ダツ

吹雪「えっ鎧のままですか!?!」

加賀「やれやれ、本当に大丈夫かしら…」

雷「よーし、うんと遊ぶわよー!!」

暁「常夏の島、青い海、さんさんとしたビーチ、レディに相応しいわ!!」ドヤア

曙「それっ!!」水鉄砲

暁「みやっ!?!」バシヤツ

曙「ふっふっふ、隙だらけね。れでい(笑)」ニヤニヤ

暁「む、むーっ!!」

響「…」

雷「響、どうしたの？」

響「あれ」

黒丸「イヤッホー!!」サーフィン

ミケ「波に乗るニャー!!」サーフィン

雷「さ、サーフィンをしてるわ…」

曙「…ジンさん達もすごいけど、アイルーもなんでもできるのね」

響「ハラショー」

プリンツ「バカンスもいいものですね！」ウキウキ

レーベ「明日に演習があるみたいだし、今日は楽しまなきゃね」

チャチャ「ここ掘れッチャ!!」ザクザク

カヤンバ「いやここを掘るンバ!!」ザクザク

レーベ「?二人とも何してるの？」

チャチャ「南の島といったら宝探しッチャ!!」

カヤンバ「よく提督たちと探し回ってたンバ」

プリンツ「面白そう!私も宝探ししてもいいですか？」

チャチャ「もちろんツチャ!!」

カヤンバ「ともに探ンバ、同志よ！」

プリンツ「おおうっ!!」

レーベ「あ、あはは…」ニガワライ

——その日、あさり、しじみ、はまぐりさんが獲れました——

アール「…まさに天国。幸せやでえ…」

臯月「アールさん、何感動してるの？」

アール「ハンターには夏の島のバカンスなんてないからなあ」

磯風「なるほど、だからジンさんもかなりはっちゃけているのか」

如月「アールさん、ビーチバレーしませんか？」ノシ

弥生「長門さん達、強い…」

アール「いいぜー。やってやろうじゃないか！」

鈴谷「おつ、駆逐艦の子達の助っ人だね？」

長門「ふむ、今度の相手はアールさんか」

アール「ふっふっふ、こう見えても球技は得意なんだぜ？」ドヤア

弥生「じゃあ、やりますね」サーブ

長門「よしっ!!」レシーブ

鈴谷「長門さん、いきますよーっ!!」レシーブ

長門「いくぞーっ!!」スパイク

○三三 ゴウツ!!

アール「ちよ、はやっ…ぶべーっ!!」…。(ε。(○三

弥生「長門さんのスパイクが直撃した!?!」

アール「チーン

如月「あ、アールさん!?!」Σ(？ロ？ー！ー)ガーン

アール「ああ…水着を着た天使が見える…」(；； ㄩ、)

如月「それ見えたらダメな奴ですよ!?!」

――夜――

アール「目が覚めたら夜になってたでござる」シヨンボリ

ジン「…はっは、ワロス w m 9 (ㄩ ㄩ)

アール「…」(# ω)

吹雪「失礼します。そろそろ夕食のご用意ができましたよー!!」

ジン「…ありがたい」グググ

アール「元気があっつていいね!」グググ

加賀「他の鎮守府の艦娘の前でみっともない事しないでください…」

川内「ジンさん、アールさん一緒に食べよう!!」

五月雨「バイキングで色んな料理がいっぱいありますよー!!」

赤城「ふおふあふあひびひゆうふふえふつふえ!! (おかわり自由ですって!!)」モグモグ

吹雪「…こちらの鎮守府の赤城さんも素敵な食べっぷりですね!」ウツトリ

加賀「こ、この子もちよつと変わってるのね…」

大和「あ、あははは:」ニガワライ

アール「食べっぷりなら俺も負けんぞー!!」ウオオオツ

数分後

アール「げふう…もう食えぬう…」

赤城「あ、すみません。おかわりください」

龍驤「うん、やっぱりこうなるわな」

ジン「アール、哀れ」

翌日

in トラック島前進基地母港

加賀「…それでは、演習する班と遠征をする班に分かれます。メンバーは昨日配布し

たしおりに書いたとおりの班にわかれてくださいね」

ジン「…俺達は演習だったな兄弟」

アール「そのあと水着コンテストを企画しようと思ってるんだ兄弟」

加賀「ジンさん達は遠征です」ビシッ

ジン&アール「ひっ」

加賀「採取で多くの資材を獲得できた人には…素敵なご褒美がありますよ？」

アール「よっしゃー!!ジン、てめーには負けんぜ!!」ドドドド

ジン「その言葉そのままそっくり返してやろう…」ゴゴゴゴ

ビスマルク「…単純ね」

長門「よーし、今日演習で頑張った者には素敵なご褒美があるらしいぞ!皆、私に続

けーっ!!」

山城「ここにも単純な人がいた!？」

加賀「…なんだか申し訳ありません」

大和「いえいえ、こちらで用意しておきますね」

瑞鶴「…」コソコソ

加賀「貴女は演習。ジンさんについていこうとしてもだめよ」グイッ

瑞鶴「げっ!？」

アーロ「これは負けられねーなあ。素敵なご褒美…ムフフ」

皐月「なにかいいことがあったの？」

アーロ「ふあっ!? さ、皐月!? どうしてここに!？」

雷「アーロさんのお手伝いに来たのよ!」エツヘン

暁「れでいも来てあげたんだから有り難く思いなさい!」

秋月「秋月もお手伝いします!!」

アーロ「(???)」ホツコリ

雷「さあアーロさん、私に頼っていいのよ?」

アーロ「そうだな…それじゃあ…」

― 数分後 ―

雷「…」ムスツ

皐月「まあまあ、これでもアーロさんのお手伝いになってるし」

雷「でも、資材を沢山持って帰るまで浜で待つのって退屈じゃないの!」ウガー

暁「れでいを待たせるなんてどうということなのよ!」プンスカ

秋月「…」ジーツ

皐月「? 秋月、岩の隅から覗いてどうかしたの?」

秋月「あの…向こうの浜に、何かいます」ジーツ

臯月「どれどれ…？ほんとだ、あれは…鳥？」

雷「何がいるの？私を見るー!!」

暁「ちよ、私にも見せなさいよ！」グイグイ

臯月「ちよ、そんなに押さないでって…わあっ!？」ドテツ

クルペッコ「Σ(；ω°)」ビクッ

雷「ほ、ほんとだ大きな鳥ね…」

臯月「でもなんだかカワイイね！」

暁「そ、そうかなあ…」ビクビク

クルペッコ「？(；ω°)？」

雷「えーと、これってどうすればいいのかしら？」

秋月「海の方へ歩いてつついてたようですし、見たところお腹を空かしているのでは？」

臯月「そうだ！おにぎりがあるし食べさせてみようよ！」

暁「お、襲ってこない？」

臯月「初霜ちゃんや雪風ちゃん、弥生も大きな生物にはごはんあげたら懐いてたし問

題ない!!」フランス

クルペッコ「? (。ω。)?」

臯月「…これ食べる?」つおにぎり

クルペッコ「(。ω。)」モグモグ…

秋月「おおつ、食べましたね」

臯月「うん、やっぱり可愛いね!」

雷「雷の分もあげる!」つおにぎり

クルペッコ「(*´ω´)」モグモグ…

秋月「じゃあ私の分もどうぞ!」

クルペッコ「(*´ω´)♪」クルルル…

雷&臯月「かわいいくっ!!」ナデナデ

暁「さ、触っても大丈夫なの?」

秋月「大人しいみたいですし、大丈夫ですよ?」ナデナデ

暁「…」ナデ：ナデ…

クルペッコ「(＊・ω・)」バサッ

暁「えっ?」

i n 原生林

アーロ「うーむ…鋼材はあまりとれんなあ…このままだとジンに負けてしまう」
ピヤアアアツ!?

アーロ「むっ?!なんだ今の声は?!新種のモンスターか?」

ヒヤアアアアツ!?

アーロ「なんか近づいてくるっ!」

クルペッコ「三三〇二（ \wedge ω \wedge ）二〇」

アーロ「あれはクルペッコ…」

暁「びやあああつ!」クルペッコにライド

秋月「ひやあああつ!」クルペッコにライド

雷「すごい飛んでるわ!!」ウキウキ クルペッコにry

皐月「よーし、どんどん飛んでけくっ!!」クルペッコry

アーロ「（ \wedge ）。。。

クルペッコ「三三〇二（ \wedge ω \wedge ）二〇」

アーロ「ちよ、ええええつ!」

53 バカンス、南の島 その3

——前回のあらずじ、南の島でクルペッコを拾った皐月、雷、暁、秋月。クルペッコに乗って原生林の奥地へ進んでしまった。——

アーロ「やべえよ、やべえよ。あいつらどこに行つた!？」キヨロキヨロ

——シーン——

アーロ「このままだと、大変なことになつちまう…! そうだ、こんな時こそ、『千里眼の薬』!!」テレレー

ゴクリツ

アーロ「ふおおおつ!! 見えるつ!! 見えるぞおつ!!」(ΦωΦ) シャキーン

in 原生林奥地

皐月「いやー楽しかったー!!」

雷「ねー♪」ナデナデ

クルペッコ「(*´ω´)」

暁「ねー♪じゃないでしょ!?! こ、こんな奥地まで進んじやつてどうすんのよ!?!」

秋月「結構奥深くまできちやいましたね…」

皐月「来た道に戻ればなんとかなるよ！」

雷「そうよ、もしもの時はこの子に乗って飛んでけば大丈夫！」

暁「もういきなり飛ぶのは勘弁……」

皐月「よーし、それじゃあ探検隊出動だー!!」

雷「おおー!!」

クルペッコ「(*、ω、)」クルツクー

秋月「だ、大丈夫でしょうか……」

――数分後――

皐月「ま、迷った……」(； 旦、)

暁「ほらー!! やっぱり迷ってるじゃないのよー!!」プンスカ

クルペッコ「(； 旦、)」

雷「で、でも乗って飛んでいけばすぐに戻れるわ！」

秋月「ですがどっちへ進めばいいのですか？」

雷「あう……」

皐月「あまり気にせず進むしかない！」

暁「もう歩くの疲れたー!!」プンスカ

クルペッコ「(、ω、)」ペロペロ

暁「うひやあつ!? あ、歩くから、舐めないでよね!」

雷「あつ、あんなところに果物が生ってるわ」

秋月「ふむふむ…桃のようですね」

皐月「黒丸が言つてた『バサルモモ』ってやつじゃないかな?」

暁「あそこの赤い岩を台にして…うーん、届かないー」(> 厶 <) ノ

皐月「ジャンプしてみたら?」

暁「うんしよ、うんしよ…」ピョンピョン

皐月「やっぱり暁には届かないかーw」ニヤニヤ

暁「うがー!!」プンスカ

雷「あれ? 桃の木から暁が離れていつてるわ…」

秋月「というよりその岩が動いているような…」

暁「あれ?」チラッ

ラングロトラ「(#。厶)「グルルル…」

暁「ピヤーツ!」

皐月「赤い大きなアルマジロだ!!」

秋月「いや熊ですよあれ!!」

ラングロ「(#、ㇿ)「グオーツ!!」

雷「暁、はやくこっちに!!」

暁「お、驚いて腰が抜けちゃった…」アワワ

ラングロ「(、III)「舌で舐める

暁「ひやああつ!!? た、食べられちゃうーっ!!」ヒエー

秋月「大変…!! はやく何とかしないとっ!!」

クルペッコ「o(*、ω、o)「フンス

雷「鳥さん…?」

ラングロ「?、ㇿ、#」

クルペッコ「(#、ω) <<<「ブオオオオツ!!

皐月「すっごい雄叫び!!」

雷「これなら相手は怯んで…」

ラングロ「?(、ㇿ、) ?」

秋月「ま、全く効いてませんね…」

皐月「うそおっ!?!」

ラングロ「○三(、ㇿ、#)「麻痺液

クルペッコ「(、;、ㇿ、)「ビリビリ

雷「鳥さんがしびれちゃった!？」

ラングロ「(、III、) 舌で舐める

暁「いーやーっ!?! 助けてー」ピャーッ

皐月「このっ!! 暁から離れろー!!」っ石ころ

アーロ「ジョイヤアアアッ!!」ドロップキック

ラングロ「!?(?)」3°…: ゴロゴロ

秋月「アーロさん!!」

アーロ「お前ら、無事か!？」

皐月「う、うん! 僕たちは大丈夫!!」

暁「あ、アーロさーん!! 怖かったよー!!」ウワーン

アーロ「おーよしよし、もう大丈夫だ…さてと」(#。益。) ジロリ

ラングロ「Σ(； 皿、) ビクッ

アーロ「このアルマジロ野郎!! お前よくもペロペロしてくれたなあ…俺だつてペロペ

ロしたかつ…げふんげふん」

雷&皐月「??」

アーロ「この子達に怖い目に遭わした落とし前、つけてもらおうかあ?」(#。益。)

ゴゴゴゴ

ラングロ「三三（；；）」ゴロゴロゴロ

臯月「やったー!! 追い払った!!」

雷「さすがアーロさんだわ!!」

秋月「アーロさん、ありがとうございます!」

暁「も、もう大丈夫?」

アーロ「ああ、これで安心だ。…さて、お次は」チラリ

クルペッコ「Σ（；ω、）」

臯月「アーロさん、この子は悪くないんだ」

雷「そ、そうよ? 私達が餌をあげて懐かせちゃったの」

秋月「それに暁を助けようとしたんです」

アーロ「…もしかして、連れて帰るのか?」

暁「だ、ダメ?」

アーロ「うーむ…クルペッコは危険な目に遭うと他種のモンスターの声と同じ鳴き声を発して誘き寄せてその隙に逃げる習性がある。他にもよく大声で鳴くから騒音になるし…」

臯月&雷「ダメ?」つぶらな瞳で上目遣い

アーロ「うっ…ま、まあしつけをすれば大丈夫かもしれないし、別の音色を学ばせれ

ば綺麗な鳴き声を出せるだろう」

暁「ほんとう!？」

アーロ「鳥竜種だけでも『竜』だ。すっかりしつけをしてお世話ができるか？」
皐月「うん！僕、責任もってちゃんとお世話するよ！」

雷「私もお世話するわ!!」

アーロ「…しゃあねえな。ちゃんと面倒見るなら、いいだろう」

皐月&雷「やったー!!」

アーロ「おい、クルペッコ。てめーもこいつらに危ない目に遭わせたらどうなるかわかっているなあ？」ジロリ

クルペッコ「(；ω、)」 何度も頷く

イントラック島前進基地

アーロ「…と、言うわけで連れてきた」ドヤア

クルペッコ「(*ω、)」ドヤア

ジン「…俺は責任とらんぞ」プイッ

アーロ「お願い!!手伝ってー!!」

吹雪「こんな大きな鳥がいるんですねえ…」ナデナデ

皐月「えっへん!!僕たちが見つけてきたんだ!!」フンス

雷「名前はペッコちゃんよ!!」

川内「いいなー。私も見つけてみたいよー」

龍驤「うちらも欲しいなー」

アール「それは勘弁して…」(；； 旦那)

ジン「手続等はお前がちゃんとしておけよ」

アール「ギルド本部に飼育許可の申請と、責任書と調査書と…ああ、書類がいっぱい…」

ジン「お前が島でのんびりしていた間に資材を沢山確保しておいたからな…素敵なご褒美をいただく」

加賀「ありません」キツパリ

ジン「Σ(；； 旦那)」

鈴谷「アールさんたちチヨロイからねー」

大和「い、一応デザートを用意してますから…」

瑞鶴「まあジンさん、ドンマイ」

ジン「…ならば作るまで!!」瑞鶴を姫抱っこ

瑞鶴「ひやあつ!? またあ!」

ジン「…素敵なデザイナーと一緒にいただく!」 ダツ

瑞鶴「ちよ、待つて…加賀さんヘルプ!!」

加賀「…」グッドラック!!

瑞鶴「ちよ、なに敬礼してるんですか!? ジンさん、まつ…あくれ!!」

鈴谷「羨ましいような羨ましくないような…」

—— こうして演習と遠征を繰り返し、一週間が経過した ——

ジン「…こうしているうちにあつという間に過ぎたな」

吹雪「どうでした? ご堪能できましたか?」

アール「めっちゃ楽しかったぜ!!」

加賀「資材も十分溜まりましたし、他の子達の演習もかなり身についたと思います」

曙「なんだつて長門さん、山城さんがコーチしてたものね…」 遠い目

初雪「特に山城さんが鬼コーチだった…」 遠い目

ジン「…またこの島に来たいものだ」

大和「うふふ、いつでもいらしてくださいな」

吹雪「今度は私達の艦隊と合同演習もお願いします!!」

アール「おうよ! 楽しみにしてるぜ!!」

加賀「それでは皆さん、帰りましょう」

アール「またなー」ノシ

吹雪「さよーならー!!」ノシ

i n 執務室

提督「ふむふむ、全艦娘遠洋任務で練度もあげて資材もしつかり補充できたんだな」

ジン「…すまないな。俺達だけで行って」つお土産

提督「構わないさ。皆楽しんでたなら俺は嬉しいよ」

アール「ほら、見ろよ。あの鎮守府の吹雪ちゃんのサインももらったんだぜ!!」

ベル「いいなー。俺達も欲しかったよ」

提督「これなら、次の海域へ出撃もできるようになるな」

ジン「ああ、長いとこ待たせてしまってるからもう大丈夫だ」

提督「…ところで、今朝中庭で皐月と雷が楽しそうにクルペッコに乗って飛んでたけ

ど、あれはどういうことかな？」

アール「…」(ε、;) ウーン…

提督「…」ジー

アール「…ちや、ちゃんと許可ももらったよ?」

提督「……アール、正座」
アール「そんな」(ω・ω・ω)

54 リランカ島空襲、黒い霧

in 執務室

提督「……」黙々と書類整理

霞「……」

提督「……」黙々と書類整理

霞「ねえ司令官、少し休んだら？」

提督「任務や生態調査の報告書に、資材や建造の書類に、やることは沢山ある。それに出撃もしなくちゃならんし……」クタビレ

ジン「ここのところ、お前に頼ってばかりだからな。霞の言う通り、少し休め」

アール「唯一書類整理が得意なベルがルルカから逃走中だかんぞ」

霞「というより、あんた達も手伝いなさいよ」

提督「ここは霞の言う通りお言葉に甘えて休もう。その前に次の海域の出撃を……」
霞「だーからー!! クズ司令官は休んでって言うてるでしょ!」

提督「(ω・ω) ショボーン」

アール「いいなー。俺も駆逐艦の子達に甘えたーい」グフフ

霞「…龍田さん、お願いします」

龍田「うふふー、疚しい事を考えてる悪い子はお仕置きよー」コブラツイスト

アール「あだだ!?! ちよ、やめ…あ、お胸が当たって…いだだだ!?! ウソですごめんなさい!」

ジン「指揮は俺がやる。お前は休め」

提督「うーん…大丈夫かなあ」

ジン「霞、お前もついてってやれ」

霞「えっ!?! 私も!?!」

ジン「…時として二人きりの時間もあってもいいだろう?」ニヤニヤ

霞「ちよっ!?! ちよっとなやニヤしないでよ!?!」

ジン「というよりそうしないと提督は休まんだろうし」

霞「仕方ないわね…司令官、私も一緒にry」

提督「じゃあ下町でも行こうか!!」つ鞆

霞「はやっ!?! 支度するの速っ!?!」

アール「なんと!?! 二人きりっすか!?! これは本が薄く…」

龍田「それ、バックブリーカー♪」ウフフー

アール「あべしっ!?!」(#), 3, …, ;, ;, ;, フェイタルKO ウイーンタツタア

パーフェクト

i n 母港

ジン「と、言うわけでリランカ島へ出撃をする」

鈴谷「うん、色々ツツコミたいところがあるんだけど」

瑞鶴「もう気にしたらだめよ」

大淀「リランカ島への出撃は空母を伴う編成と潜水艦の対策を取らないといけません。それにここから敵艦隊も強力になってきます」

アール「つまり…どういうことだっただよ」

加賀「真面目に聞いてますよね？」

アール「ジヨークwジヨークw」(、、、、、、)

ジン「空母に対潜、より強力…つまり」

アール「つまり？」

ジン「瑞鶴は確定だな」キリッ

瑞鶴「なんで!?! 私対潜は0よ!?!」

不知火「いや、ここは駆逐艦に音爆弾を持たせて潜水艦を…」

アール&ジン「天才か!?!」

足柄「いや、ここは大樽爆弾を投げ込んで…」

アール&ジン「て、天才だ!」

大淀「それはダメですからね」

満潮「…ここに霞がいたら『バカばかり』って言うわね」

加賀「提督、ベルさん…はやく戻ってきて」

i n 甘味処『間宮』

提督「ハックシャルソウビ!!」クシヤミ

霞「どういうくしやみしてんのよ!」ビクッ

間宮「提督さん、風邪ですか?」

提督「いや…誰かが俺を呼んだ気がして…」ズズ…

霞「気のせいよ。そんなことより今日はゆっくりしなさい」

間宮「霞ちゃん、なんだか嬉しそうね」ウフフ

提督「久しぶりに二人で出かけたからな」ニコニコ

霞「う、うるさい!!」

提督「それにしても…」

間宮「?」

提督「ベルのやつ、どうしてんのかなー?」

霞「そうね。今朝見かけたけどそれ以降見てないわ…」

i n 中庭

ベル「…」コッソリ

鹿島「ベルさん、どうかしましたか？」

ベル「ひえっ!?…ああ鹿島か、あーよかったー」一安心

阿武隈「中庭のオオモロコシ畑の中に隠れててどうしたの？」

ベル「いや、まあ逃走中的な感じで…」

川内「それ面白そうですね！それで何から逃げるんですか？」

ベル「それは…」

ルルカ「ヒヤッハー!! 見つけたわよー、ベルウウウツ!!」

ベル「ひっ、待って!!」

ルルカ「問答無用!! 今日こそキヤツチマイハートウ!!」(c v 若本)

ベル「ちよ、なんでそんな渋い声出せるの!? もう勘弁してー!!」ダッ

阿武隈「あ、走ってった」

川内「なるほど、これも鍛錬ね！鹿島、追いかけるよー!!」グイッ

鹿島「ひやっ、わ、私もですかー!?!」

i n 母港

アーロ「よーし、真面目にやるぞー」タンコブ

ジン「：これ以上ふざけたら加賀さんが激昂するからな」タンコブ
瑞鶴「なんで私まで：」タンコブ

ジン「リランカ島の出撃メンバーは：長門を旗艦にプリンツ、響、満潮、大鳳、瑞鶴の六名だ」

長門「ああ、任せておけ！」フンス

響「瑞鶴さんのジャスト回避が見れる：」

プリンツ「よーし！ビスマルクお姉さま、私頑張りますね！」

満潮「ふん、やるからにはちゃんとやるわ」

加賀「火力、潜水艦対策、そして空母を二隻、まあまあ行ける編成ね」

アール「え？空母が二隻？」

加賀「え？」

大鳳「：：あの、私、装甲空母なんですけど」

アール&ジン「!?」Σ(。ω。、ノ)ノ

大鳳「なんで驚いてるんですか!?自己紹介の時にちゃんと空母だって言っていましたよ
!？」

アール「：駆逐艦かと思ってました」

加賀「このっ、おバカがっ!!」ラリアット

アール「ゴメンヌ!」(#) 仄、；；

瑞鶴「…最近、加賀さんがはっちゃけている気がしてきた」

赤城「提督さん達の影響かもしれないですね」

ジン「それじゃあ駆逐艦には爆雷と三式ソナーを…」

響「スパシーバ」

満潮「あ、ありがと。三式ソナーって開発するのに結構大変だったんじゃない?」

明石「…そのソナー、資材でちゃんと開発したものですよね?」

ジン「…」(ハ、ε、;) ウーン…

明石「なんで視線を逸らすんですか!？」

ジン「ちや、ちゃんとやったナリ」

明石「語尾がおかしいですよ!？」

響「でもジンさん達が普通にやるとピツケルができるはずじゃ…」ヒソヒソ

不知火「ここはそっとしておいた方がいいと思いますね」ヒソヒソ

ジン「よし、気を取り直して出撃だ!!」

アール「気を付けて行ってらっしゃい…」ボロボロ

艦娘一同「はいっ!!」

リランカ島沖

長門「初戦は難なく突破で来たな」

響「途中、渦潮があつたけど大丈夫」

瑞鶴「でもジンさん達物凄く慌ててたわねー」

満潮「まったく、聞いているこつちが恥ずかしかつたわよ」ヤレヤレ

大鳳「!!艦載機が敵艦を発見したわ!!空母2隻、軽巡1隻、駆逐2隻…そして潜水艦

が1隻いるわ!!」

瑞鶴「よし、制空権を勝ち取るわよ!」艦載機発射!!

艦載機<イクゼー!! ババババツ

空母ヲ級A「ホイホイチャーハン!!」艦載機発射!!

空母ヲ級B「サイキョー、トンガリコーン」艦載機発射!!

敵艦載機<ええぞ!ええぞ! ババババツ

長門「来るぞ!対空砲用意!!」バババ

プリンツ「今回の敵艦はなんだか強そうですね…」

響「…歪みないね」ドーン

満潮「響!」

大鳳「よし、制空権とりました!!」

瑞鶴「このまま攻めるわよ!」

艦載機く紫電、イキマース ババババ

駆逐二級「サーセン！」critical! 撃沈

軽巡ト級「ドアホンツ!」critical! 撃沈

長門「空母に狙いを定めててーっ!!」ドドーン

空母ヲ級A「アア：ヒドウイ!?!」critical! 撃沈

プリンツ「行きますよー!! Feuer!」ドーン

空母ヲ級B「アツプリケツ!?!」大破

潜水力級「新日暮里!!」魚雷発射

大鳳「きやあつ!?!」小ダメージ

瑞鶴「大鳳、大丈夫!?!」

大鳳「は、はい：潜水艦の魚雷は苦手です：」アウウ

響「：満潮、どう?」

満潮「ちよつと待ってよ。今探してるところだから：見つけた。五時の方向!!」

響「：見つけたよ」三【爆雷】

潜水力級「わおーん(; ω ; ;)」critical! 撃沈

瑞鶴「アウトレンジで決めるっ!!」艦載機発射!!

艦載機へネライウツゼー!!

駆逐八級「ユガミネエナツ!?」critical! 撃沈

大鳳「私も負けてられないわね!」艦載機発射!!

空母ヲ級B「最近ダラシネエナツ!?」critical! 撃沈

長門「…敵艦隊撃破だな」

ジン『皆、大丈夫か?』

瑞鶴「もちろん、大丈夫よ」

アール『このまま進撃するけどいけるか?』

プリンツ「まっかしてください!」フンス

長門「この先進めばボス艦隊だ。気を引き締めて行くぞ!」

大鳳「っ!? 気を付けて!! 艦載機が敵艦隊を見つけたわ…戦艦が2隻、軽巡1隻、駆逐が2隻…しかも戦艦はタ級です!!」

長門「ついにタ級が来たか…皆、油断はするな! 気を抜くとやられるぞ!」

満潮「ソナーで潜水艦を見つけたわ!! ヨ級ね…こつちも手強いわよ」

瑞鶴「先制をかける! 狙い撃つわ!!」艦載機発射!!

大鳳「ええ、私も行きます!!」艦載機発射!!

艦載機<俺が、俺達が艦載機だ! ババババ

駆逐八級A「スポーーンツ!」旗艦を庇って撃沈

軽巡へ級「バーケードツ!」critical! 撃沈

潜水ヨ級「東京蟹っ」魚雷発射

大鳳「ひゃあっ!?! だから何で私なのよ!」小破

長門「響、満潮は潜水艦を頼む。私達で戦艦を倒す!」ドドーン!!

戦艦夕級B「グウツ!?! ナカナカヤルワネ!」中破

戦艦夕級A「レッドブルーマウンテンブラストーツ!!」ドドーンツ!!

プリンツ「うひゃあっ!?! い、いったーい!!」大破

響「相手はなかなかの厨二病だね。強いわけだ」ウンウン

長門「くっ、敵ながらやるな!」

満潮「よくわからないんだけど!」

駆逐八級B「黄色のモツシーっ!!」ドーン

瑞鶴「よっと! そんな攻撃、当たらないわ!!」回避

満潮「:いたわ。響、あっちよ!!」

響「逃がさないよ」三【爆雷】

満潮「これでもくらいなさいつ!!」三【爆雷】

潜水ヨ級「アヒーツ!?! (; ω ;)」大破

戦艦夕級B「沈メツ!!」ドーン

満潮「きやあつ!?くうっ…痛いじゃないのっ!!」中破

瑞鶴「このっ!!やらせはしないわよ!」艦載機発射!!

艦載機<トコロガギツチョン! ババババ

駆逐八級B「タカペカロツ!」critical!撃沈

大鳳「もう怒りました!!装甲空母の底力、見せてやるんだから!!」艦載機発射!!

艦載機<イクゼオラーッ!!

戦艦タ級A「ヒヤアアアアアッ!」critical!撃沈

長門「このまま一気に畳み掛ける!」ドドドーン!!

戦艦タ級B「グウツ!?!オノレ…艦娘共メツ!!」critical!撃沈

響「…っ、敵潜水艦は逃げたようだね」

瑞鶴「どうする?夜戦で追い込む?」

ジン『…敵の状況はどうだ?』

長門「戦艦タ級は手強かったがなんとか撃破することができた。あとは大破した敵潜水艦だけだ」

満潮「敵は逃げたけど夜戦に持ち込めば追いつけるけど?」

ジン『…いや、追い込むのはやめておこう。深追いは無用だ』

アーロ『勝ち確ならそこまでしなくてもいいさ』

響「了解、敵戦力は倒したからこの海域はクリアだよ」

瑞鶴「まあA勝利ってところかしらね」

プリンツ「ふええ：ビスマルクお姉さまにかっこいいところみせることができませんでした：」

ビスマルク『大丈夫よ。プリンツが無事ならいいのよ』

大鳳「ふう、ひとまず戦闘は勝利ね：あれ？あそこに見えるのは艦娘だわ」

瑞鶴「あつ、ほんとだ！おーい！」ノシ

電「はわわっ!？」

大井「あら？もしかして鎮守府の艦隊かしら？」

摩耶「おつ、だとしたらあたしらも連れてつてくれよ！」

長門「もちろん、大歓迎だ!!」

大井「ねえ、あなたの鎮守府に北上さんはいるかしら？」

満潮「い、一応いるわよ？」

大井「：グツジョブ!!も、もちろん提督にもちゃんと挨拶するわよ！」

響「：4人いるよ」

電「よ、4人もいますか!？」ハワワ

瑞鶴「ま、まあ初見は驚くと思う」

満潮「二足歩行で歩いてしゃべる猫と謎の小人に虫と蟹と鳥もいるわね」

摩耶「なにそれ見てみたいぜ!!」

大井「そうね：早く鎮守府に行きたいわ。このあたりの島で不気味な事が起きてるし」

大鳳「不気味な事？」

大井「数週間前かしら。島の方で黒い霧みたいなのが見えたのよ」

摩耶「俺もみたぜ。もやもやーって島に広がってたな。てつきり深海棲艦の仕業かと思っただぜ」

ルルカ『：ねえ、それってマジ？』

瑞鶴「ルルカさん!?聞いてたんですか？」

ルルカ『もしそれが本当なら：今すぐに帰還して、あなた達を検査しなくちゃ』

大鳳「すぐく慌てるようですよけどどうしたんですか？」

ルルカ『そりやあもう一大事よ。その島に『狂竜ウイルス』のばら撒く主がいるの。ロード達に伝えなくちゃ!』

55 眠れ宿痾よ目覚めは遠く 『混沌に呻くゴア・マガラ』 前

i n 執務室

提督 「ついに来てしまったか……」 ため息

ジン 「……ルルカ、ウイルス対策は用意できているか？」

ルルカ 「もちの論よ。はいこれ」

アール 「なにこれ？ ポーション？」

ルルカ 「ふふふ、ドンドルマにある狂竜ウイルス研究所が開発した感染を抑制する『超元氣ドリソコ』!!」

ベル 「なにそれ。なんか危なそう……」

ルルカ 「まあ一定時間抑えるだけなんだけどね」

アール 「ないよりかはましだぜ。サンキュー！」

提督 「……」

霞 「司令官、どうかしたの？」

提督 「……今回の件でな。これから戦う奴の姿を元帥殿と孫娘提督殿に見て頂こうと思

う」

全員「!?」

アール「それ、マジでか!？」

ベル「危くない？」

提督「……どうしても見てももらわなくちゃならない。ルルカ、ベル、元帥殿の護衛を頼めるか？」

ベル「できるけども……なんで？」

提督「……」

ルルカ「……わかったわくクロード。護衛は任せてちょうだい」

提督「助かるよ……」

ジン「……アール、すぐに準備にかかるぞ」

アール「ういーっす」

提督「……俺って考えすぎかなあ」

ルルカ「考えすぎよ。確かに貴方が躊躇うのは納得はいく。でも、生態やその島に棲む生物、そして艦娘達を守ることを第一に考えなくちゃ」

提督「だよな……よし、行くとしますか」

i nリランカ島

孫娘提督「なんで私達まで呼ばれなくちゃいけないのよ…早くイベント海域の泊地に戻って連合艦隊の指揮をしなくちゃいけないのに…」ムスー

元帥「クロード君は私達に見てほしいものがあると言っていたが…『狂竜ウイルス』の発生させる『ゴア・マガラ』という生物を見てもらうことかね？」

ルルカ「ええ…そのゴア・マガラのすべてを見て頂くためにお呼びしました」

孫娘提督『『ウイルス』をばら撒く恐ろしい生物でしょ!?!だつたらその死骸を見せればいいじゃないの!!』

ルルカ「…その方が早いかもしれませんが、それでは意味がないのです」

元帥「意味とは？」

ルルカ「ゴア・マガラの生態系を知ってもらうことです」

孫娘提督「意味ってただ『ウイルス』をばら撒いて生態系を壊すだけでしょ？そんなやつさつさと絶滅させなさいよ。それに私達に被害を及んだらどうすんの」

ベル「俺達がいいますからそこらへんは大丈夫ですよ」ニコニコ

孫娘提督「そこらへんって…ほんつとハンターといいあんた達って呑気なんだから」
黒丸「被害が及ばないよう安全な場所を確保しておりますニヤ。ここでご覧ください

ニヤ」

元帥「ああ、ありがとう…クロード君、君は一体何を見せるのかね…」
inリランカ島奥地

ジン「いつの間にか黒い霧がこんなに広がっていたとはな」

アール「しっかも結構濃いな。こいつはシャガルかもしれんぜ？」

提督「ポイント地点へ追い立てるぞ。準備はいいな？」

ジン「ああ、三方向へ分かれていく」

アール「ヒヤッハー!!こやし玉祭りじゃーい!!」つこやし玉

モクモク

ジン「…煙になるこやし玉とは久しぶりだな」

アール「くっさ!?!黒い霧と黄色い煙が混ざり合って色々ややばい」

提督「むっ!?!いたぞ…追い立てろ!!」つこやし玉

ジン&アール「オツケー!」

ドドドドドッ

提督「よし、ポイント地点に着いたぞ」

アール「さあ、シャガルかゴアかどっちだ？」

ジン「…!?!これは…」

ゴア・マガラ? 「(▼皿) グルルル・

ジン「…どうりで提督が躊躇うわけか」つ飛竜刀【朱】

アール口「提督、戦ってる時は情に流されんなよ？こいつは倒すしかねえんだ」つディ
アールテミア

提督「わかつてるさ…やるしかないんだ…」つ輝王剣【リオレウス】

ゴア・マガラ？「(▼皿)」グオオオオツ!!

孫娘提督「」

元帥「…あれはなんだ？あれがゴア・マガラなのか？いや…確か彼が講堂で見せた資料にはあんな姿のゴア・マガラはいなかったはず…」

ルルカ「ええ、あれはゴア・マガラです」

元帥「だが…右半身の頭部、翼脚、背面は脱皮したシャガルマガラの部分だ…」

ベル「その通りです。あれは『シャガルマガラに成りきれなかった不完全体』です」

元帥「『不完全体』？つまりあれは脱皮しきれなかった個体なのか？」

ルルカ「はい、私達のギルドでは『混沌に呻くゴア・マガラ』と称しています」

元帥「しかしなぜあのような個体がいるのかね？」

ルルカ「すべては『狂竜ウイルス』が原因です」

孫娘提督「『狂竜ウイルス』!?あいつがばら撒いているウイルスなんだからヘツチャラ

じやないの？」

ルルカ「…まずはゴア・マガラの成体、シャガルマガラから説明したほうがいいですね。脱皮したシャガルマガラは『天空山』にある『禁足地』へと帰ります。その際に上空から各地へ、そして故郷である禁足地から各地へ『狂竜ウイルス』をばら撒きます…何故かわかりますか？」

孫娘提督「生態系を自分のものにするためでしょ？」

ルルカ「まず一つは子孫を残すためです。シャガルマガラの『狂竜ウイルス』には生殖細胞があり、狂竜化して衰弱死した生物を苗床にして幼体のゴア・マガラを発生・成長させます」

孫娘提督「うげ…なにそれ気持ち悪っ!？」

ルルカ「もう一つは…同種の幼体であるゴア・マガラを殺すためです」

元帥「!?どういうことかね…?」

ルルカ「シャガルマガラの『狂竜ウイルス』には幼体のゴア・マガラをシャガルマガラへと脱皮を阻害するはたらきがあります。シャガルマガラがばら撒いた『狂竜ウイルス』に感染したゴア・マガラは成熟した後、脱皮することができずあのような個体になります」

ベル「その個体は本来シャガルマガラが持つはずの『古龍の力』をコントロールする

ことができず暴走します。そして衰弱死します」

孫娘提督「……」

ルルカ「ギルドからは『異形の者』、『この世に生きとし生けるものと、決して相容れぬ存在』とも言われており、『古龍』として討伐されますね」

元帥「…故郷に帰ることもできず、すぐに死ぬこともできず、病に蝕れ苦しみ彷徨い続ける、か…生き残るために『狂竜ウイルス』を撒き、生存競争に負けたゴア・マガラの末路…クロード君が見てもらいたい理由が分かったよ」

孫娘提督「……」

霞「…司令官、だから『ゴア・マガラやシャガルマガラが、狂竜ウイルスが恐ろしい』って言ってたのね…」

孫娘提督「『混沌に呻く』か…あのゴア・マガラ、苦しそうに呻いてるように聞こえるわ…まるで深海棲艦と同じように……」

56 眠れ宿痾よ目覚めは遠く 『混沌に呻くゴア・マガ ラ』後

提督 「いくぞっ!!」ダッ

ジン 「まずは角を狙うぞ！」

ゴア 「●三●三●三(▼皿)」 3wayプレス

アーロ 「おおっ!? あっぶねっ!!」 ジャストガード

ジン 「あれでもシャガルになりかけた。狂竜プレスに気を付けろ」 回避

アーロ 「そうだった、あれでもG級个体だったな」 アセアセ

提督 「せいっ!!」 抜刀斬り

ゴア 「C(▼皿)」 右翼脚で防ぐ

提督 「ぬっ、弾かれるかっ!!」 弾かれる

ゴア 「C三(▼皿)」 右翼脚で薙ぎ払う

提督 「ぐっ!? 重い…」 大剣ガード

ゴア 「C(▼皿)C)三」 連続スタンプ

ジン 「よっ!!」 回避してから一文字斬り

ゴア「(▼皿) ;」怯み

アール「よっしゃやあ!! 今だな!」斧モードで叩き込み

ゴア「(▼皿) (三●) 振り向きブレス

アール「マジかよ、いつてえ!」三(#) 皿、 ; ;

提督「アール!! 大丈夫か!」

アール「な、なんとか : やべえ、すっげえ威力。こりやあ気を抜くと乙るぜ :」

ゴア「() () (▼皿) ()」両翼脚叩き付け

提督&アール「あつぶねえ!」緊急回避

ジン「足止めをする!」ジャンプ攻撃してライド

ゴア「(▼皿) ;」ジタバタ

ジン「っ!! よく暴れるな :」ザクザク

アール「焦った : 今のうちに回復 :」っ回復薬グレート

ジン「倒れるぞ!」ザクザク

提督「おK!! いつでもいいぞ!」

ゴア「(▼皿) ;」倒れる

アール「今のうちに畳み掛けるぜ!!」属性解放斬り

提督「頭部の角と右翼脚を部位破壊するぞ!」溜め切り

ジン「斬るっ…!!」気刃斬り

ゴア「(▼皿) (三) (▼皿)」両翼脚で薙ぎ払い

アール「いだすっ!!」()。3。*()

提督「おっと!!」回避

ジン「むっ!!」ジャスト回避

ゴア「?????」(▼皿) (＃)「狂竜化

アール「ぶ、ブチギレだー!!」

ジン「っ…鱗粉が濃く舞っているな…」

提督「気を付けろ。めちやくちや痛いぞ」

ゴア「?????」(▼皿) (＃)「爆散プレス

アール「あつぶなっ!!」ガード

ジン「あれをくらったらヤバイな…」ジャスト回避

提督「怯まずに叩き込め!!」抜刀斬り

ゴア「(▼皿) (＃) (三) 蛇行突進

提督「いったーい」(;) ()

ジン「ひとまず奴をこかせて部位破壊だ!!」斬り払いから回転気刃斬り

ゴア「(＃) (▼皿) ()」拘束攻撃

ジン 「っ!?しまった!」 拘束中

アール 「やっべえぞ!?なんとかしねえと思いい切り叩き付けられちまう!!」

提督 「おらっ、離せ!!」 溜め斬り

ゴア 「(▼皿 #)」 大暴れ

提督 「おうふっ」 || O)、3、) ∴ ∴

アール 「このっ ∴ 一発ぶちかましてやるぜ!!」 高出力属性解放斬り

ゴア 「(▼皿 #)」 怯んでジンを離す

ジン 「すまない、助かった ∴」

ゴア 「(▼皿 #) 三」 バックジャンプして滑空

提督 「こっちに來たぞ、避けるっ!」 三 (∴ 皿、)

ジン 「危なかった ∴」 (∴ 皿、) 三

アール 「ひええっ!」 緊急回避

ジン 「手強いな ∴」

提督 「ああ、相手も必死だからな ∴」 つ回復薬グレート

ジン 「 ∴ わかつてるな? 変な情に流されるな。お前がやられるぞ?」

提督 「わかつてるとも ∴ 行くぞ!」 ダッ

ゴア 「●三 (▼皿 #)」 直線プレス

提督「よつと！」回避

ゴア「C(▼皿 #)」右翼脚叩き付け

提督「これも避けて…よいしょーっ!!」回避から抜刀斬り

ゴア「(▼皿 ;)」右翼脚爪破壊

アール「よつしや!!俺も続くぜ!!」盾突きから高出力属性解放斬り

ゴア「(▼皿 ;)」頭部部位破壊

ジン「ひいぞ、その調字で攻める！」突き、右袈裟切り

ゴア「?????」狂竜化2段階目

アール「げえっ!?!もう?!!段階目かよ!?!」

ジン「更に濃くなってきた…」

提督「こっから本番だ。気を抜くなよ！」

ポワー

ジン「アール、提督!!足下!!」

アール「え?…やべえ地雷だ!!」

ビシユツ!!

提督「あ、危なかったー」アセアセ

アール「シャガルの力もあるんだった…不完全ながらも油断はできねえな」アセアセ

ゴア「(▼皿▼ #) 三三 回り込み尻尾薙ぎ払い

提督「ぬうつ…」大剣ガード

ジン「このっ!!」大回転気刃斬り

ゴア「(▼皿▼ ;)」尻尾切断

アーロ「ナイスカット!!いくぜっ!!」斧モード叩き込み

ゴア「(#) (▼皿▼) ()」両翼脚叩き付け

アーロ「ひえっ!?!回避してなかったらすっ飛んでた…」フラフラ

ジン「お前は…気を抜くなと言っているだろ」抜刀気刃斬り

アーロ「わーってるって!!」もう一度斧モード叩き込み

ゴア「(; ▼皿▼)」怯み

アーロ「おらあ!!どんなもんよ!」

提督「よし、続けー!!」抜刀斬り

ゴア「(▼皿▼ #)」振り向き爆散ブレス

提督「うおっ!?!」大剣ガード

ゴア「(▼皿▼ #)」力を溜めている

ジン「二本足で立ち上がった…」

提督「やばっ!?!広範囲拡散ブレスかっ!!」

ア—ロ「っ!! ジン、提督!! 打ち上げるぞ!」斧モード打ち上げ
スコーン

提督&ジン「おおっ!?!」三、(; 皿、)ノ

ゴア「(▼皿▼ #)「広範囲拡散プレス

ア—ロ「ぐへー」.. . (ε。 ())

提督「ア—ロ!?!」

ジン「振り向くな…今は攻めろ!!」ジャンプ切りしてライド

ゴア「(▼皿▼ ;)」ジタバタ

ジン「いいな? 奴が倒れたらお前が決める!!」ザクザク

提督「…ああ!! いつでも来い!」

ゴア「(▼皿▼ ;)」ジタバタ

ジン「いくぞ!」ザクザクツ

ゴア「(▼皿▼ ;)」

提督「よいしょっ!!」超溜め切り

ゴア「(▼皿▼ #)「両翼脚叩き付け

提督「せいっ!!」エリアル回避

ジン「ごり押しだっ!!」大回転気斬り

ゴア「Σ(▼皿▼ ;)」

提督「せいやーっ!!」 エリアル溜め斬り

ズバンツ!!

ゴア「(▼皿× ;)」 ヨロヨロ…

ジン「…まだか」

提督「…いや、もう決まった…」

ゴア「グオオオオツ…」 空を仰ぐように咆哮しながら倒れる

ズズウウウン…

ジン「…討伐、完了か」

提督「ああ…アール口は？」

アール口「ここ…ここです」 仰向けに倒れて手を振る

ジン「無事か？」

アール口『猫のど根性』つけて来てたからなんとか…あと一発でもくらってたら乙つて

た」フラフラ

ジン「まったく、久々に焦ったぞ」

アール口「へへへ…サーセン」 テヘペロ

提督「…」 ゴアの死骸に近づくと

ジン「…討伐はできた。ルルカにも知らせしておく」

提督「おう…：すまない…：苦しかったろ、安らかに眠ってくれ」ゴアの死骸を撫でる

元帥「討伐、できたようだな」

ルルカ「…ええ」

元帥「この世界は本当に不思議だ。私達の知らない生物がいて…：ゴア・マガラのよう
な過酷な生態もいて、彼らも人間や深海棲艦と変わらず必死に生きようとしているのだ
な…：」

ルルカ「…シヤガルマガラが発見されたシナト村ではある謡が伝わられています」

元帥「謡？」

ルルカ「シヤガルマガラの狂竜ウイルスに生態系を壊されても立ち向かうシナト村の
住人と生物達の意志とゴア・マガラやシヤガルマガラを受け入れて共に生きていく意味
が込められているそうです」

元帥「…受け入れて共に生きていく、か…：ありがとうございます。今日は深く学ぶことができました
よ」

ベル「忙しいところ、本当にありがとうございます」ペコリ

元帥「私は戻るが…：君はどうする？」

孫娘提督「……え？ああと……もう少し残ります……」

元帥「……そうか。あまり無理はするな？」

ベル「さて、これからどうする？」

ルルカ「まずは混沌ゴアの死骸をギルド本部へ。もう少し調べなくちゃいけないわ」
 ベル「それとあの島に狂竜ウイルスの影響はないか生態調査だね」ヤレヤレ

孫娘提督「……あの、ちよつといいかしら？」

アーロ「ああ、回復薬グレートがうまいんじやく」プハー

ジン「よし、手当は終わりだ」ゲシッ

アーロ「いだった!?もうちよつと優しくしてくれよー。潮ちゃんみたくやわらかく……」

ジン「憲兵さんに伝えておきますね^^」

アーロ「ウソですごめんなさい！」

ベル「皆ーお疲れー」ノシ

ルルカ「無事、討伐できたみたいね」

アーロ「約一名乙りかけたんだけど」

孫娘提督「……」

ジン「で、なんで孫娘提督殿まで来てるんだ？」

ベル「混沌ゴアを間近で見たいんだってさ」

アーロ「ほほう？」

提督「……おや？孫娘提督殿？」

孫娘提督「……さ、触っても大丈夫？」

提督「ええ、もう狂竜ウイルスの心配はありませんよ？」

孫娘提督「……」恐る恐る

コツン

孫娘提督「……冷たくて堅いわね。さつきまで生きてたのに……」

提督「そうですね……それが生物ですから」

孫娘提督「……あの時はごめんなさい……絶滅させろなんて言つて。この子も必死に生きようとしていたのよね」

提督「気にしないでください。今も尚、狂竜化の被害は減ったものの、ゴア・マガラやシャガルマガラは問題になって議論にも上げられています。それでも共存の道はあるとハンター達やギルドも考えています」

孫娘提督「……ほんつと、あなたって人は、変わってるわね」クスリ

アーロ「つーかそれ以前に、生態系ぶち壊してでも食べつくすドラゴンとか、闘争本

能丸出し金色ゴリラとか、なんでも吸い込むタコみたいな龍もいるだけだな」

孫娘提督「そんなのがいるの!？」

ベル「ま、ひとまず狂竜ウイルスの方は一段落つきそうだね」

ジン「…なにか忘れてるような…」

提督「…:…ん？」

ルルカ「クロード、どうかしたの？」

提督「戦闘で気づかなかつたんだが…:…こいつの背中に何か刺さってないか？」

ルルカ「本当ね。あちこちに刺さってる…:…これは…鱗？」

提督「これは…:…こいつのものじゃない。金色の鋭利な鱗、『飛刃』だ…」

ルルカ「!? ねえちよつとまって…:…このゴア・マガラがもし追い立てられていたと考える…:…」

提督「ああ…:…この狂竜ウイルスの一件、すべての黒幕は…」

ヒュンッ

提督「!? 危ないっ!!」 ドンッ

孫娘提督「きやつ!?」 押されて倒れる

ドスドスッ

提督「ぐうっ…:…」 ヨロッ

アール「提督!」

ジン「今のは…」

ベル「提督、しつかり!」

ルルカ「皆、気を付けて!! 奴が来るわ!!」

アール「ちよい待て、奴って!」

ズウンツ

セルレギオス「(▼皿▼)「グルルル・」

アール「セルレギオス!?!つかでつか!?!最大金冠以上じゃね!?!」

ジン「普段のセルレギオスと違って黒くて禍々しい見た目…まさか」

ベル「『極限化』…!?!」

ルルカ「ええ、推測が正しければ…不完全体で弱ったゴア・マガラを襲ってあちこち
追いついて回して隠れ蓑にし、狂竜化で衰弱死した生物を餌にして、更にあのゴア・マガ
ラを追い回して縄張りを広げてみたいね」

提督「…今回の狂竜ウイルスの事件の黒幕だ…」

ジン「あのゴアを追い回して自分は見つからないように高みの見物か…」

アール「今までにない…なんて狡猾い野郎だ!!」

セルレギオス「(▼皿▼)「威嚇」

ア—ロ「ざまあみやがれっ!!あばよー!!」

——【混沌に呻くゴア・マガラ 討伐完了】——

57 提督倒れる、ギルドからの増援

in軍艦

アール「ふう…いきなりの極限化モンスに出くわすなんて焦ったぜ…」

ルルカ「あのセルレギオスは私が探してた極限化個体に間違いないわ…至急、ギルド本部に連絡をとっておくわね」

ベル「はやく体勢を立て直してすぐに討伐しなくちゃ」

ジン「…その前に…」

提督「孫娘提督殿、お怪我はありませんか？」

孫娘提督「え、ええ…あなた達が言ってる『極限化』ってなんなの？」

提督「本来、『狂竜ウイルス』に感染して狂竜化した生物は暴走して衰弱死をします。

しかし、何らかの原因もしくはは生命力が強い個体がその『狂竜ウイルス』を克服し『狂竜』の力を自分のものにする状態のことです」

孫娘提督「そ、そんな生物がいるの…!？」

提督「『極限化』する確率はかなり低いのですが…その分、『狂竜ウイルス』を操りより凶暴になります。その場合絶対に討伐しなくてはなりません」

孫娘提督「…あなた達ならできるの？」

提督「これ以上被害を出さないためにも…やらな…ければ…」フラツ
ドサツ

孫娘提督「え？」

提督「」

霞「し、司令官？…ちよつと何いきなり寝てるのよ…」ユサユサ
提督「」

霞「司令官…ふざけないですよ。怒るわよ？」

孫娘提督「!?ちよ、ちよつと!?その手についてるのつて…」

霞「え?…うそ、血？」

提督「」

霞「司令官…ウソでしょ?ねえ起きなさいよ…起きなさいよ!!」ユサユサ
ジン「…それ以上触るな!!」

霞「ジンさん!!司令官の…血が…血が止まらない!」

ジン「出血がひどい…くそつ『裂傷』状態か…医務室はあるか？」

孫娘提督「あ、あるわ…医療班も呼んでおくわ!!」

アーロ「マジか!?状況は？」

ジン「あまりよくない…狂竜ウイルスに感染している恐れもあるし、裂傷もかなりひどい」担ぐ

アール「あの時か…応急処置するぜ!!」

ベル「悪いけど急いでもらうよ。下手したらまずいことになるからね」

孫娘提督「わかってる…鎮守府まで急がせるわ!!」

霞「し、司令官!!」

ルルカ「今の彼に触れたらダメよ。貴女まで狂竜ウイルスに感染する恐れがあるわ…」

霞「司令官!! いやっ!! いやあああつ!!」

ルルカ「…今は…辛いけど我慢して…」ギョツ

i n 鎮守府の医務室

天龍「提督が倒れたって本当か!？」

霞「…」

アール「今は街の医者を呼んで医務室で治療している」

長門「治療は？」

アーロ「背中に刺さった刃鱗を取り除いて傷口を塞ぐ治療だ」

孫娘提督「…あの、ジンが言つてた『裂傷』つて何？」

アーロ『裂傷』というはセルレギオスという生物が放つ刃鱗が刺さり、傷口が大きく開くような傷を負うことだ。その状態のまま動く鱗が深く刺さつていき傷がさらにひどくなりより出血する。下手すりや失血死する」

孫娘提督「じゃ、じゃああの時：彼はその状態のまま私をずっと担いでいたの：？」

アーロ「自分を責めちゃいけない。あんたを助けるためにあんな無茶をしたまでだ。そうでもしなきゃあんたが危なかったんだ」

天龍「それで：…なんで俺達は入っちゃいけないんだよ？」

アーロ「今の提督は狂竜ウイルスに感染している可能性が高い。その場合、お前達にも感染しないように隔離して安静にしなきゃなんねえ」

天龍「でもよ：せめて提督の状態を教えてくださいよ：！！」

曙「そうよ：金剛さんなんて自分の部屋で大泣きよ！！」
磯風「駆逐艦の何人か泣いている：頼む」

ガチャリ

ジン「…先生、助かりました」ペコリ

医者「うむ：私もできる限りのことをやったよ。後は彼次第です…」

瑞鶴「ジ、ジンさん!!」

天龍「て、提督は大丈夫かなのか…!?」

ジン「…あいつの背に深く刺さっていた刃鱗は摘出できた。傷が治るまで安静しなくちやならん…」

川内「よ、よかった…」

ジン「…ただ…狂竜ウイルスに感染にし、狂竜症を発症していた」

艦娘達「!?!」

ジン「しばらくは隔離し、艦娘達の接触は禁止する」

高雄「そんな…」

鈴谷「提督は…助かるの!?!」

ジン「…普段、人が狂竜症を発症すれば高熱、体力の低下等の症状が起こる…いつ治るかはあいつ次第だ」

天龍「…くそっ!!」ダッ

龍田「天龍ちゃん!?!どこ行くの!?!」

天龍「決まってるだろ!そのセルなんちゃらって野郎をぶちのめしに行くんだよ!」

ビスマルク「落ち着きなさい!気持ちわかるけど…一番つらい思いをしているのは霞よ!!」

霞「……」

天龍「……くそっ……」壁を殴る

アール「皆の気持ちはよくわかるさ……でも、『極限化』した生物は今までお前たちが見てきた生物よりも凶暴だ」

ジン「辛いと思うが……わかってくれ」

in 工廠

ルルカ「……」

ベル「……ルルカ……」

ルルカ「ベル……とっても悔しいの。あれだけ狂竜、極限化生物の対策を立てて、工廠の一部を借りて研究所も建てていつでも対応できるようにしてたのに……」

ベル「……仕方ないさ。今回の極限化セルレギオスがとっても狡猾だったんだ」

ルルカ「……それでも悔しいわ……仲間を守れなかったのよ……」

ベル「……大丈夫だよ。提督はすぐに元気になるさ……覚えてるだろ？提督がイビルジョーに横つ腹を噛まれても、頭装備が取れてナルガクルガの刃翼がもろに当たっても……ハツチャラだったんだ」

ルルカ「……」

ベル「な？今は俺達が極限化セルレギオスを討伐しなくちゃいけry」

ルルカ「どっせえええい!!」壁に頭突きする

ベル「!?」(。；。D。)!?

ルルカ「…あー目が覚めた」

ベル「ル…ルルカ：さん？」

ルルカ「ベル!! ジンとアークを呼んで頂戴! すぐに対策を立てるわよ!」

ベル「あの…頭から血が流れてますけど!？」

ルルカ「へこたれてる場合じゃないわ!! 早くしないとあの極限化野郎が別の生物を狂

竜化させて暴走させてしまうわ!!」

ベル「その前に頭の血を止めよ!？」

ルルカ「あの鳥野郎!! 今に見てなさいよー!! ハンターを舐めんじゃねえ!!」

ベル「だから頭の血を止めてえええ!？」

ジン「…対策を立てるといだが、どうするんだ？」

アーク「まずは極限化対策だが…抗竜石「心撃」はあんのか？」

ルルカ「あるのはあるけど…あれ以降、極限化生物がいなくなつて、使用時間が短い、再使用まで時間がかかるといふデメリットが多いから支給はされていないわ」

アーク「試作抗竜石え…じゃあ今ある抗竜石でやるしかねえか」

ルルカ「でもその件なら安心して。そろそろ来てくれてもいい時間なのけど…」
五月雨「ルルカさん!!ギルド本部から来たというお客様をお連れしました!!」アタフ

ルルカ「丁度よかった…増援を呼んでおいたの」

ベル「ルルカの増援ということは…もしや!」

筆頭ルーキー「ちわーっす!助っ人に来たっすよー!!」ノシ

ジン「…」

アーロ「…」

ベル「…」

筆頭ルーキー「…あ、あれ?」(…ω…)

アーロ「ルーキーかよ…」

ジン「…ここはせめて筆頭ガンナーかランサー、もしくはリーダーだろ…」

ベル「ルーキーで大丈夫なの?」

ルルカ「ま、まあ…リーダーが信頼して向かわせたんだから…たぶん大丈夫」

筆頭ルーキー「ちよつとちよつと!こう見えて真面目っすよ!」

ベル「ルーキー、今回の極限化セルレギオスのことだけど…」

筆頭ルーキー「任せてくださいよ。クロードさんの敵討ち、絶対に果たしましょう！」

ジン「…ああ、艦娘達もピリピリしている…早く倒さなくきゃな」

筆頭ルーキー「そのためにも！ギルド本部から『秘密兵器』を持ってきたつすよ！」

アーロ「秘密兵器？」

筆頭ルーキー「そう、それは…あれ？…どこやったけ？」ガサゴソ

ベル「…まさかなくしてない？」

筆頭ランサー「こら、渡されたものを置いて出ていくんじゃない」ゲンコツ

筆頭リーダー「あだっ!？」

アーロ「きた！筆頭ランサー来た!!」

ルルカ「メイン盾来たわ!!」

ジン「…これで勝つる!!」

筆頭ルーキー「ちょ、扱いの差、ひどすぎやしませんか？」

ベル「こういうノリなの…ごめんよ」ポンポン

ジン「それで…秘密兵器というのは？」

筆頭ランサー「ああ、これだ」ゴトリ

アーロ「…弾丸？」

筆頭ルーキー「ただの弾丸にあらずつす!!聞いて驚くつすよー」ニヤニヤ

筆頭ランサー「極限化生物は身体がかなり硬化していて、心眼がついていても弾かれたり、弾丸や弓に猟虫も弾かれて攻撃できなかつた。しかし、この『極限状態軟化弾』を命中させれば極限化生物の身体が軟化して攻撃が弾かれなくなる」

筆頭ルーキー「しかも!! 極限化生物の狂竜ウイルスの力を抑えることができるんつすよ!!」

ジン「これを命中させて狂竜化を鎮静化させることができれば…」

筆頭ルーキー「極限化を再発しにくくさせるつす!!」

筆頭ランサー「再発してももう弾かれることはない…しかし、開発するのにコストが高くてな」

筆頭ルーキー「便利なんつすけど…やっつとできてこの1発だけつす」

アール「…最近開発できた奴だろ…開発が遅いのはぜってードンドルマの狂竜ウイルス研究所の急かす所長とゆっくりな助手のいざこざのせいだろ!」

筆頭ルーキー&ランサー「(; ω ;)」

アール「凶星か?!?」

ルルカ「一発ある分だけでも有り難いわ。絶対に当ててみせる」

筆頭ランサー「私達も協力して討伐しよう」

ジン「助かる…さて、問題は奴がどこに潜んでいるかだ」

ベル「ゴア・マガラを探して飛んでいるか、もしくは遠くまで飛んで逃げているか…」
 ルルカ「前者ね…あいつは自分が見つからないようにゴア・マガラか別の狂竜化させたモンスターを囿にして縄張りをとっているわ。隠れ蓑にしていたゴア・マガラがやられた以上、新しい隠れ蓑を探しているはずよ」

筆頭ルーキー「だとすれば探している最中にゴア・マガラか狂竜化モンスターに出くわしたら思う壺つすね…」

ルルカ「…でも、その手を逆にとつて誘き寄せる方法が一つあるわ…」

in 工廠

ルルカ「ふう…裂傷対策、狂竜ウイルス対策…これだけあれば万全ね…」

ジン「後は作戦通りに行うだけだな…」

ルルカ「ええ…この一発の弾丸に後は託されてるわね…」

ジン「…不安か？」

ルルカ「…当たり前じゃない。1発しかないんだから絶対に当てなくちゃいけないのよ？」

ジン「…あまり思い詰めるな」

霞「…」
 — ω ・ ・ ） チラッ

明石「…」—ω・、) チラッ

ジン「?どうした?」

霞「…し、司令官の状態は大丈夫かしら…?」

ジン「…あいつなら心配ない。先ほど見たが熱は下がってる。このまま安静にしておけば大丈夫だ」

霞「…よかった…」 ホッ

ジン「あいつが目を覚ました時はこっぴどく叱つてやる。心配をかけさせるなって」
霞「…うん…」

明石「あ、あのー…この弾丸って1個しかないんですか?」

ルルカ「ええ…とてもコストが高いとか」

明石「…ふむふむ…」 ジーッ

ルルカ「?」

明石「あの…ちよつといいですか?やってみたいことがあるんですが…」
ジン&ルルカ「?」

58 乱刃、すべてを断つ 『千刃竜』セルレギオス 前

——西方海域にあるとある島にある洞窟の中に『極限化』セルレギオスは潜んでいた。自分を倒さんと戦いを挑むハンター達を欺くために不完全体のゴア・マガラを襲い、奴を囿にして身を潜み、奴の狂竜の力を利用して縄張りを広げていた。

しかし、そのゴア・マガラは先日、ハンター達にやられてしまった。装備を付けていない奴を狙って一度は退けることはできたものの、隠れ蓑となる囿がいなくなってしまう以上、ハンター達は搜索してくるだろう。

見つかるのは時間の問題だ。次なる囿のゴア・マガラか別のモンスターを狂竜化させて利用することにしよう。セルレギオスはゆっくり起き上がり洞窟を出ようとした

／＼グオオオオオ……／

——どこかで響く弱弱しいモンスターの雄叫びを聞いてセルレギオスは反応した。

これはついでに。この島に弱っているゴア・マガラが潜んでたとおそらく別の不完全体の個体だろう。セルレギオスは勢いよく洞窟から飛び出し空を駆けるように飛んだ

原生林地帯

\グオオオオ：／

セルレギオス「(▼皿▼) (三) (▼皿▼)」キヨロキヨロ

\グオオオオ：／

セルレギオス「(▼皿▼) (())」ズンズン：

ガサガサツ

セルレギオス「?(▼皿▼)」

クルペッコ「グオオオ：(；。D。()!!」ビクツ

セルレギオス「Σ(▼皿▼) ()!!」

アーロ「かかったなアホがああつ!!」つ【閃光玉】

ピカツ

セルレギオス「Σ(×皿▼) (；)」ヨロメク

筆頭ルーキー「まずは第一作戦は成功つす!!」

ルルカ「ええ、いくら狡賢くつても：クルペッコの声マネは見抜けないでしょうね!!」

アーロ「でかしたぞペッコ!! さあ戻れ。このクエストが成功したあかつきにはギルド

から勲章がもらえるぞ!!」

クルペッコ「(・ω・；) 三」飛んで逃げる

セルレギオス「(▼皿▼ #)翼を広げる

ジン「…逃がさんっ!!」ジャンプ切りしてライド

セルレギオス「(▼皿▼ ;)()」ジタバタ

ベル「よしっ!!ルルカ、今だよ!」っ双雷剣キリン

ルルカ「…っ」っ王牙弩【野雷】

セルレギオス「!!(▼皿▼)」

バスンッ

セルレギオス「(▼皿▼) 三 (▼皿▼)」飛び上がり左へ滑るように滑空

ジン「おわっ!」滑り落ちる

筆頭ランサー「なっ!?!避けただど!?!」

筆頭ルーキー「ど、どうしましょう!?!あの『極限状態軟化弾』は一発しかないんっす

よ!?!」

アール「バーロー!!弱音を吐いてどうする!!あとは抗竜石や道具を駆使して倒すしか

ねえんだ!!」っデザートローズ

筆頭ランサー「そうだな…他にも麻痺投げナイフも持ってきてよかった。私達も戦う

ぞ!」っバベル

ベル「ルルカ、援護お願いね!」ダッ

ルルカ「…ええ、任せて」チラッ

ジン「…まだまだ。奴がすっかり油断した時を狙え」つ王牙刀【伏雷】

セルレギオス「(▼皿▼)三◎」刃鱗飛ばし

筆頭ランサー「ぬんっ!!」盾ガード

アール「足を狙ってこかしてやるぜ!!」斬り込み

ガキンツ

アール「くっそ!? 弾かれるってか!」

セルレギオス「(▼皿▼)っ」尻尾攻撃

アール「おふっ!」||○)、3、)・・・

セルレギオス「三(▼皿▼)」死角へキック攻撃

ベル「あぶなっ!」ジャスト回避

ルルカ「狙い撃つつ!!」雷撃弾速射

ガキンツ

ルルカ「くっ…やっぱり弾丸も弾くわね…」

セルレギオス「(▼皿▼)三◎」尻尾から刃鱗を飛ばす

筆頭ルーキー「片手盾ガードっす!!」

セルレギオス「三(▼皿▼)」拘束攻撃

筆頭ルーキー「うそーっ!? 隙を狙ってくるなんて卑怯ツス!!」拘束

ルルカ「頑張って耐えて!!」つ生命の粉塵

ジン「へこたれるな:!!」抜刀気刃斬り

ベル「弾かれても鬼人化ならっ!!」鬼人化乱舞

筆頭ランサー「弾かれてもごり押すぞっ!!」突き

セルレギオス「(▼皿▼;)」怯んで放す

筆頭ルーキー「し、死ぬかと思っただっす:」

アール「おらーっ!! これでもくらえっ!!」属性解放斬り

セルレギオス「(▼皿▼ #) 三」低空飛行で回り込みキック攻撃

アール「いっでえ!」裂傷

ジン「アール!! ランサー、万能湯けむり玉を!!」

筆頭ランサー「アールくん、これを!!」つ万能湯けむり玉

モクモク

アール「あたた: おおっ、刺さった刃鱗が取れる。さっすが便利だぜ!!」

ルルカ「それでも傷口が塞ぐまでじっとしてなさいよ」

セルレギオス「◎三(▼皿▼#)」アールを狙って刃鱗飛ばし

筆頭ランサー「そうはさせんぞ!」盾ガード

ベル「狙おうたってそうはいかない!!」 鬼人化回転斬り

セルレギオス「(▼皿▼#)」足蹴

ベル「いたたた」(； 皿、)

ルルカ「属性弾も通常弾もダメ：貫通弾ならっ!!」貫通弾

セルレギオス「(▼皿▼) 三」避けて滑空キック

ルルカ「きゃあっ!?!」

ベル「ルルカ!?このっ!!」斬り込み

セルレギオス「三(▼皿▼)」タツクル

ベル「ぎやすっ!?!」。3。)。∴∴

ジン「ルルカ、大丈夫か?」

ルルカ「なんとかかね：もうそろそろかしら：」

ジン「∴ああ」

セルレギオス「(▼皿▼ #)」力を溜める

アール「っ!!気を付けろ、強烈なキックがくるぞ!!」

セルレギオス「(▼皿▼ #)三」強キック

筆頭ルーキー「ひええっ!?!」緊急回避

アール「あぶなっ!!」ガード

セルレギオス「(▼皿▼) # (三) 強キツク2回目

筆頭ランサー「ぐうっ…強烈な威力だな…」盾ガード

ルルカ「この次に着地ね。そこを狙えば…」

セルレギオス「三(# ▼皿▼)」強キツク3回目

ベル「ルルカ、危ないっ!!」ルルカを押し

ルルカ「っ?!?ベルっ!!」

ベル「ぎやすっ?!?」()、ω。)…:.

筆頭ランサー「ベルくん!?しっかりするんだ!!」つ生命の大粉塵

筆頭ルーキー「ど根性で無事っすね!?!」つ万能湯けむり玉

ベル「う、うん…死ぬかと思った…」ゼエゼエ

セルレギオス「(▼皿▼)」バサッ

アーロ「あっ!あの野郎、逃げる気だ!!」

筆頭ルーキー「くっ…心なしかニヤリとしてやがるっす…」

ベル「お、俺はともかく早く逃がさないようにしなくちゃ…」

ジン「…:。」

セルレギオス「(▼皿▼)」飛び立つ寸前

ルルカ「もう攻撃できないと…:油断したわね。この時を待ってたのよ…:今よ!」つ

信号弾

キラツ

筆頭ルーキー「…あれ？なんか向こうの高台の方に誰かいるつすよ？」

筆頭ランサー「ホントだ…あそこにいるのは…」

ジン「…しっかり狙いを定めて、撃て」つ通信

霞「…任して、絶対に当ててみせるわ」

ジャキンツ

霞「…司令官を傷つけたあなたを…絶対に許さないっ!!」

ドドーン!!

セルレギオス「? (▼皿▼)」

ヒューン… ●三

セルレギオス「Σ (▼皿×;)」 c r i t i c a l ! 撃墜!!

ジン「…よしっ!!」

アール「ちよ、あそこにいるのって霞じゃん!？」

セルレギオス「(×皿×　;)」ジタバタ

筆頭ランサー「しかも…極限状態特有の狂竜ウィルスの色が消えている…!!」

筆頭ルーキー「も、もしかして『極限状態軟化弾』っすか!？」

ルルカ「ええ、『極限状態軟化弾』よ。見事命中ね!」

ベル「で、でも1発しかなかったんでしょ?最初にルルカが撃つたのはフェイク?」

ルルカ「いいえ。私が撃つたのは真正銘、筆頭ランサーからもらった『極限状態軟

化弾』よ?」

アール「…まさか…」

◆出撃前夜◆

明石「…あの、1発しかないのなら…もう1発作りませんか?」

ルルカ「!?つ、作れるの!？」

明石「こう見えて私、工作艦です!艦娘達の補強もしますし、装備だつて造れるんで

すから!!」

ルルカ「で、でも…ギルドが高コストで製造しても1発しかできなかつたのよ?」

ジン「だからこそ、研究所で助手をしてたお前の力を発揮すればいいだろ?」

ルルカ「で、できるかしら…」

明石「お願いします…私達艦娘も提督の力になりたいんです。提督が倒れてるのに何

もできないなんて…皆悔しいと思っっているんです」

霞「…ルルカさん…お願い…」

ルルカ「…!!…わかったわ。今まで学んだ事ありつたけ発揮してみせるわ!!私なら半日で1発分作ってやるんだから!!」

明石「私も全力で頑張ります。今までジンさんやアールさんが工廠でめちやくちやなもの造ってるんですもの、明石の実力を舐めちゃ困りますものね!」

ジン「…霞、できたら出撃準備しておけ」

霞「…え?」

ジン「…明石、ルルカ。連装砲で撃てるサイズにしろよ?」

ルルカ&明石「ラジャー!!」

霞「ジンさん…」

ジン「…いいな?艦娘皆の思いを込めて狙い撃てよ?」

霞「…っつ!!はいっ!!」

◆

筆頭ルーキー「っつ、作ったんっすか!?!というより作れたんですか!?!」

ジン「…うちの鎮守府の明石さんを舐めたらいかんぞ?」

ルルカ「さすがクロードの霞ちゃんね…ナイスショット!!」

ジン「……こんどは俺達が決める番だ。行くぞ！」

59 乱刃、すべてを断つ 『千刃竜』セルレギオス 後

アーロ「よっしゃあ!!いくぜっ!!」斧モード叩き込み

筆頭ルーキー「こっからが見せ所っすね!!」片手剣斬り込み

セルレギオス「(皿)」怯み

アーロ「すげえっ!!弾かれないで攻撃できる!」

ベル「これが『極限状態軟化弾』の効果…便利じゃないか」

セルレギオス「(皿)」足蹴

筆頭ランサー「せいっ!!」カウンター突き

ジン「もらった!!」斬り払いからの気刃斬り

セルレギオス「(皿)」右翼鉤爪部位破壊

ベル「こんどはこっちだ!!」乱舞

ルルカ「これなら属性弾も弾かれなくてすむわね」雷撃弾速射

セルレギオス「(皿) (皿) (皿) 飛び上がって滑空キック

筆頭ルーキー「ぎゃふんっ!?!」…(皿) (皿) (皿)

ジン「よっ」ジャスト回避

アール「気を抜くなよ。弾かれなくなっても極限化個体だかな!!」

セルレギオス「◎三(、皿、)」刃鱗飛ばし

ベル「よつと!」ジャスト回避して斬り込む

ルルカ「よし：貫通弾をくらいなさいっ!!」貫通弾

セルレギオス「(、皿、;)」狂竜化鎮静

筆頭ランサー「よし!狂竜化を鎮静できたぞ!!」

アール「畳み掛けろおおっ!!」

ジン「斬るっ!!」気刃回転斬り

セルレギオス「(、皿、.)」尻尾切断

筆頭ルーキー「ナイスカットっす!!」

アール「俺達も続くぞー!!」

セルレギオス「三(#、皿、)」タックル

アール「ジャストガードっ!!」ガードポイント

筆頭ルーキー「ぶふっ!?!ちよ、ずるいつす!!」(；皿、)

筆頭ランサー「お前は気を抜きすぎだ：」つ生命の粉塵

ルルカ「これでもくらいなさいっ!!」ダンッ

セルレギオス「(、皿、；)」麻痺

ジン「いいタイミングだ!!」斬り込む

ベル「この時を待ってたよ!」鬼人化乱舞

アール「よっしゃ!!これもくらいやがれっ!!」高出力属性解放斬り

セルレギオス「(×皿×；)」スタン

ベル「ナイススタンツ!」

ジン「これはいけるぞ!!」気刃斬り

アール「おらおらあっ!!どんどんぶちこんでやるぜ!!」属性解放斬り

セルレギオス「(、皿、#)三」飛び上がって強キック

アール「ひえっ!」緊急回避

ジン「むんっ!!」ジャスト回避

ベル「あぶなっ!」緊急回避

ルルカ「この隙を狙い撃つっ!!」雷撃弾速射

セルレギオス「(、皿、；)」撃墜

筆頭ランサー「でかしたぞ!!そのまま決めるんだ!!」

ルルカ「落とし前、つけてやりなさい!」

ベル「これで決めるっ!!」鬼人化回転斬り

ジン「これは提督の分だっ!!」桜花気刃斬

アール「おっしやあ!!ぶちまけるぜ!!」超高出力属性解放斬りズバンツ!!

セルレギオス「(×皿×)」ズズウウウン…

筆頭ルーキー「や、やったあ!!倒せたっすよ!!」

ベル「…」

ジン「…」頷く

アール「…」スーッ

ジン&ベル&アール「よっしやあああああつ!!」ハイタツチ

ルルカ「ベル：やったああツ!!」ベルに抱き着く

ベル「おわつと!?!…あ、ああ。やったね!」

筆頭ランサー「極限化はやはり手強かった…だが、彼女の撃った『極限状態軟化弾』のおかげで倒せることができたよ」

筆頭ルーキー「『艦娘』っていうんっすよね…すっごいなあ…」

ルルカ「さてと…私はギルドに報告しなくちゃ…それにこのあたりの生態調査もしない」と

ベル「ルルカ、俺も手伝うよ」

ルルカ「えっ!?…ベル、ありがと。でも先にやらなくちゃいけないことがあるでしょ？」

アール「そうだったぜ。まず先に…鎮守府の皆に知らせて、それから提督に知らせない」と

ジン「…霞、よく頑張ったな」高台に向けてブイサイン

in 医務室

提督「…むにゃ？」目を覚ます

ジン「…」ジーッ

提督「…あ、ジ、ジン…お、おはようございます…」アセアセ

ジン「（#??）ゴゴゴゴゴ

提督「…う、うん。い、言いたいことはわかるよ？えつとそれはあの…」アセアセ

ジン「…どうやらたつぷり反省してもらわないといけないようだな…」ガチャリ

金剛「デイ、ドグー!!」ダッ

天龍「提督ー!!」ダッ

ダダダ\ていとくー! / ダダダ\しれいかーん! / ダダダッ

提督「ちょ、見舞いに来すぎいつ!?」ヒエエツ!?

金剛「うゝ わあああんっ!! デイドグー、無事で…無事でよがっただですううう」大泣き
天龍「痛むところはないか? もう大丈夫なのか?」

川内「提督が無事でほんと…よかった…」涙目

曙「クス提督!! 死んだらぜったいに許さなかったんだからね!」涙目

赤城「大丈夫ですか? ごはん食べますか?」

ビスマルク「アドミラル…貴方ってほんと馬鹿よ…」涙目

五月雨「ほんと、ほんとよかったですうううっ!!」大泣き

ワラワラ

提督「ちよ、み、皆落ち着いて」アセアセ

ジン「今回の件でたっぷり身に沁みる」

加賀「ジンさんの言う通りです。貴方は提督なんですから、貴方が倒れたら皆心配し

ます…ですが、ご無事でよかったです」

瑞鶴「あ、加賀さんも泣いてる?」

加賀「…」無言の足蹴

アーロ「提督…」ジーツ

提督「…あ、アール…」

アール「もげろ」

提督「ちよ!?! ひどすぎっ!」(; 旦、)!?

ベル「はーい、まだ提督は安静にしなくちゃいけないから、皆いったん部屋から出てねー」

アール「提督にいつつつちばん物申したい子がいるからねー」

艦娘一同「はーい!!」

ガチャン

霞「: : :」

提督「か、霞: : :えつと: : :その: : :心配かけてすまなかつた」

霞「このクズ!!」

提督「ひえっ!?! : : :あ、あれ? げんこつがこない?」チラッ

霞「司令官が血を流して倒れた時: : :司令官が: : :司令官が死んじやつたかと思つた: : :フルフル

提督「: : :」

霞「貴方は私の: : :私達艦娘の大事な司令官なのよ。もつと自覚しなさいよ: : :」グスッ

提督「: : :」

霞「人にさんざん命を投げ捨てるなつて言つてたくせに: : :貴方が死んだら意味ないのよ」グスッ

提督「……霞、すまなかつた」

霞「……つ!! バカ……このバカ!……グスツ……心配したんだからあああつ!!」ウワアアン

提督「よしよし……もう大丈夫だ……お前に辛い思いはさせないさ」ナデナデ

霞「うわああんつ!! バカバカバカ! 許さないんだからあつ!!」大泣き

提督「ああ……今日はいっぱい、いっつぱい、俺を叱ってくれ」ナデナデ

——数十分後——

霞「……」グスツ

提督「もう大丈夫か?」

霞「……ええ、もう心配いらないわ……あの、司令官」

提督「ん?」

霞「えつと……ありがと……」

提督「ああ。こちらこそ、ありがとう霞」ニツコリ

霞「そ、それじゃあ安静にすることよ!! ま、また来るから!!」ガチャン

提督「……俺もまだまだ未熟だなあ……」

ジン「俺達もだろ? まあ反省したのならそれで十分だ」

ガチャリ

孫娘提督「失礼するわ。入るわよ?」

提督「あ、これは孫娘提督殿！…すみません、このようなお姿で」

孫娘提督「気にしないで、そのまま安静にして」

提督「え、ええ…」

孫娘提督「…ごめんなさい。あなた達のことも、あなた達が戦っている生物のことも何も知らなかった」

提督「か、顔を上げてください。俺達は気にしていませんよ」アセアセ

孫娘提督「今回の件でよく身に染みた…私もすっかり学ばないと」

提督「いえいえ…俺達は何も…」

孫娘提督「そういえば怪我の方は大丈夫かしら？」

提督「え、ま、まあ…大丈夫ですが…」

孫娘提督「あれだけの怪我をしたんだから安静にしておきなさい」

提督「え、えつと…」

孫娘提督「艦娘達も心配しているようだし…今回の夏のイベント海域の方は私達が奮闘するから任せておいて」

提督「け、怪我の方は…あのー」

孫娘提督「大丈夫よ。今回の狂竜ウイルス、極限化生物討伐の件であなた達に特別報酬を用意しておくわ。楽しみにしておきなさい！」

提督「で、ですから俺はry」

孫娘提督「ふふふ、それじゃあまたね。治ったらちゃんと大本営に知らせなさいよー」
ノシ

ガチャン

提督「…」（； 口、）

ジン「…で、どうするんだ？」

提督「…え？」

ジン「艦娘達も孫娘提督殿もしばらく安静しなきゃいけないと思っっているのだが…
『秘薬』を飲んでもう治っているのに」

提督「…ど、どうしよう」（； へ、ω、）

ジン「…：さあ？」

提督「…し、しばらく安静にしとこうか」（； ∇、；）

ジン「…やれやれ…」

in工廠

ミケ「…ルルカ姐さん、これも運ぶかニヤ？」

ルルカ「ええ、これも全部お願いね」

ベル「…あれ？ルルカ、なにしてんだ？」

ルルカ「…私が探していた極限化セルレギオスの討伐もできまし、私は任務を終えたからギルドに帰らないといけないの」

ベル「えっ!?! 帰っちゃうのか!?!」

ルルカ「明後日には迎えの船が来るから、筆頭ルーキーと筆頭ランサーと一緒にドンドルマへ帰るわ」

ベル「まだここにいてもいいのに…」

ルルカ「ありがと。でも、『極限状態軟化弾』の実装も成功したし、より低コストの製法も見つけたから報告書も書かなくちゃいけないし龍歴院にも発表しなくちゃ…」

ベル「…そうか…ルルカも忙しいんだよな」

ルルカ「…ねえ、ベル。今まで聞けなかったんだけど、聞いてもいいかしら?」

ベル「ん?」

ルルカ「…まだ…私の事は好き?」

ベル「…」

ルルカ「…」

ベル「…さあ、一緒に戦ってくれる友としてなら好き、かな…」

ルルカ「くすつ…なによそれ、私じゃなかったらぶん殴られてるわよ?」クスクス

ベル「いきなり好きとか聞かれたらとまどうだろ」

ルルカ「うふふ、そうね。アーロだったらとぼけてるかも」

ベル「…」

ルルカ「…わかってるわよ。貴方には好きな子、いるんでしょ？」

ベル「…ま、まあね」

ルルカ「じゃあ男ならちゃんと口から伝えなさいな」

ベル「つ、伝え方がわかんないんだけど…」

ルルカ「そんなの私に聞いても知らないわよ。ほら、さつきと自分で考えて『あの子』に伝えに行きなさいな！」ゲシゲシ

ベル「ちよ、いきなりー!」（… ㊦、）

ルルカ「…ふう、ほんと昔とかわらないわね…でもよかったわ。これですつきりしたわ…」

黒丸「ルルカ姐さん、これはどこに運ぶかニヤ？」

ルルカ「えーと、それは…」

ブルー「？ルルカ姐さん、なんで泣いてるかニヤ？」

ルルカ「え？あ、あーと、さつき足の小指を角にぶつけちゃって…」

― 工廠の入り口付近の廊下 ―

アーロ「ちよ、なんで俺を押さえてんだ!」ジタバタ

龍田「うふふー、空気を読まない悪い子はお仕置きよー」ウフフー

球磨「アーロさんは空気を読まないことで評定があるクマ」

アーロ「俺はただ、ルルカの片付けのお手伝いをしよう」と…」ジタバタ

阿武隈「それがダメなんですつてば！」

鈴谷「ほら、撤収撤収!!」

アーロ「…解せぬ」(・ω・)

●ようこそ、深海棲艦の島へ

ウイル「ずいぶんと長い航海だなあ……ノンビリ

空母棲姫「仕方ナイダロ、艦娘達ニ見ツカラナイヨウニシナイトイケナイノダカラ」

ウイル「まあ、ホツポのお姉さんに会えるんだからいいか」ウンウン

ホツポ「ウイル!!今度はウイルの仲間達ノ話ヲシテヨ!!」ウキウキ

ウイル「そうだな、次は空気を読めないアロって奴の話をしようか」

防空棲姫「ソイツの話モ気ニナルケド、ソロソロ見エテキタワヨ」

ウイル「おつ、あの大きな島か?」

駆逐水鬼「ウム、アノ島デ皆待機シテイル」

レ級「私達ノリーダ格ノ戦艦棲姫ガイルヨ」

駆逐棲姫「あつ!浜デ皆待ツテマスヨ!」

ウイル「うん?……ふむふむ、確かに姿が見える。ホツポ、お姉さんはいるか?」

ホツポ「ウーン……ウン!!おねーちゃんガ手ヲ振ツテル!!おねーちゃん!!」ノシ

ウイル「……ところで、ホツポのお姉さんってどれ?」

駆逐棲姫「あの人デスヨ!」指さす

港湾棲姫「ホッポ…!!」ノシ

ウイル「(ㄩ)??

防空棲姫「ド、ドウシタノ？」

ウイル「あ、あのー…手が明らかに凶器っていうか…あの明らかに握られたらヤバイ
手をしているのが…ホッポのお姉さん？」

南方棲姫「ソウダガ？」

ウイル「あ、あの…やっぱり俺はここで見送っておこうかな？」(; ω)

南方棲姫「…今更怖気ヅクナヨ…」呆れ

空母棲姫「戦艦棲姫モ貴方ニ会イタイト思ツテイルノヨ。今更引き返ソウトモモウ遅
イワ」

防空棲姫「ホラ、シャキツとシナサイ」

駆逐水鬼「もしもウイルに危険が及ブノナラ私達が護ツテアゲルヨ」

レ級「それ以前にホッポがソウサセナイカラ安心シナツテ」ニヤニヤ

ウイル「ちよつと待って!?こ、心の準備が!!」アタフタ

ホッポ「ウイル!!早く行コウヨ！」ウキウキ

防空棲姫「ハーイ、一名様私達の島へご案内く♪」

ヲ級「(・▽・)ノ」

ウイル「((;。∩。))ガクガクブルブル

16inch三連装砲さん「:」ジ

ウイル「:な、ナイストウミートウ:」((;∩、)ガクブル

1inch三連装砲さん「!？」Σ(・ω・、;)

レ級「イヤソレ艦装ダカラネ」

南方棲鬼「戦艦棲姫ハこっちダ」

戦艦棲姫「:フフフ、貴方が『ウイル』ネ？」

ウイル「あ、そっちでしたかー。アハハ、つつい緊張しちやいまして」アハハ

戦艦棲姫「フムフム:」ジ

ウイル「あ、あの:俺に何かついてますか？」

戦艦棲姫「最初は出会イ頭ニ私の艦装で貴方の頭を握リツブソウト思ツテタケド:防空棲姫ヤ離島棲姫、南方棲鬼達ノ報告ヲ聞イテタラ面白イ奴ダト思ツテネ。ウン、私の思ツタ通り中々面白イジヤナイノ」

ウイル「…冒頭、すつごい怖い事言つてませんか?」(；；ωゝ)

レ級「戦艦棲姫ハ戦闘トナルト敵ニハ容赦ナイカラネー」

戦艦棲姫「…駆逐水鬼達を助ケタリ、離島棲姫の島カラ艦娘達ヲ追イ払ツタリ、そしてホツポの願イモ叶エタリト…貴方ニハトテモ感謝シテルワ」

ウイル「え、ま、まあただのしががないハンターの余計なお世話かもしれないですよ」

戦艦棲姫「貴方ハ私達ノ知ラナイ生物カラ守ツテクレタ。感謝ノ意ヲ込メテ…貴方ヲ受ケ入レテアゲルワ」

ウイル「…え?それつてつまり…」

駆逐棲姫「ウイルさん!!良かったですね!この島にいていいんですよ!!」

ホツポ「ヤッター!!戦艦棲姫、アリガトー!!」

戦艦棲姫「ウフフ…あ、でも『私』ハ貴方ヲ受ケ入レルケド…」クイツ
ウイル「?」

重巡棲姫「…」ジーツ

軽巡棲姫「…」ニヤニヤ

泊地水鬼「…」ポカーン

戦艦水鬼「…」ジロリ

戦艦棲姫「他ノ子達ハドウダカ分カラナイカラ、気ヲ付ケテネ?」ウフフー

ウイル「((; ㇿ)) ガクガクブルブル

南方棲鬼「戦艦棲姫、モウイイノカ？」

戦艦棲姫「エエ、十分堪能シタカラ。次ハ…」

港湾棲姫「…」ジーン

ウイル「ヒエッ!? ほ、ホッポのお、お姉さんですか？」アセアセ

港湾棲姫「…あ、アノ…」アセアセ

ウイル「は、はいっ!? な、なんでございましょう!？」アセアセ

港湾棲姫「えつと…」アセアセ

レ級「ナンナノコレ」

防空棲姫「普段見れないウイルの様子ダカラモウ少シ見テ見マシヨ」

港湾棲姫「…ホッポを…」

ウイル「は、はいっ!! 大丈夫ですお姉さん!! ホッポには怪我とか危ない目にとかなんにもさせてませんから!!」

港湾棲姫「…私ガイナイ間、ホッポを見テクレテアリガト…」

ウイル「…え？」

港湾棲姫「ホッポを色ンナ所へ連レテツテ…ホッポを楽シマセテクレテ、ありがとう」

スポッ

ウイル「それ手袋だったんですか!？」

港湾棲姫「?ウン」握手

戦艦棲姫「サテ、ホッポ。ホッポの冒険譚ヲ聞カセテクレルカシラ？」

ホッポ「ウン!! それじゃあウイルに出会った時と、ウイルが『矛盾』とかいうデカイ蟹ト戦ツタ話カラネ！」

ウイル「…さてと…何しようか」ポリポリ

防空棲姫「何ニモ考エテナカッタノ？」

ウイル「ま、まあな。そういうえば深海棲艦達の待機場所は浜と沿岸部みたいだな」

防空棲姫「奥地ニ進メバ何ガイルカ分カラナイカラ場所を広ゲヨウトハ思ツテイナイ

ワ

ウイル「ふーむ…夕飯まで島の散策でもしておこうかな」

軽巡棲姫「…」ジーツ

装甲空母姫「…」ジーツ

ウイル「あ、あの…なにか？」アセアセ

軽巡棲姫「キヤハ♪貴方ツテ変ワツタ格好シテルヨネー♪」

装甲空母姫「最初ハ新種ノ深海棲艦カト思ツタケド…アノ南方棲鬼ガ一目置クナンテ

珍シイワネ……」

ウイル「……彼女たちにとつて俺って変わってんのかな？」ゴア一式

防空棲姫「……今頃お？」呆れ

軽巡棲姫「ネエネエ、触ツテモイイ？」サワサワ

防空棲姫「セイツ!!」ゲンコツ

軽巡棲姫「イターイ!!何スンノヨー!!」プンスカ

防空棲姫「戦艦棲姫カラ言ワレテンノヨ。ウイルに変な事をシヨウトスルナラ容赦シ

ナワヨ!」

軽巡棲姫「グヌヌ……一度しかイベントに出レテナイ凶キャラのクセニー……」グヌヌ

装甲空母姫「エ?腕についてるソレって虫!」

ウイル「ああ、猟虫って言つてな。モンスターのエキスを吸い取ってハンターを強化

してくれるんだ」

装甲空母姫「自分強化……便利ねえ。艦載機カト思ツタワ」

防空棲姫「オイ、ガードが甘スギルデシヨ」

「なんやかんやあつて夜」

i n 砂浜

ウイル「……」コソコソ

戦艦棲姫「ウイル、何ヲシテルノカシラ？」

ウイル「えっ!? あ、戦艦棲姫さん…あ、あはっはっは…今日は熱帯夜ですなー」アセアセ

戦艦棲姫「…」チラツ

筏へまだ未完成だぜ!!

ウイル「…」アセアセ

戦艦棲姫「アラアラ、もしかしてソレデ帰ルツモリダツタノ？」

ウイル「…」(…ω…)

戦艦棲姫「別に他の子達は貴方を軽蔑シテイナイワ。ただ興味ヲ示シタリ、警戒ヲシテイルダケ」

ウイル「…」

戦艦棲姫「この島ニイテモ大丈夫ナノヨ？」

ウイル「…ホッポとはクシャ…『れっぷー』を見つけてつお姉さんのいる島へ送るっていうのが約束でしたので…俺がこの島に長居する理由はありませんよ」

戦艦棲姫「…正直ナトコロ、私も貴方にはコノ島ニイテホシイノ」

ウイル「…どうしてですか？」

戦艦棲姫「普通、深海棲艦は人間の言ウコトナンテ聞カナイシ、襲ウ対象デモアルワ。

デモ、防空棲姫や駆逐水鬼、離島棲姫や南方棲鬼トイツタ鬼や姫級の深海棲艦ガ貴方ヲ受ケ入レテ、貴方ノ指示ヲ聞イテイル」

ウイル「……？」

戦艦棲姫「私達、深海棲艦も艦娘達と同様、艦娘を受け入れ上から指示、指揮をする人物、『提督』ガ必要ナノ。ホッポから貴方の活躍を聞イテワカッタワ。貴方ニハ私達ヲ指揮スル深海ノ『提督』トシテノ素質ガアルワ」

ウイル「……」ポリポリ

戦艦棲姫「どうか私達ノ『提督』ニナツテクレナイカシラ？」

ウイル「やだ」キツパリ

戦艦棲姫「エエツ!? ナ、ナンデ？」

ウイル「…俺は冒険家、『提督』とやらにはなれないですよ」

戦艦棲姫「……」

ウイル「それにレ級から聞きました。深海棲艦はやられてもしばらくは暗い海底で眠りまた水上へ上がると。もし貴女達にそんな目に合わしたら会わせる顔なんてないです」

戦艦棲姫「…優シイノネ。コンナ兵器達ニモ情ヲカケルナンテ」

ウイル「兵器？とんでもない。貴女達にも、ほら」手を握る

戦艦棲姫「？」

ウイル「ちゃんと温もりもある、感触もある。泣いたり怒ったり笑ったりと感情だつてある。人間だつて生物だつて深海棲艦だつて生きているもの皆同じですよ」

戦艦棲姫「…ホツポが貴方を受ケ入レタノモ、ナンダカワカル気ガスルワ…デモ、勝手にいなくなるとホツポが悲シムワヨ？」

ウイル「うぐ…そこなんですよねー。どうすべきかな…」

戦艦棲姫「ホツポを無事ニ此処マデ連レテ来テクレタ事モアルシ、別ニ貴方ヲ止メタリシナイワ。ケレド、ヨク考エテオイテネ」

ウイル「…わかりました」

戦艦棲姫「あ、ソウダツタ。夜間ハ潜水艦ガ警備シテルカラ下手ニ夜中ニ船を出シタラ間違エテ魚雷撃ツカモシレナイカラ」

ウイル「結局帰れないじゃないですか、ヤダー!!」

60 お味噌汁

in 医務室

霞「司令官、入るわよ」ガチャリ

提督「…あ、霞。やほー」ベッドで書類整理

霞「司令官!! 安静にしてなきやダメじゃないの」プンスカ

提督「し、しかし、こうもベッドで寝たきりなのは退屈で…」

霞「ダメなものはダメよ。傷は治ってもまだ病気の方は治ってないみたいなんだから」

提督（言えない。秘薬飲んで治ったなんて言えない…）（…ω^）

ジン「…」ジー

提督「じ、ジン…ヘルプ…」

ジン「そうぞー、あんせーにしておかないとなー」棒読み

提督「ちよ、裏切り者!?!」（…）

霞「しばらく治るまでは出撃や書類整理はお休み。私達でやっておくから司令官はゆっくり休んでなさいよ?」

提督「は、はい…」

霞「お薬はここに置いておくから。いい？ 静かに休んでおくこと!!」ガチャリ

提督「……」

ジン「…あまーい」

提督「あまーい、じゃなくて!! どうすんだよこれ!？」

ジン「…激流ブレスに身を任せてどうかしてろ」

提督「む、むう…」

ジン「さしずめ1週間はベッド生活だな」

提督「はあ…仕方ないか」

孫娘提督「クロード提督、失礼するわよー」

大和「クロード提督、ご無沙汰しております」

提督「ま、孫娘提督殿!？ す、すみません。このような姿で」アタフタ

孫娘提督「気にしなくていいわよ。…うん、兜で顔が見えないけど随分と元気になつてきてるわね」

提督（言えない!! 秘薬を飲んでもう健康だつて言えない!!）（…ω^）

ジン「それにしても、よくこの街に来るようだが？」

大和「うふふ、提督ったらこの街が気に入ったようでした…特に『シー・タンジニャ』

の料理を頂くのを楽しみにしているんですよ」

孫娘提督「こ、こら大和!! 余計な事は言わないのっ!!」

提督「そ、それで今日はどのようなご用件で…」

孫娘提督「そうね…夏のイベント海域は順調に進んでいるの。そこで今日は貴方達の特別報酬の件を知らせに来たのよ」

提督「と、特別報酬だなんて…もったいないですよ」

孫娘提督「…もし貴方達を追い出していたら…極限化生物が本土に上陸して本土の生物が絶滅の危機に至っていたかもしれないよ。貴方達は本土を守ったんだからもつと誇りなさい」

提督「ほ、本土にもハンター達がいるのですし…か、買い被りすぎですよ」アセアセ
孫娘提督「…ほんつと貴方って遠慮しすぎよね」ヤレヤレ

大和「提督はどうしてもあなたにお礼をしたいのです。どうかお願いします」ペコリ
提督「…わ、わかりました。特別報酬、受け取りましょう」

孫娘提督「そうこなくっちゃね!」ニシシ
ジン「…それで、特別報酬というのは？」

孫娘提督「そうね…狂竜化、極限化生物の事件を解決したということで…貴方達の鎮守府に駆逐艦『天津風』、イタリアの戦艦『リットリオ』を着任させるわ」

提督&ジン「(。D。D)」

孫娘提督「ふふふ、どう？ビックリしたでしょ！」

提督&ジン「い、イタリア？」クビカシゲ

孫娘提督「そこかよ!!」ズコー

大和「ビスマルクと同じ海外の艦娘ですよ。イタリアという国で造船された戦艦です」

提督「へー、イタリアあ…」ウンウン

ジン「…ドイツにイタリアか…世界は広いな」ウンウン

孫娘提督「ま、まあいいわ…貴方にはこれからも頑張ってもらうからね！」

提督「孫娘提督殿、ありがとうございます」ペコリ

孫娘提督「ふふふ、それじゃあ帰るわね。さあ大和、いくわよ！」

大和「それじゃあ帰りに提督の欲しかったプーギー人形も買っていきましようか」

孫娘提督「だあああっ?!それは言わないでよ！」

ジン「…」

提督「…ど、どうしようか？」

ジン「…知らん」

in 中庭

ベル「…あ、あいら…」ガクガク

アルセルタス「? (・ω・)?」

ベル「…あいら…あいらびゆ…」ブルブル

ザザミ亜種「(・ω・?)」

ベル「かつ…か…ま…あいらびゆ…」モゴモゴ

アーロ「何してんのお前？」

ベル「あいらびゆうううっ!」ビクッ

アーロ「…は？」

ベル「な、なんだあアーロか。い、今の聞いてないよな？」

アーロ「…あいらびゆーがどうかしたのか？」ニヤニヤ

ベル「バカっ!!俺のバカッ!!」何度も壁に頭を打ち付ける

アーロ「なんだ、なんだ? 悩み事か? 相談に乗ってやるぜ?」ニヤニヤ

ベル「…絶対興味本位だよな?」

ベル、説明中

アーロ「…なるほどな。そういうことか」ウンウン

ベル「あ、ああ…」

アーロ「」m9 (^ 丱 ^)

ベル「…うぎっ!? すっごいうぎっ!」

アーロ「誰に言うのか知らねえけどさあ、そのようなモジモジした台詞じゃ相手さんは『ノー』って言うぜ?」

ベル「ほ、本当か!」

アーロ「ふふふ、俺はガキの頃はドンドルマで女の子に一番モテタボーイだったからな。俺にはすぐわかる」

ベル「…ウソくさ」

アーロ「ここは俺がアドバイスしてやろう!!」ドヤア

ベル「だ、大丈夫かなあ…」

球磨「…あれじゃあベルさん何時までたっても告白できないクマ」

天龍「見るだけでも不安だぜ」

北上「だねー。相手は誰だかわかるけど」

阿武隈「というか、アーロさんのアドバイスじゃ心配だわ…」

五十鈴「…仕方ないわね。ここは私達軽巡組が機会を作ってあげないと」

那珂「いわゆる告白大作戦ですね!」

in 医務室

提督「そっかー、ルルカ達は明日に帰っちゃうのか」

ルルカ「悪いわね…もつとこの街にはいたかったけど、任務だから…」

筆頭ルーキー「…」ジー

大淀「…あ、あの…」アセアセ

筆頭ルーキー「似てる…雰囲気があの人に似てるっす…」

筆頭ランサー「こら、あまり迷惑をかけるんじゃない」ゲンコツ

筆頭ルーキー「あだっ!」

ジン「もう少しゆっくりしていけ、と言いたいが仕方ないか…」

ルルカ「ごめんね。でも…ドンドルマ、龍歴院での仕事が終えればまた来るわ」

提督「いつでも遊びに来てくれ。艦娘達も皆、喜ぶだろうし」

筆頭ルーキー「そうっすね!! 今度はゆっくり観光したいっす!!」

筆頭ランサー「だな…しかし次の仕事は大変だと聞く…」

ジン「?…もう次の仕事があるのか?」

筆頭ランサー「数か月前だ。タンジアから遥か遠くの沖合で謎の揺れを古龍観測所で

観測された」

ジン「タンジアか…古龍の仕業なのか?」

筆頭ランサー「観測された場所から離れるように点々と観測されたのだが…6つ目の

あたりから観測されなくなった」

提督「…：地殻変動みたいな現象かもしれないな」

筆頭ランサー「ナバルデウスの仕業かもしれないとハンター達を連れて調べたが…：よくわかっていない。わかったとすれば、観測されなくなった場所は遙か深い海溝があるようだな。追跡はできないんだ」

提督「…：ふむ」

筆頭ルーキー「龍歴院から『二つの首をもつ古龍』の目撃情報があったり、龍歴院のハンターが『二つの首を持つ古龍』を追い払ってから目撃されなくなったから…：その古龍の仕業じゃないかと変な噂でてんやわんやっす」

提督「『二つの首を持つ古龍』？初めて聞くな」

ルルカ「私もその噂は聞いたことがあるわ。でも本当かどうかは眉唾物よ？」

筆頭ランサー「実際の所、その揺れと『二つの首を持つ古龍』とは関係ないって結論が出てね。それも兼ねての調査をするんだ」

ジン「…：お前たちも大変だな」

筆頭ルーキー「まあ慣れっこっす!!」

ルルカ「ふふふ、私も頑張っつていくから、クロードも狩人兼提督として頑張るなさいよ!」

提督「ああ、頑張るぜ!!」

i n 夜中の母港

ベル「な、なあ。用事ってなんだい？」

天龍「まあまあ、気にしないで来てくれって」

北上「そのうち話すからさー」

ベル「??」クビカシゲ

天龍「あつ、いっけねー、俺忘れ物したぜー」棒読み

北上「おおー、そりや大変だー」棒読み

ベル「え?えっ?」

北上「ってなわけで、ベルさんはここで待ってねー」ノシ

天龍「その場で待機な!!絶対にどっか行くなよ!!」

ベル「ちよ、まつ…えええー」(; 旦、)

シーン…

ベル「そんなー」(・ω・)

鹿島「…ベルさん?」

ベル「ふあっ!?か、鹿島っ!」ビクッ

鹿島「え、えつと…球磨さんからベルさんが呼んでいるって聞きました…」

ベル「えっ?えーと…」

ベル&鹿島「…」ソワソワ

天龍「ああもう!!なんでこんなにしれったいんだよ!!」コツソリ

球磨「初々しいクマねー」コツソリ

五十鈴「球磨さん、おっさんほいですよ…」コツソリ

阿武隈「ふあ…フアイトです!!」コツソリ

ベル「…きよ、今日はいいい天気ですね!太陽がサンサン!!」アセアセ

鹿島「あ、あの…夜中ですけど…」アセアセ

ベル「…」(…ω^)

鹿島「…」(…ω^)

北上「なんとというテンプレ」コツソリ

那珂「し、心配だなあ…」コツソリ

龍田「天龍ちゃん、こっちは片付いたわよー」ウフフ

アール「—!!—っ!」縛られてモゴモゴしてる

川内「アールさん、今日は空気を読んでくださいね」

天龍「うわあ…」

木曾「空気対策は取れたけどそっちはどうなんだ？」

ベル「…ほ、星がきれいですね！」

鹿島「えっ？…そ、そうですね…こんなにも沢山…」

ベル&鹿島「…」

ベル「…明日、ルルカはドンドルマに帰っちゃうんだ」

鹿島「そうなんですか…寂しくなりますね」

ベル「…俺がまだ新米の頃は、とっても好きな子だったんだ」

鹿島「…」

ベル「姉御肌で、可愛げがあって、憧れの的さ」

鹿島「…今はどうなんですか？」

ベル「今は…『w女版ラージャンじゃねえの？w』ってアーロは言ってたけど、それでも憧れの的なのは変わらないかな」

ルルカ「…アーロ？後でお話があるから」（#・ω・）

天龍「ルルカさん!?!いつの間に!?!」

アーロ「」

ベル「でも…今は違うかな…」

鹿島「？」

ベル「……か、かつ……鹿島……」ガクガク

鹿島「はっはいつ!!」

球磨「ベルさん、頑張るクマー!!」コッソリ

五十鈴「男の見せどころよー!!」コッソリ

ベル「……味噌汁……」

鹿島「……え？」

ベル「こ……これからも、この先も……毎日、お前の作る味噌汁と一緒に食べたい！俺の為に作ってくれ!!」ギョツ

鹿島「……!!」

北上&五十鈴&那珂「」。 ㊦。

天龍「……み、味噌汁かよ……」(; ㊦、)

ルルカ「……まだわからないわ。様子を見ましょ」

鹿島「……ベルさん……」

ベル「……」

鹿島「…私…嬉しいです…」プルプル

ベル「!!じゃ、じゃあ…」

鹿島「私、頑張ります…ベルさんとずっと一緒に…貴方の為に頑張ります!!」ホロホ

口

ベル「…鹿島」スツ

鹿島「…ベルさん…」

天龍「!?み、見ろっ!!ベルさん、兜を外したぞ!!」

五十鈴「ウソ!?ほ、本当だわ!!」

北上「素顔は!?素顔は見えるの!?!」

球磨「ちくしょうクマ!!暗くてよく見えないクマ!!」

阿武隈「も、ももも、もしかして…チューするんですか!?!」

川内「ヤバイよやばいよ!!お互いの顔が近づいてく…!!」

木曾「!!」ドキドキ

提督「俺も味噌汁食べたいなー♪」車いす

ベル「そおおおおいっ!!」鹿島に兜を渡して海へドボーン

鹿島「べ、ベルさああんっ!?」Σ(。D。111)ガーン

提督「…あれ?明日の献立の話じゃなかったの?」クビカシゲ

天龍「提督かよおおおおおおっ!!」クジケル

北上「まかさの伏兵…っ!!」

五十鈴「なんなのこの鎮守府は!?!そういうの厳しいの!?!」

ルルカ「ふふふ…ああおかしかったらありやしないわねー」クスクス

提督「あれ?皆、急に出てきてどうかしたのか?」

龍田「提督?そこは空気読まなくちゃー」ニガワライ

那珂「せっかくロマンチックだったのにー!!」プンスカ

提督「??」(。ω。)?

ルルカ「…ふう、これですつきりしたわー」

in 街の港

提督「…少し寂しくなるなあ」車いす

ルルカ「そう？ 貴方達がいるだけでも賑やかだと思っわ？」

ジン「…いつでも来い。喜んで歓迎してやるからな」

ルルカ「うふふ、楽しみにしてるわ」

筆頭ルーキー「せ、せめてサインだけでも…」

大淀「わ、私のでいいんですか？」アセアセ

筆頭ランサー「すまないな。今度来るときはゆつくり観光しよう」

アーロ「おうさ！ 今度と一緒に飲み明かそうぜ!!」タンコブ

雷「…アーロさん、なんであんなにタンコブできてるのかな？」

不知火「龍田さん曰く、『空気を読めない人の末路』だそうです」

曙「なにそれ超コワイ」

ベル「…」

ルルカ「ベル、あんたも頑張りなさいよ？」

ベル「お、おうとも!!」

ルルカ「そうね…式には絶対呼びなさいよ？」ニヤニヤ

ベル&鹿島「!？」顔真っ赤

ルルカ「ジョークジョーク。鹿島ちゃん、ベルをお願いね」

鹿島「は、はいっ!!わ、私、頑張ります!!」

ルルカ「霞ちゃん、クロードの傍で支えてあげて。ああ見えて結構無茶しちゃうから」

霞「ええ、今度は私が司令官をちゃーんと見てあげるから」フンス

ルルカ「ジン…あなたもシャキツとしなさいよ?」

ジン「…善処しよう」

ルルカ「てなわけで瑞鶴ちゃん、このおバカをよろしくね」

瑞鶴「えっ!?は、はいっ!!」アセアセ

ルルカ「アーロは…あなたは空気を読むということを学びなさい。てか学べ」

アーロ「俺だけ辛辣だなおい」

ルルカ「あなたはああ見えて優しいんだから…頑張んなさいよ?」

アーロ「…わかってるよ」ヤレヤレ

筆頭ルーキー「そろそろ出港つすよ!!みんなーさよならつすー!!」ノシ

筆頭ランサー「クロードくん、また会おう!!」ノシ

ルルカ「…楽しかったわ!!皆、またねー!!」ノシ

提督「…ああ!!また来いよー!!」ノシ

艦娘達「さよならー!!」ノシ

—— こうして…狂竜ウイルス、極限化生物の事件は無事に解決し、ルルカはドンドルマへ帰っていった——

61 我が鎮守府のカレー作戦

響だよ。ルルカさんがドンドルマへ帰つて3日が経つたよ。司令官もすっかり元気になつて『もう大丈夫だ』とか言つてベッドから出て執務室で書類整理するようになったんだ。相変わらず霞は心配そうに司令官の傍で司令官の手伝いをしている。でも……

in 入渠

電 「司令官、すこし元気がなさそうなのです」

雷 「まだ病み上がりだもの、仕方ないわ」

響 「ルルカさんが帰つちやつて寂しいんじゃないのかな？」

暁 「ふーむ……司令官の疲れをとることができれば立派なれでいになれるわね……」

磯風 「響、話を聞かせてもたつたぞ」

響 「磯風、何かわかるの？」

磯風 「それは……夏バテだ!!」 ドヤア

暁&雷&電 「夏バテ？」

磯風 「うむ、こここのところ暑かった日が続いていただろ？それに司令官は寝たきりだった」

雷「なるほど、それで司令官は元気がないわけね！」

暁「それで、どうすればいいの？」

磯風「夏バテを吹き飛ばすスパイスが必要だ。やはりここは『カレー』だな！」

暁「いい考えね！私達でカレーを作って司令官を元気にしてあげましょ！」

電「な、なのです!!」

i n 執務室

提督「ふえ、フエックション!!」クシヤミ

霞「司令官、風邪なの？」

提督「いや、誰か俺の噂でもしたのかな？それしても…机に伏せて寝るのは疲れるん

だなあ」肩こり

霞「当たり前じゃない。溜まった書類を丸一日で済ますなんて疲れるのは必然よ」呆

れ

提督「いやしかし、霞が手伝ってくれたおかげですぐに済みそうだよ」ニコニコ

霞「べ、べつに褒めてもなにもでないわよ!!」

曙「いやー、にやけちゃうなく」ニヤニヤ

大淀「ふふふ、コーヒーいかがですか？」ニヤニヤ

霞「う、うがー!!」

i n 工 廠

ジン「カレー？」

雷「ええ、司令官が喜びそうなカレーを作ろうと思うの!!」

電「どんなカレーがいいのか聞き込み中なのです」

ジン「カレー…か」フムフム

◆ジン、回想中◆

i n 我らの団

ソファイア「今日はカレーのようですよ!!」

ベル「いい匂いだね。これは美味しそうだ」

団長「それじゃあ皆で頂こうか!!」

＼いただきまーす!!／

ジン「……」

加工担当「甘いな…」

竜人商人「…甘いもう」

屋台の料理長「…甘いニヤル」

アール「イヤイヤイヤ!?甘いどころじゃなくてすっげえ甘いんだけど!?!」

ベル「…きよ、今日の料理当番は確か…」

ウイル「フハハハ!! どうだ? 俺のハチミツたっぷり入れた甘口カレーの味は」ドヤア
アーロ「バカじゃねえの!? カレーといたら辛口だろうが!! アグナコトルが火を吹く
ぐらいのさ!」

ウイル「それはおかしい。カレーといたら甘口だ!! アオアシラが喜ぶぐらいハチミ
ツたっぷりなの!!」

アーロ「この甘口野郎!! だからてめえは甘ちゃんなんだよ!!」ギャーギャー

ウイル「お? やるかこの辛口野郎!!」ギャーギャー

団長「ははは! 俺はどっちもいけるぞ!!」

提督&加工屋の娘「おかわり!!」

ソフィア「はい、まだ沢山ありますからね♪」

◆

ジン「……」

雷「? ジンさん?」

ジン「…隠し味は大事だぞ」

電&雷「???」クビカシゲ

ジン「お前達を作るなら辛口でも甘口でも大丈夫だ。食材は街の商店街で買うとい

い
い

電「ありがとうございますすなのです!!」

ジン「楽しみにしているぞ」ナデナデ

雷&電「えへへへ」

i n街の商店街

暁「それでなんで不知火もついてきてるの?」

不知火「磯風がカレーを作ると聞いて急いで駆けつけてきました。念のため私も手伝います」

磯風「不知火姉さん…大丈夫だ。私は食材を斬る担当だ」

不知火「ああ、斬る担当なら安心したわ」ホッ

電『『斬る』時点でおかしいところですよ!?!』

雷「よし、それじゃあ食材をかうわよ!!」

響「まずは何をかうの?」

不知火「司令官の夏バテを解消するのなら…野菜カレーがいいかもしれませんね」

暁「よし!それじゃあ八百屋に突撃よ!!」

磯風「む?生魚は入れないのか?」

電「!?!」

八百屋のおっちゃん「お嬢ちゃん達、買い物かい？」

暁「ええ、司令官のために野菜カレーを作るの!!」

八百屋「へえ、そりゃあ感心だ!じゃあ今日は特別安くしておいてあげよう!」

雷「やったー!!」

響「どんな野菜がいいかな？」

不知火「ニンジンやジャガイモの他に、ナスにパプリカ…ズッキーニもいいと思いますよ」

磯風「これはどうだ？」つイチゴ

電「か、カレーに入れるんですか!？」

響「デザート用に使っておこう。これでお願ひします」つお金

八百屋「まいどっ!!…ふむふむ、カレーの食材か」ウンウン

雷「どんな食材がいいか悩んでるの」

八百屋「そしたらとびつきりいいのがあるぞ?この時期は『ドボルトリュフ』つていうキノコがカレーに合うんだ!!」

暁「『ドボルトリュフ』?」

八百屋「おうさ。溪流の苔山に生えてるキノコだな。焼いてよし、出汁によし、カレーによしつてな!!」

暁「それいいわね！」

雷「この街の上に溪流があつたわね：それじゃあこの後探しにいきましょう！」

八百屋「：あつ、この時期はドボルベルクのコブにしか生えてないからそういうのはハンターさんに頼んだ方が：あれ？いない」

ジン「：：」一ム。チラッ

i n 溪流

雷「よし、それじゃアドボルトリユフを探すわよ!!」

暁「おー!!」

電「で、でも大丈夫なのです？」ハワワ

不知火「そのあたりは心配ありません。地図もありますし、これも持つてきましたから」つ姫竜砲

磯風「黒丸からこやし玉と閃光玉をもらつてきた」

響「黒丸曰く、メラルーにマタタビを渡せば安全な道を教えてくれるそうだよ？」

雷「それじゃあまずメラルーに会いに行きましょう！」

数分後

メラルーA「ウニャー!!何かよこせニャー!!」

メラルーB「ニャッハー!!アイテム置いておけニャー!!」

暁&雷&電「か、かわいい…!!」

不知火「かわいいので怖くないですネ…」

磯風「だが黒丸曰く、アイテムを盗むそうだぞ？」

響「…これでいいかな？」つまたたび

メラルーA「やややつ!? マタタビをくれるなんて…なんていい奴だニヤ!!」

メラルーB「お嬢さん達、道に迷ったのかニヤ？」紳士

雷「私達、『ドボルトリユフ』を探しに来たの」

メラルーA&B「ど、ドボルトリユフ!?」ギョッ

暁「カレーの食材にびったりって聞いたから探しに来ただけど…」

メラルーA「…ここ、この先にメラルー、イルーの縄張りがあるニヤ。そこに生えて

る『特産タケノコ』があるニヤ」

メラルーB「そ、それじゃダメかニヤ？」

電「ど、どうしてもドボルトリユフがほしいのです」ハワワ

メラルーA「…もしかしたらワンチャンで生えているかもしれない場所があるニヤ」

メラルーB「お嬢さん達、このメラルー兄弟が溪流安全ルートをご案内するニヤ!!」

不知火「ありがとうございます」ペコリ

— A地点 —

磯風「むう…木の実はか見当たらないなあ…」

電「こ、このキノコは？」

メラルーA「それはツルハシイタケだニヤ。堅くて美味しくないニヤ」
 不知火「なかなか見当たりませんか」

ジャギイ達「(、ω、)ノ」グイグイ

暁「ピャーっ?! スカートを引っ張らないでー!!」

――B地点――

雷「苔が生えてる場所にあるって聞いたけど…なさそうね」

響「このキノコはどうかな？」

メラルーB「それは特産キノコニヤ。それも食べれるニヤよ？」

オルタロス達「(||。ω。)ノ」ワラワラ

暁「きやーっ?! 虫がワラワラしてきたー!!」

――C地点――

メラルーA「ガーグアを驚かせればビックリして卵を落とすニヤ」

メラルーB「栄養価も高く美味しいニヤ」

磯風「ふむ、これも卵なのか？」金の卵

メラルーA & B 「!?」

ルドロス達 「(、ω、) 三三 水プレス

暁 「うわーん！びしょびしょじゃないの!!」

—— D地点 ——

メラルーA 「この先まっすぐ進めば出口ニヤ」

メラルーB 「このあたりになかったら『ドボルトリュフ』は生えてないニヤ」

雷 「それじゃあ満遍なく探すわよー!!」

暁 「もう帰りたーい！」ウワーン

不知火 「もう少しの辛抱ですよ。頑張りましょう」

磯風 「このキノコはどうだ！」

メラルーA 「それ、毒キノコニヤ…」

響 「:::」キョロキョロ

ズウウン

響 「?遠くで音が…あつ！向こうに見える大きな苔山に生えてるのは『ドボルトリュ

フ』!!…ん？」目を凝らす

ジン「…そのコブに生えているキノコをよこせ!!」つ王牙槌【大雷】

ドボルベルク「(皿 #)三」突進

ジン「よつと」回避して力を溜める

ドボル「(皿 #)」大きくジャンプ

ジン「!?まずいつ!!」緊急回避

ドボル「(皿 #)」プレス

ジン「あぶな…」冷や汗

ドボル「(皿 #)○」尻尾ハンマー

ジン「むっ…その頭、頂く!」回避してハンマー振り下ろし

ドボル「(皿 ;)」怯み

ジン「ちっ…まだスタンはしないか…」

響「()。皿()

電「響姉さーん、帰るのですー」

雷「どこにいるのー?はやく帰るわよー」

響「…う、うん…」

i n 母港

雷「結局、『ドボルトリユフ』は見つからなかったわね…」

不知火「その分、色んな食材を手に入れたのですからいいんじゃないですか？」

暁「私はスカート噛まれたり、虫がたかったり濡れたりしてひどい目にあったわよ!!」

ブンスカ

磯風「まあまあ、『ドボルトリユフ』が無くても十分にカレーが作れる」

電「なのです!!」

響「…」

暁「響? どうかしたの?」

響「いや、なんでもない…」

ジン「…おかえり。カレーの材料は手に入ったか?」ボロボロ

電「ジンさん、ただいまなのです」

雷「ボロボロじゃないの!?! どうかしたの?」

不知火「それに怪我もしてるとじゃないですか。何かあったんですか?」

ジン「…派手に転んだだけだ。そうだ、これを渡しておこう」

磯風「この大きなキノコは…ドボルトリユフ!!」

暁「ジンさん、これどうしたの？」

ジン「…『散歩』してたら見つけた」

雷「さ、散歩したらあつたんんだ…」

ジン「…これ、使うだろ？美味しいカレーを楽しみにしてるぞ」

暁「ジンさん、ありがとう!!」

雷「美味しいカレーを作ってあげるから楽しみにしててね！」

ジン「…」ノシ

響「…ジンさん」グイッ

ジン「…ん？」

響「…ありがとう」

ジン「…ああ」

提督「おっ？今日はカレーか!!」

雷「そうよ？司令官が元気になるために作ったのよ!!」

磯風「私が野菜を斬ったぞ」

ヨモギ「皆上手に作ってたニヤ」

提督「どれどれ…うん！うますぎる!!」テーレツテレー

暁「やったー!!」

提督「皆、ありがとう。おかげで元気はつらつだ!!」 フンス

不知火「司令官が元気になってよかったです」

電「これでよかったのです」 ウンウン

響「ジンさん、おかわりはいるかい？」

ジン「…それじゃいただこうか」

アール「チーン【アールは力尽きた】

ベル「ちよ、アールが力尽きてるんだけど!?!」

球磨「磯風が作った卵焼きを食べた途端に倒れたクマ」

鹿島「だ、大丈夫ですか!?!」 アタフタ

加賀「アールさんは犠牲になったのよ。そう、磯風の卵焼きのね…」

62 アーロさんのパーフェクトオトモン教室

ミケ「アーロさん、例の物が届いたニヤ!!」

アーロ「おつ、やつと来たかー。そんじや早速使おうとすつか」

in中庭

北上「アーロさん、言われた通りペッコを連れてきたよー」

皐月「ねえねえ、何するの?」

ペッコ「(・ω・)?」

アーロ「ペッコにこれを付けるのさ」つ鞍

北上「んん?…鞍?」

アーロ「こいつはただの鞍じゃねえぞ?俺達のクルペッコが極限化セルレギオスの討伐に貢献したということで贈られたものだ。つまり、ギルド本部もこいつを正式なオトモンとして認めてくれたっていう勲章みたいなもんさ」

皐月「勲章かあ、ペッコはすごいね!」ナデナデ

ペッコ「(・ω・)」ドヤア

アーロ「これをペッコに付けてと…よし、これで誰でも安全に乗れるようになったぜ」

北上「それじゃあ、あたし乗ってみるねー」ライド

ペッコ「(´ω´) 三三」ダツシユ

北上「おおっ！いいねえ、これは楽しいよ!!」

大井「なんかでかい鳥に乗ってる北上さん…かつこいいわあ！」ホレボレ

アーロ「初めてにしちやいい乗りこなしだな。『乗り人(ライダー)』になれるんじゃないか？」

臯月「ライダー？」クビカシゲ

アーロ「俺達『狩人(ハンター)』とは違ってモンスターに乗って活動する役職さ」

臯月「ハンターとは違うの？」

アーロ「モンスターに乗って共に戦うってところぐらいだ。最初のころはギルド本部は警戒して相容れないものだったけど、今は正式に認められた役職になっている」

臯月「へー、なんだかっこいい!!」

アーロ「だがかつてはオトモンを使って悪さをする連中がいたり、モンスターの生態を理解していなくて無理やり街に連れてモンスターを暴れさせるバカがいるからライダーの資格をとるのはすっげえ難しいんだ」

臯月「どのくらい難しいの？」

アーロ「全てのモンスターのライフサイクル、生息地、その習性を熟知していること、

すべてのオトモンの世話の仕方、手入れ、餌等々の計1000問以上の筆記試験に、オトモンとライダーの絆を見せる実技試験もあったりと厳しいんだ」

臯月「せ、1000問以上!?!?ぼ、僕にはできないよー!?!」

大井「危険な生物を扱う分、それなりの知識と技術が必要なのね」

北上「アーロさん詳しいねー」

アーロ「まあな、俺の親友にライダーの資格持つてる奴がいるからな」エツヘン

臯月「いいいなー、僕もライダーになってみたい!」

アーロ「そうだな…それなりの知識なら教えることはできるぜ?」

臯月「ホント!?アーロさん教えて教えて!!」

アーロ「ふふふ、いいだろう!まずはオトモンとのスキンシップだ。スキンシップは

大事だからな」スツ

ペッコ「(、ω、)三三」プイッ

アーロ「あつてめつ、この鎮守府は女の子ばかりだからって分かってやがるな!?!」

ペッコ「(、ω、*)三三」ダダダ

アーロ「ちよ、待ちやがれー!!」ダダダ

北上&臯月「: : :」

数分後

皐月「えへへー♪ペッコはいい子だねー♪」ナデナデ

北上「私達の言う事は聞くのにアーロさんの場合はやんちゃだねー」ナデナデ

ペッコ「(*、ω、)」クルルー

アーロ「ちよ、鳥竜種は基本臆病な性格の種類が多いからな…派手な格好してるハンターにすぐ警戒するし…」ゼエゼエ

大井「鎧外せばいいのに…」

皐月「次はなにすればいいの？」

アーロ「次は同種や他種、つまりはライダー以外の人に慣れさせる訓練だ」

i n 母港

アーロ「今回は艦娘達に慣れるよう訓練するか」

北上「駆逐艦の子達はペッコ達のお世話をするからすぐに慣れるけど戦艦や空母の人には滅多に会ってないもんね」

皐月「お散歩楽しいね！」ペッコにライド

ペッコ「(*、ω、)」

アーロ「中庭だけじゃなく他の場所に連れて慣れさせるのも大事な訓練だ」

龍驤「おっ？その大きな鳥がペッコちゃんやな？」

愛宕「鮮やかな鳥さんね〜」

ペッコ「Σ（。D。）」

アーロ「おつと、こうビックリした時は撫でて落ち着かせるんだ」

皐月「よしよし、大丈夫だよ？」ナデナデ

龍驤「へ〜、ちゃんとしつけをしてるやん。いい子やなあ」ウンウン

北上「ただいま勉強中なんだー」

ペッコ「（。D。）」「ジ〜」

愛宕「こ、この子、私の方をじっと見つめてるのだけど…」アセアセ

ペッコ「（。ω。＊）」ツンツン

愛宕「きやつ!?ちよつ、やつ、胸をつついちやダメつ」アセアセ

ペッコ「（。ω。＊）」ツンツン

皐月「あわわわ…アールさん、こういう時はどうすればいいのかな？」

アール「…」

皐月「アールさん？」

アール「…実にいいものだな」ウンウン

大井「ちゃんと教えなさいよおおつ!!」ドロップキック

アール「ゴメンヌ!」（#），3，；；；；；；

龍驤「…なんでや。なんでうちにはいたずらしないねん…」白目

i n 中庭、

大井「次はちゃんと真面目にしてくださいね」プンスカ

アーロ「さ、さあ次はクルペッコのお手入れの仕方だ」タンコブ

皐月「ホースにバケツ、ブラシ、大きなビニールプールを用意してるけどなんで？」

アーロ「鱗を持つイャンクックと異なりクルペッコは鱗と羽毛を持ち、羽に付いた汚れや寄生虫、脂粉を落とすために水浴びをする習性がある。なので水場がない所は定期的に水浴びをさせなきゃいけないんだ」

北上「綺麗にするのに大事な作業なんだね」

アーロ「丁寧に綺麗にしていけばとつても色鮮やかな羽毛を持つ。人と触れ合うのに見た目も十分大事だからな」

ペッコ「(=。ω。)?」

アーロ「ビニールプールに水を溜めて、後は自然と水浴びをするまで待つ」

ペッコ「(＊。ω。)」バシャバシャ

アーロ「この時、すつごい水がかかるから気を付けるんだぞー」ビシヨヌレ

北上&大井「ぜったい忘れてたでしょ」傘

皐月「水浴びは冬もするの？」傘

ア—ロ「ああ。だけど冬だからとお湯やぬるま湯で水浴びをさせるのはダメだ。羽についでる水をはじく油を溶かして体温低下の原因になるからな」

北上「ブラシを持ってきたのは？」

ア—ロ「歯磨きと足の汚れ落としだ。特に歯磨きは…」スツ

ペッコ「(w) (三) 尻尾をピンタ

ア—ロ「ふべしっ?!いい、嫌がるから気を付け…」

臯月「ぜんぜん嫌がらないよ?」歯磨き

ペッコ「(*、w、)♪」

ア—ロ「…解せぬ」

数分後

臯月「今度は何をするの?」

チャチャ「今度はオレチャマ達の出番ツチャ!!」ドンチキ♪ (W) (L) ドンチキ♪

カヤンバ「華麗なステツプと音楽で踊るンバ!!」ドンチキ♪ (T) (L) ドンチキ♪

ア—ロ「クルペッコは鳴き声と踊りでコミュニケーションをとる。ストレスの解消に

もなるし、別の音を学ばせることで騒音になる鳴き声をしなくなるぞ!!」ドンチキ♪ (L)

((w)) (L) ドンチキ♪

ペッコ「♪ (w) (三) (w) ♪」

北上「よつ、ほいさつ、ほいさつさ」ホイサツサ「(へ、ω、へ)」
 臯月「よつ、ほつ…な、なかなか難しいね…」

チャチャ「タンジラステップは最初は難しいツチャ。ここは簡単にできるユクモステップ
 テップツチャ!!」ユクモステップ

カヤンバ「リズムミカルなステップを踏むンバ!!」ユクモステップ

アーロ「あそーれそれ!!」ユクモステップ

大井「うん、なんかアホの集団には見えないわよ?」

那珂「音楽と聞いて、那珂ちゃんのゲリラライブを始めてもいいですか?」キャピツ
 大井「…お断りします」

数十分後

アーロ「クルペッコの主食は魚だ。一日に3, 4回。与えすぎは太るから気を付けるんだぞ?」

ペッコ「(＊、ω、)♡」食事中

アーロ「だいたい教えることはそのぐらいかな?よくできました」ナデナデ

臯月「うん!ちゃんとお世話できるよう頑張るよ!!」

北上「いやー、今日はとっても勉強になったよー。私もお世話の手伝いしようかな?」

大井「オトモンライダー北上さん…かっこいいわ!!」ウツトリ

i n 鎮守府1階の廊下

大井「大きな虫に蟹、そして鳥：また別の生物を飼うようになったら鎮守府じゃなくて珍獣府になりそうね」

ガチャリ

弥生「：んー：」部屋から出て背伸び

大井「あら？ 弥生ちゃん？」

弥生「あ、大井さん、こんばんは：」ペコリ

大井「確かそこは書斎室だったわね。お勉強かしら？」

弥生「はい、司令官達の故郷に棲息する生物の勉強です」

大井「生物の勉強？」

弥生「司令官から『ライダー』の話を聞いて私もなりたいて思ってたんです」

大井「て、提督から：でも試験つてとても難しいって聞いたわよ？」

弥生「もしたら低年齢でもオトモンの世話だけの資格がもらえる『ライダー3級』があるって教えてくれたんです」

大井「!?」Σ(； 皿、)

弥生「司令官がギルド本部に問題集と試験資格の申請をしてくれました。この冬、本土のギルド本部で行われる試験に向けて猛勉強です」フンス

大井「そ、そう…でも夜更かしは体に悪いから気を付けるのよ？」アセアセ

弥生「はい、気を付けます…」ペコリ

大井「…皐月ちゃん、北上さん…提督に教えてもらった方が早かったんじゃない？」

——翌日、駆逐艦の間でユクモステップが流行り、アーロ、チャチャ、カヤンバは大井さんに怒られたのは後の話——

63 南の海へ、孫娘提督の依頼

i n 鎮守府門前

天津風「ここが例の鎮守府ね…」

リットリオ「汽車や飛行船に乗って3日以上、随分と遠い所でしたね。」

天津風「おかげでくたくたよ。ささ、司令官に挨拶しに行きましょう」

ダダダダダッ

天津風「あれ？何の音かしら？」

リットリオ「こちらに近づいて来ているようですが…」

明石「こらー!! ジンさん!! 待ちなさい!!」 プンスカ

ジン「三十六計逃げるに如かず…」 ダダダッ

明石「だからあれほど言っているのに、勝手に鎧玉を使って改二にしないでつて言つてるじゃないですか！」 コブラツイスト

ジン「…まさかあれほどかっこよくなるとは思わなかった…」 ググググ

明石「懺悔してもダメです!!」 ググググ

木曾改二「あ、明石さん：俺はそこまで気にしていないからいんだけど…」アセアセ
 北上改二「いやー、まさかパワーアップしちゃうなんてビックリだよー」ニシシ

大井「ジンさん!! ついでに私も改二にして!!」

瑞鶴「ジンさん、またやらかしたのね…」ヤレヤレ

明石「今日という今日は反省してもらいますからね!」プンスカ

ジン「…」テヘペロ

明石「テヘペロしてもダメです!!」ヘッドロック

瑞鶴「あつ、明石さん、ちよつと」

明石「瑞鶴さん、止めないでください! 今度という今度は懲らしめない!!」グググ

瑞鶴「明石さん、あれ!! あれを見て!!」

明石「え?」

天津風「(。(。㊦)

リットリオ「(。(。㊦)

明石「あ、ご、ごめんなさい…ええと貴女達は…」アセアセ

天津風「え、えつと…孫娘提督の指令でこちらの鎮守府に着任することになって来たのだけど…」

リットリオ「い、今、お取込み中でしょうか?」

明石「い、いえいえ!! 大丈夫ですよ!! 確かこの度私達の鎮守府に着任する予定の……」
リットリオ「はい、ヴィットリオ・ヴェネト級戦艦2番艦、リットリオです」ペコリ
天津風「同じく、陽炎型駆逐艦九番艦の天津風です」ペコリ
ジン「!?…アマツ…だと」ピクツ

瑞鶴「？」

ソクサ

ジン「……」一。〇。チラツ

北上「ジンさん、なに隠れてるの？」

ジン「…すまん、つい反射的に……」一。〇。チラツ

天津風「ええと……あのいかにも怖そうな鎧を着ている人が提督？」

瑞鶴「いいえ、あの人はジンさんって言うて提督じゃないけど提督の補佐をしてくれるわ」

木曾「俺達の鎮守府は提督含めあのような鎧を着てる人がいるぞ」

大井「後は……でかい虫とでかい蟹とでかい鳥を飼ってるわね」

リットリオ「でかい動物ですか？興味があります!!」

明石「それじゃあさっそく提督の所へご案内しますね」

天津風「提督も鎧を着てるって……噂通り変わった鎮守府ね」

ジン「……」一匹。ちらッ

瑞鶴「ジンさん、もう行つたわよ？」

ジン「……そうか、すまないことをしたな」ポリポリ

瑞鶴「大丈夫よ。気にはしてなかったし、『アマツ』って単語に何か気になることがあつたの？」

ジン「……いや。昔の事だ、気にしないでくれ」ソソクサ

瑞鶴「??」

in 執務室

天津風&リットリオ「（。匹。）

提督「……やっぱりなんで初対面はこう怖がられちゃうのかな？」シヨンポリ

霞「鎧を外せばいいじゃない」

提督「えー」（ω・ω・ω）

大淀「ええと、提督はピユアで優しいので大丈夫ですよ？」ニガワライ

天津風「といより第一印象のインパクトがでかすぎよ。この度こちらの鎮守府に着任することになりました陽炎型駆逐艦九番艦の天津風です。どうぞよろしく願います」ペコリ

提督「この鎮守府によろこそ。今後ともよろしくね」ニコニコ

天津風「…」ジー

提督「え、ええと…俺、変な事言っちゃったかな？」アセアセ

天津風「いいえ、マイペースな素敵な司令官だなんて思ったの」ウフフ

提督「素敵だなんて…照れちゃうな」テレテレ

霞「…」ジトー

天津風「霞、大丈夫よ。司令官とは貴女が一番仲よさそうだし？」ニヤニヤ

提督「??？」

霞「ほら、クズ司令官。次の人が待ってるんだからさつきとする！」プンプン

提督「お、おおう」

リットリオ「Buon giorno。ヴィットリオ・ヴェネト級戦艦2番艦、リッ

トリオです。よろしくお願いしますね」ペコリ

提督「…ボ」

リットリオ「ボ？」

提督「…ボ、ボン…ぼんじーり」

大淀&天津風「ズコー

霞「そこはボンジョルノでしょ!？」

提督「ボンジョルノ!?…世界は広いな」ウンウン

霞「…『こんにちは』だけで世界が広がって納得しないでよ…」呆れ

提督「アハハ、悪い悪い。リットリオはイタリアの戦艦と聞く。これからもよろしくたのむ」

リットリオ「うふふ、ありがとうございます」ニコニコ

in 母港

ミケ「それでは鎮守内をご案内するニヤ」

ブルー「その後は艦娘寮も紹介するニヤ」

天津風「ね、猫が二足歩行でしゃべってる…」

リットリオ「孫娘提督殿が『あそこの鎮守府は飛びぬけて変わっている』っておっしゃってましたけど…まさしくその通りですね！」

島風&長波「あーまーっーかーぜー!!」ダダダッ

天津風「きやあっ!? 島風、それに長波!?!」

島風「天津風!! 会いたかったよー!!」イヤッホー!!

長波「随分と遅い着任だったな!!」ニシシ

天津風「まったく、あんた達は…世話が焼けるわね」ニガワライ

アーロ「おっ? 島風のお姉さんか?」

長波「うんにゃ、天津風のデータをもとに建造されたのが島風なんだ。まあ姉に近い

のかな？」

アール「そうかそうか。じゃあ天津風は島風と長波の姉貴分ってやつか」

天津風「ちよ、姉貴分って…ま、まあ悪くはないわね…」

島風「天津風!!一緒にあそぼー!!」グイグイ

長波「姉貴!!はやく遊ぼうぜ!!」グイグイ

天津風「わ、わかったから。そんなに引つ張らないで!!」アセアセ

島風「よーし、それじゃアールさんで超合体ビツクウエーブタイフーンごっこやろう!」

天津風「なにそれ!?よくわからないんだけど!」

長波「島風、ついでに雪風と初霜も呼んで超合体ビツクウエーブハピネスタイフーン

にしようぜ!!」

島風「長波、あつたまいー!!」

天津風「ちよ、意味が分からないんですけど!」

アール「じゃあ俺はまた『ドスランポス仮面』の役か…」

天津風「いやだから…誰か説明して!」

島風「それじゃあ中庭にいこー!!」グイッ

天津風「あゝれゝっ!」(; . ㇿ)

リットリオ「ポカーン

ベル「おやつ？もしかして新しく着任したっていう海外艦の子？」

リットリオ「あ、はい。リットリオっています。」

ベル「俺はベル。向こうで島風と長波をおんぶにだっこしてるのがアーク。今朝明石さんにめられたのがジン。よろしくね！」

リットリオ「はい!!それにしても…この鎮守府と街は随分と変わってますね。本土とは全く違ってビックリしました」

ベル「まあね。普通の鎮守府とは違うかな？」ニガワライ

リットリオ「でも、提督もベルさん達も素敵で、この鎮守府は楽しそうです」

鹿島「ベルさん。お待ちせしましたー!!」アタフタ

ベル「鹿島、慌てなくていいのに。俺はいつだって待てるさ」
リットリオ「?これからどこか行くのですか？」

ベル「ああ。これから鹿島と一緒に下の街でお買い物だよ」

鹿島「ベルさんと一緒：ウフフ、嬉しいです」ホンワカ

龍驤「いっちょよ、デートって言えばいいのになー」ニヤニヤ

摩耶「だよなー。ほんと初々しいよなー」ニヤニヤ

リットリオ「Wow! 所謂ジャパンでいう…フーフって言うヤツですね!」
ベル&鹿島「!?」顔真っ赤

リットリオ「微笑ましいですね!」ホンワカ

ベル&鹿島「((*ノωノ))」テレテレ

ミケ「あー、甘いニャー。苦いコーヒーが欲しいニャー」

ブルー「もう爆発すればいいのにニャー」

龍驤「いやもう見てて微笑ましいわ」

in 執務室

提督「いやー、海外艦の子も来てどんどんうちの鎮守府は賑やかになってきたね」ノ
ンビリ

霞「のんびりするのはいいけれど…ちゃんと海域へ出撃することも忘れないでよ
ね」

提督「大丈夫。怪我で随分と皆に待たせちゃったからな、待ちに待った出撃だ」ナゲ
ナゲ

霞「ん…ちゃ、ちゃんと考えているなら心配ないわね…」テレテレ

大淀「提督、お電話です」

提督「電話? 誰かな」

大淀「孫娘提督殿からお電話ですよ？」

提督「うむ、ありがとう…も、もしもし？」

孫娘提督『忙しいところ悪いわね。もう快調かしら？』

提督「はい。おかげさまで。そうだ。特別任務報酬の天津風、リットリオは無事に鎮守府に着任しました。本当にありがとうございます」

孫娘提督『そう腰を低くしないでいいのに…。今日、貴方の所に電話を掛けたのは貴方達にやつてもらいたいことがあるの』

提督「？やつてもらいたいことですか？」

孫娘提督『貴方達には南方海域に進出し、サンゴ礁沖、サブ島沖、そしてサーモン海域にある艦娘達の補給拠点の奪還をお願いしたいの』

提督「補給拠点、ですか？」

孫娘提督『ええ、南方海域には装甲空母姫、南方棲戦鬼といった強大な深海棲艦がいてね。海域攻略の際、道中のワンパン大破して即撤退を解消するために貴方達が着任する前に設立した拠点なの。その拠点で中破大破した艦娘達の修復、燃料弾薬と食料の補給を行っていたわ』

提督「なるほど、修復もできたりと便利ですね」

孫娘提督『だけど…各海域で襲撃があつて補給拠点が奪われてしまったの』

提督「それは深海棲艦の仕業ですか？」

孫娘提督『最初の頃は私も深海棲艦の仕業だと思つてただけど…貴方達と接してからは深海棲艦の仕業じゃないと思えてきたわ』

提督「…どのようなものか詳しく教えてくれませんか？」

孫娘提督『ええ…サンゴ礁沖の補給拠点は頑丈な壁や鉄塔が切り倒されてたの。とても切れ味のある大きな刃物を持つ何かに襲われたと言つてたわ。サブ島沖の補給拠点では…いつの間にか食料が消えてたり、誰かに見られているのに誰もいないという不気味な事があつたり、そして濃霧や毒霧が発生したりと被害が多かつたわ。』

提督「…」

孫娘提督『そしてサーモン海域の補給拠点は…重傷者が出たり艦娘達も大怪我をしたりとあそこがとて被害が深刻なの。彼らが言うには…『金色の毛を持つ鬼』に襲われたつて言つてたわ』

提督「…」

孫娘提督『もし貴方に心当たりがあるのなら…』

提督「…す、すみません、全部心当たり大ありです…」（…）

孫娘提督『…あ、貴方達の故郷はどれだけ恐ろしい生物がわんさかいるのよ…まあいいわ。心当たりがあるのが助かるわ。』

提督「…孫娘提督殿。南方海域の補給拠点の奪還、やりましょう」

孫娘提督『…ありがとう。でも、貴方達も無理して大怪我だけはしないで頂戴。私も貴方達の艦娘達も心配するんだから』

提督「承知しておりますよ。大怪我したら霞に怒られちゃいますから」

孫娘提督『…頑張つて。困ったことがあつたら言つてちようだい。私もおじいちゃ元帥も全力でサポートするわ』

提督「…ふう」

霞「…司令官」心配そうに見る

提督「…次の海域は俺もお前たちも全力で頑張んないな」ナデナデ

霞「…ええ、勿論よ。頑張りなさい」

64 秋津洲、頑張る!!

in母港

秋津洲「…はあ、大型建造で建造されて以降出番がなかったかも…」シヨンボリ
チラツ

加賀「ですから、ブシドーのジャスト回避は当たる寸前を見切って回避するんです」
瑞鶴「イヤイヤイヤ!?なんで加賀さんが指導するんですか!?!」

加賀「ジンさんのご指導の下、私がしっかりと伝授しましたから」キリツ

大鳳「あ、赤城さん…そのジャスト回避って…?」

赤城「大鳳さんはまずはフレーム回避から練習しましょうか」ニコニコ

大鳳「ええっ!?よ、よくわからないのですけど!?!」

加賀「最近、フレーム回避やジャスト回避は正規空母の中破大破を防ぐことができる
とわかったので、ジンさんに頼んで教えてもらいました。」

大鳳「な、なんだか私達の鎮守府で空母は必須事項になっちゃってますね…」ニガワラ
イ

秋津洲「空母みたいにそんなに艦載機を飛ばせないし…水上機母艦の中で一番弱いし

…このまま忘れられちゃうかも…」 ションボリ

アール「…なにやってんの？」

秋津洲「ふおおあつ!」ビクッ

提督「秋津洲、元気がないけどなにかあつたのかい？」

電「何か悩み事なのですか？」

五月雨「よかつたら相談にのりますよ？」

秋津洲「(; ω ;) ブワッ

提督「えっ!?!ちよ、なんで泣くの!?!」アセアセ

アール「やーい、なーかした、なーかした!」 m 9 (㊦)

秋津洲「ふええええええんっ!!」大泣き

電「はわわわ!?!大変なのです!!」ハワワ

五月雨「お、落ち着いてくださーい!!」アタフタ

提督「ま、間宮さんのところに行こ!!な?」アセアセ

i n 甘味処『間宮』

電&五月雨「♪」スイーツ堪能中

提督「どう?落ち着いた？」

秋津洲「はい……ごめんなさいかも。このまま忘れられちゃうと思つてたかも。でも、提督達が覚えてくれて嬉しかったかも」

アール「ひどいなあ。俺達が鎮守府内の艦娘達の名前を忘れるわけないだろ」

提督「吹雪型、陽炎型の多さに『覚えきれるかなあ』なんてぼやいてたのは誰だっけ？」

アール「うーん……♪（ε、；）

秋津洲「それで提督、あたしに何か用があつたのかも？」

提督「ああ、実は港町の漁師さん達から頼まれてね……漁場にトラブルが起きてて漁業や漁船に被害が出てるんだ。南方海域に出る前に街を蔑ろにしちゃいけないからな」

アール「鎮守府近海つてこともあつて、大淀さんは深海棲艦の潜水艦の作業かもしれないつて言うんでな。俺達の他に秋津洲にも手伝ってもらおうつてとこなんだ」

提督「明石さんに頼んでこれを作ってもらつたよ」つ『瑞雲』&『三式爆雷』

秋津洲「潜水艦……あたし、そんなに力には自信ないかも……あたしじゃ力不足だし役立たずかも」

アール「なーに言つてんだ。役立たずだなんて思うやつがいるか」デコピン

秋津洲「あうっ」Σ（>∩<）

提督「艦娘は戦うことばかりじゃない……戦うこと以外にも人に役立つことはたつとくさ

んある。自分にもっと自信を持つんだ」ナデナデ

秋津洲「提督、アールロスさん…ありがとうかも…」

i n 港町

漁師A「おつ、提督さんにアールロスさん!! よく来てくれたぜ!!」

提督「漁師の皆さん、よろしくお願ひします」

漁師B「えっと、その子は…?」

秋津洲「え、えっと、水上機母艦の秋津洲です!! よ、よろしくお願ひしますかもです!!」アタフタ

アールロス「それで、状況は?」

漁師A「漁場と地引網を引く場所にアールロスが縄張りを張っちゃってよ。魚が獲れないし、漁船にも攻撃してくるんだ」

アールロス「アールロスか…こんな近くにまで来るなんて珍しいな」

提督「ふむ…アールロスの縄張りは物静かな場所にしか取らない。何かに追い出されたのかもしれないが、先にその場所からご退場させよう」

漁師B「今も他の漁師達がアールロスが縄張りを取っちゃった場所に行っているんだ。襲われていねえか心配だぜ」

提督「こうしちやいられないな。秋津洲達はその漁船の救助に向かってくれ」

秋津洲「は、はいかもっ!!」アセアセ

電「お助けするのです!」

五月雨「頑張りましょー!!」

in 漁場、その付近

秋津洲「提督さん達の帆船、すごく速いかも!」

提督「自慢の第二イサナ号だからな。島風も大喜びの速ささ」エツヘン

アーロ「むっ!! 提督、漁船が見えたぞ。ルドロスの群れに襲われてるぞ!!」

ルドロス達「三(、皿、)」帆船に体当たりや噛みついてる

漁師C「おらっ!! てめこのやろ!!」オールを振るう

漁師D「あつこらっ!! 網をかじるな!」

電「はわわわ!! 司令官、どうしましょう!」ハワワ

提督「こんな時は…音爆弾!!」ペケポン、テツテレテーテテー

アーロ「どこぞの青狸っばい!」

提督「これを投げつけるんだ。ルドロスが嫌がる高周波を出してルドロスを追い払えるぞ!!」

五月雨「よーし、投げますよー!! えいつ!!」

アール「俺の方に投げないでー!!」..:。(ε。(〇三)

五月雨「ああっ!?ご、ごめんなさーい!!」アタフタ

秋津洲「私が投げますかも!えーいつ!!」

キーン!!

ルドロス達「(皿、皿)二三アタフタ

提督「よし、追い払えたぞ」

秋津洲「皆さん、大丈夫ですか!」

漁師C「おおっ!!提督さんに、艦娘のお嬢ちゃん達かい!!」

漁師D「た、助かったー!!」ホッ

提督「俺とアールはこのままロアルドロスの縄張りへ向かってロアルドロスを追いつす。秋津洲達は漁師さん達を安全な場所まで避難させるんだ」

電「はいなのです!!」

五月雨「私達が押しますので任せてくださいね!」

漁師C「おお、ありがとうよ!!」

アール「よっしゃ。行くぞー!!」

五月雨「提督、アールさんお気をつけて!!」ノシ

ロアルドロス「(#、皿、)」威嚇

提督「そこは街に新鮮な魚を届ける大事なところなんだ。すまないが別の場所へ移動してもらおうぞ」つ輝王剣リオレウス

アール「美味しい魚の為に引導を渡してもらおうぜ!!」つディアールテミア

ロアル「三(#、皿、)」突進

提督「よつ、せいっ!!」エリアル回避からジャンプ斬り

アール「ほいっと、ロアルは楽勝だな」回避

ロアル「(、皿、#)」タックル

アール「わー!?ごめんなさい、楽勝じゃないです!!」(、ω、)・・・

提督「油断はすんなよ?慢心を捨ててかかれ!」

アール「ら、ラジャー!」(、皿、)

秋津洲「わお:提督さん達、すごいかも:」

電「でも、あの子達を追い出すのもなんだかわいそうなのです:」シヨボン

五月雨「大丈夫ですよ。提督は大怪我はさせない、追い出されたロアルドロスをもつと安全な場所を探すって言っていました」

電「そうですか:」

ザザザ・・・

秋津洲「？」

電「秋津洲さん、どうかしましたのです？」

秋津洲「いや・・・何かいたかも・・・」

漁師C「そういうえば、ロアルドロスが出て来てから魚が獲れにくくなってるんだよなあ・・・」

ロアル「(×皿×)」キュー

アール「ぜえぜえ・・・なんとか懲らしめたぜ」

提督「おま、被弾しすぎ」

アール「さてと、後はロアルドロスを海の方へ逃がすところなんだが・・・」ググググ・・・

ロアル「(；皿；)」イヤイヤ

アール「こらっ、てめ、嫌がるんじゃない」

提督「何かと海に入るのを嫌がるな・・・」

アール「・・・なあ、もしかしてロアルドロスがここを縄張りを取ったのは別の何かに襲われたからじゃねえのか？」

提督「もしそうだとすれば・・・やばい、秋津洲達が危ない!!」

ザザザ：

秋津洲「!? やつぱり何かいるかも! 下がるかも!」グイッ

五月雨&電「わっ!?!」

チャナガブル「(皿) (三) 海面からジャンプ

五月雨&電「(皿)。。」

秋津洲「チヨ：チヨウチンアンコウかも!?!」

漁師C「こいつあチャナガブルだ!! 近海で暴れてたのはこいつだったか!!」

漁師D「しかもでけえぞ!! お嬢ちゃん達、急いで逃げねえと丸のみにされるべ!!」

電「はわわわ!?! 大変なのですうー!!」アタフタ

五月雨「電ちゃん、お、落ち着いて、い、急ぎましょう!」アワワワ

秋津洲「：!! 私が気を引かせるかも!」ダッ

五月雨「あ、秋津洲さん!!」

秋津洲「こっちかも!」

チャナガブル「(皿) (三) ザザザ

秋津洲「え、ちよ、はやっ：」(皿) (皿)

チャナガブル「(、皿) (三) 飛び掛る

提督「オラー!! イサナ号アターツク!!」

チャナガブル「Σ(、皿) ;)」

秋津洲「て、提督!!」

アール「オラー!! ウチの子泣かした野郎はぶちのめしてやる!」(、皿) #) 三

チャナガブル「Σ(;、皿))」

秋津洲「提督…あの…」

提督「よく頑張ったな。あとは任せておけ」ナデナデ

in 海中

アール「この野郎!! アンコウ鍋にしてやる!」属性解放斬り

チャナガブル「(、皿))」針山タツクル

アール「ふべしっ」。3。) …∴

提督「こんにやろう!! くらえっ」抜刀斬り

チャナガブル「(;、皿))」怯み

提督「こいつもくらえ!」溜め斬り

チャナガブル「(#、皿))」尻尾攻撃

提督「あひい!?!、痺れる…」(;、皿))

アール「おい、麻痺ってんじやねーか!？」

チャナガブル「(皿)《《「フラッシュユ

アール「ちよ、しまつ、目がくらむ…!!」(；；；)

チャナガブル「(口)「三」吸い込み

アール「やべえやべえ!!吸い込まれるぞ」提督を引つ張る

提督「あ、やば…吸い込まれる」(；；；)

ボチャンツポチャンツ

アール「むむ?あれは、爆雷っ!!」海面から覗く

秋津洲「秋津洲流戦闘航海術を実践する時…かも!」瑞雲発進

瑞雲くバクライマツリダー!

Bomb!! Bomb!!

チャナガブル「(；；；皿)海面へ飛び跳ねる

アール「おおっ!!でかしたぜ!!」

提督「チャナガブルが怯んでる、今が好機!!」抜刀溜め斬り

アール「ウチの子を泣かす奴は…お仕置きだー!!」高出力属性解放斬り

チャナガブル「三(×皿;)」逃げ出す

提督「よし、これで撃退できた」

アール「一昨日来やがれー!!もう暴れんじやねーぞー!!」

秋津洲「提督、アールさん!!大丈夫ですかも!?!」

アール「いやー、でかしたぜ秋津洲!!」ガッツポーズ

提督「ほんと助かったよ。ありがとうな」ニッコリ

秋津洲「え、えへへ：お役に立てれて、嬉しいです：」

in 執務室

提督「いやー、南方海域に出撃する前に鎮守府近海の問題も片付けられてよかったよ」

アール「それに秋津洲も自信を取り戻したしな」

大淀「ずっと元気が無かったものですね。無事に解決できてなによりです」

秋津洲「提督、失礼しまーす!!」

提督「おつ、噂をすればだな。漁船や船の護衛、お疲れさま」

アール「書類整理も手伝ってくれてよく頑張ってるじゃないか」ナデナデ

秋津洲「えへへへ。街の皆さんも喜んでくれますし、お力になれてほんと嬉しいかも!」

大淀「頑張るのはいいのですが、あまり無茶しないようにしてくださいね」

秋津洲「はい、気を付けるかも!あ、でもこの後はジンさんがエリアルジャンプとエリアル回避のやり方を教えてくれるって言ってたかも!」

提督「え」

秋津洲「空母に負けないぐらい、頑張りますかも！それでは失礼します!!」

提督「…え、エリアルスタイルっておま…」（；ゝωゝ）

大淀「ああ…うちの鎮守府の空母、水上機母艦組がどんどん変になっていく…」

65 南方海域進出作戦

i n 執務室

提督「いよいよ南方海域に進撃だな」

ベル「ここからさらに手強くなってるみたいだね…」

ジン「ああ、補給拠点に向かうためにはまずは最初の海域を突破しなければならない」

つ浮き輪

アール「南方海域かあ…いいなあ」 つ浮き輪

霞「なんで浮き輪を持つてるのよ」

アール「噂によると他の鎮守府には水着で出撃してるらしいな」(……)

ジン「…艦娘達が水着なら俺達も夏気分でいなくては」(……)

大淀「もうそのシーズンは終わりましたよ？」

アール&ジン「なん…だと…」

霞「もう秋でしょ！」

鹿島「もう涼しくなってますよ？」

アール「バカな…数話前じゃ夏だったのに…!!」

ベル「それ以上いけない」アームロック

霞「ほんとこの人達は：司令官、編成は考えてる？」

提督「たしかここから艦種の編成によつて突破できないようだな」

大淀「はい。最初の海域は重巡と航巡の計2隻、駆逐艦の2隻を入れた水上打撃部隊を編成しなければなりません」

鹿島「それに海域を突破するためには空母や戦艦も必要になります」

ベル「しつかりとした編成じゃないと難しいというわけか…」

提督「なるほど…だとすれば…」

霞「だとすれば？」

提督「…その前に、航巡つてなに？」（…ω・ω）？

大淀&鹿島「ズコー」

霞「航空巡洋艦のこと!!航空機搭載数を増やし航空戦力を強化した艦よ!!」

提督「…誰かいたつて？」（…ω・ω）？

霞「ウガー!!あれだけ鈴谷さんを演習に出してもらつてるのにもう忘れたの!?!このクズ

!!」プンスカ

提督「…?」（…ω・ω）？

霞「…もう、ほんつとうちのクズ司令官は…」呆れ

アーロ&ジン「で、誰なんだ？」

霞「…なんでこう、バカばかりなのよ…」ヤレヤレ

ベル&鹿島「…」ニガワライ

i n 母港

鈴谷（航巡）「ちよつと提督ー！鈴谷は航巡になれるって言つてたのに忘れてたのー
？」プンブン

提督「ごめんね☆」(>ω・) テヘペロ

鈴谷「もー!!でも許してあげる!!」(>ω・) テヘペロ

提督「ほんとー☆ありがとー☆」(>ω・) テヘペロ

霞「ほら、遊んでないでさっさと編成する!!」ゲシゲシ

提督「いたたた!?ごめん、真面目にやります!!」(シ 且、)

ジン「…」コソコソ

提督「足柄を旗艦に、天津風、雪風、鈴谷、山城、加賀の6名で出撃する」

天津風「よし、さっそくあたしの出番ね！」

雪風「しれー!!雪風、がんばります!!」

加賀「南方海域の敵艦は執拗に駆逐艦を狙うと聞きます。私達でしっかりフォローし
ましょう」

鈴谷「了解!! 工廠で造った瑞雲の見せ所だもんね!」

ベル「後は…あれ? 足柄と山城は?」

足柄改二「(´・`ー´・`)」フンス

山城改二「(´・`ω´)`」アセアセ

提督「」

天津風「ちよ、なんで改二になってんの!」

大淀「や、山城さんに至っては設計図が必要では…?」

山城「き、近代化改修の際にジンさんが妖精さん達に『勇気の証G』を渡したら設計図と勘違いしてこうなっちゃったみたいで…」アセアセ

足柄「この高揚とした気分…いまなら夕級をワンパンで撃破できそう!」フンス

明石「大淀さん!! ジンさんはどこに行っちゃ知りませんか!」ゴゴゴゴ

大淀「あ、明石さん!?! か、顔が怖いですよ!」

明石「足柄さんは練度が上がってたので分かりますが…なんで『勇気の証』とかいうやつが設計図の代わりになるんですかー!」

山城「提督、これいいんでしょうか?」

提督「ま、まあいいんじゃない?」

アール「すっげえかつこよくなってるじゃん。いいじゃねえか」ウンウン

山城「か、かつこいい?…そ、そうよね。強くなったんですもの」

提督「さてと…この海域から敵艦は手強くなつてきている。皆、気を付けてくれ。そして無事に帰ってきてくるんだ」

艦娘一同「はい!」

in 南方海域全面

足柄「さあかかつて来なさい! 矢でも鉄砲でもドラゴンでもこーい!!」

天津風「ど、ドラゴンはダメでしょ!」

鈴谷「まあズイズイやかすみんとかはドラゴンを相手してたことあるみたいだよ?」

勿論私もー

天津風「うそ!」ギョツ

山城「高揚するのはいいけど、戦艦と潜水艦には気をつけなさいよ?」

雪風「潜水艦はお任せください!! 雪風が皆さんをお守りします!」フランス

加賀「…さっそくお出ましのようね。軽空母、戦艦、重巡が1隻ずつ駆逐艦が2隻:

潜水艦もいるわ」

足柄「しゃーおらー!! 来いやー!!」シユバババ

天津風「お、落ち着いてください! 先に航空戦ですから!!」

加賀「山城さん、艦載機を放った後敵戦艦をお願いします」

山城「勿論のそのつもりよ。お願いね」

加賀「では…行きます!!」艦載機発射!!

鈴谷「よし、瑞雲発進!」瑞雲発進!

艦載機<ジョイヤ>!!

駆逐二級A「ギヤヒツ!?」critical!撃沈

重巡り級「アワビユツ!?」critical!撃沈

戦艦夕級「邪魔な駆逐艦ヲ潰シテヤル!!」ドドーン!!

鈴谷「よつと!」雪風を引つ張つて回避

雪風「鈴谷さんありがとうございます!」

山城「執拗に駆逐艦を狙うのは調べ済みよ!!」ドドドーン!!

戦艦夕級「ギヤツ!?グヌヌ…」中破

足柄「行くわよー!!」ドーン

駆逐二級B「ギエピー!!」critical!撃沈

潜水力級「敵潜水艦ヲ発見!!」魚雷発射

天津風「こつちに潜水艦はいないわよ!」回避

雪風「ソナーで潜水艦の場所を特定できました!!」

天津風「よし…あそこね！連装砲くんやっちゃって!!」

連装砲くんへブルアアツ つ三【爆雷】

潜水力級「ギャン!?…今日モダメダツタカー(・ω・)」撃沈

鈴谷「航巡の火力を侮ったら後悔するよ!!」ドドーン

軽母又級「オシサーンっ!!」critical!撃沈

加賀「鎧袖一触よ。心配いらないわ」艦載機発射

戦艦夕級「グアアッ!?…オノレ…突破サレタカ…」critical!撃沈

足柄「しゃあっ!!前線哨戒部隊の撃破成功ね!」

雪風「うまくいきましたね!」

山城「まだ序盤、油断はしたらダメよ」

加賀「このまま進撃していきましょう」

——進撃し、敵空母護衛群も突破——

鈴谷「山城さん、大丈夫?」

山城「この程度はかすり傷だわ。もうすぐボス艦隊、このまま行きましょう」

雪風「もしもの時は雪風がお守りします!!」

山城「…うふふ、ありがとう」クスッ

足柄「オラー!!ボス艦隊、出てこいや!!」

天津風「ど、どこかの格闘家みたいになってますよ!」

加賀「見えてきましたね：空母、戦艦、重巡、軽巡が1隻ずつ、駆逐艦が2隻。駆逐
 以外はflagshipです。気を付けてください」

空母ヲ級「私ノ艦載機ニ弱点ハナイ!!」艦載機発射!!

加賀「やらせはしません」艦載機発射!!

鈴谷「瑞雲ちゃん、頑張つて!!」艦載機発射!!

艦載機<ドラララー!! 敵艦載機<コツチヲミロー!! バババババ

軽巡へ級「アンジェロツ!!」critical! 撃沈

駆逐二級A「アニキーツ!!」critical! 撃沈

空母ヲ級「私ノ艦載機カラハ逃レラレン!!」艦載機発射!!

敵艦載機<コツチヲミロー!!

鈴谷「きやあつ!? ちよ、いったーい!!」大破

山城「このつ：くらいなさい!」ドドーン!!

重巡リ級「コロンプスっ!」critical!×2 撃沈

戦艦夕級「中破シタ艦娘カ駆逐艦ヲ狙イ撃テ!」ドドーン!!

鈴谷「おつとつと：ただで沈むと思わないでよね!」回避

雪風「やらせはしませんよ!!」ドーン

戦艦夕級「ソナン豆鉄砲ナゾ痛クモナイワ!!」小ダメージ

足柄「うちの子達を傷つける輩は許さないわよー!!」ドドーン!!

空母ヲ級「グウツ!? : ナントイウパワーダ : !!」小破

加賀「このまま狙います」艦載機発射!!

駆逐二級B「ヤラセハセンゾ、ヤラセハセンゾー!!」庇つて撃沈

空母ヲ級「勝ツタ、第三部完!!」艦載機発射!!

敵艦載機<コツチヲミロツテイッテルンダゼ!!

天津風「きやああつ!? や、やったわね : !!」critical! 大破

戦艦夕級「コノママ沈ンデイケ!!」ドドーン!!

山城「そうはさせないわよ!!」天津風を庇つて中破

天津風「や、山城さん!？」

山城「不幸艦だと : 舐めたら痛い目に遭うわよ!!」ドドーン!!

戦艦夕級「ナツ!? 中破ダトイウノニナンテ火力ナノ : !!」critical! 大破

足柄「行くわよ!! これでもくらいなさい!」ドドーン!!

戦艦夕級「ガアアッ!? クツ : 油断シタカ : 」critical! 撃沈

山城「敵空母に艦載機を発進させないで!!」

空母ヲ級「イイヤ!! 限界ダツ!! 発進サセルネ!!」艦載機発射!!

敵艦載機<コツチヲミロー!!

天津風「加賀さん、危ない!!」

加賀「∴」ジャスト回避

天津風「」

山城「」

空母ヲ級「」

加賀「五航戦の子には負けていられませんから。これで終わりです」艦載機発射!!

艦載機<オラオラオラオラオラー!!

空母ヲ級「コ、コノ∴コノクソカストモガーっ!!」critical!撃沈

加賀「∴敵艦隊、撃破。突破成功です」キリッ

山城「ちよ、ちよっと!?!その動きなんなの!?!」

足柄「どうやって動くの?かっこいいんだけど!?!」キラキラ

加賀「ジンさん曰く『当たり前そうなきにバツつて飛んでシュバツと避けるのがコツ』
だそうです」

天津風「よくわからないのですけど!?!」

鈴谷「うちの空母組は避け方がすごいんだよねー」

雪風「しれー!!艦隊の勝利です!!」

提督『皆、無事でよかった…よし、このまま帰投してくれ』

ベル『気を付けてねー』

山城「ふう、それじゃあ帰還しましょうか」

鈴谷「もうボロボロー!!はやくお風呂に入りたーい!!」

加賀「…あら?向こうに見えるのは…」

足柄「艦娘のようね!おーい!」

衣笠「:んん?あたし達のこと呼んだ?」

比叡「もしかして、艦隊の人達ですね!」

雪風「はい!!よろしかったら一緒に行きませんか?」

鈴谷「うちの鎮守府は結構面白いところだよー」

衣笠「ほんと?それじゃあついていくわ!!」

比叡「こ、金剛お姉さまはいらっしゃいますか?」

山城「金剛もいるわよ」

天津風「まあうちの鎮守府の司令官達はちよつと変わってるけど…」

比叡「いやったー!!ぜひ行きます!!」

i n 母港

提督「バケツよし、食料よしと…」

霞「司令官、もうサンゴ礁沖の補給拠点へ行くの？」

提督「サンゴ礁沖から更に難関になるしな。突破するためには補給拠点を確保したのちすぐに再建できるようにしておかないと」

天龍「なあ、それだったら他にも物資が必要だろ？」

長門「それならば私達が運ぶのを手伝うぞ!!」

霞「そうね、司令官達だけじゃ補給拠点の再建は忘れ物が多そうで心配なもの」

ジン「そうだな…輸送任務というらしいな。彼女達に頼んだらどうだ？」

提督「ああ…霞、頼めるか？」

霞「もちろん、クズ司令官の秘書艦ですもの。任せておきなさい!」

天龍「…ところで、ジンさん。たんこぶできてるけどどうかしたのか？」

ジン「…好奇心の代償さ」ドヤツ

天龍&長門「???」

66 燃えよ斬○剣 『斬竜』 デイノバルド 前編

i n 珊瑚諸島沖

提督 「これが南方の海か。綺麗だなー」

ジン 「タンジアの海を思い出すな…」

霞 「ほら、関心しないで進みなさい」

天龍 「深海棲艦に見つからないように進むつてのは難しいなあ」

アール 「今度は飛ばしてみるか？」

ベル 「次の海域以降もけっこう大変って聞くしね」

プリンツ 「そのクジラさんみたいな船つて飛べるんですか!？」

ジン 「…素材が揃えれば、飛べる」

霞 「司令官達の故郷の素材つて飛びぬけておかしいものもあるのね…」

提督 「ぬつ、あの島か…見えてきたぞー」

ジン 「岸辺に上陸する。長門たちは浜で待つてくれ」

長門 「うむ…ところで、この島に何がいるんだ？」

アール 「鉄も焼き切るヤバイ奴がいる。いいな？危険だからそこで待つてろよ？」

天龍&プリンツ「ウズウズ、ワクワク

アール「フリじやねーから」

i n補給拠点

提督「うわあ…壁も綺麗に斬られてるな」

ジン「溶岩でもかけられたかのように鉄が溶けた跡もあるな…」

アール「鉄塔もスッパリ切り倒されて…もう奴確定すわ」

ベル「でも、なんでこの補給拠点を襲ったんだろうね」

ズウウウン…

アール「この大きな足音と…刃物を研ぐような音…」

提督「ああ、来るぞ」

デインバルド「(皿)」グルルル：

ジン「…思った通り、巨大な剣のような尻尾を持つ獣竜種『斬竜』デインバルドか」

ベル「つて、ちよつと待って!?!あいつの尻尾の刃、やけにでかくない?」

アール「普段なら青い刃の尻尾なんだけが…青黒い?」

デイン「(皿)」グオオオオオツ!!

提督「なんかヤバそうだけどやるぞ!」つ水刃剣ガノトトス

ジン「俺とアールで頭を狙う」つ水鎚ヴォジャノーイ

アール「よっしゃ、爆発させてやんぜ!!」つブラックフルガード

ベル「じゃあ提督と俺で尻尾をやるよ!」つフローズンクリーパー

ディノ「(皿) (三) ジャンピング尻尾叩き付け

アール「こええっ!」ガード

ジン「ふんっ」ジャスト回避

提督「尻尾を攻撃だ!!」抜刀斬り

ガガガガ

ディノ「(皿) (皿) (皿)」鏢競り合い

提督「ちよ、堅いし重い!」

ディノ「三(皿) (皿) (皿)」尻尾振り払い

提督「うおっ!」ガード

アール「おりやあっ!!」斧モード叩き付け

ディノ「(皿) (皿) (皿)」刃尾でガード

アール「おおっ!」でけえし堅い!」

ディノ「(三) (皿) (皿)」単発マグマブレス

アール「あつつうい!」...ε。(三)

ベル「尻尾が堅いなら：先にこかせる！」斬り払い

デイノ「（、皿、）」2連続噛みつき

ベル「ひえっ!?!あ、危なかったー」ジャスト回避

デイノ「グルルルル：」喉が赤くなる

ジン「喉が赤くなった：体の中にある『火炎囊』で生成されるマグマが喉付近まで溜まったようだな」

アーロ「おし、頭を攻撃しまくって口内のマグマを爆発させりやダウンするぜ!!」

提督「そっちは任せたぞー!!」

デイノ「〇三〇三〇三（、皿、）」三連マグマプレス

アーロ「うおおっ!?!」ガード

ジン「ぬん!!」ジャスト回避し頭へ振り下ろし

デイノ「（、皿、；）」怯み

提督「俺達も続けたいけど：」振り上げ
ガキンッ

提督「やっぱり堅すぎい!?!」

デイノ「（、皿、#）」回転斬り

ジン「ぐっ!?!」

提督「おおっと!」ガード

ディノ「(皿 #) 尻尾をコンクリの壁や鉄に擦る

ガガガガg…

ディノ「(皿 #) 威嚇

ベル「ついに尻尾も赤熱したね。これで尻尾に刃が通りやすくなる」

提督「…わかった。あいつがここを襲った理由」

ベル「どういうこと?」

提督「…鉄だ」

アーロ「鉄? ガンキンみたいに食うのか?」

提督「ディノバルドの尾刃には大量の鉄分が含まれる。尾刃は牙や地面で研ぐけど火炎囊のマグマで熱しても年を取るにつれ鉄が擦り減って薄くなっていく」

ジン「…高齢のディノバルドの尻尾にはほぼ青い尾殻がはがれて赤い鱗が見えるしな」

提督「あいつは偶然、補給拠点にある鋼材を見つけたんだろう。尾刃を永く持たせる貴重な鉄だ。」

アーロ「つーことは…今のあいつの尾刃はその鉄を溶かしてコーティングした、切れ味も厚さもすげえってことかよ」

ベル「普段は地面に何回か擦り付けて赤熱化するけど、コンクリや鉄は最高の砥石でもあるわけか」

ジン「だからここを襲ったわけか。賢い奴だな…」

デイノ「(皿、皿、皿) ジャンピング尻尾叩き付け

ジン「避ける!!」回避

アール「おわっ!?」ガード

デイノ「(皿、皿、皿)」2段叩き付け

ベル「こわっ!?」ジャスト回避

提督「あ、危なかったー…ってウワツ!?」

コンクリの壁へ斬られちまったよ…真っ二つにな…

ベル「…うそでしょ。切れ味やばいよ」

ジン「赤熱化したときに尻尾を切断しやすいけど、威力が強いというが…」

アール「斬られたくないでゴザル」

提督「ええい、ビビっていても罅が明かない!やるしかない!!」抜刀斬り

デイノ「(皿、皿、皿)」嘔みつき

提督「大剣ガードっ!!」ガード

ベル「作戦変更、4人がかりで頭を狙おう!!」鬼人化連続斬り

ジン「ダウンしたら真っ先に尻尾を斬れ！」2回振り回し

ディノ「○三(皿#)移動しつつマグマプレス

アール「同じ手はこの俺に通じるかよっ!!」ガードポイント

ジン「よし、今だ!!」スタンプ

Bomb!!

ディノ「(；皿、)」口の中で爆発しダウン

アール「畳み掛けろー!!」属性解放斬り

提督「起き上がる前に尻尾にダメージを蓄積させるぞ!!」抜刀溜め斬り

ベル「はやく斬れろー!!」鬼人化乱舞

ディノ「(皿#)」起き上がる際に回転斬り

アール「ひえっ…防具が頑丈でよかつたー」受け身

ベル「むむむ、まだ尻尾は切れないみたいだね…」

提督「ああ、だが一段階は部位破壊できたと思うぞ」

ディノ「(皿#)」尻尾を口に啜える

ガガガガガッ…

提督「やばいつ!!あいつが尻尾を啜えて力を溜めてる時は一番ヤバイ!!」アタフタ

ジン「いいな。避けることを専念しろ！」

提督「ちよ、二人とも吹っ飛んだー!?」(； 皿、)

ジン「間に合え！」つ生命の大粉塵

提督「二人とも大丈夫か!？」

アーロ「よ、鎧が頑丈じゃなかったら真っ二つになってたでゴザル…」

ベル「し、死ぬかと思つた…」

ジン「…ルルカが大粉塵を置いてくれてよかつた」

提督「よかつた…気を引き締めてかかるぞ!!」

67 燃えよ斬○剣 『斬竜』 デイノバルド 後編

提督「だりやああっ!!」抜刀斬り

デイノ「(皿C)」尾刃で防ぐ

提督「くそつままだ堅いかー」

アール「ジン、打ち上げるぜえ!!」打ち上げ

スコーン

ジン「せいっ!!」ジャンプ攻撃しライド

デイノ「(皿;)」暴れる

ジン「ぬうっ?!かなり暴れるな…!!」ザクザク

ベル「おつとつと…尻尾のリーチが長いから暴れるとき当たりやすいんだよね」(;

皿)

ジン「倒れるぞ!!」

デイノ「(皿;)」転ぶ

アール「よっしゃ、攻めるぜー!!」属性解放斬り

提督「しまった。尻尾の赤熱化が切れてる!!」弾かれる

ディノ「(皿、#)」尻尾振り払い

ベル「おうふっ」(皿、)

提督「ふぶっ」(、3、)・・・

ディノ「(皿、#)」喉が赤くなる

アーロ「2回目がきたか。今度も爆発させてやるぜ!!」斬り込み

ディノ「(#、皿、)三〇」避けて死角からマグマブレス

アーロ「またかよ、あつつうい!?!」三〇」(皿、；)

ジン「くらえっ!!」振り下ろし

ディノ「(皿、#、三)」噛みつき

ジン「おっふ」(、3、)・・・

提督「せいっ!!」抜刀斬り

ディノ「(；、皿、)」怯み

ベル「もういつちよ!!」鬼人化斬り込み

ディノ「(#、皿、)」回転斬り

提督「ガードっ!!」大剣ガード

ベル「ひえっ」ジャスト回避

ディノ「(#、皿、)」尻尾をコンクリの壁に擦りつける

提督「尻尾も赤熱化したみたいだな。この間で尻尾を斬るぞ」
 アーロ「俺もそつちに手を貸すぜ」

デイノ「三（#、皿、#）」ジャンピング叩き付け

ジン「ふっ」ジャスト回避

アーロ「あぶねえっ!?」ガード

デイノ「三（#、皿、#）」2段叩き付け

提督「本当にあの刃で斬られたくないな…」エリアル回避

デイノ「（、皿、#）」尻尾を口に啜える

ガガガガガガッ…

ベル「げえっ!? また大回転斬りが来るよ!?!」

アーロ「こ、今度は油断しねえぞ!!」

ジン「タイミングを間違えるなよ?」

提督「来るぞ!! セーので避けるからな…セーのっ!!」

デイノ「（、皿、#）三」尻尾大回転斬り

提督たち「「「「ダイブッ!!」「」」」緊急回避

デイノ「（#、皿、#）」再び尻尾を口に啜える

ガガガガガガッ…

アール「さつきは避けれたけど…せーのの『の』で避けるのか!?それとも『っ』で避けるのか!」

ベル「いや『せーの』でしょ!」

ジン「提督、どっちだ?」

提督「どっちでもいいよ!?てゆうか次来てるからな!?避けるぞ…せーのっ!!」

ディノ「三(＃、皿、)「尻尾大回転斬り」

提督「こええっ!」緊急回避

ジン「ふんっ!!」ジャスト回避

ベル「あ、あぶない!!」緊急回避

アール「つ、つまらぬもので斬られるところだった…」緊急回避

ディノ「〇三〇三〇三(、皿、＃)「三連マグマプレス」

提督「ち、散らばれ!!」ダッシュ

アール「逃げろ!!」三(；、皿、)

Bomb!!

アール「ひええっ!」(；、皿、)(三

ベル「あ、あぶなっ!?地面に落ちてても爆発するのを忘れてた…」ジャスト回避

ジン「いい加減に、スタンしろっ!!」スタン

デイノ「(#、皿、>) 尻尾を振り下ろして防ぐ
ジン「なっ!？」 鏢競合い

デイノ「(、皿、#) 三」力任せに振り回す

ジン「ぐうっ!」(；、皿、(

ベル「ジンが吹っ飛ばされた!」

アール「武器も吹っ飛んだ!? ちよ、せこいぞ!!」

デイノ「(、皿、#) 三」ジャンピング叩き付け

ジン「っ!？」

提督「ジン、危ないっ!!」ジンの前に立ち大剣ガード

ギギギギ…

提督「ふ、ふんごおおっ」鏢競合い

デイノ「(、皿、#) 力任せに押し込む

提督「ぐおおお…って刃先がっ!?! 長い刃先が顔に当たりかけてるー!?!」Σ(川、皿、)

デイノ「(、皿、#) 三」さらに押し込む

提督「ひ、ひえええ」(；、皿、(

アール「あの野郎、ごり押しでぶった切るつもりかよ!!」ダッ

ベル「そうはさせない!!」ダッ

●三●三 ヒューン…

ディノ「Σ(皿; ;)」critical!

アーロ「うおっ!?爆発した!」

ベル「ちよ、今の砲撃つてもしかして…」

長門「ふっ…でつかい蜥蜴め。このビッグセブンの力、侮るなよ?」(; ;)

b

プリンツ「侮るなよー!!」

ベル「か、かつこいいけど…なにやってんのー!」

アーロ「フリじやないからって言ったのにー!!」(; ;)

提督「でも助かった!ナイス!!」

天龍「ジンさん、俺の刀を使ってくれ!!」つ三「刀」

ジン「…でかした。うおおお!!」受け取って切り上げる

B o m b !!

ディノ「(; ;皿、)」口内で爆発を起こしダウン

提督「よしっ!!ダウンを取れたぞ!!叩き切れ!!」ジャンプ溜め斬り

ジン「斬るっ!!」ブンツ

ガキンツ

デイノ「(； 皿、)」刃尾切断

ベル「やったー!! 刃尾が斬れたぞー!!」

アーロ「からの…ごり押しじやーい!!」高出力属性解放斬り

デイノ「(×皿×)」スタン

アーロ「しゃあつ!! スタンじやおらーつ!!」

ベル「いいよ!! このまま攻めよう!」鬼人化乱舞

提督「せいやーつ!!」ジャンプ溜め斬り

ジン「これで決めるっ!!」ブンツ

ズバンツ

デイノ「(×皿×)」ズズウウンツ「目標を達成しました」

アーロ「な、なんとか倒せたー」ヘナヘナ

ジン「まだ序の口だぞ。この次からがもつと厄介だ…」

ベル「一先ずは、珊瑚諸島沖の補給拠点の奪還に成功だね」

提督「ああ…やれやれ、本当にお前達ときたら…ま、おかげで助かったよ。ありがとう

う」ニッコリ

長門「ふつ、私達の提督だ。守るのも艦娘達の役目でもあるさ」ドヤツ

天龍「とか言ってもまた提督が大怪我でもしたら霞が怒るからな」ニヤニヤ

プリンツ「本当は天龍が見たい一心だったし、長門さんも興味津々でしたもんね」

ベル「好奇心とは恐ろしいなあ」

ジン「…しかし、天龍のおかげだ。ありがとうな」

天龍「えへへへ。俺の刀も役に立ってよかつry」

パキンツ

ジン「あつ」

天龍「（ハ）。。」

提督「まあ…ディノバルドの甲殻も刃尾も結構堅いから…」

天龍「お、俺の刀があああつ!?!」

ジン「…すまん」（…ω…）」

霞「それにしても…危険な海域だというのに、無事に回収にくるギルド本部の船ってすごいわね」

提督「遠い時は飛行船で来るし、道中大型モンスターに襲われても多少はビクともしない頑丈な作りだからね」

長門「しかし、物資も運んできたが…思った以上に壊されていたとはな…」

アーロ「そんな時こそ、高速修復剤の出番だぜー!!」つ【バケツ】

霞「ちよっ!? そんなの持つてきたの!？」

アーロ「ぶった斬れたコンクリの壁にぶっかけると…あーら不思議!! 斬れた跡が塞がって元通りに!!」

プリンツ「おおーっ!? とつても便利ー!!」キラキラ

アーロ「そーれ、もつとかけるー!!」ヒヤッハ

プリンツ「私もやるー!!」ウキウキ

天龍「なあ、それってうちの鎮守府のバケツじゃ…」

ベル「ああ…絶対に戻ったら大淀さんが怒ってる…」

霞「…司令官、鎮守府に戻ったら大忙しになるわよ?」

提督「俺達は輸送作戦と海域攻略の二つをこなさくちやいけないんだよね?」

霞「ええ、補給拠点の物資の輸送と珊瑚諸島にいる姫級鬼級の深海棲艦との直接対決よ。私がビシバシとサポートしてあげるからね、根性いれなさいよ!」

提督「おーし、やるぞー!!」フンス

ジン「…天龍。その刀、俺が直してもいいか?」

天龍「え? ジンさん直せるのか!？」

ジン「……これでも鍛冶屋の資格もとっている。俺に任せろ」（……）b

天龍「本当か!? ありがとう!」キラキラ

ベル「……嫌な予感しかない」

【孫娘提督の依頼①】 ディノバルドの討伐成功により完遂ス】

68 珊瑚諸島沖海戦

in 執務室

提督「さあ珊瑚諸島沖の攻略の開始だ!!」

霞「いよいよ姫、鬼級との対決よ。気合いを入れなさい」

ジン「姫に鬼、か…強そうだな」

大淀「提督、姫や鬼級の深海棲艦等、強力な敵艦がいる場合は攻略が少々変わっています」

ベル「えっ、変わってるの?」

大淀「強力な敵艦は一回の戦闘ですぐにやられることはありません。敵艦隊と何回も戦闘をして撃破できれば変化します。私達はその目安を『ゲージ』と呼んでいます」

ジン「そのゲージが無くなるまで戦わなくてはならない、ということか」

鹿島「はい、ゲージが無くなり、撃破できれば海域突破、勝利となります」

提督「むむむ…なかなか難しいな…」

霞「そこが肝よ。司令官の指揮によって早く攻略できれば長期戦にもなるわ」

大淀「珊瑚諸島沖は空母が2人、軽空母が1人を入れなくてははいけません。制空権、火

力をうまく組み合わせましょう」

i n 母港

明石「いいですか？私と鹿島さん、ベルさんとアールさんで輸送作戦の指揮を行います」

アール「要はドラム缶を乗せればいいんだろ？」

明石「楽な任務ではありません。ドラム缶を積む分、敵艦に狙われやすくなります。更には機雷があつた場合、かなりの被害も及ぶので気をつけなければなりません」

ベル「意外と難しいんだね…」

明石「大発動艇があればいいんですが…今回は駆逐艦の5人にドラム缶を装備させ、軽巡を旗艦にした部隊でいきましょう」

響「輸送も立派な任務。心していこう」

長波「久々のドラム缶だ。やつふー!!」ウキウキ

川内「軽巡の旗艦は私と阿武隈と天龍と矢矧の4人で交代でやるよ!」

阿武隈「き、緊張するけど…頑張ります!!」

天龍「うっしやあ! うちよやるぜ!!」

矢矧「さあ張り切っていくわ!!」

アール「提督程じゃねえが…指揮をするつてのは緊張するな!」

明石「え、アールさんも出撃ですよ？」

アール「フアツ!？」

明石「アールさんは…遠征任務もやってもらいますからね？」ニコニコ

シオイ「アールさんは私達と珊瑚諸島沖の潜水任務だよー!!」

ゴーヤ「え？アールさんも泳げるデチ？」

イムヤ「うん、とつてもスゴイの!!チャチャとカヤンバも連れてつたらもつとすごいよ!!」

シオイ「アールさん、今回もがんばろ！」

アール「あ、明石さん!? なしてどうして!？」

明石「…先日、鎮守府の溜めてたバケツが半分になるほど拠点に使ったのは誰ですかねー?」ニッコリ

アール「しやあつ!!いくぞデメーラ!!ガノトトスでもチャナガブルでもラギアクルスでもかかつて来やがれてんだー!!」ダダダッ

ベル「がんばれー」ノシ

アール「あつ、てめつ!!棒読みかよ!!」

珊瑚諸島沖攻略組

提督「よし…旗艦は金剛に続いて北上、木曾、赤城、瑞鶴、龍驤で出撃をする」

金剛「F o o o ! テイトクー、待ってマシター!!」

北上「作った『甲標的』をはやくぶっぱなしたいわー」

木曾「緊張するな…」

長門「金剛、私とビスマルク、リットリオと交代で出撃もする。だからあまり無理はするなよ?」

金剛「OK!! 精一杯、f i g h t してきますヨー」

赤城「龍驤さん、瑞鶴さん。私達の頑張りで制空権が取れるかどうか掛かかるでしょう。気を引き締めていきましよう!」

龍驤「オオー!! うちもやったるで!!」

瑞鶴「…が、頑張れるかな?」

提督「…皆、この戦いからかなり大変になっていくだろう。でも、いつかの沖ノ島の時のようバツクには俺達がいる。どんなに辛くても俺達が支えてやる。だからともに頑張ろう! さあ出撃だ!!」

艦娘一同「はいっ!!」

i n 珊瑚諸島沖「ボス戦一回目」

龍驤「金剛、大丈夫なん?」

金剛「ノープロブレム。心配はいりませんヨー」

雷鶴 「しかし初戦が潜水艦で焦ったわ：一斉に『敵の潜水艦を発見!!』とか言つて魚雷を撃つてきた時はほんと：」

赤城 「木曾さんと北上のおかげでなんとかなりました」

北上 「でもその次の空母も手強かったねー」

木曾 『『甲標的』の活躍で切り抜けたけど：いよいよだな』

提督 『次のポイントにボス艦隊がいる。気をつけて!!』

赤城 「見えました：敵艦隊発見です!!」

龍驤 「えーと：駆逐が2隻、軽巡と重巡が1隻、そして：」

装甲空母姫 「ウフフフ、ココマデ来ルナンテ中々ヤルジヤナイ?」

装甲空母鬼 「サアテ、才前達ヲ沈メテヤロウカシラ」

金剛 「あれが装甲空母姫と装甲空母鬼：!!」

瑞鶴 「い、いきなり姫級と鬼級のタッグつてずるいでしょ!？」

赤城 「さすがですね：でも、負けませんよ!!」

装甲空母姫 「サア行ケツ」艦載機発射

装甲空母鬼 「アハハハツ!!」艦載機発射

赤城 「私達もやりましょう!」艦載機発射

瑞鶴「よし…やってやろうじゃないの!!」艦載機発射

龍驤「艦載機の皆あ!!お仕事やで!!」艦載機発射

艦載機<アタタタタター!! 敵艦載機<ヒヤツハー!!シズメー!!

金剛「対空砲、ファイアー!!」ドドーン

北上「ひたすら避けなきや」アタフタ

龍驤「きやあつ?!あ、あかーん!」中破

駆逐八級A「ギヤバンツ!」critical!撃沈

駆逐八級B「シヤリバンツ!」critical!撃沈

北上「木曾、今度は私達の番だよー!!」魚雷発射!!

木曾「ああ、度肝を抜かせてやる!!」魚雷発射!!

軽巡ホ級「ジャンパーソンツ!」critical!撃沈

装甲空母鬼「グウツ!ヤ、ヤツテクレルジヤナイノ…」大ダメージ

金剛「行きますつ!!ファイアーツ!!」ドドーン!!

装甲空母鬼「キヤアツ!コ、コノツ…」critical!中破

重巡リ級「ガンギブソンツ!!」ドドーン

北上「ひやあつ?!そ、装甲はそんなに強くないんだよー!」小破

木曾「姉さん!!このつ!!」ドドーン

重巡り級「ギャバソっ」小破

赤城「くらいなさいっ!!」艦載機発射

装甲空母姫「クツッ：痛いジャンイノツ!!」critical!

装甲空母鬼「生意気ナ艦娘共メ、沈メ!!」ドドーン

赤城「あ」フレーム回避

装甲空母鬼&装甲空母姫「」。。(ㄩ)

龍驤「そ、そこでもやっちゃうんかい!？」

装甲空母姫「チョット!？被弾シヤスイ空母ガ避ケルノツテズルイワ!？」プンスカ

装甲空母鬼「ソウヨ!!ソナナノアリナノ!？」プンスカ

瑞鶴「そっちは装甲が堅かったり攻撃力が高かったり、当たらなかつたりするじやな

いの!!」

装甲空母姫「グヌヌ：ソノ減ラズロヲ黙ラセテヤル!!」ドドーン!!

瑞鶴「だったら私だつて!!」ジャスト回避

装甲空母姫「オマエモカーイ!!」(#。(ㄩ))

瑞鶴「ジンさん直伝、避けてからの溜め打ち!!」艦載機発射!!

装甲空母姫「キヤアアッ!？ナ、ナンテ奴等ナノヨ：ツ!!」critical!中破

金剛「テイトク!!これなら夜戦に突入できマース!」

北上「今の相手は別の意味で参ってるからいけるよ!!」

提督『あ、ああ…それじゃ夜戦に突入だ!!』

―夜戦突入!!

金剛「行きますよー!!全砲門fire!!」ドドドーン

装甲空母鬼「キヤアアツ!?クツ…油断シタワ…」critical!撃破

装甲空母姫「コノ…深海棲艦ヲ舐メルナアツ!!」ドドーン

木曾「ああつ!?くうつ…やるじゃないか」大破

北上「このハイパー北上さんの魚雷をくらえーっ!!」バシユツ

装甲空母姫「グアアツ!?ヤラレタカ…次ハ上手クイカナイト思イナサイ…」crit

icall!撃破

重巡り級「旗艦ガヤラレタ…撤退スル!!」

金剛「やつふー!!提督、私達の勝利デース!!」

赤城「まずは一戦目ですな…」

北上「短くてもあと4回もあるんでしょ?大変だよー…」

木曾「でも…空母組は何だか負けない気がする」

龍驤「姫と鬼もギョツとしてたもんなあ」ニガワライ

瑞鶴「これならどんどんいけるわ!!」

提督『さ、最初はどうか緊張したよ…無事でよかった。でも、これから敵も強力になってくる。油断はできないからね』

金剛「ひとまず帰還しマース！」

輸送作戦組

i n 補給拠点

長波「ふー、やっと到着したー」

如月「道中、軽空母がいたり戦艦がいたりと大変だったけど無事に輸送できたわね」

響「まだまだ序盤。拠点が復旧できるようもつと物資を運ばなくちゃ」

阿武隈「ふええ…やっぱり大変だねー」

潮「でも私達の運ぶ物資で拠点が再建できるなら、嬉しいですね」

ベル「みんな、よく頑張ったね」

島風「ベルさん!?!来るのはっやーい!!」

阿武隈「ベルさん、鎮守府にいたのにいつの間に来てたんですか?」

ベル「拠点の再建中に別の大型モンスターが入ってこないよう見回りさ」

黒丸「オトモアイルーも大活躍ニヤ!!」

鹿島「わ、私もベルさんの手当てとか…ベルさんをサポートします!」

長波「へー、よかったじゃんベルさん。鹿島さんときつきりじゃん?」ニヤニヤ

島風「ラッブラブー」

響「ハラシヨー」

如月「うふふ、羨ましいわー」ニヤニヤ

ベル&鹿島「(／ω＼*)」テレテレ

潮「黒丸ちゃん達も怪我しないよう頑張つてね」ナデナデ

黒丸「…潮ちゃんは天使だニヤー」

——一方その頃——

in工廠

天龍「ジンさん、阿武隈が出撃している間に俺の刀を直してくれないか？」

ジン「ああ、任せておけ」フンス

天龍「いやー、ジンさんが鍛冶もできるなんてすごいよ」

ジン「照れるな…ところで、天龍」

天龍「ん？」

ジン「…どんな風にしたいか？」キラキラ

天龍「…えっ？」

ジン「お前の刀をどんな風にしたいか、それで出来具合が変わる」キラキラ

天龍「え、えつと…お、お任せでいいか？」

ジン「……任せろ」(……) b

天龍(あれ?なんだか嫌な予感がするぞ……?)

———— 数時間後 ————

天龍「……」

龍田「あら天龍ちゃん。ジンさんに刀を直してもらったの?」

天龍「あ、ああ……」

龍田「あら?どうかしたの?」クビカシゲ

天龍「刀は直ったのはいいんだけど……」刀を抜く

ブンツ ボツ!!

天龍「と、時折炎が出たりするようになった……」(……) ㊦、)

龍田「」

———— 天龍の刀 ———— 火属性付与 ————

龍田「じ、ジンさん!?!どんなの入れたらあなるの!?!」

ジン「ん?斬竜の堅殻を数個、逆鱗と火炎囊も入れて……獄炎石も使った」

天龍「それだけで炎が出る刀にするとかそつちの国の鍛冶屋の技術は恐ろしいな!?!」

——一方その頃、遠征組——

アール「おらーっ!! このクソ魚!! どきやがれ!!」、(#。D。)ノ
ガノトトス亜種「Σ(、皿、;)」

アール「さっさと引導を渡せー! そしてバケツをよこせー!!」、(#。D。)ノ
チャチャ「凄いつつチャ!! アール殿怒りのバケツ探しだつチャ!!」

カヤンバ「ワガハイ達も負けていられないンバ!! 踊るンバ!!」

ゴージャ「す、すごいデチ: 水中で喋れてでかい魚と大暴れしてるデチ」アワワ
イムヤ「ね? アールさんってすごいでしょ!!」

シオイ「提督さん達はあの魚の数倍のでかさのある奴とも戦ったからね!」

ガノトトス亜種「三(、皿、)」

アール「バケツよこせー!!」三(#。D。)

——バケツが溜まる道のりはまだまだ遠い——

69 強敵、南方棲戦鬼

提督「みんなおかえり!! よく頑張ったな!」

金剛「イエス!! 私の活躍見てくれましたか?」キラキラ

ジン「…木曾、龍驤はゆつくり休め」

木曾「ジンさん、すまない」

龍驤「うちの出番が必要やったらいつでも呼んでや。バケツ被っていくからさ」

加賀「赤城さん、お疲れ様。次は私と大鳳が出撃します」

赤城「加賀さんありがとうございます」

瑞鶴「…」ウズウズ

加賀「…瑞鶴も、よく頑張ったわ。でも油断はしないようにしなさい」

瑞鶴「は、はいっ!!」

長門「提督、私達はいつでも出撃できるぞ」

提督「だ、大丈夫なのか? 休んで明日からでも…」

霞「敵艦は士気が低下してるわ。今が攻め時よ」

北上「ローテーションを組んで出撃すれば疲労しないから大丈夫だよ」

提督「：よし、わかった。第二艦隊を編成して出撃だ！」

「初戦で士気が低下しているうちに出撃を続けた」

○2 戦目

長門「全砲門斉射!! てえーっ!!」ドドーン!!

装甲空母鬼「ヒヤアッ!? アノ戦艦、イロンナ意味デ熱スギルンダケド!?」

装甲空母姫「忌々シイ空母メ：今度コソ沈メツ!!」ドドーン!!

加賀「：：」フレーム回避

装甲空母姫「エエツ!? お前モカヨ!!」プンスカ

装甲空母鬼「ダツタラ：ナンダカ貧弱ソウナアノ空母ヲ沈メテヤル!」ドドーン!!

大鳳「ひやああつ!? あ、危なかった：」ジャスト回避

装甲空母鬼「ナンナノヨ!? コノ空母ドモハ!?」

衣笠「へー：：この鎮守府の空母って変わってるねー」

比叡「空母もできるってことは：軽空母も?」キラキラ

飛鷹「い、一応私は普通の軽空母だからね：?」アセアセ

○翌日、3 戦目

リットリオ「行きます!! 主砲放て!」ドドーン!

プリンツ「リットリオさんに続けて撃ちます!!」ドーン!!

那智「ふっ：これが三位一体ならぬ三國一体砲撃だ!!」ドドーン!!

装甲空母鬼「ソナ砲撃ナイワヨ!？」

加賀「五航戦には遅れをとるつもりはないわ」ジャスト回避

瑞鶴「ちよつと!?!本人が近くにいるところで言うセリフ!？」フレイム回避

装甲空母姫「：エエイ、鎮守府ノ正規空母ハ化け物カ：!？」

―鎮守府側夜戦にてS勝利後―

装甲空母姫「ウウ：ナンナノヨ：アノ空母ドモハ：」プスプス

装甲空母鬼「今マデ艦娘共ト戦ツテ来タケド：アンナ艦娘ハ見タコトモナイワ：」プ
スプス

装甲空母姫「マズイワネ：コノママダト一方的ニ負ケテシマウワ：」

???'「随分ト無様ニ負ケテルヨウワネ：」

装甲空母姫「お、お前は：南方棲戦鬼!!」

南方棲戦鬼「イツモナラモウ少シ善戦シテルノニ、モウボロボロニナルナンテ珍シイ
ワネ」

装甲空母鬼「今回の艦娘共は今までと違うわ。特ニ空母ガヤバイノヨ」

装甲空母姫「当タツタラト思ツタラヒラリト避ケルノ」

南方棲戦鬼「アラ？面白ソウジヤナイ：今度ハ私ガ出撃スルワ。貴女達ハ下ガリナサ

「イ」

装甲空母姫 「…ワカッタワ。ワルイワネ」

装甲空母鬼 「油断ハ禁物ヨ…」

—— 出撃4戦目 ——

北上 「いやー、順調にすすんでるね！」

瑞鶴 「『ゲージ』の撃破は最短で4回。うまくいけば最短で突破できるわ」

龍驤 「おおしつ!!この調子ならいけるで!!」

赤城 「慢心は禁物。次はうまくいかないかもしれないかもしれませんよ」

木曾 「次で勝利すれば海域突破…緊張するぜ」

ビスマルク 「!?敵艦隊が見えてきたわ!!…どうやら相手も本気を出してきたみたいね…」

南方棲戦鬼 「フフフ…カカツテ来ナサイ。見事返り討チニシテヤルワ」

龍驤 「ちよ、装甲空母コンビじゃないの!？」

北上 「あれならいけると思っただのにー!!」

赤城 「南方棲戦鬼だけじゃない。空母が2隻、戦艦夕級、駆逐2隻…かなり手強いようですね」

ビスマルク「こちらだつて負けるつもりはないわ…行くわよ!!」

空母ヲ級A「ハトムギ!!」艦載機発射!

空母ヲ級B「ゲンマイ!!」艦載機発射!!

赤城「艦載機の皆さん、行きますよ!!」艦載機発艦!!

瑞鶴「続けて行きます!!」艦載機発艦!!

龍驤「さあ皆、行くでー!!」艦載機発艦!!

艦載機<ウオオオオツ!! 敵艦載機<ソウゲンビチャー! ババババツ

ビスマルク「対空砲! 敵主力とやる前にやられたらダメよ!!」バババツ

木曾「姉さん!! こっち!」北上を引つ張る

北上「おおつ!? 当たる所だったー。木曾、ありがとうね」

駆逐口級A「ナマチヤツ!?」critical! 撃沈

空母ヲ級B「ツキミソーツ!?」critical! 中破

戦艦夕級「ギヤツ!? ヤヤツテクレルワネ…」小破

北上「さあ今度は私達の出番だよ!!」魚雷発射!!

木曾「ああ、一泡吹かしてやる!」魚雷発射!!

空母ヲ級B「アヤタカツ!?」critical! 撃沈

南方棲戦鬼「ツト…ウフフ、ヤルジヤナイノ、ソウコナクチャ」小破

ビスマルク「だったら…これでもくらいなさい！」ドドーン!!

駆逐口級「イトウエンツ!!」南方棲戦鬼を庇って撃沈

南方棲戦鬼「アラアラ? ドコヲ狙ッテルノ?」ニヤニヤ

ビスマルク「くっ…!!」

戦艦夕級「沈メツ!!」ドドーン!!

瑞鶴「そんな砲撃、当たらないわ!!」ジャスト回避

南方棲戦鬼「フフーン…厄介ナ動キヲシテルワネ。ダツタラ…コレナラドウ!!」ドド

ドドーン!!

瑞鶴「!? 左右にタイミングをずらして砲撃!? くっ…避けきれない…!!」

赤城「瑞鶴さん!!」瑞鶴を押す

瑞鶴「!?」

赤城「きやああっ!?」critical! 大破

瑞鶴「あ…赤城さん!？」

赤城「わ…私はいいから…戦闘に集中してください!」フラフラ

南方棲戦鬼「アハハハツ!! サア沈ンデイキナサイ!」ドドーン!!

瑞鶴「っ!! やらせはしないわよ!!」赤城を担いで避ける

木曾「このっ!!」ドドーン!!

空母ヲ級A「アールグレイっ!?」critical!中破

北上「仲間を狙おうなんてそうはさせないんだから!!」ドドーン!!

南方棲戦鬼「チツ、邪魔ヲスルナ!」中ダメージ、反撃

北上「ひやああっ?!いい、いったーい!!」critical!大破

龍驤「空母だけやない、軽空母も甘く見たらあかんでー!!」艦載機発艦!!

空母ヲ級A「ジャスミンツ!?」critical!撃沈

ビスマルク「アドミラル、夜戦突入の許可を!!」

提督『しかし…赤城、北上。大丈夫か!?!』

赤城「なんとか…提督、お願いします」

北上「私も、なんとか避けてみるから」

提督『わかった…夜戦突入だ!!』

木曾「夜戦にはいるぞ!!」

ビスマルク「瑞鶴、赤城さんをお願いね」

瑞鶴「は、はい…」

ビスマルク「さあ、全砲門 Feuer!」ドドーン!!

戦艦夕級「キヤアツ!?旗艦ヲヤラセハシナイワヨ…」旗艦を庇って撃沈

南方棲戦鬼「ウフフ…私ノ砲撃ハ本物ヨ!!」ドドドドーン

ビスマルク「きやああつ!?ぐう…手強い」critical!大破

木曾「これでもくらえ!!」ドドン!!

南方棲戦鬼「クツ…ウフフフ、何度デモ何度デモカカツテ来ナサイ。次こそハ沈メテヤルワ」退却

木曾「くそ…仕留めきれなかったか」

ビスマルク「戦闘終了…A勝利だけど、旗艦を撃破できなかったわ」

北上「うーん…かなり手強くなってるね…」

提督『それでもお前たちが無事でよかった。今は退却して戻ってきてくれ』

龍驤「うん、このまま帰投するね」

瑞鶴「…」

木曾「瑞鶴さん、赤城さんは大丈夫?」

瑞鶴「…」

木曾「瑞鶴さん?」

瑞鶴「…あつ、えつと…」

赤城「大丈夫ですよ。ちよつと派手にやられてしまいましたけど、鎮守府で休めばすぐには治ります」

ビスマルク「そうね…鎮守府に戻って体勢を立て直しましょ」

i n 鎮守府

ジン「派手にやられていたが大丈夫か？」

赤城「大事に至らないのですが…すみません、入渠にかなり時間を費やすかもしれませんが」

提督「時間なんていいさ。赤城もビスマルクも北上もしつかり傷を治してくれ」

北上「提督、ありがとね」

ビスマルク「アドミラル…ありがとう」

大井「提督!! はやく私を改二にして!! 北上さんを大破させた野郎に魚雷をぶちかましてやるんだから!!」

提督「お、大井さん!? めっちゃ怖いんだけど!」

ジン「俺に任せておけ」(……)

提督「明石さんに怒られるからダメ!」

ジン&大井「えー」(……)

瑞鶴「…」

加賀「…提督、瑞鶴も休ませましょう」

瑞鶴「…!」

加賀「今の瑞鶴は疲労してます。しばらくは私が赤城さんと瑞鶴の分もやりますの

で

瑞鶴「……っ」ダッ

提督「ず、瑞鶴!？」

ジン「……」

それ以降、艦隊は苦戦を強いられた――

金剛「Take this!!」ドドーン!!

南方棲戦鬼「ウフフ、いい火力ね。デモ、ソナンジャ私ヲ沈メルコトハデキナイワ」

金剛「Shit、手強いデスねっ!!」

南方棲戦鬼「本当の火力ツテイウノハ、コウイウモノヨ!!」ドドーン!!

比叡「ヒエエエツ!？」大破

――南方棲戦鬼の火力はかなり強力で――

山城「主砲!!狙い撃て!」ドドーン!!

南方棲戦鬼「アラ、イイ火力ネ。デモ残念、私ヲ沈メルニハ至ラナカッタワネ」バイ

バイ

鈴谷「うーっ!!あともう少しだったのにー!!」

山城「装甲も堅くて倒しきれないわね……」

――夜戦突入してもあと一息というところで倒しきれず、南方棲戦鬼の砲撃で大破し

たり、なかなか切り抜けることができなかつた――

i n 食堂

ヨモギ「腹が減つては戦ができぬというニヤ!! たーんと食べて元気いっぱいになるニヤ!!」

サクラ「板前ブラザーズ特製、スタミナカレーニヤ!!」

金剛「イヤッホー!! カレーデース!!」

龍驤「いやー、これは元気になるで!!」

比叡「おおっ!! 猫さんが作るカレー、とっても美味しい! 今度お礼に作ってあげようかな?」

提督「比叡もカレーは得意なのか?」

榛名「ひ、比叡お姉さま。気持ちだけで十分だと思えますよ?」

五月雨「そ、そうですよ! カレーは作らずお気持ちだけで!!」

比叡「えー」

提督「?」クビカシゲ

霞「司令官、知らないままです方がいい時があるのよ」

ジン「: : おかわり」

マシロ「ジンさん、よく食べるニヤー」

加賀「ジンさん、ちよつといいですか？」

ジン「?どうかしたのか?」

加賀「瑞鶴のことなんですが…」

ジン「ん?」

加賀「…あの子、赤城さんが大破したのは自分のせいだと責任を感じて落ち込んでいます」

ジン「…」

加賀「私は気負う彼女に落ち着かせようとあの時休むよう言ったのですが…逆効果のようでした。より責任を感じているようで…」

ジン「…わかった。俺が行こう」

加賀「…すみません。不器用な私のせいで、あの子を追い込ませてしまいました…」

ジン「気にするな。お前も瑞鶴の為に思って言ったんだろう?意外と後輩に優しいじゃないか」ナデナデ

加賀「…な、仲間ですから」

i n 母港

瑞鶴「…」しよんぼり

ジン「飯も食わないでいつまで落ち込んでいるんだ？」ワシヤワシヤ

瑞鶴「ひやつ!?!:ジ、ジンさん!?!び、びつくりしたー」

ジン「これでも飲め」つ【元気ドリソコ】

瑞鶴「…:加賀さんの言う通り、私は今回の攻略は出ずに休んでおこうと思います?」

ジン「…:なんでだ?」

瑞鶴「…:いつものように、避けて反撃すればすぐに勝てる…:なんて慢心し油断したから、私のせいで赤城さんは大怪我をしたんです」

ジン「…:」

瑞鶴「私って駄目な後輩ね…:だから加賀さんに怒られるんだもの…:」

ジン「ていつ」デコピン

瑞鶴「きやつ!?!じ、ジンさん!?!」

ジン「…:少し新米ハンターだった頃の俺の話しよう。俺が提督に出会った時の話だ」

瑞鶴「え…:?」

ジン「ユクモからドンドルマに移り住んで、一人前のハンターになるまでしつかり訓練場で訓練をした。教官から一目置かれていてな、まわりの連中も一番強いと絶賛されていた」

瑞鶴「……」

ジン「一人前として昇格するまでは半人前4人と組んでアオアシラやアルセルタスと言った中型、小型モンスターを相手にしてたんだが、誰よりも腕があるとそう思った俺は一人で狩りをした。無論、うまくいって一人で色んなクエストを熟していった。それでも教官は一人前のハンターとして認めてくれなくてな……」

瑞鶴「……それでどうしたの？」

ジン「痺れを切らした俺は……一人で倒せたら凄腕ハンターとして認められる『モノブロス』というモンスターに戦いを挑んだ」

瑞鶴「……」ゴクリ

ジン「戦う前に奴の生態も習性も調べた。弱点も調べて道具も防具も揃えた。強い武器を担いで行き、いつもようにいけば勝てる……そう思って高を括っていた。戦いを挑もうとしたのだが……俺が見つけたのは白い角と白い甲殻をもつ『モノブロス亜種』だった。原種よりも凶暴でな、奴の突進をくらって防具も武器もずたずたに壊され大怪我をした。死を覚悟したその時、旅をしていた提督が駆けつけてきて俺を助けてくれたのさ」

瑞鶴「……って、提督は旅をしてたの!？」

ジン「餌をあげて手懐けていたガレオスに乗ってたな」

瑞鶴「……提督ってその時からはずちやけてたのね……」

ジン「…提督に出会ってなかったら俺は砂漠で死んでいただろう…瑞鶴、俺が言いたいのはな、誰だって油断もするし、失敗だってする」

瑞鶴「…ジンさん…」

ジン「そんな時はもうないように、もう一度挑め。だからそれ以上自分を責めるな」
ナデナデ

瑞鶴「…ジンさん…ありがとう」ギユツ

ジン「何度でも何度でも立ち向かって勝て」ナデナデ

瑞鶴「…うん…うん…!!」ギユツ

ジン「…」ギユツ

ブクブクブク…

アール「ごぼぼぼぼっ?! イムヤちゃん!? 酸素が! 俺の中の酸素の残量が!!」

イムヤ「もう少し待って!! 今いいところなんだから!!」

ゴーヤ「制限時間があるんデチね」

シオイ「もー、アールさんったらそういうのは鈍いんだよねー」

アール「チーン」

イムヤ&シオイ「あつ」

70 決戦、珊瑚諸島沖海戦！

in 工廠

明石「うふふ、木曾さんったらとても張り切ってますね」

木曾「ああ、北上姉さんが休んでいる間は俺が頑張らないと。だからもつと艤装を強化して欲しいんだ」

明石「よし、任せてください。姫級や戦艦の砲撃に耐えられるくらいの装甲にしてみせますよ！」

ガラッ

ジン」

大井改二」

木曾「…大井姉さん？」

明石「…ジンさん、何してるんですか？」

大井「え、えつと…ぱ、パワーアップ？」

ジン「…ちよ、ちよつとした改装だ」

明石「そのどこがちよつとした改装ですかあああつ!!」ラリアット

ジン「ぐふうっ!?」..:(.ε.)()

大井「わ、私も魚雷をぶっぱなしたくて…あ、あははは…」ニガワライ

木曾「ま、まあ別にいいんだけどさ…」

in母港

提督「よし…気を取り直して出撃するぞ!」

霞「そうね、もう一息ですもの。頑張るわよ!」

長門「ジンさん、たんこぶができているがどうしたんだ?」

ジン「…気にしないでくれ」(・ω・)

提督「ベルから連絡があつてな。補給拠点の修復が完了したようだ。道中、補給拠点

に向かい万全な体勢でボス艦隊に挑めるようになったぞ!」

龍驤「やったー!!これで道中中破しても即撤退しなくていいんやな!」

長門「これであとは海域突破するだけだな。張り切つていくぞ!」

提督「編成は長門を旗艦に大井、木曾、加賀、瑞鶴、龍驤の6名で出撃をする」

大井「しゃああつ!!今に見てなさいよ!」フンス

木曾「ね、姉さん、殺気たちすぎ…」アセアセ

龍驤「ええなあ、うちもはやく改二になりたいわ」

瑞鶴「…」ソワソワ

加賀「…瑞鶴」

瑞鶴「ひゃ、ひゃいつ!!」ビクッ

加賀「…次は油断のないように。一緒に頑張りましょう」

瑞鶴「…!!は、はいつ!!」

提督「うんうん、瑞鶴も元気になってよかった」

ジン「瑞鶴、これをやる」

瑞鶴「これってお守り?あれ?中に爪のようなものが入ってる…」

ジン「守りの爪だ。ハンターも常備しているお守りだ。頑張ってこい」ナデナデ

瑞鶴「…うん!ジンさん、ありがとう!」ニッコリ

提督「よし、艦隊出撃開始っ!!」

艦娘一同「はいっ!!」ビシッ

珊瑚諸島沖

i n 補給拠点

ベル「皆お待たせ!!補給拠点の修理が終わったよ」

鹿島「ここで修復、燃料弾薬の補給ができます!」

暁「ほとんどが私達が運んだ物資だけだね」

島風「もつともつと速くなってね!」

龍驤「いやー、これは助かるわー」

長門「艦装の修復ができて次の戦闘に備えることができる」ウンウン

加賀「ベルさんも大変だったのでは？」

川内「ベルさんすごかったよー!! 修復中のところにでつかいピンク色のお猿さんが乱入してきたんだけど、それをベルさんが追い払ってくれたんだ!」

皐月「その後は鹿島さんがベルさんの傷を手当したり、ラブラブだったねー!」ニヤニヤ

深雪「いやー、ほんとお熱いお二人さんだったなー」ニヤニヤ

ベル&鹿島「エヘヘヘ…」テレテレ

大井「…本当に甘いわね」

木曾「苦いコーヒーが欲しくなってきた」

瑞鶴「ほ、ほら! 補給が完了したら出撃再開するわよ!」

ベル「みんな、気を付けてね!」ノシ

ボス艦隊海域

瑞鶴「…いよいよね」ドキドキ

加賀「あまり緊張してはダメ。いい? 戦闘は集中しなさい」

大井「ごらあ!! 北上さんを大破させた野郎は出てこいや!!」

木曾「大井姉さん、足柄さんと同じようにどこかの格闘家みたいになってるよ!!」
龍驤「ほら、さつそく敵さんが見えてきたでー!!」

南方棲戦鬼「ウフフフ、性懲りモナクマタ来タノネエ…」

長門「ああ!! 今日こそはこの海域を突破させてもらおう!」

瑞鶴「絶対に負けないんだから!」

南方棲戦鬼「無駄ナ事ヲ：沈ンデイクガイイワ!!」

空母ヲ級A「バヨエーン!」艦載機発射

空母ヲ級B「メテオオ!」艦載機発射

加賀「やらせはしません」艦載機発艦!!

瑞鶴「やってみせるんだから!!」艦載機発艦!!

龍驤「よーし、うちも負けないでー!!」艦載機発艦!!

艦載機<ウオオオオツ!! 敵艦載機<ジュツデーム!!

長門「対空砲、撃てー!!」バババツ

大井「うおらあつ!! 雷巡舐めんなつ!!」つ魚雷

木曾「姉さん!? 艦載機に魚雷を投げたらダメだつて!!」

駆逐口級A「ボタンキューツ!」critical! 撃沈

戦艦タ級「クウツ!? 狙ワレタカツ」中破

大井「さあ、雷巡の魚雷をくらいなさい！」魚雷発射!!

木曾「いけっ!!」魚雷発射!!

空母ヲ級B「プヨプヨっ!」critical!撃沈

南方棲戦鬼「っ!?今日ハ気合イガハイッテイルジャンイノ…」小破

長門「これでもくらえっ!!」ドドーン!!

戦艦夕級「キヤアッ!?ナ、ナンテイウ火力ナノ…」critical!撃沈

南方棲戦鬼「沈ミナサイッ!」ドドーン!!

龍驤「ひゃあっ!?あ、あかーん!」critical!大破

木曾「昼戦の間になんとしてでもあいつにダメージをくらわせないと!!」ドドーン!!

駆逐口級B「デイザスターッ!」旗艦を庇って撃沈

空母ヲ級A「テトリスッ!!」艦載機発射

木曾「くうっ!?…ちよ、ちよつとぼつかし涼しくなつたぜ」critical!中破

大井「木曾っ!?うちの妹に何してくれるのよ!!」ドドーン!!

空母ヲ級A「ギョギョッ!」小破

加賀「鎧袖一触よ、負けないわ」艦載機発艦!!

空母ヲ級A「ナスッ!」critical!撃沈

南方棲戦鬼「ヤッテクレルワネ…コレナラドウカシラ!!」ドドーン!!

加賀「っ!?くっ…やられましたか…」critical!大破

南方棲戦鬼「サア、次ハお前ダツ!!」ドーン!!

龍驤「あつ!連続なんてずるいで!!」

長門「今度は瑞鶴か…!!瑞鶴、あぶないっ!!」

瑞鶴「…っ!!」

南方棲戦鬼「アハハハツ!!沈ミナサイツ!!」

瑞鶴「…落ち着くのを瑞鶴。ジンさんの教えを思い出すのよ…」

◆◆出撃前夜◆◆

ジン「なるほど…ジャスト回避でできた隙を狙われたのか」

瑞鶴「…そうなの。ジンさん、何かいい手はないかな?」

ジン「ふむ…あるのはあるのだが…」

瑞鶴「あるの!？」

ジン「だが、それもタイミングが重要だ。しかもお前たちの場合、使えるのは一回だけ」

瑞鶴「一回だけ…やってみせるわ」

ジン「…ふっ、瑞鶴ならできるだろうな」ナデナデ

瑞鶴「く、くすぐったいよ。ジンさん、教えて。どんな技なの?」

ジン「『絶対回避【臨戦】』という技だ」



瑞鶴「1回きりのチャンス：ここねっ!!」絶対回避

南方棲戦鬼「ナ、ナニッ!? 避ケタダト!?!」

龍驤「しかもスタイリツシユやな!?!」

長門「でかしたぞ瑞鶴!!」

瑞鶴「赤城さんと加賀さんの分よ!! くらいなさい!!」艦載機発艦!!

艦載機<ネライウツゼー!! ババババツ

南方棲戦鬼「グアツ!?! シ、シマツタ：」critical! 大破

大井「よしっ!! 大ダメージよ!!」

長門「これならいける：提督、夜戦突入の許可を!!」

提督『ああ：これより夜戦に突入だっ!!』

― 夜戦突入!

長門「これで決めてやる。全砲門、てええええっ!!」ドドドドーン!!

南方棲戦鬼「キヤアアツ!」critical!

大井「ごり押しのお雷をくらないなさいな!!」魚雷発射!!

南方棲戦鬼「アアアツ!?!クウ、艦装ガ：コノ、次の海域で覚エテオキナサイヨ：」c

ritical!撃破!

瑞鶴「やった：やったよ、ジンさん!!」

長門「敵艦隊、撃破。我が艦隊の勝利だ!!」

提督「やったー!!皆、よく頑張った!」

ジン『瑞鶴：よくやった』

加賀「瑞鶴、よく頑張ったわね」

瑞鶴「加賀さん：」

加賀「これを機にもつと腕を磨きなさい」

瑞鶴「はいっ!!」

提督『それじゃあ、このまま帰投してくれ。ご苦労様』

北上『大井つちもありがとね』

大井「北上さん、私はやったわよおおっ!!」

木曾「やれやれ、姉さんったら：ん？あそこに見えるのは：おーい!」

夕張「よ、よかった〜：深海棲艦がいて中々他の海域に出れなかったけど、貴女達のおかげで助かったわ」

飛龍「加賀さん、瑞鶴。お待ちせ〜」ノシ

加賀「飛龍：会えてよかったわ」

瑞鶴「飛龍さん：！」

飛龍「ねえねえ、私達も貴女達の艦隊に加わってもいいかしら？」

瑞鶴「もちろんです!!」

夕張「私も同行してもいいですか？」

木曾「有り難い。提督達も喜ぶよ」

龍驤「ま、まあちよつと変わった鎮守府だけどね…」

i n 執務室

提督「よかったー：海域突破できてよかったよ」ホツ

ジン「：今日は飲むぞ」つ【酒】

足柄「お酒と聞いて」バツ

那智「今日は祝い酒だな！」バツ

霞「あ、コラ!!まだこれから難関になるの：まあいいか。司令官、お疲れさま」

大淀「うふふ、そうですね。提督、ご苦労様です」ウフフ
ベル「珍しいな…ジンがハイテンションだ」

鹿島「ジンさんが？よく見わけがつかないんですが…」

ベル「よっぽど見せないからね。瑞鶴の活躍がとても嬉しいんだ」

提督「…ところで、アールを忘れてない？」

ジン&足柄&那智&ベル「あ」

アール「うーん…バケツう…オリョールクルージングう…」ウーン

イムヤ「大変!!アールさんがオリョールクルージングのしすぎで魘されてるわ!？」

ビスマルク「一体どうやったらそうなるのよ!？」

アール「ああ…見える。目の前にバケツの女神が見える。アリガタヤ」

ビスマルク「ちよ、こら！私はバケツの女神でもないわよ!？は、放しなさい!？」

しおい「大変だ！誰か、はやくアールさんに間宮さんの特製アイスを!!」

ウイル「……」釣り中

軽巡棲姫「……」ジーツ

泊地水鬼「……」ジーツ

重巡ネ級「……」ジーツ

ウイル「あ、あのー…何か御用でしょうか？」アセアセ

泊地水鬼「飛ベナイノ…私、飛ベナイノ…」シクシク

ウイル「え、ええ？」

軽巡棲姫「暗イノハコワクナイ？」

ウイル「え、えつと…だ、大丈夫です。というか彼女はなんで泣いてるの？」

軽巡棲姫「ソレジャア照明ノ光ハコワクナイ？」ウフフ

ウイル「話を聞いてない!？」

重巡ネ級「……」サワサワ

ウイル「無言のタツチ!？」

軽巡棲姫「キャハ♪ウイルさん！何シテルノ♪」ドンツ

ウイル「あ」

軽巡棲鬼「あ」

ドボーン

――昼――

ウィル「上手に焼きましたー♪」こんがり肉

ホツポ「オオツ!? オ肉ガ上手ニ焼ケタ!」キヤツキヤツ

ウィル「それじゃあいただきまー!」

重巡棲姫「: : :」ジーン

ウィル「: : :」スツ

重巡棲姫「! ?」Σ (° ∩ °) ー ー ー ガーン

ウィル「: : :」

重巡棲姫「: : :」

ウィル「: : : (涙目)」つこんがり肉

重巡棲姫「* ° + (n ∩ v ∩ n) + ° *」パアアツ

ウィル「: : :」グスン

ホツポ「ウィル、私ノ分モアゲルカラ一緒ニ食ベヨ?」

重巡棲姫「: : : オカワリ」

ウィル&ホツポ「鬼っ! ?」

――午後――

ウィル「: : :」(∩ ^ ∩)

空母水鬼「ネエネエ？何シテルノ？コレカラ私ト遊バナナイ？」グイグイ

防空棲姫「オイ、ウイルは昼寝ヲシタイノヨ？ソツトシテアゲナサイヨ」

空母水鬼「ヤダコワイ：私ハチョツト興味アルダケナノニイ」

防空棲姫「ココノトコロ疲レテルンダカラ、ソレグライ分カラナイノ？」

ウイル「…あ、あのー俺は別に：」

空母水鬼「：ハツ、駆逐艦ノ癖ニ生意気ネ？捻リ潰サレタイワケ？」ゴゴゴゴ

防空棲姫「アア？コツチハ対空値ト装甲ガ高イワヨ？アンタノ艦載機ナンテ撃チ落ト

シテアゲルワ？」ゴゴゴ

ウイル「ちよ：お二人さん？喧嘩はやめよ？ね？」

空母水鬼「ジャア望ミ通り、コテンパンニシテヤルワヨ!!」艦載機発射

防空棲姫「駆逐艦ヲ舐メテンジャナイワヨ!!」ドドドーン

ウイル「人の話を：聞いて：！」（；ω；）

夜中

ウイル「ああ…疲れた：」ゲッソリ

戦艦棲姫「夜分遅クニゴメンナサイ：アラ？マタ筏ヲ作ツテタノネ：」

ウイル「ええ、明日の夜には完成しますよ：」ゲッソリ

戦艦棲姫「ソノ様子ジャ完成ガ程遠イ気ガスルノダケド：」

ウイル「な、なんとか頑張りますう……」

戦艦棲姫「……トコロデ、他ノ子達ト触レ合ツテドウダツタ？ 提督ニナル気ニナレタデシヨ？」

ウイル「……余計国ニ帰リタクナリマシタ」 涙目

戦艦棲姫「ズコーッ

ウイル「俺は人の上に立つほどの器なんてありませんよ」

戦艦棲姫「珍シイワネ……普通ノ輩ダツタラ私達ヲ見テ喜ンデ提督ニナロウトスルノモイルツテ聞イテタケド……」

ウイル「正直のところ……ホツポには悪いけど俺はこの島から出て行こうと思つています。あの子をこの島へ連れて行くことが目的でしたし……俺に提督は不向きですよ」

戦艦棲姫「……ソウ。無理強イハシナイワ」 ニガワライ

ウイル「……すみません」

戦艦棲姫「……デモ残念ダワ。貴方ノオカゲデあの子達の心モ少シ変ワツテタンダケドネ……」

翌日

ウイル「……」 釣り中

ホツポ「ウイル、元気ガナイネ？ ドウカシタノ？」

ウイル「あ、ああ…少し考え事さ」

ホツポ「元気がナイノハ良クナイヨ!! ソウダ、オ姉チャン直伝元氣ニナルオマジナイ
ヲシテアゲル!」フンス

ウイル「お、それは嬉しいな」

ホツポ「ウイル、チョット屈ンデー」

ウイル「ん? どうか?」

ホツポ「ヨシヨシ…ヨシヨシ…」ナデナデ

ウイル「…」

ホツポ「ホツポが元気がナイ時、イツモオ姉チャンガヤツテクレルノ。ドウ? 元氣ニ
ナツタ?」

ウイル「…ああ、おかげで元氣もりもりだぜ!!」モリ!「(ω^ω)」モリ!
グイグイ

ウイル「おおつ? 釣りざおが大きく撓つてる…こいつは大物の予感だぜ!!」

ホツポ「ヤッター!! ワクワク!」

ウイル「セイヤーツ!!」グイッ

ザパアッ

水母棲姫「…」

ウイル「……」

ホツポ「……」

水母棲姫「……ウフフフ、コンニチハア」

ウイル&ホツポ「アイエエエツ!」

――数分後――

戦艦棲姫「才帰りナサイ。遠征ご苦労様」

水母棲姫「モウ大変ダツタワヨ……トコロデ、アノ新型ノ深海棲艦ツポイノハ誰?」

戦艦水鬼「戦艦棲姫ガヨク話ヲシテイタ『ウイル』トイウ奴ダ」

水母棲姫「アア……例ノ提督ニナツテクレソウナ人ネ」

戦艦水鬼「……ソレデ、艦娘共ノ動向ハドウダツタ?」

水母棲姫「ソウネエ……此処ノ島ヲ嗅ギ付ケテハイナイケド、ドンドン連中ノ進攻範囲

ハ広クナツテイルワ」

戦艦棲姫「マダ安心ハデキルケド……何時見ツカツテシマウカ時間ノ問題カシラ……」

ウイル「……あれって何の話をしてんだ?」

ホツポ「ネエネエ、艦娘達ハコノ島ニヤツテクルノ……?」

港湾棲姫「……ホツポ、大丈夫ヨ。マダ来ナイヨ」

ホツポ「ウン……セツカク、タノシイウミにナリソウダツタノニ……」

戦艦棲姫「安心して。モシ来タノナラ追イ払ツテヤルワヨ」ナデナデ
ウイル「……」

レ級「私達深海棲艦ハ艦娘ト戦ツテイル話ヲシタノハ覚エテル？」

防空棲姫「私達ハ沈ンデモマタ戻ルコトガデキルケド……ドンドン追イヤラレテルノ」

駆逐水鬼「戦艦棲姫サン達モ攻防ノ末、コノ島ニ辿リ着イタンダ。モシコノ島ニ艦娘

達ガヤツテキタラ大規模ナ戦闘ニナル」

ウイル「……マジで？」

南方棲姫「連合艦隊ツテイウ大軍デヤツテ来ルワ。数デ押サレタラサスガノ姫級ヤ鬼
級の深海棲艦モ負ケテシマウ」

空母棲姫「折角イイ場所ヲ見ツケタノニ……追イ出サレルノハゴメンダワ」

ウイル「……」

ホツポ「……ウイル、何かイイ方法ハナイ？」シヨンボリ

ウイル「……一つだけこの島に艦娘がこないようにする方法がある」

戦艦棲姫「ウイル……」

戦艦水鬼「ホオ？私達デハナク、才前方艦娘ヲ追イ払ウノカ？」

ウイル「……この島を『保護区』に登録すればいい」

ホツポ「ホゴク？」

ウイル「希少な資源、希少な環境：希少な生物といったものを調査し、保護区として登録されれば艦娘達も手を出すことはできないし戦闘にもならないぜ!!」

ホッポ「オオツ!？」

戦艦水鬼「私達ヲ希少な生物トシテ見ルノカ？」ジロリ

戦艦棲姫「連中ハ私達ヲ危険ナ物ト見ナシテ攻撃シテクルワヨ？」

ウイル「この保護区を管理人として登録すれば大丈夫だ。皆悪そうには見えないしな」

戦艦水鬼「コノ：ツ」プンスカ

戦艦棲姫「マアママア落ち着イテ。コノ島ヲ調査スルンデシヨ？デモ私達ニハ難シイワ。コノ島ノ奥地ナンテ行ツタ事モナイシ行ケルカドウカワカラナイワヨ？」

ウイル「ふふふー、この俺をお忘れかな？」（ ； ー ； ） b

戦艦棲姫「!!モシカシテ：冒険者：」

ウイル「生態調査をして資料をまとめ、保護区やギルドの管轄区として登録する。これも冒険者として立派な役目さ」

戦艦棲姫「ソレジャア：：」

ウイル「ああ、この島にいさせてもらおう。それに：まだ『ハチミツ』を見つけてないしな」

ホツポ「ヤッター!! ウイル、島ニイテクレルンダネ!」

ウイル「アア!! そうときたら…道具を準備して早速この島を冒険するぞー!!」
ホツポ「オオー!!」

戦艦棲姫「ネ? 言ツタデシヨ? 彼ナラ私達ヲ導イテクレルツテ」ニコニコ

戦艦水鬼「フン…勝手ニシロ」プイツ

7 1 ギルドからの派遣員

in 執務室

大淀「提督、大本営からお手紙です」

提督「おお、ありがとね。ふむふむ……」

霞「どんな内容なの？」

提督「元帥殿と孫娘提督殿からで……珊瑚諸島沖の補給拠点の奪還及び復旧の御礼の手紙だ。ははは、孫娘提督殿はまた特別報酬を送ろうってさ」

ジン「……随分と気前がいいな」

提督「各海域ごとに特別報酬を貰ってしまうと大変だなあ……げっ、もう送ったってさ」
霞「遠慮せずに受け取りなさいよ。一提督として立派な事をしてるんだもの」

響「私達の自慢の司令官だもの。もっと胸を張ってもいいよ」

提督「あはは、二人ともありがとう。ま、今はしっかり休むことが大事だよ」

大淀「先の珊瑚諸島沖の海戦では資材が多く消費しましたからね。次の海域がかなり

難関と聞きます」

提督「次に備えてしっかり蓄えないとな。てことでしばらくはお休みだ」

ジン「…ん？もう一通手紙が来てるな。どれどれ…ギルド本部から？」

i n 港町

電「いつもよりとても賑わってるのです！」

阿武隈「この街でも秋祭りが行われるみたいね」

雷「それじゃあ私達も浴衣を着ないと！」フンス

時雨「秋祭りかあ…楽しみだね」

木曾「提督達の事だから『秋祭り…？』とか言つて首を傾げそうだな…」

衣笠「提督達つて秋祭り知らないの？」

川内「夏祭りを知らない程だからねー」

衣笠「ホント!?それじゃあ提督達にもすっかり楽しんでもらわないと！」

阿武隈「南方海域の攻略も忙しそうだし、秋祭りにいけるかなあ？」

時雨「提督達の為にも僕らのが頑張らなくちゃ」

電「…はわわわっ」木曾の後ろに隠れる

木曾「?どうかしたのか？」

雷「あそこにいる鎧を着た人、ずっと私達の方を見てるの…」木曾の後ろに隠れる

???「…」ジーツ

木曾「本当だな…水色の西洋風な甲冑を着た男か…」

電「はわわっ?! こっちに来たのです!」ハワワ

衣笠「時雨ちゃん、もしもの時は提督達か憲兵さんと呼んで」

時雨「う、うん…」

???「…」ジーツ

木曾「…俺達に何か用か?」ジツ

???「…眼帯のかわいいこちゃん、俺と一緒にお茶しな〜い?」

木曾「…えっ?」

???「ていうか、その装備めっちゃ可愛いし! それ? セーラー装備? いやマントとかかっこいいし…」

木曾「え、えっと…」アセアセ

???「キリン装備が一番かと思ってたけど、今日君に出会えたことで見える目が変わったよ! うん、お前がナンバーワンだ」肩をサワサワ

木曾「お、おい、あまり触るな…!」

???「ねねねね、今暇でしょ? 俺たちはギルドの指令でクロードさんに会いに行かないやいけんのだけど…そんなことより俺と一緒に俺にお茶にしよう!」グイグイ

木曾「や、やめっ…」

ドドドドド

??? 「ん？」

球磨 「うちの妹を誑かす野郎は貴様かクマアアツ!!」 ラリアット

大井 「うちの妹を泣かす野郎はぶちのめしてやんよおおおつ!!」 ラリアット

??? 「ダブルラリアットオオオツ!」。…。(ε。(

阿武隈 「球磨姐さんたちを呼んできたよ!!」

北上 「決まったーっ!! 球磨姉と大井つちのダブルラリアットだーっ!!」 ウオオオツ

雷&電 「やったーっ!!」

??? 「チーン

球磨 「木曾、大丈夫クマか？」 ナデナデ

大井 「よしよし、もう大丈夫よ」 ナデナデ

木曾 「姉さん…ありがとう」 ホッ

??? 「チーン

衣笠 「この人、どうしようか…?」

大井 「憲兵さんに連れてって二度とうちの妹に手を出さないようにしてやるわ」

時雨 「でもこの人さつきクロードさんって、提督の事を言ってたよ?」

球磨 「こんな野郎が提督の知り合いのはずがないクマ」 プンスカ

北上 「仕方ない、提督の所に運ぼうか」 両足を持つ

阿武隈「だ、大丈夫かなー…」

i n 母港

飛龍「…」

加賀「だからその『絶対回避』というのを教えなさい」

瑞鶴「だーからー!! 私だけの秘密だもん!」

加賀「あなたが赤城さんよりすごいというのは納得いきません」

瑞鶴「あの時、褒めてくれたくせに!!」

加賀「あの日はあの日、今日は今日。つべこべ言わず教えなさい」

飛龍「えつと…これって空母の訓練なの?」

大鳳「そうね…私も最初はビックリして何も言えなかつたわ…」遠い目

飛龍「いやおかしいでしょ!?! 空母がスタイリッシュに攻撃を避けていいの!?!」

赤城「意外と便利ですよ? 私も最初は驚きましたけど、かなり効率がいいですし」ウ

フフ

加賀「赤城さんが言うから徹底して教えます」

飛龍「…絶対蒼龍とか翔鶴が来たら同じこと言うわね…」

加賀「ジンさん、教えてください。今後の攻略にかなり有効になると思います」

ジン「…瑞鶴が『私とジンさんだけの秘密ね!』というからダメ」テレテレ
 加賀「…っ!!」ジロリ

瑞鶴「♪くく(。ε。;)く」

大鳳「…飛龍さん、慣れです」

飛龍「…多門丸、私頑張るよ…」

in 工廠

夕張「…」ジーツ

ベル「え、えつと…」

夕張「提督さん達の鎧といいその武器といい…かつこいい!」

ベル「すごい興味津々だね」

明石「あ、あまり夕張を刺激しないでくださいね…こういうのは本当に好きな子ですから」

アール「…ほれ」つネロディアールカ

夕張「なにそれ!? 凄すぎなんですけど!」ウオオオオツ

明石「アールさん!」

アール「…ほれ」つ獄炎石

夕張「なんですかこの鉱石!? え、これ鉱石なんですか!」

明石「あ、アールさん、その辺に…」

アール「…ほれ」つ雷狼竜の碧玉

夕張「す、すごいですよ明石さん!! 見たこともない資材がこんなに…!!」

アール「俺達はこの素材で装備や武器を作るんだ」

夕張「本当ですか!?! じゃあ…これを使えばスゴイ装備の開発やスゴイ艦娘の建造ができるかも!」

明石「ちよ、待って…」

夕張「こうしちやいられませんね! アールさん、一緒に建造と開発をしましょう!」
ダツ

アール「よっしやー!! まずは建造だー!!」ダツ

明石「やめてーっ!!」ダツ

ベル「あちやー…明石さん、大変だね…」

鹿島「ベルさん、少しいいですか?」

ベル「おや? 鹿島、どうしたんだい?」

鹿島「先ほど、球磨さんから連絡がありまして…クロードさん、提督さんの知り合いらしき人物を連れてきたとのことで…」

ベル「提督の知り合い? どんな人だった?」

鹿島「球磨さんが言うには青い西洋風な甲冑で…なにかと他の子達にちよつかいを出すような人です」

ベル「…うーん、もしかして…」

i n 中庭

北上「もうすぐ提督達が来るよー」

球磨「本当に困った奴クマ。すぐに起きたと思いきや今度は大井にちよつかいをだすなんて許さんクマ」

時雨「その直後に球磨さんと大井さんのダブルパンチをくらってダウンしたけどね」

大井「なんていうタフな奴なのよまったく…」

衣笠「今度は大人しく…っていない!？」

電「はわわわ…起きた途端にすぐにどこか行ったのです」ハワワ

阿武隈「もうっ!!どこに行ったのかしら!？」

＼キヤーツ／

球磨「ややつ!?!向こうで悲鳴が聞こえたクマ!!」

大井「大変っ!!すぐに行かなきゃ!!」

???'「へーい、その美しい美女、いや大和撫子というのか…」

榛名「え、えっと…貴方はなんですか!？」アセアセ

???「いやなんと美しい事か!!いやここは『ふつくしい…』というべきだな!」

ビスマルク「ちよつと!!貴方はいったい何者なのよ!!憲兵を呼ぶわよ!!」

???「おおおつ!?!パツキンのセクシーレディだと!?!俺のハートがライジングだぜ!!」

ビスマルク「ちよ、やめなさいっ!?!」

???「ああ、なんとビューティフオー…麗しきレディ殿、これから俺とお茶にしませんか?」

榛名「あわわわ…」

???「その大和撫子さんもご一緒にお団子でも頂きませんか?ああ、これぞ両手に華だぜ!!」

ポンポン

???「ああ?何の用だ?俺はこれからこの美女達と一緒にお茶を…」

アール「(???)」ニッコリ

???「」

アール「セイヤアアアアッ!!」アイアンクロー

???「ギヤアアッ!?!」ジタバタ

榛名「あ、アールさん!!」

ビスマルク「ありがとう、助かったわ…」

アール「いいってことよ。それよりも…」ググググ

???「いだだだだだだっ!」ジタバタ

球磨「アールさん!! ナイスだクマ」

大井「今すぐ憲兵さんをお呼びわね!」

アール「いや、呼ぶ必要はないぞ」

北上「どうして?」

???「いってえ…おい、数年ぶりの再会だっていうのにアイアンクローはないだろ!」

アール「ああ? ウチの子達に手を出すバカには容赦はしないし。いいか? 母ちゃんに

言いつけるぞ?」

???「ちよ、卑怯だぞ! 母ちゃんには内緒にしてくれよ!!」

アール「てめえがウチの子に変な事しなきゃいい話だけだな。つうか久しぶりだな」

???「くそつ、元気にしてたのかよこん畜生!」

榛名「アールさん、この人はお知り合いなのですか?」

アール「ああ、此奴の名はアグル。俺の弟」

アグル「ドーも、空気の読めないクソ兄貴がお世話になりまーす」ピースピース

アール「誰がクソ兄貴だ、コラ」

艦娘達「（ ㇿ ） ？ ？

i n 執務室

霞「うそ!? アーロさんの弟!？」

瑞鶴「ありえない…アーロさんに弟さんがいたなんて!？」

青葉「意外です…空気読めないアーロさんがお兄さんだったんですね…」

アーロ「うん、お前から意外とひどいのな…」

提督「アグル、元気にしてたか?」

アグル「クロードさん、ジンさん、ベルさんお久しぶりです。つでにクソ兄貴も」

アーロ「ああ? 誰がクソ兄貴じゃコラ」

アグル「ああ? 空気読めない癖によ」

ベル「こらこら、喧嘩しない」

提督「それで、ギルド本部からの手紙を読んだのだけど…南方海域の調査員がアグルだったんだね」

霞「南方海域の調査員?」

ジン「ギルド本部の手紙には南方海域にある火山地帯とその周辺の調査をしたいらしくてな。その調査員が鎮守府にくるという内容が書かれていたんだ」

アーロ「マジかよ。お前ドンドルマとバルバレで商売してる母ちゃんや妹たちの手伝

いはどうすんだ？」

瑞鶴「アール口さん弟の他にも妹さんもいるの!？」

アグル「うちは兄貴と俺を含めて6人兄弟さ」

青葉「大家族なんですね…」

アグル「母ちゃんと弟、妹たちが自分たちは大丈夫だから行って来いだってよ」

アール口「母ちゃん…」（ハ、ハ、ハ）「ヤレヤレ」

ベル「それで、南方海域の調査はどうして必要なんだい?」

アグル「ギルド本部や龍歴院は『二つの首を持つ古龍』の調査で目一杯だった時、南方海域の火山地帯らへんで変な揺れがあったらしいんだ。例の『二つの首を持つ古龍』の仕業のではないのは確かだけど他の古龍か飛竜種の仕業か、それともただの自然現象か調べる任務をやらなくちゃいけないんだ」

提督「それってどの辺だ?」

霞「地図で見てわかる?」つ地図

アグル「調査するところは…この辺とこの辺」

大淀「サブ島沖海域とサーモン海域の所ですね…」

提督「大本営から補給拠点の奪還の任務があつてな。サブ島沖では『霞龍』、サーモン海域では『金獅子』が目撃されている」

アグル「なるほど…南方海域では『鎮守府』と連携をとって向かえって言われてたんですけどそういうことでしたか…クロードさん、俺も調査しつつ手伝いますよ!」

提督「本当か。それは助かるよ、アグル。俺達も火山地帯の調査もしよう」

アール「他の艦娘達に手を出したらダメからな?」

アグル「いやー、団長さんから聞いたんですけど…この鎮守府には美女に美少女がたつくさんいますねー」ニヤニヤ

ベル「鹿島に手を出したらダメ」ガッ

アグル「えっ?ベルさん…?」

ジン「瑞鶴に手を出したらダメ」ガッ

アグル「ア…アッハイ…」

アール「…意外と皆しっかりしてんな」

アグル「ク、クロードさんはどうなんです?こう…ハーレムのな…」アセアセ

提督「ハーレム?なんだそれ?俺は霞がいれば幸せだぞー?」

霞「(ω。ω)・*;; ;、ブッ

アグル「…さすがです」土下座

提督「??」

霞「こ、このクズーツ!!」ポカポカ

提督「ちよ、いたたたっ!？」

7 2 姿なきもの 『霞龍』オオナズチ 前

i n 工 廠

アグル「…美しい」

明石「は、はいい？」

アグル「なんといいいますか、働く女性つて美しいですよ？てなわけで俺と一緒に甘味処にでも行きませんか？」

明石「え、えっと…というか夕張さんとジンさんが建造してるって聞いて急いでるんです!!」

アグル「H A H A H A、何をおっしゃいます。そんなことより一緒にパフェでもr y」

大井「シャアオラーツ！」コブラツイスト

アグル「ぐああああつ!」ググググ

大井「明石さん、今のうちに!!」

明石「あ、ありがとうございます！」ダツ

夕張「…初めてですね。こんな見たこともない素材で建造するなんて」ウツトリ
ジン「…何回かやらかしてるけどな」

夕張「今後の建造や開発にも使うべきですよ!! 改二とかすごい装備ができそうですし!!」キラキラ

ジン「…それも何回かやらかしてるけどな」

夕張「私にも鍛冶とか教えてください。ジンさん達の故郷の技術、とつても興味があります!!」

ジン「…明石さんに怒られない程度は教えてやるさ」

—— 00:00:00 —— 〈新しい艦娘が建造されました

夕張「おつ、そうしているうちに建造されましたね!」

ジン「…好奇心というのは恐ろしいな」

夕張「さあ、工廠オープンっ!!」

江風「白露型駆逐艦九番艦、改白露型の江風だよ。よろしくな!!」ニシシ

ジン「…」

夕張「」

江風「あ、『えかぜ』じゃねえからな。名前間違えry」

夕張「…」ソットジ

ジン「……」チラッ

明石「(#??^)」ゴゴゴゴゴ

夕張&ジン「もうどうにでもなくれっ☆」三(*・ω、)(・ω、*)

明石「コラアアアアッ!!」

i n 母港

提督「えーと、物資の忘れ物はないな？」

黒丸「ぼつちりニヤ!!」

霞「司令官、もう次の補給拠点の奪還に向かうの？」

提督「ああ、先に取り返して復旧すれば今後の攻略が楽になるだろ？次はかなり難関

だつて聞かぬ。それに……」

霞「それに？」

提督「次の相手は『古龍』だ」

霞「『古龍』？たしか司令官達が『G級作戦』の時に戦つたのも『古龍種』だつたわね」

提督「ああ、古龍種は巨体の他にも風や炎、毒霧といった自然現象を操ることができ、

1 頭いるだけでも災害レベルなんだ」

霞「とても危険なのね……司令官、気を付けて」

提督「ありがとうな、霞」ナデナデ

天龍「提督ー!! ちよつといいか?」

提督「ん? 天龍、どうかしたのか?」

天龍「ああ…あのアグルって言うヤツ、どうにかできないのか?」

加古「あの人、さつき龍田にちよつかい出してべられてんだけど…」

霞「た、龍田さんにちよつかいだすなんて…」呆れ

提督「うーん、あれはアグルの癖なんだ。本当は心優しい奴なんだけど…」

天龍「ほ、本当かよ…」

加古「まあ女性に優しいのは確かかもしれないけど…」チラツ

秋津洲「ひやあつ!? な、なんですか!」アセアセ

アグル「…めちゃんこカワイイ! キュートなお嬢さん、これから俺と一緒にワツフ

ルでも食べるに…」

秋津洲「そ、そうだ! ジンさん直伝!! エリアルキックかも!!」ドロップキック

アグル「ワフツルウウウツ!!」。(3)・…

加古「…大丈夫かもな」

天龍「俺もなんかそんな気がしてきた」

提督「よし、それじゃあサブ島沖の補給拠点の奪還の実行する。まずは島に行くメン

バーは俺とジンとベルで向かう」

アール「うえっ!?俺は!？」

提督「実は：北方海域の方で問題が起きているらしい。アールとアグルの二人で行つてくれないか？」

アール「マジでか、このアホと一緒に!？」

アグル「マジですか、このクソ兄貴と!？」

アール&アグル「：：：」

アグル&アール「うらああああつ!!」三(#、ㄩ、)ゝ、ㄩ、)#三

霞「あそこらへんは本当に兄弟ね：」

ベル「こらこら、喧嘩しない」

アール「しゃあねえな：足引つ張んじやねえぞ？」

アグル「でかいブーメランだな。そっくりそのまま返すぜ」

大淀「提督、サブ島沖は珊瑚諸島沖の経て遠方にあります。恐らく到着する頃は夜中です」

提督「夜中か：」

川内「だから護衛艦として私が行くね！照明灯に照明弾、夜戦はばっちしだよ！」

響「夜間の潜水艦が一番怖いからね：一緒に行く」

雪風「しれえをお守りします！」フンス

ジン「…助かる」

ベル「よし、それじゃあ出発しよう!!」

提督「あ、解毒薬忘れた」

ジン「あ、俺も」

ベル「してないんかいつ!」ズコーツ

アグル「…」

響「司令官は忘れっぽいね」

霞「ほんと、マイペースなんだから」ヤレヤレ

アグル「…川内ちゃん、ちよつといい?」

川内「?どうかしましたか?」

アグル「…ガンナーがいなかったから。こつそり、これをあげるよ」

川内「?弾丸ですか?とてもずつしりしてますね」

アグル「ふふふ、ギルド本部が開発した『強力閃光弾』さ。消費しやすい閃光玉の代用品で、撃てば数秒後空中で閃光するんだ。古龍種もビックリするぐらいの威力はある。まだ試作段階だけだね」

川内「これもらってもいいんですか?」

アグル「もちもち、きつと役に立つからさ」(ωー)☆

川内「ありがとうございます！」ヤツター

アグル「それで帰ってきたら俺と一緒にデイナーでも…」

川内「よし、いっくぞー!!」イヤツホー

アグル「…」(ω・ω・ω)

in サブ島沖 補給拠点の島

提督「ほ、ほんとうに夜中だよ…」

ジン「…霧囲気が怖いな」

ベル「そんなことは気にしないで進むよ」

提督&ジン「お化けこわいもん」

ベル「…二人とも…」ヤレヤレ

響&雪風(司令官の意外な一面…)

川内「それじゃあ提督、気を付けてね！」ノシ

数分後

提督「と、言うわけで補給拠点の所まで来たが…」

ジン「…無人なだけにより不気味だな…」

ベル「ほらしつかりする。はやく古龍を見つけないと」

提督「…今、誰かに見られている気がしたな」冷や汗

ジン「…奇遇だな。俺も感じた」冷や汗

ベル「だから古龍だってば」

提督「あつ！今なんか暗闇の方で動いたぞ!?」つ輝王剣りオレウス

ジン「幽霊死すべし！」つ飛竜刀【銀】

ベル「いやだから…」

ジン「っ!?霧がかかって来たぞ…!?」ザッ

提督「畜生、幽霊この野郎!!正々堂々と戦え!!」ザッ

ベル「幽霊に正々堂々つて…じゃなくてry」

オオナズチ「三（Φ皿Φ）飛び掛り攻撃

ジン「ぬっ!?」ジャスト回避

提督「おつと!?」大剣ガード

ベル「あぶなっ…：やっぱり死角から飛び掛つて来たね…」回避

提督「毒霧を吐き姿を晦ます古龍、『霞龍』オオナズチ。やっぱりこいつだったか…」

ジン「久しぶりの古龍戦だ…：気合いを入れるぞ」

ベル「だから言ったよね?幽霊じゃないって!!」

提督「アツハツハツハ、ベルは面白いこと言うなあ。幽霊なぞいるわけがない!!」フンス

ジン「…お前は何を言っているんだ」ドヤツ

ベル「…こいつら…」プルプル

オオナズチ「(Φ皿Φ)三三」毒玉プレス

提督「おわっ!?!いきなり毒玉か」回避

ジン「…毒霧に気を付けろ！」

ベル「まずは足を狙ってこかさないと!!」つげキリュウノツガイ

オオナズチ「(Φ皿Φ)」舌攻撃

ベル「よっ!!」エリアル回避、ジャンプ攻撃

ジン「っ、長い舌だな…」回避

提督「あっ!?!」

オオナズチ「(ΦωΦ)」モグモグ

提督「このやろっ!!俺の漢方薬を返せー!!」抜刀斬り

ジン「あきらめろ、もう帰ってこないぞ」突き

オオナズチ「(;Φ皿Φ)」怯み

ベル「もういっちょ!!」斬り込み

オオナズチ「(；Φ皿Φ)」ダウン

提督「よし来た!!」溜め斬り

ジン「角を壊すぞ!!」気刃斬り

ベル「畳み掛けるよ!!」鬼人化乱舞

オオナズチ「(#Φ皿Φ)」尻尾叩き付け

提督&ジン「か、風があああ」(；旦、)

オオナズチ「Φ皿Φ」ステルス

ベル「あつ!姿を消したよ!!」

提督「しつかり周りを見るんだ!!死角から襲ってくるぞ!!」

ジン「:何処からくる:」キョロキョロ

オオナズチ「:・(Φ皿Φ)」霧ブレス

提督「避けろっ!!」回避

ジン「後ろかつ」ジャスト回避

ベル「ヒエエエツ」緊急回避

オオナズチ「●三●三(Φ皿Φ)」二連続毒玉ブレス

提督「ふんっ!!」大剣ガード

ジン「発生する毒霧がやっかいだな:」

ベル「うまく避けて行けば近づけるけど…」

オオナズチ「C(Φ皿Φ)C」翼を羽ばたかせる

ベル「げえっ!? 毒霧がこっちに来た!？」

ジン「霧を…切り抜けるっ!!」ジャスト回避して一文字斬り

提督「霧を切り飛ばす!」回避して抜刀溜め斬り

オオナズチ「(Φ皿Φ;)」怯み

提督「よしっ!!」

ジン「いけるぞ!!」

ベル「…うん、あえてコメントしないからね…」

オオナズチ「三(Φ皿Φ#)」霧を吐く

ジン「霧が濃くなつたな。キレたぞ…」

提督「もつと見えづらくなる、気を付けるんだ」

オオナズチ「(Φ皿Φ#)」大きく息を吸う

ベル「…あつ、あれつてもしかして…」

オオナズチ「…(Φ皿Φ#)((」毒霧ブレス

ベル「やばいっ!? 毒霧ブレスだ!!」三(; ; 皿、)

ジン「あれをくらったらヤバイ…!!」(; ㍈、) 三
提督「こつちに来た!?!ち、散らばって逃げろー!!」(。 ㍈。 ;) 三

73 姿なきもの 『霞龍』 オオナズチ 後+α

提督「うおおおっ!」(。D。；)三

ジン「よし…ブレスが止まったな」

ベル「反撃開始だー!!」

オオナズチ「(Φ皿Φ)」舌攻撃

ベル「ふぎやっ!?!回復薬グレートがっ!?!」

提督「このっ!!」抜刀斬り

ジン「盗むな、返せっ!!」気刃斬り

オオナズチ「???(Φ皿Φ)??」ジャンプ毒霧

提督「ぶっ!?!)、3、)∴∴

ジン「ぐっ!?!毒かつ…!!」∴∴(ε。(

ベル「二人ともっ!これでっ!!」っ解毒笛

ポロロロ、ポロロロ

提督「解毒されたっ∴∴気がする!」フンス

ジン「一応飲んでおこう」っ解毒剤

ベル「…一応、解毒はできるんだからねこの笛…」

オオナズチ「(Φ皿Φ) 三三 飛び掛り舌攻撃

提督「よつと！」回避

ジン「同じ手はくらわんぞ!!」ジャスト回避

ベル「のりっ!!」ジャンプ攻撃して乗る

オオナズチ「(Φ皿Φ;)」ジタバタ

ベル「おおおおっ!? すっごい暴れる!」(; 皿、)

提督「ガンバレー!! 振り落とされるんじゃないぞー!!」

オオナズチ「(Φ皿Φ#)」ジタバタ

ベル「ムリイイイっ!」三(; 皿、)

提督「あらら…」

オオナズチ「三(Φ皿Φ#)」霧を吐く

ジン「怒ったぞ、気をつけるんだ…!!」

オオナズチ「 Φ皿Φ 」ステルス

ベル「また姿を消したね…」

提督「こんどは何処からくるんだ…」キョロキョロ

オオナズチ「三(#Φ皿Φ)」突進

提督「うおっ!?横からか!」大剣ガード

ベル「び、びっくりしたー!!」エリアル回避

ジン「そこだっ!!」切り下がりからの気刃斬り

オオナズチ「(Φ皿Φ;)」ダウン

提督「よおしっ!!いけいけ!!」切り上げ、溜め斬り

ベル「ナイスっ!」鬼人化乱舞

ジン「押し通すぞっ!」気刃斬り

オオナズチ「Φ皿Φ#」ステルス

ジン「くっ、また姿を消したか」

提督「いやこれは…気を付ける、カウンターだ!!」

オオナズチ「(#Φ皿Φ)・∴」霧プレス

ベル「ぶふうっ!?)」(皿、)

ジン「いちいち姿を消して…面倒な奴!!」斬り込み

提督「はやく角を折ることができれば…せいっ!!」振り下ろし

ベル「いててて…はやく解毒しなくちゃ…」つ漢方薬

オオナズチ「(Φ皿Φ#)」大きく息を吸う

提督「げっ!?また来るぞ!!」

雪風「今度はこれです!!」 つ照明灯

響「ウラー!!」 つ照明灯

オオナズチ「??（Φ皿Φ）??」目がチカチカする程度だが不思議がる

ジン「…効いてる…のか？」

ベル「び、微妙かな…」

川内「提督、大丈夫？」

提督「川内！照明弾を撃つてくれてたんだな。ありがとう」

オオナズチ「Φ皿Φ」ステルス

ジン「また姿を消したぞ、気をつけろ」

ベル「今度はどこからだ…？」

川内「提督、アグルさんから『強力閃光弾』っていうのもらったんだ。試していい？」

つ『強力閃光弾』

提督「アグルのやつ…ああ、試していいぞ」ニガワライ

川内「かなり強い閃光みたいだから、しっかり目をつぶっててね!!」装填して発射

》》カッ!!《《

ジン「うおっまぶしっ」

雪風「ま、まぶしいですー」

川内「ま、まぶしすぎるよ!」

ベル「ちよ、調整を間違えてるよこれ!」

オオナズチ「(×皿× ;)」眩暈してダウン

ベル「眩しすぎてオオナズチがダウンしてるし!」

提督「兎に角これはチャンスだ!! いっけー!!」角に向けて溜め斬り

ベル「これでどうだっ!!」鬼人化乱舞

ジン「斬るっ!!」抜刀気刃斬り

オオナズチ「(Φ皿×・;)」角破壊

提督「よしっ!!角を壊したぞ!!」

ベル「これで透明にはならない」

ジン「これもついでにくらえっ!!」大回転気刃斬り

オオナズチ「(Φ皿Φ ;)」(「)尻尾切断

ベル「ナイスカット!!」

オオナズチ「(「Φ皿Φ ;)」(「)翼を広げる

提督「おっ?」

ベル「あっ」

オオナズチ「(Φ皿Φ ;) 三三三」空高く飛び、遙か彼方へ飛び去る

提督「うん…撃退成功だな」

川内「どうする？追いかけるの？」

提督「いいや、あのオオナズチはもうこの地には来ない。追いかける必要はないさ」

ジン「…古龍は災害レベルの被害を出すか、存在が希少な種だ。非常事態でないかぎり撃退するのが主だ」

響「姿を消せる龍…とつても不思議だね…」

雪風「小つちやくて大人しかつたら…連れて帰りたかつたですね」

ベル「え、っ？」

響「アーロさんならやつてくれるかもね」

雪風「いいですね！帰ったらアーロさんに聞いてみましょう！」

提督「もしできたら、学術的大発見ができそうだな」ニヤニヤ

ベル「いやいやいや…」

ジン「一先ず、この補給拠点の奪還は成功できたな」

提督「そうだな。鎮守府に戻ったら輸送作戦をしつつ、資材を溜めておかなかちや。

川内、そろそろ帰投しようか」

川内「ちよ、ちよつと待って提督…まだ眩しくて目が…」アセアセ

提督「…アグルに言わなくちやな。威力強すぎって」

ジン「…ギルドにも言わなくてはな」

【孫娘提督の依頼② オオナズチの撃退により完遂ス】

i n アルフオンシーノ沖

アール「フェックション!?」クシヤミ

アグル「うるさいクシヤミだな！」

弥生「アールさん、風邪ですか？」

アール「いや、誰かに変な頼まれ事をされそうな気がして…というかホツドリクク飲むの忘れてたぜ」

アグル「兄貴は忘れっぽいからなー」

アール「うるせえよ。お前が船を町はずれの海岸に泊めてて支度に時間かけすぎてるのが悪いんだ」

江風「いやー、初任務が鎧を着た人達の船の護衛って驚いたよ」

アール「…江風、お前寒くないの？」

江風「あたしはヘツチャラだぜ？風の子元気な子ていうしな！」

アグル「肩出しへそ出し…イイ」ボソツ

龍田「うふふふ、今何か言いませんでしたかあ？」

アグル「めっそもございませぬ、そのようなことあるうはずがございませぬ」ガクブル

弥生「アーロさん、北方海域ではどのような問題が起きてたんですか？」

アーロ「どうも秋期に行われるサンマ漁なんだが、アルフォンシーノ海域の泊地になんか：でかい生物が襲撃して漁港や基地に被害がでているらしい。それをどうにかしてくれっていう依頼だ」

赤城「サンマ漁ですか：もうその時期なんですな：」ジュルリ

アグル「サンマ？」

大鳳「秋に獲れる魚です。この時期は脂がのつてとても美味しいんですよ」

赤城「新鮮なものは刺し身にしたたり、塩焼きにかば焼き：はっ、いけない、よだれが：」フキフキ

アーロ「美味しそうだな。食べてみたいぜ」

ザザザザ：

弥生「？」

江風「ん？どうかした？」

弥生「いいえ：アグルさんの船の後ろに何かついてきているような：」

i nアルフォンシーノ方面泊地

江風「うひゃー…港がめちやくちや…」

大鳳「氷塊でしょうか、あちこちにありますね」

アール「皆さん、大丈夫ですか？」

兵士A「おおっ！来てくれたんだ、助かった！」

兵士B「良かった…もうこの漁港がダメになるかと思った!!」

アグル「とりあえず、俺の船に乗って避難してください」

アール「かなり被害がでてるようですが…何があつたんです？」

兵士C「聞いてくれ！向こうの方から突然…すっごいでかい奴が襲い掛かってきたんだ!!」

兵士A「どのくらいでかいかっていうと…兎に角すっごいでかいんだ!!」

兵士B「毛むくじやらだけど…すっごいでかかった!!」

江風「つ、つまりでかいんだな？」

弥生「寒い地方にそんなでかい生物っているの？」

ズウン!!ズウン!!

兵士A「ひいっ!?ま、また奴が来たぞ!」

龍田「すっごい地響きね…」

アール「よっしゃ、アグル行くぞ!!赤城達は兵士の皆さんを頼んだ」

アグル「行くぞ兄貴ー！」

江風「な、なあ、アーロさん達はどこ行くんだ？」

弥生「お仕事」

江風「気になるなー…こっそり見に行かない？」

弥生「危ないからダメ」

江風「あ、危なくないようにこっそり見るからさー。弥生も興味あるだろ？」

弥生「…」

弥生「…好奇心に負けてしまった」コッソリ

江風「アーロさん達どこまで行くんだろうなー」コッソリ

アーロ「あ、来たぞ…!!」つディアルテミア

アグル「こいつは…かなり気性が荒いな」つアグナ三マグマ

江風「?どこにも来てないぞ…?」

弥生「!?江風、前…アーロさん達の目の前にいる」

江風「え？」

ガムート「(皿#)」ズウウン!!

江風&弥生」

アグル「『巨獣』ガムート…ていうかこれ金冠いくんじやね？」

アーロ「でっけえええ!! 久々にガムート見るけど、でっけええ!!」

74 サンマ漁を守れ 『巨獣』ガムート

アール「ひえええええっ!!」 ε≡≡≡へ(; ㇏、)ノ

アグル「うひいいいいっ!!」 ε≡≡≡へ(; ㇏、)ノ

ガムート「三(#、皿、) ドドドド

アグル「兄貴!!作戦は!」

アール『明日は我が身』!! キリッ

アグル「だめじゃねえか!」

アール「あのレベルの大きさのガムート、むっちゃやくちや気性が荒すぎて怖いんですけど!」

アグル「じゃあない!!ごり押しでやるか!」

アール「アグル、雌かどうか確かめろよ?」

アグル「はいはいっ」

ガムート「三(#、皿、) 突進

アグル「あつぷ!」 ガード

アール「どうだった? 雌か雄かどっちだ?」

アグル「あー…尻尾と臀部がでかいから雌」

アール「雌か…捕獲しよう。足の周りの雪塊を壊してこかせるぞ」斬り込み

アグル「らじやつ!!」砲撃

ガムート「三(#、皿、)」強踏みつけ攻撃

アール「あつぶねえ!?踏み潰されるところだった…」ガード

アグル「雪塊がとけたし足を攻撃できるぜ!!」フルバースト

ガムート「(、皿、)」怯み

アグル「どんなもんよ!!」

ガムート「(#、皿、)」鼻叩き付け

アグル「ぶべらっ!?」…。(ε。(c||

アール「おおい!」つ生命の粉塵

ガムート「…。(、皿、)…」雪纏い

アグル「ひー!?」雪だるま

アール「あひー!?」雪だるま

ガムート「三(#、皿、)」踏みつけ攻撃

アグル「おおっ!?」ダダダ

アール「揺れる揺れる!」フラフラ

アグル「兄貴、マジであのガムート凶暴すぎだろ!？」

アール「しつかりしろ。腑抜けてたら母ちゃんに叱られるぞ」斧モード叩き込み

ガムート「(； 皿)」怯み

アグル「そこは母ちゃん関係ねえだろ!？」突き

ガムート「(#、皿)三〇」氷塊飛ばし

アール「おらっ飛べ!!」打ち上げ

アグル「よいしやあ!!」ジャンプ攻撃、乗り

ガムート「(#、皿)」暴れる

アグル「おお、すっげえ揺れるな」ユラユラ

アール「絶対に振り落とされるんじやねーぞ!!」

アグル「よし、いけるいけるっ!!」ザクザク

ガムート「(； 皿)」ダウン

アール「しやあっ!!ナイス!!」属性解放切り

アグル「よーし、行くぞ龍撃砲!!」ドドーン

ガムート「(； 皿)」後ろ左脚、雪塊破壊

アール「いいぞ、畳み掛けろ!!」斬り込み

アグル「おらおらっ!!」溜め砲撃

ガムート「(、皿、#)」鼻で振り払う

アグル「おっふ」ガード

アール「おっと」ガード

ガムート「(＃、皿、)」「強踏みつけ攻撃

アール「わぶっ!?前脚の雪塊がつ」三〇)。3。*

アグル「ほらよっ」っ生命の粉塵

アール「サンキュー、さっすが俺の弟」ドヤア

アグル「うざい」

ガムート「(＃、皿、)」鼻叩き付け

アール「おっぶ!？」緊急回避

アグル「もう一回雪を纏ってしまおうぞ!!」

アール「そうはさせせつかよ!!」高出力属性解放斬り

ガムート「(；、皿、)」怯み

アール「はっはあ!!どうだ!!」

ガムート「三(＃、皿、)」鼻でアールを捕まえる

アール「あ」

アグル「捕まったー!？」

ガムート「三（#、皿、）」鼻でアール口を振り回したり叩き付けたり
アール「お、お助けー!?」（；、皿、）

江風「大変だ：アールさんがマンモスみたいなやつに振り回されてる!」ヒョッコリ
弥生「で、でかい：」ヒョッコリ

アグル「：しやない。あれをやるか」ガサゴソ

アール「ちよ、なに笛を取り出してんの!?助けてー!?」ブンブン

アグル「さあ出番だぞー!!」ピーツ

ドドドドドツ

江風「おおっ!?なんか来てるぞ!」

弥生「地面から何か来る!」

アグナコトル亜種「＼（、皿、）／」飛び出す

アール「はあっ!?アグナコトル亜種!?なんでこんな時に出てくるんだ!」

アグル「：：」

アグナコトル亜種「（、皿、）三」ドドドド

アール「アグル、はやくこやし玉で追い払え!」

アグル「…」

アール「…え？アグル？」

アグル「さあ、あぐにゃん。やっちゃってちよーだい！」

あぐにゃん「三(皿)」「圧縮冷水プレス

ガムート「(；、皿)」「怯み

アール「おおっと。つかお前そのアグナコトル…あ、よく見りや鞍がある」

アグル「あぐにゃんは俺が育てた」(；、皿) b

あぐにゃん「(皿)」「フンス

アール「あつ、それはライダーのバッジ。お前ライダーになったのかよ!？」

アグル「はっはっは、ライダー兼ハンターだぜ!!数年前から取ってたんだ。行くぞあ

ぐにゃん!!」

あぐにゃん「(皿)」「三」滑走

ガムート「(#、皿)」「三〇三〇三〇」氷玉飛ばし

あぐにゃん「(皿)」「三」避けて流水プレス

アール「いいなー、俺もオトモンが欲しいぜ」斬り込み

アグル「アグナコトルの亜種を飼育すんの大変だっただぞ!!」砲撃

ガムート「(；、皿)」「怯み

アグル「よし！もう少して捕獲可能になりそうだけ」

アーロ「ああ。油断はすんなよ？」

江風「すつげえ!!なんかかつこよさそう!!」キラキラ

弥生「…これなら大丈夫そう」

モフツ

江風「ん？この雪の塊、やけにモフモフしてるな？」モフモフ

弥生「これって…」モフモフ

あぐにやん「(皿) (皿) (皿) 体当たり

ガムート「(皿) (皿) (皿) 怯み

アグル「兄貴、そろそろシビレ罾か落とし穴を仕掛けようぜ!!」

アーロ「そろそろか？」

弥生「アーロさん!!」ノシ

江風「ちよつと待って!!」ノシ

アーロ「弥生、江風!?!おま、ここはあぶねえぞ!?!」

弥生「これ、これを見て!!」

アーロ「ん？雪の塊…?あつ!?!アグル、あぐにやん、攻撃ストップ!!武器を納めて下

がるんだ!!」武器をしまう

アグル「兄貴、どういふこつちや?」
あぐにゃん「? (、ω、) ?」下がる

ガムート「(＃、皿)」威嚇

アール「ドードー、いいか弥生、江風。それをゆつくり優しく連れてくるんだ」ゆつくり下がる

ガムート「(＃、皿)」ズンズン

弥生「ほら…こつちにおいで」

江風「こつちこつち」

ガムート(仔)「(。ω、) (」トコトコ

アグル「わっ!? ガムートの子供か…」

ガムート「Σ (、皿)」ピタッ

アール「よし…いいな、白くて可愛いからといって抱き着くなよ? 我が子が襲われたと感じて大暴れするからな」

弥生「どれくらい近づけばいい?」

アグル「そこまでいい。後は子供のガムートが親の方へ歩いていくからさ」

江風「というか…あんなでかいのがこんなちっちゃい子供を産むんだな…」

ガムート「（、皿）」鼻で撫でる

ガムート（仔）「キュウウ」鼻で母親の鼻を撫でる

ガムート「（、皿）」（（（））踵を返してゆつくりと子供を連れて歩き去る

ズウン…ズウン…

アール「…もう間違えて迷うんじゃないぞー!!」ノシ

アグル「やれやれ…そりゃガムートが凶暴になるわけだ」

弥生&江風「？」

アール「ガムートは親1頭子供1頭で暮らすからな、親子の絆はとっても強いんだ。特に子育て時期の母親のガムートはかなり凶暴になる。今回は子供のガムートが基地の方に迷い込んでしまったせいで母親は子供を助ける為に基地を襲った…っていうことさ」

アグル「天敵になるティガレックスやベリオロスから身を守るために子供は白い毛並みで雪に擬態するんだ。母親もついうっかり見落としてしまうほどだ」

弥生「…自然ってすごいですね」

アール「おうともさ、自然はすげえ」ウンウン

江風「それで…そのあぐにゃんは…？」キラキラ

あぐにゃん「？（、皿）」

アール「そいつはアグナコトル亜種。火山地帯に棲息する原種と異なり寒冷地帯に生息する海竜種だけど…もしかして街に連れて来てたのか？」

アグル「ちゃんと町役場には知らてるぜ。許可ももらって、港から離れた場所できさせてもらってるし。ちゃんとしつけてるし海も泳げるぞ？」

弥生「…かつこいいですね」ナデナデ

あぐにゃん「♡♡(、ω、)」

江風「おつ、鞍がついてるし乗ってもいい？」

アグル「はっはっは、構わないがあぐにゃんは中々乗せてくれないry」

弥生「乗れました」

江風「おおー!!これ楽しいな！」

あぐにゃん「(、ω、)三三」

アグル「」

アール「…どんまいw」m9(、n、)

i n 執務室

提督「…そうか。そっちは無事に片付いたんだな」

アール「おう。おかげでサンマ漁も無事行われるようだ。そっちはどうだ？」

ジン「…今は輸送作戦を行ってる。もうじき遠征で資材も溜まってきたしいけるな」
ベル「ここから俺達も気合いを入れないと」
大淀「いよいよサブ島沖海戦に突入ですね」
霞「司令官、ここが難所よ。頑張りなさい」
提督「ああ、皆で突破するぞ!!」

赤城「あ、あのー…お礼にサンマを沢山もらつたと聞いたのですが？」

アグル「え？サンマ？あーと、確か…」チラツ

弥生「うんとお食べ？」ナデナデ

江風「おお、よく食べるなー」ナデナデ

あぐにゃん「(*、ω、*)」ガツガツ

皐月「ほらペッコ、今日はご馳走だよー!!」

北上「サンマを食べさせてもらえるなんて贅沢者だねー」ナデナデ

ペッコ「(*、ω、*)」モグモグ

アグル「…サンマ、ほとんど餌にあげちゃった」

赤城「白目」

大鳳「あ、赤城さん!?しっかりしてください!」

75 サブ島沖海戦

i n 執務室

提督「よし、サブ島沖海域の第一次サーモン沖海戦の開始だ」

霞「この海域が鬼門よ。気を引き締めていきなさい」

ジン「あの海域に入るころには夜だ。出だしが夜戦になるのか」

大淀「はい、しばらく夜戦が続きますね。敵艦の駆逐艦や軽巡は夜戦になると時として危険な敵になります」

ベル「うちの子達も力を発揮できるけど、敵も同じようなことなんだね…」

提督「たしか夜戦じゃ空母は艦載機を発艦できないんだよな？」

霞「そうね…編成とすれば航空戦は劣勢覚悟で高い火力、機動力を持つ編成をするか、航巡を交えた高速艦編成が主だわ」

大淀「後は潜水艦がいるとの情報のことですので駆逐艦を2隻入れた編成が必要になります」

ジン「なるほど…確かに大変だな」

鹿島「でもこの海域から支援艦隊を出動することが可能ですよ？」

ベル「支援艦隊？」

鹿島「はい、駆逐艦を2隻、空母を2隻入れた編成で出撃している第一艦隊を支援砲撃する艦隊です。道中の敵艦もしくはボス艦隊にダメージを与えることができ、主力艦隊の負担を減らすことができます。ただ、主力艦隊を含め資材の消費量がふえるのがデメリットですね」

大淀「うまく支援艦隊と主力艦隊との連携を取ることによって攻略しやすくなります。補給拠点も巧く有効活用しましょう」

提督「うむ…手を加える余地はないか…ちゃんと編成を考えないと…」

in工廠

アグル「…え？これで艀装とかいう装備の強化をするんだ」

夕張「はい、資材を少し消費しますけどこれで火力や雷撃、装甲などが強化されるんですよ」

利根「おーい、近代化改修をお願いしたいのじゃ」

夕張「お任せください!!」

アグル「…」チラツ

妖精さん「？」クビカシゲ

アグル「…もしかして、これとか使えたり？」つギルドチケット

妖精さん「ウーン…デキルヨ」

金剛「Hey!! 夕張ー! 明石さんが出かけていないから私の maintenance をお願いしてもいいデスカ?」

夕張「まっかせてくださいよ!! 明石さんの分も頑張りますよー!!」

アグル「…」チラッ

妖精さん「??」クビカシゲ

アグル「…: : : これとかどう?」つ火竜の天鱗

妖精さん「ウーン…ヤツテミルヨ」

く数分後く

黒丸「明石さん、これを工廠に運べばいいのニヤ?」つ木箱

ブルー「中には何が入ってるかニヤ?」

明石「夕張さんが工廠の手伝いをしてくれますし、大本营に工廠の道具を発注してたんですよ。今日港町に届くということでしたので取りに行ってたの」

黒丸「工廠もにぎやかになるニヤ」ウンウン

明石「私がつっかりしないと、ジンさんやアール口さんに唆されちゃいますからね…あれ?」

利根改二「うーむ、近代化改修してもらったのはいんじやが…なぜか下がスースー

するのう……」クビカシゲ

金剛改二「Yes!! なんだかパワーが湧いてきましたヨー!! はやくバーニングしたい
デース!!」フンス

黒丸「……」

ブルー「……あれ? 雰囲気変わってるニヤ?」

明石「……遅かったかー」アチャー

夕張「明石さん!! どうですか、私の改修は!! なんかすごいことになっちゃたけども」ド
ヤツ

明石「うん……まあ……今度改修するときには私が監督しますので……」

アグル「へー……妖精さん、すごいね」

妖精さん「(・ω・)」フンス

in 執務室

提督「よし、それじゃあ編成を発表する。主力艦隊は足柄を旗艦に、金剛、プリンツ、
加古、雪風、初霜の6名で出撃だ。各艦交代で編成する。そして支援艦隊は不知火を旗
艦に満潮、長門、ビスマルク、飛龍、飛鷹の6名だ」

ベル「……あれ? 金剛なんだか雰囲気変わった?」

金剛「なんだかパワーがみなぎっていいマース! ていとくー、私頑張るからネ!」

提督「ああ、頑張るんだぞ？」ナデナデ

ジン「支援艦隊は攻略中は補給拠点で待機だ」

長門「うむ、支援は任せておけ」フンス

足柄「いよっし!! 私に任せてちょうだい!」

加古「緊張するなー…」

初霜「雪風ちゃん、一緒にがんばりましょ」

雪風「はい!一緒にがんばりましょね!」

ビスマルク「プリンツ、私がしっかり支援するからね」

プリンツ「お姉さま!プリンツ頑張ります!!」

提督「足柄には照明弾を、プリンツには夜偵、雪風と初霜にはソナーと爆雷を装備する」

霞「出だしは夜戦よ。気を付けてね」

提督「よーし、皆。何度も言うがこの海域は難関だ。でも、俺達がいることを忘れてはいけない。傷ついた時、くじけそうになった時、俺達が支えてやる。だから胸張って頑張ってきてくれ!!」

艦娘一同「はい!」

in母港

アール「さーて、俺達は支援艦隊と主力艦隊のサポートだ。高速修復材も回収するし
資材の補給もする」

アグル「…あれ？俺も？」

アール「つたりめえだ。俺は先に補給拠点に行つてくるから。鎮守府の方は任せ
ぜー!!」ノシ

アグル「え。ちよ、まつ…」

川内「アグルさん、私達も手伝うから」

矢矧「私達で皆をしつかり支えてあげましょ」

アグル「なんと…川内ちゃん、矢矧ちゃん、この後お茶でも…」

龍田「うふふ、でも変な気を起こしたらその手を斬り落とすからね？」ウッフ

アグル「ひえっ!？」

矢矧「それで遠征なのだけでも…」チラッ

島風「おおっ!?!はっやーい!!」ウキウキ

長波「すっげー!!バナナボートみたいだぜ!!」イヤッホー

天津風「ひゃあああっ!?!は、はやいー!？」

あぐにゃん「(、ω、*)三」ザザザザ

矢矧「…もしかしてあれも連れてくの？」

i n サブ 島沖

プリンツ「本当に夜間ですネ…」

加古「潜水艦とか怖いなー」キョロキョロ

金剛「さあかかってくるがいいネー!!」

足柄「腕がなるわね!」フンス

雪風「私と初霜ちゃんがお守りしますよー!」

初霜「っ!? 敵艦発見しました!!」

足柄「さっそくおでましね。さあ砲雷撃用意!! 照明弾撃つわよ!!」バシユツ!

チカチカ

金剛「Nice !! おかげで敵艦を正確にhitさせることが出来そうデス!!」

足柄「いい? 私に続いて!!」ドドーン!!

軽巡へ級「ミギーっ!?」critical! 撃沈

重巡り級A「WRYYYYYY!!」ドドーン

加古「おわっつ!? あ、危なかつたー。すっごい威力だったぞ…」

初霜「敵艦も夜戦になると駆逐艦だつてかなりの威力を持つ攻撃をしますから

ね」

プリンツ「よし、お返しですよー!!」ドドーン!!

重巡り級B「アバアアアツ!!」critical!撃沈

雷巡ち級A「アーン、ストサマガ死ンダー!!」ドーン!!

加古「だからなんであつたなのっ!!」回避

雪風「加古さん!!探照灯つけっぱなしですよ!?!」

加古「あ、いっけね」off

金剛「行きますよー!!fire!!」ドドーン!!

重巡り級A「Hieeeeeっ!!」critical!撃沈

雷巡ち級B「パパウパウプウツ!!」ドドーン!!

足柄「いたっ!!」小ダメージ

加古「このー!!加古スペシャルをくらえー!!」ドドーン!!

雷巡ち級A「アーン、足首をクジキマシター!!」critical!撃沈

雪風「雪風、やっっちゃいます!!」魚雷発射!!

駆逐口級「出番ナシツ!!」critical!撃沈

初霜「お守りします!!」ドドーン!!

雷巡ち級B「パウツ!!」critical!撃沈

金剛「Yes!!敵前衛警戒艦隊、撃破デース!!」

足柄「提督、このまま進撃するわね！」
提督『ああ、気を付けるんだぞー？』

数十分後

足柄「いやー、焦ったわね。次に戦艦夕級が2隻もくるなんて」

金剛「ダメージを最小限に抑えることができてよかったデス」

加古「おつ、夜明けだ。やつと夜戦の抜け出すことができたんだな」

プリンツ「次がいよいよボス艦隊との戦いですね…」

初霜「支援艦隊から通信です!!まもなくボス艦隊の海域に突入するようですよ」

足柄「いいタイミングね。これならいけるわ」

雪風「皆さん!!敵艦隊が見えてきました!!」

金剛「!?あれは…」

南方棲戦姫「ウフフフ、珊瑚諸島沖デハヤツテクレタワネ。デモ、本気ヲ出シタ私ノ敵ジャナイワ」ウフフ

加古「マジか…姫級か」

金剛「かなり手強そうネ…でも、負けませんヨ!!」

足柄「ちよつと!!」プンスカ

南方棲戦姫「ウフフ、ナアニ？」

足柄「なんで上がスツポンポンなのよ!!うちの駆逐艦の子達に見せられないじゃないの!!」プンスカ

プリンツ「み、みちやダメですよー!？」雪風と初霜の目を隠す

雪風「み、見えませーん!!」(〽)ㄥ(；)

初霜「あの、一体何があつたんですか!？」(〽)ㄥ(；)

南方棲戦姫「イヤ、アノ：キヤ、キヤストオフとかソウイウ仕様ダシ：」

戦艦タ級「イヤ姫様!？押サレテチャダメデスヨ!？」

駆逐ハ級A「艦娘達ガ怯ンデルツスヨ!!ヤツチャイマシヨウ!」

南方棲戦姫「ソウダツタワネ：サア艦娘共、沈ムガイイワ!!」艦載機発射

足柄「くつ、航空優勢にするつもりね：」

プリンツ「それでも撃ち落としましょう!」ババババツ

潜水艦力級「敵潜水艦ヲ発見!!」魚雷発射

加古「わっ!？潜水艦かよ：」critical!大破

＜支援艦隊が到着しました!!＞

飛龍「敵艦隊、見えました!」

飛鷹「ここからなら砲撃可能です!!」

満潮「姫級ね…頑張つて!!」

ビスマルク「プリンツ…気を付けるのよ」

長門「よし、これより援護射撃をする。みな砲撃用!!」

不知火「狙いを定めて…撃て!!」

ドドドドーン!!

輸送ワ級「アカーン!!」critical!

南方棲戦姫「っ!!支援艦隊力…!!」中ダメージ

駆逐八級A「ハエーヨ、ホセツ!」critical!撃沈

戦艦夕級「クツ…小癩ナ…!!」小破

飛龍「まずまずな当たりね」

長門「よし、これより補給拠点に戻る」

不知火「主力艦隊の皆さん、ご武運を…!!」

金剛「Thanks、助かりましたヨ」

足柄「今度は私達の番ね!」

プリンツ「雪風ちゃんと初霜ちゃんは潜水艦をお願いします!!」

雪風「お任せください!」

初霜「雪風ちゃん、潜水艦を探しましょう！」

金剛「行きます!!バーニンググローブ!!」ドドーン!!

駆逐八級B「ブルアツ!」critical!撃沈

南方棲戦姫「ウフフフ、何処ヲ狙ッテルノカシラ?砲撃トイウノハコウスルノヨ!!」ドドーン!!

プリンツ「ヒヤアツ!」critical!大破

足柄「このつ!!やってくるじゃないの!!」ドドーン!!

南方棲戦姫「チツ!!生意気ネ:」critical!小破

戦艦夕級「沈メ!!」ドドーン!!

金剛「キヤアツ!?Shit!!提督からもらった装備が:!!」critical!中破

初霜「潜水艦、見つけました!!ここです!!」つ爆雷

潜水艦力級「ネガティブツ!」小破

雪風「魚雷を撃たせないですよー!!」つ爆雷

潜水艦力級「ギャツ!?!マタダメかー:」critical!撃沈

足柄「敵はなかなかやるわね:雪風、初霜、雷撃用意!!」

雪風「はい!」魚雷発射

初霜「これ以上、仲間をやらせはしません!!」魚雷発射

南方棲戦姫「フン、ソナナ魚雷ナンテ痛クモナイワ？」小ダメージ

足柄「：提督、夜戦突入の許可を!!」

提督『金剛、加古、プリンツ、大丈夫か!?!』

金剛「提督、私達なら大丈夫ネ。このまま夜戦に向かわせください!」

プリンツ「私と加古は回避に専念します!!」

加古「空母ほどじゃないけど：避けるのも得意だからね」

提督『：：わかった。夜戦突入の許可する!』

―夜戦開始!!―

足柄「まずは照明弾!!」バシユツ

南方棲戦姫「狙イ撃チスルヨウダケド：コツチカラ丸見エヨ?」

戦艦夕級「奴ノ砲撃ガ終ワリ次第、狙イマス」

足柄「餓えた狼を舐めんじやないわよー!!」ドドーン!!

南方棲戦姫「グウツ?!イイ火力ジャナイノ：デモ、コツチモ負けテイナイワヨ!!」ド

ドーン!!

雪風「キヤアツ?!し、沈みはしませんっ：」critical!中破

戦艦夕級「才前モ沈メ!!」ドドーン!!

初霜「皆さんの為にも：負けません!!」回避、魚雷発射

戦艦夕級「ナツ!?油断シタカ…」critical!大破

提督『よし、皆!一時補給拠点に撤退、第二艦隊と補給拠点に合流した後鎮守府へ帰投してくれ!!』

足柄「わかったわ。皆、退却するわよ!!」

金剛「中々強いデス…次は負けませんよ!!」

加古「あ、危なかったー…」

プリンツ「補給拠点で修理しましょう…」

初霜「雪風ちゃん、大丈夫?」肩を担ぐ

雪風「初霜ちゃん、ありがとうございます…」

南方棲戦姫「ウフフフ…ドウ?私ノ火力ハ。アノ空母共ガイナイナラ、私ヲ打チ負カス奴ハイナイワ」

戦艦夕級「アノ…大変申シ上ゲニクインデスケド…サツキノ戦イハ負ケテマス」アセアセ

南方棲戦姫「エ?」(。 ㇿ)

戦艦夕級「旗艦デアル輸送ワ級ガヤラレルト…負ケマス」

南方棲戦姫「ウソ、イツヤラレテタノヨ?」アセアセ

輸送ワ級「チーン

戦艦夕級「支援艦隊の援護射撃の時デス：マア最初ハ運ガヨカッタケドモ二度目ハ無イデシヨウ」

南方棲戦姫「そ、ソウネ：コレカラあいつらをドンドン苦シメテヤルワ!!」

in補給拠点

アール「派手にやられたなあ：ま、無事で何よりだ」ナデナデ

雪風「アールさん!!頑張りました!!」エツヘン

加古「敵艦も手強かったなあ」

金剛「ううー：折角強くなれたのにー。残念デース」シヨボン

アール「そっか。とりあえず今は美味しいもの食べてお風呂に浸かって疲れをとりな」つオニギリ

ヨモギ「僕たち出張板前ブラザーズが美味しいごはんを作るニヤ!!」

マシロ「甘いスイーツも作ってあげるニヤよ」

不知火「甘いものですか。ありがとうございます」

長門「うむ、これなら士気は上がるな」

アール「お風呂も用意してるぜ?ほら、ユクモから取り寄せたユクモ温泉の素があるぞー」つ温泉の素

プリンツ「おおー!! アーロさん、ダンケ!!」

満潮「さすがね。用意がいいじゃないの」

ビスマルク「それにしても…南方棲戦姫か。手強い敵ね」

アーロ「聞いた話によると、珊瑚諸島沖にいた南方棲戦鬼が艀装を脱いだ状態のことなんだよな？」

長門「うむ…以前より火力が増して強くなっている」

アーロ「つまり…脱いだら強くなるんだな？」キリツ

不知火「…」ガッ

満潮「…」ガッ

アーロ「あれ？二人とも？ちよ、なにをするの？」

不知火「龍田さん直伝、キヤメルクラッチ!!」

満潮「変態、死すべし！」

アーロ「ちよ、やめ、ぎゃああああっ!？」

76 途中経過、雪風と初霜の決意

「サブ島沖海戦、初戦は提督達のいつの間にかの勝利で終わったものの、順調に進むかと思っていたが現実には厳しかった」

重巡り級「天二滅せーい！」ズドーン

足柄「きやあつ!? 剛の拳なの:!?」critical! 大破

雷巡ち級「イマデス」魚雷発射

金剛「NO!? 孔明の罠デスか!?!」critical! 大破

「ある時は夜戦による重巡や雷巡などの敵艦による高火力の砲撃をくらい、ワンパン大破」

戦艦タ級A「道中デ挫カセテヤルワ!!」ドドーン!!

プリンツ「ひやあつ!? せ、戦艦の砲撃は痛いですー:」critical! 大破

戦艦タ級B「コノ先ニハ行カセハセンゾ!!」ドドーン!!

加古「いつてえ!? 畜生、あともう少しだったのに:」大破

「前衛部隊を抜けても夜戦で火力を増した戦艦によるワンパン大破により撤退」

南方棲戦姫「ウフフフ、部隊ヲ変エヨウトモソシナ砲撃ジャ倒スコトハデキナイワヨ
?」ドドーン!!

榛名「くうつ?!すみません、やられました:」critical!大破

潜水艦力級「ステンバイ、ステンバイ:Go!!」魚雷発射

鈴谷「きやあつ?!ぎよ、魚雷!」critical!中破

潜水艦力級「ビューティフォー」

南方棲戦姫「アラアラ、残念ダツタワネ?」ウフフ

深雪「ぐぬぬ:あともう少しで旗艦を倒せたのに:!!」

那智「むう、仕方なしか:」

——南方棲戦姫や戦艦タ級、そして潜水艦力級の砲撃に苦戦を強いられていた——

輸送ワ級「グワー!」撃沈

戦艦タ級「デスカラ!!輸送ワ級ガヤラレタラ負けナンデスツテバ!」ギャーギャー

南方棲戦姫「ダカラナンデ私ジャナイノヨ!普通私ガ旗艦デシヨ!」ギャーギャー

提督「え!?!そうだったの!?!」

霞「今頃!?!」

比叡「:…なんというか、緊張感がないよな:…」

高雄「提督も天然ね……」

「微力ながらも輸送ワ級を倒して勝利している時もあるがそれでも何回も挑み、倒しきれずにいた」

i n 執務室

提督「うーむ……かなり手強いな……」

大淀「夜戦による敵の砲撃、姫級や戦艦夕級などの高火力の攻撃がありますからね」

提督「ここは艦装を強化するのも大事だが、彼女達の傷を癒していくのも大事だな。

よし、俺も資材や高速修復材を集めに行こう」

霞「司令官、休まないでずっと務めつきりじゃないの。少し休んだら？」

提督「戦線に出てるのは彼女達だ。俺だけ休むというわけにはいかんさ」

霞「……まったく、私も行くわ。道中、勝手に倒れたら困るもの」

ベル「提督、あんま無理しないでよー」

提督「おうさ。ちよつくら行ってくる」

ベル「やれやれ……それじゃ俺達で指示と作戦を練っていこう」

鹿島「はい。皆さんのためにも頑張りましょう」

大淀「……あれ？ジンさんは？」

i n 工廠

明石「で・す・か・ら!! そういうのを使ったらだめですってば!」ググググ

ジン「:ちよ、ちよつとだけだ。いいじゃないか」ググググ

榛名「あ、あのー:榛名は構いませんけども:」アセアセ

明石「いやダメですからね!?! どうか、ジンさん!! このでかい甲殻はなんですか!?!」

ジン「鎧竜の天殻。なんか使ったら防御力が上がりそう」

明石「: : : せいやー!!」アルゼンチンバックブリーカー

ジン「ごふうつ!?!」

臯月「きまつたー!!」オオツ

イムヤ「明石さんすつごーい!!」オオツ

五十鈴「あの明石さんが行けばすべて解決しそう:」

「しかししなんやかんやでやってしまい榛名は改二に、防御力は気持ちだけ上がった」

in補給拠点

アール「提督から通信だ。資材と修復材を補給するため一時進撃は中止。疲労してる子達の英気を養うのが優先だ。支援艦隊も鎮守府に帰投してもいいぞ」

満潮「ずいぶんとのんびりな司令官ね:」

アール「攻略は少しながら進んでる。慌てることはない、ゆっくりでもいいんだ」ポ
ンポン

不知火「司令官らしいですね…でも、私達の事を考えてくださってるのは嬉しいです」
黒丸「僕たちも旦那さん達も皆家族だと思ってるからニヤ」

ビスマルク「そう言ってくれて嬉しいわ。アドミラル達の為に頑張らないと」

満潮「で、でもその間に補給拠点は襲われたりしない？」

アール「心配すんな。いざとなれば俺が追い払ってやるさ」

黒丸「こやし玉をたくさんお見舞いするニヤ！」

長門「ふふふ、心強いな。万が一の場合もあるし私が残っておこう」

アール「ありがとうな。さてと、ここで待機してる雪風と初霜にも伝えておくか。

えーと、何処行つたっけ？」

ヨモギ「浜のほうで遊んでるニヤ」

長門「よし、私が迎いに行くぞっ」キリッ

ビスマルク「いや、そこは空気読みなさいよ」ガッ

――砂浜

アール「おーい、雪風、初霜ー。提督から支援艦隊と共に帰投の指示が来てるぞ」

雪風「…」

初霜「あ、アールさん…」

アール「うん？どうした？」

雪風「アーロさん…ちよつと自信を無くしちゃいました…」

アーロ「何言ってるんだ。このところ二人とも被弾せずにくぐり抜けて言ってるじゃないか。皆スゴイって言ってるぞ？」

初霜「それじゃダメなんです…私達が無事だけじゃダメなんです…」

アーロ「うん？」

雪風「今度こそ皆さんをお守りしよう如初霜ちゃん二人で決めてたのですけど…」

初霜「頑張つて戦おうとしても、体を張つて庇おうとしてもお守りできなくて…」

雪風「駆逐艦は火力が低いですし…お守りできなくて自分の力の無さにしよんぼりしてます…」

アーロ「…お前ら、本当にいい子だな！」ワシヤワシヤ

雪風「わわっ」

初霜「く、くすぐりたいですよ」

アーロ「自信を持って。お前らの頑張りは皆わかってくれてる」

初霜「そ、そうでしょうか…？」

アーロ「ああ。それに俺や提督達だつて皆を守ろうと思ってるさ。…それに守るつてのは大変なのはわかるさ」

雪風「？」

アール「そうだな…俺の故郷であるドンドルマってのはな、険しい山を切り開いた大きな街なんだ。でも、立てた場所が多くのレストランの通り道でな、とくにシエンガオレンっていう…巨大なヤドカリの通り道なんだ」

初霜「どれくらいの大きさなんですか？」

アール「そうだな…脚を曲げた状態で20m、足を延ばしたら30mはいく…ちやうどあの山くらい」

雪風「で、でかいですね!」

アール「あいつは縄張り意識が強くて、邪魔になるものを排除しようと毎年ドンドルマを襲撃してきたんだ」

雪風「ま、毎年…」

初霜「大変じゃないのですか？」

アール「まあな。毎年防壁を壊されるけど、壊されても何度も直して何度も襲撃に備えた。街には多くの人が入るからな、兵士やハンター達は奴が諦めるまでずっと街を守り続けた。でもその際に多くの怪我人も出たし街に進攻されかけたこともあった。」

雪風「…」

アール「挫けようとも押されようとも諦めないで戦い続けてシエンガオレンを撃退し

た。だからな、お前たちのやっつてることも立派なことだ。諦めないでくれ」ナデナデ

白雪「アールさん…ありがとうございます」

初霜「私達、諦めないで頑張ります」

アール「うん、お前らは可愛らしい笑顔が一番似合うぞー」ナデナデ

初霜「うふふ、茶化してもダメですよー？」

雪風「アールさん、私達も主力艦隊と合流するまで残ります」

アール「そっか。工廠の妖精さん達を連れて来てるし整備をしておこうか…おや？」

初霜「アールさん、どうかしましたか？」

アール「…どっか遠くで嵐が起こってるようだな…」

雪風「?どうしてわかるんですか？」

アール「ほれ、上を見上げてごらん。海鳥が沢山飛んでる」

初霜「本当ですね…あんなに沢山…」

アール「災害に巻き込まれないように小動物たちは遠くへ逃げるために起こる前に逃げ出すんだ」

雪風「嵐が無事に去ってくるといいですね」

アール「ああ…そうだといいんだが…今は気にしなくてもいいか」

i n 母港

アグル「や、やつと着いた…」ゲツソリ

龍田「ご苦労様々」ナデナデ

アグル「ああ…ありがたや…」真白に燃え尽きた

長波「いやー、あぐにゃんすごく速く泳いでたな！」

島風「私より速いだなんてずつるーい」

あぐにゃん「(´ω´*)」フンス

天津風「貴女達が乗ったせいでアグルさんは泳いでいく羽目になったんだけど…」

川内「あぐにゃん、アグルを乗せてくれなかったね…」

アグル「」チーン

77 決戦!サブ島沖海戦

i n 執務室

霞「まったく、休みもしないで無理をするからでしょ」フミフミ

提督「あー…体という体がこちこちじゃあー」うつ伏せ

霞「あまり無茶をしないでよね…心配するんだから」フミフミ

提督「あつはつは、毎度毎度すまないな」うつ伏せ

霞「ほんつと、クズ司令官なんだから」クスクス

天龍「提督ー!遠征から帰ったぜー!!…あ」

霞「提督を踏んでいる

提督「ああ、ご苦勞様。ゆっくり休んでいいぞ?」うつ伏せで踏まれている

天龍「…うん、あの、霞…ほどほどにな?」ニガワライ

霞「ち、ちがーう!!これは違うから!!」

提督「??」

i n 母港

あぐにゃん「(⊠ ⊠)」スヤア

弥生「…」カキカキ

アグル「おや？スケッチかい？」

弥生「!!は、はい…べ、勉強です」アセアセ

アグル「うんうん…うまく描けてるじゃないか」

皐月「弥生はね、資格をとるために勉強してるんだ！」

雷「たしか…ライダー3級とかいうの。すごいよね」

アグル「ほほう、ライダー3級か…えらいな」

弥生「あ、あう…」テレテレ

アグル「俺なんか3級とるのに2回も試験を受けたんだ」遠い目

雷「やっぱり難しいの？」

アグル「3級でも筆記試験が難しいし…それに実技試験もあるぞ」

皐月「実技もあるの!？」

弥生「どんなことをするんですか？」

アグル「モンスターの手入れ、誘導、騎乗して移動だ。ギルド本部のライダーのオトモンだが担当する種はランダムなんだ。1回目にボルボロスを引きな…手入れの時に怒らせてぶつとばされて失格になったさ」

弥生「む、難しいんですね…」

アグル「なに心配することはないぜ。クロードさん達もいるしライダーの俺もいる。分らないことがあつたら何でも聞いてくれ!」

弥生「ありがとうございます…」

アグル「ところで、あぐにゃんが乗せてくれないのだけどどうすればいい?」

雷「…それってライダーとして問題じゃ…」

弥生「…ご、ごめんなさい。わかんないです」

in 執務室

提督「あれ? 榛名なんか雰囲気変わってない?」

榛名改二「え、えっと…近代化改修で…」

ジン「…目を逸らす

夕張「…目を逸らす

霞「…またやったのね…」

提督「あとなんか防御力が上がってそうな気がするんだけど?」

榛名「き、気のせいですよ」アハハ

提督「そうか…よし、主力艦隊の編成を発表するぞ。足柄を旗艦に金剛、榛名、プリンツ。4名は補給拠点に向かい待機している雪風と初霜と合流して出撃。支援艦隊は不知火を旗艦に時雨、長門、ビスマルク、加賀、大鳳で出撃してくれ」

金剛「Yes!!この時を待っていますマシター!」

足柄「いよっしゃあ!!やってやるわよー!!」

プリンツ「二人ともすつごいヤル気満々ですね!」

榛名「私達も頑張らないといけませんね」

ジン「大淀さんの話によるともう少して突破できると言っていた」

提督「いつの間に…」

大淀「何回か戦っている最中に旗艦の輸送ワ級を撃破していますからね。頑張ってください」

さい

提督「よし、皆あともう少しだ。気合いを入れて行こう!」

艦娘一同「はい!」

in補給拠点

金剛「雪風、初霜!お待たせしマシター!!」

アール「おうおう、こりやまた一層気合いが入ってんな」

加賀「提督も一生懸命に資材を集めてくれましたから。私達も頑張らないといけません」

ん

雪風「いよいよですね?初霜ちゃん、一緒にがんばりましょう!」

初霜改二「ええ。雪風ちゃん、行きましよう!」

足柄「…あれ?」

時雨「なんだか初霜ちゃん、雰囲気変わってるね…?」

不知火「…近代化改修、したんですか?」ジト

アール「♪(ε、;)」

加賀「…あとで明石さんに伝えておきますね」

アール「そ、そんな殺生な!」

ビスマルク「やっぱり近代化改修したのね!」

アール「さすがに天鱗はあかんかった。反省はしてる」キリッ

大鳳「お、怒られますよ…?」

「この後アールはキャメルクラッチの餌食に。主力艦隊は提督の応援と(やらかした)ジンとアールのおかげで奮戦する」

足柄「今日は何だか気分がいいわー!!」ドドーン!!

重巡り級A「アベシツ!」critical!撃沈

金剛「フアイアー!!」ドドドーン!!

雷巡ち級「ヒ、ヒデブー!!」critical!撃沈

足柄&金剛「ヒヤッハー!!」ドドドド

プリンツ「ふ、二人とも前に出すぎですー!!」

榛名「ああ!?!もう敵陣に!?!というより二人の勢いが強すぎて敵艦が逃げてます!?!」

戦艦夕級「沈メツ!!」ドドーン!!

榛名「きやあつ!?!あ、あれ?」小ダメージ

金剛「榛名、ナイス装甲ネ!」

戦艦夕級「ズ、ズルイワヨ!!」プンスカ

榛名「えつと、あつと…なんかすみません…」ペコペコ

――奮闘して小破することなく突破していった――

金剛「OK!!順調にいつてますネ!」

足柄「これならいけるわよ!!」

プリンツ「うふふ、私と雪風ちゃん、初霜ちゃんの幸運のおかげですね!」

雪風「初霜ちゃんと一緒に頑張ってお守りしてます!!」

初霜「あともう少しですネ!」

榛名「!!見えてきましたね…」

南方棲戦姫「ウフフフ、マタ来タノネ?何度ヤツテモ私ヲ倒スコトハデキナイワヨ?」

足柄「今日の私達は一味違うわよ!!今日という今日は突破してやるんだから!!」フン

ス

金剛「勝たせてもらいマース！」

プリンツ「不知火ちゃんから通信！支援艦隊が到着しましたよ！」

加賀「支援艦隊、ボス艦隊を捕捉しました」

大鳳「この距離ならいけます！」

不知火「今度こそ狙い撃ちます」

時雨「いつでもいけるよ！」

ビスマルク「いい？主力艦隊を少しでも負担を軽くさせるわよ」

長門「ああ、砲撃用意!!てーっ!!」

ドドドン!!

軽巡へ級「パッション!!」critical!撃沈

戦艦タ級A「グウツ!!被弾シタカ!!」critical!中破

南方棲戦姫「っ!?ヤルツテクレタワネ!!」小破

長門「よし…これより帰投する。武運を祈る」

金剛「OK!!後は私達がやりますよ!!fire!!」ドドドン!!

南方棲戦姫「クツ!?生意気ナ…沈メ！」中破、反撃

金剛「Ouch!?!:まだまだデス!!」

榛名「榛名、撃ちます!!」ドドーン!!

戦艦タ級B「ガツ!?!オノレ!」critical!大破

潜水ヨ級「敵ノ潜水艦ヲ発見!!ニイエツト!!」魚雷発射

プリンツ「よつと!思い通りにはさせないですよ!!」

雪風「皆さんをやらせはしません!」つ爆雷

潜水ヨ級「ネガティブツ!」critical!大破

初霜「これでどう!!」つ爆雷

潜水ヨ級「ダメカー!」hit!!撃沈

足柄「砲雷撃戦、てーっ!!」ドドーン!!

戦艦タ級B「グアアツ!」critical!撃沈

戦艦タ級A「凶ニ乗ルナ!」ドドーン!!

足柄「くつ!こんな砲撃、痛くないわよ!!」中破

プリンツ「足柄さん!やりましたねー!!」ドドーン!!

戦艦タ級A「ギャツ!」大破

プリンツ「よし、雪風ちゃん、初霜ちゃん!雷撃です!!」魚雷発射

雪風「はいです!!」魚雷発射

初霜「やっちゃいます!!」魚雷発射

南方棲戦姫「チツ!! エエイ、鬱陶シイ!!」小ダメージ

足柄「いけるわ!! 提督、夜戦突入の許可を!!」

金剛「提督!! いつでも行けマスヨ!!」

提督『よし! 頑張るんだ!! 夜戦突入だ!!』

―夜戦突入!!―

足柄「照明弾、いくわよー!!」バシユツ

南方棲戦姫「面倒ネ……!」

足柄「弾幕を張るわよ!! 撃て撃て撃てええつ!!」ドドーン!!

南方棲戦姫「グウツ!? イツモヨリ火力が強い……生意気ネ!」大破、反撃

足柄「ぐっ!? なんのこれしき……!!」大破

金剛「バーニング……ラアアアアブツ!!」ドドーン!!

戦艦タ級A「旗艦ヲヤラセハシナイワヨ!」庇って防御

榛名「勝つては! 榛名が許しません!!」ドドーン!!

戦艦タ級A「キヤアツ!? ヤラレタ……」critical! 撃沈

プリンツ「追撃します!! Feuer! Feuer!」ドドーン!!

南方棲戦姫「グツ……マダヤラレハシナイワ!!」回避

雪風「雪風が皆さんをお守りします!!」魚雷発射!

南方棲戦姫「ナニイツ!?クツ:オノレ、忌々しい艦娘共め:次こそは容赦しないわよ

…」critical!撃沈

金剛「Yes!!よくやりました、雪風!!」

足柄「いつけー!!」

初霜「はい!これできめます!!」魚雷発射!!

輸送ワ級「忘レラレテルト思ツタノニー!!」critical!撃沈

足柄「:提督!!主力艦隊、敵主力艦隊を撃沈!!サブ島沖を突破しました!!」

雪風「しれえ!!私達の勝利です!!」

提督『やったー!!おおと!?』ガタガタツ

霞『司令官!喜びすぎ!!椅子から落ちちやつてるじゃないの!』

金剛「やりましたよー!!」

ベル『皆、お疲れさま。よく頑張ったね』

提督『あたたた:本当に頑張った。艦隊、帰投してくれ!』

ジン『:お酒、那智と一緒に用意しているからな!』

足柄「いやったあー!!今日は祝い酒ね!」

榛名「うふふ。足柄さん、帰ってからですよ?」

初霜 「雪風ちゃん、やったね」

雪風 「はい！皆さんをお守りできてよかったです!!」

プリンツ 「二人のおかげですね!…おや?」

金剛 「あそこに見えるのは…ヘーイ!!」

妙高 「あら? 足柄じゃないの。」

秋雲 「もしかして鎮守府の艦隊の人達?」

金剛 「Y e s !! よかったら一緒に来ませんか?」

妙高 「ええ、ぜひ一緒にさせてください。」ニッコリ

足柄 「妙高姉さん、うちの提督とってもいい人よ!!」ヒヤツハー

秋雲 「でさ、雪風姉。提督ってどんな人?」

雪風 「竜の様な鎧を身に着けて強くてカッコいいしれえです!!」エツヘン

秋雲 「…うん、なんか見てみないとわかんないか…」

初霜 「最初は驚くと思いますよ?」

那智 「かんぱーい!!」

ジン 「今日は酒が飲めるぞー!!」

ベル「もう始めちゃってるし!」

提督「まあまあ、みんな頑張ったんだから大目にね?」

霞「司令官、優しすぎよ。まあ、いいけどね…」

比叡「提督!!お姉さまの大勝利だって聞きましたよ!!」

提督「ああ。金剛と榛名もみんな奮闘してたぞ」

比叡「よっしゃー!!」ブンブン

提督「はははは、比叡も嬉しいんだな」

比叡「勝利を記念に…:カレーを作ってみました!!味見します?」ニッコリ

ジン「とーう!!」那智をおんぶして窓から飛び降りる

那智「ちよつと呑み屋行ってくる!」

ベル「鹿島、演習の予定があつたよね?」ガタツ

鹿島「え?あ、はい。確か…:そうでしたね」ガタツ

霞「司令官、今日のご飯食へに行く予約してたわよね?行くわよ」

提督「え?そうだっけ?」

霞「司令官は忘れっぽいんだから!ほら、さっさと行く」グイグイ

比叡「…:あれ?」

アール「うーっす。支援艦隊と一緒に帰投!!」

比叡「あつー!アールさん、お疲れ様です!!どうですか?カレー作ってみたんですよ!」

アール「おつ、カレーかあ。こいつは嬉しいな」

時雨「…あつ」

不知火「…時雨、もう手遅れです…」

ビスマルク「…アールさん…本当に貴方って人は…」

比叡「食堂に用意してます!!沢山作ってますよー!!」

アール「おお?俺はカレーに関しては何もさえないからな?楽しみだなー」

加賀「…」 敬礼

アグル「…兄貴、なにしてんの?」

長門「アグルさん。そつとした方がいい」

アグル「??」クビカシゲ

——無事、サブ島沖の海戦を勝利した提督達。その日は別々の場所で祝ったという。

そしてアールは

78 火山地帯調査報告

i n 医務室

アーロ「…おや？知らない天井だ」

ビスマルク「何言ってるの。ここは医務室よ」

アーロ「あれ？ビスマルク…つーかなんで俺が医務室に？」

レーベ「アーロさん、無事だったんだね！」

曙「ほんと心配したのよ」

アーロ「え？え？」

ビスマルク「貴方って人は…本当におバカさんなんだから」クスツ

アーロ「…昨日の夜の記憶がさっぱりなんだが…」

ビスマルク「いいの。いいのよ。思い出す必要はないの」

アーロ「昨日、何かあったはず…うーむ…」

曙「あの時私達の為に全部食べたアーロさん、かつこよかったわね…」ヒソヒソ

レーベ「でも目がすでに死んでたけど…」ヒソヒソ

i n 執務室

アグル「それじゃあくロードさん、火山地帯調査任務の説明をしますよ」

提督「うむ。よろしく頼む」

アグル「今回、調査する場所はサブ島沖にある火山島の火山地帯及び地底火山の生態調査を行います」

霞「地底火山って…そんなのがあるの!？」

ジン「地底洞窟の近くにある火山が活性化すると溶岩が流れ、辺りは灼熱と化した洞窟となる」

ベル「マグマや熱気で危険な地帯になるけどその分豊富な資源が多く取れるんだ」

アグル「その地域で揺れがあったのですが火山活動による影響だろうとギルド本部及び古龍観測所は判断しています。深海棲艦やオオナズチといった古龍のせいで調査ができていなかったたのでギルド本部より調査せよとの要請が下りてます」

提督「なるほど。今は通れるようになったし、調査は可能だな。じゃあ俺とアールが加わろう」

アグル「クソ兄貴ですか!?! ジンさんかベルさんの方がよかったな」

アール「ああ? 誰がクソ兄貴じゃこら」アイアンクロー

アグル「げえっ!?! クソ兄貴!?!」ググググ

霞「アールさん、もう大丈夫なの?」

アール「え？大丈夫だけど…昨日何があつたの俺？」

霞「…」視線を逸らす

ジン「…」ポンポン

提督「うん…アール、お前はよく頑張つたよ」

アール「え、っ!?ちよ、どういふことだよ!？」

in 火山島付近

アグル「うん…確かに火山地帯の生態調査つて言つたけどさ…」チラッ

弥生「あれが火山…」

不知火「迫力がありますね」つ姫竜砲

響「ハラシヨ」

磯風「過酷な環境だな…鍛え甲斐がありそうだ」

天龍「うおおっ!?!なんかかつけえ！」キラキラ

アグル「なんでついてきてるの!？」

アール「弥生と不知火と響はフィールドワーク。天龍はノリ。磯風は修行」

アグル「イヤイヤイヤ!?!火山は危険だからね!？」

長門「戦艦も同伴しているぞ」キリッ

アグル「保護者同伴じゃないと無理とかそういうものじゃないから!」

黒丸「大丈夫ニヤ。今回はアールさんとオイラがいるニヤ」

チャチャ「オレチャマたちがしつかりオトモをするツチャ!!」

アール「ほれ、各自クーラードリンクを5個渡す。ちゃんといってくるんだぞ」

駆逐艦ズ「はい」

アール「よしじゃあ出発ー!」

アグル「やれやれ…まあ兄貴とオトモがいるなら大丈夫か。じゃあクロードさん、俺

達も行きましようry」チラッ

天龍&長門「(・ω・)」フンス

アグル「ついてくるのな…」

提督「二人なら大丈夫さ。さてと火山地帯だからクーラードリンクを…あれ?」ガサ

ゴソ

アグル「…クロードさん?」

提督「あれれ? おつかしいな…霞からちゃんと受け取ったはずんだけど…あれ

?」ガサゴソ

アグル「…半分あげますよ…」つクーラードリンク

火山

アール「火山地帯や寒冷地帯はとくに環境も過酷で餌も少ない。その地域に生息する生物は適応する為に独特な進化をしていったんだ」

響「クーラードリンクってすごいね」

不知火「ええ。これを飲んだだけで灼熱の火山地帯を歩くことができるなんて驚きです」

磯風「黒丸やチャチャは暑くないのか？」

黒丸「アイルーは何処に行ってもヘツチャラニヤ」

チャチャ「オレチャマ達も暑さも寒さにも強いツチャ」

アール「過酷な環境の為、大型の生物は縄張りを作る。そのため火山に棲むほとんど生物は気性が荒い」

弥生「…触診や検査する場合はどうするんですか？」

アール「たいていは麻酔玉で眠らせてから行う。大変なのはウラガンキンだな」

不知火「どうしてですか？」

アール「ほれ」つ双眼鏡

弥生「…あれは…」

ウラガンキン「(、皿)」ガツガツ

弥生「あれは何を食べてるの？」

アーロ「ウラガンキンの原種は幼体は草食性だが成体になると鉱物を主食として食べている。過酷な環境の中で鉱物を餌と選択した種がいるんだ」

不知火「栄養の効率は悪そうですね」

アーロ「ガンキンは草食ゆえに消火分解時間も遅くエネルギー効率は悪い。分解の過程で可燃性のガスが溜まるから定期的に体からガスを排出しなければならぬ。眠らせて触診してる最中にガスが出るトラブルもあるから気をつけなきゃならぬ」

弥生「ふむふむ」メモメモ

アーロ「特にウラガンキンの亜種が面倒でな：奴は虫や硫黄鉱物を主食とするから体内に溜まるガスがすっげえくせえの。悪臭のガスをくらったら消臭玉を使わん限り鎧は数週間臭い」プンスカ

響「：くらったことがあるんだね」

アーロ「よししどんどんいくぞー」

― 地底火山 ―

天龍「あ、あつちい」

アグル「地底火山はマグマがすぐ近くまで流れてるからね。クーラードリンクを飲んで暑く感じるんだ」

長門「ハンター達はこのような場所も行くのか…」

アグル「どんな場所でも向かう。それがハンターのモットーだからね」

天龍「あれ？ところで提督は？」

提督「おーよしよしよしよしよしよし!!」 ナデナデ

ドスイーオス「(* , ω ,)」

イーオスA「三 (, ω ,)」

イーオスB「(, ω ,) 三」

イーオスC「三 (, ω ,)」

天龍「囲まれてる!?! それでもなんか戯れてるし!?!」

長門「すごいな提督…」

アグル「団長さんから聞いた話によるとさ…昔クロードさんが密林で迷ってた時、鳴き袋と鳥竜種の骨を組み合わせて作った笛と生肉だけでランポスの群れを手懐けさせ、ドスランポスに乗って密林を抜けたことがあるんだってさ」

天龍「は!?!」

アグル「他にもガレオスを手懐けさせ砂漠の海を渡ったり、雪山で遭難した時はウルクスの親子と猛吹雪を乗り越えたとか…クロードさんってすごいよ」

天龍「提督…はっちゃけすぎだろ…」

長門「提督のすごさのルーツがなんとなくわかるな」

提督「アグルー。ドンドン進むぞー！」イーオスたちと走り回る
アグル「ちょ、速すぎですよ!？」

不知火「ここは溶岩が多く流れてまるで炎の河のようですね」

磯風「こんな所にも生物はいるのか？」

アーロ「もちの論。こういった溶岩でも…」

ヴォルガノス「(皿) /」溶岩から飛び出す

磯風&不知火「」

響「いた…!？」

黒丸「急いで高い所へ隠れるニヤ!!」

弥生「溶岩を泳いでる…すごいです！」キラキラ

アーロ「ヴォルガノスは唯一マグマの中を自由自在に泳ぐことができる魚竜種だ！溶岩を纏ってるから触ったらマジであちいぞ!!」つブラックフルガード

チャチャ「久しぶりのヴォルガノスツチャ!! 滾って来ましたぞー!!」

ヴォルガノス「三(皿) 突進

黒丸「やってやるニヤー!!」

磯風「火山の生物はすごいな…」

提督「いやっほー!!」ダダダダ

アグル「ちよ、クロードさん待ってー!!」ダダダダダッ

長門「ははは!!こいつは楽しいな!」ダダダダダッ

グラビモス亜種「(、皿、)三」グラビーム

天龍「全然楽しくねえから!?マジで怖すぎなんだけど!?つかゴジラかよあれは!」
ヒーツ

提督「いやはや。とつても元気な黒グラビだな!」

アグル「感心してる場合じゃないですよ!?グラビ亜種のブレスはやばすぎるんですか
ら!!」

リオレウス亜種「○三(、皿、)火球ブレス

天龍「あつぶねえ!?!」ヒーツ!

長門「あんな蒼い竜もいるのか…いわば蒼龍だな!」キリッ

天龍「呑気な事言ってる場合じゃないって!!」

提督「おらー!!降りてこーい!!」つ閃光玉

レウス亜種「(×皿×　・)」眩暈

アグル「ヒヤツハー!! 触診の時間だー!!」乗り

提督「ヒヤツハー!! 異常はないみたいだぜー!!」翼を確認

天龍「:ノリノリだな:」

アール「おらー!!」属性解放斬り

ヴォルガノス「(皿)」「ビッターン

アール「あひーっ!?!」ガード

黒丸「アールさん、シビレ罨を仕掛けたニヤ!!」

アール「おっしやナイス!!」

チャチャ「挑発の踊りツチャ!!」

ヴォルガノス「(皿)」「三」突進

アール「おとおおっ」ダツシユ

ヴォルガノス「(×皿×)」「ビリビリ

アール「おらー!! 麻酔玉じゃーい」つ麻酔玉

ヴォルガノス「(×ω×)」「スヤア

アール「ぜえぜえ:な、なんとかなったぜ」

黒丸「ヴォルガノスは強敵でしたニヤ」

弥生「この子見た目が可愛い：」

アーロ「ま、まあな。見た目と仕草の可愛らしさで好きなハンターもいる」

弥生「こんな過酷な環境でも形を変えて生きている。とつても不思議ですね」

アーロ「お、うまくスケッチできてるじゃねえか。弥生は頑張り屋さんだな」ナデナ

デ

弥生「ありがとうございます：」テレテレ

アーロ「あれ？ところで響と不知火と磯風は？」

響「アーロさん、火山にも蟹がいるんだね」

不知火「変わった青い蟹を捕まえました」

磯風「小さいながらも中々強敵だったぞ」

ガミザミ「(×ω×)」ジタバタ

アーロ「あ：ガミザミ：と、いうことは：」

ショウグングザミ「(、皿、) /」地面から飛び出す

響「今度の蟹は大きいね：」

磯風「むっ!?親玉の出現か！」

不知火「相手にとって不足はありませんね」しやがみ撃ち

アール「と、とにかく撤収だー!!」4人を担いで走る

アール「…つてなわけで火山の方を探索したが、異常はなかった」ボロボロ

響「道中、青い鎌蟹やウラガンキンに出くわしたけど大丈夫だったよ」

磯風「いい修行になった！」フンス

不知火「このボウガンにも慣れてきました」フンス

天龍「うん、その分アールさんが頑張ったんだな…」

アール「そつちの地底火山の方はどうだったんだ？」

提督「とても楽しかったぞ」ウキウキ

アグル「とても大変だった…」ゲツソリ

長門「提督達の活動を間近に見れていい体験ができた」ウンウン

提督「地底の最深部まで調べたが特に異常がない。古龍もいなかったし、何事もなくてよかったな」

アグル「そうですね…これで報告書を作成できそうです。クロードさんありがとうございます」

アール「ねえ？俺は？俺も頑張ったんよ？」

アグル「うざい」

アーロ「ああ!?ぎっけんなこらー!!」 取っ組み合い

弥生「……司令官の故郷にはこういつた場所や生物が沢山いる……司令官達の故郷に行ってみたいな……」

●島探索 壱日目

ウイル「と、言うわけでこの島を探索するぞ!!」

ホツポ「オー!!」

ウイル「あとハチミツを探索するぞー!!」

ホツポ「オー!!」

レ級「マダ探スノカヨ…」

港湾棲姫「ホツポ、忘れ物ハナイ?」

ホツポ「大丈夫!水筒もお菓子も持ッタ!」

港湾棲姫「困ッタ時ガアツタラ?」

ホツポ「即時にウイルにシガミ付ク!」フンス

ウイル「まじか」

戦艦棲姫「貴女達は行カナクテイイノ」グイツ

軽巡棲姫「チヨ、ナンデヨ!」

空母水鬼「私モツイテ行キターイ!」

防空棲姫「ウイルの邪魔ニナルデシヨ」

戦艦水鬼「フン、奴のやり方をミルダケダ」

—— 森林地帯 ——

ウイル「ま、まあついて来てもいいって言ったけども…」チラッ

ホッポ「??」クビカシゲ

重巡棲姫「??」クビカシゲ

駆逐水鬼「ドコカラデモカカツテ来イ！」フンス

ウイル「沢山ついて来てもよかつたんよ…?」

駆逐棲姫「ぼ、防空棲姫ちゃん結構厳シカツタヨウデスネ…」ニガワライ

駆逐水鬼「コウイウ場合、重巡棲姫サンヲ連レッテタ方ガイイゾ?」

ウイル「そうなの?」

重巡棲姫「肉、クレタ。お前はイイ奴。好キ」

ウイル「そうなの!?!?てか単純すぎい!?!」

重巡棲姫「ダカラ、モット肉クレ」グイグイ

ウイル「しかも今!?!」

ホッポ「お昼ハモウ少シ進ンデカラ!」

重巡棲姫「うー」(0言0、#)

駆逐棲姫「トコロデ、ドウシタラ保護区ニ登録サレルヨウニナルンデスカ?」

ウイル「この島ならではの生態的特徴があったり、希少生物がいたり、資源が豊富だったりだな。その為にも島を踏破しなければならぬんだ」

駆逐水鬼「島ノ外周ヲ見テミタガ、結構大キイ島ダツタ。歩イテ地図ヲ完成スルノハ大変ダロウナ」

ホツポ「ソノタメノ冒険ダヨ！ホツポ頑張ル！」フンス

駆逐棲姫「ウイルさん、その持つテイル物ハ何デスカ？」

ウイル「マタタビだ。島を踏破するにはアイルーっていう猫の協力も必要だからだ」

駆逐水鬼「アイルー？」

ホツポ「ウイルの話で聞イタコトガアル！二足歩行で歩くシャベル猫ダネ？」

ウイル「その通り。どの地域にもアイルー族がいてな。地理や生態を熟知している。アイルー達から情報を聞けばその辺の地理やどこにどんな生物がいるかがわかって地図や資料作りで重要なんだ」

駆逐棲姫「ウイルさんは何デモ知ツテルンデスネ！」ニコニコ

ウイル「あはは、ありがとうな。でも俺よりもクロードって奴がもつとすげえんだ」

駆逐水鬼「ウイルの昔ノ仲間カ？」

ウイル「あいつはよくモンスターを観察しててな、クルペッコは踊りと鳴き声でコミュニケーションを取ることを知って一緒に踊ってジャングルを駆け、火山で迷った時

はラングロトラでロデオしながら山を降りたりしてた」

ホツポ「何それ超コワイ!？」

駆逐水鬼「モシ敵トシテ出クワシタラ：戦イタクナイナ：」

ウイル「優しい奴だから大丈夫さ：むむっ!？」

駆逐棲姫「？ドウカシマシタカ？」

ホツポ「モシカシテ希少生物!？」

ウイル「あれは：：!!」

アオアシラA「ㄥ（エ）、」クマー

アオアシラB「(？)(エ)？) v」クマー

ホツポ「青イ熊ダ！」キラキラ

駆逐棲姫「熊ツテ黒カ茶色カト思ツタンデスケド、青イノモイルンデスネ：」

重巡棲姫「：：？」

駆逐水鬼「デモ、ウイルが興奮シテ観察シテルゾ。ヨツポド貴重ナンダロウナ」

ウイル「：：やったぞ！ついに、ついに：ハチミツにありつけるぞおおっ!!」ヒヤッ

ハ

ホツポ「ハチミツ！ヤッタネ、ウイル!!」

重巡棲姫「ハチミツ？」

駆逐棲姫「ホツポちゃんの『レップー』と同じクライ貴重ナ物ダソウデスヨ？」

駆逐水鬼「デモ何故アノ熊ガハチミツと関係アルンダ？」

ウイル「アオアシラという熊の大好物はハチミツなんだ。食事をするときには必ずハチミツのある場所に向かい、ハチミツを食べる！よし、こっそり後をつけるぞー！！」

ホツポ「オーツ！！」

駆逐棲姫「島ノ探索ハーっ!?」

ウイル「ハチミツ、ハチミツー！！」

ホツポ「ハツチミツ!!ハツチミツ!!」ウキウキ

駆逐棲姫「もうノリノリですね…」

駆逐水鬼「ヨツポドハチミツが好キナンダナ」

重巡棲姫「∴∴(うわゝゝ)ネムネム

ホツポ「ウイル、熊さんが木ノ辺リニ止マツタヨ!!」

ウイル「も、もしや…!!」

アオアシラA「(*? (エ)?*)クマー

アオアシラB「(*? (エ)?*)」クマー

ウイル「ハ、ハ、ハチミツを食べてる!!」

ホッポ「あのオレンジ色のベトベトしてそうな液体ガ：ハチミツ！」
重巡棲姫「：オイシソウ：」ウツトリ

ウイル「や、やった！ハチミツだ!!ハチミツだー!!」感動

駆逐棲姫「ウイルさんが感動シテル：!!」

駆逐水鬼「良カッタナ」

グラグラ：

駆逐棲姫「ヒヤアッ!?岩ガ揺レテル!?」

駆逐水鬼「な、ナンダ!?」

バサルモス「(、皿) /」地面から飛び出す

駆逐棲姫「い、岩が大キナ生物ニ!?」

ウイル「げっ!?こんな時にバサルモス!?」

アオアシラA&B「Σ(。)(エ)。(；)」クマツ!?

バサルモス「(＃、皿)」威嚇

ホッポ「ネエネエ!!アレハ何?」

ウイル「あれはバサルモスだ。グラビモスの幼体で普段は岩に擬態して過ごしているが：嫌な予感が：」

アオアシラA&B「(、(エ)。(；)」威嚇

バサルモス「(#、皿)三〇」火球プレス
 ウイル「あつ…」

ドドーン!!

ハチミツへアイエエエエツ!? 爆発四散!

ウイル「(、皿)。。」

ホツポ&重巡棲姫「」

駆逐棲姫「ハ、ハチミツが…!!」

アオアシラA&B「三(; ; (エ)。(」クマー!!

バサルモス「(#、皿)」フンス

ウイル「: : :」プルプル

駆逐水鬼「う、ウイルさん…?」

ウイル「ヤローぶっころがしてやるううううつ!!」ドドドドドツ

ホツポ「転ガシテヤルー!!」プンスカ

バサル「?(、皿)」

ウイル「おらーっ!! ハチミツの恨みを思い知れえええつ!!」つエイムOfマジック

バサル「Σ(、皿 ;)」

ウイル「ホツポ!! 足にめがけて思い切り投げつける!!」

ホッポ「オーツ!!」つ三浮遊要塞

バサル「三●」；皿；」こける

ウイル「ヒヤツハー!! 鉱石の採掘だー!!」つピツケル

ホッポ「ヤツホー!!」つピツケル

駆逐水鬼「：ハチミツでウイルを怒ラシテハイケナイナ：」

駆逐棲姫「ヤツト探してたハチミツですものね：」

バサル「三（；皿；）」逃げた

ウイル「：また一から探さなくちやな：」シヨンボリ

ホッポ「ウイル、元氣ダシテ：」ポンポン

ウイル「だな!アオアシラがいるなら別の場所にもあるかもしれない!!」

駆逐棲姫「ヨ、良カツタ。ウイルさん元氣にナツタミタイデス」アセアセ

駆逐水鬼「ヨシ、コノママ探索ヲ続ケヨウ」

重巡棲姫「：アマイ」ハチミツもぐもぐ

ウイル、ハチミツを見落とす

ウイル「ここをキャンプ地とする!」

駆逐水鬼「?」

ウイル「一度言ってみたかったんだよねー」

ホッポ「キャンプ！キャンプ!!」ウキウキ

重巡棲姫「ウイル!! オ腹スイタ! 肉ヲクレ!!」ポカポカ

ウイル「いてて!! テントを立ててからこんがり肉を作つてあげるから待つて!!」

重巡棲姫「うーうー!!」(、0言0、#) プンスカ

数分後

ホッポ「オオツ!! これがテント!!」キラキラ

ウイル「ほいさっほいさっ」落ち葉や木くずをかける

駆逐棲姫「落ち葉や木くずをカケテドウスルンデスカ?」

ウイル「落陽草とか臭いを消してくれる草木を使って臭いを消すんだ。夜間はフルフルやナルガクルガが徘徊するんだ。昔、臭いを消し忘れてテントで寝てるとフルフルがテントを破つて襲つてきたというホラーなことがあつたんだ。」遠い目

ホッポ「野営モ大変ナンダ:」

重巡棲姫「ヴェアア!! ウイル!! お腹スイタ! 早くゴ飯!!」(、0言0、#)

ウイル「もうちよつと待つて: っつて、お腹からなんかすごいのが出てる!?!」

駆逐水鬼「重巡棲姫サンノ艤装ハオ腹カラ出ルンダ」

ウイル「怖すぎ!! わ、わかった、お肉焼くから落ち着いて!!」

「ジョウズニヤケマシター!」

* 重巡棲姫「肉、ウマイ!! 肉くれるウイル、大好き!」*。+(n、v、n)+。

ウイル「お、おおう…次から予備も焼いておくか…」ゲツソリ

ホッポ「ウイル、半分アゲル…」ナデナデ

駆逐水鬼「ウイルさん、マタ食ベレナカツタンダ…」

ウイル「ささ、明日は夜明けと共に移動するから早く寝な」

ホッポ「ハーイ!」in寝袋

重巡棲姫「(つ▽) オヤスマー」

駆逐水鬼「ウイルさんハ?」

ウイル「悪いな、そのテント…4人用なんだ…」遠い目

駆逐水鬼「…その、スマナイな…」

ウイル「いいんだ。周りの見張りをしなくちゃいけないし、今はゆつくり疲れをとつ

てけ」ナデナデ

駆逐水鬼「ウム…明日ハしっかりウイルのオトモを務メルカラナ」

駆逐棲姫「…」

―夜中―

ウイル「…こんな時、雷光虫は便利だな。うーむ、草木やキノコに鉱石、昆虫はいたつ

て普通か…生物もまだまだ探索しなくちやな…」カキカキ

駆逐棲姫「ウイルさん…」

ウイル「おお？どした？眠れないのか？」

駆逐棲姫「イイエ：ウイルさんは寝ナイノデスカ？」

ウイル「もうちよつと、日誌と資料を書かなくちやいけないからな」

駆逐棲姫「…空を見上げる

ウイル「？」

駆逐棲姫「…ツキガキレイ…」

ウイル「うん？ああ、今日は満月だ」

駆逐棲姫「…イツモ見るツキは私ガ深海棲艦トシテ生マレタ時ト、戦闘デ何度モ夜ノ海ヘ沈ンデイク寸前にしか見タコトガナカツタンデス…」

ウイル「…」

駆逐棲姫「デモ、ウイルさんと出会えて、ウイルさんノオカゲデ初メテ陸カラ月ヲ見ることができました…月ガ、星空ガコンナニ綺麗ダナンテ…」

ウイル「…月ガ綺麗、か…」

駆逐棲姫「…ハイ」

ウイル「『私、死んでもいいわ』」

駆逐棲姫「!？」

ウイル「…昔、団長がな、『東の国の本を読んだんだが、『月が綺麗ですね』って言うたら『死んでもいいわ』って答えるとロマンチックなんだ』とか自慢しながら言ってるさ…」

駆逐棲姫「…」

ウイル「月も綺麗だが…他にも色んな綺麗なものもある。俺が連れてってやるからもつと感動するがいい」ドヤツ

駆逐棲姫「…ウイルさんはやっぱり提督になるべきですよ…」

ウイル「そ、そうかなー…俺は冒険者のままでいいんだけどなー」

【探索一日目】

成果：バサルモス 1頭 アオアシラ 2頭 その他
失ったもの：ハチミツ

79 提督、風邪をひく

i n 執務室

提督「ブヘックション!?」クシヤミ

霞「すっごいくしやみね。大丈夫なの?」

提督「うーむ…ジンと飲んだ後、夜通して書類整理をしたのがいかなかったかなあ…」

霞「あたしが寝た後もまだやってたの!? ダメじゃないの、体壊すわよ」

大淀「提督、なんだか声の調子もよくなさそうですし体調の方はどうなんですか?」

提督「だ、大丈夫だ。問題ない」キリッ

霞「正直に言いなさい」ゲシッ

提督「ね、熱っぽい?」

霞「夕立風に言われても…司令官、今日は休養しなさい!」

ジン「最近、気温が急に冷えてきたからな。あれほど体調管理には気をつけろといったのにな」ケロッ

霞「ジンさんは大丈夫なの?」

ジン「酒は良薬!」ドヤッ

大淀「ま、まあ……ほどほどにしてくださいね……」ニガワライ

霞「困ったわね、今日は大本営から配属される子が来るのに……」チラツ

ジン「(・・・) b」ドヤア

霞「……ベルさんは？」

大淀「ベルさんは鹿島さんと遠征に行ってます」

霞「……」チラツ

ジン「d (・・・) ドヤア

霞「……ジンさんしかいないわね」

大淀「そ、そうですね」

i n 中庭

天龍「え、提督が寝込んだ!？」

阿武隈「うん、風邪をひいたみたいよ？」

川内「速く治るといいねー」

黒丸「久々の天日干しニヤ」

ミケ「しつかりお手入れするニヤー」

阿武隈「黒丸、それって提督がいつも着てる鎧じゃ……」

黒丸「そうニヤ。熱を出してちゃダメだから旦那さんには鎧を脱いでもらったニヤ」

ミケ「時たまお手入れしないと防御力が下がってしまふニヤ」

天龍「鎧がここにあるということは…」

青葉「いまの提督は鎧を脱いでいて生身の姿ですね!? ついに提督の素顔が見れる、これはスクープです!!」

川内「わっ!?! いつの間に!?!」

天龍「青葉の言う通りだな! これはチャンスだぜ!!」 ダツ

青葉「さあ急いで医務室に行きましょー!!」 ダツ

i n 医務室

青葉「お邪魔しますよ提督ー!! お顔拝見ですー!!」

天龍「提督! お見舞いのついでに素顔を見せてくれー!!」

提督「うん?」 ガルルガフエイク

青葉&天龍「なんでだああああっ!」ズコー

提督「??」クビカシゲ

霞「こら! 今の司令官は療養中なのよ!!」 プンスカ

青葉&天龍「は、はい!」 アタフタ

i n 工廠

アール「久しぶりの建造だなー」

明石「アールさんかジンさんが建造や開発をやるらといつつも心配なんですよねー」
夕張「大丈夫ですよ明石さん!!私がちやんと見張ってますから」

明石「それでも心配ですね…」

アグル「働く女性つかつかかわいいですよね?」キリツ

明石「え、あ、ありがとうございます?」

アール「お前は黙ってろや」アイアンクロー

アグル「あだだだだ」

00:00:00 ―― 〈新しい艦娘が建造できました!〉

アール「おつ、できたみたいだな」

明石「本当に変なのは入れてないですよね?」

アール「疑り深いなあ…ジンほど変にいじったりしないぞ」

アグル「ブーメラnw」m9(〇〇〇)

アール「おらああっ!!」卍固め

アグル「グアアアッ!」バンバン!

明石「はあ…それじゃあ開けますよ?」工場オープン

朝潮「朝潮型駆逐艦、ネームシップ。朝潮です！どうかよろしくお願いいたします！」
アール「どりゃあああっ!!」

アグル「ギブギブギブツ!!」

朝潮「（。 ㇿ。）

明石「うん…大丈夫よ。あの人達、ああ見えて結構いい人達だから…」遠い目

夕張「あ、提督は今風邪で療養中ですが…」

明石「そ、そうね。とりあえずベルさんでいつか。そろそろ戻って来る頃だしね」

朝潮「??」アタフタ

in 執務室

ベル「…提督が療養中でジンが代理なんだね…」

ジン「一日提督」ドヤ

瑞鶴「それで私が秘書艦なのね…」

加賀「なんか納得いかない気がします…」ジト

鹿島「い、一日の辛抱ですから」アタフタ

大淀「ジンさ…」

ジン「提督で」キリッ

ベル「瑞鶴、やっちゃって」OK!

瑞鶴「はい！爆撃用意！！」

ドドドーン！！

朝潮「ば、爆撃!? 敵襲ですか!？」

明石「あー…たぶん違うと思うわ…」

夕張「あ、先に大本営から配属された子が来たみたいですよ？」

春雨「こ、この度大本営からこの鎮守府へ配属されることになりました、白露型駆逐艦5番艦の春雨です！」

時津風「同じく配属されました、陽炎型駆逐艦10番艦の時津風だよー」

ジン「うむ…今は提督が休養中なので代理として務めているジンだ」プスプス

春雨&時津風（こ、焦げてる…!?)

ジン「…」ジー

時津風「?どしたのー?」

ジン「…お手」スツ

時津風「はいっ!」ポンッ

ジン「おかわり」スツ

時津風「ほいっ」ポンッ

ジン「……」ナデナデナデナデ

時津風「わふく♡」フニャー

加賀「なにやってるんですか」ゲンコツ

ジン「ぶっ?! いや……つい……」タンコブ

ベル「ま、まああまり硬くならず気楽にいいよ」

春雨「あ、ありがとうございます！」ペコペコ

朝潮「……こ、ここの鎮守府は鎧が制服なんですか……?」

明石「うん、うちの鎮守府だけがちよつと特殊なのよ……」

i n 母港

アグル「兄貴、ちよつと町役場の方に行ってくるわ」

アーロ「あ? どうかしたのか?」

アグル「いや、ギルド本部から連絡があったらしくてな。ちよいと聞いてくるだけさ」

アーロ「うん? あぐにやんに乗っていかないのか?」

アグル「あぐにやんは……」チラッ

弥生「♪」ゴシゴシ

あぐにゃん「♡(、ω、 *)」機嫌

アール「:すつかり弥生に懐いちまってんな」

アグル「弥生ちゃん資格を取るためならいいき:」遠い目

アール「帰るときはしつかりお世話するんだぞ」ポんポん

アグル「うん:」テクテク

in 医務室

提督「ふんふんふーん♪」

霞「司令官、お薬持ってきたわ:よ:?:」

ガールガフエイクへ置かれてるぜ!

提督「お、霞。もうお昼か」素顔

霞「(、H)。。」

提督「うん?どした?」

霞「し、司令官:兜:」

提督「ああ、霞は素顔見るのが初めてだっけ?」ニツコリ

霞「え、ええ:その、顔に斜めの傷跡がついてるわね」

提督「これかい?あはは、これは俺がまだ新米ハンターだった頃についた傷さ。密林

でナルガクルガという生物と戦っている時、頭の防具が取れてしまつて刃翼で斬られて

しまったんだ」

霞「だ、大丈夫なの!？」

提督「あの時は運がよかった。もし傷が深かったらヤバかったかもなー」シンミリ

霞「…」

提督「ま、まだこれは軽いもんだぞ？」上着を脱ぐ

霞「!？」ブツ!？」

提督「ほらこの横っ腹の噛み跡、イビルジョーっていうやつに噛まれたんだ。噛む力が強くてな、防具がしつかりした物じゃなかったら喰われてたよ」

霞「司令官はここに来るまでずっと戦ってたのね…」

提督「ハンターは採取に、観察、討伐と色々やるからな」

霞「…司令官、はやく元気になってよね」

提督「そうだな。早く治して残りの任務を熟さない」と

霞「…サーモン海域の補給拠点の奪還ね。話は聞いてるわ…艦娘に重傷を与える凶暴な生物がいるって」

提督「ああ。あれは古龍と同じくらいとっても危険な奴なんだ。その種とは幾度となく戦ってきたが…何度も危ない目にあつたことやら」

霞「司令官、無茶をしないで言っても無茶するだろうし…いい？貴方は私の、私達

の大事な司令官なのよ？絶対に勝って」

提督「心配をかけるな、霞。大丈夫、必ずやってみせるさ」ナデナデ

霞「ん…」

アール「おーい、お見舞いにやってきたぞー!!」ドーン

霞「顔真つ赤

提督「ああ、アールか」上半身裸

アール「

霞「え、えつと、こ、これは…」アタフタ

アール「…ふつ、アールはクールに去るぜ…大丈夫、立ち入り禁止にしとくからよ…」

スツ

霞「わあああああつ!!」シャイニングウィザード

アール「ぶべらっ!?」〓〇)。㇏。…

提督「えっ」

アール「チーン

霞「ぜえぜえ…」顔真つ赤

提督「か、霞さん…?」

霞「今の見てなかった!いいわね!」

提督「あ、アツハイ」

i n 大本営、元帥のお部屋

元帥「クロードくんのおかげで補給拠点は復旧しつつあるな…」

孫娘提督「はい。おかげで他の鎮守府からも出撃、進撃しやすくなり海域攻略の橋立になってます」

元帥「もし彼らがいなかったら時間はかかっていたかもしれないけど良かっただろう」

孫娘提督「残すところはあと一か所です」

元帥「うむ、このまま彼らに任せても心配はなさそうだ」

孫娘提督「あの…おじいちゃ、いえ元帥殿。少し気になることが…」

元帥「？」

孫娘提督「例の南方海域遠方に突如発生した台風ですが…」

元帥「気象観測所であの台風はそれるから心配はないと話を聞いたが、どうかしたのかね？」

孫娘提督「それが…妙なんです」

元帥「妙？」

孫娘提督「その台風の進路を観測していますと…風の影響を受けず直進し、急に止

まったりしているんです。まるで…生きているみたいに」

元帥「生きています…？その台風の進む先は？」

孫娘提督「…このまま行くと、サーモン海域に入ります」

元帥「…一度、彼らかギルド本部に聞くべきか…少し様子を見よう…」

80 破壊と滅亡の申し子 『金獅子』ラージャン 前

i n 母港

提督「皆、準備はできているか？」

ジン「いつでも大丈夫だ」

ベル「回復薬G、粉塵に大粉塵、用意はできてるよ」

アール「提督こそコンディションはどうなんよ？」

提督「ぼつちりだ。それじゃあ出発しよう」

天龍「提督、今回は護衛艦はいらないって大丈夫なのかよ？」

金剛「私達がいればすぐに着けますヨ？」

提督「気持ちには嬉しいんだが…今回はかりは艦娘達にも危険が及ぶ可能性が高い。だから俺達だけで行かなければならない」

ジン「すまないな。待つのは辛いと思うが、待っていてくれ」

長門「…わかった。この場は私に任せてくれ」

ビスマルク「その代わり、ちゃんと帰って来なさいよ？」

鹿島「ベルさん……お気を付けて」

ベル「うん、ありがとう。行ってくる」

アーロ「戻ってきたら酒宴の用意しといてくれよ？」

足柄「飲む気満々ね……いいわ、用意しておくわよ」

霞「……」

提督「か、霞……」ソワソワ

霞「クズ司令官！しゃきつとする!!」

提督「は、はいっ!!」

霞「いい？絶対に帰ってくるのよ？無茶をしないでよね？」

提督「おう。頑張るさ」

曙「怪我したら泣いちゃうわよ（裏声）」

不知火「かしゆみ、泣いちゃう（裏声）」

霞「うがあああつ!!」ダッ

ジン「……」

瑞鶴「ジンさん、どうかしたの？」

ジン「ん、なんでもない……」

瑞鶴「ジンさんなら大丈夫よ！信じてるからね！」

ジン「瑞鶴：うむ、任せろ」

黒丸「そろそろ出港するニヤー！」

提督「うし！いつちよ行ってくるぜ！」

霞「司令官!!気を付けていくのよー!!」ノシ

天龍「すつかりなじんでるなー」ニヤニヤ

加賀「さすが提督の秘書艦ですね」

川内「いいなー」

足柄「やはり霞ちゃんね！」

霞「そこ！うるさーい!!」プンスカ

サーモン海域、補給拠点エリア

アーロ「うわあ…：デイノバルドの時よりもやばい惨状だな」

ベル「建物もドッグも滅茶苦茶。もう原型を留めてないよ」

ジン「見ただけでかなり大暴れしたかがよくわかる…」

提督「辺りを見回すんだ。いつどこから襲ってくるかわからんぞ」

ヒューン ◇三

アーロ「げえっ!?言ってる傍からでつけえ岩塊が飛んできやがったぞ!!」

ベル「危ない、避けるっ!!」回避

ジン「いきなり先制攻撃か…!」回避

提督「あつぶなかつたー…どこからだ?」

ヒューン (〇〇)三

提督「やつば!?こんどは飛鳥文化アタックだ!!」ダツシユ

アーロ「避けるー!!」ダツシユ

ヒューン 三(〇〇)

ベル「もう一回くるぞ!」

ジン「ぬんっ!!」ジャスト回避

提督「あの金色の毛並み…間違いない。『金獅子』ラージャンだ…!!」

ラージャン「(＃ ▼皿▼)」咆哮

提督「しかも激昂した個体だー!!」つダオラーデグニダル

ベル「そんな気がしたよ…」つジョーズクリーパー

ジン「気をつけろ…殴られたらかなり痛いぞ」つ六花垂氷丸

アーロ「やらいでか!もうやるしかねえぜ!!」つザ・ボア・ファナー

ラージャン「(＃ ▼皿▼) 三三三三 気光プレス

提督「散れーっ!!」緊急回避

ジン「よっ!!」ジャスト回避

アーロ「一番槍もらいつ!!」斬り込み

ラージャン「(# ㊦)▼皿▼(㊦) ボディプレス

アーロ「あひいーっ!?!」三() 亅、;

ベル「アーロ、気を付けて?!激昂した個体はかなりの攻撃力を持つてるんだからね!」

アーロ「す、すまん：つ、つい」っ回復薬G

ラージャン「三(# ▼皿▼) 三角飛び突進

アーロ「あつぶね!?!」ガード

ベル「はやいつ!?!」緊急回避

ジン「せいっ!!」抜刀斬り

ラージャン「c ㄥ (c ㄥ (c ㄥ (▼皿▼# c ㄥ) デンプシーロール

ジン「うおっ!?!急に振り向いてやるか…!?!」回避

提督「ひええっ!?!」ダツシュ

アーロ「マジで怖ええっ!」ダツシュ

ベル「これでどうだ!」ジャンプ攻撃

ラージャン「(▼皿▼ ;)」怯み

提督「よっしゃ!! 今だ!!」溜め斬り

ジン「この隙に畳み掛けるんだ!」気刃斬り

ラージャン「(▼皿▼) #) 三(▼皿▼) 三(#) ▼皿▼)」回転攻撃

提督「ぬつく!?!」大剣ガード

ジン「くつ…!?!」

アーロ「後ろとつたー!!」斧モード叩き込み

ラージャン「(▼皿▼) 三(#) ▼皿▼) 三三三」振り向いて気光プレス

アーロ「あぶねえ!?!」回避

ラージャン「\ (▼皿▼) /」高くジャンプ

提督「くるぞ!! 飛鳥文化アタックだ。回避に専念しろ!」

ラージャン「(○) 三」ローリングアタック

ベル「俺だーっ!?!」回避

ジン「もう一回くるぞ。備えろ!!」

ラージャン「三(○)」ローリングアタック

アーロ「おおおっ!?!」緊急回避

提督「あ、危なかったー!?!」回避

ラージャン「(▼皿▼) #)」威嚇

提督「このやろっ!!」ジャンプ溜め斬り

ラージャン「(▼皿▼;)」怯む

提督「よし、乗った!」ライド

ラージャン「(▼皿▼#)()」大暴れ

提督「おわっ!?!むっちや暴れるー!!」

ジン「しっかりしがみつけ!」

アーロ「振り落とされるんじやねーぞ!!」

提督「ま、任しとけええっ!!」ザクザク

ラージャン「(▼皿▼#)()」大暴れ

提督「おらーっ!!」

ラージャン「(▼皿▼;)」ダウン

アーロ「ナイスー!!これでもくらえ!!」属性解放斬り

ジン「斬り込めっ!!」気刃斬り

ベル「この隙にダメージを与えるんだ!!」鬼人化乱舞

ラージャン「(▼皿▼#)」バックステップ

提督「あいたっ」こける

ジン「バックステップなのに前へコケる仕様はなんなんだ…」こける

ベル「ちよつと待って!?! ラージャンの様子が…」

ラージヤン「《▼皿▼#》」超激昂モード

提督「ま、マジギレだあああつ!?!」

ジン「気をつけろ、かなりやばいぞ…!!」

アール「あのガチガチになった赤い腕で殴られたくない!」

ラージヤン「○《▼皿▼#》○」両手を地面に突っ込む

ベル「あれ…何してんの?」

提督「まさか…」

ラージヤン「\《▼皿▼#》/」巨大な岩を持ち上げる

提督&ジン&ベル&アール「(皿) ? ?

ラージヤン「○三\《▼皿▼#》」巨大な岩を投げつける

提督「まじでかあああつ!?!」ε≡≡≡へ(; 皿、)ノ

8 1 破壊と滅亡の申し子 『金獅子』ラージャン 後

提督「避けるおおおつ!!」緊急回避

ベル「これはやばいつ!!」緊急回避

ジン「躲せつ!!」ジャスト回避

ズズズーン!!

提督「いやいやいや…バカ力にも程があるだろ…」

ベル「ちよつと待って。アールは!？」

ジン「まさか…」

アール「あ、危なかった…持っててよかった絶対回避…」ヒヤアセ

ジン「焦らせやがって…」

提督「こうなったら罠も駆使するしかない!!」

ベル「よし、任せて!!」つ【シビレ罠】

ラージャン「《◆皿◆》#《三》突進

アール「そうはさせつかよ!!」高出力属性解放斬り

ジン「時間を稼ぐ!」抜刀斬り

ラージャン「CCCC《▼皿▼#》」デンプシーロール

アーロ「ぶべらっ」…・・・(ε。()

ジン「おぶすっ」〓〇)、3、)…・・・

提督「これでっ!!」っ【生命の粉塵】

アーロ「た、助かった…」

ベル「よし、仕掛けたよ!!」

ジン「兎に角そこまで誘い込むぞ!!」ダツシユ

ラージャン「《▼皿▼#》三」三角飛び突進

提督「こっちだ!!」回避

アーロ「あぶねえっ!」回避

ラージャン「(《▼皿▼#》)シビレ

提督「畳み掛けるー!!」溜め斬り

アーロ「オラオラオラア!」属性解放斬り

ジン「斬れ斬れっ!!」気刃斬り

ベル「いけええっ!」鬼人乱舞

ラージャン「(《▼皿▼#》)バックステップ

提督「だからなんで前へ吹っ飛ばされるんだよ!」受け身

ジン「おのれラージャン：!!」受け身

ラージャン「\《▼皿▼#》/」高くジャンプ

アール「飛鳥文化アタックがくるぞー!!」

ラージャン「(○)(三) ローリングアタック

ジン「ぬんっ!!」ジャスト回避

ラージャン「三(○)(三) ローリングアタック

提督「おつと!?よし、これで：」

ラージャン「(○)(三) ローリングアタック

提督「もう一回あるのかよおおおつ!?」三(三)、ω。…

ベル「提督吹っ飛んだー!?」

アール「おおい!?大丈夫か!?」つ【生命の粉塵】

ジン「俺も使うぞ!!」つ【生命の粉塵】

提督「い、一乙するところだった：」ヒヤアセ

ラージャン「《#▼皿▼》」威嚇

ベル「このっ!!」斬り込み

ラージャン「《# っ▼皿▼》」拘束攻撃

アール「うげっ!?やべええっ!?」拘束中

ラージャン「《# ㊦》皿》》㊦」執拗に振り回す

アーロ「た、助けてー!?!」(; ㊦、)

提督「ろっしよい!!」抜刀溜め斬り

ジン「これでもくらえっ!!」一文字斬り

ラージャン「(《# ; 皿》》)「ダウン

アーロ「あ、あぶねえ。助かったぜー!!」

ベル「足を狙うよ!!」回転斬り

ジン「中々手強いな…!!」連続斬り

ラージャン「《皿》皿》》三《# 皿》》」回転攻撃

ベル「うわっ!?!」(; × ㊦ ×)

ジン「ぶっ!?!」(㊦)

アーロ「こんにやろ!! さっきはよくもやりやがったな!」斧モード叩き込み

ラージャン「《皿》皿》》」片角破壊

アーロ「よっしやあ!!」剣モード斬り込み

提督「そいつ!!」叩き切り

ラージャン「三三三三《皿》皿》》#》」気光プレス

アーロ「あ、やべ…」

提督「アーロ!!」アーロを押し

アーロ「うおっ!!」

提督「ヌワー!?(; 旦 : : : ; : : : :

アーロ「提督!?!」

ベル「これでっ!!」つ【生命の大粉塵】

提督「いててて…」プスプス

ジン「あまり無茶すんな…怒られるぞ?」

提督「す、すまん…こりやあ泣かせちゃうかなあ…」

ラージャン「三三三三《皿》#》気光プレス

アーロ「もう一発きたー!!」緊急回避

提督「うおっ!?!ベル、もう一回罨を頼む!」

ベル「了解!!」つ【落とし穴】

ジン「いくぞ!!」ダッシュ

アーロ「よっしやあ!」斬り込み

提督「おらー!!」抜刀斬り

ラージャン「こ《皿》#》ボディプレス

ジン「むっ!!」ジャスト回避

アール「提督、もう一回頼むぜー!!」斧打ち上げ

提督「よしきたー!!」ジャンプ溜め斬り

ラージャン「《《皿▼;》》」怯み

提督「よし、乗りいー!!」ライド

ラージャン「(《《皿▼;》》(「大暴れ

提督「う、うひー!?!」しがみ付く

アール「ファイター!!」(。▽。)(。〇。)

ジン「負けるなー!!」(。▽。)(。〇。)

提督「ウ、ウラーツ!!」ザクザクザク

ラージャン「(《《皿▼;》》)「ダウン

ジン「よし!斬る!!」気刃斬り

アール「叩き込んでやるぜー!!」属性解放斬り

提督「もつともつとだー!!」超溜め斬り

ラージャン「《《皿▼#》》三《《#▼皿▼》》」回転攻撃

提督「ガードっ!!」大剣ガード

アール「ガードポイントっ!!」GP

ベル「落とし穴、仕掛けたよー!!」

提督「オツケー！走れー!!」ダダダッ

アール「はよはよー!!」ダッシュ

ラージャン「CCCC《▼皿▼#》」デンプシーロール

ジン「うおおおっ!」(。D。；三

ラージャン「(《▼皿▼；》)」落とし穴にはまる

提督「今だー!!」溜め切り

アール「ごり押しだー!!」高出力属性解放斬り

ベル「おおおっ!!」連続斬り

ジン「これでどうだ！」大回転気刃斬り

ラージャン「〇三《▼皿▼#》」気光弾プレス

アール「ぶべっ!」..:(。ε。(c三

提督「あばすっ!」(；D、)

ジン「くっ、まだか…っ!!」受け身

ベル「かなり手強いね…」受け身

ラージャン「〇《▼皿▼#》〇」両手を地面に突っ込む

アール「げえっ!」

ジン「また来るか…!」

提督「うおおおっ!!」ダツシユ

ベル「提督!？」

提督「岩を投げさせる前にやる!!」

アール「んな無茶な!？」

ラージャン「\《▼皿▼#》/」巨大な岩を持ち上げる

提督「そうはさせるかー!!」抜刀斬り

ラージャン「\《▼皿▼;》/」怯み

グラツ

ラージャン「Σ《▼皿▼;》」岩が頭に当たる

提督「だっしゅーっ!!」絶対回避

ジン「無茶しすぎだ…!」

アール「でもナイスだぜ!!あいつスタンしてやんの!」

ラージャン「(《×皿×;》)」スタン

アール「こいつで決めるっ!!」超高出力属性解放斬り

ジン「くらえっ!!」大回転気刃斬り

提督「うおおおっ!!」超溜め斬り、回転斬り

ラージャン「《×皿×》ズウウウンツ!! 【目的を達成しました】

提督「はあ…はあ…や、やったー!!」

アール「な、何とか倒したぞー!!」

ジン「疲れた…体中が痛い…」

ベル「ふう…ラージャンはやっぱり強いなあ…」

ジン「後はギルド本部と大本営に連絡すれば任務達成だ…」

アール「つ、疲れたよ…」クタクタ

提督「これでサーモン海域の補給拠点も復旧できる…」

ベル「うん、一先ず鎮守府へ帰ろう…」

in 波止場

提督「いたたた…体中が痛くて船が進めない」

ジン「ラージャンとの戦闘は絶対に骨折するからな…」

アール「どうする？一晩寝てから帰るか？」

ベル「おや？…あれってもしかして…」

金剛「テイトクー!! 迎えに来マシタヨー!!」ノシ

天龍「やっぱり心配になってきたぜー!!」

長門「出迎えていこうと思っただが無事に済んだんだな…」

アーロ「おおっ!! 来てくれたのか。助かるぜー!」

川内「あらら…提督達ボロボロだねー」

加賀「やはり来てよかったです」

ジン「…いろいろとすまないな」

霞「…」ジ

提督「あ…す、すまん。ちょっと無茶しちゃって…」アセアセ

霞「…まったく。言っても無茶するんだから」プイッ

提督「Σ(； 皿、)」

霞「…でも無事でよかった。ご苦労様」ニッコリ

提督「お、おう! 頑張ったぜ!!」フンス

天龍「デレデレだな」ニヤニヤ

金剛「にやけマスネー」ニヤニヤ

霞「う、うっさいわね! ほら、曳いて帰るわよ!!」

提督「よし、それじゃあ帰って報告だ!!」

霞「その前に司令官達の傷の手当が先!!」

ジン「…」

加賀「…? どうかしましたか?」

ジン「…いや、どこか遠くで嵐が起きていると感じたただけだ…」

加賀「…?」

ジン「…この胸騒ぎ…かつて故郷のユクモに『奴』が来たときと同じ感じがする…いや、気のせいかな?」

【孫娘提督の依頼③】 ラージャンの討伐により完遂、南方海域の全補給拠点の奪還に成功す

in 町役場

アグル「…ひ、筆頭リーダーさん、それってマジですか?」 つ黒電話

筆頭リーダー『ああ。古龍観測所の探索船がそっちの海の方で目撃したようだ』

アグル「そ、それで…何処に向かつてるんです?」

筆頭リーダー『うむ…南方の海…その地方で言うところと鮭海域といったか?』

アグル「たぶんサーモン海域のことですね?」

筆頭リーダー『そうだな…ギルド本部はもう一度観測したのち本土の本部と大本営に報告をする。もし緊急な事になればすぐに伝える…奴が動きを変えてくれることを祈

るしかない』

アグル「わ、わかりました！こちらもなるべく準備しときます。後早めにバリスタの弾を送ってくださいよ!!」

82 サーモン海域、迫る嵐雲

in 執務室

提督「あいたたた…まだ痛いなあ」

霞「もうすぐこの海域を突破すれば南方海域を攻略なのよ。もうひと頑張りしなさい」

ベル「たしか次はサーモン海域だったよね？」

大淀「はい。こちらの海域では鼠輸送作戦、または敵の撃破を行います」

提督「鼠輸送？ネズミを運ぶのか！」ハハッ

ビスマルク「違うわよ。ドラム缶などの輸送物資を運ぶのよ」

大淀「この海域では空母かつ雷巡がそれぞれ1隻以上、ドラム缶の3つ以上装備しなければなりません」

ベル「ドラム缶を3つ以上か…それぞれ1個ずつ持つ必要があるな…」

北上「あ、ドラム缶だけど、夕張つちなら4つ持てるよー」

提督「本当か!?夕張はすごいなー…」フムフム

鹿島「編成でしたら高速戦艦を1隻、空母を2隻、雷巡を2隻、そして夕張さんを入

れるのがいいですよ？」

ベル「よし！夕張を呼んできて!!」

大淀「あれ？そういえばジンさんがいませんね？」

霞「いつもなら工廠か執務室にいるのに……」

ベル「そういえばこの頃のジンは何か考え事をしてるみたいだね」

提督「ふむ……なにかあったのかな？」

in 母港

ジン「……」海の先を眺める

瑞鶴「ジンさん、どうかしたの？」

ジン「……む？瑞鶴か……」

瑞鶴「最近なんだか元気がないようだけど、悩み事があるの？」

ジン「……なに、昔を思い出してるだけだ……」

瑞鶴「昔？そういえばジンさんの故郷の話を少しだけ聞いたけど……もつと知りたいな」

ジン「……そうか。溪流にある集落のことしか話していなかったな。あそこには13の頃まで過ごしていた」

瑞鶴「……それからドンドルマへ引っ越したんですね」

ジン「そうだな…その集落では酒造りが盛んでな、俺の実家も酒屋だった。ハンターになっていなかったら酒屋の跡継ぎになってたかもな」

瑞鶴「ジンさんが酒屋の主人…なんだかイメージできないわね」

ジン「…実は昔、好きな子がいたんだ」

瑞鶴「え!?! ジンさん、好きな子がいたんですか!?!」

ジン「ああ。好きな子にプロポーズをしようと自分で酒を造ってプレゼントしようとしたんだ…」

瑞鶴「そ、それでどうだったんです…?」ドキドキ

ジン「…」首を横に振る

瑞鶴「えー!?! 勿体無いなー…ジンさんほどいい人はいそうにないのに」

ジン「…: : : そうだな。勿体無い…」

瑞鶴「え、えつと…その好きな子ってどんな感じの子ですか?」

ジン「それは…: : : ずry」

加賀「瑞鶴、そこにいましたか」

瑞鶴「げっ!?! か、加賀さん!?!」ビクツ

加賀「提督がお呼びです。恐らく出撃メンバーの編成だと思えます。さっさと行きま
すよ」グイッ

瑞鶴「わわわっ!? ちや、ちやんとついてきますってー!!」アタフタ
ジン「…」ため息

in 執務室

提督「いよいよ南方海域の最後の海域、サーモン海域への出撃だ。比叡を旗艦に大井、木曾、加賀、瑞鶴、夕張の6名で出撃する」

比叡「よしキター!! 気合い! 入れて!! 行きます!!」フランス

大井「ふふふ、開幕魚雷の餌食にしてやるわ…!」

加賀「気を抜かず、行きましょう」

夕張「…もしかして私、ドラム缶?」

鹿島「すみません…」アセアセ

夕張「そんな気がしてたのよねー…」

木曾「夕張さん、そこは気合いで行こうぜ!」

瑞鶴「もしもの時はフレーム回避のこつを教えてあげるわよ!」

夕張「それ、フォローになってないよね!」

霞「南方海域最後の攻略よ。司令官達のために勝ちに行くわよ」

比叡「そうですね! よし!! ウォーミングアップしてきまーす!」ダッ

ベル「ちよ、どこ行くのー!」(…)

提督「ま、まあ、準備をしてから出撃しようか…」ニガワライ

in工廠

比叡「と、いうわけで私をパワーアップしてください！」

アーロ「え、ええー…俺かよー」

比叡「金剛お姉さまや榛名に聞きましたよ!! ジンさんかアーロさんに頼めばすごいパワーアップできるって！」

アーロ「その後明石さんに怒られるの俺らだからな？」

比叡「そ、そこをなんとか!!」

アーロ「むむむ…だけどよお」チラツ

朝潮「(´・ω・｀)」フンス

アーロ「かわい見張り番がいるからな…」

比叡「お願いします!! お礼にカレーを作ってあげますから!!」

アーロ「カレーだと…!? ふふふ、仕方ねえなあ! カレー好きの俺に任せておけ！」

比叡「やったー!!」

朝潮「??」

アーロ「…ほいつ」つプリン

朝潮「えっ、い、いいのですか!？」

アール「もちの論だぜ」

朝潮「あ、ありがとうございます！」キラキラ

アール「よっしやあ！今のうちに近代化改修だあ！」

比叡「それじゃあ、高火力な感じでお願ひします！」

アール「ヒヤッハー!!任せろー!!」

江風「…明石さん、止めなくていいの？」

明石「いいのよ…自業自得だから」

レーベ「／＼、；ω；」ケイレイ

天龍「…無茶しやがって」

高雄「アールさん…とりあえずバカめ、と言っておきます…」

アール「ん…？比叡、カレー…うっ、頭が…何か、俺は何か大事なことを忘れてい

ような…」

inサーモン海域

大井「…」

加賀「…」

比叡改二「さあ皆さん!! 気合い入れて突破していきますよー!!」フランス

木曾「なあ、少しの間に何が起きてたんだ…?」

瑞鶴「朝まで改だったのに出撃になると改二になつてた…」

大井&加賀(またアールさんか)

比叡「ちよつとした近代化改修ですよ!! お礼にカレーをご馳走してあげました!」フランス

大井「アールさん…乙」

加賀「仕方のない犠牲ですね…」

瑞鶴「え? 何の話!?!」

提督『情報によるとこの海域にも姫級、鬼級の深海棲艦がいると聞く。皆、気をつけてくれ』

大井「大丈夫よ。姫や鬼級が現れても魚雷でぶっ放してやるわよ」

加賀「ご心配には及びません。必ず勝ちます」

提督『頼もしいなあ。あ、ところで…食堂でアールが倒れてただけど何か心当たりない?』

大井&加賀「心当たりはないですね」キツパリ

提督『そっかー』(・ω・) (

木曾「な、なあ…それってもしかして…」

瑞鶴「そつとしてあげましょ」

夕張「ちよつと待ってー!!置いてかないでよー!!」ドラム缶×4

大井「4つも装備を持てるんだから、頑張りなさい」

木曾「ちゃ、ちゃんとフォローはしてやるからさ!」

夕張「ひ、ひえー!!」

加賀「提督が体を張って補給拠点を奪還してくれたんです…私達も提督のために気合を入れていきましよう」

大井「そうね…!今度は私達がしつかりしなきや!」

比叡「その意気ですよ!!さあどんどん参りましよう!」

夕張「だから置いてかないでってばー!!」ヒーヒー

装甲空母鬼A「ピケット部隊ガヤラレタミタイネ…デモココデ艦娘共ヲ大破サセテヤルワ」

装甲空母鬼B「フフフ、来タワネ。飛ンデ火ニイル夏ノ虫ヨ?」

加賀「見えましたね。装甲空母鬼が2隻ですか」

大井「あらあ？飛んで火にいる夏の虫ってこのことよねえ」つ魚雷

瑞鶴「当たらないようにしていけば行けるわ」

木曾「相手にとって不足はない」

夕張「ふお、フオローお願いしますよ!？」

装甲空母鬼A「」

装甲空母鬼B「ちよ、ナンカこいつら怖スギイ!？」

加賀「先制をかけますよ」艦載機発艦!

瑞鶴「よく狙って：いけっ!!」艦載機発艦!

装甲空母鬼A「オ、押サレルナ!コチラモヤルゾ!!」艦載機発射!

装甲空母鬼B「ソ、ソウダナ!!コツチノ方ガ有利ダ!」艦載機発射!

空母ヲ級「イラツシャーイ!」艦載機発射!

艦載機<ネライウツゼー! ババババ

駆逐口級A「ローソン!」critical!撃沈

駆逐口級B「サークルケーサンクス!!」critical!撃沈

装甲空母鬼B「ギャツ!?!痛スギ!?!」中破

大井「魚雷をくらいなさいな!!」魚雷発射!

木曾「これでもくろえ!」魚雷発射!

軽巡ホ級「ポプラア!?」critical! 撃沈

装甲空母鬼B「ヒエエエツ!?」critical! 大破

比叡「撃ちます!! 当たれえっ!!」ドドーン!

空母ヲ級「セイコーマートツ!?」critical! 撃沈!!

装甲空母鬼A「チヨ、強スギジャナイノ!! コレデモクラエ!」ドドーン!

加賀「この程度、軽いですね」フレーム回避

装甲空母鬼A「」

加賀「お返しです」艦載機発艦!

装甲空母鬼A「そ、ソナナノアリー!?」critical! 中破

装甲空母鬼B「マ、マサカ: 南方海域デ噂サレテイル『スタイリツシユ空母』!?」

装甲空母鬼A「深海棲息艦ノ砲撃をスタイリツシユに避ケルコトデ恐レラレテイル空

母艦隊!」

装甲空母鬼B「南方棲戦姫ヲ退けた悪魔の空母ジャナイノ!? マ、マズイワヨ!?」

瑞鶴「加賀さん、ひどく言われてますね」ニヤニヤ

加賀「何言ってるの。あなたのことよ」

夕張「空母の皆さんの事を言ってると思います…」

大井「…ジンさんにジャスト回避を教えてもらおうかしら」

木曾「姉さん、やめといたほうがいいよ……」

装甲空母鬼A「イ、今はマズイワネ……一時撤退よ!! 覚えてなさい!!」 撤退

装甲空母鬼B「次ハナイト思イナサイ!」 撤退

夕張「あ、撤退した」

加賀「追跡する必要はないわ。このまま進撃します」

瑞鶴「……」

加賀「瑞鶴、何か考え事ですか?」

瑞鶴「あ、いや……ジンさんの故郷の話进行い出して……」

木曾「ジンさんの故郷?」

夕張「確か……ユクモだとかなんとか言っていましたよね」

大井「何か気になることでもあるの?」

瑞鶴「ジンさんは故郷の話をしてくれたんだけど……ベルさんに聞いた話だと、ジンさんの故郷は崩壊してると聞いていたんです」

夕張「崩壊!?!」

瑞鶴「一体何があったのか……ベルさんは教えてくれなかったし、ジンさんに聞くわけにはいかないし……」

加賀「そう…気になるのは仕方ないわ。でも、今は戦鬪に集中しなさい」

瑞鶴「は、はい！」

加賀「…あとで私も聞いてみるから」

瑞鶴「あ、ありがとうございます。…っと、敵艦隊が見えてきたわね！輸送艦1隻、戦艦2隻、空母1隻、軽空母2隻！」

加賀「旗艦の輸送ワ級を倒せば勝利よ…行きなさい」艦載機発艦！

瑞鶴「よし艦載機の皆、行くわよー!!」艦載機発艦！

空母ヲ級「ヨシノヤ!!」艦載機発射！

軽母又級A「ナカウ!!」艦載機発射！

軽母又級B「マツヤ!!」艦載機発射！

艦載機<俺が、俺達が艦載機だ!! ババババツ 敵艦載機<ヒヤツハー！ギユウ

ドンダゼー！

大井「木曾、球磨姉さん&北上さん考案フォーメーションタ張!!」ガツ

夕張「え？大井さん？」

木曾「夕張さん…ごめん！」ガツ

夕張「えっ？なんで両サイド持つてんの？」

大井「さあ駆けるわよー!!」ドドドツ

木曾「敵艦載機の爆撃を避けるまでの辛抱だから!!」ドドドツ

夕張「ちよ、きやあああああつ!!」(; 皿、)

戦艦夕級B「クツ：アイツラ、デキル!」critical!中破

軽母又級B「ドムドムバーガーツ!」critical!撃沈

大井「今度は魚雷の番よ!!」魚雷発射!

木曾「夕張さん：ほんとごめん!」魚雷発射!

夕張「ちよ、私を持ったまま魚雷を撃たないでよ!」

戦艦夕級B「グアアアツ!」が、合体攻撃ダト：!」critical!撃沈

軽母又級A「バーガーキングツ!」critical!撃沈

比叡「いい感じですね!今度は私が行きますよ!」ドドーン!

空母ヲ級「ラツキーピエロツ!」critical!撃沈

戦艦夕級A「クツ：コノツ!!」ドドーン!

木曾「姉さん、夕張さん!危ないっ!!」庇って大破

夕張「き、木曾さん!だ、大丈夫ですか!」

木曾「え、えへへ：なんのこれしき!」

大井「ゴラア!!うちの妹になにしとんじやああつ!!」ドドーン!

戦艦夕級A「ブツ!」コ、コレガ雷巡ノ火力!」critical!中破

瑞鶴「このまま追撃するわよ!!」艦載機発艦!

艦載機くすげえよミカは! ババババツ

戦艦夕級A「グアツ!?クソ:第一戦ハ負けカ:」critical!撃沈

加賀「いい感じですね。これで決めます」艦載機発艦!

艦載機<キリストゴメン! ババババツ

輸送ワ級「グワー!」爆発四散! 撃沈!

瑞鶴「やったー!! 敵艦隊撃破ね!」

加賀「最初は勝ちましたね。この調子で行きましょう」

比叡「これなら順調に行けますね!」

提督『みんな、ご苦労様!よく頑張ったな!』

ベル『木曾、大丈夫?』

木曾「あ、ああ。心配はいらないぜ」

大井「まったく、無茶するんだから:」ナデナデ

木曾「えへへ:すまない」

提督『よし、それじゃあ鎮守府まで帰投してくれ』

瑞鶴「提督、この調子なら私達だけでいけるわよ?」

加賀「こら、すぐに慢心しないの」

大井「加賀さん、この海域に補給拠点があるんでしょ？そこで一時態勢を整えて決めませんか？」

加賀「…木曾の修理も必要ですしね…提督、補給拠点があるのでそこに向かいます」

提督『そうか…じゃあ補給拠点で休んでから戻ってきてくれ』

比叡「了解です！」ビシッ

夕張「さ、木曾さん、いきましようか」木曾をおんぶする

木曾「夕張さん、ごめんな？」

瑞鶴「…？」

加賀「どうかしたの？」

瑞鶴「…やけに風が強いですね…」

加賀「ええ…どこか遠くで嵐が起きているかもしれないですね」

装甲空母鬼B「イタタタ…」

装甲空母鬼A「オノレ艦娘共メ…次は容赦シナイワヨ…」

装甲空母姫「ア!!ヤット見ツケタ！」

装甲空母鬼A「装甲空母姉姊さん！」

装甲空母鬼B「丁度ヨカッタワ!! 今度ハ姉サンモ加エテ3人デ…」

装甲空母姉「何言ッテンノヨ!! ソレヨリモ今ハコノ海域ヲ離レルワヨ!!」アタフタ

装甲空母鬼A「な、ナンデ？」

装甲空母鬼B「3人デカカレバ『スタイリツシユ空母』ニ勝テルカモシレナイノニ…」

装甲空母姉「ソレドコロジャナイワヨ!! 今…ナンカ『ヤバイ奴』ガ嵐ヲ卷キ起コシテ

近ツイテ来テルノ！」

装甲空母鬼A「ヤ、ヤバイ奴？」

装甲空母鬼B「アレ…? ナンカ、暗雲ガ近ツイテキテル…?」

装甲空母姉「ゲッ!? もうこんな所まで!?! 早く潜ツテ逃ゲルワヨ!!」

in 母港

ジン「…」

アグル「ぜえつぜえつ…!! じ、ジンさん!! 大変だ!」

ジン「アグル…? どうした? かなり焦っているようだが…」

アグル「クロードさんに…クロードさんに今すぐ作戦を中止させ艦娘たちをサーモン

海域から撤退させてください！」

ジン「…どういふことだ？」

アグル「…ぎぎ、ギルド本部から緊急事態が出ました…」

ジン「緊急事態…!?!」

アグル「せ、接近してるんですよ…!」

ジン「だから何がだ!!」

アグル「…さ、サーモン海域に…『嵐龍』アマツマガツチが!!」

ジン「!?!」

83 舞うは嵐、奏でるは災禍の調べ 壱

i n 執務室

提督「…なん…だと…」

ベル「アグル、それは本当かい…!？」

霞「な、なんなのこの緊迫した空気…」

アグル「は、はい…ギルド本部が先ほど知らせてきたんです」

アール「このバカ野郎!! そういうのはさっさと知らせろ!!」ガツ

ベル「アール、落ち着いて!!」

提督「くそつ!!…俺が早く母港に帰るようにもつと言つてれば…!!」ダンツ

霞「し、司令官、その『アマツマガツチ』って?」

提督「アマツマガツチとは古龍種の中で天候を操り、嵐を巻き起こす力を持つ龍で、嵐の化身または大いなる厄災とも呼ばれている古龍なんだ」

アール「奴が出現し地域は生態系、環境、人々の生活区域を破壊していき、大災害級の被害を起こす」

霞「!?そ、そんな生物がいるの…!？」

ベル「…アマツマガツチは縄張りの周りしか動かないはずなのに、一体どうして突然…」

大淀「提督！大本営から緊急の電話です!!」

提督「来たか…もしもし?」

孫娘提督『クロードくん!?ギルド本部からの連絡は聞いた!?』

提督「ええ…ついさつきですが…」

孫娘提督『まさか嵐を巻き起こす古龍がいるなんて思いもしなかったわ…とにかく全鎮守府には緊急撤退、全面進撃禁止と呼びかけてるけど、未だあの海域に残っている艦隊もいるわ!!』

提督「それでしたら…急いで近くの島へ避難し洞窟や身を隠せそうな場所へいるように。海には絶対出ないようにと伝えてください。それと嵐が止まるまで俺達が何とかします」

孫娘提督『…え?それってまさか…貴方達がその古龍を食い止めるの!?!』

提督「今すぐに動けるのは俺達しかいません。本土のギルド本部に伝えてください。それともし合流ができるのなら本部にありったけのバリスターの弾を用意するよう申請をお願いします」

孫娘提督『…わかったわ。止めても貴方は止まらないと思うし、大本営も貴方を支

援するわ…でも、絶対に死んだら駄目よ!!』
ガチャン

提督「…」チラッ

アール「任せろ。すぐに支度する」

ベル「アグル、バリスタは取り寄せてるのかい？」

アグル「は、はい。船に積んであります」

提督「よし、オトモは第二イサナ号に対古龍武装を装着、アールはアグルの船からバリスタを運んできてくれ。ベル、砲弾と道具の用意を」

霞「ちよ、ちよつと待つて司令官!?まさか司令官達だけで行くつもりなの!？」

大淀「嵐の海へ行くのですか!?!き、危険すぎます!？」

提督「今すぐに行けるのは俺達だけなんだ…ただ黙つて見るのが嫌なんだ」

ベル「…特にアマツならジンが黙つていられるわけがない」

霞「ま、待つて…もしかして私達艦娘は行つちやダメなの…?？」

提督「…すまない。古龍相手になるとお前達を連れて行くわけにはいかない」

霞「い、嫌よ!!なんで、なんでいつも艦娘にはついて行くなつて言うのよ!!私だつて…私達だつて…司令官の力になりたいのに…!!」

提督「霞!!」ガッ

霞「っ!?」ビクッ

提督「…お前には何度も辛い思いをさせる。でも…いつも死と隣り合わせのハンターの戦いにお前を、お前達を巻き込みたくない。特に、自然の脅威でもある古龍と戦うときに失いたくないんだ…すまない」

霞「…」

アール「提督！水を差すようで悪いが、急ぐぞ!!」

提督「…ああ。大淀さん、すまないが艦娘たちにも伝えてくれ」ダツ

大淀「は、はい…」

霞「…」うつむく

ベル「あれ？ところでジンは何処に？」

アグル「じ、実は…ジンさんに話したら…血相を変えて、先に小舟に乗って行っちゃいました…」

ベル「…アールには黙っておくよ」

ジン「…天龍、すまない」

天龍「いいってことよ。皆に内緒で行くかわりに俺も手を貸させしてくれよ？」

ジン「…もつと速く飛ばせるか？」

天龍「おうよ!! これでも世界水準は軽く超えてるからよ。もつとスピードを上げて飛ばすぜ!!」

ジン「……」懐から赤いお守りを取り出す

天龍「うん? ジンさん、それってお守りか?」

ジン「ああ……ガキの頃にもらった『大事な』お守りだ」

天龍「……任しとけよ。絶対に間に合わせるぜ!!」

ジン「……お願いだ。無事にいてくれ……瑞鶴……!」

i n 母港

黒丸「旦那さん! 第二イサナ号、対古龍装備完了ニヤ!!」

ミケ「いつでも出撃できるニヤ!」

アール「バリスタも積み終わったぜ!!」

提督「……よし、皆準備はできてるか?」

ベル「道具もOK。すぐにも行けるよ」

金剛「て、テイトクー!! ウエイト、ウエエイトデース!!」

雪風「ま、待ってくださーい!!」

提督「……お前達……」

川内「大淀さんから聞いたよ!? スツゴイやばい奴と戦いに行くつて!!」

青葉「ど、どうしても提督達が行かなきゃいけないんですか…?」

龍驤「せ、せやで? 他に本土のハンターさんがいるならその人らに任せてさ…」

提督「…すまない。あの海域にはまだ加賀達がいる。大事な子達を置いてみるだけというわけにはいかないんだ」

アール「動ける俺達が行かなきゃハンター、それに提督失格だしな」

潮「で、でも…司令官達に何かあつたら…」

ビスマルク「そうよ。ここはやっぱり私達も行くわ」

霞「…ダメよ。司令官達の気持ちを無視しちゃいけないわ」

提督「…霞」

霞「…私達艦娘は司令官達の力になりたい。でも、司令官達にしかできないことがあるのよね。だから…」

提督「…」

霞「だから…今回は司令官達を、司令官を…貴方を見送り、無事を祈り、そして帰りを待つわ」

提督「…霞、すまない…」

霞「だからね…」スーッ

提督「？」

霞「このクズ!! うじうじしてないでシャキツとしなさいよ!!」クワツ

提督「ビックツ

霞「こんなんだから他の子達も心配するじゃないの!! 司令官ならもつと胸を張りなさいな!」

提督「は、はいいいつ!!」

霞「もつと…グスツ…威厳をもつて…ヒグツ…無事に、無事に戻つて来なさいよ!」プルプル

提督「ああ…必ず戻つて来るよ。だから…待つててくれ」

赤城「提督…加賀さんをお願いします…!」

金剛「デイ、ドグウウツ!! ひ、ヒエーを、比叡を守つて下さい!」号泣

球磨「提督もベルさんもアールさんもお願いクマ。妹達を助けてやってクマ…!」

提督「ああ! 任せとけ。行つてくる!」

アール「しゃあつ!! 出航だ!!」

アグル「舵は任せてくださいよ!」

ベル「皆…待つててね!」

提督「気球用意!! 第二イサナ号、出撃!!」

暁「ふ、船が飛んだ!？」

響「あれが対古龍装備なんだね…」

ビスマルク「アドミラル…」

霞「…」グスツ

足柄「霞…よく頑張ったわね」ナデナデ

大淀「大丈夫ですよ…司令官達なら必ず戻って来ます…」

inサーモン海域

加賀「まずいわね…思ったよりもはやく嵐が来るなんて…」

比叡「ヒエーっ!?土砂降りや波もやばいですけど、風が強すぎですよ!？」

夕張「雷雨に、強風に、高波に…ひどいくらいです!」

大井「木曾、もう少しの辛抱よ。頑張って」

木曾「大丈夫だよ、姉さん…」

瑞鶴「っ…前に中々進めないわね…あっ!?!加賀さん、あれ!!」

駆逐イ級「(； 旦、) 三」

駆逐ロ級「ヒエエエエ」

重巡リ級「ニゲロ…ニゲロ!!」

戦艦タ級「…!!」

加賀「深海棲艦?! こんな時に…!!」キツ

比叡「で、でもなんだか様子がおかしくありませんか?」

木曾「ああ…何かから必死に逃げてるように見えるが…」

夕張「こ、ここは無視した方がいいと思います…」

瑞鶴（重巡リ級と戦艦タ級が時折上の方を見ながら逃げてる…上空に何かいるの?）

チラツ

ユラリ…

瑞鶴「?!」ビクツ

加賀「瑞鶴、どうかしましたか?」

瑞鶴「じよ、上空になにか…龍みたいなのが見えたような…」

加賀「?…雲の形が龍に見えたのでは?とにかく風が強くなってきてますし、はやく

補給拠点へ行きますよ」

瑞鶴「そ、そうですよね……」

比叡「……あれ？雨が止んだ？」

夕張「強風も突然無くなりましたね……」

大井「風も波も静か……妙ね……」

木曾「なんか……やばい気がする」

瑞鶴「か、加賀さん……これって」

加賀「ええ……もし台風なら……私達は今、真ん中にいる……え？」見上げる

瑞鶴「加賀さん？上を見上げて何驚いてるんですか？」

加賀「皆、急いでここから離れるわよ!!」グイッ

瑞鶴「わっ!？」

バシユウウツ!!

夕張「わあああっ!？」

瑞鶴「な、なに!？空から凄い水流みたいのが……!？」

大井「ちよ、ちよっ!？何を見たっていうの!？」

加賀「上を見ないで。とにかく急ぐ!」

木曾「う、上って……」チラッ

アマツマガツチ「クオオオオオオオンッ!!」

木曾「」

夕張「ウソ：：なにあれ：：」

瑞鶴「デカイし、風を纏ってるし：：やばすぎるわよ!？」

比叡「ひ、ひええっ!?!なんかこっち見てますよ!？」

アマツ「三三三（、皿、）」高圧水流プレス

加賀「また来る!避けて!!」

比叡「わああっ!？」

夕張「か、風も強すぎて進めない：：!!」

大井「このっ!!」ジャキッ

加賀「ダメよ。余計に刺激を与えることになるわ」

アマツ「（（、皿、） 竜巻を起こす

加賀「とにかく今は逃げることを先決しなさい!」

木曾「夕張さん、下ろしてくれ。このままだと夕張さんまで竜巻やあの龍に：：」

夕張「何言ってるんですか！そんなことはしませんよ！」

大井「そうよ。貴女を危険な目に会わせるわけにはいかないんだから！」

瑞鶴「こうなったら…!!」ダッ

加賀「瑞鶴!？」

瑞鶴「加賀さんは皆さんを先導してください！私が時間を稼ぎます!!」

アマツ「(、皿)」ジロリ

瑞鶴「気を引かせるだけでいいの、お願い…!!」艦載機発艦！

艦載機くオラオラオラオラオラオラー!! ブーン

アマツ「Σ(、皿)」

瑞鶴「こつちに來なさい！」ダッ

アマツ「(、皿)」瑞鶴を追いかけるように動く

瑞鶴「よし！これならもつと遠くに…!!」

アマツ「(、皿)」三三三三 高圧水流プレス

瑞鶴「おつと!? あ、危なかった…ジンさんってこうやって戦ってたのね…」ジャス

ト回避

アマツ「(、皿)」三〇」水玉プレス

瑞鶴「あ、やば…」

艦載機くボラボラボラボラ!! ボラーレ・ヴィーア! ババババツ

アマツ「Σ(、皿、;)」

加賀「バカ! 貴女だけ突っ込んでどうするの!!」

瑞鶴「か、加賀さん…」

加賀「気を引いてる隙に逃げるわよ」

瑞鶴「は、はい!」

アマツ「三三三(、皿、#)」超高压水流プレス

加賀「っ!」回避

瑞鶴「さつきよりも威力が増してる…!!このままじゃ…」

アマツ「三三三三(、皿、#)」超高压水流プレス

瑞鶴「加賀さん…離れて!!」加賀を押す

加賀「なっ…」

ドドドドドッ

加賀「っ!!…瑞鶴っ!!」

瑞鶴「あ、あはは…ごめんなさい、無茶…しちやいました…」

加賀「艀装やカタパルトが…バカ…っ!!」

瑞鶴「もう沈みかけてます…加賀さん、はやく逃げてください…」

加賀「何言っているの…!!置いていくわけないでしょ!!」

瑞鶴「艦載機のみんな…お願い…」

艦載機A<ワイヤー用意!!

艦載機B<ヒツパレ、ヒツパレ!!

加賀「っ?!?やめ…瑞鶴…!!」グイグイ

アマツ「(皿)」「ジロリ

瑞鶴「…はあ…提督、皆…ごめん…」沈みかけ

アマツ「(皿)」「口を開いて瑞鶴に狙いを定める

瑞鶴「…ジンさん…本当の事…伝えれなくて…ごめんなさい」目を閉じる

ジン「そおおおおいっ!!」っJUMPタル爆弾

アマツ「Σ（、皿、；）」怯み

瑞鶴「…え…?」

ジン「瑞鶴!!つかまれ!!」つ

瑞鶴「ジンさん…!!」

ジン「…勝手にいなくなるな…!!」

瑞鶴「…うん…ジンさん…ありがと…」

天龍「よつしや、あの昔話に出てきそうな龍から逃げるぞ!!」

ジン「頼んだぞ…!!」

アマツ「（皿、#）三」追いかける

瑞鶴「…は、速い…!!」

天龍「なんのこれしきー!!世界水準なめんなあああつ!!」

ヒューン 三▽三▽

アマツ「Σ（、皿、；）」

ジン「あれは…バリスタ…!!」

天龍「うおっ!?向こうで飛んでるのって…第二イサナ号じゃねえか!?!」

アーロ「おらあぁっ!!バリストタをくらえー!!」

黒丸「どんどん飛ばしてやるニヤ!!」

ベル「ついでに砲弾もお見舞いしてやる!!」

提督「ジーン!!みんなを避難させるのを頼んだぞー!!」

ジン「…任せろ!!」

瑞鶴「…すごい、船が飛んでる…!?!」

天龍「すっげええええ!」

アマツ「(、(皿、(」風を巻き起こす

アーロ「竜巻だ!!アグル!!」

アグル「了解!!しっかり舵を取るから、しがみ付いててくださいいよー!!」

グラグラグラ

ミケ「ニヤーっ!?!振り落とされるニヤー!!」

ベル「す、すごい風だ…!!」

提督「ブレス、来るぞ!!」

アマツ「三三(、(皿、(」水流ブレス

アグル「ちよつと荒運転します!!落とされないようにしてください!」グイッ

ガガガッ

アール「おおおっ!? あぶねえ、掠ったぞ!!」

黒丸「でもブレスを避けたニヤ!!」

提督「どうだ! 我らの団の皆が造ったイサナ号の頑丈さは!! お前の水流ブレスにも落とされやしないぜ!!」

アール「そして風で引き寄せたことがためえの誤算だぜ!! アグル、今だ!!」

アグル「撃龍槍、発射!!」 スイツチを押す

アマツ「Σ(、皿、・)」 怯み

アール「やりに!!」

アマツ「三(、皿、)」 方向を変えて移動

提督「よし、この場を退けることができたぞ」

アグル「この先だと…あの島の霊峰に行きますね…」

提督「このまま追いかけてたいが…まずは補給拠点へ行こう」

84 舞うは嵐、奏でるは災禍の調べ 式

in補給拠点

提督「皆!!無事か!」

比叡「提督ー!!き、来てくれたんですね!」

大井「提督…ありがとうございます」

アーロ「こつちも嵐がやべえな」

ベル「ほかの鎮守府の艦隊の子達も避難してるみたいだね…」

アグル「今はあの島の高い場所で態勢を立て直しているみたいですが…もし動くとしたらここに来るでしょうね」

提督「そうか…だとしたらすぐにでも向かわなくちやな」

木曾「提督、もしかしてあの龍を倒しに行くのか!」

天龍「無茶だ…!?あんな嵐を巻き起こす奴を相手にするなんて…!!」

提督「気持ちはわかるさ。でも行かなきゃならないんだ」

ベル「すぐに支度をするよ。アグル、行こう」

天龍「提督、ベルさん、アグルさん…絶対に戻って来いよ…」

アグル「勿論、必ず戻って来る……天龍姐さん、俺が無事に戻ってきた時には……た、龍、龍田さんに……」ソワソワ

アーロ「ほら、行くぞ！」アイアンクロー

アグル「あーれー」

天龍「？」

大井「提督、瑞鶴は無事なの……？」

提督「……彼女は無事だ。だが……」

in補給拠点の工廠

瑞鶴「……」ボロボロ

夕張「……これは……ひどい状態です……」

加賀「……どういうこと？」

夕張「損傷が思った以上に深刻なんです。入渠しても、高速修復材を使っても傷は治りませんが艀装やカタパルトはもう治りません……」

加賀「そんな……」

夕張「古龍という生物が放った水流は轟沈どころじゃすまされない威力なんです……こうして無事でいられたのが奇跡ですよ……」

瑞鶴「……そ、それじゃあ私はもう……艦娘として戦うこともできないの……？」

夕張 「…」 首を縦に振る

加賀 「何とかならないの…!!」

夕張 「か、加賀さん、落ち着いてください!」

瑞鶴 「加賀さん…」

加賀 「…っ!」

ジン 「…まだ方法がある」

加賀 「ジンさん…!!」

ジン 「…夕張、これは使えるか?」

瑞鶴 「じ、ジンさん…それって…!!」

夕張 「試製甲板カタパルト!?ど、どうしたんですかそれ!」

ジン 「…前に造った」

夕張 「造った!? 一体何をどうしたらこう凄いものができるんですか!」

ジン 「♪ (ε、 ;)」

加賀 「…一応、明石さんには黙ってあげるわ」

ジン 「それで夕張、これで瑞鶴は治るのか?」

夕張 「で、できます…でも後は改装設計図とかがあれば…」

ジン「ぬかりはない」つ【希望の証】

夕張「いや、ちよ、ええっ!?か、改装設計図じゃないんですけど!?」

加賀「鎮守府の妖精さんなら難なくやってたわ。夕張、あなたならできる」

ジン「…頼む、これで治してくれ」

夕張「…わかりました!ジンさん、絶対に瑞鶴さんを治してあげます!!」

瑞鶴「ジンさん…」

ジン「瑞鶴…俺は行ってくる…そして必ず戻って来る…」

瑞鶴「行ってくるって…まさか…」

ジン「黒丸、ミケ、頼んだぞ」ダッ

瑞鶴「ジンさん…!」

黒丸「瑞鶴さん、どうかジンさんを行かせてやってほしいニヤ」

加賀「もしかしてあの龍と戦いに行くの…!?」

夕張「む、無茶すぎますよ!」

ミケ「…ジンさんにとってアマツマガツチは昔からの因縁の相手なのニヤ…」

瑞鶴「教えて…ジンさんの過去になにがあつたの…?」

黒丸「…それはジンさんが13歳、溪流にある集落に住んでいた頃の話ニヤ」



それはジンさんが好きな子にプレゼントするために自分でお酒を造っていた時の事ニヤ――

ジン（少年期）「よーし、順調にできてるな…」

女の子「ジーン、何造ってるの？」

ジン「フアツ!?ベ、ベつにい!た、ただの酒造りだし!!」アセアセ

女の子「ふーん、お家の手伝いかあ。ジンは偉いね」ウフフ

ジン「あ、あつたりめえだ。将来はお家を継いでユクモで一番の酒にしてやつからよ!!」

女の子「うふふ、だったら楽しみだわ。それでそのお酒はどうするの？」

ジン「え、えつと…そ、それは秘密だい!」

女の子「えー、けち」プンスカ

ジン「ささ、俺は酒造りに勤しんでるんだ!できたらまた教えてやんよ!」

女の子「しょうがないわねー。じゃ、完成を楽しみにしてるからね!」ノシ

ジン「ふー…あうやくバレるところだった。あとは…あれ?材料が足りねえな…」

箱へ空っぽだぜ!

ジン「ユクモのハンターさんに内緒で頼んでもらって材料を揃えてくれたんだし…残

りの一個ぐらいは自分で採りに行こうか」

—— 幸か不幸か、ジンさんは材料があと一つ足りないから自分で採りに集落から離れ、溪流へ向かったんだニヤ——

ジン「うーん、ないなー…あれ？雲行きがなんだか怪しいな…」

『クオオオオオオオンツ!!』

ジン「な、なんだ!?空から変な音が響いてきたぞ!」

ザアアア…

ジン「うわっ!?きゅ、きゅうに土砂降り!?風も吹いてきた!」

ドザアアア…

ジン「ふ、ふー。なんとか高所の洞窟で雨宿りができそうだよ…急に暴風雨になるなんて、珍しいな」

『クオオオオオオオオンツ!』

ジン「うおっ!?また響いて…って、遠くになんか飛んでる。あれは…龍?」

ハンターさん「おっ!?こんなところに子供が…って君はジンくんか!」

ジン「あつ、ユクモ村のハンターさん!!」

ハンターさん「ここは危険だ！はやくユクモ村へ避難するぞ！！」

ジン「ひ、避難って…一体何があったんです？」

ハンターさん『嵐龍』アマツマガツチが襲来してきたんだ！！台風よりやばいことになる。急ぐぞ！！」ガツ

ジン「アマツマ…ってそんな事より、集落のみんなは!?」

ハンターさん「…っ」ダツ

ジン「ハンターさん!?は、離してくれよ！！父ちゃんや母ちゃん、集落のみんなをはやく避難させないと!!」

ハンターさん「…許してくれ…」

ジン「!?」

◆ ◆
黒丸「ハンターさんがジンさんの所に駆けつけて来た時には既に遅く、アマツマガツチが集落を襲っていたんだニヤ…」

加賀「…」

◆ ◆
瑞鶴「そんな…そ、それで集落は、集落のみんなはどうなったんですか…」

◆ ◆
ジンさんの父上、母上はジンさんが帰ってこないからユクモ村へ行き、ハンター

さんに探してくれるよう頼んでいたから無事だったんだニヤ…でも…

ジン「集落が壊滅…!？」

ユクモ村の村長『嵐籠』アマツマガツチが一度退き、搜索をいたしたのですが…とてもひどい惨状のようです」

ジン「そ、それじゃあ…集落のみんなは…」

村長「…」首を横に振る

ジン「そ、そんな…」

村長「…ハンター殿がこれを…これは貴方の物ではと」

ジン「こ、これは…俺が造つてたお酒…」

村長「…ある女の子がごと切れるまでずっと大事に持っていたそうですよ…」

ジン「…!?!バカ野郎…こんなもん持たないで…逃げるよ…」フルフル

村長「…今、ユクモ村のハンター殿が霊峰に向かい、アマツマガツチと戦っています。彼の無事を祈りましょう…」

ジン「…:つ!!ハンターさん…!」

◆

瑞鶴「…:!!」

加賀「ジンさんにそんな過去が…」

夕張「そのハンターさんは…？」

黒丸「ハンターさんは死闘の末、アマツマガツチを撃退することができたニヤ。でも、撃退されたアマツマガツチはその後、各地方に出現し被害を与えていったニヤ。隻眼、左角が斬られて右角だけが異様に伸びてたことから『片角』とも呼ばれ、ギルド本部で捜査し続けてるニヤ」

加賀「そういえば…あの龍、左目に傷跡があつて、右角だけ伸びてたわ…」

夕張「そ、それつてもしかして…」

ミケ「今回、襲撃してきたアマツマガツチは間違いなく『片角』だニヤ。だからジンさんは必死なのニヤ」

瑞鶴「ジンさん…黒丸、もう一つ聞いていい？」

黒丸「ウニヤ？何かニヤ？」

瑞鶴「ジンさんが好きだった子つてどんな子か分かる…？」

夕張「さ、さすがにジンさんのことだから…教えてないんじゃない？」

黒丸「ニヤ」瑞鶴を指さす

瑞鶴「えっ？私？」

黒丸「ジンさんの話に聞いて推測すると…瑞鶴にそっくりだったニヤ」

夕張「ええええっ!？」

加賀「…そういうことだったのね…」

瑞鶴「…夕張さん、はやくカタパルトとその設計図みたいなもの で治して!!」

夕張「ええっ!?!は、はいっ!!」

inサーモン海域の島、霊峰

提督「…ジン、いけるか？」

ジン「…すまないな、勝手に行ってしまっ

アール「気にすんなって」

ベル「ジン、俺達が手伝ってあげるよ」

ジン「ああ…ユクモ村のハンターさんに代わって、今度こそ奴を討伐する」つ飛竜刀

【銀】

アマツマガツチ「クオオオオオオオオンッ！」

アグル「隻眼、右角だけ伸びた個体…間違はなく、ギルド本部で捜索し続けている『片角』です!!」つアグナ||マグマ

アール「ここで仕留めてやるぜ!!」つディアールテミア
 ベル「皆のためにも…行くよ!!」つゲキリユウノツガイ
 提督「絶対に勝つぞ!!」つ輝王剣リオレウス

アマツ「(皿) 突進

アール「うおおっ!?来たぞー!!」ガード

ジン「むんっ!!」ジャスト回避

提督「どっせい!!」抜刀溜め斬り

ベル「せいっ!!」斬り込み

アマツ「(皿) はたき込み

提督「ガードっ!!」大剣ガード

アール「おらーっ!!」斬り込み

アグル「ドタマに…フルツバースト!!」フルバースト

アマツ「(皿) 空中サマーソルト

アール「ふべっ!?!」(3) ……

アグル「ベホマツ」…(ε) (

提督「このっ!!」ジャンプ斬り

ジン「せいっ!!」斬り払い

アマツ「(皿、;)」怯み

ベル「よし、こんどはヒレを斬る!!」鬼人化斬り込み

アール「ぶった切ってやるぜ!!」斧モード叩き込み

アマツ「〇三(皿、)」水玉弾プレス

アール「げっやべ:!!」

アグル「ガードっ!!」盾

アール「ナイスだ、弟よ!!」

アグル「うざい:とりたいけど、今はやらなくちやね」

アール「おい、今言つたろ:」

提督「これをもういっちょ!!」ジャンプ溜め斬り

ジン「斬るっ!!」気刃斬り

アマツ「(皿、)三」尻尾薙ぎ払い

提督「うっ!?!」受け身

ジン「っ:!!」受け身

ベル「皆、これで!!」っ【生命の粉塵】

アール「おお、助かるぜ」

85 舞うは嵐、奏でるは災禍の調べ 参

提督「うおおおっ!? 風がやばいいー!!」(; ㇿ、ㇿ)

ジン「しつかりしがみつけ! 巻き込まれるぞ!!」

ベル「あいつの竜巻に巻き込まれたら一巻の終わりだよ!!」

アグル「ひええっ!」(。ㇿ。 ;)

アーロ「手え放すなよおっ!!」

アマツ「(((、皿、)))」

アグル「な、なんとか助かったー!」

提督「よし、反撃開始だ!!」ダッ

ベル「風に気を付けて!!」

アマツ「(、皿、)」「撃ち払い

アーロ「なんの!!」ガード

アグル「こいつをくらえ!」龍撃砲

アマツ「(;、皿、)」「怯み

提督「ジン、打ち上げるぞ!!」打ち上げ

ジン「おう!」ジャンプ気刃斬り

アマツ「(; 、皿)」怯み

ジン「よし、乗った!」ライド

アマツ「((、皿))」大暴れ

アーロ「いいぞ、ジン!!」

ベル「振り落とされぬよう気を付けて!!」

ジン「ぬおおおつ!!」ザクザク

提督「いけいけがんばれー!!」

ジン「いくぞつ!!」ザクザクツ

アマツ「(; 、皿)」ダウン

アーロ「よっしゃ!」属性解放斬り

ベル「畳み掛けるんだ!!」鬼人化乱舞

提督「うらー!!」溜め斬り

ジン「…むん!!」大回転気刃斬り

アマツ「((皿) #) 三 (# 、皿)」回転攻撃

提督「おつと!」ガード

ベル「あぶっ!!」ジャスト回避

アマツ「(三)(三)(皿)(皿)(三)(三)」二方向竜巻飛ばし

アーロ「うおっ!? 竜巻かよおっ!?」(； 皿、(

アグル「あーれー」(； 皿、(

ベル「二人とも吹っ飛んだーっ!?」

アマツ「(皿、#)三」風纏い突進

ジン「ぬっ：」ジャスト回避

提督「あっぶねえ!」回避

アマツ「三(#、皿、)」往復

ベル「もう一回来たーっ!?」(皿、；)

提督「ぶべっ!」..:(ε。(

ジン「みんな、粉塵を使うぞ!!」つ生命の粉塵

アーロ「ナイス粉塵!!」フンス

ベル「いてて：古龍の突進は痛いなあ」

アマツ「○三(皿、#)」水弾弾プレス

アグル「ガードっ!!」盾

提督「いいぞ、俺も続く!」ジャンプ溜め斬り

アマツ「(、皿、;)」右ヒレ破壊

アール「こんにやろめ!!」高出力属性解放斬り

ジン「せいっ!!」抜刀気刃斬り

アマツ「(、皿、)」左ヒレ破壊

ジン「いい調子だよ!!」

アグル「この勢いでいきましよう!」

アマツ「(、皿、#)三」空中サマーソルト

ジン「ふっ…!!」ジャスト回避

提督「ジャーンプっ!!」エリアル回避

ベル「突撃だっ!!」回転斬り

アマツ「三三(、皿、#)」水流プレス

提督「あぶなっ!」緊急回避

アグル「むううっ!?!ガード強化しても結構痛い…」盾

アマツ「(、皿、)」(、)「風を巻き起こし引き寄せる

ジン「またくるっ!!」

アグル「は、はやく走らないと!!」ダッ

提督「あれ?アールは…?」

ベル「つて、アールのやつ、風のと真ん中に!」

アール「うおおおっ!!こいつをくらえっ!!」超高出力属性解放斬り

アマツ「Σ(; ; 皿)」大ダウン

提督「おおっ!?すごいぞアール!!」

アール「へへっ!!どんなもんよ!!」ドヤッ

ジン「…無茶をするな」小突く

アール『片角』は倒さなくちゃいけない。多少の無茶は仕方ねえって」

アマツ「(; ; 皿)」ダウン中

アグル「皆さん、今のうちですよ!!」砲撃中

提督「よしきた!」抜刀溜め斬り

アール「オラオラオラー!!」属性解放斬り

ベル「おおおっ!!」乱舞

ジン「…斬るっ!!」大回転気刃斬り

アマツ「(; ; 皿)」右角破壊

アール「よしっ!!右角が折れたぜ!!」

提督「どうだ!」

ベル「待って、アマツの身体が白から黒へ…!!」

ジン「…まさか…」

アマツ「クオオオオオオン…ッ!!」強い風を纏って空高く飛び上がる

提督「高く飛んで俺達を狙ってるってことは…」

ジン「一番強い水流プレスが来るぞ!!」

アール「げえっ!?マジかよ!!」アワワ

ベル「と、とにかく避けるか逃げることを優先するんだ!!」

アマツ「(# ▼皿▼) 三三三三 超高压水流プレス

提督「一回目、縦で俺狙いだ!!」ダッシユ

ズババババババツ

提督「ひーっ!」緊急回避

アール「やばいぐらいの水圧と水柱でしょ!」ダッシユ

アマツ「(# ▼皿▼) 三三三三 超高压水流プレス

ベル「2回目、横向きできたっ!!」ダッシユ

ズババババババツ

アグル「あぶないっ!」Σ(。D。; 三; ㇿ。)

ベル「も、もう少しで真っ二つになる所だった…」ジャスト回避

アマツ「三三三(▼皿▼) #」超高压水流プレス

ジン「3回目、縦で今度は俺だっ!!」回避

ズババババババツ

アール「おおおっ!?目の前で水柱―!?」アワワワ

ジン「危なかった…」ヒヤアセ

アマツ「(# ▼皿▼)」降りてきて威嚇

アール「あぶねーなこの野郎!!」斧モード叩き込み

アグル「フルバーストをくらえ!」叩き付け、フルバースト

アマツ「(▼皿▼) #」三三三 回転突進

アール「ぶっ!」()、ω。()….

提督「今度はこっちだ!!」抜刀斬り

ジン「このっ!!」袈裟切り

アマツ「(# ▼皿▼) 三三三 高压水流プレス

提督「ぶべらっ!」三(#) 凸、;;

ジン「ぐうっ…!?!」

アマツ「三(# ▼皿▼)」提督達に向かって突進

アグル「そうはさせない!!」つ【閃光玉】

カツ

アマツ「Σ(； ▼皿▼)」眩暈

ベル「よし、今のうちに!!」つ生命の粉塵

提督「すまん、助かる」アセアセ

アール「おらー!!こっちだ!!」属性解放斬り

アマツ「(▼皿▼ #)三」回転突進

アグル「なんのっ!!」盾ガード、溜め砲撃

提督「こいつもおまけだ!!」ジャンプ溜め斬り

アマツ「(▼皿▼ .)」怯み

ベル「今のうちにっ!!」シツポへ乱舞

アグル「どんだん撃ちこむ!」リロードしては砲撃

アマツ「(((▼皿▼#))((「強い風を巻き起こし、引き寄せる

ゴゴゴゴゴゴッ

提督「まずい!!普通のよりも引き寄せる力が強い!!」

アール「どっかしっかりしがみつかねえとやべえぞ!!」

アグル「引き寄せられる、引き寄せられるーっ!?!」ダッシユ

ベル「か、風つよいっ!?!」しがみ付く

ジン「っ…!!」しがみ付く

ガコツ

ジン「あつ…!!」しがみ付いていた岩ごと一気に引き寄せられる

提督「しまった、ジン!!」

アマツ「三三三(▼皿▼#)三三三」大回転竜巻

ジン「竜巻に巻き込まれる

アール「ジン…っ!!」

提督「頼む、間に合ってくれ!!」っ【生命の大粉塵】

アグル「まずいですよ!!あのアマツ…高く飛ばされたジンさんに向けて…水流プレスを撃つつもりです!!」

ジン「気絶中

アマツ「(▼皿▼#)狙いを定める

アール「バカヤロウ!!早く目え覚ませ!!」

ブローン…

アグル「うん…?なんか飛んできてる…!」

提督「あれは…艦載機?!」

アール「しかも速ええっ!!」

艦載機<ワイヤー用意っ!!

ジン「ぬっ!?!」ガッ

艦載機<回避用意!!

アマツ「三三(▼皿▼ #)」高圧水流プレス

ジン「おっ!?!」グイッ

艦載機<回避成功!!

アール「すっげえ!!まるでジンが飛んでる見てえだ!!」

アグル「ちよ、もう2機、速いのが来てる!!」

艦載機②<クラエバカヤロウ! ババババツ

艦載機③<爆撃ダ、バカヤロウ!! ヒューン

アマツ「Σ(; ▼皿▼)」怯み

ベル「おおっ!!いいぞ!!」

ジン「よつと…」着地

提督「ジン、大丈夫か」

ジン「大丈夫だ。それより…あの艦載機…」キョロキョロ

アール「心配すんな…この辺りにはいない」

提督「ジン…いけるな？」

ジン「…ああ。これで決着をつける…!!」

夕張「や、やっぱり嵐が強い…嵐ですーっ!!」アセアセ

加賀「…」霊峰、雲がかかっているとところを眺める

夕張「も、もうそろそろ戻った方がいいんじゃない？」

加賀「もう少し、待ちましょう。提督達、ジンさんのために。それからあの子の為に
も…待つてあげましょう」

夕張「で、でもすごいですよ…ここからあの霊峰に向かって物凄い速さで艦載機が
飛んでいくなんて…」

加賀「それほど、あの子が想う気持ちが高いのよ…瑞鶴、後は見届けなさい。提督
達なら必ず…必ずこの嵐を晴らしてくれませよ」

瑞鶴改二甲「ジンさん…お願い、届いて…私の想い、届いて!!」

86 生者を照らす朝日

艦載機くどうかご武運を！ ブーン

ジン「…瑞鶴…」

アーロ「ジン!!行くぜ!!」

ジン「…ああ!」

アマツ「(▼皿▼ #)三三 突進

アグル「当たらせはしない!!」つ三【閃光玉】

アマツ「(▼皿▼ ;)」眩暈

提督「おりやあつ!!」ジャンプ溜め斬り

ベル「これでどうだ!」回転斬り

アマツ「Σ(▼皿▼ ;)(」尻尾切断

アール「よっしや!!こいつもおまけだ!!」高出力属性解放斬り

アグル「これもくらえ!」龍撃砲

アマツ「(▼皿▼ ;)」怯み

提督「いいぞ、その調子だ!!」

アマツ「(▼皿▼) #)三(# ▼皿▼)」回転攻撃

提督「ぐうっ!?」受け身

アール「フベシっ!?」…・・(ε。()

アマツ「(# ▼皿▼)三三三三」高圧水流プレス

アグル「このっ、ガード、おおおっ!?」ガードするも押し飛ばされる

ジン「おおおっ!!」ダッシユして抜刀斬り

アマツ「三三三三(▼皿▼) #)」高圧水流プレス

アール「ぬううっ!?」ジンを庇ってガードするも吹っ飛ばされる

ジン「アールっ!!」

アール「俺に構わず走れ!」

アマツ「三三三(▼皿▼) #)三三三」四方向竜巻飛ばし

ジン「ぬっ!!」ジャスト回避

ベル「こっちだっ!」鬼人化乱舞

アマツ「○三(▼皿▼) #)」水玉弾プレス

提督「よっつ!!これをくらいやがれ!」超溜め斬り

アマツ「(▼皿▼) ;)」怯み

ベル「もっつ、もっつ押し込んでやる!」斬り込み

提督「どっせい!!」ジャンプ溜め斬り

アマツ「三三三(▼皿▼ #)」高圧水流プレス

提督「ジン、いくぞっ!!」打ち上げ

ジン「提督、ベルっ…!!」打ち上げられて飛ぶ

ベル「ジン、いけっ!!…ぶっ!」三()、ω()…

提督「これで決めろおおっ!!」

アマツ「(▼皿▼ #)」ジンに狙いを定める

ジン「…っ!!」

アマツ「三三三(▼皿▼ #)」高圧水流プレス

ジン「…そこだっ!!」絶対回避【臨】

アマツ「Σ(▼皿▼ ;)」

提督&ベル&アール「いつけええええっ!!」

ジン「これで…終わりだっ!!」大回転気刃斬り

ズバンッ!!

アマツ「クオオオオオオオオ…ッ!!」

ズウウウウウンツ…!!

ジン「…」動かないアマツを見た後、納刀する

アグル「あ、嵐が…止んでいく…」

ベル「雨も風も止んだ…これって」

提督「ああ…アマツマガツチの討伐が、完了したんだよ…」

ジン「…」空を見上げる

アーロ「おおっ!!空がどんどん晴れていくぜ…!!」

提督「朝日が照らしてる…戦いが終わったんだ。そして…」チラツ

ジン「…」虹がかかった空をずっと見上げている

ベル「ジン…」

アーロ「…良かったな、これでもう悔やまなくていいんだ」

提督「しばらくそつとしておこう。アグル、無線を通してギルド本部と大本営に連絡してくれ。アーロとベルは補給拠点の皆に伝えてくれ」

アグル「任してくださいよ」

アーロ「おっし、急ぐぜベル!!みんなずっと待ってんだからよ!!」

ベル「ちよ、待ってー!!」

ジン「…クロード…」空を見上げる

提督「ジン、よく頑張ったな！」

ジン「…ありがとう。お前たちのおかげだ！」

提督「ははは、気にすんなって、仲間なんだから当たり前のことさ。それに…もつと感謝すべき相手がいるだろ？」

ジン「…ああ、その通りだな」

提督「さあ、ギルド本部が着くるまで待とう。それが終わったら…帰ろう」ポンポン

ジン「…」青く澄み切った空を見上げる

ジン「…みんな、終わったよ…」

i n サーモン海域補給拠点

提督「…皆、終わったよ…!!」

木曾「提督！」

大井「提督！ジンさん達も…良かった…良かった！」

天龍「良かったぜ…提督達全員無事で…」

アール「もう大丈夫だ。これでもう安全だぜ」

比叡「無事で、ほんとよかったです：！！」

加賀「：ジンさん、無事でよかったです」

ジン「：ああ：」ソワソワ

加賀「あの子なら、すぐに来ますよ」ニッコリ

ジン「：ああ」

ドタドタドタドタ：

瑞鶴「ジンさん：！！」ダッ

ジン「瑞鶴：っ！！」

ギユッ

瑞鶴「ジンさん：ジンさん：っ！！」ギユッ

ジン「：ただいま」瑞鶴を抱きしめる

ベル「：なんか瑞鶴の雰囲気変わってる？」

加賀「ええ、あの子は改二どころかその上の『改二甲』になり、空母から装甲空母へと変わりました」

アール「なにそれ：一体どうやったらそうかなり変化するの：」

大井「どこかの誰かが資材とは違う材料で作るからじゃないですか？」ジトー
アロー「(：??)」

大井(ごまかした…)

天龍(凶星だ…)

加賀「それよりも提督、提督も会わなければならぬ人がいるのでは？」

提督「そうだね。よし、全艦隊！鎮守府へ帰投せよ！」

艦娘一同「はいっ！」

アグル「…感動しすぎてお涙頂戴しちゃったよ…」ホロリ

黒丸「奇遇だニヤ。実はおいらもニヤ…」ホロリ

ミケ「さ、船に乗るニヤー」

i n 母港

霞「…」

明石「霞ちゃん、昨日からずっとあそこで待っているようですね…」

長門「仕方ない、帰って来る人の帰りを待っているのだからな」

電「司令官さん達、ご無事でしようか…？」ハワワ

龍驤「心配しなくても大丈夫や。提督達なら絶対に大丈夫や…」

鈴谷「龍驤も心配しすぎてそわそわしてるじゃん？」

加古「とかいいう鈴谷も心配しすぎて寝てなかったよな」

榛名「あれは……！」

金剛「ホエールの形をした船：間違いないネ！第二イサナ号デース!!」

霞「……!!」バツ

時津風「雪風、雪風！双眼鏡で見て!!」

朝潮「司令官達は無事ですか!？」

雪風「待ってくださいよ……むむむ……見えました!!司令官達です!!皆無事です!!」

磯風「船のそばに比叡さん達もいる!!」

球磨「木曾も大井も無事クマ……!!」

赤城「加賀さん、瑞鶴……!!」ホツ

ビスマルク「手を振ってるのが見えるわ……アドミラル、良かった……」

鹿島「ベルさん……!!良かったです……!!」ポロポロ

霞「……つ」アタフタ

明石「霞ちゃん、これを!!」つ艤装

霞「明石さん、ありがと!!」ダッ

提督「おーい!! みんなー!! もどってきたよー!!」ノシ

アーロ「お? ものすごい勢いでこっちに来てるのって、霞じゃね?」

ベル「なんかすごく速いよ!」

霞「指令かああああんつ!!」バツ

提督「おおつ!? 霞、ただいま!」霞を抱きとめる

霞「司令官つ…!! おかえりなさい…!!」

提督「ああ…ただいま。無事に帰って来たよ」ナデナデ

アール「いやー、ニヤニヤするなー」

あぐにやん「三(*、ω、)」

アグル「オオ!! あぐにやん! おおつよしよし! 無事に戻って来たぞー」ナデナデ

ベル「提督、大本営から『南方海域の災害、未然に防ぐことができ実に感謝。此度は

傷と疲れを癒せよ』って通信が来たよ」

提督「うん…今日は、ゆっくり休もう」

――夜中――

in 食堂

足柄「ヒヤッハー! 飲むわよー!!」

大淀「ちよ、足柄さん飲みすぎです!!」

龍驤「まあまあええんちやう? 南方海域突破、提督達の無事の帰還の祝いだしさ」

高雄「ヴあ、ヴァカメと言つてやりますう〜」 酔つてる

愛宕「あらあら…」

提督「今回は皆、本当にご苦労様」

霞「何言つてるの。司令官達がいっぱん頑張ったんだから…少しは遠慮せず胸を張りなさい」

アグル「そうですよ。大本営もギルド本部もクロードさん達に感謝してるんですから」

提督「みんなの無事がなによりさ…」

鹿島「ベルさんが：ベルさんが本当に無事でよがっただですう!!」 大泣き

ベル「う、うん…というか鹿島? お酒飲みすぎじゃ?」

鹿島「う、うれし泣きですからいいんですー!!」 大泣き

ベル「あ、あははは…鹿島は酔うと泣き上戸になるのね…」

朝潮「ほんと、アーロさんは無茶すぎなんですから!!」 右腕固め

磯風「これをこうして…こうだなっ!」 海老ぞり固め

曙「ほんつと、心配かけて…クソアーロさんが!!」 左腕固め

ア—ロ「いだだだだっ!? 誰だ!! 誰がこいつらに酒を飲ませた!」

五月雨「あはは—!! すごいです—!! ア—ロさんが5人に分身してます—!!」

初霜「あ、あれ? 雪風ちゃんが飛んでます—」フラフラ

雪風「ふええ… フラフラです—」フラフラ

北上「うわ—: 駆逐艦達の子、ジューズと間違えてお酒を飲んじやったみたいだね」

響「ハラショー」グビグビ

潮「響ちゃん!? それウイスキーだよ!」

長門「…実にいいな…」↑主犯

天龍「…手段はどうあれ…: 長門さん、ナイス!!」

龍田「とりあえず、空気対策は取れたわね…」

飛龍「あれ? そういえばジンさんは何処かしら?」

大鳳「瑞鶴さんもいらつしやいませんよ?」

赤城「ジンさんと瑞鶴は…」

加賀「気にしなくていいのよ。あの子の為にもここは任せておきましょう」

ジン「…」

瑞鶴「ジンさん、やっぱりそこで飲んでたんだね」

ジン「む、瑞鶴か……」

瑞鶴「あ、ジンさんのお酒……もう少ししか残ってない。一人で飲んでたの？」

ジン「……物思いに耽るとつい一人酒をするのが悪い癖だ……だが」

瑞鶴「だが？」クビカシゲ

ジン「……丁度、二人分は残ってるぞ」スツ（もう一つの小さな酒器を渡す）

瑞鶴「……！……うん、私でよければ……」

ジン「……」ぐい飲み

瑞鶴「……うん、美味しい」ニツコリ

ジン「……そうか、ありがとうな」

瑞鶴「……ジンさんの造ったお酒、空になっちゃったね」

ジン「……また新しく造るさ」傍に置いてあった花束を海の方へ投げる

瑞鶴「……ジンさん、あのね。謝らなくちゃいけないことがあるの」

ジン「うん？」

瑞鶴「ジンさんの昔の事、聞いちゃったの……」

ジン「そうか……謝ることはない。やつと……やつと、皆が報われたんだ」

瑞鶴「ジンさんが好きだった子も……？」

ジン「……瑞鶴、初めてあった時、最初は驚いた。生まれ変わりじゃないかと思ってし

まうくらいさ…」

瑞鶴「…」

ジン「…でも、目の前にいるのは瑞鶴という少女であの子はもういない。重ねてはいけないと思っっているのにと過去トラウマを振り切ることができずにいた」

瑞鶴「…」

ジン「だが、それはもうお終いだ…提督達のおかげで…そして瑞鶴、お前のおかげで振り切ることができた」

瑞鶴「……」

ジン「瑞鶴」

瑞鶴「なあにジンさん？」

ジン「…好きだ」

瑞鶴「……プルプル

ジン「い、嫌だったか……？」Σ(；； 皿、)

瑞鶴「……その言葉……ずつと、ずつと待ってたんだからあ！」涙流してジンに抱き着く

ジン「……遅くなってすまなっただな……」瑞鶴を抱きしめて撫でる

瑞鶴「うん！……うん……!!」何度も頷く

提督「……」窓から母港を覗く

霞「司令官、何ニヤニヤしてるの？」

提督「うん？ああ……二人とも良かったなーってさ」

霞「??？」

● 島探索 式日目

ウイル「おらー、起きろー」

ホツポ「ウーン…マダ眠イ…」ウトウト

ウイル「早朝と共に出発だぞー」

駆逐水鬼「探索ノ朝ハ早イノダナ」

ウイル「一日でも早くこの島が保護区になりそうなものを見つけたいからな」

駆逐棲姫「後、ハチミツも見ツカルトイイデスネ！」

重巡棲姫「(´うω・、)」ネムイ

ウイル「まあご飯食べてから出発してもいいかな…」

重巡棲姫「飯カ！ウイル、肉、お肉!!」バツ

ウイル「ちよ、朝から肉はダメ！」

重巡棲姫「ヴウー!!肉がいい!!」(´0言0#)

ウイル「はいはい、こんがり魚で我慢しなさい」つこんがり魚

重巡棲姫「ムウ…」カジカジ

ホツポ「ウイル、次ハ何処へ進ムノ？」

ウイル「今日はおつと奥地へ行こう。未踏の地であればあるほどきつと希少生物がい
るに違いない」

駆逐水鬼「フム、冒険し甲斐ガアルナ!!」フンス

ホツポ「ソウト決マレバ出発!」ウイルに肩車してもらう

ウイル「よっしや!! どんどん行くぞー!!」

重巡棲姫「(⊠ ω ⊠)」食べながらスヤア

駆逐棲姫「お、起キテクダサーイ!!」ユサユサ

—— ウイル達は島の奥地へと進んだ ——

ケチャワチャ「三三〇二(^ ω ^)二〇」ブーン

ウイル「うおっ!? あぶねえ!」しやがむ

ホツポ「ワッ!? お猿さんガ飛ンデル!」

ケチャワチャ「〇三〇三(^ ω ^)」

駆逐水鬼「ナンカ飛バシテキタゾ!」

ウイル「気をつける!! それは粘着性のある鼻水だ!!」

ホツポ「ヒヤアッ!? バッチイ!!」アタフタ

重巡棲姫「(^ ^)」こんがり肉モグモグ

ボルボロス「三三(＃、皿、)」突進

ウイル「うおおお!! 走れえええつ」ホツポと駆逐棲姫を抱えて走る

ホツポ「スツゴイ!! 頭カラ煙ガ出テル!!」キラキラ

駆逐棲姫「ヒヤアアアアアッ!？」

ボルボロス「(、皿、＃)三三」Uターン

ウイル「マジで!? Uターンしやがったー!？」

ホツポ「イヤッホー!!」ウキウキ

重巡棲姫「(*、ω、)」モスジャーキーモグモグ

ラングロトラ「(、ω、)」ペロペロ

駆逐棲姫「ヒヤアッ!? く、クスグツタイデス：ヒヤンツ!!」アセアセ

ウイル「おらこの野郎!! 長い舌でペロペロすんじゃねえ!!」キツク

ホツポ「戦艦棲姫ニ言イツケテヤルゾ!!」ポカポカ

駆逐水鬼「私ガ相手ダ!!」ボカボカ

ラングロトラ「三(；、ω、)」スタコラ

ウイル「あの野郎：うらやまけしからん！」フンス

ホツポ「ウラヤマケシカラン!!」フンス

駆逐棲姫「えっ」

重巡棲姫「(。||。ω。)」元氣ドリンク一気飲み

ナルガクルガ「(皿皿)」威嚇

ウイル「むっ、ナルガクルガか…少しばかり手強いぞ」

駆逐水鬼「刃ノ翼ヲ持ツノカ…面白い」フンス

ウイル「気をつけろー。ナルガの刃翼も厄介だが、あいつの長い尻尾がとてまやばいからな」

ナルガ「(C(、皿皿)」シッポビターン

ウイル「アバスっ!?!」..:(ε。(

駆逐棲姫「う、ウイルさー！ん!?!」Σ(？口？！ー！)

重巡棲姫「(ゝゝ)」携帯食料モグモグ

ウイル「はあ…はあ…なかなか見つからないな…」

ホッポ「ウイル、頑張ッテルネ」ナデナデ

駆逐棲姫「ウイルさん、駆逐水鬼ちゃん、怪我は大丈夫？」

駆逐水鬼「何、私はカスリ傷ダ。ウイルがヨク体ヲ張ッテルノガ心配ダ」

ウイル「う、うるせええっ!?フルフルの数倍うるせえぞ!」(〇； ㇿ、)〇
 ホツポ「重巡棲姫は叫ブノガ得意ナノ!!」

駆逐棲姫「デモ物凄く五月蠅イノデ戦艦棲姫サン達に怒ラレマス!」

ティガ「?;(皿 ;)?」

ウイル「今だ、あいつがきよとんとしている隙に逃げるぞー!!」

ホツポ「戦略的撤退!!」

重巡棲姫「ヴェアアア!!」(、 0言0、*)

駆逐水鬼「ほ、ホラ、行クゾ!!」グイツ

ウイル「ひいひい…なんとか撒いたな」

重巡棲姫「(・ω・)」フンス

ウイル「分かってるよ。お手柄だ、重巡棲姫。後で沢山こんがり肉焼いてあげるから」
 ナデナデ

重巡棲姫「ヤッター!!ウイル、大好き!!」(*、ω、*)

ウイル「ああ…どれくらいこんがり肉を作ればいいのかなあ」白目

駆逐棲姫「ウイルさんシツカリ!」ユサユサ

ホツポ「…?」

駆逐水鬼「ホツポ、ドウシタ?上ヲ見上ゲテイルヨウダガ…」

ホツポ「空ニ何カ銀色ニ光ル何カガ見エタ様ナ…」ウーン

キラツ

ホツポ「!!ウイル、れっぷーミタイノガ飛ンデル!!」

ウイル「れっぷー…クシャルか!?!どこだ!?!」

ホツポ「アツチニ飛ンデッタ!」

ウイル「よし、追いかけるぞ!!」ホツポを肩車する

ホツポ「オーツ!!」

重巡棲姫「ヴェアツ!?ウイル、こんがり肉ー!!」

駆逐水鬼「ふ、二人トモ速イナ…」

駆逐棲姫「兎に角追イカケマシヨウ!」

in 高地

駆逐棲姫「随分奥地に進ンジャイマシタネ…」

駆逐水鬼「コンナ奥地マデ来ルノハ初メテダ…」

重巡棲姫「お肉ー…」

ウイル「ホツポ、れっぷーみたいのが飛んできたのはこの辺りか?」

ホツポ「ウン!!コノ上に飛ンデッタ!」

ウイル「ここからは慎重に静かに進むぞ」匍匐前進
バサバサツ

ウイル「むっ!!みんな隠れて静かに!何か来たぞ…」

ホツポ「れっぷーカナ…?」

ウイル「銀色だが…あれは…クシャルじゃない…」

銀レウス「()() (、皿、)」着地

ウイル「リオレウス希少種だ…!!」

ホツポ「凄い銀色!!あれもれっぷーみたい!」キラキラ

ウイル「少し小さいな…若い個体か?それとも…」

駆逐棲姫「ウイルさん!!もう1頭、飛ンデキマス!!」

銀レウスB「()() (、皿、)」

銀レウスC「()() (、皿、)」

ウイル「マジでか…数頭もいるだと…!?!」

ホツポ「ソナニ珍シイノ?」

ウイル「ああ!希少種はめつたに見られないからな…それにしてもなんで数頭もいる

んだ…?」

重巡棲姫「アノ銀色：お肉啜エテル：」

ウイル「肉：餌だな。群れで狩りでもしていたのか：？」匍匐前進して進む

ホツポ「ウイル!!アノ上ニ金色モイルヨ!!」つ双眼鏡

リオレイア希少種A「(皿)」クルル：

ウイル「あれはリオレイア希少種：!!しかも銀レウスと同じ数いる!!」

駆逐水鬼「金色は座り込ンデイルヨウダガ、怪我ヲシテイルノカ？」

ウイル「いや、金レイアが座り込んでいる所は巢だ：まさか：!!」

銀レウス「(皿)○」肉を食い千切る

仔レウス「(ω) (ω)」パイパイ

仔レイア「(ω) (ω)」パイパイ

ウイル「子供だ!!子供に餌を与えているんだ：!!」

ホツポ「小ツチャクテカワイイ：」

ウイル「すごいぞ、すごいぞ!!もしかしたらあの希少種はこの島を繁殖地に行っている

かもしれない!!」キラキラ

駆逐水鬼「ソレツテスゴイ事ナノカ？」

ウイル「とつてもすごいぞ!!希少種はギルド本部や龍歴院でさえ詳しい生態が知られていないんだ!!これを観察すれば：希少種の生態が明らかになるかもしれないスツゴ

イ大発見だぞ!!」

ホツポ「ソレッテモシカシテ…」

ウイル「ああ!!これをギルド本部に伝えればこの島は保護区に登録される!」

ホツポ「ヤッター!!ウイル、やったね!」

ウイル「よし、そうと来れば離れたところでテントを立てて観察開始だ!」

駆逐棲姫「ウイルさん、トツテモ活き活きシテマスネ」ニコニコ

重巡棲姫「ヴウー…こんがり肉は…?」

数週間後

ホツポ「と、いう事でウイルはスツゴイ大発見ヲシタノ!!」

レ級「へえー…銀色ノ竜ニ金色ノ竜ガイタンダ…」

戦艦棲姫「スゴイワネ…自然界ニハソソナノガイルノ」

重巡棲姫「こんがり肉!!ウイル、ヤッパリ大好き!」モグモグ

空母棲姫「沢山焼イテモラツタノネ…」

港湾棲姫「ソレデ、ウイルは…?」

駆逐水鬼「今は資料ヲヒタスラ書キ続ケテル」

ウイル「よっしやー!!一先ず調査報告書の完成だ!」ヒヤッハー!!

ホツポ「ヤッター!!」

ウイル「緯度と経度も測定したし、資料も証拠の素材もばっちり！これがあれば保護区に登録されること間違いなしだぜ!!」

駆逐棲姫「ヤリマシタネ、ウイルさん!!」

防空棲姫「ココガ保護区ニナルノナラ安心ネ」

ホツポ「サスガ、提督ダネ!!」

ウイル「おう…えっ？」

戦艦水鬼「…ヒトツ、聞イテモイイカ？」

ウイル「おう、何でも質問してくれ!!この資料さえあれば大丈夫だぜ!!」

ホツポ「大丈夫！」フンス

戦艦水鬼「ソレガアレバ保護区ニ登録サレル可能性ガアルノダナ？」

ウイル「ああ!!これを龍歴院かギルド本部に渡せば大丈夫だ」

戦艦水鬼「ジャア…ドウヤツテ渡スンダ？」

ウイル&ホツポ「…わあああああああああああああつ!？」

87 鎮守府の休日

in母港

提督「アグル、もっとゆつくりしていてもいいのに」シンミリ

アグル「クロードさん、お気持ちは嬉しいのですが、アマツマガツチ討伐の報告書や調査報告書をギルド本部に届けなさいけないんです…」

ベル「そっかー、アグルも忙しいんだね」

アグル「他にもまだまだ調べなさいけないこともあるみたいで…」

提督「調べなさいけない事？」

アグル「今各地方で噂になっている『二つの首を持つ古龍』の件です。龍歴院と協力して調査をしているのですが、『竜の墓場』の他にも『海で似たようなものを見た』とか色んな噂でてんやわんやです」

アール「そりゃあギルドも龍歴院も大変だな」

アグル「各地のハンター達にも調査の依頼を出してるんで俺も行かなさいけなくて…」

提督「そうか…アグルも頑張れよ」

アグル「はい！短い期間でしたが、クロードさん達や艦娘の皆さんとご一緒できてほんと良かったです!!」

龍田「アグルさん、はいこれ」つお弁当

アグル「た、龍田さん!?こ、これって…」

龍田「うふふ、天龍ちゃんから聞いたわよ…今度来るときは、エスコートお願いね？」ウインク

アグル「よ、喜んでー!!」ガッ

龍田「…その代り、女つ癖は直さなきやダメよ？」回避

アグル「ぶべらっ!!」

弥生「あぐにゃん、またね…」ナデナデ

江風「またアグルさんと一緒に鎮守府に遊びに来てくれよな！」ナデナデ

あぐにゃん「(＊、ω、＊)」クルルル：

アグル「弥生ちゃんもありがとね。もし、資格を取ってもつとほかの地方に行きたい時は兄貴に頼んでもらえば連れてってもらえるぞ！」

アール「オイコラ、勝手に無茶振りさせんじやねえよ」

弥生「アグルさん、ありがとうございました」ニッコリ

アグル「クロードさん、お世話になりました」ペコリ

提督「いつでも遊びに来てくれよな。歓迎するぞ」

アグル「ベルさん、楽しかったですよ」

ベル「こつちも楽しかったよ。いつでもおいで！」

アグル「兄貴…うざい」

アーロ「おおい!!俺だけ辛辣だなおい!!」

アグル「ジョークだつての。ありがとうな」

アーロ「つたく、もうちよつと空気読める様になれよ」

天龍「えっ」

大井「えっ」

加賀「えっ」

アーロ「お前らどういことなの…」

アグル「それとジンさん…」

ジン「…」

瑞鶴「…」

アグル「先にお祝言、渡しときますね☆」

ジン「うむ」

瑞鶴「『うむ』じゃないですよ!」顔真つ赤

ジン「アグルもしつかりな」

シ
アグル「はい！クロードさん、皆さん！！そして艦娘の皆さん！！また会いましょー！！」

あぐにゃん「(´ω´)」尻尾を振る

提督「おー！！元気だなー！！」ノシ

艦娘たち「さよならー！！」ノシ

—— 数日後 ——

i n 執務室

提督「……」苦笑い

大和「……」ニコニコ

孫娘提督「……さあ、遠慮しないで首を縦に振りなさいな」ドヤツ

提督「あの……えっと、お気持ちは嬉しいのですが……」チラツ

初月「この度こちらの鎮守府に着任することになりました、秋月型防空駆逐艦4番艦、初月です！」ピシツ

U-511「お、同じく……ドイツ海軍のUボート、潜水艦U-511です……よ、よろしく願います」アセアセ

提督「ほんとにいいんですか!？」

孫娘提督「何言つてんの。貴方達は嵐を操る古龍の脅威から南方海域を、艦娘たちを、自然を守って救つたのよ。普通の提督じゃできない功績をやり遂げたんだからもっと胸を張りなさいな」

提督「いや、俺達はその…皆を守ろうと…」アセアセ

孫娘提督「それだけじゃないわ。報告書もちゃんと読んで…『ディノバルド』、『オオナズチ』、『ラージャン』を撃退して南方海域の補給拠点を奪還した功績もあるし、大本営の皆も各地の提督達も喜んでいるのよ」

提督「孫娘提督殿、俺は…『英雄』なんかじゃないですよ…ただ大事な艦娘たちを思う、ただの提督ですよ」

霞「ほんと、司令官は遠慮しがちよね」

大淀「でもそれが提督のいいところですよ」

霞「でも司令官、折角あの子たちも来てくれたんだから返しちゃうのも悪いし受け入れたら?」

提督「むむむ…それもそうか…わかりました」

孫娘提督「そうこなくっちゃね!それと、南方海域では無茶を頼んだ上に古龍とも

戦って大変だったでしょ？しばらくはゆっくり休みなさいよ」

提督「孫娘提督殿、毎度毎度本当にありがとうございます」ペコリ

孫娘提督「うふふ、それじゃあ私は失礼するわね」

大和「今度は交易所でユクモやロツクラツクの品物を買に行くんですね？」

孫娘提督「だー!!もう余計な事を言わないでよー!!」プンスカ

提督「さてと…初月、Uちゃん、鎮守府へようこそ。あまり硬くならず ゆっくりしてね」

初月「うん…噂でとっても賑やかな鎮守府って聞いている。僕も馴染めるよう頑張るよ」

U511「ユーちゃんも…が、頑張る…」アセアセ

提督「よし、じゃあ黒丸、鎮守府内の案内を頼んだよ」

黒丸「任せるニヤ!!さあこちらへご案内するニヤ」

U511「ね、猫がしゃべった…!」アセアセ

初月「しかも二足歩行で歩いてる…!!この鎮守府はすごいな…」

in 空母練習場

飛龍「それでさ、瑞鶴。どうだった？」ニヤニヤ

瑞鶴「えっ…?」

龍驥「ミケやカヤンバ達から聞いたでー。ジンさんとラブラブなんやろー?」

瑞鶴「ええっ!?!もうみんな知ってるの!?!」顔真っ赤

加賀「あれだけジンさんがアプローチしてるんですもの。皆知ってるわよ」

瑞鶴「そ、そんなー!!皆をびつくりさせようと思ったのにー!!」

赤城「でも良かったじゃないの。ね、瑞鶴」ニコニコ

瑞鶴「は、はい…ほんと嬉しかった…です…」ポツ

龍驥「あー。すっごい甘いわー」サトウダバ

飛龍「いいぞもつとやれー」

加賀「それにしても…改二甲ですか」

瑞鶴「は、はいっ。ジンさんがカタパルトを造ってて、希望の証と一緒に使ってでき

たんです」

龍驥「ジ、ジンさんが造ったんかー…」遠い目

赤城「どんな資料を使ったんでしょうね」クビカシゲ

瑞鶴「ジンさんに聞いたんですけど…確か…メランジエ鉱石と『鋼龍の剛翼』と『鋼

龍の大宝玉』と『火竜の天鱗』で造ったとか…」

明石「やっぱいいいいいっ!!」ダツ

瑞鶴「うえっ!? あ、明石さん!」

龍驤「あかん! 明石さんがお冠や!!」

飛龍「逃げて!! ジンさんすぐ逃げて!!」

加賀「: ジンさんにカタパルトを造ってもらえば: 私にも改二のチャンスが:」
ソッ

赤城「加賀さん?」

in 中庭

アール「: :」ジーツ

初月「うん? 僕に何か用かい?」

アール「: : 時津風、朝潮、時雨、こっちに来て」

時津風「なにになに?」

時雨「アールさん、どうかしたの?」

朝潮「アールさん!! ご命令をどうぞ!」

初月「???」

アール「: : お手」スッ

時津風 & 朝潮「はい!」

時雨 & 初月「はい」

アール「…おかわり」

時津風&朝潮「はい！」

時雨&初月「はい」

アール「…」つボール

時津風&朝潮「(。ω。*)*!!」

時雨&初月「(, ω,)…」

アール「よーし、とってこーい！」三〇

時津風「はい♪」三(* , ω,)

朝潮「はい！取って来ます!!」三(、・ω・)

時雨&初月「(, ω,)…」ジーツ

アール「…」ナデナデ

初月「わわっ!?く、くすぐりたいよ」

時雨「こ、これも悪くないかな…」

アール「…癒しだ」ホッコリ

響「わんこだね」

不知火「わんこですね…」

五十鈴「いや、なにやってんのよ…」

長門「ぐぬぬぬ…羨ましいぞ…」グヌヌ…

ビスマルク「長門…」

i n 母港

U—511「えつと…潜水艦、U—511、です…よ、よろしく願います」ペコ
ペコ

ペッコ「（、ω、）？」クビカシゲ

ゴーヤ「Uちゃん、ベルさんはこっちでち」ポンポン

U511「あわわわ…ご、ごめんなさい、です」アタフタ

ベル「ははは、慌てなくてもいいよ」ナデナデ

U—511「あわわわ…」アセアセ

シオイ「それでベルさん、鹿島さん、今日は潜水艦の演習だね！」

鹿島「そうですね。潜水艦ならではの作戦や任務もあります」

ベル「それに備えて、訓練や演習もしておかないとね」

イムヤ「遠征の他にも出番がありそうね！頑張らなくちゃ！」

U—511「え、演習、よろしく願います！」ペコペコ

ペッコ「（、ω、）？」クビカシゲ

ゴーヤ「Uちゃん、演習相手はペッコちゃんじゃなくてこっちでち」ポンポン

U—511「あわわわ…ご、ごめんなさい、です…」アタフタ

電「はわわわ…あ、謝ることはないのです…」アセアセ

U—511「あわわわ…」アタフタ

電「はわわわ…」アセアセ

天龍「うん、ナニコレ」

夕張「まあまあ、見てるだけでも面白いですよ」

暁「でもベルさん、潜水艦は4人しかいないわよ？」

雷「こつちは6人いるし、編成組んでた方がいいじゃない？」

皐月「あと二人いるんじゃない？」

ベル「そうなんだよな…」

イムヤ「そうよねー…『潜れる人』が二人ほどいればねー」チラッ

ベル「…えっ？」

シオイ「だよねー…半永久的に『潜れる人』がいたらなー」チラッ

ベル「…えっ…えっ!？」

ゴーヤ「そうでち…『潜れる人』がいればいいでちねー」チラッ

チャチャ「なんだか呼ばれた気がするので助っ人にやってきたツチャ!!ベル殿、いつ

ちよやるツチャよ!!」

ベル「ええっ!?俺も!」

鹿島「ベルさん、頑張ってください!」フンス

ベル「鹿島!」

暁「ベルさんとチャチャって…ずるいわよー!!」プンスカ

i n 執務室

ジン「提督、ちよつといいか?」

提督「ジンか…どうした?なにやら神妙な様子だが…」大福モグモグ

ジン「…数日前、瑞鶴に告白した…」

提督「そっかー…ジン、よかったな」ニコニコ

霞「司令官…」やや呆れ

ジン「…それで、俺は決めたんだ…」

提督「うん?」大福モグモグ

ジン「…ケツコン…ケツコンカツコガチをする」

提督「(。(。、(」

霞「!?!」ビクッ

提督「☆t h▷kエ×v(*、ω、*)<ハヤルp m○r!?!」喉を詰まらせる

霞「し、司令官!!お茶!!」つお茶

提督「…:っ!!ぷはあ!!ジン、マジで…?」

ジン「マジだ」

提督「そ、そっか…:そりやあめでたいなあ…」アセアセ

霞「…:…?」

ジン「…:それで、提督。指輪を…」

提督「か、霞?あ、あれって練度が関係してるんだっけ…?」

霞「え、ええ…:一定以上の練度に達しないとその指輪が付けることができないの…」

ジン「む…:そうなのか…」

霞「ジンさん、焦ることはないわよ。瑞鶴さんもわかつてくれるから、待つてて大丈夫」

夫よ」

ジン「なるほど、すまないな」

提督「時期になったらすぐに用意するよ…:それまで皆には内緒だぞ?」

ジン「うむ、わかった…」

明石「ジンさん!!すっこしお話しがあります!!」ドンッ

ジン「ではまたな!!」窓から飛び降りる

明石「ああ、逃げられた!待ちなさい!!」ドンッ

霞 & 提督「……」

霞「し、司令官……その、け、ケツコンカツコカリの指輪なんだけど……」モジモジ

提督「……あ、いっけねー!! 在庫のチエツクをしなくちゃー!!」ガタツ

霞「ふえっ!?!」

提督「か、霞!! そういうことで、ちよつくら倉庫を見てくるぜー!!」ダツ

霞「し、司令官!?!」

提督「……ふー、あつぶなかつたー……指輪かあー……マジでどうしよう……」

◆――鎮守府着任当時――◆

提督「へー、この指輪はすごいものなんだ」

大淀「はい。ケツコンカツコカリと言つて、鎮守府では練度を一定値に達した艦娘に、という事と大事に思っている艦娘に渡すものなんですよ」

提督「……大事な艦娘、か……」

黒丸「大淀さーん!! この荷物をどこに入れたらいいかニヤー!!」

大淀「それでしたら……案内しますね!」スタスタ

提督「ふーん……ケツコンカツコカリ、かあ……」指輪を掲げる

ツルツ

提督「あ」

コロコロ……ポチャン

提督「」

◆
|
◆

提督「い、言えない……指輪を海に落としちゃったって言えない……!!」ガクブル

88 提督達の休日

i n 艦娘寮

アーロ「ほれ、これをつけて行って来いよー」つマフラー

響「アーロさん、スパシーバ」

不知火「これは…ありがとうございます」

春雨「ふかふかです！」モフモフ

球磨「クマ？アーロさん、そのマフラーどうしたクマ？」

アーロ「ああ、俺とオトモ達で編んで作ったんだぜ」

ミケ「そろそろ冬だし、海の風も寒くなってくるニヤ」

ブルー「風邪をひかないよう、皆で作ったニヤ」

アーロ「今は駆逐艦の子達の分を半分仕上げたところだけだな…」遠い目

川内「いいいなー!!私の分も作ってほしいいなー!」

鈴谷「今度は軽巡組や重巡組の分も作ってね」ウインク

アーロ「マジで…？」白目

ミケ「ああ…徹夜確定ニヤ…」白目

如月「そういえば、弥生ちゃんはどうしたのかしら？」

アール「ああ、弥生ならそろそろ資格試験が近づいてきているから猛勉強中だ」
臯月「弥生、頑張ってるねー。応援しなくちゃ！」

アール「今は…ジンと瑞鶴と一緒に溪流へフィールドワークしてるだろうな」

in 溪流

ジン「…」アチコチウロロ

弥生「…」ホンワカ

加賀「…」ジー

瑞鶴「静かすぎるでしょ!？」

弥生「フィールドワークです…」フランス

ジン「む?紅葉狩りじゃなかったか?」クビカシゲ

加賀「空母の訓練と聞いて」ドヤツ

瑞鶴「バラバラ!?!そ、それよりも、弥生ちゃんはまだしもなんで加賀さんもついてくるんですか!?!」

青葉「いい写真を撮れると聞いて!!」アオバツ!

瑞鶴「あ、あんたもいたのね…もう、せっかくジンさんと楽しめると思ったのに…」

シヨンボリ

弥生「そういえば、アークさんから聞いたのですが…司令官は生肉と鳴き袋を使って小型の鳥竜種を手懐けたとか」

ジン「うん、あれは提督しかできない無茶だから…マネはするなよ?」

弥生「…ウズウズ」

瑞鶴「ぜ、絶対にやりそうだわ…」

ジン「そろそろポイントに着くぞ」

加賀「ここですか…とてもきれいな紅葉ですね」ウンウン

瑞鶴「すつごい…：ジンさん!!みてみて!!」ウキウキ

パシヤツ

青葉「うーん、いい画が撮れましたねー」ニヤニヤ

ジン「でかしたぞ青葉。あとで焼き増ししてくれ」

加賀「あ、私にも一枚ください」

青葉「まいどー♪」

瑞鶴「アオバワレエ!!」ダツ

ドドドドドッ

瑞鶴「ん?何の音かしら…?」

天龍「じ、ジンサーン!! 何とかしてくれー!!」ダダダッ

阿武隈「何が『俺一人で十分だ(キリッ)』よ!! 余計に怒らせてるじゃないですかー!!」
雷「ひゃーっ!?!」

ドスファンゴ「(、皿、#)三三三」プンスカ

瑞鶴「」

ジン「よし、任せろ!!」ダッ

加賀「ジャスト回避の練習になりそうですね」ダッ

弥生「…スケッチしなくちゃ」ダッ

瑞鶴「も、もーっ!! 折角の紅葉狩りがー!!」ウワーン

青葉「瑞鶴さん、いい画になりますよー!!」パシヤッ

瑞鶴「青葉あ!」プンスカ

i n 執務室

ベル「うん? もうストーブの時期か…」

金剛「Oh、提督達の国のストーブは少し違ってるんデスネ」フムフム

提督「俺達の地方はハンター達が採取した燃石炭をギルド本部が回収し、加工して一般に販売している燃石炭を使ったストーブや薪ストーブが主だからね」

ビスマルク「なるほど…石炭ストーブだから煙突がついてるわけね」

提督「故郷のベルナや雪山のあるポツケ村の冬は特に寒くてな、食料や道具や暖房をしっかりと冬に備えないと大変だったよ」

ベル「冬は色々大変だよー」

金剛「Yes! 冬は色々ありますヨー!! クリスマスとか大晦日とか…イベントが沢山デース!!」

提督「…クリスマス?」クビカシゲ

ベル「…大晦日? 年の瀬かな?」クビカシゲ

金剛「」

ビスマルク「あ、アドミラル? クリスマスって知ってる?」

提督「…なにそれ?」

金剛「じゃ、じゃあ…クリスマスプレゼントやサンタさんは?」

提督「? (・ω・)?」クビカシゲ

ビスマルク「こ、金剛!! ど、どうするのよこれ…!?」ヒソヒソ

金剛「と、兎に角、提督に説明した方がいいデス!!」ヒソヒソ

長門「はっはっは!! 提督! いいよクリスマスの支度もした方がいいな! サンタ役は…私でいいか?」

鹿島「提督、ベルさん。そろそろ駆逐艦の皆さんにクリスマスプレゼントは何がいいか聞いた方がいいですね！」

提督&ベル「??」クビカシゲ

金剛「wait!! waitデース!! 今は提督達に説明した方がいいデース!!」アタフ
タ

ビスマルク「あ、アドミラルルの故郷はどんななのかすつごく気になるわ…」

in中庭

Uちゃん「: :」ソロソロ

アルセルタス「(, ω) ?」

Uちゃん「あわわわ: :」アタフタ

アルセルタス「() (|| ° ω)」

Uちゃん「わわわわ: :」アタフタ

レーベ「Uちゃん、大丈夫だよ」ポンポン

Uちゃん「レーベ: :!」

ゴーヤ「アルちゃんはともいい子でち」

シオイ「なでなでしてあげたら乗せてもらえるよ!」

雪風「一緒になでてあげます!」ナデナデ

アール「なるほどな…：Uちゃんは他の子達ともっと仲良くしたいんだな…」タンコブ
アルセルタス「(・ω・)」怒られた

Uちゃん「は、はいです…：この鎮守府は皆賑やかで…：Uちゃんももっと仲良くなり
たい、です」ソワソワ

アール「はっはっは!! いい子じゃないか」ナデナデ

Uちゃん「あわわわ…：」テレテレ

アール「よし、そうと来れば俺に任せな」

Uちゃん「あ、アールさん…：」

アール「そうだな…：まずはチャチャとカヤンバと一緒にユクモステツry」

大井「やめんかあああつ!!」ラリアット

アール「バワツ!!」○)。3。)…：

ゴージャ「き、決まったでち!! 大井さんのラリアットがcriticalでち!」

Uちゃん「あわわわ…：」アタフタ

大井「また変な踊りを吹き込んだらダメじゃないの!!」プンスカ

アール「だ、ダメか…：そうだな、他の子達といっばい遊ぶことが大事だな」ヨロヨロ

Uちゃん「い、いっばい遊ぶですか…：?」

アール「おうともさ!! さあこれからビーチバレーにでもいこうぜ!!」ドヤツ

大井「いきなり!」

i n 明石の酒保

提督「うーむ……」

明石「あ、提督! 酒保に何か御用ですか?」ニコニコ

提督「ま、まあね……」

明石「?もしかして執務室の模様替えですか? 冬に合わせた床や窓、家具もありますよ!!」

提督「う、うーむ、それもいいのだけど……?」

明石「?それともバケツや資材の購入ですか?」

提督「そうだな……キョロキョロ

明石「??」クビカシゲ

提督「ほ、他の鎮守府から聞いたのだが……指輪とか売ってるんだよね?」ヒソヒソ

明石「な、なんで小声なんですか?」

提督「そ、そりゃあ……照れるじゃないか」アセアセ

明石「(ははーん。さては提督、霞ちゃんのために……) さすが提督、準備は早いですねー」ニヤニヤ

提督「あ、あははは……」ニガワライ

明石「それでしたら書類とセットのものがありますよー」

提督「どれどれ…つて高っ!?」ギョッ

明石「当たり前じゃないですかー。艦娘達の為なら妥当な値段ですよ」

提督「むむむ…な、なあ明石さん?」

明石「はい、どうかしましたか?」

提督「そ、その…提督が作るの…ダメ?」

明石「ダメに決まってるじゃないですかー」(#??^)

提督「デスヨネー」(^ω^)

霞「クズ司令官! 電報が届いてるわよ!!」プンスカ

提督「サラバダー!!」ダッ

霞「はやっ!? な、なんていう速さなのよ…」

明石「…」ニヤニヤ

霞「あ、明石さん…な、なんで私を見てニヤニヤしてるのよ」アセアセ

提督「はあ…仕方ない…やるしかないか」

in 鎮守府門前

アーロ「おーい、たっだいまー!!」

ベル「おかえり。駆逐艦や潜水艦の子達と一緒に遊んでたんだね」

アール「おうよ。スキンシップは大事だかな」

雪風「海辺で沢山遊びました!!」ウキウキ

ゴーヤ「アールさんと一緒に潜ったり」

シオイ「ビーチバレーもしました!!」

レーベ「とても楽しかったよ」

大井「まあ、変なことはなかったから大丈夫よ」(´Д、)「ヤレヤレ

アール「それにうちちゃんもアクティブになったし、良かったなうちちゃん!!」ニコニコ

呂500「はいです!!ろーちゃんも皆と仲良くできてとってもよかったです、はい!」
キラキラ

アール「いやー、いっぱい遊んだあとお腹がすくなー」

雪風「今日は重巡の皆さんが作るカレーですよ!!」

アール「おつ、これは楽しみだな!うちちゃん、うんと食べるか!!」

ろーちゃん「はい!ろーちゃんもカレーをいっぱい食べるー!!」

大井「ふふふ、その前にちゃんと手を洗うのよ?」

駆逐艦&潜水艦たち「はい!」

ろーちゃん「それじゃあベルさん、またです!!」ノシ

ベル「……えっ?……えっ!?!」

89 ライダー3級試験!! 前編

i n本土、汽車駅前

弥生「……」ウトウト

霞「弥生、眠たそうね」

アール「仕方ねえさ。移動中も緊張して眠れなかったんだつてよ」

提督「いよいよ資格試験の日だしな」

北上「興味本位でついてきたけど、あたしも緊張してきたー」

皐月「弥生、この日まで猛勉強してきたんだもんね!」

弥生「…が、頑張りま、ま、ます…!!」プルプル

霞「や、弥生!?!落ち着くのよ!!」

アール「緊張する時はセルレギオスの鱗の数を数えればいいぞ」

霞「知るか!?!」

弥生「1、2、3、4……」

霞「か、数えなくていいのよ!?!」

提督「えーと……本土のギルド本部行きのバスは……10番だから、あっちだ!!」

北上「提督、10番乗り場はこっちだよー!!」

霞「そろそろバス乗り場も覚えなさいよ…」呆れ

i nギルド本部試験会場

提督「うわー、思った以上に試験を受ける人達が多いなー」

弥生「…」ソワソワ

皐月「弥生、大丈夫？」

弥生「う、うん…」ソワソワ

アーロ「すっごいなー…ほとんどハンター達だし、一般枠(?)からは弥生だけっぽいで?」

弥生「」ワナワナ

霞「余計緊張させてどうするのよ!?!」

???「はっはっは!!緊張感を持つのも大事だぞ!!」

霞「この賑やかで力強い声…」

提督「も、もしかして…」

団長「はっはっは!!元氣そうだな!」ニコニコ

提督&アーク「団長おおおっ!!」

霞「だ、団長さん!!」

皐月「団長さんだー!!」

団長「おお!! お前達も元気でなによりだ。それに新しい子達も連れて来たんだな」
ニコニコ

北上&弥生「??」クビカシゲ

皐月説明中

北上「へー! 提督達の話で出てくる団長さんってこの人だったんだね!」

弥生「は、初めまして:」

団長「はっはっは!! 可愛らしくていい子達じゃなにか」ナデナデ

提督「そういえば、団長はどうしてここに?」

団長「実はな:ギルド本部からこのライダー3級の試験官をやってくれと頼まれて
な」

皐月「団長さんすつごーい!!」キラキラ

団長「弥生ちゃんと言ったね。君もこの試験を受けるのだな?」

弥生「は、はい!」

団長「クロード達から聞いたこと、彼らと共に見たこと、それは君にとって素敵で貴

重な体験だ。それを活かしていけば上手くいく」

弥生「わ、私にできる、かな…」

団長「はっはっは!!お前ならできるといえる!!そうだな…もし合格できたら是非とも『我らの団』のライダーになってもらいたいな!」ハツハツハ!

弥生「!!」

アール「だ、団長!まだ早いって」

団長「アール、お前の母も言ってただろう?『可愛い子には旅をさせよ』って」ニヤニヤ

受付嬢「はーい!本日、『ライダー3級』の試験を受けに来た方はこちらに並んでくださいー!!」ノシ

団長「むっ、そろそろ受付が始まるな」

提督「だ、団長!ちよつといいですか?」

団長「うん?どうしたんだ?」

提督「実は…」ヒソヒソヒソヒソ

霞「?」

団長「なるほど!はっはっは!!それなら任せておけ!」ポンポン

提督「は、恥かしながら…お願いします」

団長「では、弥生ちゃん!! 『我らの団』は応援しているからな!」ノシ

北上「本当に賑やかな人だねー」ノシ

霞「司令官、何話してたの?」

提督「ちよつとした頼み事だよ…」

弥生「アールさん…私、頑張る」フンス

アール「お、その意気だ! 団長も言つてた通り、お前ならできるといふぞ!」ナデナデ

皐月「なんだって司令官達がいるもん! 僕たちも応援してるからね!」

霞「弥生ならできるわ。頑張りなさい」

弥生「司令官、アールンさん、皆。行つてきます」ピシッ

提督「弥生!! ガンバレー!!」

アール「俺達がついてる!! 全力を出し切つてこい!!」

北上「頑張つてねー!!」ノシ

弥生「はい!」ノシ

提督「だ、大丈夫かなー…」アタフタ

アール「や、や、弥生の事だ。あ、あ、あ、あいつならできるといふぞ」ガクガク

霞「なんで司令官達が緊張してんのよ」

i n ライダー3級試験場

弥生「ここね…し、失礼します」ガチャツ

ハンター達「…」一斉に入って来た弥生を見る

弥生「ソツトジ

弥生「ど、どうしよう…み、皆、鎧を着てたり、遅しかったりしてる人達だ…」ガク
ブル

???「あら?どうかしたの?」

弥生「(白い服の綺麗な人だ…!!)え、えっと…その…」アタフタ

???「もしかして、ライダー3級の試験を受けるの?」

弥生「は、はい!」何度も頷く

???「…もしかして、試験場で体格のどかい人達ばかりで驚いたでしょ?」ニコニコ

弥生「うう…そ、そうでなんです…」

???「確かに皆体格もでかくて力も強そう…技術も知識も大事だけど、一番大事のは思
いやる心と信じる心なの」

弥生「…」

??? 「その気持ちを持って人とモンスターとの絆を作っていくのがライダーとして大事な事。だから、緊張しないで大丈夫よ」

弥生「あ、ありがとうございます」ペコペコ

??? 「うふふ、貴女からその心が伝わってくるわ。きつといい先生から教えてもらったのね」

弥生「え、えつと、貴女は…?」

アユリア「私はアユリア。今日はこの試験の試験官として来たの」ニコニコ

弥生「わ、私は弥生です…えと、よ、宜しくお願いします」

アユリア「それじゃあ弥生ちゃん。頑張りましょう!」

弥生「は、はいっ!」

アール「ぶへつくしよん!!」

皐月「すつごいクシャミだねー」

アール「ズズ…誰かに褒められたような気がする…」ドヤア

霞「気のせいか司令官の事ね」

北上「うん気のせいかな、提督の事だね」

提督「(・ω・?)」

アーロ「解せぬ…」

教官「これよりライダー3級の試験を行う！腕を磨き、知識を積んできたことをここで発揮するのだ!!ライダーとしてオトモンの生態、習性、その他諸々事を知らなければならぬ!!まずは筆記試験から行うぞ!!」

アユリア「今からマークシートをお配りしますので問題の答えをこちらに記入してください。時間は120分、焦らず頑張ってくださいね」

弥生「…」チラッ

団長「…」弥生ちゃん頑張れ!とジエスチャーしてる

弥生「…」グッ!

教官「うむ、全部渡ったようだな。これより筆記試験を始めるんだ!!…あつ、名前の記入を忘れるでないぞー!!」

カリカリカリ…

弥生(皆、すごい書いてる…私も頑張らなくちゃ!)

おまけ

問25・ 獣竜種の生態の中で不適当なものを答えよ

①ウラガンキンは幼体時は草食性のため、消化効率は悪く体に溜まった可燃ガスを排出しなければならぬ。

②イビルジョーは死亡後、強酸性の唾液と胃液により体内の腐敗が進み悪臭を漂わせる。

③ボルボロスは昆虫を主食とし、特にランゴスタを食べる。

④ブラキディオスは粘菌と共生しており、唾液には活性化させ爆発させる成分がある。

問102・ イヤンクツクの飼育管理について、不適当なものを答えよ

①イヤンクツクは温暖の地に生息するため、冬場、寒い場所では鱗が痛みやすいので気を付ける事。

②イヤンクツクの耳は発達しており、至近距離での大きな音に驚かないので雷雨時は屋外に放してもよい。

③イヤンクツクの好物はクンチュウだが、与えすぎると太るので与えすぎではならぬ。

④ イヤンクツクの雌は繁殖期になると腹部に羽毛が生え、卵を包んで温めるので繁殖時の手入れは控えめにする。

教官「終了である!! 受験者はペンを置くのだ!!」

ハンターA「うひー!! すっげえむずいんですけどー!!」

ハンターF「ま、まだだ…次の実技で汚名挽回するぜ!!」

アユリア「それでは次に実技試験を行いますので受験者の皆さまは訓練場へ移動してください」

弥生「…ふう…な、なんとかできた…」

団長「よーし!! 弥生ちゃん、頑張ってるな! その調子だぞ!!」ハツハツハ

弥生「団長、ありがとうございます…実技も頑張ります」

提督「そろそろ、実技の時間だな…」

アーロ「俺達も見学しに行こうか」

北上「え、私達も見れるの!!」

皐月「だったら弥生を応援しに行こうよ!!」

霞「余計緊張しないかしら…」

ドタドタ

提督「うん？なんか騒がしいな…？」

ギルドの人A「な、なあ!! 今日ハンターが捕獲した『ライゼクス』が来るはずなんだが見なかったか!？」

ギルドの人B「いや？見なかったぞ？」

ギルドの人C「まてよ…確か今朝、資格試験用に運ばれていたのがいたな…珍しく部位破壊されてない奴で…」

ギルドの人A「そ、そいつだよ!! 本土で目撃された『獰猛化個体』のライゼクスなんだ!!」

ギルドの人B&C「うええええっ!？」

アール「…提督、これやばない？」

提督「…ちよつと急ぐぞ!!」ダツ

90 ライダー3級試験!! 後編

i n 訓練場

教官「次に実技試験を行う！知識と技術も大事だが、なによりオトモンとの絆が重要だ！ライダーたるものそれを心掛けねば意味がない!!」

団長「それでは試験番号を呼ばれた者から前へ。モンスター在所へ行き、スキンシツプ、ライド、移動をしてくれ」

弥生「…」ドキドキ

数分後

団長「では…148番、187番、67番、93番!!前へ！」

弥生「!!」ビクッ

団長「…弥生ちゃん、クロード達の事を思い出して、頑張るんだぞ」小聲

弥生「は、はい…えっと、オトモンは…」

リオレウス「(へへ)」ジロリ

弥生(ひ、飛竜種…!?)ビクッ

リオレウス「(、へ、)」グルル…

弥生「赤い飛竜、リオレウス…た、確か…」

【アール『いいか？リオレウスってのは意外とプライドが高い。出会い頭にびびっちゃまったらしいは自分より下と見てしまう。落ち着いて、敵意を見せずに近づけ』

【提督『レウスはレイアとスキンシップを取るときは顎を撫で合う。まずは顎を撫でて頭、首へと優しく撫でるんだぞ』

弥生「勇気をもって近づいて…」

リオレウス「(、へ、)」ジー

弥生「優しく顎をなでる…」ナデリナデリ…

レウス「(、|、)」クルル…

弥生「…よしよし…」ナデナデ

レウス「(、ω、)」低く屈む

弥生「わ…え、えっと…乗っていいの？」

レウス「(、ω、)」ジーッ

弥生「の、乗るよ？」ライド

レウス「(、ω、)」(、)ズンズン

弥生「わわっ、た、手綱をとって…」クイッ

レウス「() () () () () ()」ダッダッダッ

弥生「わわわっ」アタフタ

レウス「() () () () () ()」バサッ

弥生「と、飛ぶの!? ええっと、手綱をしっかり握って、こうっ!!」グイッ

レウス「三() () () () () ()」ブーン

弥生「す、すごい!! 飛んでる…!!」キラキラ

団長「おお、初めての飛竜種なのにうまくいってるではないか!」ウンウン
アユリア「弥生ちゃん、その調子よ!」

ハンターK「あ、あの子やるな…ヨシ! 俺だって…あれ?」

ライゼクス「() () () () () ()」グルルル…

ハンターK「な、なんか怒ってね…?」

提督「いた! おーいアユリアちゃん!!」

アユリア「ふえっ!? く、クロードさん!? どうしてここに!?!」

アール「俺もいるぞ!!」

アユリア「あ、アールさんも!」

提督「こ、ここにライゼクスがいないか!」

アユリア「い、今、試験に出ている子がいますか…」

アール「そいつはやばい!!あのライゼクスは『獰猛化個体』だ!!」

アユリア「えっ!?!」

ライゼクス「C(、皿、#)」左翼叩き付け

ハンターK「あ、えええっ!?!」(； 皿、(三)

教官「むむっ!?!あのライゼクス…もしや獰猛化か…!?!」

ライゼクス「(、皿、#)」キシヤアアアアツ!!

団長「いかん!ライゼクスが暴れ出したぞ!!避難するんだ!!」

教官「試験官はオトモンを安全なところへ!!」

提督「団長、俺達も手伝うぞ!!」ダツ

アール「おらー!!オトモンはこっちにこーい!!」笛を吹く

北上「ほかの人たちはこっちに!!」

臯月「みんなー!!こっちだよー!!」ノシ

霞「グズグズしてると危ないわよ!!」

ライゼクス「(＃、皿) 三〇」雷球プレス

教官「むううん!! 随分とお怒りだな!」片手剣ガード

ライゼクス「三(＃、皿) 突進

教官「おおっと!」ブレイブ回避

ライゼクス「＼(、皿、＃)」翼切り裂き攻撃

教官「はっはっは!! まだまだ現役だぞ!!」絶対回避

アユリア「ヒョウガ!!」ピーツ

ベリオロス「(、ω) 三」飛んできてアユリアを乗せる

アユリア「教官、団長さん!! 私とヒョウガでライゼクスを止めます!!」

教官「気を付けるのだぞ!! あのライゼクスは凶悪性を増している!」

アユリア「はい! いくよ、ヒョウガ!!」

ヒョウガ「(、ω) 三」ライゼクスに突進

ライゼクス「Σ(＃、皿) 怯み

弥生「あわわ…わ、私も避難しなくちゃ…!!」

レウス「(、へ) …」

弥生「え、どうしたの…?」

レウス「(、へ、)」ジー
 弥生「も、もしかして…」

ライゼクス「(#、皿、)つ」右翼叩き付け
 アユリア「ヒヨウガ、避けて!!」

ヒヨウガ「三(、ω、)」ステップで回避
 アユリア「えいつ!!」三【麻痺投げナイフ】

ライゼクス「(#、皿、)」角を振る

ヒヨウガ「○三(、ω、)」避けて氷弾ブレス

ライゼクス「(#、皿、)」(「飛び上がって避ける

ヒヨウガ「(、ω、)三」ダツシユ

ライゼクス「(#、皿、)三三」四方向雷柱ブレス

アユリア「ヒヨウガ、こつちよ!」グイッ

ヒヨウガ「(、ω、)」ステップで回避

アユリア「中々厄介ね…」

ライゼクス「(#、皿、)三三」尻尾から雷ビーム

ヒヨウガ「Σ(、ω、;)」慌てて避ける

アユリア「いけない…っ!!」

ライゼクス「三(＃、皿、)」低空飛行突撃

ヒヨウガ「Σ(、ω、;)」当たって転ぶ

アユリア「きやあっ!」転がり落ちる

ライゼクス「(＃、皿、)」翼と鋏尾で押さええてマウントポジション、喉に噛みつこうとする

ヒヨウガ「(、皿、)」ジタバタ

アユリア「ヒヨウガっ!!このっ…!!」片手ナイフを抜く

ヒューン… 三●

ライゼクス「Σ(、皿、;)」怯み

アユリア「今の火球ブレスは…」

レウス「三(＃、皿、)」強襲キック

ライゼクス「(、皿、;)」怯んで離れる

弥生「アユリアさん!!大丈夫ですか!」

アユリア「や、弥生ちゃん!?どうしてここに!?ここは危ないわよ!」

弥生「この子があのライゼクスを止めたいって言ってるんです」

レウス「(＃、皿、)」グルルル…

弥生「それに、皆さんを守るのも、艦娘として…ライダーとして大事なことですから」
アユリア「弥生ちゃん…」

アール「いいぞ弥生!! その意気だ!」ダッ

弥生&アユリア「アールさん!」

アール「訓練用のチャージアックスだが…俺達がついてる!! 一緒に戦うぞ!!」

弥生「はい!」

レウス「(＃、㇗、㇗)」グオオ!!

アユリア「…弥生ちゃん、ライゼクスは角、両翼、鋏尾に電気を溜めて強力な攻撃をしてくるの。そこを攻撃して漏電させれば大きく怯むわ」

弥生「わかりました。行くよ…!!」グイッ

レウス「三(＃、㇗、㇗)」飛行

ライゼクス「C(、皿、＃)」翼叩き付け

アール「やらせるかよ!!」盾で防ぐ

レウス「三(＃、㇗、㇗)」キック

ライゼクス「(、皿、；)」怯み

弥生「レウス、いいよ…!!」

ライゼクス「三(、皿、＃)」鋏尾を弥生に向ける

弥生「!？」

アユリア「ヒョウガ!!」

ヒョウガ「(、ω)(三〇」氷弾プレス

ライゼクス「(；皿)」怯み

アール「よし、いいぞ!!」

ライゼクス「(皿#)」空を飛ぶ

アール「あいつ、空へ逃げる気だ!!」

弥生「追いかけます!!絶対に逃がさない!!」グイツ

レウス「(三〇(、皿)」バサッ

アール「いいか弥生、空中戦はあいつの尻尾と噛みつきに気をつけろよ!!」

弥生「はい!」

アユリア「私も行きます!!」

ヒョウガ「(三〇(、ω)」バサッ

アール「：俺も連れてってよ!？」Σ(；皿)

ライゼクス「Σ(皿#)」

弥生「見つけた…!!」

レウス「(、皿)」三〇」火球プレス

ライゼクス「C(、皿、#)」避けて鉄尾攻撃

アユリア「やらせはしないわ!!」

ヒヨウガ「(、ω、#)三」タツクル

ライゼクス「(；皿、)」怯み

ヒヨウガ「○三(、ω、)」氷弾プレス

ライゼクス「三(、皿、)三」強力放電攻撃

ヒヨウガ&レウス「(；皿、)」怯み

アユリア「くうっ…!!」

弥生「っ…!!…弥生を怒らせたね…!!」ムッ

レウス「C(、皿、)C」吠える

弥生「うん…!!一緒に行くよ…!!」

ライゼクス「三(、皿、#)」雷プレス

レウス「C(、皿、)C」避けてさらに高く飛ぶ

弥生「第30駆逐隊を、なめないで…!!」

レウス「三(、皿、)」ライゼクスめがけて急降下

アユリア「あれって…絆技!？」

レウス「三(、皿、)」炎を纏ったような強烈な足蹴

ライゼクス「 \lfloor 」 \rfloor ； \square 、 \circ …」ガッ

レウス「三（#、 \square 、 \circ ）」そのまま急降下

ズズウウンツ！！

アーロ「おおっ!?!」ビクッ

弥生「アーロさん…やりました」フンス

レウス「（、 \square 、 \circ ）」雄叫び

ライゼクス「（； \times 皿 \times ）」気絶

アーロ「おま、ちよ、すげえじゃんか！」キラキラ

皐月「弥生、すっごくかっこいいよ!!」キラキラ

弥生「え、えへへ…」テレテレ

団長「はっはっは!! 実にやるじゃないか!」

提督「弥生、よく頑張ったな」

アユリア「弥生ちゃん!! やったね!」ウインク

弥生「アユリアさん…」照れ笑い

提督「いやはや、ライゼクスの一件で試験が一日またぎになるなんてなー」

アユリア「仕方ないですよ。後片付けだけでなく、我先にライゼクスを止めようとハ

ンターさん達が一斉に駆けつけて来たのを止めたり、オトモンを落ち着かせたりと、大変でしたもの」ニガワライ

アール「おかげで久々のギルド飯にありつけたけどな！」

北上「は、ハンターってあんな量の料理を一人で平らげるんだ…」

皐月「ぼ、僕、あれでお腹一杯になっちゃったよ…」

霞「ほんつと、ハンターて人離れしてるわ…」

アユリア「それにしても、弥生ちゃんの先生がクロードさんだったなんて驚きました」

アール「俺も教えたんだからな！」

皐月「司令官はアユリアさんと何処であつたの？」

提督「そうだな…俺とアールに初めて会つたのは凍土だっけか？」

アユリア「はい。確か私がヒヨウガと探索していた時、クロードさんとアールさんが鳥竜骨と鳴き袋で作った笛を使ってドスバギイとバギイの群れと一緒に凍土を走つたのに出くわしましたね」

霞「」

北上「提督達、はっちゃけてるねー」

アユリア「あの時はビックリしましたよー」ウフフ

アール「いやー、あれは楽しかったな」

弥生「…」トボトボ

皐月「あ、弥生!! おかえり!!」

霞「どうだった? 合格発表があつたみたいだけど…」

弥生「…」シヨンボリ

北上「え…ま、まさか…」

弥生「…受験番号、載つてなかつた…」

皐月「ええっ!?!」

霞「弥生が活躍したのに、そんなのありえないわ!!」

北上「提督、直談判しに行こうよ!!」

提督「あー…それな。弥生、ちよつと来てくれないか」

弥生「??」クビカシゲ

in 本部屋

弥生「こ、ここは…?」

提督「ここはギルド本部長や王立古生物書士隊、学院や龍歴院が集つたり、会議を

したりする所だ」

霞「す、すごい所なのね…」

アユリア「実は私もここに入るのは初めて…」

団長「うむ、弥生ちゃん。お待たせしたな」

弥生「だ、団長さん…!？」

アール「団長はな、学術院の書記官っていうすごい人でもあるんだぜ」

臯月「そうなの!? 団長さんってやつぱりすごいや!!」

団長「弥生ちゃんをここに呼んだのは、昨日のライゼクスをリオレウスと共に止めた件でな…」

弥生「…:」ゴクリ

団長「昨日、クロードと教官とギルド本部長とじっくり話し合って決めたんだ」

弥生「…」

団長「君の実力と、オトモンとの絆、そしてその二つを持って困難に打ち勝ったこと。君をライダー3級にするのは勿体ない。我々は君を正式なライダーと受け入れようと思うのだ」

弥生「ほ、ほんとですか!？」

団長「君さえ良ければなのだが…:どうかかな?」

弥生「え、えつと…:」チラツ

提督「弥生、お前は胸を張っていいんだぞ」

アユリア「弥生ちゃん、貴女の気持ちとオトモンを想う心と絆、誰よりも強く逞しかつ

たわよ」

弥生「…わ、私でいいのなら…よ、喜んで」ペコリ

団長「うむ！良かった…!! 君にはこれを。ライダーの印だ」つライダーバッチ

アーロ「やったな弥生!!」

アユリア「おめでとう、弥生ちゃん!!」

弥生「みんな…あ、ありがとうございます」ニッコリ

inギルド本部前

弥生「…アユリアさん…私、今度は一人前のライダーになれるよう、頑張ります」

アユリア「頑張つてね弥生ちゃん。いつか一緒に冒険しましょ！」握手

ヒヨウガ「(´ω´)」尻尾を振る

弥生「団長さん…『我らの団』に入りたい、です」

皐月「」

アーロ「フア!?!」

弥生「で、でももう少し待ってくれませんか？」アセアセ

団長「はっはっは!! 『我らの団』はいつでも歓迎するぞ!!」

提督「弥生、俺達がいつでも冒険してきたように…お前もいつでも冒険していいんだ

アユリア「弥生ちゃん、頑張つてね！私、応援してから!!」

弥生「はい！アユリアさん、団長さん：本当にありがとうございました！」ノシ

団長「はっはっは!!クロード、アーク!!皆よろしく言つといてくれ!!」

提督「団長もお気を付けてー!!また鎮守府に遊びに来てくださいねー!!」ノシ

アーク「アユリアちゃんも来てくれよなー!!」ノシ

inバス停

アーク「よかつたな弥生」ナデナデ

弥生「はい：!!」キラキラ

皐月「ねえねえ、この子の名前は何にするの？」

レウス「(ωω) (((ズンズン

弥生「：コタロウ」

レウス「Σ(。D。;)」

皐月「なんだか柴犬みたいでカワイイね！」

弥生「コタロウ、よろしくね：」ナデナデ

レウス「(ωω;)」クルル：

提督「さて、皆も待っている事だろうしそろそろ鎮守府へ帰ろうか!!」

霞「ところで司令官。コタロウはバスにも乗れないし汽車に乗れないし、どうするの

？」

全員「あ」

霞「……」ジト

提督「……ふ、船に乗って帰ろうか」(；ω；)

● ウイル頑張る、『襲来』

ウイル「……」シヨボーン

レ級「ウイル、元氣ガナイナ」

防空棲姫「仕方ナイワヨ。アトモウ少シデ達成デキテタノニ、肝心ナコトヲ忘レテタ
ンダカラ」

戦艦水鬼「フン、ヤハリあいつに頼ルノハ間違イデハナイノカ？」

戦艦棲姫「ウフフ、ドウカシラネエ。絶対ニ諦メナイヨウニ見エルシ……」

ホツポ「ウイル!! 空き瓶ヲ集メテ来タヨ!!」

ヲ級「ヲツ!!」(〓。ω。)ノ

ウイル「お、いっぱい持ってきてくれたんだな。ありがとよ」ナデナデ

空母棲姫「コンナニ瓶を集メテドウスルノダ？」

ウイル「ふっふっふ、俺はただで折れない男。あの手この手で絶対にギルド本部に送
り届けてやる！」

ホツポ「頑張ルゾー!!」フンス

ヲ級「!(^^)！」フンス

戦艦棲姫「ネ？ウィルは諦メナイ人ナンダカラ」ニコニコ
戦艦水鬼「…：フン」

作戦①

ウィル「まずは空き瓶に紙を入れる!!」

ホツポ「この紙ニハ何が書カレテルノ？」

ウィル「これには拾ったものはギルド本部に届けてほしいっていう内容とこの島の座標、そして俺の名前が書かれている」

防空棲姫「コレヲ拾ってギルド本部トヤラニ届ケバ：来テクレル可能性ガアルノネ」

ウィル「その通り。一つだけじゃなくて沢山あれば更に可能性大だぜ!!」

ホツポ「ウィル！瓶ニ栓ヲシタヨ！」

ウィル「よし。それじゃあ海に投げるぞ!! うりやあつ!!」 つ三【瓶】

ホツポ「エイイ!!」 つ三【瓶】

防空棲姫「ナンダカ面白ソウネ。私モ投ゲヨウカシラ？」

ウィル「おっしやあ!! どんどん投げてくれ!!」

〈数日後〉

ウィル「むーん…」 砂浜で体育座り

ホツポ「コナイネ…」 砂浜で体育座り

防空棲姫「ズットココデ待ッテタノ!」（；。ㇿ。）

ウイル「あ、焦ることは無いぞホツポ…まだ漂流中に違いない。果報は寝て待てとい
うし、じつくり待とう」

ホツポ「ウン!ガンバル!!」（ゝ・ω・ゝ）

軽巡棲姫「ネエネエ、見テ見テ!!辺りを遊泳シテタラ手紙ノ入ツタ瓶ガ流レテタノ!!」
キヤツキヤ

港湾棲姫「ソソナニタクサン…?」

軽巡棲姫「ソウヨ!私へのラブレターかしら?それとも私へのファンレターかしら
!」ウキウキ

南方棲姫「イヤ、ソソナニ沢山あるのだから違ウンジャナイ?」

ウイル&ホツポ「」

防空棲姫「…えーと、うん、ドンマイ…」

作戦②

ウイル「やっぱ瓶はあかんかったな」ウンウン

ホツポ「アカンカッタナ」ウンウン

レ級「で、今度ハドウスルノ?」

ウイル「今度はこれ!!木船だー!!」小さい木の船

ホツポ「ウィルと私デ作ツタンダヨ!!」フンス

防空棲姫「コンナ玩具ミタイナ船デ大丈夫ナノ?」

ウィル「心配ご無用!ふたを開ければあーら不思議!!紙が濡れないようにコンパクトに入れるスペースがあるじゃないか!」

ホツポ「ワーオ、コレハ便利!」

レ級「ナンカ通販ノ番組ミタイニナツテル!」

防空棲姫「それでいくらの…?」

レ級「!?」Σ(; 旦、)

ウィル「何と今ならry」

レ級「通販ヲシテナイデ早く浮かバセヨウヨ!」

ホツポ「ヨーシ、『ホツポ1号』出撃!」

ホツポ1号<ヨツシヤ!イツテクルゼ!! プカプカ

ホツポ「オー!!浮イタ!」キラキラ

防空棲姫「アレナラ、軽巡棲鬼ニ回収サレズニスムワネ」

レ級「イイ感じニ流レテルジャン」

ウィル「もうすぐ沖合に出るぞ」

潜水力級「ムツ！敵の潜水艦を発見！」
潜水ソ級「ダメだ!!ダメだ！」魚雷発射

ホツポ1号<グワーツ!? 爆発四散!!

ウイル&ホツポ「」

レ級「あ…潜水艦ガイルノ忘レテタ…」

防空棲姫「べ、別ノ方法ヲ考えマシヨ…」

作戦③

in 森林地帯

駆逐棲姫「ウイルさん、ドウシテ森へ来タンデスカ？」

ウイル「次は伝書鳩のように、手紙を届けれそうな鳥を捕まえるんだ」

ホツポ「鳥ナラ何デモイイノ？」キラキラ

ウイル「まあ…団長は鷹を使つてたし、筆頭ランサーさんもほかの鳥を使つてたしな…」

ホツポ「ヨシ、見ツケレルヨウ頑張る!!」フンス

（30分後）

駆逐棲姫 「コノ辺りニイマセンネ…」

ウィル 「む…：なかなか見つからないなー」 キヨロキヨロ

駆逐水鬼 「ウィル!! 鳥ヲ捕マエタゾ!」

ウィル 「お、どんなのだ?」

ガーグア 「(; ;)」 ガクブル

駆逐水鬼 「(. . .)」 ドヤア

ウィル 「う、うん…：鳥つちや鳥だけど…：それ飛べないからな」

駆逐水鬼 「な、ナン…：ダト…」

ヲ級 「ヲツヲツ!!」 (|| 。 ω) ノシ

駆逐棲姫 「ヲ級ちゃんガ何カヲ捕マエタヨウデスヨ?」

ブナハブラ 「(^ ω ^)」 ブーン

ウィル 「いや、それ…：鳥じゃなくて虫だからね…」

ヲ級 「ヲツ!」 Σ (。 D ;)

重巡棲姫 「ウィル!! 私モ見ツケタ!」 フンス

ウィル 「お、重巡棲姫も見つけたんだな?」

重巡棲姫 「コレ!!」

ウィル 「…え? こんがり肉?」

重巡棲姫「褒めて褒めて!!」キラキラ

ウイル「:あー、なるほどね。このこんがり肉は『鳥』肉だからなー。あっはっはっは:。つてやかましいわ!!」デコピン

重巡棲姫「アウツ!」Σ(; > ∩ <)

ウイル「やつぱり難しいのかなー:」

ホツポ「ウイルー!! スツゴイノ捕マエタヨー!!」

ウイル「おお。どんなの捕まえたんだ?」

ホツポ「今コツチニ向カツテキテルヨー!!」トタタタタ:

ドドドドド

ウイル「え?」

駆逐棲姫「ナンカ近ヅイテ来テマスネ:」

ヒブノツク「(、皿、#)三」ドドドドド

駆逐棲姫「」

ホツポ「ナンカカツコヨサソウデシヨ!!」フンス

ウイル「いや、あれはアカン奴!! 戻してきなさい!!」(; ∩ <)

駆逐水鬼「何やら強そうな鳥だな:」フツ

重巡棲姫「鶏肉!! 鳥肉!」(・ω・)
 ウィル「ちよ、やめてー!?!」

ウィル「…はあ…」

戦艦水鬼「フン、ヤハリお前達人間ノ力ハ無力ダ」

ウィル「え? 俺は竜人族だけど?」

戦艦水鬼「いや、ソウイウコトジヤナクテ…イクラヤツテモお前の力は無力ニスギナイノダ」

重巡棲姫「ソナナコトナイ!!」プンスカ

戦艦水鬼「なっ、重巡棲姫…!?!」

重巡棲姫「ウィルは私ノ為ニお肉焼イテクレル!」フンス

戦艦水鬼「ズコー」

戦艦棲姫「ウフフ、ウィルは深海棲艦と心を通しあい、あの子達を守ツテクレテ、今もこうして私達の為に頑張ってるのよ」

戦艦水鬼「むう…」

戦艦棲姫「ホッポもウィルの間近デ多クノ事ヲ見テ来タワ。無力デハナイト思ウケド?」

戦艦水鬼「し、しかし…コウモ行キ詰ッテイルデハナイカ。何か手ハアルノカ？」
 ウイル「うーん…俺がギルドまでいく手はあるが、ここを離れるわけにもいかないし
 …」

カッ

ウイル「な、なんだ？」

戦艦水鬼「海ノ向コウ…何かガ青ク光ツタゾ!?」

重巡棲姫「艦娘カ…!!」

戦艦棲姫「あそこには潜水艦達が…ヲ級!!艦載機ヲ飛バシテ!!」

ヲ級「ヲッ!!」艦載機発射

戦艦水鬼「チッ、遂に嗅ギ付ケテ来タノカ!?他の者ハ艤装ヲツケロ!!」

ホッポ「ウイル!!ナンドカスゴク光ツテタケド…!?!」

ウイル「ああ…でもあの光り方、電撃ほかったぞ…」

ヲ級「ヲっ!!ヲッ!!」。(。D。;))

戦艦棲姫「…潜水艦の子達が大破撃沈…艦隊の数ハ!?」

ヲ級「ヲッ…ヲッ!?!」Σ。(。D。; 三; 。D。)

戦艦水鬼「何だと!?艦娘も、潜水艦ノ影モ形モナカッタダト!?」

ヲ級「ヲっ!!」(；× ㄩ×)

重巡棲姫「ソノ代ワリ、デカイ何かガ物凄いスピードでコツチニ来テル…!？」

ウィル「デカイ何か…青い光、電撃…まさか…」

ホツポ「ウィル、何か知ツテルノ!？」

ウィル「おいヲ級ちゃん!それは『青』かったか? 『白』か『黒』か!？」

ヲ級「ヲ…!!」(； ㄩ、)

ウィル「えーと…なんて言ってるの?」

ホツポ『白』ダツテ

ウィル「マジか…黒じゃなくてよかったけども…」

戦艦水鬼「オイ、ソレハドワイウコトダ!？」

ウィル「いいか、ここは俺が何とかする。皆はどつか安全な所へ隠れるんだ」つエイ

ムOfマジック

戦艦棲姫「コノ島ニ来テイル正体ヲ知ツテイルノネ…?」

ウィル「ああ…あれは水中よりも陸に上がった方が断トツにヤバイ…!」

ヲ級「ヲッ!!」

ホツポ「モウスグコツチニ来ルツテ!!」

ラギアクルス亜種「(、皿、#)」グオオオオオオンツツ!!

戦艦水鬼&戦艦棲姫「(、皿)。。

ホツポ「スツゴイ真白ー!!」

ウイル「あれは陸地でも水中でも凶暴で『双界の覇者』とも呼ばれる海竜種、『白海竜』
ラギアクルス亜種だ…!!」

9 1 冬支度、中部海域へ

i n 執務室

提督「これは…なんだ？」

川内「これはこたつだよー」

利根「いよいよ寒くなつたからのう。これとストーブがあれば冬を乗り越えられるのじゃ！」フンス

提督「寒そうな格好しているからってツツコンだらダメだよね…」

愛宕「提督はこたつは初めてですか？」

提督「ああ、大抵ストーブだけだからな…布団がかかったちやぶ台だけで温かくなるのか？」

利根「ふつつつ、コンセントをつなげてスイッチをつければ温かくなるのじゃ！」ドヤツ

川内「ほら、提督も入ってみてよ。すぐにわかるよ」

「数分後」

霞「司令官、電報が届いてるわよ」ガチャリ

川内「あ、霞ちゃんお疲れー」ニコニコ

利根「ほれ、霞もこたつに入ったらどうじゃ？」

愛宕「ポカポカしてて温かいわよー」

霞「ちよ、あんた達なにこたつでだらけているのよ!？」

利根「そう硬くならず。ほれ、みかんもあるぞ？」ミカンモグモグ

霞「まったく…司令官に注意されても知らないわよ？」

提督「いやー、これは温かいな！」コタツでぬくぬく

霞「ズコー

提督「ほら、霞も温まりなよ」

霞「あ、あんたねえ…」呆れ

提督&川内&利根「ほれほれ」ニコニコ

愛宕「丁度4人で埋まつてるけどどこに入るのかしらねー」ウフフー

霞「あう…じゃ、じゃあ…司令官（ry）」

大淀「失礼します。提督、大本営からお手紙です」

霞「ズコー

提督「うん？どれどれ？元帥殿から…ふむふむ…」

川内「提督、どうかしたの？」

提督「……すまん、ちょっと出掛けなければならぬ。夕方か夜には帰って来る」ダッ

霞「……」シヨボーン

利根&川内「……」ジトー

大淀「え？えっ？」アセアセ

愛宕「まあ、仕方ないわよねー……」

in母港

弥生「艦隊、遠征から帰りました」

アーロ「おお、ご苦労さん！」ナデナデ

雪風「アーロさん！雪風も頑張りました!!」

アーロ「お前達もよく頑張ったな」ナデナデ

長波「いやー、実は道中で深海棲艦に出会ったけども……」

初霜「深海棲艦はコタロウちゃんを見て一目散に逃げ出したんです」

電「コタロウちゃんのおかげで戦闘にならなくてよかったです」ホッ

弥生「コタロウ、ありがとうね」ナデナデ

コタロウ「(´ω´*)クルル

アーロ「弥生も、うまく乗りこなしているじゃないか」ウンウン

島風「コタロー、はっやーい!!」

長波「あたしも乗ってみたいなー」

電「コタロウちゃんに乗ってる弥生ちゃん、かつこいいのです」

弥生「えへへ…」テレテレ

北上「アーロさん、あたしもかつこいいオトモン欲しいな〜」ニヤニヤ

アーロ「え、ちよ、飼育記録とか資料が増えるのだけど…」

大井「オラア!!北上さんがライダーになりたいっていつてんのよ!!ならせろやあ!!」

アーロ「そ、そんな理不尽な〜!?!」ヒエエツ

in 艦娘寮近くの空き倉庫

鈴谷「ほーら、ムラサキー。こっちにおいでー」

ムラサキ「♡♡(V)(o?o)(V)((」

曙「ベルさん、アルちゃんも連れて来たわよ」

アルセルタス「(、ω、)(」

衣笠「わお!!ここは温かいね!!」

ベル「ダイミヨウザザミ亜種もアルセルタスも寒さに弱いからね。冬場はこう温かい

場所ですごせば大丈夫だ」

衣笠「大きな生物のお世話も大変ねー」

鈴谷「でも温室にしてるからここは温かいし、寒い時はここにいれば楽だわー」

ベル「出撃や遠征とかさぼるんじゃないぞー」アハハ

ムラサキ「♪(V)(o?o)(V)♪」

曙「はやく臆が来ないかなー…ムラサキ見たら絶対喜びそうだし」

鈴谷「ところでベルさん…鹿島と最近どうなの？」ニヤニヤ

衣笠「お熱い仲なんですよー」ニヤニヤ

ベル「え、ちよ、なんだよー」テレテレ

鈴谷「青葉から聞いたんだけどー、マフラー貰ったんですよー？」ニヤニヤ

衣笠「ヒューヒュー！」

ベル「アオバエ…お、お。手編みのマフラーを貰ったんだ…」

鈴谷「それでそれで？ベルさんは何をプレゼントするのかしら？」ニヤニヤ

ベル「う…ネットワークスカ…それとも指輪かな…？」

鈴谷&衣笠「指輪!？」

ベル「やつぱそれがいいかなー」アハハ

鈴谷「あーもー!!ベルさん意外とやるじゃない!!」

衣笠「よっ!!色男ー!!」

曙「…ムラサキ、ベルさんにハイドロポンプ」

ムラサキ「(V)(*o?o)三三三」泡ブレス

ベル「ひでぶっ!」(三三)。3。)。…。

鈴谷&衣笠「ベルさーん!」

in中庭

ジン「…不知火、何か考え事か？」

不知火「…ぬい？あ、いえ。別に…」アセアセ

響「ジンさん、不知火は弥生がライダーになれて羨ましいんだよ」

不知火「ひ、響!!」アセアセ

ジン「そうか…不知火もライダーになりたいのか？」

不知火「えっと…」

響「不知火はジンさん達にみたいなハンターになりたいんじゃないのかな？」

不知火「ぬいっ!」

ジン「…ハンターか」ウーム

不知火「そ、そのつ、司令官達の様子を見ると…つい…」アセアセ

ジン「…ライダーもそうだがハンターになるのは実に厳しい。探索や冒険だけじゃなくて…危険なことも沢山ある。下手したら命を落とすことだってある」

不知火「そ、そうですよね…申し訳ありません。私なんかじゃ」

ジン「…もし、不知火がなりたいたいのなら…かなりの時間が掛かるが俺達が手伝ってや

るぞ」

不知火「え…いいのですか…!?」

ジン「目標や夢を持つことは艦娘だって誰だっていいことなんだ。遠慮するな」
不知火「…あ、ありがとうございます！」

響「ジンさん、私は司令官達や『我らの団』の皆と冒険したいな」

ジン「ああ…それもやってみたいな…」

天龍「…お、俺もハンターになってみたいなあ…」

阿武隈「あんたはやめときなさいって…」

in 演習場

アール「…」ジーツ

初月「う…」ジリッ

龍驤「初月、どうしたんや？」

足柄「急に身構えているけど…」

アール「…」ジーツ

初月「その…最近僕を見るや否いや撫でてくるんだ…」

アール「…」ジリッ

龍驤「なんだー、撫でてもらえるならいいやないかー」アハハ

初月「わ、悪くはないのは確かなんだけど…その、まるでワンコみたいで（ry）」

アール「お手」

初月「はい…あつ」ハッ

龍驤「…ワンコやな」

初月「あ、アールさん、撫でる前にこれをするのはやめ（ry）」

アール「おかわり」

初月「あうう…」スッ

アール「おーよしよしよしよし」ナデナデナデ

初月「わ、わふう…」テレテレ

龍驤「アールさん、初月を気に入っているようやなー」ニヤニヤ

アール「いやー、ワンコみたいで可愛らしいから、つい撫でちゃうんだよなー」

足柄「アールさん、私は私は？私もワンコみたいでしょ？」キラキラ

アール「狼」キリッ

足柄「せいやあああつ!!」コブラツイスト

アール「あゝあゝあゝあゝっ!？」

龍驤「完全に狼やな…」

初月「アワワ

in 商店街の喫茶店

提督「…元帥殿、まさか来てくださるのなら直接そちらへ伺っていただきましたのに…」

元帥「あははは、一度君の鎮守府やその街に行ってみたかったんだよ」

提督「お手紙を拝見いたしました。その重要なお話しとは…」

元帥「南方海域は実にご苦労だった。クロード君、次は中部海域へと進出するようだね…」

提督「ええ、いよいよ次なる海域へと進撃するつもりです」

元帥「…その件で君に知らせるべきことがあるんだ…」

提督「頼みですか？」クビカシゲ

元帥「今作戦、中部海域に全艦隊を出撃させる大規模作戦、所謂イベント海域を行う」

提督「大規模作戦…唐突ですね…」

元帥「うむ…唐突なのでまだ全鎮守府に伝えていない。まだ分からないことがあるの
でな…」

提督「分からないこと…?」

元帥「君は中枢棲姫を聞いたことがあるかね?」

提督「え、ええ…話だけです、深海棲艦が現れた場所、深海中枢海域『中枢地区』にいたと言われる深海棲艦。そして全海域に深海棲艦が出現した原因でもある…ですがその中枢棲姫は遙か昔に撃破されたと聞いてます」

元帥「その通り、中枢棲姫は遙か昔、先代の提督達の力によって撃破されたのだが…その中枢棲姫がいたと言われる深海棲艦の始まりの場所、『中枢地区』で奇妙なことが起きているらしいのだ…」

提督「奇妙なこと…?」

元帥「一部鎮守府の艦隊に深海棲艦の動向を調査すべく遠征を行っていたのだが…深海中枢海域で遠方からだ…ある物を目撃したんだ」

提督「それは…」

元帥「今までに見たことのない超弩級の大きさを誇る深海棲艦だ」

提督「超弩級!? そ、その大きさは…!」

元帥「詳しい姿を見ることもできず、どれくらいの大きさかは図ることはできなかつたが、ありとあらゆる砲台や艦装を付け、姫や鬼級でもなく、どの艦クラスにも属さない成りをしていたという」

提督「そ、そんな深海棲艦がいるのですか…!」

元帥「深海棲艦には色々な者がいるが私も初めて見る…もしかしたらあれが深海棲艦

のブレーンかもしれない……だから我々はあれを倒すべく、大規模作戦を実施することにした。それで、君たちにも是非参加してほしいのだ」

提督「……わ、わかりました……お力になれるよう、尽力します」

元帥「ありがとう。もしその戦いで少しでも海に平穏が取り戻すことができれば……クロード君、君には本当に感謝するよ」

in 執務室

提督「……ふう、つい長く話していたらすっかり夜になってしまったよ……おや？」

霞「Zzz」スヤスヤ

提督「おやおや、こたつに入っすっかり寝ちゃっているな。霞、風邪ひくぞー」

霞「……ムニヤムニヤ……しれーかん……うふふ……」寝言

提督「……」

霞「Zzz」（☒☒☒）スヤア

提督「……」そつと毛布を掛けてあげる

霞「（☒☒☒）スヤア」

提督「……いつもありがとうな、霞」ナデナデ

青葉「ふっふっふー…いい一枚が撮れましたよー」ニヤニヤ

アーロ「青葉さん、焼き増しお願いします」

金剛「Nice、青葉。私にもお願いしますーす！」

青葉「ええもちろん。おひとり一枚500円で…」

龍田「うふふふ、のぞき見してる悪い子は閉まつちやわないとねー」ウフフー
アーロ&青葉&金剛「ひいつ!？」

●海の荒くれ者 ラギアクルス亜種、 ウイルの願い

ウイル「ここは俺に任せとけー!!」ダッ

戦艦水鬼「ふ、フン!! アンナ白い蜥蜴グライ…!!」

ウイル「ダメだ!! あいつは陸地にいる時がいつちばんヤバイんだ!!」

戦艦水鬼「人間風情が!! 指図ヲスルナ!!」

ウイル「まずい、止めなきや…!!」

駆逐棲姫「ウイルさん!! 他ノ皆サンヲ避難サセテオキマス!!」

戦艦棲姫「ウイル…貴方一人であれを相手するの…?」

ウイル「ハンターの俺がなんとかしなきやいけないからな!!」ダッ

ラギア亜種「(皿)」咆哮

戦艦水鬼「コノ喧しい蜥蜴ガ…!! 沈メツ!!」

20inch連装砲さんくウオラー!! ドドーン!!

ラギア亜種「Σ(皿)」被弾

戦艦水鬼「ドウダ!!」

ラギア亜種「(皿) #」激昂

戦艦水鬼「ナニ…!?効イテイナイダト…!?」

ラギア亜種「●三(、皿、#)」拵散雷プレス

戦艦水鬼「グウウツ!?!」

20inch連装砲さんくシビレバビデブー!?!

ラギア亜種「(、皿、#)(「噛みつき攻撃

戦艦水鬼「クウツ!!コレハマズイ…!!」

ウイル「乗り攻撃じゃああつ!!」ジャンプ攻撃

ラギア亜種「Σ(、皿、#)」ジタバタ

ウイル「こんにやろつ!!あんたは早く離れる!!」ザクザクツ

ホツポ「水鬼!早くコツチニ!!」グイグイ

戦艦水鬼「シ、シカシ…!!」

戦艦棲姫「ホラ!意地ヲ張ラナイノ!!」グイツ

ウイル「オラオラオラアアオラオラオラオラーつ!!」ザクザクザクツ

ラギア亜種「(、皿、;)」ダウン

ウイル「よっしや!!猟虫ちゃん、エキスを頼んだぜ!!」

猟虫<S・H・I・T ブーン 三〇

ウイル「今のうちに攻撃だつ!!」斬り払い

ラギア亜種「(皿 #)三」タツクル

ウイル「よつと！」イナシ

猟虫くエキストツタヨー ブーン

ウイル「黄色か：あと2色！オラー!!」抜刀攻撃

ラギア亜種「●三(皿 #)」雷球ブレス

ウイル「おぶねっ!？」イナシ

ラギア亜種「●三(皿 #)」雷球ブレス2発目

ウイル「うおっ!?!連続攻撃かよおっ!？」ダツシユ

ラギア亜種「●三(皿 #)」雷球ブレス3発目

ウイル「ヒエエツ!？」ジャンプして回避

ラギア亜種「(皿 #)三」電気を纏って突進

ウイル「ブベラっ!?!」..ε。()

ラギア亜種「(皿 #)()」のしかり攻撃

猟虫く仕方ネエご主人ダゼー！ ラギア亜種にアタック

ラギア亜種「Σ(#、皿 #)」

ウイル「いつてえー…痛てえぞこの野郎!!」斬りかかり

ラギア亜種「(皿 #)」噛みつき

「ウイルス「よつと！お返しだ!!」イナシからの抜刀攻撃
ラギア亜種「(、皿、;)」怯み

「猟虫<エキストツタドー！ ブーン

ウイルス「白か…あと1色！どんどんいくぜ!!」

ラギア亜種「(、皿、#)」力を溜めている

ウイルス「げえっ!?これはまさか…!!」

ラギア亜種「\、(、皿、#) /」放電攻撃

ウイルス「あぶねええっ!?」緊急回避

ラギア亜種「(、皿、#)」一段階蓄電

ウイルス「やばいな…もう一段階蓄電された時の放電はやばい…!!」

戦艦水鬼「(、(、皿、#)」

戦艦棲姫「あれがウイルスの戦い方…ソレヨリモ、あのラギアとかいう蜥蜴、カナリ凶暴ネ」

防空棲姫「あれは蜥蜴ジャナイワ。『竜』ッテ呼バレイルワヨ」

空母棲姫「以前出会った銀色の竜といい、世ノ中ニハ物騒な生き物ガ沢山イルノネ…」

ホッポ「お姉ちゃん！コレトコレヲ磨リ潰シテ!!」

港湾棲姫「えっと…キノコと草ヲ？」アセアセ

駆逐棲姫「ホッポちやん!! 蜘蛛の巣とツタの葉ヲ沢山取ツテ来タヨ!!」

ホッポ「ソレヲ上手く組ミ合ワセテ!」

戦艦棲姫「ホッポ? 何ヤツテルノ?」

ホッポ「調合!!」フランス

戦艦水鬼「チョーゴー…?」

ホッポ「ウィルに教エテモラッタ! ニトロダケと火薬草で爆薬がデキル!!」フランス

空母棲姫「キノコと草でナンデ爆薬がデキルノヨ!」

駆逐棲姫「ホッポちやん! ネットがデキタヨ!」

戦艦水鬼「はやっ!」

ホッポ「昨日ウィルが拾ったトラップツールを組ミ合ワセレバ…」

戦艦棲姫「ホッポ…まさかウィルと一緒に戦ウツモリナノ?」

ホッポ「ウィルを助ケナキヤ!!」

ラギア亜種「●三(、皿、#)」雷拡散プレス

ウィル「あぶねええっ!」イナシ

ラギア亜種「(、皿、#)三」シヨルダータツクル

ウイル「おぶっ!?」受け身

猟虫へコツチヲミロー! ブーン

ラギア亜種「(#、皿、) >」尻尾で払う

猟虫くアブネツ ブーン

ウイル「赤エキスが欲しいけど…意地でもやってやる!」ジャンプ攻撃

ラギア亜種「(、皿、#)」横噛みつき攻撃

ウイル「避けてからの…カウンターじゃい!!」イナシからの抜刀攻撃

ラギア亜種「(、皿、.)」怯み

ウイル「しやあ!! どんなもんじゃい!!」連続攻撃

ガキーン

ウイル「あ、切れ味が落ちてる…砥石で研がなきゃ…」

アイテム欄く砥石ナンテネーヨ

ウイル「…砥石忘れたー!?」ガーン

ラギア亜種「(、皿、#)」力を溜めている

ウイル「ちよ、ちよつと待って!」

ラギア亜種「\、皿、#) /」放電攻撃

ウイル「あびやーっ!?」三(、.;、ω、)…:

ラギア亜種「(#、皿)」二段階蓄電

ウイル「ま、まずい…次に放電されたら一溜まりもねえ…」

ラギア亜種「(#、皿) 三二●」雷球プレス

ウイル「か、回復させてー!!」三(； 皿、) つ回復薬

ヴェアアアアツ!

ウイル「うん…?」

重巡棲姫「ヴェアアアアツ!!」砲撃

ラギア亜種「Σ(；； 皿、)」被弾

ウイル「重巡棲姫!?!」

重巡棲姫「ウイル、優シイカラ好き!ウイルを傷ツケル奴、許サナイ!!」プンスカ

ウイル「ここは危な…ってまたお腹から艦装が出る!?!」

重巡棲姫「ヴェアアアアアアアアアアアツ!!」(0 言 0、 #)

ウツボ型艦装くヴェアアアアアアアアアアツ!!

ウイル「ひえええっ!?!三つ揃うとティガよりうるせええっ!?!」(〇 ; 皿、) 〇

ラギア亜種「(、皿、;)」怯み

重巡棲姫「ニクラシャアアツ!!」砲撃

ウツボ型艦装くザツケンナオラー!!

ドドーン!!

ラギア亜種「(、皿、；)」怯み

ウイル「な、ナイス!! 助かったぜ…」ヒヤアセ

重巡棲姫「むん!!」エッヘン

ラギア亜種「(、皿、#)」力を溜めている

ウイル「あ!! こいつはやばい!!」重巡棲姫を姫抱っこして逃げる

重巡棲姫「ヴェアっ!？」

ラギア亜種「\、(、皿、#) /」大放電攻撃

ウイル「にげろー!!」(、；、皿、) 三

重巡棲姫「ビリビリが来テル!!」

ウイル「ま、間に合えー!!」猛ダツシユ

ラギア亜種「(、皿、#) 三」突進

ウイル「ちよ、お前も来るのかよ!？」ヒー

駆逐水鬼「ウイル、今助ケルゾ!!」高い所から飛び降りてジャンプ攻撃

ラギア亜種「Σ(、皿、；)」

駆逐水鬼「あわわわ…の、乗ッテシマッタ!？」ライド

ウイル「お、落ち着け! いいか、暴れたり咆哮している時はしがみ付け! 動きが弱かったり止まっている時にその艀装で殴りまくれ!」

駆逐水鬼「わ、ワカッタ！」

ラギア亜種「(、皿、#)」ジタバタ

ウィル「放すなよー!! しっかりしがみ付け!!」

駆逐水鬼「ワワワツッ:」アセアセ

ラギア亜種「(、皿、#)」威嚇

ウィル「今だ!! 殴りまくれ！」

駆逐水鬼「う、ウオオオツ!!」オラオラオラオラオラー!

ラギア亜種「(、皿、;)」ダウン

ウィル「しやあつ!! でかしたぞ!!」

猟虫くエクスゲツトダゼ!

ウィル「よっしやー!! パワーアツポオ!!」連続攻撃

重巡棲姫「ウィルが光ツテル!!」キラキラ

ホツポ「ウィルー!! これ使ッテー!!」つ落とし穴

ウィル「ホツポ!! それを作ったのか？」

ホツポ「これも作った！」フンス

ウィル「ちよ、大樽爆弾Gじゃねえか!？」

駆逐水鬼「それは凄いのか:？」

ウイル&ホツポ「その威力、G級」ドヤツ

駆逐水鬼「ヨクワラナイケド：凄インダナ！」

ウイル「よし、ホツポ。その落とし穴を仕掛けてくれ!!」

ホツポ「リョーカイ!!」ワツセワツセ

ウイル「俺達で誘き寄せるぞ!!」

駆逐水鬼「ヨシ、任せろ!!」

重巡棲姫「ヴェアツ!!」

ラギア亜種「(皿 #)」咆哮

ウイル「よつと、こつちだトカゲ野郎!!」イナシ

駆逐水鬼「い、今の咆哮、避ケレルノカ!？」

ラギア亜種「(皿 #)三」ドドドドドツ

ウイル「はっはっは!! かかったな阿呆が!!」

ラギア亜種「Σ(皿 #;)」落とし穴に嵌る

ウイル「よし、大樽爆弾Gを仕掛けるぞ!!」つ大樽爆弾G

ホツポ「もう一個!」つ大樽爆弾G

ウイル「みんな離れたか? 猟虫ちゃん、頼んだぞ!!」

猟虫<イクゼー!!

ドドーン!!

ラギア亜種「(、皿、;)」ダウン

ウイルス「いいぞいいぞ!! 攻めたてろー!!」

ラギア亜種「<(、皿、#)」尻尾攻撃

ウイルス「ぶべっ!?!」.. . (、ε。(三三

ドボン!

駆逐水鬼「ウイルスが海へ吹っ飛ンダー!?!」

ホッポ「すっごいホームラン!」

ウイルス「ブクブク…い、いきなりで焦ったぜ。早く上がらないと…」スイスイ

ドボン!!

ウイルス「エ?」

ラギア亜種「三(#、皿、)」

ウイルス「ちよ、こつちに来たー!?!」(、皿、;)

ラギア亜種「(#、皿、)三●」雷球プレス

ウイルス「あぶねっ!?!」回避

ラギア亜種「(#、皿、)三●」雷拡散プレス

ウイル「まずい!!これは避けきれない」

重巡棲姫「ウイル、こつち!!」手を掴んで潜行

ホツポ「間二合ツタ!!」

ウイル「お前ら!!つか速っ!?!」

ホツポ「深海棲艦ダカラ水中ナラ負けナイ!!」

重巡棲姫「これでもクラエ!!」魚雷発射!!

ウツボ型艦装＜敵潜水艦ヲ発見!!　魚雷発射!

ラギア亜種「＼(#、皿、)／」放電攻撃

ドドーン!!

重巡棲姫「ムウ、電撃デ誘爆:ムカツク!!」プンスカ

ウイル「力を溜めている所に撃てば放電を失敗させることができるんだが、ラギア亜

種の動作は早いからな:」

ホツポ「コツチニ来ルヨ!!」

ラギア亜種「三(#、皿、)」雷を纏って突進

重巡棲姫「ウイル、手ヲ離サナイデ!!」スイートツ!!

ウイル「ブボボ:は、はっやーい!?!」(シ、皿、)

ホツポ「ラギアもハヤーイ!!」

ラギア亜種「」(＃、皿)「三●」連続雷球プレス

重巡棲姫「ヨット！」連続回避

ウイル「」振り回される

ホツポ「重巡棲姫!! ウイルが顔真っ青!?!」アセアセ

ウイル「も、物凄い勢いで酸素ゲージががが…」顔真っ青

重巡棲姫「ゲージ?」

ウイル「は、早く水上に…溺れる…」(； 旦、)

重巡棲姫「大変!! 浮上シナキヤ!!」スイーツ!

ウイル「」

ホツポ「エイイ!!」ドドーン!!

ラギア亜種「Σ(＃、皿)」被弾

in 水上

重巡棲姫「とうちやく!!」ザバン

ホツポ「トウチャーク!!」

ウイル「ぶはっ!! た、助かったー!!」

重巡棲姫「アレ? アイツは?」キョロキョロ

ウイル「もう一回潜水して迎え撃つぞ……！」

ラギア亜種「三（#、皿、） 飛び上がる

ウイル「ちよ、マジか!？」

ホツポ「飛び掛ッテ来ル！」

ヒューン…… ●三 ●三

ラギア亜種「Σ（；、皿、） 怯み

ホツポ「スツゴイ爆発!!」

ウイル「あれは……対巨龍用の大砲の弾！もしかして……！」

重巡棲姫「ウイル!! 向コウニ船ガ!!」

ウイル「あれは……撃龍船!!」

ラギア亜種「（；、皿、） 怯み中

ホツポ「ウイル、今がチャンス！」

ウイル「え?ど、どうするんだ？」

ホツポ「一斉掃射の指示ヲ!!」

ウイル「お、おう!一斉掃射だー!!」

ホツポ「全砲門、撃てー!!」ドドーン!!

重巡棲姫「クラエー!!」

ウツボ型艦装くヴェアアアツ!! ドドーン!!

ラギア亜種「Σ(; × 皿 ×)」critical!!

ウイル「うおおっ!? すっげえ!!」

ラギア亜種「三(; × 皿 ×)」撃退!

ウイル「や、やったー!! 撃退したぞ!!」

ホツポ「ヤッター!!」

重巡棲姫「ウイル!! 船がコツチニ来る!」ガルルル

ウイル「大丈夫だ。あれは艦隊の船じゃない。ギルドの船だ」

ホツポ「モシカシテ瓶に入った手紙を見タノカナ?」

ウイル「うーむ…わからないな…」

重巡棲姫「ウイル、おんぶしてあげる」おんぶ

ウイル「ありがとな…」

ホツポ「船の前に止マツタヨ」

ウイル「…」

た通り、水上に立つ女の子までお目にかかるなんて驚いたよ」
 ???「この辺りを探索してたのだが…ラギア亜種だけじゃなくて、まさか団長が言つて

ウイル「あれ？この声は…」

???『艦娘』？ではなさそうだね…あれ？そこにいるのは…もしかしてウイル君かい？」

ホツポ「マツタリしたオジサンが出て来た！」

ウイル「」

重巡棲姫「ウイル、震エテイルケドドウシタノ？」

ウイル「お、お、お…お師匠さああああああん!？」

師匠「やっぱりウイル君じゃないか！無事だったんだね!!」ハツハツハ

ウイル「し、し、師匠!!どうしてここに!？」

師匠「ちよつとした探索だよ。そうだね、ここで話すのも何だし船に上がって話そう

か」ニコニコ

ウイル「そ、そうだ！話をするならいい所がありますよ!!」

師匠「???」

戦艦水鬼「無事ニ戻ツタト思ツタラ…船ヲ連レテクルワ、変な奴も連レテクルシ…何ナンダアイツハ」

空母棲姫「とか言ツチャツテ。本当は無事でウレシイ癖に」ニヤニヤ

戦艦水鬼「う、ウルサイ!!」

軽巡棲息「ネエネエ!あのオジサン、中々ダンディじゃん!もしかして私のファン:!!」

南方棲鬼「ソレハナイ」

師匠「ははは、なるほど。ウィル君はその深海棲艦と一緒に冒険をしていたんだね」
ウィル「この子達とは楽しい冒険をしましたよ」

師匠「なかなかどうして。勇敢で逞しい子達じゃないか」ウンウン

防空棲姫&駆逐水鬼&駆逐棲姫「エヘヘヘ:」テレテレ

ホッポ「ウィル、お師匠さんツテドンナ人ナノ?」

ウィル「ドンドルマを中心に活動してる防衛の達人だ。筆頭リーダーの師匠でな、街の人たちも『お師匠さん』って呼んでるからそう呼ばれている。俺が『我らの団』と一緒にいた頃、ドンドルマがクシャルダオラの襲撃に会った際に出会ったんだ。撃龍砲を作ったお人ですごいんだ!!」

師匠「懐かしいな。俺がドンドルマを去った後、ゴグマジオスの襲撃があったと聞いた時は焦ったよ。君たちのおかげで無事に街が守られたことは本当に感謝してる」

ホッポ「お師匠さんは凄い人ナンダネ!」キラキラ

戦艦棲姫「お師匠さん：私達深海棲艦を見て怖くはナイノデスカ？」

師匠「怖い？とんでもない。こうして話もできて、心を通しあえている。ウイル君が君たちを信じているように、俺も君たちを信じているよ」

戦艦棲姫「なるほど：愚問デシタネ」ウフフ

重巡棲姫「シショーさん!!これ貰ッテモイイノ？」キラキラ

師匠「ああ、構わないよ。各地で取り寄せたお酒に道具も。あと、ウイル君にはこれを」

ウイル「こ、こ、これは：：ハチミツじゃないですかー!!」キラキラ

師匠「もしウイル君に会えたら是非これを渡そうといつも用意をしていたんだ」ニコニコ

ウイル「お、お師匠さん!!ありがとうございます!あ、そ、そうだ!お師匠さん、頼みがあります」

師匠「うん?俺に頼みかい？」

ウイル「この資料を、ギルド本部か龍歴院：もしくは団長に渡してくれませんか？」

師匠「これは？」

ウイル「この島にはリオレウス希少種とリオレイア希少種の繁殖地があるんです。繁殖地になっている希少種の生態や観察を詳しく書いたものです」

師匠「なんと…!!これは大発見だね」

ホツポ「証拠の鱗や卵の殻モアルヨ!!」

ウイル「この島を保護区に登録したいんです…この島の生態やホツポや戦艦棲姫、この島にいる皆を守ってあげたいんです!」

師匠「…わかった。ウイル君の熱意と願い、確かに伝わった。この資料は必ず届けるよ」

ウイル「お師匠さん、本当にありがとうございます!」

師匠「よし、そうと来れば善は急げだ。急いで戻るとしよう」

ホツポ「もう帰っちゃウノ?」

重巡棲姫「こんがり肉モアルノニ…」

レ級「それ、ウイルがひたすら焼イタヤツデシヨ…」

師匠「ははは…ウイル君をよろしく頼んだよ。それじゃあ行ってくる!」

ホツポ「シショーさん!!また来テネー!!」ノシ

ウイル「お師匠さん!!ありがとうございます!!」ノシ

ホツポ「シショーさん、行っちゃッタネ…」

ウイル「そうだな…なあホツポ」

ホツポ「??」

ウイル「…提督、やってもいいぜ…?」

ホツポ「!!それほんと!」キラキラ

ウイル「で、でも仮だからな!まだ希少種の生態観察とか島の探索とか、冒険者の仕事を優先だからな!」テレツ

重巡棲姫「ワ〜イ!!」アタツク

ウイル「ブベラ!」

戦艦棲姫「ネ?ウイルに任せて大丈夫ダツタデシヨ?」ウフフ

戦艦水鬼「ふ、フン!!今回は運がヨカッタダケダ…!!」

9 2 中部海域進出!!

i n 執務室

大淀「提督、ついにここまで来ましたね！」

提督「ああ、中部海域へ攻略開始だ」

鹿島「最初は中部海域哨戒線、潜水艦作戦ですね」

ベル「潜水艦：あの子達の出番だね」

霞「潜水艦の子を3人以上上じやないと攻略はできないわ。潜水艦6名か、うまく組み合わせた編成じやないと」

提督「うむ：」 i n コタツ

霞「：司令官、考える前にコタツから出なさいよ」

提督「うむっ!!」 ミカンモグモグ

霞「だから寛いでいる場合じやないでしょー!!」 スパーン

ベル「まあまあ、コタツは初めて見るからねー」 i n コタツ

鹿島「うふふ、寒いですし仕方ありませんよね」 i n コタツ

霞「コラー!!」 フンガー

i n 演習場

ろーちゃん「アールさん、アールさん!! これを持っててくださいです!!」 つ浮き輪
アール「うん? 浮き輪? 何故に?」 クビカシゲ

イムヤ「あとは…あ! 那珂さん!! 手伝ってください!」

那珂「演習ですか? よーし、那珂ちゃんに任せて!!」 キラツ

ゴーヤ「アールちゃんも連れて来たデチ!!」

しおい「アールちゃん、こつちこつち!!」

アルセルタス「? (ω ’) (」

しおい「アールちゃん、アールさんの背中に…」

アール「お、おおっ?」

大井「あら? 今日の演習は張り切ってるわね」

龍田「そうね。そろそろ中部海域への攻略が始まりますからね」 ウフフ

曙「で、ゴーヤ達は何してんの?」

ゴーヤ「ふっふっふ、潜水艦隊の完成デチ!!」

ろーちゃん「見てください! 名付けて『潜水母艦アール』さんです!!」 エツヘン

アール「」 (. . .) 「浮き輪装備、背中にアルセルタス装着(?)」

曙「そんな水上艦いてたまるか」

那智「ふむ…艦載機の攻撃を躲す訓練だな！」

五十鈴「い、いや違うと思うんだけど…」

潮「あ、アールさん、いいのですか？」

アール「はっはっは。時にはこういった訓練も大事だろうしな！」

曙「いや、どういう訓練よ!？」

イムヤ「さあ演習開始よ!!」

大井「ふーん…アールさん、構わないのね」

龍田「ふーん…こういった訓練もいいわねー」

アール「…あれ?ふ、二人とも…?」

大井「じゃあ…遠慮なく魚雷ぶつけようかしら?」ジャキンツ

龍田「うふふ、容赦なくやっちゃうわねー」ウフフフ

アール「ヒイツ」

i n 執務室

提督「…アール?すつごいボロボロなんだけど」

アール「ふつ…D敗北どころかF敗北だったぜ…」ボロボロ

しおい「水上艦じゃダメだったのかなー」

ジン「次は潜水艦にしたらどうだ？」

イムヤ「なるほど、次は『亜―6』さんで行きましょう！」

ア―ロ「お前ら!?!」

提督「よし、それじゃあ中部海域哨戒線への編成は…阿武隈を旗艦に、北上、飛龍、イムヤ、ろーちゃん、しおいの6名だ」

ろーちゃん「提督、ろーちゃんガンバルー!!」フランス

しおい「ついに潜水艦の定番だね！」

北上「阿武隈ー、よろしくねー」ニコニコ

阿武隈「は、はい。よ、よろしくお願いしま（ry）」

大井「一匹。チラッ」

阿武隈（こ、こつちを見てるー!?!）

北上「？」

飛龍「よし！頑張るわよ、多門丸!!」

大淀「うふふ、皆さんもう士気が高揚していますね」

提督「みんな張り切ってるな…さて、中部海域ここから大変になるだろうけど、みんな気合い入れて、行くぞっ!!」

艦娘一同「おーっ!!」

しおい「ねえねえ、『亜—6』さんを連れてつちやry」

霞「ダメに決まってるでしょ」デコピン

提督「あ、そうだ。阿武隈、明石さんにこれを渡して改装してもらって」

阿武隈「提督、これって…改装設計図!!」

提督「大本営から送られてきたんだが…いいんだっけ？」

阿武隈「うん！提督、ありがとう！」

提督「よし、一度でいいから言ってみたい台詞があるんだ…阿武隈、かになれ！」
キリッ

阿武隈「ええっ!?!」

北上&飛龍（囁んだ…）

霞（なんで肝心の所を囁むのよ…）ヤレヤレ

ア—口（蟹…ダイミヨウザザミか!?!）ハッ!!

i n 中部海域哨戒線

北上「阿武隈ー、よかつたじゃん」ニヤニヤ

阿武隈改二「改二になれて良かったですよー」

飛龍「それにしても…改装設計図を見た明石さん、すっごい大喜びしてたわね」

阿武隈「ひ、久しぶりにちゃんとした改装ができて嬉しかったんじゃないですか？」
ろーちゃん「ちゃんとした改装？」クビカシゲ

イムヤ「ジンさんやアールロさんが見たことない素材を使って勝手に近代化改修や建造してやらかしてるの」

しおい「それでいつつも明石さんに怒られてるんだー」

ろーちゃん「じゃあ…ジンさんかアールロさんに頼めば改二になれるかもっ！」キラキラ

イムヤ&しおい「うん、やめたほうがいいかも」

飛龍「むっ！艦載機が敵艦隊を発見したようです！戦艦、軽空母、重巡、軽巡が1隻、駆逐艦が2隻！」

北上「よーし、潜水艦は潜行して、雷巡の先制雷撃した後に魚雷を打ち込んでー！！」

イムヤ&しおい&ろーちゃん「はいっ！！」

阿武隈「き、北上さん！！旗艦は私ですー！！」

飛龍「それじゃあ行くよ！！第一攻撃隊、発艦！！」艦載機発艦！

軽母又級「P P A P！」艦載機発射！！

艦載機<出撃ジャオラー！！　ババババツ　敵艦載機<ヒヤツハー！！

重巡り級「アイハブアペーン!?」critical!大破!

駆逐イ級後期型A「アイハブハアポー!?」critical!撃沈!!

阿武隈「よっと!当たりはしませんよー!!」

北上「ほいじゃ、やっちゃいますかね!」魚雷発射!

阿武隈「改二は甲標的撃てるんだから!!」魚雷発射!

軽巡ツ級「アツポーペンツ!?」critical!撃沈

軽母又級「アイハバペンツ!?」critical!撃沈

イムヤ「さあ行くわよ!!伊号潜水艦の底力、見せてやるんだから!!」魚雷発射!

しおい「よく狙って、いつけー!」魚雷発射!

ろーちやん「さあいきます!てー!」魚雷発射!

駆逐イ級後期型B「アイハブパイナポー!?」critical!撃沈

戦艦ル級「ヌツ…!」小破

阿武隈「先制砲撃、いきまーす!」ドーン!

戦艦ル級「コザカシイ!」小ダメージ、反撃

北上「おおっと!あぶなかったー。こんなにやろー!」ドーン!

戦艦ル級「ミ、ヤツ!?」中破

飛龍「友永隊、攻撃開始!!」艦載機発艦!

艦載機くボラボラボラボラー!

重巡り級「パイナツポーペンツ!?」critical! 撃沈

阿武隈「よ、よし、次は雷撃を（ry）」

北上「雷撃、撃っちゃうよー!!」魚雷発射

イムヤ&しおい&ろーちゃん「はーい!」魚雷発射!

阿武隈「わ、私の指示に従ってくださーい!!」魚雷発射!

戦艦ル級「ペンパイナツポーアツポーペンツ!?」critical! 撃沈

北上「いやったー! いい感じだよー」

イムヤ「ワオ!」

しおい「このまま進んじやいませよ!」

ろーちゃん「だいしょーりですって!!」

阿武隈「だから私の指示を聞いてくださいつてばー!!」

飛龍「うん…頑張つて…」ポンポン

進撃

飛龍「イムヤちゃん達大丈夫?」

イムヤ「は、はい。途中、爆雷が飛んできてビックリしました…」

ろーちゃん「ろーちゃん、焦りましたですって」

しおい「少しのダメージですが、大丈夫ですよ!」

北上「うんうん、いい感じじゃん。阿武隈、進んでいこっかー」

阿武隈「あ、あのー、旗艦は私ですからね!？」

北上「えっ」

阿武隈「うがー!」プンスカ

飛龍「ほら、こうしているうちにボス艦隊発見よ。空母、重巡が1隻、軽巡2隻、駆逐2隻!しかもあの空母、少し雰囲気別の空母と違うみたいよ」

阿武隈「りよ、了解!!北上さん、当たらないように気を付けてくださいよ!」

北上「りよーかーい」

飛龍「さあ、攻撃隊の皆!気を付けてね!」艦載機発艦!

空母ヲ級「矢ヲ放テ!」艦載機発射!

艦載機くウラーラー! ババババツ 敵艦載機(白)くオプツハシヨウドクダー

!

軽巡ツ級A「ヘゲエツ!」critical!撃沈

阿武隈「い、いつもの艦載機と違います!!気を付けて!!」

北上「ダイジョーブダイジョery:あぶなっ!」小破

阿武隈「だから言ってるじゃないですかー!？」

北上「ぐぬぬ:反撃だよー!!」魚雷発射!

阿武隈「も、もう!!」魚雷発射!

駆逐八級後期型A「アワビユツ!?」critical!撃沈

イムヤ「よし、今度は私達の番よ!!」魚雷発射!

ろーちゃん「行きますよー!がるるー!!」魚雷発射!

しおい「どつかーんと撃ちます!!」魚雷発射!

駆逐八級後期型B「カチカチ明太子ヘツド!?」critical!撃沈

空母ヲ級「フツ、効力又ナア」小ダメージ

阿武隈「砲雷撃戦、開始です!!」ドドン!!

空母ヲ級「貴様ノ拳デハ私ニハ勝テヌ!」小破

阿武隈「拳とかじゃないんですけどー!?!」

重巡リ級「チョーイテョー!!」ドドン!!

北上「ひやあつ!?!いててて:」critical!中破

軽巡へ級「ヒヤツハー!!爆雷ダー!!」つ三【爆雷】

しおい「きやあつ!?!もーやだやだー!!」critical!大破

北上「こ、このー!!お返しだー!!」ドーン!

重巡リ級「ナニイ?キコエンナア」小ダメージ

飛龍「それなら:これではどうかしら!」艦載機発艦!

艦載機くアタタタタター!

重巡り級「ヒ、ヒデブーツ!?」critical! 撃沈

空母ヲ級「退カヌ! 媚ビヌ! 省ミヌツ!!」艦載機発射!

艦載機く逃走ハナイコトダーツ! ババババツ

飛龍「うひやあつ?!?い、痛いじゃないのよー!!」critical! 大破

阿武隈「こうなつたら…潜水艦の子達も雷撃用意!! 狙いは敵空母!」魚雷発射!

イムヤ「了解です!!」魚雷発射!

ろーちゃん「それー!! 狙っちゃいますつて!!」魚雷発射!

空母ヲ級「サ、サカナーツ!!!?」

阿武隈「うんっ!! 提督、夜戦突入の許可をお願いします!!」

提督『飛龍、北上、しおい、大丈夫か…?』

北上「たいじょーぶだよー。阿武隈ならやってくれるからさー」

飛龍「私も、気合で避けます!!」

しおい「いたたた…うん! 私は大丈夫だから!!」

提督『よし…夜戦突入の許可をする! 阿武隈、皆、頼んだぞ!!』

夜戦突入!

阿武隈「さあやってやるわよ!! 隙だらけなんですから!!」ドドドーン!!

空母ヲ級「オ、オシサーンっ!」critical!撃沈!!

イムヤ「夜の海は負けないわよ!! スナイパーイムヤの力、見せてやるんだから!!」魚雷発射!

軽巡へ級「あ、アヒイッツ!?」critical!大破

ろーちゃん「ろーちゃん頑張るって!!」魚雷発射!

軽巡へ級「バ、バワツ!?」critical!撃沈!!

阿武隈「敵艦隊撃沈!!…艦隊の勝利です!!」

北上「やったー!! でかしたよ阿武隈ー!!」

阿武隈「も、もう!! 北上さんは無茶しすぎなんですよ!!」

提督『敵艦隊もなかなか手強かったな…皆よく頑張った! このまま帰還してくれ』

ろーちゃん「はーい! ていとくー、ろーちゃん頑張ったって!」

飛龍「うんうん。ろーちゃんもよく頑張ったわね」ナデナデ

しおい「ふー、早く帰ってお風呂入りたいーい」

北上「あ、私もー。どぼーんって浸かりたいわー」

阿武隈「ほら、帰るまでが出撃なんですか。皆さんしやきつとしてください!」

イムヤ「あれ? 向こうで誰か手を振ってるよ?」

阿武隈「あれは…おーい!」

卷雲「あ、よかったですー！気づいてくれたみたいですよー」ノシ

古鷹「もしかして鎮守府の艦隊の方ですか？」

北上「うん、そうだよー。よかったらうちくるー？」

阿武隈「軽っ!？」

古鷹「はい！是非ともご一緒させてください！」ニツコリ

卷雲「巻雲も頑張っちゃうです!!」フンス

イムヤ「まあうちの提督達と鎮守府は少し変わってるけどねー」

ろーちゃん「空飛ぶドラゴンさんもいて楽しいところですよ!!」

古鷹&巻雲「ドラゴン…?」

提督「もしもし…あ、元帥殿。急の連絡のようですが、一体…?」

元帥『ああ、急にかけて来てすまないな…以前君に話した『例の超弩級深海棲艦』の事なんだが…事態はあまり良くないようだ…』

提督「それはどういふことですか…?」

元帥『あの深海棲艦は…どうやら中枢海域を中心に他の海域から通りかかる船を襲っているようだ。神出鬼没でどこに現れるか分からん。ただ言えるとすれば奴は深海中枢海域を中心にして行動範囲を広げているんだ』

提督「まるで縄張りを広げているようですね……」

元帥『これまでの深海棲艦はむやみやたらと船を襲うことはなかった……あの深海棲艦だけ特殊やもしれん。我々は早めに第一、第二連合艦隊を編成し、泊地へと向かうつもりだ。詳しい作戦はまた今度知らせよう。では』

提督「……」

霞「…司令官？何難しい顔してるの？」

提督「…あ、いや…大丈夫だ。心配かけさせてすまないな」ナデナデ

霞「キヤツ…ちよ、いきなり撫でないでよ!？」顔真っ赤

提督「…ほーれ、ナデナデ」ナデナデ

霞「あ、あふう…」

アール「アマイワー、めっちゃアマイワー」

ジン「…その手があつたな…」ナツトク

アール「ちくしよーめつちやくちやアマイワー」

93 アーロさんの一日提督、各海域の異変

in 執務室

天龍「あれ？提督達は？」

長門「提督は霞と航海演習に行っている」

赤城「ジンさんは瑞鶴と一緒に出かけですよ」

青葉「ベルさんは鹿島さんと一緒に遠洋練習航海のようですよ」

天龍「はあ、いつの間にか提督達も出掛けるようになってるな」

長門「ふふふ、羨ましいのか？」

天龍「あ、あつたりめーだろ？羨ましいぜ」

青葉「すでにアーマイ事になってるかもしれないね」

赤城「それでも提督達は頑張っていますし、留守番している私達も頑張りますよ」

長門「うむ、そうだな。演習や遠征も決めているし、今日は私が代理で……」

アーロ「……つまり、今日ー日俺が提督だな？」ドヤア

天龍「あ……いたの忘れてたぜ」

青葉「…アールさんの事すっかり忘れてましたね」

長門「む…私としたことがうっかりしていた」

アール「お前ら…」

赤城「そうでしたね。提督からはアールさんに代理で務めてもらおうと頼まれてたし、よろしくお願いしますね」

アール「おう…！で、提督ってなににするんだっけ？」

長門&青葉「ズコー」

天龍「おおい!? ずっと見て来てただろ!？」

アール「あつはつは!! ジョークだぜ、ジョーク（汗）」

赤城「だ、大丈夫でしょうか…」

長門「あれはアールさん焦っているな…」

青葉「そ、そういうえばアールさんは普段は…ペッコ達の世話をしたり、農作業したり、修理したりと力仕事を主にしてましたね…」

天龍「後は駆逐艦の子達と遊んだり…」

アール「大丈夫大丈夫! あいつのやってたことは見ててるから、俺にもできるだろ」

天龍「…心配だな…」

長門「それでアールさん、秘書艦は誰に任命するんだ？」

アーロ「秘書艦？」

赤城「霞ちゃんのように、提督のお仕事を補佐する艦娘の事を言うんです」

長門「今鎮守府にいる艦娘達の表はこれだ。鎮守府によつては当番制だったり、その子一筋、または秘書艦を二人決めていたりするんだ」

アーロ「うーむ……誰にしよう……」ガクガク

青葉「たぶん、選ぶだけで1日かかりそうですね……」

天龍「……提督、早く帰ってきてくれ……」

in 南西諸島海域の島

ジン「……」

瑞鶴「……じ、ジンさん……た、確かに暖かい所に行きたいなーって言ったのだけでも……」

ジン「どうだ？ポカポカ陽気だぞ？」

瑞鶴「有言実行すぎ!?!とか遠くまで出かけすぎ!?!」

ジン「？」

瑞鶴「ま、まあ、ジンさんと出かけることができたのだからいい事だし……」チラッ

チラッ

ジン「…今日は加賀は来てないぞ？」

瑞鶴「ホント!?じゃ、じゃあ…!!」

ジン「…?」

瑞鶴（つ、遂にジンさんと二人つきり!!）ヒヤッハー

ジン「瑞鶴、それじゃあ行こうか」

瑞鶴「ふええっ!?じ、ジンさん…」顔真っ赤

ジン「?」

瑞鶴（二人つきり、ひと気のない森の中…!!ろ、ロマンチックの予感…!!）ドキドキ

ババコンガ「（、皿）」ノツシノツシ

瑞鶴「えっ」

ジン「早速お出ましか…」つ飛竜刀【銀】

瑞鶴「え、ちよ、ジンさん?きよ、今日は…?」

ジン「?瑞鶴も一緒に島の探索をしたかったんだろ?」

瑞鶴「（。皿）」

ババコンガ「三（、皿）」突進

ジン「行くぞ!」ダッ

瑞鶴「こ、このピンクゴリラー!! 空気読んで出てこないでよー!!」ウガー!
ババコンガ「Σ(; 皿、)」シランガナ

鈴谷「むー…結局はあたしと初月と加賀さんでやることになったんだけど…」
アーロ「…: : :」♪(ε、 ;)

黒丸「ニヤ、加賀さん。この書類はどうすればいいかニヤ?」

加賀「これですか? ここの所にサインを…」

ミケ「ハンコは何処かニヤ?」ガサゴソ

初月「その書類のハンコならこの引き出しの中に…」ガサゴソ

鈴谷「どうしてアイルーに秘書をやらせてんのよ!?!」

アーロ「だってどの子にしようか選びずらいもーん!!」

黒丸「アーロさんは皆を気に入ってるからニヤ」

初月「アーロさんらしいね…」

加賀「下手したら執務室が満室になりかねないですね」

アーロ「あ、それいいな」

鈴谷「やめときなさいって。あとで大井つちか龍田さんにめられるよ?」

加賀「一つ変な事することでカンストしていきますので」

アール「りよ、了解です…で、まずは書類整理つてわけだな？」

加賀「はい。デイリーの任務の他に、報告書、在庫管理、進捗報告、それに加えてギルドに送る調査報告書、生熊管理等々ありますので」

アール「…お、多すぎやしませんか？」

加賀「いつも提督はベルさん、秘書官に霞と鹿島とでやってます。今回は私達が手伝いますから」

アール「だ、だな！皆でやればあつという間に終わるぜ！！」

―数十分後―

鈴谷「はあー、肩がこるー」

黒丸「お疲れでしたらオイラ達が肩叩きをしてあげるニヤ！！」

ミケ「肉球百裂拳ニヤ！！」ポポポポポ

鈴谷「おおっ！！いい感じー」

アール「う、羨ましい…！！」

加賀「ほら、余所見をしないで書いてください」

アール「ん、もう書き終わったぜ！！」

初月「どれどれ…アールさん、これなんて書いてるの？」

加賀「日本語でもなく、英語でもなく…なんですかこれ…？」

アーロ「え？ドンドルマ文字だけど？」

加賀「普通に書いてください」アームロック

アーロ「がああああっ!？」

初月「そ、それ以上いけない：!!」アセアセ

i n 西方海域

ベル「西方海域で遠洋練習航海をするんだねー」

鹿島「はい、この演習任務はこの海域で行われるんです。丸一日使うのですがここで陣形、編隊などの訓練を行うんですよ」

天津風「うん！いい風ね！」

雪風「西方海域もまだ温かいですね！」

大井「うーん：アーロさんだけで大丈夫かしら：う？」

木曾「：それにしても、この遠洋練習航海にベルさんはなんで同行したんだろうな？」

愛宕「うふふ、理由は考えなくてもいいじゃない？鹿島、すごく嬉しそうだし」

ベル「西方海域かあ：」シミジミ

鹿島「：：：？」

ベル「あ、いや、西方海域は色々あったけど：：こうして鹿島と一緒に海へ出れてよ

かったなーって」テレテレ

鹿島「!!も、もうっ、ベルさんったらー!!」ドン

ベル「わちよ、落ちる落ちる!?!」アタフタ

鹿島「あわわ、ご、ごめんなさい!」

天津風「もー。そうイチャイチャしないで演習やるわよ!!」

木曾「今日の遠洋練習は何をするんだ?」

鹿島「あ、そ、そうでしたね!それじゃあ…複縦陣から縦横陣へ移る訓練と…」

ベル「…」

愛宕「あら?ベルさんはご覧にならないのですか?」

ベル「ちよつとこの海域の周りを見ておかないとね…」

i n 工 廠

アール「ヒヤツハー!!さあ建造の時間だぜ!!」

黒丸&ミケ「ニヤツハー!!」

初月「だ、大丈夫かな…?」

アール「今日はアイルー達に任せるからな。俺は初月を撫でるだけ!!」ナデナデ

初月「わわっ?!きゅ、急に撫でるんじゃない!!」アタフタ

加賀「アーロさん、減点ーです」

アーロ「」

黒丸「それじゃあ、このマカライトを…」

鈴谷「ちよつとタンマ!? もう不安なんですけど!?」

初月「こ、ここはやつぱり鋼鉄とボーキサイトを…」

ミケ「妖精さん、これお願いにや」つブレスワイン

妖精さんくワイイ (っ・ワ・っ)

鈴谷「ちよつと!? 今変なの入れてなかった!?」

アーロ「鋼鉄とボーキと素敵なもの(ブレスワイン)をいーつぱい♪」

加賀「いや、なんですかそれ」

アーロ「あれだ。お砂糖とスパイスと素敵なもので女の子ができる的な…」

ミケ「よし、隠し味に雌火竜の逆鱗を入れるニヤ!!」

アーロ「イエイイ!!」

初月「あわわわ…」

黒丸「それと高速建造材を使うニヤ!!」

アーロ「ヒヤツハー!! 出来上がりだぜー!!」つ【高速建造材】

00:00:00 | <新しい艦娘が建造されました!

鈴谷「こ、怖くて開けたくないんだけど…」

初月「ど、どうなってるのかな…」

アール「行けば分かるさ！工場オープンっ!!」

ポーラ「うーん、このワイン、オイシー！あ!!もつとオカワリくだ（ry）キラキラ

アール「…」そっ閉じ

鈴谷&初月「」

黒丸&ミケ「…」アールを見る

アール「…」頷く

アール&黒丸&ミケ「逃げろおおおっ!!」ダツ

明石「…加賀さん、逃がさないようにしてくださいね」

加賀「大丈夫です…仕留めます」艦載機発射！

i n 中庭

アール「ふう…酷い目にあつたぜー…」タンコブ

初月「殆どアールさんが原因だよね…」

アール「やっぱ俺は力仕事に向いてるわー」畑仕事

鈴谷「それがアーロさんらしいよー」ニヤニヤ

初月「……」ジーッ

アーロ「ん？どした？」

初月「アーロさんは賑やかだね。提督はまったりとしたイメージがあつて、ジンさんは物静かで、ベルさんは爽やかなイメージがあるんだ」

アーロ「……」ポリポリ

初月「あ、でも提督も賑やかな感じもあるんだよ？」

アーロ「あれだな。俺の実家はな、バルバレっていうキャラバンが形成する市場を中心に砂漠やドンドルマで活動する雑貨屋だよ。『どんな時でもへこたれずに元気に』が家訓なんだ」

鈴谷「へー、アーロさんの実家って砂漠にあるんだ……って凄すぎ!？」

アーロ「あ、ちなみにアグル含めて6人ぐらい弟と妹がいるから」

鈴谷「大家族だったの!？」

加賀「初耳でした……」

アーロ「そりやま大変だったぜ。大家族だし、船で移動するから、道中ジエンモータンに出くわすわ、腹をすかせたドスガレオスやセルレギオスに襲われるわ、突然ディアブロスにぶつかると……毎日が命がけだ」

初月「…」ポカーン

アール「おかげで商売道具が壊されたり奪われたり…でもどんなに挫けそうになっても親父もお母人も諦めないでいるんだ。生きてりややり直せる、また元気にやれるって」

初月「だから、アールさんもこう明るいんだね…」

アール「まあな。誰かが元気にいねえと誰かが元気にならねえだろ？」

加賀「…ですが、さすがに工廠のあれは諦めてほしいのですが…」

アール「あいたたた…」テヘペロ

in 鎮守府近海、製油所地帯沿岸

提督「ふんふん♪」釣り中

霞「…司令官も一緒に航海についてくるっていうから何かと思えば…釣りなのね」呆れ

龍田「まあまあ、それでも演習の指示はうまくやってるわよ？」

ビスマルク「最初の頃よりだいぶ形になってきてるわ。あれぐらい余裕をだしていいじゃないの」

霞「まだまだ甘いわよ。他の鎮守府の演習した時は焦ってたし…」プンスカ

金剛「おやおやー？演習中に『いい指示出してるとか言ってるじゃない』とか言ってるじゃないの？」
誰デスカー？」「ニヤニヤ

龍驤「演習中、にやけてたのは誰だったかなー？」ニヤニヤ

霞「う、うるさーい!!」ウガー

金剛&龍驤「ヒヤッハー!!」ニヤニヤ

提督「お、釣れた釣れたー♪」ハリマグロGet

大鳳「それにしても…提督、釣るの上手ですよ」

龍田「あれ、餌もつけないでルアーを垂らしてるだけで釣ってるのよ…」

大鳳「!？」

ビスマルク「あ、アドミラル凄すぎじゃないの!？」

霞「ほら、休憩が済んだら次の演習をするわよ」

金剛「ハイ♪」

龍田「うふふ、それじゃあ霞ちゃん。お先に行くわねー」ウフフ

霞「まったく、もう…司令官、次の航海演習するわよ」

提督「お、そうだったな…そうだ、霞。この場所、覚えてるか？」

霞「ここは…確か私が初めて司令官が戦ってるのをみた所よね」

提督「…霞、昨日の電報で近々イベント海戦が行われるのは聞いたよな？」

霞「ええ、何やら超弩級深海棲艦が大暴れしているとか…」

提督「…実はな、その超弩級深海棲艦がほとんど活動範囲を広げているせいで各海域に深海棲艦が押し寄せて来たり、他の生物たちやその生態に異変が起きているんだ」

霞「え!? そうなの!？」

提督「別の地域から別の生物が押しかけて元から棲んでいた生物が追い出されてしまったり、突然モンスターが現れて大暴れしたり…すべての海域に影響が出ている。ジンやベルに生態調査を行ってもらっている」

霞「そんなことが…」

提督「…こうなっている以上は俺達が止めなくちゃいけない。だから、この中部海域攻略、イベント海戦は各海域を巻き込んだ大掛かりなものになりそうだ」

霞「司令官。これまでずっと見て来て…司令官は無茶する人だつてわかつてるわ。私は止めないわよ」ヤレヤレ

提督「…」

霞「でも…司令官がやるからには、絶対に勝つて。そして無事に帰ってきて」

提督「…ああ。霞も、お互い頑張っていくぞ」

霞「そのつもりよ」ニッ

龍驤「いいわー。素敵やー」

金剛「アマーイです」

in 執務室

提督「…で、なんやかんやで帰って来たんだけど…」

ポーラ「えへへへー、もつと飲みマシヨー」へべレケ

ジン「瑞鶴、今日は良く飲むな…」ウンウン

瑞鶴「酒!! 飲まずにいられないわ!!」オカワリ!!」

リットリオ「すみません、すみません!うちのポーラがご迷惑を…」アセアセ

愛宕「ヨソロク!!」酔った

ベル「ちよつと!?!書類の山が半端ないんだけど!?!」

鹿島「あわわ…こ、これなんて書いてるんですか…」アワワ

ビスマルク「この書類、猫の手のハンコが押されてるわ…!!」

天津風「司令官!!なぜかジャガイモが沢山発注されてるわ!!」

雪風「今日は肉じゃがですね!」

提督「」

初月「う、うん：僕たち全力でサポートしたんだけど…」

加賀「アールさんのフリーダムさには負けました」

鈴谷「いやー、スゴイよね！」

霞「アールさんは何処!!」

初月「あ、アールさんなら『ちよつくらオリヨクル行ってくる!』って…」

龍田「うふふふ、逃がさないわよー」

大井「提督、出撃命令を!! 標的はアールさん!!」

i n 北方海域 キス島守備隊基地

兵士A「た、大変だ!!」 ドタバタ

兵士B 「どうした!?! 例の超弩級深海棲艦が襲ってきたのか!?!」

兵士C 「それとも深海棲艦が沢山襲ってきたのか?」

兵士A 「し、深海棲艦じゃなくて…: ぜえぜえ…: きよ、きよ、きよ…:」 ヒーヒー

兵士D 「落ち着け新人。水飲むか?」 つ水

兵士A 「あ、ああ…: それより大変なんだ!!」

兵士C 「一体何があったんだ?」

兵士A 「きよ、極圏でヤバイ事が起きてるんだよ!!」

兵士B & D 「ヤバイ事?」

兵士A 「極圏で深海棲艦を調査してたら…: すごい咆哮が響いたんだ。そしたら…: 氷山が凄いい勢いで崩れて…: 現れたんだ」

兵士B 「いや、何が現れたんだ?」

兵士A 「白くてバカでかい龍が現れたんだ!!」

兵士B & C & D 「」

兵士A 「マジだよ!! マジでアゴが凄くて…: しかもそいつ氷の中を泳ぐように移動してこっちに来てるんだよ!!」

兵士B & C & D 「な、なんだってー!?!」

94 絶対零度 『崩竜』ウカムルバス 前編

i n 執務室

大淀 「提督！元帥殿から緊急のお電話です!!」

提督 「おおう!?も、もしもし…?」

元帥 『クロードくん、緊急事態だ！北方海域の奥地、極圏で大変なことが起きている！』

提督 「きよ、極圏!?何が起きてるんですか…?」

元帥 『白い巨大な竜が極圏に現れて冰山を崩しつつキス島へ上陸した！このままだとキス島の守備隊基地だけじゃない、あの島に住むものたちが大変なことになる!!』

提督 「…今そいつは何処にいますか?」

元帥 『キス島守備隊基地にいた空母が飛ばした艦載機によると雪山奥地にいる』

提督 「…元帥殿、俺が行きます。元帥殿は本土のギルド本部に連絡をお願いします」

元帥 『すまない…各海域で超弩級深海棲艦が暴れているというのに…』

提督 「仕方ありませんよ。今、すべての海域の生態にも影響が出ています。恐らくそれも影響の一つだと思います」

元帥『クロードくん：君には迷惑をかける。どうか無事に帰って来るのだぞ』

提督「：よし黒丸、ミケ。すぐに船の用意だ」

黒丸「了解ニヤ!!」

ジン「提督、緊急事態と聞いたが？」

ベル「何が起きたんだい？」

提督「：アゴスコップを倒しに行くぞ」

ジン「まじか」

ベル「えええええっ!!」

天龍「あ、アゴスコップ：？」

瑞鶴「ジンさん達が驚いているからとつてもやばい奴なんじゃ…」

金剛「テイトクー!! 目的地までの護衛は私がやるネー!!」

提督「金剛、ありがとうな。さ、急いで準備を：つて、あれ？」

霞「司令官、どうかしたの？」

提督「アールは何処に行った：？」

ジン「あいつなら落ち込んでる」

提督「いや、なんで!？」

i n 工 廠

アール「：」ドンヨリ

衣笠「アールさん、落ち込んでるね」

初月「先日、怒られたのがよっぽどショックだったのかな…」

五十鈴「まあアールさんがフリーダムだったのが原因だったけども」

鈴谷「あそこまで落ち込まれると、ちよつと可哀想って思っちゃうんだよね…」

アール「：」シヨボーン

初月「アールさん、元気だしなよ。今回は僕達もフォローしきれなかったのもいけなかつたし…」

アール「初月…」

初月「うん。今度は僕もしっかり手助けしてあげるから、だからいつもの元気なアールさんに戻ってよ」

鈴谷「そうそう！どんな時もへこたれずに元気にするんでしょ？しやきつとしやきつと!!」

衣笠「ね？元気だして。衣笠さんも手伝ってあげるから、頑張りましょ！」

アール「お前ら…：そうだな。いつまでも落ち込んでる訳にはいかねえもん!!」

鈴谷「うん、その調子だよ!!」

アール「皆、ありがとよ。おかげで立ち直れたぜ！」ナデナデ
初月「んう…な、撫でるなあ…」

ジン「アール、ここにいたか。急いで北方海域へ行くぞ」

アール「おう！…って何事？」

ジン「アゴスコップがキス島で暴れている」

アール「マジでか!? こいつは大変だ…!!」

初月「アールさん、気を付けて」

アール「おうよ!!…今度は皆で先着10名しか売られていない、下町のケーキ屋の特製マロンケーキを買いに行こうな！」ダッ

初月&鈴谷「えっ」

衣笠「…もしかして落ち込んでたのはケーキ買えなかつたから…?」

五十鈴「アールさんのことだからそんな気がしたのよねえ…」

鈴谷「アールさんはやっぱり平常運転だね…」

in 北方海域 | キス島

提督「皆さん…ご無事ですか!?!」

金剛「ヘルプに来ましたヨ！」

兵士A 「あ、提督さん!!」

兵士B 「今はキス島観測所や極圏観測所の皆も避難していたところなんです」

ジン 「状況は？」

兵士C 「今も雪山奥地で荒らしまわっているようですが、いつ山から下りて襲ってくるか……」

アール 「こいつは時間の問題だな」

ベル 「もう間もなく他の艦隊の船も来ます。皆さんは船に乗って避難をしてください」

兵士D 「ありがとう……さあ皆行くぞ！」

ジン 「瑞鶴、艦載機で奴の居場所がわかるか？」

瑞鶴 「うん。さつき艦載機を飛ばしてみたから特定はできるかも……あ、戻って来た！」

艦載機 くやバイヨヤバイヨ

瑞鶴 「うんうん……ジンさん、白いデカイ生物があつちの山の奥地に動いているのが見え
たつて！」

ジン 「ありがとう……あつちだな？」

提督 「よし、皆行くぞ……あ、ホットドリンクは忘れるなよー」

アール 「H A H A H A、ここで忘れたら即リタだしな！」

ベル「それで…提督は？」

提督「俺はいつもこの袋に…あれれ？これ、鬼人葉だ…」

霞「ほら、ホットドリリンクってこれでしょ？」つ「ホットドリリンク」

提督「おお、霞！ありがとう！」

霞「まったく、司令官はいつも忘れてるんだから…司令官、気を付けて」

提督「うん、行ってくる」ノシ

瑞鶴「なるほど…じ、ジンさん。き、気を付け（ry）」

アーロ「ジンならもう行ったぞー」

瑞鶴「はやいよっ!？」

in 雪山奥地

アーロ「ここが奥地だな…随分と開けてるなー」

ベル「どう？何処にいるかわかる？」

提督「うーむ…開けた場所なのに見当たらないな」

ジン「…ん？」

ゴゴゴゴゴゴ…

ウカム「（、皿）」潜る

アール「つて、行つてる傍から潜りやがった!？」

提督「み、皆散れー!!固まっていると巻き込まれるぞ!!」三（；皿、）

ベル「と、兎に角走るんだー!!」

ウカム「三（、皿）」潜行突進

ジン「つ!!俺か!!」ε≡≡≡へ（；皿、）ノ

アール「おおいっ!?!こつちくんなし!!」ε≡≡≡へ。皿。；）ノ

ジン「なんとか：躲すっ!!」ジャスト回避

アール「あ、てめっ!!こんの：ガードッ」盾ガード

ウカム「\（、皿）/」地面から出てくる

アール「このやろっ!!危ねえじゃねえか!」斬りかかり

ベル「斬つていくよ!!」連続斬り

ウカム「（、皿）」尻尾薙ぎ払い

ベル「おっと!？」緊急回避

アール「うげー!?!」..:（ε。）（

ジン「頭を向けろ!!」スタンプ

提督「まずは胸部、後ろ脚、尻尾と顎だ!!」抜刀斬り

ウカム「() ()、皿()」のしかかり

ジン「むっ：」ジャスト回避

提督「ゆ、揺れるー!？」フラフラ

アール「おらー!!」盾突き攻撃

ウカム「()、皿()」潜る

ジン「潜ったぞ!!」

提督「みんな走れー!!」ダツシユ

アール「いいか、こつちにくんじやねえぞー!!」ダツシユ

ウカム「()、皿()」三」潜行突進

ベル「今度は俺かーっ!？」へ()、皿()」ノ三三

アール「だからこつちにくんなし!？」Σ(；。皿()」三三

ベル「隙を見て：避ける!!」ジャスト回避

アール「このっ：うおおおっ!!」猛ダツシユ

ウカム「()、皿()」地面から出てくる

アール「ぜえぜえ：てめこの野郎!!」斧モード叩き付け

ジン「打ち砕く!!」二連続振り回し

ウカム「()、皿()」三」顎掬い上げ

アール&ジン「あーれー」(；； ㊦、(()
ベル「二人とも吹っ飛んだー!?」

ヒューン 三〇

提督「ぶべっ!?しまった、氷塊が飛んでくるんだった!」雪だるま
ベル「と、とりあえず粉塵!!」つ【生命の粉塵】

提督「だ、誰か蹴ってー!」(；； ㊦、(()

ウカム「(、皿) 三三三三」氷プレス

提督「ひ、ひえーっ!?」回避

ベル「あぶなっ!?」緊急回避

ジン「ここだっ!」スタンプ

アール「こいつもくらえっ!」高出力属性解放斬り

ウカム「(；； 皿)」怯み

ベル「えいつ」蹴り

提督「よし、行ける!さっきのお返しだ!!」抜刀溜め切り

ウカム「(、皿)」尻尾薙ぎ払い

アール「おらっ、ガードだ!!」ガードポイント

提督「ひえっ、大剣ガード!!」ガード

ベル「よっと！」ジャスト回避

ジン「せいっ!!」スタンプ

ウカム「(; ×皿×)」スタン

ジン「よし、スタンとったぞ!!」

アーロ「ナイスだぜ!!」属性解放斬り

提督「今のうちに畳み掛けるんぞー!!」溜め斬り

ベル「いけいけー!!」鬼人化乱舞

ジン「もつと叩く！」叩き付けからのホームラン

ウカム「(#、皿、)」立ち上がる

アーロ「あ、立ち上がったぞ…」

ベル「怒ってるということとは…」

提督「みんな離れろ!! バインドボイスが来るぞ!!」

ウカム「グオオオオオオオオオオオツ!!」

アーロ「ぐへー」。

ベル「うわああ! うるさーい!!」(; 皿、)

ジン「びりびりくるな…」回避

提督「そのまま戻らない…まさか!? まずいぞ!! ブレスがくる!」

ウカム「三三三（皿 #）」薙ぎ払い氷ブレス

95 絶対零度 『崩竜』ウカムルバス 後編

ウカム「三三三（皿、#）」薙ぎ払い氷ブレス

提督「避けろーっ!!」緊急回避

ジン「くっ…!」緊急回避

ベル「あ、危なかったー…って、アールは!?」キョロキョロ

アール「くあwせdrftgy!!」ジタバタ

提督「あいつ雪に埋もれてるー!?」

ベル「急いで引っ張り出さなくちや!!」

ウカム「（っ、皿、っ）潜る

ジン「潜りだしたぞ!!」

提督「マジかよ!?!おらー引っ張れ!!」グイグイ

ベル「アールも早く出て来て!!」グイグイ

アール「モガモガモガ!!」ジタバタ

ウカム「三（っ、皿、っ）潜行突進

提督「きたー!?」ヒュー!

ジン「提督達は走れ！俺がやる!!」溜め2振り上げ
 アーロ「あーれー!!」ホームラン

ウカム「三()、皿()」潜行突進

ジン「ぶっ!!」三()。3()…

提督「ジン!!」

ベル「これでっ!!」っ【生命の大粉塵】

アーロ「ジン!!こいつー!!」斧モード叩き込み

ウカム「(皿) # ()」伸し掛かり

アーロ「あぶねっ!!」フラフラ

提督「どりやあっ!!」抜刀斬りからの切り上げ

ウカム「(皿) ; ()」前胸部位破壊

ベル「よし！今度は前脚を狙っていくよ!!」鬼人突進連斬

ジン「いたたた…もう一度スタンさせてやる!!」溜め1二振り回し

ウカム「(皿) # (三) 飛び掛り攻撃

提督「うおっ!!ガードっ!!」大剣ガード

ベル「ぶべっ!!」…(ε) ()

ジン「ぬっ…」ジャスト回避

ウカム「(、皿、C)」潜ろうとする

ベル「いてて：また潜るつもりだぞ!!」

アール「このっ!! 何度も潜らせるかっての!!」高出力属性解放斬り

ジン「逃がさん!!」スタンプ

ウカム「(、皿、;)」怯み

提督「ナイスキャンセル!!」溜め切り

アール「おらおらー!!」チャージしてから斬りかかり

ウカム「(、皿、)三(#、皿、)」振り向き顎掬い上げ

提督「あーれー」(、皿、)

アール「うおっ!」ガード

ジン「ふんっ!!」スタンプ

ウカム「(、皿、;)」怯み

提督「あいたた：」つ回復薬G

ベル「皆、そろそろホットドリンクの効果も切れる時間だよ。頃合いを見てホットドリンクを：」

ウカム「(、皿、#)」立ち上がる

アール「そんな暇ねえー!」ダツシユ

ジン「吠えるぞ!! 離れろ!!」

ウカム「グオオオオオオオオツ!!」 バインドボイス

提督「間に合わねー!!」 (; 皿、 ((三

アール「よし、俺がry、ぐへー」... (; ε。

((三

ジン「...」 近づいたけども耳を塞ぐ

ベル「何やってんの!?!」 つ【生命の粉塵】

ウカム「(; 皿、(; 皿)」 潜る

提督「やばい、潜った!」

アール「散れ、散れー!!」 ダツシユ

ジン「次は何処からくる...!!」 ダツシユ

ウカム「(; 皿、(; 皿)」 潜行突進

アール「俺かよーっ!?!」 ε≡≡≡ε (; 皿、(; ノ

ジン「頑張れアール!!」

ベル「いつでも粉塵はスタンバイできてるよ!!」

アール「このっ...うおおおおっ!!」 猛ダツシユ

ウカム「\ (; 皿、(; 皿)」 地面から出てくる

アール「ひひひ...な、なんとか逃れたぜ...」

ウカム「(#、皿) 三三三三」氷プレス

アール「それもあんなのかよっ!?」緊急回避

ジン「アールを助けるぞ!! 提督!!」打ち上げ

提督「おうっ!! よいしやーっ!!」ジャンプ攻撃

ウカム「(；、皿)」怯み

提督「よっしや、乗ったー!!」ライド

アール「た、助かったぜー!」アセアセ

ジン「振り落とされるなよ!!」

ウカム「(；、皿)」ジタバタ

提督「うおおっ!? すっげえ暴れる!!」グラグラ

ベル「提督、頑張って!!」

提督「この、オラオラオラアっ!!」ザクザクツ

アール「いいぞ、いけいけー!!」

提督「もう少しで；どうだっ!!」ザクザクツ

ウカム「(；、皿)」ダウン

アール「よっしや!! ぶち込むぜー!!」属性解放斬り

ベル「もっとうき込むんだ!!」鬼人化乱舞

提督「どっせーい!!」溜め切り

ジン「もう一発：打ち砕く！」スタンプ

ウカム「(×皿×；)」スタン

アール「おおっ!!二度目のスタンか!!」

ベル「いいぞ!!どんどん攻めるぞ!!」乱舞

提督「よし、こいつもお見舞いだ!!」超溜め斬り

ジン「自慢の顎も砕いてやる!!」叩き付け

ウカム「(皿#)(正面顎掬い上げ

提督「ヒエツ!!」ガード

ジン「ヒデブツ!!」..。(ε。)(

アール「うおっ!?雪玉が!!」雪だるま

ウカム「(皿#)」息を吸って立ち上がる

ベル「まずい、薙ぎ払いブレスがくるよ!!」

アール「ま、待ってー!!誰か蹴ってくれー!!」雪だるま

ウカム「三三三(皿#)」薙ぎ払いブレス

提督「回避っ!!」絶対回避

アール「ひ、ひえーっ!!」ヨタヨタ

ベル「あんなのくらったらヤバイよ…」アセアセ

ジン「これで、どうだ！」スタンブ

ウカム「(皿 ；)」顎部位破壊

アール「よし！自慢の顎が砕けたぞ!!」

提督「この調子でいくぞ!!」抜刀斬り

ベル「そらそらーっ!!」連続斬り

ウカム「(皿 # 三) 飛び掛り攻撃

アール「あぶねえっ!!」ガード

提督「うおっと!!」ガード

ウカム「(皿 ；)」尻尾薙ぎ払い

提督「わっ!!」雪だるま

アール「やらせるかよっ!!」斧モード叩き付け

ウカム「(皿 ；)」ダウン

ベル「アール、ナイス!!」斬りかかり

ジン「むんっ!!」打ち上げ

提督「うおっ!!からのよいしょーい!!」ジャンプ攻撃

ウカム「(皿 ；)」潜る

提督「なっ!! 潜らせるか!!」横払い

アール「オラオラ! 出てこいや!!」盾突き

ジン「潜ったぞ!! 走れ!

ウカム「三(、)三(、)皿(、)皿(、)」潜行突進

提督「うひーっ!!」ダツシユ

アール「やっべー!!」ダツシユ

ベル「イヤイヤイヤ!? こっち来ないで!」三(；)皿(、)

ウカム「\ (、) 皿(、) /」地面から出てくる

ジン「このっ!!」スタンプ

アール「何度も走らせるんじゃない!!」チャージ連続斬り

提督「これで、ろっしょい!!」溜め切り

ウカム「(、) (；) 皿(、) 皿(、)」尻尾切断

ベル「ナイスカット!!」

ウカム「三三三三(、) 皿(、) #」氷プレス

ジン「来るぞ、避ける!!」回避

提督「おおっ!」緊急回避

アール「あぶねっ、また雪玉に当たるところだったぜ…」

ウカム「C(、皿、C)「潜る

提督「また潜るのか!？」

ベル「もうよしてー!!」アセアセ

アール「: :」斧モード

ジン「アール?」

ウカム「C(、皿、C)「三」潜行突進

提督「こつちにきたー!!」ダツシユ

ベル「あれ: :アール、何してんだ!？」

アール「何度も潜って来やがって: :いい加減にしろやー!」超高出力属性解放斬り

ウカム「\、皿、;」/「怯んで飛び出す

アール「ぐへー」(、皿、(三)

ベル「おおっ!!すごいよ、アール!!」

ジン「まったく、無茶しやがって」つ「生命の粉塵」

ウカム「(、皿、;)」ダウン

提督「今だー!!」超溜め斬り

ジン「これでどうだ!」スタンプ

ベル「畳み掛けろー!!」乱舞

ウカム「グオオオオオオオオオ・・・!!」
ズズウウウン：

ベル「や、やったー!!と、討伐成功だー!!」

ジン「…なんとか倒せたな」フウ

提督「アーロ、大丈夫か？」

アーロ「ハハハ…どうだ凄かったろ？」ドヤツ

ジン「別に問題は無さそうだな」

アーロ「すみません、むっちや痛いつす」ヨロヨロ

ベル「ほら、肩貸すよ。アーロはいつつも無茶するんだから」

アーロ「いててて!!も、もつと優しく担いでくれよー!!」

提督「…?」

ジン「…提督、どうした？」

提督「ちよつと気になる事が…」コソコソ

ジン「??」クビカシゲ

提督「さてと、後はギルドの人達に任せよう。ギルドの人達が来てから下山して、皆に知らせようか」

i nキス島守備隊基地

金剛「て、テイトクー!!」ダイブ

提督「ちよ、飛びついて…ぶべら!」(三)。3。)。…。

金剛「ご無事でよかったデスー!!」スリスリ

霞「コラ!司令官は戦いで疲れてるのよ!!」プンスカ

金剛「Oh、失礼しました!!提督、大丈夫デスか?」アセアセ

提督「あ、ああ。大丈夫さ…」

瑞鶴「ジンさん!!よかった…怪我とかはない?痛むところはない?」

ジン「…大丈夫だ。心配かけたな」ナデナデ

瑞鶴「ひやつ!?!も、もう…心配したんだから…」

アール「アマーイ…」

兵士A「提督殿!!キス島を守ってくださいありがとうございます!」

兵士B「皆さん、本当にありがとうございます!」

ベル「脅威は無くなったし、問題はないよ」

提督「ギルドの人たちも調査してくれるし、キス島はもう大丈夫だ。さ、皆待つてる

し帰ろうか!」

アール「またなんかあったら呼んでくれよな」ノシ

i n 医務室

アーロ「あいたたた…ふー、ちよつと無茶しちやったかなー」兜以外外す

ミケ「いつも無茶して頑張りすぎだニヤ」消毒

黒丸「テイガに足を噛まれても攻撃したり、デアブロスの突進を正面から受け止めたり、頑張りすぎだニヤ」消毒

アーロ「あだだだ！わ、わるかったってー」

初月「あ、アーロさん。怪我は大丈夫かい？」

アーロ「おー。こんな怪我は日常茶飯事だからへの河童さ」

黒丸「手当てする人の身にもなってくれニヤ」消毒ダー

アーロ「いであで!!ごめなさいです!!」

初月「…ほんと、アーロさんはやんちゃ坊主だな」

アーロ『『我らの団』の団長からもよく言われてたなー』アハハ

初月「…アーロさん。これ、僕からのお土産だ」

アーロ「こ、これは…あの限定10名のマロンケーキ!!」

初月「アーロさんは皆の見えない所でも頑張ってる…縁の下の力持ちだよ。僕はそんなアーロさんがry」

アール「うおおおつ!! 初月、ありがとおおおつ!!」ガバツ

初月「うひやあつ!?だ、抱き着いてくるな!な、撫でるなあつ!!」ワーワー
アール「おーよしよしよしよしよしよし!」ナデナデナデナデ

ミケ「:空気読めないニヤー」

黒丸「初月え:ニヤ」

—この後、駆けつけて来た五十鈴と大井のクロスボンバーによりアールは力尽きた—
in 執務室

提督「:これ、何なんだろうな?」

霞「司令官、その瓶に入っている青い液体は何?」

提督「討伐後、ウカムの後ろ脚に付着していたのを採取したんだが:」

ジン「粘性性の高い液体だったな:明石、これはわかるか?」

明石「うーん:油でもなさそうですね。ごめんなさい、私にもこれはわかりません」

提督「:キス島守備隊基地の兵士に聞いた話によると、ウカムがキス島を襲撃する数日前に超弩級深海棲艦が北方海域の極圏海域で目撃されたらしいんだ」

ベル「その目撃した後にウカムが出てきたのか:」

霞「そのウカムと超弩級深海棲艦と関連性あるのかしら:?」

提督「わからないな:関係ないことなのだが、もしかして、ウカムは別の何かに襲わ

れたのかもしれない」

ジン「…どういことだ？」

提督「たとえば…食べられそうになった、とか」

ジン「それは…ないだろう。あいつを食べようとするモンスターはいるのか？」

ベル「さすがにイビルジョーも食べようとしないよー」

提督「…だよなー。超弩級深海棲艦についてはもう少し調べておこう」

●ウイル、奮闘ス

ウイル「あのー…これ、なんですか？帽子？」

戦艦棲姫「ホッポから聞イタワヨ？提督二なつてくれるんでしょ？」ニコニコ

空母棲姫「コレハ提督の証よ。受け取りナサイ」

ウイル「いやいやいや、俺はまだ提督になるつもりはないですからね!?まだ島の探索とか希少種の生態観察とかを優先にしますからね!？」

軽巡棲姫「えー…ウイルさんならピツタリなだけドナー」

レ級「触りクライ知っテレバ？」ニヤニヤ

ウイル「ま、まあ…一通りは見といてやるよ」

南方棲鬼「ツンデレだな」

空母水鬼「ツンデレね」

ウイル「やかましいわ!？」

ホッポ「それじゃあウイルをご案内スルネ!」グイグイ

戦艦棲姫「まずは簡単な所から教エマシヨウカ」ニコニコ

重巡棲姫「ウイル!こっちに来る!」グイグイ

ウイル「ちよ、今から希少種の観察を……あーれー!」

in入渠（露天風呂）

ホツポ「ここで損傷シタノを直スノ！」

戦艦棲姫「艦娘達と同じように私達もお風呂ニ入ることで傷を癒スコトモデキルワ」
レ級「丁度潜水艦の皆ガ浸カツテル所だ」

ウイル「(〇口〇)」顔を隠してる

戦艦棲姫「ピユアね……」

防空棲姫「こういうところはピユアなのよね……」

in工廠（入り江の洞窟）

ホツポ「ここで艀装ノ修理ヤ補強をシテルノ！」

ウイル「へー……お手入れとか得意なのか？」

戦艦棲姫「艀装の子達の手入れは自分達でやるのだけど、特に集積地棲姫が得意だから彼女に任せているわ」

戦艦水鬼「あ」バツタリ

ウイル「おー。ここが所謂ラボみたいな所かー」

戦艦水鬼「ちよ、何故ココに来た!」アセアセ

防空棲姫「丁度修理する所ね。ウイル、見てミル?」ニヤニヤ

戦艦水鬼「見んな！カエレ!!」

集積地棲姫「今度ハ何処デ派手にヤラカシタノヨ!! 戦艦や空母が資材喰ウンダカラ、モウ少し節約サセテヨ!!」 プンスカ

戦艦水鬼「うう：その、電気ヲ放ツ白い蜥蜴に：」

集積地棲姫「お前は何を言ッテル。資材集めの手伝イシテモラウカラネ！」

戦艦水鬼「(・ω・)」

ウイル「資材？」

レ級「鋼材やボーキサイト、弾薬の事。弾薬は何時でも補充デキルケド、鋼材やボーキは深海からジャ取レナイカラネー」

ホツポ「いつもなら何処か採取したり、艦娘達の基地を襲撃したりシテルノ」

ウイル「襲撃はよくないなー：あ、そうだ。ねえちよつと」

集積地棲姫「ウン？ 貴方ハ確か：戦艦水鬼が言ッてたウイル：」

ウイル「これ、使えるか？」 つ「マカライト鉱石」

集積地棲姫「オオ!? 何これ!? これ、使えるよ!!」 キラキラ

ウイル「これなら火山に行けば取りに行けるしな。他にも洞窟から採取できる」

集積地棲姫「ウイル、貴方ッテ天才ネ！」

ホツポ「さっすが提督!!」 フンス

戦艦水鬼「提督自ら取りに行くトイウノはイイノカ…？」

戦艦棲姫「面白そうだからイインジャナイ？」

数日後

ウイル「ふう、もう少しで地図の完成できそうだ」

ホッポ「色んな所を歩いてキタモンネ！」

重巡棲姫「お肉の他に、果物ヤ木の実、お魚…美味しいものイッパイ！」

ウイル「希少種の他に、飛竜種、獣竜種、牙獣種や鳥竜種…食物連鎖も、生態のバランスがうまく取れている。お互いが無暗に争わず、共生のとれた自然豊かな島だよ」

ホッポ「争いがナイの…？」

ウイル「完璧に無いってことはないんだけど…お互いのテリトリーを無暗に荒らさず、お互いが生き延びるためにむやみやたらと戦ったりしないんだ。あの彼方此方荒らしまわるティガレックスが同種や別種にすぐケンカを吹っ掛けないから珍しいんだよ。ティガが縄張りを持ち、大人しくなるほど餌に豊富ってことさ」

ホッポ「自然って奥深インダネー」

ウイル「近いうちに他の島も調べてみようかな。きつとそこにも凄いものがあるかな！」

ホッポ「ウン!!面白そう！」

重巡棲姫「……？戦艦棲姫、ドウカシタノ？」

戦艦棲姫「ウイルス……少し話してオカナイトイケナイ事が起キタワ」

ウイルス「うん？何かあったのか……？」

戦艦棲姫「最近、艦娘達の動きが大規模な事にナツテキテルノ」

ウイルス「艦娘達が……？」

戦艦棲姫「ヲ級達に通信信号をキャッチしてモラツタラ……何やら各海域で巨大な深海棲艦が暴レテイルツテ聞クの」

ウイルス「巨大な深海棲艦!? そんなのいるのか!？」

戦艦棲姫「いいえ。そんなのはイナイし、見タコトガナイワ……デモ」

ウイルス「でも……って、顔色悪いぞ。大丈夫か？」

戦艦棲姫「ソイツハ深海中枢海域カラ来タツテ聞ク。モシカシタラ……『奴』ジャ……グツ!？」ズキツ

ホツポ「戦艦棲姫!? 大丈夫!？」アセアセ

ウイルス「おい、しっかりしろ!?! 頭痛か? どこか痛むのか?」

戦艦水鬼「今は無暗に刺激をしてヤルナ。昔の記憶を思い出そうとしているダケダ」

ウイルス「昔の記憶? その、お体とか大丈夫なのか!？」アセアセ

戦艦水鬼「無理に思い出そうとスルナ……お前は張り詰めすぎだ。少し休メ」

戦艦棲姫「水鬼……ゴメンナサイ……少シ、休ムワネ……」グツタリ

ウイル「大丈夫か？頭痛なら落陽草の根で漢方薬作ってやるからな」

戦艦棲姫「ウイル……ありがとう。少し休メバ大丈夫ヨ……」

戦艦水鬼「……ウイル、戦艦棲姫が言つてた様に訳の分からん奴のセイデ艦娘達が連合艦隊を組み、海域の行動範囲を広げている。いつココに来るか、時間の問題ダ」

ウイル「防衛範囲とか大丈夫なのか？」

戦艦水鬼「奴らは海からダカラナ。三式弾や大発動艇などが来たら陸地は一溜まりもナイゾ」

ウイル「島にも被害が出るのか……？」ゴクリ

防空棲姫「ウイル!! 貴方が守ろうとしてるこの島に砲弾なんて私が撃ち込ませたりサセナイワ!!」

駆逐水鬼「それに夜戦なら私に任せて! 艦娘達を追い払ってヤルワ」

空母棲姫「ウイル、貴方は自信を持ちなさい? 姫や鬼級の深海棲艦がこんなにイルノヨ? 何度でも追い払ってヤルワヨ」

ウイル「……お前ら」

ホッポ「ウイル! 私も頑張る! 皆でタノシイウミにシタイモン!!」

ウイル「……わかった。これが落ち着くまで。俺達で追い払うぞ」

レ級「よし、その意気だよウィル!!」

軽巡棲姫「これを機に、ウィルにアピールしなくっちゃ(使命感)」

ウィル「その代わり!! 前線は俺が出る。艦娘達を沈めるな。お前ら無茶すんな。深海棲艦も艦娘も誰一人沈めさせんぞ」

深海棲艦達「えー」

ウィル「ヤル気満々だなお前ら!」

—— ウィル達の島周辺海域 ——

艦載機<テヤンデー、テヤンデー!

空母棲姫「あれから見回りをしたけど…遂二艦娘達がこの周辺に来タワネ…」

空母水鬼「先輩、ビビってるのおー?」ニヤニヤ

空母棲姫「先ず先に貴女からぶん殴るワヨ?ウィルに知らせなさい」

空母水鬼「ハアアア」艦載機発射

艦載機<ガッテン、ガッテン!

空母水鬼「先輩…ウィルさんの指示で大丈夫デシヨウカ…?」

空母棲姫「ウィルは一度艦娘を追い払ったことがアルノ。ウィルを信じるワ」

空母水鬼「そうデスネ…先輩! 艦娘達が来マス!! しかも連合艦隊デスヨ!!」

空母棲姫「それじゃあ、少し戻ルワヨ!!」ダッ

翔鶴改ニ「…」ポカーン

叢雲改ニ「翔鶴さん？敵艦を発見したのですか？」

翔鶴「え、ええ…空母棲姫と空母水鬼の2隻…」

陸奥「ええっ!?なにそれ!？」

木曾改ニ「ええっ!?なんでこの海域に姫級と鬼級が!？」

比叡改ニ「でも2隻なら連合で行けますよ！」

赤城「!?待って…他の敵艦が見えてきたわ…!!」

綾波改ニ「敵艦の数は…?」

蒼龍改ニ「数は…うそ…戦艦水鬼、防空棲姫、駆逐水鬼、戦艦レ級、空母棲姫、空母

水鬼…」

摩耶改ニ「何そのラスボスのオンパレード!？」

翔鶴「待って!?あともう一隻、何かいます…!？」

ウイル「…ハチミツヨコセ」イ級にライド

蒼龍「なんかよく分かんないのがあるー!？」

摩耶「もしかして…妖怪『ハチミツヨコセ』じゃねーか!？」

ウィル「ハチミツヨコセー!!」ダッ

比叡「ヒエー!?なんかこっちに来ますよ!」

赤城「と、とりあえず艦載機を発艦させます!!」艦載機発艦

蒼龍「あの变なのを撃沈させて!!」艦載機発艦

翔鶴「お、お願いします!!」艦載機発艦

艦載機<ウオー!!

空母水鬼「そうはさせないワヨ!!」艦載機発射

空母棲姫「ウィルを援護スルワ!!」艦載機発射

艦載機<ヒヤッハー!

ウィル「さあ、久しぶりに駆けるぞサシミ!!」

イ級(サシミ)「キュー!!」

防空棲姫「対空砲で撃ち落としてヤルワ!!」対空カットイン

ズドドドーン!!

蒼龍「あつちにも対空カットインがあるの!?ずるいわよ!」

ウィル「オラー!!ハチミツヨコセー!!」つ三「ペイントボール」

比叡「ひゃあつ!?あれ?痛くない…ってクサっ!」

摩耶「ハチミツなんてねーよ!!」ドーン!

ウイル「よつと」サシミと一緒にジャスト回避

摩耶「」

陸奥「イヤイヤイヤ!?!何あの避け方!?!」

叢雲(あれ…?あの避け方、何処かで見ることがあるような…)

戦艦水鬼「ほら。そいつに気を取られたら狙われるワヨ!!」ドドーン!!

赤城「きやあつ!?!」critical!中破

レ級「こつちこつち!!」ドドーン!!

比叡「ヒエーっ!?!」中破

綾波「他の敵艦もいるのを忘れてました!まず先に…」

ウイル「ウラー!!ハチミツをヨコセー!!」三。△。(

綾波「キヤー!?!」

木曾「駆逐艦の子達に何しやがる!!」魚雷発射

ウイル「…えっ?」

ドドーン!!

ウイル「あばーっ!?!」

イ級「キューツ!?!」

摩耶「やったぞ!!妖怪『ハチミツヨコセ』を撃沈できたぞ!!」

木曾「しつこい奴はいなくなつた…これで他の深海棲艦を…」

駆逐水鬼「ウィルを…許さない…」ゴゴゴゴ

防空棲姫「あなた達、覚悟はできてるのかしら…？」ゴゴゴゴ

赤城「…なんか怒つてませんか？」

蒼龍「なんだろ、殆どの艦にflagshipみたいな金色のオーラが…」

ゴボゴボゴボ…

陸奥「ちよ、なんかゴボゴボいってるわよ!？」

翔鶴「な、なにか来ます…!」

重巡棲姫「ヴェアアアアアアアア!!」\ (0 言 0 *) /

ウィル「ハチミツ…ヨコセー!!」重巡棲姫におんぶしてる

ホツポ「ハチミツヨコセー!!」

陸奥&翔鶴「増えたああああっ!」(; 彡)。

比叡「しかも重巡棲姫に北方棲姫までいますよ!？」

ウィル「ハチミツヨコセ!!」

ホツポ「ハチミツヨコセ!!れっぷーヨコセ!!」

重巡棲姫「ついでにこんがり肉もヨコセ!!」

摩耶「さりげなく烈風やお肉よこせって言ってるし!!」

木曾「まさか…あのよく分からない奴を倒したら増えるのか…!?!」

叢雲「司令官から伝令!!これ以上の戦闘は危険、今すぐに撤退せよ!」

ウイル「ハチミツヨコセー!!」ウオオオオオ

重巡棲姫&ホツポ「ヨコセー!!」ウオオオオ

綾波「ひゃあああつ?!?ないです、無いですごめんなさーい!!」

叢雲「兎に角撤退!!帰るわよ!!」

比叡「この海域には来たくないですー!!」

艦娘撤退!

ウイル「もうこの海域にくんなー!!」

ホツポ「カエレ!!」

重巡棲姫「ヴェアアツ!!」

空母棲姫「…勝っちゃったよ」

防空棲姫&駆逐水鬼「ヤッター!!」

戦艦水鬼「あいつ、本当に無茶苦茶ネ…でも、よかつたわ」ホツ

空母水鬼「あれれ?気に入ッタノ?」ニヤニヤ

戦艦水鬼「ち、違ウワ!!とにかく、次もあるかもしれないから警戒は緩めないワヨ」

摩耶「ほ、ほんと怖かったー…」

蒼龍「今度はハチミツが必需品ね…」

綾波「夢に出てきそうで怖いです」ガクブル

赤城「…それにしても、あの深海棲艦達…私達を沈める気がありませんでしたね」

翔鶴「まるで敵意が全くないようで…不思議でした」

叢雲「今、元帥殿から伝令が来たわ…あの海域は今件とは無関係。妖怪『ハチミツヨ

コセ』がいるからあの海域にはしばらくは寄らないわ」

比叡「よ、よかったー…」

木曾「…あの海域は別の意味でヤバいしな」

陸奥「世の中には不思議な事があるのね…」

叢雲「…あなた、じゃなかった司令官、聞こえる?」

孫市提督『ああ、叢雲。すまなかったな、あの海域にあんなのがいるなんてな』

叢雲「仕方ないわよ…妖怪『ハチミツヨコセ』がいるなんて誰も予知できないし」

孫市提督『それで叢雲、気になる事があるって言ったがどうかしたのか?』

叢雲「ええ：妖怪『ハチミツヨコセ』の事で気になる事があるの。司令官、いつでもいいからクロードさんに聞いてみて」

孫市提督『うん？それはどういふことだ：？』

叢雲「クロードさんに聞いてほしいの：クロードさんの仲間にかつて黒い鎧を着た男がいなかったか」

—— 数日後 ——

ウイル「：もう大丈夫なのか？」

戦艦水鬼「ああ。数日前にヲ級から艦娘達の通信をキャッチして、この海域には寄らないという事だ」

ホツポ「ウイル!! 良かったね！」

防空棲姫「ウイル、やるじゃないの!!」

ウイル「よ、良かったー：：これでこの島は大丈夫だな！」

戦艦水鬼「お前は凄いナ。島だけじゃない、私達をも守ってくれた：：」

駆逐水鬼「ウイルはさりげなく凄い事してるんだよ」

重巡棲姫「ウイル!! 大好き！」ガバツ

ウイル「ぶべらっ!？」

戦艦棲姫「暫くは…大丈夫ナノネ…」

戦艦水鬼「そうだな。あの男なら…私達を、導いてくれるかもしれない…そして…」

駆逐棲姫「ウイルさん、大変です!!」アセアセ

ウイル「ど、どうした？」

駆逐棲姫「…島の反対側の浜で凄い怖そうな生物が上陸して…樹海二入るや否や大暴れしてるんデス!!」

南方棲鬼「私も一緒に見たのだが…まるで彼方此方を食い荒ラシテルンダ!」

ウイル「…そいつ、黒い緑色だったか? 傷が沢山あったか?」

駆逐棲姫「は、はい! それに顎から凄いトゲトゲしたのがイツパイ!!」

ウイル「…それは大変だ…!!」ダツ

ホツポ「ウイル!! どこ行くの!？」

ウイル『『恐暴竜』イビルジョー…!! 奴を倒さなくちゃ…!! じゃないとこの島の生態系、すべて食い尽くされる!』

96 MS 諸島海戦、仄暗い冥海から

in 執務室

提督「うん？孫市提督殿が俺に？」

霞「ええ、司令官にどうしても聞きたいことがあるみたいよ？」

提督「そつかー…あれからお会いしていないしな。霞、すぐにお会いするって伝えといてくれ」

霞「わかったわ。伝えておくわね」

ジン「海域攻略の指揮は俺達に任せておけ」

ベル「提督は張り詰めすぎだから、時には息抜きも大事だしね」

提督「すまないな…。そうだ、霞もくるか？」

霞「えっ？わ、私？」

ジン「霞は提督の秘書艦だし…行ってこい」

霞「ま、まあ秘書艦なら仕方ないわね！司令官だけじゃ心配なもの！」

大淀「霞ちゃん、物凄く嬉しそうね…」

ベル「素直だなー」

提督「すぐに南西諸島にある泊地へと向かう。ジン、ベル、よろしくな」

ジン「ああ、任せろ」

霞「あれ？そう言えば、アールさんは…？」

提督「ああ、アールには輸送作戦を任せてるんだ。大本営から南西諸島の泊地に輸送する任務が来ていてな。アールが是非ともやらせてくれって張り切ってたから頼んでいる」

霞「ええー…し、心配だわ」

大淀「助手を加賀さんと大井さんにやつてもらってますので大丈夫だと思いますよ…たぶん…」

in 工廠

アール「ついに来た…俺達の輸送作戦だぜ!!」

阿武隈「アールさん…心配しかないんですけど、大丈夫ですか？」

川内「輸送作戦の指揮、お願いしますね！」ワクワク

アール「行けば分かるさ、うんたらかんだらだぜ!!」ドヤツ

電「それで…編成はどうのですか？」

アール「…戦艦6人とか？」クビカシゲ

大井「このっ…ダボがアアアッ!!」ジャーマンスープレックス
アール「ひでぶーっ!？」

青葉「き、決まったー!! 大井さんのジャーマンスープレックスだーっ!!」
電&雷「やったー!!」

大井「そんな輸送作戦あつてたまるかつての!! もう、ここは練習艦時代の経験を活かして私がしごいてやります!!」

加賀「ついでに私もお供いたします」

アール「チーン

古鷹「あ、アールさん!？」ユサユサ

曙「もうしごかれて指揮どころじゃなさそうなんだけど…」

大井「ほらっ!! しっかりしてください」往復ビンタ

アール「…ハッ!! 今、スパルタな軍曹みたいおっさんの天使がビンタしてきたよう
な…」

大井「指揮するんならしっかりしなさい。いい? 輸送作戦はスピードと的確さが大事
なのよ」

加賀「軽巡を旗艦で駆逐艦を入れた編成や軽空母を入れた編成がありますね」

アール「なるほどなるほど…じゃあ川内と龍驤を入れて、皐月、曙、雷、時雨の6名

で行こうか！」

皐月「やったー!! 僕に任せてよ!!」

雷「腕がなるわ! アーロさん、もつと頼っていいからね!」

曙「ちゃんと指揮してくれるのかしら」

時雨「ドラム缶も忘れないようにね」

アーロ「うーん…」

大井「アーロさん、何か考えでも?」

アーロ「…俺も第二イサナ号で出ればもつと効率が上がるかもな…」

大井「いや、ダメに決まっていますからね!」

皐月&雷「ワクワク…」キラキラ

加賀「…安全性を考えれば、大丈夫なのは?」

大井「ええー…」

in 執務室

ジン「それじゃ、MS 諸島への出撃メンバーは…旗艦を初月に、長門、利根、鈴谷、不知火、赤城の6名だ」

利根「ふっふっふ、遂にわしの出番じゃな!」ドヤア

初月「いよいよ僕も出撃か：頑張らなくちや」

長門「うむ、私に任せておけ！」

ベル「提督のいない間、俺達で頑張ろうね」

赤城「はい、私達で作戦を成功しましょう」

鈴谷「うーん、緊張するー！」

不知火「ジンさん：」

ジン「どうかしたのか？」

不知火「これを持って行ってもよろしいですか？」 つ妃竜砲【神撃】

ジン「：うん、それはダメ。しゃがみ撃ちもダメ」

不知火「(・ω・)」ヌイ・・・

ベル「よ、よーし！皆、頑張っていこう!! 出撃だー!!」

艦娘一同「はいっ!!」

不知火「か、回復薬はダメですか：？」

ジン「：モスジャーキーならいいぞ」

ベル「どれもダメでしょ!？」

in 中部海域 | MS 諸島沖

不知火「……」モスジャーキーモグモグ

鈴谷「ぬいぬい、今それ食べるの!？」

不知火「ええ。自然回復力が付くようなので」

鈴谷「いや、よく分かんないけど……」

利根「うむ!なんだかそんな気がしてきたぞ!!」モスジャーキーモグモグ

鈴谷「あんたもかいな!？」

長門「ここから敵海域だ。あまり油断はするな……モグモグ……」モスジャーキーモグモグ

グ

鈴谷「うん、長門さんが一番説得力がないのだけど……」

初月「大淀さんと鹿島さんから索敵値で羅針盤が変わるようだけど、大丈夫かな……?」

赤城「ふおふおつふえふあふあふあい!! (艦載機が敵艦を発見したようです!)」モス

ジャーキーモグモグ

初月「赤城さん!よく分からないのですが!」アセアセ

赤城「ゴクン……敵艦は軽空母2隻、戦艦、軽巡1隻、駆逐艦2隻です!!」

長門「軽空母だが被弾に気を付けろ!! 対空砲用意!!」

利根「よし、瑞雲の出番じゃな!ゆけつ!!」瑞雲発艦!

鈴谷「私もやるわ。瑞雲ちゃん、頼んだよつ!!」瑞雲発艦!

赤城「艦載機の皆、宜しくお願い致しますね！」艦載機発艦!!

軽母又級A「ポーツマス、ポーツマス!!」艦載機発射

軽母又級B「ゲッツ&ターン&ゲッツ!!」艦載機発射

瑞雲&艦載機<ウラララー!! ババババツ 敵艦載機<グゝツ!!

利根「むむっ!! 敵艦載機がくるぞ!!」

初月「ここは僕の出番だ。長10cm砲ちゃん、行くよ!!」

長10cm砲ちゃんズ「キュキューツ!!」ドドドーン!!

敵艦載機<ザンネーン!? 撃墜!

鈴谷「オオ!! やるじゃん!!」

長門「さすがは初月だな!」

初月「えへへへ:」

軽巡ツ級「SAGA、サガっ!?」critical! 撃沈

駆逐イ級A「右カラ左へ受ケ流スーッ!?」critical! 撃沈

長門「いいぞ、このまま続け!!」ドドーン!!

軽母又級B「ララライツ!?」critical! 撃沈

戦艦ル級「右ヒジ左ヒジツ!!」ドドン!!

利根「のじゃっ!?危ないではないか!」小破

鈴谷「このっ!!やってくれるじゃないの!!」ドドン!!

駆逐イ級B「キレテナイツスヨ!」critical! 撃沈

赤城「一航戦の誇りにかけて：行きます!!」艦載機発艦!

艦載機<オイベイカツ! ババババツ

戦艦ル級「アルアル探検隊ツ!」大破

軽空又級A「ワイルドダロウ?」艦載機発射

敵艦載機<安心シテクダサイ、ハイテマスヨ!

不知火「つと、これなら問題はありません」回避

利根「よく狙って撃つのじゃ!」ドドン!!

戦艦ル級「デスヨデスヨーツ!」critical! 撃沈

不知火「これでもくらいなさい」ドドン!!

軽母又級A「ラッスン!」小破

初月「そこだ、撃てっ!!」ドドン!!

軽母又級A「ゴレライイイイツ!」critical! 撃沈

長門「よし……まずは初戦は勝ち抜けたな」

鈴谷「利根っち、怪我は大丈夫？」

利根「なーに、問題ない!!モスジャーキーのおかげで自然回復してきている気がするぞ!!」

鈴谷「うん、気のせいだからね!」

初月「ジンさん、ベルさん、このまま進撃するよ?」

ベル『ああ、道中は気を付けてね』

ジン『……生命の粉塵も効果あるのか?』

瑞鶴『ジンさん!?それ使ったらダメだからね!』

不知火「赤城さん、このまま索敵をお願いします」つモスジャーキー

赤城「ええ、任せてくださいな」

鈴谷「こらそこ、また食べないの」

――進撃中――

長門「この調子でどんどん進んでいくぞ!!」

不知火「戦闘は合わせて2回でしたし、これなら最短でボス艦隊へ向かうことができ
ますね」

初月「この海域にもゲージがあるみたいだけど……この調子でいけば3回の出撃で突破

できそうだ」

赤城「そうですね…ですが、慢心は禁物ですよ？」

利根「むっ!! 瑞雲が敵艦を発見したようじゃ！」

赤城「同じく艦載機の子達も見つけたようね…輸送艦が1隻、空母、戦艦、軽巡が1隻、駆逐艦2隻!!」

鈴谷「しかもあの空母、すつごく強そうなオーラを出してるよ!!」

長門「うむ…中部海域哨戒線でもあったように白い艦載機を持つ空母か。気を引き締めていくぞ!!」

空母ヲ級「艦載機トハ違ウノダヨ、艦載機トハ!!」艦載機（白）発射!

赤城「こちらも対抗します!! 艦載機の皆さん、お願いします!!」艦載機発艦!

鈴谷「瑞雲、もうひと頑張りだよっ!!」瑞雲発艦!

利根「さあ、行くぞ瑞雲!!」瑞雲発艦!

瑞雲&艦載機<ネライウツゼー!　ババババツ　敵艦載機（白）<見セテモラウ

瑞雲ノ性能トヤラヲ!

駆逐イ級B「ザクツ!」critical! 撃沈

空母ヲ級「フツ、当タラナケレバドウトイウ事ハナイ」回避

長10cm砲ちゃん「キューツ!!」アセアセ

初月「くっ、全部撃ち落としきれなかった…皆、気を付けて!!」

長門「フォローは任せておけ!」ババババツ!

利根「のじやーっ!?痛いではないか!」critical!大破

鈴谷「利根っち!!やったわねーっ!!」ドドーン!!

駆逐イ級A「ザクIIツ!」critical!撃沈

戦艦ル級「ゲルググツ!!」ドドーン!!

鈴谷「うわっ!?いったーい…」critical!大破

長門「押し負けるな!いくぞっ!!」ドドーン!!

戦艦ル級「ドムツ!」critical!中破

赤城「装備換装、急いで!!」艦載機発艦!

軽巡ツ級「グフツ!」critical!撃沈

空母ヲ級「見エルゾ!!私ニモ敵が見エル!!」艦載機発射!!

赤城「きやあっ!?くう…あの空母、手強いわ…!!」

初月「これ以上、やらせはしないぞ!!」ドドーン!!

戦艦ル級「ビグザムツ!」critical!撃沈

不知火「逃がしはしないわ…!!」ドドーン!!

空母ヲ級「グツ!? 冗談デハナイ…!」小破壊

初月「不知火、雷撃いくよ!!」魚雷発射!

不知火「ええ、ジンさんに鍛えられたしやがみ撃ちで…ゲフンゲフン、この魚雷をくらいなさい…!!」魚雷発射!

空母ヲ級「ヌウウ…忌々シイ!」小ダメージ

初月「ジンさん、ベルさん!! 夜戦突入の許可を!!」

ジン『ああ…利根、鈴谷、赤城、大丈夫か?』

鈴谷「チョツチ痛いけど、これぐらい我慢できるよ!!」

利根「むしろも頑張つて避けるから、問題は無いぞ!」

赤城「ジンさん、ベルさん、私達は大丈夫です。お願いします」
ベル『よし、夜戦突入だ!』

——夜戦突入ス!!——

初月「夜戦だ、望むところだ。行くぞ!!」ドドーン!!

空母ヲ級「グヌウ!? 認メタクナイモノダナ…!」critical! 大破

不知火「沈め…つ!!」魚雷発射!

空母ヲ級「グアツ!?…エエイ、鎮守府ノ駆逐艦ハ化ケ物カ…!」critical!

撃沈

長門「でかしたぞ!!後は任せておけ!!全砲門掃射、撃てええええっ!!」ドドドーン!!
輸送ワ級「デ、デスヨネー!」c r i t i c a l!撃沈

初月「よし…!!第一戦は僕達の勝利だ!!」

不知火「敵の空母に強力な敵がいましたが…何とかかなりましたね」

鈴谷「もー、二人ともかつこよすぎー!!」

利根「わしらの出番もよこすのじゃー!」

ジン『皆、よく頑張った。一先ず、鎮守府へ帰還してくれ』

ベル『これなら海域を突破できそうだね』

赤城「ええ。この調子でがんばりましょ」

長門「提督のためにも奮闘せねばな…」

i n 南西諸島泊地 | 総指令室

孫市提督「やあクロードくん。久しぶりだね」

提督「孫市提督殿、お久しぶりです」ペコリ

孫市提督「あはは、そう畏まらずに。娘が言ってた通り、恐縮しすぎだよ」

叢雲「あなたも大変そうね…」

霞「ま、まあね。司令官はマイペースすぎなのよ…」

孫市提督「そういえば、すまないね。君の鎮守府にまで輸送作戦を頼んでしまった」

提督「いえ、お気になさらないください。おかげでアークが張り切ってますし」

孫市提督「それはよかった…ここ最近、大きな渦潮が所かまわず突然発生するようですね、輸送物資だけじゃない、深海中枢海域への進撃も滞ってしまっている」

提督「それは大変ですね…俺達も早く皆さんに追いつくよう、早く中部海域を攻略し
ますよ」

孫市提督「ありがとう。でも慌てなくていい。君達のペースで休みながらもついて来て大丈夫だ」

提督「すみません…あ、そうだ。うちの養蜂場で採れたハチミツです」つハチミツ

孫市提督「おお、これは有難い！」

叢雲「ちよつと、あなた…じゃなかった、司令官…」小突く

孫市提督「あ、ああ。そうだったな…実は君に聞きたいことがあるんだ」

提督「そういえばそうでしたね…何か気になる事が…？」

孫市提督「…クロードくん、君達の仲間にかつて、黒い鎧を着た男はいなかったかい

…？」

提督「!？」

叢雲（やつぱり……もしかして…）

霞「……」

提督「ど、どうしてそれを…？まさかウイルスに会ったのですか!？」

孫市提督「ウイルス…？クロードくん、ウイルスという人物について詳しく教えてくれな
いか？」

提督説明中

提督「…そして、嵐の夜に黒い海竜、ラギアクルス希少種との戦いで大事な友を、ウイ
ルを失ったんです…」

霞「司令官……」

叢雲「……」

孫市提督「そうだったのか…すまない。辛い事を思い出せてしまって…」

提督「いや、いいんです…失った人はもう二度と会えない。だからこそ、忘れては
いけないんです」

霞「ねえ、どうしてウイルスさんの事を聞こうと思ったの？」

叢雲「質問を質問で返すようで悪いのだけど…妖怪『ハチミツヨコセ』は聞いたこと
があるわよね？」

霞「ええ、全鎮守府に知れ渡った謎の深海棲艦でしょ？」

孫市提督「その妖怪『ハチミツヨコセ』の事について少しわかったんだ…もしかしたら深海棲艦ではない可能性が高いんだ」

提督「深海棲艦ではない？」

孫市提督「ああ。叢雲がその妖怪『ハチミツヨコセ』に出くわしてな、その動きと姿が一風変わっていた。クロードくんの話を聞いて確信したよ。もしかしたら妖怪『ハチミツヨコセ』の正体は…ウイ（ry）」

陸奥「孫市提督!! 大変よ!!」 ダンッ

文月「大変ですー!!」

叢雲「ちよ、ちよっと!?! どうしたの!?!」

陸奥「南西諸島沖で輸送部隊と進撃部隊が襲撃されてるわ!!」

文月「それだけじゃないの、大暴れしてるの!!」

孫市提督「襲撃だと…!?! 深海棲艦か!?!」

陸奥「違うわ…海中から黒くて巨体の竜が突然現れて襲ってきたようなのよ!!」

提督「海から…黒い竜…」 ガタッ

霞「司令官!?! どうしたの…!?!」

提督「その竜は何か放っていなかったか!!」

文月「う、うん…話によると黒いビリビリしたのを撒き散らしてるの!」

提督「大変だ……!! 孫市提督殿、話は後で!! 俺がすぐに行きます!!」

孫市提督「クロードくん!?! 慌てているようだ、何か心当たりがあるのか!?!」

提督「奴だ……ラギアクルス希少種……!! 奴が来やがった」

9 7 冥海の雷光 前

i n 南西諸島泊地―母港

提督「よかった、念のために道具も持ってきて正解だったな」

孫市提督「クロードくん!!まさか君一人で行くつもりかい!」

提督「大丈夫ですよ。それに誰か行かないと奴を止めることができせんから」

霞「司令官……」

提督「霞、鎮守府にいるジン達に知らせてくれ。あいつ等ならすぐに駆けつけてくれ

るかい」

霞「うん……」

孫市提督「クロードくん……無茶だけはしないでくれ」

提督「すみません……よし、行ってくる!」

孫市提督「行ってしまったね……」

霞「……」

孫市提督「彼の事が気になるのかい?」

霞「え、えつと……は、はい」アセアセ

叢雲「……ねえ、その件はあたしが伝えておくわよ？」

霞「えつ……」

叢雲「あなたの気持ち、わかるわよ。ああいう人って相変わらず傍にいてあげないと無茶をするのよね」チラッ

孫市提督「……」ニガワライ

霞「！……ありがとう……!!」

i n 南西諸島 | 沖ノ島沖

提督「千里眼の葉だと……確かこの辺りにいたな」キヨロキヨロ

ゴゴゴゴゴ……

提督「むっ!! あそこの渦潮……不自然すぎる……ということとは、ここかつ!!」つ三【音爆弾】

キーンッ!!

ラギアクルス希少種「\ (、皿 #) /」グオオオオオオン!!

提督「そこにいたか……黒いラギア、『ラギアクルス希少種』!」つ輝王剣リオレウス

ラギア希少種「(#、皿) 三●」雷プレス

提督「おっと!?ガードっ!!」大剣ガード

ラギア希少種「(、皿、C)」潜行

提督「:ウイル、仇はとってやるからな!」ダイブ

in水中

提督「だいぶ深く潜行したな:」スイスイ

ラギア希少種「三(#、皿、C)」突進

提督「うおっ、あぶねっ!」回避

ラギア希少種「(、皿、#)」グオオオオオオッ!!

提督「うるせーっ」(C; D、)C

ラギア希少種「(、皿、#)三」雷タツクル

提督「むっ!!」ガード

ラギア希少種「三(#、皿、C)」往復タツクル

提督「ぬうっ:!!」ガード

ラギア希少種「(、皿、皿)」噛みつき攻撃

提督「よっと:お返しだ!!」抜刀斬り

ラギア希少種「(#、皿、C)」尻尾攻撃

提督「ぶっ!?!」(O)、3、):..

ラギア希少種「三(＃、皿)」突進

提督「よっ!! これでもくらえ!」つ三〇【閃光玉】

ラギア希少種「(；×皿×)」眩暈

提督「背中辺りを…こうだっ!!」溜め斬り

ラギア希少種「(；皿)」怯み

提督「からの、もういっちょ!!」超溜め斬り

ラギア希少種「(＃、皿)」尻尾振り払い

提督「うおっ!?!」回避

ラギア希少種「三(＃、皿)三」三方向渦潮飛ばし

提督「ひえーっ!?!あ、危なかったー…」緊急回避

渦潮くよう、また会ったな

提督「そうだった!?!こいつ不規則に動くんだった!あーれー」(；皿、)

ラギア希少種「(＃、皿)三●」拡散電ブレス

提督「うわおっ!?!」ガード

ラギア希少種「(＃、皿)三●」二発目

提督「もう一発か!?!あばーっ!?!」三(皿)。(皿、)

ラギア希少種「三(＃、皿)」雷タツクル

提督「おっと…回復させてー」つ回復薬グレート

ラギア希少種「(、皿、#)三」往復タツクル

提督「むんっ!!」躲して抜刀斬り

ラギア希少種「(、皿、#)(「噛みつき攻撃

提督「おおっと、このっ!!」回避して振り下ろし

ラギア希少種「(、皿、;)」怯み

提督「おーし、もういつちよ!!」溜め斬り

ラギア希少種「(、皿、#)「ビリビリ…

提督「げっ!!電気を帯びて力を溜めている…これはやばいつ!!」急いで泳ぐ

ラギア希少種「(、皿、#)「広範囲放電攻撃

提督「ぬわーっ!!」…(、ε。()

ラギア希少種「(、皿、#)「威嚇

提督「いてて…かなりの範囲で放電するんだったよな」つ回復薬グレート

ラギア希少種「(、皿、#)三」突進

提督「こっちこないでー!!」(； 皿、)三

ラギア希少種「(、皿、)三●」拡散雷プレス

提督「ひえーっ!!?範囲広すぎい!!」泳いで避ける

ラギア希少種「(#、皿)三●」2発目拡散雷プレス

提督「もう一発!!なんのつ!!」泳ぎ切って抜刀斬り

ラギア希少種「(#、皿)つ」尻尾攻撃

提督「よつ、当たらねえぜ!!」躲して横薙ぎ

ラギア希少種「()」連続噛みつき攻撃

提督「ぶべらっ!!」(; 皿、)

ラギア希少種「三(#、皿)三」3方向渦潮飛ばし

提督「ヒエツ」大剣ガード

ラギア希少種「((#、皿))」ビリビリ…

提督「うっそ!?!この距離で!?!」

ラギア希少種「\ (#、皿) /」広範囲放電攻撃

提督「おおおっ!!」ガード

ラギア希少種「(#、皿)威嚇

提督「あ、危なかったー…うん?」

渦潮くムダムダムダーツ

提督「今度は戻って来るんかい!?!ぬわーっ!?!」(; 皿、)

ラギア希少種「(#、皿)三●」拡散雷プレス

提督「このっ…!! あぶねえだろっ!!」避けて抜刀斬り

ラギア希少種「三(＃、皿、)」雷タツクル

提督「ぬつく…、渦潮のせいで酸素が少なくなってきたか。急いで水上へ…」スイス

イ

ラギア希少種「三(＃、皿、)」マテヤ

提督「ちよ、こつちくんなし!」つ狂走薬グレート

in 水上

提督「ぶはっ!! 急いで泳いで来たせいで余計酸素の残量がやばかった…」ヒーヒー

ゴゴゴゴ

提督「ぬっ、追いかけて来たか…もう一度潜つて…」

霞「いたっ!! 司令官!!」

提督「か、霞!? 何でこんな所まで来た!?!」

霞「クズ司令官は…: いつも一人で無茶しようとするんだから。もつと他の人にも

頼りなさいよ!」

提督「…あれ? この感じどっかで見ただことがあるぞ…?」

霞「アーロさんが南西諸島に物資を輸送してたから、もうすぐアーロさんが駆けつけ

てくれるわ。それまで時間を稼ぐわよ」

提督「……」

霞「さ、私の手に掴まって！」スッ

提督（!! そうだ… 思い出した。あの嵐の夜の時もこうして助けてくれたんだ…）

霞「さあ早く!!」

提督「ああ…!!」

ラギア希少種「＼（＃、皿、）／」グオオオオオオオンン!!

霞「急いで飛ばすわよ!!」ダッ

提督「霞、あいつの拡散雷プレスと放電には気を付けろ。危なくなったら手を離して

いいんだからな」

霞「何言ってるのよクズ!! 離すわけないでしょうが!!」プンスカ

提督「…ですよねー」

ラギア希少種「三（＃、皿、）突進

霞「あんたが水中を速く泳げるように、艦娘だつて早く海の上を駆けられるんだから!!」

ザザザザザ

提督「あばばば…」水飛沫に当たりまくる

霞「これでもくらいなさい!」魚雷発射!

ラギア希少種「Σ（＃、皿、）」被弾

霞「なかなか頑丈な奴ね：深海棲艦より厄介だわ」

提督「黒いラギアは特に甲殻が堅いからな：」

ラギア希少種「（＃、皿、）三●」拡散雷ブレス

霞「あれね：！！司令官、ちよつと荒つぽく動くわよ！！」ダッ

提督「あばばばっ!?」水飛沫直撃

ラギア希少種「（＃、皿、）三●」拡散雷ブレス

霞「駆逐艦の機動力をなめないで！！」ザザザザ

提督「水飛沫が当たりまくる

霞「ちよ、司令官!?だ、大丈夫!?!」

ラギア希少種「三（＃、皿、）」突進

霞「そんなの、全然怖くないわよ!!」魚雷発射!

ラギア希少種「（、皿、＃）（、）躲す

霞「避けられたっ!?!」

ラギア希少種「三（＃、皿、）」突進

霞「つ：!!」連装砲を構える

アーロ「うらーっ!!撃龍槍アタックじゃーい!!」カーンッ

第二イサナ号くオラオラオラオラオラー!

ラギア希少種「Σ（、皿、；）」怯み

提督「アーロ!!」

弥生「コタロウ、司令官を助けてあげて!!」

コタロウ「（#、皿）三〇」火球プレス

ラギア希少種「Σ（、皿、；）」被弾

アーロ「大井つち、雷撃用意!!他は撃つて撃ちまくれ!!」

大井「効くかどうかわからないけど、やってやるわ!!」魚雷発射!

足柄「おらーっ!!霞ちゃんに手を出すなコノヤロー!!」ドドーン!!

金剛「全砲門、ファイアーっ!!」ドドーン!!

ラギア希少種「（、；、皿、皿、）」潜行

金剛「ていとくー!!ご無事ですかー!!」

足柄「霞ちゃん、無事でよかったわ!」

提督「アーロ、皆…ありがとう、助かったよ…!」

アーロ「水臭えぞ、提督。ウイルの敵討ち、俺らにも手伝わせろ!」

提督「…ああ!そうだな!」

アーロ「よーし…ジン、ベル!!行くぞ!」

ベル「おーし、俺も忘れられちゃ困るよねー」ヒョッコリ

黒丸「ベルさん、第二イサナ号の舵は僕達が取るニヤ」

チャチャ「提督殿と一緒に大暴れしてくるツチャヤ！」

弥生「ジンさん、この高さで大丈夫ですか？」

ジン「…ああ。この高さから飛び降りるのは慣れてる。弥生、コタロウ、ありがとう
な」ナデナデ

コタロウ「(、ω、)」

弥生「ジンさん、気を付けて…！」

ジン「おう…！」ダイブ

提督「さてと…霞、もう一度行ってくるぜ」

霞「司令官…気を付けてね！」

提督「おうよっ!!」潜行

98 冥海の雷光 後

i n 水中

アーロ「しゃあつ!!どつからでもかかってきやがれ!!」つブラックフルガード
ベル「水中と言えど、負けないぞ!」つゲキリユウノツガイ

ジン「提督、俺達も行くぞ:!!」つ飛竜刀【銀】

提督「よし:広範囲の放電攻撃には気を付けるんだぞ!」

ラギア希少種「(#、皿、)三●」拡散雷プレス

ジン「ぬっ!!」ジャスト回避

アーロ「おおっと!」ガード

提督「なんのっ!!」抜刀斬り

ベル「こつちだ!!」斬り払い

ラギア希少種「三(#、皿、)雷タツクル

提督「うおっ!」大剣ガード

ベル「むっ!!」ジャスト回避

アーロ「今度はこつちだぜ、おらーっ!!」斬りかかり

ラギア希少種「(、皿、#)三」往復タツクル

アール「おつぶっ!?!」(、ω)・・・

ジン「このっ!!」気刃斬り

提督「おらっ!!」振り下ろし

ラギア希少種「(#、皿、)」尻尾攻撃

ジン「くっっ…」受け身

ベル「これをくらえっ!!」鬼人化回転斬り

ラギア希少種「(、皿、)」胸部部位破壊

アール「つしやあっ!!もういつちよ!!」属性解放斬り

ラギア希少種「(#、皿、)」グオオオオオオンッ!!

アール「あーもうっ!!うるせー!!」(∩∩∩)

提督「ガード」大剣ガード

ジン&ベル「ジャスト回避」

アール「ちよ、お前らズルイぞ!?!」

ラギア希少種「三(#、皿、)三」三方向渦潮飛ばし

アール「ちよ、渦潮がくるー!?!」アセアセ

ベル「アール、こっちだ!!」

提督「こいつの渦潮は不規則だからな、気を付けろ」

ジン「厄介な奴だな…」回避

ラギア希少種「(＃、皿、)三●」拡散電ブレス

アール「あぶねっ!?」ガード

ベル「おわっ!? やっぱり思った以上の広範囲だね…」

ラギア希少種「(＃、皿、)」「ビリビリ・・・」

提督「まずい!! 広範囲の放電をしてくるぞ!!」

ジン「距離を取れ!」

ラギア希少種「＼(＃、皿、)／」広範囲放電攻撃

ジン「きたぞっ!!」

アール「あひーっ!?」(； 皿、)

提督「うぼあー」(； 皿、)

ベル「二人ともっ、これでっ!!」っ【生命の粉塵】

ラギア希少種「(、皿、＃)三」突進

アール「なんのっ、ガードポイントウ!!」ガードポイント

提督「なんのこれしきっ!!」ガード

ジン「斬るっ!!」気刃斬り

ラギア希少種「(、皿、.)」怯み

ベル「この隙につ!!」鬼人化乱舞

提督「オラーっ!!」溜め斬り

アーロ「これもお見舞いしてやるぜ!!」高出力属性解放斬り

ラギア希少種「(#、皿、)」「尻尾振り払い

ベル「ぬべしっ!?)」、3、)・・・

アーロ「はぶすっ!?)」・・・ε。()

提督「そいやっ!!」抜刀斬り

ラギア希少種「(、皿、#)」ビリビリ・・・

提督「なっ!?!またくるぞ!!」

アーロ「ちよ、まってー!!」アセアセ

ラギア希少種「\、皿、#) /」広範囲放電攻撃

アーロ「ひえーっ!!ガードっ!!」ガード

提督「大剣ガードっ!!」大剣ガード

ジン「くっ:」ジャスト回避

ラギア希少種「三(#、皿、)」雷タツクル

提督「おおっと!」回避

ジン「往復はさせんぞ!!」抜刀気刃斬り

ラギア希少種「(皿、皿、皿)」尻尾切断

アール「よっしや、ナイスカット!!」

ベル「どんだん畳み掛けるよ!!」鬼人連続斬り

ジン「こいつもくらえ!」大回転気刃斬り

ラギア希少種「(皿、皿、皿)」怯み

アール「いいぞいいぞ!」盾突き

提督「一気に攻めろー!!」溜め切り

ラギア希少種「●三(皿、皿、皿)」拡散雷プレス

ジン&アール「ぬわー」(皿、皿、皿)

ラギア希少種「●三(皿、皿、皿)」二発目拡散雷プレス

提督「ぬおっ!」ガード

ベル「くう：：なかなかタフな奴だね」ジャスト回避

提督「ああ：でも手応えはあるはずだ。攻め手を緩めずいくぜ!!」

ラギア希少種「(皿、皿、皿)」噛みつき攻撃

ベル「よっ!!」回避攻撃

提督「ふんぬーっ!!」躲して横払い斬り

ジン「このっ、お返しだ！」斬り払いからの気刃斬り

アール「何倍にも返してやるぜ、おらーっ!!」頭に超高出力属性解放斬り

ラギア希少種「(×皿×;)」スタン

ベル「ナイススタン!!」

ジン「クロード!! 今だ：：：っ!!」

提督「うおおおらあああつ!!」溜め切り、強溜め切りからの強薙ぎ払い

ラギア希少種「グオオオオオオ：：：ッ!!」

ゴポポポ・・・

提督「奴の背電殻の青い光が消えてが沈んでいく：：：」

アール「：：：提督、やったな！」

ベル「ラギア希少種、討伐完了だよ：：：!」

ジン「クロード、遂に果たせたな：：：」

提督「ああ：：：ウイル、やったぞ：：：!!」

in 水上

霞「：：：」

金剛「ていとく：：：大丈夫でしょうカ」

黒丸「提督ならきつと大丈夫ニヤ…」

大井「そうね、ジンさん達もいるんだら。きつと勝つて戻つて来るわよ」

弥生「…ドキドキ」

ゴポゴポゴポ…

コタロウ「Σ（、ω、）」

足柄「ややっ!?何か来るわよ!!」ジャキンッ

大井「タンマタンマ!!撃つのは早いって!?!」

霞「…!」

提督「よっしやああああっ!!」ザパーンッ!!

金剛「て、テイトクー!!」(; ω ;) ブワッ

大井「ほら、あんたも待つ。一番先に会わせるべき子がいるんだから」ガッ

霞「…司令官…」

提督「…霞、ただいま」

霞「…お帰りなさい、司令官」微笑んで手を差し伸べる

足柄「よかった、よかったわ…!!」グスッ

大井「もう、涙もろいわねー」ニヤニヤ

足柄「霞ちゃんが幸せそうで、ほんとよかったわ!!」ズビーッ

大井「そっち!？」

弥生「ジンさん、ベルさん、お疲れ様です…」ニツコリ

ジン「…俺達も、ウイルの敵が取れてよかった」

ベル「あの時は何もできなかったからね…本当によかった」

金剛「ぼんどうに、よがっ。だデーズううっ!!」大泣き

アール「ところでさ、あのアングルって丸み（ry）」

大井「あんたは空気を読めやあああつ!!」踵落とし

アール「オパンツウウツ!？」（#），3、；；；；；

霞「さ、司令官。帰りましょ。はやく泊地へ戻って報告しなきや」

提督「ああ。それとギルド本部にも報告しないとな」

ジン「いいな…手を繋いで帰還か…」

ベル「片方は水飛沫がもろに直撃してるけどね…」

黒丸「ささ、ジンさん、ベルさんも第二イサナ号に乗って帰るニヤ」

足柄「私達でMS諸島の攻略を一気に片付けておきましょう」

金剛「提督!! 帰った頃にはパーティーデース!!」

アール「プカー」

弥生「あ、アールさんは…!？」アセアセ

大井「このまま漂流させましょ」

弥生「：コタロウ、連れて帰るよ」アセアセ

コタロウ「」（ハ、ハ）「ヤレヤレ」

夕方

in 南西諸島泊地 | 母港

孫市提督「そうか：黒いラギアクルスを討伐し、ウイル君の敵は取れたんだね：」

提督「渦潮を発生させ、輸送物資を遅い、南西諸島の海を荒らしていた原因でもありませんからね：これで作戦はより速く済みますよ」

孫市提督「：君は本当に勇敢だ。どんな相手にも恐れず立ち向かう勇氣があるのが羨ましい：」

提督「：俺は勇敢じゃないですよ。ジンにベル、アーロ、そして艦娘達といった仲間がいるからこそできる事ですから」

叢雲「：：：」

孫市提督「：それでも君は他の提督じやできないことも熟しているんだ。もつと胸を張るといい」

提督「ありがとうございます。あの：話が変わってしまおうのですが、すこしご質問してもよろしいでしょうか？」

孫市提督「そう畏まらなくていいよ。気になることがあるのかい？」

提督「は、はい…その…ケツコンカツコカリについてなのですが…」

孫市提督&叢雲「？」クビカシゲ

提督「…その、駆逐艦との…ご、ご、ご、ゴケツコンについて…」アセアセ

叢雲「そういうこと。こうも体格が違うから色々アウトじゃないかと気になるのね？」

提督「(； 皿、)」アセアセアセ

叢雲「それはあまり気にしない方がいいわよ。確かに見た目は子供と大人って感じだけど…こう見えて成人の体だし、艦の頃の記憶を含め年齢も貴方より上よ？」

提督「ええっ!？」

孫市提督「…駆逐艦というのは確かに幼い容姿だが、体のシステムとやらは人間とは違うんだ。艦娘は妖精さんに造られるからね…詳しいことはまだ分かっていない」

提督「…なるほど、見た目で気にしてはいけない…竜人族や土竜族と同じですね！」

孫市提督&叢雲「…竜人族？土竜族？」

提督「…あれ？それじゃあ孫娘提督殿は叢雲さんの娘さん…？」

叢雲「…そうね、確かにそうだけど…」

孫市提督「…この事は君に話していいだろうね。あの子は前の妻の娘…叢雲とは前の

妻が亡くなってからケツコンをしたんだ」

提督「…!？」

孫市提督「…あれは俺が新米の提督で、あの子がまだ赤ん坊の時だ。俺と妻は休暇で客船に乗って旅行をしていた。妻と赤ん坊の娘を連れて、祖父今の元帥のいる鎮守府へと向かおうとしていたんだ。しかし、ある日の夜…航海中に事件が起きた」

提督「…」

孫市提督「…客船にあの超弩級深海棲艦が襲ってきたんだ」

提督「…!?!?そ、その超弩級深海棲艦って…今問題になっているあの正体不明の深海棲艦ですか!？」

孫市提督「…間違いないよ。あの写真を見て客船を襲い、妻の命を奪った超弩級深海棲艦だ…。奴の襲撃に会い、瓦礫の下敷きになり、身動きが取れなくなった妻は命と引き換えに、身を挺して守ったあの子を俺に託し、船と共に沈んでいった。今でも忘れやしないよ…妻を、多くの人の命を奪った奴の慟哭を」

提督「…すみません、こんな事を聞いてしまつて…」

孫市提督「気にしないでくれ。人には誰だつて辛い過去や悲しい過去はあるさ。…その悲しみに沈んでいる俺をずっとそばで支えてくれたのが、叢雲だったんだ」

叢雲「…」 頷く

孫市提督「…それから長い月日が過ぎて、叢雲とケツコンすると娘に話したんだが、最初は娘に大反対されたよ」

叢雲「そうね…あの子のいう事も、あの子の気持ちも最もだったわ」

孫市提督「最初は話さえ聞いてもらえなかつたけども…全てを話すと、あの子は許してくれたよ。でも、『二人のことを許す代わりに、私を提督にしろ』って言ってきた時はビックリしたけどね」

提督「…そうだったんですか…」

叢雲「だからね…あんたもあんまり気にしないで、胸を張りなさいな」

孫市提督「君と霞ちゃんならきつとうまくいくさ…応援しているよ」

提督「孫市提督殿、叢雲殿、ありがとうございます…孫市提督殿、必ずイベント海域突破、そして超弩級深海棲艦と一緒に打ち倒しましょう！」

孫市提督「ああ。ともに頑張っていこう…！」

提督「はい！それでは失礼いたします！」ダッ

叢雲「なんだか昔の司令官、そっくりね」ウフフ

孫市提督「駆け出しの頃を思い出すよ…でも、二人なら…」

叢雲「…そうね、羨ましくらいニヤニヤしちゃうわね」

孫市提督「……」ニツコリ

叢雲「……あ、そういえば……妖怪『ハチミツヨコセ』の正体がかもしかしたらウイルスとかいう人じゃないかって聞くの忘れてたわね……」

孫市提督「……忘れてた……」（； 皿、）

● 貪食の恐王 『恐暴竜』イビルジョー 前

in 原生林

ウイル「おおおっ!!どこだーっ!!」ダダダダダッ

ホッポ「ウイル、凄いスピードで走ッテル!」

防空棲姫「ウイルが珍シク焦ってる…相当ヤバイ相手ヨ」

重巡棲姫「…」

ドスファンゴ&ファンゴの群れ「(・ω・;)三三

ババコンガ「(・ω・;)三三」

アオアシラ「。(エ)。(;)三三クマー

ホッポ「スッゴイ!!他の生き物達が沢山逃げてる…!」

ウイル「あいつらもイビルジョーの捕食対象だ。イビルジョーは何でも喰いやがるからな…」

駆逐水鬼「イビルジョーってドンナ生物なんだ?」

ウイル「獣竜種の中でも最も凶暴で、恐ろしい程の食欲を持つ。身体を維持するために何かを食べ続けないと死んでしまうんでな、生態系を崩壊させてしまうほど、危険な

奴なんだ」

レ級「な、なんでも食ベルノカ…?」

ウイル「生きている物なら飛竜種だつて同種だつて人間だつて…そして深海棲艦でさえ捕食対象だ」

レ級「何それ!?超コワイんだけど!?」

ウイル「早く討伐しないと、この島の生物は皆食べられてしまう…むっ!!みんな伏せろ!!」

ホツポ「何か飛んでクル!」

【岩】三

防空棲姫「岩っ!?しかもデカッ!?」ヒエー

駆逐水鬼「何か来ルゾ!!」

ウイル「あの牙剥き出しの禍々しい顎に、大きく太い尻尾…!!あれがイビルジョーだ…!!」つエイム of マジック

イビルジョー「(皿)」「グオオオオオオツ!!」

レ級&防空棲姫「(皿) ? ?」

ホツポ「デカッ!?コワイツ!!」

ウイル「うおおおつ!!この島の生物を喰わさせはせんぞおおおつ!!」ダダダダダッ

駆逐水鬼「ウイルっ!!」

ウイル「お前達はできるだけ遠くへ避難するんだ!!」

イビル「(皿) (皿) 噛みつき攻撃

ウイル「あぶねっ!!」イナシ

イビル「(皿) (皿) グルルル…」

ウイル「涎が垂れている…かなりの空腹のようだな。まずいぞあれ」

イビル「三(皿) (皿) 飛び掛り

ウイル「おおっ!!」イナシ

イビル「(皿) (皿) 尻尾振り回し

ウイル「っと、よいしょっ!!」躲してジャンプ斬り

イビル「(皿) (皿) 噛みつき攻撃

ウイル「あぶね、くさっ!! あいつの涎マジでくさっ!!」躲して斬り払い

イビル「(皿) (皿) しこふみ

ウイル「あぶっ!!」三(ノ) ; (皿) (皿) ノ

イビル「(皿) (皿) (皿) デンプシー

ウイル「このっ…いけっ、猟虫ちゃん!!」

猟虫くクサイノイヤー ブーン

イビル「Σ（、皿、）」

ウイル「いつくぜー!!」ジャンプ斬り

イビル「Σ（、皿、；）」怯み

ウイル「おらー!!」ライドして攻撃

イビル「（、皿、；）」大暴れ

ウイル「うらうらうらああつ!!」ザクザクザク

イビル「（、皿、；）」ダウン

猟虫<エキストツタリー!

ウイル「赤と白…!! どんどん攻めていくぞー!!」ラッシユ

イビル「（、皿、；）」怯み

ウイル「ええぞええぞ!」切り上げ

イビル「（、皿、）三」タツクル

ウイル「アベシツ!」…（、ε、）（

イビル「（、皿、#）」グオオオオオオオッ!

ウイル「筋肉が隆起して赤く染まった…怒り状態か!」

イビル「???」龍属性プレス

ウイル「あぶねえっ!」回避

イビル「(皿、#)三」回転攻撃

ウイル「ぶべらっ!?」()。3。*()

イビル「三(#ノ、皿、)ノ」飛び掛り

ウイル「うおっと、こんなにやろっ!!」イナシからの抜刀斬り

イビル「()」(#、皿、)「????」龍属性プレス

ウイル「オオッ!どっせい!!」ジャンプして躲し、ジャンプ攻撃

イビル「(皿、#)()」噛みつき攻撃

ウイル「ひえっ…これでもくらえ!」イナシからの反撃

イビル「(皿、;)」怯み

ウイル「猟虫ちゃん、もういっちょ頼んだぜ!!」エクスハンター

猟虫くサラマンダーヨリハヤーイ!! 三●

イビル「Σ(皿、;)」顔面一段階部位破壊

猟虫くフルパワーダゼ! ●三

ウイル「よしっ!!これで一気に片付けるぜ!!」パワーアップ!

イビル「(皿、#)三」タックル

ウイル「なんの、せいやつ!!」イナシからの抜刀斬り

イビル「(#、皿、)」尻尾振り回し

ウイル「おらーっ!!」 躲して斬りかかる

イビル「(#、皿)」「しこふみ

ウイル「よっ!いくぜっ!!」 イナシからのジャンプ攻撃

イビル「グオオオ…!!」 よろめく

ズウウウン…!

ホツポ「ヤッター!!」

レ級「あのヤバそうなのに闘い慣レテルネ…」

防空棲姫「ウイル、やるじやないの!!」

駆逐水鬼「…?どうした、重巡棲姫?」

重巡棲姫「…ナニカ、何か変…」

ウイル「…ぜえぜえ…この島まで泳いだから疲弊していたのか?いや、それにしても

こゝもあつさりなのはおかしい…」

ホツポ「ウイル、やったね!」

防空棲姫「見た目も深海棲艦より禍々しい奴だったワネ…」

ウイル「…うん?」

イビル「ピクリ

ウイル「お前ら今すぐ離れる!!まだだ、まだ倒していない!!」

レ級「弱っているなら、あたし達も手伝ウヨ!!」

防空棲姫「援護射撃なら任せなサイ!」

ウイル「!!あれは…まさか…!!」

イビル「＼(#▼皿▼)／」グオオオオオツン!!

レ級&防空棲姫「」

ホツポ「ナニアレ…もつと怖くなつた!」

ウイル「怒り喰らうイビルジョー…!!自身を抑えるリミッターが外れて暴走状態にな

りやがった!!」

駆逐水鬼「ぼ、暴走しているノカ!」

ウイル「こうなつてしまつたら…目に映る生物、動くものすべてを餌と見なして死ぬ

まで喰い続ける!!お前らははやく逃げ…」

イビル「(#▼皿▼)」広範囲龍属性プレス

ウイル「やばい!!伏せろー!!」ホツポ達を庇う

ホツポ「ウイル!」

ウイル「ぬわー!」(； 皿 (；?????)

防空棲姫「いつつ…ウイル?ウイルは無事ナノ!」

ウイル「チーン

駆逐水鬼「ウイル!! 起きろ、しっかりしろ!」ユサユサ
ウイル「」気絶中

ホツポ「ウイル、ウイル!!」ユサユサ

イビル「(▼皿▼#) 三三 ドドドドドッ

レ級「ヤバイ!? こつちに来た!!」

猟虫<コツチニキヤガレ!! ブーン

イビル「Σ(▼皿▼#)」虫に気を引かれる

猟虫<オラー!! 体当たり

イビル「Σ(#▼皿▼)」噛みつき攻撃

猟虫<アブネ 回避

レ級「猟虫が気を引かせているウチに……!」

ホツポ「ウイル、起きて!!」ユサユサ

ウイル「」気絶中

駆逐水鬼「どうするれば起きるンダ……!」

重巡棲姫「ヴェアアツ!!」踵落とし

ウイル「ブゲーツ!?!」┌()、ω()∴∴

ホツポ「ウイル、起きた!」

レ級「いや、これ大丈夫ナノカ？」

猟虫<ヒエー!! アセアセ

イビル「三(#▼皿▼)」ドドドドドッ

ウイル「ゲホゲホ：危なかつたー、気絶してた…」

ホツポ「ウイル、良かった…!」

猟虫<ハヤクキテー!! アセアセ

イビル「(▼皿▼#)三」ドドドドドッ

ウイル「いかん! こうしている場合じゃない!!」ダッ

防空棲姫「ウイル!? 無茶よ!!」

イビル「Σ(#▼皿▼)」

ウイル「うおおおおっ!!」ダダダ

イビル「(#▼皿▼)」尻尾振り回し

ウイル「よっ! おりやああっ!!」ジャンプしてジャンプ攻撃

イビル「(#▼皿▼)」捕食攻撃

ウイル「あ」

駆逐水鬼「ウイルが啜えられたー!?!」

ホツポ「タイヘン!!」

イビル「(#▼皿▼)」捕食攻撃中

ウイル「やばいやばいやばいやばい！」

メキメキメキ…

ウイル「いだだだ!?メキメキいつてる!!メキメキいつてるう!?!」必死にもがく
レ級「助けなクチャ…!!」

防空棲姫「今撃つたらウイルにも当たるワヨ!!」

重巡棲姫「ヴェエアアツ！」ドドドドーン!

防空棲姫「遠慮なく撃ってる!?!」

ウイル「あだだだ!!お、俺に構わず一斉掃射してー!!」アセアセ

重巡棲姫「ウイル、助ける!!」ドドーン!

ホッポ「ウイルを離せー!!」ドドーン!

防空棲姫「ああもう!!怪我してもしらないワヨ!」ドドーン!

レ級「ついでにこれもくらえ!」つ三【魚雷】

イビル「Σ(；▼皿▼)critical!」

ウイル「おーっ!?!」スポン

駆逐水鬼「ウイル!!大丈夫か?」ウイルを艦装で受け止める

ウイル「あいたたた…ありがとう、助かったぜ!」

イビル「三（#▼皿▼）」移動

ホツポ「怖い奴移動してイク！」

ウイル「あの方角は…まずい!! レウス、レイア希少種の繁殖地のある高地だ!! 追いかけないと…!!」

レ級「ウイル、このまま行くノカ!？」

防空棲姫「ダメヨ!! 今の状態じゃ危ないわ!!」

駆逐水鬼「ウイル…鎧にヒビが…!!」

ウイル「俺が、ハンターの俺がやんなきゃ誰がイビルを倒すんだ。希少種の住処を、多くの生き物が棲むこの島を、お前達を助けなきゃなんねえからな!」ダツ

レ級「ウイル!!」

重巡棲姫「ホツポ、追いかける!」

ホツポ「うん! ウイルを手助けしなきゃ!!」

防空棲姫「もう!! みんな無茶するんだから!!」

駆逐水鬼「私達も行くぞ!!」

レ級「ちよ、ちよつとー!？」

戦艦水鬼「むう、出遅れてしまったか…」

レ級「戦艦水鬼!?! ま、まさかあんたも…?」

戦艦水鬼「当たり前だ。ウィルは私達の指揮官だ。守るのも私達の役目だろう？ それに…あの蜥蜴にはギャフンと言わしてやる。深海棲艦をなめるなよ…！」

● 貪食の恐王 『恐暴竜』イビルジョー 後

i n 高地地帯

イビル 「三(# ▼皿▼)」 ドドドドドツ

猟虫<イタゾー!! ブーン

イビル 「Σ(# ▼皿▼)」

ウイル 「ウラーラー！」 猛ダツシユ

イビル 「●三(▼皿▼ #)」 大岩飛ばし

ウイル 「ちよいさー!!」 回避

猟虫<ヤロームツコロス! 体当たり

ウイル 「その先には行かせんぞおおおっ!!」 ジャンプ攻撃

イビル 「三(# ▼皿▼)」 タツクル

ウイル 「よつと!」 イナシからの抜刀斬り

イビル 「(# ▼皿▼)」 噛ミツキデンプシー

ウイル 「つと」 回避

イビル 「(▼皿▼ #) 三」 飛び掛り

ウイル「あぶねええっ!?」緊急回避

イビル「(#▼皿▼)」┌」しこふみ

ウイル「ふべーっ!?」(、ω。)。∴∴

イビル「(#▼皿▼)」広範囲龍属性プレス

ウイル「うひーっ!?」緊急回避

イビル「() (#▼皿▼)」噛みつき攻撃

ウイル「やばいっ!! 喰われた!」捕食

メキメキメキ…

ウイル「いだだだっ!? このっ目つぶし!!」つナイフ

イビル「Σ(;▼皿▼)」ウイルを投げる

ウイル「うひーっ!? あぶねー」受け身

イビル「(#▼皿▼)」威嚇

ウイル「いてて∴まずいな、胴の鎧にもヒビが∴」

イビル「(#▼皿▼)三●」大岩飛ばし

ウイル「おおいつ!? まじか!」

三(岩) <シイラレテイルンダ!

ホッポ「やらせない!」ドドーン!

重巡棲姫「ヴェアアツ!!」ドドーン!

防空棲姫「飛んでくるものなら撃ち落としてヤルワ!!」ドドーン!

(岩) <エイジツ!? 爆発四散!

ウイル「お前ら…!!」

防空棲姫「ウイル!! コツチよ!!」

ウイル「しかし、この先に…!」

ホッポ「誘き寄せることなら任せテ!!」艦載機発射

防空棲姫「ウイル、あいつは何でも食べるんデシヨ?とびつきりいいのがアルワ」

艦載機<ホレ、オニクダゾー!! 【生肉】

艦載機<コツチニコイ 【生肉】

イビル「Σ(#▼皿▼)」ビクッ

重巡棲姫「コツチに來い!」つ生肉

ウイル「そうか、それがあつたな!で、どうすんだ…?」

防空棲姫「ポイント地点に誘き寄せる!」

イビル「三(#▼皿▼)」グオオオオオオツ!

ホッポ「こつちに來タ!」

ウイル「よし、それだつたら任せとけ!」重巡棲姫をおんぶしてホッポと防空棲姫を

抱えてダツシユ

防空棲姫「ちよ、ちよつとウイル!? 無茶しないでヨ!」

ウイル「隕石の大塊を4個抱えて、デアアブロス亜種から逃げて走った時と比べれば
なんのこれしき!!」

イビル「(＃▼皿▼)」 噛みつき

艦載機<ウヒー!? アセアセ

艦載機<メツチャコエー!! アセアセ

猟虫<今助ケルゼ兄弟!! 体当たり

イビル「Σ(＃▼皿▼)」

艦載機<ア、アリガテエ!

猟虫<イイテツコトヨ

重巡棲姫「ウイル、今度はこつち!!」

ウイル「あいよーっ!! ところで何か考えがあるのか?」

防空棲姫「ウフフ、まあ見ていなさい」

イビル「三(＃▼皿▼)」 飛び掛り

ウイル「よいしょーっ!!」 ジャンプして回避

防空棲姫「ひいっ!? アイツの涎が!! 涎がついたー!」

ウイル「ああ、ちよつと服が解ける程度だから大丈夫」

防空棲姫「チョット程度じゃないわよ!? チョ、服が溶けかけてるし!」

ホッポ「ウイルは鎧つけてるもんネ…」遠い目

イビル「三(#▼皿▼)」ドドドドドッ

ホッポ「速くなった!」ギョッ

ウイル「ポイント地点はまだか!」

防空棲姫「もうすぐよ!!あの絶壁付近!!」

ウイル「うおおおつ!!」猛ダツシユ

重巡棲姫「飛び越えて!!」

ウイル「ここかつ!!」ジャンプ

イビル「三(#▼皿▼)」ドドドドドッ

【落とし穴先輩】<カカッタナ阿呆ガ―!】

イビル「Σ\ (; ▼皿▼) /」落とし穴に嵌る

ウイル「おおつ!!落とし穴を設置していたのか!!」

ホッポ「ヲ級ちゃんと駆逐棲姫ちゃんが作ツテオイタノ!」フンス

防空棲姫「ウイル、少し離れてた方がいいわよ?」

ウイル「む?それってどういう…」

ホッポ「アツチの海を見て!!」

戦艦水鬼「よし、今のうちに集中砲火ダ!!」

レ級「戦艦と姫級と鬼級達の全砲門をクラエ!!」

駆逐水鬼「ありったけの砲弾、艦載機爆撃を当テルンダ!!」

港湾棲姫「…当テル!!」

ヲ級「ヲっ!!」(#。皿。)ノ三●

深海棲艦達<ウオオオオオツ!! ドドドドーン!!

ウイル「うおっ!? すっげえ!」

防空棲姫「よし、私達も全弾当てるぞ!!」ドドーン!

重巡棲姫「ウイルを痛めつける奴は、許さない!!」ドドーン!

ウイル「な、なんちゆう爆発だ!」アセアセ

ホッポ「全弾命中!」フンス

モクモク:

ウイル「…ミンチよりひでえや」ボーゼン

防空棲姫「どうよ? 全砲門掃射した威力は!!」フンス

ホッポ「これなら流石ニ:」

重巡棲姫「…!!」

イビル「＼(#▼皿▼)／」グオオオオオオオツ!!

防空棲姫「ウソ：!?あれだけくらったのにマダナノ!?」

イビル「三(#▼皿▼)」ドドドドドツ

ウイル「危ないっ!!おりやーっ!!」斬りかかり

イビル「(#▼皿▼)」噛みつき攻撃

ウイル「ぐぬっ!?」受け身

バキツ

ホツポ「ウイル!!鎧が壊れてく…!!」

イビル「(#▼皿▼)」ホツポに向かって噛みつきこうとする

ホツポ「!!」

ウイル「どりやあああっ!!」ジャンプ斬り

イビル「(;▼皿▼)」尻尾切断

ウイル「まだだ!まだ終わらんよ!!」ダツシユ

イビル「ぬ????」(▼皿▼#) 広範囲龍属性プレス

ウイル「ぬおおおっ!!」ゼロ距離被弾

防空棲姫「ウイル!!ダメよ!!鎧が…っ!!」

ウイル「これで終わりだっ!!」振り降ろし

イビル「グオオオオオオオオ!!」ヨロヨロ

ウイル「よし、これで倒れ（ry）」

イビル「グオオオオオオ!!」噛みつき

ウイル「えっ：？」捕食

イビル「フラア

ウイル「畜生この野郎!!道連れかよおっ!?!」

防空棲姫「いけない!!落ちる!!」

重巡棲姫&ホツポ「ウイルっ!!」

ウイル「あーれーれーれーっ!?!」落下

ドボン!!

戦艦水鬼「ウイルが：落下した!」

駆逐水鬼「ウイル!!いま助けに行く!」潜水

レ級「絶対に死なせない!!」潜水

重巡棲姫「ウア——。。(。、。、。、)——ン!!」大泣き

防空棲姫「チョット泣かないでよ!!ウイルは：絶対に助かるんだら：っ!!」

ホツポ「：：」

防空棲姫「ウイルがあんな事で…死ぬわけ…無いんだから…っ!!」

駆逐棲姫「ウイルさん…っ!!」グスツ

戦艦水鬼「ウイル…はやく上がって来なさいヨ…!」

港湾棲姫「…」アタフタ

空母棲姫「…大丈夫ヨ、ウイルは絶対に無事ヨ…」

ヲ級「ヲっ…」(…ω…)

ブクブクブク…

ホッポ「!!」

ウイル「アイルビーバアアアック」\ (; ㄩ、) b /

戦艦水鬼「ウイル…!!」

ホッポ「ウイル…良かった…!!」

重巡棲姫「ウワ———。 (。 p ㄩ q。)。 ———ン!!」号泣

防空棲姫「ウイル!…グスツ…無事でよかったわ…!」

レ級「ウイル、大丈夫…?」

ウイル「鎧が壊れてなかったら拘束が外れなくて溺死してたかも…」ヒヤアセ

駆逐水鬼「でも、無事でよかった…」

ウイル「…どつと疲れたよ、ちよつと休ませて…」(☒ ω ☒) スヤア

駆逐水鬼「ウイル…ふふ、ご苦労様…」

戦艦水鬼「全く…でも、ありがとう…今日は少し休め」

数日後

ホツポ「…」ジー

ウイル「うん？どうした？」

ホツポ「ウイルの体すっごい傷だらけ…あとムキムキ！」

ウイル「はっはっは、これらの傷は今まで冒険した勲章でもあるさ」鎧全外し

軽巡棲鬼&空母水鬼「ふう…」ヘブン状態

南方棲鬼「うん、アンタ達はちよつと他所へ行こうかしら」ニッコリ

空母棲姫「悪い子は閉まっちゃおうねー」ニッコリ

軽巡棲鬼&空母水鬼「アイエエツ!？」

装甲空母姫「ウイルの素顔…カツコイイワネー」

泊地水鬼「…」コクコク

駆逐棲姫「ウイルさん…」ドキドキ

重巡棲姫「ウイルの耳、少しとんがってる」ツンツン

レ級「これが人間じゃなくて竜人族なんだ…」へー

戦艦水鬼「本当に人間じゃなかった…」ボーゼン

戦艦棲姫「ね？言つてたでしょ？」ウフフ

ホッポ「でも…鎧と兜どうしよう？ボロボロだよ？」

ウイル「長い間手入れもせずに潮風にも当たり、モンスターと戦つてたりしてたからな。ガタがくるのはとうぜんか。長い間ありがとうな…」ナデナデ

戦艦水鬼「なあ、一つ考えがあるんだが…」

ウイル「？」クビカシゲ

in 洞窟

集積地棲姫「イヤイヤイヤ!?無理ダツテ!!」アセアセ

戦艦水鬼「無理じゃない、やりなさい。いや、やれ」ズイツ

ホッポ「直せー！」プンスカ

集積地棲姫「馬鹿デシヨ!?見たこともない鎧を直せとか馬鹿デシヨ!?」

ウイル「な、なあ、そう強いる必要はないんだけど…(…ω…)

戦艦水鬼「戦闘中で艀装が損傷して修理するときに残骸が残る。これを素材にすれば直るはずだ」

ホッポ「集積地棲姫は深海棲艦一のメカニックだもん!!」フンス

重巡棲姫「ヴェアアアッ！」プンスカ

集積地棲姫「だから無理ダツテバ！艀装は直せても、下手に手を加えたら壊シチャウ

ヨ！」

ウイル「あー…そのなんだ？手伝うぜ？鎧とか修理の仕方や製造云々はジンから教えてもらったからな」

集積地棲姫「え、っ!？」

戦艦水鬼「よし、集積地棲姫。いい機会ならみっちり学んで来い」

集積地棲姫「ちよ、ちよっとー!？」

ウイル「前日討伐したイビルジョーから素材を剥ぎ取った…死んだ後も厄介だから、全解体して手を加えてある」

集積地棲姫「…マジでやるの…」

「こうしてウイルと集積地棲姫による修理、製造が行われた」

集積地棲姫「これ…空母棲姫の艦装の外殻だけど、どうするの？」

ウイル「着れるサイズにカット、ユニオン鉱石を使って接合しよう」ヌイヌイ

集積地棲姫「…それ鱗を縫ってるんだ」

ウイル「イビルジョーの鱗となめし革を縫い付けているんだ。イビルの素材はくつきいけど、臭いを抜いて加工すれば頑丈な防具になる」

集積地棲姫「砕けた腕の部分は？」

ウイル「これもユニオン鉱石を使って修復しつつ、他の素材を使って作り直そう…」

集積地棲姫「南方棲鬼の腕の艤装が使えるかも…脚は空母水鬼の艤装を使ってもいい？」

ウイル「イビルと他の素材をありったけ使おう!! かつこよくなるぞー」ワクワク
集積地棲姫「…ウイルの故郷の技術はすごいな…」遠い目

レ級「あれから数日、どうなったのかな…?」

ホッポ「完成したみたいだって!」ワクワク

集積地棲姫「…見たことない素材に、見たこともない技術…もう疲れた…」目グルグル

駆逐水鬼「よっぽど大変だったみたいだね…」

重巡棲姫&ホッポ「ワクワク」

ウイル「ふーははは!! 新しい防具の完成だぜー!!」深海棲艦一式(ゴア)
防空棲姫「…前の色違い?」

戦艦水鬼「黒と紫から黒と青に変わったただけだな…」

ウイル「ち、違うわ!! ゴア一式の形をベースに、深海棲艦の素材とイビルの素材をありったけ使ったんだぜ!」ドヤア

空母棲姫「いつも通りの鎧の姿に戻った感じね」ウンウン

ウイル「まあ…俺、ゴア・マガラの防具しか直せないからこうなるわな」(・ω・)
 ホツポ&重巡棲姫「…」ジーッ

ウイル「ど、どうだ？だ、ダメか？」アセアセ

ホツポ「ウイル、かつこいい!!」キラキラ

ウイル「よ、よかつたー」ホッ

重巡棲姫「ウイル、大好き!!」ガバッ

ウイル「あばーっ!?!お前は平常運転だな!」(；； ㄥ、)

戦艦水鬼「…まあ、何がともあれ良かったな」

レ級「あれじゃ深海棲艦に間違えられて砲撃されるんじゃ…」

防空棲姫「うん、そこは気にしない方がいいかも…」

——夜——

ウイル「あかん、なぜ光る。ゼクス装備じゃないのに…」ピカッピカッ

戦艦棲姫「あらあら…ウイル、まだ起きてたのね」

ウイル「まさかどんちゃん騒ぎになるとは思わなかったけども、皆すぐにぐっすり寝

てて驚きましたよ」

戦艦棲姫「うふふ、皆それほどウイルを心配していたのよ」

ウイル「…皆には感謝しなければいけませんね」

戦艦棲姫「いいえ、感謝するのは私達の方よ。貴方のおかげでこの島にいる深海棲艦達の心は……」

ウイル「？」クビカシゲ

戦艦棲姫「うふふ、何でもないわ。貴方のおかげであの子達の居場所が守れたわ。ありがとう」

ウイル「そういえば、皆、カタカナみたいに片言じゃなくなってきたなー……」

戦艦棲姫「……？」ニッコリ

ウイル「……あの、戦艦棲姫さん。失礼かもしれないのですが、少し聞きたいことがあります」

戦艦棲姫「あら？ 畏まってどうしたの？」

ウイル「……深海棲艦達は一体どこから来たのでしょうか……」

戦艦棲姫「……」

ウイル「竜人族の俺はシナト村で生まれ、シナト村が故郷であるように、深海棲艦達も暗い海の底じゃなくて、最初はどこか故郷となる場所があるのでは？」

戦艦棲姫「……やっぱり気になるわよね」ニガワライ

ウイル「いいえ……こういう性は団長譲りなもので……」

戦艦棲姫「いいのよ。いつかは話さなくてはならないと思っていたわ……」

ウイル「……」

戦艦棲姫「それはだーいぶ古い話になるのだけど……」

??「その事なら私が話すわ……」

ウイル「うおっ!?海から誰かくる!?!」

戦艦棲姫「……そろそろ来る頃だと思ってたわ。久しぶりね、中枢棲姫」

中枢棲姫「……できれば、あの海にはもう戻りたくなかったが……『ヤツ』が暴れ出したからには戻るしかないわね」ヤレヤレ

駆逐古鬼「ドーモ……戦艦棲姫サン、オ久シブリデス」ペコリ

リコリス棲姫「アー疲レタワー、何でアタシマデ連レテクルノヨー」プンスカ

ウイル「（。 ㇿ）

中枢棲姫「……お前も深海棲艦達と心を通す者か。私が、深海中枢海域をかつて守っていた（ry）」

ウイル「すっげー!?!え、着物着てるのに濡れてないの!?!ちよ、すごいんだけど!?!」キラキラ

駆逐古鬼「フェツ!?!」アセアセ

リコリス棲姫「エツ!?!誰コノ人!?!イケメン!?!」ドキッ

戦艦棲姫「……ご、ごめんなさいね。ウイルはあんな感じなの」アセアセ

中
枢
棲
姫
「
・
ω
・
」

99話 コタロウの一日

——私の名はリオレウスである。名前はコタロウ。空を駆ける飛竜種であるが、今は『鎮守府』と呼ばれる場所で人間と共存し、共に戦う『オトモン』として暮らしている。竜舎と呼ばれる場所で過ごしているが、他の飛竜種や仲間の火竜達が見たらすぐにここから出たいと言いつ輩もいるかもしれない。だが、私にとってこの『鎮守府』は我が家であり、とても良い処である。

弥生「コタロウ、おはよう」ナデナデ

この少女は『弥生』、私の主であり、相棒であり、オトモンと共に暮らし、共に戦う『ライダー』である。他の輩が見ればなぜこんな少女に従うのだと言う輩がいるかもしれない。

だが、悔るなかれ。この子は『艦娘』と呼ばれる海を駆ける少女で、深海棲艦と戦っている。そしてとても勇敢で心優しい子だ。この子を悪く言う奴は火球ブレスの餌食にしてくれるわ！

弥生「お散歩、いこっか」

コタロウ「クルルル…」

弥生は毎朝、早起きして私と散歩をするのが一日の始まりである。弥生は私の他にアルセルタス、ダイミヨウザザミ亜種、クルペッコとお世話をするのが上手だ。とても勉強熱心で、モンスターの生体、習性。管理の仕方としっかり学んでいる。将来は『我らの団』とかいうギルドのライダーになりたいと言っていた。私も応援しているぞ。

コタロウ「(、ω、)」ペロペロ

弥生「コタロウ、くすぐりたいよ。それじゃ、いこっか」クスツ

コタロウ「(、ω、)」翼を広げる

弥生の楽しみは私に乗って朝明けの空を飛ぶことである。彼女が言うには上空から街を見渡したり、朝日に照らされる海を見たり、その景色を見るのが大好きになったという。海上とはまるで違う世界を見てとても感動していた。弥生にいつか街明り一つない孤島や砂漠や原生林の星空や朝明けの空を見せてあげたいものだ。

こうして何時ものように朝の散歩を終わらせると、甲殻や尻尾、翼の手入れをしてくれる。ブラシでせっせと磨いてくれるから有難いのが半分と飛竜種は体が大きい分大変だから申し訳ない気持ちだが半分である。小柄の弥生には大変な作業でもあるが、そろそろ助っ人が来てくれる時間だ。

提督「おはよう、弥生。毎朝えらいなー」

弥生「あ、司令官。おはようございます」ペコリ

この黒炎王の鎧を着ている男は艦娘達の指揮官である『提督』若しくは『司令官』と呼ばれている。見た目の通り、この提督はモンスターと戦ったり、自然環境の管理や調査、古龍や危険生物から人や自然を守る『ハンター』である。鎮守府にはあと3人、ハンターがいる。

提督「コタロー、今日も元気だな」ナデナデ

コタロー「クルルル…」

この提督は歴戦の狩人であると一目でわかる。仲間と共に死と隣り合わせの戦いを

掻い潜り、困難を乗り越えてきた、そんな雰囲気が見える。そして自然の事、生物の事について知識があることから弥生の先生でもある。彼らがいるからこそ、弥生は勇気があり、優しい子になれたと思う。

提督「さ、俺も手伝おう。これが終わったら御飯だからな」

弥生「司令官、ありがとうございます」

私の御飯は飛竜種の主食である生肉。提督は毎朝、私の他に住んでいるオトモンの朝御飯を用意してくれている。いつもは艦娘達がやってきているのだが、冬の朝は寒い。中々お布団から出られないのだろう。頑張れ。

i n 中庭

朝の8時頃から鎮守府も静けさが次第になくなり、賑やかになってくる。朝食を終えた艦娘達は出撃、任務、遠征、演習が行われる。遠出したり、訓練したり、寝てたり：おや？

曙「ちよつと初雪!! コタロウの所で何寝てるのよ!？」プンスカ

初雪「コタロウはポカポカしてて温かいんだもん……」ウトウト
曙「9時から山城さんと演習でしょうが!! ほら、行くわよ」グイグイ

艦娘は個性豊かだ。くちく、けいじゅん、せんかん……と色々あるようで、色んな性格の子達がいる。例えば初雪と呼ばれる子はよく私を枕にして寝ようとし、曙という子は怒りんぼに見えるが、本当は面倒見のいい頑張り屋さんだ。ほら、演習に行かないと怒られるぞ?

コタロウ「(、ω、)」シッポで軽く押す

曙「ほら、コタロウも頑張れって言ってるわよ」グイグイ

初雪「コタロウ……うらぎりもの……」

まったくの濡れ衣である。こうして艦娘達は海の平和を守るため日々戦っていたり、腕を磨いていたりしている。艦娘達もハンターと少し似ているような気がする。

弥生「コタロウ、出掛けるよ」

皐月「あれ? 弥生、今日はどこか出掛けるの?」

弥生「うん、今日は午前からクエスト」

ライダーもハンターも同じくクエストという任務がある。駆け出しライダーである弥生もクエストを熟して一人前のライダーになるよう切磋琢磨しているのだ。私も弥生のよきオトモンになれるよう腕を磨かねばならん。

臯月「いいなー、僕も早くライダーになりたいなー」

川内「弥生、提督が忘れ物ないか心配してたよ。道具は大丈夫？」

弥生「はい、回復薬も元気ドリンクもありません」コクリ

矢矧「コタロウ、しっかり弥生を助けてあげるのよ？」ポンポン

北上「大丈夫だよ。ジンさんも一緒にいるから心配ないって」

i n 溪流

弥生「ジンさん、今日はよろしくお願いします」ペコリ

不知火「今日もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。」ペコリ！

ジン「…小さなクエストも気を付けてやっていくぞ」

このジンオウガの鎧を着ている男はジン。寡黙に見えて心優しき勇敢な狩人である。あとむつつりスケベ。弥生やハンターを目指す不知火という子にクエストや演習場で戦い方を教えているのだ。今日はジャギイやジャギイノス、ドスジャギイを追い払うクエストだ。小型、中型の鳥竜種だが油断するなかれ、どんなトラブルがあるか分からないし、慢心していると怪我もする。

ジャギイA<アイエエツ!?リオレウス!?ナンデ!?

ジャギイBへチートや、チーターや!!

ジャギイCへ逃げるんだあ、勝てるわけがない!

弥生「コタロウ、お願い…!」

今回はただ追い払うだけなので、ドカンと一発大きな咆哮をして驚かせてやろう。

コタロウ「(#、 \square)」グオオオオオツ!!

ジャギイ達「 ε ≡≡≡へ(; \square 、)ノ」ヒイイツ

ジャギイD<マツタク、駆逐艦ハ最高ダゼ

ジャギイEへ今の駆逐艦はすごいぞ。最高だ

不知火「沈めっ…!!」しゃがみ撃ち

ジャギイD&Eへヒデブツ!?

ジン「…よし、次は手強いぞ」

ドスジャギイ「、（、）ノ三」突進

弥生「コタロウ、尻尾！」

コタロウ「（#、））」尻尾攻撃

ドスジャギイ「…（、）ε。（）」

まったく、弥生を真つ先に襲おうとするとは感心せんな。火球プレスをぶつけてやりたいが、今回は我慢してやろう。

ジン「ほら、さっさとここから離れとけ」つ三「こやし玉」

ドスジャギイ「ε≡≡へ（；、）ノ」サラバダー

コタロウ「（、へ、）三（、へ、）」キヨロキヨロ

弥生「コタロウ、周りは大丈夫？」

特に気をつけなければならないのがクエスト中である。私の父はかつてクエスト中にイビルジョーが乱入して危ない目に遭ったと話していた。この前のクエストをしている最中に、ドボルベルクに行くわすというトラブルがあり、一触即発の所をジンが追

い払って事なきを得た。

ジンはハンターやライダーを目指すこの子達に戦い方や心構えを教えてくれるよき師である。この子達の為にこれからもよろしくお願いします。

i n 中庭

艦娘達もお昼は昼食をとり、しつかり休む。昼食を終えた私はいつものように日がよく当たる場所で日向ぼっこをして休みを取る。中庭ではよく駆逐艦の子達が遊んでいたり、軽巡や重巡、戦艦、空母の子達は仲良く雑談をしたりして賑やかである。

鹿島「ベルさん、サンドイツチをどうぞ」ニコニコ

ベル「あはは、いつもありがとね」

あそこのベンチで仲良く昼食をしているベリオロスの鎧を着ているのがベル。恐らく私が思うに4人のハンターの中で一番の苦勞人だと思う。ハンター業の他に書類整理をしたり、倉庫の資材管理、道具のチェックや調査をしたりと提督と一緒にデスクワークをしているという。

真面目な性格で、その頑張りもあつてか鹿島さんという可愛らしい子とイチャコラしている。うん、爆発すればいいのに。

鈴谷「いつもお熱いよねー、コタロウ」ナデナデ

龍驤「さすがにコタロウはわからんやろー」

失敬な。私だつてこういうのはわかるぞ。(プンスカ)

鈴谷「あれ?なんかコタロウ怒ってる?」

龍驤「ジョークやでジョーク」ナデナデ

ベル「そうだ、鹿島。次の演習と遠征なんだが…」

鹿島「はい、今日の編成ですか?それでしたら…」

ベルは午前と午後で提督と交代で遠征と演習の編成やメニューとやらを考えているようだ。毎日毎日、艦娘達の体調や調子を見て、それに合わせて編成やらをしている。そこらに詳しい鹿島さんと一緒にチェックしたりして楽しそうだ。提督業とハンター業の両立は中々難しそうに見える。

ベル「よし、それじゃあ今日はこのメニューで(ry)スツ

島風「かけっこでは負けないよー!!」ダダダダダッ

天津風「島風、ちゃんと前を見なさい!!」ダダダダダッ

五月雨「ま、待ってくださーい…わあっ!」

ベル「あばーっ!」(3)∴∴

鹿島&五月雨「べ、ベルさーん!」

∴本当に苦勞人である。頑張れ

i n 鎮守府近海

海というのは本当に広い。鳥竜種や飛竜種の中には遠方へと季節ごとに移動する渡りの習性を持つ者もいるが、彼らの気持ちがよくわかる。

弥生「どうコタロウ？楽しい？」 ナデナデ

コタロウ「三（、ω、）♪」

飛鷹「え、遠征なんだけど、あれってありなの？」

加古「いいんじゃない？コタロウのおかげで深海棲艦に出くわしても戦闘にならなくてすむし」

球磨「空を飛べて羨ましいクマー」

電「かっこいいのです」キラキラ

飛鷹「コタロウを含めて6人艦隊になるし…ま、まあいいのかしら…？」

艦載機<敵艦発見>ダヨー ブーン

弥生「コタロウ、敵艦発見したみたい。いつものお願い」

コタロウ「三（、ω、）♪」

海に棲む深海棲艦達は竜という生物を見たことがないようだ。海にはガノトトスや、ラギアクルスといった輩もいるのによく出会わないものだと思う。

軽巡へ級「フアッ!? ナニアレ!?」

重巡リ級「艦娘達ノ新シイ艦載機!? 怖スギナンダケド!」

駆逐イ級「((; ㇿ ())」ガクブル

雷巡チ級「ウ、撃チ落トセー!!」

弥生「コタロウ、躲して!!」

コタロウ「三 (、 ㇿ)」回避

弥生「コタロウ、威嚇攻撃!」

コタロウ「(、 ㇿ) 三●」火ブレス

雷巡チ級「ウワツ!? 火ヲ吹イタ!」

軽巡へ級「火ヲ吹ク巨大ナ艦載機ト力聞イタコトガナイヨ!! 逃ゲロー!」

駆逐イ級「ε≡≡へ (; ㇿ () ノ」撤退

重巡リ級「エエイ、最近ノ駆逐艦ハ化ケ物カ!」

加古「よし、敵艦隊撤退したね」

電「戦闘にならなくてよかったのです」ホッ

球磨「いやー、コタロウ大手柄クマ」

飛鷹「：いや、これってありなの？」

弥生「頑張ったねコタロウ」ナデナデ

コタロウ「♡♡（ω・ω）」

遠征では大活躍して無事に成功を収めていくのだが、えむぶいぴー？とかいうよく分からない物を貰ってしまうのが悩みの種である。弥生はこれをもらえるとキラキラするというのが：キラキラしているのかどうか、私には分からない。

i n 母港

演習や遠征、クエストがない時は皆自由になっている。そんな時によく私やペッコさん、ムラサキさんやアルさんとよく遊んでいるようだ。

皐月「よし、吹くよー！」つりコーダー

ペッコ「（ω・ω）？」

皐月「♪♪♪」リコーダー演奏中

ペッコ「（ω・ω）」

皐月「うーん、うまくできないなー…」

ペッコ「（ω・ω）？」

コタロウ『ペッコさん、恐らく皐月は音を教えているのでは…?』

ペッコ『あ、なるほどねー。狩猟笛の方が覚えやすいんだけど…この子の為にも頑張ってみますよ!』

那珂『ペッコちゃん!! 那珂ちゃんの音楽CDとかはどう?』

ペッコ&コタロウ『Σ(。D。;)』

さすがにそこまでではできない。すまぬ

in中庭

暁「:」恐る恐る

コタロウ「(、ω、)?」

暁「びゃっ!」ビクッ

川内「そう怖がらなくて大丈夫だよー。コタロウはいい子だし」ナデナデ

江風「弥生もいるし、大丈夫だぜ?」ナデナデ

暁「き、牙とか、火を吹くとか怖そうだもん…」

コタロウ「(・ω・)」

弥生「コタロウは臆まないよ…」

飛竜種ゆえ、このような見た目で仕方ないのだが、あそこまで怖がられてしまうと正直落ち込む。はて、どうすれば怖がらなくて済むか…

コタロウ「(、ω、)」ペロペロ

暁「ぴゃー!!?」

コタロウ「(・ω・)」

川内「あらら：コタロウ、どんまい」ポンポン

曙「木曾さん、こっちこっち！」

雷「はやくはやくー！」グイグイ

木曾「おいおい、そう引つ張るなつて」アセアセ

川内「あれ？木曾どうしたの？」

木曾「なんかこの子達はどうしてもやってほしい事があるらしいのだが：」

長波「なあ弥生、木曾さんを乗せてもらつてもいいか？」

弥生「？コタロウ、いい：？」

どういふつもりかわからないが、この子達はいいい子達だ。断る理由はない。

コタロウ「(、ω、)」低く屈む

弥生「：乗つても大丈夫」

木曾「そうか。コタロウ、すまないな」ナデナデ

うむ、スキンシップの仕方もちやんとできているし礼儀正しい子だ。

木曾「おお…これが飛竜の乗り心地か。なんだかすごいな」

長波「木曾さん！そこでサーベルを抜いて高く掲げて！」

木曾「ん？こうか？」

雷「うん…思つた通りだわ！」

曙「かつこいいい…!!」

川内「いいいなー!!次は私ー!!」

コタロウ「♪（、ω、）三」走り出す

木曾「おおっ!？」

弥生「木曾さん、絵になる…」ナツトク

青葉「いい写真、撮れましたよー」パシヤリ

木曾「これがライダーか…悪くないな…!」

嗚呼、また新たなライダー志願者が増えてしまった…提督、がんばれ

天龍「…解せぬ」グヌヌ

長門「…解せぬ」グヌヌ

だから、私はまったくの濡れ衣である。

i n 工 廠

夕方頃になると、遠征や演習、出撃していた艦娘達も帰ってくる。そしてまた母港には賑やかな声が響いてくるのだ。今私が散歩している場所は工廠という武器を製造したりする場所らしい。オトモアイルー達は妖精さんという不思議な種族と一緒にここで建造しているようだ。

明石「…え？アールさん、今なんて言いました？」ポカーン

アール「いやだからさー、明石に頼みがあるんだよ」

あそこで明石さんをお願い事している、ザボアザギル亜種の鎧を着ているのがアール。4人のハンターの中でおちよこちよいで、空気の読まなさNo.1の男だ。主に力仕事をしているが、弥生や皐月達にオトモンのお世話の仕方を教えてたり、艦娘達の相談にのったりと、優しい男だ。空気は読めないけど。

アール「弥生のスリーサイズを…測ってくれない？」

明石「うおらああああっ!!」ノーザンライト・スープレックス

アール「ばわっ!？」

うん、よく明石さんや加賀さんに怒られる情けない奴である。事情がどうあれ、それはダメだろ。

明石「な、何を考えているんですか!? 憲兵さん呼びますよ!!」 プンスカ
アール「ま、まって…話を聞いて!？」

コタロウ「(、へ、) (二)アールを小突く

アール「あだつ!? コタロウ、てめこら。そう怒るなつて!」

明石「コタロウが怒るのも当たり前です!!」 プンプン

アール「だーから、話を聞いてつてば!？」

明石「…どういふ事なんですか?」 ジトー

まったく、先に理由を話してほしいものだ。いかがわしい理由だったら火球ブレスをくらわしてやる

コタロウ「(、へ、#)」 チリチリ

アール「ちよ、待てコタロウ!? 火球ブレスはダメだからな!？」

明石「だ、ダメですよコタロウ!? ここで火球ブレスはダメですからね!？」

アール「落ち着けコタロウ! 俺は弥生に防具をプレゼントしようとしてるんだからな」

…む? 弥生のために防具を造るのか。それなら先に言って欲しいものだ。勘違いしたではないか。

明石「弥生ちゃんに防具を造ってあげるんですか？今の服装でいいのでは？」

アール「ダメだ。中破して服が破けるようじゃ、他の凶暴なモンスターに襲われたら致命傷になってしまう」

うむ：確かにアールの言う通りである。ナルガクルガの刃翼、ティガレックスの強靱な爪と牙、デアアブロスの穿つ角、ガルガの毒尾といった攻撃を生身でくらったら死に至る恐れがある。ハンターやライダー達は身を守る為に防具を付けてきているのだ。

今は大丈夫だが、もしも凶暴な奴等に襲われて大怪我でもしたら：オトモンとして立つ瀬がない。アールはちゃんと考えてくれているのだな：

明石「ですが、アールさん達みたいな重装備な鎧を着れるのでしょうか：？」

アール「そこら辺は大丈夫だ。女性の装備は素材によつて身軽な見た目に反してかなり頑丈なものもあるぜ」

見た目に反して頑丈な物もあるが：露出が多いものもあるようで、逆にこちらが大丈夫か心配してしまう。もし、キリン装備かナルガ装備だったらアールを蹴とばしてやる

う。

明石「もう、それならそうだと先に言ってくださいよ。今度測っておきますね」

アール「明石さん、ありがたえ。あつかましいかもしれないんが装飾とかの方も…手伝ってくれね？」

明石「うふふ、任せてください。提督達の国の技術には興味ありますから！」

コタロウ「♪(、ω、)」

どんな装備になるか、楽しみである。

賑やかだった夕食が済むと鎮守府の夜は次第に静かになっていく。艦娘達も眠って、今日も一日が終わる。夕食が終えた私も、早めに寝ることにしよう。

弥生「コタロウ…今日もお疲れ様」ナデナデ

弥生は寝る前に必ず私の所へ様子を見に来る。物静かで、表情が固そうに見える子であるが、私や提督達にこの優しい笑顔を見せてくれる。この子の優しさと勇気を見て、この子のオトモンになると決めた。一緒に冒険したいと思ったのだ。

コタロウ「(、ω、)」クルルル…

弥生「うん、今日も楽しかったね……」ナデナデ
こうして私と弥生の日が終わる。今日も頑張った、明日も頑張ろう。
弥生「……コタロウ、おやすみ」

100 グアノ環礁沖 K作戦

i n 執務室

提督「さあ次なる中部海域の攻略をしなくちゃね」

霞「司令官、次はグアノ環礁沖海域ね」

アール「次は戦艦達を活躍させなくっちゃ!! 出撃したくてウズウズしてるしな」

鹿島「それが…このグアノ環礁沖海域は出撃編成が厳しく限られているんです」

提督&アール「(。D。)」な、なんだってー!!

霞「し、司令官、顔と台詞が逆になってるわ!」

ベル「そこまでしないとボス艦隊に辿り着けないんだね?」

大淀「はい。駆逐艦、軽巡…そして水上機母艦の編成でなければなりません」

提督&アール「…水上機母艦?」

霞「もう!! なんでわかってないのよ!」 プンスカ

ジン「…ん? 水上機母艦って確か…」

ベル「たしかこの鎮守府には1人しか…いなかっただよね?」

i n 母港

秋津洲「えええええっ!? あ、あたし!? あたしが旗艦!?!」

アール「おう。うちの鎮守府の水上機母艦はお前しかないしな」

秋津洲「で、でも…あたしは水上機母艦の中で一番最弱だし、千歳型を建造した方が早いかも…」

アール「そんなわけあるか。強い、弱いとかそんな関係ねえよ」デコピン

秋津洲「あうっ」Σ(; > 彡)

アール「提督は秋津洲の力が必要としてんだ。もつと自分に自信を持つといいさ」ナデナデ

秋津洲「あ、アールさん…ありがとうございます」

ジン「秋津洲、ついに俺達が教えた新・秋津洲流戦闘術の発揮する機会だ。がんばれ」

加賀「よければ、フレーム回避のコツも教えますよ」

不知火「しやがみ撃ちなら任せてください」

秋津洲「なんか色々叩き込まれるかも!?!」

in 執務室

提督「今回はグアノ環礁沖へと出撃する。出撃するメンバーは秋津洲を旗艦に、矢矧、時雨、響、春雨、電の6名だ」

矢矧「出撃ですね。腕がなるわ」

秋津洲「あわわわ。き、緊張するかも…!!」

電「はわわわ…わ、私も出撃なのです!!」

時雨「春雨、頑張っつていこうね」

春雨「は、はい!」

響「…司令官、工廠で最終調整をしたいんだけどいいかい?」

提督「うん? そういえば響は練度が一定段階に行くともう一段階改造ができるんだっけか?」

響「うん。名前も、見た目も少し変わると思うけど…今回の海戦に備えておかないとね」

提督「よし、あれか…響、蟹に（ry）」

霞「改二でしょうが!」 スパーン

時雨「提督、肝心ところで嘯むからねー」

in工廠

明石「よし、これで完了ですよ響ちゃん…」

Вер^{ヴェ}н^エн^ルый^{スイ}「Да、ありがとう、明石さん」

ベル「…ふつくしい」

ジン「…更に真っ白になったな」

ミケ「とてもキラキラしてて美しいニヤ！」

電「ふわああ……とてもキレイなのです」キラキラ

提督「えーと……なんて読むんだ？」

アール「古代文字……？」

ヴェールヌイ「ロシア語でヴェールヌイだよ。艦娘によつては艦種が変わったり名前が変わったりするのもあるんだ」

提督「なかなかどうして、一段と美人になったね」

アール「これからもよろしくなヴェール!!」ナデナデ

ヴェールヌイ「…С п а с и б о . ありがとう」テレテレ

春雨「……」ソワソワ

時雨「春雨、大丈夫かい？」

春雨「…攻略の際に他の鎮守府からの情報を聞きました。あの海域には……」

時雨「…大丈夫。もしもの時は僕が守るよ」

春雨「…司令官達は私達とは知らない場所で沢山戦ってる。私も、勇気を出して立ち向かおうと思います」

時雨「うん、僕も手伝うよ春雨」ポンポン

提督『すまない、下の方角へとむかってくれ。こちら!! けんかはやめ (ry)』ブツツ
矢矧「:そ、それじゃあ行きましようか」

時雨「提督も大変だね:」

偵察機<敵艦発見ダヨ

秋津洲「ええっ!?!ど、どこからですかー!?!」

矢矧「どうやら潜水艦のようね:皆、魚雷に気を付けて!!」

電「は、はいなのです!」

潜水ヨ級「敵ノ潜水艦ヲ発見!」魚雷発射

潜水力級A「ダメダ!」魚雷発射

潜水力級B「ダメダダメダ!!」魚雷

春雨「ひやあっ!?!あ、あぶなかつたー」回避

時雨「よし、爆雷の出番だね!」つ三【爆雷】

潜水力級C「ラブラドル!?!」critical!撃沈

ヴェールヌイ「そこだね」つ三【爆雷】

潜水力級A「ダックスフンド!?!」critical!撃沈

電「や、やってやるです!」つ三【爆雷】

春雨「それキャラが違うよ!?!」

潜水力級B「ブードルツ!?」critical!撃沈

秋津洲「か、火力は低いかもけど…!」艦載機発艦

艦載機<爆雷、投下ツ!

潜水力級D「チワワツ!?」中破

春雨「え、えーいつ!!」つ三【爆雷】

潜水力級「ブルドッグツ!?」中破

矢矧「よし、ここねっ!!」つ三【爆雷】

潜水力級E「今日のわんこっ!?」撃沈

秋津洲「敵艦隊に大打撃!こ、このまま強制突破しますかも!」

矢矧「旗艦と私について来て!!突っ走るわよ!!」

電「し、失礼しますなのです!」アタフタ

――進撃中――

秋津洲「次の敵艦隊の戦闘も、なんとか突破したかも」

電「大きな戦闘にならなくてすんでよかったです」

ヴェールヌイ「ここから索敵だね」

秋津洲「よーし、飛ばすかも!」艦載機発艦

矢矧「索敵よろしくね」零式水上観測機発艦

数分後

艦載機<タダイマー

水上観測機<敵艦隊ハコツチニイタヨ

秋津洲「ボス艦隊はこつちの方角にいるかもです！」

矢矧「ここら気を引き締めていくわよ」

時雨「よし、春雨、行くよ」

春雨「はいっ！」

再び進撃中

秋津洲「わつ…て、敵艦隊発見です!!」アタフタ

矢矧「戦艦1隻、重巡2隻、駆逐艦2隻、そして…」

駆逐棲姫「ヤラセハシナイヨ…！」

春雨「!!…駆逐棲姫ですな…!!」

ヴェールヌイ「火力が弱い私達は回避に専念して隙を狙っていこう」

時雨「皆、敵艦の火力には気を付けて!!」

戦艦タ級「フツ、水上機母艦ハ最弱ノ秋津洲カ…コレナラ勝テルナ」

秋津洲「あわわ…」

ジン『秋津洲、これまでの特訓を思い出せ』タンコブ

アール『新・秋津洲流戦闘術を叩きこんでやれ!』タンコブ

秋津洲「はいっ!!が、頑張ってみるかも…!!」

矢矧「よし、先手を打つわ!!」ドーン!

駆逐二級A「レタスツ!」critical!撃沈

戦艦タ級「マズハお前カラ沈メツ!!」ドドーン!!

秋津洲「!」

電「あ、秋津洲さん!!危ないなのです!!」

秋津洲「えーいつ!!」エリアル回避

電&戦艦タ級&駆逐棲姫「(ハ)。。」

矢矧「と、跳んだー!」

秋津洲「ふ、副砲で速射かもっ!!」ババババツ

戦艦タ級「アダダダツ!ソ、ソナナノアリ!」HIT!!中破

時雨「か、艦娘が立体起動した!」

ジン『これぞ、エリアルスタイル版秋津洲流戦闘術!!』ドヤア

ヴェールヌイ「ハラショー」

矢矧「いやいやいや!副砲であんなに連射できないわよ!」

ジン『ちよつと副砲をライトボウガン風に改良してみてな』

アーロ『通常弾で速射機能をつけてみたんだぜ!!』

明石『こらーっ!! また勝手に改造しないでくださいー!!』

春雨「い、いいのかなー…」

駆逐棲姫「ズ、ズルイゾ!!」プンスカ

重巡リ級A「ヤツチマエー!!」ドドーン

時雨「おっと…やらせないよ!!」ドーン

駆逐棲姫「っ!! イタイジヤナイノサ…!!」小ダメージ

重巡リ級B「コノツ!! チヨコマカト!!」ドドーン!

秋津洲「もう一回!!」エリアル回避

戦艦夕級「マタ跳ンダ!？」

秋津洲「お返しかも!」副砲速射

戦艦夕級「アダダダッ!? モウイヤッ!」HIT!! 大破

ヴェールヌイ「援護するよ」ドーン!

駆逐二級B「ラディッシュッ!？」critical! 撃沈

春雨「砲雷撃戦、いきます!!」ドーン!!

重巡リ級B「ニンジンッ!？」小破

電「はわわ：う、撃ちます!!」ドーン!

重巡り級A「ベジータツ!?」小破

駆逐棲姫「コノツ!!沈メツ!!」

電「はわわわわっ!?」critical!中破

秋津洲「あわわ…え、えつと雷撃戦!魚雷を撃つてくださいーい!!」

矢矧「よし、いくわよ!!」魚雷発射

時雨「魚雷、いくよ!!」魚雷発射

ヴェールヌイ「D.A.狙い撃つ…!!」魚雷発射

春雨「雷撃戦も負けません!!」魚雷発射

駆逐棲姫「コツチダツテ、ヤツテヤル!!」魚雷発射

重巡り級A「野菜ヲ喰エツ!!」魚雷発射

重巡り級B「オ米食ベロツ!!」魚雷発射

時雨「ぐうつ!!まだ、負けないよ…!!」critical!大破

秋津洲「て、提督!!夜戦突入するかも!」

提督『時雨、電、大丈夫か!』

時雨「僕は大丈夫…このまま夜戦突入して!」

電「わ、私も大丈夫なのです」

矢矧「提督、もしもの時は私が守るわ」

提督『：わかった。夜戦突入だ！』

——夜戦突入！——

駆逐棲姫「夜戦…次で沈める…！」

ピカーツ

戦艦夕級「ヤヤツ!?アレハ探照灯!」

ヴェールヌイ「見つけたよ」探照灯照射

矢矧「よし、一気に畳み掛けるわ!!」ドドドーン!

戦艦夕級「グウツ!?オノレ…!!」critical!撃沈

駆逐棲姫「旗艦ガヤラレタ…!コノツ!!」魚雷発射

春雨「きやあつ!?うう…」critical!大破

ヴェールヌイ「お返しだよ!!」ドドーン!

駆逐棲姫「アアツ!?クウ…忌々しい艦娘メ…!!一時撤退だ!!」critical!大

破

重巡り級A「コノツ…野菜ヲチャント食ベロヨー!!」スタコラサツサ

重巡り級B「オボエテロー!」スタコラサツサ

秋津洲「敵艦隊、撤退!初戦は勝ちました!!」

提督『よし！皆、よく頑張った！一先ずは帰還してゆっくり休んでくれ』

矢矧「まずは1回目ね…この調子でいきましょう」

時雨「春雨、大丈夫かい？」

春雨「は、はい…鎮守府でしつかり休んで次に備えますね」

電「…」

ヴェールヌイ「電、どうかしたのかい？」

電「い、いえ。なんでもないので」

戦艦夕級「イタタタ…アノ秋津洲、強スギデシヨ!？」

重巡り級A「避ケタト思ツタラ高ク跳ンデルシ…アレガ秋津洲流戦闘術…!!」

戦艦夕級「次モヤツテ来ルダロウシ…モウイヤヨ!？」

駆逐棲姫「…モシモノ時ハ、私ガ旗艦ニナツテ戦ウ」

戦艦夕級「…マダ、焦ル必要ハナイワ。もうちよつと、私ガ帰艦デ頑張ルカラ…」ポ

ンボン

駆逐棲姫「私ガ…私ガヤラナクチャ。ココヲ守ラナイト…『ヤツ』ニ見ツカッタラ…

皆ガ危ナイ!!」

重巡り級B「アワワワ…駆逐棲姫、落ち着イテ！」

戦艦夕級「落ち着イテ…マダ、マダ大丈夫ヨ。ココノ海域ニハマダ『ヤツ』ハ来テイナイ。モシ負けチャツタラ他ノ所ヲ探セバイイノヨ…」ナデナデ

駆逐棲姫「…ウン…」

春雨「…あ、アールさん、ジンさん、大丈夫ですか!？」

霞「春雨、あれはしっかり反省するようにさせてるから気にしてはダメよ」

電「はわわわ!?ど、ドラム缶に入れられてるのです!」アセアセ

矢矧「まるで黒ひげ危機一髪みたいね…」

アール「正直すまんかった」(…ω…)

ジン「…でも、少しは戦闘にいい影響を与えたのだからいいのでは?」(…ω…)

明石「はあ…どう大本営に報告すればいいのでしょうか…」

ベル「ほ、本人もご満足のようだし…いいんじゃないのかな?」

秋津洲「提督!秋津洲頑張ったかも!」

ヴェールヌイ「スタイリッシュでかっこよかったよ」

時雨「空母も水母も皆スタイリッシュになっていくね…」

提督「…終わり良ければ総て良しだね!」

霞「だめでしょうが!?!」スパーン

101話 グアノ環礁沖決戦、西方海域の異変

―グアノ環礁沖へ快進撃は続いた―

2回目

秋津洲「と、とーう!!」 エリアル回避

戦艦夕級「マタ跳ンダ!？」

島風「はつやーい!!」 ヒヨイヒヨイ

天津風「こら!あまり調子に乗っていると被弾するわよ!」

重巡り級A「コノツ、コノツ!! エエイ、何故当タラン!!」

3回目

秋津洲「エリアル楽しいかも!」 エリアル回避

戦艦夕級「アレモウ水上機母艦ジャナイヨネ!？」

時津風「くうーん…」 キラキラ

雪風「くうーん」 キラキラ

初霜「く、くうーん」

重巡り級B「(。D。(」 ドウス、ルアイ〇ル」

駆逐棲姫「マ、惑ワサラタラダメ！」

in 執務室

提督「……い、一応勝ってるんだよね？」

霞「わ、私に言われても……というか3回目のあれを指示したの誰よ!？」

時津風&雪風「アールロさんです」

アールロ「やつべっ!!」脱走

明石「こらー!!」ダツシュ

大淀「と、とりあえずはゲージも残りあと僅かになりましたね。次の出撃で勝利すれば海域突破です」

ベル「残るはあと一回になったね……」

ジン「いつも最終盤は敵も強くなるからな……編成を改める必要があるか？」

提督「うーむ……一回目の編成でいこう」

——数分後——

提督「と、言うわけで次の出撃は秋津洲を旗艦に、矢矧、時雨、ヴェールヌイ、電、春雨でいくぞ」

秋津洲「いよいよ次の出撃で勝てば突破するかも！」フランス

矢矧「最初の時と比べて自信がついてきたわね」

ジン「だが油断は禁物だ：敵艦隊も変わっているだろうな」
春雨「よし：頑張ります！」

電「が、頑張りますのです！」

時雨「艀装も万全の準備をしないとね」

ヴェールヌイ「ジンさん、私達にも速射機能を……」

ベル「明石さんに怒られるからやめとこうねー」ポンポン

矢矧「あれ？　そういえばアールさんは……？」

提督「明石さんの説教の犠牲になったのだ」

—— グアノ環礁沖 ——

秋津洲「み、皆頑張って出撃かも！」ガチガチ

矢矧「残りあと一戦で勝てば海域突破だから余計に緊張してる!？」

ヴェールヌイ「潜水艦の戦闘は難なく突破したから次も突破すれば大丈夫だよ」

秋津洲「あわわわわ……」ガチガチ

時雨「更に悪化してるよ!？」

電「はわわ、敵艦発見したそうですよ!？」

春雨「軽巡1隻、雷巡2隻、駆逐艦2隻です！」

秋津洲「み、みんな、戦闘じゅ、準備かも！」

時雨「ほ、ほら落ち着いて深呼吸をして」

矢矧「よ、よし！先手を打つわ！」ドドーン！

雷巡チ級B「ラクタロウツ!？」critical!撃沈

軽巡ツ級「歌丸シショー！」ドーン!!

ヴェールヌイ「遅いよ」回避して反撃

駆逐イ級A「コウザツ!？」critical!撃沈

時雨「次、いくよっ!!」ドーン!!

駆逐艦イ級B「コウラクツ!？」critical!撃沈

雷巡チ級A「タイヘイツ!!」ドドーン!

春雨「わっ!?!あ、あぶなかったー!」小ダメージ

電「う、撃つのですっ!!」ドーン!!

軽巡ツ級「キクオウシショーツ!？」中破

春雨「砲雷撃戦、いきます!!」ドーン!!

雷巡チ級B「シヨウタツ!？」小破

秋津洲「副砲撃てーっ!!」ババババツ

矢矧「速射機能はそのまんまなのね!」

雷巡チ級B「サンペイツ!?」critical!撃沈

秋津洲「ら、雷撃戦お願いしますかも!」

矢矧「雷撃いくわよ!!」魚雷発射

ヴェールヌイ「了解、撃つよ」魚雷発射

時雨「これできめるっ!」魚雷発射

春雨「あ、当たってください!」魚雷発射

電「雷撃戦も負けないのです!」魚雷発射

軽巡ツ級「ヤマダクーン!」critical!撃沈

秋津洲「な、なんとかこども突破で来たかも!」フウ

時雨「次は索敵してボス艦隊へ向かおう」

矢矧「提督、このまま進撃するわ」

ヴェールヌイ「:::」

春雨「どうかしました?」

電「何か気になる事があるのです?」

ヴェールヌイ「:::座布団一枚」

春雨&電「??」クビカシゲ

進撃中

矢矧「索敵もぼつちりね…」

秋津洲「あわわ…緊張するかも…」

時雨「大丈夫だよ。いつものようにやっつけていこう」

春雨「…」

電「春雨ちゃん、大丈夫ですか？」

春雨「…うん、大丈夫。しっかりしていないと」

ヴェールヌイ「…くるよ」

秋津洲「で、敵艦発見かも！駆逐棲姫、戦艦2隻、重巡1隻、駆逐艦2隻かも！」

矢矧「戦艦2隻…!! 気を引き締めていくわよ!!」

駆逐棲姫「コレ以上、ヤラセハシナイヨ！」

矢矧「よし…これをくらいなさい！」ドドーン！

戦艦タ級A「グツ!?…ヤッタワネ!!」中破、反撃

ヴェールヌイ「電、こつち!!」グイッ

電「ひゃあつ!? た、助かったのです」アセアセ

戦艦タ級B「コノ、沈ンデイケツ!!」ドドーン！

秋津洲「ここを…えーいつ!!」エリアル回避

戦艦夕級B「コノツ…マタ跳ンデ避ケタ!」

駆逐棲姫「…」

秋津洲「は、反撃かも!」副砲速射

戦艦夕級B「ギヤツ!?オノレ…」critical!中破

駆逐棲姫「ココダツ!!」ドドーン!

秋津洲「きやあつ!?ちや、着地狩りとか狡いかもー!!」critical!大破

駆逐二級A「ヒヤツハー!!追イ打ちダァ!!」ドーン!!

時雨「っ、やらせないよ!!」庇つて反撃

駆逐二級B「タワバツ!」critical!撃沈

春雨「そこですつ!!」ドーン!!

駆逐棲姫「ソンナモノ、イタクモナイ!!」小ダメージ

電「や、やります!!」ドーン!!

駆逐二級A「アワビュツ!」

重巡り級A「ミエル、ミエルゾーツ!!」ドーン!!

電「ひゃあつ!?な、何が見えたのです!?」critical!大破

ヴェールヌイ「電!!このっ…!!」ドーン!!

重巡り級「クツ!?若サトハ恐ロシイモノダ」小破

秋津洲「雷撃戦、やってくださいかも！」

矢矧「狙い撃つわ!!」魚雷発射

時雨「雷撃、いくよ!!」魚雷発射

ヴェールヌイ「ここだ:!!」魚雷発射

春雨「負けません!!」魚雷発射

戦艦夕級A「グウツ!?集中シテ撃ツテキタカ:」critical!撃沈

駆逐棲姫「コノツ:コレデモクラエ!!」魚雷発射

重巡り級「ソコダ:!!」魚雷発射

時雨「ぐうつ!?や、やるじゃないか:」critical!大破

春雨「時雨姉さん!!」

秋津洲「て、提督!!夜戦突入の許可をお願いしますかも!」

ヴェールヌイ「二人を私が守る:!!」

提督『:わかった。夜戦へ突入だ!!』

――夜戦開始!!――

駆逐棲姫「夜戦力:シツコイ奴等ダ!!」

戦艦夕級B「艦娘ノ探照灯!!」

矢矧「そこね…阿賀野型を軽巡となめないで!!」ドドーン!

戦艦夕級B「ウグツ!?旗艦ハヤラセナイワヨ:!!」旗艦を庇って撃沈

駆逐棲姫「コノ…沈メ!!沈メエエツ!!」魚雷発射

矢矧「きやああつ!?くう…こんな簡単に沈まないわよ!!」

ヴェールヌイ「そこだね…!!」ドドーン!

重巡り級「ヌワーツ!?」critical!撃沈

＼61cm4連装(酸素)魚雷／＼12・7連装砲／＼61cm(酸素)魚雷／

春雨「皆を、守り切ります!!」魚雷発射

駆逐棲姫「キヤアアツ!?」critical!撃沈

秋津洲「や、やったー!!か、勝ったかもー!!」

矢矧「!!まだ、油断しないで!!」

駆逐棲姫「ウウ…私ガ…私ガヤラナクチャ…『ヤツ』ガ私達ノ眠ル場所ヲ奪ツテイク

…」

秋津洲「ひゃ、ひゃーっ!?!」

時雨「まだみたいだね…」

ヴェールヌイ「司令官、追撃はできるけどどうする…?」

提督『…いや、必要はないよ。海域突破できた、これ以上追い込むことはない』

春雨「司令官：…そうですね」

戦艦夕級B「駆逐棲姫：私達ノ負けダ。ココヨリ安全ナ場所ヘヲ探ソウ…」ボロボロ重巡り級「艦娘達モ追イ打ちハシテコナイ。今ノウチニ退コウ」ボロボロ

駆逐棲姫「…ウン」潜行

秋津洲「な、なんとか退いてくれたみたいですね」ホッ

電「こ、これで艦隊の勝利なのですか？」

ヴェールヌイ「うん：…とりあえずは、なのかな？」

提督『みんな、お疲れ様。これより帰還してゆっくり休んでくれ』

時雨「ありがとう提督、これより帰還するね」

矢矧「さ、帰りましょう。春雨、よく頑張ったわね」

春雨「えへへ…あ、ありがとうございます」

in 執務室

提督「…」考え中

ジン「気になる事があるのか？」

提督「…：深海棲艦が言っていたことが気になってな。『ヤツ』ってなんだ？」

ジン「…南方海域へやってきた古龍、アマツマガツチに襲われて撤退していたことがあつたな」

ベル「もしかして、深海棲艦達は他の古龍種に襲われているのかな…?」

提督「うーむ…分からないな。調べる必要があるやもしれん」

アール「おい、大変だぞ!!」ドン!!

ベル「アール、そんなに焦ってどうしたんだい?」

アール「さつき、大本営から電報があつてな…西方海域に例の超弩級深海棲艦が出現したらしい」

ジン「!?それは本当か!」

アール「で、そいつは陸地へと進んだのだけどすぐに海へ潜行し消えたんだ」

ベル「な、なんだ…少し焦ったよ」

アール「いや、その後がやばいって!!…リランカ島泊地に『燼滅刃・ディノバルド』が襲撃して被害が甚大なんだ!!」

提督「おい…二つ名ってそれマジか!」

102 燼滅の劫火

i n 母港

提督「ギルド本部から二つ名の討伐許可がでたぞ。皆支度はできてるか？」

ジン「いつでもいいぞ」

黒丸「提督、船の準備も完了ニヤ!! すぐにでもひとつとびできますニヤ」

アーロ「よりもよって二つ名かー…やばくね？」

ベル「燼滅刃は特に危険だからね。特に刃尾の爆熱が一番危ない」

提督「よし…それじゃあ行こう。皆もしもに備えて古の秘薬は各自持つように」

アーロ「しやあつ!! 急いで乗り込むぜ!!」

霞「司令官、二つ名って？」

提督「二つ名というのは原種や亜種の中で性質も形態が変わっている凶暴な個体の事を言うんだ。危険だからギルドや龍歴院が許可を出さない限り討伐できない」

瑞鶴「じゃ、じゃあ許可が下りたんなら皆で一斉に攻撃した方が…」

ジン「二つ名は戦闘も変わる。原種が炎のに対し、爆発性のある炎になっていたり、原種より強い毒を持っていたり…腕の立つハンターじゃないと大怪我どころじゃすまな

くなるぞ」

ベル「一緒に行きたいっていう気持ちはわかるよ。でも…これはあまりにも危険すぎるし、巻き込むわけにはいかないんだ」

提督「その…霞、すまない…」

霞「…もう、いちいち謝らなくていいわよ。だから、無事に帰って来て…」ギユツ

提督「ああ…行ってくるよ」ナデナデ

ジン「…」ジーツ

瑞鶴「…えっ?」

ジン「(・ω・)」ジーツ

瑞鶴「わ、わかってるわよ…その…えっと…あまり大怪我しないで」テレテレ

ジン「もちろんさあ」ホールド

瑞鶴「わああっ!?!お、思いつきり抱き着かないでよ!」顔真つ赤

ベル「…」ホツコリ

アール「よし、燼滅刃の討伐に行ってくるらー。黒丸、出港ー」

黒丸「了解ニヤ」

ベル「あつ、やべっ!アールが拗ねた!!」

提督「ご、ごめん行ってくる!」

ジン「(*、ω、)」ご満悦

瑞鶴「ちよ、ジンさん!? 船が、船が出てるから!」

in 西方海域、リランカ島「原生林エリア

アール「おらーっ!! 燼滅刃、でてこいやあ!!」、(#、ㄣ、)ノ

ジン「:アールの奴、なんで拗ねてんだ?」

ベル「その、あまり考えない方がいいかも:」

提督「泊地にいた人達は避難できたみたいだったけど、泊地はひどい惨状だったよ:」

ジン「ああ、灰燼に帰すって感じだな」

アール「うおおお!! どこだー!!」ダダダダダッ

ベル「ちよ、アール!? そんなに急がなくていいよ!」

ジン「:あたりが焦げ臭いな」

提督「間違いない:近いぞ。アール、あまり急ぐな! 当たりを経過して:」

ゴオオツ 三●

アール「おわっ!? あぶなっ!?」回避

ベル「遠くから火球が飛んできた!!」

ジン「まだ来るぞ!!」

ゴオオツ三●

提督「大剣ガードっ!!」ガード

アール「あつつ!?熱波がやべえ!!」

ジン「…いたぞ」

ベル「やっぱり二つ名は原種よりもでかいな…」

燼滅刃デイノバルド「(#▼皿▼)」グルルル…

提督「いいか、やつらの爆熱と刃尾には気を付けるんだぞ」つ水剣ガノトトス

ジン「まずは刃尾か頭部の部位破壊だな…」つアルファルド

ベル「リーチがでかいからね…注意していこう!」つ鯨牙のブリザギル

アール「おらー!!いくぞー!!」つブラックフルガード

燼滅刃「(#▼皿▼)」つ尻尾振り下ろし

アール「おっ!?思った以上に長げえっ!?」ガード

燼滅刃「(#▼皿▼)」つ尻尾横薙ぎ

アール「げっ!?やべっ…」

提督「ガードっ!!」大剣ガード

ジン「せいっ!!」抜刀気刃斬り

ベル「こっちだ!!」連続斬り

燼滅刃「(▼皿▼#)() 噛みつき攻撃

ベル「よっと」ジャスト回避

アーロ「おらー!! さっきのお返しだ!!」斧モード叩き付け

提督「どっせいっ!!」抜刀斬り

燼滅刃「((#▼皿▼))」斬り払い

アーロ「おぶっ!?!」受け身

提督「あぶなー…」受け身

燼滅刃「三(#▼皿▼)」飛び掛りジャンプ切り

アーロ「思いつきりジャンプしてきたぞ!?!」緊急回避

提督「うひーっ!?!」緊急回避

燼滅刃「●三(▼皿▼#)」火炎マグマプレス

ジン「次はこっちか」ジャスト回避

ベル「回避してからの足に攻撃っ!!」回転斬り

燼滅刃「(#▼皿▼)」尻尾振り下ろし

ベル「わわっ!?!」回避

ジン「ふんっ!!」一文字斬り

燼滅刃「(#▼皿)」刃尾で防ぐ

ジン「っ!!それで防ぐか…!!」

燼滅刃「(#▼皿▼)三●」近距離マグマブレス

提督「やらせないぞ!!」溜め斬り

燼滅刃「Σ(；▼皿▼)」怯み

アール「もういつちよじゃ!」溜め攻撃

燼滅刃「((▼皿▼#))」尻尾横薙ぎ

提督「ぶっ!」(；皿(三)

アール「うべっ!?!刃尾が長いからリーチが…」受け身

燼滅刃「(#▼皿▼)」喉が赤くなる

ジン「喉にマグマが溜まってきた…赤熱状態だな」

ベル「よし…頭を攻撃すればダウンが取れるよ!!」

提督「頭は任せとけっ!!」ダッシュ

燼滅刃「(▼皿▼#)三」飛び掛りジャンプ斬り

ベル「提督じゃなくて思い切りこつちに跳んできた!?!」ジャスト回避

ジン「すごい跳躍力だな…!!」ジャスト回避

アール「お前らジャスト回避すりーぞ!?!」緊急回避

燼滅刃「(#▼皿▼)」刃尾を牙で研ぐ

提督「刃尾が赤熱化した。尻尾もいけるぞ!!」

ジン「刃尾は俺達がやる!!」ダツシユ

燼滅刃「(#▼皿▼)三三●三三●三三●」3連続マグマブレス

ジン「むっ!!」ジャスト回避

アール「おらーっ!!」斬りかかり

ベル「これもくらえっ!!」鬼人化連続斬り

燼滅刃「(#▼皿▼)三三●」火炎飛ばし

アール「あっっ!?!」..:。(ε。(c三

ジン「ぬっ:!!」ジャスト回避

提督「どりやあ!行くぞベル!!」スコーン

ベル「おおおっ!?!」打ち上げ、ジャンプ攻撃

燼滅刃「(▼皿▼;)」怯み

ベル「よし、乗ったよ!!」ライド

燼滅刃「(▼皿▼#)」暴れる

ベル「よつととと:」しがみ付く

ジン「振り落とされないう気を付けろ!!」

アール「いけー!!そのままざくざくやっちまえ!」

ベル「よし！どららららららららっ！！」ザクザクザクツ

燼滅刃「(▼皿▼;)」ダウン

ベル「よしっ！！畳み掛けるんだ！！」

アール「どんだん叩き込むぜー！！」属性解放切り

ジン「いけいけっ！！」気刃斬り

提督「ろっしよい！！」溜め切り

燼滅刃「(#▼皿▼)」(「バックジャンプ

提督「まだ爆発しないか…」

アール「もういっちょ叩き込んでやるか」

燼滅刃「(#▼皿▼)」刃尾を啜えて研ぐ

アール「げっ!?回転斬りか!？」

燼滅刃「(#▼皿▼)」喉、刃尾に黒い粉塵が付く

ジン「もう一段研いだか…」

提督「赤熱状態から爆熱状態だ！！今の刃尾には気を付けるんだ！！」

アール「リーチに気を付けてよければ…」

燼滅刃「(#▼皿▼)」尻尾振り下ろし

／！！BOMB！！／

アーロ「うおおおっ!!」緊急回避

ベル「爆破属性で更にリーチと範囲があがってる!!」緊急回避

提督「兎に角、頭を攻撃して喉の中で爆発を起こさせなくちゃ!!」

燼滅刃「三(#▼皿▼)」飛び掛りジャンプ斬り

ジン「ぐっ:!?」ジャスト回避

燼滅刃「C(▼皿▼#)」2回目叩き付け

提督「ガードッ!?」大剣ガード

\\!!BOMB!!／

ベル「提督っ!?!」

提督「だ、大丈夫だ!!」プスプス

燼滅刃「(#▼皿▼)」尻尾を咥える

ガガガガガガ!!

アーロ「ちよ、力を溜めてやがる!!」

ジン「大回転斬りがくるぞ!!」

提督「金属音が消えた時、でかいのがくるからな!」

ベル「もうそろそろ金属音が消える…!!」

ガガガガガガ…ッ!!

提督「今だ、避けろっ!!」

燼滅刃「三(#▼皿▼)三」大回転斬り

アーロ「うおっと!」緊急回避

ジン「ぬつく…!!」緊急回避

ベル「よし、避けた!」ジャスト回避

提督「次に備えろ!!」

燼滅刃「(▼皿▼#)」刃尾を啜える

ガガガガガガ!!

アーロ「アイエエツ!?二回目!?ナンデ!?」アセアセ

ジン「爆熱状態は2回目がくるぞ!!」

ベル「た、タイミングを間違えたらやばいよ!!」

提督「ちよ、金属音が消えるのが早いっ!!」

ガガガガガガ…ツ!!

燼滅刃「三(▼皿▼#)三」大回転斬り2回目

アーロ「うひーっ!?」緊急回避

ジン「ふんっ!!」ジャスト回避

ベル「あぶっ…」ジャスト回避

アーロ「あぶねーなこの野郎!!」ガードポイント

提督「反撃だっ!!」抜刀斬り、切り上げ

燼滅刃「(▼皿▼;)」怯み

ジン「そいつ!!」斬り下がりからの気刃斬り

ボンツ!!

燼滅刃「(; ▼皿▼)」ダウン

ベル「よし!口内で爆発してダウンだ!!」鬼人化乱舞

提督「どんどん攻撃するんだ!!」溜め斬り、超溜め斬り

アーロ「これも追加だ!!」高出力属性解放斬り

ジン「今のうちに叩き込め!!」大回転気刃斬り

燼滅刃「(#▼皿▼)」刃尾斬り払い

提督「むんっ!!」ガード

ジン「どうだ…?」

アーロ「タフだな…あれだけ打ち込んだのにぴんぴんしてやがる」

燼滅刃「(# ▼皿▼)」刃尾を高く掲げる

ベル「あれは…?」

アーロ「ちよい待て…なんか刃尾がメラメラしてねーか…?」

提督「……あれはヤバいぞ……!!」

燼滅刃「こ（▼皿▼#）爆炎刃尾叩き付け

\\ !! 大爆発!! /

提督「だ、大爆発したー!?!」（； 皿、）三

103 燼滅の劫火 後十α

提督「あ、あつちい!!」メラメラ

ジン「あの爆発：：かなりやばかったぞ」緊急回避

ベル「提督、はやくこれを!!」つ万能湯煙玉

提督「あ、あぶなかったー：：って、アールは!？」

アール「いやー、緊急回避してなかったらマジでやばかったぜー」メラメラ

ベル「アール!!頭!!兜のあたりが燃えてるよ!？」

アール「うん?：：あ、あつづ!?!あつづーい!?!」アタフタ

燼滅刃「三(#▼皿▼)」飛び掛りジャンプ斬り

アール「おうわつ!?!」緊急回避

ベル「あの爆炎を何とかしなくっちゃ：：!!」ジャスト回避

燼滅刃「C(▼皿▼#)」二段叩き付け

ジン「っ!!かなり手強いな：：!!」ジャスト回避

提督「なんのこれしきっ!!」回避してからの抜刀斬り

燼滅刃「(#▼皿▼)三●」マグマプレス

提督「つと!!」回避

ジン「次はこつちだ!!」一文字斬り

燼滅刃「(▼皿▼#)(「連続噛みつき攻撃

アール「そいやっ!!ガードっ!!」盾ガード

ベル「せいっ!!」斬りかかり

燼滅刃「三(#▼皿▼)三」刃尾振り回し

ジン「くっ…!!」受け身

アール「ぐえっ」||○)、3、)…:

提督「こんにやろめっ!!」溜め切り

燼滅刃「(▼皿▼:)」怯み

ベル「追加攻撃だっ!!」鬼人化回転斬り

燼滅刃「(▼皿▼#)」喉が赤くなる

アール「あいたたた…喉にマグマが溜まってきてるな」

提督「頭を狙うのはいいが、刃尾にも気を付けろー」

燼滅刃「(#▼皿▼)三●三●三●」爆炎マグマブレス

ジン「ふっ!!」ジャスト回避

ベル「よつと!」ジャスト回避

アール「ちよいさー!!」斧モード叩き付け

燼滅刃「(#▼皿▼)つ三●」爆炎飛ばし

提督「ぶべっ!?!」チリチリ

ベル「提督!!爆破やられだ!!何度か転がって!!」

提督「あわわわ…!!」ゴロンゴロン

燼滅刃「三(#▼皿▼)」飛び掛りジャンプ斬り

提督「ひえーっ!?!」緊急回避

アール「ジン、打ち上げるぞ!!」斧打ち上げ

ジン「こつちだ!!」ジャンプ気刃斬り

燼滅刃「(;▼皿▼)」怯み

提督「ふ、ふう…:なんとか爆破やられは取れた…」

燼滅刃「(#▼皿▼)三●」爆炎マグマプレス

提督「一難去つてまた一難っ!?!」緊急回避

アール「これでどうだっ!!」高出力属性解放斬り

燼滅刃「(×皿×;)」スタン

アール「よっしや!!スタン!!」

提督「ナイス!!この隙に攻撃だ!!」溜め切り、超溜め斬り

ジン「斬るっ!!」連続気刃斬り

ベル「もつともつと!!」鬼人化乱舞

燼滅刃「(＃▼皿▼)」噛みつき攻撃

提督「ガードっ!!」大剣ガード

ジン「ぬんっ」ジャスト回避

燼滅刃「(＃▼皿▼)」刃尾を啜える

アール「あの構えは…!!」

ガガガガガガッ!!

ベル「大回転斬りがくるっ!!」

ジン「さつきみたいに3連続か…!!」

提督「今度もタイミングを合わせて避けるぞ!!」

燼滅刃「三(＃▼皿▼)三」大回転斬り

アール「ういつ!!」緊急回避

ジン「ふんっ!!」ジャスト回避

ベル「よし、避けた!」ジャスト回避

燼滅刃「(▼皿▼＃)」刃尾を啜える

ガガガガガガッ!!

提督「次!!二回目っ!!」

アーロ「おうよっ!!」

燼滅刃「三(▼皿▼#)三」大回転斬り

ジン「ふっ!!3回目を撃たさせるな!」ジャスト回避

ベル「ギリギリのところまで攻めるよ!!」鬼人化連続斬り

燼滅刃「(#▼皿▼)」刃尾を啜える

ガガガガガガッ!!

提督「これをくらえっ!!」抜刀溜め斬り

アーロ「もういっちょぶち込んでやる!!」高出力属性解放斬り

\\!!BOMB!!/

燼滅刃「(;▼皿▼)」口内で爆発し、ダウン

ジン「いいぞ!!今だ!!」大回転気刃斬

アーロ「いけいけ!!」斬りかかり

ベル「畳み掛けるんだ!!」鬼人化乱舞

提督「そーい!!」溜め切り

燼滅刃「(▼皿▼#)()」噛みつき攻撃

アーロ「あだふっ!?!」チリチリ

ジン「っ!!これだけやっても倒れないか…!!」

ベル「二つ名だからね…でも、もうそろそろだと思っよ」

燼滅刃「(▼皿▼#)」刃尾を牙で研ぐ

提督「爆熱状態から更に研いだ…!」

アール「あれで叩き付けられたらヤバいぞ」チリチリ

ベル「…ちよ、アール!!爆破やられになつてる!!」

燼滅刃「(▼皿▼#)」(「刃尾を高く掲げる

ジン「あれは…また物凄い爆破攻撃をしてくるぞ!!」

アール「ちよ、ちよと待って!!」アセアセ

ベル「さっきの広範囲よりもっとでかい爆発になるよ!!」

提督「すっごいメラメラしてる!」

アール「こうなりや…そいやっ!!」打ち上げ

提督「うおっ!」スコーン

ジン「アール!」スコーン

燼滅刃「C(▼皿▼#)」爆炎刃尾叩き付け

\\!!BOMB!!／

ベル「うわあっ!?!凄い爆発だ!!」ジャスト回避

アール「グレンカイナー!?」(； 亅 ……)

提督「アール!!」

ジン「このチャンスは無駄にしないぞ!!」ジャンプ気刃斬り

提督「このつ…せいやーっ!!」ジャンプ溜め斬り

燼滅刃「(▼皿▼;)」怯み

ジン「もうひと押しだ!!」桜花気刃斬

提督「うおりやああつ!!」横回転斬り

ズバンツ!!

燼滅刃「グオオオオオオ…ツ」ヨロヨロ

ズズウウウン…ツ!!

ジン「…ふう…ふう…」

提督「はあ…た、倒したぞー!!」

ジン「やはり二つ名は手強かった…」

ベル「なんとか倒したね…アールは…?」

アール「あ、危なかったー…ネコのど根性を付けてなかったらヤバかったぜ」チリチ

リ

提督「アール、無事だったんだな!」ホッ

ジン「物凄く鎧がプスプスと煙が上がっているけどな…」

アール「あとは古の秘薬を使って…これで大丈夫だ」チリチリ

ベル「あとは鎮守府で手当をしないとね…」

提督「さてと、あとはギルド本部に連絡。本部の人達が来るまで少し調査をしよう」

ジン「…気になることがあるのか？」

提督「ああ…北方海域のウカムルバス、南西諸島海域でのラギア希少種、そして西方海域での燼滅刃。どれも共通点があるんだ」

ジン「…どういつも『超弩級深海棲艦』が関連している、とかか？」

提督「どうだか分からないな…でも、きつと手掛りはあるやもしれん」

アール「まあ虱潰しに調べりや何か出てくるかもな」チリチリ…

ベル「…アール？もしかして爆破やられになつてない？」

アール「…あつ、やべっ」

＼BOMB！！／

アール「まさかの爆破落ちいっつ！？」（； 旦、（

この後鎮守府に帰った提督達はプスプスと焦げてたのでそれを見た霞が卒倒したのは後の話

それから数日後

i n 執務室

アール「いやー、外は一段と冷えてるぜ。まさに冬ってヤツだな」コタツで温まる
ベル「ほら、アールもこたつでぬくくりしてないで書類整理を手伝ってよ」書類整理
中

ジン「次の海戦に備えて資材も燃料や弾薬も補充しておかないとな…」

提督「まだまだ色々やることは沢山あるし…他の皆が苦労しないように俺達で済ましておかないと」

アール「それにしても…駆逐艦の子達は賑やかにはしやいでるなー」窓から眺める
ジン「駆逐艦の子達だけじゃない。他の子達も服が変わってないか？」

ベル「確かに、皆赤と白の服を着てるね…鹿島も今朝、赤い毛糸のセーターを着てたよ」ホツコリ

天龍「提督ー、ちよつと失礼するぜー」

比叡「これは何処に置いとけばいいですかー？」

提督「おお、どうかしたのか？」

アール「ん？比叡、その担いでる木はなんだ？」

比叡「これですか？クリスマスツリーですよ！」

提督達「」「クリスマス…ツリー…？」「」クビカシゲ

天龍「もう少しでクリスマスだつてのに、これがなきやダメだろー」

提督達「**「「クリスマス?????」**」「**「クビカシゲ**

天龍「**「……え？」**」

長門「**「提督!!失礼するぞ!!」**」サンタコス

ビスマルク「**「長門、まだ早いわよ!？」**」

長門「何言つてる。そろそろクリスマスに備えないといけないのだからな。提督、サンタコスをしてみたのだが、どうだ?」フランス

提督達「**「「……サンタ?」**」「**「クビカシゲ**

ビスマルク「**「……ねえ、もしかしてこれって……」**」

天龍「**「ああ……もしかしてじゃなくて、これやべえぞ」**」

山城「**「提督ー!!クリスマスプレゼントの用意はしたの!？」**」

大鳳「**「あらかじめ駆逐艦の子達用に欲しいクリスマスプレゼントのリクエストの紙を用意してたのですが……もうこんなに沢山!!」**」

瑞鶴「**「提督、加賀さんがプレゼントの配布は艦載機でやるのか気になってたわよー」**」

提督達「**「「クリスマス……プレゼント!？」**」「**「Σ(；・、ネ・、)**

川内「**「提督!クリスマスパーティーの用意はどうするの?」**」

ポーラ「**「ポーラは沢山ワイン飲みたいです♪」**」

足柄「クリスマスケーキとかは作る？それとも買う？」

提督達「「「クリスマス…ケーキ!」」Σ(、・σ・;)」

瑞鶴「…いい、一応聞くけどさ、提督達の故郷ってクリスマスはあったの？」

提督「…ないけど？」

ジン「初耳だな」

天龍「なんかそんな気がしたんだよなー!!」

山城「ちよつと、これまずいでしょ!？」

アール「というか…クリスマスって何？」

——瑞鶴説明中——

アール「そうかそうか…つまり良い子にしていた俺にもサンタさんからプレゼントが

…」(・・・)

ジン「いや、それはない」

提督「じゃあクリスマスプレゼントはサンタさんとやりに頼めば…」ガクガク

長門「いや、用意するのは私達だが？」

提督達「「「な、なんだってー!」」(；・；、σ・；)

天龍「こういう場合、提督達がサンタさんとトナカイの役割なんだ」

川内「提督達の故郷とこっちの国での文化は少し違うし、仕方ないよね…」

大鳳「わ、私達も協力します!!」

ビスマルク「とにかくイブまであと二日あるし…それまでに用意しなきゃね」

足柄「よし、腕がなるわ!」フンス

ベル「と、兎に角、クリスマスに間に合うようにしなきゃ!!」

104 クリスマス作戦、実行ス

in 執務室

提督「さて…まずは急いでクリスマスに備えて実行する!!」

長門「うむ。手始めにプレゼントを用意する者、食材を用意する者、サンタとトナカイをやる者に分かれるぞ」

ジン「ならば俺が食材の担当をしよう」

瑞鶴「それじゃあ私が手伝うわね!一緒につく(r y)」

アール「間宮さんにも手伝ってもらおうぜ」

長門「それもいいな。確か他の鎮守府では間宮と一緒にディナーを作っていたと聞く。他の者も呼んで作ろうか」

瑞鶴「」

大鳳「ず、瑞鶴さん!?!し、しっかり!」ユサユサ

ベル「それじゃあ俺はプレゼントを用意しようか」

鹿島「ベルさん、一緒に頑張りましょうね!」

山城「他の子達の間もあるから結構大変よ?」

ビスマルク「皆で力を合わせてやれば大丈夫よ」

提督「さて…あとはサンタとトナカイだが…」

金剛「Hum…テイトクー、そういえば鎧は赤いデスね」ジーツ

足柄「アールさん…これつけてみて」つ玩具の鹿の角

アール「おう。これでいいか？」装着！

長門「…これでいいかもな」ナツトク

天龍「いやこれでいいのかよ」

提督&アール「??？」

ポーラ「サンタとトナカイは提督とアールさんにやつてもらいましょー♪」

提督&アール「フアツ!？」

足柄「あとはソリの用意ね…」

提督「さ、サンタってなにやればいいの…!？」アセアセ

アール「トナカイとか…解せぬ」

―プレゼント用意組―

山城「ある程度は前もって用意しているけどまだ半分もきつてないわ」

球磨「クマー!! 張り切って全部仕上げるクマ」クリスマス仕様

大井「うふふ、球磨姉さんったらはりきっちゃって」

龍田「ベルさん、この箱にプレゼントのリクエストが書いた紙が入ってるわ」

ベル「よし、それじゃあ一つずつ確認していこうか」ガサゴソ

☒ れでいにふさわしいもの　あかつき　☒

ベル「…え？」

飛鷹「い、一発目から凄いのが来たわね…」

龍田「ブローチとかがいいかもしれませんね」

ベル「よ、よし。それでいこう。それじゃ次!!」

☒ ウオツカ　ヴェールヌイ　☒

ベル「…どうしようかこれ」

龍田「あらあら大人っぽいわねー」ウフフ

北上「これはありにしときましょー」

鹿島「だ、だめですよ!?!つ、次行きますよう!」ガサゴソ

☒ 提督の抱き枕　金剛　☒

ベル「まともなのがない!?!」

大井「これはこれでやるしかないわね…」

飛鷹「や、やっちゃうのこれ!?!」

龍田「どんどんいきましょ♪」

☒ 加古の寝相が悪いので安眠枕を 古鷹 ☒

ベル「古鷹…大変だね」

大井「確かに加古の寝相は悪いわねー」

北上「前の日に朝訪ねてみたら犬神家の状態で寝てたね」

山城「というか古鷹のじゃなくて加古の為になってるわよ…」

鹿島「つ、次はどうでしょうか？」

☒ しれー達をはぐする権利 時津風 ☒

☒ 司令官達と遊べる権利 皐月 ☒

ベル「…」 ホツコリ

龍田「あらあら〜♪」

球磨「チケツトみたいなものを作ったクマ」

ベル「これからはもつとスキンシップをとらないとね…さあ次!!」

☒ かつこいいオトモン 長波 ☒

☒ はっやーいオトモン 島風 ☒

☒ 強そうなオトモン 江風 ☒

ベル「」

鹿島「べ、ベルさん：!？」

大井「これはさすがに無理ね：」

北上「あ、他の子達も同じ内容なのがいくつかあるよー」

ベル「：」ザッ

飛鷹「べ、ベルさん？どこに行くんですか：？」

ベル「ちよつと：ペリオロス亜種とテイガレックスを捕まえに行つてくる」遠い目

鹿島&大井「べ、ベルさー！ん!？」

——この後、山城達がオトモンが欲しいという子達に『さすがにそれは無理』となんとか説得して事なきを得た——

——サンタ&トナカイ組——

提督「なあアール、サンタって何やるんだ？」

アール「いやいやトナカイってなんぞ？ガウシカのことか？」

初雪「ん：司令官、アールさん、どうかしたの？」

臯月「司令官!!明日でクリスマススイブだね！楽しみだなー!!」ワクワク

秋月「パーティーもやると聞いてますからどんなパーティーになるか楽しみです!!」

磯風「そういえば提督の故郷ってクリスマスはあったのか？」

提督「お恥ずかしながら、俺の故郷ではなかったなー：」

アール「年がら年中、砂漠の海とドンドルマを行ったり来たりとか『我らの団』と旅をしてたもんな。なあ、サンタとトナカイってどんな感じなんだ？」

臯月「そうだねー：：そうだ！クリスマスについての絵本があるよ！！」

初雪「これを読めばある程度わかるかも」

提督「なるほど：：よし、さっそく読もうか！！」

秋月「たしか書齋室においてありましたね！取って来ます！！」

――提督&アール熟読中――

提督「

アール「

衣笠「あ、提督ー！！長門さんがソリの用意をしてくれましたみたいですよー？」

青葉「サンタとトナカイを提督とアールさんがやってくれるんですよね？いい写真、

撮っておきますよ！！」

アール「：：と、トナカイって空を飛ぶのかよ」ガクガク

提督「おれ、髭を生やさないとダメなのか？」ガクガク

衣笠「ええっ!？」

青葉「あ、あくまでイメージですから！！」

利根「提督!! どうじゃ、このサンタコスは!! サンタらしく髭もつけてみたぞ!!」フン

ス

提督「がんばらなくちや」

青葉「イメーヅ!! イメーヅですから大丈夫ですよ!!」

アール「いや… エリアルスタイルならワンチャン… あ、ソリを引かなきゃなんねえ」

衣笠「だ、大丈夫かなあ…」

—— 食材組 ——

i n 溪流

ジン「うん? クリスマスの前日にパーティーをするのか?」

加賀「色々ありますね。前日の夜のことをイブと言いまして、その日にパーティーをするのもありますし、クリスマス当日にやるのもありますよ」

天龍「ま、最近はいブの夜にパーティーをしてプレゼントをあげるつてのが主なんだけ」

ジン「なるほど…」

瑞鶴「む… ジンさんと一緒に買い物したかったな」ムスー

大鳳「まあまあ、前日は忙しくなりますし一緒に料理もできますよ」

天龍「… てかなんで溪流? 下町で買い物しないのか?」

ジン「？黒丸たちに頼んで買い出しを頼んでたのだが、そっちに行かなかったのか？」
 天龍「え、！？そっちもあつたのか！？というかジンさん、溪流に行く必要は…」
 加賀「聞かなかったのですか？ジンさんがどうしても溪流に行かないと手に入らない食材があるとか」

瑞鶴「いや初耳なんだけど…というかその食材って？」

ジン「…『ドボルトリユフ』だけど？」

瑞鶴「あ、なんか嫌な予感が…」

ズウウン！！

ドボルベルク「（、皿）」「グルルル

瑞鶴&天龍&大鳳」「（皿）。。」

ジン「来たな…：さつそく背中の中の甲殻に生えてるキノコをもらい受けるぞ！」ダツ

加賀「私達は離れておきますね。ジンさん、ご武運を」サツ

天龍「いやいやいや！？あぶなすぎるだろ！？」

大鳳「とうかなんで私達まで!？」

ドボルベルク「（#、皿）」「ブオオオオツ！！

ジン「うらー!!」

瑞鶴「もうハチャメチャじゃないのー!？」

i n 下町

黒丸「今頃ジンさんはドボルベルクと戦つてるニヤ」

鈴谷「うへー……ついて行つたずいずい達大変そうだねー」

赤城「でも、ドボルトリュフというのも美味しそうですね」ウフフ

霞「あ、赤城さん。つまみ食いはダメですからね……」

ポーラ「ねえねえ、どんなの買うのー？ポーラはワインも欲しいなー」

ミケ「クリスマスで買う食材にプラスしてジンさんと提督さん達がリストアップしてくれたニヤ」

ヴェールヌイ「さすが司令官達だね」

飛龍「提督達の食材のリストには何が書かれてるの？」

黒丸「えーと……たてがみマグロ、完熟シナトマト、ベルナツパ、リノプロシユート、古代真鯛にブレスワイン」

霞「き、聞いたことのない食材ばかりね」

ポーラ「あ、でもワインがあるならポーラは万々歳ですよー」

ミケ「あと、キングターキーだニヤ」

飛龍「た、ターキー……」

黒丸「どれも下町で売ってるけどもなにかまずかったかニヤ？」

ミケ「すごいでつかい七面鳥だニヤ」

赤城「瑞鶴はどうしても七面鳥が苦手なんですよ……」

霞「ま、まあ訳にはいろいろあるからね……」

ミケ「それなら肉屋にマグマトンも売ってるからそれも買ってあげるニヤ」

赤城「マトン……!!」
「ジュルリ」

霞「あ、赤城さん!? よだれが!!」

飛龍「でもいいの? 予算とかは……」

黒丸「大丈夫ニヤ!! 提督の奢りにゃ!!」

ポーラ「さっすが提督、ふとっぱーら!!」

霞「……司令官、あとで白目になりそう……」

購入後

飛龍「み、ミケ!? やっぱり私達はそのキングターキーとかマグマトンを持つわよ!?!」

赤城「お、思った以上に大きいんですね……」

黒丸「だ、大丈夫ニヤ!! 気合いで持ち運ぶニヤ……!!」
「プルプル」

ミケ「ネコタクで提督達を運んだことがあるからなんのこれしきニヤ!!」

霞「いやいやいや!? 私達が持つわ!?!」

赤城「ちよ、ちよつと応援を呼ぶわね！」艦載機発艦！

ポーラ「おー、これがプレスワインですかー♪飲んでもいいですかー？」

飛龍「ダメだからね!？」

「こうしてクリスマスに備えて各々で準備が進んでいった――」

●クリスマス前日●

in 食堂

クサモチ「ふおおおつ!!板前ブラザーズ、フルに動くニヤー!!」アタフタ

マシロ「食材も食材で、かなりの量だニヤー!!」アセアセ

サクラ「たくさん食べる人もいるから大変だニヤー!!」アセアセ

時雨「板前ブラザーズの皆も忙しくしてるね」

高雄「最初の頃より大所帯になってますからね。人数分以上の量を作らないと」

雪風「皆でお手伝いです!!」

瑞鶴「♪」ウキウキ

龍驤「瑞鶴、やけに上機嫌やなー」

愛宕「それはジンさんと一緒にお料理できて嬉しいのよ」ウフフ

ジン「瑞鶴、味見をしてくれないか？」スツ

瑞鶴「もちろん!!…うん、ジンさんの作るのとはとっても美味しいわ!!」キラキラ

龍驥「わっ、あれでキラ付け!? すっごいお熱いわー」

愛宕「うふふ、今夜が楽しみねー」ニコニコ

瑞鶴「むっ：：せいっ!!」投げナイフ

赤城「ひえっ」Σ(； 旦、)

瑞鶴「もう。赤城さん、つまみ食いはダメですよ? 特に、ジンさんの手料理をつまみ食いするのはもつとダメです」プンスカ

赤城「す、すみません：」アセアセ

龍驥「：やけに瑞鶴が強くなってる?」

愛宕「あれが愛のパワーって奴ねー」ウフフ

in 執務室

雷「司令官、この部屋もデコレーションしてあげるわね!」

電「他の皆も食堂とかいرونなどをデコレーションしてるのです」

提督「おっ、おもしろそうだな。俺もしようか」

臯月「司令官もいっしょにやろうよ!!」

ヴェールヌイ「司令官にはお星様をつけるのを願いますね」

暁「これでいらしく、とつてもナイスな装飾にするわよ!」フンス

数分後

霞「司令官、お手紙が来てるわ…って何この星の飾りの量は!?」

提督「それでな、孤島の夜はこのぐらい星が沢山見えるんだよ」雷を肩車してる

電「すっごいキレイなのです…!」

ヴェールヌイ「ハラショー」

皐月「へー！僕も見てみたいな—!!」

霞「ちよ、何してんのよ!？」

提督「え？デコレーションだけど？」

暁「もう雷!! さつきからずっと司令官に肩車してるでしょ!! 今度は私と交代しなさい

よ!!」プンスカ

雷「えー、まだそんなに時間たつてないわよ」

霞「…:」ジーツ

提督「…もしかして乗りたい？」

霞「ばっ、ち、違うわよ!! べ、別に乗りたいか思っていないんだから!!」アセアセ

提督「そっかー」(・ω・)

雷「素直じゃないわねー」

大淀「頑張れ霞ちゃん…」コッソリ

i n 母港

アール「……」肉焼き中

＼ジヨウズニヤケマシター!!／

アール「……」肉焼き中

＼ジヨウズニヤケマシター!!／

アール「……」肉焼き中

＼ウルトラジヨウズニヤケマシター!!／

アール「……暇!! ってか我らの団の頃の肉焼くのはウイルの役目だったのに……あーちく

しよー、ウイルのヤツ早く戻って来やがれってんだ……!!」ブツブツ

初月「こんがり肉がこんなに沢山……!!」キラキラ

大井「こんなに生肉焼いていいんですか？」

アール「でえじようぶだ、無礼講だぜ」キリッ

大井「まあ……今回は仕方ないですね」ヤレヤレ

不知火「肉焼き機ですか……あの、私もやってもいいですか？」

アール「おう、いいぜ!! 経験するのはいいことだ!!」

不知火「……あの、これどうすればいいのでしょうか？」アセアセ

アール「いいか? 自然に音楽が流れるから、なり終わってからこう回し終わる前に

すって引けばいい塩梅のこんがり肉ができあがるぜ!」

大井「うん、よくわからないのだけど…」

不知火「…」肉焼き中

【生焼け肉ができました】

不知火「…」肉焼き中

【コゲ肉ができました】

不知火「…」肉焼き中

【コゲ肉ができました】

不知火「(; ω ;) ブワツ」

アール「だ、ダイジヨブだ!!俺がコゲ肉を食べてやつから…ゴフツ」(^ ω ^) …

初月「あ、アールさん、僕も食べてあげるよ!…ゴフツ」(; ω ^) …

大井「あまり食べすぎないでよ…?」アセアセ

「そうして、クリスマスイブ」

i n 食堂

ベル「いやー、みんな可愛らしい服を着てるね」

江風「えへへ、そう褒められたらなんかてれるなー」

鈴谷「ふふーん、どう?とつてもかわいいでしょ」ニヤニヤ

鹿島「むー…」ムスー

龍驤「ほらほら。ベルさん、他の子をべた褒めしちやったら鹿島が拗ねちやうで？」ニ
ヤニヤ

鹿島「も、もう龍驤さん!!」アセアセ

ベル「あ、そうだったねー」ナデナデ

鹿島「も、もうー!!ベルさんも意地悪ですー!!」テレテレ

長波「アマイナー」

天津風「アマイワネー」

赤城「豪華なお料理が目の前に：!!」ジユルリ

加賀「赤城さん、落ち着て。まだ提督とアーロさんがスタンバってますから」グググ

グ

明石「す、すっごいパワーです」アセアセ

ポーラ「おっ酒ー♪おっ酒ー♪」

プリンツ「ぼ、ポーラちゃん!!まだ、まだだから!!」ググググ

リットリオ「ぎ、ザラがいてくれれば：っ!!」ググググ

長門「そろそろ来る頃だな：」

ジン「間宮さんと一緒にケーキを持ってくる作戦だがどうなってる：?」

金剛「ノープロブレム。艦載機からもう間もなくくるって連絡がありましたデース」

ビスマルク「む、話をしてたらついに来たぞ」

アーロ「ヒヤツハー!! 悪い子はいねーかー!!」兜にガウシカの角装着
提督「メリークリスマアアス!! 悪い子はいねーかー!!」兜につけ髭
金剛&ビスマルク「なんか変になってるー!?」

天龍「あれじゃサンタじゃなくてなまはげじゃねーか!?」

瑞鶴「誰!? 提督達になまはげを教えたのは!?」

北上「: : ♪ ~ (ε、 ;)」

木曾「: : 北上姉さん?」

ろーちゃん「あれが提督達の故郷のクリスマス: : ですつて!」

ゴーヤ「いや、あれは違うと思うでち」

アーロ「ヒヤツハー!! ケーキを持ってきたぜー!!」

提督「ヒヤツハー!! クリスマスプレ (r y)」

霞「もう、そこまで派手にしなくていいわよ」

提督&アーロ「はい: :」(. ω .、)

霞「ほら、司令官。音頭を取って」

提督「え、お、俺が!？」

アール「ほーらガンバレー」 m9 (ハ)

ベル「早くしないと赤城とポーラがフライングするぞー」

提督「お、おう。ごほん…えー、み、皆、お日柄もよく…」

霞「長くなるから端折りなさいよ」

五月雨「し、司令官!! 赤城さんがもう我慢できません!!」

提督「ご、ゴホン!! 皆、これがクリスマスだってやつなんだな。長年ハンター業をしてた俺達には無縁で、故郷でもなかったやつだったけど、とても楽しいな! 教えてくれてありがとう。すっごくうれしいよ…そ、そんなわけで今日はじゃんじゃん楽しもう!! それじゃあ、乾杯!」

艦娘達「かんぱーい!!」 ♪ (♯。▽。) ノ□☆□、(。▽。*) ♪

赤城「うますぎるっ!!」

ポーラ「酒が飲める酒が飲めるぞー♪」

加賀「あ、赤城さん…」

プリンツ「きや、キャラが変わっちゃうくらい美味しいんだね…」

瑞鶴「ん…これ美味しい!! ジンさん、これって…」

ジン「キングターキーだけど?」

瑞鶴「!?…ま、ジンさんとならいつか♪」 ニッコリ

ジン「…:」(＊、ω、＊)

飛龍「…:克服しただと…:!?」

アール「さー、どんどん飲むぜー!!」

那智「これがブレスワインか…:中々ウマイな!!」

足柄「ほーら、龍驤も高雄も遠慮なく飲んでねー」

龍驤「やっぱりうちも巻き込まれるんやな…:」遠い目

高雄「な、なんとか頑張りましよ…:」

金剛「テイトクー!!これも食べてくだサーイ」

提督「お、これもうまいな」モグモグ

霞「もう、司令官に食べさせすぎよ」プンプン

長門「霞も負けじと提督に何か食べさせてあげればいいのでは?」

霞「ちよ、そ、そんなことしないってば!」アセアセ

提督「えー」(・ω・)

霞「!!…:し、仕方ないわね…:ほ、ほら、あーん…:」

青葉「いい写真が撮れましたねー」パシヤリ

霞「kくあwせdf t g y hじこ!?!」

こうしてクリスマスパーティーはかなり盛り上がった。途中、のん兵衛になった

のも何人かいたが――

――夜中――

提督「よし、皆寝たようだな……」

加賀「駆逐艦、潜水艦、対象の艦娘達は全員熟睡中です」

提督「じゃあ空母、軽空母の皆は艦載機を、戦艦は水上偵察機を飛ばし、プレゼントを輸送せよ」

加賀「さて……もう一仕事ね」艦載機発艦

瑞鶴「みんな、頑張つてね！」艦載機発艦

龍驤「うつぶ……飲みすぎたでー……」艦載機発艦

大鳳「だ、大丈夫ですか？」艦載機発艦

赤城「提督……全艦載機発艦。プレゼントの輸送を行います」

飛鷹「さ、次の分もあるから急ぐわよ」

長門「順調だな……あまり音を立てないよう、静かに運ぶんだぞ」

艦載機へ了解!!

ベル「これがプレゼントを運ぶ作戦の一つなんだねー」

鹿島「はい。鎮守府によつては様々な方法があるみたいですが、これが一番主要な方法ですわね」

ベル「え、えーと…タイミングはちょっとおかしいかもしれないけど…はいこれ」スツ
鹿島「べ、ベルさん…これって？あ、開けてもいいですか？」

ベル「う、うん」

鹿島「…これは手袋？」

ベル「冬の遠征とか、寒そうだからね…手編みだけど作ってたんだ。ど、どうかな？」

鹿島「ベルさん…嬉しい…!!ありがとうございます！大切にしますね…!!」

i n 工廠

ジン「瑞鶴、お疲れ」ナデナデ

瑞鶴「ジンさん…ありがとう」

ジン「…まだ時間があるようだな」

瑞鶴「??」

ジン「…飲むか？」つお酒

瑞鶴「これはジンさんの手作り…？」

ジン「ちようどお猪口が2つあるが…」チラッ

瑞鶴「うん…!!一緒に、飲む！」

ジン「まだまだ夜は長い…ゆっくり寛ぎながら、な」ナデナデ

瑞鶴「うふふ、川内みたいなこと言っちゃって。もちろん、付き合ってあげるわよ」

明石「やれやら…ジンさん、今日だけ貸し切りですからね」コツソリ
in 竜舎

アール「ほーら、お前達にもプレゼントだぞー」

コタロウ「(*、ω、)」上生肉モグモグ

ペッコ「(*、ω、)」たてがみマグロモグモグ

ムラサキ「(V)(o?o)(V)♡」上生肉モグモグ

アルセルタス「(*、ω、)」ロイヤルハニーモグモグ

アール「ほんつと賑やかだよなー…あのハチミツバカのウイルスにも見せてやりたかったぜ」

弥生「アールさん、お疲れ様です」

アール「およ？弥生まだ起きてたのか？」

弥生「寝る前にコタロウにおやすみの挨拶を…他の子も来てるけど」チラッ

初月「あ、アールさん…その、中々眠れなくて」アセアセ

アール「…やれやれ、お前達ときたら」ナデナデ

初月「ほ、本当は、時たまアールさんがしんみりしてたから気になっちゃって…」

アール「…そう見えちゃうってのが俺の悪い所だなー！そうだ、松明も焚いてるしこ

こは外よりも温かい。初月はまだ俺達が故郷にいた頃の話を聞いてないよな？」

初月「う、うん。アールさん、僕でよければ教えて欲しいな」

弥生「アールさんが『我らの団』にいた頃の話も知りたいです」

アール「いいぜ。俺達の武勇伝を聞かせてやろう!! あれはハチミツ大好きな馬鹿がいた頃だが……」

in 執務室

提督「ふう……今日はみんな頑張ったな」

霞「司令官、お疲れ様」

提督「霞、まだ起きてたのか？」

霞「提督が寝るまでが秘書艦の務めですもの」

提督「そつか……そうだ、クリスマスプレゼントはもらえた？」

霞「え、ええ。勿論……」

提督「そうかよかったよかった」ナデナデ

霞「も、もう子ども扱いしないでよ」

提督「あ、そうだ。俺もなにかあげないとな」

霞「え、い、いいわよ。司令官の事だから忘れてたと思うし……」アセアセ

提督「そうだな……あ、物とかじゃないのはすまないが……」兜を外す

霞「え、し、司令官？なんで兜を外して…つて顔が近いわよ!？」

提督「あ!! あんな所に、ホロロホルルが飛んでる!!」

霞「ふえっ!? な、なにそのホロロホル（ry）」窓の方を見る

チユツ

霞「」

提督「…そのなんだ、これしか用意できなくてすまないな。夜更かしはいかんぞ? じゃ、おやすみ」ナデナデ

ガチャリッ

霞「」ボンッ

キヨロキヨロ

霞「こ、このクズ司令かああああんっ!!」ダダダダダッ

ガチャリッ

i n ロツカーの中

青葉「いい…これはいい写真が撮れましたよ!!」ググググ

金剛「greatデス、青葉!! 焼き増しをお願いしマース!」ググググ

青葉「勿論、一枚500円から…おや? 誰か入って来ましたよ?」

金剛「提督デスか？何か忘れ物でも…」

ガチャリ（ロッカーを開ける）

龍田「（??^）」

青葉&金剛「」

龍田「盗撮する悪い子はしまっちやおうねー♪」ニッコリ

青葉&金剛「ヒツ!？」

● 深海棲艦達

ウイル「……」ジーツ

駆逐古鬼「エ、エツト……」アセアセ

ウイル「あつちも駆逐艦」

防空棲姫「?なに?」

ウイル「こつちも駆逐艦」

駆逐水鬼「む?」

ウイル「そして駆逐艦」

駆逐棲姫「あ、あのつ」アセアセ

ウイル「……まったく、駆逐艦は最高だぜ」(*・旦、)

空母棲姫「どっせーい!!」ラリアット

ウイル「すんませーん!!」..:(ε。(c||

リコリス棲姫「デ、アノ『ウイル』つて人、メツチャイケメンな深海棲艦ジャン」

空母水鬼「ホントは竜人族つて人なんだけど……」

軽巡棲鬼「兜と鎧をとつたらムキムキのイケメンなのよー!!」キヤー

リコリス棲姫「マジ!?ちよつと見テミタインダケド!!」

中枢棲姫「あの：いつになつたら話を聞いてくれるの：？」(・ω・)

戦艦棲姫「もうちよつと先になりそうねー」ニガワライ

中枢棲姫「と、兎に角!!気になっているのなら人の話を：」

ホッポ「ウイル!!魚釣りにこー!!」

重巡棲姫「ウイル!!魚、食べたい!!」

ウイル「よーし、でつけえ奴を釣り上げに行こうぜ!!」

中枢棲姫「ズコー

戦艦水鬼「あいつはマイペースだからな：」

数時間後

中枢棲姫「むう：まだ来ないのか：」

戦艦水鬼「そろそろ戻つて来るはずだが：」

ウイル「ふいー、大漁、大漁!!」ドツサリ

ホッポ「いっぱい取れた!」フンス

重巡棲姫「カジキマグロ、カジキマグロ!!」カジカジ

空母棲姫「ルアーを垂らして入れただけでなんでそんなに釣れるのよ：」

レ級「ツツコんだら負け」

中枢棲姫「ウイル、そろそろいいかしら？」

ウイル「うん？」

中枢棲姫「貴方が気になっている答えを私は知っているわ…それは（ry）
リコリス棲姫「ウイルさん、ヨカッタラ一緒ニオ茶シナクイ？」
グイグイ
軽巡棲姫「それよりも、私と一緒にアイドルに」
グイグイ

ウイル「え、ちよ、両腕引つ張らないで!?!イタタタタ!!」
ググググ

中枢棲姫「…」

戦艦水鬼「あいつはすぐに絡まれるからな」

戦艦棲姫「あれはもう少し時間掛かりそうね…」

ウイル「な、なんとか抜け出すことができたぜ…」
ゼエゼエ

戦艦水鬼「あ、戻ってきた」

戦艦棲姫「今ならチャンスよ！」

中枢棲姫「よ、よし…ウイルはな（ry）」

ウイル「え？空を飛びたい？」

泊地水鬼「…」
コクコク

ウイル「俺に言われてもなー…」
ポリポリ

泊地水鬼「…」
クイクイ

ウイル「え？いつも飛んでるって？あれは操虫棍を使って高くジャンプしてるだけだし…」

ホツポ「そうだ！集積地棲姫に作ってもらおうよ！」

ウイル「おお、いい考えだな！あの子なら飛べそうな道具を…」

集積地棲姫「馬鹿ジャナイノ？あたしじゃ無理だつての」

ウイル&ホツポ「えー」

泊地水鬼「…」クイクイ

ウイル「え？肩車でいい？」

泊地水鬼「…」アセアセ

ウイル「そう遠慮するなって！！おーし、いくぜー！！」肩車して走る

泊地水鬼「…」テレテレ

ウイル「うおおお！」ダダダダ

ホツポ「いいなー、乗りたい！」ガバツ

ウイル「うおおお！！」ダダダダ

重巡棲姫「ヴェア！！私も、乗るっ！！」ガバツ

ウイル「じゅ、重量オーバー!?」（； 旦、）

中枢棲姫「…まだ時間掛かりそうね」遠い目

| 昼 |

ホッポ「ウイル!! 砂浜歩いてたらこんなの見つけた!」

レ級「なんか落書きされてた大きな樽!!」

ウイル「お、これは：：珍しいな」

防空棲姫「ウイル、知ってるの?」

ウイル「これは腕相撲大会用に作られた樽さ。タンジアの港とかに置かれててな。懐かしいものが漂流されたもんだぜ」ヨッコラセ

レ級「腕相撲用のがあるんだ：」

ウイル「これを置いて：：さあかかって来い!」ドヤア

防空棲姫「やる気満々ねー」

南方棲鬼「あら、腕相撲どれくらいか試してもいいかしら?」

ウイル「ふっふっふ、俺は超強いぜ?」

レ級「それじゃあ：：はじめっ!!」

ウイル「ふぬおおおおっ!!」ググググ

南方棲鬼「ちよ、思った以上に力がある!」ググググ

ウイル「せいっ!!」ダーンッ

南方棲鬼「ま、負けた：：意外と強いわね」

駆逐水鬼「ウイル、今度は私だ」フランス

ウイル「ぎ、艦装はダメだからな」

駆逐水鬼「な、なんと!?!」ガーン

レ級「そりや当然でしょ…」アキレ

ウイル「ふつ、どうやら俺が一番力持ちのようだな」ドヤツ

ホツポ「お姉ちゃん」クイクイ

港湾棲姫「え、えと…」アセアセ

ウイル「」

港湾棲姫「て、手袋はアリですか?」

ウイル「」

南方棲鬼「ほら、頑張りなさい?自称チャンピオン」ニヤニヤ

ウイル「ふ、ふははは。い、いいだろう。相手にとって不足なしだぜ!」

レ級「よいい、はじめっ!」

ウイル「ふごごごごつ!!う、動け!!なぜ動かん!」ググググ

港湾棲姫「えい」ダーンツ

ウイル「あべし!?!」(…、)

レ級「ですよね…」

ホッポ「お姉ちゃん、力持ち!!」

港湾棲姫「う、うん…」 テレテレ

南方棲鬼「それよりもウイルがのた打ち回ってるんだけど」

中枢棲姫「…まだかしら…」 (´・ω・´)

夜中

ウイル「…つてな感じで俺とクロードはウルクススを手懐けて猛吹雪の中を乗り越えたんだ」

駆逐古鬼「…!!」 ドキドキ

空母棲姫「そのクロードって人もやばすぎるわね…」

レ級「ガムートの子供見たさに雪山で遭難…ハチャメチャすぎるんだけど」

ホッポ「雪山…見てみたい!!」

駆逐棲姫「ホッポちゃんのいたところは氷海だったもんね」

ウイル「ああ、いつか雪山とか砂漠とか一緒に冒険したいもんだぜ」

重巡棲姫「(⊠ω⊠) スヤア」

ホッポ「何だか眠たくなってきた…」 ウトウト

ウイル「そろそろ寝るか。冒険話の続きはまた今度な」

戦艦棲姫「ウイル、ちよつといいかしら？」

ウイル「ん？」

戦艦水鬼「おまえ…何か忘れてないか？」

ウイル「…あつ、やべ」

中枢棲姫「(; ω ;)」

ウイル「す、すまん！忘れてた!!」

戦艦水鬼「そんな気がしてた」ヤレヤレ

中枢棲姫「この私をほつとくとかいい度胸してるな」涙目

ウイル「わ、悪かったつて」アセアセ

戦艦棲姫「ほらほら、元氣だして」つハンカチ

中枢棲姫「ん…ウイル、お前は気になっていたな。深海棲艦は何処からやって来たのか」

ウイル「ああ、ずっと気になってたんだ」

戦艦水鬼「つい忘れて一日を過ごしてたのに？」ジトー

ウイル「そ、それはそれ、これはこれ！」

中枢棲姫「話は長くなるが…いいか？」

ウイル「勿論」

中枢棲姫「私達が生まれる前…まだ人間同士が世界を巻き込む大戦をしていた古き時代から遡る…私達の魂は艦の中にあつた。口も言えぬ、体も動かぬ鉄の塊だったが、そ

れでも祖国のため、国の民のために戦い続けていた」

ウイル「……」

中枢棲姫「そのうち大戦も終わり、戦うことも無くなった。戦わなくなった時代に私達
は不要。このまま平穏な時代に合わせて今度は人の役に立つために動くのかと思つて
いた…だが、違っていた…あの日を私はいつまでも覚えてる」

ウイル「……？」

戦艦棲姫「……」

中枢棲姫「あの日は環礁に多くの艦が集められた。共に戦った艦、敵だった艦、遠い
国から連れてこられた艦、国の為に多くの功績をあげた艦、海を覆いつくすかのように
多かつた。一体何が行われるのか不思議に思っていた時、私達は光に包まれた…それは
一瞬で、身を焼き溶かす程苦しく、熱かつた…」

ウイル「…それは一体…？」

戦艦棲姫「それは分からないわ…一体何だったのか、思い出したくても思い出せない
の」

中枢棲姫「目を覚ませば、暗く冷たい水底に私はいた。身体が動き、口も、目も、耳
もある。なぜ、人の形をしているのか分からなかつた。だが、永い永い時を経て眠つて
いた実感があつた」

ウイル「……」

中枢棲姫「私の周りには無残にも焼けて朽ちた艦だけじゃなく、私と同じように人の形をして眠りについていた者、異形な姿をしている者もいた。一体どうなっているのか分からなかった私は、海上へと上がった。そこには沢山の焼けて壊れた艦の残骸があった」

ウイル「それって……」

戦艦水鬼「そうだ……実験台にされたのだよ」

中枢棲姫「私は深い、悲しみと憎しみで胸がいっぱいになった……私達は利用されそして使い捨てられたのだと、人間に忘れ去られたと、のうのうと生きている人間共を殺したくてたまらなかった」

ウイル「……深海棲艦っていうのはつまり……」

中枢棲姫「非科学的だと思われるが……深海棲艦は深い悲しみと憎しみを抱く悪霊だった、と。お前達と言うと突然変異でも何か起きてできた生物、とでもいえよう……」

ウイル「……」

中枢棲姫「時が経つにつれ、多くの深海棲艦が生まれていった。私達は生まれた場所を拠点に私達を忘れた人間に復讐しようとした……だが、私達は永い時の中を眠っていたようで、かつて鉄の塊として生きていた時代とかなりかけ離れていた」

戦艦水鬼「…大戦どころか、そんな時代があつたのかをも忘れられている程過ぎていたようだ…」

中枢棲姫「時の噂では黒い龍と赤い龍と白い龍が文明を滅ぼしたとか、星を降らす巨大な蛇が世界を壊していったとか、海を焼くほどの熱を持つ巨大な龍がありとあらゆる物を焼き尽くしたとか、そんなものばかりだった」

ウイル「…ミラボレアスとダラ・アマデユラ、そしてグラン・ミラオスカ…」
戦艦水鬼「む？知っているのか？」

ウイル「俺達の故郷でも世界を滅ぼした龍の伝説として伝えられている」

中枢棲姫「変わったのは龍という不思議な話だけじゃなかった…私達深海棲艦とは反対の存在、『艦娘』という者もいた…遠い国へと向かった同胞達を次々と倒していった。最初は憎しみしかなかった私の手中は次第に変わっていったわ…艦娘達がいるというなら、もう世界を巻き込む大戦がないというのなら、私達がいる必要はない。彼女たちが伝え続けるだろうと、深海棲艦達を集め再び暗い水底へと眠りにつこうとした…」

ウイル「…」

中枢棲姫「だが…私達が眠る海に『ヤツ』が現れた」

ウイル「…『ヤツ』？」

中枢棲姫「巨大な禍々しい生物だった。『ヤツ』は共に深海にいた生物、戦い焼け朽ちた艦、深海棲艦達を襲い、捕食し続けた」

ウイル「ほ、捕食!?!」

中枢棲姫「いくら攻撃しようがものともせず、次々に食い荒らし、そして私達を私達の眠る海から追い出したのだ。住処を取り戻そうと戦っているうちに、艦娘達と出くわし戦うことになってしまった。眠る場所を取り返すために、私達の存在を思い出してもらうために、他の深海棲艦の子達を守るためにと混乱する程戦い続けた」

ウイル「こ、混戦になったんですね…」

中枢棲姫「気が付けば私は沈められ…：長く海を漂流してしまった。艦娘達に敗れ、『ヤツ』に故郷を奪われたのだ…」

ウイル「…：深海棲艦の始まりってそうだったんですね…」

中枢棲姫「艦娘達も妖精とやらに造られるそうだからな…：私も悪霊なのか、艦娘達と同じ体をしているのか、よく分からない…」

ウイル「そ、それと…：『ヤツ』とかいっのを倒せば…」

中枢棲姫「ああ、多くの深海棲艦はそこへ戻り、平穏な眠りにつくだろうな。だが、今の私は眠りにつく気はないぞ?」

ウイル「…へ?」

中枢棲姫「敗れた後の続きになるが…永い眠りについた後、海を漂った私をある人物が助けたのだ…こんな人で非ざる私を、『心があり、温もりがあり、感情がある。生きてるものすべて同じだ』と優しく受け入れてくれたのが…嬉しかったのだ」

ウイル「へ、へ…」

戦艦棲姫「ウイルと似たような事言ってるわね」ニヤニヤ

中枢棲姫「私は意を決して、その男に自分の気持ちを話した。彼は私を快く受け入れ…私は彼と共に冒険することにした」

ウイル「…ん？」

中枢棲姫「その男はどこか遠い…竜人族の里の出身でな、将来は村を開拓したいと言ってるな」

ウイル「…えっ」

戦艦棲姫「ウイル、どうかしたの？」

ウイル「な、なあ…その人と一緒に村を開拓はしたのか？」

中枢棲姫「うむ。村を開拓した後、また冒険して新しい村を興したいと言って、私もついていったぞ」

ウイル「…その前の村の名前…ジャンボ村じゃね？」

中枢棲姫「!?よ、よく知っているな」

ウイル「…その人の一人称、『オイラ』でしょ」

中枢棲姫「そうだ。よく知ってるな」

ウイル「あ、あの人なにやっつたのおおおおっ!？」

戦艦水鬼「ウイ、ウイル!？そ、その人とは一体…」

ウイル「知ってるも何も俺の故郷であるシナト村の僧正様のお兄さん!!僧正様が『手紙で兄が白い肌の美しい女性を嫁にしたと自慢してくる』とか言っただけであんたのと違ったのか…」

中枢棲姫「よ、嫁だなんて…まったく、アイツハ」テレテレ

ウイル「でも村長を置いていくほど『ヤツ』ってのは危険な存在なんだな…」

中枢棲姫「艦娘達と提督達はあれを超弩級深海棲艦とっているが、あれは違う。深海棲艦や共に戦った艦の残骸を纏った生物だ…」

ウイル「何でも喰うイビルよりもたちが悪いな…そいつはまだ中枢海域にいるのか？」

戦艦棲姫「ウイル、どうするの?」

ウイル「深海棲艦達の故郷を奪い返す。もうちよつと詳しい情報が欲しいが…その前に」

戦艦水鬼「その前に?」ゴクリ

ウイル「寝よう」(☒ ω ☒) スヤア

戦艦水鬼&戦艦棲姫「ズコー

ウイル「あ、そうだ。村長に会うなら『ウイルは元気です』って伝えといてね」

中枢棲姫「あ、ああ……」

ウイル「じゃおやすみっ!!」(☒ ω ☒) スヤア

中枢棲姫「……あ、あの人と同じくらいマイペースね」

105 ピーコック島沖海戦

in 執務室

提督「いよいよ中部海域最後の海域、ピーコック島沖か…」

大淀「はい、この海域には離島棲姫、集積地棲姫といった姫級の深海棲艦だけではなく、砲台子鬼といった深海棲艦もいるため難関となっております」

アロー「でも、ここはごり押しで行けばいけるんじゃないかね？」

霞「甘いわよ。これまでの深海棲艦と違って地上型。三式弾や普通の装備だけじゃ押し負けるわ」

鹿島「ここでは機動部隊、水雷戦隊の編成で開始地点も異なります。地上型に対抗した装備や編成でないと難しいですね」

ジン「なるほど…かなり手厳しいものなのか」

大淀「ですが基地航空隊を設立すれば攻略の難易度も下がりますよ」

ベル「基地航空隊…？」

ジン「…。。」
三二二(^ ω ^)
ブーン

大淀「航空機や艦載機を使った支援艦隊のようなものです。艦先の数の分だけ燃

料、弾薬、ボーキを消費しますが航空支援により戦線も有利になりますね」

提督「よし！基地航空隊をまずは設置しよう」

霞「便利な反面、設置までは時間と手間がかかるわよ？任務やら出撃やらと色々あるし、明石さんの酒保なら購入できるけども…」

ジン「ないのなら」ドヤア

アール「造ればいいさ、ホトトギス」ドヤア

霞「…え？」

in母港

アール「と、言うわけで！！基地航空隊の設置をするぞ！！」

アイルー&妖精さん達「うおおおおっ！！」

明石「待てええええい！！」ドロップキック

アール「あぶなっ!!」回避

明石「いやいやいや!?おかしいですよ!?普通は任務か酒保で購入するかで設置するんですから!」

アール「甘いぜ明石さん：ドンドルマの防衛壁も、対古龍用に作られた戦闘街も、撃龍砲も…皆、一から造ったんだぜ」

明石「いや、その理屈がおかしいですってば」

黒丸「明石さん、どうか認めてほしいニヤ」

ミケ「僕達も皆の力になりたいニヤ」

明石「で、ですが…」

足柄「いいじゃないの、認めてあげたら？」フンス

明石「足柄さん…つて、めっちゃやる気満々じゃないですか!？」

足柄「妖精さん達もアイルー達も張り切ってるし、ね？」

明石「う、うーむ…こ、今回だけですからね」

アイルー&妖精さん達「やったー!」

アール「つしやあ!!さっそく建造作業に取り掛かるぜ!!」

明石「ちなみに資材とかはどうしてるんですか？」

アール「ん? 鉱石を沢山、それから…見ろ!! 砦蟹やジエン、ダレン・モーランの素材

もいっぱい使うぜ!!」

明石「やっぱだめじゃないですかああああつ!!」デンプシー

アール「うわらば!?!」..:(ε。(c

ベル「あ、明石さん。と、とりあえず俺のポケットマネーで購入しておこうか？」

明石「ぜひ!! お願いします!!」クワツ

i n 工 廠

ジン「……」テキパキ

瑞鶴「ジンさん張り切ってるわね」

夕張「ええ！次の海域に備えて専用の装備を開発している所です！」フランス

瑞鶴「と、なると内火艇ね……ってちよつと待って、それって開発不可じゃ」

夕張「ですが、すつごいですよ!!先ほどからジンさんが次々に開発してて……」

ジン「(……)ドヤア

瑞鶴「わつ、内火艇ができてる。ジンさん、開発に使った材料って……」

ジン「すごいな、ブラキとラギアの素材でどんどん出来上がっていくな」

瑞鶴「それって使ったらダメなやつじゃない!？」

夕張「他にも鉱石だけで対空砲ができたり……あと妖精さん達に天殻を渡したらWG4
2ができてたりとか」

瑞鶴「妖精さん達、慣れすぎでしょ!？」と、というか明石さんに怒られても知らないか
らね」

ジン「はっはっは、バレなきや大丈夫」キリッ

夕張「提督達の故郷の技術は凄いですね！」キラキラ

瑞鶴「……明石さんが知ったら胃を痛めそうね……」

in 執務室

提督「それではピーコック島沖への出撃するメンバーを決める。旗艦を阿武隈に：ビスマルク、霞、初月、江風、利根の6名だ」

阿武隈「えええっ!?!わ、私が旗艦ですか!」アセアセ

ビスマルク「いよいよ私の出番ね：張り切ってやらなきやね」

利根「我輩、この時を待っておったぞ!」

初月「アーロさん、たくさんタンコブができてるけどどうかしたの?」

アーロ「ふっ：いつものことさ」タンコブ

提督「基地航空隊の方はアーロに任せてただけど：明石さん、加賀さん大丈夫かな

?

明石&加賀「めっちゃ心配です」即答

アーロ「お前ら：：」（：： 旦、）

加賀「取り敢えず、基地航空隊の出撃については私と明石さんでアーロさんをサポートしますので」

ベル「それと、江風は練度が上がってるから改装して：ビスマルクにはこれを」

ビスマルク「これは：設計図! ついに改三になれるのね!」

ベル「極限レギオスの討伐、南方海域の補給拠点の奪還、そしてキス島でのウカムルバスの討伐とかで報酬として勲章とかもらっていたからね」

ビスマルク「ベルさん、ダンケ!! アドミラル達^が体を張って頑張った分、私も期待に応えるわ!!」

明石「ほっ…ベルさんなら安心ですね」

霞「司令官、中部海域最後の戦闘よ。気合い入れていきましょう」

提督「ああ…さあ皆、頑張っていこう!!」

艦娘一同「はい!」

大淀「ところでジンさん、今回の装備ですが、開発不可で手に入らないものばかりでしたけども…どうやって手に入れたんですか?」

ジン「♪(、ε、;)」

明石「(C●C)「C●C)」ジーツ

i n 母港

加賀「基地航空隊の設営をアイルーと妖精さん達に任せてたんですか…」アキレ

明石「い、一応ベルさんが購入してくれたんですが…まさかアール口さんが家具職人の妖精さん達を使ってあつという間に設営してしまうなんて…」ガツクリ

大井「時間の経過がおかしいレベルよ…」

アール口「それじゃあ、出撃すつか!!」

ミケ「この艦載機に乗り込むニヤ!!」

黒丸「すこしサイズが小さすぎる気がするニヤ…」

チャチャ「このどんぐりロケットに乗った方がいいツチャ!!」

大井「待てえええい!!」 延髄チヨップ

アール「ぐえっ」

大井「なにアールー達を艦載機に乗せようとしてるんですか!？」

アール「お、オトモアールーならできるかなーと思つて」

黒丸「ドングリロケットならひとつとびニヤ!!」

明石「いや、それおかしいですから」

加賀「普通は熟練度が高い艦載機を設置し、どこで航空支援をするか指示をします。

大抵はボス艦隊がいる地点でいいです」

大井「今回は火力支援として、烈風や陸攻の艦載機の子達を配備します」

アール「なるほど…妖精さん、頼んだぜ？」 ナデナデ

妖精さん達へラジャー!!

加賀「そして配置にボーキを、出撃の際に燃料と弾薬を消費して支援を行います」

明石「熟練度が高い子ほど支援の火力は高いですが、その際に疲労したり熟練度が下がりますので補充や艦載機の熟練度をあげたりとしてくださいね」

アール「なるほど、管理も大変だな…そうだ!」

加賀&大井「？」クビカシゲ

――数分後――

アール「…これでよしと」コソコソ

大井「…何してるんですか？」

アール「支援する地点を決めて…さあ出撃だ!!」

艦載機Aへウオオオオ!!

艦載機Bへ烈風、イキマース!

艦載機Cへイクゼ、バカヤロー!

明石「ポカーン

大井「艦載機がキラキラしてるんだけど…」

加賀「アールさん、何かしたんですか？」

アール「え？間宮さんのアイスをあげたけど？」

大井&加賀「…」無言のダツシュ

アール「…」無言の逃走

――中部海域、ビーコック島沖――

江風改二「えっへへー！改二になって気分爽快だぜー!!」

ビスマルクドライ「さらにパワーアップしたこの艦装…はやくアドミラル達に見せつけてやりたいわ!!」

阿武隈「ふ、二人とも気合い入ってるねー…」

利根「それほど嬉しいのじやろ。吾輩達も気合いを入れねばならんの」

初月「今回は装備も対策用にしっかりとしてるし、それほどこの海域は難関なんだね」

霞「ええ、基地航空隊があつて難易度もある程度下がったとはいえ、油断は禁物よ」

利根「むっ!! そう話しているうちに敵艦を発見したぞ!」

ビスマルク「軽巡一隻、駆逐艦4隻ね…序盤に被弾しないよう気を付けるのよ!」

江風「よっしゃー!! 先制をかけてやるぜー!!」ドーン!!

駆逐イ級A「スラムツパギ!」critical! 撃沈

軽巡ホ級「ヌカシオル」ドーン!!

阿武隈「わつとと…いい、一応甲標的を積んでるんですから、旗艦の私が先制を（ry）」

回避

ビスマルク「どんどん撃つわよ!! fire!!」ドドーン!

駆逐ロ級A「ヤキサバダヨッツ!」critical! 撃沈

阿武隈「私が旗艦なのにー!!」魚雷発射

軽巡ホ級「スーパーウルトラデリシヤスワンダフルわかりずれえーっ!」critical

Call! 撃沈

駆逐イ級B 「アルゼンチン、ペソシカナイヨっ!!」ドーン

初月 「あぶなっ…お返しだ!!」ドーン!!

駆逐口級B 「イナフツ!」critical! 撃沈

利根 「他の者にも負けぬぞっ!!」ドドドーン!

駆逐イ級B 「許してヒヤシンスーッ!」critical! 撃沈

江風 「よーし!! いい感じじゃーん!」エッヘン

阿武隈 「ですから旗艦の指示に従ってください!!」ウワーン

ビスマルク 「ご、ごめんなさいね…戦闘になるとつい」アセアセ

利根 「ふふん、この調子ならすぐに突破できそうじゃぞ」フンス

霞 「慢心はダメよ。まだ序盤なんだから…って、敵艦載機が来てるわよ!」

敵艦載機A <ヒヤッハー!! 襲撃ダー!!

敵艦載機B <ヒヤッハー!! 大破撤退シテヤルゼー!!

敵艦載機C <汚物ハシヨウドクダー!!

霞 「あれは他の敵艦載機と違ってヤバい奴よ!! 初月、対空砲!!」

初月 「よし、任せろ!!」対空カッター

長10cm砲くん <キユキユッ!! ドドドドドーン!!

敵艦載機Bへアベシ!? 撃墜

敵艦載機Cへアビュツ!? 撃墜

敵艦載機Dへラリルレロラリルレロ!? 撃墜

初月「くつ、まだ敵艦載機が多い…!!」

霞「十分よ。皆、回避に専念して!!来るわよ!!」

江風「うわあああつ!?すつごい撃つてくるー!!」アセアセ

利根「ひえええつ!?爆撃にも気を付けるのじゃ!」アセアセ

阿武隈「きやあああつ!?なんで私なのー!?」中破!

敵艦載機達へオトトイキヤガレー! 撤退

ビスマルク「ふ、ふう…初月の対空砲のおかげで被害はなんとか少なく抑えれたわね

…」

阿武隈「いたたた…提督、まだ行けますので進撃の許可をお願いします」プスプス

提督『だ、大丈夫なのか?』アセアセ

阿武隈「心配ご無用です。旗艦は大破しなければ撤退しなくてすみますし」

提督『わかった…このまま進撃を続けてくれ』

――進撃中――

利根「さすがに戦艦2隻、そして2度目の空襲は焦るのじゃ…」フー

江風「いててて…折角改二になったのにー」中破

提督『さ、さすがに撤退した方がいんじゃない？』

霞「司令官、いい？少し厳しく言うけども、それで撤退を続けてたらこの海域はクリアできないわよ？」

ビスマルク「霞の言う通りね。今回はこのまま進まないと突破はできにくいわ。アドミラル達は優しいから嬉しいのだけど、心を鬼にしなさい」

阿武隈「そ、それに回避行動はできますし、お気になさらないでください」

江風「まだまだ、あたしも頑張れるよ!!」

提督『わ、わかった…気を付けて行くんだぞ!!危なくなったら即撤退させるからな!」

ビスマルク「ふふふ、やっぱアドミラルは優しいわね」クスクス

利根「それにしても…普段の霞ならここで『クス!!』とか言つて怒るのに、随分とお優しいのー」ニヤニヤ

霞「あ、あまり強めに言ったらションボリするから!士気を下げたらいけないわよ」アセアセ

江風「とか言っちゃってー、少し照れてるくせにー」ニヤニヤ

霞「う、うっさい!!」

阿武隈「そ、それよりも、敵艦隊発見です!!」

初月「ついにここまで来たね…」

ビスマルク「そうね、敵艦は砲台子鬼3機、集積地棲姫、軽巡ホ級、そして…」

離島棲姫「ココマデ…。クルトハ…ネ…」

霞「旗艦の離島棲姫ね…気を引き締めていくわよ!!」

江風「よーし!!張り切っていくぞ!!」

離島棲姫「イイデシヨウ、遊ンデアゲマスワ」艦載機発艦!

阿武隈「わわっ!?艦載機が来ます!!」

ビスマルク「焦らないで対処していくわよ…!!」

霞「ん…航空支援が来るわ!」

初月「アーロさん、うまくいったんだね」ホッ

艦載機A<爆撃だ馬鹿野郎!!

艦載機B<敵機撃破だ馬鹿野郎!!

艦載機Cへトウラトウラトウラアアアツ!!

軽巡ホ級「ヌワー!?!」critical!撃沈

砲台子鬼A「ギエピー!?!」critical!破壊

砲台子鬼C「チートヤ、チーターヤ!?!」critical!破壊

集積地棲姫「チヨ、怖スギナンデスケドー!?!」損壊

ビスマルク」

江風「すっげー…」

霞「いや、艦載機の子達がおかしすぎるんだけど!？」

阿武隈「と、兎に角支援のおかげでだいぶ減りましたよ!!」

ビスマルク「そ、そうね! 一気に畳み掛けるわよ!!」ドドーン!

砲台子鬼B「ブルアツ!!」中ダメージ

離島棲姫「面白イワネ…」ドドーン!

ビスマルク「ぐうっ!? 姫級は侮れないわね…」critical! 中破

阿武隈「わ、私だってやれるんだから!!」ドドーン!

集積地棲姫「イ、イッターイ!?」Hit!! 破壊

砲台子鬼B「微塵ニ碎ケロオ!!」ドドーン!

初月「うわあっ!? あ、あの砲台子鬼、声が渋い上に強すぎる!？」critical!

大破

霞「やったわね! 内火艇の出番よ!!」内火艇、突撃!

離島棲姫「っ!! 意外トヤルワネ…」critical! 混乱

江風「あたしもやるぜー!!」特大発動艇、突撃!

砲台子鬼B「バカナ、アリエン!! アリエンゾオオオツ!？」critical! 破壊

初月「大破しても…撃てるよ!!」ドーン!!

離島棲姫「チツ…小賢シイワネ」小ダメージ

利根「この時の為に…カタパルトは整備しておいたのじゃ!」ドドーン!

離島棲姫「クツ…!!」中ダメージ、混乱

阿武隈「提督!!夜戦突入の許可を!」

提督『ああ!頼んだぞ!!』

―夜戦突入!―

阿武隈「や、やってやるんですから!!」ドドーン!

離島棲姫「グウツ!?痛イジヤナイノ!!」損壊、反撃

ビスマルク「きやあつ!?やってくれたわね…!!」critical!大破

霞「これをくらいなさい!」内火艇、突撃!

離島棲姫「ウウツ!?ヤツタワネ…次ハ容赦シナイワヨ…!!」critical!破壊、

撤退

江風「よ、よーし!!なんとか勝ったぞ!!」

阿武隈「初戦は勝ちましたよー!!」

提督『ふ、ふう…姫級は強いなー』ヘナヘナ

大淀『て、提督!!空気が抜けてますって!』

ベル『みんな、ご苦労様。まずは帰投してゆっくり休んでね』

ビスマルク「アドミラル、ありがとうございます」

利根「では、参ろうか！」

江風「はやくお風呂入りたーい」

初月「それじゃ霞、戻ろうか」

霞「ええ…早くこの海域を突破して、他の連合艦隊と合流して例のイベント海域へ…司令官が集中できるよう頑張らなきゃ…」

in 執務室

提督「うーむ…」

ジン「何考えてるんだ？」

提督「いやあ、例のイベント海域についてなんだが…」

ジン「…例のって、あの超弩級深海棲艦のことか？」

提督「ああ、元帥殿にそれについての細かい資料を頼んで、貸してもらえたのだが…さっぱりだ」

ジン「…謎の青い液体も分からないのか？」

提督「いや…それだけじゃない。その超弩級深海棲艦の出現は過去にもあったようなんだが…妙なんだ」

ジン「妙？どういう事だ？」

提督「過去に目撃されているのなら：最近になるまで見つからなかったんだ？」

ジン「：深海に潜ってたからじゃないのか？」

提督「それに：過去に目撃されている間、その中枢海域には行けなかったそうだ」

ジン「：他の深海棲艦に阻まれたからじゃないのか？」

提督「そう思うだろ？ そう思った矢先にこの資料が気になってな：」

ジン「む？かなり昔の記事だな：」

提督「その超弩級深海棲艦、過去に補給基地を襲撃してたらしい。まだ艦娘もそこま
で配備されいかなかったため被害が甚大だったようなんだが：燃料、弾薬がごっそり消え
ているんだ」

ジン「む：焼失じゃなくて、消えたと：ん？この文は：『その周辺に青い液体と黒い
重油のような液体』？」

提督「青い液体だけじゃなくて黒い重油のような液体：気になるだろ？」

ジン「ああ：こっちの奴は見覚えがあるぞ。クロード、今回のイベント海域、少しヤ
バくないか？」

提督「この一件、かなーりヤバイ雰囲気が出てる：俺達でしっかり調べないと」

106 掻き伏す戦火の海へ

in 執務室

提督「やつと中枢海域へと足並みが揃いそうになるな…」

ジン「次の出撃で勝利をすれば中部海域は突破。俺達も泊地基地へ行ける」

霞「もう、油断は禁物よ？ 気を抜くと痛い目みるんだから」

ベル「補給も、弾薬もばっちり。皆のコンディションはどう？」

ビスマルク「ええ、心配いらないわ。体調も万全、いつでもいけるわ!!」

利根「えっへん!! 事前に間宮アイスを食べて元氣ハツラツじゃ!」

江風「ラストダンスもバリバリやっちゃうぜー!!」

提督「うんうん、みんな元氣いっぱいだね。これならいけそうだ」

阿武隈「もう少しですし、精一杯頑張ります!」

初月「そういえば、アールさんは？」キョロキョロ

霞「アールさんなら基地航空隊の熟練度がどうのこうのとか言っただけだ」

ジン「あとは基地航空隊の準備が整ったら出撃だな」

ベル「アールはちゃんとやってるかな…」遠い目

i n 母港

アーロ「さー、たんと食べとけー」つオニギリ

黒丸「腹が減ってはなんとやらだニヤ」つオニギリ

妖精さん達へハイイ!

加賀「いやなにやってるんですか」チョップ

アーロ「へぶっ!?!」

大井「しかもお外でこんなにお米を炊いちやって…怒られますよ?」

アーロ「なーに、いっぱい食べて元気もりもりで熟練度がアップなわけだぜ」

加賀「お気持ちはわかりますが…妖精さん達のサイズを考えてあげてください」

妖精さんへげふう

加賀「ほら、お腹が膨れちやってますよ」

大井「ちよ、待つて加賀さん…出撃予定の皆、お腹いっぱいになって動けてないです」

加賀「…」チラッ

アーロ「…そんな時はユクモステップ!!」ユクモスップ

チャチャ「踊ればなんとかなるツチャ」ユクモスップ

カヤンバ「さあさあ!加賀さんも踊るンバ!!」ユクモスップ

加賀「お断りします」キッパリ

―― 出撃に30分かかりました――

アール「よ、よーし!! みんな、これ乗り越えれば中部海域は突破だ!! 気張れよー!!」
タンコブ

妖精さん達へオーツ!!

加賀「士気をあげるのはうまいんですから」ヤレヤレ

大井「あととはちゃんとしつかり指揮をとればいいのだけどねえ」ヤレヤレ

アール「さあ、航空支援の出撃だ!! 頑張つて来いよー!!」

妖精さん達へハイ!

加賀「意気揚々ですね。これなら支援はしつかりやつてくれそうです」

大井「あとは艦隊の皆の頑張りね。さ、アールさん、報告に」チラツ

アール「うし、俺達もこっそり行くか」ガサゴソ

黒丸「アールさん、ドングリロケットでひとつとびできそうかニヤ?」

ミケ「燃料もばつちりだニヤ。アールさんはどうするニヤ?」

アール「俺はコタロウに乗って航空支援でもしてやろうかなー」

加賀「…取り押さえましょう」ダッ

大井「そうね」ダッ

―― in 中部海域、ピーコック島沖――

阿武隈「提督から電報、基地航空隊が出撃したみたいです」

ビスマルク「こつちも順調ね。第一空襲はなんとか乗り越えたわね」

初月「なんとか対空砲で撃ち落とすことができたから被害は少なくて済んだよ」

江風「いいじゃん、いいじゃん！この調子で行こうぜ!!」小破

霞「まだまだボス艦隊までは道のりがあるんだから」

利根「むむっ!! こうしているうちに敵艦隊発見じゃ!」

ビスマルク「戦艦2隻、軽巡1隻、駆逐艦2隻、軽空母1隻ね……」

霞「敵の艦載機が来るわよ!!」

軽母又級「モットアツクナレヨ!!」艦載機発射!

敵艦載機へシジミガトウルル!!

利根「ぬっ?! なんか暑苦しそうな艦載機じゃのう!」

初月「よし……対空砲、放てっ!!」

長10cm砲ちゃんへキユキユーツ! ドドドドーン!!

敵艦載機へネバギバツ!? 撃墜

阿武隈「全機撃墜ね! こちらの反撃です!」魚雷発射!

軽母又級「キョウカラフジサンダツ!」critical! 撃沈

ビスマルク「いいわ!! 砲撃開始よ!!」ドドーン!

戦艦ル級B「ダニイツ!?」critical!撃沈

戦艦ル級A「タピオカパンツ!!」ドドン!

霞「わつと!!危ないじゃないの!!」回避、反撃

駆逐二級A「ホイホイチャーハンツ!?」critical!撃沈

軽巡へ級「カーニバルダヨ!!」ドドン!

江風「うひゃつ?!い、痛いじゃないかー!!」中破

駆逐二級B「ビーマイベイペー!!」ドドン!!

利根「おつと!!押し負けんぞー!!」ドドン!!

軽巡へ級「カーニバルダヨオオ!?」critical!撃沈

阿武隈「私も撃ちます!!当たってください!!」ドドン!!

駆逐二級B「イエエエエエイ!?」critical!撃沈

初月「続けて撃つ!」ドドン!!

戦艦ル級A「ボツ!」中ダメージ

阿武隈「雷撃戦行きます!!続けてください!!」魚雷発射

利根「どんといくぞ!!」魚雷発射!

霞「これでもくらいなさいな!!」魚雷発射!

初月「これでどうだ!」魚雷発射!

戦艦ル級A「ボルガ博士ッ!?」critical!大破

阿武隈「このまま突破します!!」

ビスマルク「後方からの砲撃に気を付けて続いて!!」

利根「強行突破じゃー!!」

――進撃中――

江風「うし!!敵艦を引き離して突破できたぜ!!」プスプス
霞「このまま進みたいけど…やっぱり来たわね」

敵艦載機Aへフアーイ!!

敵艦載機Bへアワビノロース!!

敵艦載機Cへゴブリンバットー

阿武隈「敵艦載機、多数接近です!!」アセアセ

ビスマルク「第二空襲ね…初月!!」

初月「うん、任せて!!長10cm砲、対空砲撃開始!!」

長10cm砲ちゃんへキューツ! ドドドドドツ

敵艦載機Cへアーツ!!

敵艦載機Dへメケーモ!?

敵艦載機Aへノーコメモアリヤ!?

ビスマルク「よし、敵機の爆撃に気を付けて!!」回避

利根「あ、あぶなかったー」アセアセ

霞「敵艦載機の襲撃もなんとか乗り越えたみたいね」

阿武隈「いい感じですね!このまま行きましょう!」

江風「ところでさー、霞」

霞「?どうかしたの?」

江風「中部海域を突破したら司令官はすぐに連合艦隊の編成して、イベント海域攻略する総司令官がいる第一泊地へと行くんだろ?」

ビスマルク「しかも今回のイベント海域は中枢海域だつて聞くわ」

利根「これまた…かなり核心へと向かう戦いになるのう」

霞「そうね…何か気になる事でも?」

江風「司令官、難しい顔して資料を作つてたの見たぜ?それに黒丸やミケ達と相談しててさ…大砲の弾だとかバリスタの弾だとかなんとか、話してたのを聞いたんだ」

霞「む…司令官、何か気になる事があるのかしら」

阿武隈「提督達がこう何か気難しい事を考えてる時つて何かありますもんねー…」

利根「気になるのは確かじゃが…まずはこの海域を突破せねばな!」

ビスマルク「そうね、遂に見えてきたわよ!!」

離島棲姫「ウフフ、マタ来タワネ…」

集積地棲姫「艦載機コワイ…」ガクブル

霞「さ、行くわよ!!」

阿武隈「わ、私の台詞ー!!」アセアセ

利根「お、航空支援が間に合ったようじゃな!」

艦載機A「オレノウタヲキケー!!」

艦載機B「レッツパーリー!」

艦載機C「ダンマクハパワーダゼ!

艦載機D「レッドマウンテンブラストー! ババババツ

集積地棲姫「ヤツパリイイツ!」critical!破壊

軽巡へ級「ワガシヨウガイニイツペンクイナシー!!」critical!撃沈

砲台子鬼A「バツカモーン!」critical!破壊

砲台子鬼C「又っ!」critical!損壊

阿武隈「あ、相変わらず艦載機のテンションがおかしいですね…」

ビスマルク「でもこれでいけるわ!!」ドーン!!

離島棲姫「っ…イイデシヨウ…」中ダメージ

砲台子鬼C「ムダムダムアアアツ!!」ドドーン!

阿武隈「きやあつ!」critical!中破

利根「やりおる…!!撃ち返してやるぞ!!」ドーン!!

砲台子鬼C「バカナ…コノ砲台子鬼ガアア!」破壊

離島棲姫「ナカナカヤルワネ…コレデドウカシラ?」ドドーン!

初月「うわあつ!?くう…まだ、まだ負けるもんか…!!」critical!大破

霞「この!!」内火艇突撃!

離島棲姫「クツ!?イタイジヤナイノ…」critical!混乱

江風「おーし、霞に続くぜ!!」特大発動艇突撃!

砲台子鬼B「ブルアアアツ!」critical!破壊

阿武隈「わ、私だってやれるんだから!!」ドドーン!

離島棲姫「チツ…思ツタ以上ニヤルワネ…!」critical!損壊

ビスマルク「ナイスよ、阿武隈!!」

阿武隈「は、はい!提督、夜戦突入の許可を…!!」

提督『いいぞー!!これで決めるんだ!!』

阿武隈「は、はい!」

「夜戦突入!」

阿武隈「い、いっけー!!」ドドーン!

離島棲姫「グウっ!? コノ…沈メ!!」critical!、反撃

ビスマルク「きやあっ!? や、やってくれたわね…!!」critical! 大破

霞「これで…決めてやる!!」ドドーン!

離島棲姫「アアッ!? オノレ…コレで終ワツタト思ワナイ事ネ…覚エテオキナサイ…」

Critical! 撃沈

阿武隈「…や、やりました…やりましたよー!!」

江風「よっしやー!! あたしらの勝利だぜ!!」

霞「よ…よかったー…司令官、おめでとう。離島棲姫、撃破成功。そして中部海域突

破よ」

提督『みんな…よく頑張った!』

ジン『おいおい…感動しすぎだぞ』ヤレヤレ

ベル『みんな、お疲れ様。まずは帰ってゆっくり休んでね』

霞「もう…司令官、まだまだこれからじゃないの。中枢海域へ出撃もあるけど…司令

官も十分疲れを取ってから取り掛かりましょ」

江風「ヒュー、かすみんやさすいー!!」

初月「流石は秘書官だね」

霞「う、うるさい!! さっさと帰るわよ!!」 テレテレ

数日後

i n 連合艦隊、第一泊地

金剛「Oh!! 他の鎮守府の艦隊や提督でいっぱいデース!!」

長門「ついにこの時が来たんだな:!!」 フンス

瑞鶴「遅れてきた分、かなり注目されてるわね:」

大井「仕方ないわよ。長い事中部海域の攻略してたんですもの、やっと追いついたって感じよ」

初月「それに: 提督達は他の提督達と違って鎧を着てるしね」

天龍「へへ、それにしても提督達もなんだかすごいオーラを出してるな!」

赤城「そうですね。まるで誰も近づかせない、強い雰囲気を:」

提督「やつべー: めっちゃみられてるよ」 ガクブル

ジン「:」 ガクブル

ベル「艦娘達や提督達の注目の的になってる:」 ガクブル

アール「: あ、目が合ったよ。こえー:」 ガクブル

鹿島「緊張しすぎて震えてる!」

霞「もー!! ビクビクしないでしっかりしなさい!」 プンスカ

提督「あ、あははは…大規模なもんでつい」

加賀「選べないからって鎮守府の艦娘達のほとんどを連れて来てるんですから、もつと胸を張ってください」

ジン「…面目ない」

天龍「ま、これだけならなんとかな（ry）」

弥生「司令官、コタロウはどこにいさせておきましょうか」

コタロウ「（、ω、）」「フンス」

ビスマルク「ちょ、連れてきたの!？」

龍驤「そりゃ注目の的になるわな!？」

アーロ「と、取り敢えずこちら辺で待ってこうか」

ジン「それじゃ TENT 張るぞ」ワッセワッセ

黒丸「ささ、運ぶニヤー」

瑞鶴「アイルー達も連れてきたのね!？」

提督「じゃ、俺は元帥殿達に挨拶に行ってくるから」ノシ

ベル「いつてらっさいい」

長門「霞、ついについて行ってやれ」

霞「ええ!?!いい、いいの?」

ジン「間違いなく、ガチガチになる」

霞「よし、行くわ」ダッ

i n 総指令室

提督「ガチガチ

元帥「…」ニコニコ

孫娘提督「…緊張して置物と化してる…」呆れ

孫市提督「…(妖怪ハチミツヨコセの事を先に話しておこうかな…?)」

他提督達「…」ジーツ

霞「ほら、固まってるので挨拶する」足蹴

提督「お、遅れましたあ☒!!ク、ク、クロード提督、本日より本イベント海域に参戦

い、いたしますう！」アセアセ

元帥「ご苦勞。それと、あまり緊張せずにも通りでかまわないよ？」ニコニコ

提督「は、はい！」

元帥「それじゃあ今の戦況を伝えておこうか」

孫娘提督「第一海域は輸送作戦で物資を蓄えつつ突破。第二海域から中枢海域へ本格的に進撃し軽巡棲鬼を撃退することで突破…それからの海域から妙な事になって来たの」

提督「妙な事ですか？」

孫娘提督「中樞海域へ近づけば近づくほど、深海棲艦達と遭遇しなくなったの。生物も深海棲艦も何もいない…まるで死海のようだったわ」

孫市提督「おかげで第五、第六海域へも何事もなく突破し…最終海域、クロスロード環礁…通称『艦の墓場』へ突入する準備に至っている」

霞「…そこに例の超弩級深海棲艦がいるのね」

提督「ず、随分と遅刻してしまいました…」

元帥「いや、君が来てくれて心強いよ。それに…先日君からの手紙の内容が気になつてね。君の意見をここで話してくれ」

霞&他提督達「…？」

提督「は、はい…その、超弩級深海棲艦の事なんです…正体はもしかして深海棲艦ではなく他の生物じゃないか、と思ひまして…」

孫娘提督「他の…生物…？」

孫市提督「その根拠は？」

提督「はい…過去にも超弩級深海棲艦の襲撃があつたという記録があつたのですが、その記録の中に燃料弾薬がごっそり消えたこと、その場に残された重油の様な黒い液体と青い液体という内容が書かれていたのです」

元帥「…それと超弩級深海棲艦の関係性は？」

提督「はい、ドンドルマという街にいた頃…ある古龍の襲撃があつたんです。その古龍は過去にもドンドルマの襲撃をしており…その際にも、俺達はその古龍と戦つた時に重油の様な黒い液体がありました」

孫娘提督「…バカな、と思うけど。貴方が見てきたことだからウソじゃなさそうね」

提督「…その古龍は硫黄を主食としますが、時には人工物の火薬や弾薬をも食い尽くします」

孫市提督「だから燃料や弾薬がごっそり消えた、というわけか…」

提督「その古龍は満腹になるまで食べる、消化のため長く眠りにつきます。その期間はかなり長い…その古龍は目覚めるとまた空腹を満たすために餌を求め行動する。今回の超弩級深海棲艦の件はその古龍が関連してるのでは、と…それが推測の一つです」

孫娘提督「硫黄だけじゃなく人工物の火薬を食べる龍つて…貴方達の故郷の生物はぶつとんでるわねー」

孫市提督「それで黒い液体の正体については納得したよ…でも青い液体とは関連なさそうに見えるけど、どう思っているんだい？」

提督「それが二つ目の推測です…古龍としての生態はまだ詳しく判明されていないの

ですが、もし俺の考えていることが正しければ、かなりの異質です。それは（ry）
ウウ〜!!

提督「うおっ!?!なんだなんだ!?!」

霞「警報…!!」

元帥「何事だ!?!」

他提督A「で、伝令!! 最終海域補給拠点にて超弩級深海棲艦が出現!」

他提督B「その深海棲艦は補給拠点を襲撃しております!!」

元帥「なんだと…!! 直ちに出撃して救援に迎え!!」

他提督C「げ、元帥殿!! 緊急事態です!!」

孫娘提督「まだ何かあるの!?!」

他提督C「第一泊地に向かって謎の飛行生物が接近!か、かなりの大きさです!!」

他提督D「その生物は島の反対側へ着陸!! こちらへと近づいてきております!」

提督「そいつ、黒い液体を撒き散らせながら来てないか?」

他提督C「え、ええ…」

提督「元帥殿…その古龍は第一泊地の弾薬庫が目的です。他の艦隊たちは避難、若しくは補給拠点へ救援を」

元帥「…やはり君が来てくれてよかったよ…君達で止められるのか?」

提督「それが狩人の務めですから」

元帥「…わかった。君に任せよう…くれぐれも無茶は禁物だぞ」

提督「ありがとうございます…霞、いそいでジン達に伝えてくれ」

霞「わ、わかったわ！」

提督「まさか本当に襲撃してくるなんて…『巨戟龍』、ゴグマジオス…」

107 進撃の巨戟龍 前

i n 第一泊地、東部

提督「泊地の方はどうだ？」

ジン「全艦隊、避難。他は補給拠点への救援へ向かっている」

ベル「ミケ達が急いでバリスタの設置、対巨龍用の大砲の用意をしているよ」

アール「おいおいおい…撃龍槍や巨龍砲無しとかきついんじゃないか？」

提督「それらが無い分、俺達が気合い入れてやんなきゃならない」

アール「しょうがねえな。よし、大樽爆弾Gを仕掛けてくる」ダッ

ジン「あれと戦うのはこれで2度目になるな…」

ズウウンッ!!

ベル「きたよ…!!」つゲキリユウノツガイ

ジン「…ドンドルマを襲撃した個体よりは若干小さいな」つ真・狼牙刀【寂滅】

提督『『巨戟龍』ゴグマジオス…!! やっぱりするごい迫力だ…!』つ王輝剣・リオレウス

ゴグマジオス「(▼皿▼)」グオオオオオオオッ!!

アール「ん…? あいつの背中にくつついてるのって…巨砲?」

孫市提督「あれが…古龍なのか…!!」

孫娘提督「体からドロドロした黒い液体が出る…凄く悍ましい」

黒丸「あれはゴグマジオスの身体から分泌される超重質龍骨油っていう重油だニヤ」

霞「重油の様な黒い液体って…本当に重油だったの!？」

黒丸「あの重油は強力な粘着力がありあらゆるものを絡めとるニヤ。でも引火すると物凄い爆発を起こす危険な物ニヤ」

孫娘提督「というよりも、たった4人であのデカイ龍と戦うの!?!無謀すぎるわ!!」

黒丸「ドンドルマの襲撃時はバリスタや大砲、龍撃槍と巨龍砲があったから4人で倒す事ができたけど…オイラ達でバリスタや大砲で支援するニヤ」

孫娘提督「だったら私達も…!!」ズイツ

霞「今回は司令官達も危ないんだから、手伝わせてもらおうわよ!」ズイツ

黒丸「わ、分かったニヤ…で、でもゴグマジオスのプレスはとても危険ニヤ。遠くからの支援がいいニヤ」アセアセ

長門「む…あの龍の背中にくっついてるのは…主砲だな…」

ゴグマジオス「(▼皿▼)っ」翼脚薙ぎ払い

提督「うおっ!? みんな、散り散りになって攻撃だー!!」大剣ガード

アーロ「オツケーイ!! その前にあいつの足元に仕掛けた大樽爆弾Gを爆破だー!!」つ

三ペイントボール

＼BOMB／

ゴグマジオス「Σ（▼皿▼）」

ジン「足下から行くぞ!!」一文字斬り

提督「俺とベルで尻尾をやるぞ!!」抜刀斬り

ベル「よし…いくよ!!」斬り込み

アーロ「えーと、俺は翼脚をやるぜ!!」つブラックフルガード

ゴグマジオス「C（▼皿▼C）」両翼脚叩き付け

ジン「むっ…!!」ジャスト回避

アーロ「あぶねえっ!?」ガード

提督「せいっ!!」斬り払い

ベル「なかなか分厚いね…!!」鬼人化乱舞

ゴグマジオス「●三●三（▼皿▼）三●三」重油飛ばし

提督「うわっ!? 重油を飛ばしてきたぞ!!」回避

ジン「そいつに絡まれないようにしろよ!!」回避

アール「おっとと…これに絡まってからの攻撃が怖え」アセアセ

ゴグマジオス「(▼皿▼) つ」尻尾薙ぎ払い

ベル「おわつと!」ジャスト回避

提督「重油を爆発させながらの攻撃はホント厄介だな」緊急回避

アール「なんの、せいっ!!」斧モード叩き込み

ゴグマジオス「(▼皿▼) 三■■」重油プレス

ジン「避けろっ!!」緊急回避

アール「あれだけでもすげえ圧力だもんな…」アセアセ

提督「どっせい!!」溜め斬り

ゴグマジオス「(▼皿▼)」翼脚薙ぎ払い

提督「ふべしっ!」…。(ε。)()

ジン「あつっ!」(シ 皿、)

アール「おおっ!」ガード

ベル「巨体の古龍だからダメージは大きい!!気を付けて!!」つ生命の粉塵

提督「た、助かった…」

ジン「一発一発がかい…気を緩めないようにしなくてはな」

ゴグマジオス「(▼皿▼) 三」翼脚叩き付け

提督「よっ!!」回避

ジン「何度もくらうか!!」抜刀気刃斬り

アーロ「提督、打ち上げッぞ!!」切り上げ

提督「よっしやー!!任せとけ!」空中溜め斬り

ゴグマジオス「Σ(▼皿▼;)」怯み

提督「よし、乗ったー!!」ライド

アーロ「ナイス乗りに!!」

ベル「あ、ちよつと待って、ここで暴れると…」

ゴグマジオス「((▼皿▼;)」大暴れ

ジン「規模がでかいっ!」ダツシユ

アーロ「戦闘街じゃなかったな!!」アセアセ

ベル「提督、ガンバレー!!」ダツシユ

提督「なんのこれしき…おりやおりやおりやああああつ!!」ザクザクザクザク

ゴグマジオス「((▼皿▼;)」暴れ

提督「どりやーっ!!」ザクザクザクツ

ゴグマジオス「((▼皿▼;)」ダウン

アーロ「いいぞいいぞ!!」

ジン「今のうちに畳み掛ける!!」気刃斬り

ベル「どんどん攻めるよ!」鬼人化乱舞

提督「尻尾を攻撃だー!!」溜め斬り、超溜め斬り

アール「うおりやああつ!!」属性解放斬り

ゴグマジオス「(▼皿▼)」起き上がる

提督「大型古龍はやつぱタフだな…」

ジン「兎に角できるだけ部位破壊していかなければな…」

ゴグマジオス「(▼皿▼)三三三三三三」爆熱重油プレス

アール「や、やつべえ!!熱線を撃ってきたぞ!!」

提督「そこから離れろ!!」ダツシユ

ベル「あれは薙ぎ払ってくるタイプだ!」ダツシユ

ジン「爆発するぞ!!避けろ!!」緊急回避

＼大爆発／

アール「あ、あぶねええ…」ヒヤアセ

提督「爆発も範囲が広いからな…」アセアセ

ジン「重油に絡まれたら最後、気をつけろよ」

ゴグマジオス「三(▼皿▼)」突進

ベル「ひえっ!? その図体でゴアみたいなステップは反則だよ!!」 ジャスト回避
アール「あぶねえなこの野郎!!」 回転斬り

提督「せいっ!!」 抜刀斬り

ゴグマジオス「C(▼皿▼)」 翼脚叩き付け

ジン「よっ…!!」 回避してからの一文字斬り

ミケ『旦那さん!! 高台に設置完了ニヤ。バリスタ、対巨龍用大砲、いつでも撃てるニヤ
!!』

提督「よし…!! 俺達で気を引かせる。その間に撃て!!」

アール「陽動なら任せろー!!」 ダツシユ

ゴグマジオス「C(▼皿▼C)」 両翼叩き付け

アール「うひーっ!?」 緊急回避

ジン「陽動になってない…俺も行くぞ!!」 袈裟斬り

ベル「今だ!! 背中を狙って撃て!!」

ミケ「バリスタ装填完了ニヤ!」

ヨモギ「どんどん撃つニヤー!!」 バリスタ発射

マシロ「ウニヤーツ!!」 バリスタ発射

チャチャ「大砲の弾を詰め込むツチャ!!」ワッセワッセ
カヤンバ「沢山運ぶンバ!」ワッセワッセ
ブルー「砲撃開始ニヤっ!!」大砲連射

ドドドドーン!!

ゴグマジオス「Σ(▼皿▼;)」背中一段階部位破壊

提督「よっしやあ!! 大当たり!」

ゴグマジオス「(▼皿▼;)」ダウン

ジン「いくぞ!!」大回転気刃斬り

提督「おりやああっ!!」溜め斬り

ベル「もつともつとだ!!」鬼人化回転斬り

アール「こいつもくらえ!」高出力属性解放斬り

ゴグマジオス「三(▼皿▼)三」回転薙ぎ払い

アール「おぶっ!?!」、3、)・∴・

ベル「へぶっ!?!」、ω、)・∴・

提督「ガードっ!!」大剣ガード

ジン「せい!!」斬り下がりからの気刃斬り

ゴグマジオス「三三三三三(▼皿▼)」爆熱重油プレス

提督「やばい!! 離れろー!!」三(; 皿、)

アール「あいてて…つてちよつと待てやー!!」(; 皿、) 三

＼大爆発／

ジン「爆発の範囲おかしいだろっ!？」三)。3。)。…:

ベル「あーれー」

アール「二人がふつとんだ!？」

提督「これでっ!!」っ【生命の大粉塵】

ゴグマジオス「(▼皿▼) 三(▼皿▼)」キョロキョロ

アール「まだミケ達の場所はバレてねえな」

ジン「…気づかれないように俺達でやるぞ」プスプス

提督「よーし、こっちだ!!」抜刀斬り

ゴグマジオス「(▼皿▼) 三■■」重油薙ぎ払いプレス

ベル「うわっ!?! それも薙ぎ払ってくるの!?!」緊急回避

アール「こんにやろう!!」斧モード叩き付け

ジン「しぶといな…!!」縦斬り

ゴグマジオス「●三●三(▼皿▼) 三●三●」重油飛ばし

提督「かなりの量と距離飛ばして来たぞ…！」

三 ● 三 ● ヒューン

ミケ「重油が飛んできたニヤァ!!」アセアセ

ヨモギ「回避するニヤァ」アセアセ

ブルー「にやァ! 火薬に当たらないように気を付けるニヤァ!!」

チャチャ「おのれー! 砲弾に何滴も当てはせんツチャァ!」

マシロ「怯まず旦那さん達の援護をするニヤァ!」バリスタ発射

カヤンバ「ワガハイの砲術マスターをなめるたらあかんバ!!」大砲発射

ドドドドーン!!

ゴグマジオス「Σ(▼皿▼;)」

提督「今のうちにいけー!!」叩き斬り

ジン「むんっ!!」気刃斬り

ベル「おつと…重油に当たるところだった」アセアセ

ジン「ベル!!横から来るぞ!!」

ゴグマジオス「C(▼皿▼)」翼脚薙ぎ払い

ベル「あばーっ!?」。D()。…

提督「ベルー!!」Σ(；；旦、)

アール「しゃーんなるー!!」高出力属性解放斬り

ゴグマジオス「(▼皿▼;)」右翼爪破壊

ベル「あいたたたた…た、助かったよアール」つ回復薬グレート

ジン「まだまだ手応えが無いな…」

アール「撃龍槍とかがあればなー…」

霞『司令官!!聞こえる!!』

提督「うおっ!?霞!」ビクッ

霞『黒丸に頼んで私達も支援するわ!』

提督「支援って…海からじゃ離れてるんじゃない?」

霞『大丈夫。相手が陸地なら、全艦隊の戦艦で三式弾を一齐に打ち込むわ!!』

提督「ん…?三式…?」クビカシゲ

霞『ああもう!!どうしてそんなにマイペースなのよ!!兎に角、すつごい量の砲弾が飛んでくるから気を付けて!!』

提督「霞、奴の背中を狙って撃ちこんでくれ。その部位を破壊すればこつちが戦いやすくなる」

霞『わかったわ。任せておきなさい!』ブツッ

ジン「なんてだ？」

提督「艦隊からの支援がくる。俺達で矛先を向けられないようにするぞ」

アール「よしきた!!陽動なら俺が（ry）」

ベル「やめときなさいって」

黒丸「よし…あれが背中を向けた今がチャンスニヤ!!」

霞「わかったわ!皆今よ!撃ち込んで!!」

孫娘提督「大和、ぶちかましてやって!!」

大和「了解したわ!三式弾、装填!!放て!!」ドドドドーン!!

金剛「今こそ提督をヘルプする時ネ!」ドドーン!

ビスマルク「怪物は怖いけど…アドミラル達の支援の為なら怖くないわ!!」ドドーン

!

長門「全砲門、掃射!!てええええっ!!」ドドドドーン!!

孫市提督「全戦艦、三式弾を一斉に撃て!!」

／うおおおおおっ!!／

ヒューン：三〇三〇三〇三〇

ゴグマジオス「?(▼皿▼)」

バババババツ 三〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

ゴグマジオス「Σ(▼皿▼;)」critical!

ベル「

アーロ「すっげえ!?砲弾の雨あられてやつだぜ!!」

ジン「連合艦隊の全戦艦で撃つと…この量はすごいな」

ゴグマジオス「(▼皿▼;)」(「背中部位破壊

アール「おっ!!背中部位を破壊できたぞ!」

提督「背中にくっついてたのが取れたな。あれは…艦の主砲?」

ベル「すっごくたまげたよ…」

提督「霞、支援助かった。ありがとう」

霞『ええ…司令官、気を付けて』

提督「おし、いくぞ!!」

108 進撃の巨戟龍 後

ゴグマジオス「(▼皿▼;)」ダウン

ベル「三式弾の援護射撃…すごいや!!」

提督「ダウンしている間に叩き込め!!」溜め斬り

アーロ「支援に続くぜー!!」属性解放斬り

ジン「手応えはあるぞ!!」気刃斬り

ゴグマジオス「(▼皿▼#)」グオオオオオオツ!!

アーロ「うるせー!!」(U; D、) U

提督「体から黒い煙が出てる…ブチ切れたようだな」

ジン「これで半分。ここから第二戦だぞ」

ゴグマジオス「C(▼皿▼#)C」飛ぶ

ベル「げっ!?!飛んだ!」

提督「おっとと…落ちてくる気化した重油には気を付けろ!!」

アーロ「ちよい待ち。あいつが飛んだってことは…」

ゴグマジオス「三三三(▼皿▼#)三(#▼皿▼)三三三」回転爆熱重油プレス

ジン「走れ!!」ダッシュ

アール「うおおおっ!? あちこちにビームを撃ちやがってきた!!」アセアセ
提督「所かまわずブレスをしてくるぞ!!」ダッシュ

ミケ「ニヤァ!? 砲台のところまで熱線が飛んできたニヤァ!!」

ブルー「爆発するニヤァ!! 退避ー!!」アセアセ

大・大・大爆発!! /

アール「ぬわーっ!?」。()。 . . .

提督「爆発の範囲が広すぎるってー!!」. . . ()。 ()

ベル「提督、アール!! これでっ!!」つ「生命の粉塵」

ジン「くっ…結構被害がでかいぞ…!!」

ゴグマジオス「(▼皿▼#)」着地

アール「このー!! やりやがってくれたな!!」斧モード叩き斬り

ベル「これ以上、先へはいかせない!!」斬りかかり

ゴグマジオス「(#▼皿▼)」翼脚薙ぎ払い

ジン「あぶ…っ」ジャスト回避

アール「うおおー!! なんの!!」ガード

提督「うおりゃ!!」横薙ぎ

ゴグマジオス「(▼皿▼(▼))」両翼脚叩き付け

提督「うひーっ!?」大剣ガード

アール「うおっと!?」緊急回避

ジン「ここだっ!!」桜花気刃斬

ゴグマジオス「三(；▼皿▼)」尻尾切断

アール「ナイスカット!!」

ベル「このまま続けて攻める!!」鬼人化回転斬り

提督「そおおいっ!!」溜め切り

ゴグマジオス「(#▼皿▼)三三三」爆熱重油プレス

ベル「ここから離れて!!」

アール「あぶねー!!」って提督は!?

提督「やばい!!重油が絡みついて…!」ジタバタ

＼大爆発／

ベル「て、提督ー!?!」

アール「こ、粉微塵になっちゃった!?!」

ジン「安心しろ。少し遠くまでぶっ飛んだだけだ」

ゴグマジオス「C(▼皿▼#)翼脚叩き付け

ジン「っ!! あいつなら大丈夫だ! 気にせずやるぞ!!」ジャスト回避からの一文字斬り

アール「提督は簡単にくたばらねえからな!」溜め斬り

ベル「ぶ、無事ならいいのだけど…」回避

提督「いつつ…鎧がなかったら粉微塵になつてたかも…」つ回復薬グレート

コツン
提督「む? これは…ゴグマジオスの背中に引つ付いてた錆びた主砲か。ドンドルマの時は撃龍槍だったけども…ん?」

妖精さん「…」ノシ

提督「こりやまた…古い軍服を着た妖精さん?」

妖精さん「…」ノシ

提督「うん? まさか撃てるとかじゃ…ないよな?」

妖精さん「…」コクコク

提督「え?! 撃てるの?! いや撃龍槍の時はピツケルでカーンッてすればよかつたけども、これはさすがに…」

妖精さん「…」ジーツ

提督「…わかった。ドンドルマの襲撃の奴の背中にひつついてた初代撃龍槍は一矢報いたんだ。お前もあいつに一矢報いたいのだな」

妖精さん「…!!」コクコク

提督「よし！一か八かこれでやってみるか!!」つピツケル

アーロ「こんのおおおっ!!」属性解放斬り

ベル「くっ…:どんどん進んでいく！」連続斬り

ジン「何が何でも泊地に行かさせるな！」気刃斬り

ゴグマジオス「C(▼皿▼#)C」バサッ

アーロ「げえっ!?また飛び上がりやがったぞ!!」

ベル「無差別に熱線を飛ばしてくるのか…!!」

ゴグマジオス「C(▼皿▼#)C」熱線チャージ中

ジン「くるぞ…!!」

妖精さん「…!!」ノシ

提督「おっ!!主砲が動いた!?!」

妖精さん「…!!」

提督「今だな！これで動けっ!!」カーンッ

ドドーン!

提督「動いたー!!」

ヒューン… ○三

ゴグマジオス「C(▼皿▼);」critical!

アーロ「おおっ!?なんだ!」

ベル「巨龍砲みたいなのが当たった!」

ジン「撃墜できたぞ!!かかれ!!」

提督「やったぞ!!命中だ!」

妖精さん「…」ニツコリと敬礼

提督「妖精さん…?」

ガラガラッ!!

提督「うおおっ!?主砲が崩れた!?あれ?妖精さんは何処行つた?」キョロキョロ

シーン…

提督「…ありがとう。こつから先は俺達に任せてくれ…!!」ダッ

ベル「畳み掛けていくよ!!」乱舞

ジン「攻めて攻めまくれ!」大回転気刃斬り

アーロ「おらおらおらーっ!!」盾突き

ゴグマジオス「C(▼皿▼#)」翼脚薙ぎ払い

アール「ぬううんっ!!」ガード

ジン「まだか…しぶとい」グヌヌ

提督「みんな!!お待たせ!!」

ベル「提督!大丈夫だったんだね!」

アール「さっきの砲撃は提督だったのか」

提督「手応えはある!アール、狩技解禁だ」

アール「つしやあ!!待ってました!!」

ジン「古龍相手ならもう惜しみなくやっていいだろ」

提督「俺も久々に使う。一気に決めるぞ!」

ベル「だったらうまく当てられるようにしなきゃね!」ダツ

ゴグマジオス「C(▼皿▼#)」翼脚叩き付け

ベル「よっ!!」ジャスト回避

ジン「こつちだ!!」桜花気刃斬

ゴグマジオス「(;▼皿▼)」怯み

ジン「よし…!!ミケ、ブルー!バリスタだ!!」通信

ミケ「了解ニヤ!! 拘束バリスタ、発射ニヤ!!」拘束バリスタ発射

ブルー「こちらにも発射するニヤ!!」拘束バリスタ発射

ドスツドスツ

ゴグマジオス「((▼皿▼ ;))」拘束

ジン「いいぞ!! 提督、アール!! 今だ!!」

アール「いくぜいくぜ!! フルチャージしてからの大技だ!!」エネルギーブレイド（フルチャージ）

提督「こいつでどうだあああつ!!」震怒竜怨斬

ズバンツ

ゴグマジオス「グオオオオ…ツ!!」グラア…

ズズウウウンツ

ベル「や、やった…!! 討伐成功だ!」

ジン「やったな…」納刀

提督「ふう…何とか泊地を死守することができた」ヘナヘナ

アール「まさかのゴグマだったな。ドンドルマの時の教訓が活かせて良かったぜ」
フウー

ジン「提督、それでどうするんだ？」

提督「そうだな、取りあえずギルド本部には報告して、こっちに來てもらおう。その前に……」

ベル「その前に？」

提督「ちよつと調べなきゃいけないことが……」

in 泊地基地（夜間）

霞「もう!! その頑丈な鎧がなかったら木端微塵だったのよ。ちよつとは心配している身にもなりなさいな！」ポカポカ

提督「あいたたた!! も、もうちよつと優しくして……」（ ; ω ; ）

アール「いいいなー。俺も誰かにお手当してもらいたいなー」オサトウダバー

ジン「俺がやろうか？」コキコキ

アール「チェンジで」キツパリ

鹿島「でも驚きました。あんな巨大な龍を相手するなんて……ベルさん達はすごいですね」ベルを手当

ベル「ハンターにはあんなでかい相手と戦う時もあるからね……」

アール「過去には巨大な蛇や巨大な蟹を5人で戦った時もあったからねー」遠い目

霞「ほんと司令官達は人離れしすぎよ。ほら、終わったわよ」ポンポン
提督「よし、ありがとうな」ナデナデ

霞「こ、今度は私達が頑張る番だからね…!!」テレテレ

長門「そうだな…次は連合艦隊の出番だ」

金剛「テートク達の期待に応えマース!!目を話しちゃNOだからね!」

天龍「他の艦娘達も張り切ってるからな!!任せてくれよな!」

提督「…ああ。指揮もちゃんと取るから存分に張り切ってくれ!」

ジン「…」

元帥「クロードくん、失礼するよ」

提督「あ、げ、元帥殿!!すみません、このような格好で」アセアセ

元帥「気にしなくていい。それよりも古龍の討伐、泊地を死守してくれて本当に感謝している」

提督「あ、いや、その…は、ハンターとしてやったまでのことですし」アセアセ

霞「ほら、シャキツとしなさいな」

ジン「元帥殿、補給拠点の方はどうなりましたか…?」

元帥「うむ…救援にはギリギリ間に合ったが、被害は大きかった。艦娘達は全員無事だったが物資は全てやられてしまった」

アール「あの時ゴグマジオスが来てなきや俺達も行けたのになー…」

元帥「なに心配することはない。明日には全艦隊、クロスロード環礁、『艦の墓場』へ
出撃し超弩級深海棲艦を討つ」

ベル「いよいよ明日なのですね…」ゴクリ

元帥「クロードくん、それにジンくん達も、明日は共に戦おう」

提督「はい!!ともに頑張りましょう!」ペコリ

in 泊地港

提督「明日の編成は…よし、これでいくか。補給物資もよしつと…」

霞「司令官、まだ起きてたの…?」

提督「おお、霞か。ちよいつと明日の出撃の準備さ」

霞「そう…いよいよ本番ね」

提督「…」

霞「…不安なの?」

提督「…ああ。明日の海戦はきつと今までよりも危険なものなんだろうなって思っ

な…」

霞「…もう、こんな時でもシャキツとしなさいな」ポンポン

提督「…」

霞「最初の頃よりもだいぶ様になつてるわよ。司令官、今の貴方なら大丈夫」ニッコリ

提督「…霞、ありがとうな」

霞「ほら、もう遅いんだから明日に備えて休んでおきなさい。寝不足は体に悪いわよ」

提督「…そうだな。寝るとしますか…あ、そうだ。霞」

霞「?どうしたの司令官?」クビカシゲ

提督「…えーと、その…わ、渡したいものが…」ソワソワ

霞「???」クビカシゲ

提督「…あ、いや。今はタイミングがおかしいよな…そ、そうだ。これ」つ【お守り】

霞「…お守り?」

提督「とつておきなお守りだ。取りあえず、今はこれを。本命はまた後でな!」

霞「…ううふ、ありがとう、司令官」ノシ

提督「…」フー

ジン「さっさと渡せばいいのに」ジトー

提督「…うわっ!?ジン、いたのかよ!」ビクッ

ジン「さつき」

提督「ホンマかいな…で、用は何だ？」

ジン「…明日の出撃。お前、内心は出撃させたくないんだろ？」

提督「…本当はな。胸騒ぎがするんだ…」

ジン「…超弩級深海棲艦による補給拠点の襲撃、そしてゴグマジオスの襲撃。この二つは偶然同時に起こったとは思ってないな？」

提督「ああ…この一件、全ては超弩級深海棲艦による仕業だ」

ジン「そう思えるのは？」

提督「…共生だ」

ジン「共生…？アリとアブラムシ、テツポウエビとハゼみたいなやつか？そう思える根拠はなんだ？」

提督「…他の提督に調べてもらったんだが、ゴグマジオスの背中に引っ付いていた主砲。あれはかなり古い物だと言ってる。恐らく、『艦の墓場』にあつた物だとさ」

ジン「あのゴグマジオスは中枢海域から来たというのか。しかも超弩級深海棲艦がいるとされる場所にか」

提督「…ゴグマジオスは火薬類を主食とする。ゴグマジオスに自分と住処を守つてもらう代わりに船や基地を襲撃し餌を提供する。そして腹を満たしたゴグマジオスは空

腹になるまで眠りにつき、目覚めるまで超弩級深海棲艦はひっそりと潜める…だからこれまで見つからなかったんだろう」

ジン「そして目覚めたゴグマジオスとともに各地を襲撃、縄張りを拡大か…古龍にしては珍しいが、もしお前のいう事が正しければその超弩級深海棲艦は…深海棲艦ではなく全く別の生物になるぞ？」

提督「…だからだ。だから胸騒ぎがするんだ…」

109 怨嗟の慟哭

i n 泊地基地

提督「ついに来たな…」

ジン「大規模な出撃になるぞ」

霞「司令官、いつでも出撃はできるわよ」

提督「ああ…しゅ、しゅ、しゅ…しゅちゅげきメンバーは…」ガクガク

霞「ちよ、そこで緊張しないでよ!」ズコー

アール「あらー、こりやかなり緊張してますなー。プークスクス」ガクガク

ベル「アール。人の事言えないんだけど…」

天龍「霞、いつものように喝入れてやれ」ニヤニヤ

金剛「もう定番になってきましたネー」

霞「全く…ほら、シャキツとしなさい!」ローキック

提督「ひでぶつ!」(…)

霞「どうかしら? 気合いでたでしょ?」

提督「お、おうふ…き、緊張はぶつとんだ…」プルプル

ジン「別の意味でダメな気がするんだが…」

ビスマルク「ほ、本当に大丈夫かしら…」ニガワライ

長門「ふふ、さすがは私達の提督だな」クスクス

提督「よ、よつし…第一艦隊の編成は長門を旗艦にビスマルク、金剛、足柄、プリンツ、天龍。第二艦隊は阿武隈を旗艦に大井、霞、赤城、瑞鶴、加賀、第三艦隊は川内を旗艦に利根、北上、初月、島風、時雨の連合艦隊で行くぞ」

川内「やったー!! 出番だー!!」フランス

利根「これまた…本当に大規模になるのう」

天龍「うつし!! 気合い入れ行くぜ!!」

瑞鶴「まるで大決戦みたいになりそうね…」

赤城「ふふふ、加賀さん頑張りましょうね」ニコニコ

加賀「…高揚します」

プリンツ「はわわわ…初めての連合艦隊ですな…」アセアセ
阿武隈「ちや、ちゃんと旗艦を務めれるかなあ…」アセアセ
ジン「こうも多くなると指揮が大変になるな」

ベル「ま、もしもの時は俺達も指揮を手伝うからさ」

時雨「よし…!! 僕も頑張らなくちゃ」

島風「おうっ!! 私達の艦隊が一番早く攻略しちゃうんだから!」

提督「さあ…みんな、ここが大詰めだ!! 頑張っていくぞ!!」

艦娘達「はいっ!!」

霞「…」ニコニコ

アール「だ、誰か俺にも喝を…」ガクガク

初月「あ、アールさん…えっと、ほ、僕が…」

大井「足柄さん、お願いします」

足柄「つしやあおらー!!」バツクブリーカー

アール「ウワラバアアツ!」＼(^ q ^)／

初月「アールさああん!」Σ(; 旦、)

北上「…無茶しやがって」(・ ω ・)ゞ

——艦隊出撃!!——

アール「チーン

ベル「他の艦隊も出るからすごい数だねー」

明石「あの、それよりもアールさんが…」

提督「…」ソワソワ

大淀「？提督、どうしましたか？」

提督「いや、その…」ソワソワ

ジン「…提督。用事があるならさっさと済ましてこい…」ポン

提督「!!…ジン、すまない…」

明石&大淀「??」

—— in 中枢海域 | クロスロード環礁【艦の墓場】 近海

霞「ここが中枢…？」

金剛「Oh…船の残骸があちこちに…まるでホラーですね」

ビスマルク「艦や鉄の残骸が積み重なって…一つの陸地にもなってるわ」

阿武隈「な、なんだか寒気がします…」ガクブル

長門「…おかしい」

加賀「そうどうすね…あまりにもおかしいわ」

島風「え？どういう事…？」

赤城「道中もそうでしたが…ここら近辺、深海棲艦が一隻もないことがおかしいの」

川内「もしかして夜戦型…!!」キリッ

瑞鶴「そんなわけないでしょ」スパーン

天龍「深海棲艦どころか海鳥も、ほかの生物もいる気配さえまったくねえ…」

プリンツ「ほ、本当に墓場っていうくらいですね」

時雨「今までにないくらい、不気味すぎるよ」

大井「他の艦隊も戸惑ってるわ。ここに超弩級深海棲艦が潜んでいるのかしら」

北上「うーん…見当たらないねー」

足柄「早く出てきなさいな！」

初月「ソナーや艦載機を使って探している艦隊もいるようですが…僕達もやりますか？」

利根「む!? 瑞雲が見つけたようじゃ! 来るぞ…!!」

ドドドドドツ

超弩級深海棲艦「オオオオオ…!!」浮上

長門「あれが超弩級深海棲艦か…!! かなりでかいぞ!!」

霞「艦だけじゃない…!! 深海棲艦の艦装や砲門を沢山つけてる…!!」

天龍「おおい!?全部載せてレベルじゃねえぞ!?」
ビスマルク「まるで要塞ね…!!」

赤城「加賀さん、瑞鶴!!航空戦を始めるわよ!!」艦載機発艦!!

加賀「続けていきます!!」艦載機発艦!!

瑞鶴「不気味だけど…!!艦載機の皆、お願い!!」艦載機発艦!!

艦載機へネライウツゼー! ババババツ

超弩級深海棲艦「…!!」hit!!

天龍「全連合艦隊の艦載機の攻撃をくらっても小破すらしねえ!」

大井「だったら、魚雷をくらいなさいな!!」魚雷発射!

北上「よーし、いっくよー!!」魚雷発射!

阿武隈「い、いきまーす!」魚雷発射!

超弩級深海棲艦「…!!」hit!!

北上「他の艦隊の魚雷も合わせて撃つたのにびくともしない…!?」

阿武隈「と、とうかさつきから呻き声しか聞こえなくて怖いですー!!」

大井「こら!そんなことで怖気ちやダメよ!!」

長門「よし……ここから砲雷撃戦に移るぞ!!私に続け!」ドドーン!
 金剛「相手に攻撃させるtimeを与えませんよ!!」ドドーン!
 ビスマルク「どンドン撃つわ!!fire!!」ドドーン!!

超弩級深海棲艦「……!!」hit!!

長門「くつ、かなり丈夫そうな装甲だな……!!」

利根「よし、ならば吾輩も……!!」

時雨「待って!!相手に動きがあるよ……!!」

超弩級深海棲艦「……!!」フルフルフル

戦艦装型艦首(右)「(▽皿▽)」オオオオツ……!!

空母装型艦首(左)「(◇皿◇)」オオオオツ……!!

天龍「は、はあっ!?!複数の艦装!?!」

島風「しかも首なっがーい!!」

戦艦装型艦首「(▽皿▽)三(▽皿▽)」カチツカチツカチツ

金剛「口を何度もカチカチしてマスネ…」

初月「何かしてくる…!!」

戦艦装型艦首「○三○三○三(▽皿▽)」爆炎火球ブレス

長門「戦艦が火球を…!?皆、避ける!!」

瑞鶴「なにあれ!?深海棲艦がそんなことしていいの!?」回避

阿武隈「ひゃあああっ!?」回避

加賀「今までにない攻撃…!!」

空母装型艦首「(◇皿◇)」フルフルフル

利根「こんどは左の艦首が震えだしたぞ!!」

赤城「まさか艦載機を飛ばしてくるの…!?」

空母装型艦首「●三●三(◇皿◇)」ペツ

足柄「艦載機を吐き出してばら撒きだした!?」

金剛「wait!!あれは艦載機ですが…あれじゃあまるで…」

＼Bomb!!／＼Bomb!!／＼Bomb!!／

川内「わあっ!?艦載機が爆発した!?」

プリンツ「艦載機じゃなくてももう爆弾ですよあれ!?」

時雨「しかも範囲が広い…!!」

ビスマルク「長門!! どうするの!?!」

長門「本体は後だ! 先に艦首を叩くぞ!!」

瑞鶴「了解です!! 左の艦首は任せておいて!!」艦載機発艦!!

赤城「兎に角、相手に撃たせはしないようにするわよ!!」艦載機発艦!!

加賀「一斉に行きます」艦載機発艦!!

艦載機へオレガ、オレタチガ: 艦載機ダツ!! バババババツ

空母艦装型艦首「Σ(◇皿◇)」hit!!

足柄「お構いなく撃ちまくるわよ!!」ドドーン!

初月「これなら…: いけっ!!」ドドーン!

島風「このーっ!!」ドドーン!

空母艦装型艦首「Σ(◇皿◇)」首の艦装が? がれていく

利根「な、なんじゃ? もう大破したのか…?」

加賀「装甲が薄い…? いえ、装甲の下はなにかある…」

戦艦艦装型艦首「○三(▽皿▽)」火球砲弾

ビスマルク「おっと…これならどうかしら！」ドドーン！

金剛「火球は撃たせないデース!!」ドドーン！

戦艦艦装型艦首「Σ(▽皿▽) hit!!」

天龍「へっ…最初はビビったけど、装甲が薄けりや怖くねえぜ!!」ドドーン！

北上「どんどんいきましょー!!」ドドーン！

川内「さあ、やるよ!!」ドドーン！

戦艦艦装型艦首「Σ(▽皿▽)」装甲が剥がれていく

霞「…:…?」

戦艦艦装型艦首「三三三(▽皿▽)」青色液体プレス

空母艦装型艦首「三三三(◇皿◇)」青色液体プレス

時雨「こ、今度は何!?青色の液体!?!」

島風「うわー!?!全方向に向けて撃ってきたよ!?!」

霞「あれは…司令官が言ってた青い液体…!!」

大井「他の艦隊に被弾してるわ!!」

金剛「当たったら青色の液体がネバネバしてて身動きができないみたいデース!!」

長門「当たらないように気を付けるんだ!!手が空いてたら他の艦隊を救助する!!」

超弩級深海棲艦「…!!」青色液体飛ばし

天龍「あつちはあつちで特大の弾飛ばしてきやがったぞ!」アセアセ

川内「あ、あぶなかつたー…」

利根「回避第一じゃー!!」アセアセ

ビスマルク「このっ…!!他の艦隊をやらせはしないわよ!!」ドドーン!

プリンツ「ビスマルク姉さまに続きます!!」ドドーン!

天龍「おりゃーっ!!俺も負けてたまるかー!!」ドドーン!

空母艦装型艦首「…!?!」hit!!撃沈

金剛「Yes!!続けて行きますヨーツ!!」ドドーン!

川内「どんだん撃ちまくるよ!!」ドドーン!

大井「これでどうっ!!」ドドーン!

時雨「このまま撃ち続ける!!」ドドーン!

戦艦艦装型艦首「…!?!」hit撃沈

超弩級深海棲艦「グオオオオツ…!!」

瑞鶴「よし、いい感じじゃないの!!」

阿武隈「こ、これならごり押しで行ける感じがしますね…!!」

長門「…」

大和「長門さん…」

長門「む、孫娘提督殿の大和か…」

大和「あれだけ戦っても相手は微動だにしない…今まで深海棲艦と戦った中でこれは異常すぎる気がします…」

長門「ああ…私もだ。こんな不気味な奴は初めてだ。あの艦首の艦装もそうだったが…あれは生きていない」

大和「そうですね…まるで殻を被った何かが動かしてる、そんな感じがします」

叢雲「ねえ…」

霞「貴女は孫市提督の…」

叢雲「あの司令官の秘書官やつてるから聞くけど、何か気づいてるんじゃないの…？」
霞「ええ…何か、何かおかしいわ…」

潜水艦艦装型艦首（右）「(○皿○)」オオオオツ…!!

軽巡艦装型艦首（左）「(▷皿◁)」オオオオツ…!!

長門「なっ!?!新たな艦装だど!?!」

天龍「こんなにやろ…何度も撃つてやるぜ!!」

霞「待つて!!本体の方にも動きが…!!」

超弩級深海棲艦「……!!」ゴゴゴゴ……
大和「方向を転換した……?」

i n 連合艦隊泊地

アール「じよ、状況は……?」復帰

ベル「順調……でもなさそう。苦戦してるみたいだよ」

大淀「ですが、こちらにも被害は未だにないようです」

鹿島「この調子なら夜戦に持ち込んで一ゲージは減らせそうですね」

ジン「……」

ガヤガヤガヤ

ジン「む?外の方が騒がしいな……」

弥生「アールさん、ジンさん……!!」アタフタ

アール「弥生、何かあったのか?」

弥生「お客さん……!!」クイクイ

ジン「お客……?誰だ?」

団長「わっはっはっは!!仕事のところすまん!」ノシ

アール&ベル「だ、団長ううっ!?!」

ヴェールヌイ「団長がきてみんな驚きだよ」

弥生「団長、お久しぶりです!!」ワクワク

団長「わっはっは!! 弥生もコタロウも元気にしておるじゃないか! よしよし!」ナデナデ

ジン「団長、どうしてこのような所に?」

団長「実は…ドンドルマの師匠さんから調査して欲しい場所があると依頼があつてな。その依頼内容を見たらそりやまた驚きで…そこでお前さん達と一緒にこうじゃないかと誘いに来たんだ」ニヤニヤ

ベル「調査してほしい場所? しかもお師匠さんから…何か凄いことでもありそうだね…」

アール「つてか団長、すつごいニヤニヤしてるんだけど。何か嬉しいことでもあるのか?」

団長「ふっふっふ。その島はなんとレウス、レイア希少種の繁殖地と言われている場所でな…そして、その発見者が…おっと、ここは秘密にしておこうかな」ニヤニヤ

不知火「団長さんお人が悪いですね」クスリ

アール「レウス、レイア希少種の島、か。提督が聞いたら目から鱗状態になるな」

団長「そういえば…クロードはどうしたのだ?」

ジン「少し超弩級深海棲艦について気になる事があるようだ…」

団長「む？超弩級深海棲艦…なんだそれは？」

大淀「いま、この先にある中枢海域に潜んでいる深海棲艦と戦っている所なんです」

団長「むう…少しタイムリングが悪い時に来てしまったかな？」

ヴェールヌイ「大丈夫だよ。団長が来てくれたのなら更に皆が元気になる」

ベル「それにしても…まさか二つの首を持つ艦首だったなんてね…」

鹿島「戦艦だけじゃなく空母までも…油断はできませんね」

団長「…ベル。今なんて言った？」

ベル「え？ふ、二つの首を持つ艦首だなーって…」

団長「巨体に、二つの首、と…」

アール「だ、団長？すっげえ驚いてるけど、大丈夫か？」

団長「…もしかして、こんな形をしてないか？」カキカキ

大淀「そ、そうです!!それにしても団長さんがどうしてご存知なのですか…?」

団長「…」ワナワナ

弥生「だ、団長…?」

団長「なんということだ…まさかもう一頭、存在していたとは…!!」ガタツ

アール「わっ!?だ、団長!？」

ヴェールヌイ「団長がすごい驚いてる…!」

ジン「団長がここまで焦るのはダラ・アマデュラ以来だ…これは何かあるぞ…!」

団長「ジン!! 元帥殿の所へ案内してくれ…!!」

ジン「分かった。こつちだ」

アール「ベル…いつでも出れるよう、支度しろ」

ベル「アール…?」

アール「クロードの胸騒ぎと団長の焦りはよく当たるんだよ。急げ!」

団長「元帥殿はおられるか!？」

ジン「攻略中のところ邪魔する」

孫娘提督「わっ!? ダンディなおじ様!？」

元帥「私が元帥だが…何かあったのか？」

ジン「この方は団長。かつて俺達がいた『我らの団』のリーダーで、王立学術院の書記官です」

元帥「王立学術院の…!! 書記官殿が一体…」

団長「今、艦娘達はその超弩級深海棲艦と戦闘中ですか…?」

孫娘提督「そ、そうね…」

団長「今すぐ全艦隊、撤退をさせてくれ」

孫市提督「全艦隊を撤退!?!」

孫娘提督「い、いまだまだ戦闘中よ!?!」

団長「これは異例の事態なんだ!! このままだと彼女たちが危ない!!」

元帥「それはどういう事だ:?!」

団長「今艦娘達が戦っている相手は深海棲艦ではない!! かなり危険な…『古龍』なんだ!!」

ジン「古龍…?! あの艦の塊みたいなのが…?!」

孫娘提督「こ。古龍って…龍には見えないのだけど…」

ジン「古龍っていうのは全ての姿が龍と限らない。中には特殊な姿をした古龍もいる…」

団長「あれは自然の能力を操るのではなく…あまりにも異常で、危険な古龍だ!!」

元帥「…団長殿、それはまことか:?!」

団長「最近噂になっていた原生林の奥地で目撃された『二つの首を持つ古龍』の正体であり、新しく発表されたんだ…まさかここにもいたとは…」

ジン「団長、その古龍の正体は…?」

団長「あれは…『骸龍・オストガロア』。龍や人間や艦娘達や深海棲艦…存在する生物全てを喰らい尽くす危険な古龍だ」

オストガロア「() 皿 ◀ # () ギユオオオオオオツ !!

霞「なに…あれ…!？」

天龍「きよ、巨大なイカ!？」

金剛「What!?!あれは深海棲艦じゃないのですか!？」

大和「…!?!元帥殿から全艦隊に通信!!あれは『古龍』!!今すぐに全艦隊、撤退せよとのことです!!」

瑞鶴「嘘でしょ…!?!あんなのが…あんなイカの怪物みたいなのが古龍!？」

長門「深海棲艦も…各海域を騒がせた正体は古龍だったということなのか!？」

霞「と、兎に角!!急いで逃げるわよ!!」

110 深淵の怨霊

ジン「団長、ギルドに要請せずに行くからな!!」ダッ

団長「おう!話はつけておく!!…だが、気を付けるんだぞ。ハンターさえもオストガロアの捕食対象だからな!!」

孫娘提督「まさか…あの超弩級深海棲艦の正体が古龍だったなんて…」

孫市提督「親父：俺も行くぞ!叢雲を、艦娘達を助けに行く!」

元帥「ああ、私も行く。すぐに艦の出撃準備を!!」

団長「クロード、ジン、ベル、アール：頼んだぞ!!」

オストガロア「(皿) ギュオオオオオオツ!!

天龍「あ、あのイカこつちに近づいてきたぞ!?!」

長門「後ろを見るな!兎に角、撤退するんだ!!」

金剛「Hurry up!!もつとスピードをあげないとヤバイデース!!」

阿武隈「ひやあああつ!?!こ、怖すぎますー!!」

北上「ほら、阿武隈!! 腰抜かしてる場合じゃないよ!!」阿武隈の手を取る
大井「兎に角、急ぐわよ!!」

潜水艦装型艦首(右)「〇三〇三〇三〇三(〇皿〇)」大型魚雷発射

時雨「ウソ!? 魚雷を撃ってきた!!」

島風「わああつ!? は、はっやーい!!」アセアセ

利根「しかもでかいぞ!! 避けるのじゃ!」

プリンツ「きやああつ!?」critical! 大破

ビスマルク「プリンツ!!」

軽巡艦装型艦首(左)「三三三三(▽皿△)」青色粘液プレス

ビスマルク「この…!! させないわよ!!」ドドーン!

軽巡艦装型艦首(左)「Σ(▽皿△)」hit

ビスマルク「プリンツ!! 今のうち退くわよ!!」プリンツの手を取る

プリンツ「ビスマルク姉さま…!」

瑞鶴「こ、このままじゃ追いつかれちゃう…!!」

加賀「艦載機を飛ばして気を引かせるわよ…!!」艦載機発艦!!

瑞鶴「は、はいっ…!!」艦載機発艦!!

艦載機<オラオラオラオラオラー!!

バババババツ

オストガロア「Σ(▶皿◀ #)」

軽巡艦装型艦首(左)「三三三(▶皿◀)三三三(▶皿◀)三三三 全方向水流ブレス

艦載機<ヒーツ!!? 退避

川内「み、水のブレス!? さっきは炎を吐いてきたのに、なんでもありなの!?!」

赤城「艦載機の皆も危ない!! 戻ってきてください!」

長門「くっ…なんて攻撃をしてくるんだ…!!」

初月「待って! あそこの艦隊が逃げ遅れてるよ!」

足柄「あそこは青色液体の被害があつた子達…」

利根「艦装に浮遊物が付着して、動けなくなつてるようじゃぞ!」

大和「いけない…!! あの子達が危ない!!」

霞「…だつたら!!」ダッ

叢雲「ちよ、ちよつと!」

金剛「か、霞ちゃん!?!」

霞「少しでも時間を稼げることができたら…っ!!」

オストガロア「(▶皿◀ #)()」

霞「このイカのデカブツ!!こつちを見なさいな!!」魚雷発射

オストガロア「Σ(▶皿◀)」ギロリ

霞「ほら!!こつちよ!!」ダダダダッ

加賀「あのバカ:!!」

長門「だが:今のうちに他の艦隊を助けるぞ!!」

赤城「大丈夫ですか!私達の手に掴まってください!!」

潜水艦装束型艦首(右)「(○皿○)三〇」大型魚雷発射

霞「つと!当たるもんですか!今長門さん達が他の艦隊を助けて退いてくれている:

これなら:」

軽巡装束型艦首(左)「三(▶皿◀)」突撃

霞「しまっ:!!」

天龍「おりやああっ!!」刀でガード

霞「て、天龍さん:!!」

天龍「へへっ:ジンさんが鍛え直してくれた火属性付与の刀がここで役に立ったぜ

:」ヒヤアセ

瑞鶴「霞ちゃんだけにいい格好をさせるもんですか!」

金剛「Yes!! なんとしてでも皆さんが逃げれるよう時間を稼ぎマスヨ!!」
霞「…もう、あとで司令官に怒られるわよ…」

金剛「百も承知デス! 全砲門、ファイアー!!」ドドドドーン!!
軽巡艦装型艦首(左)「…!!」艦装破壊

潜水艦装型艦首(右)「(○皿○)三〇」大型魚雷発射

瑞鶴「なんのっ…お返しよ!!」ジャスト回避からの艦載機発艦
艦載機<トラトラトラーツ!! バババババツ

潜水艦装型艦首(右)「Σ(○皿○)」hit

天龍「おらああつ!! ドスファンゴで鍛えた剣捌きをくらえ!!」

霞「ちよ、近接はあぶないって!!」ドドーン!

潜水艦装型艦首(右)「…!!」艦装破壊

天龍「どうだ! ざまあみやがれってんだ!!」

金剛「艦娘達をなめたら痛い目見ますヨ!」

オストガロア「(#皿) オオオ…ツ!!

瑞鶴「…まって!! 二人ともそこ危ない!! 下から来るわよ!!」

天龍&金剛「え?」

中間艦装型艦首(右)「(○皿○)」オオオオツ…!!

天龍「どわーっ!？」

金剛「ま、真下から出てくるなんて卑怯デース!!」

霞「しかも中間棲姫の艦装に色々くつつけた物じゃないの…!!」

雷巡艦装型艦首(左)「(◎皿◎)」オオオオツ…!!

瑞鶴「うわっと!?!こっちも出てきた!!」ジャスト回避

雷巡艦装型艦首(左)「三三三三(◎皿◎)」回転青色粘液プレス

金剛「そ、その距離から撃ってきた!？」

天龍「わわっ!?!くそ…艦装がっ!」

中間艦装型艦首「三三三(◎皿◎)」大きく振り下ろす

霞「二人とも危ないっ!!」天龍と金剛を押す

天龍「なっ…!!馬鹿野郎!!」

霞「…!!」

△三三三 ヒューン…

中間艦装型艦首「Σ(◎皿◎)」怯み

瑞鶴「な、なんか遠くから飛んできた!？」

霞「い、今のは…!!」

ウオオオオオオ…!!

天龍「と、遠くから何か来る…!!」

瑞鶴「しかも物凄い勢い…」

金剛「あれはホエール…?まさか!!」

提督「おおおおおおおつ!!」バリスタ発射

天龍&金剛「て、提督うううつ!!」

瑞鶴「しかも第二イサナ号に乗ってきてる!!」

提督「霞!!怪我は無いか!」

霞「し、司令官…:どうしてここに…?」

提督「胸騒ぎがしてな…:来て正解だった。待ってろ!すぐに片付けてやるからな!」
第二イサナ号、発進

霞「ちよ、司令官!」

瑞鶴「提督…:すぐ怒ってた…」

長門「皆、無事か!」

大和「全艦隊、安全圏へ避難できました!!私達も急ぎましょう…」

霞「で、でも…:司令官がイカの怪物がいる浅瀬へ…!」

オストガロア「Σ(▶皿◀ #)」

提督「くおらああああつ!! このイカ野郎!! うちの霞を大怪我させようとしやがつて!!
許さん!!」突撃

ググググ

提督「むっ、触腕を船に絡めて口へと近づけてきたか…その時を待ってたぜ!! 撃龍槍をくええ!!」カーンッ

第二イサナ号へマカセトケ!! 撃龍槍発射!

オストガロア「Σ(▶皿◀;)」怯み

提督「どうだ! もつとバリスタを撃ち込んで…」

オストガロア「(▶皿◀ #)」触腕で投げ飛ばす

提督「おおおおっ!？」

ズズウウン!!

第二イサナ号くウチアゲラレチマツタゼ

提督「いつつつ…」

戦艦艦装型艦首(右)「(▽皿▽)」オオオオツ…!!

オストガロア「(#▶皿◀)」ギユオオオオオオツ!!

装甲空母艦装型艦首(左)「(□皿□)」オオオオツ…!!

提督「へっ…こっちの方がやりやすいつてか？そうは問屋が卸さねえぜ!!」つ輝王剣
 リオレウス

装甲空母艦装型艦首「三（□皿□）」突撃

提督「うおっ!!ガードっ!!」大剣ガード

戦艦艦装型艦首「（▽皿▽）」カチツカチツ

提督「いや、ちよ、火花…!？」

戦艦艦装型艦首「（▽皿▽）三〇三〇三〇」爆炎火球プレス

提督「うそ?!ちよつと待てええええつ!？」回避

装甲空母艦装型艦首「三（□皿□）」足下から突撃

提督「足下から!?!あぶねっ!？」回避

装甲空母艦装型艦首「（□皿□）三三三」青色粘液プレス

提督「おと…いい加減にしやがれっ!!」溜め斬り

戦艦艦装型艦首「三（▽皿▽）」触腕薙ぎ払い

提督「くう…っ!!」ガード

装甲空母艦装型艦首「（□皿□）」カチツカチツカチツ

提督「こ、今度はそっちか!何が来るんだ…」

装甲空母艦装型艦首「(□皿□)・…・…」粉塵爆発

提督「うおおっ!?!んなのありかよおっ!?!」…・…(ε。ε)。(

戦艦艦装型艦首「○三○三○三(▽皿▽)」爆炎火球ブレス

提督「ひえっ…ば、爆発するう…!!」チリチリ

装甲空母艦装型艦首「(□皿□)三」突撃

提督「うおつと、せいっ!!」抜刀溜め斬り

装甲空母艦装型艦首「Σ(□皿□)」怯み

戦艦艦装型艦首「(▽皿▽)三」突撃

提督「あ、やば…」

アール「ふんぬううっ!!」ガード

提督「アール!?!」

アール「おいこら!胸騒ぎがするってんなら先に言えよ!!つか、俺達も連れて来いっ

ての!!」つブラックフルガード

提督「いや、どうやってここへ!?!」

ベル「団長のイサナ号を借りて飛んできたよ」つ鯨牙のブリザギル

提督「ベル!?!って、団長来てたの!?!」

ベル「霞の事が気になりすぎて知らなかったんだね…ま、提督のおかげで艦娘達は助

かったよ」

ジン「…あれは古龍・オストガロア。本来ならば、捕食した生物の骨を纏っているが艦の残骸や深海棲艦の艤装を纏っている…特異個体、とでもいうべきか…」つ王牙刀【天威】

提督「ジン…あのイカ、やっぱり古龍だったんだな」

ジン「団長からの報告じや本体の口の周りから発している粘液ガスは自身のダメージにもなるし、発している個所は硬いと聞く」

提督「解く方法は？」

ジン「兎に角触腕を攻撃してダウンさせるしかないみたいだ…その前に」ゲンコツ

提督「あでっ!？」

ジン「お前は無理しすぎだ」ヤレヤレ

提督「す、すまない…」

ジン「…まあ、気持ちはわかるがな」

提督「ああ…皆、此奴を倒してこの海を救うぞ…!!」

ジン「…久々に武者震いがする」

アール「へへっ…この臨場感、千剣山で5人でダラ・アマデユラと戦った時以来だな

!!」

ベル「さあ…気合い入れていくよ!!」

―とある海域―

艦載機<デ>ンレイダヨー!

ヲ級「ヲツ!!ヲツ!!」(；；；；；；；；)

駆逐棲姫「うん…やっぱりあそこに現れたんだ…!!」

ヲ級「ヲっヲツ!!」(；；；；；；；；)

レ級「え?なんか鎧を着た人が4人でその怪物と戦ってる?」

空母棲姫「まだ観測する予定だったけど既に始まったみたいね…あつちはどうするつて?」

駆逐棲姫「すぐに駆けつけていくみたいですよ!!」

レ級「艦娘達がいるけど、どうするんだろう?」

ホッポ「みんなで助ける!!」フンス

レ級「ちよ、来るの速っ!」

重巡棲姫「ヴェア!!飛ばしてきた!!」フンス

空母棲姫「肝心の彼は速すぎて気絶してるわよ…」

戦艦棲姫「貴方の考えなら敵も味方も関係ないわよね…そうでしょ、ウィル」

触腕(右)「…!!」装甲破壊

アール「しゃああ!!壊してやったぜ!!」

提督「これならどうだ!」横薙ぎ

ジン「せいっ!!」気刃斬り

触腕(左)「…!!」装甲破壊

オストガロア「Σ(▶皿◀ #)」怯んで粘膜ガスが消える

ジン「奴の口の周りから出たガスが消えたぞ!」

アール「いくぜ!!タコ殴りにしてやる!!」

ベル「イカだけど…」

オストガロア「() (▶皿◀ #)」触腕を地面に潜らせる

提督「触腕を地面に潜らせたぞ!!気を付けるんだ!!」

ジン「む…足元が青く光って…」

バシユツ!!

ベル「あぶっ!」緊急回避

アール「うべっ!?!地面から青いビームが!」受け身

ジン「それは奴の粘液プレスだ!下手に回避行動すると周りの残骸がくつついて身動きができなくなるからな!」

提督「うおおおつ!! 気合いで避けて行くぜ!!」ダツシユ
 ベル「すごい…うまく避けてる」

提督「どっせい!!」抜刀斬り

アール「俺も続くぜー!!」斧モード叩き付け

オストガロア「(▶皿 ◀ #) 三」ヘッドバッド

提督「ぶべらっ!?」..:.(ε。(

アール「ぐへー!?」..:.(ε。(

ベル「二人とも、大丈夫!」つ【生命の粉塵】

提督「いてて…頭突きとかありなの…」

アール「くそ…イカの癖に…!」

ジン「今度は俺が行くぞ!!」抜刀気刃斬り

オストガロア「(▶皿 ◀ #) 三」ヘッドバッド

ジン「むんっ!!」ジャスト回避

ベル「こっちだ!!」鬼人化回転斬り

オストガロア「Σ (▶皿 ◀ #)」怯み

提督「いいぞ!!」

アール「他の触腕が出ていない間に…」

重巡艦装型艦首（右）「(@皿@)三」アークの足下から出現

アーク「言ってる傍からこれだよ!!」受け身

重巡艦装型艦首「三三三(@皿@)」回転青色粘液プレス

ベル「ヒエツ!!」回避

提督「この…危ないな!」抜刀斬り

水母艦装型艦首（左）「三(*皿*)」ベルの足下から出現

ベル「今度はこつちー!!」受け身

水母艦装型艦首「(*皿*)三三三」回転青色粘液プレス

ジン「こつちもか!」緊急回避

提督「あぶなっ!!」緊急回避

アーク「オラーっ!!」盾突き

水母艦装型艦首「(*皿*)三●三●三」ペツ

アーク「鉄の塊を吐いてきた!」

ベル「ちよつと待って!!あれはただの塊じゃない…」

バリツ!! バリツ!!

アーク「あばばばっ!!」麻痺

提督「ふ、フルフルの雷プレスみたいなやつかよー!!」麻痺

ジン「このっ…!!」桜花気刃斬

水母艦装型艦首「Σ（ *皿*）」怯み

ベル「二人とも!!今のうちに…!!」

重巡艦装型艦首「ヴェアアア（@皿@）アアアッ!!」バインドボイス

ベル「バインドボイスウウっ!!」（三）、ω）…:

ジン「うるさ…!!」（∩；∩、∩）

アール「うらーっ!!いい加減にしやがれ!」斧モード叩き付け

触腕（左）「…」装甲破壊

提督「こっちもお返しだ!!」溜め斬り

オストガロア「Σ（▶皿◀；）」怯み

重巡艦装型艦首「（ @皿@）」カラカラカラ・

ベル「右の触腕が振るわせてる!?!」

ジン「くるぞ!!気を付けろ!!」

重巡艦装型艦首「（ @皿@）三〇」ソニックブラスト

ベル「ぐえー!?!」〇。3。)…:

アール「こいつ、なんでもありかよっ!?!」

触腕（左）「…!!」拘束攻撃

ジン「なっ…!?!」拘束

提督「ジン!?あのイカ…捕食する気か!?!」

アール「ウソだろ!?!団長の情報じゃ拘束攻撃はしてこないはずなのに…!!」

ベル「違う…あのオストガロアは異常すぎるんだよ…!!」

提督「急いでジンを助けるぞ!!」

オストガロア「(▶皿◀ #)「口を近づけていく

ジン「このっ…!!流石にこれはやばい!!死ぬ!!」ジタバタ

提督「おらーっ!!ジンを放せ!!」溜め斬り

アール「この!!スタンしやがれ!」高出力属性解放斬り

重巡艦装型艦首「三(@皿@)」触腕薙ぎ払い

ベル&アール「ぶっ!?!」||○○。3。)……

ジン「くっ…!!」ジタバタ

オストガロア「(▶皿◀ #)「口を大きく開く

三〇 ヒューン…

オストガロア「Σ(▶皿◀ ;)」怯み

触腕(左)「:~!?!」怯み

ジン「た、助かった…!!」解放

ベル「今のは火球…？」

提督「こつちに飛んできてるのはリオレウス…まさか!!」

コタロウ「三（#、㇗）」「グオオオツ!!」

弥生「司令官、ジンさん、ベルさん、アーロさん!! 私も戦う…!!」ライド

アーロ「弥生、コタロウ!!」

提督「し、しかし…あの古龍は危険すぎる…」

弥生「私はまだライダーの端くれだけど…司令官達を、皆を守りたい…!!」

コタロウ「（#、㇗）」「グルルル…」

アーロ「こ、コタロウ、怒るなって」アセアセ

提督「…分かった。だが危険になったらお前達を無理やりでもモドリ玉で退避させるからな…無茶だけはしないでくれ」

弥生「司令官…ありがとうございます! コタロウ、いくよ!!」

コタロウ「三（#、㇗）」「飛翔

提督「…弥生、ありがとう」

ジン「弥生も成長したな…」

オストガロア「()▶皿◀ #」ギョオオオオ…!!

弥生「司令官達を、皆を食べようとしたなんて…弥生、怒ってるんだから…!!お願い、コタロウ!!」

コタロウ「(#、∩、)三〇三〇三〇」火球ブレス

オストガロア「Σ(▶皿◀ #)」hit!!

重巡艦装型艦首「三三三三(@皿@)」青色粘液ブレス

コタロウ「三(、へ、)」回避

弥生「いいよコタロウ…司令官達を援護して!」

アーロ「このイカ野郎!!お前の相手は俺達だつての!!」盾突き

提督「あの子達には指一本触れさせんぞ!!」溜め斬り

触腕(右)「:!?」装甲破壊

ジン「これもおまけだ!!」大回転気刃斬り

触腕(左)「:!?」怯み

オストガロア「Σ(▶皿◀;)」怯み

アーロ「まだダウンしない…かなりしぶとい野郎だ」

ジン「…まだ大きな一撃を与えられてないからな…」

霞『司令官!!聞こえる!?!』

提督「か、霞!?安全な場所へ撤退したんじゃ…!?」

霞『司令官達が必死に戦ってるのに尻尾巻いて逃げるもんですか!全艦隊、司令官達を支援するわよ!!』

元帥『クロードくん、我々も戦うぞ!』

孫娘提督『あんた達ばかり危険な目に遭わせるものかっつての!今助けるから待ってなさい!!』

提督「げ、元帥殿に孫娘提督殿!」

孫市提督『今から支援射撃をする…!!』

アーク「支援射撃ってもしかして…」

元帥「全艦隊、砲撃用意!!標的、『骸龍』オストガロア!!」

孫娘提督「大和!!あのイカに全弾ぶちまけちゃって!!」

大和「任せてください!!ありったけの砲弾を当てます!!」

霞「いい?これでもかってぐらい撃ちまくるわよ!!」

金剛「Yes!!目に物見せてやりマース!!」

長門「私達が提督達を助ける番だ:気合いを入れる!!」

天龍「よ、よっしやあ!!もう何も怖くねえ!!」

アール「す、すっげえ数の砲弾が!!」

ジン「撃龍槍並みにすごいな…」

孫娘提督「まだまだ!! 今度は全空母の艦載機爆撃よ!!」

瑞鶴「ジンさん…今助けるからね!」艦載機発艦!!

赤城「一航戦の誇りに賭けて…提督達をお助けします!!」艦載機発艦!!

加賀「鎧袖一触…必ずお助けします…」艦載機発艦!!

龍驤「あのイカ怖いけど…提督達を助けるためならかまへんで!!」艦載機発艦!!

大鳳「艦載機の皆…お願い!!」艦載機発艦!!

艦載機達へオレガ…オレタチガ、艦載機ダツ!! バババババツ

弥生「コタロウ、私達も…!!」

コタロウ「(#、ㇿ)三●」爆炎火球ブレス

オストガロア「(()皿◀ ;)」critical!!

提督「こ、これは凄い数の爆撃だ…!?!」

ジン「手応えはあるぞ…!!」

オストガロア「(() ▶皿 ◀ ; () 」 ダウン

ベル「おおっ!? ダウンしたよ!!」

霞『司令官、今よ!!』

提督「ああ…霞、皆!! ありがとう!!」

ジン「奴の背中にある、この虹色の部位が弱点だ!!」 桜花気刃斬

アーロ「思いつきりブツ叩くぞ!!」 エネルギーブレイド

ベル「いけいけいけえええつ!!」 獣宿し【牙狼】

提督「うおりやああつ!!」 震怒竜怨斬

オストガロア「(▶皿 ◀ #)」 ギュオオオオツ!!

提督達「あーれー」 振り落とされる

ジン「霞達のおかげでだいぶ攻撃できたぞ…」

アーロ「っしやあ!! この調子なら…」

戦艦艀装型艦首(右)「(▽皿▽)」 赤いオーラ

オストガロア「(▶皿 ◀ #)」 口の周りから龍属性エネルギー

空母艦装型艦首（左）「(◇皿◇)」赤いオーラ

提督「…口から洩れるほどのすごい龍属性エネルギーが出てる…」

ベル「…あれはまずい。奴を止めないと！」

団長『クロード!!聞こえてるか!?!』

提督「団長!?!」

団長『奴の口から龍属性エネルギーが出ている時は『瘴龍ブレス』という強力な龍属性のブレスを吐く前触れだ!!』

提督「しよ、瘴龍ブレス!?!」

団長『あのダラ・アマデユラが吐くブレスと同じくらいの威力を持つ!!絶対にブレスを発射させてはならんぞ』

アーク「マジで!?!あのイカがそんなヤバイの発射するのか!?!」

団長『チャージするまで時間がある!!その間に止めるんだ!!』

提督「わ、分かりました!!みんな、止めるぞ!!」ダッ

アーク「撃たせてなるものかってんだ!!」ダッ

空母艦装型艦首「三三(◇皿◇)」龍属性ブレス

提督「うわっ!?!」回避

ジン「触腕からも撃つのか!?!」回避

戦艦艦装型艦首「三三(▽皿▽)」龍属性プレス

オストガロア「()」(▶皿◀ #)「チリチリ

ベル「くつ…これじゃ近づけない…!!」

アール「あの野郎、わざと逃げてやがる…!!」

弥生「時間を稼ぐつもり…だったら!!コタロウいくよ!」

コタロウ「三(#、皿)」空襲キック

オストガロア「(▶皿◀ #)(「へッドバッド

コタロウ「Σ(、皿)」回避

弥生「あ、危なかつ(r y)」

空母艦装型艦首「三三三(◇皿◇)」回転龍属性プレス

コタロウ「(；、皿)(三)弥生を庇うように被弾、墜落

弥生「ううっ?!コタロウ…!!」

戦艦艦装型艦首「(▽皿▽)三」突撃

アール「うおらあああ!やらせはせんぞ!!」ガード

弥生「アールさん…!!」

コタロウ「Σ(；、皿)」

アール「これを使え…!!」つ秘薬、ウチケシの実

ジン「この野郎…!!」袈裟斬り

空母艦装型艦首「(◇皿◇)三三三三」龍属性ブレス

ベル「うおわっ!?!」ジャスト回避

提督「せいやっ!!」溜め斬り

オストガロア「(＃▶皿◀)へッドバッド

提督「ぐぬっ!?!」(♯, ♯)

アール「この…なかなかしぶとい!!」

ベル「奴が撃つ前に何としても止めないと…」

戦艦艦装型艦首「(◇▽皿▽)」オオオオツ…!!

空母艦装型艦首「(◇◇皿◇)」オオオオツ…!!

ベル「な、なんだ? 触腕から赤いオーラが消えた…!?!」

ジン「違う…!! 消えたんじゃない、龍属性エネルギーを一か所に集中させたんだ…!!」

オストガロア「オオオオ(▶皿◀)オオオツ!!」バリバリバリ…!!

アール「ちよ、チャージが早すぎ!?!」

コタロウ「三(;、へ)」弥生を乗せて飛ぶ

提督「みんな、逃げろおおっ!!」

オストガロア「?????逃げておおっ!!」

「▶皿◀」#」瘴龍ブレス

団長「いかん！皆避けるんだ!! 瘴龍プレスがくるぞ!!」

元帥「全艦隊、回避!!」

ゴオオオツ!!

孫娘提督「ひゃああっ!?!」

元帥「くううつ…掠めただけでもなんとという威力だ!?!」

長門「ううつ…!?!」

霞「きゃああっ!?!」

団長「く…み、皆無事か!?!」

孫市提督「ううつ…艦だけじゃない…艦娘達全員が…やられるなんて…化け物め…!!」

提督「霞…霞!! みんな、無事か!?!」

霞『え、ええ…ご、轟沈だけは全員免れたわ…』

長門『…提督達がかくれたお守りのおかげだ…』

天龍『いてて…つ、睡でもなめときや何とかなるぜ…!!』

提督「…畜生…畜生!! やりやがったな!!」 ダツ

ジン「クロード!!」

戦艦装型艦首「三三(▽皿▽)」龍属性プレス

アーロ「うおっ!?まだ撃てるのかよ!!」

提督「うおりやあああっ!!」抜刀斬り

空母装型艦首「Σ(◇皿◇)」怯み

提督「このおおおっ!!」横薙ぎ

オストガロア「(▶皿▶)#()」ヘッドバッド

提督「ぐおっ!!」()、()、()

オストガロア「ギユオオオオ(▶皿▶)#」オオオツ!!」バリバリバリ!!

ジン「なに!?二発目だと!」

ベル「次が来たら皆危ない…皆逃げて!!」

提督「やめろおおおおおおっ!!」

ヒューン・・・●三●三●三●三●三

オストガロア「Σ((▶皿▶);)(()」critical!!

提督「な、なんだ!?一斉掃射!」

ジン「どこからだ…!」

大和「提督!!向こうから…:深海棲艦の艦隊が…!!」

孫娘提督「し、深海棲艦の!？」

長門「しかもあれは…:姫級、鬼級の深海棲艦ばかりだ!!」

元帥「くっ…:なんでこんな時に…:!!」

天龍「どうする?玉砕覚悟で戦うか…:？」

金剛「Yes…:提督達の邪魔をさせませんヨ…:!!」

霞「…:待つて。様子がおかしいわ…:」

ホツポ「…:」ノシ

初月「手を振ってる…:？」

加賀「どの艦も敵意が見られない…:」

瑞鶴「わっ、こっちきた!？」

ホツポ「大丈夫!みんな助ける!!」フンス

霞「た、助ける…:!?ど、どういうこと」

戦艦水鬼「言葉通りだ…:お前達を助ける」

天龍「て、敵艦の言葉を信じられるかよ…:!!」

防空棲姫「頭が固いわねえ…:私達はあんた達と戦う気はないし、ただ深海棲艦の眠る

場所を取り戻すためにあのイカと戦うだけよ」

長門「深海棲艦の眠る場所……？」

ヲ級「ヲっヲツ!!」

赤城「え？クロード達が一生懸命に戦ってるんだから私達も一緒に戦う、ですか？」

レ級「ヲ級の言葉わかるのかよ!？」

霞「ちよ、ちよつと待って!今、クロードって……なんで私達の司令官の名前を知ってるの……？」

戦艦棲姫「うふふ……それはね。クロードさん達が貴女達を導いたように私達を導いてくれた人がいるのよ」ニコニコ

ベル「ちよ、誰かこつちに来るよ!？」

アーロ「……あれ？あのシルエツト……見覚えがあるぞ!!」

ジン「奇遇だな……俺もだ」

提督「……」

??「よし、重巡棲姫。ここらでいいぜ。ありがとな」ナデナデ

重巡棲姫「ヴェア!!私も、一緒に戦う!」フンス

?? 「それよりも先に…艦娘達を助けてやってくれや」

重巡棲姫 「うん！頑張る!!」 ダツ

提督 「…お前は…」

ウイル 「よっ、久しぶりだな！」

提督&アール&ジン 「」

ベル 「う…ウイル!!」

ウイル 「へへへ…心配かけたな。長い事漂流しちまってさ…」

ベル 「そんなことないさ！無事で…無事でよかった!!」 ウルウル

ウイル 「ベル、みずくせーよ…さ、クロード、ジン、アール。あのイカの化け物を倒してあの子達の故郷を、この海を救おうぜ!!」

アール 「どっせい!!」 ドロップキック

ウイル 「バワツ!?!」 () 。

ベル 「…え」

ジン 「ふん!!」 デンプシーロール

ウイル 「あべしっ!?!」 . . . () ε ()

ベル「…ちよ」

提督「うおらあああああつ!!」シヨールリユーケーン

ウイル「ひ、ひでぶうううつ!」(#), 3, ; ; ; ; ; ケーオー!!

ベル「えええええつ!」

1 1 2 暁の水平線に

ウイル「チーン

ベル「ちよ、ちよつと!?何してんの!」

アール「何ってそりやあ…」

ジン「挨拶だけど?」

ベル「あ、挨拶って…ウイル、大丈夫か!」

ウイル「おうふ…三途の川が見えかけたぜ…っていきなり何しやがるんだ!」

アール「そりやおめえ…連絡も入れずによく生きてやがったなあ」

ジン「どうせ見知らぬ土地へ流れ着いて冒険していたんだろう?後はハチミツ探し」

ウイル「ぎくつ…」(…ω…)

ジン「それと…心配かけさせた罰だ」

アール「一番謝らなきやならねえ奴を忘れてんじやねえよ」

ウイル「あ…」

提督「…ウイル」

ウイル「く、クロード…その、心配かけちまったな」

提督「馬鹿野郎!! 皆にどれだけ心配させたと思っていやがる!!」 プンスカ
 ウイル「……」

提督「……けど、よく生きててくれた。ありがとうな、ウイル」

ウイル「クロード……」

提督「さ、湿っぽいのはもう終わりだ。何年ぶりにみんなが揃った事か……切り抜けるぞ」

ウイル「……ああ、ダラ・アマデユラ、ゴグマジオスの時の様に5人で力を合わせて、勝とうぜ!」

ジン「……今は負ける気がしない」

アーロ「へっ……腕は鈍っちゃいねえよな?」

ベル「この日をどんなに待ち望んでいたことか……!!」 ウルウル

戦艦装型艦首「(▽皿▽) オオオオツ……!!

オストガロア「(# ▶皿◀) ギユオオオオツ!!

空母装型艦首「(◇皿◇) オオオオツ……!!

提督「さあ行くぞ!!」 ダッ

空母装型艦首「(◇皿◇) 三●三●三」 爆撃攻撃

ベル「よいしょっ!!今の俺はさつきよりも強いぞー!!」ジャスト回避からの反撃
アール「おらああっ!!」斧モード叩き付け

触腕(左)「:!:」装甲破壊

戦艦艦装型艦首「(▽皿▽)三〇三〇三〇」爆炎火球ブレス

ジン「当たるものか!!」ジャスト回避からの気刃斬り

ウイル「さあ猟虫ちゃん、エキスを頼んだぜ!!」猟虫飛ばし

猟虫へムダムダムダーツ!! 噛みつき攻撃

ウイル「赤エキスゲット!じゃんじゃん乗ってくぜ!!」ジャンプ攻撃

触腕右「:!:」装甲破壊

ウイル「:…あれ?」

ジン「:…こいつ乗れないぞ」

ウイル「ええっ!」

アール「ざまあw」m9(へ皿へ)

ウイル「ああ?やんのかコラ」

ベル「ほらほら、喧嘩しないの」

提督「せいやっ!!」抜刀斬り

オストガロア「(▶皿◀;)」怯み

ジン「いいぞ!! 攻め手を緩めるな!」 大回転気刃斬り

触腕(両腕)「…!!」 触腕叩き付け

ウイル「よいさ!」 イナシ

アール「ふんぬ!!」 ガード

弥生「…コタロウ、私達もいくよ!」

コタロウ「(#、皿) 三●」 火球プレス

触腕(右)「:!:」 *critical!*

ウイル「おおっ!? あの子…ライダーか!?!」

アール「おうよ、未来の『我らの団』のライダーだぜ」

ウイル「いいな… ホツポも欲しがりそうだ」

ジン「弥生…後は任せておけ!」

オストガロア「(皿皿皿) ヘッドバッド

提督「あぶね」 絶対回避

オストガロア「ギユオオオオ (皿皿皿) オオオツ!!」 激昂

ウイル「うおっ!? あのカ、赤い瘴気が溢れ出てるぞ!?!」

ジン「また龍属性エネルギーを溜め込んでいる…」

アール「次は瘴龍プレスを吐かせませんぜ!!」

装甲空母艦装型艦首（右）「□皿□」オオオオツ…!!

雷巡艦装型艦首（左）「◎皿◎」オオオオツ…!!

ウイル「中枢棲姫が言つてた通り、喰つた深海棲艦の艦装を纏つてやがる…許せん!!」
 ベル「気を付けて！龍属性ブレスの他に他の属性攻撃をしてくるから!!」

雷巡艦装型艦首「〇三三三（◎皿◎）」薙ぎ払い雷ブレス

ウイル「あばす!?マジでか!?」三）、ω。）…:

アール「だから言つたらろ！」

装甲空母艦装型艦首「□皿□」三」叩き付け攻撃

ジン「ぬ…!!」ジャスト回避

提督「なんの!!」ガード

ベル「とりやあつ!!」鬼人化乱舞

雷巡艦装型艦首「三（◎皿◎）」突撃

アール「ぶべつ!?」受け身

ウイル「このつ!!」叩き斬り

雷巡艦装型艦首「三三三（◎皿◎）」龍属性ブレス

提督「おおっ!?!」緊急回避

ウイル「なんのつ!!」イナシからの蟲纏い

装甲空母艦装型艦首「三三三(□皿□)」薙ぎ払い龍属性ブレス
 ウイル「ふん!!」ジャンプ攻撃で躲して攻撃

雷巡艦装型艦首「(◎皿◎)三三三」龍属性ブレス

ベル「ぶっ?!」(。皿)。。。:

提督「ベル!!」

ベル「俺は大丈夫。。。早くブレスを止めるんだ!!」

オストガロア「ギユオオオオ(▶皿◀#)オオオッ!!」バリバリバリ

提督「!!撃たせるものか!!」

ジン「本体に向かって走るぞ!!」ダッシュ

提督「おう!!」

装甲空母艦装型艦首「。。。:(□皿□)」粉塵爆発

ウイル「とーう!!」イナシ

アール「なんとー!!」絶対回避

オストガロア「(▶皿◀#)三三」ヘッドバッド

ジン「ぐっ。。。!!い、今だ!!」(。皿)。。。:

アール「これをくらいやがれ!!」超高出力属性解放斬り

提督「どっせええええい!!」超溜め斬り

元帥「凄い光景だ…まさか深海棲艦が我々を助け、そして共に戦うなんて…」
中枢棲姫「私達の様な一部だけど…あの人やウイルのように、同情とか哀れみじやない、本当の優しさで私達を導いてくれた人がいてくれたからよ…」

元帥「君は…」

中枢棲姫「うふふ、今は海を守るという同じ目的がある。一緒に彼らを助けましょ」

元帥「ああ…そうだな！まだ撃てる砲台はあるか!!あるなら砲撃用意をするんだ!!」

ホツポ「ねえ、まだいける？」クビカシゲ

霞「え…?」

ホツポ「まだいけるなら、一緒に戦う！」フンス

霞「…当たり前じゃない。まだ戦える！」

長門「そうだ…まだ提督達は戦ってる!!」

金剛「Yes!!こんな所でへこたれてる場合じゃないデース!!」

戦艦棲姫「ふふ、クロードさんの艦隊もなかなかね」ニコニコ

空母棲姫「ほんと…敵として戦わなくてよかったわ」ホツ

駆逐棲姫「皆、強そう…!!」

霞「さあ行くわよ!!」ジャキンツ

重巡棲姫「ヴェア!!一気に撃つ!!」

ホッポ「全砲門、いって!!」

艦娘&深海棲艦達へうおおおおお!! ドドドドドーン!!

オストガロア「(((皿< ;))) critical!!」

ウイル「皆、ナイス支援だぜ!!」グツド!

ジン「深海棲艦達も加わると凄い弾数だな…」

オストガロア「(皿< ;)」ヨロヨロ…

提督「もう一息だ!! 一気に畳み掛けるぞ!!」

ベル「いっけえええつ!!」鬼人化回転斬り

ジン「…斬る!!」桜花気刃斬

アール「どりやああああつ!!」エネルギーブレイド

ウイル「これでどうだあああ!!」飛翔蟲斬破

提督「これで終わりだあああつ!!」震怒竜怨斬

ズバンツ

オストガロア「ギユオオオ…ツ!!」ズウウン!!

アール&ウイル「やったか!?!」

オストガロア「ギユオオオ…」バリバリ…

ベル「ちよ、もしかして瘴龍ブレスを撃つつもりか!？」
 \ボンツ!!／

触腕(右)「:!?」部位で爆発

オストガロア「((▶ 皿 ◀ ;))」各部位が爆発を起こす

触腕(左)「:!?」部位で爆発

ウイル「な、なんだ!?!どんどん体の部位で爆発が起きてるぞ!？」

ジン「溜め込んだ龍属性エネルギーの制御ができなくなつて暴走している…」

提督「:今まで人を、生物を、深海棲艦達を食べつくし続けてきた代償が今、返つて来たんだ…」

オストガロア「オオオオツ…!!」

バシユーン!! 空へ向けて瘴龍ブレスが放たれる

オストガロア「ズウウウン!!

アール「:空が晴れてく:てかもう夜明けか…!!」

ベル「:遂に:遂に、倒したんだね…!!」ウルウル

ジン「……」無言で夜明けを眺める

ウイル「……クロード、俺達の……勝ちだな……!!」

提督「……ああ」

＼シレイカーン……!!／

提督「ん？あれは……」

霞「司令官……司令官……!!」ダッ

提督「霞……!!」

ウイル「……ほら、行つて来いよ」トン

提督「ウイル……ありがとう」

霞「司令官!!」ギユッ

提督「霞……ただいま」ギユッ

霞「司令官……お帰りなさい……グスツ……無事で、無事で……良かった……!!」強く抱きしめる

提督「……なあ、霞」

霞「な、なあに、司令官……？」

提督「……愛してる」強く抱きしめる

霞「ぼつ…タ、タイミングおかしいったら!!もうこのバカ!!ほんと…ほんとに大好き
なんだからあああ!!」ウワーン

提督「ふふふ…よしよし…」ナデナデ

アーロ「へへっ…ちよつと涙ぐんできちまったぜ…」ズズツ

ベル「うわああん!!ほんと、ほんとによ。がつ。だ!!」(ノド、)ウワーン

ジン「…ウイル、よく来てくれた」

ウイル「ああ…やつと、やつと…会えて嬉しかったぜ」

元帥「…皆、よく頑張った…我々の勝利だ!!」

ウオオオオオオツ!!

孫娘提督「パパ……」

孫市提督「……ん？どうしたんだい……？」

孫娘提督「……ママの……グスツ……ママの敵を取れて……ヒグツ……よかった……!!」グスツ
孫市提督「ああ……これで終わったんだ……!!」優しく抱きしめる

中樞棲姫「……元帥さん、本当にありがとう。私達だけじゃ、あれは倒せなかったわ……」

元帥「いや……こちらこそ感謝している……まさか君達が助けてくれるなんてな」

中樞棲姫「全てはウイルスがいてくれたから、手を取ることができた……そして、これでやつとあの子達も眠りにつけるわ……」

元帥「あの子達……？」

兵士「げ、元帥殿!!多方面から大勢の深海棲艦が……!!」

元帥「!!な、なんだ……?!あちこちから大量の深海棲艦が!?!」

中樞棲姫「大丈夫よ。あの子達にもう戦う気はないわ。ただ……眠りにつくだけよ」

元帥「ほ、本当だ……皆、こちらに構わず、ただ海へと潜っていく……」

中樞棲姫「やつと故郷を取り戻せて、水底で平穏に眠れることができるの……」

団長「そうか……あの子達の故郷はオストガロアに奪われていたのだな……そしてやつと

長門「流石は…私達の提督だな！」

鹿島「うわあああん!! ベルさああん!!」抱きしめる
ベル「鹿島…!! ただいま…!!」抱きしめる

五月雨「皆さんホントご無事で…よかったですううっ!!」号泣

瑞鶴「ジンさん…心配したんだからね！」ウルウル

ジン「…ありがとな」ナデナデ

加賀「無茶しすぎです…でも、ご無事で」

龍驤「ほんと肝っ玉冷えたんやかならな!!」

初月「アーロさん…僕は…僕はちゃんと守れたかな…？」ウルウル

アーロ「ああ! よく頑張ったな…!!」ナデナデ

皐月「弥生!! コタロウ!! 二人ともかっこよかったよ!!」

北上「ほんと、よく頑張ったよー」

弥生「うん…コタロウ、ありがとう」ナデナデ

コタロウ「(、ω、)」クルル

ウイル「ほんと、お前等愛されてんなー」ニヤニヤ

長波「うわっ!?! 妖怪ハチミツヨコセ!?!」

ウイル「なんじゃそりゃ!?!」

木曾「し、深海棲艦がぞろぞろといる…!？」

大井「大丈夫よ。あの人達はウイルさんの艦隊で、敵じゃないわ」

黒丸「ウイルの旦那!!生きていたんだニヤ!!」

ホッポ「すごい!!猫がしゃべった!」

駆逐水鬼「しかも二足歩行だ…!!」

チャチャ「こんなに沢山…大所帯だツチャ!!」

南方棲鬼「カワイイ小人さんもいるわね…」

戦艦水鬼「しかし、いいのか?私達もここに来てて」

団長「はっはっは!!ウイルと一緒にいるんだ。遠慮はいらんぞ!!」

アーロ「いや団長さんが仕切らなくても…」

提督「別に気にしなくて大丈夫。貴女達のおかげでウイルに会えたんだ。本当に感謝をしている」ペコリ

戦艦棲姫「あらあら、ほんとに素敵な方ね」ウフフ

霞「…」ジトー

提督「さあ!今宵は暁の水平線に勝利を刻んだこととウイルの再会のお祝いだ!!みんなのおかげでここまでこれた…本当に、ありがとう!!今日は大いに祝い、大いに喜びあい、えーと…」

ジン「ちゃんと台詞を整えとけ」

アール「m9（ハハ）」

ウイル「なんで肝心の所が締まらないんだよ!？」

ベル「ほら、皆待ってるよ」

提督「お、おっほん!! 兎に角、皆ありがとう!! 乾杯っ!!」

全員「かんぱーい!!」

団長「うますぎるっ!!」

那智「今宵の祝杯は味が違うな!」

空母棲姫「あら、よく飲むわね」

龍驤「結局、うちらも巻き込まれるんやな…」遠い目

高雄「ば、バカめといってやりますう〜」もう酔った

ジン「…」静かに飲む

瑞鶴「ジンさん、一緒にどう?」

ジン「ん。ありがとな…」

重巡棲姫「にく!! 肉!!」(*、ω、)

赤城「すごい食べっぷりね…これは負けられないわ!!」

加賀「赤城さん、そこ張り合わなくていいです…」

ホツポ「ウイル!! こんなにハチミツが…!!」キラキラ

ウイル「おお…!! は、ハチミツが、ハチミツにありつけるぞー!!」キラキラ

プリンツ「やつぱり妖怪ハチミツヨコセなんだ…!!」

戦艦水鬼「いや違うって」

那珂「一緒にデュエットとかどう…?」キリッ

軽巡棲鬼「!?これは大ヒットの予感…!!」

天龍「やめとけて」

リコリス棲姫「あら? 貴方もイケメンね!」グイッ

ベル「いや、あのー…」

鹿島「…譲りません」グイッ

ベル「ちよ、鹿島さん!? 酔ってるよね!」

利根「いやー、アマイノー」

龍田「あら?」

足柄「? どうかしたの?」

龍田「提督がいらっしゃらないわねー」キョロキョロ

i n 執務室

提督「……」ガサゴソ

霞「司令官、なにしているの？」

提督「ふあっ!?か、霞か……」ホッ

霞「皆はどんちやん騒ぎなのに、1人でここそと何をしているのかしら？」ジト

提督「……え、えーと……霞に渡したいものがありゆ」噛んだ

霞「(噛んだ……) 私に渡したいもの？」

提督「……霞、お前には本当に心から感謝している」

霞「？」

提督「……あの時から、ずっと、ずっと……会いたかったと思っていたし、そしてどんな時も傍で支えてくれて本当に嬉しかった。」

霞「し、司令官？スツゴイ真剣な様子ね……」アセアセ

提督「その感謝の気持ちと、霞への告白として……これを受け取ってほしい」つ小箱

霞「!?黒い小箱……そ、それってもしかして……」

提督「団長に頼んで取り寄せて作ってもらった…絆石で作ったケツコン指輪だ。霞…
愛してる」プルプル

霞「…も、もうバカー!! 肝心なところでガクブルしてどうするのよー!!」

提督「Σ(; 旦、)」

霞「ほんと、ほんとうに…嬉しくて、涙が、涙が止まらない…!!」大泣き

提督「その…受け取ってくれるか？」

霞「…もちろんよ…!! 司令官の事、愛してる…!!」

提督「そつか…ありがとうな」ニッコリ

i n 執務室扉前

団長「ふ……頼み事は明日にするか」ニヤニヤ

エピソード

暁の水平線のその先へ

i n 執務室

アーロ「昨夜はお楽しみでしたね」ニッコリ

提督&霞「ブツ!？」

アーロ「あ?どうかしたのか?昨日のお祝いは楽しかっただろ?」クビカシゲ

大井「あんたは空気を読めやあああつ!!」ラリアット

アーロ「なんでええつ!?!」..:.(ε。)()

提督「:::」アセアセ

霞「:::」アセアセ

ジン「?」

ベル「でも団長もずるいですよ:::その希少種の島を見つけたのがウイルだったなんて早く教えてくれていいじゃないですかー」

団長「はっはっは、ちよつとした悪戯さ。悪かったさ」ハツハツハ!!

ジン「まあ:::時が時だったからな:::」

提督「それで、ウイルはどうするんだ?」

ウイル「俺か？あー、なんか大本営から感謝状も来ててなー。是非ともその島で彼女たちの司令官になってくれって：俺にできるかな？」

ホツポ「ウイルならできる!!」フンス

戦艦棲姫「まあ味方になったのは私達一部の深海棲艦だから、静かに過ごしていくわよ」

戦艦水鬼「何かあったら、助けに行くから安心しておけ」ニッコリ

長門「ふ：助かる。今後ともよろしく頼む」

団長「ウイル、お前の書いた資料は王立学術院に提出してな：大変貴重な資料だという評価が出た」

ウイル「じゃ、じゃああの島は：：!!」

団長「うむ、後に師匠殿が観察しに行く。話では保護区に登録するとの事だ」

ウイル「ほ、本当ですか！や、やったぞホツポ!!あの島はもう大丈夫だ!」

ホツポ「ホント！タノシイウミになるんだね!」

団長「後はウイルにその島の観測を任せるとのことだぞ。しつかりやるんだ」

ウイル「まっかせてくださいよ!!」

提督「ふ、よかつたなウイル」

鹿島「：あれ？じゃあ団長は頼み事があるって聞きましたけど：島の事じゃないんで

すか？」

団長「ああ：最初は島の調査を頼もうかと思っただが、大丈夫そうだからもう一つの頼みを頼もうかと思っただが」

提督&ジン&ベル&アール「もう一つの頼み事？」

団長「クロード：お前達、少しの間こっちに戻ってきてくれないか？」

艦娘達「!？」

ベル「えっ!?!ええっ!?!」

提督「い、一体どういう事ですか!?!」

団長「実は：こつちの方で少し厄介な事件が起きている」

ジン「厄介な事件？」

団長「天を駆ける彗星の古龍：『天彗龍・バルファルク』という古龍を知っているな?」

提督「え、ええ：彗星の様に速く空を飛ぶところしか目撃されていないことと、伝承でしか伝わっていない古龍ですね」

川内「天『彗』龍：」チラッ

天龍「おい、何でこっちを見る」

アール「その…バルファルコンがどうかしたんですか？」

初月「アールさん、『バルファルク』です」ヒソヒソ

団長「遺群嶺という超高高度の場所にしか生息されていなかったのだが…最近、各地に現れて荒らしまわっている。あまり確認されていなかった古龍なのでかなりの怪我人が出ていてな…そこでギルド本部、龍歴院はクロード達にも調査若しくは撃退、討伐依頼を出すとのことだ」

提督「でもどうして俺達を…？」

団長「ナバルデウス、アカムトルム、ウカムルバス、ミラボレアス、シャガルマガラ、ダラアマデユラ、ゴグマジオス…お前達はこれまでの活躍をしてきた。だからこそ、その困難を乗り越えてきた勇氣と力を見込んでの頼まれたんだ…」

提督「…バルファルクが地上に降りたということは何かあったのかもしれない。その調査も必要ですね…？」

団長「ああ…そうなるかもしれんな」

霞「し、司令官…？」

提督「よし…：わかりました。俺達の力が必要なら、行きましょう」
艦娘達「!？」

団長「…クロード、無理をしなくていい。他にもハンターはいるのだから断つてもいいんだぞ？」

提督「いや、これは行かなければならない…そんな気がします」

団長「そうか…ありがとう」

霞「司令官…」

提督「その代わり、お願いがあります」

団長「ん？なんだ？」

提督「…霞を連れてつてもいいですか？」

霞「ええっ!？」

提督「いつか霞に俺達の故郷を見せてあげたいと思つてましたからね。それに…」
チ
ラッ

団長「…？」チラッ

霞「…えっ？」薬指に指輪

団長「はっはっは!!そういう事なら構わないさ！」

金剛「ま、待つデース!!それでしたら、わ、私も連れてつてくださいーい!!」

天龍「お、俺も行ってみてえ!!」

長門「こら、それだと全員ついて来てしまう。イサナ号とてそんなにのることはでき

ないはずだ」

ビスマルク「アドミラル達について行きたい子を何人かに絞らなくちゃね」

アール「……」

団長「皆ついてきてもいい!!と言いたいのだが…鎮守府の事もあるからな。そこら辺は申し訳ない」

霞「それで団長、出立はいつですか?」

団長「ん?今日だけど?」

提督「今日!?!」

ウイル「団長、早すぎでしょ!?!なんでこう早く言わないんですか!?!」

団長「はっはっは、つい」テヘペロ

ベル「こうしちやいられない!!早く支度しなきゃ!!」ダツ

ジン「慌ただしくなるぞ…!!」ダツ

霞「ほら、司令官!さっさとしなさい!!」足蹴

提督「は、はいー!!」アセアセ

天龍「なんだろうな…提督が出ちやうつてのに、何故か寂しくねえ…」

長門「提督達は必ずここに帰って来るからな…私達が悲しんでは提督達は安心して行けなくなるだろ?」

五月雨「でも…やっぱり悲しいです…」ホロリ
アール「……」

i n 工 廠

ジン「ここは随分と迷惑かけたな」

明石「ホントですよ。指定の資材を使わず、見たこともない鉱石や素材を使って建造するんですから。どれだけ私の度肝を抜いたことか」ニガワライ

瑞鶴「ジンさん達よく怒られたもんねー」

ジン「しばらくは普通の建造ができるようになるから安心か?」

明石「ふふふ、ビックリできなくなるのが少し寂しくなりますね」ヨッコラセ

夕張「あ、あれ? 明石さん? その荷物は…?」

明石「え? 団長に頼んで私も一緒にすることにしたの。提督達の故郷の技術にはとても興味あるからね!」ニッコリ

夕張「え、つ!? ちよ、こ、工廠はどうするんですか!?!」

明石「オトモアイルーにも任せてるし…夕張、指揮は頼んだわよ?」ポーン
夕張「ええええつ!?!」

ジン「明石さんも来るのか…じゃ、夕張頼んだぞ」

瑞鶴「が、頑張つてね……」ニガワライ
夕張「あわわ……これは私がしつかりしなくっちゃ……!」

i n 中庭

弥生「アル、ペッコ、ムラサキ……いい子にしててね」ナデナデ

ペッコ&アルセルタス&ムラサキ「(；ω；)」クウ……

弥生「大丈夫。ここには帰つて来るから。だって私達の帰る場所だもん」ナデナデ

コタロウ「(、ω)」ペロペロ

弥生「ふふ、そうだねコタロウ。一緒に頑張ろう」

アーロ「おー、弥生……ここにいたんだな。お前も行くんだな」

弥生「アーロさん……私も団長さんや司令官達と一緒に行って、一人前のライダーになれるよう頑張ります」

アーロ「うんうん、弥生はいい子だな」ポンポン

コタロウ「(、ω)」クルル

アーロ「コタロウもいるし、大丈夫だな。そうだ、弥生。旅立つ前にお前にプレゼン
トだ」

弥生「私に、ですか？」クビカシゲ

アーロ「明石さんに頼んで手伝ってもらって、やっと完成したんだ。ほら」

弥生「これは…もしかして、防具一式…!」

アーロ「タマミツネやチャナガブルの素材を使って睦月型の制服っぽく作るの大変だったんだぜー。あつちじゃしつかりした防具じゃないと怪我するからな…弥生、団長達と一緒に多くの事を見て、学んで、強くなるんだぞ」

弥生「…!!」ポロポロ

コタロウ「Σ(; 旦、)」

アーロ「やよっ…?!い、嫌だったか…?」アセアセ

弥生「いいえ…すみません、嬉しくて…思わず泣いちゃいました…」エへへ

ホツポ「すごい…赤いれっぷーがかっこいい!!」キラキラ

ウイル「ホツポ。あれ、レツプーちゃう、レウスや」

ホツポ「ウイル、私もほしい!!」フンス

ウイル「…やらねば」遠い眼差し

in 廊下

ベル「えーと…ミケ、ブルー、他に必要な物はある?」アタフタ

ミケ「調査セットにそれぞれのアイテムbox、その他諸々…全部イサナ号に積み終

わったニヤ！」

ベル「やつと整理がついたね……」フー

鹿島「ベルさん、ご苦労様です」ウフフ

ベル「鹿島、手伝ってくれてありがとうね」

鹿島「うふふ、お安い御用です。それにしても……お部屋に色々とあつたのに、空っぽになると寂しくなりますね……」

ベル「初めてここに来て、色んな子達に出会って、どたばたしてたのが昨日の様だよ……」

鹿島「あの……ベルさん、私も一緒について行ってもいいのでしょうか？」

ベル「ん？当たり前じゃないか。鹿島に俺の故郷の海を見せてたいんだ。他にも提督達と一緒に冒険した場所を見せてあげたい」

鹿島「ベルさん……ありがとうございます……」ホロリ

ベル「かし（ry）」

島風「ぬいぬい、ずつるーい!!」ダツシユ

不知火「くじで決まったんですから、これは譲りません」竜妃砲を担いでダツシユ

時津風「そのくじをよこせー!!」ドロップキック

不知火「見切った……!!」フレーム回避

ベル「ぬわー!?」()、3。()…

鹿島「べ、ベルさああああん!？」

龍驤「いやー…こうもアマーイのがなくなるのは寂しいなあ」ニヤニヤ

愛宕「ベルさんが吹っ飛ばされるのも見納めねー」ニヤニヤ

in 執務室

元帥『団長から話は伺っていたが…君達と暫く会えなくなるのは寂しくなるな』

提督「申し訳ありません、まさかもう行かなきやなくなるのは正直ビックリして
ますから」ニガワライ

元帥『孫娘達もお前に感謝を伝えたいようだが…また帰ってきた時に会いに行つてくれないか』

提督「勿論ですとも。その時は宜しくお願い致します」

元帥『ふ…ではまたいつか』ガチャリ

提督「…ふー…しばらくは提督業はお休みだ」

霞「それでも私の、私達の司令官よ。それと、忘れ物はない?」

提督「大丈夫。あ、提督の服はどうするんだっけ?」

霞「うふふ、結局一度も着なかつたわねー」

提督「…うん、やっぱり黒炎王の装備がしっくりくるからね」

アール「提督、ここにいたか」

提督「アール、支度はできたのか？ミケ達からはアールだけ荷物の準備が出来てないって聞いたけど」

アール「あ…その事なんだけどさ…」 ポリポリ

霞「？何かあったの？」

アール「…：悪い。俺、ここに残るわ」

霞「ええっ!?アールさん、どうして!？」

アール「…団長にも話したんだけどさ、俺達が出てつたらこの子達が寂しくなるだろ？皆、内心悲しかったり寂しかったりするけど…それを見せないように振る舞うし。それに、俺はこの子達もこの街も、この海も大好きだから…」

霞「アールさん…」

提督「アール、止めはしないよ…この鎮守府の艦娘達をよろしく頼んだぞ」

アール「ああ、任せてくれ」

初月「アールさん…」 コツソリ

衣笠「アールさんがいてくれれば、心強いわね…」 コツソリ

加賀「…指導し甲斐があります」コッソリ

曙「クソ提督からアーロさんに…私もしっかりしなきゃ！」コッソリ

潮「あ、アーロさん…がんばって！」コッソリ

i n 母港

団長「皆、準備はできてるな？」

明石「大丈夫ですよー」

チャチャ「久々に団長殿と大冒険ツチャ!!」

カヤンバ「今度はバルフアルク…武者震いが止まらないンバ!!」

大井「木曾、忘れ物はない？ハンカチ持った？怪我した時の絆創膏は？あとそれと…」

アセアセ

北上「もー、大井っちは心配しすぎだよー」ニヤニヤ

木曾「姉さん、俺は大丈夫だよ。提督と一緒に冒険してくる」

球磨「木曾、しっかりやるクマ」ポンポン

赤城「瑞鶴、ジンさんをお願いね」ニコニコ

加賀「ジンさんの故郷に行けるからってあまり羽目を外さないようにするのよ」

瑞鶴「だ、大丈夫ですってば！ちゃんとしっかりするから!!」

飛龍「ヒューヒュー、熱いねー!!」

大鳳「瑞鶴さん、頑張ってくださいね!」

雪風「不知火姉さん、応援してます!!」

初霜「司令官達の故郷はどんな感じなのか教えてくださいね」ニコニコ

不知火「ええ、いつでも手紙を送るわ。それに、ハンターになれるよう腕を磨いていく」フンス

龍驤「鹿島さん、さつきからうれし泣きしすぎやでー」ニヤニヤ

鈴谷「鹿島ツち、お幸せにねー」ニヤニヤ

鹿島「も、もう!!茶化さないてくださいよー!!」

比叡「金剛お姉様!!比叡はいつでもどこでも365日、お姉様の事応援してますからね!」ウルウル

榛名「お姉様…榛名も、頑張ります!!」ウルウル

金剛「大丈夫デース…二人とも、しっかりアールさんをサポートしてくださいネ!」ウルウル

暁「ここ、コタロウ…いつでも待ってるからね!帰ってきたら遊ぼうね!」ウルウル

電「ま、待ってるのです!!」ウルル

電「ペッコちゃん達のお世話、私達に任せて!!」

コタロウ「(、ω、)」クルルル…

臯月「弥生…グスツ…頑張ってくるんだぞ!!」

ヴェールヌイ「ハラショー…弥生、応援してるからね」

弥生「うん…頑張る」

天龍「…」

龍田「天龍ちゃんも行きたかつたんでしょ?」

天龍「ほんとは行きたかつたさ。でも、アーロさんをしっかり支えてあげないと!」

二へへ

長門「…遠慮はいらないぞ。泣いてる子もいるからな」

天龍「…うわあああん!!俺も行きたかつたー!!提督、まだここに残っててくれよ!!」

大泣き

龍田「だいじょーぶよ。提督達はここに帰って来るから」ナデナデ

ウイル「つたく、折角会えたつてのにもう出ちまうつか?」ヤレヤレ

提督「ははは、すまないな。でも、いつでも会いに来いよ?」

ウイル「当つたり前だ。この鎮守府にも遊びに行くし、お前等にも会いに行くからな」

ホツポ「私達とも一緒に遊ぼうね!」フンス

重巡棲姫「ヴェア!!いつでもこい!!」フンス

提督「ははは、お手柔らかな」ナデナデ

ジン「…やっぱり寂しくなるな…」

川内「ジンさん、土産話とお土産、楽しみにしてるからね！」

高雄「こちらから、でも私達も待つてますからね」ニコニコ

ベル「五月雨、皆、ありがとうね」ナデナデ

五月雨「し、司令官達が帰つて来るの、待つてますからね！」ウルウル

ビスマルク「ベルさん…こちらこそ、本当にありがとう」ウルウル

提督「…アール、俺達がいけない間、鎮守府を頼んだぞ」グツ

アール「おう。俺に任せておきな！お前達が帰つて来るのをどっしりと待ち構えてや

るからな！！」グツ

霞「初月、アールさんのこと、頼んだわね」ポン

初月「うん。僕に任せておいて」

霞「さ、司令官、そろそろ出発よ」

提督「ああ…皆、行こう」

艦娘達「…！！」ジーッ

団長「さあ、出発だ！！イサナ号、発進！」

弥生「コタロウ、行くよ」ライド

コタロウ「C、w、C」飛翔

提督「…みんなー!!俺達は必ずここに帰って来るから!!だから…さよならじゃなくて、『いつてきます』!!」ノシ

艦娘達「!!…いつてらっしゃい!!」ノシ

天龍「うおおお!!提督!みんなー!!」ノシ

長門「提督!!待ってるからなあああつ!!」ノシ

大井「ジンさん、ベルさーん!!いつてらっしゃい!!」ノシ

加賀「…どうかご無事で」

五月雨「行つてらっしゃいですー!!」ノシ

アール「絶対に帰つて来いよおおつ!!」ノシ

ウイル「他の皆にもよろしくなあああつ!!」ノシ

ホツポ「またねー!!」ノシ

i n i サナ号

木曾「こんなに空高く飛んでる…」

不知火「…すこし、寂しいですね」

瑞鶴「鎮守府の皆…ずっと手を振ってるわね」ウルウル

明石「…皆、ほんとに世話好きね」ホロリ

金剛「絶対にletterを送りますからネ！」

鹿島「ヒグツ…な、涙が止まらないです…!!」大泣き

弥生「…コタロウ、ワクワクするね」ナデナデ

コタロウ「(、ω、) 三三、グオオオッ！」

霞「…司令官…」

提督「…心配するな。俺達の帰る場所でもあるんだ。必ず戻る」

ジン「…さあ、俺達も行こう」

ベル「まずは何処から行こうか？砂漠の海にククモ村、ポケ村にベルナにドンドル

マ…いろんな場所がある」

提督「それじゃあ…何処か行こう？」キョトーン

ジン&ベル「ズコー」

霞「ふふふ、司令官とならどこへでも」

団長「はっはっは!!風の吹くまま気の向くままってところかな！」

提督「…よし、まずはバルバレへ行こっか!!」

団長「うむ、そうと決まれば…いざ!!」

提督「さあ…今度はどんな冒険になるかな…!!」

◇1 新しい(?) 鎮守府

皆さん初めまして！私、ザラ級重巡洋艦、ザラです！大本營の指令でとある鎮守府へ着任することになりました！

汽車に乗り、飛行船に乗って、馬車に乗ってとえらく遠い場所にある鎮守府なのですが、噂によると先のイベント海域で巨大な怪物と戦い、一部の海に平穩を取り戻したという凄腕の提督達がいるとか…

ザラ「うふふ、とても楽しみだわ！」

街の人達もとても元気で、街から見える海の景色はコバルトブルーに輝く地中海を思い出します…その街から少し離れた場所にあるのが例の鎮守府です。ここでどんな艦隊生活を送れるか楽しみです!! 精一杯頑張らないと…!

ザラ「よし、頑張るわ!!」フンス

ムラサキ「() (V) (o?o) (V)」

ザラ「() (V) 。

…あれ?なんか鎮守府門のあたりに大きな紫の蟹がいたような…うん、気のせいよね? 緊張しすぎてつい幻覚が見えただけよね?

電「ただいまなのです！」

天龍「おう、おかえり。ムラサキ、散歩は楽しかったか？」ナデナデ

ムラサキ「(V)(o?o)(V)♪」

暁「今日は浜辺まで行つてたの！それとお買い物もちやんとしたわ！」フンス

ザラ「」

ヨモギ「ニヤ、いつもありがとうニヤ。暁ちゃんは偉いニヤ」

暁「えっへん！もつと褒めてもいいのよ！」

雷「とか言つちやつてー。途中道に迷つて泣きそうになつてたのは誰かしら？」ニ

ヤニヤ

暁「も、もう!!それは言わないの!!」

ザラ「」

え!?!ね、猫が二足歩行して喋つてる!?!大本営とかで見かける猫は4足歩行でニヤ
しか言わないのに!?!こ、ここつて異世界!?!

ヴェールヌイ「？」チラッ

ザラ「あ」ビクッ

天龍「うん？ザラじゃねえか。なんでイタリア艦のお前がここに？」

ザラ「え、えーと…だ、大本営からの指令でこの鎮守府に着任することになったのだ

けど…こ、ここであつてるのよね!」アセアセ

ヨモギ&ムラサキ「？」

天龍「お、おう…まあ最初は皆驚くよな」

ドドドドドツ…

ザラ「え? な、なに…?」

ポーラ「ザラだあああああつ!!」ダツシユ

ザラ「ふぎや!?! ぽ、ポーラ!?!」

プリンツ「ザラさんだ!! ザラさんが来た!! これで勝つる!!」

ザラ「ぶ、プリンツちゃんまで!?!」

天龍「他の海外艦がいてよかつたな。ようこそ俺達の鎮守府へ」ニヤニヤ

ザラ「え、ええ…他の鎮守府でも有名だと聞いたのだけど…」

ヴェールヌイ「まあ…ある意味有名だね」ウンウン

雷「司令官達、人間離れしてるしね…」ニガワライ

天龍「高い所落ちててもヘツチャラだわ、水中で半永久的にいれるわ、爆撃くらつても

びんびんしてるし…」

ザラ「その人達つて人間なの!?!」

ポーラ「ハンターつて職業をしてるからねー。でも面白くて、とつても頼りになる人

達だよ〜」

プリンツ「後は：鎮守府内でムラサキちゃんの他に大きな生き物を飼育しているところかな？」

ザラ「へ、へえー…」遠い目

天龍「ま、ここで長話でもなんだし、執務室へ案内するぜ！」

in 執務室前

天龍「そうだ、先に言うけど：今は提督は不在だ」

ザラ「ええっ!?! 提督はいないの!?!」

天龍「今は新婚旅：ゲフンゲフン、故郷で一仕事頼まれてそっちに行ってるんだ」

ザラ「成程：じゃあ秘書官か戦艦の誰かが指揮を執ってるの？」

ポーラ「ううん、提督の仲間のアールロさんが司令官の代理を務めてるんだよー」

ザラ「アールロさん？司令官じゃなくて？」

天龍「まあここの鎮守府には提督の他に3人のハンターさんがいたんだ。その一人であるアールロさんがここに残って俺達の指揮を執ってくれてるんだ」

ヴェールヌイ「アールロさんとはとても元氣いっぱい優しい人だよ」

プリンツ「そして勇敢で艦娘達を大事に思ってくれる素敵な人でもあるんだ！」

ザラ「へー…面白そうな人ね。早く会ってみたいわ」

天龍「あー、その事なんだけど…たぶん初見はビビると思うぜ？」

ザラ「え？それってどういう事？」

暁「わ、私も最初見た時は泣いちゃったし…」

電「で、でもかっこいいのです！」フオロー

ポーラ「まあ百聞は一見に如かずってねー♪さっそくご対面〜」

天龍「アローさん、失礼するぜー!!」ガチャリ

加賀「だからあれほど言ってるじゃないですか。初月の入渠してるところを覗くなと」アイアンクロー

初月「か、加賀さん…ぼ、僕は別に…」ソワソワ

アロー「あ、いやそのー、初月のタイツってどうなってるのかなっていうスキンシッ

p (ry)

加賀「沈めっ」メシヤアツ!

アロー「ひでぶ!？」

初月「あ、アローさああああん!？」

天龍「…」ソツトジ

ザラ「」

天龍「…今の見てなかった、いいね？」

ザラ「アツハイ…」

天龍「ちよつと待っててな…」ガチャリ

——数十分後——

天龍「ザラ、入っていいぜー」

ザラ「は、はい！失礼します!!」

アーロ「」チーン

ザラ「えええええっ!?!」

天龍「ま、最初はそう驚くよなー」ニヤニヤ

ザラ「いやちよ、見たこともない鎧を着てるのと、気絶してるので驚いてるんだけど!?!」

加賀「ほら、アーロさん何時まで気絶してるふりしてるんですか」スパーン

アーロ「あだふ!?!…あつはつは、ジョークだぜジョーク！」

初月「アーロさん、ちゃんと自己紹介しなくっちゃ」

アーロ「そうだったな。ようこそ、俺達の鎮守府へ。俺がアーロだ、この鎮守府の提督さ！」ドヤア

加賀「提督代理でしようが」スパーン

ザラ「…」ポカーン

ポーラ「ね?びつくりしたでしょー」ニヤニヤ

ザラ「え、いや…あの人で大丈夫なの?」ヒソヒソ

ポーラ「……?」(・ω・)?

プリンツ「……?」?(・ω・、)

ザラ「いやほんと大丈夫なの!」

加賀「まあ…書類整理もあまりできない、指揮はぼちぼち、スキンシップと称してセクハラまがいな事します」

アール「おうふ…めっちゃストレートに言うな」(・ω・、)

加賀「ですが…提督が任せたとように、信頼できる頼もしい司令官ですよ」ニッコリ

ザラ「…」

アール「まあ…多少頼りねえ野郎かと思うけど、よろしくな」

ザラ「ええ…こちらこそ、よろしくね!アールさん!!」ニッコリ

アール「と、いう訳でさっそく間宮さんのところでパフェを食べに(r y」

加賀「サボらないでください」スパーン

アール「あばす!」()。3。)…:

ザラ「だ、大丈夫かなあ…」ニガワライ

i n 中庭

ザラ「ほんと変わった人だったわね…でも、とても頼もしい感じがしたわ」

ポーラ「でしよ、アールさんは艦娘達とのコミュニケーションは欠かさずとつてるからね」

プリンツ「私達の悩みや困ったことに真剣に聞いてくれて、手を取ってくれるから、頼りになるんだー」

ザラ「ふふ、噂通りとても面白い所ね」

ペッコ「三（、ω）♪」

臯月「いやっほー!! ペッコ、いい調子だよ!!」

長波「いいなー、次はあたしにも乗せてー!!」

ザラ「」

プリンツ「そうだった…鎮守府にはクルペッコ、アルセルタス、ダイミヨウザザミ亜種っていう生き物を飼育してるのを見せてなかったね」

ザラ「え、ええ!?!と、鳥!?!あんなデカイ鳥初めて見るんだけど!?!」アワワワ

臯月「あ、プリンツさん、ポーラさん! その人は新しく着任した人?」

ペッコ「(ゝωゝ*) (〔クルル・

ザラ「ひやっ!？」

長波「大丈夫だぜ? ペッコはいい子だからね」 ナデナデ

ザラ「ほ、ほんとう?」 ナデナデ・

ペッコ「(* ω、)」 クルルー

ザラ「あつ…カワイイ…」

皐月「ね、いい子でしょー!」 ニッコリ

ポーラ「艦娘達に飼いやつを覚えてくれるのもアールさんはなんだよ」

長波「アールさんは物知りだからねー」 ニシシ

長門「…解せぬ」 グヌヌ

ザラ「え、えつとあれは…」 アセアセ

プリンツ「長門さんは駆逐艦とスキンシップを取りたいの」

in 母港、演習場

ポーラ「ここが演習場だよ」

プリンツ「次の海域に向けてしっかり腕を磨いてるんだ!」

ザラ「へー…確か大本営では別の海域から深海棲艦が襲撃しているからそれに向けて防衛かつ調査をしているのよね」

山城「そうね…先のイベント海域の戦いで深海棲艦達は故郷の海へと還って行っただども、未だに残った深海棲艦達は抗争を続けているわ」

プリンツ「あ、山城さん」ノシ

山城「アーロさんは次の海域とその周辺の島の調査を頼まれてるし、私達がしっかりとサポートしなきゃね。そのためにも演習あるのみ」フンス

ザラ「こ、この山城さんは普段見る山城さんよりもネガティブじゃない…?!」

山城「そうね…かつての私は不幸だと嘆いてたけども、提督やアーロさん達を見てると嘆いている場合じゃないと思ったのよ。というか、私がいっしょにしゃべるとアーロさんをサポートできないしね」ヤレヤレ

ポーラ「うふふー、山城さん頼もしい！」

山城「で、貴女達も一緒に私の演習を受けるのかしら？」

プリンツ「い、いえ!! きよ、今日はザラさんを鎮守府内の案内をしようとしてるだけです!!」アセアセ

ポーラ「や、やましろーの演習は超ハードなんだよねー」ヒソヒソ

山城「あら残念だわ。また今度ね…今は空母達の演習をしているようだし、見てみる

？」ニヤニヤ

ザラ「え…?」

大鳳「えいつ!!」フレーム回避

飛龍「よいしょつ!!」ジャスト回避

赤城「うふふ、二人ともしつかり形になつてきましたね」

飛龍「なんのこれしき!! 瑞鶴がない間、私達がマスターしないとね!」

大鳳「あ、アールさんから聞いたのですが、速射機能を付けたとか…」

秋津洲「じゃあ大鳳さんも新・秋津洲流戦闘術をやってみるかも?」エリアルジャン

プ

龍驤「…もうつつこまんて」遠い目

飛鷹「いつか私達もジャスト回避を教えられるわね…」遠い目

ザラ「(㊦)。。」

山城「羨ましいわよねー。私達もジャスト回避とかやってみたいし」

ザラ「え、えええつ!? く、空母つてあんなに動くんですか!?!」

山城「全てはジンさんの教えの賜物よ…」

i n 食堂

マシロ「ニャ!! 今日も板前ブラザーズが大活躍ニャ!!」

サクラ「今晚の日替わり定食カレイの唐揚げ定食だニャ!!」

ヨモギ「他にも色々あるニャ!!」

ザラ「ね、猫が料理をしてる…!!」

ポーラ「猫じゃなくてアイルーだよー」つワイン

ザラ「へー…っっていつの間にか呑んでるのよ!?!」没収

ポーラ「あうーお酒く」涙目

リットリオ「うふふ、ザラが来てくれたおかげでポーラの飲み過ぎを止めることができ

きそうね」

ザラ「あ、リットリオさん!!」

ポーラ「あうー…」シヨボーン

リットリオ「板前アイルーさん達の料理はとても美味しいわよ?」ニコニコ

那智「む? ポーラ、今日は飲まないのか?」

ポーラ「ザラ姉様にストツプされっっちゃってー」ウルウル

足柄「アールさんが買ってくれるブレスワインは美味しいからねー、つい飲み過ぎちゃうのよ」つワイン

ポーラ「ですよねー」つワイン

ザラ「ちよ、言ってる傍から!？」

アール「ままいいじゃないか、ザラが来てくれてとつても嬉しいんだつて」ニヤニヤ

ザラ「あ、アールさん!？」

アール「今日ぐらい、いいじゃないか?」

ポーラ「オオー…アールさんは天使だー」

ザラ「むう…ポーラ、今日は飲みすぎて羽目を外さないのよ?」

ポーラ「はーい♪」

アール「それに、ザラが着任してくれたんだ。今日はそのお祝いだ!」

艦娘達「わーい!」

ザラ「…:」

プリンツ「ね?アールさんは面白いでしょ?」

ザラ「そうね…」ウフフ

数十分後

ポーラ「あうー、飲みすぎたー、暑いー、服を脱ぐねー」ヌギヌギ

ザラ「ちよ、ポーラ!! やめなさいってば!」 ストップ!!
アール「……」 凝視

ザラ「ちよ、アールさん!?! 見ちやダメー!!」 アワワ

アール「……続けたまえ」 ドヤ

大井「あんたは何やってんだあああつ!!」 ジャーマンスープレックス

アール「ウワラバアアツ!」

素敵な司令官代理だと思つた半分、この人でほんと大丈夫かなーって思つたザラであつた

翌日

in 執務室

アール「ザラ、頼みたい事があるんだがいいかい?」

ザラ「え? 私にですか?」

アール「実は……ドンドルマのギルド本部からこの鎮守府にハンターが1人派遣されるんだ」

加賀「あら、それは初耳です」

アール「団長さんの鳥から手紙を受け取つてな……クロード達があつちに行つてる間、俺だけじゃ大変だろうからって」

加賀「まあすごく当てはまりますね」

アール「おうふ…」（…）

初月「あ、アールさんなら大丈夫だよ！」アセアセ

ザラ「それで…私とそのハンターさんとどう関係が？」

アール「そのなんだ…そいつの秘書艦としてサポートして欲しいんだ」

ザラ「ええっ!?わ、私がですか!？」

アール「心配すんなって。团长さん曰く、そのハンターさんは王立学術院のハンターで、团长さんの親友だ。師匠と弟子みたいな関係のようだが…クロード達もそいつに会って、大丈夫だって言ってたし」

加賀「成程、提督がおっしゃるのなら大丈夫ですね…たぶん」

ザラ「わ、私、ちゃんと務めれるでしょうか…」アワワ

アール「ハンターを知るのも初めてだし、あっちも艦娘達を知るのも初めてだから、お互い支え合っていけるかな…って…もしなんかされそうだったら俺に言いな。殴り飛ばしてやつからよ」

加賀「それに私や大井さん、龍田さんとサポートしますから」

ザラ「…はい！私、頑張ってみます!!」

アール「そうか、ありがどうな」

加賀「で、そのハンターさんの着任はいつですか？」

アーロ「え？今日だけ？」 キツパリ

加賀「先に言ってください」 デンプシーロール

アーロ「あべしっ!？」（#）, 3、；；；、；、；、

初月「あ、アーロさああああん!？」

ザラ「：：」 ポカーン

雪風「アーロさん!! 大変です!!」 アタフタ

アーロ「」 チーン

磯風「む!?! こつちも何か大変そうだぞ!!」

アーロ「だ、大丈夫だ：それで何かあったのか？」 フラフラ

雪風「母港に向かって何か小舟が物凄いスピードで来てます!」

磯風「深海棲艦じゃなさそうなんだが：どうする?」

アーロ「あー、たぶん大丈夫だ。新しく派遣されたハンターさんだと思う」

磯風「おおつ、また新しいハンターさんが来るのだな!」

アーロ「で、どのくらいでくるんだ?」

磯風「：：あと3秒くらいで母港に突撃するぞ?」

ドドーン!

加賀「すごい勢いでぶつかったようですね」

アール「それ早く言ってね!? 誰かぶつかってないよな!?」アタフタ
in 母港

???「イヌガミケ

アール「わーお、思いつきり地面に突き刺さつとるがな」

初月「小舟も大破しちゃってる…」

加賀「で、どうします?」

アール「しやあない、引っこ抜きますか」ヨツコラセ

加賀「それじゃあいきますよ?」グイッ

アール「どっせええい!!」グイッ

スパーン

???「あだだだ!も、もう少し優しく引っこ抜いてくれよ!」

ザラ「: :」キョトン

???「: :ふつくしい」

ザラ「ふえっ!」

加賀「なんか少しとげとげしい鎧を着てますね」

アール「おいこら、いきなり艦娘を困らせるんじゃない」スパーン

??? 「あだふ…いやー悪い悪い、つい見惚れちまって」

アール 「うん、気持ちかわかるぜ相棒」グッ

??? 「ありがとうな、兄弟」グッ

加賀 「…アールさんが二人になった感じですね」ため息

アール 「俺はここの鎮守府の司令官代理のアールだ。よろしくな！」

グレイ 「俺は王立学術院から来たハンター、グレイだ。これからお世話になるぜ!!」
こうして新しい(?) 鎮守府がスタートした

ザラ 「こ、この人の秘書官…ちゃんとできるのかな…」不安いっぱい

◇ 2 それぞれの始まり

i n 執務室

大淀「それじゃあ最初は自己紹介からいきましようか！」ニコニコ

アール「第一印象は大事だからな！」ウンウン

大井「…：それアールさんが言います？」ジトー

ザラ「は、はい！初めまして、ザラ級重巡洋艦、ザラです！これから貴方の秘書艦として務めます。どうぞ宜しくお願い致します!!」ペコリ

グレイ「…え？君が俺のパートナー？」

加賀「そうですね。秘書と同じくグレイさんの提督業務をサポートします」

大淀「デイリーの任務管理や艦隊の編成の確認等々、丸一日一緒にいてくれますよ？」

ザラ「わ、私ですよ、よろしいでしょうか…？」

グレイ「勿論さ！これから色々と教えてくれ!!」

ザラ「!!あ、ありがとうございます！」

グレイ「ふむふむ…この子秘書艦、そして艦娘というのだな…ふむふむ」ザラを間近で凝視

ザラ「ぐ、グレイさん？あのー…」

グレイ「成程…竜人族や土竜族と同じようなものかな…？おお…なるほど」ザラの肩や腕をサワサワ

ザラ「ひや、ひやあああつ!?」アセアセ

大井「…」ダツ

アール「待って!!大井さん待って!?スキンシップ!スキンシップだから!!」ガツ

大井「いやいやいや!?どう見てもお触りしすぎでしょうが!」

加賀「グレイさん、あまり度が過ぎると怒りますよ?」

グレイ「あ、ああすまない。いやー、初めてお会いする手前、どうも調べないと気が済まない癖がついてしまったな」アハハハ

ザラ「び、びつくりしたー…もう、気をつけてくださいよ?」ドキドキ

アール「くそ…俺も初めて会った時にやればよか(r y)」

龍田「いま、下心丸出しな発言をしませんでしたかあ?」ニコニコ

アール「滅相もございません。そのようなこと、あろうはずがございません」土下座

加賀「提督から聞きましたが王立学術院は提督達の故郷に生息する生物や自然の調査をしているとお聞きしました」

グレイ「そうだね。俺はその王立学術院の王立書士隊っていう調査部隊に所属してて

な、シモーヌ隊長の部下であり、団長さんの弟子だったんだ」

アール「成程なー。こりや頼りになりそうだな。よろしく頼むぜ、相棒」

グレイ「おうよ。よろしくな、兄弟」

大井「…不安ね」

ザラ「…」アセアセ

加賀「それではまずは書類整理といきましょうか」

ザラ「弾薬、燃料、鋼材、ボーキの在庫の報告書と発注、資材の発注、進捗報告書の作成等々、艦娘を指揮するだけでなくデスクワークがあります！」

大井「大本営に提出する書類の他に、鎮守府内に飼われているオトモンの生体管理の報告書やその観察書の作成、道具や各市場への発注書だったりと大本営に提出する書類もあるわ」

グレイ「ん？ここにはオトモンもいるのか？」

アール「ああ、ここにアルセルタス、クルペッコ、ダイミヨウザザミ亜種が飼われている。どれもうちの子達が手懐けてたんだぜ」

グレイ「へー！それはすげえな!! オトモンライダーの素質を持った子もいるんじゃない？」

アール「ああ…その一人は今、立派なライダーになって提督達と一緒に冒険してるさ」

シンミリ

龍田「ウフフ。弥生ちゃん、頑張ってるかしらね〜」ナデナデ

加賀「長話はそこまでにして書類整理に取り掛かってくださいね。ザラはグレイさんに書き方を教えてあげて」

ザラ「は、はい！それじゃグレイさん、まずは在庫の報告書と発注書の書き方からいきましようか」

グレイ「おう、ご指導ご鞭撻のほどよろしくな」

—40分後—

グレイ「…よし、できた」ドヤツ

アーロ「はやっ!？」

龍田「もうできたのー?」

グレイ「ザラ、こんな感じでいいの?」

ザラ「は、はい…えーと…凄いです。字も綺麗ですし、ちゃんと正確にできてますよ!!」

加賀「あら、本当ですね。ちゃんと本土の文字を書いてくれますし、数字もちやんと正確にできてますよ」

グレイ「はっはっは、書類とかはよくシモーヌ隊長にしごかれながら書いてたから

なー!!」

加賀「アールさんは字が汚いのでこれは助かります」

アール「ぐぬぬ：俺も負けんぞー!! ほら、できた!」ドヤア!!

大井「どれどれ：？アールさん、字は確かに綺麗に書けてるわ。だからドンドルマの文字で書くなどあれほど言ってるじゃないですか!？」

アール「メンゴメンゴ」テヘペロ

大井「(#^ω^)」

アール「すみません、すぐに直します」

加賀「しばらくは書類の方は問題なさそうですね」フー

龍田「アールさんもちゃんとやればできるんだけどねー」

in 工廠

ザラ「ここで資材を使って艦娘を建造したり、艦娘の艤装を改修、そして武器の製造を行うんですよ?」

グレイ「え!?! ここで艦娘の建造!?! うーむ：艦娘とはいったい：うごごご」

ザラ「グレイさん!?! 顔が歪みかけてますよ!?!」アセアセ

夕張「あ!!アールさん、今日は大型建造をいっちょやってみます?」

大井「やめときなさいってば」ヤレヤレ

ザラ「あら？ 工廠に明石さんがいらっしやらないようですが…？」

大淀「それでしたらこの鎮守府の明石さんも提督達の故郷へと一緒に行つて、夕張さんが代理として務めているんですよ？」

ザラ「なるほど、そうだったんですか…？」

夕張「明石さんの酒保の販売だったり、建造や製造だったりとてんやわんやでしたよ。今は慣れてへっちゃらですけどね！」 フンス

アール「今では頼れる技師だもんな！」

夕張「でもちゃんと私も出撃させてくださいよー!!」

グレイ「ふむふむ：妖精さんというのが製造に関わるのか…まだまだ不思議な事もあるのだなー」 妖精さんをナデナデ

ザラ「ふふふ、それじゃあグレイさん。一緒に建造をやってみますか？ まずは指定の資材を使う量を妖精さんに…」

夕張「甘いよザラちゃん！ 今はドラグライト鉱石を使うのが私的にオススメよ!!」

ザラ「ええっ!?!ど、ドラグライト…？」

グレイ「えっ? こっちの鉱石とか使えるの？」

夕張「勿論ですよ!! 前まではジンさんやアールさんが鉱石の他にもモンスター素材で建造したりとか…」

大井「だからやめないってば」アテミ

夕張「あふん」KO

龍田「今のは聞いていなかったことにしてくださいね？」ニッコリ

グレイ「アツハイ」

ザラ「そ、それじゃあ先に装備の製造をしましょうか」

グレイ「ここも指定の資材を使うのだな？」

ザラ「はい。最初ですから簡単な物からいきましよう」

グレイ「ふむふむ：：お、できたぞ！」製造中

〔ピツケルグレード〕 ピツケルグレードを入手しました！

ザラ「なんで!? 鋼材と弾薬と燃料とボーキでなんでピツケルができるの!?!」

アール「あー、やっぱり最初はそうなるわなー」

大井「とういかなんでハンターさんがやるとああなるのよ…」

in 母港

加賀「そろそろお昼前ですし、出撃していた子と午前の遠征任務に向かった子達が帰還しますね」

ザラ「新しく着任したので他の艦娘の子達ともスキンシップをとって仲良くやっていきましようね」

グレイ「駆逐に軽巡、重巡、戦艦、空母：色んな子がいるんだな」

アール「おつ、帰ってきたな。みんなおかえりー!!」ノシ

五月雨「アールさーん!! 遠征任務から只今戻りましたー!!」ノシ

アール「おーよしよし、よく頑張ったな!」ナデナデ

五月雨「えへへ:」テレテレ

暁「わ、私もちゃんとれでいらしく頑張ったわよ!!」フンス

曙「素直にナデナデして欲しいって言えばいいのにねー」ニヤニヤ

アール「おうおう、お前達もえらいぞ」ナデナデ

満潮「で、アールさんの横にいる鎧を着た人は誰?」ジトーツ

グレイ「この鎮守府に着任することになった、グレイだ。見かけによらず、遅いいな」

ウンウン

満潮「なつ:い、いきなり煽ても嬉しくないんだからね!」フン

グレイ「(・ω・)」

五月雨「げ、元気を出してください!」アセアセ

潮「み、満潮ちゃんは怒りっぽいけどもちゃんと喜んできますからね!」アセアセ

深雪「あれ、あの人って昨日、物凄い勢いで防波堤にぶつかってイヌガミケしてたんだ…」

曙「マジで!？」

川内「第三艦隊、ただいま戻りましたー!!」

球磨「鎮守府近海も何事もなく平和だったクマー」

アール「平和なのが一番さ。おかえり」

皐月「あ!! そのマントを付けた人が新しく着任したハンターさん?」

グレイ「ああ。俺はグレイだ。よろしくな」

皐月「マントの付いた鎧：かっこいいね!」

グレイ「お前はカワイイな!!」 ナデナデ

長波「おおー!! マントだ!! かつけー!!」 キラキラ

アール「…マントを付けた方がいいのか…」

川内「アールさんも十分、いけてるよ」 ニヤニヤ

加賀「海域の方は何も異変はありませんでしたね?」

飛鷹「はい、深海棲艦もあまり見かけなくなりましたみたいですし…」

ゴーヤ「潜水艦もいなかったデチ!!」

グレイ「!? そ、その装備は…!？」

ゴーヤ「?これデチか?アールさん指定のスク水デチ」ドヤツ
グレイ「すく…みず…?」

ゴーヤ「その通りデチ。スクール水着の略デチよ?」

グレイ「すごいな…その張り付き具合、ゲリヨスの皮か?それともフルフル…いや、水中に対応というのなら海竜種のか…?」グイグイ

ゴーヤ「わわわわ!!」

龍田「グレイさん?気になるのは分かりますが、時と場合を考えてくださいいねー?」
つ槍

グレイ「ヒエツ!?す、すみません…」

ザラ「グレイさんの気になる癖は直した方がいいかもしれませんね…」

ゴーヤ「あ、アールさん並みに大胆デチ!!」

アール「おい、それじゃ俺が変態じゃねえか」

加賀「…」ジト

大淀「それじゃお怪我をしてたら入渠して、お昼にしてくださいね」

艦娘達「はい!」

アール「よし、次は出撃していた子達が帰ってくるみたいだな」

ザラ「この鎮守府では北方、西方、南方へと出撃しているんですよね?」

大淀「はい、最近では他の海域から深海棲艦が出没して襲撃してくるようですので調査と防衛、撃退を行っているんですよ」

初月「ただいま、アールさん!!」ノシ

アール「お帰り、初月。頑張って旗艦を務めてくれてるな」ナデナデ

初月「僕はちゃんとアールさんやみんなのために頑張れるかな…」テレテレ

ビスマルク「今回は戦艦を含めた深海棲艦が襲撃してきたみたいだったわね」

加古「いやー、目がさえてなかったら大破してたぜー」

天津風「もう、いきなり撃ってくるんだから焦ったわよ!!」中破

グレイ「ブツ!!」(。ω。):;*::;

天津風「ふえ!? な、なに!?!」

グレイ「ちよ、刺激的すぎる!!」(／ω＼;))

北上「あー、あの人が提督達の代わりにやってきたハンターさん?」

飛龍「初めて見たらそりゃあビックリするわよ」ニヤニヤ

グレイ「ガーターと黒とか刺激的すぎる!!」(／ω＼;))

天津風「ちよ、ちよつと大げさすぎよ!?!」

グレイ「(／ω＼)」チラッ

大井「ちやつかり見てんじやねえかああつ!!」ドロップキック

グレイ「ゴメンヌ!?」..:(ε。(

北上「:うん、同じアールさんみたいなタイプだね」

飛龍「うん:第二のアールさんね」

アール「おいおい、俺はそこまでしないってば。初月の場合は見るけど」

大井「お前もか!」ライリアット

アール「ほべす!?(」。3。)..:

ザラ「:私も中破しないよう頑張ろ:」

in 演習場

グレイ「ここが演習場か:艦娘同士の試合とかあるのか?」

ザラ「そうですね:訓練の一環としてチームを編成、そして模擬戦をやります。試し

にやってみますか?」

アール「いいな!俺の編成とグレイの編成で模擬戦をやってみるか」

グレイ「いいぜ!!こっちの旗艦はザラ、頼んだ」

ザラ「はい!::って、えええっ!」

加賀「ノリがいい子ですね。それでは今演習場で訓練をしている人達で編成を組んで

やってみましょう」

グレイ「重巡を旗艦した場合、どういった編成がいいんだ？」

ザラ「そうですね…水上爆撃か水上偵察を装備して制空、着弾観測しやすい編成か…航巡や空母、軽空母を交えて先制、連撃しやすい編成とかを…それから電探を…」

加賀「ふむ、ちゃんと秘書艦として編成を一緒に携わってくれてますね…アールさん、こちらはどうします？」

アール「ふ…戦艦6隻」ドヤ

加賀「少しははじめにしてください」チョップ

アール「はい…あつちは制空を考えてるみたいだからこちらは制空値の高い空母と対空の編成でいきましょう」（；ω；）

in入渠（脱衣所）

ザラ「あうう…まさかいきなり大破させられるなんてー」中破

プリンツ「ザラさんの戦略もいい感じでしたよ？」

阿武隈「やっぱり模擬戦でも山城さんは容赦ないですねー」

ザラ「ちらりと見ましたけども…アールさん、加賀さんに怒られながら編成してましたよね？」

プリンツ「あれはアールさんなりのジョークだよ」

阿武隈「ああ見えてちやんと編成を考えてやってるみたいですし：提督が今までやった編成記録やベルさんと鹿島さんが書いた編成や演習、遠征任務のノートをしつかり熟読して勉強してるだつて」

ザラ「アーロさん、頑張ってるんだね」

プリンツ「うん、提督達が故郷に行っている間、自分がしつかりしなきゃって一生懸命にやってるの」

ザラ「そう：私もグレイさんを支えていけるよう頑張らなきゃね」

グレイ「ありがとうな：俺も負けてられないぜ」

ザラ「ええ！：ええ？ええええっ!」（：。：。：。）」

グレイ「ん？どうした？」

ザラ「ぐ、ぐ、ぐぐぐぐ、グレイさん!?なんでこんなところにいるんですか!？」

阿武隈「こ、ここ、ここは脱衣所ですよ!？」

グレイ「え？ここってユクモの集会浴場みたいに混浴じゃないの?」

ドドドドドド

大井「何やってんだゴラアアアツ!!」喧嘩スペシャル
グレイ「あばーっ!?!」

青葉「き、決まったー!! 大井さんの喧嘩スペシャルだー!!」

プリンツ「やったー!!」

ザラ「いやいいの!?!」

アール「全く、ここはユクモじやなくて男湯、女湯が分けられてるんだぜ? 気を付けないといけないからな」ヤレヤレ

大井「で、なんでアールさんはそこにいるの?」ニッコリ

アール「あつ……ここ、ユクモ村かと思って」

i n 執務室

孫娘提督「で、久しぶりにここに立ち寄って来てみたんだけど……」

アール&グレイ「チーン

孫娘提督「なんで死にかけてるの?」

大井「いつものことです」ヤレヤレ

黒丸「代わりにオイラが聞こうかニヤ？」

ザラ「あれがニヤンターっていうのね……？」

アーロ「こ、これから注意するんだぞ、グレイ」

グレイ「お、おうふ……これがジエネレーションギャップ……」

大井「少しは反省しろ」

孫娘提督「久しぶりね、アーロさん」

アーロ「おお、孫娘提督殿。お久しぶりです」ペコリ

孫娘提督「クロード君みにに畏まらなくていいのに……それで彼が新しいハンターさん
ね？」

グレイ「王立学術院から来た、グレイです。よろしくお願い致します」

孫娘提督「ふふふ、アーロさんみたいにやんちゃっぽいわね」

大井「いいえ、やんちゃすぎますよ……それで今回はどのような件で？」

孫娘提督「ええ、もうすぐ行われるイベント海域についてのことなんだけど……」

ザラ「確か……光作戦、でしたっけ？」

孫娘提督「その通り。本土から小笠原諸島へ向けての作戦でもあるわ」

アーロ「俺達の所に来たという事は……何かあったんですか？」

孫娘提督「ええ、作戦前日にアールさん達には少し、島の調査をお願いしてほしいの。小笠原諸島の先に溶岩島があるのは知ってるわね？」

アール&グレイ「初耳です」

孫娘提督「ズコー」

大井「き、気にせず続けてください……」ニガワライ

孫娘提督「先方調査艦隊の調査でその溶岩島周辺の海域の深海棲艦がその海域から逃げるように他の海域へ進撃しているの。何か異変が起きているのかもしれないわ」

アール「溶岩島、か……」

グレイ「もし観測をしてるのでしたら……急に溶岩の活動が活発になったとか、近辺の海域で船が何か凄い衝撃を受けて沈没したとか、そんな事はありませんでしたか？」

孫娘提督「そうね……確かに溶岩の活動が突然活発になったつていう情報はあるわ」

グレイ「成程……自然現象の可能性もありますが、まだ注意深く観測をお願いします。突然の異変が起きたらすぐにツ向かいますよ」

孫娘提督「そうしてくれると助かるわ。今の段階ではまだ準備中だから、まずは貴方達の住んでいる地域の安全の確保、それから他の海域の観測を怠らないようにね」

ザラ「……？」クビカシゲ

大井「どうかしたの？」

ザラ「いえ、それってアールさん達がやる事なのですか？」

大井「まあ、アールさん達はハンターだからね」

ザラ「??」クビカシゲ

孫娘提督「新しいハンターさんも頼りにしてるわよ？それじゃあこれから頑張ってるわよ？」

グレイ「いやー：ハンターの活動を理解してくれて嬉しいよ」

アール「ああ見えて最初はツンツンだったんだぜ？」

黒丸「ささ、孫娘提督さんも行ってた様に、僕達もそろそろ行くニヤ」

ザラ「え？皆さんこれからどこへ？」

アール「ああ、今夜は溪流へ」

ザラ「え？け、溪流？」

黒丸「この街への行く道に『夜鳥・ホロロホルル』が夜な夜な商隊や大本営の輸送隊を襲撃してるんだニヤ」

グレイ「街の人も困ってるようだし、ホロロホルルの捕獲に行くんだよ」

ザラ「ホロロ：？アールさん達が？どうして？」お目めグルグル

アール「さあて、久々にいつちよやりますかな!!」

△1 艦娘、砂漠の海へ

△団長と提督達がドンドルマでグレイに出会う前のお話し：

inイサナ号

不知火&霞「…」ポカーン

団長「はっはっは、初めての空の旅はどうかかな？」

霞「いや、ちよ、凄すぎなんだけど!？」

不知火「一日雲の上の飛んでただけで見える景色が大自然の様な景色に変わるのって別の意味でおかしいですよ!？」

団長「はっはっは!!世界は広いようで狭いからな!」ハツハツハ

霞「いやよく分からないんだけど!？」

木曾「すごいなー…大草原が見える…」

金剛「びゅ、beautifulデース…」

瑞鶴「なんか…街の景色がよく見えた本土から異世界へ移った気分だわ…」ボーゼン
明石「でも弥生ちゃん、とても楽しそうですよ?」

弥生「すごい……これが司令官達の故郷……」ウツトリ

コタロウ「三（＊、ω、）」

団長「弥生ちゃん、コタロウ！疲れたら遠慮なくイサナ号に乗り込んでいいからな——！」

コタロウ「三（＊、ω、）」「グオオツ！」

ジン「二人とも、かなり楽しんでるな……」

提督「喜んでくれて何よりだよ」ハハハ

瑞鶴「ジンさん！提督！」

霞「しばらく操舵室でベルさんと話し合ってたけど何してたの？」

提督「今日のバルバレはどこにあるか方角を確認していたんだ」

不知火「今日のバルバレ？」

ジン「バルバレっていうのは場所のことではなく移動する船型の集会所を中心にキャラバンが集まってできる市場のことだ」

提督「集会所が移動するたびにキャラバンも移動するからね、地図には載らないんだ」

瑞鶴「それじゃあどうやって探すの？」

提督「集会所が移動し終わるとギルド本部に場所を知らせ、それを介してハンター達に通知される。今回はバルバレにソフィアと竜人商人がいてくれたからね、場所はすぐ

に分かったよ」

ジン「今は大砂漠の境界付近に留まっている」

霞「大砂漠？砂漠は初めて見るわね」

提督「すつごく驚くぞー」ニヤニヤ

団長「バルバレは世界中の商人やきすらいのハンター達が集い、各地の様々な情報が集まる。『知りたい事があつたらバルバレへ行け』という言葉があるくらい、賑わっているぞー！」

木曾「成程、提督はバルファルクの情報を探るためにまずはバルバレへ行くことにしたんだな！」ウンウン

金剛「さすがは提督デース!!」

提督「う、うんソウダヨー…(棒読み)ガクブル

霞「…」ジトー

団長「はっはっは!!バルバレにはアークの家族が商いをしている。まずは挨拶に伺うとしようか！」

弥生「アグルさん、いるかな…」ワクワク

ベル「ふふふ、皆楽しそうだねー」

鹿島「次の方角は砂漠の方へ向かうようですが…どういったところなんですか？」

ベル「うーん……海みたいに広大で、果てしなく広がっている、かな？ま、見てのお楽しみってやつだね」

提督「ベル、大砂漠に向けて舵を頼んだ！」

ベル「了解っ！」

——イサナ号で飛んで二日後——

ジン「もう間もなく大砂漠に入るぞ……」

提督「さあ、ようこそ。まずは砂の海原、大砂漠だ！」

——地平線の先まで広がるは砂の海。木々も生えぬ暑さと乾燥したこの大地にはガレオスやモノブロス、ネルスキュラ亜種など独自の進化をした生物が多々棲息する。大海原を駆ける艦娘達にとって、この砂の海は初めて見るものであり、その光景にはとても驚き、感動していた。

b y 提督の手

記
——

霞「すごい……!!これが大砂漠なの……!!」

金剛「提督の言う通りまるで海のように広がってマース…!!」

瑞鶴「この広い砂漠をジンさん達は冒険してたのね…」

ジン「この砂漠を見るのは久しぶりだな」

ベル「よく夜のクエでアークと提督が道に迷ってたよねー」

不知火「おや…司令官、砂漠のど真ん中に船が見えますね。移動してる…?」

提督「あれは商船だね。大砂漠を移動するときは船を使って渡る事もあるんだ」

木曾「船で移動するのか!?ほんとに海みたいだな…」

提督「道中にモノブロスやドスガレオスに出くわす恐れがあるからね。安全に迅速に

移動するには船がいいんだ」

ジン「たまに…ジエンモーランやダレンモーランに出くわす時があるけどな」

団長「お前達と最初に出会った頃を思い出すなあ」シミジミ

ベル「いやほんとあれは死ぬかと思いましたよ…」遠い目

不知火「あ、黒丸から聞いたことがあります。団長さんと最初に出会った頃に司令官

達はパンツ一丁でダレンモーランを撃退したとか」

霞&鹿島「ブツ!」Σ(; 旦、)

金剛「は、パンツ一丁!?!し、不知火、詳しく話すデース!!」フンスフンス

明石「こ、金剛さん、鼻息が荒いですよ!?!」

提督「ああ…あれは黒歴史だな」遠い目

ジン「眉毛が濃いとか、美声の持ち主とか、筋肉モリモリマッチョマンの変態だとか、変な噂が広がってしまったことがあったな」遠い目

瑞鶴「ふ、二人ともすごく遠い目をしてる…!？」

弥生「団長さん、バルバレは後どれくらいですか？」

団長「ふむ、このまま飛び続けて半日くらいで着くと思うぞ？それまで空の旅を堪能してくれ！」ハツハツハ

木曾「艦娘の艦装で砂漠の海は渡れるかなー…」

明石「艦装を改良すればできそうですね…」フムフム

——空を飛ぶこと半日——

鹿島「あれ？何か大きな船とその周りに船が沢山停泊してるのが見えますよ？」

ベル「うん、やつと見えてきたね。あれがバルバレだよ」

団長「いつものように賑わっているようだな！このまま進んで、到着といこうか!!」

——欲しい情報を探しているのならバルバレへ、という言葉ある様に移動する集会所を中心に世界各地のキャラバンが集う市場、それがバルバレである。ユクモ、ドンドルマ、ベルナ、タンジアと各地からやって来た商人やハンター達で賑わう。ドンドルマと違っ

たその賑わいに彼女達は どう見て、反応するか、楽しみである。

手記
—

b y 提督の

霞 「ここがバルバレ…!! 凄い賑わいね!」

提督 「商人やハンター、彼らをまかなう料理人等々、この地には各地から多くの旅人が集うんだ」

金剛 「はっ…!! もしかして紅茶とかもありますか!？」

ベル 「どうかかな…紅茶の様なものはあると思うけど」

ジン 「他の地域に行かないと手に入らない商品も売っている。アー口の母親に挨拶する前に見ていくか?」

瑞鶴 「いいわね! じゃあジンさん、いこっか!!」 ウキウキ

ハンター達 「…:」 ジーツ

弥生 「? 何か、時折こちらに気になるような視線を感じますね」

木曾 「特に俺と弥生、瑞鶴と金剛さんに集中してるな…」 アセアセ

ベル 「この地では見られない恰好だからね。珍しい装備だと思ってるんだよ」

提督 「それに弥生はリオレウスを手懐けている最年少ライダーとして見ている感じだ

ね

弥生「ライダー…うふふ」テレテレ

ソフィア「団長さーん!! クロードさーん!! こちらですよー!!」ノシ

提督「ソフィア!! 久しぶりー」ノシ

ソフィア「艦隊の皆さんもお久しぶり…つてリオレウス!？」ギョツ

コタロウ「(*、ω、)」クルル

弥生「私のオトモンのコタロウです」ナデナデ

ソフィア「貴女のオトモンなんです…あ!! もしかしてオストガロア変異種と戦ったという小さなライダーさんって貴女の事なんです…キラキラ

弥生「私の事？」クビカシゲ

ソフィア「そりやあもうドンドルマのギルド本部で噂されていますよ!! はるか遠い地に生息していたオストガロア変異種をクロードさん達と戦ったりオレウスに乗った小さなライダーがいるって!」

団長「すまん、ついうっかりギルド本部に手紙で書いてしまったな」テヘペロ

ソフィア「勿論、その海で艦娘さん達の活躍も聞いてますよ!!」フンス

弥生「…」テレテレ

ジン「よかったな、随分と有名になつてゐるようで」ナデナデ

コタロウ「（*・ω・）」クルル

ソフィア「さき、折角はるる遠い地からやつて来たんですから存分にバルバレを堪能してください！」

提督「ところでソフィア、竜人商人さんはどこ？」

ソフィア「それならあそこの方で叩き売りをしてますよ？」

竜人商人「さあさあ！本土という土地にしかないと言われてゐるペンギンとモコモコじゃ！！ただの癒しの置物にしてもよし、モコモコを枕にするもよし、レンキンすれば生命の粉塵等の調査素材として使えるぞ！」

ハンター達「うおおおっ！！」押しかけるハンター達

提督「（。D。）」

霞「し、失敗ペンギンとモコモコを売つてゐる…!？」

竜人商人「わっはっは、商売繁盛!!…お？そこにおけるのはクロード達じゃないか！久しぶりよのう!!」

ベル「久しぶり…って何売つてゐるんだよ!？」

鹿島「モコモコにそんな使い道があつたなんて驚きです…」

竜人商人「ふふふ、いかにして売るか試行錯誤して開発したんじやよ」ドヤア
明石「イヤイヤイヤ!?よくできましたよね!?その技術はおかしいですよ!」

瑞鶴「へー…食材に雑貨に、武器といろんなものが売ってるわね」キョロキョロ
ハンターA「おい…あの子の装備、なんかすごくねえか?」

ハンターB「ああ、タマミツネ?それともアマツマガツチかな?可愛いな」

ハンターA「ちよつと声をかけてみようか…おー(ry)」

ジン「(☒?☒)」

ハンターA&B「」

瑞鶴「?ジンさん、どうかしたの?」クビカシゲ

ジン「いや、なんでもない。確かバルバレにしかないスイーツとやらがあると聞いた
が…食べに行くか?」

瑞鶴「うん!やったー♪」

ハンターA「…あれは声をかけたらいけない奴だね…」ガクブル

ハンターB「あの子…愛されているね…」遠い目

木曾「…やっぱり色々な視線を感じるな」ソワソワ

金剛「木曾の格好はある意味珍しいデスからねー。注目の的デース」

明石「というよりもここでは艦装は珍しいんですよ」

ソフィア「ハンターさん達が身に着けている鎧の様に一種の装備だと思っんですよ」
ウフフ

提督「お、確かここがアロの実家の雑貨店だ」

霞「ここがアロさんの…大きな船ね」

??「おやおや?!そこにいるのはクロードかい!？」

提督「あはは、お久しぶりですアロエさん」

アロエ「いやー、こんなに遅しくなっちゃ!!」

霞「司令官、この人は？」

提督「紹介しよう、この人はこの雑貨店『踊る虎鮫』の店長でアロの母親のアロエさんだ」

ベル「最近は飲み屋も始めたようで店内は賑わってますね!」

アロエ「あれま、ベルくんまで来てくれたのかい!」

ジン「スイーツがなかった」シヨボーン

瑞鶴「ジンさん、元気出して、またの機会にしましょ」ポンポン

団長「忙しいところすまないな。他にも来ている」ワツハッハ

アロエ「あらー!! ジンくん、団長さんに…こんな可愛らしい女の子達まで来ちゃつてー!!」アラアラ

弥生「あの、すみません。この子は店前でいさせてもいいでしょうか？」

アロエ「おやま。リオレウスまで…今日は久々にクロードくん達が来てくれたから大盤振る舞いよ!!」ヒヤッハー!

霞「…アロエさんがフリーダムな理由がよくわかるわね…」

アロエ「そうなのー…アロエは本土に残ってしっかり頑張ってるのね」

提督「アロエさん、ごめんな」

アロエ「いいってことさね! あのバカ息子が皆に信頼されるくらい立派になってやってるんなら嬉しいもんさ!」

明石「…アロエさん、すっかりやってるかしら…」

霞「心なしか、加賀さんや大井さんに怒られてるイメージしか湧かないんだけど…」

弥生「あの…アゲルさんはいませんか?」ソワソワ

アロエ「アゲル? あー…ごめんね。あの子は今タンジアにいるの」

弥生「タンジア?」

アロエ「ええ、海上の輸送船がバルファルクっていう古龍に襲われてからギルド本部の指示でハンターやライダーと一緒に海上護衛を行うためにタンジアで活動してるよ」

弥生「そうですか…」シヨンボリ

団長「ふむ…バルファルクは神出鬼没のようでもうまた襲ってくるか分からんし、その古龍の影響で他のモンスターが暴れ出す可能性があるからな」

アロエ「それに…その古龍のせいかな、バルバレはあまり砂漠を移動するのを控えているみたいよ？」

提督「キヤラバンの移動を控えてる？まだダレンモーランが出てくる時期じゃないのに…」

アロエ「最近、砂漠の奥地で変な角を持ったディアブロスが徘徊して荒らしまわっている噂があるの。目撃したハンターや商人もいるようで、危険だからしばらくここに滞在しているってわけよ」

瑞鶴「それじゃあ商品の入ってくるルートとか貯蓄とかは大丈夫なんですか？」

アロエ「ふっふっふ、その辺は心配ご無用。ドンドルマやギルデガラン経由のルートもあるから長くここにいても大丈夫なの!!」

ベル「さすがはバルバレの商人たちだね」

アロエ「だから、折角ここに来たんだから楽しんでいってね！さあ皆、しつかりもてなすわよー！！」

父ちゃん「バカ息子がお世話になってまーす」ノシ

息子や娘達「おおー！！」

鹿島「すごい：アーロさんが言ってた様に大家族ですな…」

アロエ「ところでクロードくんの隣にいる、子は指輪をしてるけど…」ニヤニヤ

霞「え、えつと…し、司令官と…」ソワソワ

アロエ「あれま。クロードくん、こんな可愛らしい子をお嫁さんに！！」アラア

提督「あ、えつと…お、幼な妻ですー！！」

霞「ズコー

明石「提督、それ墓穴を掘ってますよ…」

瑞鶴「どうか何処からそんな言葉を…」

アロエ「そうときたら、盛大にお祝いしなくちゃ！！ほら、こつそり盗み聞きしているあんた達も今日は奢りだから盛り上げるのよ！！」

ハンター達「ヒヤッハー！！ただ酒だー！！」（*。▽。）ノ

木曾「す、すごいノリだな…」

ジン「いやー…結構飲んだな」ほろ酔い

金剛「ふにやあ…ここのお酒はとても強いデース…」

鹿島「ZZZ」

木曾「那智さんやポーラが喜びそうなお酒だね」

ソフィア「お土産に買って帰りますか？」ウフフ

アロエ「それで、クロードくんはこれからどうするんだい？」

提督「そうですね。暫くバルバレがこの地にあるならいつでも行けますし、ドンドルマに行く時間も結構ありますから…もう少し滞在した後にはタンジアかユクモかポツケ村へと」

ベル「もしくはギルデガランへ行って情報集めとか色々やる事もありますからね」

霞「司令官…司令官の故郷に行ってみたいの」

提督「俺の故郷、ベルナへ？霞、ベルナに行ってみたいのかい？」

霞「うん…ダメ？」キュンキュン

提督「…よし、ベルナへ行こうか。龍歴院もあるし、バルファルクの情報もまとめな
くちやいけないからね」

霞「やったー!!かしゆみ、司令官のことだいしゆき!!」

提督「…ん？んん!?」二度見

ジン「…霞の奴、酔ってるな」

瑞鶴「誰…霞にお酒を飲ませたの」

団長「ん？ダメだったか？」

○1 ウイルの悩み、ホッポの目標

どうも、ウイルです。あの海戦から何日も経ちました。団長やお師匠さんのおかげでこの島は保護区に登録され、この島の海に暮らしている深海棲艦達の居場所になりました。

最近では深海棲艦の提督かつこの島の生態調査する観察員として深海棲艦達と過ごしてまいります。ここの深海棲艦と艦娘達が手を取り合ったということもあり、なんかすごい功労者として勲章やら色々と送られてきたりとてんやわんやです。

今の大本営と各鎮守府の艦娘達は別の海域から襲撃してくる深海棲艦と戦っており、俺達は戦闘に参加しないけども時折輸送作戦とかはお手伝いしております。また、時折俺の噂を嗅ぎ付けて遠い海から深海棲艦が来たりと賑やかになってきてます。

ただ：：最近、問題が二つほど起きております。その一つが

ホッポ「ウイル!!私でもつかいレップーを飼いたい!!」フンス
ウイル「え、ええー……」

ホッポがオトモンを欲しがっているのです。

ホッポ「弥生ちゃんの乗ってたレップー、とつてもかっこよかつた!!」

ウイル「まあ…確かにあの子とレウスはかっこよかつたな」

ホッポ「私もライダーになりたい!!」フンス

ウイル「お、おう…ホッポ? そのためにはオトモンをちゃんと世話できる?」

ホッポ「勿論!!」フンス

ウイル「そのオトモンの生態や飼育管理のお勉強もできる?」

ホッポ「お、お勉強…!」クワツ

ウイル「金魚鉢で金魚を飼うとはレベルが半端ないくらい違うからな? 弥生ちゃんはしっかり勉強して、オトモンのお世話もちゃんとしてるからこそ、オトモンに乗ることができるんだ」

ホッポ「フムフム…」

ウイル「そして何より大事なことはオトモンとの絆だ。リオレウスってプライドが高い飛竜でな、手懐けるのはとても難しいんだ。お互いが信頼し合っているからこそ、あの子は乗りこなしているんだ」

ホッポ「頑張る!!」シイラレテイルンダ!

ウイル「うん、気持ちは大事故だな！はあ…竜舎を建てたり、お世話を教えたり、書類作成だったりやる事が沢山あるな…」

駆逐水鬼「その事なら」ドヤア

防空棲姫「あかし達にお任せ！」ドヤア

ウイル「お前等も乗りたいんだなおい」

ウイル「と、いう訳で竜舎は頼んだぜ？」ポンポン

集積地棲姫「馬鹿ジャナイノ？」

ホッポ&ウイル「で、できないのか!？」

防空棲姫「貴女メカニックでしょ？」

集積地棲姫「だからメカニックを何だと思ってるんだ」

駆逐水鬼「時の噂では無人島で一から鎮守府を建てた伝説の提督がいるとか…」

集積地棲姫「どこでそんな話を聞いたのよ」

ウイル「ドンドルマの戦闘街ではな。シエンガオレンの襲撃で荒らされた時はめげずに5日で建て直したんだぜ？」

集積地棲姫「さつきから人間離れしてる人達の話ばかりじゃねえか!？」

戦艦水鬼「暇になって弛んでいたところだ。いい訓練になりそうだな」フンス

南方棲姫「大工はやった事ないけど…面白そうね」

軽巡棲姫「アイドルの為なら肉体労働も農業もやってやるわ!!」

集積地棲姫「ちよ、あんた達やる気なの!?!」

ホッポ「お姉ちゃん、これ設計図!」

港湾棲姫「うん…が、頑張ってみる」

集積地棲姫「いやいやいや!?!できるの!?!」

空母棲姫「艦装の子達や他の深海棲艦の子達の総力でやるわよ」

ウイル「団長がいたら『できるでできる!!お前達ならできる!!』って言うだろうなあ」

南方棲姫「ウイル、こっちは私達に任せておきなさい」

戦艦水鬼「メカニックもいるから、何とかなるぞ」

集積地棲姫「結局あたし頼りじゃねえか!?!」

戦艦棲姫「む、無理のないようにするから…」ニガワライ

ウイル「うん、すまないな…」ニガワライ

ホッポ「それじゃあオトモン探しにいこ!!」グイグイ

空母棲姫「ええ、いつてらっしゃーい」ノシ

集積地棲姫「で、これからどうするんだよ!?!大工の知識とかないわよ!?!」

戦艦棲姫「とりあえず丸太でも用意するか」フンス

南方棲姫「そうね、丸太ね」

軽巡棲姫「みんな、丸太を用意するわよ!!」

集積地棲姫「うちの面子、脳筋すぎるんだけど」

戦艦棲姫「だ、大丈夫かしら…」

空母棲姫「ダメな気がする」

港湾棲姫「ねえ、設計図にホッポの石像が書かれてるんだけど、いるのかな？」

in 古代林地帯

ホッポ「よし！オトモン探しを開始する!!」フランス

防空棲姫「やったー!」

駆逐水鬼「よし…腕がなるな!」

ウイル「あのおな、苦労するのは俺だからな？」

駆逐棲姫「わ、私もお手伝いします!」アセアセ

重巡棲姫「ヴェア!!ウイル、お手伝いする!」フランス

ウイル「取り敢えず聞くけど…どんなオトモンが欲しいんだ？」

ホッポ&防空&駆逐水鬼「とにかくカツコイイの!!」

ウイル「ですよー!?!」ガツクリ

駆逐棲姫「み、みんな、ウイルさんが分かりやすいように説明しないと!」

ウイル「ま、まあ気持ちはわかるが…まずオトモン探しというのはな（ry）
重巡棲姫「ウイル!!これ欲しい!!」グイグイ

ウイル「ん…?」チラッ

テツカブラ「（#、皿）」グルルル…

ウイル「? ?（皿）」

テツカブラ「（#、皿）」グオオオオオッ!!

防空棲姫「ちよ、なにあれ!?カエル!？」

ホツポ「牙がカツコイイ!!」キラキラ

駆逐水鬼「ふむ、最初の相手はあれか…」フンス

重巡棲姫「ウイル、見てて!!捕まえてやる!!」フンス

ウイル「いきなりはダメー!!撤退ー!!」二人を抱えて逃げる

駆逐棲姫「ホツポちゃんも行くよ!!」グイグイ

ホツポ「あ、あれも欲しいー!」

―数十分後―

ウイル「全く、力づくで手懐けようとしても相手は懐かないぞ」プンスカ

駆逐水鬼「むむ…すまない…」シヨンボリ

重巡棲姫「うう…怒られた…」（；ω；）

防空棲姫「ウイルス、オトモン探しって普段はどうやってるの？」

ウイルス「ライダーがオトモンを手に入れる方法が幾つかある。一つは卵を手に入れて孵化させて一から育てるんだ」

ホッポ「よし！卵を見つけよう！」フンス

駆逐棲姫「はいよ!？」

ウイルス「卵を見つけるって言っても結構厳しいんだぞ？まずライダーの資格を手に入れないやららんし、その後にギルド本部に申請。許可証や誓約書等の書類を書いて、欲しいモンスターの卵を手に入れるためにハンターにクエストを依頼。種類によってはハンターが取ってくるまで長い期間を要するものもあるし、直に巣へ行つて卵を取るから勿論親のモンスターに襲われたり、運搬中にトラブルもあつたりと失敗することもある」

防空棲姫「ハンターに依頼する、という事だからかなりの高額になるのよね？」

ウイルス「そうだな、ハンターも命懸けだからな。後は竜種は卵だけでも牙獣種は胎生だからな。牙獣種は子供を取るという事からモラルを気にして断るのが多い。依頼されたハンターが牙獣種の子供を連れてくる場合は自然災害や病気や縄張り争いで死んだ親から引き取る、討伐した個体に子供がいたことが発覚した場合だからな」

駆逐水鬼「ふむ：卵の場合は許可が必要なのだな。他に方法は？」

ウイル「次に捕獲だ。ハンター、若しくはライダーがモンスターと戦い、罨や麻酔玉を使つて捕獲し、手懐けていく場合がある。だが、これはかなりの年月を要する」

防空棲姫「なんだ？」

ウイル「社会化期というものがあつてな。生後数週間ぐらいの子供が周りの環境、同種や他種、誰と仲良くしていくか、誰が敵なのかを学んで社会：生きていく環境に慣れていく為の期間の事だ。孵化した幼体の場合はそれを学ばせるチャンスがあるが、成体はもう学ぶことは無い。一から学ばせることはかなり難しく、モンスターが友好的な性格をしたやつじゃないとすぐには懐いてくれないんだ」

駆逐棲姫「捕獲した場合は難しいんですね……」

ウイル「まあ例外もある。鳥竜種のクルペッコとかは友好的な性格をした個体もいる。他にはハンターのおかげで懐いてくれるものもいるが……結構まれだな」

防空棲姫「むむむ……ほ、他にはないの？」

ウイル「すつつつごーくレアなんだが、何かしらのきっかけで懐いてくれる場合がある」

防空棲姫「何よそれ!？」

ウイル「俺もよく分からん。死にかけの個体を助けた、襲われている所を助けたとか

モンスターにも恩義があるのか懐いてくれる場合があるんだ。実を言うとライダーがこのパターンでオトモンを手に入れるがよくある」

駆逐棲息「それってお互いの絆が深いという事なんですな！」

ウイル「諸説あるが：ライダーが持っている絆石のおかげなのかもしれん」

防空棲姫「所謂不思議パワーってやつね：他にはあるのかしら？」

ウイル「後は：ライダーがブリーダーをしている所もある。そこから子を貰う所ぐらいいだ。無論、ギルドに申請、許可、少し高い金額を払うけどな。ま、上がるとすればこれらの方法ぐらいいだ。ホッポ、分かったか？」

ホッポ「プシュー

重巡棲姫「プシュー

駆逐水鬼「どうやら分からない事が多くて頭がパンクしてしまったようだ」

ウイル「あちゃー：」

防空棲姫「おーい、大丈夫かしらー？」パタパタ

ホッポ「はっ：要は、学ぶことがいっぱい！」シイラレテイルンダ！

ウイル「うんそうだね！まずはそこから頑張ろうか」

駆逐棲姫「そういえば：クロードさんの鎮守府ではオトモンの飼育のお勉強ができる本とかがあるって皐月ちゃんが言っていましたね」

駆逐水鬼「確か…アーロさんという人に飼い方を教えてもらったとか」

ホツポ「よし！鎮守府に行こう!!」フンス

ウイル「あー…やっぱりそうなるわな」ヤレヤレ

ホツポ「そうと決まればすぐに行こう!!」

ウイル「きよ、今日っすか!？」

ホツポ「善は急げ！」フンス

駆逐棲姫「そうと決まれば戦艦棲姫さん達に伝えておきますね」

防空棲姫「お土産何がいいかしら？」

駆逐水鬼「お泊りもするの？」

ウイル「楽しそうだなにより…」ホンワカ

重巡棲姫「ウイル…」グイグイ

ウイル「ん？どした？」

重巡棲姫「今日も見つけたよ」グイグイ

ウイル「おうふ…こんな所にもあつたのか…」

この島に最近起きた問題の二つ目、それは…

重巡棲姫「でっかい足跡!!」
ウイル「足跡はでかいな。後は爪痕に赤い鱗粉も…これはこれで出くわしたらヤバイな…」

この島に…ティガレックス希少種がいるかもしれません…

△2 ようこそベルナ村へ

i n 踊る砂鮫亭

提督「なー、霞。いい加減機嫌直してくれよー」

霞「昨日の自分を思い切り殴りたい…」遠い目

提督「な？昨日の事は忘れて早く支度しような？」

ベル「ものすつごい落ち込んでるね…」

鹿島「昨日の事を思い出して自分を責めてますね…」

団長「ふむ、ついうっかりお酒を飲ませてしまったのだが…別の意味で飲ませない方

がいいみたいだな」

不知火「ほら、こう落ち込んでいては移動できませんよ、かしゆみ」

霞「うおらあああつ!!」ストレート

不知火「おつと、やつと元気になりましたね。ほら、行きますよ、かしゆみ」ダッ

霞「二度と言わせないようにしてやらあああつ!!」ダッ

提督「うん、元気になって何よりだ」ニコニコ

金剛「テイトクー、マイペースすぎるネ…」

ソフィア「荷物はこれでよしと…明石さん、木曾さん、ありがとうございます」

明石「乗せてもらってるんですから、お手伝いしないと」

木曾「力仕事とか、色々と任せてくれよ」

弥生「コタロウ、お手入れできたよ…」ナデナデ

コタロウ「(ωω) *」クルル…

竜人商人「ほほ…すっかり手懐けておるのう」

ジン「後はこれとこれとこれを…」コソコソ

瑞鶴「ジンさん、お酒積みすぎ。飲み過ぎは良くないから没収!!」

ジン「そんなー」(ωω) (ωω)

ベル「どうせベルナに行ってもワイン飲むつもりなんでしょ」

提督「アロエさん、ありがとうございます。また寄りますからね!」

アロエ「いつでもおいで!!アローやアグルによるしく伝えといてちようだいね!」

ジン「あの二人には伝えておく」

アロエ「それから、艦娘の皆もまた遊びに来てね!いつでもどーんと歓迎するから!!」

父ちゃん「今後も踊る砂鯨亭をよろしくー!」

息子&娘達「またねー!!」ノシ

ハンター達「酒代あざーっす!!」(*。▽。)ノシ

金剛「マーム!! また遊びにくるヨー!!」ノシ

霞「に、賑やかね…」

団長「さあ出発だ!! イサナ号、発進！」

提督「懐かしかったな、バルバレ…」

ジン「相も変わらず、あそこは賑やかだ」

ベル「アーロのお母さん達も元気で何よりだったよ」

金剛「あそこで珍しいものも買えたネー。ロックラックの茶葉とか」

不知火「龍の爪? というのも売ってましたね…少し高かったですけど」

霞「あんた達いつの間にか買ってたの!？」

木曾「提督、次に行くベルナって提督の故郷なんだよな?」

明石「どんなものがあるんですか?」

提督「ベルナは…山岳や草原に囲まれた自然豊かな村だな。あそこには…」

ジン「チーズがうまい。早く食べたい」

ベル「ムーファがカワイイ、モフモフしたい」

提督「つてな感じで冬はかなり寒くなるが春は暖かくて、夏と秋は涼しく、気候は温

暖でのんびりとした所だ」

瑞鶴「う、うんジンさんとベルさんの願望だよね…」

提督「久々の里帰りだなー」ワクワク

瑞鶴「ね、ねえ…少し気になる事があるんだけど…」ヒソヒソ

木曾「ん？どうした？」

瑞鶴「提督の実家にも行くんでしょ？両親とかいるのかしら…」ヒソヒソ

明石「そういえば…確かに聞いたことないですね」

鹿島「お尋ねになってみてはどうですか？」

瑞鶴「き、聞いてもいいのかなあ…」

明石「確かに聞けるタイミングがないわねえ…」

提督「ん？どつたの？」

瑞鶴「いやいや!!な、なんでもないわよー」

明石「ど、どんなチーズがあるのかなーって」アハハ

団長「この時期のベルナ村は少し肌寒いからな。温かくしておくんだぞー！」

アロエ「いやー…楽しかったわねー」

父ちゃん「クロード君達があんなに立派になって、驚いたよ」

アロエ「それにあんな可愛い子達も連れてきちゃって…」ウフフ

父ちゃん「さき、店の支度をしないとね」

息子&娘達「はーい！」

アロエ「ほら、あんた達もただ酒飲んだんだから、少しは手伝いな!!」

ハンター達「うへあ…」

アロエ「そういえば…」

父ちゃん「ん？」

アロエ「クロード君に可愛い子達がいたけども…アロエにもちゃんと可愛い子がいるのかしら…」

父ちゃん「あいつは空気を読めないからなー」

■ ■ ■

アロエ「ブヘックシャトリア!」クシャミ

初月「ひやつ!? あ、アロエさん凄いクシャミだね…」

アロエ「むう、母ちゃんが俺の噂をしているかもしれないねえな…よし、初月。これから間宮さんの所で一緒にパフェでも食に行こう！」

初月「ええっ!?! い、今から!」アセアセ

アロエ「なんか一緒に食に行きたくなつた! 善は急げだぜ!!」

加賀「そんな事よりさつさと書類を書き終えてください」スパーン

アーロ「ひでぶっ!？」



弥生「砂漠とは違う景色ですね…向こうに見えるのは山岳地帯？」

金剛「あれはまるでアルプス山脈みたいデース！」

木曾「ドイツ艦やイタリヤ艦の艦娘が見たらスイスと似てるって言いそう」

ベル「本で読んだことがあるけど、気候風土もそのスイスっていう国と似てるかもね」
不知火「確かに少し肌寒いですね…」

ジン「ほれ、まだ雪解けの最中の時期だからな。温かったり寒かたりする」つまフラ

瑞鶴「というかジンさん達の鎧は断熱だったり、防寒だったり…どうなってんの？」

提督「さあ見えてきたぞー。俺の故郷、ベルナ村だ」

——砂漠から離れて西へ。砂漠の地帯とは変わり草原や山岳が連なる地帯へ。標高が高い山程白い白銀の雪が積もった雪山となり、薄く雪が積もった高原が見えてくる。その山岳を抜けた先、山々に囲まれた高原の中にある村がベルナ村である。厳しくも雄大な大自然に囲まれたこの村の人達は牧畜や酪農、ベルナで採掘される鉱石、オブシディ

アン等々自然の恵みを生かして生活をしている。砂漠とは打って変わった自然の景色に彼女たちはどう見てくれているか、少し気になる。

督の手記 —

b y 提

金剛「ワーオ!!まるであれデス!!アルプスのハイジの景色デース!!」

木曾「ホント見るものすべてがすげえな…!!」

霞「ここが司令官の故郷…!」

瑞鶴「昔の提督がやんちゃだったのも何となく分かる気がするわ…」

弥生「素敵な所だね…」

提督「いやー、この空気…懐かしい!!」

ジン「ここも相変わらずだな…」

???「クロードさ〜ん!!」ノシ

不知火「おや?誰かこっちに来てますよ?」

明石「あれは猫耳をした子供…?」

提督「おおっ!!カティじゃないか!」ノシ

カティ「クロードさん!お久しぶりです〜」トテトテ

ベル「カティ、そう急いでもとこけるよー」

カティ「あ!!ベルさん、ジンさんもお久しぶり…ひやうっ!」ポテツ

提督「ほらほら、大丈夫か？」ナデナデ

カティ「えへへ…クロードさん、元気そうで何よりです!!」ギョツ

提督「ちよつとした里帰りだけでも…みんな元気そうだね」

霞「…」ジトー

提督「お、そうだった。この子はネコ嬢のカティ。竜人族の少女だ」

カティ「彼女たちがクロードさんが言つてた艦娘さんですね？よろしくお願ひします
!」

金剛「Oh!!とってもCuteデース!!それつて猫耳なんですカ？」

霞「…」ジトー

木曾「…霞？」アセアセ

カティ「クロードさん、よろしかったら私がベルナ村の案内のお手伝いをしましょうか？」

提督「本当か？助かるぜー」テレテレ

霞「…おほん」セキバライ

提督「ぜ、ぜひよろしくお願ひしますな!!」シャキーン

ジン「…霞、カティはああ見えて俺達よりもかなり年上だからな？」
ベル「たしか…300歳ぐらい」

霞「ウソ!？」

i nベルナ村

明石「へー…木製や石造りのお家が主なんですわね！」

カティ「はい、龍歴院が採掘する化石『ベルダーストーン』や加工したオブシディアンを使っています。化石石やオブシディアンはお土産として売られていますよ？」

ムーファ「フエー」(WwW)

木曾「あ、あのモフモフしたアルパカみたいなのは？」

カティ「あれはムーファといって、牧羊として飼育しているんですよ。ベルナではムーファの群れを放牧して酪農や体毛を刈り取って衣類の材料にしたり、荷物の運搬や伝書と幅広く使われているんです」

ムーファ「フエー」(WwW)

木曾「わっ、こっちに来た」

提督「ムーファは幼体の頃に優しく飼育していれば人懐こくなるんだ。顔のわしゃわしゃするとすごく懐くぞ」

弥生「こうですか…？」ワシヤワシヤ

ムーファ「フエー♪」(WωW *)

弥生「すごい、モフモフしてます…!」モフモフ

木曾「なんかすごくないな!」モフモフ

弥生「かわいい…!!」ギョツ

ムーファ「フエー♡」(WωW)

コタロウ「(・・ω・・)…」

団長「大丈夫、お前もちゃんと弥生に愛されているぞ」ナデナデ

金剛「うーん…チーズのいい匂いがしマース。チーズフォンデュですネ?」

瑞鶴「ベルナ村はチーズが美味しいって言ってたからね。早く食べてみたいな」

??? 「んー♪今日もいいチーズが出来たニヤ」ルンルン

金剛&瑞鶴「(。D。)

??? 「おやおや?これはこれは素敵なお嬢様方だニヤ。どうですかニヤ?今日の日替わりランチは…」

金剛&瑞鶴「(;。D。)

提督「お?どした?」

ジン「凄いもの見た様な顔をしているが…」

瑞鶴「提督!!ジンさん!!なんかでかいアイルーがいるんだけど!？」

金剛「どうかクマですよネ!？」

提督「おお、ニャンコックじゃないかー。おひさー」ノシ

ニャンコック「おおっ!これはクロードさんにジンさんじゃニヤいですか!お久しぶりですニヤ!!」

ジン「ニャンコックは板前ブラザーズの師匠であるアイルーなんだ…たぶん」

金剛「ヨモギやサクラ、マシロの料理の師匠を…確かにその威厳が感じられマース」

瑞鶴「…つて、さらつと多分つて言つたよね!？」

提督「また晩御飯の時に寄るからねー」ノシ

ジン「後でチーズとお酒を…」

ニャンコック「任せるニヤ。それからクロードさんの向こうでの活躍とか聞かせてほしいニヤ」

村人A「おお、クロードさんじゃないの!!」

提督「やつほー、みんな元気そうだなにより」

店のおばちゃん「あら!クロードちゃんじゃないの!!こんなに背が高くなっちゃって!!」

提督「おばちゃんもすこし背が伸びた？」

村長「やあ、団長からの手紙を見たよ。向こうでも元気にやっているようだな」

提督「村長!! お久しぶりです!」

霞「司令官、村の人達の人気者ね…」

ジン「それもそうだ。向こうに大きな建物が見えるな？」

霞「あの大きな建物ね」

ジン「あれが各地に生息するモンスターの生態調査などを行う機関、龍歴院の本部だ」

不知火「すごく壮大な雰囲気が出てますね…」

ジン「そんで、その龍歴院の院長がクロードの父親だ」

霞「ええええっ!?!」

カティ「子供の頃のクロードさんはよく本を読むのが好きだったんですよ? 物語や生物図鑑の内容をよく私に語ってくれてたのを覚えてます。それが今は冒険好きで遅しなくなっちゃって…」ウフフ

提督「よせやい、昔の事を話されると恥ずかしいぜー」

弥生「だから司令官は生物に詳しいんですね」

不知火「司令官の子供頃とか想像が付きませぬね…」

霞「司令官の意外な一面を知れたわ…」

明石「ほんとどうしてこうなった、って感じなんですよね…」

ベル「あとそれから…ほら、あそこが龍歴院の集会場の受付なんです…」

鹿島「本が沢山積まれている小さな建物ですか？」

ベル「あそこにいる黒髪の女性がいるでしょ？」

金剛「Yes、少し高雄に似てますネー」

ベル「彼女はハンターのクエストを管理する受付嬢って呼ばれているんだ。その子は…」

提督「おーい、セリナー！ たっだいまー!!」 ノシ

セリナ「え…に、兄さん…!？」

ジン「あの受付嬢、提督の妹だ」

艦娘達「ええええええっ!？」

セリナ「兄さん!! か、帰って来るなら来るって早く言ってくださいよ!!」

提督「いやー、悪い悪い。親父とお前をビックリさせたくてさー」 テヘペロ

団長「はっはっは、知らせておこうかと思っただが、クロードに止められてなー」 テ

ヘペロ

ジン「元気になっているようだな」

セリナ「だ、団長さんに…ジンさんとベルさん!? お久しぶりです!! も、もう…お父さ

カテイ「うふふ、懐かしい光景ですね」
霞「いや日常茶飯事だったの!？」

◇3 真夜中の幻 『夜鳥』 ホロロホルル

i n 食堂

天龍「よお、ザラ！秘書艦の仕事は慣れてきたか？」

ザラ「そ、そうですね…今までにない人達ですからもう少し時間が掛かりそうです…」
フー…

川内「五月雨ちゃんも霞も最初はそうだったからねー」

五月雨「私なんか最初提督達と初めてお会いした時は泣きそうになっちゃってましたから」エヘヘ

天龍「それで、アールさん達は何処行ったんだ？」

ザラ「アールさん達、ホロロ…なんちゃらをどうのこうのと言って出掛けちゃいました」

川内「あー…そっちのお仕事も忙しそうだね」

ザラ「捕獲と言っていました…動物園から逃げ出した動物を捕まえに行っているのではありませんか？」

天龍「ブフーっ!!」

ザラ「えっ!？」

川内「ちよ、天龍。笑いすぎでしょー」

天龍「ど、動物園って：おま、そんなレベルじゃねえぜー」

ザラ「え？えっ!?!違うんですか!？」

川内「そつかー、ザラは知らないんだっけ？」

ザラ「は、はい。ハンターさんと言うのもよくわかりませんし：猟師さんですか？」ク
ビカシゲ

天龍「：：」プルプル

五月雨「て、天龍さん、笑いすぎです！」

臯月「アーロさん達はでっかい生物を相手にしてるんだよー!」

ザラ「で、でかい？」

天龍「ハンターってのは人と生物の共生、自然の調和を図り、自然界や生態系の調査とか観測とかして、自然の均衡を保つ人たちの事なんだぜ」

臯月「僕達の知らないところで見たこともない生物と戦ったり、保護したり、調査したり、他には行ったことのない自然の場所へ冒険したり：兎に角すごいんだー!」

ザラ「そ、そういうのがあるんですか：で、でもどんな仕事をしているのか想像がつかきませんね」アセアセ

天龍「なら…実際に見てみるか？」ニヤリ

ザラ「えっ、いいのでしょか…？」

川内「加賀さんと大井さんは書類整理、龍田さんは駆逐艦の子達とお風呂…チャンスだね！」

臯月「僕もホロロホルルは凶鑑でしか見たことないから実際に見てみたい!!」

五月雨「そ、それじゃあこっそり行きましようか！」

ザラ「え、えええっ!?!」

i n 溪流

黒丸「久しぶりのニヤンターだニヤ!!」フンス

グレイ「ほほー…ここいらは溪流か。この街は山と海と自然豊かだな」

アーロ「このあたりかな？あいつは夜行性だが…黒丸、どうだ？見つけたか？」

黒丸「探っているニヤ。クンクン…ホロロホルルは狩りをする時は相手に気付かれなように音や気配、さらには匂いを薄めて襲い掛かってくるからニヤー」

アーロ「千里眼の薬も持ってくりやよかったな…」

黒丸「ニヤっ!?!ホロロホルルらしきモンスターの匂いがしてきたニヤ」

アール「でかした。移動中なら迎え撃ってやろうか」つブラックフルガード
グレイ「久々の戦いだからな：気合いを入れるか！」つ叛逆斧バラクレギオン
アール「それで黒丸、ホロロホルルは何処にいる？」

黒丸「ホロロホルルは：あ、すぐ後ろニヤ!!」

アール&グレイ「はい？」

ホロロホルル「(、◇、) (三) 強襲

グレイ「あつぶね!」緊急回避

アール「ちょ、それなら早く言えよ!」緊急回避

黒丸「ついうっかり」テヘペロ

ホロロホルル「(、◇、) (三) ピョーツ!!

アール「あ、あれが依頼にあった商隊や輸送の馬車を襲う奴か」

グレイ「兎に角、鱗粉や超音波には気をつけねえとな!!」

ホロロホルル「(三、◇、) (三) 強襲

アール「おっと!! 何度も同じ手は通用するかよ!」ガード

グレイ「いくぞっ!!」斧モード突き

黒丸「オイラもやるニヤー!」つブーメラン

ホロロホルル「(、◇、) (三) 翼ではたく

グレイ「よいさっ！」回避

アール「今度はこつちだぜ！」斬りかかり

ホロロホルル「(、◇)」翼ではたく

アール「ぶべらっ!!」..:(ε。(

黒丸「くらえっ、ビッグブーメランの術ニヤ!!」つブーメラン

ホロロホルル「三(、◇)」飛んで避ける

グレイ「むっ…気を付けろ!!どつちかを狙って急降下してくるぞ!!」

ホロロホルル「「???」
「???」強襲鱗粉ばらまき

アール「俺だーっ!!」ガード

ホロロホルル「(、◇)」「???」鱗粉飛ばし

グレイ「げえっ!!こつちに来…ウヘア」(、q、)

黒丸「あの鱗粉を吸ったら幻が見えたり混乱するニヤ。いま覚ましてあげるニヤよー

!!」殴る

グレイ「アツガイ!!」(#) 凸、;;)

ホロロホルル「(、◇) 三」強襲滑空

黒丸「ニヤ!?!こ、この隙に狙ってくるなんて卑怯だニヤ!」

グレイ「いてて…このっ!!」剣モード連続斬り

ホロロホルル「(、◇、;)」怯み

アール「よいさーっ!!」斧モード叩き付け

ホロロホルル「(、◇、#)」ビヨオオオッ!!

アール「うるせー、さっそくキレたか!」ガード

ホロロホルル「(、◇、#)」鱗粉の付いた羽ではたく

アール「うべっ!? またか：：って、見える!! なんかエロいセーターを着た初月が：：っ

!!」幻惑中

黒丸「なに呑気に幻を見てるニヤ。ほれ、現実に戻るニヤ」殴る

アール「ズゴツグ!」(、; ε (、; ;、)

グレイ「つたく、あいつの鱗粉は厄介だな」

ホロロホルル「三(#、◇、)」強襲攻撃

グレイ「おおっと! なんのその!」回避して反撃

アール「このー!! へんな幻を見せやがって!!」属性解放切り

ホロロホルル「(、;、◇、)」怯み

黒丸「よし、グレイさん。トランポリン設置の術ニヤ!!」つトランポリン

グレイ「でかした、黒丸!! よいしゃーっ!!」ジャンプ攻撃

ホロロホルル「(、◇、;)」怯み

グレイ「それからのよいしょっ！」ライド

アーロ「いいぞいいぞ!!」

ホロロホルル「(、◇、;)」大暴れ

グレイ「むっ：：おらおらおらおらおらっ!!」ザクザクザクツ

ホロロホルル「(、◇、;)」ダウン

アーロ「ナイス!! 畳み掛けろー!!」属性解放切り

グレイ「つしゃ！剣鬼モードからのトランスラツシユだぜ!!」トランスラツシユ

ホロロホルル「(、◇、#)」鱗粉のついた羽ではたく

アーロ「おっと！」ガード

グレイ「つと、これならいけそうだな」回避

ホロロホルル「(、◇、#)三」高く跳んで強襲

黒丸「ニヤツ!? 鱗粉が：：ニヤニヤツ!?」混乱中

グレイ「黒丸!いま覚ましてやるからなー!!」ダツ

アーロ「さつき殴って覚ましてくれたお返しだー!!」ダツ

ホロロホルル「(#)、◇、)三???)」鱗粉飛ばし

アーロ「ちよ、おまつ：：み、見える!! テレた加賀さんだと：：!?!」幻惑中

グレイ「しまった鱗粉が：：見えるぞ!! 指定の水着を着たザラが：：!!」幻惑中

ホロロホルル「三(＃、◇)」「強襲攻撃

アール「ハイゴツグつ!」()。3。)。 . . .

グレイ「ジュアツグつ!」()、ω。)。 . . .

黒丸「なにいかかわしいものを見てんだかニヤ. . .」治った

アール「いかんいかん. . .幻惑にやられるところだったぜ」

グレイ「これ以上、奴の幻惑に惑わされてたまるかってんだ!!」

ホロロホルル「(＃、◇)」「三三三」睡眠超音波

アール&グレイ「(⊗ ω ⊗)」スヤア」

黒丸「二人ともしつかりするニヤー!!」

in 茂みから

ザラ「(。 ㇿ)」

天龍「まあ最初は誰だって驚くよな?」

臯月「あれがホロロホルルか. . . : すぐキレイだね!」

川内「夜行性っぽいし. . . : 夜戦が得意そうね!」キラキラ

五月雨「アールさん、グレイさん、頑張ってくださいーい!」アセアセ

ザラ「イヤイヤイヤ!? うそ、あんなでかい生物がいるの!?! というよりもアールさん達

はなんで対等に戦えるの!？」

天龍「あれがハンターの仕事さ」

臯月「でもアールロさん達は前の海戦であれよりもはるかにでかい古龍を倒したんだよー!!」

ホロロホルル「(三、◇、)」グリッ

天龍「あれ…なんかこつち向いてきたぞ?」

臯月「確か凶鑑ではホロロホルルは微細な超音波を放って音や獲物の場所を感知するんだけど…後ろに獲物がいたら首をぐるりと回して背後にいる獲物を見つけてるんだつてさ」

川内「と、いう事は…もしかして私達が隠れて見てるのに気づいた?」

五月雨「そ、それってまずくないですか!？」

ザラ「や、ヤバいわよ!?!こつちに飛んでくるじゃない!?!」

グレイ「今だ!!おらーっ!!」属性解放突撃

ホロロホルル「Σ(、◇、;)」怯み

アール「よっしゃ、これでもくらえ！」超属性解放切り

ホロロホルル「Σ(×◇×;)」スタン

グレイ「ナイススタン!!もつと行くぜー!!」属性解放突き

アール「よし、もうそろそろ捕獲に移るぞ！」

黒丸「二人とも、シビレ罠を仕掛けたニヤァ!!」つシビレ罠

アール「いいぞ黒丸！」

ホロロホルル「(◇、#)三」強襲

グレイ「とうっ!!」緊急回避

ホロロホルル「Σ(×◇×;)」シビレ中

アール「ヒヤッハー!!かかったな、阿呆が!!」つ三【捕獲麻醉玉】

グレイ「もつと投げ込んでやるぜー!!」つ三【捕獲麻醉玉】

ホロロホルル「(×◇×)」スヤァ

アール「よっし、捕獲完了!!」フー

グレイ「幻惑してくる厄介なやつだったが、何とかなったな」

アール「ああ、俺達には幻は効かないぜ!!」ドヤッ

黒丸「それにしても随分と煩惱丸出しだったニヤァ」

グレイ「ま…どっかで応援して見てくれた子達のおかげだな」チラッ

天龍「ゲツ…グレイさん、こっちに気付いてやがる!？」

川内「あちやー…見つかつちやつたねー」

臯月「アーロさん、グレイさん!! かつこよかつたよ!!」

アーロ「こら、まーたこつそりと見てたのかいな。どーりでホロロホルルが急に後ろを振り向いたわけだ」

ザラ「ご、ごめんなさい…わ、私がグレイさん達が何をしているのか気になってしまつて…」シユン

グレイ「…本当は艦娘に危険が及ぶかもしれないから言わなかつたんだが、逆に気になつてしまつたのはすまなかつたな」ナデナデ

ザラ「い、いえ!! 謝るのは私の方です…!」

グレイ「いいのいいの。これで俺達ハンターがどんな事をしてるのか分かつてくれたなら構わないさ」

ザラ「グレイさん…ありがとうございます」

五月雨「大きなフクロウさんですね…」

臯月「この子は捕獲した後どうするの?」

アール「取りあえず、付近の山の方へ返すさ。ホロロホルルはもつとひと気のない山奥に生息してて、こんな街に近い溪流には現れないのだが……」

グレイ「ドボルベルクの仕業でもないしな……少し調査する必要があるかもな」

臯月「……」ジーツ

アール「臯月、この子は山へ返すのが一番だからな？」

臯月「わ、わかってるよー」アセアセ

グレイ「さて、後は本土のギルド本部に報告して、ホロロホルルを別の安全な所へ移そうか」

五月雨「何がともあれ、これで一件落着ですな！」

加賀「まあ、勝手に抜け出してきたこと以外は落着ですけどね」

川内「げえっ!? か、加賀さん!？」

龍田「天龍ちゃん、ダメでしょー。ザラちゃんを勝手に連れだしたらー」ニコニコ
天龍「げえっ!? た、龍田!？」

アール「……しやあない、臯月、五月雨。ほれ、この羽根をやろう」つ夜鳥の尾羽根
臯月&五月雨「やったー!!」

グレイ「ザラ、一緒についてくるかい？」

ザラ「え、いいんですか!？」

「こうして天龍と川内は加賀さんと龍田さんにメチャクチャ説教された」

翌日

i n 母港

ザラ「ふー…昨日はほんと驚いたわー」

黒丸「これでアーロさんやグレイさんのこと、分かってくれたかニヤ？」

ザラ「ええ、ハンターさんつてとっても賑やかで、力持ちで、頼もしいんですね」ニツ
コリ

黒丸「良かったニヤー」ホツ

ザラ「さて、今日も一日頑張ります!!」フンス

駆逐水鬼「ふー、やっと着いた」ザパア

ザラ「」

防空棲姫「島からここまで少し遠いのよねー」ザパア

駆逐棲姫「団長さんのイサナ号とか空飛ぶ船があると便利だつてウイルさんが言つて

重巡棲姫「うん！ウイルも一緒！！」

ホッポ「ウイルが来たよー！！」

駆逐イ級「キューー！！」

ウイル「おーい、黒丸ー！！今日も遊びにきたぜー！！」ノシ

ザラ「あ、あれは…！！」

黒丸「来てくれるのはうれしいけど、たまには手紙や電報を送ってから来てほしい
ニヤ」

ウイル「わりいわりい。おや？そこにいる子は？」

ザラ「あ、貴方は…全鎮守府で恐れられている伝説の深海棲艦、『妖怪ハチミツヨコセ』

!？」

ウイル「ちやうわ!？」

○2 アーロのパーフェクトオトモン教室Ⅱ 前

前回のあらすじ…出会って突然妖怪ハチミツヨコセと呼ばれた(・ω・) by
ウイル

ウイル「誰が妖怪ハチミツヨコセだ！確かにハチミツは欲しいけど！」

ザラ「な、なにが目的なの！ボス級の艦隊を引き連れて鎮守府を襲撃するなんて…そうはさせない!!」

ウイル「待って待って待って!!俺達はそんなに怪しい者じゃねえ!!」

ザラ「怪しすぎるでしょ!？」

黒丸「まあまあ落ち着くニヤ」

ザラ「く、黒丸さん!?どうしてそう冷静にいられるんです!？」

黒丸「ウイルはオイラ達の、提督の親友だニヤ」

ザラ「え、えっ?し、親友…?」

龍驤「おー、朝から何か騒がしいと思ったら、ウイルさんやないかー」

ウイル「やつほー龍驤ちゃん。お邪魔しまーす」

ホツポ「リユージュョー、遊びに来たよー!!」ノシ

龍驤「おうおう、元気でええな」ナデナデ

赤城「あらあら、誰かと思えばほっぽちゃん達じゃないの。元気にしてた？」ナデナ

デ

ホツポ「あかぎ！またレップー飛ばして!!」

駆逐棲姫「赤城さん、おはようございます！」

ザラ「ポカーン

比叡「おつ、今日も遊びに来たんだねー」

駆逐水鬼「今日はアーロさんにオトモンのお世話を教えにもらいに来たんだ」

防空棲姫「アーロさんが詳しいって聞いたからね」

重巡棲姫「間宮スペシャルも食べに来た！」フンス

龍驤「ほな、アーロさんをお呼んでくるわなー」ノシ

ザラ「あ、あのー…赤城さん、比叡さん、あの深海棲艦達は…?」

赤城「そういえばザラちゃんは初めてだったのよね」

比叡「一部の深海棲艦達はウイルさんと仲良しでさ、私達とも友好的なの」

ザラ「ええっ!」

赤城「彼女達はあの海戦で一緒に戦ってくれてイカの怪物を退治したの。ウイルさん

のお人柄のおかげで艦娘と深海棲艦達と手を取る事ができたのよ」

ウイル「いやー：そう大層なことではないさー」テレテレ

防空棲姫「とか言っちゃって。ウイルはすごい事をしたんだしもつと胸を張りなさいな」

駆逐水鬼「ウイルは私達に生きる意味も教えてくれた。私達にとって大切な人なんだ」

ウイル「えへっへー」ニヘラア

アール「そーい!!」ドロツプキツク

ウイル「ぶべらっ!?ちよ、なにしやがる!？」

アール「だから手紙か電報ぐらいよこせっての!!電報のやり方教えたのによ!!」

ウイル「うるせえ!!あれやり方かんねーから壊しちゃったよ!!」

アール「なんでだよ!?!てか今日はあれか?ハチミツか!ハチミツをまた取りに来たのか!!」

ウイル「ちやうわ!!そうだ、アール!!おまえいい加減他の艦娘達に俺を妖怪ハチミツヨコセ呼ばわりしないように伝えろっての!!全世界のゴア装備一式のハンターに謝れ!!」

アール「てめえがハチミツ大好きなのがいけねえんだろぅが!!」

ザラ「仲良し……?」

ホッポ「団長が言ってた!! 喧嘩するほど仲がいいって!!」

駆逐棲姫「あ、アーロさん! おはようございます!!」アセアセ

アーロ「おお、ほっぽちゃん達も来てたんだな。今日はお泊りかな?」ナデナデ

ホッポ「今日はオトモンのお勉強にきたの!」

アーロ「うん? オトモン……?」

ウイル「まあ話は長くなるんだが……」

― ウイル説明中 ―

アーロ「成程……オトモンのお世話に詳しいこの俺に教えてもらおうと来た、というこ
とか」

ホッポ「うん! いっぱい教えて!!」フンス

アーロ「(……) ドヤア

ウイル「こっち向いてドヤ顔すんじやねえよ」

アーロ「ふははは、任せなさい!! この俺のパーフェクトオトモン教室を受ければ君
もオトモンマスターに!」

ウイル「なんか色々混ざってんで……ぶつちやけこいつよりもクロードに教えてもらっ

た方がいいんだけどな」ボソツ

アール「：ハチミツバカ」ボソツ

ウイル&アール「おらあああつ!!」殴り合い

龍驤「まーた始まった：」呆れ

防空棲姫「なんか毎度毎度申し訳ないわね：」呆れ

ホツポ「授業お願いしまーす！」

アール「よつしや、まずは竜舎へ行こうか！」

防空棲姫&駆逐棲姫&駆逐水鬼「はーい！」

重巡棲姫「ウイル!! 間宮のとこいこ！」グイグイ

ウイル「あー、後でな。心配だから見ておかないと：」

重巡棲姫「うーうー：」ムスー

ザラ「なんだか色々大変そう：：そういうえば、グレイさんはこの事を知っているのかしら？」

in工廠

グレイ「ふー、建造がもうすぐできそうだな：」

夕張「ぐ、グレイさん：せめてこのマカライト鉱石を：」inドラム缶

曙「だからダメっていつてるでしょ!!」プンスカ

潮「か、加賀さんや大井さんに怒られちゃいますよ……?」

00:00:00〈新しい艦娘が建造されました!〉

曙「おつ、さっそく建造できたわね! グレイさん、開けてみましょう!」

グレイ「おし、このレバーを引けばいいんだな? そいつ!!」 工廠オープン!

朧「あたし、綾波型駆逐艦7番艦『朧』です。誰にも負けないよう頑張ります……たぶん」

曙&潮「」

グレイ「おつ、元気がいっぱいな子が出てきたな」

朧「えと……貴方があたしの司令官?」

グレイ「うーん、司令官っちゃ司令官だけでも一応、代理だな」

朧「???」クビカシゲ

曙「朧キター!!」

潮「朧ちゃん、やっと来てくれたんだね!」

朧「曙、潮!! 二人とも先に来てたんだ」

曙「グレイさん、ナイス!!」

グレイ「おう。俺は提督代理をやってるグレイだ。よろしくな!」

朧「よろしくお願いします！グレイさん、なんだか蟹っぽくていいですね」ニッコリ
グレイ「か、蟹…？一応…ティガレックス亜種の装備なんだけどな…」

朧「??」

曙「朧！さつそくあなたに見せたいのがあるのよ!!こつちにきて!!」

潮「朧ちゃん、きつとすぐ驚くと思うよ！グレイさんも行こー！」

朧「えっ?ど、何処行くの?」

グレイ「お?面白そうだな、俺も行くとするか!!」

夕張「わ、私を放置しないでー!!」 i n ドラム缶

i n 竜舎

アール「さて、オトモンのお世話をするに必須なのが竜舎だ。雨風を凌ぐこともできるし、季節による温度の変化に合わせて管理をすればオトモンもストレスを溜めることなくいられる。でもキッチンと綺麗にしなきゃならない」

駆逐水鬼「ふむふむ…」

ホッポ「オトモンはどんなのいるの?」

アール「アルセルタスは雪風と初霜と一緒に散歩してるから、今日はクルペッコと

ダイミヨウザザミ亜種がいるぞ。ほーら、でてこーい」

曙「臙、こつちこつち!!」

臙「ここに何がいるの：？」

潮「あ、ほっぽちやん達も来てたんだ」

グレイ「およ？こりやまた変わった子達も沢山いるなー」

ウイル「うん？初めて見るなー：誰だ？」

アーロ「そうだった、彼は提督代理で来てくれたハンター、グレイだ」

ウイル「なるほどねー。俺はウイル。クロード達の親友だ、よろしくな！」

グレイ「おうさ、よろしくな。んでその子達は……」

アーロ「彼女達はウイルの管理してる島にいる深海棲艦達の子だが、この子達はいいい子達だから大丈夫だ」

グレイ「ほほー：なかなかどうして、可愛い子達じゃないか」

ホツポ「マント、かっこいい!!」キラキラ

駆逐水鬼「マント：なかなかかっこいいな」キラキラ

ウイル「：マントがええのか（・ω・）」

防空棲姫「ウイルも十分素敵だから大丈夫よ」

曙「アーロさん！ムラサキを臙に見せてあげて！」

ウイル「おっと、そうだった。まずはオトモンのムラサキから紹介しようか。おいでー」ノシ

ムラサキ「(V)(o?o)(V)((

臃「(。ヅ。)!」

ホツポ「すごい!!でっかい紫の蟹!!」

アーロ「こいつがダイミヨウザミ亜種。赤色の原種と食性が違う事により董色の甲殻を持つ。また攻撃的な性格で動きも原種よりも活発で、高く飛び跳ねることもできるぞ」

潮「ど、どうかな臃ちゃん」

臃「:::す、す、す、すごい!!こんな大きな蟹、初めて!」キラキラ

曙「臃が物凄く輝いてる!!」

臃「えと:::さ、触っても大丈夫?」ドキドキ

アーロ「この子は大丈夫だ。ただ野生のダイミヨウザミ亜種は餌だと思い込んで襲ってくるから無暗に触らないよう気を付けるんだぞ」

臃「::」ナデナデ

ムラサキ「(V)(o?o)(V)〜♪」

朧「わっ…」アセアセ

アーロ「よかったな朧、乗せてもらえるぞ。亜種は背中にディアブロスの頭骨を背負う。まあ棲息している場所が砂漠ともいうから当然だけだな」ヨッコラセ

朧「の、乗れた…!!」キラキラ

ムラサキ「(V)(o?o)(V)((」トコトコ

防空棲姫「この蟹、前へ歩けるのね…!」

ホツポ「いいな…次乗りたーい!」

朧「えへへ…曙、潮、ありがと!!私、とっても嬉しい!!」

曙「朧が見たらすっごく驚くと思っただわー!」

潮「朧ちゃん、とても喜んでるね!」

朧「グレイさん、アーロさん!私、この蟹のお世話をしたい!!」

アーロ「二人から蟹好きって聞いたからなー。やつと会えてよかったよかった」ウン
ウン

グレイ&ウイル（どちらかと言えばヤドカリなんだけどね…）シンミリ

アーロ「そうだ、ダイミヨウザミには左の鍬が大きく肥大した大型の個体、『矛盾』と呼ばれるものもある。あれは原種よりも数倍もでかいぞ」

駆逐棲姫「ホツポちゃんと私がウイルさんと初めて出会った島に大きなのがいました

ねー」

ホツポ「ウイル!! さっそくその島に行って『矛盾』捕まえに行こー!」シイラレテイル
ンダ!

ウイル「ゴメン無理…」白目

アーロ「二つ名モンスターは危険すぎるからなー…」

朧「☆(*、ω、)☆」キラキラ

曙「朧が満足していらっしやる…」

重巡棲姫「蟹は美味しいの?」

朧「(;。∩。)!!」

ムラサキ「(V)(; ; o? o)(V)!!」

グレイ「あー…ヤオザミから取れるザザミソというのがあってだな…」

朧「た、食べちゃダメです!!」涙目

ウイル「うん、なんかごめんな」

重巡棲姫「??」

——アーロのパーフェクトオトモン教室はまだまだ続く

○3 アーロのパーフェクトオトモン教室Ⅱ 後

in 艦娘寮 教室

アーロ「オトモンを知るためにはまずは学ぶことが大事だぜ!!」E：めがね

曙&潮（なんで兜の上から眼鏡を…?）

ホツポ「この本はなに？」クビカシゲ

駆逐棲姫「辞書…?」

アーロ「最近発刊された『子供でもわかるフィールド生態全集』!! 各地域に生息するモンスターの種類や生態、習性が書かれているぜ!」

ウイル「随分とまあ分厚い本だな…重石にもなるぞこれ」

アーロ「そしてこれは『ライダー検定3級問題集』!! これと併用して勉強して行けばライダーの卵になれる!」

防空棲姫「これも結構分厚いわね…」

アーロ「さあ始めるぜ!ゼロから始めるオトモンry」

加賀「それ以上いけない」アームロック

アーロ「あがあああっ!」

グレイ「まあそうなるわな…」

アール「と、とにかくレッツスタデイ…！」ヨロヨロ

―数十分後

アール「そしてゲリヨスは天敵であるネルスキュラから逃げるためにすぐ走って逃げるよう体内に狂走エキスを蓄えているんだ」テキパキ

駆逐水鬼「ふむふむ…」メモメモ

曙「アールさん、意外に教えるのうまいわね…」

加賀「ほんと、真面目にやってくれたらいいのだけど…」

潮「分厚いけどもこの本もわかりやすいね」

防空棲姫「ホッポ、どう？ 捗りそう？」チラッ

ホッポ「プシュー

駆逐棲姫「ちよ、ホッポちゃん!? 頭から湯気が出てる!?!」

防空棲姫「知恵熱出るの速過ぎ!?!」

加賀「アールさん、少し詰め込みすぎなのでは?」

アール「まだ一時間も経ってないのに…ウイル、お前はどお思う?」

ウイル「プシュー

アール「おめえもか!?!」スパーン

ウイル「うるせえバーロー!! お前の解説じや眠くなるわ!!」

アーロ「ホッポちゃんはまだしもお前はダメだろ! 何年俺達と冒険したと思ってるんだ!!」

ウイル「ほとんどクロード任せじやボケエ!!」

グレイ「ふむ…座学も確かに大事だが、やっぱり実際に見てみないと分かんねえよな」

ホッポ「?!」クビカシゲ

グレイ「ここはフィールドワークと行きますか!」

重巡棲姫「ところでそのゲリヨスは食べれるの?」

ウイル&アーロ「!?!」

i n 溪流

ホッポ「これが溪流!!」キラキラ

グレイ「溪流は四季折々の気候によって変化しやすいフィールドだ。春にしか見られないサクラをはじめ、植物や生物にも変化があるからフィールドワークにはもってこいさ」

ホツポ「ここで何をするの？」

グレイ「ペンとスケッチブックでスケッチだ」

曙「描くものは何でもいいのか？」

グレイ「小さいものから大きなものまで何でもOK。そこら辺に生えている苔や沢に
いる小さな巻貝、そこに生息するものすべてが貴重な情報源だからな。それに観察する
というのもいい訓練になるぞ」

朧「よし…頑張る！」フンス

暁「れでいに相応しいものをスケッチするわ！」フンス

雪風「雪風、頑張つて描きます！」

加賀「駆逐艦の子達ははぐれない様にしてくださいね」ノシ

防空棲姫「なんでもスケッチというのも難しいわね…」

重巡棲姫「…」ジュルリ

ガーグア「Σ(；。⊖)」ビクリ

ウイル「うん、ガーグアを見てこんがり肉を描くのはやめような」

重巡棲姫「えー…」

島風「できたー！」

グレイ「はやっ!？」

島風「私はスケッチするのも速いの」フンス

グレイ「どれどれ…ん？円を描いただけ…？」

島風「あそこの岩をスケッチしたの!!どう?速いでしょ!」ウキウキ

グレイ「うん…まあ…いつか」

卷雲「グレイさーん、できましたー!」パタパタ

グレイ「おつ、どんなの描いたんだ?」

卷雲「向こうで美味しそうにハチミツを食べている青い熊さんを描いたんですよー

!!」

グレイ「うん…めっちゃ可愛く描いてる!これも良しとしましょう」

ヴェールヌイ「グレイさん、私もアオアシラをスケッチしたよ」

グレイ「…ペンで描いたんだよね?」

ヴェールヌイ「??」クビカシゲ

グレイ「まるで水墨画…よしとしよっか」

ヴェールヌイ「ハラシヨ」

ホツポ「うーん…」悩み中

グレイ「難しく考えなくてもいいんだぞ?」

ホツポ「なんかカツコイイのスケッチしたい!」ムスーツ

グレイ「カツコイイのかー…ちよつと待つてろ」つ 双眼鏡
ホッポ「???'」

グレイ「えーと…おつ、いたいた。アール、ウイル！ちよつといいか？」

ウイル「おつ、なんか見つけたのか？」

アール「嫌な予感がするんだけど…」

グレイ「ほら、双眼鏡で覗いた先に見えるか？」

ウイル「どれどれ…おお、あそこに見えるはドボルベルクだな」

アール「まだまだ若い個体だな…丁度食事中つてところか」

グレイ「あそこにドボルベルクがおるじやろ？」ニツコリ

ウイル「…えつ」

アール「…えつ」

数分後

グレイ「どうだ？ 捗つてるかい？」

ホッポ「うん！ あれもカツコイイ!!」キラキラ

駆逐水鬼「ホッポが楽しそうで何よりだな」ウンウン

雪風「グレイさん、できました!!」

グレイ「どれどれ…おお、うまく描けてるじゃないか」

雪風「はい!アーロさんとウイルさんがドボルベルクさんと遊んでる所を描いてみました!」キラキラ

加賀「あら、いいですね。執務室に飾っておきますか」

アーロ「うわあああつ!」緊急回避

ドボル「(皿) (三) 突進

ウイル「武器ナシでドボルとか馬鹿じゃないの!」

ドボル「(皿) (皿) /」高くジャンプ

アーロ「やつべえ!!ダイブしてくるぞ!!」

ウイル「ちよ、早く逃げろおおつ!!」

ドボル「三(皿)三」ボディプレス

アーロ&ウイル「あひいいいっ!」(三) (皿)

ウイル「チーン

アール「チーン

加賀「お二人とも、ご苦労様でした」

グレイ「二人のおかげでみんな一生懸命にスケッチできたぜ！」ニッコリ

ウイル「お褒めの言葉として受け取ろうか…」（#、ω、ω）ピキピキ

アール「次はお前がやれよ…」（#、ω、ω）ピキピキ

ホツポ「おかわり!!」つお茶碗

赤城「うふふ、よく食べますね。私も負けてられません!!」つお茶碗

飛龍「あ、赤城さん、そこまで張り合わなくてもいいんですよ…」

重巡棲姫「お肉!!お肉!!」（*、ω、ω）

ヨモギ「慌てなくてもおかわりは沢山あるニヤ」

防空棲姫「貴女は野菜も食べなさい」

重巡棲姫「えー」

加賀「…他の深海棲艦達もこう艦娘達と仲良くできたらいいですね…」

アール「そうだな…今は戦つてるところもあるけども、いつか一緒に手を取る日がく

るさ」

ウイル「そんな時は俺に任せておきなつ」ドヤツ

アーロ「お前の場合だと色々不安だ」

ウイル「ああ?…そうだ、ちよつとギルドに通してほしいことがあつてな」

アーロ「うん?お前がそう俺に頼み込んでくるのは珍しいな。何か島で起きたのか?」

ウイル「いやまあ…島で冒険をしたら…:テイガ希少種がいるかもしれないことが分かつて来てき…」

アーロ「(。 ㇿ)」

グレイ「マジで…?」

加賀「?それって不味いことなんですか?」

グレイ「テイガレックス希少種は『大轟竜』とも呼ばれ、体格も大きく、力も原種や亜種よりも強く凶暴なんだ。目撃情報が少なく、生態もそこまで詳しく明かされていないからな、大発見でもあり緊急事態でもあるんだ」

アーロ「わかった、ギルドに伝えておく。でも俺達も今は手伝うことができないんだ」
ウイル「そつちもなんかあるのか?」

アーロ「今日の電報でな、大本営から『光作戦』の実行の通達が来たんだ。俺達も出撃することになったし補給地点の安全の確保かつ溶岩島の調査もある」

ウイル「お互いてんやわんやだな…クロードがいたら『そこは俺に任せよう（キリッ）』って言うと思うんだよな」

アール「ぷぷっ…ちよつと似てたぜ」クスクス

ウイル「『ハチミツください（キリッ）』

アール「ぶっ、あはははは!!」バンバン

加賀「…提督が戻ってきたらチクっておきますね」

アール&ウイル「すみませんでした」土下座

グレイ「…」

加賀「グレイさん、何か考え事ですか？」

グレイ「ああいや、冒険と聞いてちよつと昔を思い出しただけ」

ウイル「たしか間違つてなきやグレイのお爺さんはとても有名な冒険家だと聞いたこ

とがあるんだが…」

グレイ「ああ。俺の爺さんは冒険家だ…俺がまだガキの頃に亡くなったけどさ」

ウイル「その人の書いた冒険譚の本はすつごく面白くてな、俺が冒険家になろうと

きつかけになつたんだ」

グレイ「爺さんが生きてたら喜んでくれただろうな…」

ウイル「でもある時期を境に冒険の本を書かず、ひたすら海に出て何かを探してい

たつて聞いたんだ」

グレイ「……爺さんは亡くなる前日に俺に教えてくれた。爺さんが海に出るきっかけになったものについて家族にもギルドにもハンター達にも話しても誰も信じてくれなかった。自分でそれは本当だと証明しようとした一人で海に出て探していたんだつてさ」

ウイル「その……お爺さんが見たものとは……」ゴクリ

グレイ「……教えてあげないよー」テヘペロ

ウイル「てめこのやろっ!!」プンスカ

グレイ「爺ちゃんの遺言でな『誰にも話すなよ☆』つて言われてるからな!」

アーロ「お前の爺ちゃんめっちゃやんちゃだろ!」

——翌日

i n 母港

ホツポ「とつても勉強になった!」フンス

駆逐棲姫「色々教えてくださりありがとうございました」ペコリ

アーロ「まあ楽しんでもらつてなによりだぜ。これを機に沢山学んで素敵なオトモン

ライダーになるんだぞ！」

ホツポ「うん、頑張る!!」フンス

ザラ「また遊びに来てね。とても楽しかったわ」

ウイル「次はちゃんと電報で伝えておくからさ」

アール「また壊すんじゃないよ？」

防空棲姫「こ、こんどは大丈夫よ」

グレイ「はいこれ、鎮守府内のお庭で採れたお野菜とハチミツな」つ紙袋

重巡棲姫「わーい」(*、ω、)

ウイル「そんじやま、また遊びにくるぜー!!またな!!」ノシ

アール「いつでもこいよー!!」ノシ

大淀「いつも喧嘩してる感じがするけどもやっぱり仲が良いですね」ウフフ

加賀「アールさんが一気に3人になった気分でした」ヤレヤレ

長門「むっ!!もう行ってしまったか」グヌヌ

ザラ「な、長門さん?その両手に持つてる紙袋は…」

長門「これか?遊び道具とかおもちゃとか…もつとホツポちゃん達と遊びたかった

!」クワツ

大淀「…全員が駆逐艦の深海棲艦の子達でしたからね…」
ザラ「…いい、一応、ビッグセブンなのよね…？」

i n 島

ウイル「…うん、確かに竜舎が欲しいって言ってたけどさ…」

戦艦水鬼「すまん…色々とやっただが…」シヨンボリ

南方棲鬼「試行錯誤して頑張ってみただが…」シヨンボリ

軽巡棲鬼「これが限界だったわ…」シヨンボリ

ウイル「これ、明らかに犬小屋ですよー…」

集積地棲姫「だから言ったじゃん！」プンスカ

戦艦棲姫「こ、今度はプロの人達を呼んでやるわね…」

港湾棲姫「ホツポの石像はできた」フンス

ホツポ「やったー!! さすがお姉ちゃん!!」キラキラ

△3 ベルナでゆっくり、次なる街へ

前回のあらすじ…ベルナへ里帰りをした提督。妹にサプライズで結婚報告したら分厚い本でぶたれた。

セリナ「兄さん、あれほど言いましたよね？せめて手紙とかで知らせてくれって」ゴゴ

提督「チーン

霞「あわわわ…し、司令官!？」

セリナ「砂漠で遭難した時といい、セルレギオスの討伐で大怪我した時といい、起きてから知らせるんじゃないかって事前に知らせてって言うてるじゃないの!!」

提督「あ、あははは…い、いわゆるドツキリをさせようと思って…」テへへ

セリナ「もう一回ぶたれたいですか？」

団長「まあまあ、そう怒らないでくれ。クロードも結構忙しくて知らせることができなかつたんだ」

セリナ「もう…あちらのギルドから聞いてます。オストガロア変異種の討伐をなさつ

ていたと。兄さん達はホント無茶苦茶をするんだから」

ジン「怒られてやんのー」 m9（ハハ）プギヤー

木曾「お、驚いたな…まさか提督に妹がいたなんて」

金剛「しかも提督と同じぐらいアグレッシブデース…」

提督「ま、今日は何年ぶりかの里帰りだからさ、大目に見てくれよ」

セリナ「まったく…お帰りなさい、兄さん。父さんと母さんにもちゃんと言うのよ？」

提督「おー」ノシ

明石「ほんと兄と妹って感じですね…」

ベル「うちの提督がやんちゃだから、セリナちゃんはしっかり者なんだよね」

提督「ささ、皆コツチだ。我が家へご案内するぞー」

セリナ「ほんと反省の色を見せてない…」ヤレヤレ

瑞鶴「た、大変そうね…」

in 龍歴院

鹿島「すごい…!!これ全部石造りなんですか…!!」

不知火「人の出入りがすごく多いですね…」

提督「龍歴院の屋上では飛行船が停泊しているからな。ユクモにタンジア、それにド

ンドルマからこの龍歴院やベルナの街にくる人で溢れている」

ジン「本土でいうと港のようなもんだ」

金剛「所謂ターミナルというわけデスね！」

弥生「飛行船饅頭…ペナントも売つてある」

カテイ「研究機関で訪れる人の他に観光で訪れる人もいますからね。その方たち向けにお土産も売られているんですよ」

提督「この飛行船受付場から右の通路を渡ると…ここが龍歴院の研究機関本部だ」

霞「あちこちに本棚やら幾つもの部屋が…こつちもこつちで人であふれてるわね」

提督「むむ？今日はやたらとドタバタしているな…」

ドタドタドタ…

木曾「あれ？なんかヒゲダンスしてそうな小つちやいオジサンがこつちに向かって走つてきてるぞ？」

瑞鶴「しかも物凄い勢いでこつちに來てるわね…」

???'「クロオオオドオオオツ!!」ダイレクトアタック

提督「ふべしっ!?!」.. . (ε ° (c 三

霞&弥生「し、しれいかーん!?!」Σ (; 旦、 (

瑞鶴「提督、よく吹っ飛ばされるわね…」

??? 「このつ、バカ息子が!!ギルド本部から聞いたぞ!!見たこともないオストガロア変

異種とやらを討伐したと…あれほど無茶をするなど言っておろうが!!」 プンスカ

提督「あ、あはは…心配かけてごめんよ、父さん」

クロードの父親「団長殿や、ほかの友達に迷惑かけていないよな!…む、その子達は
?」

提督「父さん、彼女達が此間手紙で書いてた『艦娘』達だ」

クロードの父親「おお…バカ息子がいつも迷惑をかけてすまない」

明石「迷惑どころか、いつも提督達に驚かされています」ニガワライ

金剛「ちよび髭の似合うダンディなパパさんデスね」

クロードの父親「ふむふむ…」ジーツ

木曾「あ、あの…な、何か?」アセアセ

クロードの父親「中々のカツコカワイイお嬢さんだな…昔結婚する前に現役ハンター

だった母さんに似ておる…」ジーツ

木曾「あ、あの…」アセアセ

ドドドドド

鹿島「あ、今度は女性の方がものすごい勢い走って来てますね…」

不知火「背も高くスタイルもいい人ですね…」

??? 「真昼間から何ナンパしてるのあんたはああああっ!!」ダイレクトアタック

クロードの父親「ひでぶっ!」。..。(。ε。(c

提督「おやじいいいっ!」Σ(； 皿、)

クロードの父親「ご、ごめんよ母ちゃん…つい」テヘヘ

クロードの母親「ついじゃないでしょ!!こんな忙しい時に何をしてんのよあんたは

!!」プンスカ

クロードの父親「す、すいません…」(。・ω・、)

提督「か、母さん…た、ただいま」

クロードの母親「あ…クロード!!おかえりなさい!」ギョツ

提督「あ、あはは、久々に帰ってきたよ」

クロードの母親「すこし背が伸びたかしら?あっちではちゃんとご飯食べてる?他の

子達に迷惑をかけてない?あとそれから…」

提督「か、母さん。大丈夫だからさ」アセアセ

クロードの母親「あ、あの子達があなたが手紙で書いてた『艦娘』なのね。どうもク

ロードの母です」ペコリ

瑞鶴「ど、どうも…提督達はほんと色々な意味で凄いです」アセアセ

霞「司令官の家族ってほんとに賑やかね…」

クロードの母親「あら？あなたその指輪…クロードと同じ指輪ね」

霞「え、えつと…」テレテレ

提督「か、母さん、父さん。実は…彼女とケツコンしました」アセアセ

クロードの両親「」

ジン「そりや、驚くわな…」ニヤニヤ

ベル「しかも手紙で知らせてないからもつと厄介だよねー」ニヤニヤ

団長「うん、一応お前達もある意味人のこと言えないのでは？」

クロードの父親「まじでかあああつ!!」ハイキツク

提督「あぶねっ!」ガード

クロードの父親「お前マジでか!?!あの子どう見てもお前と年齢幅すごく開いてるぞお

い!!」ギヤーギヤー

提督「見た目はね!!でも大丈夫、幼な妻だからダイジョーブ!」ギヤーギヤー

クロードの父親「おさなつ…誰だ!!うちの息子に変な事を吹き込んだのは!!」ギヤー

ギヤー

明石（アールさんエ…）

不知火（アールさん、つみましたね）

クロードの母親「…」ワナワナ

霞「あつ…」

クロードの母親「おめでとおおおつ!!」ダイレクトアタック

クロードの父親「ぬわーっ!?!」…(ε。(c

提督「ぱぱすっ!?!」。(3。(…

霞「司令官の家族、賑やかすぎ…」

クロードの母親「ホントはもつと盛大に祝いたかったけども今は色々忙しくてごめんなさいね」

提督「いいんだ、ありがとう母さん」

ニャンコック「今日はお祝いとしてミーの大判振る舞いですニャー」

金剛「ワーオ!! チーズアラカルトにチーズフォンデュに、ピザに、チーズ尽くしデース!!」

ジン「ワインも飲み放題か…!!」ヒヤッハー

瑞鶴「ジンさん、飲み過ぎないようにね」

セリナ「ほんと兄さんがケツコンしたと聞いて、驚く事ばかりだわ」ヤレヤレ

クロードの父親「ねえ、艦娘ってみんなかわいいの?」

クロードの母親「あなた？」ニツコリ

クロードの父親「嘘ですごめんなさい」

セリナ「久々に家族そろつての御飯だし、兄さんもゆっくり休んでね」

提督「ああ、久々の里帰りだし少しゆっくりするよ」

霞「…」

クロードの母親「ほら、あなたも遠慮しなくていいのよ」

霞「え、えっ？」

クロードの父親「突然の事で少々驚きを隠せないのが、あのやんちゃ息子の傍ですつといてくれてありがとう。あいつが遠い国へ行くと聞いた時は心配したんだが…お前さんのようなしっかりした子が奥さんなら大丈夫そうだな」

霞「…私も最初は少しおかしな人だなど思っていました。でも、司令官は誰よりも私達艦娘を大事にしてくれて、戦うこと以外に大事な事を教えてくれました。私はそんな司令官が大好きです」

提督「」ニヘラア

霞「ちよ、司令官!?!こつちを見ながら変な笑顔をしないでよ!!」

提督「まったく、可愛い奴め!」ナデナデ

霞「やーめーなーさーい!!」プンスカ

明石「甘いわー…チーズが甘くなるわー」

金剛「辛口のワインも欲しくなりマース」

クロードの父親「これなら心配なさそうだな…」

団長「ところで、龍歴院では何か大忙しだったんだが何かあったのか？」

クロードの父親「うむ…ある古龍の解析で大忙しでな」

セリナ「最近目撃されるようになった、『天慧龍』バルファルクの被害が各地で激しいの」

ジン「伝承でしか詳しいことが伝わっていない古龍か…」

クロードの父親「奴は地上に降りて暴れるほかに各地を渡る飛行船にも襲い掛かってきておつてな、ベルナの飛行船が中々飛び立つことができなくて大変になっておる」

クロードの母親「バルファルクの動向について、龍識船や各地の古龍観測所と連絡を取り合つて探っているのだけでも…相手は彗星のような速さで空を駆ける古龍。クシャルダオラやシャガルマガラと違つて見つけるのが困難なのよねえ」

セリナ「今はハンターやライダー達にバルファルクの調査の依頼を出しているのだけどそれでも手強い」

提督「クシャヤテオとは違う手強さがあるようだな…よし、バルファルクの調査、俺

も受けよう」

金剛「Oh!?!提督もやるのデスカ!?!」

ジン「元々はバルファルクの調査が目的でこっちに戻ってきたんだからな」

木曾「つい目的を忘れるところだった」

クロードの母親「頼もしいけど、油断は禁物よ。熟練のハンターだって追い返されるほど、バルファルクは凶暴と言われているわ…でも、今日はそれを忘れて寛いでね」

―数十分後―

ジン「…おかわり」

瑞鶴「だからジンさん、飲みすぎだつてば!?!何杯目よ!?!」

鹿島「ベルさああん!!もしバルファルクとの戦いで大怪我をしたら、私、私…!!」泣き上戸

ベル「しまった。鹿島は酔うと泣き上戸になるんだつた…」

セリナ「兄さん?だからあれほど早く知らせろと言ったじゃないですか…」クドクド霞「うふふ、しれーかん♪」酔ってる

提督「…不知火、助けて」

不知火「すみません、不知火では無理の様です…」

クロードの母親「あらあら、すこしお酒が強すぎたのかしら?」ウフフ

クロードの父親「うん、飲み過ぎはいかん」

霞「頭痛がするわ…」ズキズキ

鹿島「き、昨日は飲みすぎました…」ズキズキ

ベル&提督（もう二人にお酒を飲ませるのはやめよう…）

セリナ「古龍観測所から連絡が来たわよ。今のところバルファルクの飛来は見られないから今の時間帯なら安全に飛行船の飛行ができるわ」

クロードの母親「未だにバルファルクの目撃がないユクモ、多くの輸送船が停泊しているタンジア、ライダーとハンターが集う街ギルデガン、そしてバルファルク対でギルドと連携をとっているドンドルマ行きがあるわ」

ジン「これまた色々分かれたな」

提督「そうだな…皆は何処に行ってみたい？」

弥生「ライダーのいるギルデガンに行ってみたいです…」

瑞鶴「私はユクモに。温泉とかどんなのかみてみたいわ」

木曾「俺はタンジアに行きたいな。海もあるし、どんな海なのか知りたいな」

不知火「私はドンドルマを希望します…かしゆみはどうですか？」

霞「うがーっ!!」ダッ

不知火「おそいっ」ダッ

団長「ふむ…まずはタンジアへ行ってみるか？最初にバルフアルクの被害が出た地域だ」

提督「アグルもあそこで頑張ってみるみたいだし、会いに行ってみようか」

ジン「調査も兼ねて行くか。あそこにはタンジアビールもあるしな」ウンウン

瑞鶴「もう、ジンさん飲みすぎ」

木曾「やったー!! 元気な海なのか楽しみだな」

弥生「アグルさん、元気にしてるかな…」

クロードの父親「行くのか…クロード、気を付けて行って来い」

クロードの母親「また霞ちゃんと一緒に遊びに戻って来てね。母さんや父さんは貴方が元気で、幸せに頑張ってるの応援してるから」

提督「ああ…父さん、母さん、セリナ。また来るから」

セリナ「今度はちゃんと手紙で知らせてよね」ニッコリ

クロードの母親「もしかしたら今度はおめでたで帰ってくるかしらね」ウフフ

提督&セリナ&クロードの父親「ぶっ!!」

霞「??」クビカシゲ

団長「よし……いつでもイサナ号発進できるぞー！」

ニャンコック「クロードさん、また来てくださいニャ。礼儀正しくチーズフォンデュを食べてくれるハンターはクロードさん達だけですからニャ。いつでも歓迎するニャよ」

カティ「クロードさん!!また帰ってくるのを楽しみに待ってますから!お気を付けくださいねー!!」ノシ

提督「ああ、カティ、ニャンコック。また来るからな。それじゃあみんな行ってきまーす!!」ノシ

団長「さあイサナ号発進!次の目的地はタンジアだ!」

◇4 光作戦開始!!

in 執務室

アーロ「ついに来た…いよいよ光作戦が開始される」ドヤア

グレイ「えーとこれが所謂イベント海域っていうやつ？」

大淀「そうですね。各時期に行われる全鎮守府が出撃する大規模作戦です」

初月「先の海戦を加えてこれで2回目の出撃になるね」

グレイ「ほほ…それって結構大変なのか？」

天龍「ああ！大規模ってことだから深海棲艦も強敵だし、その海域の攻略も難関だ。

資材も結構消費するし、練度も上げなきゃならないんだぜ」

グレイ「なるほど。どうりでみんな張り切っているわけか」

アーロ「それに俺達ハンターは補給地点や泊地の安全の確保、襲撃してくるモンズ

ターの撃退もやらなきゃなんねえ」

加賀「今回も大忙しになりそうですね」

アーロ「まあな。例の溶岩島の方も何やら怪しい雲行きだし…」ヤレヤレ

ザラ「？何かあったのですか？」

グレイ「観測所から溶岩島のマグマの活動が急激に活発になったと同時に、その周りの島々でも噴火活動が突如起き始めた」と報告が来たんだ」

アール「それで、その周りの近海にいた船や敵艦隊の偵察に来ていた艦隊が『衝撃波みたいなもの』の被害に遭ったとも。溶岩島だけじゃない、他の島々や船にも影響が出始めた」

ザラ「しよ、衝撃波？そういう事ってあるんですか？」

アール&グレイ「あるわなあ：：」遠い目

天龍「つくづく提督達の故郷ってなんでもあるんだなって思うぜ：：」

加賀「もう最近は慣れました」

アール「ともかく、俺とグレイは指揮を行いつつ溶岩島への調査にも取り掛かる。攻略に向けて、皆準備をしてくれ」

天龍「つしやあ!! 出撃や支援、バケツ補充の遠征、なんでもかかってきやがれ！」

初月「それじゃアールさん、最初の海域の編成を組んでいこう」

アール「よし、まずは手始めに戦艦6隻で圧倒的パワーをry」

加賀「第一作戦は戦艦の出撃はできませんよ」

アール「ファッ!？」

天龍「てゆうかどんだだけ戦艦推しなんだよ!？」

初月「さ、最初は輸送作戦だからね。そこまで派手にしなくてもいいんだよ」ニガワライ

アール「そんなんー」(・ω・)

加賀「というか真面目にやってください」スパーン

アール「ゴメンヌ!?!」(3。)..:

グレイ「よし、俺は改修とやらを手伝ってくぜ」ノシ

in工廠

夕張「ふふふ、ついに来たわね! 大きな海戦に備えて大規模強化していくわよ!!」フンス

ザラ「ず、随分と張り切ってますね…」

夕張「大きな戦いとかはよくジンさんとアールさんがやらかし…ゲフンゲフン、近代化改修をよくやってたからね。私としても腕がなるわ!」

ザラ「今ちよつとまずい事言いかけましたよね!?!」

グレイ「それじゃ取り掛かるとするか。最初の人、どーぞ」

龍驤「トップバッターでもう不安だらけなんやけど…」

グレイ「それで…近代化改修って何するんだっけ?」

ザラ「艦隊の装備や資材や素材を使って艦娘達の艦装の性能を上げたり、改二へと改

良させていくんです」

龍驤「改二になるには練度がある一定以上に達する場合と設計図が必要な場合もあるんや。ま、まあ例外もあるんやけど…」

グレイ「ふむ…『素材』、ねえ…」

龍驤「あかん、これ絶対アカンやつや」

夕張「グレイさん、私のおススメの改修があるんですが…」ヒソヒソ
グレイ「おつ、それいいな！それじゃあそれを頼むぜ」

龍驤「ほ、ホンマに大丈夫なんか!？」

夕張「そうと決まれば…アイルー総動員よ!!カモン!」ピーツ!

アイルー達「ニヤーツ!!」ドドドドドツ

龍驤「どこからともなくアイルーの軍団が!?!ちよ、うちを連れてどこ行くねん!?!ちよ、やめ…あーれーっ!!」

ザラ「」ポカーン

グレイ「じゃ、次」

ザラ「いやダメじゃないですかこれ!?!」

夕張「グレイさん、大規模作戦に備えて建造もしておきませんか?」

グレイ「ふむ…やってみる価値はあるな」

ザラ「お、大型建造はダメですよ！イベント海戦はかなりの資材を消費するんですからね！」

グレイ「分かっているさ。夕張、何かおススメはあるか？」

夕張「そうと決まれば私に任せてください！」フンス

ザラ「あ…なんかまずい気がする…」

グレイ「それじゃあ空母のレシピで…」

妖精さん達へ合点承知の助！

9 : 0 0 : 0 0

ザラ「」

グレイ「あ、なんかすごい時間になったな」

ザラ「どうやったたら普通の建造で9時間もかかるんですか!？」

グレイ「夕張、何入れたんだ？」

夕張「コスモライト鉱石に、獄炎石に、エルトライト鉱石を2000ずつです！」ドヤア

グレイ「わお。すげえな」

ザラ「大井さーん!!私じゃ止められませーん!!」

大井「夕張!!またやらかしたの!？」ガタツ

夕張「だ、大丈夫ですよ。さき、グレイさん、高速建造材を使って完成させましょう

!

大井「もう…グレイさん、少し夕張には厳しく言ってくださいよ」

グレイ「まま、こっちの素材を入れたらどうなるか気になるからさ。ちよいつと試してみようぜ」

大井「嫌な予感しかないのだけど…」

工廠オープン！

葛城「雲龍型航空母艦の三番艦、葛城よ！正規空母として一番の働きを…つてあれ…？」

大井&ザラ「」

夕張「（……）」

グレイ「…うん？これってすごいのか？」

ザラ「え、えええっ!?なんで建造できるんですか!？」

大井「はい夕張アウター」ガッ

夕張「ちよ、まっ」

葛城「あ、あの…あなた、提督なのよね？鎧を纏った提督って初めてなんだけど…」

グレイ「まあ提督代理ってやつだ。えーと航空母艦だっけ？ようこそ、我らの鎮守府へ」握手

葛城「ふふん、任せておきなさい！ある意味一番だからね！」

in 執務室

葛城「つて、いきなり大規模作戦なの!？」

アーロ「みんな準備ができてきたようだな…」

葛城「てかこの人も鎧だし、この鎮守府はどうなってるのよ…」

グレイ「そっちは進んだ？」

アーロ「編成超ムズイ」プスプス

加賀「今作戦は輸送作戦、前哨戦、連合艦隊による攻略とかなり複雑の様ですからね。この戦いの要は輸送作戦にあります」

初月「最初は光作戦準備。潜水艦6隻、もしくは対潜を兼ねた水上艦隊の編成がいいと思うよ」

大淀「後は基地航空隊や支援艦隊を組んで支援を送ってみましょう」

アーロ「おし…第一作戦の編成は、初月を旗艦に利根、五十鈴、夕張、ヴェールヌイ、暁の6名で行こう」

ザラ&グレイ「あっ…」

利根「久々の出撃と聞いて駆けつけて来たぞ!!」ドヤツ

五十鈴「久々の出番ね!張り切っちゃうわよ!!」

暁「ふふん、れでいにお任せよ!」

初月「あれ…?夕張さんは?」

グレイ「…:」♪く(ε、;)

ヴェールヌイ「??」クビカシゲ

アール「さあ皆!!久々の出撃だ!!張り切っていこうぜ!!」

艦娘達「おおーっ!!」

葛城「あ…夕張さんってさつき…」

ザラ「うん…」遠い目

i n 本土近海

暁「さあいつでもかかって来なさいな!」ドヤア

利根「今の吾輩達は超ハイテンションなのじゃ!」ドヤア

ヴェールヌイ「深海棲艦の強襲があるかもしれない。油断は禁物だよ」

初月「そうだね…あたりを警戒して行こう」

五十鈴「…で、夕張。なんであんたはドラム缶にinしてるのよ」呆れ

夕張「お、大井さんに文句を言ってくださいよ！まさか私が出撃するなんて思ってたんですからー!!」indドラム缶

ヴェールヌイ「まるで箱ガンダムみたいだね」

暁「夕張さん、かつこいいわ!!」キラキラ

夕張「も、もーっ!!」ヒーン

利根「むっ！向こうから敵艦隊の艦載機が見えてきたぞ！」

五十鈴「最初は空襲ね…!!みんな回避に専念して!!」

初月「よし…!!ここは僕の出番だ！長10cm砲、砲撃開始!!」対空カッターイン

長10cm砲くんへキューツ!! ババババツ

敵艦載機A<キウイ!? 撃墜

敵艦載機B<ナツパ!? 撃墜

敵艦載機C<ラディツツ!? 撃墜

五十鈴「初月、いい感じよ!!」

利根「後は残りの敵艦載機の空襲を回避するだけじゃ！」

敵艦載機D<トマトツ!! ババババツ

敵艦載機E<ヤーコンツ! ババババツ

暁「おっとつと…もう!!危ないじゃないの!!」プンスカ

夕張「ど、ドラム缶じゃなかったら被弾してた…」ドラム缶ガード

五十鈴「おおいっ!?それ輸送物資!!」スパーン

ヴェールヌイ「空襲は回避できたね」

アール『よし、このまま進撃してくれ!あと潜水艦には気を付けるんだぞ』

初月「ああ、任せてくれ。このまま行こう」

暁「さあ次行くわよ!!」フンス

利根「今の吾輩達を止める事は出来んぞ!!」フンス

五十鈴「あ、コラ!そう進んで行くと…」

ヴェールヌイ「!!気を付けて!」

利根「ひやあつ!?!ぎよ、魚雷が来ておったのか…危なかったー…」回避

暁「こ、これも予想のはんちゅうよ!!」アセアセ

五十鈴「もう、しばらく出撃が無かったからなまってるんじゃないの?」

ヴェールヌイ「敵の潜水艦を探すよ」つソナー

夕張「さーて、何処に潜んでいるかしら?」

潜水力級A「敵の潜水艦を発見!」

潜水力級B 「ダメダ!!」

潜水力級C 「ダメダ!!」

潜水力級A 「ダメカー…」 魚雷発射

ヴェールヌイ「無駄だよ。見つけた…!!」 つ爆雷

潜水力級B 「キャベツ!」 c r i t i c a l ! 撃沈

五十鈴 「さあ、やっちゃうわよ!!」 つ三【爆雷】

潜水力級A 「レタスツ!」 c r i t i c a l ! 撃沈

夕張 「よしこれで…あつ、これドラム缶だった。こつちね!」 つ三【爆雷】

潜水力級C 「ベジタブルツ!」 c r i t i c a l ! 撃沈

利根 「よし、大勝利なのじゃ!」

暁 「どう!! すごいでしょ!!」

五十鈴 「あんた達ずつとはしやいでいるだけじゃないの…」

— 進撃中 —

暁 「ふふん、順調ね!」

ヴェールヌイ「敵艦隊の遭遇も少ないね…」

五十鈴 「そうね…先のイカの怪物との戦いからしばらく経って、深海棲艦による本土

近海への襲撃は見られなくなったし」

初月「このまま静かな海になればいいね…」

利根「そうなるといいのう…む、瑞雲が敵艦隊を見つけたようじゃ!」

夕張「やつぱり油断は禁物の様ね…!!」

利根「敵は軽巡1隻、駆逐艦2隻、それから…むむつ!!潜水棲姫じゃと!」

五十鈴「さつそく姫級のおでましつてわけね…皆、気を付けて!!」

潜水棲姫「ウフフフ!!キタノネエ…!!エモノタチガ!!」魚雷発射

利根「ふぎやつ!?ぬう…や、やるではないか…」中破

暁「よし。暁の出番ね、見てなさい!!」つ三【爆雷】

潜水棲姫「キヤアアツ!?ヤメテヨ…!!」critical!小破壊

夕張「おらーっ!!爆雷祭りだーっ!!」つ三【爆雷】【爆雷】

潜水棲姫「ヒ、ヒドロー!!覚エテイナサイヨ…!!」critical! 撃退

軽巡へ級「アツガイッ!!」ドーン!

五十鈴「つと、こんなものへでもないわ!!」ドドーン!!

駆逐イ級A「ケンプファアアツ!?」critical!撃沈

初月「砲雷撃戦、いくぞっ!」ドドーン!

駆逐イ級B「ビグロツ!?」critical!撃沈

ヴェールヌイ「いくよっ」ドーン!

軽巡へ級「ザクレロツ」hit!

利根「わ、吾輩だつてやれるんだぞー!!」ドドーン!

軽巡へ級「エルメスツ!」critical!撃沈

初月「よし!敵艦隊撃退!このまま突き抜けていくよ!!」

ヴェールヌイ「Ha!!」

利根「いけいけいけんぞん!!」

暁「れでいの進撃ね!任せておきなさい!」

夕張「ちよ、まつ待ってー!!私だけドラム缶を背負ってるんだけどー!」

五十鈴「もう、ほら行くわよ!」

inゴール地点

利根「到着したぞ!被害は少なくすんだようじゃな」

暁「えっへん!やればできるんだから!」フンス

夕張「ふー…やつとドラム缶を背負わずにすむわー」コタコリ

ヴェールヌイ「これなら早く攻略できそうだね」

五十鈴「あら?あそこに見えるのは…おーい!」ノシ

伊19「うん？イクに御用なのね？もしかして鎮守府の艦隊なのね！」

五十鈴「ええ。もしよければ、私達の鎮守府に来ない？」

イク「うーん…その鎮守府の提督は素敵な人？」

利根「勿論じゃ！吾輩達の提督（代理）は超絶イケメンじゃぞ！」ドヤア

五十鈴「えっ」

暁「しかも紳士の中の紳士なのよ！」ドヤア

五十鈴「えっ!？」

イク「うふふ…面白そうなのね！イク、一緒に鎮守府に行くの！」ワイイ

五十鈴「イケメン？…紳士？」

夕張「提督ならまだしもアールさんとグレイさんは…うーん…」

初月「だ、大丈夫だよ！そ、そうだ、アールさん、一回目の出撃は成功したよ！」

黒丸『ご苦労様ニヤ。ひとまず鎮守府に戻ったらゆっくり休むニヤ』

イク「ニヤ…？その鎮守府の提督って猫なの？」クビカシゲ

ヴェールヌイ「あれ？アールさんとグレイさんは？」

黒丸『二人なら先ほど第二海域への補給地点で緊急事態が起きたようだからそこへ急

遽向かったニヤ』

初月「そこで何かあったの？」

黒丸『補給地点に強固な装甲を持ったバカでかい虫のような怪物が襲撃してきたと電報が来たのニヤ』

五十鈴「む、虫!？」

初月「アール口さん、早速頑張ってるね…よし、僕達も頑張ってこの海域を攻略しよう！」

利根「そうじゃな！早く作戦を遂行してアール口さん達の所へ駆けつけるぞ！」

in 小笠原諸島海域、第二補給地点

アール口「あらま…思った以上に荒らされてるな」

グレイ「急いで駆けつけて来たが…被害は大きいかな？」

孫娘提督『二人とも、攻略中に呼んで悪いわね…』

アール口「大丈夫ですよ。黒丸や加賀さんが任せてくれて言っていましたから、心配はご無用！」

グレイ「ちやつちやつと片づけて皆が安心して来れるようにしておかなきゃな」

孫娘提督『うふふ、頼もしいわね。でも、気を付けて』通信終了

アール「さーて…：いつちよ5分針で片づけてやりますかな!!」 フンス
ズズウウンツ!!

グレイ「さあ来るぞ…：!!返り討ちにしてやるぜ!!」

ゲネルセルタス亜種「(#○皿○)」ブオオオオンツ!!

グレイ「…：なあ、前言撤回していい?でかすぎね?」

アール「うん、ごめん。これ金冠レベル」

◇5 重量級の砲撃 『砲甲虫』ゲネル・セルタス亜種

アール「やっべえよ!!めちゃんこでけえ!!」

グレイ「そりゃあ被害が大きいわけだ!!」

ゲネル亜種「三(#〇皿〇)」突進

グレイ「あぶなっ!」回避

アール「兎に角、なんとかするしかねえ!」つブラックフルガード

グレイ「砲撃には気を付けたいもんだ…」つ叛逆斧バラクレギオン

ゲネル亜種「(＃〇皿〇)」タツクル

アール「ガードッ!!」ガード

グレイ「まずは足からだ!」斧モード横斬り

ゲネル亜種「三(#〇皿〇)」尻尾薙ぎ払い

グレイ「よっ!!」エリアル回避

アール「こっちは正面から行くぜっ!!」盾突き

ゲネル亜種「(〇皿〇#)」尻尾攻撃

アール「ぶっ!」受け身

ゲネル亜種「(○皿○#)三」突進

アール「でかいでかい!! 範囲がでええっ!!」絶対回避

グレイ「なんのっ!!」剣モード斬り付け

ゲネル亜種「Σ(○皿○#)」怯み

グレイ「もういつちよっ!」ジャンプ攻撃

ゲネル亜種「(○皿○#)」タツクル

グレイ「ブベラッ!」。(皿)。。。。

アール「こつちを見ろっ!!」高出力属性解放切り

ゲネル亜種「●三●三(○皿○#)」水弾プレス

アール「アヴォアアッ!」。。。。ε。(●三

グレイ「ちよ、大丈夫かっ!」

アール「ピヨピヨ…」気絶中

グレイ「大丈夫じゃねえっ!」

ゲネル亜種「(○皿○#)三」突進

グレイ「っ!!そうはさせるか!」っ三【閃光玉】

ゲネル亜種「Σ(○皿○#)」眩暈

グレイ「アール、大丈夫かよ」っ【生命の粉塵】

「アーロ「あいたたた：俺が無茶する時はベルが粉塵をすぐにくれるからついやつちまう」

グレイ「：俺がフオローする。下手に無茶をするなよ？」

ゲネル亜種「(○皿○#)」ブオオオンツ!

アーロ「サンキューっ! そうと決まれば正面からいくぜ!」ダツシユ

グレイ「大丈夫かなー!」

ゲネル亜種「(○皿○#)」尻尾攻撃

アーロ「なんのっ」ガードポイント

ゲネル亜種「(○皿○#)」尻尾攻撃2回目

アーロ「そいやっ!!」回避してから斧モード切り上げ

ゲネル亜種「Σ(○皿○;)」怯み

グレイ「いいじゃん! その調子だ!」ジャンプ攻撃からの属性解放突き

ゲネル亜種「Σ(;)○皿○)」右後ろ脚部位破壊

グレイ「こつちもどんどんいくぞ!」斧モード振り回し

ゲネル亜種「(○皿○#)」ブオオオンツ!

サクツ

アーロ「あつ：尻尾を地面に突き刺して探り始めた」

ゲネル亜種「(○皿○#)」尻尾を引つ張る

アルセルタス亜種「(、皿、；)」ジタバタ

ゲネル亜種「(○皿○#)」フェロモン放出

アルセルタス亜種「(◎皿◎)」ライドオン

グレイ「いつ見ても雄のアルセルタスがかわいそうになるな…」

アール「アルや雪風たちがいなくて良かったぜ…というかここから厄介になるぞ」

ゲネル&アルセルタス亜種「(○皿○#) 三三三」猛攻突進

グレイ「ちよ、そのでかさでその速さはやべえ!!」ダッシユ

アール「こつちくんなし!」ダッシユ

ドドドドドツ

グレイ「うひーっ!!」(； 皿、) 三三

アール「ほいつ、盾ガードっ!!」ガード

グレイ「ちよ、おまつ、ずるいぞ!!」

ゲネル&アルセルタス亜種「(○皿○#) 三三三」猛攻突進

グレイ「ウオオオオッ!」猛ダッシユ

アール「頑張れー」(、ω、)

ゲネル&アルセルタス亜種「? (# ○ 皿 ○)」グルン

アール「あぶねっ!？」

グレイ「うおっ!？」回避

バララ・・・

グレイ「ああ、アルセルタス亜種が木端微塵に…」

アール「この人でなし!! じゃなかった、虫でなし!」斬りかかり

ゲネル亜種「(#〇皿〇) つ」尻尾薙ぎ払い

グレイ「よいしよっ!!」ジャンプ攻撃

アール「こんにやろっ!」チャージ斬り

ゲネル亜種「(;〇皿〇)」左前脚部位破壊

アール「よし、つぎっ!!」斧モード叩き付け

ゲネル亜種「(#〇皿〇)」尻尾を地面に突き刺す

アルセルタス亜種「(; 皿)」ジタバタ

グレイ「またか!!」

ゲネル亜種「(#〇皿〇) 二三」アルセルタス亜種を掴んだまま尻尾振り回し

グレイ「それもあつた!」〇()、3()・・・

アール「ふべっ!？」〇()。3()・・・

ゲネル亜種「三(#〇皿〇)」突進

アルセルタス亜種「(○皿◎)三●三●三」麻痺液

グレイ「あぶねっ!! 麻痺液を撒き散らしながら来るんじゃない!!」エリアル回避
 アーロ「くうっ、突進のパワーはヤバすぎだろっ!」

グレイ「せいっ!!」ジャンプ攻撃

ゲネル亜種「(○皿○#)」ギリギリギリ:

グレイ「ちよ、空中で狙いを定めてやがる…っ!!」

アーロ「このっ!! やらせるかよっ!!」高出力属性解放斬り

ゲネル亜種「Σ(○皿○;)」前胸部位破壊

グレイ「ナイスっ!!」

アーロ「へへっ、どんなもんだ!!」ドヤッ

ゲネル亜種「(◎皿◎)三三三(○皿○#)」甲虫大砲

アーロ「アーツ!?!」..:.(ε。(○三

グレイ「おおいっ!?!」

アーロ「お、おうふ…アルセルタス亜種と共に天に召されるところだったぜ…」つ秘

薬

グレイ「フオローは任せろ!!」ジャンプ攻撃

ゲネル亜種「Σ(○皿○;)」怯み

グレイ「兎に角走れー!!」ダツシユ

ゲネル&アルセルタス亜種「●三●三●三(○皿○#)」水弾プレス

アール「うおっ!?!」回避

グレイ「あぶねっ!!」回避

ゲネル亜種「(○皿○#)」ギリギリギリ：

グレイ「来るぞ！」

アール「撃つてくる前にやってやる!!」ダツ

グレイ「ちよ、無茶すんな!?!」

アール「おおおっ!!」ダツシユ

ゲネル亜種「(◎皿◎)三三三(○皿○#)」甲虫大砲

アール「ほいっ!!」ギリギリ躲す

グレイ「すげっ…」

アール「今度はこっちの番だぜ!!」高出力属性解放斬り

ゲネル亜種「Σ(×皿×;)」スタン

グレイ「ナイススタン!!このまま畳み掛ける!!」トランスラツシユ

アール「そらそらーっ!!」属性解放斬り

ゲネル亜種「(○皿○;)」ダウン

グレイ「そろそろ頃合いだな……」つ「シビレ罨」

ゲネル亜種「(○皿○;)」シビレ中

アール「よし、これでもくらえ！」つ三「麻酔玉」

グレイ「ぼいぼーいつてな！」つ三「麻酔玉」

ゲネル亜種「(⊗ω⊗) スヤア」ズズウウン……

アール「は……何とか捕獲成功だぜ」ヤレヤレ

グレイ「……噂通り、ほんと無茶をするんだな。事前に聞いてなかったら組んでなかったぜ」ヤレヤレ

アール「悪い悪い。こういう力押しなのが俺の売りだからな！」ドヤツ

グレイ「ほんと、団長さんが言うほどだぜ……で、ギルド本部に報告して連絡船が来るまでの間、この荒らされた補給地点はどうするんだ？」

アール「うーん……少しでも改修しておくか？」

グレイ「うん？ できるのか？」

翌日

i n 第二補給地点、波止場

孫娘提督「二人とも、ご苦労様」

アーロ「はっはっは、楽勝だったぜ！」ドヤア

グレイ「二人して悲鳴を上げながら逃げたりと手を焼いたんだけどな……」

孫娘提督「それでもここを奪還できて良かったわ。第一作戦が終了して第二作戦へと移る段階だし、これから攻略していく艦隊にとって大事な所なの」

グレイ「まあ何がともあれ、こういう時は俺達に任せてください」

孫娘提督「ふふふ、頼もしいわね。そうだ、私の艦隊の他にいち早く貴方達に会いたいとあの子達も駆けつけて来たわよ」

初月「アーロさん、グレイさん!!」ノシ

アーロ「おおっ、初月！来てくれたんだな！」

利根「いやー凄かったぞ。アーロさん達が遠方で頑張ってる間、初月や他の艦娘達が張り切って一日で第一作戦を熟したからの!!」

北上「そりゃあアーロさんやグレイさんが体張って頑張ってたんだからね。みんな張り切ってたよー」

ザラ「疲労値なんてただの飾りでしたね……」

グレイ「おお……皆、よく頑張ったな」

アーロ「ありがとな初月」ナデナデ

初月「え、えへへ……」テレテレ

加賀「第一作戦から第二作戦へと移るのですが…補給地点の改修で開始は先になりそうですね」

大井「提督から聞きましたが、古龍じやなくても大型モンスター襲撃でも修理には時間が掛かる場合もあるみたいですね」

孫娘提督「そうね…でも急ピッチで修理すればすぐにでも始めれるわ」

グレイ「ああ、それなら俺達で修理したぞ？」

艦娘達「えっっ」

孫娘提督「ちよ、それ本当なの!？」

アール「おう、ばっばつとやっておいたぜ！」

加賀「何だか嫌な予感が…」

ザラ「え、えつと…それはどうやって…?」

グレイ「高速修復材をかけたらすぐに直ったんだ。いやー、艦娘達だけじゃなくても他の所でも使えるんだな！」

初月「こ、高速修復材…も、もしかしてそれって…」

アール「ああ、うちの。結構な量もあったし、修理にはもってこいだな！」エツヘン
グレイ「すごい技術だよなー」ウンウン

加賀「…」チラッ

大井「……」コクリ

加賀「何してくれてるんですか」ラリアット

大井「何してくれてるんですかあああつ!!」シャイニングウイザード

アール「ゴメンヌツ!!」..:.(ε°(

グレイ「ひでぶっ!?!」(。3°)!!..:

初月「アールさああん!?!」

ザラ「バケツの在庫が半分に……どれくらい使ったんですか!?!」

北上「ありやー、これは遠征組も大変になるね……」

孫娘提督「……クロードさん、貴方の鎮守府は相変わらず大変なようです……」

△4 紺碧の港、タンジリア

しんいさな号

ジン「(U、V、) U」ワクワク

霞「ジンさん、物凄くワクワクしてるわね…」

ベル「そりゃあタンジリアの名物、タンジリアビールが飲めるからね」

瑞鶴「だから酒の飲みすぎはだめだつてば…」

木曾「次の行先は海があるから楽しみな！」

明石「一応、艀装の手入れとかもしておきますね」

不知火「司令、タンジリアとはどのような所ですか？」

提督「そうだなー、貿易のメッカとも呼ばれるほど貿易商には最高の場所だ。そのため物資の量は周辺随一だし、訪れる商人や船員、ハンターも多い。船乗り達の憩いの場所でもあり、『船乗りのオアシス』とも呼ばれているんだ」

団長「地海岸沿いと岩崖に沿って縦長に街が広がっている。丁度クロード達の鎮守府の港町と少し似ているぞ」

ジン「港の商店にはバルバレ同様、各地から仕入れた品が売られている。紅茶も…た

しかあつたな」

金剛「Oh!! そういう事ならば買って置かなければ!!」 フンス

提督「それと…ベルの故郷でもあるな」

鹿島「ベルさんの故郷なんですか？」

ジン「ああ。元々こいつは、大商人のボンボンの息子だったんだぜ？」

鹿島「ええっ?! 初耳です!!」

ベル「今は世界各地へ貿易の旅をしているからねー…なかなか会えなんだ」

明石「初めて知りました…でも何でハンターになつたんですか？」

ベル「っ!!」 ビクッ

ジン「ああ、それは…」

ベル「ちよ、やめっ…」 ジンの口を塞ぐ

団長「ハツハツハ！ 実はベルが子供の頃に出会つたベリオX一式を装備していた女性ハンターに一目惚れしてハンターを目指したそうだ」

瑞鶴&金剛&霞「」

ベル「だ、団長おおっ!？」

提督「俺達が初めて出会つた頃の最初のベルは本当に女たらしだったもんなー」 ウン
ウン

ジン「それが今ではこんなに真面目に……ルルカのおかげか」ウンウン

鹿島「……」プンスカ

ベル「か、鹿島!?!」

不知火「ベルさんの意外な一面ですね……他には何かありませんか?」ワクワク

ジン「色々あるぞ。例えばユクモで酒に酔ったベルが……」

ベル「ちよ、やめてー!!」

弥生「イサナ号は賑やかだね、コタロウ」ライド中

コタロウ「三（*、ω、）」

ベル「チーン

鹿島「べ、ベルさんが更に真っ白に!?!し、しっかりしてください」ユサユサ

霞「ありつたけ昔の事を話されたのが恥ずかしかったようね……」

団長「さあ見えてきたぞ、あれが港の街、タンジアだ!」

金剛&木曾「海だーっ!!」ワイイ

——ベルナから南南東へ。薄く雪が積った連なる山岳地帯を抜け、更に草原や新緑の山々をも抜けるとコバルトブルーの海が見えてくる。その海を拠点に貿易に栄えた港

の街がタンジアである。世界各地から仕入れた品を積んだ貿易船が多く停泊し多くの商人たちが集まってくる。商人だけではなく船旅をしている船員や冒険をするハンターも多くにぎわい、酒場では毎日賑やかに騒ぐ。ビールや海産物、名物のタンジア鍋、貿易で仕入れた品を売る商店街、各地の港へと繋ぐ船場と彼女達にとって目が光るものが多い。

b y 提督の手記—

i n 港エリア

木曾「やつほー!!海が見えるぜ!!」ウキウキ

瑞鶴「本当に縦長に沿って町ができてるわね」

提督「今はとても賑やかなで大きく栄えている港の街だけど、最初の頃は小さかったんだ」

霞「最初の頃は？」

提督「俺達がハンターになるずっと昔さ。この海ではナバルデウスが襲来してきたり、海を焼くほどの力を持つ古龍グランミラオスが暴れまわっていたんだ。その古龍を伝説の9人のハンターが討伐し、その9人の中の一人がタンジアで生命の大粉塵の製造会社を立てたのが始まりだったんだ。貿易も大成功し、今では街も広がり、こうして発

展していつている」

明石「企業も建てたりとか：もうハンターって何でもありませんね：」

金剛「ここも人で賑わってるデース！」

ベル「丁度タンジア海都市と貿易品の大量り出しもやってるし、それを買い求めて来た商人やハンター、船乗り達が集まってるみたいだね」

不知火「面白そうですね。さっそく買いに行ってみましょう」

金剛「きつとここにも美味しい紅茶があるかもしれないネー!!」

ドドドドドツ：

団長「うん？なんだ？」

提督「物凄い勢いで誰かがこっちに来てるぞ？」

ジン「あれつてもしかして：」

ルルカ「ベルウウウウウツ!!」ダイレクトアタック

ベル「ひでぶっ!?!」

鹿島「べ、ベルさあああんっ!?!」

瑞鶴「ベルさん吹っ飛んだーっ!!」

霞「ル、ルルカさん!!」

ルルカ「久しぶりねベル！まさかアンタがここに来るなんて!!」ユサユサ
ベル「チーン」

ジン「オイコラ。俺達も来てるぞ」

ルルカ「あつ、ジン。おひさ」ノシ

ジン「かるっ!？」

提督「ルルカじゃないか。久しぶりだな」

ルルカ「あ、クロードじゃないの！相変わらず元気ねー。それに団長に霞ちゃん達まで来てたのね！」

瑞鶴「ルルカさん、お久しぶりです！」

木曾「提督達と一緒にしてきました!!」ノシ

団長「ルルカ、お前もタンジアに来ていたのだな！」ノシ

ルルカ「まあねー。ドンドルマに立ち寄る前にちよつと用事が…って、クロード達もバルフアルクの事を調べに来たの？」

提督「ああ。バルフアルクが最初に襲撃してきた所だし、聞き込みとタンジアにいるアグルに会いに来たんだ」

ルルカ「なるほどね。あたしも用事ついでにアグルの所に行くところなの。一緒に行かない？クロードのお仕事にも協力するわよ」

ベル「えー…」

提督「いいぞ！ルルカも来るなら心強い！」

ベル「さすがクロード…お人好しナンダカラ…」遠い目

鹿島「ベルさん、片言になってます！」アセアセ

弥生「ルルカさん、用事って…？」

ルルカ「えーと…ライダーとオトモンに詳しいちよつと変わったアイルーと一緒にギルデガランに行くはずだったんだけど、途中ではぐれちゃって…」テヘペロ

弥生「ちよつと変わったアイルー…？」クビカシゲ

ルルカ「そうそう。ちよつと特徴的な顔をした…って、弥生ちゃん!?後ろにいるリオレウスってあなたのオトモン!？」

弥生「はい。コタロウっていいます」ナデナデ

ルルカ「かつこいいじゃないのー。弥生ちゃんもやるじやーん」

コタロウ「(*、ω、)」フランス

提督「ルルカ、ついでに霞達を観光案内もしてくれないか？」

ルルカ「いいわよー！やっぱり最初はシー・タンジニヤの名物料理、タンジア鍋でも食べに行く？それから剣ニャン丸の貿易店とか…って、霞ちゃん？その指につけてるのって…指輪？」

霞「えっ？あ、は、はい…」テレテレ

ルルカ「しかも左手の薬指…ま、まさか…!？」

霞「えと…し、司令官と…」顔真つ赤

ルルカ「(。 ㇿ)」

提督「あ、言うの忘れてた。ルルカ、実はケツコンしました」テヘペロ

ルルカ「(。 ㇿ)」「ギギギギ…」

提督「だ、大丈夫だ。所謂、幼な妻だから！」

ルルカ「: : :」チラッ

ジン「(。 : : :) b」瑞鶴を抱き寄せる

瑞鶴「あ、あははは…」ニガワライ

ルルカ「チクシヨオオオオオツ!!」猛ダツシユ

明石「ルルカさーん!？」

金剛「しかも物凄い速さで走ってマース」

不知火「あつ、通りすがりのハンターを弾き飛ばした」

ルルカ「ここが港エリア、貿易品の商店街よ…」シヨボーン

瑞鶴「る、ルルカさん、元気を出してください」

ルルカ「もうカラ元気になってやるわ!!今夜はシータンジニヤで飲みまくってやる!!
もちろんアーロの奢りで!!」

霞「アーロさんここにいないんですけど!?!」

不知火「ぬ…なにやら美味しそうな香が…」ウズウズ

金剛「Oh!!紅茶の…紅茶の香りがしマース!」

ジン「あまり遠くまで行くんじゃないぞー」スタスタ

瑞鶴「とかいいつつジンさんどこ行こうとしてるんですかーっ!?!」ダツ

弥生「司令官、私達も行っっていいですか?」ワクワク

提督「ああ、行っついで!ベル、頼んだ」

ベル「いいのかい?」

提督「せっかく来たんだ。ベルも鹿島と一緒にゆっくり楽しんで行っつてこい」

弥生「ありがとうございます。コタロウ、行くよ」

コタロウ「(、ω、)」ズンズン

ベル「それじゃ、鹿島行こうか。シー・タンジニヤの料理はとびつきりうまいから

ねー」

鹿島「はい!提督さん、それじゃあ行っつてきます!!」ウフフ

ルルカ「あー、まぶしいわー。手まで握っつちやっつて、アマイワー」

ジン「いいな…先にタンジニヤに行けて…」

霞「ジンさんは飲むつもりでしょ」

他のハンター達「…」ジーツ

木曾「な、なんかまた他からの視線を感じる…」

ルルカ「そりやあ、木曾ちゃんのセーラーにマント、一種の珍しい一式装備かと思われるのよ」

提督「ここでは艦娘達の服が一式装備に見えてるみたいだな。木曾のはカツコイイし」

木曾「そ、そうかなあ…」テレテレ

団長「竜人商人がこつそり『これ作ったら売れるかもしれん』とか言ってたな…」

明石「後でやめた方がいいって言っておいた方がいいですよ…」

＼オオーイ！／

ルルカ「おつ、あの元気が良すぎる声とアグナZ一式で走ってくるあの姿は…」

提督「あれは…アグル！元気そうだな！」ノシ

アグル「クロードさーん!! 久しぶりです!!」

霞「アグルさん! お久しぶりです!」

ジン「アグル、相変わらずだな」

アグル「ジンさん、瑞鶴ちゃん! おめでと…:じやなかつた」

瑞鶴「も、もう! アグルさん!」

アグル「先日母ちゃんから手紙が来まして、クロードさんがタンジアに寄つて来るつて聞いたのでずつとスタンバつてましたよー」

ルルカ「いやー。ほんつとこういう事には真面目なんだから」

アグル「ルルカさんもよりいっそうお美しくなつたんじやないつすかー」ニヤニヤ

ルルカ「やだもー、おべっか上手っ!!」ストレート

アグル「照れ隠しっ!」(; 旦、(

瑞鶴「相変わらずねー…」

霞「アーロさんといい、この兄弟は…」呆れ

アグル「そ、それはさておき…:クロードさん、さつそくバルファルクの件についてお教えいたします。ギルドの方へ行きましょう」

提督「ああ、よろしく頼むぜ」

アグル「というかルルカさん、ハクム村から来たアイルーはどうしたんですか? 一緒

に来る予定だったのだけでも…」

ルルカ「♪(´ε、;)」

アグル「あっ！誤魔化した！」

ルルカ「だってー、ちよつと目を離れたすきにどっか行っちゃったんだもーん!! やっぱアユリアちゃんがよかったわー！」

鹿島「食べ物の屋台や装飾品や食品：色んなものが売られてますね！」ウキウキ

ベル「相変わらず賑わってるなー…」

鹿島「…」ウキウキ

ベル「鹿島、やけに上機嫌だな」

鹿島「うふふ、こうして久しぶりにベルさんと一緒にいるのは久しぶりですから。ベルさんを独り占めです」

ベル「…な、何か欲しいものがあるかい？」テレテレ

金剛「でしたら私はこの紅茶葉をry」

不知火「金剛さん、ここは空気を読みましょう…」ガッ

金剛「ファッ!? 戦艦級の眼光っ!？」

ベル「そうだ。シー・タンジニヤには貿易で仕入れたコーヒーっぽい飲み物もあるんだ。売ってる店もあるし、そこへ行ってみよう！」

鹿島「はい♪」

弥生「美味しそうな料理の屋台もいっぱい：あれ？あれはドーナツ？すごい、ドーナツも売ってるんだ」

コタロウ「（、ω、）」「ノンビリ

弥生「そうだ。アグルさんにも会うんだから皆の分も買おうと：」

— 弥生、購入中 —

弥生「1個おまけしてくれた。タンジアのドーナツってどんな味がするのかな？」
クワク

コタロウ「Σ（、ω、）」

弥生「？コタロウ、どうかしたの？」

??? 「：：：」ジーツ

弥生「：：：アイルー？でも顔が大きい丸いし、ヒゲが太くて4本だし：」

??? 「：：：」涎ダバー

弥生「わっ!?も、もしかしてお腹空いてるの…?」つドーナツ

???「おおっ!?く、くれるのか…!!お腹が空いてただけでもドーナツが買えなくて困ってたんだ!!ありがてえーっ!!」ガツガツ

弥生「…貴方って変わったアイルーね」

???「ふふん、オレはそこら辺のアイルーとは一味違うからな!それにしても…リオレウスをオトモンにしているとオレの経験上、タダ者じゃない気がするぜ!」フンス

コタロウ「(、ω、)」「フンス

弥生「そうなの?」

???「ああ!前に一緒に旅をしていたライダーさんもリオレウスに乗ってたからな!今じゃハクム村で一番のライダーさんになって世界各地を冒険中だし…まったく、鼻が高いぜ!。だから君もいいライダーさんになれると思うぞ!」

弥生「えと…私は弥生。貴方は?」

ナビルー「オレはナビルー!世界中を旅したアイルーで、今では新米ライダーさんをサポートするアイルーでもあるんだぜ!」

○4 遠い海からこんにちは

in 沿岸部

ウイル「ふあゝ」欠伸

レ級「ウイル、これで欠伸は4回目だぞ？」釣り中

駆逐棲姫「この所眠たそうにしてますが、寝不足ですか？」

駆逐水鬼「色々と考え事を抱えていそうだな」

ウイル「ああ：まだまだやるのが山積みだからなあ」ポリポリ

レ級「やる事？ホツポのオトモン探しとか、竜舎造りとか？」

ウイル「：」コクコク

駆逐棲姫「他にもギルドとか大本営とかから来る書類整理とかもありますもんね」

ウイル（それもあるけど：：ティガレックス希少種の探索とか、アーロ達に向かう溶岩島の事とか気になってしょうがないんだよなー：）

駆逐水鬼「ウイル、アーロさん達が言つてた光作戦だが：：私達も参加してみないか？」

ウイル「はいい!？」

レ級「退屈そうでもないな。冒険家が退屈してちやダメでしょ」ニヤニヤ

ウイル「ほ、本とか書くもん……！」クワツ

駆逐水鬼「せつかく私達の提督にもなったんだし、少しやってみてはどうか？」

ウイル「うーん、そりやあやってみたいけども……お前達はいいのか？」

レ級「何が？」

ウイル「もし深海棲艦同士の戦いになったら……それはそれでまずいだろ」

駆逐水鬼「殴り合えばすぐに仲良くなれるっ！」ドヤツ

ウイル「熱い少年漫画みたいなノリじゃねーよ」

駆逐棲姫「で、できればそのような戦闘は避けていきたいですね……」

ウイル「ま……戦艦棲姫や空母棲姫とか皆がそういうのなら考えとく」ヤレヤレ

レ級「やったー！」

駆逐水鬼「もしそうなれば、腕がなるな！」フンス

ウイル「はあ……それにしても中々釣れないな」

レ級「どう見ても糸とルアーを垂らしてるだけだからでしょ」

駆逐棲姫「それで釣れるんですからスゴイですよね……」

グググ……

ウイル「おっ!?!言ってる傍から来たぞ!!」グイグイ

レ級「しかも大きい！これは大物の予感！」

駆逐棲姫「ウイルスさん頑張ってください！」

ウイル「うおおおおつ!! おりゃーっ!!」グイッ

ザッパーン!

駆逐水鬼「釣れたーっ!!」

ウイル「さあて、今夜の晩御飯のお魚はなんだろry」

深海海月姫「あいたたた…何なのよもう。ドレスに何か引つかかったと思ったら、引つ張られて尻もちついちゃったじゃない」

ウイル「な、なんか釣れたーっ!?!」

レ級「あれ? 深海海月姫じゃないか」

深海海月姫「あら? レ級ちゃん! という事はやつと着いたのね!」

駆逐水鬼「海月姫、お前が来るなんて珍しいな」

駆逐棲姫「海月姫さん、お久しぶりです!!」

深海海月姫「あらあら、皆元気そうね! それから…」チラッ

ウイル「ヒョ?」

深海海月姫「貴方が噂のウイルって言う人ね? ずいぶんと変わった姿をしているわね」ウフフ

ウイル「……」ジーツ

深海海月姫「??」クビカシゲ

駆逐棲姫「ウイ、ウイルさん？」

タユーン

ウイル「…セクシーダイナマイト」

レ級「えいつ」目つぶし

ウイル「あああああつ?!?目が、目があああつ?!」ジタバタ

深海海月姫「あらあら、面白いお方ですわね」ウフフ

駆逐水鬼「ここでもなんだ、皆の所に案内しよう」

深海海月姫「久しぶりに皆に会えるから楽しみだわ…えつと、あちらのお方はほつと

いていいのかしら？」

ウイル「目があああつ?!」ジタバタ

レ級「すぐに治るから大丈夫、ハンターだもの」

深海海月姫「あ、あはは…」ニガワライ

ウイル「しかーし!心眼で見てやる!!セクシーダイナマイト!」クワツ

レ級「よし、止めを刺すか」ジャキンツ

駆逐棲姫「や、やめてー!」Σ(; 旦、)

深海海月姫「みんなー、お久しぶりー！」ノシ

戦艦水鬼「おお！海月姫じゃないか！久しいな！！」

戦艦棲姫「貴女も相変わらず元気そうね」ウフフ

空母棲姫「ところでなんでウイルは焦げてるの？」

ウイル「ふっ…至りってやつさ」

空母棲姫「意味わからないんだけど」

軽巡棲姫「ウイルさんの言う事、分かります！海月姫さん、セクシーですよね！」フ

ンス

空母棲姫「!？」

ホツポ「海月姫!!やつほー!!」ダツコ

深海海月姫「あらあら、ホツポちゃん」ナデナデ

ホツポ「ふつかふか!!」スリスリ

深海海月姫「うふふ、相変わらず元気ね」ナデナデ

ウイル「…」

防空棲姫「羨ましいって思っていないわよね？」

ウイル「ぜ、ぜんぜん!!おれ、大人だしー!!」アセアセ

防空棲姫「脂汗すごいわよ……」

深海海月姫「艦娘達との戦いで離れ離れになっちゃったけども、やっとこの島に辿り着けてよかったわ」

戦艦水鬼「お前も長い旅をしていたようだな」フツ

ウイル「長旅？」

ホッポ「海月姫は旅するのが好きなの！」

港湾棲姫「名前の通り、海流に身を任せて漂いながら旅行をするの……」

空母棲姫「しかし、よくこの島に私達がいるのが分かったな」

深海海月姫「まあだいぶ前かしら？旅の途中で中枢棲姫ちゃんとその旦那さんに出会ってね。貴女達がある島にいて、ウイルっていう面白い人がいるって話を聞いて、進路を教えてもらって来たのよ」

戦艦棲姫「中枢棲姫か。彼女は元気になっていたか？」

深海海月姫「素敵な旦那さんと一緒にいれて幸せそうにしてたわよ。でも、何だっけ

？最近バル：ファルク？とかで船や飛行船が出てないから大変だーって言ってたわ」

ウイル「村長え……ってあんた結構遠くから来てたんだな!？」

深海海月姫「ほんとよー。つい居眠りしちゃってたら物凄く遠くまで流されててね。道中、でかい魚とかチヨウチンアンコウみたいな魚に襲われて大変だったのよ」ウフフ

軽巡棲鬼「どうりで、最近お便りが来ないな―って思ってたらそんな事があったんですね」

ウイル「お便り？」

ホツポ「海月姫はお手紙を書くのも得意なの！」フンス

駆逐水鬼「各海域の深海棲艦達に手紙や電報を送ってその海域の状況とかが分かるんだ」

深海海月姫「それから、ウイル。貴方の事も詳しく聞いたわよ。私達の故郷を奪った怪物を倒して取り戻してくれた事。貴方と4人のハンターさんには本当に感謝してるわ、ありがとう」ニッコリ

ウイル「ま、まあ、ハ、ハンターとしてやった事さ」テレテレ

防空棲姫「ウイル、照れてるわよー」ニヤニヤ

重巡棲姫「ムムム…」ムスー

戦艦水鬼「それで、海月姫。この島に来たのは私達に会いに来ただけではなさそうだな」

深海海月姫「そうそう！あつちの海で漂ってた時に拾ったお土産とか」

防空棲姫「海水でびちゃびちゃになってるー!?」

戦艦棲姫「き、木の実がふやけてる…」

港湾棲姫「これは…タル？」

ウイル「おおっ!? マカ錬金タルじゃないか! よく拾ったな」

ホツポ「マカレンキン？」クビカシゲ

ウイル「ちよつと割れてて欠けてるが…修理すれば使えるぞ。こいつがあればスツゴイのが作れる！」

戦艦水鬼「で…お土産だけではないだろ？」ジト

深海海月姫「もー、戦艦水鬼はせっかちなんだから…実は話しておきたい事が2つ」
ウイル「2つ？」

深海海月姫「私がこつちに来る途中に中枢海域を通つたの。そして夜中に『艦の墓場』の所も通つたわ…でもちよつと妙な事があつて」

戦艦水鬼「妙な事？」

深海海月姫「艦や深海棲艦の艦装の残骸を集めている『大きな鉄の艦』を見かけたの」
ウイル「うん? なんだそりゃ？」

戦艦棲姫「それはおかしい。あの場所は艦隊は敬意を持って、手を付けなと言つていた。墓荒らしをするような真似はしないはずだわ」

戦艦水鬼「そいつに乗つていた船員とかいたのか？」

深海海月姫「それが妙なの。見た感じ、船員も誰一人もいないのに動いてて。それに

錆びた金属音とか終始鳴り響いてて……まるで艦でもない別の何かみたいで不気味だったから怖くなってその場所を離れたわ」

ウイル「離れて正解だ……うーん……オストガロア変異種の討伐後、俺達はその地を調査して奴の幼体や他の生物は確認されなかった」

深海海月姫「それからその次の日にもう一度見に行つたんだけど……鉄の艦の姿も無く、集められた残骸も無くなつてたの。一体何処に消えたのか……」

ウイル「おお、なんじゃそりや。増々分かんねえな」

戦艦水鬼「ウイル……また何か起こりそうな予感がするぞ」

ホツポ「冒険の予感っ!!」キラキラ

ウイル「おうふ……やる事がまた増えそうだ」

戦艦棲姫「それからもう一つは？」

深海海月姫「もう一つはこの島に来る1週間前に深海双子棲姫ちゃんから手紙が……」

軽巡棲姫「おおっ、あの双子も元気にしてるのね！」

深海海月姫「実は……そうでもないの」

空母棲姫「あの双子になにかあったのか？」

深海海月姫「あの子達は遠い島で静かに過ごしていたようだったの。それが突然、溶岩が流れ始め火山活動が活発化して棲めなくなつたって。」

ウイル「……うん？」

深海海月姫「島から別の島へと離れるしかなかったのだけど……連鎖して他の島も噴火したり、その島へと行こうとすれども見たこともない生物が暴れてて行けなかったりで仕方なしに周りの深海棲艦達を集め、遠くの方へと行くしかなかったの。でもあの子は不器用だし、人間不信だから艦娘達と戦闘になっちゃって……」

ウイル「溶岩島……艦娘、戦闘……ってまさか」

防空棲姫「それって光作戦だしアーロさん達が行こうとしてる場所じゃ……!？」

深海海月姫「今じゃ大規模な戦闘になっているから、貴女達に援軍を要請してほしいって言ったの」

戦艦水鬼「え、援軍か……今じゃ艦娘達と仲良くなっているのだが……」

ホッポ「それじゃあ双子を助けに行こ！」フンス

駆逐棲姫「助けるって……援軍しに行くの？」

ホッポ「棲めなくて困っているならこっちに来るように助けるの！ウイルがやってた感じに！」

ウイル「なるほどな……確かに溶岩島の件は気になっていることがあったし。しようがない、あいつらの手伝いをしてやるかー」

港湾棲姫「ウイルも行くの？」

ウイル「勿論。その双子がお前達の仲間なんなら、俺の大事な仲間でもあるんだ」
レ級「よし、久々に出撃ってわけだね！」フンス

戦艦水鬼「そうとくれば、私も行かねばな…!!」

ホツポ「すぐに行こ！」フンス

ウイル「つししゃあ。出撃の準備だ!!」

戦艦棲姫「ね？ウイルって思った以上の人でしょ？」

深海海月姫「…ええ、初めてね、私達にこんなに優しくしてくれる人は」ウフフ

ウイル「…と、いう訳で来たんだけど…何かすることある？」正座

ホツポ「手伝うし頑張る！」フンス

叢雲「あんた達、馬鹿じゃないの？」

孫市提督「な、なんで俺達の所に…？」ニガワライ

ウイル「いや、クロードと仲良さそうだったし？頼めばなんとかなるかなーって」

叢雲「どういう態度をしてんのよ!! てか深海棲艦達を連れてきたら混乱するでしょう

が!？」

ウイル「みんないい奴等だぜ!!」☆ー(ゝゝω・ゝ) b
叢雲「一発殴つていい? 酸素魚雷くらわしてもいい?」

孫市提督「ま、まあ落ち着け…ウイル君、できれば戦闘は混乱するから控えてほしい」
レ級「え…せつかく大暴れできると思つたのにー」ブーブー

駆逐水鬼「日ごろの鍛錬の成果が…」シヨボーン

ウイル「まあそれは仕方ないですよ。実際の所俺はその先の溶岩島の方が気になつてますから」

孫市提督「何か心当たりがあるのか…?」

ウイル「溶岩島にはいい思い出がない」キリッ

叢雲「意味が分からないわよ」

孫市提督「ま、まあ…輸送作戦とかぐらいは手伝つてもらおうか…」

ウイル&レ級&ホッポ「よっしやー!!」

叢雲「だ、大丈夫なの?」ヒソヒソ

孫市提督「俺も分からん…すぐにアール君達の所に向かわせておこう…」ヒソヒソ

◇6 小笠原諸島航路

i n 第二海域泊地 | 司令室

孫娘提督「次の作戦は小笠原諸島海域における小笠原諸島哨戒線強化作戦を開始するわ」

アール「おおっ!! つまり、どういうことだったてばよ!!」

孫娘提督「要は連合艦隊による輸送作戦よ。深海棲艦の主力がいる海域の戦闘に備え、主力艦隊の護衛や物資の輸送を行うわ。道中、それを遮る敵艦隊がいるけれどもこれを連合艦隊で突破、第三海域での戦闘に向けて戦力を集めていくの」

アール「つまり：：：どういうことだったてばよ：：」 迫真

孫娘提督「：：：ほんとクロードさん無しで大丈夫なの？」

加賀「正直、不安ばかりです」

大井「私達がしっかりしないといけないことばかりですねぇ」

グレイ「連合艦隊って？」

ザラ「普段の海域は6人の編成での出撃なのですが、大規模作戦になると水上機動部隊、空母機動部隊、輸送護衛部隊といった12名による編成が可能で大人数による艦隊

編成のことを連合艦隊といいます」

プリンツ「今回は輸送作戦ですので、輸送護衛部隊の編成でいきましょう！」

アール「輸送作戦か…：なんだか難しい編成になるよなあ」

春雨「輸送も立派な作戦ですよ。物資があるかないかで戦局が左右されることもあり
ますから」

グレイ「次に備えて艦娘達の整備とかもしておくべきか？」

アール「そうだな。アイルー達も連れて来て正解だったぜ」

曙「え、っ!?近代化改修はアイルー達がやってるの!？」

孫娘提督「…まあアールさんもそれなりに頑張ってるみたいね。頑張りなさいよ」フ
ツ

大和「あの…提督、ちよつといいですか？」

孫娘提督「ん?どうかしたの大和」

大和「孫市提督から、電報が…」

孫娘提督「?パパから?何かあったの?」

大和「実は…」ヒソヒソ

孫娘提督「…はあっ!？」

アール「よしつ、編成を決めた!!まず第一艦隊は利根を旗艦に鈴谷、皐月、秋月、ヴェールヌイ、江風。第二艦隊は阿武隈を旗艦に、ザラ、春雨、潮、秋雲、時津風の連合艦隊でいくぞ」

加賀「えっ」

大井「嘘…普段のアールさんならここで『戦艦6隻(トヤア)』ってふざけるところなのに…!!」

龍田「珍しくアールさんが真面目だわあ」ウフフ

アール「お前等…」

ザラ「い、いきなり抜擢!」

秋雲「…えっ?秋雲が出撃?しばらく出撃が無かったのに秋雲の出番なの!」

江風「つしやあ!!久々にドンパチするぜーっ!!」

アール「それから、龍驤、飛鷹、時雨、隴、榛名、比叡の第三艦隊は道中支援。磯風、天津風、葛城、飛龍、長門、リットリオの第四艦隊は決戦支援だ」

比叡「来ましたね!道中支援も気合い入れていきますっ!」

隴「味方の支援…頑張ってみる」

葛城「見た目に反して結構真面目ですな…」

飛龍「あのアールさんが真面目だもんねえ。明日は雨がふるかも」

アール「お、俺だつて真面目になるときがあるもーん!!」三。・。(ノ)四。(;)。・。
 潮&春雨「あ、アールさん!」

飛鷹「あ、どつか走つていつちやった」

天津風「しかも途中でこけてる…あつ、初月が慌てて駆けつけていった」

ヴェールヌイ「龍田さんに宥められて戻つて来た」

時津風「しれーは時には真面目だもんね」ナデナデ

鈴谷「アールさんつてこういうのはホント不器用なんだからねー」ナデナデ

アール「グスン…き、気を取り直して…皆、大規模作戦故にここから激闘になっていくだろう。でも、辛くても苦しくても俺達がいる。俺達が全力でサポートしてやるから、胸張つて全力でぶつけていってこい!」

全艦娘「はいっ!!」

グレイ「…」

加賀「グレイさん、どうかしましたか?」

グレイ「あ、いや…ハンター兼提督をしているアールや、ここにいたクロード達はこやつて指揮していたんだな…」

大井「ふふふ、そのうちグレイさんがやる番になつてきますよ」

グレイ「俺、できつかなー」ポリポリ

i n 第二海域泊地 母港

利根「うむ。皆の者、準備はできたか？」

鈴谷「あたしはばっちりだよー」

秋月「長10cm砲ちゃんもやる気満々です！」

江風「大発もばっちり搭載したぜ！」

ヴェールヌイ「あとは皐月が来れば準備は万全……」

／＼おい！／

江風「おつ、皐月が来たみたいだな」

秋月「あれ？少し服装が変わってませんか？」

皐月改二「えっへーん!!アーロさんが僕を改二にしてくれたんだよ!!」

鈴谷「おおー。これまた随分と可愛くなっちゃってー」ナデナデ

皐月「か、可愛いって言うな!カツコイイって言うてよ!」アセアセ

ヴェールヌイ「ハラショー」ウンウン

阿武隈「第二艦隊のみなさん!ちゃんとついて来てくださいねー!!」

秋雲「あわわ…砲塔や艀装はちゃんと準備できたかな…」アセアセ

ザラ「秋雲ちゃん、それスケッチブック……」

時津風「よし、連合艦隊の出撃だー♪」ダツ

春雨「と、時津風ちゃん!!まだ早いよ!？」

潮「ま、待つてくださーい!!」

阿武隈「わ、私の指示に従つてくださーい!!」

グレイ「お、間に合つたみたいだな」フー

ザラ「グレイさん？」

秋月「そのカゴに入っているのは何ですか？」

臯月「何か巾着が沢山入つてるみたいだけど…」

グレイ「これは皆に。お守りだ」

鈴谷「こんなに沢山。グレイさんやるじゃーん」

グレイ「アーロがあんなに頑張つてんだ。俺も何かしなきゃなんねえと思つてな」

利根「ほほう、色んなお守りがあるのう」

グレイ「どれもすつごいぞ。俺がいままで集めた『神おま』だ」

春雨「か、かみおま？」

グレイ「ザラにはこのお守りをやろう」つ「お守り」

ザラ「い、いいんですか？」

グレイ「おう。このお守りは加護＋10と運＋10がついた3スロのお守りなんだぜ

!!
」

ザラ「よ、よく分からないんですけど!？」

秋雲「グレイさん、ありがとー!!」

ヴェールヌイ「ハラショー。力を感じる」

グレイ「ああ。俺も力になれて良かった」

利根「さあ、いよいよ出撃じゃ!吾輩に続けーっ!!」

江風「いよっしゃー!!いくぜー!!」

時津風「頑張っちゃうよー!」

潮「と、時津風ちゃんは第二艦隊ですよー!？」

阿武隈「もーっ!!ちゃんと私についてきてくださいーい!!」

ザラ「グレイさん、いってきます!!」ノシ

ヴェールヌイ「グレイさん、頑張つて来る」

グレイ「いってらっしゃーい!!…皆かつこいいなあ…」

長門「なに、グレイさんもしっかりしてるさ」

リットリオ「ザラもあんなに嬉しそうにしちゃって」ウフフ

グレイ「おつ、第三と第四艦隊も出撃つてところか」

飛鷹「…龍驤、あんた一体何があつたの…?」

龍驤改二「聞かんでええ。アイルーの群れに連れてかれて気づいたら改二になつてもうたんや……」遠い目

葛城「猫が近代化改修の作業をするっておかしいですって……」遠い目

飛龍「葛城、あたし達の鎮守府は少し違うのよ」

隴「支援も頑張る……」ゲフウ

時雨「そ、その前に胃もたれしそう……」ゲフウ

比叡「そうですか？結構おいしかったですよ！」

天津風「く、駆逐艦の量じゃ食べきれないわよ……」ゲフウ

グレイ「？なにかあったのか？」

榛名「それが……アール口さんが問宮アイスの代わりに、板前アイルーによるハンター飯を振る舞ってくれたんです」

龍驤「問宮アイズでキラ付けするのが普通なんやけど……なんでハンター飯でキラ付けできるんねん!？」

天津風「というかハンターはあの満漢全席みたいな量の料理をたつた一人で平らげるとかおかしいから!!」

グレイ「……ほら、腹が減っては戦ができぬっていうじゃん？」

葛城「いうけど量がおかしいってば!？」

長門「だが、おかげで力がみなぎってきたぞ」

リットリオ「オードブルで美味しかったですよー」

磯風「これだけ食べれば沢山動ける。流星はアールさんだ」キラキラ

グレイ「で、そのアールはどこへ？」

榛名「『私も食べたい』と言い出した赤城さんと鬼の形相の大井さんと加賀さんから必死に逃げてます」

グレイ「Oh:::」(; | \、)

in 小笠原諸島航路

利根「うむ。順調に進んでおるな」

鈴谷「途中、潜水艦に出くわした時は焦ったー」フー

ヴェールヌイ「流星はグレイさんのお守りだね」

江風「これならどんどんとこーい!!」

春雨「::遠くの島では火山が今も活動しているのが見えますね」

阿武隈「アールさんが例の溶岩島と連動する様に各島でも噴火が起きていて、小規模な溶岩島を形成しつつあるって言ってました」

ザラ「増々この海域の先がどうなっているのか、気になりますね:::」

利根「むつ、敵艦隊を発見したぞ！」

鈴谷「空母1隻、軽空母2隻、軽巡1隻、駆逐2隻！空母がflagshipっぽい！！」

阿武隈「敵艦載機、来ます！！皆さん、対空を用意してください！」

秋雲「あわわわ、緊張するー！」

秋月「対空は任せてください！！」

空母ヲ級「スツゴーイ！」艦載機発射

軽空母又級B「キミハ艦載機ヲ出すフレンズナンダネ！」艦載機発射

軽空母又級C「タツノシー！」艦載機発射

艦載機へミヤミヤミヤミヤミヤ！！ バババババツ

秋月「来ましたね！長10cm砲ちゃん、対空砲発射！！」

長10cm砲ちゃんへキユキユキユーツ！！ バババババツ

艦載機へミギヤツ!? 撃墜

ザラ「だいぶ減らせたわね。あとは対空砲を撃ちつつ回避して！」

秋雲「うひーっ！！一発一発がやばいそう！！」アセアセ

時津風「どんどん避けてくよー♪」

ヴェールヌイ「一先ず避けきれたね」

春雨「!! 第三艦隊から通信です! 支援射撃が来ます!」

鈴谷「待つてましたー!!」

龍驤「見えたでー!! 標的捕捉完了や!!」

飛鷹「一気に撃ち込んじゃって!!」

榛名「榛名、全力で支援します!!」ドドーン!!

比叡「気合いの砲撃をくらえーっ!!」ドドーン!!

時雨「捕えた。砲撃、いくよっ!!」ドドーン!!

隴「あたしだつて、頑張れるんだから!」ドドーン!!

ヒューン・・・

軽空母又級C「ヒッドーイ!」critical! 撃沈

軽巡ツ級「セルリアンツ!」critical! 撃沈

駆逐イ級「アライさんっ!」critical! 撃沈

龍驤「命中! さあ連合艦隊の皆、頼んだでー!!」

阿武隈「了解！まずは第二艦隊からいきます！私の魚雷をくらいなさい！」魚雷発射
軽空母ヲ級B「トキイ!?」critical!撃沈

ザラ「砲撃、いきます!!」ドーン!!

駆逐イ級「ハシビロコウツ!?」critical!撃沈

空母ヲ級「PPPツ!!」艦載機発射

時津風「あいたつ!?」中破

秋雲「秋雲さんの砲撃をくらえつ!!」ドーン!

空母ヲ級「ツチノコツ」小ダメ

時津風「むむむ…やったなー!」ドーン!

空母ヲ級「コツメカワウソツ」小ダメ

春雨「さ、さつきから何で動物なんですか!」ドドーン!

空母ヲ級「フレンズツ」小ダメ

潮「え、えーいつ!!」ドーン!

空母ヲ級「キタキツネツ」小破

阿武隈「このまま雷撃戦にいきます！魚雷発射です!!」魚雷発射

ザラ「当たって!!」魚雷発射

春雨「はい!」魚雷発射

潮「い、いきます！」 魚雷発射

秋雲「い、いつけー!!」 魚雷発射

空母ヲ級「プエルトリコヒメエメラルドハチドリ!」 *critical!* 撃沈

鈴谷「おおつ!! 突破できた!」

江風「この調子で突き進んでいこうぜ!」

阿武隈「な、なんとか勝てました…つ、次へいきましよう」

ヴェールヌイ「プエルトリコヒメエメラルドハチドリ…名前が長いフレンズなんだね」

秋月「!?!」

――進撃中――

阿武隈「よし…揚陸地点に到達。物資の輸送、完了です」

潮「最初の輸送は成功ですね」

春雨「ここまで物資が無事でよかったです」 ホツ

利根「まずは1回目じゃ。このままボス艦隊と戦って次へと移るぞ」

ヴェールヌイ「道中の戦艦も手強かったね…」 中破

秋月「戦艦の火力は高いですからね」

皐月「でもこの調子でいけばいけるよ!」

秋雲「次もヤバイ敵艦じゃなきやいいんだけどなー…」

鈴谷「ダイジョブダイジョブ。あたし達ならいけるつてー」

江風「もつともつと大暴れしてやりたいぜ！」

時津風「はやくお風呂入りたーい」

ザラ「!! みんな!! 敵艦隊が見えてきたわ!!」

利根「もう来たか! 索敵開始じゃ!」つ三【瑞雲】

阿武隈「敵の艦隊は？」

利根「うむ…空母棲姫、戦艦2隻、重巡3隻の第一、軽巡1隻、駆逐4隻の第二艦隊
といった連合艦隊じゃ」

ザラ「姫級に戦艦、手強くなっているわね…」

アール『そこら辺は大丈夫だ!』

潮「アールさん!？」

アール『ちやーんと援護は回してあるぜ!』

グレイ『支援航空隊を飛ばしてあるぞー!』

鈴谷「やるじゃーん！」

支援航空隊くボラボラボラッ!! バババババツ

軽巡へ級「オライツ!？」 c r i t i c a l ! 撃沈

駆逐口級A「コヤスツ!」critical!撃沈

空母棲姫「っ：コシヤクナ：!」小破

支援航空隊B<アリアリアアリアアリアツ!! バババババツ

重巡ネ級「：：：つ」小ダメ

戦艦ル級A「ポピーツ!」中破

駆逐口級C「ハヤオツ!」critical!撃沈

利根「いいぞ!!」

鈴谷「流石はアールさんとグレイさんの支援!」

ザラ「次!第四艦隊から通信が来たわ!」

葛城「よ、よし、敵艦隊捕捉!支援砲撃、お願いします!」

飛龍「どつかーんってやっちやって!!」

長門「うむ!!全砲門斉射、てーっ!!」ドドドドーン!!

リットリオ「主砲、放て!!」ドドーン!

磯風「狙い撃つつ!!」ドドーン!

天津風「いくわよー!!撃てーっ!!」ドドーン!

ヒューン・・・

重巡り級A「キヤスバル兄さんツ!?」critical!撃沈

駆逐口級B「ミギーツ!?」critical!撃沈

磯風「まずまずか：後は頼んだ！」

阿武隈「任せて！先手を打つわ！」魚雷発射

戦艦ル級B「イモコツ!?」中破

空母棲姫「小賢シイ奴等メ、シズメツ!!」艦載機発艦

春雨「きやあつ!?」critical!大破

鈴谷「春雨ちゃん!?このっ!!」ドドーン!

戦艦ル級B「ビヤアツ!?」大破

戦艦ル級A「フォイツ!!」ドドーン!

皐月「ひやあつ!?い、いたいじゃないかー!!」中破、反撃

重巡り級B「ホーライツ!?」小破

利根「我輩の砲雷撃戦をくらえっ!!」ドドーン!

空母棲姫「グっ!?オノレ：!!」中破

江風「いつけー!!」ドドーン!

戦艦ル級A「オプスレイツ!?」大破

戦艦ル級B「シャンハイ!!」ドドーン!

ヴェールヌイ「くっ…まだ沈まんさ…!!」大破

秋月「砲撃、いきます!」ドドーン!

重巡ネ級「…っ!」小破、反撃

江風「わあっ?!?なるろ…やっってくれるじゃねえか」中破

阿武隈「第二艦隊、いきます!当たって!!」ドドーン!

戦艦ル級B「ヘブーッ!」critical!撃沈

戦艦ル級A「ララライッ!!」ドドーン!

秋雲「あぶっ?!?危ないじゃないか!」ドドーン!

重巡ネ級「…!!」小ダメ、反撃

潮「っ!まだです!!」回避、反撃

重巡リ級B「バルスっ!」大破

ザラ「続けていくわ!!」ドドーン!

重巡ネ級「…!?!」大破

時津風「まだまだいくよー!!」

重巡ネ級「…っ!」回避

阿武隈「皆さん、雷撃いきますよ!!」魚雷発射

三●くオフザケハユルサナイ!

重巡り級B「アバーツ!?」critical! 撃沈

重巡ネ級「…!!!?」critical! 撃沈

阿武隈「よ、よし!アーロさん、夜戦突入の許可を!!」

アーロ『あ?え?俺?』アセアセ

鈴谷「今はアーロさんが決めるんだからね!」

アーロ『みんな、大丈夫なのか!?』アセアセ

ヴェールヌイ「心配ない。私は沈まないよ」

利根「中破したものは吾輩と鈴谷に任せておけ!」

鈴谷「しっかりと守ってあげるからね!」

アーロ『…:わかったぜ。でも、気を付けるんだぞ!』

——夜戦突入——

阿武隈「うん!阿武隈にお任せください!」魚雷発射

戦艦ル級A「ヌワーツ!?」critical! 撃沈

空母棲姫「オノレ…:暗イ海へ沈ンデイケ!!」艦載機発艦

潮「っ!?!ザラさん、危ないっ!!」

敵艦載機<ヒヤッハー! ババババツ

ザラ「しまっ…:!?やられる…:っ!!」

キラーン：

ザラ「……え？」小ダメ

空母棲姫「（。ㇿ。ㇿ）」

潮「え？」

——精霊の加護、発動——

秋雲「いや、ちよ、今の何!？」

春雨「ダメージをくらったのに、『キラーン』って音したらダメージ量が減った!？」

阿武隈「いやいやいや!?!おかしいですって!?!」

秋雲「お守りなの!?!お守りの効果なの!?!」

ザラ「と、兎に角……これでどう!!」ドドドドーンツ!!

空母棲姫「アアツ!?!な、ナンナノヨ一休……!?!覚エテオキナサイ……!!」撤退

利根「よし!ボス艦隊撤退を確認!」

江風「よっしゃー!!勝利だぜ!!」

鈴谷「というか、ザラっち今の凄すぎでしょ!!」キラキラ

ザラ「お、お守りってすごいわね……」

阿武隈「あ、アールさん！一回目の作戦は勝利です!!」

アール『ああ。よく頑張った！この調子で攻略をしていこうぜ。その前に、帰還してゆつくり休んでくれ』

ザラ「あ、あの……グレイさんは……？」

アール『グレイなら今ひたすら龍田さんから逃げてる』

ザラ「Oh……」

臯月「グレイさんも大変だね……」

秋雲「お守りだの御飯だのほんつとハンターって不思議な人ばかりだね」

ザラ「でもグレイさんのおかげで勝てたわ……」ウフフ

利根「まずは帰還して次に備えておこうか！」

鈴谷「そうと決まれば帰ってお風呂ー！」

時津風「はやくザブーンて入りたいな……ってあれ？」

春雨「？どうかしましたか？」

時津風「あそこに見えるのは……おーい！」ノシ

清霜「およ？私達のことを呼んだの？」

荒潮「あらあ、ここまで来た甲斐があつたわね」

伊勢「もしかして鎮守府の艦隊？結構大人数ね」

阿武隈「連合艦隊ですので：もしよかつたら一緒に来ませんか？」

江風「すつげー面白い鎮守府だぜ!!」

清霜「わーい！それなら私達もその鎮守府に行く！」

伊勢「ちようどどこ行こうか迷つてたところなのよ」

荒潮「うふふ、面白い所ならいいわよー」

清霜「その鎮守府なら私、戦艦になれるかなー？」

利根「：：どうしよう。なりそうで怖い」ヒソヒソ

鈴谷「アールさんのことだから：：やり兼ねないわね」

グレイ「うん。まさか精霊の加護が出てくるなんてビックリ」タンコブ

アール「いや激運じゃあしやあないわな」

龍田「初めて見て私もビックリしたわ。気をつけてくださいねー」ウフフ

加賀「まずは一回目はうまくいきましたね。これをつけて攻略していきましょう」

アール「おーし！もう一度ハンター飯でスキルアップを」

大井「やめなさいってば」ガッ

孫娘提督「アールさん、グレイさん!!ちよつといいかしら」アセアセ

アール「どうした？」

グレイ「今度は何処の補給地点がピンチなんだ？」

孫娘提督「先ほど電報で……第三海域、トラック泊地沖にある火山島の補給地点で、
地の襲撃があつたの」

アール「襲撃……深海棲艦か？」

孫娘提督「いや……電報の内容では『黒いし、ビームでるし、ヤバイし』って慌てた通
信しか来てなくて」

アール&グレイ「」

孫娘提督「……あれ？二人ともどうしたの？」

アール「いや……少しトラウマが……」

グレイ「い、今の俺達ならきつと大丈夫だ……タブン」

アール「と、兎に角俺達がそこに行こう。だが……攻略中は大丈夫なのか？」

孫娘提督「……あー……その事なんだけど、『お節介焼きの軍団』が駆けつけてきたから、
彼らに任せておくから大丈夫よ」遠い目

ア
ー
ロ
&
グ
レ
イ
???

△5 新たなる冒険へ

弥生「ナビルー？」

ナビルー「そうさ！オレはバルファルクの調査の件であるハンターさんとギルデガラ
ンに行くところだったんだけど、ついドーナツの誘惑に負けちゃって……」テヘペロ

弥生「迷子になったの？」

ナビルー「ち、違うぞ！ハンターさんがはぐれちゃったんだ！やれやれ、困ったハン
ターさんだぜえ」

弥生「……私、これからルルカさんに会いに行くところなんだけど一緒にくる？」

ナビルー「本当か！それはありがたいぜー。弥生、レウス、よろしくな！」

コタロウ「(、ω、) (〔クルル

弥生「コタロウもナビルーの事を気に入ってたみたい」

ナビルー「へえー、コタロウっていうのか。そういえば、ライダーやオトモンの勉強
はギルデガランのギルドの学校でしたのか？」

弥生「ううん、司令官に教えてもらったの」

ナビルー「司令官？」クビカシゲ

弥生「ハンターだけど私達艦娘の司令官でもあり、自然やモンスター生態を教えてください」

ナビル「ほほう、いいハンターさんに教えてもらったのか。オレも会ってみたいなー」

弥生「…アグルさんやあぐにゃんも元気かな？」

——
i n タンジアギルド本部

アグル「で、そのアイルーはどうするんですか？」

ルルカ「い、いやー…そのうち探すつて。あ、もしかしたらギルドにひよっこりやつてくるかも」アハハ・・・

アグル「真面目に探してくださいよ…」ジトー

ルルカ「そ、それよりもアグル！はやくクロード達にバルファルクの事を教えなさいよー！」

霞&瑞鶴&木曾（…話をそらした）

提督「アグル、詳しく教えてくれないか？」

アグル「そうですね…ここタンジアが最初にバルファルクの被害が出たところというのはご存知ですね？」

提督「ああ……」

アグル「事の始まりは大型輸送船がタンジアから出港して3日後のことだそうです。甲板に出た船長が空を見上げると赤い光が空を切る様に駆けているのが見えたそうです。最初は真昼間に赤い流れ星が見えたかと思いきやその光が輸送船に向かつて急降下してきたんです。船員達は急いで海へ飛び込んだため全員無事でしたが輸送船は木端微塵になり沈没。脱出した船員達が見たのは赤い光熱を出しながら飛んでいる銀色の龍だったんです」

ジン「赤い光熱？ 龍属性エネルギーか？」

アグル「恐らくそのようなのですが……クシャルダオラやテオテスカトルとは違った力を持った古龍かと」

提督「古文書や伝承じゃ彗星の様に駆けるって言われているからな。たぶん古龍の中では最速を誇るだろうな」

アグル「そうですね……それからタンジアから出る飛行船や各地域から飛ぶ飛行船をバルファルクが襲撃したりと、被害は続出しました。ギルド本部は古龍観測所や龍識船と連携をとってバルファルクの追跡、及び飛行船や船の出港を控えるようにお知らせいたしました」

団長「それで、追跡はどうなっているのだ？」

アグル「ハンターだけでなくライダー達とも協力して捜査しているんですが……今やつとわかったのはバルファルクが落とす灼けた甲殻を見つけることで奴が何処を飛んでいたか、何処へ飛んでいくかが予測できるという事ぐらいですね。最後にバルファルクが目撃された場所はフルクライトジオ付近のドヴァン火山ですね」

提督「空は広いからな……次は何処へ飛んでくるか……」

アグル「神出鬼没状態ですからね。今ではタンジアから出る船もハンターやライダー達で護衛をつけていかないと出れない状況ですし、俺も中々動くことができないです」

提督「うーむ……手厳しいなあ」（――ω――）ウーン

霞「そうね……電探とかがあればいいのだけど……」

木曾「確かに電探があれば便利なんだが……」

アグル「電探？」

明石「艦娘の装備のひとつで、電波を使って敵艦が何処にいるかを察知、索敵できる装備なんです」

瑞鶴「だけでも私達の電探は艦娘や深海棲艦しか索敵できないの」

提督「もしそれ以外に使える電探が開発できれば……」

ルルカ「バルファルクを索敵できるってわけね！超便利じゃん!!」

霞「で、でも話を聞いた感じじゃとても速く飛ぶみたいですし、うまくとらえるかどうか……」

明石「そ、それにそれをうまく開発できるかどうか……」アセアセ

ジン「明石さんならやれる気がする」

明石「ええっ!?!わ、私がですか!?!」

団長「それならドンドルマかナグリ村へ行ってみるか」

ルルカ「そこなら武器や防具の開発技術が発達してるし、明石さんにもいい経験がで
きるわよ」

明石「で、でも資材とか必要ですよ?」

ジン「それなら……沢山あるぞ?」

明石「も、モンスターの素材ですか!?!」

ジン「ほら、俺やアールがやらかしてるみたいじゃやればできると思うぞ?」

明石「自覚はあったんですね!余計にヒドイですよ!?!」

ルルカ「じゃあ一先ず電探開発にドンドルマへ行ってみる?」

提督「それもいいのだが、他の地域にも行って調査しなければならぬぞ」

アグル「というか例のアイルーをほったらかしじゃダメですよ」

ルルカ「あ、あはは……」ニガワライ

木曾「今絶対に忘れてたでしょ……？」

ジン「ここは分かれていくか？」

提督「うーむ……」

受付嬢「た、大変です!!」ドタドタ

アグル「おおっ!? どうした!? バルフアルクが襲撃してきたのか!？」

受付嬢「ば、バルフアルクではないのですが……!!」

in タンジアギルド本部前

金剛「とってもいい買い物したデース♪」ウキウキ

不知火「珍しい舶来品もありましたね。お土産になりそうです」

鹿島「ベルさん、ありがとうございます♪」

ベル「ぜ、ゼニーががが」ガクブル

金剛「比叡達へのお土産を速く届けてあげたいデス」

不知火「司令官が鎮守府行きへの郵便を出せる場所があると言っていましたね」

金剛「Oh!! それなら尚のその、トライしてみマース」

鹿島「タンジアのコーヒー、ここならではの料理もとても美味しかったです」

ベル「鹿島が喜んでくれるなら……まあいいか」

金剛「ベルさん！これを鎮守府の皆に届けてあげたいのデス！」

ベル「それならタンジアカドンドルマでの郵便船で届けることができるけど…バルファルクの事もあるし、少し時間が掛かるかもしれないね」

弥生「ベルさーん」ノシ

コタロウ「() () () ()」クルル

ベル「おお。弥生、コタロウ、おかえりー」

不知火「あら？一緒に歩いているアイルーはどちら様ですか？」

金剛「ワーオ!!とてもCut eデース!!」ギユツ

ナビルー「え、えへへへ…」

弥生「ナビルー、顔がでれたアーロさんみたいになってる」

ベル「変わったアイルーだね…もしかしてルルカが言ってたアイルーってこの子のことかな？」

ナビルー「やっとギルドに着いたぜー。弥生、コタロウ、ありがとな！」

弥生「ナビルーのおかげで他の店とかも見れたし、こちらこそありがとね」

提督「おお!!ベル、皆来てたのか!!」ドタドタ

アグル「やつほー弥生ちゃん、久しぶりー！」

弥生「アグルさん!!お久しぶりです」

アグル「話は聞いたよ？ライダーになれたんだって？それにリオレウスをオトモンにしたって：すごいじゃないか」ナデナデ

弥生「えへへ：ありがとうございます」

アグル「それにこのリオレウスも中々勇敢そうじゃないか」ナデナデ

コタロウ「（*、ω、）」「クルル

アグル「同じライダーになれてとても嬉しいよ。一緒に冒険とかしたいねー」

ルルカ「あ!!ナビルーじゃないの！やっと思つけたー」

ナビルー「ハンターさん、勝手にはぐれちゃだめじゃないか。結構さがしたんだぞー」

プンスカ

ルルカ「：：：口の周りにドーナツのカスがついてるわよ？」

提督「んん？ナビルーじゃないか！」

ナビルー「おおっ？そっちはクロードさん!!久しぶりー！」

提督「久しいな。密林で出会った時以来だな！リユート達は元気にしてるか？」

ナビルー「ああ！リユートもシユバルもリリアもみんな元気だぜ!!」

提督「そっかー、あいつらも頑張ってるみたいだな」ウンウン

ベル「というか皆慌てて出て来てどうかしたのか？」

提督「あつ、そうだった！今タンジアに向かう輸送船がガノトトスに襲われていると

連絡が来たんだ」

ジン「他のハンター達も向かっているが、俺達も今からその船の救援に行くところだ」
ベル「そいつは大変だ。俺も行こう！」

金剛「ねえ提督ー…」ジーツ

提督「ん？えっ、もしかして…出撃したいの？」

不知火「海ですし、私達も鈍ってはいけないと思うので」

霞「司令官、私達も協力したいわ」

団長「ハンターやライダーもいるし、心配はいらんぞ」ワクワク

ルルカ「団長、艦娘たちの活躍を見たいでしょ…？」

提督「…仕方ない。だがもしもの時があるし、俺にちゃんとして来ること」

木曾「よっしや！腕がなるぜ」

弥生「コタロウ、私達も出るよ」

コタロウ「(、ω)三三」グオオオツ!!

明石「艦装の整備は何時でもOKですよ！」

瑞鶴「もう、みんなやる気満々なんだから…」ヤレヤレ

提督「じゃあみんな…出撃だ!!」

i n 海上

ガノトトス「(皿) (皿) タツクル

輸送船へヒギイ!!

船員A「うわっ!?このままじゃ船がもたない!!」ヒエー

船員B「船長!!ハンターはまだ来ないのですか!？」

船長「耐えるんだ!もうすぐ駆けつけてくれるはずだ!!」

ガノトトス「三三三(皿) (皿) 水流プレス

船員A「お、お助けーっ!!」ヒエー

船長「くうっ!!このままでは…総員退避させるか…」

船員C「船長!!向こうから船が見えます!!」

船長「おおっ!!ハンター達が来てくれたのか!？」

船員C「そ、それと…海上を駆けている女性達が見えます!!」

船長「えっ?なにそれ?」

金剛「提督ー!!見えましたデース!!」

提督「まずはガノトトスを船から引き離すんだ!」

瑞鶴「それじゃあ私の出番ね！」艦載機発艦

艦載機へオラオラオラオラオラー!! ババババツ

ガノトトス「Σ（、皿、）」ビクッ

ジン「よし、うまく引き離せたぞ!!」

金剛「これで狙い撃ちデース!! バーニンググラアアブツ!!」ドドーン!

ガノトトス「Σ（、皿、；）」怯み

木曾「このまま攻めるぜ!!」魚雷発射

ガノトトス「Σ（、皿、；）」critical!

ルルカ「おおー、かっこいいわね!」

ガノトトス「（、皿、#）三」突進

提督「こつちに来るぞ!! 陣形を変えて迎撃に移れ!!」

霞「了解!!」

不知火「来ます!回避に専念して!!」

ガノトトス「（、皿、#）三」タツクル

瑞鶴「よつと!」ジャスト回避

金剛「ナイス回避デース!!」

瑞鶴「相手は潜ったわ!」

鹿島「爆雷いきます、えーい!!」つ三爆雷

霞「逃がさないわよ!!」つ三爆雷

不知火「くらいなさい：つ!!」つ三爆雷

＼BOMB!!／

ガノトトス「(、皿、) ;(」驚いて飛び跳ねる

提督「よし! 怯んでいる隙に霞、不知火、鹿島、木曾は船の救助、護送を頼む」

木曾「ああ、任せておけ!」

鹿島「船員の皆さん、大丈夫ですか!!」

霞「今のうちについてきて!!」

不知火「護衛は任せてください」

船員A「う、海の上に立ってる!？」

船員B「い、いったいどんな装備をしたらできるんだ：!？」

船長「兎に角今のうちに進めるぞ!!」

提督「船はもう安全だな：次は、あいつを追い払わなくちゃ」

アグル「ここは俺がやりますよ! あぐにゃん、いくぞ!!」ライド

あぐにゃん(アグナ亜種)「三(、ω)」突進

ガノトトス「Σ(、皿、)」

ナビルー「ほへー…海を駆けるなんて初めて見たぞ！」

弥生「ナビルー、私達もやるよ」コタロウにライド

ナビルー「よしきた！ガノトトスは時たまおかしな判定のあるタツクルをしてくるから気を付けるんだぞ！」

弥生「うん。コタロウ、いくよ!!」

コタロウ「三（、㇇）」「グオオオオツ!!」

ガノトトス「三三（、皿、#）」「水流プレス

アグル「こつちも水プレスだ!!」

あぐにゃん「（、ω）」「三三」水プレス

バシユツ!!

アグル「うおつ、すげえ威力だ…」

ガノトトス「（、皿、#）」「三」突進

弥生「コタロウ!!」

コタロウ「（、㇇）」「」空襲キック

ガノトトス「」」「」怯み

アグル「弥生ちゃん、でかした！」

ナビルー「いいぞ!!もういつちよだ!!」

ガノトトス「三三三(、皿、#)」水流プレス

弥生「コタロウ、避けるよ!!」グイッ

コタロウ「三(、ω、)」「アクロバティックに回避

ナビルー「うおおっ!?!」

弥生「コタロウ、火球プレス!!」

コタロウ「(、皿、)三●三●三●」火球プレス

ガノトトス「(、皿、;)」critical!

提督「よし、今だ!!」つ三【こやし玉】

ガノトトス「三(、;、皿、)」「撃退

提督「撃退成功!なんとか船が無事ですんだな」フー

ルルカ「すごいじゃないの!!流星はクロード達の艦娘達ね」

アグル「一応、俺も頑張ってましたけど…?」

ジン「あぐにゃん、よくやった」

あぐにゃん「(、ω、)」「クルルー♪

アグル「俺も頑張ってましたけど!?!」

ベル「弥生、コタロウ、よく頑張ったね!」

団長「流石はこいつをオトモンにしたライダーだな！」ハッハッハ

弥生「ありがとうございます…」エへへ

ナビルー「…」

i n 港

＼ウオオオオオ!!／

瑞鶴「な、なんか色んなところからすごい声援が送られてるんだけど…」

金剛「イエーイ!! コングラチュレーション!!」ノシ

木曾「そりやまあ…海の上を駆けてたんだし、仕方ないよな…」ニガワライ

鹿島「で、でも少し照れますね…」テレテレ

船長「いやー、助かりました。ハンターの皆さん、ありがとうございます」

提督「いえいえ、俺達は何も…あの子達が頑張ったおかげです」

ハンターA「凄いいじゃないか！一体どんなスキルが発動してるんだい？」

ハンターB「しかも水上でジャスト回避って…やるじゃないか」

瑞鶴「え、えーと…」アセアセ

ジン「(☒?☒)」

ハンターA & B 「ヒエツ」

瑞鶴 「も、もうジンさん!! 変な顔しないの!!」

アグル 「弥生ちゃん、コタロウとのコンビネーションよくできてたぞ」

弥生 「コタロウ、よく頑張ったね」 ナデナデ

コタロウ 「(、ω、)」 フンス

ルルカ 「みんなすごかったわよ!! みんなの活躍を祝って、飲みに行こう!!」

提督 「えっ…」

ルルカ 「ほらほら、遠慮しないで。もちろん、アールの奢りだから」

霞 「だからアールさんいないですってば!」

ジン 「タンジアビールが飲めるっ!!」 キラッ

提督 「きよ、今日はお酒は少し控えとこうかな」

ベル 「うん、それがいい…」

霞 「それがいいわね…」

アグル 「???」

ルルカ 「? 仕方ないわね、じゃあタンジア鍋でお祝いね!」

ジン 「そんな」 (、ω、)

瑞鶴 「もう…ジンさん、一緒に飲んであげるわよ」

翌日

アグル「もう出発しちゃうんですね…でもバルファルクの調査なら仕方ないです」

提督「すまないな…」

アグル「いいいえ、クロードさん達とまたご一緒できて楽しかったですよ。この任務が済めばすぐに駆けつけていきますから！」

団長「イサナ号の出発準備はできたぞ。次は何処へ行く？」

提督「電探開発のため、目的地だったドンドルマへ行こうと思います」

明石「ほ、本当に造るんですね…」

提督「ドンドルマを拠点に各地へ行けるようにしようと思ってる。素材や設計とか色々必要な物もあるし、バルファルクの捜査もやるぞ」

ジン「それならいつでもユクモやポツケ村、ココット村にも行けるな…」

ルルカ「じゃあ私はギルデガランへ行こうかしらね」

ナビルー「なあクロードさん、実はその事なんだが…頼みがあるんだ」

提督「うん？どうかしたのか、ナビルー」

ナビルー「ルルカの代わりに弥生と一緒にギルデガランへ行きたいんだ」

ベル「ええっ!?ど、どうしてだい？」

ナビルー「弥生とコタロウの絆を見てピーンときたんだ。リユート達みたいに強い絆

で結ばれていると感じた。一人前のライダーにするため弥生と一緒に冒険をしたくなつたんだ。お願いだ、クロードさん！」

金剛「Oh…これが所謂ヘッドハンティングですね!？」

瑞鶴「たぶん違うと思う…」

霞「司令官……」

提督「…弥生はどうしたい?」

弥生「わ、私ですか?」

提督「遠慮せず、本当の気持ちを正直に言つてごらん」

弥生「…司令官、私…コタロウとナビルーと冒険してみたい」

コタロウ「(、ω、)」クルル…

提督「……」

ナビルー「クロードさん……」

提督「…弥生、冒険には色んな事を目の当たりする時がある。多くの人に出会つたり、幻想的な光景、受け入れがたい現実、命が危険にさらされる脅威、苦しい事も楽しい事もある」

弥生「……」

提督「…だけどな、大事な事はそれをひつくるめて受け止めて進むんだ。できるか?」

弥生「はい……！」

提督「……なら、大丈夫だな。ナビルー、コタロウ……弥生を頼んだぞ」

ナビルー「!! オウ!! オレに任せとけ！」

ベル「提督、いいのかい……？」

提督「可愛い子には旅をさせよ、つて言葉がある。弥生なら大丈夫だ」

ジン「……本当は心配なくせに」ヤレヤレ

提督「……離れていても俺達は絆で繋がってる。いつでも駆けつけていけるさ」

提督「よし、忘れ物はないか？」

弥生「司令官、大丈夫です」

提督「秘薬は持ったか？調合の仕方は大丈夫か？解毒薬はあるか？と、砥石とか肉焼き機とかえーとそれから……」

霞「心配しすぎよ!」スパーン

明石「さつきカツコいい事を言ったのに、なんでこうなるんですかね……」

弥生「司令官、私は大丈夫です」クスツ

提督「……そ、そうだな。アーロに片手剣の使い方を教えてもらってるし。大丈夫だな!」ガクブル

ルルカ「その前にクロードが大丈夫じゃないんだけど…」

提督「ナビルー、ギルデガランへの案内は頼んだぞ」

ナビルー「ああ！すっかり道案内をしてやるから任せておけ！」

ジン「コタロウ、弥生をしっかりと守ってくれ」

コタロウ「(、ω、)」「グオオオッ!!」

提督「じゃあ俺達はドンドルマへ」

ナビルー「オレと弥生、コタロウはギルデガランへ。着いたら連絡するぜ！」

団長「よし、準備はいいな！イサナ号、発進!!」

弥生「コタロウ、飛ぶよ」ライド

コタロウ「(二、ω、)」「バサッ」

アグル「みなさーん!!また会いましょう!!あとクソ兄貴によろしくです!!」ノシ

あぐにゃん「(、ω、)」「しっぱをふる

ジン「ああ、またな…!!」

金剛「アグルさーん!!また会いましょう!!」ノシ

ルルカ「はやく追いついてくるのよー!!」ノシ

ナビルー「よし弥生、ギルデガランの方角はあっちだ！オレがしっかりと案内してや

るぜ！」

弥生「うん……司令官、皆、いってきます!!」

コタロウ「C二（、ω、）二C」グオオオオツ!!

ベル「いってらっしゃーい!!」ノシ

瑞鶴「弥生、頑張つてねー!!」ノシ

不知火「旅を楽しんで……!!」ノシ

明石「コタロー!! 弥生ちゃんをよろしく頼んだわよー!」ノシ

提督「……どうか、あの子達に幸多からんことを」ガクガクブルブル

霞「司令官、かなり震えてるわよ……」呆れ

○5 介入、輸送作戦!!

i n 第一連合艦隊泊地

ザワザワ：

ホッポ「すごい注目されてる！」エツヘン

軽巡棲鬼「注目の的っていうのも悪くないわねー！」デヘヘ

ウイル「なんかこう色々で見られると照れるなあ」エヘヘ

孫娘提督「注目されて当然よ!!」プンスカ

ウイル「あ、この泊地の総司令官って君の事かい？よろしくー」

ホッポ「手伝う！頑張る！」フンス

大和「深海棲艦がこんなに：：大所帯ですね」アワワ

孫娘提督「はあ、他の鎮守府の艦隊が混乱するからあまり無茶をしないでよね？」

レ級「開幕雷撃とか開幕艦載機とかできるぜ！」フンス

戦艦水鬼「久々の海戦だ。腕がなる」フンス

戦艦棲姫「え？ダブルダイソン：？そ、それはできないかなー」ニガワライ

孫娘提督「やる気満々すぎるんだけど：：」

ウイル「実際合切、ここに来たのは深海双子棲姫に会いに来たんだ」

孫娘提督「え？それってどういう事…？」

ウイル説明中…

孫娘提督「成程、そういう事なのね…」

大和「もしウイルさんがその子達を助けることができたのなら、大規模な海戦を回避することができますね」

孫娘提督「でも難しいわよ？あの子達みたいにすぐに懐いてくれそうな雰囲気は無いかもしれないし」

ウイル「まあそんな時は俺のコミュニケーション能力でゴリ押しだぜ」

孫娘提督「心配だなあ…」

集積地棲姫「弾薬、燃料の準備が出来たわよ。ウイル、編成を決めてちょうだい」

ウイル「おお、いよいよってか！それじゃあ出撃メンバーはどうしようかなあー」

重巡棲姫「ヴェア!!ウイル、私が一番!!」

南方棲鬼「ここは私が出撃するべきだろ」

駆逐水鬼「開幕魚雷と強襲なら任せろ！」

防空棲姫「行く先の海域は空母がいるんでしょ？だったら対空で評定のある私でしょ

！」

空母棲姫「私ならすぐに制空権確保ができるけど？」

戦艦水鬼「待て待て。圧倒的な火力で私と戦艦棲姫のタッグは間違いないだろ」

泊地水鬼「……！」ソワソワ

孫娘提督「なんだろう、すつごく強すぎるような気がするわ……」遠い目

大和「ほ、ほとんどが過去の海戦でボスを務めた深海棲艦ですからね……」ニガワライ

ウイル「確か……この作戦は連合艦隊だとか？」チラツ

孫娘提督「やめて」

大和「み、皆さんが出撃してくださいるのは心強いのですが……今作戦は輸送作戦です」

ウイル「……どういうことだつてばよ？」

孫娘提督「……クロードさん、はやく帰つて来て」

集積地棲姫「今回の作戦は第3海域に向けて物資を届け、戦力を蓄えていくの」

ウイル「だつたら……この作戦は他の鎮守府がすぐに第三海域へ行けるように俺達が張り切つてやらないとな！孫娘提督殿、ここいらは俺達に任せてくださいな」

孫娘提督「いいの……？深海棲艦同士の戦いになるのよ？」

戦艦棲姫「それぞれの考えのぶつかり合いになるのは間違いありません。でも、私達はウイルについていくと決めていきますから」

駆逐水鬼「殴り合えば分かり合えるさ！」

ウイル「もしもの事があれば俺が体張りますから」エツヘン

孫娘提督「…わかったわ。でも、貴方達も大事な仲間。無理だけはしないで」ヤレヤレ

ウイル&ホツポ「了解っ！」

i n 第一連合艦隊泊地―母港

集積地棲姫「はい、これが輸送物資のドラム缶」つドラム缶

駆逐棲姫「輸送ならお任せください！」ヨイシヨ

ウイル「じゃあホツポ、駆逐棲姫、レ級、防空棲姫、重巡棲姫、港湾さん。よろしく頼むぜ」

ホツポ「ウイル、頑張る！」

港湾棲姫「む、無理のないようにする…」アセアセ

重巡棲姫「MVP、絶対に獲る！」フンス

戦艦水鬼「むう…今回は私達の出番はなしか」ムス―

戦艦棲姫「まあまあ、次の海域もあるし待ちましょ」

駆逐水鬼「早く私達も出撃したい」

深海海月姫「交代制でやるみたいよ？すぐに番が来るわ」ウフフ

ウイル「うし、出撃だな。頑張つてな!!」

レ級「輸送作戦ならあつと言う間に終わらせてやるさ！」

防空棲姫「ウイル、鉄船に乗った気分できていいわよ」

ホツポ「いつてきまーす！」ダッ

駆逐棲姫「ちよ、ホツポちゃん!?まだ早いよ!？」

ウイル「いつてらつしやーい」ノシ

孫娘提督「この光景を見ると、あの子達も艦娘達と変わらないわね……」

大和「そうですね。ウイルさん達のように手を取り合えることができたらいいですね

……

戦艦水鬼「ウイル、出撃のシステムには支援艦隊というものがあるぞ！」

南方棲鬼「これなら私達も出撃できる！」

空母水鬼「敵艦隊捕捉ならバツチコイ!!」

ウイル「まじか。ホツポが心配だったから導入してみるのもいいかもな」

孫娘提督「……すぐに止めなきや」ダッ

i n 小笠原諸島航路

ホツポ「ふんふんふーん♪」ウキウキ

港湾棲姫「ホツポ、楽しそう……」

駆逐棲姫「久しぶりに海を駆けますし、初めての出撃ですからね」

ウイル『あーあー…皆聞こえるかー?』

防空棲姫「これが通信っていうやつね!ウイル、聞こえるわよ」

ウイル『こ、今作戦は輸送作戦だ。物資を届けることを優先に強行突破で行くぞ』

レ級「ウイル、声が震えてるよー」ニヤニヤ

戦艦水鬼『む、これを出撃しているメンバーと繋がるのか』ガタツ

軽巡棲姫『面白そう!次、私がやっていい?』ガタツ

ウイル『ちよ、やめっ』ザーザー

防空棲姫「…あつちもあつちで大変そうね」

港湾棲姫「はやく物資を運び終わらせなくちや」

重巡棲姫「!!他の深海棲艦が見えてきた!」

空母ヲ級E「ファッ!?」ギョッ

軽母又級①E「艦娘ト思ッタラ違ッタ!?!」

軽母又級②E「アイエエッ!?深海棲艦、ナンデ!?!」

ホッポ「そこ通るからどいて!」

重巡棲姫「物資届けるから邪魔しちやダメ!」

空母ヲ級E「ドウスル…?」ヒソヒソ

軽巡へ級E「艦娘共ノ味方ヲスルナラ邪魔ヲシテヤロウ」ヒソヒソ
 軽母又級①E「勝テル気ガシナイノダケド…」

空母ヲ級E「兎に角、私達ノ邪魔ヲスルナラ攻撃スル!!」艦載機発射

軽母又級①E「カエレ!!」艦載機発射

軽母又級②E「物資ヲ壊セ!!」艦載機発射

レ級「しようがない、撃退する程度で行く!」艦載機発射

港湾棲姫「みんな頑張つて…!」艦載機発射

ホッポ「いっけー!!」艦載機発射

艦載機達<ウラー! 敵艦載機<ヒヤッハー!

防空棲姫「ここで対空砲の出番ね!」対空カッターイン ババババツ

敵艦載機<チートヤ、チーターヤ!! 撃墜

駆逐口級①E「ギユツ!」critical!大破

駆逐口級②E「ギャツ!」critical!大破

軽巡へ級E「爆撃ハ避けタタ:反撃ニ移ルry」

重巡棲姫「ヴェアツ!!」魚雷発射

レ級「艦載機も魚雷もあるんだよ!!」魚雷発射

軽母又級②E「ソウダッターツ!!」critical!大破

軽巡へ級E「戦艦ナノニズルイゾーッ!?」critical!大破

防空棲姫「どかないと痛くするわよっ!!」ドドーン!

空母ヲ級E「駆逐艦ナノニ火力高スギッ!?」critical!大破

港湾棲姫「え、えーいつ!」ドドーン!

軽母ヲ級①E「フベスッ!?」critical!大破

駆逐棲姫「相手の艦隊大破!このまま強行突破します!」

港湾棲姫「ごめんね…!」アセアセ

レ級「ふいー、初戦は難なく突破できたな!」

防空棲姫「この調子ならすぐに行けそうね」

ホッポ「: : :」ムスーッ

駆逐棲姫「ほ、ホッポちゃん、機嫌悪そうだけど…?」

ホッポ「私も活躍したい!!」クワッ

駆逐棲姫「港湾棲姫さん達の艦載機に、レ級ちゃんの開幕雷撃、これだけでも相手の

戦力を削つちやうもんね…」

ホッポ「今度は私もやる!!」フンス

防空棲姫「そう言っているうちにまた出くわしたわよ」

戦艦夕級①E「ナッ!?艦娘共デハナクお前達ダト!」

戦艦夕級②E「邪魔ヲスルナラお前達モ容赦ナク攻撃シテヤルワ!!」

防空棲姫「こつちだつて、双子に用があるから来てるのよ。邪魔をするならどいてもらうわ!」

重巡棲姫「やってやるもん!!」フランス

戦艦夕級①E「ナラバ：沈メツ!!」ドドーン!!

駆逐棲姫「わととつ：物資はやらせはしません!!」小ダメージ

レ級「艦載機と魚雷と砲撃のコンボをくらえつ!!」艦載機&魚雷&砲撃

戦艦夕級②E「チヨ、ソレツテズルイワヨ!」critical!大破

駆逐口級①E「ムリゲーツ!」critical!大破

軽母又級E「物資ヲ壊セーツ!!」艦載機発射

港湾棲姫「イタツ!」小ダメージ

ホツポ「お姉ちゃん!!むー、私だつてやれるんだから!!えーいつ!!」つ三三三【ドラム缶】

戦艦夕級①E「グヘーツ」三三三【ドラム缶】、ω。）。∴.

駆逐棲姫「ホツポちゃん!?それ輸送物資だよ!」

防空棲姫「ほら、どきなさい!!」ドドーン!

軽母又級E「ミギヤツ!」critical!大破

重巡棲姫「ヴェアアアツ!!」ドドーン!

軽巡へ級E「ツ、ツヨスギーツ!」critical!大破

戦艦夕級「クツ：ひ、姫級や鬼級、戦艦レ級ハ手強スギル!!一先ず撤退!!」退避

駆逐口級②E「ニゲローツ」退避

ホツポ「どんなもんだい!!」ドヤツ

港湾棲姫「ホツポ：ドラム缶は投げちやダメ：」

ホツポ「？」

ウイル『うん、物資を投げた時はすつごいビックリした』

戦艦水鬼『うむ：投擲の手段としてはいいかもしれんな：』

空母水鬼『脳筋乙』ブークスクス

戦艦水鬼『お前で試してもいいか?』ゴゴゴゴ

ウイル『あ、ちよ、また暴れちやだry』ザーザー…

防空棲姫「：あつちも本当に大変そうね：」

レ級「ウイル、大丈夫かなー：」

in揚陸地点

兵士さんA「：まじで？」

港湾棲姫「これ、持ってきたよ……」

ホツポ「物資お届け！」ドヤツ

兵士さんB「まさか君達が届けてくれるなんて……味方になってくれると心強いな」

兵士さんC「あれ？一つだけかなり凹んでるのがあるんだけど……？」

レ級「と、兎に角物資の輸送は成功だな！」

防空棲姫「この調子で私達がどんどん物資を届けていくわ!!」

兵士さんA「ありがとう。次は通商破壊部隊のいるボス艦隊だ。十分気を付けてくれ」ノシ

ホツポ「またねー！」ノシ

レ級「次の戦闘も巧く突破できれば次の攻略が楽になるみたいだな」

ホツポ「どんどんいくよ!!」クワツ

港湾棲姫「次の相手は確か……」

防空棲姫「見えてきたわよ……かなりの数ね」

空母棲姫E「お前達……深海棲艦デアリナガラ艦娘共ノ味方ヲスルトハ……!!」

ホツポ「皆仲良くしなきゃダメ！」プンスカ

空母棲姫E「エエイ、マズハお前達カラ沈メテヤル!!」艦載機発射

レ級「なんのこれしき!!」艦載機発艦

港湾棲姫「ホッポ達をやらせはしない…!!」艦載機発艦

ホッポ「皆、頑張つてー!!」艦載機発艦

艦載機<イケイケドンドン!! 敵艦載機<悪イ子ハオシオキーツ!! バババ

バツ

駆逐口級①E「ビヤツ!?」critical!大破

駆逐口級②E「バワツ!?」critical!大破

重巡り級①E「グワーツ!?」critical!大破

防空棲姫「っ!?やっぱり姫級の艦載機は痛いわね…」小破

重巡棲姫「ヴェアツ!!魚雷をくらえっ!!」魚雷発射

レ級「今度は雷撃をくらわしてやる!」魚雷発射

軽巡へ級E「ぶべっ!?」critical!大破

戦艦ル級②E「戦艦ノ癖ニ空爆トカ魚雷トカズルゾーツ!!」critical!大

破

駆逐棲姫「せ、先制いきます!えーいつ!!」ドーン!!

駆逐古姫E「クツ…ナメルナツ!!」小破、反撃

港湾棲姫「ホッポに被弾させないっ!」ホッポを庇う、小破

重巡棲姫「お返しっ!!」ドドーン!

駆逐古姫「キヤアッ!?」critical!大破

空母棲姫E「コノツ…沈メツ!!」艦載機発射

駆逐棲姫「きやああっ!?」critical!中破

防空棲姫「やったわねっ!!痛くしてやる!」ドドーン!

空母棲姫E「グウツ…中々ヤルジヤナイノ…」critical!中破

ホッポ「えーいつ!!」つ三三〔ドラム缶〕

戦艦ル級①E「ナンデドラム缶ガアッ!?」三三〔ドラム缶〕、3。…

駆逐棲姫「ホッポちゃん!?なんでドラム缶を持つてきてるの!」

重巡リ級②E「オノレ、コレデモクラエ!!」ドドーン!

重巡棲姫「キュッ!?」小破

レ級「今のうちに反撃だっ!」ドドーン!

駆逐口級③E「ベラッ!?」critical!大破

重巡ネ級E「…!」ドドーン!

港湾棲姫「クッ!!なんのこれしき…!!」中破、反撃

重巡リ級②E「アバッ!?」hit、中破

レ級「よし、雷撃戦だ!」魚雷発射

重巡棲姫「ぬんっ!!」魚雷発射

ホツポ「負けないっ!!」魚雷発射

重巡ネ級「:ツ!?」critical!大破

駆逐口級④E「ミギーッ!?」critical!大破

重巡リ級②E「ヌワーツ!?」critical!大破

防空棲姫「よし、ウイル!夜戦突入の許可を頂戴!」

ウイル『:えっ?俺?』ガタッ

レ級「そういうのがあるの!!司令官ならシャキッとしなきゃ!!」

駆逐棲姫「ウイルさん、お願いします!」

ウイル『わかった!だが、あまり無茶はするな!』

——夜戦突入!——

ホツポ「よし、夜戦カッツトインを:ry」

重巡棲姫「ヴェアアアアッ!!」ドドーン!

ホツポ「(。ω。)

空母棲姫E「アアアッ!?オノレ:何故艦娘共ノ味方ヲスル:」critical!大

破

防空棲姫「今は争っている場合じゃないのよ」

レ級「ウイルや私達は双子に会わなきやいけないからね。それにウイル達ならあの溶岩島をどうにかすることが出来るわ」

空母棲姫E「…無理だ。私達ガイタあの島二ハ怪物ガイル。私達デスラ齒ガ立タナカツタンダゾ…」

ホツポ「大丈夫！ウイルが助けてくれる！」フンス

空母棲姫E「…フン。ソコマデ言ウナラヤツテミロ…」撤退

防空棲姫「…うまく突破できたわね」

レ級「これで安全に物資を輸送できる」フー

ウイル『よ、よかったー…皆、よく頑張った』プシユー

戦艦棲姫『ウイ、ウイル!? 空気が抜けてるわよ!?!』

ウイル『と、とりあえず帰還してくれ。ご苦労様』プシユー

in 第一連合艦隊泊地 | 母港

重巡棲姫「ウイル、ただいまーっ!!」抱き着く

ウイル「ぐへー!? お、おかえり…」（；； ㄥ、ㄥ）

重巡棲姫「♡」スリスリ

戦艦水鬼「少々やられたようだな…」

孫娘提督「…ありがとう。貴方達のおかげで次の海域へと進むことができたわ」

ウイル「どんなもんだい！」ドヤア

ホツポ「どんなもんだい！」フンス

孫娘提督「…」（#、ω、）

戦艦棲姫「つ、次の海域も私達が援護するわ」

駆逐水鬼「次はやつと深海双子棲姫のいる海域に行けるのだからな」

ウイル「ところで、アーロ達は大丈夫なのかなあ…」

孫娘提督「今は別の補給地点の奪還に成功してそこから出撃をしているわ」

ウイル「そっかー、あいつちゃんとやってんだな」ホツ

孫娘提督「…ここからは貴方達も作戦に参加してもらおうわ」

軽巡棲姫「キターツ!! 私というアピールする機会だわ!!」

南方棲鬼「作戦? 次はどんな作戦なんだ?」

孫娘提督「ウイルのいう例の溶岩島に行くには2か所突破しなきゃいけない所がある

の。まずは彩雲の輸送作戦を展開、次に行く手を阻む離島棲姫のいる海域。そこを突破

すれば溶岩島のある海域へ行けるの」

ウイル「なんかややこしいな…」

孫娘提督「うふふ、アーロも同じことを言ってたわ。でも彼らがその補給地点を奪還

したおかげで輸送作戦は成功。次の難所へと向かっているの。そこでウイル、貴方達の出番よ」

ウイル「どうすればいいんだ？」

孫娘提督「貴方達の艦隊で離島棲姫を撃退して、溶岩島への海域でアール達と合流しなさい」

空母水鬼「なんだか簡単な作戦ね！」

孫娘提督「そうでもないわよ…ウイル、貴方にはやつてもらおう仕事があるわ」

ウイル「はい？俺…？」

イントラック泊地沖「第二補給地点

ウイル「うわ…ここも派手に壊されてるな」キョロキョロ

孫娘提督『早期攻略の為、貴方にはトラック泊地沖の第二補給地点を奪還してほしい。あそこも溶岩島の影響で起きた噴火だけじゃなく、モンスターの襲撃にあつて被害でているわ。ハンターである貴方だからこそ、お願いするわ』

ウイル「アールやグレイもやつたんだから俺もしつかりやんねーと…にしてもバツサリと鉄塔が斬られてんな。デイノバルドか…？」

ザザッ！！

ウイル「そおいつ!? 地面から!? いや、あの鎌は…シヨウグンギザミか!」緊急回避

シヨウグンギザミ「(、皿)」地面から出てくる

ウイル「…いやちよつと待て。あいつの背負っている殻つてディノバルドの頭骨!!」

シヨウグンギザミ「(、皿)」鎌を頭骨で挟む

ギギギギツ…!!

シヨウグンギザミ「(、皿)」シャキーンッ!

ウイル「ただのシヨウグンギザミじゃねえ…『鎧裂』シヨウグンギザミかよ!」

◇7 激闘！黒き熱風 前

inトラツク沖―火山島―某所

アール「：：こくら辺だよな？」キヨロキヨロ

グレイ「情報じゃ確かにその通りなんだが：：あちこち焦げてねえか？」

アール「もうね：：嫌な予感しかしねえ」トホホ

グレイ「なんにせよやるしかねえぜ兄弟：：ところで、あの子達はこのまま次の海域へ
攻略することになったみたいなんだが：：」

アール「？何か気になるのか？」

グレイ「やけに孫娘提督殿は遠い眼差しをしてたな」

アール「うーん、最近寝不足なんじゃね？」

グレイ「なるほど、気疲れてやつだな。じゃあ早くこのクエストを済まして気を楽
にしてあげねえとな！」

アール「そうと来ればいっちょやってやるか！」フンス

アール&グレイ「A H H A H H A !!」

ゴウツ 三三三三三

グレイ「うおっ!?熱線!」緊急回避

アール「あぶねっ!」緊急回避

グレイ「もう一発くるぞ!!」

ゴウツ 三三三三三)

アール「おっと!いきなりのお出迎えか。本当にあぶねえ野郎だ」

グレイ「あの熱線には何度直撃したことか…」

ズウウウンツ!

グラビモス亜種「(、皿)」グルルル:

アール「やっぱグラビ亜種だと思ったよ畜生!!」つエクサルシス

グレイ「普通のグラビよりも熱を過剰に溜めこんでるから強力な排熱や熱線を頻繁にしてくる。気を付けてかかれよ?」つにたはづみ流麗玉筆斧

アール「わかってらあ!!故郷では何度も戦ってきたからな!」ダツシユ

グラビ亜種「(、皿)三三三三三)」薙ぎ払いグラビーム

アール「ちよ、あぶねっ!」緊急回避

グレイ「ほら、気を付けろって!!」剣モード斬り込み

アール「はっはっは、ジョークだぜジョーク」盾突き

グラビ亜種「??（、皿）??」排熱攻撃

アール「ぶふう!?!」..:.(ε。(??)

グレイ「おつと!!」エリアル回避

アール「あつ?!?エリアルスタイルかよ、ずりいぞ!!」メラメラ

グレイ「時と場合つてもんよ!!」ジャンプ攻撃

グラビ亜種「(、皿)つ」尻尾攻撃

グレイ「ぶべらあつ」☆(皿)皿、)

アール「ホームランされてんじやねえか!」

グレイ「と:時と場合つてやつだ:;)」皿、;

グラビ亜種「(三三三三三(、皿)」グラビーム

アール「ほいつ!!」回避

グレイ「あぶねつ」アールを踏み台にしてエリアル回避

アール「おおい!俺を踏み台にした!?!」プンスカ

グレイ「すまんすまん、つい:」テヘペロ

グラビ亜種「(三三三三三(、皿)」薙ぎ払いグラビーム

アール「おとおつ!?!」緊急回避

グレイ「くそつ、何度も熱線してくると近づけないな:」

アール「こういう時は、ごり押ししてでも近づくぜ!!」ダツシユ

グラビ亜種「(、皿、) 三三三」突進

アール「そっちがくるんかあぁいつ!」(； 皿(

グレイ「今のうちに攻める…っ!!」

グラビ亜種「(三、皿、) 三三三三三三」振り向きグラビーム

グレイ「振り向きながら撃つのかよおおおっ!」三三三。3。…

アール「このっ!!」斬りかかり

グラビ亜種「(、皿、) 三」タツクル

アール「なんのっ!」ガードして斧モード叩き込み

グレイ「そりゃっ!!」ジャンプ攻撃

グラビ亜種「(、皿、) 怯み

グレイ「よっし、乗りいつ!!」

アール「でかしたぜ!」

グラビ亜種「(、皿、) ; (」ジタバタ

グレイ「ぬううっ…っ!!」しがみつく

アール「頑張れ!! 振り落とされるなよーっ!!」

グラビ亜種「(、皿、) # (」グオオオオオオッ!!

アール「うるせーっ！」（ \cap 、 \sqcup 、 \cup ；）

グレイ「なんの、支給用耳栓だぜ！おらおらおらおらーっ！！」ザクザクザクツ

グラビ亜種「（、皿、；）」「ダウン

アール「よーし、今のうちにどんどんいくぜ！」属性解放斬り

グレイ「そりゃそりゃそりゃーっ！！」連続斬り

グラビ亜種「（、皿、#）」「ボディプレス

アール「おうっ!!」ガード

グレイ「つと！」エリアル回避

アール「ガードができりゃあなんともねえぜ！」フンス

グラビ亜種「??」（、皿、）??」排熱攻撃

アール「それはガードできねえーっ」（； \sqcup ??

グラビ亜種「三三三三（、皿、）」「縦方向薙ぎ払いグラビーム

グレイ「そういうのもあつたーっ!」。∴∴（ \cap 、 ε 。（三三三

アール「大丈夫か！」つ【生命の粉塵】

グレイ「サンキュー、亜種の熱線の多さにはまいったな」メラメラ

グラビ亜種「〇三〇三（、皿、）（「歩きながら単発ビーム

アール「うおおおっ!!こっちに来たー!!」ダッシュ

グレイ「ちよ、こっちくんなし!」(; 皿、) 三

アール「いやお前がくんなし!」ダツシユ

グラビ亜種「〇三〇三(、皿、)」歩きながら単発ビーム

アール「ひいいいっ!!まだしてくるのかよーっ!!」(; 皿、) 三

グレイ「待ってろ、今なんとかしてやるぞ!」つ三【閃光玉】

カッ

グラビ亜種「(×皿× ;)」眩暈

アール「おおつ、助かったぜ!」

グレイ「今のうちにいくぞ!!」属性解放突き

アール「おっしやあ!!」盾突き

グラビ亜種「(、皿、 ;)」右脚部位破壊、ダウン

グレイ「こかしたぞ、かかれっ!」斧モードぶん回し

アール「おらおらおらっ!!」盾突き

グレイ「せいっ!!」切り上げ

アール「おおつ!?!ナイスコンボ!」打ち上げられてジャンプ攻撃

グラビ亜種「(、皿、 #) 三」タツクル

アール「うおつと!」ガード

グレイ「ひえっ」エリアル回避

グラビ亜種「(三三三三三(皿 #)」縦方向薙ぎ払いグラビーム

アール「うひいっ!?こ、怖え…!」足下へ回避

グレイ「足下がお留守だぜ!!」剣モード連続斬り

グラビ亜種「(皿 #)」怯み

アール「もういっちょ!!」高出力属性解放斬り

グラビ亜種「(皿 #)」腹部第一段階部位破壊

アール「つしやあ!!まずは一段階目だ!」

グレイ「もう一回部位破壊できればあの部位は水属性がよく通るからな」

グラビ亜種「(皿 #)つ」尻尾攻撃

アール「ふんっ!」ガード

グレイ「あだふっ!」受け身

グラビ亜種「(三三三三三(皿 #)」起き攻めグラビーム

グレイ「それはずるいぞーっ!」(三三三(ω)∴∴

アール「こんにやろう!!起き攻めはさせねえぞ!!」属性解放斬り

グラビ亜種「(皿 #)」頭部位破壊

グレイ「あつつあつつ!!こ、このまま行けば順調だ…:つて、アール!!そこから離れ

ろ!!」

アール「あい？」

ゴウツ 三三三三三

アール「あばーっ!?」(； 皿(三三三三

グレイ「これでっ！」つ三【生命の粉塵】

アール「あつっう!!ど、どこから熱線が…!?」

ドドドドド

アール「あ、あれってもしかして…」

グラビ亜種B「三三三(、皿、)」突進

アール「おおおいつ!?2頭目かよ!?」

グレイ「グラビモス亜種が2頭…そりやあ補給地点がやられるわけだ」

アール「冗談じゃねえぜ!あのトラウマが思い出すー!」ヒーツ

グレイ「と、とにかく分断をしなきゃ…」

グラビモス亜種A「(三三三三三(、皿、#)」薙ぎ払いグラビーム

グラビモス亜種B「(、皿、)三三三三三)グラビーム

アール「むりいいいつ!?」緊急回避

グレイ「やっぱ砲台と化するよねーっ!!」緊急回避

アール「こ、今回はこやし玉を忘れてねえからな！これで…」

グラビ亜種A「(皿、#)三三三」突進

アール「うばああああつ!?」…。(ε)。()

グレイ「おおおいつ!? だったら俺が…」

グラビ亜種B「(皿、)三三三三」薙ぎ払いグラビーム

グレイ「ブツ!?」三三三(3、;))

アール「2頭同時の熱線はやばすぎるっての！」つ三「生命の粉塵」

グラビ亜種A「三三三三(皿、#)」グラビーム

グラビ亜種B「(皿、)三三三三」薙ぎ払いグラビーム

グレイ「やべええつ！」緊急回避

アール「熱線飛び交いすぎい！」プンスカ

グラビ亜種B「三(皿、)突進

アール「こつちにくるぞ!!」

グレイ「よし、このまま躲して最初の奴を狙って…」

グラビ亜種A「(三三三三(皿、#)」薙ぎ払いグラビーム

アール&グレイ「ウワラバアアツ!?」…。(ω)。(三三三

グレイ「あつづあつづ!?」ゴロゴロ

アール「す、隙がなさすぎだろ!」つ回復薬グレート

グラビ亜種B「(三三三三三、皿、三三) 振り向きグラビーム

アール「うおおおっ!」緊急回避

グレイ「こ、このままじゃこつちがやられる!」アセアセ

アール「よし：俺が最初の奴を引き付ける。その隙にあつちにこやし玉をつけてくれ
!」ダッ

グレイ「おう!頼んだぜ!」ダッ

アール「うおおおっ!!こつちだ!!」斬り込み

グラビ亜種A「(皿、#)つ」尻尾攻撃

アール「ぬうんっ!屁でもねえぜ!!」ガード

グラビ亜種B「(皿、)」息を吸い込む

グレイ「そつちに熱線は飛ばさせんぞ!」ジャンプ斬り

グラビ亜種B「Σ(皿、)」

グレイ「このままこやし玉を…」ガサゴソ

グラビ亜種B「(皿、)三〇三〇」歩きながら単発ビーム

グレイ「ちよっ、こつちくんナ!」ダッシユ

アール「いいぞ!そのまま分断してry」

グラビ亜種A「(#、皿)三三三三」グラビーム

グレイ「ラストシューティンググウウッ!?」三三三)皿、;

アール「グレイっ!?この野郎!こっちに来やがれてんだ!!」つ三【こやし玉】
ベチャツ

グラビ亜種A「:」ギロリ

アール「おし!このままこっちに:あれ?」

グラビ亜種A「〇三〇三(皿、#)(「歩きながら単発ビーム

アール「それで行くのかよっ!?」ダツシュ

グレイ「な、なんとか分断できた:」つ回復薬グレート

アール「うひいっ!!そ、そっちは頼んだぞーっ!」ダツシュ

グラビ亜種A「〇三〇三〇三(皿、#)((「アールを狙い続ける

グレイ「おう!こっちは任せとけ!」

グラビ亜種B「(皿)三三三三」グラビーム

グレイ「ぬんっ!!」エリアル回避

グラビ亜種B「??(皿)??」排熱攻撃

グレイ「あっっ!?!」??)皿、;

グラビ亜種B「(皿)三(皿)三(皿)三(皿)」転がり攻撃

グレイ「うおおっ!? やられてたまるかっての!!」ジャンプ攻撃

グラビ亜種B「(、皿、;)」怯み

グレイ「いくぜおらーっ!!」乗り攻撃

グラビ亜種B「(、皿、;)」ジタバタ

グレイ「ぬつく…:どらどらどらどらどらーっ!!」ザクザクザクツ

グラビ亜種B「(、皿、;)」ダウン

グレイ「よし…!このままいくぜ!!」連続切り

グラビ亜種B「(、皿、;)」怯み

グレイ「このまま属性解放突きだっ!!」属性解放突き

グラビ亜種B「(、皿、;)」第一段階腹部部位破壊

グレイ「おっし…:アローは大丈夫かな…?」

「一方のアローは…」

グラビ亜種A「〇三〇三(、皿、#)」歩きながら単発ビーム

アロー「うひいっ!!」へ(、皿、;)ノ三三

「未だに猛ダツシユで逃走中…」

▲新緑なるカクセの森、荒ぶる鬼蛙

―クロード達と別れて2日後

ナビルー「さあ弥生、こつからはカクセの森をぬけていくぞー！」

弥生「?コタロウで飛んでいけないの?」

コタロウ「(・ω・)」

ナビルー「確かに飛んでいった方が早いけど、その先にはタルジュ雪原やエットー洞窟のある雪山とかあるじゃないと間近で見れないものが沢山あるんだぜ?」

弥生「成程:飛んでる最中にバルファルクの襲撃もあるかもしれないだけじゃないんだね」

ナビルー「:そ、そうさ!見ておくべきものが山ほどあるぞー!」

弥生(今バルファルクのこと忘れてた:)ジトー

コタロウ「(・ω・):」

ナビルー「お、お前ら!べ、別にバルファルクのこととか忘れてたわけじゃないからな!」アセアセ

弥生「ナビルー、森の通り道とかわかるの?かなり広大な森のようだけど:」

ナビルー「心配ご無用だぜ！カクセの森は広大な森地帯だけど、かつて冒険した場所でもあるからお茶の子さいさいさ！」

弥生「ナビルーは司令官みたいになんでも知ってるんだね」

ナビルー「あははー、照れるなー。そうだ、このカクセの森の先はタルジユ雪原だ。森の中にあるトウガラシを採取してホットドリンクを調査しておかなきゃな！さあ俺についてこーい！」

弥生「うん。コタロウ、歩いていくよ」ナデナデ

コタロウ「(・ω・)」

inカクセの森―西エリア

弥生「すごい：鎮守府のある街にあつた溪流よりも木々が沢山：」キヨロキヨロ

ナビルー「ボルデの丘付近じゃ一本道で分かりやすいんだけど、別のルートから行く結構険しい。でもその分、薬草やキノコが沢山採取できるんだ」

弥生「静かな所だね」

ナビルー「だけドスランポスだったりアオアシラだったり、奥深くじゃテツカブラがいるから気を付けるんだぞ。ところで、弥生はどんな武器を持っているんだ？」

弥生「武器？」クビカシゲ

ナビルー「ライダーにもハンター同様、オトモンと一緒に戦うために武器を持つんだ。片手剣や大剣、ハンマーや狩猟笛が主なんだ」

弥生「…10cm連装高角砲とか？」ジャキンツ

ナビルー「どっから出したんだ!？」

弥生「艦娘はこれが普通なの」

ナビルー「うーむ…ふ、不思議だぜ。見た感じライトボウガンみたいだな」

弥生「鎮守府を建つ前にアーロさんが防具の他にもくれた。ライダー用にアーロさんと明石さんが改造してくれたとか」

ナビルー「ボウガンにない独特なデザイン…」

コタロウ「(・ω・)」茂みの方へ歩く

弥生「コタロウ、どうかしたの？」

コタロウ「(、凸)」ガウツ!!

メラルーA(太)「にゃーっ!」ビクツ

メラルーB(細)「み、見つかったニヤっ!!」

メラルーC(普通)「よりにもよってリオレウスだニヤー!!」

弥生「あれはメラルー…?」

ナビルー「ややつ!!俺達から道具とかを盗もうとしてやがったな!コタロウ、もう

「いっちょ吠えて追い払ってやれ！」

コタロウ「（、ω、）」フンス

弥生「：：」トコトコ

ナビルー「や、弥生？」

弥生「：：これでどう？」つ【マタタビ】

メラルーA「にやつ!?こ、これをオイラ達にくれるのかニヤ!？」

メラルーB「なんという女神!! 普段のハンターはそのままオイラ達に武器を振って追
い払ってくるのニヤだが、まごう事無き女神だニヤ!!」

ナビルー「いいのか、弥生。マタタビなんかあげちゃって」

弥生「メラルーにマタタビを上げたらその土地の事とか教えてくれるつて司令官が
言つてた」

メラルーC「兄さん、この御方ならきつとオイラ達のお願いを聞いてくれるニヤ!!」

ナビルー「お願い事?メラルーがあ?」ジトー

ラオー「そ、そんな目で見るんじゃないニヤ!! オイラ達はただのメラルーとは一味違
う、カクセの森のメラルー村で名だたる4兄弟! 長男のラオー!」ドヤツ

トツキ「次男、トツキ!」ドヤ

ケンタロー「そして四男、ケンタロー!」ドヤア

ナビルー「おい、三男はどうした」

トツキ「それは話せば長くなるニヤ」

ラオー「カクセの森のメラルー村は盗んry…ゲフンゲフン、拾ったアイテムとかかき集めてできた小さな村だったニヤ。そんなある日、平和な村に大きなテツカブラが縄張りを取らんと襲って来たのニヤ」

ケンタロー「三男のジャツギ兄さんは村の皆を守るためにそのテツカブラと戦って大怪我をしたのニヤ。無論、オイラ達も兄弟に伝わるメラルー拳法で応戦してんだけど…：全く歯が立たないニヤ」

ラオー「そこで、手に負えないからハンターさんに頼もうと思ったのだが…：オイラ達はメラルー。ハンター達はメラルーの話を中々信じてくれないニヤ」

弥生「そうなの？」

ナビルー「メラルーはアイルー族の中でも悪戯好きだから仕方ないんだ」

ラオー「本当だニヤ！どうかテツカブラを追い払ってオイラ達の村を助けてほしいニヤ!!」

弥生「…ナビルー、やるよ。案内して」

トツキ「ほ、本当かニヤ!？」

弥生「困っている人を助けるのが艦娘の務めだし、司令官ならメラルー達のお願いも

絶対に聞いてあげるもの」

ナビルー「やれやれ…前のライダーさんやクロードさんにそっくりだぜ。仕方ない、弥生とコタロウとこのナビルーがそのテツカブラを追い払ってやるぜ!!」

コタロウ「(、ω、)」フンス

inカクセの森「メラルー村

弥生「ひどい…凄く荒らされてる」

ナビルー「この規模だとけっこうな大きさのテツカブラだな」

ケンタロー「みんなー！救世主を連れてきたニヤー！」

「ニヤツハー!!」ドドドドツ

ナビルー「か、かなりの数がいるな…」

トツキ「松葉杖についているお面を付けたメラルーが三男のジャツギだニヤ」

ジャツギ「兄者！ハンターさんを連れてきたのかニヤ!!」

ラオー「いかにも!!この御方が我らの女神、弥生様だニヤ」

弥生「えっ」

コタロウ「Σ(、ω、;)」

ジャギ「こ、こんなちんまい女の子がかニヤ!?本当にあの蛙を追い払えるのニヤ?」

ナビルー「やいやい！知らないからそんな事が言えるんだぜ！弥生はすつごいライダーなんだぞ！！」

弥生「……」 テレテレ

ケンタロー「ジャツギ兄さん、甘くは見えていけない。彼女はメラルーに優しくマタタビをくれる程慈悲深いんだ」

トツキ「こんな私にも無償にマタタビをくださったんだ。これほど素敵なことは無い」

ジャツギ「ただマタタビにつられただけじゃニヤいか」

ナビルー「話は本当だったみたいだし、ここは俺達に任せておけて」

ジャツギ「できるのかニヤ？うーむ……奴は生半可で追い払える相手じゃないニヤ……」

ズンツ！！ズンツ！！

ナビルー「うおっ!? 凄い足音だ!!」

ジャツギ「ぬっ!! 戻って来やがったニヤ！野郎共は安全な所に隠れるニヤ！」

メラルー達「ヒーッ!!」 アセアセ

コタロウ「(、へ、)」 グルルル……

弥生「コタロウ、いつでも行けるよ……!」

ナビルー「弥生、テツカブラなら行動をよく見れば難なく追い払える相手だ。油断せずにしつかり分析していk…」

テツカブラ亜種「(皿 #)「グオオオオオツ!!」

ナビルー「亜種の方じゃないか!?!」

トツキ「ん?間違ったかニヤ?」

ナビルー「話じゃ原種っぽかったぞ!!」

テツカブラ亜種「(皿 #)「岩石飛ばし」

コタロウ「(皿 #)「三〇」火球プレス」

ボムツ!!

ナビルー「つと!弥生、コタロウ!テツカブラ亜種は原種よりも凶暴なだけじゃなく爆発性のある岩を掘り当てて投げつけてくるぞ!爆発の範囲は広いから注意だ!!」

弥生「わかった…コタロウ、いくよ!!」つ10cm連装高角砲

コタロウ「(皿 #)「強襲キック」

テツカブラ亜種「(、皿、#)(〔タツクル

弥生「砲雷撃戦、いきます!!」ドドーン!

テツカブラ亜種「Σ(、皿、#)」hit、威嚇

ナビルー「両生種は脚力も強い。いきなり飛び掛ってくるから油断はするな!」

コタロウ「三(、皿、#)」突進

テツカブラ亜種「□(、皿、#)(〔大きな岩を掘り出す

コタロウ「Σ(、皿、#)」岩にぶつかる

弥生「コタロウ、離れて!!」

コタロウ「(、皿、#)(〔慌てて後ろへバックジャンプ

＼BOMB!!／

コタロウ「(、皿、#)」怯み

弥生「っ!!岩が爆発した…!!」

テツカブラ亜種「(、皿、#)三」飛び掛り攻撃

弥生「させない…っ!!」ドドーン!

テツカブラ亜種「Σ(、皿、#)」怯み

ラオー「ニヤーツ!!オイラ達も援護するニヤーツ!!」ダダダダダダツ

トツキ「ユクゾツ」ナギツ

テツカブラ亜種「○」(、皿 #)「岩を啜えて噛み砕く

＼BOMB!!／

ラオー「わが生涯に一片の悔いなしっ!」○)。(3。)。…:

トツキ「ウワラバアアッ!」○)。(3。)。…:

ケンタロー「兄さーん!」(； 皿、)

テツカブラ亜種「C(、皿 #)」引つ掻き攻撃

弥生「っ!」回避

コタロウ「(、 皿、)」尻尾攻撃

テツカブラ亜種「○」(、皿 #)「岩を啜えて噛み砕く

＼BOMB!!／

コタロウ「(； 皿、)」弥生を庇う

弥生「くうっ…!コタロウ、大丈夫!」

ナビルー「なにか俺も援護しなくちゃ…!!えーと、何かないか…」キヨロキヨロ

ケンタロー「あつたとしてもいまはガラクタばかりだニヤ…」

ナビルー「!!そうだ、それだ!!」

弥生「コタロウ、けがはない?」っ回復薬

コタロウ「(、ㇿ)「クルル…

テツカブラ亜種「(、皿、#)「威嚇

ヒューン… ○三

テツカブラ亜種「Σ(、皿)「コツン

弥生「あれは…」

ナビルー「今だー!! 今まで盗んだアイテムをどんどん投げつけてやれーつ!!」
メラルー達「うおおおおつ!!」ポイポイポイ

ナビルー「おつ、これは…弥生、コタロウ! 目を瞑るんだ!!」つ三三〇
カッ!!

テツカブラ亜種「(×皿×)「眩暈

弥生「今のは、閃光玉…コタロウ、チャンスだよ!」

コタロウ「三(、ㇿ)「強襲キック

ナビルー「弥生、ガラクタの中にあつたこれを使うといい!」

弥生「これは…弾丸?」

ナビルー「徹甲榴弾だ。相手の頭に狙って何発か撃てばスタンを取れるぜ!」

弥生「うん…やってみる!」装填

コタロウ「(、ㇿ)「尻尾攻撃

テツカブラ亜種「(×皿、;)」怯み

弥生「まずは一発！」ドドーン!

テツカブラ亜種「Σ(、皿、#)」hit!

ナビルー「立て続けに狙っていきーっ!!」

弥生「まだまだだ！」ドドーン!

テツカブラ亜種「(、皿、#)三」hit!、ボディプレス

ナビルー「ちよ、やばーい!!」

弥生「コタロウ!」

コタロウ「三(、へ、)弥生とナビルーを乗せて飛ぶ

ナビルー「おおっ!助かったー」

弥生「これで:どう!」ドドーン!

テツカブラ亜種「(×皿×;)」スタン

ナビルー「ナイス!これでスタンしたぜ!」

弥生「コタロウ、いくよ:!!」

コタロウ「三(、皿、)急降下からの足蹴

テツカブラ亜種「L」;皿、)∴critical!牙部位破壊
ズウウウンツ!

コタロウ「(、へ、)」着地

テツカブラ亜種「(、)」撃退

ケンタロー「やったニヤ!! テツカブラ亜種が逃げていくニヤ!!」

ジャツギ「あの子…タダ者じゃなかったのニヤ…」

ナビルー「やったな、弥生、コタロウ!」

弥生「うん…コタロウ、ありがとね」ナデナデ

コタロウ「(*、ω、)」

ナビルー「テツカブラ亜種も撃退できたし、これでメラルー村は大丈夫だな!」

弥生「アーロさんみたいに高速修復材を振り撒けば直ったんだけど…」

ラオー「そこら辺は大丈夫だニヤ。またアイテムを盗ry…ゲフンゲフン、また造り

直せば元通りになるニヤ」

ジャツギ「一から造るのもメラルーの得意なところだニヤ」

ナビルー「これに懲りたら、真面目にやるんだぞ?」

トツキ「このままタルジュ雪原に向かうのならこれを持っていくといいニヤ」

弥生「これは…赤い煙玉?」

ケンタロー「ホットミストというアイテムだニヤ。盗んry…ゲフンゲフン、拾った

アイテムで、これを使えばオトモンが寒さで動きが鈍くなることは無くなるニヤ」

弥生「ありがと…大事に使うね」ニッコリ

ナビル「さあ弥生、コタロウ！タルジュ雪原への道は近い、この調子で行こう！」コ
タロウに乗る

弥生「うん。皆、またね」ノシ

コタロウ「(・・△・)」

メラルー達「さよならニヤー!!」ノシ

ラオー「いやー、本当に女神みたいな子だったニヤー」

トツキ「あのスマイルで持病が治ったニヤ」

ケンタロー「兄さん…村の再建をする前にあの子の活躍を後世に伝えておきたい
ニヤ」

ジャツギ「…像でも作るかニヤ」

カクセの森の奥深くにあるメラルーの村に、リオレウスに乗った少女の像があ
ることを見つけたハンターが『ここは何か神聖な場所か』と勘違いして、不思議スポツ

トとなったのはだいぶ後の話であった

△6 集いの街、ドンドルマ

i n i サナ号

提督「お次の街はドンドルマだな…」シンミリ

ジン「あの街に来るのはいつぶりだろうか…」

ベル「教官、元気にしているかなー…」

金剛「テートク達、みんななんだか懐かしそうにしてマスネ」

ルルカ「ドンドルマはクロード達、団長がそれぞれ初めて出会った場所なの。勿論、私とも初めて出会った場所でもあるの」

瑞鶴「結構思い入れのある所なのね」

ルルカ「新米ハンターだった頃が懐かしいわー。皆でクエスト行つて、皆で酒宴もして、力を合わせて困難を乗り越えた…あの街には本当に色々なことがあったわ」

不知火「そういえばドンドルマにはハンターになるための訓練所があると聞きました」

ルルカ「あら、不知火ちゃんはハンターになりたいの？」

不知火「ええ、私も司令官やジンさん達みたいなハンターになってみたいです」

団長「それは頼もしいな。ぜひハンターになったあかつきには『我らの団』のハンターになつてもらおうかな！」ハツハハツ

ルルカ「これもクロード達の影響ねー。不知火ちゃん、いい教官がいてよかつたわね」ニヤニヤ

ジン「不知火がハンターか……」

提督「キリン装備とナルガ装備を着る時は気を付けるんだぞ。他のハンターが色目で見てるからな」

霞「あんたはお父さんか」スパーン

ベル「過保護だなー」ニガワライ

キーツ

明石「なんかすごい特徴的な鳴き声をする白い鳥が飛んできましたよ」

団長「む、あれは本土のギルドの伝書鳥だ」キヤツチ

鹿島「本土ってアールロさんからのお手紙ですか？」

団長「どれどれ……ふむふむ。確かに鎮守府からの手紙だが、送り主は大井のようだな」

木曾「大井姉さんから？ どんなことが書かれているんだ？」

提督「えーと……拝啓 提督、霞ちゃん達との旅はどのようなにお過ごしでしょうか？」

木曾達をいろんな所に連れて行ってあの子達にもきつといい経験になると思っており

ます。また、木曾が提督達にご迷惑をかけていないか少し心配です」

木曾「もー、大井姉さんったら心配性なんだからー」テへへ

提督「……さて、この御手紙を送ったのには少し心配事があったため送らせていただきました。率直に言うとアールさんのことなのです……」

霞「アールさん、色々やらかしてそれで心配だったのよねー……」

明石「夕張がストッパーになってくれてたらいのだけど……」遠い目

提督「書類整理や指揮などは加賀さんや私、初月、他の艦娘達と一緒にやっているの
でこちらはたぶん心配ありません。ですが、資材採掘や夜明けまでデスクワークをした
りと近頃のアールさんはずっと休まずに無理をしています」

ベル「アールは昔っから頑張り屋さんだものな」

ルルカ「空気が読めないのが玉に瑕だけど……」

提督「もし無理をして倒れては皆が心配します。私や加賀さんもアールさんに無理を
しないよう言っておりますが、皆の負担を背負おうとしてひたすら無茶をしています。
提督がお忙しい身であるのは承知なのですが、どうかご助言をお願い致します……成程、
アールも頑固なものな」

ジン「何かあいつの負担を減らすことができればいいのだが……」ウーム
団長「……」

瑞鶴「団長さん、どうかしたの？」

団長「ああいや、ちよつとばかり考えていたところだ。さて、もう間もなくドンドルマへ到着するぞ。そこでは『我らの団』のメンバーや筆頭リーダ達もいるし、いい案が思い付くかもしれん」

ベル「筆頭リーダ達とも再会するから楽しみだ」

金剛「Yes!!新しい場所も楽しみデース!!」

ジン「ドンドルマもアリーナや市場、ギルド本部とか見どころも沢山ある」

不知火「ハンターの訓練所も見てみたいです」フンス

霞「さ、司令官。案内よろしくね」

提督「ああ、任せておけ…あ、手紙にまだ続きが『P.S. 明石さん、夕張はやっぱアーロさん達に影響されてました。ノンストップです』だつてさ」

明石「やつぱりかあああつ!!」——?——○

——険しい山あいを切り開いた街、ドンドルマ。ギルドの本部があり、ハンターになるためや商売のため、モンスターの情報収集や対策のため、多くの志を持った人達が集い賑わう街でもある。人々は自然への敬意と感謝を込め、ハンターは日々精進し、住民たちは暮らしている。この街にはハンター達との出会いや新たな出会いもある。この

子達にも新たな発見や出会いがあるのかもしれない……ちよつと心配だけど

b y 提

督の手記―

霞「ここがドンドルマ……司令官と団長さん、ベルさんやアール口さん達が初めて出会った街なのね」

団長「麓付近がハンター街、すなわち戦闘街となっている。ギルド本部や闘技場もあつたりと色んな地方からくるハンター達もいるぞ」

ソフィア「団長、クロードさん！お待ちしておりますー！」ノシ
木曾「あれ？ソフィアさん？」

提督「ソフィアと竜人商人はベルナで先にドンドルマに行つてもらつてたんだ。『我らの団』の皆でお迎えをしようかつてさ」

ソフィア「霞ちゃん達もドンドルマへようこそ！皆お待ちしておりますよー」ノシ
加工屋の娘「やつほー！みんな元気にしてたー？」ノシ

加工担当「霞や瑞鶴、少し雰囲気変わったようだな……それに初めて見る子もいるが？」
竜人商人「クロード曰く、改二とやらしいぞ？あとあそこの鹿島さんはベルの……あれらしいぞ？」ニヤニヤ

加工担当「……明日は土砂降りかもな」

ベル「ちよ、ちよっと!」

鹿島「／＼／＼」アセアセ

屋台の料理長「長旅ご苦労だったニヤルよ。美味しい料理を奮発してあげるニヤル」
提督「皆、相変わらず元気いっぱいだね」

ソフィア「今、『我らの団』もバルフアルクの追跡で筆頭リーダーさん達と一緒にドン
ドルマを拠点にしているんです。筆頭リーダーさんもクロードさん達と再会するのを
楽しみにしていますよ?」

提督「それは早速会いに行かなきゃな。それじゃあギルド本部まで行こうか」
ジン「ドンドルマは大陸内で最大規模の街だからな…迷子にならないように」

加工屋の娘「ジンさんからのお手紙を見たよ! 明石さん、一緒に電探とかいうのを作
ろうね!」

明石「で、できるかなー…」

加工担当「ドンドルマはロックラック、ミナガルデ、ギルデカランとハンター達が集
う街の中で工房や鍛冶技術は随一だ…」

団長「はっはっは!! 明石さんならできるぞ!!」

in 中央広場

金剛「おおおーっ!! とっても広いデース!!」キラキラ

不知火「ここにハンターの訓練所が……！」キラキラ

提督「まだまだだ、ここは中央広場の入り口あたりだ。商店街やギルド本部やらと沢山あるぞ」

ルルカ「もちろん、大衆酒場とかアリーナとかいっぱいあるわ！」

霞「アリーナって？」

提督「向こうに見える大きな施設、あれがアリーナだ。あそこでは歌姫って呼ばれる人が舞台上で歌い、日々戦いをしているハンターやドンドンの住民達の心を癒してくれるんだ」

ベル「ハンター達にとっても憩いの場所でもあるよ」

金剛「なんとというロマンチック!! 歌姫の歌、是非とも聞いて見たいです！」

木曾「那珂ちゃんがいたら物凄く喜んでたかもな」

「オーイ!」

ベル「おや? 向こうから走ってきているのってもしかして……」

筆頭ルーキー「クロードさん、皆さんお久しぶりっす!!」ノシ

霞「ルーキーさん！」

提督「筆頭ルーキー、元気にしてたか？」

筆頭ルーキー「もうバリバリっすよ! クロードさん達がこっちに来るって聞いたから

居ても立っても居られなかつたす!!」

筆頭ランサー「やあ、クロード、ジン、ベル、それからお嬢さん達も元気にしてるかい?」

金剛「Oh!筆頭ランサーさんが来マシタ!!」

木曾「キタ!メイン盾キタ!!」

不知火「これで勝つる」

筆頭ランサー「あはは、相変わらずのようだね」

筆頭ルーキー「なんという扱われ方の差というものか…」(・ω・)
ルルカ「ルーキーだから仕方ないわね」

筆頭ガンナー「フフ…久しぶりね、クロード」

筆頭リーダー「…皆、久しいな」ノシ

提督「おお!ガンナー姐さんとリーダーじゃないか!やつと会えたな」ニツコリ
筆頭リーダー「ああ…あれがお前が会ってみたいと言っていた艦娘か」

筆頭ガンナー「どの子もクロード達をとつても信頼しているわね」

ジン「もちろん、一緒に戦ってきたりしたからな」

鹿島「あの人が筆頭リーダーさんですか?」

木曾「とてもクールそうだ」

筆頭ルーキー「一件クールで落ち着きのある無口な人っぽいけど、とっても情熱的で熱い人なんつすよー。特にお酒を飲ましたら…」

筆頭ランサー「こら、そうおちよくるんじゃない」ゲンコツ

筆頭リーダー「クロード、早速ですまないがバルファルクの追跡のことで話をしたい
…」

筆頭ガンナー「ここで話すのもなんだし、ギルド本部へ行きましょうか」

提督「ああ。よろしく頼むな」

霞「さっそく本題に入って来たわね…」

筆頭ルーキー「リーダーが急ぐのも仕方ないつす…ポツケ村の古龍観測所からの連絡で、雪山を調査していたハンター達の所にバルファルクが突然襲撃してきて被害が出たつす」

筆頭ランサー「バルファルクは脱皮前の錆びたクシャルダオラと縄張り争いをしていたところで、ハンター達は巻き込まれたんだ。流石に古龍2頭となるとかなり危険だからこの場からすぐ離れるよう動いてたため最小限に被害は抑えたのは幸いだつたみたいだ」

ベル「うわー…錆びたクシャルにバルファルクつて最悪のコンビだね」

ジン「その後はどうなった…?」

筆頭ガンナー「錆びたクシャルはバルファルクに傷を負わされ雪山から離れていったわ。そしてバルファルクもどこか遠くへと飛び去ったみたいよ」

筆頭ルーキー「またどこから襲撃してくるのか、古龍観測所は各地域に警戒するよう呼びかけて行ってるっす」

瑞鶴「本当に神出鬼没で怖いわね…」

筆頭ガンナー「そのためにもジンが手紙で書いていた『電探』とやらを一刻も早く作らないといけないみたいだわ」

ジン「うまく開発できれば何処からバルファルクが飛んでくるかもわかるからな…」

明石「…あれ?なんだか物凄くハードルが上がっているような…」

inギルド本部

不知火「ここがドンドルマにあるギルドの総本山…!!」キラキラ

霞「不知火、物凄く感動してるわね…」

筆頭ルーキー「ついでにその隣がハンターの訓練所っす」

不知火「ぬいっ!?」キラキラキラキラ

鹿島「さらに輝きを増した!」

ジン「ここに来るのは随分と久しぶりだな…」

筆頭リーダー「クロード、電探があればバルファルクが見つかるかもしれないと言っていたが：電探とはどういういったものなんだ？」

提督「電探つてのは：あれ？どんなんだっけ？」キョトーン

瑞鶴&鹿島「ズコー

霞「ずっと提督業してたでしょ!!なんで忘れるのよ!」ゲシゲシ

提督「ゴメンヌ!!」(シ、ハ、)

ベル「：明石さん、説明お願いします：」

——明石さん、説明中——

筆頭リーダー「ふむ：その妖精さんと一緒に製造すればできるのだな？」

筆頭ランサー「それで敵を索敵するというのは：：：かなり便利だね」

明石「で、でも普段私達を使う艦娘の電探は深海棲艦と同じ艦娘に対してしか使えませんし：資材を使っても完成するまでランダムで電探ができるかどうかわかりませんよ?」アセアセ

加工屋の娘「そんな時こそ私達にお任せ!」

加工担当「ここでもならクロード達のご希望の電探とやらができるぞ：：：」

明石「造るなら資材が必要です?電気回路とか、鋼材とか：」

ジン「電気ならライゼクスの電圧甲かジンオウガの蓄電殻、ラギアやフルフルの素材

がいいかもな」

提督「絶縁体とかならゲリヨスの素材で、鋼材とかは鉱石をしよう」

ベル「なんだ、意外と素材集めをすればできそうだね」

加工担当「あとは設計図を書いておけばよさそうだな…」

明石「…慣れてきたとはいえ、本当にこの技術とか素材とか、おかしところばかりですよ」遠い目

ソフィア「明石さんなら完成できますよ！」

屋台の料理長「みんなの為に美味しいものを頑張つて作るニヤ」

竜人商人「できたあかつきには古龍観測所につけることができそうじゃのう」

明石「ああもう!! こうなったらやってやりますよ! 提督、ジンさん、素材集めをお願いしますよ!」

ジン「よし来た」フンス

瑞鶴「明石さんがやつけになった…」

筆頭リーダー「これならクロード達にここを任せても大丈夫そうだな…」

ベル「あれ? どこか行くのかい?」

筆頭リーダー「クロード達がここに来る前に、砂漠岩地の方でバルファルクの目撃、襲撃があったと連絡が来た。明日、調査の為そこにいかなくはならない」

ジン「そうか…忙しい身だな」

筆頭ガンナー「ウフフ、お互い様ね。バルファルクの調査は協力できるから安心して」
不知火「これがハンター…」ワクワク

木曾「不知火、かなり上機嫌だな…」

団長「…クロード、霞。ちよつといいかな？」

提督&霞「??」

i nギルド本部、廊下

提督「団長？ずっと考え事をしていたようですけど、何かあるんです？」

団長「ああ…実はアークの事でな」

提督「団長もですか。実は俺もアークが無理しないように何かいい方法はないか考えてたところなんですよ」

団長「うむ、その事なんだが…アークの下にハンターを派遣してやろうと思っていたところだ」

霞「ハンターさんを？」

団長「心配することは無い。1人心当たりがあつてな、俺の弟子で、王立古生物書士隊をしているハンターがいるんだ」

霞「団長さんに弟子がいたの!？」

提督「団長さんは何人かの弟子がいるからね」

団長「飲み屋でクロードがいる鎮守府の事を話したらとっても興味を持つてな。是非とも会ってみたいと言っていた。彼ならアークと一緒に提督代理を務めてくれるかもしれない」

霞「それでそのハンターさんって誰なの？」

団長「王立古生物書士隊のハンター、グレイという男だ。丁度ドンドルマにラボを持っているようだから会いに行ってみるといい」

◇ 8 激闘!黒き熱風 後

アール「うおおおっ!!」猛ダツシユ

グラビ亜種A「(、皿、#)三」突進

アール「そいやっ」緊急回避

グラビ亜種A「(＃、皿、)三三三」薙ぎ払いグラビーム

アール「おっと!!こちとらタイマンじゃ負けなしじゃない!!」懐へ切り込み

グラビ亜種A「(；、皿、)」腹部部位破壊

アール「しゃあ!!もう一段階っ」

グラビ亜種A「三(＃、皿、)」転がり攻撃

アール「ぬううんっ!?!あぶねえー…」ガード

グラビ亜種A「??(、皿、)??」排熱攻撃

アール「あつちいいいっ!?!」(；、皿、)

グラビ亜種A「三三三(、皿、#)」追撃のグラビーム

アール「うおおっ!?!」緊急回避

グラビ亜種「三三(、皿、#)」グラビーム

アール「なんのっ!!もう一度懐へ叩き込んでやる!!」回避、懐へ属性解放斬り
 グラビ亜種A「(皿、#)三」タツクル

アール「つと!カウンターじゃおらーっ!!」ガード、斧モード叩き込み

グラビ亜種A「三三三(皿、#)」縦方向グラビーム

アール「おひいいいっ!!あぶねえっ!!」足下回避

グラビ亜種A「(皿、#)三」尻尾攻撃

アール「このっ:足元がお留守だぜ!!」足へ回転斬り

グラビ亜種A「(皿、#)三」ボディプレス

アール「ふあっ!?!ちよ、待ってえええっ!?!」

グレイ「アールのやつ、大丈夫かな……」

グラビ亜種B「三三三三(皿、#)」グラビーム

グレイ「ひえっ!?!このやる!」剣モード連続斬り

グラビ亜種B「三三三三(皿、#)」薙ぎ払いグラビーム

グレイ「なんのっ!!」エリアル攻撃

グラビ亜種B「(皿、#)(三)タツクル

グレイ「ぶへーっ」、3、……

グラビ亜種 B 「(; × 皿 ×)」 背部部位破壊

グレイ「よし…このまま行くぜ!!」 連続斬り

グラビ亜種 B 「(#、 皿)」 咆哮

グレイ「うおっ!」 (; 〇、 皿、 〇)

グラビ亜種 B 「(#、 皿)」 スーツ…

グレイ「息を思い切りすつてる…これはまずいつ!!」 ダツシユ

グラビ亜種 B 「(#、 皿)」 三三三三三 極太グラビーム

グレイ「あつぶねえええっ!」 緊急回避

グラビ亜種 B 「(#、 皿)」 スーツ…

グレイ「ちょ、またか!! あんなのくらったら流石に焦げるぞ!」 アセアセ

グラビ亜種 B 「(#、 皿)」 三三三三三 極太グラビーム

グレイ「だったら…懐に入り込んでやる!」 回避して懐へ

グラビ亜種 B 「?? (、 皿)」 排熱攻撃

グレイ「それもあるんだったああっ!」 ()。 3。 () …

グラビ亜種 B 「(#、 皿)」 三〇三〇 歩きながら単発ビーム

グレイ「怒涛のビームううっ!?! てかあつちい!!」 メラメラ

グラビ亜種 B 「(#、 皿)」 三〇三〇 歩きながら単発ビーム

グレイ「うおおおっ!!」グラビへ猛ダツシユ

グラビ亜種B「(#、皿、)」尻尾攻撃

グレイ「なんのっ!!とりやあっ!!」エリアル回避、ジャンプ攻撃

グラビ亜種B「(;、皿、)」怯み

グレイ「からの属性解放突きっ!!」属性解放突き

グラビ亜種B「(;、皿、)」腹部部位

グレイ「まだまだだ!」連続斬り

グラビ亜種B「(#、皿、)」スーツ:

グレイ「え?ちよ:」

グラビ亜種B「(#、皿、)三三三三三」縦方向極太グラビーム

グレイ「うぼああああっ!」三三三三、皿、;)

グラビ亜種A「(、皿、#)」ボディプレス中

ググググ:

グラビ亜種A「Σ(、皿、;)」

アール「ふんごおおおおおっ!!」盾でガード

グラビ亜種A「(、皿、;)」グラグラ

アール「面子で一番の力持ちをなめんじやねえええっ！」盾突き

グラビ亜種A「(皿、皿、;)」怯み

アール「しやあおらーっ!!」斧モード叩き付け

グラビ亜種A「(皿、皿、#)(「タツクル

アール「なんのこれしき!!」回避して属性解放斬り

グラビ亜種A「(皿、皿、#)」グラビーム寸前

アール「させるかっての!!」高出力属性解放斬り

グラビ亜種A「(皿、皿、;)」怯み

アール「ゴリ押しの追撃をくらいやがれっ!!」超高出力属性解放斬り

ドドドドドッ!!

グラビ亜種A「(×皿×)」グオオオオ…ッ!

ズズウウウン…ッ

アール「ふう…な、なんとかなったぜ。まずは一頭…もう一頭と戦っているグレイの下へ行かねえと」ヨイシヨ

＼コキッ／

アール「あ…っ…ここ、腰が!ぐ、グラビは流石にダメだったか…!ぐ、グレイ…も

う少し待ってろ……!」(; 皿、)

グレイ「あつちいいいいつ!?」メラ(; ω、)三(ε ∴)三(ω、)三(; 皿、)三(; ω、)メラ

3 グラビ亜種B「(#、皿、)三三三三」薙ぎ払いグラビーム

グレイ「あつあつあつ!!ビームのせいで炎が消えない!」メラメラ(; 皿、)つ「回復薬G」

グラビ亜種B「(#、皿、)三三三三」グラビーム

グレイ「くそつ……燃えながらやってやる!!」斧モード突き

グラビ亜種B「(#、皿、)つ」尻尾攻撃

グレイ「つと!」エリアル回避

グラビ亜種B「(#、皿、)三三三三」グラビーム

グレイ「ビームはいい加減にしやがれっ!」ジャンプ攻撃

グラビ亜種B「三三三三(、皿、#)」縦方向グラビーム

グレイ「あつづ!」(; 皿、三三三三

グラビ亜種B「(、皿、#)三」突進

グレイ「こんのーっ!!」剣モード横切り

グラビ亜種 B 「(、皿、；)」 脚部位破壊

グレイ 「よし…！このまま畳み込む！」 連続斬り

グラビ亜種 B 「(#、皿、)」 スーツ…

グレイ 「つと思つたらやばい…っ!!」

グラビ亜種 B 「(#、皿、) 三三三三」 極太グラビーム

グレイ 「あぶねええっ!」 緊急回避

グラビ亜種 B 「三(#、皿、)」 転がり攻撃

グレイ 「ちよ、待って!」

アール 「じよいやあああっ!!」 ジャンプ攻撃

グラビ亜種 B 「(、皿、)」 怯み

グレイ 「アール!助かった!!」

アール 「はっはっは、待たせたなあ!!」 プルプル

グレイ 「なんで腰が震えてんだ!」

アール 「ふっ…バサルでできたからグラビのボディプレスを耐えようとして腰を痛め

たでゴザル」 ドヤア

グレイ 「馬鹿だろ!」

アール 「と、兎に角…後はあいつだけだ。一気にやるぞ!!」

グレイ「ああ、無茶すんなよ!」

グラビ亜種B「(#、皿) 三三三三」薙ぎ払いグラビーム

アール「そい!!」回避

グレイ「こつちだ!!」エリアル攻撃

グラビ亜種B「三三三三(、皿、#)」振り向きグラビーム

グレイ「あつちいいいっ!」(；、皿、三三三三)

アール「今度は俺の番だっ!!」剣モード斬り込み

グラビ亜種B「(、皿、皿)」タツクル

アール「盾ガードっ!!」ガード

＼コキツ☆／

アール「あゝっ」(ω)。。。

グラビ亜種B「(#、皿、)」尻尾攻撃

アール「腰を狙うなんて卑怯だーっ!」(○)。(3)∴∴

グレイ「うおりやっ!!」ジャンプ攻撃

グラビ亜種B「(、皿、#)」ボディプレス

グレイ「あつぶね!なんの!!」回避して属性解放突き

グラビ亜種B「(；、皿)」怯み

グレイ「もういつちよおおっ!!」もう一度属性解放突き

グラビ亜種B「(#、皿、)三三三三」極太グラビーム

グレイ「あつつうううっ!!あ、アール、今だ!!」

アール「うおおおおりやあああっ!」超高出力属性解放斬り

ドドドドッ!!

グラビ亜種B「(；×皿×)」ズズウウウンツ

アール「はあ：はあ：しゃあーっ!!どんなもんじゃい!!」

グレイ「これでなんとかなったな：：」メラメラ

アール「まさかグラビ亜種が2頭とは思いませんかつたぜ：：」

グレイ「でもこれで補給拠点の奪還はできたな」メラメラ

アール「ああ。後は孫娘提督殿とギルドに伝えれば完了だ」

グレイ「2頭同時は久々にやると大変だったな：：やったな、アール!」腰を叩く

＼ゴキツ☆／

グレイ「：：ゴキツ?」

アール「【アールは力尽きた】

グレイ「ちよ、おおおい!?だ、大丈夫か!?」

アール「こ、腰があ：：：!!」

「この後孫娘提督や艦娘達が迎えに来たが、地を這って倒れているアーロと未だにメラメラしているグレイを見て初月とザラが卒倒し、加賀さんと大井さんにぶたれたのは後の話」

― 二日後、in第三海域補給拠点

孫娘提督「アーロの方は大丈夫かしら？」

グレイ「ご心配なく。秘薬を飲んだので大丈夫ですよ…たぶん」

孫娘提督「秘薬を飲んですぐに元気になるとか、色々とおかしいわ」

グレイ「ハンターですから」ドヤア

孫娘提督「ツツコミどころが多すぎるんだけど…まあいいわ。貴方達がこの補給拠点を奪還し、貴方達の艦娘達がここを警備してくれたおかげで彩雲の輸送作戦はうまくいったわ」

グレイ「いやあ、俺はただここで暴れるグラビモス亜種と戦って、物資の管理をしただけですし…」

孫娘提督「それだけでも私達の艦隊にはとても大助かりなのよ？ 私達や艦娘達では手に負えない事を貴方達はやってのけるんだから、もっと胸を張りなさい」

グレイ「そうですかなー」ポリポリ

孫娘提督「ほんと、貴方もクロードさんみたいに謙虚なのねえ…まあいいわ。次の段

階の作戦で出撃して突破すればいよいよ目的地の溶岩島まで行けるわ」

グレイ「いよいよ、ですか…」

孫娘提督「その先は貴方達でないと出来ない事がある…頼んだわよ」ノシ

グレイ「ええ。任せてください」

川内「グレイさん!! たっだいまー」ノシ

グレイ「今日も警備ご苦労様」ナデナデ

天龍「他の連合艦隊からの話じゃ瑞雲の輸送作戦が成功したみたいだな。いよいよ俺達も出撃か?」

グレイ「そのようだな。というか俺やアール口待ちじゃなくてもその間に出撃すればよかったのに」

大井「何言ってるんですか。アールさんもグレイさんも今は代理だけでも私達の提督なのよ? 大事な司令官をほっといていくものですか」

ザラ「私達の大事な司令官を守る、これも私達艦娘の役目です」

天龍「やっぱアールさん達なしでどんばちできないしな!」

グレイ「そっか…ありがとな」

大井「それに…グレイさんが来てくれたことには心から感謝しています」

グレイ「およ?」クビカシゲ

大井「グレイさんが来る前まではアールさんは寝ずにずっと無理をしてました。いつか無茶をして倒れるんじゃないかと心配でした。でも、グレイさんが来てくれてアールさんも無茶をしなくなりました」

天龍「：：大井が北上と提督無しでデレたぞ」

川内「これは大雨が降るかもねー」

大井「こらっ!!そこ黙るっ!」チョップ

グレイ「そっか、あいつが無茶をしないよう俺も見ておくからさ。大井さん、心配しなくてももう大丈夫だ」

大井「うふふ。グレイさん、ありがとうございます」

川内「これまた、ザラちゃん危ういんじゃないのー」ニヤニヤ

ザラ「ええっ!?!わ、私ですか!?!」

大井「こらこら、すぐにちよつかいを出さないの。さ、アールさんにも報告するわよ」
天龍「ただいまアールさん!警備終わったぜー」

初月「あ、アールさん：：こ、これでいいの?」フミフミ

アール「そこそこ。ちよつと上あたりを踏み踏みしてくれ」寝転がり

初月「こ、こうだね」フミフミ

電「アールさん、どうですか？」

アール「いいねいいねー！今度はちよつと強めに」

大井「うおらあああああつ!!」かかと落とし

アール「腰がデストロイイイツ!」（； ω）。。

電「はわわわ!?!」

初月「あ、アールさん、大丈夫!?!」

アール「あ、あぶねえ…もう少してへブン」

大井「もう！いつまでふざけてるんですか」プンスカ

アール「悪い悪い、心配かけさちまったな」

大井「全くもう…」ヤレヤレ

天龍「…うん、平常運転だな」

川内「そうだね、いつものアールさんと大井さんだね」

大井「そろそろ私達も出撃しますよ。編成の方はいいですか？」

アール「おうさ。ここいらを突破すれば溶岩島へ行けるからな。編成はばつちりだ」

ザラ「彩雲の輸送作戦の次は敵艦隊を分断させ戦力を削る作戦です。離島棲姫がいるとされる海域へ出撃、これを突破します」

グレイ「これまた大変そうだな」

ザラ「でも連合艦隊を組んで、航空支援や支援艦隊を出撃すれば大丈夫ですよ」
天龍「アーロさんやグレイさんの応援もあるし、皆でやってけばへっちゃらだぜ!」
電「あ、あの…そのことなんですけど…支援艦隊は別の艦隊がやるようなのです」
川内「?どういうこと?」

初月「さつき電報があつて、僕達の艦隊の下にある艦隊が合流するから力を合わせていけと指示があつたんだ」

大井「珍しいわね、どんな艦隊が来るのかしら」

アーロ「話じゃそろそろ来る頃なんだが…」

加賀「アーロさん、その艦隊の方々が来ましたよ」

アーロ「おお、来たようだな。その間にもお茶の準備を…」

加賀「その必要はなさそうです…」

アーロ「うん?それってどゆこと?」

ホツポ「援軍にキタ!!」フンス

レ級「おー…ここが補給拠点かー」

防空棲姫「悪いけど大勢できたわ」

戦艦水鬼「戦闘か!それならば旗艦は私に任せろ!」

戦艦棲姫「す、すみません。お邪魔します…」ニガワライ
アール「…」(。D、)

大井「こ、この深海棲艦達つてもしかして…」

駆逐棲姫「すみません！ウイ、ウイルさんはもう少ししたら来ますので…！」アセア

セ

グレイ「あのウイルの所の子達じゃないか」

アール「…あいつ、戻ってきたらとりあえず殴るわ」

○6 暴れん坊将軍 『鎧裂』 ショウグンギザミ

ウイル「デイノバルドの頭骨を持ったショウグンギザミ……二つ名じゃしゃあないよな!!」つエイムOfマジック

ショウグンギザミ「三＼、皿＼」前進攻撃

ウイル「なんのっ!!」回避反撃

ショウグンギザミ「(、皿、)」右鎌攻撃

ウイル「よっと。猟虫ちゃん頼んだぜ!」

猟虫<デキラーツ!!」三〇

ショウグンギザミ「＼、皿、)三」回転斬り

ウイル「へぶーっ」…(、ε。()

猟虫<シカタネーご主人ダゼ 三〇ブーン

ショウグンギザミ「Σ(、皿、)」猟虫へ攻撃

猟虫へデモネエゼ!

ウイル「よし、まずは赤!続けて行くぜ!!」袈裟斬り

ショウグンギザミ「＼、皿、)」正面振り下ろし

ウイル「せいっ!!」ジャンプ攻撃

シヨウグンギザミ「三(、皿)／」回転斬り

ウイル「バックジャンプ!!」バックジャンプ攻撃

シヨウグンギザミ「(；、皿)」怯み

ウイル「よし、乗りっ!!」ライド

シヨウグンギザミ「(；、皿)」大暴れ

ウイル「うおっ!?振り落とされてたまるかっての!」シガミツキ

シヨウグンギザミ「(；、皿)」

ウイル「今だっ!うおおおおおおおお!!」ザクツザクツザクツザクツ

シヨウグンギザミ「(；、皿)」ダウン

ウイル「おしっ!そこから猟虫でエキスを回収しつつ攻撃だ!!」連続斬り

猟虫へ黄と白もトツテヤンヨ!! 三〇 ブーン

ウイル「おいしやーっ!!」回転斬り

シヨウグンギザミ「＼(＃、皿)／」シャキーン!

ウイル「ぬっ、キレイな。だが攻め手は緩めないぞ!」連続斬り

シヨウグンギザミ「(＃、皿)」両鎌をヤドに挟む

ウイル「げっ、まさか……」

ギギギギギツ!!

ショウグンギザミ「((#、皿))」 ゆっくりとウィルへ近づくと
ウィル「やべえ!! どっちから来る!?!」 アセアセ

ショウグンギザミ「\ (、皿、#) 三三」 左鎌で大回転斬り
ウィル「あつぶねええっ!?!」 緊急回避

コンクリの壁へ真つ二つーっ!?! スッパーン

ウィル「や、やべえ切れ味: : :」 真つ青

ショウグンギザミ「\ (、皿、\ #) 三」 連続切り

ウィル「その切れ味のままこっちにくんなーっ!?!」 回避

ショウグンギザミ「(#、皿)」 右鎌攻撃

ウィル「あぶっ!! にやろっ!!」 左袈裟斬り

ショウグンギザミ「(;、皿)」 ダウン

ウィル「いまだーっ!!」 連続切り

獵虫へオレモヤツテヤンヨ!! 三〇体当たり

ショウグンギザミ「(#、皿)」 地面を掘って潜る

ウィル「やつべ!! 走れーっ!!」 ダッシユ

ショウグンギザミ「\ (#、皿) /」 足下から這い出て攻撃

ウイル「ぐへーっ!?」(、皿(

ショウグンギザミ「(、皿、#) /」威嚇

ウイル「いつつ…：裂傷には気をつけねえと」つモスジャーキー

ショウグンギザミ「(、皿、\#)」連続斬り

ウイル「ぬっ!! 何度も斬られてたまるかっての!!」ジャンプ攻撃

ショウグンギザミ「(、皿、;)」ダウン

ウイル「よし! いくぞ猟虫ちゃん! エキスハンターだ!」エキスハンター

猟虫「ヘイクゼオラーツ 三三三〇

ウイル「このまま畳み掛けるぜーっ!!」連続斬り

ショウグンギザミ「(、皿、#)」地面へと潜る

ウイル「むむっ!! また地面から強襲がくるか…!!」

ショウグンギザミ「(、皿、(」グラビモスの頭骨を背負って出現

ウイル「グラビの頭骨…攻撃を変える気か」

ショウグンギザミ「三三三(#、皿)」背後から水ブレス

ウイル「やっぱりかーっ!!」回避

ショウグンギザミ「(、皿、#) ^三三三三」薙ぎ払い水ブレス

ウイル「ふべーっ!?」三三三。3。)。…。

シヨウグンギザミ「(、皿、#)(」ボディイプレス
 ウイル「あぶねっ！」回避

シヨウグンギザミ「三(、皿、)／」回転斬り

ウイル「そいやっ!!」回避して斬り払い

シヨウグンギザミ「(、皿、)／」正面振り下ろし

ウイル「だからあぶねえって!!」ジャンプ攻撃

シヨウグンギザミ「(、皿、#)＜三三三三三三三三三三」チャージ水プレス

ウイル「やっべえええっ！」緊急回避

シヨウグンギザミ「(、皿、#)(」反動揺れ

ウイル「あぶねえあぶねえ。グラビモスの頭骨を背負うと水の放出が多くなるんだよ

な…」

シヨウグンギザミ「三三三三(、皿、)」薙ぎ払い水プレス

ウイル「でも慣れたら問題ねえぜ!!」高くジャンプして回避、ジャンプ攻撃

シヨウグンギザミ「(、皿、;)」ダウン

ウイル「再び乗りいつ!!」ライド

シヨウグンギザミ「(、皿、)」大暴れ

ウイル「ぬんっ！おらおらおらあらおらおらおらおらーっ!!」ザクザクザクツ

ショウグンギザミ「(、皿、；、)」ダウン

ウイル「っしやあ!!」ラッシユ

猟虫<エクス集めワスレンナヨー! 三〇 エクス採取

ショウグンギザミ「(、皿、#、)」チャージ中:

ウイル「溜めてからの水ブレスか! 避けて:」ザツ

ショウグンギザミ「(、皿、#、)へ三三三三三」フェイントをかけてからチャージ水ブレ

ス

ウイル「軸合わせとかずるいーっ!?」三三三。3。:。:。

ショウグンギザミ「三、(、皿、) /」鎌を広げて前進

ウイル「うおりやあつ!!」高くジャンプして回避、ジャンプ攻撃

ショウグンギザミ「三三三、(、皿、)」水ブレス

ウイル「当たらんぜ!」回避して回転斬り

ショウグンギザミ「(、皿、)」怯み

ウイル「もういつちよ!!」袈裟斬り

ショウグンギザミ「(、皿、)」地面に潜る

ウイル「ぬっ!?!これはやべえ!」ダッシユ

ショウグンギザミ「(、皿、#、) /」地面から強襲

ウイル「ひええッ！」（◇、；）三

シヨウグンギザミ「＼（#、皿）／」地面からry

ウイル「うおおおっ！」三（；）◇、（

シヨウグンギザミ「＼（、皿）／」地面ry

ウイル「そおおいつ!!」緊急回避

シヨウグンギザミ「＼（#、皿）／」デインバルドの頭骨を背負って這い出る

ウイル「やっぱ鎧裂はそれだよな…」

シヨウグンギザミ「（（#、皿）／」右鎌薙ぎ払い

ウイル「あぶっ!!」回避して反撃

シヨウグンギザミ「（（#、皿）／」鎌をヤドに挟む

ギギギギギギッ!!

シヨウグンギザミ「三三（#、皿）／」右鎌で大回転斬り

ウイル「あぶねええっ!!」緊急回避

シヨウグンギザミ「（（皿、#）／」再びヤドに鎌を挟む

ウイル「嘘おっ!? 燼滅刃みたいにもう2回目があるのかよ!？」

ギギギギギギッ!!

シヨウグンギザミ「＼（、皿、#）三三」左鎌で大回転斬り

ウイル「ぜ、絶対回避ーっ!!」絶対回避

ショウグンギザミ「＼(#、皿、)／」鎌を研ぐ

ウイル「あ、危なかったー…絶対回避が無かったら間違いない真つ二つになつてたかも…」

ショウグンギザミ「三(#、皿、)／」回転斬り

ウイル「ぶべらっ!?)、3、)…」

ショウグンギザミ「三＼(#、皿、)／」鎌を広げて全身

ウイル「くらうかよっ!!」高くジャンプして回避

ショウグンギザミ「(#、皿、)／」両鎌をヤドに挟む

ギギギギギギツ!!

ウイル「くるっ…!!」

ショウグンギザミ「三三(#、皿、)／」右鎌で大回転斬り

ウイル「よいしよーっ!!」高くジャンプして回避しジャンプ攻撃

ショウグンギザミ「(；、皿、)／」右鎌部位破壊、大ダウン

ウイル「よし…これでどうだーっ!!」ラッシユ

ショウグンギザミ「＼(×皿×)／」ズズウウウンッ!

【目的を達成しました】

ウイル「ふう……いつちよ上がり！二つ名はやっぱ手強いな……うん？」

艦載機①へヤッホー

艦載機②へミンナマツテルヨー

ウイル「あれはホツポの艦載機。待っててくれてたんだな……後はギルド本部と大本営に連絡して任せておくか」スツ

ホツポ「ウイル！かつこよかった！」フランス

重巡棲姫「青い蟹……マズソウ……」

ウイル「お前等そこにいたのかいな!？」ズコーツ

ホツポ「スタンバってた!!」

ウイル「……まあいいか」ヤレヤレ

ホツポ「ウイル、一緒に帰ろ！皆待ってる!!」

i n 第三海域 | 補給拠点

ウイル「第二から第三海域まで移動してたのか」

ホツポ「ちっこい提督がここに行けって言った!!」

ウイル「孫娘提督がか…いよいよ、双子に会いに行けるな」

重巡棲姫「お土産何がいい？」ワクワク

ウイル「おい、遊びに行く感じじゃないぞ」

ホツポ「それまで皆で協力するようになって言ってた!!」

ウイル「協力？他の艦隊とか？」

戦艦棲姫「お帰り、ウイル。待ってたわよ」ノシ

ウイル「おー、たっだいまー。皆ここで待ってたんだな」

防空棲姫「ウイル、いよいよ本腰ね！」

戦艦水鬼「まあ…多少、ここでは厄介になるだろう」

ウイル「うん？それってどういう…」

ドドドドドツ

ウイル「…おや？誰かがこっちに来るぞ…？」

アール「ウイルウウウツ！」ドドドドドツ

ウイル「おおつ、アールじゃないか！お前もここに来てたんだな！」ノシ

アール「うおおおおおつ!!」猛ダツシュ

ウイル「ここからは俺達も介入するからよろry」

▲白銀の雪世界、タルジュ雪原

inカクセの森、出口付近

弥生「空を覆い隠すくらいに茂ってた木々が少なくなってきた…」

ナビルー「タルジュ雪原へと近づいてきている証拠さ。少し肌寒くなってきただろ？」

弥生「そういえば…すこし冷えてきたかも」

ナビルー「そろそろホットドリンクの用意もしたかなきやな…というよりも弥生。お前はその服装で大丈夫か？」

弥生「??」クビカシゲ

ナビルー「いやいや、こうもヘソチラな服装じやお腹を冷やすぞ？」

弥生「睦月型はこういう服装だし、寒いのはへっちゃら。島風や天津風の方がもっと寒そうだよ」

ナビルー「うーむ…艦娘っていうのは不思議だなあ。俺もまだまだ分からないことが沢山だぜ」

コタロウ「(´ω´)ブルブル

弥生「コタロウ、寒いのか？」

ナビルー「リオレウスは滅多に寒冷地へは行かないかな。寒いのは慣れていない。タルジュ雪原へ着いたらホットミストを使つてやるからもう少しの辛抱だ」

コタロウ「(´・ω´・)」ブルブル

弥生「地面に雪が積もつてる…そろそろ見えてくるのかな？」

ナビルー「さあ見えてきたぞー！この森を抜けたらタルジュ雪原だ！」

弥生「…!! 辺り一面雪景色…!こんな広大な雪原、すごきれい…!!」

ナビルー「すげーだろ？タルジュ雪原は白い雪世界だけじゃないぜ。タルジュの秘湯つていうのがあつて、旅するハンター達を癒してくれる場所もあるんだ。今では温泉旅館もできてタルジュ雪原の旅の醍醐味にもなつてるんだぜ」

弥生「…!」キラキラ

ナビルー「…いいこだなー」ホッコリ

コタロウ「(´ω´)」ホッコリ

ナビルー「さあ弥生、日が落ちる前にまずはタルジュの山小屋まで行こうぜ！暗くなるともっと寒くなるからな！」

弥生「うん！」

i n タルジュ雪原

弥生「思った以上に寒い……！」フルフル

ナビルー「ほらな？ ハンターさん達もライダーさん達も暑いのと寒いのは苦手だからさ」つホツトドリンク

弥生「んっ……これを飲むだけで寒さがへっちゃらになるなんてすごいね。でも、ナビルーは寒くないの？」

ナビルー「アイルーやメラルーはこの毛並みのおかげで灼熱のように暑い所も、凍りつくほど寒い所もへっちゃらなんだぜ！」フフーン

弥生「……」ジーツ

ナビルー「……えっ？ そ、そんなに見つめてどうした？」

弥生「……」ナビルーを抱き上げる

ナビルー「おおっ!? ど、どうしたんだ？」

弥生「……あつたかい」スリスリ、フカフカ

ナビルー「わわっ!? ちよ、くすぐったいって!!」アセアセ

コタロウ「(#、3、)」

ナビルー「ちよ、こ、コタロウ!? そう怒るなって！ ほ、ほら弥生！ コタロウにホツトミストを!!」アセアセ

弥生「コタロウ、これで寒くないよ」つ「ホットミスト」

コタロウ「(、・ω・:~)」シヤキーン

弥生「うん、よかった:」ナデナデ

コタロウ「(*、ω、~)」クルル・

ナビルー「ふー:コタロウ、これでお相子だからな」

コタロウ「(、3、~)」プイッ

ナビルー「あつ!こいつー」

弥生「喧嘩しないの:ナビルー、タルジュ雪原にはどんな生物がいるの?」

ナビルー「タルジュ雪原にはボボやドスファンゴやウルクスス、ドスバギイやザボアザギルが棲息している。奥地に行けばティガレックスやフルフル、ボルボロス亜種、ドブランゴもいるぞ」

弥生「寒さに適応した生物が沢山いるんだね」

ナビルー「あと、ドスバギイやドブランゴは群れで縄張りを作っているから気を付けるんだ」

コタロウ「(、ω、*)」♪「弥生を乗せて移動中

弥生「温泉、楽しみだね」ナデナデ

ナビルー「あ、オトモンは入れるかどうかわからないぞ？」

コタロウ「Σ（。D。；）ガーン

弥生「入れないの？」

ナビルー「うーん…タルジユ雪原に来るのは久しぶりだし、オトモン専用の温泉はできてるかどうか…おや？」

弥生「ナビルー、どうしたの？」

ナビルー「向こうに見えるのは…ドスバギイの群れか？」 つ 双眼鏡

ドスバギイ「（、皿）」グオーツ！！

バギイA<ヒヤツハー！ ピョンピョン

バギイB<狩リノ時間ダー ピョンピョン

バギイC<身グルミヨコセー ピョンピョン

バギイD<ニガサネー！ アゝピョンピョンスルンジャゝ

弥生「あの青いのがドスバギイ…」 つ 双眼鏡

ナビルー「小型のバギイが獲物を逃がさないようにぴよんぴよん飛び跳ねながら困み、ドスバギイの睡眠液を吐いて眠らせて一気に獲物を仕留めるといのが眠狗竜の狩

りなんだ」

弥生「バギイ達を取り囲んでるのは…」

ウルクスス「(; ; · ω ·)」威嚇

ナビルー「あいつらウルクススを襲おうとしてるみたいだな…でもウルクススはどうして威嚇しかないんだ？」

弥生「あのウルクスス…鞍がついてる。それにその後ろに荷物とか…ナビルー！ウルクススの傍に女の子が倒れてる!!」

ナビルー「なんだって!?!そうか、あいつはその子を守ろうとして動けないんだ!」

弥生「コタロウ、助けに行くよ!」

コタロウ「C (、D、) C」翼を広げる

＼グオオオオツ!!／

ドスバギイ「? (、皿、)」

コタロウ「(、D、) L」強襲キック

ドスバギイ「L (、ω、) …」ギャンツ!?

バギイA<オ、オカシラーツ!?

バギイB<アイエエエツ!?リオレウス、ナンデ!?

弥生「あっちへ行つて!!」ドーン!

バギイC<ギヤースツ!?

バギイD<ヒエーツ!?

ドスバギイ「(#、皿、)三〇」睡眠液

ナビルー「気を付けろ!あれを諸にくらつても吸つても眠くなるぞ!」

コタロウ「C(、皿、)「尻尾で打ち払う

ドスバギイ「三(#、皿、)「タツクル

コタロウ「(、へ、)「受け止める

バギイAへヘツヨク見レバカワイ子チャンジヤネーカ

バギイBへ眠ラセテイタズラシテヤル!

ナビルー「おっと!弥生を襲うなんてさせねえぞ!」キツク

バギイBへブベラツ!?

弥生「コタロウ、火球プレス!!」

コタロウ「〇三(、皿、)「火球プレス

ドスバギイ「∴∴ε。(〇三)critical!

ナビルー「ついでにこれもくらえっ！」つ三【こやし玉】

ドスバギイ「(皿、) 撤退

バギイA&C<お、オボエテロー!!

バギイB&Dへヒエー!!

ナビルー「おとといきやがれーっ!!…よし、これでもう大丈夫だ」

弥生「あとは…」

ウルクスス「(; ; ・ ω ・)」威嚇

弥生「大丈夫…私達は貴方達を助けにきたの」

ナビルー「変な事はしないから安心しろ」

ウルクスス「…」威嚇を解く

ナビルー「その女の子を助けてあげないと…ほら、大丈夫か？」ツンツン

女の子「う、うーん…あれ？」

弥生「大丈夫?…って、水無月!？」

女の子「水無月…?」クビカシゲ

弥生「え、あつ…ごめんなさい。そつくりだったの…」アセアセ

ミヅキ「えつと…貴女達が助けてくれたの？」

ナビルー「そうだぜ！オレはナビルー！」

弥生「ナビルーと一緒に旅をしてる弥生です。こっちはオトモンのコタロウ」

コタロウ「(、ω、)」クルル

ミツキ「ありがとう!! あつ、わたしはミツキっていうの。それでこの子はぴよん吉」
 ぴよん吉「(=。ω。ノ)」

ナビルー「しかしどうしてドスバギイの群れに襲われていたんだ?」

ミツキ「あはは…うちは温泉旅館なの。お父さんは毎日湖の魚を獲りに行くんだけど、お父さんが体調崩しちゃって…代わりにぴよん吉を連れて獲りに行ったんだけど、その帰りにドスバギイに襲われちゃって…」ニガワライ

ナビルー「それでどうしたいか焦っている所をドスバギイの睡眠液をくらったということか」

ミツキ「あはは…ぴよん吉はお父さんのオトモンなの。まだ扱いとかがわかんなくて…」ナデナデ

ぴよん吉「(*、ω、)」

ミツキ「本当に危ない所を助けてくれてありがとう! そうだ、うちの旅館があるタルジユの山小屋まで案内するよ! あそこならドスバギイも来ないし安全だよ!」

ナビルー「丁度よかった。俺達もそこへ行くところなんだ!」

ミツキ「よーし! それじゃあレッツゴー!!」

弥生「その前に荷物を回収しないと…」

ミヅキ「あつ…忘れてた」

inタルジュの山小屋

弥生「すっかり夕方になっちゃったね」

ナビルー「暗くなる前についてよかったぜ！ここがタルジュの山小屋だ。今は温泉も湧き、旅館もできて、ここに訪れる旅人も増えて小さな集落になつてみたいだな」

弥生「…温泉まんじゅうのいい匂い…」

コタロウ「（*。ω。）」ジュルリ…

弥生「コタロウ、温泉まんじゅうは明日買ってあげる」ナデナデ

ミヅキ「元々はタルジュ雪原の奥地にあるタルジュの秘湯だけだったんだけど、この近辺でも温泉が沸きだし、この山小屋に元々住んでた竜人族のおじさんの指揮の下、大きな旅館ができたんだ」

ナビルー「ふかし苔の温泉まんじゅうが大好きななぞのおじさん…元気にしてっかなー」

弥生「そのなぞなぞおじさんってどんな人？」

ナビルー「あ…うん、見たらびっくりするかもな…」遠い目

弥生「???」クビカシゲ

ミツキ「ついたよ！ここがうちの旅館、『雪主亭』だよー！」

弥生「ここが温泉旅館：：!!」キラキラ

ナビルー「おおー、ユクモ形式の旅館だな」

女将「ミツキ：：!!」

ミツキ「あ、お母さん！えつと：：た、ただいま」

女将「朝から出て帰ってこないから心配したわよ：：！でも、無事でよかった：：ギョツ

ミツキ「えへへ：：ごめんなさい。あのね、弥生ちゃん達が助けてくれたの」

女将「貴女達が：：娘を助けてくれてありがとう」

ナビルー「いいってことさ！」テヘヘー

ミツキ「ねえ、お母さん。弥生ちゃん達を家に泊まらせてあげようよ！」

女将&弥生「えっ？」

ミツキ「温泉もあるし、うちの旅館の料理もおいしいよ!!さあレッツゴー！」グイグイッ

弥生「え、ちよ、ナビツ：：あーれー」

ナビルー「…やんちゃなお子さんですね…」

女将「とつても無邪気な子でごめんなさいね…」

i n 温泉

弥生「ふうー…これが温泉。癒される…」ホッコリ

*この物語は健全第一のため、ユアミスタイルで温泉に浸かっております

ミツキ「でしょでしょ？でもユクモ村にはまだまだ及ばないかなー」

弥生「ユクモは温泉で有名ってジンさんから聞いたことがあります…」

ミツキ「あつちはギルドの所にも温泉があるし、足湯もあつたり、本当に温泉尽くしの。いつか各地の温泉を巡る旅をしてみたいなー」

弥生「旅…司令官は海で戦う私達艦娘に世界の広さを教えてくれました。司令官が言つてた様に、冒険は私の知らない事を沢山教えてくれる…」

ミツキ「うんうん！それよく分かるよ！ここに訪れてくるハンターさん達が色々な場所を教えてくれるの。冒険は大変だけどつても大事な事を教えてくれるって」

弥生「…もつと色々な所を見てみたい…」

ナビルー「ぷはーっ！温泉から上がった後のドリンクは格別だぜー！」

弥生「ミラクルミルク：普通のミルクと全然違う…！」マロヤカー

ミツキ「そして、温泉といえればピンポン！！いい運動になるよーっ！」

ナビルー「おいしい、また汗をかくじゃないか」

弥生「そうだ、竜舎にいるコタロウが入れる温泉がないか女将さんに聞いて見なきや

…スツ

ぼよんっ

弥生「わっ」尻もち

???「おんや。お嬢ちゃん、大丈夫だべ？」ポヨーン

弥生「」（旦那）。

???「うん？オラになにかついてるだか？」

弥生（ふ、禪：！?それにネコみたいなヒゲがついてる…!?）アワワ

ナビルー「おーい弥生：おっ！なぞなぞのおじさんじゃないか！」

なぞおじ「おおー？ナビルーでねえか！久しぶりだんべー！」

弥生「???」アセアセ

ナビルー「弥生、このおじさんがオレが言つてた竜人族の人だ」

弥生「竜人族の……は、初めまして！弥生です」

なぞおじ「ほほー、とつてもいい子だべさ」

ナビルー「それでおじさんはどうしてこの旅館に？」

なぞおじ「この旅館の旦那さんに薬草を届けるのとつぼマッサージに来たべさ」

ミヅキ「竜人族のおじさんは板前の他につぼ師とかもやってるんだよ！」

ナビルー「色々とチャレンジしてるんだな」

なぞおじ「最近はここに訪れて来る人も増えたもんでさ。趣味も増えて楽しくやってるべ」

弥生「竜人族の人ってすごい……」

なぞおじ「ふむふむ……」つぼマッサージ中……

旦那さん「あだだだだっ!？」

女将「あの……主人は治りますか？」

なぞおじ「関節痛の症状も少しずつ良くなってるべ。あと一週間ぐらい安静すれば大丈夫だべさ」

ミヅキ「さすがおじさん!!これなら大丈夫だね！」

旦那さん「で、でも……明後日にはハンターの団体客も来るし……キャンセルするわけに

もいかんし、板前としての仕事もせにやならん…」

ミヅキ「それならわたしが頑張るよ！」

旦那さん「しかし…またお前を危ない目に遭わせるわけにもいかん」

なぞおじ「うーむ…タルジュの秘湯ならすぐに治せるべ」

ナビルー「確かにタルジュの秘湯に浸ければすぐに元気になるしな！」

ミヅキ「じゃあすぐにでもレッツゴーだね！」

なぞおじ「けれど、今は危なくて行けれないべ」

ミヅキ「ええっ!?!どうしてさ!?!」

ナビルー「む?何かあったのか?」

なぞおじ「タルジュの秘湯を独り占めしようとドドブランゴが暴れてるだべさ」

ミヅキ「ドドブランゴ?!?ハンターさん達が来るのは明後日だし、お父さんの体調も

治したいし…どうしよう!」

ナビルー「ドドブランゴを撃退させるならオレ達に任せてくれないか?」

ミヅキ「ナビルー、できるの!?!」

弥生「…私もライダーだし、一緒に戦うよ」

ナビルー「だな!一宿一飯の恩義もあるし、いっちょやってやろうぜ!」

ミヅキ「弥生ちゃん…ありがとう!じゃあ…ドドブランゴ撃退にレッツゴー!」グイ

グ
イ
ツ

弥生「え、ちよ、まだ早い…あーれー」

ナビルー「…ほ、本当にやんちやな子だな」

旦那さん「と、とつても無邪気な子でご迷惑をおかけします…」

◇9 トラック沖決戦、新？連合艦隊結成

i n 第三海域補給地点

アール「つてなわけでウイルの艦隊と連合を組んでトラック泊地沖へ出撃、そして深海双子棲姫と接触する！」

長門「まさかお前達と共に戦うことになるとはな」

戦艦水鬼「ふっ、ビッグセブンと肩を並べるのは嬉しい事だ」

空母水鬼「うほっ、イケメン！」

軽巡棲姫「お兄さん、一緒にアイドル目指しませんか！」

グレイ「これが他の深海棲艦…ふむふむ」マジマジ

葛城「こら！そんなに触らないの!!」

龍驤「グレイさん、さっそく人気もんやなあ」

ホッポ「おにぎりおいしい!!」クワツ

雷「まだまだたくさんあるから皆食べてね！」

赤城「もぐもぐ…おかわりいいですか？」

南方棲鬼「腹が減っては戦ができぬというが…食べ過ぎではないか？」

北上「へー、開幕魚雷もできて艦載機も飛ばせるんだー」

ビスマルク「それで戦艦の火力も持っているなんて…」

鈴谷「それってずるくなーい?」

レ級「そ、そういう仕様だから仕方ないだろ!」

清霜「私もそんな戦艦になりたーい!」

駆逐水鬼「鍛えればなれるやもしれん…」

夕張「なんだか私が呼ばれた気が…っ!」ガタツ

天津風「呼んでません…また怒られますよ?」

集積地棲姫「人混みがががが…」ガクガク

榛名「だ、大丈夫ですか!?!」

アール「…人の話を聞いて…!!」切実

初月「だ、大丈夫だよアールさん!僕はしっかり聞いているから!」アセアセ

大淀「これだけの大所帯ですから、仕方ありませんよね…」ニガワライ

戦艦棲姫「な、なんだかごめんなさいね…」ニガワライ

アール「事情があるのは仕方ないが…ウイル、ちゃんとまとめてくれよ」

ウイル「悪い悪い…で、何の話だっけ?」

天龍「俺も目立ちてー!」ブーブー

アール「それじゃあ編成だけど……この場合って、水上なの?機動なの?もうてんやわんやなんだけど?」

大井「私も深海棲艦との連合艦隊って言うのは初めてですから……組み合わせに制限はないのでは?」ニガワライ

アール「なのかなあ……うし、第一艦隊は長門を旗艦に、ビスマルク、レ級、戦艦棲姫、葛城、空母棲姫。第二艦隊はホッポを旗艦に、重巡棲姫、初月、大井、摩耶、川内の連合艦隊でいくぞ」

ドドドドド

天龍「うん?なんだ?」

摩耶「しゃあーおらああつ!!」ドロツプキツク

アール「うぼべえええつ!」。3。)。…:」

天龍「ま、摩耶の姉貴いいつ!」

天津風「ちよ、なにやってんですか!」

摩耶「あたしはなあ待ちに待ちくたびれてたんだつての!!」ウガーツ

加賀「ほとんど遠征でしたからね……提督は申し訳ないとよく仰ってました……」

摩耶「提督はまだしも：アールさん、てめえまさか忘れてたとかじゃねえだろうなあ？」

アール「め、滅相もございませぬ：」アセアセ

摩耶「ずっと退屈してたんだ。どうしてくれようかねえ：」ゴゴゴゴ

アール「：夕張さん。VIPコースでお願いします！」

夕張「キタコレ!! さあアール軍団、いきますよー!!」ピーツ

アール達「ニヤアアアツ!!」ドドドドドツ

摩耶「え、ちよ、どこからともなくアールの群れが!? ちよ、やめつ、あーれーっ!?」

天龍「ま、摩耶の姉貴がアールの群れに連れ去られたぞ：」

龍驤「まあ、大丈夫やて」遠い目

大井「：」ため息

ホツポ「ウイル! モスジャーキーはもってつちやだめ？」

ウイル「うーん、元氣ドリコならいいんじゃないやね？」

レ級「おいこら」スパーン

葛城「なんというか：：とんでもない艦隊になりそう：」

ビスマルク「こんなのは初めてよ。けど、悪くはないわね」

アール「次に支援艦隊だな。道中支援は比叡、戦艦水鬼、軽巡棲鬼、曙、龍驤、赤城の第三艦隊。決戦支援は榛名、伊勢、防空棲姫、駆逐水鬼、大鳳、加賀…後ついでにウール」

ウイル「ふあっ!?俺!？」

アール「当たり前だろ。お前がいなきや説得できないんだからな！」

曙「ついに妖怪ハチミツヨコセの全貌が明らかに…！」ワクワク

大鳳「そういえばウイルさんって妖怪ハチミツヨコセだったわね…」

ウイル「違うよ!?風評被害だよ！」

アール「そして俺とグレイで火山島へ向かう」

グレイ「本当に大掛かりな作戦になりそうだな…」

アール「こっからが勝負時だ!!皆で力を合わせて突破していくぞ!!」

＼おおうっ!!／

ホツポ「ウイル、ハチミツはもってつちやダメ？」

ウイル「う、うーむ…」

アール「だからダメだってば」

i n 補給拠点「母港

摩耶改二「…どうしてこうなった」(。D。)ポカーン

龍驤「まあ…そうなるわな」

空母棲姫「いやどうやって一瞬で改二になったのよ」

摩耶「なんか…夕張が鎧玉だの、素材だのとかアイルーと妖精さんと話してた」

大井「たびたび思うのだけど…提督の故郷の素材や技術って本当に色々とおかしいわね」

伊勢「もしかして…私にも改二のワンチャンある…!?!」

葛城「やめときなさいって」

グレイ「やあやあ、もうすぐ出撃かい？」

長門「グレイさん、その箱に入っているのはお守りか？」

ホッポ「キラキラしてる!!」キラキラ

大井「ザラの時みたいにスゴイ効果のあったりするものはダメよ？」

グレイ「ダイジョーブ!今回は手作りだから!ほい」

レ級「おおつ!もらってもいいのか!?!」キラキラ

戦艦棲姫「私達にも?…ありがとう」

重巡棲姫「これ、食べれないの?」(。・ω・)?

初月「食べたらダメよ!？」

グレイ「アールみたいなうまくできないが…今の俺が皆に出来ることがあるとすればこれぐらいだからなあ」

ビスマルク「なに言ってるの。グレイさんも十分私達を支えてくれてるじゃないの」
川内「グレイさんはグレイさんなりに頑張ってるんだから、もつと自信持っていよいよ!」

グレイ「そつか…ありがとな。みんな、気を付けて行ってらっしゃい」

長門「ああ、任せておけ!必ず勝利を刻んで見せるさ」

ホッポ「私もガンバル!」フンス

――艦隊、出撃!!――

アール「…みんな出撃したようだな」

ウイル「こっちは準備できた。俺はすぐに支援艦隊へ向かうぞ」イ級にライド

イ級(サシミ)「キューっ!」

グレイ「第二イサナ号はいつでも出れる。準備はいいか?」

アール「おうさ。さつき孫娘提督殿から連絡があった。例の火山島、また活動が活発化したようだ」

グレイ「…間違いなく、いるなあ」

ウィル「じゃあ行ってくる。こっちの作戦が済み次第、すぐに向かう。それまでへばってんじやねーぞー！」ノシ

アール「てめえこそ、海のもズクになるなよー！」

グレイ「…それを言うなら藻屑じゃね？」

アール「…」（…ω^ω）

ウィル「m9（^D^）」

アール「…」（#^ω^）

トラツク沖

摩耶「つしやあーっ!! どんどん飛ばすぜえええっ!!」

川内「摩耶さん、かなりはじけてるねー」

葛城「大一番での抜擢だもの。あれほど緊張感がないのが羨ましいわ」

ホッポ「はやい!! 負けない!!」フンス

戦艦棲姫「こらこら、序盤から飛ばしたらダメよ？」

長門「深海棲艦との連合艦隊…やはり腕がなるな」

ビスマルク「こういうのって本当に前代未聞ね…」

空母棲姫「見えてきたわよ…! 早速のお出ましのようね!」

葛城「作戦は!？」

離島棲鬼「イヤ、チヨ、ナニアレ」

砲台子鬼「アネゴ!! ソンナコトヨリアイツラヲ狙イマシヨウゼ!!」ドドーン!

離島棲鬼「そ、ソウネ: ココで潰すのは変わりナイワ!」ドドーン!

初月「アールロさん危ないっ!!」

アールロ「つと! そんななまつちよろい砲撃じゃあ沈まねえぜ!!」

グレイ「龍撃船はジエンモランのプレスにも耐えるからな!」

レ級「小破すらしい鯨の船、どんだけ頑丈なんだよ:」

離島棲鬼「コシヤクナ: アリツタケノ雷撃デ沈めてヤルワ!」

戦艦水鬼「おつと! そうはさせんぞ!!」ドーン!

離島棲鬼「ナツ!? 貴女は: 戦艦水鬼!？」hit!

曙「ちよつと! 貴方飛ばし過ぎよ!」プンスカ

ウイル「えーだつてアールの奴が:」

龍驤「だつてもあらへんつて!」

軽巡棲鬼「ついに私のオンステージ: !! 派手に足止めするわよーっ!!」ドドーン!

砲台小鬼「ブルアッ!」hit

赤城「艦載機の皆さん、お願いします!」艦載機発艦

龍驤「さあ一仕事やるでーっ!!」艦載機発艦

艦載機へウラーラーッ!! ババババッ

離島棲姫「クツ…ヤツテクレルワネ…!!」

戦艦水鬼「ここは私達が相手だ!第一、第二艦隊は突破しろ!」

長門「ああ!行くぞ!!」

離島棲鬼「コノツ…行カセルモノカツ!!」

比叡「全力でっ!!足止めしますっ!!」ドドーン!

曙「私だつてやつてやるんだからっ!!」ドドーン!

大井「アーロさん、グレイさん、ウイルさん!はやく行きますよ!!」

アーロ「ああ…あまり無理はするなよ!」

曙「アーロさんこそ!大怪我して帰ってきたら承知しないからね!」

——深海離島守備隊、強行突破!

△7 グレイとの出会い、迫りくる巨影

i n ドンドルマ | 武器防具加工工房

加工担当「……ここが武器や防具を製造する工房だ。ここなら電探とやらが製造できるはずだ」

明石「鍛冶場のようですけど……工場とは全く違う雰囲気にもう驚きすぎて言葉が出ないです……」ボーゼン

加工屋の娘「明石さん！一緒に頑張ろうね！師匠と私、そして明石さんで力を合わせて行けば間違いなくすぐに完成するよ！」

妖精さんへ見たこともないものばかりー！

明石「ね、念のために妖精さん達も連れて来て正解だったわね……よし、郷に入つては郷に従えともいうしいっぱいここで学ぶわよ!!」フンス

加工担当「その意気だ……」

明石「提督達の防具や武器のメカニズムが分かるかもしれない……よろしく願いしますね！」

加工屋の娘「じゃあまずは……設計図からいこう!!」

加工担当「やはり電探というのだから…電気袋や雷狼竜の蓄電殻を使うか？」

加工屋の娘「金属部分は…鉱石の他にも鋼龍の素材も使って…」

明石「ごめんなさい。もうわかんないです」

i n d o n d o l m a | 商店街エリア

木曾「明石さん大変だろうな…」

鹿島「本土とは異なった未知的な技術を一から学ぶことになりますし、少し心配です

ね」

ベル「まあ明石さんのことならきつとすぐに覚えると思うな」

ルルカ「半日で極限化を鎮静化させる弾を作ったんですもの。きつと大丈夫よ…たぶん」

金剛「た、たぶん!？」

ルルカ「素材の中には扱い方を間違えるととんでもない事が起きるものとかあるものね…」遠い目

ベル「昔、アールロがブラキディオスから採取される粘菌の入った瓶を開けっぱなしにして大爆発を起こした時もあったからね…」遠い目

木曾「明石さん大丈夫かな…」

金剛「Oh!! なんだかい匂いがシマース!!」

ルルカ「さすが金剛ちゃん、冴えてるわね。あれがドンドルマ名物、ケバブサンド!」

金剛「…」ジーツ

ベル「わかってるって。買ってあげるよ」

ルルカ「つしやあー!! ベル、あざーつす!!」

ベル「ちよ、ルルカは自分で払いなよ!？」

木曾「…各地の上手いもの巡りしかしてないような気がするんだけど…」

鹿島「うふふ、まあいいんじゃないですか? いい土産話になりますよ」

ルルカ「さあベルよ!! あたしらにもっと貢ぐのよ!!」フハハハ!!

ベル「ああ…:さよなら俺のお金」ポーゼン

i n d o n d o r m a | ハンター訓練所

不知火「ここがジンさんがハンターの修行をしていた場所…!!」キラキラ

ジン「不知火がご満悦でなにより」

瑞鶴「すごいわね…:大剣やランス、弓にボウガンの訓練のようだけど、統率のとれた

動きに的確な行動」

ジン「あのように最初はそれぞれ使う武器の使い方をマスターするまでひたすら特訓

だ。試験に合格してから教官やチームと共にクエストを熟していき、一人前のハンターになるまで日々精進をする」

不知火「…キラキラ

ジン「…一緒にやってみるか？」

不知火「ぬいっ!?いい、いいのですか!?!」アタフタ

瑞鶴「か、勝手に入ってもいいの？」

白髪教官「ややっ!?どこの見学者かと思えば…ジンじゃないか!」

ジン「教官…お久しぶりです」ペコリ

瑞鶴「じ、ジンさん、この人は…?」

ジン「俺が半人前のハンター時代にお世話になった教官だ」

不知火&瑞鶴（髪以外、どの教官も同じ装備で分かりづらいのだけど…）

白髪教官「はっはっは!!勝手にモノブ羅斯を討伐に出てモノブ羅斯亜種に出くわして死にかけてちんちくりんだったお前が…今ではダラ・アマデユラを討伐したいっちょ前になるとはな!!」

ジン「あの時は…本当にご迷惑をおかけしました」ペコリ

白髪教官「本土とやらの土地での活躍、団長から聞いているぞ!片角のアマツマガツチやオストガロア変異種といった凶悪な古龍を討伐したとか。やるではないか!」ハッ

ハー！

ジン「団長：お口が軽い」

瑞鶴「あのジンさんが照れてる：!？」

白髪教官「それで：お前さんのそばにいるかわいい子達は？」

不知火「し、不知火です！」ピシッ

瑞鶴「瑞鶴です！」

白髪教官「ほほう、いい面構えをしている。ジン、ちやっかりこの子達にも技を教えているのだな？」

ジン「：教官にはお見通しですか。教官、不知火はハンターに興味があるんです。どうか教えてくださいませんか？」

白髪教官「おおっ!!それは実に興味深い!!君はどんな武器が得意かな？」

不知火「わ、私はヘイボウガンが：：」

白髪教官「よろしい!!ドンドルマにいる間ならワガハイがじっくり指導してあげよう!まずは一緒に回りを5周だ!!」ダッ

不知火「は、はいっ!!」ダッ

瑞鶴「不知火、かなり張りきってるわねー」

ジン「あの教官の下で頑張ればすぐにでもハンターになれるだろうな：：」

白髪教官「ところでジンよ」

瑞鶴「はやっ!? もう戻ってきた!」

ジン「なにか?」

白髪教官「その子と随分と雰囲気良さそうなのだが……まさか」

ジン「(・・・) v」

白髪教官「ぬおおおっ!!」ブロー

ジン「ふううんっ!!」受け止める

白髪教官「ちやつかりいちやつきおってからにーっ!! お前も鍛え直してやるーっ!!」

ググググ

ジン「望むところ……っ!!」ググググ

瑞鶴「なんか組手始まったーっ!」

不知火「ぬ……ぬい……教官、速すぎです……」ゼエゼエ

in ドンドルマ | ギルド本部図書室

霞「……」熟読中

パラパラ

霞「……」熟読中

ソフィア「霞ちゃん、お勉強かな？」

霞「ひやわっ!?」ビクッ

竜人商人「ほっほっほ、随分と熱心のようじゃのう！」

霞「私も司令官達の手伝いができたらなって。そのためにはまず司令官達が探している古龍について知らなくちゃ」

ソフィア「偉いです!!霞ちゃんの為にも私もお手伝いしますよ!!」

竜人商人「バルファルクの文献はなかなか少ないからのう…ギルデカランの書庫なら少し詳しい文献があるやもしれん」

霞「そんなに少ないの？」

ソフィア「バルファルクは超高空域に生息するという古龍で、古龍の中でも目撃例も少ないんです。ですので詳しい文献はかなり古いものしかないの」

霞「むう…思った以上に難しいのね」

ソフィア「でもその文献を写したものがありますよ!クロードさん達の為にもちゃーんと書いてきました!!」

霞「さすがソフィアさんね！」

ソフィア「これが私がまとめたモンスターノートです！」

霞「…そ、ソフィアさん?心なしか物凄くポップな絵になっているんですけど…」

ソフィア「えへへ、よく言われます。あ、最初のページにある挿絵のダレンモーランと戦っている4人のパンツ一丁のハンターさん、これクロードさん達ですよ」

霞「ほんとにパンツ一丁だった!？」

竜人商人「当時はパンツ一丁で追い払ったと騒がれてたのう…」

霞「ほんと、司令官達って人離れしてるわね…そういうえば、司令官と団長さんは何処に行つたのかしら？」

ソフィア「クロードさんと団長さんでしたら、提督代理になつてくれる人の所に行きましたよ」

霞「提督代理？」

ソフィア「はい、アールさんのサポートをしてくれる方です!」

in ドンドルマ」とある生物書士隊のお家

提督「ここ…ですか？」

団長「うむ!グレイとは書士隊の活動を指導していた仲だな。書士隊としての知識だけでなくハンターとしての腕もかなり頼りになるぞ!」

提督「なるほど。おや、この家紋…もしやしてあの冒険家の本と同じマークじゃないか!」

団長「グレイの祖父はお前とウイルがよく読んでいた冒険譚を書いた冒険家だ」

提督「懐かしいなあ……ますます会うのが楽しみになってきた！」ワクワク

団長「ふふふ、きつとお前と気が合うぞ。さて、入ろうか」ノックしてin

提督「おじやましーす……って本の山ばかり!？」

団長「こりやまた随分と散らかしてるなあ……おーいグレイ!!」

ガサガサツ

提督「本の山が蠢いてる……もしや埋もれてるのでは？」

団長「はっはっは、やんちやな奴だなー。グレイはあわてんぼうのようだ」ワツハツ

ハ

提督「ははは。これならアークとすぐ仲良くなれそうだし、大丈夫そうだな」アツハツ

ハ

グレイ「ちよつとー!?!呑気に話してないでお助けてくれよ!？」本の山からこんにちは

――数分後

団長「さて、本も整った事だし改めて紹介しよう。彼はグレイ、書士隊兼ハンターだ」

グレイ「どうもよろしく！そちらの話は団長から伺ってる」

提督「ああ。俺がクロードだ。本土ではハンター兼提督をやってる」

グレイ「その、提督って？ 団長は『海の上を駆ける少女』を指揮する人だとしか聞いてないんだけど……？」

提督「ははは、その通りなんだ。まあ、本土では『艦娘』と呼ばれる少女達と一緒に海を守るって感じかな？」

グレイ「艦娘……海を駆ける少女……とても興味深いな」

提督「提督ってのは意外と難しくてな……艦娘は深海棲艦っていうのと戦う、でも心も身体もちゃんとした女の子だ。彼女達を支え、守ってあげるのも提督として大事な事だ」

グレイ「……」

提督「今は本土にある鎮守府に一人、代理を任せているが少し無理をしている。少し無理を言うかもしれないが……どうか、彼の力になつてくれないか？ そして彼女達を支えてくれないか？」

グレイ「……クロード、水臭いぜ。本土には前から興味があつたんだ。艦娘という初めて見る、聞いたことに増々行きたいと思つてる。力になつてやるよ」

提督「ほ、本当か!? ありがとう!!」握手

グレイ「おう！ それに……本土に行けば爺ちゃんが探していたモノが見つかるかもしれない」

提督「探していたモノ？」

グレイ「ああ：爺ちゃんが余生を賭けて海へ出て探し続けたモノさ。俺もあちこち探したが、見つからなかった。オストガロア変異種の話聞いてピンと来たんだ。もしかしたら本土にいるかもしれない。わくわくが止まらないぜ」

提督「見つかるかといいな！冒険っぽくて面白うそうだ！」

グレイ「そう言ってくれるのはクロード達ぐらいかもな：さてと、荷造りの準備しなきゃな」

提督「俺も手伝おうか？それに一緒に艦娘の子達を何人か連れてきているんだ」

グレイ「それは楽しみだ！まだ出立の日になにかは決められてないし、是非ともお会いしてry」

団長「その事なんだが：実は大本営に、今から5日後に鎮守府に着任すると話してたの忘れてた」テヘペロ

グレイ「：5日後：？」

提督「えーと：：ドンドルマから飛行船を経て、砂漠を通り越して、本土へ行ける船がある港町まで行くと：：」

グレイ&提督「急がないと間に合わない!？」

団長「うん、すまん」

グレイ「ちよ、やばいって!?ま、まだ荷造りしてねえっ!」

提督「と、とにかく急いで荷造りしなきゃ!!」つ狂走薬グレート

グレイ「うおおおおおおお!!」獅子宿し状態で荷造り

提督「おおっ!?あつという間に!」

グレイ「つしやあ!!つ、次は飛行船の便だが……っ!!」

提督「超高速便に乗って、船ですっげえ早く飛ばせば間に合うぞ!!」

グレイ「それだつ!!飛竜種より速く超高速で行けばギリギリ間に合うつ!!」ダッ

提督「グレイっ!!ほんつと短い時間だったが楽しかったぜ!!鎮守府のアーロと皆をよろしく頼んだ!!」

グレイ「おうつ!!艦娘を一目見れないのは残念だったが、あつちでしつかりやるから任せとけ!そつちもバルファルクの調査、頑張れよつ!!」ノシ

団長「……あつという間だったな」

提督「あれなら大丈夫だ……ぶつからなきゃいいけど」

団長「で、ここの戸締りはどうすればいい……?」

提督「……あ」

i n ドンドルマ | 展望エリア

金剛「Yes!!とてもいい眺めデース!!」

木曾「すっげえ…山々のその先まで眺めれる」

ルルカ「ここは観光スポットとでも有名だし、カップルで行くのもいいものよー」
べ
ルを凝視

ベル「何故お前はこつちを見る」

鹿島「…」ギョツ

ベル「鹿島、なんで腕に抱き着いてるの…?」

金剛「あまいわー」

木曾「おつ、双眼鏡があるじゃないか」

金剛「私達はこれでも使つて景色を眺めておきましようカ」

木曾「100円を入れなくても見えるんだ。おおつ!かなり遠くまで見える!!」

金剛「…?」

木曾「うん?どうかしたのか?」

金剛「いま…山が動いたような気が…What!」

木曾「ど、どうかしたのか!」

金剛「あ、あつちで何か動いてマース!」

木曾「あつちつて…うおつ!?!マジで何か動いてる!?!」

金剛「べ、ベルさーん!! すごくジャイアントなモノが動いてるが見えマース!」

ベル「巨大なもの…?」

木曾「本当にでかいぜ!! ほら、これを覗いたら見える!!」

ベル「どれどれ：とお。シエンガオレンじゃん」

ルルカ「え、ほんと? うーん：ああ、ほんとだ。シエンガオレンだわ」

鹿島「シエ、シエンガオレンってなんですか?」

ベル「シエンガオレンは巨大な甲殻種なんだ」

ルルカ「シエンガオレンは縄張りを徘徊する習性があるの。だからああやって動いてるのが見えるのよ」

ベル「懐かしいなー、新米だった頃はウイルとアー口も含めて6人で戦ったっけ?」

ルルカ「懐かしいわねー。あれが来たときは本当に面倒だったわー」

ベル「あははは」

ルルカ「うふふ」

木曾「：：：というか、こつちにきてねえか?」

ベル&ルルカ「：：：やっべええええええええつ!!」

○7 激突！深海双子棲姫

inトラック沖―火山島遠海

大井「もう！作戦通りについてくるようにしてくださいね！」プンスカ

アール&ウィル「すみませんでした：：」タンコブ

摩耶「まったく、いきなり突っ込んでくるから焦ったぜ」

グレイ「やーい怒られてやんの」m9（＾皿＾）プギヤー

葛城「グレイさんもダメでしょ」スパーン

長門「離島棲鬼の艦隊を突破することができた。ここからがいよいよ深海双子棲姫がいる海域で、アールさん達が向かう火山島がある」

ビスマルク「アールさん達が火山島へ向かえるよう私達が援護しなきゃね」

ホップ「双子に会えるよ！お土産どうしようか？」

ウィル「むーん：ハチミツしかねえ」

レ級「持ってくるなよ!？」

初月「アールさん、ここから激戦になるかもしれない。被弾しないよう気を付けて」
大井「アールさんは迂回して火山島に向かってください。その方が難なく火山島へ行

けるはずです」

アール「ああ、けどもお前達も気を付けるんだぞ。無理せず、危なかつたら退避していいんだからな」

大井「何言ってるんですか。アールさん達の方はこれから危険な所に行くんですから逆に無理をしないか心配なんですからね」

川内「アールさんやグレイさんが頑張ってるんだもの、私達もしつかりやらなきや!」

摩耶「アールさん、グレイさん：：大怪我するんじゃないやねえぞ」

アール「：：ありがとうな。それじゃあ行ってくるぜ!」

グレイ「必ず帰って来るからさ、みんなも気を付けてな!」ノシ

初月「：：：キユツ

長門「心配するな。アールさん達なら必ず無事で帰ってくる」

初月「そうだね：：僕達も頑張らないと!」

ウイル「艦娘の子達もかなり張りきってるようだな：：俺達もやるべき事やろう!」

ホツポ「お土産はハチミツで決まり!」フンス

重巡棲姫「ヴェア!!ウイル、頑張る!お腹すいた!」フンス

レ級「なんかバラバラの様な気がするんだけど大丈夫かなあ：：」

戦艦棲姫「わ、私達も私たちなりにやりましたよ：：」

空母棲姫「というかウイルは決戦支援艦隊と一緒に来るんじゃないのかなかったの？」
ウイル「あつ」

葛城「だ、大丈夫かなー：：」

大井「心配ないわ。今はボス艦隊の所まで一気に進むことに専念しましょ」

レ級「むつ：：さつそく敵艦隊のおでましのようだ！」

ホッポ「もうきた！」

ビスマルク「索敵はどう!?」

葛城「えーと：：戦艦1隻、軽空母1隻、軽巡1隻、駆逐3隻の水上打撃部隊です！」

摩耶「来やがるぜ!! 気張っていくぞ!!」

ウイル「が、ガンバレー」(：∪、A、)∪

サシミ「キユキユーツ」

戦艦夕級「ファツ!? 艦娘ト深海棲艦ノ混合艦隊!？」

軽巡へ級「ナンデヤ!？」

軽母又級「チートヤ!! チーターヤ!!」艦載機発射

葛城「ここは戦力を温存させるためにも航空戦で一気にやらなきやね！」艦載機発射

!

空母棲姫「あつという間に片付けてやるわ！」艦載機発射

レ級「航空戦も任せろーっ!」艦載機発艦

艦載機<トマルンジャネエゾ 敵艦載機<ヒヤツハーツ!!

摩耶「っしやあ!! 対空はこの摩耶様に任せろーっ!!」対空カッツトイン

初月「よし、摩耶さんに続くぞ!」対空砲発射

敵艦載機<ウワラバアアアツ!?! 撃墜

駆逐口級B「イナフツ!?!」critical! 大破

軽巡へ級「ポピーツ!?!」critical! 大破

大井「魚雷をくらいなさいっ!!」魚雷発射

重巡棲姫「ヴェアアツ!!」魚雷発射

レ級「つでに魚雷も撃てるんだ!」魚雷発射

駆逐口級A「キヤスバル兄さんツ!?!」critical! 大破

駆逐口級C「マソツプ!?!」critical! 大破

長門「一気に攻めるぞ!!」ドドン!

軽母又級「ムリポーツ!?!」critical! 大破

戦艦夕級「クウツ!! 何故艦娘共ニ手ヲ貸ス!?!」ドドン!

戦艦棲姫「つと! 悪いけど、譲れないことがあるから突破させてもらおうよ!」小ダ

メ、反撃

戦艦タ級「グッ!?」critical!中破

ビスマルク「これで決める!!」ドドン!

戦艦タ級「アアッ!?オノレ:::」critical!大破

長門「このまま突破して進撃するぞ!!」

ホッポ「双子棲姫に会いに来たの!通らせてね!」

川内「強行突破ーっ!!」

空母棲姫「ウイル、ついてくるのよ!」

ウイル「おし、このまま頼んだ!!」

摩耶「もー、あたしの活躍する出番も残してくれよー」ブーブー

重巡棲姫「もつと活躍したい!」ブーブー

空母棲姫「まだまだ序の口よ。次からはちゃんと貴女達の出番もあるから」

ホッポ「どーんとこーい!!」シュババ

レ級「双子に会うのが目的なんだからな」

戦艦棲姫「ウイル、ちゃんと決戦支援艦隊と合流できたかしら…」

ビスマルク「なんだかまたすぐに勢いよく来そうな気がしてならないわ…」

初月「もうすぐで深海双子棲姫のいる地点だ…」ゴクリ

葛城「!!皆さん気を付けて!!敵艦隊を索敵しました!!」

大井「敵艦が見えてきたわ…!!」

川内「あれが双子棲姫…!!」

深海双子棲姫(黒)「へエー…ノコノコトキタンダ…」

深海双子棲姫(白)「ウフフ…カンゲイシマシヨ…」

摩耶「やつべー…二人で一人の艦だろ?強そうじゃねえか」

大井「今までにないパターンだから被弾しないよう気を付けて」

葛城「深海双子棲姫の他に、空母が2隻、戦艦2隻、輸送艦1隻、軽巡2隻、駆逐4

隻です!!」

ビスマルク「あっちもかなりの数のようね…!」

ホッポ「シロちゃん、クロちゃん!!やつほー!」ノシ

双子棲姫(白)「ホッポチャン…ソレニ戦艦棲姫サン達マデ!」

双子棲姫(黒)「ナンデアンタ達ガ艦娘共ト一緒ニイルノ!」

ホッポ「迎いに来たよ!!一緒にウイルのいる島に行こー!」ノシ

双子棲姫(白)「ウイル…?」

双子棲姫(黒)「チョット!!私達ハ艦娘共ヲ追イ払ウヨウ援軍ヲ要請シタノニナンデ艦

娘共の味方ヲシテルノヨ!

空母棲姫「今の火山島の近海は危険だ。だからお前達を助けに来ただけだ」

レ級「それにこの艦娘達はウイルの親友の提督の艦隊だし、大丈夫」

双子棲姫(黒)「人間ナンカ信ジラレルカ!」プンスカ

ホッポ「違うもん!! ウイル達はハンターさんだから自然や私達にも優しいもん!!」

ドドドドドツ

葛城「決戦支援艦隊が見えてきたわよ!!」

ホッポ「ほら!! あれがウイルだよ!!」ゆびさす

ウイル「うおおおおおつ!! 双子ちゃん!! うおおおおつ!!」ドドドドドツ

双子棲姫(白&黒)「キヤアアアアアアアツ!」(; ㄩ)。

ウイル「うおおおおおつ!!」ドドドドドツ

双子棲姫(黒)「ナニアレ!? スツゴイコワイ!」

双子棲姫(白)「ソ、走馬燈ガガガ」白目

双子棲姫(黒)「シツカリシテ!!」ユサユサ

伊勢「し、支援に来ただけど…あれ?」

加賀「どう見てもアウトです」

大鳳「まああれじゃ妖怪ハチミツヨコセそのものね…」

防空棲姫「うんその…なんかごめんなさいね」

駆逐水鬼「ふむ、あれも鍛錬の一つか…」ウんウン

ホッポ「いいなー、鬼ごっこ楽しそう」

重巡棲姫「ヴェア!!私も遊ぶ!」

レ級「えーと…」チラツ

大井「埒が明かないからいいわよ」ゴーサイン

レ級「せいっ!!」砲撃

ウイル「うぼあーっ!」…ε。(c

双子棲姫(黒)「タ、助カツタ…ナ、ナンナノヨ貴方ハ!」

ウイル「お、おうふ…お、俺がウイルだ」フルフル

双子棲姫(白)「ダ、大丈夫…?」

双子棲姫(黒)「コンナ奴ノ心配ナンカシナクテイイノ!!」

双子棲姫(白)「貴方がウイルネ…?私達ヲ助ケニ来タツテドウイウ事?

ウイル「うむ、火山島が急に活発化したのはあるモンスターの仕業の可能性が高いんだ。このままだと他の島々にも火山の影響が出るだけじゃない、この海にも危険が及ぶ恐れがある。だから君達にもその被害に遭う前に俺達が助けに来たという事だ」

双子棲姫（黒）「フザケルナ!! 誰がお前ノヨウナ人間ノ話ナンカ信ジラレルカ!」
 ホツポ「ウイルは人間じゃなくて竜人族だもん!! ウイルを馬鹿にしたら怒るよ!」
 プ
 ンスカ

双子棲姫（白）「ゴメンナサイ…信ジタイケドモ、私達ハ自分達ヲ守ルノニ精イツパイ
 ナノ。突然の火山活動で火山島ノ近海カラ離レテモ…突然何処カラトモナク衝撃波ミ
 タイナノガ飛ンデクルシ…モウ襲ワレルノハ嫌ナンデス」

ウイル「衝撃波…やっぱりあいつの仕業か。そいつは俺達に任せて…」

双子棲姫（黒）「アアモウ!! シツコイ!! 沈メツ!!」 ジャキンツ

戦艦棲姫「ウイル、サシミっ!! 離れて!!」

双子棲姫（黒）「モウ遅イッ!!」 ドドーン!

ホツポ「ウイル!!」

双子棲姫（白）「ク、クロちゃん…!! イクラナンデモソレハ…」

双子棲姫（黒）「イイモン!! 艦娘共ノ味方ヲシテルノガ悪ry」

ウイル「うおー、びつくりしたー。絶対回避してなかつたら被弾してたぜー」ムキズー

双子棲姫（白&黒）「」

大井「ウイルさんも提督と一緒に冒険したハンターね…物凄い恐れを知らなすぎで

しよ…」

戦艦棲姫「と、とりあえず無事でよかったわ…」

ホッポ「むーっ!! ウイルを危ない目に遭わせるなんてもう怒った!!」 プンスカ
重巡棲姫「ヴェアアアツ!!」 プンスカ

川内「えーと、これどうすんの?」

ホッポ「わからず屋は殴り合って分からせる!」 フンス

摩耶「少年漫画的なノリになってる!?!」

双子棲姫(黒)「望ムトコロダ!!」 艦載機発艦

空母ヲ級A「ソゲブツ!!」 艦載機発射

空母ヲ級A「サスオニツ!!」 艦載機発射

空母棲姫「仕方ないわね…こっちもやるわよ!!」 艦載機発艦

葛城「や、やってみせます!!」 艦載機発艦

レ級「しよーがない…!!」 艦載機発艦

摩耶「結構な数だぜ…だが、対空番長の名は伊達じゃねえ!! いくぜ初月、しっかりつ
いて来いよーっ!!」 対空カッターイン

初月「はいっ!! 援護は任せてください!」 対空砲発射

ババババツ

敵艦載機<バワツ!! 撃墜

敵艦載機（白）「へへデモネエゼーっ!!」

摩耶「っ!へへっ…やるじゃねえか」小破

空母棲姫「くっ…」小破

駆逐口級B「ボルガ博士っ!」critical!大破

駆逐口級C「サノバビツチっ!」critical!大破

軽巡ツ級「バベツジ!」critical!大破

大井「次!魚雷を撃つわよ!!」魚雷発射

重巡棲姫「ヴェア!!わからず屋ーっ!!」魚雷発射

レ級「これでどうだっ!」魚雷発射

空母ヲ級B「アベシッ!」critical!大破

軽巡ヘ級「アワビユッ!」critical!大破

戦艦ル級A「グッ!?戦艦レ級ハ艦載機ヤ雷撃モデキルカラ厄介ダワ…!!」critical

call!中破

長門「支援艦隊!砲撃用意!!」

榛名「は、はい!いきますよ!!」ドドーン!

伊勢「よーしいっけーっ!!」ドドーン!

駆逐水鬼「支援は任せろ!!」ドドーン!

防空棲姫「炎を据えてあげる!」ドドン!

双子棲姫(黒)「っ!!ヤツテクレルジヤナイノ!!」hit!!

戦艦ル級B「:クっ!!被弾シタカ:!!」critical!中破

輸送ワ級「ヌワーツ!?」critical!大破

長門「一先ず先制するぞ!!」ドドン!

双子棲姫(白)「クツ::ヤリマスネ::デモ、負ケマセン!!」hit、反撃

大井「きやあつ!?思った以上の火力だわ:」critical!中破

ビスマルク「Feure!!」ドドン!

戦艦ル級B「ブベラツ!?」critical!大破

戦艦ル級A「絶対裏切りヌルヌル!!」ドドン!

重巡棲姫「ヴェツ!?イタイツ!!」hit!!小破

双子棲姫(黒)「許サナイゾ!!」ドドン!

川内「わあっ?!いつつ::躲しきれなかつたか!」critical!中破

戦艦棲姫「悪いけど::大人しくしてもらわよ」ドドン!

戦艦ル級A「サーモンツ!?」critical!大破

レ級「おらーっ!!」ドドン!

空母ヲ級A「ズルーイツ!?」critical!大破

摩耶「いくぜ!!これでもくらいやがれっ!!」ドドーン!

駆逐口級A「キャシューツ!?」critical!大破

重巡棲姫「ヴェアアアツ!!」ドドーン!

双子棲姫(黒)「チイツ…!!」hit!!小破

葛城「深追いは禁物だけど…いけーっ!!」艦載機発艦!

双子棲姫(白)「キャアツ!?」hit!!中破

初月「いくよ!!」ドドーン!

双子棲姫(黒)「コノ…コシヤクナツ!!」hit!!中破

大井「中破でもやるときはやるわよ!!」ドドーン!

双子棲姫(白)「イタツ…!!」hit!!

ホッポ「ホッポもガンバル!!えーいっ!!」つ三【ドラム缶】

レ級「ちよ、それドラム缶!」

双子棲姫(黒)「トイウカドツカラドラム缶持ッテキターっ!?」三三〇。Ⅱ。…

critical!

双子棲姫(白)「クロちゃん…コノママジャ…」

双子棲姫(黒)「コノ…!!マダダ!!マダヤラレルモンカ!!」

ホッポ「むー!!まだ分らないの!!」プンスカ

重巡棲姫「ホントに怒るよ!!」プンスカ

ビスマルク「どうするの?このままだと夜戦に持ち込んで一気に決めないと長期戦になるわよ」

戦艦棲姫「難しい所ね…」

空母棲姫「でもあれじゃあ説得も難しいわ…」

ホッポ「こうなったらもう一度ドラム缶アタックをやるもん!!」つ【ドラム缶】

大井「だからドラム缶は投擲じゃないわよ!」

双子棲姫(白&黒)「…っ!!」ジリッ

レ級「めつちや警戒されてるし!!」

ウイル「はーい!!ストツプ!!ストツプ!!」ノシ

ホッポ「ウイル!!」

ウイル「もうそこら辺で十分だろ。後は俺に任せておきなさいって」

初月「ウイルさん!!危ないですよ!!」

ウイル「もう喧嘩は終わり!ほらほら、皆仲良くしねえとな」

双子棲姫(白)「ア、アノ…」アセアセ

双子棲姫(黒)「コノツ…!!気安く近ツクナ!」ドドーン!

ドドーン!

ホッポ「ウイルっ!？」

双子棲姫（黒）「ど、ドウダ…!!」

ウイル「…」ピンピン

双子棲姫（黒）「ナッ…全然ダメージニナッテナイ!？」

双子棲姫（白）「アワワワ…」

ウイル「…」スッ

双子棲姫（黒）「ヒッ…!」目を瞑る

双子棲姫（白）「…っ」目を瞑る

ウイル「やれやれ、随分とやんちゃなもんだ」ナデナデ

双子棲姫（白）「え…?？」

ウイル「火山の噴煙から、火山島から放たれた衝撃波から、必死に避難してきたんだ。

よく、頑張つて耐えてきたな」ナデナデ

双子棲姫（白）「…!？」

双子棲姫（黒）「こ、このっ!!なでなでするな!」

ウイル「よく頑張つた…後の事は俺達がやる。だから、ここは信じてくれないか？」

双子棲姫（黒）「!!そ、そんな事…信じられルカ!」

双子棲姫（黒）（白）「…クロちゃん、ウイルさんの事、信じてみようよ」

双子棲姫(黒)「シロちゃん!?で、デモ…」

双子棲姫(白)「あの人は真剣に私達を助けようとしてるのが分かるの…」

ホッポ「ウイルは凄く優しいんだもん!!」

重巡棲姫「ウイルは毎日こんがり肉を焼いてくれるから優しいもん!!」

ビスマルク「うんそれはちよつと説得力が欠けるんじゃないの?」

双子棲姫(白)「…ウイルさん、あの火山島にいる何かを貴方はどうにかすることができるとはですか?」

ウイル「ああ。俺と、俺の仲間が必ず解決する」

双子棲姫(白)「…わかりました。私は貴方を信じます。その代わり…必ず解決して戻ってきてください」

双子棲姫(黒)「うう…シロちゃんが言うのなら…し、信じてあげるからね!」

ウイル「そうか!!ありがとう!!」

ホッポ「えっへん!ウイルなら大丈夫だよ!!絶対戻ってくるもん!!」

長門「…なんとか無事に丸く収めることができたな」

戦艦棲姫「少し戦闘にはなっちゃったけども、説得できてよかったわ」

ウイル「よし、俺はこのままアー口達の方へ向かう。サシミ、頼んだぞ」

サシミ「キューツ!!」

ホツポ「ウイル!! 気を付けてね!」

レ級「無事に戻って来てよな!」

重巡棲姫「こんがり肉沢山用意するから!!」

ウイル「ああ!! 後は任せておけ!」ノシ

双子棲姫（白）「…どうかご無事で…」

戦艦棲姫「大丈夫よ…ウイルを信じて待ちましょ」

i n 火山島

アーロ「…うん、やっぱり見覚えのある風景だこれ」

グレイ「火山活動が活発すぎて溶岩が流れまくってる…思った以上の被害だな」

アーロ「あつつい…いち早く火山活動が活発化しないようにしねえと…」

ゴゴゴゴゴゴツ!!

アーロ「うおっ!?! すっげえ揺れっ!!」

グレイ「足下に気を付けろ!! 溶岩が吹き上がってくるぞ!」

ポフンツ!! ポフンツ!!

アーロ「あぶねっ!!」回避

グレイ「おっと!! 急な溶岩の活発化：間違いない、もう奴はすぐ近くにいますぞ!!」
ゴゴゴゴゴゴツ!!

グレイ「つと! やっぱりいたぞ!!」

アール「火山活動が活発した原因は古龍を除いたら此奴しか思いつかないよな…『覇竜』アカムトルム!!」

アカムトルム「グオオオオオオツ!!」

グレイ「さあこいつを討伐して終わらせるぞ!!」

アール「おうよ!! いっちょよくぜ!!」

◇10 獄炎に坐する、覇たる者 『霸竜』アカムトルム

アカムトルム「グオオオオオオオツ!!」咆哮

アール「さあいくぞ!!」つブラックフルガード

グレイ「ああ!討伐してこの一件を終わらせるぜ!!」つ真・王牙剣斧【断天】

アカム「三三(#、皿、)」突進

アール「つておおい!?こっちに来たぞおい!」アセアセ

グレイ「アール狙いで来てるし!!こっちくんなし!」(; 皿、) 三

アール「うおおおつ!!ダアアアイブツ!!」緊急回避

グレイ「な、なんとか突進を避けry」緊急回避

アカム「(、皿、 #) ?」クルッ

アール&グレイ「ヒョ?」

アカム「(、皿、 #) 三三三三」突進

アール「そうだった!あいつドリフトしてくるんだった!!」ダッシユ

グレイ「開幕連続突進とか勘弁してよなっ!!」ダッシユ

アカム「(、皿、 #) 三三三三」ドドドドドッ

ア—ロ「うおおおおおっ!!」猛ダツシユ

グレイ「とおおおうっ!!」緊急回避

アカム「(、皿、#)」ズザーッ!!

ア—ロ「あ、危なかったー:」フ—ッ

グレイ「まだ激昂状態じゃないからよかったもの: 気を付けてかかるぞ」ダツ

アカム「?(#、皿、)」振り向き噛みつき

グレイ「うおっと!!」エリアル回避

ア—ロ「いくぜおらああっ!!」斬りかかり

アカム「(、#、皿、)」噛みつき攻撃

ア—ロ「おっと!!ガードッ!!」盾ガード

グレイ「そいやっ!!」ジャンプ攻撃

アカム「(#、皿、)」尻尾薙ぎ払い

ア—ロ「ぐぬぬっ!! やっぱ一撃一撃が重いな:」ガード

グレイ「ピンが溜まったら顔に属性解放斬りを頼んだぞ。自慢の牙をへし折ってやれ

!!」剣モード連続斬り

ア—ロ「任せときな! じゃんじゃん溜めてやるぜ!!」盾突き

アカム「(、皿、)」ボディプレス

アール「うべーっ!!」..:(ε)()

グレイ「うおおっ?!地形が陥没したっ?!」グラグラ

アカム「(皿 #)?」振り向き噛みつき

グレイ「あべばーっ!!」()。3。()..:

アール「吹っ飛んだーっ!!」っ【生命の粉塵】

アカム「(# 、皿)」潜行

グレイ「あててて…潜ったぞ気を付ける!」

アール「マグマが噴出してくるからな…どっから来る」

ボフンツ!! ボフンツ!! ボフンツ!!

アール「うひーっ、あぶねっ!!」回避

グレイ「あちちっ…」回避

ゴゴゴゴゴゴツ

グレイ「足下から来るぞ!!」

アール「避けるぜっ!!」ダッシュ

アカム「(、皿) /」這い出る

グレイ「この隙に叩け叩けっ!」剣モード連続切り

アール「おらーっ!!」斧モード叩き込み

アカム「(#、皿) ()」尻尾薙ぎ払い

グレイ「わっしよい！」エリアル回避

アール「ガードツ!!」ガードポイント

グレイ「そりやつ!!」ジャンプ攻撃

アカム「(;、皿)」怯み

グレイ「しやあつ!! 乗りいつ!!」ライド

アール「よし! 振り落とされるんじゃないぞーっ!!」

アカム「(;、皿)」大暴れ

グレイ「うひよおおつ?! めっちや暴れる!!」しがみつく

アール「よし、俺が援護してryぶべーっ!?! ()」。3。 () ∴ ∴

グレイ「俺がやる! おらおらおらおらおらあーっ!!」ザクザクザクザクツ

アカム「(;、皿)」ダウン

アール「ナイス!! 攻め込んでやるぜ!!」属性解放斬り

グレイ「そりやつりやあーっ!!」斧モード振り回し

アカム「(#、皿)」立ち上がる

アール「げっ! 立ち上がった!!」アセアセ

グレイ「激昂するぞ!! 離れる!!」ダッ

アカム「グオオオオオオオオオオオオツ!!」大咆哮

アール「ひえーっ!? ヤバイ程の響きだ!!」(∩; ㇏、∩)

グレイ「バインドボイスの範囲は結構広いからな…!!」

ボフンツ!! ボフンツ!! ボフンツ!!

グレイ「うおおおっ!? あっちいーっ!!」()、ω。)…:

アール「こいつの咆哮で溶岩が吹き上がりまくるのっ見ていつ見てもおかしいよな!」

回避

アカム「三三三(# ▼皿▼)」突進

グレイ「こっちに来るーっ!?」ダッシュ

アール「走れーっ!!」

アカム「三三三(# ▼皿▼)」ズザーツ!!

グレイ「うひよおおおっ!?」緊急回避

アール「こんにやろめ!!」属性解放斬り

アカム「(▼皿▼ #)」背後噛みつき&尻尾薙ぎ払い

アール「ぐぬぬぬっ!? って盾に腐食の唾液がつ!?」ガードツ

グレイ「このっ!! せいやっ!!」剣モード斬り払い

アカム「(; ▼皿▼)」怯み

アーロ「うおーっ!! 盾に変なにおい付けさせやがって!!」高出力属性解放斬り

アカム「(▼皿▼)」牙第一段階破壊

アーロ「うしっ!! もう一本へし折ってやる!!」

アカム「C(▼皿▼) #」潜行

アーロ「あつっ!?!」火属性ヤラレ

グレイ「潜った!どこから這い出てくる…!!」キョロキョロ

アカム「\ (▼皿▼) /」離れたところから這い出る

アーロ「遠くで出てきた…:あつ、これって…:」

グレイ「やばいぞ!! 急げー!!」

アカム「(# ▼皿▼)」スーッ

グレイ「やっべ!息を大きく吸った!!」猛ダツシユ

アーロ「うおおおおっ!間に合えーっ!!」猛ダツシユ

アカム「(# ▼皿▼)」薙ぎ払いソニックブラスト

アーロ「ぜえぜえ…:ま、間に合った!」

グレイ「あれをまともにくらったらやばいぜ…:」

アーロ「今のうちにつ!!」剣モード回転斬り

グレイ「こかしてやるぜ!!」斧モード横斬り

アカム「(▼皿▼ #) ?」振り向き噛みつき

アール「ほべーっ!?!」。(3。)。…。

グレイ「ひぶーっ!?!」…。(ε。)()

アール「やばいやばい!!くさいっ!!」防御力低下

アカム「(▼皿▼(#)」ボディプレス

グレイ「離れろっ!!」緊急回避

アール「あぶねーっ!?!」ダイブ

グレイ「と、兎に角!!これでっ!!」っ【生命の粉塵】

アール「持ってきてよかった硬化薬グレート!!」っ【硬化薬グレート】

グレイ「な、なんとか防具が腐食するのを防げたぜ…」っ【硬化薬グレート】

アカム「(# ▼皿▼()」背後噛みつき&尻尾薙ぎ払い

アール「あぶっ!?!攻撃が盛んすぎでしょ!?!」緊急回避

グレイ「危ないっつの!!」剣モード連続斬り込み

アカム「(▼皿▼ ;)」ダウン

グレイ「よっしゃ!!こけたぞ!!」連続斬り

アール「攻め時だーっ!!」盾突き

グレイ「よいしょーっ!!」属性解放突き

アール「おらーっ!!」斧モード叩き込み

アカム「三(# ▼皿▼)」顎擡上げ

グレイ「ばわーっ!!)」仄、;

アール「しまった!?!グレイ!!」

アカム「(# ▼皿▼)」拘束攻撃

グレイ「ぐおおっ!?!お、重いーっ!?!」グググ:

アカム「(# ▼皿▼)」口を大きく開く

グレイ「ちよ、お、俺を食べても美味しくねえぞーっ!?!」ジタバタ

アール「うおおおおっ!! やらせるかっての!!」エネルギーブレイド(フルチャージ)

アカム「(; ▼皿▼)」怯み

グレイ「た、助かった!! ありがとな!!」っ【回復薬グレート】

アカム「(# ▼皿▼)」立ち上がる

アール「離れろ!! バインドボイスが来る!」

グレイ「やっべーっ!!」ダッシュ

アカム「グオオオオオオオオオオオッ!!」大咆哮

ボフンツ!! ボフンツ!! ボフンツ!!

アール「あちちっ！マグマがやべえ!!」アセアセ

グレイ「不規則に噴出するからわかりづらい！」

アカム「E C (▼皿▼ #)」尻尾薙ぎ払い

グレイ「よっ!!」エリアル回避

アール「ひえっ、ガードッ!!」盾ガード

グレイ「うおらっ!!」ジャンプ攻撃

アカム「C (▼皿▼ #) (」潜行

グレイ「顎っ!？」受け身

アール「また潜りやがった!!」

ボフンツ!! ボフンツ!! ボフンツ!!

グレイ「わわっ！マグマを避けなきゃ!!」アセアセ

アール「どこからくる…!!」キョロキョロ

ゴゴゴゴゴゴツ

グレイ「下から来るぞ、気を付けろ!!」

アカム「\ (、皿、) /」アールの足下から這い出る

アール「ひえええっ！あぶねえ!？」緊急回避

アカム「? (#、皿、)」振り向き噛みつき

グレイ「噛みつきを回避して……って尻尾ーっ!?」()、3、……

アール「おらおらーっ!!」チャージして回転斬り

アカム「() (#、皿、)」噛みつき

アール「ガードからの反撃い!!」ガードして斧モード叩き込み

グレイ「あいてて……この尻尾めーっ!!」連続斬り

アカム「(、皿、 ;)」怯み

アール「この隙にぶち込んでやる！」高出力属性解放斬り

アカム「(×皿× ;)」スタン

アール「よっしゃ!!スタン!!」

グレイ「いいぞ!!今のうちに叩き込めーっ!!」属性解放突き

アール「うりゃーっ!!」溜め二段斬り

グレイ「もつともつと!!」斧モード振り回し

アカム「(、皿、 #)」立ち上がり

グレイ「は、離れろーっ!!」ダッシュ

アール「ちよ、待ってーっ!!」

アカム「グオオオオオオオオオオオオオオ!!」大咆哮

アール「うぐぐぐぐっ!?ガードしても超響く！」ガード

グレイ「今のうちに回復を……って溶岩ーっ!?」(二)。 (三)。 ……

アール「グレイ!!大丈夫か!」っ【生命の粉塵】

アカム「(▼皿▼) #) 三三三) 突進

グレイ「やばい!ホーミングアタックだ!」

アール「兎に角走れ!!」

ウイル「うおらーっ!! 獵虫ちゃんアターックっ!!」 エキスハンター

獵虫<オレサンジョーッ!! 三三三〇 ゴウッ

アカム「Σ(# ▼皿▼)」

グレイ「ウイル!!」

ウイル「はっはっは!! 待たせたなあ!!」 ドヤッ

アール「バーロー!! もう少し早く来いよ!!」

ウイル「ははっ、真打は遅れてやってくるってもんよ!! 俺が来たからにはスピー

ディーに……」

アカム「三三三(# ▼皿▼)」 突進

ウイル「ってアカムが来たーっ!」。 (四) ;

アール「よし頑張って避ける!!」

グレイ「今のうちに回復とチャージを…」つ【回復薬グレート】

アカム「三三三三(# ▼皿▼)」ドドドドドッ

ウイル「ぬおおおおっ!!」猛ダツシユ

アール「お、うまく躲したみてえだな」

ウイル「はっはっは!! どんなんんだ!! こいつのノロノロ突進なんか簡単に見切れ
r^y」

アカム「(▼皿▼ #) ?」グルリ

ウイル「へ?」

アール&グレイ「あっ」

アカム「(▼皿▼ #) 三三三三」ドドドドドッ

ウイル「ドリフトしやがったーっ!」ダツシユ

アール「ちよ、こっちくんなし!」ダツシユ

グレイ「避けて避けて!」ダツシユ

アカム「(▼皿▼ #)」ズザーツ!!

ウイル「ひいひい…あ、危なかったー」

アール「バカヤロウ!! こっち来るんじゃねえよ!」スパーン

ウイル「ま、まあ気にするなつて。こつからは3人で力を合わせて倒すぞ」つエイム
 ofマジック

グレイ「激昂状態はかなり威力が増してる。気を付けてかかるんだ」

アカム「(# ▼皿▼)」()「尻尾薙ぎ払い

グレイ「いきなりつてか！」エリアル回避

ウイル「そりゃーっ!!」ジャンプ攻撃

アール「顔面もらいっ!!」盾突き

ウイル「もういっちよっ!!」ジャンプ攻撃

アカム「三(# ▼皿▼)」顎掬い上げ

アール「うおっ、こわっ!」アセアセ

ウイル「あ、あぶねー…」

グレイ「なんのこれしきっ!!」剣モード薙ぎ払い

アカム「(#)▼皿▼)」ボディプレス

アール「ぬううっ…!!」ガード

グレイ「おつとと…」ユラユラ

ウイル「高く跳ぶぜっ!!」ジャンプ攻撃

アカム「(▼皿▼) ;)」怯み

アール「おらーっ!!これをくらいやがれっ!!」属性解放斬り

アカム「(▼皿▼ ;)」牙第二段階破壊

アール「おし!牙の完全部位破壊っ!!」

ウイル「いいぞいいぞ!!畳み掛けろっ!!」回転斬り

グレイ「こいつもくらえ!」属性解放突き

アカム「(▼皿▼ #)」スッ

ウイル「ぬっ、立ち上がった…咆哮する気か!」

アール「バインドボイスの前に離れるぞ!!」ダッ

アカム「(▼皿▼ #)」スーツ

グレイ「ひや…違うっ!!もつと離れるんだ!!」

アカム「(▼皿▼ #)」直立薙ぎ払いソニックブラスト

???????

◇ 11 決戦、さらば光作戦

グレイ「ソニックブラストが来るぞ!! 避ける!!」ダイブ

アーロ「直立でソニックブラストとか! んなのありかよおおつ!!」ダイブ

ウイル「ちよ、ちよつと待って!?! 足場の様子が……」

ボフンツ!! ボフンツ!! ボフンツ!!

ウイル「だ、大噴火ー!?!」三(; 旦、)

アール「やっぱ咆哮で噴火するのっておかしいよな!?!」

アカム「C(▼皿▼C #)」ボディプレス

ウイル「あぶねっ!?! シメはボディプレスかよっ!?!」緊急回避

グレイ「どれもくらったらヤバイー撃だ……」

アール「ちくしよーこんにやろうめ!!」

アカム「E C(▼皿▼ #)」尻尾薙ぎ払い

アール「ぬううんっ!!」盾ガード

グレイ「第二破を撃たせる前に倒すぞ!!」剣モード斬りかかり

ウイル「おうよっ!!」叩き斬り

猟虫へイクゼオラーツ!! 三三〇 ブーン

アカム「(▼皿▼) #」(「) 噛みつき

ウイル「うおつと!!」イナシ

アール「顔面がお留守だぜ!!」属性解放斬り

アカム「(▼皿▼) ;」(「) 怯み

グレイ「こつちもくらえつ!!」連続斬り

アカム「(; ▼皿▼)」怯み

猟虫へエキス get ダゼ!! 〇三三 ブーン

ウイル「いいぞいいぞ!!あとは黄色エキスを…」

アカム「(# ▼皿▼)」潜行

ウイル「うおーっ!?あつちいいいっ!?」火属性やられ

ボフンツ!! ボフンツ!! ボフンツ!!

アール「おつとと。ど、どこから来やがる!!」

グレイ「!!アール!!足下だ!!」

アカム「(▼皿▼) /」這い出る

アール「ぎえぶーっ!?!」()、ω。)….

ウイル「アール!?!」

アール「立った！離れる!!」アセアセ

グレイ「いきなりか!?!」

ウイル「うえっ!?!ちよ、まつ…」

アカム「グオオオオオオオオオオオオオオオ!!」大咆哮

ウイル「無理ぽーっ!?!」(。3。)。….

グレイ「う、うるせええっ!?!」((; ; ; ;))

アール「ふ、噴き上がる溶岩に気を付けろーっ!!」ガード

ボフンツ!! ボフンツ!! ボフンツ!!

グレイ「追撃のボルケーノっ!?!」(; ; ; ;)

アール「と、兎に角回復だっ!!」っ【生命の粉塵】

アカム「三(# ▼皿▼)」顎掬い上げ

アール「あぶなっ!?!このーっ!!」剣モード斬りかかり

ウイル「こなくそーっ!!」袈裟斬り

アカム「((▼皿▼) #)」ボディプレス

ウイル「ひえっ!?!」フラフラ

アール「うおっ!?!」フラフラ

アカム「(▼皿▼ #) ((噛みっ r y

グレイ「後ろが隙だらけだっ!!」斧モード振り回し

アカム「(▼皿▼ ;)」尻尾切断

アール「グレイ、ナイスカット!!」

ウイル「助かったぜ!! ナイスっ!!」

グレイ「もうひと頑張りだ!! いくぞ!!」

アカム「(# ▼皿▼)」ソニックブラスト

ウイル「あぶねええっ!!」緊急回避

アール「いきなりとかせこいぞ!!」緊急回避

グレイ「ギャバー!!」????

アール「グレイーイツ!?!」

アカム「三三(# ▼皿▼)」突進

ウイル「そうはさせるかっての!!」つ三三【閃光玉】

カッ!! /

アカム「(; ×皿×)」眩暈

アール「グレイ!! しっかりしろ!」ユサユサ

グレイ「ネ…ネコのご根性が無ければ死ぬとこだった…」つ【秘薬】

ウイル「ヘイトを稼ぐ! こつちを見やがれっ!!」ジャンプ斬り

アカム「(▼皿▼ #) ?」振り向き噛みつき

アール「もう一息なんだろ！ここでくたばるんじやねえぞ！！」ダツ

グレイ「わかつてるさ…!!遅れは取らねえぜ!!」

アカム「(▼皿▼ #)」直立して大きく息を吸う

ウイル「ぬっ!?バインドボイスか!?それともソニックブラストか!?!」

アール「うおおおおおっ!!やらせねえって言つてんだろおおおっ!!」高出力属性解放
斬り

アカム「(▼皿▼ ;)」ダウン

アール「うべーっ!」「(▼皿▼) (三)

グレイ「おおっ!?!キャンセルさせたぞ!?!」

アール「ふー、ペしやんこになるところだったぜー…」受け身

ウイル「ひやひやさせやがって…でもこれはチャンスだ!!」

グレイ「これでもくらえええっ!!」トランスラッシュ

ウイル「これで決めるっ!!」斬りまくり

アール「うおりやあああっ!!」斧モード叩き込み

アカム「グオオオオオオ…ッ!!」

ズズウウンッ!!

アール「……」チラッ

グレイ「……ああ、やったよ。討伐成功だ」

アール&ウイル「いよっしゃあああつ!!」

ウイル「やったな!アール!!」ハイタツチ

アール「ああ!!何とか倒せてよかつたぜ!!」ハイタツチ

グレイ「……ふー、ひやひやしたが無事に討伐できた」

アール「これで火山島の急激な溶岩の活発化は静まるだろうな……」

グレイ「だが……アカムトルムの影響で活発化した火山活動が静かになるのは時間が掛かるだろうな」

ウイル「これはさすがに俺達の力じゃどうにもならないな。でも……必ず戻る。それまで待とう」

アール「ああ。後は自然に任せよう……さあ本土のギルド本部と大本営に連絡だ」

グレイ「ふう……ソニックブラストをくらった時は死ぬかと思った。ていうかまだ痛い」

ウイル「ほら肩貸すぜ」

アール「俺も俺もー」

ウイル「……」ゲシッ

i n 連合艦隊泊地―母港

初月「……」ジーッ

空母棲姫「あの子つたら、ずっとあそこで待ち続けているわね……」

ビスマルク「アーロさん達の事が心配ですもの。私達じゃ手に負えない相手でアーロさん達じゃないと対処できない事だから、無事に帰って来てくれるか心配なのよ」

ホッポ「ダイジョーブ！ウイル達なら絶対に元気に帰ってくるよ!!」フンス

赤城「うふふ、そうですね……アーロさん達ならいつもの様に、賑やかにして帰って来ますね」

大井「でも……アーロさんの事だから無茶してそうね」

重巡棲姫「うう……ウイルウ……」(・・ω・・)

防空棲姫「大丈夫だって。貴女はしよげすぎなの」

双子棲姫(白)「……あの人、大丈夫かなあ……」

双子棲姫(黒)「ふ、ふん!!あの黒い化け物を倒せずに帰ってこなかつたら承知しないんだから……!!」

孫娘提督「……心配はいらないわ。あの時の海戦の時の様に、彼らは絶対に成し遂げて

くれるわ」

加賀「…!! 見えました!!」

摩耶「ホントか!? どこどこ!」

天龍「姉貴!! あっち!!」

龍驤「あの独特なクジラの船のシルエット…間違いないくアールさん達の船や!!」

ザラ「アールさん達は!」

雪風「むむむ…見えました!! 元気に手を振ってます!! ウイルさんもグレイさんも元気です!!」

戦艦水鬼「と、いう事は…」

孫娘提督「やったわね…!! 成功よ!!」

艦娘達「やったーっ!」

初月「…よかった」

長門「ふ…行つてこい、初月」

グレイ「おー、みんな手を振ってくれてるー」ノシ

ウイル「みんなー!! 帰ってきたぜーっ!!」ノシ

アール「無事凱旋…つてわけじゃねえけどさ。いてて…」ノシ

ウイル「あれ？なんか誰かこっちに来るぞ？」

グレイ「結構勢いよく来てんな。あれって……」

初月「アーロさんっ!!」飛びついて抱き着く

アーロ「うおっ!?!は、初月!?!」

初月「アーロさん!!無事だったんだね……よかつた……よかつた……!!」ギユツ

アーロ「は、は、は、初月?い、今の俺は汗くせえぞ?焦げくせぞ?それからえーと、アカムの唾液くせえぞ!」

初月「構うもんか……!僕は、嬉しくてたまらないんだ……!!」ギユツ

アーロ「(; . ω .)」

グレイ「意外と押しに弱いだな」ニヤニヤ

ウイル「おーワロスワロス」ニヤニヤ

長門「アーロさん、グレイさん!!よくぞ戻ってきてくれた……!!」

大井「お帰りなさい。無茶はしてませんよね?でもまあ……よかつたわ」クスツ

天龍「絶対に帰ってくるって信じてたぜ!!」

臯月「初月ずるいぞー!!僕の番だぞー!!」

雷「いいや、次はあたしの番よ!!」

アーロ「ほらほら、喧嘩しない。順番にぎゅってしてやるからさ。でも、くさいぞー

？」

加賀「ふふふ…まずは消臭ですな」つ三【消臭玉】

アール「何で持つてるの!？」

グレイ「…」ふう

ザラ「グレイさん…」ソワソワ

グレイ「ん？どうしたんだい？」

ザラ「えつと…お、お帰りなさい」微笑み

グレイ「…ああ、ただいま」ナデナデ

ウイル「…いいな。俺もアマーイしたいぜ」

ドドドドドツ

ウイル「うん？」

ホツポ&駆逐水鬼&レ級「ウイルーっ!!」ガバツ

重巡棲姫「ウイルウウウツ！」三(、、；ω；)

駆逐棲姫「ウイルさああんっ!!」ガバツ

防空棲姫「ウイル!!おかえりーっ!!」ガバツ

ウイル「ちょ、飛び掛りすぎい!？」(#)，3、；；)；；；、

ドボーン

戦艦棲姫「あらあら、みんなはしゃいじやって…」ウフフ

戦艦水鬼「…」

深海海月姫「うふふ、貴女もやりたかったんじゃないの？」ニヤニヤ
戦艦水鬼「ち、違うぞ!!」アセアセ

i n 連合艦隊泊地 | 港

孫娘提督「お帰りなさい。貴方達ならきつと大丈夫だと、信じてたわ」

アール&ウイル「(: : :) b」

孫娘提督「ドヤ顔しなくていいから…」

グレイ「これでもう急激な火山活動は収まる。後はゆっくりと静かになるまで待てば大丈夫だ」

孫娘提督「そう…完全に静止するってわけじゃなのね。でも、これであの海も安全だわ」

双子棲姫(白)「ウイルさん…ありがとうございます」ペコリ

双子棲姫(黒)「こ、今回は大人しくあんたについて行く!シロちゃんに変な事したらただじゃおかないからね!」

ウイル「この子達も一緒に来るし、もう大騒ぎになることはないぜ」

孫娘提督「深海棲艦とすぐに仲良くなれるってかなりスゴいわね…けれど大きな戦闘になるのは避ける事が出来たわ。ありがとう」

ウイル＆ホツポ「てへへ」 テレテレ

アーロ「これで丸く収まったな」

孫娘提督「ええ。これで光作戦は終了、無事に解決よ」

アーロ「やったーっ!!」

ウイル「アーロ、大規模な海戦がまたあつたらいつでも呼んでこい。力になるぜ」握手

アーロ「ああ。その時はまた連合艦隊組んで、力を合わせて突破しようぜ!!」握手

長門「ふ、また共に戦おう」

戦艦水鬼「ああ、楽しみにしているぞ」

ホツポ「みんなまたねー!!」 ノシ

五月雨「また遊びに来てくださいねー!!」 ノシ

ウイル「もう少しゆっくりしたかったが、島の事も気になるしな…また遊びに行くぜ
!」

アーロ「今度はちゃんど連絡してからこいよ…またな!!」 ノシ

ウイル「おうよ、またなーっ!!」 ノシ

グレイ「…本当に賑やかだったな」

加賀「ええ、流石提督と一緒に冒険した人ですね」

アール「…さあ作戦も終了したし、みんなで帰ろうか。帰ったら盛大に打ち上げだ

!!

赤城「待ってました!!」キラキラ

大鳳「あ、赤城さん、よだれよだれ!!」

足柄「飲み放題ね！無礼講ねーっ！」キラキラ

龍驤「の、飲みすぎはあかんで！」

大井「やれやれ…帰ってもかなりの大騒ぎになるわね」

龍田「それに板前ブラザーズちゃん達も大忙しになるわね」

アール「さあ意気揚々に帰ろうか!!」

グレイ「…なあ、アール？」

アール「うん？」

グレイ「…ちやっかりお前の傍にいる子、誰？」

アール「…へ？」

伊13「…」ソワソワ、アセアセ

アール「い、いつの間に!？」

——アール、ちやつかりドロップ。 光作戦 無事に完遂!!

レ級「……なあウイル」

ウイル「……うん？」

レ級「あたし達が補給した時、アールさんの鎮守府の資材が残り3桁になっちゃったけどどうすんの？」

ウイル「うーん……ハチミツでも送ろうか」

空母棲姫（絶対に怒られるわね……）

戦艦棲姫（アールさん、ごめんなさい……）

▲『雪獅子』 ドドブランゴ、洞窟を抜けた先に：

i n タルジュ雪原

弥生「タルジュの秘湯って遠いの？」

ナビルー「まだまだ、秘湯はもつと奥地にあるんだ」

弥生「なるほど：：コタロウ、頑張ろ」 ナデナデ

コタロウ「(ω、ω、ω) ブルブル

ナビルー「コタロウも温泉に浸かりたいよな!! 早く温泉に浸かりたいぜー!!」

ズボツ

ナビルー「どひゃーっ!?」 雪にすっぽり

弥生「わっ、ここから雪が深く積ってるんだ：」 ヨイショ

ナビルー「ふー：：き、気を付けるんだぞ、弥生。ドドブランゴやブランゴはこの雪の中に潜んで襲ってくることもあるんだ」 コタロウにライド

弥生「ドスバギイみたいに群れで襲ってくることもあるんだよね」

ナビルー「まあその時はコタロウに追い払ってもらえば何とかなるさー!」

コタロウ「Σ (ω、ω、ω)」

弥生「コタロウ、頑張つて」ナデナデ

コタロウ「(；^ω^)」

ナビルー「お、見えるか弥生？あの向こうに見える祠みたいな所。あそこがタルジウの秘湯の入り口だ」

弥生「あれが…よし、もう一息」

コタロウ「Σ(、へ)」

ナビルー「むっ？コタロウが何かに気付いた…!!」

ドドドドドツ

弥生「雪の中に何かいる…!!しかもこっちに来てるみたい!!」

ナビルー「間違いない!!コタロウに乗って避ける!!」

弥生「うん！」コタロウにライド

コタロウ「(、へ)(〇)後ろへ飛んで下がる

ドドブランゴ「(皿)雪の中からこんにちは

弥生「白い大きなお猿さん…!!」

ナビルー「あれが『雪獅子』ドドブランゴだ!!素早い動きとそれに合わせた攻撃に気を付けろ！」

な時はウチケシの実で回復だ!!」

弥生「うん…これでっ!」つ「ウチケシの実」

コタロウ「(、旦那)三三〇」火球プレス

ドドブランゴ「(×皿、;)」critical!

ナビルー「いいぞー!!ドドブランゴは火に弱い。火球プレスをうまく当てて攻めるんだ!!」

ドドブランゴ「(、皿)」ナツクル

コタロウ「(、旦那)っ」尻尾攻撃

弥生「行くよっ!!」ドーン

ドドブランゴ「(、皿)」バックステップ

弥生「すばしっこい…!!」ムムム

ドドブランゴ「〇三〇(、皿、C)」雪玉投げ

弥生「で、でっかい雪玉を投げてきた…!?!」

コタロウ「(、旦那)三三〇」火球プレス

ポフンツ

ナビルー「あ、危なかったー。サンキュー、コタロウ!」

コタロウ「(、旦那)三三〇」火球プレス

ドドブランゴ「(皿) (三三三) 躲して飛び掛る

弥生「やらせない…!!」 徹甲榴弾

ドドブランゴ「(皿) ;」 怯み

ナビルー「いい連携だぞ!! どんどん攻めるんだ!!」

ドドブランゴ「(皿) #」 「グオオオオオ」

弥生「大きな咆哮…っ!!」 耳を塞ぐ

ブランゴAへヨバレテトビデテ!! \ (ω) /

ブランゴBくヒヤツハーツ!! リンチノジカンダー!! \ (。A。) /

ブランゴCくエモノハドコダ!! \ (皿) /

ブランゴDへペロペロシタイオ!! \ (ω) /

ナビルー「なぬっ!! こんな所に潜んでいやがったか!!」

弥生「こつちも追い払わなきや!!」

ドドブランゴ「(皿) (三三) 突進

コタロウ「三(、へ)」 タツクル

ブランゴAく赤い奴ヲネラエー!! 三(、ω)

ブランゴCくボスヲエンゴダー! 三(、皿)

弥生「させないよ…!!」 ドドーン!

ブランゴC<エイプツ!? (#) 凵、；；)

ブランゴA<モンキーツ!? (#) ω、；；)

ドドブランゴ「C(皿 #)三」ラリアット

コタロウ「(、ω)()」躲す

ドドブランゴ「三(#、皿)」往復ラリアット

コタロウ「(；、ω)(…)」怯み

弥生「コタロウっ!!」

ブランゴB<チツコイノヲネラエー!! 三(。▽。)

ブランゴD<ペロペロシタイオ!! 三(^ω^)

ナビルー「させるかよ!! 小型ならこいつは効くぜ!!」放電

ブランゴBへエネゴリツ!? (#) , 3、；；) ; ;

ブランゴDへチンパンジーツ!? (#) , 3、；；) ; ; ;

弥生「すごい…ナビルー、こんな事ができるんだ…」キラキラ

ナビルー「へへっ、普段のアイルーとは一味違うぜ。さ、今のうちに！」

弥生「うん！ベルさん印の粉塵で…！」つ【生命の粉塵】

コタロウ「(、ω…) シャキーン」回復

ナビルー「そうだ、弥生!! これを使うんだ!!」

弥生「これは弾？徹甲榴弾とは違うの？」

ナビルー「こいつは麻痺弾だ。何発か上手く当てると麻痺させることができるぞ。ボウガンや弓には睡眠や麻痺とかの効果のある瓶や弾を使える。うまく駆使して戦いを有利に持ち込んだ！」

弥生「動きをよく見て当てなきや…!!」装填

ドドブランゴ「(、皿、)」「潜行

ナビルー「潜った!!足下に向かって飛び出してくるぞ！」

弥生「離れなきやつ!!」

ドドドドドツ

ドドブランゴ「\、皿、/」飛び出す

弥生「えいつ!!」ドーン!

ドドブランゴ「Σ(#、皿、)」

ナビルー「さあコタロウ、弥生が狙い撃ちやすいようにドドブランゴの隙を作るぞ!!」

コタロウ「(、皿、)三」強襲キック

ドドブランゴ「(、皿、)」ナツクル

コタロウ「(、へ、)」尻尾で弾き返す

弥生「いくよっ!!」ドーン!

ドドブランゴ「(、皿)・；・；・；・；」雪プレス
 コタロウ「(、皿)；)」

ナビルー「押し負けるな！押し返せ！！」

コタロウ「〇三(、皿)」火炎プレス

ドドブランゴ「Σ(；、皿)）」

弥生「まだまだだ…！！」ドーン！

ドドブランゴ「(、皿) #)？」クルリ

弥生「…！！」

ドドブランゴ「(、皿) #)三三三」突進

ナビルー「弥生！！離れるんだ！！」

ドドブランゴ「(、皿) (#) 三」ボディプレス

弥生「…今っ！！」ドーン！

ドドブランゴ「((; 皿) (()」麻痺

弥生「よし…！！」

ナビルー「む、無茶をして…でもでかしたぞ！！」

弥生「コタロウ、やるよ！！」

コタロウ「三(、ω)」弥生の下に駆け寄って乗せる

弥生「もう治った!? お身体は大丈夫ですか？」

旦那さん「はっは!! 秘湯につかったおかげでもう完治さ!!」ムキムキッ

弥生「た、遅しい…」

ナビルー「タルジユの秘湯は疲労回復、気力回復等々、色んな効果があるみたいだしな」ウンウン

弥生「温泉つてすごい…」

コタロウ「(、ω、)」ウンウン

ミツキ「弥生ちゃん、もう出発するんだっけ? もう少しゆっくりしても…」

弥生「ごめんなさい。私達はギルデカランに行かなきゃいけないんです…」

ミツキ「そうだね。冒険中だもん…よし、私応援してるからね! そんなでまたこの旅館に泊まりに来てね!」握手

弥生「うん、温泉も旅館も楽しかった。ミツキさん、ありがとう」

旦那さん「これ、お礼といっちゃなんだが…」

ナビルー「? これは温泉まんじゅう?」

旦那さん「うちの旅館名物、『ホット温泉まんじゅう』だ。ギルデカランに行くならエットー洞窟を通るだろ? これさえ食べればエットー洞窟の寒さなんてハツチャラになるぞ。またうちの旅館をごひいきに!」

ナビルー「ありがてえ!! さあ弥生、コタロウ! 行こうか!!」

弥生「うん：皆さん、ありがとうございました」ペコリ

ミヅキ「弥生ちゃん!! またねー!!」ノシ

旦那さん「また遊びに来てくれよー!!」ノシ

ナビルー「いやー、タルジュの山小屋は結構にぎわってたな!」

弥生「うん：また来たい」

ナビルー「おうさ! 行きたいと思ったら一緒に行こうぜ!!」

弥生「ありがとう、ナビルー」ニッコリ

ナビルー「さて、タルジュ雪原の次はエットー洞窟になるが：：：?」

弥生「：：：」ジーッ

ナビルー「うん? 弥生、どうかしたのか?」

弥生「ナビルー：ちよつと行ってみたいところがあるんだけど」チラッ

コタロウ「ω。」チラッ

ナビルー「はっはーん：いいぜ! 旅に道草は付き物だしな!!」

i n タルジュの秘湯 | 竜の湯

ナビルー「…まあ、そんな気がしたぜー」マターリ

弥生「ほんとだ、いいお湯。コタロウ、どう？」湯あみ一式

コタロウ「(＊、ω、＊)」ホッコリ

ナビルー「この竜の湯が唯一オトモンと一緒に入れる温泉だ。傷も疲れも癒してくれるってことでライダーで有名な所なんだぜ？」

弥生「♪」

コタロウ「(＊、ω、＊)」

ナビルー「…ま、ここでしたっけ浸かってエットー洞窟を一気に抜けようか」マツタリー

in エットー洞窟

弥生「これがエットー洞窟…!!」キラキラ

ナビルー「すっごいキラキラしてるな」

弥生「これ、全部氷なの!？」

ナビルー「天井、壁に氷柱ができて日が射すと青々と照らされる天然の洞窟だ。中はかなり冷えているから、寒さ対策はしっかりするんだぞ」

弥生「こんな洞窟…初めてみる…!!」ホワー

ナビルー「さ、しつかりとついてくるんだぞ。入り組んでいるように見えるけど、実際外とは一直線につながった一本道なんだ」

弥生「きれい…」ホワー

――歩いて数分後

ナビルー「…おっ」

弥生「？ナビルー、どうかしたの？」

ナビルー「ここは…懐かしいな」

弥生「???」大きな氷の柱がある所だけど？」

ナビルー「かつて、一緒に前のライダーとエットー洞窟を探索した時にアユリアと初めて出会った場所なんだ」

弥生「アユリアさんと…？」

ナビルー「あの頃はアユリアも俺達もまだまだ駆け出したから大変だったな…この洞窟で暴れていたフルフルと戦った時は本当に激戦だったんだぜ」

弥生「アユリアさん…元気かなあ」

ナビルー「アユリアもギルデガランのライダーとして頑張ってる。ギルデカランに行けば会えるぜ！」

弥生「うん。楽しみ…！」ワクワク

コタロウ「(、ω、)」

ナビルー「よし、それじゃあ一気に出口まで一直線だぜ!!この温泉まんじゅうを食べる…つて辛っ!」

弥生「この温泉まんじゅう…ピリ辛」

ナビルー「さあ、出口が見えてきた!」

弥生「ここを抜ければギルデガランが…」

コタロウ「(、ω、)」

弥生「出口を出たら…ええっ!?雪景色じゃない!」

ナビルー「いいリアクションだぜー」ニヤニヤ

弥生「一気に一面緑の草原に…向こうに見える木はも、もしかして…桜!」

ナビルー「エット洞窟は一山超える洞窟でもあるんだ。こつから先は地形や気候も合いつて春のような暖かいエリアになっている」

弥生「司令官の住んでる所って不思議…」

ナビルー「そして、この先をご覧あれ!!このコベニー峠の先に見えるのがハンターとライダーの街、ギルデカランだ!!」

弥生「海辺に見える大きな街…あれがギルデカラン!!」キラキラ

ナビルー「弥生、行こうぜ!! 目的地はすぐそこだ!!」
コタロウ「(ω、)」クルル・・・
弥生「うん。コタロウ、行こう!!」ライドして駆ける

◇12 アーロとグレイの休日 ①

i n 鎮守府 | 執務室

アーロ「……」

大淀「……」

グレイ「……」

アーロ「……ねえ、大淀さん」

大淀「は、はい。なんででしょうか……?」

アーロ「……うちの資材、メツチャ減ってただけど?」

グレイ「うわー、すごいなー、残り3桁だー(棒読み)」

大淀「え、ええとそれは……」アセアセ

アーロ「鎮守府戻って来て、さあ補給だーってところなのに、今ある資材がこんだけつて……」

大淀「お、恐らくですが……深海棲艦の補給でかなり消費したのだと思います……たぶん」

アーロ「あんのクソ野郎おとおおつ!!」ウガーツ

グレイ「これじゃあ出撃も遠征もできないねー」

大淀「だ、大本営から支給される資材だけじゃ足りませんし……ここはやはり……」

加賀「アーロさん、グレイさん、頑張ってきてくださいね」つピツケル

グレイ「……はい？ピツケル？」

アーロ「……」ガタツ

荒潮「うふふー♪逃がさないわよお〜」ガツ

龍田「我先に逃げようとする悪い子は捕まえちゃいますよ〜」ガツ

アーロ「やめろおおお!! いやだーっ!!」ジタバタ

グレイ「あ、あの一……これって一体……」

大井「ヒント、たん掘れ」

グレイ「……」ダツ

磯風「確保おおっ!!」ガバツ

球磨「逃がさないクマーツ!!」ガバツ

グレイ「絶対回避っ!!」

球磨「ああーっ!! ずるいクマーツ!!」

磯風「絶対に捕まえるぞーっ!!」

グレイ「ふははは!! 俺はそう簡単に捕まえr y」

長門「ふんっ!!」ラリアット

グレイ「スラマツパギツ!」。…。(ε。)()

加賀「流石です、長門さん」

長門「む…力加減が難しいな」

グレイ「チーン

大井「じゃあアーロさん、グレイさん、資材の遠征よろしくお願いいたしますね?」

アーロ「…なんてことだ…なんてことだ…」

数日後

i n 執務室

アーロ「燃え尽きちゃったよ…真っ白にな」マツシロ

グレイ「もう疲れたよ、パトラツシユ」マツシロ

龍驤「たった数日で資材が元通りに…一体何をしたんや」

アーロ「ふ…ひたすら地底火山に赴いて炭鋏夫をしていたさ…」

グレイ「途中でウラガンキン主任やデイノバルド主任に出くわすしさ…大変だった

よ」遠い目

摩耶「そのやつれた様子からどれくらい苦行だったのかがよく分かるぜ…」

加賀「ですがこれで遠征や出撃も可能になりました。本来ならばすぐに執務に移るのですが…」

アール&グレイ「??」

加賀「お二人は光作戦の時も休まずに奮闘してましたし、過酷な戦いもしました。ですのでアールさんとグレイさんにはしばらく疲れが取れるまで休んでいただきます」

大井「私達よりも頑張ってますもの…少しは休みを取って疲れを癒してくださいね」
アール「や、やったー!!休むぞーっ!!」ダッ

グレイ「レッツバケーション!!」ダッ

龍驤「切り替え速いなあ!」

摩耶「と、止めなくていいのか…?」

加賀「たまにはいいでしょう。アールさんに至ってはずつと無理してましたし」

大井「あれならすぐに元気になると思いますけどね」ニガワライ

天龍「アールさん、入渠の方へ突っ走って行ったけど?」

加賀「…羽目を外していいとは言ってませんね」ダッ

大井「もう!!気を許した途端にこれなんだから!!」ダッ

アーロ「むう…作戦は失敗か」タンコブ

伊13「…」アセアセ

アーロ「むーん…いきなり休めと言われても、何をしようかなー」

伊13「…あ、あの」アセアセ

アーロ「暇だし、こちら辺で昼寝でもするべ」

伊13「あ、アーロ…さん」

アーロ「うわお?! い、いつの間に!？」

伊13「あ、アーロさんが大井さんにしばかれてから、です…」ソワソワ

アーロ「えーと確か、伊13だっけか？」

ひとみ「は、はい…ひ、ひとみとお呼びください」

アーロ「どうだ? 着任して間もないが、ここの鎮守府には慣れそうか？」

ひとみ「え、えと…その、二足歩行して喋る猫とか、デカイ蟹や鳥さんがいたり…その、アーロさんが鎧来てたりとかで、驚く事ばかりで、まだ…」ソワソワ

アーロ「そっか…鎧こわいかー」(っ・ω・っ)

ひとみ「い、いえっ!! あ、アーロさんはこ、怖くないです…! えと、その、か、かつ

cry」

イク「アーロさんにアタックなのねーっ!!」

アール「ふべしっ!」

ひとみ「あ、アールさん!」

イク「えへへー、アールさんがイクに構ってくれないからイク自らアタックするの!」

アール「あたた…元気いっぱいだなー」ワシヤワシヤ

イク「!?ふ、普通の提督ならこれでイチコロなのに…アールさん、できるのね!」

しおい「違うよイク。アールさんは、空気が読めないだけなんだ…」

ろーちゃん「がるるー!ろーちゃんもアールさんにアタックですって!」

アール「おっと!いたずらっ子は…こうだー!」ワシヤワシヤ

ろーちゃん「あははは!く、くすぐったいですって!」

ゴーヤ「アールさん、ゴーヤにもなでなでして欲しいでち!」

イク「…これは強敵なのね!」

イムヤ「うん、それは違うと思う」

ひとみ「…わ、私もアールさんに撫でてもらいたい…」

しおい「アールさん、ひとみちゃんも撫でて欲しいって!」

ひとみ「し、しおいちゃん…!!」アセアセ

しおい「大丈夫、アールさんは優しいから!」テヘペロ

アール「そーかそーか。ま、鎮守府の皆もアイルー達も優しいからゆっくりと慣れて

行けばいいぜ」ナデナデ

ひとみ「…は、はい！」ニパー

龍驥「セーフ、まだセーフや。そんなにスタンバイせんでもええのに」

龍田「そうよね…でも、あの図は傍から見たらアウトっぽく見えるのよね」

天龍「片やスク水、片や鎧を着た大男だもんな…」

i n 書齋室

グレイ「ふんふんふん…」書類整理中

愛宕「あら？グレイさん、書類整理をしてるんですか？」

鈴谷「んお？グレイさんったらここでもお仕事なの？」

ザラ「もう！せっかくお休みを貰ったんですからゆっくりしてくださいよ！」

グレイ「そんなこと言ってもな…書士隊の性分故、どうもじつとしてるのは落ち着かなくてさ」

鈴谷「うーん分かるわー。うちの提督もじつとしてられない性格だしねー」

愛宕「団長さんみたいに何か調べものとかしてないと落ち着かないんですね」

ザラ「あまり無理してると体壊しちゃいますよ？」

グレイ「ハンターは常に冒険したり探索をしてるからね。なかなか落ち着かんのさ……ところで」

鈴谷&ザラ「??」

グレイ「ずっと気になっていたんだが、君達が被弾して中破とやらになると服がボロボロになるのに入渠したら直っているのはどういう仕組みなんだ？」

鈴谷「え、えーと……」

ザラ「そ、そこはあまり気になさらない方が……」

グレイ「修復機能とやらの類なのか？それともこの服に何か特別な素材が……」ズイズ
イツ

鈴谷「ちよ、ぐ、グレイさん!?ち、近いつて……!!」アセアセ

グレイ「その肌触り……ガウシカ?いや、もしかしたらガブラスの皮を……」サワサワ

ザラ「ひやつ!ぐ、グレイさん、さ、触り過ぎです……!!」アセアセ

ポンポン

グレイ「うん……?」

大井「(「」) <死にたいらしいな」

グレイ「」

【しほはくお待ちください】

グレイ「チーン

鈴谷「調べなきや気になる性格なのだから仕方ないと思うんだけど…そうなるよねー」

ザラ「ほ、ほんとグレイさんの行動力にはいつつもビックリします…」

愛宕「でも満更でもなさそうだったわよー」ウフフ

ザラ「ちよ、ち、違います！」アセアセ

鈴谷「おっ？ザラツちそうなのー？」ニヤニヤ

ザラ「鈴谷さんまで茶化さないでください！」アセアセ

グレイ「」返事がない。ただの r y

愛宕「それで、どうしましょうか…」

鈴谷「じゃ、ザラっちグレイさんのお部屋まで運んであげてねー」ノシ

ザラ「え、ええっ!？」

愛宕「さらばく」ノシ

ザラ「ちよ、愛宕さんまで!？」

グレイ「」

ザラ「…お、重い…!!」

i n 食堂

アーロ「今日のお昼は何しよっかなー♪」

暁「来たわね、アーロさん!!」ドヤツ

雷「首を長くして待ってたわよ!!」

電「な、なのです!」

ヴェールヌイ「ハラショー」

アーロ「お? 第六駆の皆じゃないか。どした?」

雷「アーロさんがいつも私達の為に頑張ってくれてるから、今回は私達が労ってあげるの!」

暁「このレディが腕を振るってあげたんだから感謝しなさいよ!」

電「い、いつもありがとうなのです!」

ヴェールヌイ「疲れをとるための休暇と聞いたから皆でアーロさん達がゆつくりできるようにと考えたんだ」

アーロ「そうか…嬉しいぜ!!」グスン

暁「と、言う訳で私達でアーロさんのお昼ご飯を作ってあげたの!!」

雷「頑張ったの!! うーんと食べてね!」

アーロ「おっ、カレーか! こいつはうまそうだぜ!!」

ヴェールヌイ「早速食べてみてよ」

アーロ「……」ガツガツ

電「アーロさんやジンさん達って何故か豪快な食べ方をするのよね……」

電「お、お味はどうですか……？」ハワワ

アーロ「甘口だが……上手すぎる!!」

雷&電&暁「やったーっ!!」

アーロ「この甘さで疲れが吹っ飛びそうだぜー」

ヴェールヌイ「それは良かった……」

比叡「アーロさん!! 丁度よかった!!」

アーロ「比叡、どったの?」

比叡「私もアーロさんの疲れが吹っ飛びそうなかレーを作ってみたんです!!」

ヴェールヌイ「!?!」

アーロ「お……皆、ありがとうな!!」

比叡「ぜひぜひ、味見してください! 今回は薬草も入れた自信作なんですよー!!」

ヴェールヌイ「あ、アーロさん、お腹いっぱいじゃ……?」

アーロ「ふっ、俺はカレーマイスターと呼ばれる男……出されたカレーは完食する主義なのさ」ドヤア

ヴェールヌイ「アールさん……！」

比叡「じやーん！比叡特製の薬膳SPECIAルカレーです!!」

アール「……なんか虹色に光ってんだけど？なんか劇毒っぽい煙が出てんだけど？」

比叡「なんか煮込んだらなつちやいました」テヘペロ

アール「……あれ？なんか前にもこんなことがあったような……うっ、頭が……」

比叡「さあさあ、食べちゃってください！」

雷「は、初月と加賀さんを読んでおくわね……」

電「はわわわ……」

暁「黒丸たちも呼ぶわよ……！」

ヴェールヌイ「……」敬礼

ingレイのお部屋

ザラ「ここがグレイさんのお部屋ね……ミケちゃん、ブルーちゃん、ありがとね」

ミケ「ネコタクならお任せニヤ!!」

ブルー「どこへでもお運びするニヤ」

ザラ「というか何処からそんな台車を……？」

ミケ「さっそく部屋の中へ入るニヤ！」

ザラ「そうね。お、お邪魔しまーす…って部屋一面に書類の山!？」

ミケ「書士隊のレポートや生物生態の論文の山ニヤ」

ブルー「部屋の乱雑さは団長さん譲りだニヤ」

ザラ「もう…：少し整理しなきゃいけないわね」

ミケ「じゃあグレイさんはここで置いとくニヤ」ソイツ

ブルー「久々のネコタクは楽しかったニヤ」ソイツ

グレイ「ゴロゴロゴロ

ザラ「扱い方雑っ!？」

ミケ「それじゃ僕達は帰るニヤ」ノシ

ブルー「ごゆっくりニヤ」ノシ

ザラ「…さてと。お部屋を綺麗にしなきゃ!」フンス

数十分後

ザラ「しゅ、收拾がつかない…っ!!」

グレイ「(⊠ ⊠) スヤア」

ザラ「グレイさんったらなんでこの書類の山を軽々と熟せるのかしら…：あら？」

グレイ「ムニヤムニヤ…団長、それはニトロダケですよ…」

ザラ「この机の上に置かれている瓶は何かしら？空のようだけど…：うん？何かし

ら、中に一本の金色の糸が……」

グレイ「スヤスヤ……粉塵のご加護を……」

ザラ「ちよつと見ようつと……蓋が、堅いわね」グググ

グレイ「……うん……？」

ザラ「う、うーん……開かない……！」

グレイ「それはダメだあああああつ!!」バツ

ザラ「ヒヤアツ!!」ツルン

グレイ「瓶がっ……うおおおおつ!!間に合えっ!!」ヘッドスライディング

パシツ

グレイ「せ、セーフツ!!」ホツ

ザラ「あ、あの……グレイさん……」

グレイ「……」

ザラ「ご、ごめんなさい……大事な物なんです……」

グレイ「……これを見るのは初めてだから仕方ないさ」ナデナデ

ザラ「あの、それは一体……？」

グレイ「……爺さんが死ぬ前に俺に渡したものだ。これは爺さんが探しているモノの

『唯一の手掛り』なんだ」

ザラ「手掛かり？」

グレイ「ああ…爺さんはあるものの正体を掴むためにそいつに出くわし、冒険家としての足を一本犠牲にしてまでもして手に入れた代物さ。そしてそれでも尚、爺さんはそいつを探すために海へ何度も出て行った」

ザラ「…その、お爺さんは一体何を見たんですか…？」

グレイ「本当は爺さんから『誰にも話すなよ☆』って遺言で言われたし、爺さんは皆に言っても誰も信じてくれなかったから話さないんだけど…ザラだけには特別に教えてあげよう」

ザラ「…」ゴクリ

グレイ「爺さんが見た物は…：突如砂漠に現れた、蠢く『大きな鉄の艦』さ」

ザラ「…：えっ？」

グレイ「爺さんが言うには…：その砂漠はすぐ近くに海があつてな。その付近の砂漠の地中から突如現れたんだ。それは物体にしては不気味でまるで意思でもあるかのように蠢いていた。そしてそいつはゆっくりと海へと進んで行った。爺さんはそいつの正体を見るために必死に飛びついて…：手に入れたのがこれだ」

ザラ「そしてお爺さんは足を…」

グレイ「ああ：捻挫だけど」

ザラ「ズコーツ」

グレイ「爺さんは再び海へ探しに出たけども：あんなすぐに見つかるデカブツが嘘のように姿を消してしまつたかのように見つからなかつた。で、爺さんは俺に託して俺はその正体を知るために書士隊に入ったんだ」

ザラ「それで：他の手掛りは見つかつたんですか？」

グレイ「うーん：ギルデカランやドンドルマ、龍歴院などの書庫でも探したんだが：これといった手掛りが無くてな：あ、でも過去の文献で街に巨大な古龍が襲撃し町を破壊、ハンター達が総出でその古龍の行方を探したのだけでも見つからなかつたつていう似たようなもんはあつたけど」ポリポリ

ザラ「：見つかるといいですね」

グレイ「ああ。そうすりや爺ちやんも俺もスツキりするんだけどな：あ、この事はまだ内緒な？」

ザラ「ええ、内緒です」

加賀「あ、グレイさん、そこにいましたか」

グレイ「お？加賀さん、何かあつたのか？」

加賀「アーロさんが比叡のカレーを食べて瀕死になりかけてます」

グレイ「なんじやそりや!？」

大井「もう!!アーロさんはなんですぐに忘れるのよ!?グレイさん、ごめんなさい、介抱を手伝ってくれませんか？」

グレイ「任せとけ。えーと…解毒剤とか漢方薬とかいにしえの秘薬とかいるかな…?」ドタバタ

ザラ「…これじゃあ二人とも休めないですね…」遠い目

△8 迫りくる仙高人 『砦蟹』 シエンガオレン

i n d o n d o r l m a | ギルド本部

団長「む？シエンガオレンが迫ってきているだど？」

提督「ほへー、シエンガオレンかあ。懐かしいなあ」マターリ

ジン「もうそんな時期なのか…」マターリ

瑞鶴「まったりしてる場合かーっ!？」

霞「落ち着きすぎでしょ!？」

ベル「大老殿の近衛兵達や他のハンター達に知らせて市民の避難の誘導をさせてもらってるよ」

ルルカ「各街門にある古龍観測所にバリスタの弾と砲弾を用意させてあるわ」

白髪教官「ハーツハツハハ!! 戦闘街の準備も全て完了したぞー! ジン、心置きなく撃退してこい!!」

団長「クロード、この子達の事は任せておけ。踏まれないように気を付けるんだぞ？」

金剛「What? 砲撃なら私達も手伝いマスヨ?」

木曾「支援砲撃だつてできるんだし、俺達も出れるぜ?」

提督「手伝ってくれるのは嬉しいよ。でも…シェンガオレンはとてつもなく巨大で、その巨体故に危険なんだ。霞達を危ない目に遭わせるわけにはいかない」

ジン「…あいつ、でかいしゲロ飛ばしてくるし」

瑞鶴「げ、ゲロ!」ウゲツ

ベル「あの臭いをとるのにかなりの日数と労力が費やされるからね…」遠い目

不知火「ずいぶんと苦労してたんですね…」

霞「…分かったわ。司令官、無茶して大怪我しないでよね」

提督「ああ…すまないな」

霞「…ん」スツ

提督「？」

霞「…」ジー

提督「(。・ω・)?」

霞「い、いつまで待たせるのよ!」

提督「…ああ。そういう事ね」ギユツ

霞「司令官…無事に帰って来てね」ギユツ

ルルカ「うひょーあまいわー」棒読み

金剛「私もハグされたいデース…」

ジン「……」チラッ

瑞鶴「……はっ!? や、やるの!?」アセアセ

ジン「ずいry」

白髪教官「いつまでイチャイチャしてるのだ!! 早く行ってこーい!!」ゲシッ

ジン「ちよ、まっry」

ベル「ほ、ほら早くシエンガオレンの進行を止めなきゃね! 鹿島、行ってくるよ!」アセアセ

鹿島「べ、ベルさん!! お気を付けてくださいーい!」ノシ

ルルカ「うおおおおっ!! このモヤモヤをシエンガオレンにぶつけてやらあああっ!!」
ダッ

提督「よっし……団長、霞、行ってきます!! ジン、はやく行くぞ」グイッ

ジン「(; ω ;)」

霞「司令官……」

白髪教官「ところで、彼らに道中で滅龍炭による巨龍砲が撃てるようになったと伝え
たのか?」

団長「……あっ」

瑞鶴&金剛「えっ」

団長「い、いかん!! 微笑ましい光景だと見てて、滅龍炭を渡すのをすっかり忘れてた!!」

木曾「えええええっ!?!」

金剛「それならば…私達もGOデース!!」

霞「結局こうなるのね…」ハア

in 街道「第二防衛ライン

提督「ふむ、他のハンター達が第一防衛ラインで迎撃をしてくれたようだ。第二、第三は俺達で迎え撃とう」

ベル「ジン、ほら元気出しなよ…」ポンポン

ジン「…俺もハグしたかった…」シヨンボリ

ルルカ「シエンガオレンでてこいや!!」

ベル「ルルカ、なんかどっかの格闘家みたいになってるって!?!」

ジン「…もうリタしよう…」シヨボボーン

ルルカ「私にも春がこいやーっ!!」ウガーッ

ベル「提督助けてー!! もう手が付けられないよー!!」

ルルカ「踏みつぶされないようにしなさいよ！」貫通火炎弾

シエンガオレン「…」ズーン…ズーン…!

ベル「わつとつと…」フラフラ

ジン「地響きが厄介だな…！」フラフラ

提督「なんのつ!!」イナシからの抜刀斬り

シエンガオレン「…」ズーン…ズーン…!

ベル「うべつ!?!」、3、…:

ジン「急に蹴とばしてくるから気を付けろ！」斬り下がり

ルルカ「やつぱり巨体だから中々怯まないわね…！」貫通弾Lv2

提督「ルルカ！道中に大樽爆弾Gを設置してくれ!!」

ルルカ「了解っ!! 誤射王のアーロがないから安心して置けるわね！」

■ ■ ■

アーロ「ブヘックシヨオオオツンツ!!」

臯月「うひやあっ!?!び、びっくりしたー…」

加賀「随分と派手なくしゃみですね」

初月「どうしたの？風邪かい？」

アーロ「うーむ…どっかで誰かが俺の事を褒めてくれたようだな」キリッ

シエンガオレン 「(V) (o? o ;) (V) 「怯み
 ジン 「二本目!!」

提督 「残りあと2本だ!!」

シエンガオレン 「(V) (o? o #) (V) 「足蹴

提督 「あぶねっ」 イナシ

ジン 「ぬんっ…」 ジャスト回避

ルルカ 「もうすぐ設置場所よ!!」 ノシ

提督 「よし、離れるぞ!!」

ルルカ 「狙い撃つぜーっ!!」 バスンッ

＼BOMB!!／

シエンガオレン 「(V) (; o? o) (V) 「怯み

ルルカ 「つしやあ!! どんなものよ!!」

ベル 「いいね! 2本とも赤くなりだしたよ!」

ジン 「これをもう一巡…もっと赤くなって怯ませば大ダウンを取れるぞ」

シエンガオレン 「(V) (o? o #) (V) (」

ベル 「方向転換してヤドを向けてきた…」

提督 「…も、もしかして!! やばいつ!! 離れる! 酸液が飛び火してくるぞ!」

シエンガオレン「(V)(o?o)(V)「ゴゴゴゴゴゴッ
 ジン「もう撃つ体勢になつてる!!」

ルルカ「ちよ、ここで酸液を放つのか!?」

ベル「は、走つてえええっ!!」

シエンガオレン「(V)(o?o)(V)「三三三三三〇」バスターーンツ!!

in 戦闘街

団長「む…みんな伏せろ!!」

木曾「なんか黄色い塊が遠くから飛んできてる…!?」

バスターーンツ!

瑞鶴「遠くの建物が…つてクサツ!?」

金剛「こ、ここまで臭ってくる強烈な臭いデース…」

団長「あれがシエンガオレンが放つ酸液だ。かなりの強酸性で安い防具なんかはあつ
 という間に溶解してしまうぞ」

木曾「あ、あんなバカでかい液体の塊を放つのかよ…」

鹿島「か、かなりの巨体なんですね…」

霞「司令官…!!」

ジン「くっ…震動が」フラフラ

シエンガオレン「()」(V)() (o ? o) (V)「ズーン…ズーン

ルルカ「街門まで迫られたようだけど、ここには砲台があるわ!! ありつたけの弾を打ち込んでやりましょ!」

提督「ルルカとベルは大砲とバリスタを頼む!! 俺とジンでダウンを取る!!」

ベル「任せといて!!」ダッ

ジン「酸液を飛ばさせないように、ここで一気にやるぞ!」

提督「いくぞ!!」抜刀斬り

シエンガオレン「(V)() (o ? o) (V)()」

提督「おらーっ!! ここより先は行かせんぞー!!」溜め斬り

ジン「これでもくらえ!」桜花気刃斬

ルルカ「ベル!! もっと砲弾を詰め込んで!!」

ベル「わっせわっせ…これならどう!」砲弾運び中

ルルカ「よーし、行くわよ!!」カーンッ

ドドドドーンッ!!

シエンガオレン「Σ(V)() (o ? o ;) (V)」

提督「いいぞ!! 攻め手を緩めるな!」溜め斬り

ジン「こつちも続くぞ!」斬り下がりからの気刃斬り

シエンガオレン「(V)(o?o;)」怯み

ジン「あともう一本だ!!」

ルルカ「いい調子ね! ベル、もつと運んできて!!」バリスタ発射

ベル「よ、よーし! 砲弾4つ運び、やってやるぞー!!」砲弾運搬中

ルルカ「ちよ、ウイルみたいにこけて爆発させないでよ!」

■ ■

ウイル「は、ハックシヨオオオオオンツ!!」

ほつぽ「すごい派手なクシャミ!」

港湾棲姫「花粉症: :?」

レ級「それとも風邪か?」

ウイル「うーん: :どっかで誰かが俺のかっこいい噂をしてるんだろ」キリッ

空母棲姫「お前は何を言っているんだ」

戦艦水鬼「いや、私の噂だろ」

重巡棲姫「そんなことよりウイル! こんがり肉焼いて!!」

ウイル「そんなー」(・ω・)

提督「うおりやああつ!!」超溜め斬り

シエンガオレン「(V)(o?o;)」怯み

ジン「:よし!4本とも真つ赤になつたか」

提督「あとは一本集中して攻撃するぞ!」

ルルカ「おらーっ!!もつと撃てーい!」ズドーン!

ベル「ここら辺の砲弾はこれで最後だよ!」ワッセワッセ

ルルカ「OK!!クロード、やっちゃって!!」ズドーン!

ジン「いくぞ:~!」桜花気刃斬

提督「これでどうだっ!!」ムーンブレイク

シエンガオレン「(V)(?x)x(;)」大ダウン

ズズウウンッ!!

提督「よしっ!!大ダウンだ!!」

ジン「このまま攻めるぞ!!」

ベル「いやつたーっ!!こけたぞ!!」

ルルカ「これはチャンスね:~!!ベル、砲台車を街門まで動かして」

ベル「?おっけー!!」カーンッ

ガタガタガタガタ：

ベル「うん？あれは：巨龍砲!!」

ルルカ「ええ、ラオシャンロンやシエンガオレンを迎撃するために設置したのよ」
 ベル「あれなら：更に大ダメージを与えられる！」

ルルカ「後は滅龍炭をセツトすれば：：：あつ、やばつ」

ベル「エ？ルルカ？」

ルルカ「：滅龍炭をもらうの忘れちゃった♥」テヘペロ

ベル「ええええっ!?!」

ルルカ「モドリ玉を使って戻って取りに行くしかないわね：」

ベル「でもその間にシエンガオレンが起きて進攻を再開するよ!?!」

シエンガオレン「(V)(?・?)^x(V)「ゴゴゴゴツ」

ジン「くっ：まだ撃退できないか！」気刃斬り

提督「まだまだ!!」抜刀溜め斬り

シエンガオレン「(V)(o?o)(V)「ゴゴゴゴツ」

ジン「まずいぞ、起き上がる!!」

提督「ぬうつ：：ここで進攻を食い止めなきや!!」

ベル「こなったら：：ゴリ押ししかない!!」

ルルカ「最悪そうするしかないわね…!!」

金剛「ヘエエエイツ!! wait デース!!」ダダダッ

鹿島「ま、待ってくださーい！」

団長「よ、よかった、間に合った!!」ゼーゼー

ルルカ「団長!?!」

木曾「うわっ!?! 本当にばかでけえ!!」ギョッ

瑞鶴「いやいやいや!?! こんなヤドカリっついていいの!?!」

ベル「みんな!?! どうしてここに!?!」

霞「滅龍炭を持ってきたわよ!!」つ滅龍炭

ルルカ「おおっ!! 霞ちゃん、ナイスーっ」

木曾「ちよ、こっちの砲台もでけえっ!?!」

不知火「まるで戦艦の主砲みたいですね」

ルルカ「ここに滅龍炭をセットして…あとはこのスイッチを押せば巨龍砲が撃てるわ

!

ベル「ここの距離なら確実に当たる!!」

シェンガオレン「(C)(V)(O?O)(V)ズーンズーン…!!」

瑞鶴「げっ!?! こっちに来てる!!」ギョッ

金剛「こ、このスイッチを押せばいいんデスね!?」アセアセ
ルルカ「そうよ!! 押しちゃって!!」

金剛「フアイアアアツ!!」カーンツ
ガコンツ!!

鹿島「砲台が動きました!!」

木曾「このまま狙い撃つってわけだな…!!」

バチバチバチバチ…!!

瑞鶴「な、なんか黒っぽい電気みたいのが出てるわよ…!?!」

団長「あれが龍属性エネルギーってやつだ」

霞「り、理屈がよく分からないエネルギーね…」

ベル「もうすぐ発射するよ!!」

不知火「…あの、一ついいでしょうか?」

ベル「ん? どしたの?」

不知火「その巨龍砲、かなりの範囲の砲撃と見ますが…: シェンガオレンに当たるところか、足元で戦ってる司令官とジンさんにも直撃するのでは?」

ベル「…:」

ルルカ「…:」

ルルカ「二人とも走ってえええっ!!」
ズドオオオンツ!!

提督「くっ…まだ止まらないか!」

ジン「…あれ? 提督、なんか赤い塊がこっちに飛んできてないか?」

提督「ん?…あれって、巨龍砲じゃね?」

ジン「…と、いう事は俺達にも当たるんじゃない?」

提督「…ナンテコツタイ」 / (^ o ^) \

ジン「\ (^ o ^) /」

ズドオオオオオオオオンツ!!

シエンガオレン「(V) (. : ?) () (V)」 critical!!

霞「司令かああああんっ!」 (. : ;) (V) (D) ()

ベル「しえ、シエンガオレンに直撃だ!!」

ルルカ「て、手応えはばっちりよ!!」

不知火「たぶん司令官達にもばっちりかと」

シエンガオレン「(V) (o x) (;) (V)」ズズズズズズ…

団長「おつ、シエンガオレンが方向転換するぞ!!」

シエンガオレン「(V)(oX?) ; (V)(()ズーン…ズーン…

ルルカ「退いてくわ!!撃退成功よ!!」

ベル「なんとか撃退することができたね…」フー

金剛「も、物凄い迫力でしたネ…」

木曾「まるで怪獣映画を間近で見てる気分だったぜ…」

瑞鶴「というか提督さんとジンさんは!?!」

霞「ちよ、直撃しちゃったのよ!?!早く助けに行かなきゃ!!」

団長「はっはっは、それなら心配することはないぞ?ほら」

霞「えっ…?」

提督「こらーっ!!巨龍砲を撃つなら撃つって最初から言ってくれよ!」コゲコゲ

ジン「死ぬかと思った…まあ死なないけど」プスプス

ルルカ「あっははー、ごめーん!!」

ベル「まあ二人とも無事だし、いいんじゃないかな?」

提督「よくなーいっ!!」プンスカ

霞&瑞鶴「」

団長「大タル爆弾Gの爆発さえもへっちゃらさ。あれくらいの爆発でも大丈夫だ」

鹿島「あ、あの爆発でただ多少焦げてただけって…」

木曾「…時折、提督達って人間離れしているって思うよな…」

i n d o n d o r m a | ギルド本部

霞「もーっ!!心配したんだからね!!」ゲシゲシ

提督「ちよ、霞っ!?痛いっ!」(; 旦、)

ジン「…」瑞鶴を抱きしめる

瑞鶴「ちよ、ジンさん!?こ、焦げ臭いですよ!」アセアセ

ジン「(*, ω, *)」

鹿島「と、兎に角提督さん達がご無事でよかったです」ホッ

不知火「ハンターはあんな巨大な生物とも戦うんですね…」

ルルカ「あのシエンガオレンはまだまだ脱皮してでかくなるわよ?」

木曾「ええっ!?まだでかくなるのかあいつ!」

団長「さて、シエンガオレンを撃退することができたし次はどうするんだ?」

提督「そうですね…バルファルクを追跡するための電探の製造なんです、製造に必

要な素材と設計図の完成を待つかないですね」

明石「で、できました〜!!」フラフラ

瑞鶴「あ、明石さん!? かなりげっそりしてますよ!」

明石「こ、この国の技術や素材って不思議すぎですよ〜」ヨロヨロ

鹿島「大丈夫ですか!」

明石「もう疲れ果てました…」

提督「できたってもしかして…」

明石「は、はい…電探の設計図と必要な素材をまとめることができました…!!」

ルルカ「やったー!! さすが明石さんね!」

加工担当「流石明石さんだ…すぐにこのドンドルマの武器や防具の製造知識を覚えたんだ」

加工屋の娘「後は明石さんが設計図を書いて必要な素材とその量を計算したんだよ!」

明石「こ、これが必要な素材のリストです…」プルプル

提督「ありがとう。これは…なるほど。明石さん、よく頑張ったね」

明石「は、はい…喜んでくれてなによりです」フラフラ

提督「よし…!! じゃあその素材を集めに行こう!!」

ルルカ「流石は有言実行ね」

金剛「次はどここの街に行くんですか？」ワクワク
提督「：：その前に、ゆっくり休むぞ!!」クワツ

木曾&瑞鶴「ええええっ!?!」ズコーツ

明石「」チーン

霞「あ、明石さーん!?!」

ジン「かなりの労力だったんだな：」

○ 8 タルの錬金術師

i n 沿岸部

ウイル「うーむ……」

ホツポ「ウイル、釣りしながらすっごい考えてる！」

レ級「何か悩み事があるのか？」

駆逐水鬼「もしかしたら私達がアールさんの鎮守府の資材を大量に消費しちゃったことを気にしているのかも」

駆逐棲姫「物凄い量を使っちゃいましたからね……」

レ級「ウイル、あまり自分一人で抱えなくていいんだぞ？」

ウイル「うん？」

防空棲姫「よかつたら相談に乗るわよ？」

ウイル「……そうだよな、皆がいるんだ。相談したほうがいいよな」

ホツポ「何でも聞いて!!」フンス

ウイル「実は……」

レ級&防空棲姫「……」ゴクリ

ウイル「今夜の献立は魚がいいかお肉がいいか考えててさー」アハハー

レ級&防空棲姫「ズコーツ

駆逐棲姫「あ、アールさんの事で気にかけていなかったんですか!？」

ウイル「アール?どして?」

駆逐水鬼「私達が資材を消費した事を気にしていなかったのか?」

ウイル「ああ、あれね。ハチミツを送つといたからもう全然気にしてないぜ!!」ドヤあ

レ級「: : :」チラッ

防空棲姫「: : :」コクリ

ウイル「あれ?二人とも?な、なんか顔が怖いよ?」

レ級&防空棲姫「どっせーい!!」ドロツプキツク

ウイル「オゴポコオツ!」()。3。()。: : .

ドボン

駆逐棲姫「ウイ、ウイルさーん!？」

レ級「全く反省してないし」

防空棲姫「どうかいつハチミツ送つたのよ: :」

ホッポ「??」ドヤア

駆逐水鬼「ああ、ホッポが送つたんだね」

i n 浜辺

ウイル「ふう…なんで怒られたんだろうか…」

ホツポ「ウイル、素潜り漁お疲れ様！」

ウイル「うん、素潜りしてたわけじゃないからね？」

ホツポ「でもウニ大漁!!」フンス

ウイル「他にも貝も獲ってるし…そうだな、今日はタンジア鍋でも作るか」

ホツポ「わーい！」

ウイル「大きな鍋があつたな。それを用意して調理に取り掛かろう」

港湾棲姫「…困った」ウーム

戦艦棲姫「あらあら…」

ホツポ「?おねーちゃん、どうかしたの？」

港湾棲姫「ホツポ、実は…」

戦艦棲姫「お鍋が壊れちゃって…」

ホツポ「!?」クワツ

戦艦水鬼「軽巡棲鬼と南方棲鬼が鍛錬に使うとかで鍋が木端微塵になってしまつて

な」

軽巡棲鬼「だ、だって鍋って防具にもなるって聞いたことあるのにー…」正座中
南方棲鬼「ふ、不覚…」正座中

戦艦水鬼「馬鹿者。鍋に全弾掃射すれば木端微塵にもなるわよ」

鍋だったものへオデノカラダハボドボドダ!!

港湾棲姫「これじゃあ鍋は直せない…」

ホツポ「そんな…タンジア鍋楽しみだったのに…」シヨボーン

ウイル「…いや、直るかもしれんぞ」

ホツポ「えっ!?直るの!」

戦艦水鬼「そんな馬鹿な。こんなにも木端微塵になっっているんだぞ?作るしかない」

ウイル「鉄鉱石とかがあれば作れるが…もつと簡単な方法がある」

戦艦棲姫「何か方法があるのかしら?」

ウイル「ああ。こんな時こそ、これが役に立つ」ヨッコラセ

港湾棲姫「これは…タル?」

戦艦水鬼「まさかこのタルで鍋の代わりにするつもりか?」

ウイル「ノンノン、こいつはタルはタルでもただのタルじゃない。これはマカ錬金タ

ルだ」

ホツポ「レンキン…?」ハテナ

戦艦水鬼「たしかこの前に拾ったタルだったな。それは一体何なのだ？」

ウイル「俺の故郷、シナト村に伝わるマカ錬金屋という代々伝わる錬金術に長けた一族が営む店があるんだ。マカの錬金術は金属の修復、道具の増加ができてな。その技術の一つがこのマカ錬金タルなんだ」

戦艦棲姫「道具の増加：：ウイルの故郷はなんでもありな気がしてきたわね：：」

ホツポ「それでそれで！どうやるの？」ワクワク

ウイル「やり方は簡単。まずは鍋だったものをマカ錬金タルの中へ入れる」

戦艦水鬼「後は媒体となるものとか何か入れるのかしら？」

ウイル「いや？あとは蓋をするだけだ」

港湾棲姫「それで鍋が治るの!？」

ウイル「いやいや。マカ錬金タルを使うには、レンキンスタイルというのがあってだな。マカ錬金タルで錬金するためには動作が必要だ：：」スツ

軽巡棲鬼「も、もしかして、両手をこうパンツッてしてバツッてするんですね！」

南方棲鬼「それ、違う所の錬金術：：」

ウイル「樽をもって：：いくぞ？」

戦艦水鬼「：：」ゴクリ

ホツポ「：：!!」ワクワク

ウイル「うおおおおおつ!!出て来い出て来い、そりゃあ!!出て来い出て来い、そりゃあ!!」ブンブン

戦艦水鬼&港湾棲姫「」

ホツポ「!!」キラキラ

グラグラグラ:

軽巡棲姫「!!タルがブルブルしてる…!」

南方棲姫「ま、まさか…」

ウイル「うりやーっ!!でてこーい!!」オープン

鍋へナベ、復活!!ナベ、復活!!

ホツポ「な、直ったー!!」

戦艦水鬼「なんで!？」

港湾棲姫「前のよりも真新しい…!」

ウイル「どうだ?すげえだろ」フンス

戦艦水鬼「いやいやいや!?!おかしいでしょ!?!どうして直ってるの!?!理屈がおかしいわよ!?!」

ウイル「これが……レンキンスマイル!!」ドヤア

南方棲姫「意味が分からないわ……」

戦艦棲姫「でも、あの掛け声っているのかしら……?」

ウイル「これはとある伝説のハンターがやっていたという掛け声だ。なんか錬金術の成功率があがる気がするらしい」

戦艦水鬼「気がするだけかい!」

港湾棲姫「これで鍋料理ができる……」

ホツポ「ウイル、ありがとー!!」

戦艦水鬼「……ツツコミはダメかしら……?」

戦艦棲姫「仕方ないわよ。私達の知らない技術をウイルさん達は知っているのだから」

ホツポ「マカ錬金タルすごい!!」フンス

ウイル「おう。ただ物を修理するだけじゃなくて、タルから作り出すこともできるんだ」

ホツポ「ほんと!?!」キラキラ

ウイル「例えば……」

重巡棲姫 「あうー…お腹すいたー」 ショボボーン

ウイル 「うん？どうかしたのか？」

重巡棲姫 「ウイルー、こんがり肉、無くしちやったー！」 ウワーン

駆逐水鬼 「余所見をして食べながら歩いてたら木にぶつかって川へ落としてしまったんだ」

レ級 「だからちゃんと前見て歩けって言ってただろ？」 ヤレヤレ

ウイル 「おーよしよし、それでお腹空いているのか」 ナデナデ

重巡棲姫 「ウイル!! お腹すいた！」

ウイル 「よし、こんな時こそマカ錬金タルだ」

ホツポ 「何か作るの？」

重巡棲姫 「お肉がほしい!!」

レ級 「? そんなタルで作れるのか？」

ウイル 「まあ見ててな…:でてこい、でてこい、そりやあ!!」 ブンブン

レ級 「」

ホツポ&重巡棲姫 「…!」 ワクワク

ウイル 「でてこい、でてこい、そりやあ!! レンキンフードっ!!」 つレンキンフード

レ級「いや、なにこれ？食パン？」

ウイル「レンキンフード」ドヤア

レ級「いや、なんでタルから食パンが出てくるだつてば」

ウイル「!!:::レンキンフードオー!!」

レ級「いやだから何処かの青い猫型ロボット風に言つてごまかしてもダメだつて」

重巡棲姫「すつきり塩味!!」ムシヤムシヤ

ホツポ「うまいっ!!」ムシヤムシヤ

レ級「いつの間に食べてるし!?いきなりタルから出てきた物を食べて大丈夫か!？」

ウイル「大丈夫。ガッツポーズしなくなるから」

レ級「意味が分からないって!？」

深海海月姫「ふわあく…最近疲れ気味かしら…?」

ホツポ「ウイル!!」

ウイル「そんな時は…でてこい、そりやあ!!レンキン活力剤!!」ペケボン!!

レ級「いや明らかに飲んだらヤバそうな色してるんだけど!？」

戦艦棲姫「あら、演習用の弾薬が足りないわね」

ホッポ「ウイル、お願い！」

ウイル「任せておけ！こういう時は……でてこい、でてこい、そりゃあ!!レンキン狩
技弾!!」テレレッテレー

レ級「私達に使い道あるのそれ!？」

夕刻

ウイル「このように、マカ錬金タルには様々な使い道があるんだぜ」

ホッポ「マカ錬金タルって便利だね！」

レ級「うん、ツツコミ所が多すぎるんだけど……」

双子棲姫（白）「クロちゃん、やっぱりやめた方がいいよ……」アセアセ

双子棲息（黒）「いいや！これなら絶対に成功する！」カーンツ

＼BOMB!!／

ホッポ「わっ!?!爆発!？」

ウイル「だ、大丈夫か!？」

双子棲姫（白）「ケホツケホツ……ごめんなさい、大丈夫です」

双子棲姫（黒）「ううー……調合を間違えたのかなあ……」

ウイル「ケガはなくてよかった……でも何をしてたんだ?」

双子棲姫（黒）「あ、あんたには関係ないもんね!」

双子棲姫（白）「じ、実は…打ち上げ花火が見たくて、花火を作ろうとして失敗しちゃいました」

双子棲姫（黒）「し、シロちゃん!？」アセアセ

ウイル「花火？」

ホツポ「花火…確かに見た事無い!!」クワツ

レ級「まああたし達深海棲艦だし、巷で噂の夏祭りとか無縁だしね…」

双子棲姫（白）「花火とかも綺麗って聞きますし、見てみたいなと思ってて…ウイ、ウイルさんに相談してみようって言ったんだけど…」

双子棲姫（黒）「ウイルに頼んなくてもできるもん!!」プンスコ

ウイル「まあ自分の力でやろうっていうのは偉いぞ。でも、怪我をしちゃ元も子もない」ナデナデ

双子棲姫（黒）「な、撫でるな!」アワワ

ウイル「うーむ、花火か…」

ホツポ「花火…」キラキラ

双子棲姫（白）「ウイルさん…」期待の眼差し

ウイル「…」

レ級「ま、まさか、そのタルで打ち上げ花火は作れる…ってないよな…」

ウイル「……」

レ級「さ、さすがにそれは無理だよな？」

ウイル「……できるけど？」

レ級「え!?嘘でしょ!?できるの!？」

ウイル「よし……ちよつと離れとけよ？」スツ

ホツポ「ウイル!!頑張れ!!」

双子棲姫(白)「ウイルさん、お願いします……!」

ウイル「うおおおおおつ!!でてこい、でてこい!!そりやあ!!でてこい、でてこい!!そりやあ!!」ブンブン

双子棲姫(黒)「なんでタルを振ってるの？」

レ級「……気にしたら負け」

ウイル「でてこい、そりやあ!!でてこい、そりやあああつ!!レンキンバズーカ打ち上げ花火バージョンだ!!」

ヒュー……ドドン!

ホツポ「でたーっ!!」キラキラ

双子棲姫(白)「きれい……!!」キラキラ

双子棲姫(黒)「」

ウイル「うおおおおつ!! まだまだ打ち上げるぜーっ!!」
ヒューン・・・ドーン!

ホツポ「タマヤーツ!」

双子棲姫(黒)「な、なかなかやるじゃないの…」フンツ
レ級「…もう何でもありませんだね…」遠い目

翌日

ホツポ「…」ジーツ

マカ鍊金タルへソンナニミツメルナシ

ホツポ「…よいしょっ」

コロコロ

ホツポ「中身は何もない…でてこいでてこいそりやー、でてこいでてこいそりやー」
ブンブンブン

シーン…

ホツポ「??…でてこいでてこいそりやー、でてこいでてこいそりやー」ブンブンブ
ンブン

シーン

ホツポ「???」

ウイル「随分と気に入ってるな」ナデナデ

ホツポ「ウイル、タルから何にも出てこない!!」クワツ

ウイル「出ないのか? うーん、あれだ。気合いが足りなかったのかもな」

ホツポ「気合い?」

ウイル「こうやって:でてこいでてこい、そりやあ!!でてこいでてこい、そりや!!」

ホツポ「おおう」ウンウン

ウイル「とまあこんな感じだが、振り過ぎも良くない」

ホツポ「なんで?」

ウイル「タルの中がパンパンになって爆発しちゃうんだ」

ホツポ「爆発するんだ!!」

ウイル「まあ、このくらいなら大丈夫だけどな」蓋を開ける

ホツポ「:さつき、たくさん振り過ぎちゃったけど?」

ウイル「エ?」

＼BOMB!!／

*マカ錬金タルはハンターの指示のもと、気を付けて使いましたようbyギルド本部

▲ハンターとライダーの街、ギルデカラン

i nギルデカラン | 門前

ナビルー「ふー、ようやく着いたぜー」

弥生「海に近い所にあるんだね…」

コタロウ「(*, ω, *)」ワクワク

ナビルー「さあ弥生、こここの門をくぐれば目的地であるギルデカランだ！」

弥生「うん…！」

——門をくぐればそこは大きな街だった。石造りの建物、多くの人々で賑わう街通り、果物や野菜、海産物、様々な品を売る露店、タンジアの様な港の街の雰囲気を感じ出し賑やかさに私は目を輝かせた。見たことのない世界…司令官は初めて艦娘に出会った時はこのように胸を高鳴らせていたのかもしれない——

b y 弥

生の日記

弥生「……!!」キラキラ

ナビルー「どうだ？ 凄く驚いただろ？」ニヤニヤ

弥生「ナビルー、この街ってタンジアみたいに港町なの？」

ナビルー「確かにギルデカランはタンジアと同じように、陸路や空路、海路を活かした交易をして発展してる街だけど、それ以前にハンター達が集う場所として有名なんだ」

弥生「司令官達が行こうとしているドンドルマと同じなんだね……」

ナビルー「うむ！ だがドンドルマと違って、ギルデカランはライダー達の集う街としても有名なんだぜ！ なんだってライダー専用のギルドの本部があるんだ」

弥生「なるほど……」

ナビルー「まあ最初は大変だったんだ。ここもライダーの存在を知らなくてさ、俺と一緒に冒険したライダーと訪れた時は白い目で見られて信頼してもらえなくてな……その俺と一緒に冒険したライダーの活躍のおかげで今はライダーも受け入れられるようになったんだ」

弥生「ナビルーの活躍もあつたんだ……ナビルーって意外と凄いね」

ナビルー「もつと褒めてくれてもいいんだぜ！」ドヤア

コタロウ「（ハ、ハ、ハ）ヤレヤレ」

弥生「それで、何処に行けばいいの？ギルド本部とか？」

ナビルー「ふふふ、その前に行くところがある…このドーナツは美味しいんだ！道草食って行こうぜ！」

コタロウ「（――）ムスーツ

ナビルー「そ、そんな顔するなよコタロウ。長旅をしてきたんだ、甘いものを食べて気分転換しような」

弥生「ナビルー、ドーナツを食べたいだけなんじゃ…：まあいつか」

in ドーナツ屋

ナビルー「うんまああああいつ!!」へブン状態ツ！

弥生「確かに、美味しい…！」キラキラ

ナビルー「言つたる？このドーナツは格別うまいんだぜ！」

コタロウ「（――）フーン

弥生「…：それでナビルー、次はギルド本部へ行くの？」

ナビルー「うむ、こここのギルド本部でもバルファルクの調査をしているし、ナビルーはその報告と次の任務を受けに行くつもりだ」

弥生「それじゃあそろそろギルドに行かなきゃね」

ナビルー「ま、待ってくれ。もう少ししドーナツを食べて…：」

弥生「ほら、行くよ」グイツ

ナビルー「ニヤフツ!?も、もつと食べたいのにーっ!」ジタバタ
コタロウ「(ハ、ハ)」「ヤレヤレ

inギルデカラン | ギルド本部前

弥生「この変わった建物がギルデカランのギルド本部…?」

ナビルー「ドーナツもつと食べたかったな…」シヨボーン

弥生「…またドーナツ買ってあげるから」ポンポン

ナビルー「!!そうだけ、ここがハンター兼ライダーのギルド本部さ!」

弥生「現金だね…」

???「あつ!!ナビルー!やっほー!!」ノシ

弥生「?女性の方が手を振ってこっちに來てるよ?」

ナビルー「あれは…リリア!やっほー!!」ノシ

リリア「聞いたよナビルー!今はライダー協会のライダー育成の教官の助手をして
るって。すごいじゃない!」

ナビルー「えっへん、今じゃ各地で引つ張りだからな!」

リリア「あれ?その子は?」

ナビルー「この子は弥生。俺の新しい相棒だぜ！」

弥生「初めまして、弥生です」ペコリ

リリア「私はリリア。このギルデガランの生物調査部隊の副隊長を務めてるの。よろしくね！」

コタロウ「(*、ω、)」クルル

リリア「このリオレウス……」

弥生「この子はコタロウっていいいます」

リリア「……とっても元気いっぱいいな子で可愛いわね」ナデナデ

コタロウ「(、ω、)」

リリア「それでナビルー達はこれからギルドに行くの？」

ナビルー「うむ！バルファルクの捜査の最中だからな。リリアもバルファルクの調査をするのか？」

リリア「それもあるんだけど……今は別件の調査をしてるの」

ナビルー「別件？」

リリア「ええ、モンスターの嚙猛化について研究をしているの」

弥生「嚙猛化……？」

ナビルー「モンスターが何らかの要因で興奮状態になって凶暴化している状態のこと

なんだ。獯猛化しているモンスターは口や部位から赤黒い霧を纏っているように見えるだけじゃなく、力の限り大暴れするんだ」

リリア「その獯猛化はどうして発生するのが誰にもわからないし、狂竜症のように別のモンスターによる原因でもないからその原因も分からないのよ……でも分かっている事と言えば……」

ナビルー「？」

リリア「黒の凶気から数年後に目撃されるようになったっていう事」

ナビルー「……」

弥生「??？」

リリア「まだまだ追求する余地があるから調査をしているんだ。勿論、バルファルクの調査とナビルーの協力もするわよ」

ナビルー「そいつは助かるぜ！でもリユートの所に帰ってこいよ？あいつ、無理しないでいか心配してるぜ？」

リリア「あ、あはは……肝に銘じておきます」

弥生「??？」ポカン

リリア「ほら、弥生ちゃんがポカンとしてるわよ。ちゃんとナビしてあげないと」

ナビルー「おっと、そうだった。さあ行こうか、弥生！」

リリア「さあレッツゴー！」

inギルドデカラン「ギルド本部

???「おお、ナビルーではないか！長旅、ご苦労であったな」

弥生「…この人、小人？」

ナビルー「しーっ！この人はマツホさんと言つて竜人族でギルデガランのギルド本部のギルドマスターなんだぞ！」

マツホ「ほっほっほ、ギルデガランのギルド本部へようこそ、ライダーのお嬢さん」

弥生「えと、弥生、です」ペコリ

マツホ「うむ、礼儀正しくてよろしい」ニツコリ

ナビルー「今は俺の新しい頼れる相棒だぜ！」エツヘン

コタロウ「(・ω・)」ドヤア

弥生「う、うん」

マツホ「さてと、ナビルー。バルファルクの捜査の一件はどうなつておる？」

ナビルー「えーと…今のところ各地の飛行船や船の被害が相次いでいるみたいだ。ハ
ンターやライダーさん達で追跡をしているけど神出鬼没でてんやわんやだ」

リリア「それにバルファルクが今まで出沒した場所は砂漠、雪山、氷海、平原…開け

た場所みたいです」

マツホ「うむ、次にリリアよ、ドンドルマから捜査の連絡が来たと言っていたな？」
リリア「はい。ドンドルマからバルフアルクの捜査の効率を上げるため…えーと…で
ん、たん？の製造を行うみたいです」

弥生「電探…司令官だ…！」

ナビルー「弥生、その…でん、たん？つてのがわかるのか？」

弥生「うん。もとは素敵に使うのだけど…これならバルフアルクを見つけることができ
きるかも」

リリア「その電探の製造の為に各地に必要な素材を集めるみたいですよ？ここに必要
な素材のリストも添付されました」

マツホ「どれどれ…その、でんたんやらを作るのに沢山の素材が必要のようじゃな
…」

弥生「明石さん、苦勞してそう…！」

マツホ「む？この素材はクバ砂漠で採れる物のようじゃな…：うーむ」

弥生「？どうかしたんですか？」

マツホ「実はクバ砂漠の輸送経路でモンスターが襲撃して被害にあっている。アルブ
ラクス村から救援の依頼が来ているんじゃない」

ナビルー「バルファルクの仕業なのか？」

マツホ「いや：輸送中、突然砂がうねり出した途端に輸送物資が消えたり、輸送船が襲われたりしている事からバルファルクとは別のモンスターの仕業と思う」

ナビルー「調べる必要があるな：よし！その一件、ナビルー達に任せてくれないか！」

マツホ「ナビルーが？ふむ、弥生はどうじゃ？」

弥生「：私もやります。ライダーとして、やらせてください」

コタロウ「（、ω、）「フランス

マツホ「：：わかった。このクエスト、二人に頼むとしよう」

ナビルー「よし！一緒にこなしていこうぜ！！」

弥生「うん：！！」

マツホ「そうじゃ、ついでとしてバルファルクの調査として、ハンターと共に向かってもらおう」

弥生「ハンターさんですか？」

マツホ「うむ。きつとお前さんの力になってくれるはずじゃ。もうそろそろ来る頃じゃろ：：」

???「いやー悪い悪い！すっかり遅刻しちゃったぜ：：」

弥生「あの人がハンターさん？」

ナビルー「あっ!!」

???「おっ?ナビルーじゃないか!久しぶりだなあ!!」

ナビルー「リヴェルトのおっさん!!」

リヴェルト「リヴェルトだ!まったく、相変わらずだな。ん?そのちっこいのは?」

弥生「ちっこいのじゃないです。弥生です」

ナビルー「弥生は俺の新しい相棒で、ライダーなんだぜ!」

コタロウ「(、旦、)」翼を広げる

リヴェルト「リオレウスか:また何かと縁がありそうな組み合わせだな」

ナビルー「後それと、弥生はクロードの教え子だから」

リヴェルト「げっ!?く、クロードの野郎のところの!?!」

リリア「クロードさんの!?!」

弥生「?司令官の事、ご存知なのですか?」

リヴェルト「あの好奇心オバケとは腐れ縁でな:今でも忘れねえ、あいつがアオア
シラと相撲を取っていた場面は覚えてるぜ:」

リリア「初めてキングチャチャブーと踊り明かしたことで調査隊顔負けの人ですよ

!」

弥生「…司令官つてたまにとんでもない事をやらかしているんですね…」
リリア「それに…黒の凶気の対策をリヴェルトさんと一緒に考えたり、ライダーの事を受け入れてくれた人です…」

弥生「…」

リヴェルト「後、遠い国でオストガロア変異種とかいう古龍を討伐したって聞いてるぜ。あいつの所の教え子って言うなら多少は心強いな」ポンポン

弥生「多少…」ムスーッ

コタロウ「(、皿)」ムキーツ

リヴェルト「ははは、冗談だぜ冗談！よろしく頼むぜ」

弥生「よ、よろしくお願いします」ペコリー

ナビルー「よし、次はクバ砂漠へ行こうとしようか!!」

弥生「次は砂漠なんだね…」

ナビルー「その前に、ドーナツを買いに…」

リヴェルト「そんじやま準備が出来次第、早速クバ砂漠行きの船に向かおう」

リリア「それじゃあ弥生ちゃん、一緒に買い物に行きましょう！」

弥生「はい…！」

ナビルー「ど、ドーナツっ！」

コ
タ
ロ
ウ
』
（
マ
）
コ
ヤ
レ
ヤ
レ

◇13 ハンター対艦娘 勃発

in 執務室

アーロ「……」書類整理中

荒潮「……」ニコニコ

アーロ「…ね、ねえ荒潮ちゃん。今日は下町にあるケーキ屋で数量限定で期間限定のケーキとやらが発売される日なんだー」

荒潮「あらあ、数量限定で期間限定ですかあ。素敵ですネ」ニコニコ

アーロ「そのー…：今から買いに行ってもいいよね？」

荒潮「あらあらあ、その山積みになつてゐる書類を済ましてから…：ですよねえ？」ウフフ

アーロ「え、エグザクトリイでございます！」

荒潮「うふふ、素直でよろしい」

アーロ（ちくしよおおおつ！サボタージュしてでも行きてえ！！）

荒潮「…今、サボろうなんて考えてませんでしたか？」

アーロ「め、滅相もございませぬ、そのようなこと有ろうはずがございませぬ！」

荒潮「それじゃあ書類整理に取り掛かってくださいね？」

アール（ぐぬぬ…今日の秘書艦が赤城さんだったら、即行けるのに！よりもよってなんか龍田さんのなオーラを漂わせる子が秘書艦だとは…!!）

荒潮「♪〜」

アール「そういえば…グレイはどこ行ったんだ？」

荒潮「グレイさんでしたら、ザラさん達と一緒に遠征に行つてますよ？他の鎮守府で研修だとか」

アール「なるほど、だから加賀さんと大井つちがいないわけだ…あれ？これ、チャンスじゃね？」ポソツ

荒潮「今…何か言いました？」

アール「いいえ！何でもございませぬ!! さあ取り掛かりましょうかー!!」

【目標：艦娘達の監視を潜り抜け、数量限定のケーキを購入せよ】

荒潮「♪〜」

アール（ふふふ、俺を監視しているつもりのようだが…甘いぜ荒潮。ハンターの底力を舐めてもらつちやあ困るつてやつよ。そう、この場合は…）

スタスタスタ

荒潮「あら？アールさん、窓を開けてどうしたんですか？」

み
 アーロ「いやー、書類整理は疲れるなー。こんな時は少し背伸びがしたいぞー」棒読

荒潮「まだ数分しか経ってないわよ？」

アーロ「こうやって背伸びをしてー…ソイヤツ!!」バツ

荒潮「アーロさん!？」

ヒュー……………スタツ

荒潮「

アーロ「ふーはははは!! 余裕! 余裕だぜ!! ケーキ屋に行かせてもうぞっ!」ダツ

龍田「そーれ♪」ブンツ

アーロ「あぶねえっ!?! って龍田さんナンデ!？」

龍田「うふふ、アーロさんの事だから飛び降りて抜け出すと思つて待ち構えてたのよ

♪と、いう訳で」

川内「さぼっちゃう人はお縄についちやおうねー」ナワジツツ!

五十鈴「成敗!!」ドロップキック

アーロ「ゴウランガ!?!」…。(ε。(

荒潮 「いやー…驚きました。まさかアールさんが4階から飛び降りるなんて」

龍田 「アールさん達ハンターさんは高い所から落ちててもへっちゃらなの」

川内 「ちよつと人離れしてるんだよねー！」

五十鈴 「いや人離れしすぎよ…」

アール 「(；ω；)」シクシク

龍田 「それじゃあアールさん、お仕事再会しましょうねー」ニコニコ

アール 「は、はい…」

荒潮 「また逃げたらダメよ？」

アール 「アツハイ」

川内&五十鈴 (あ、またやらかすつもりだ…)

【ROUND2】

アール (大丈夫、まだダイジョーブ！まだ一乙目、まだまだチャンスはある!!) チラッ

荒潮 「♪♪」執務中

龍田 「♪♪」読書中

川内&五十鈴 「…」二人はこちらを見ている

アール (窓からは…たぶん龍田さんが即止めにくるに違いない。だとすれば…こんな時こそハンターのアイテムを駆使するのがベスト！)

ガサゴソ……

五十鈴「……アールさん、何してるの？」ジト

アール「い、いやあ別にいい？」

五十鈴「怪しい……ちよつと立ってみなさいよ」

アール「お、俺あ別になにもしてねーよお？」

川内「怪しいな……」ジト

荒潮「今度は何をしでかすんですか？」

龍田「もしかして……また窓から逃げ出すつもりですかあ？」ウフフ

アール「……ソイヤツ!!」つ三【けむり玉】

プシューッ

五十鈴「なっ!? 煙幕!？」

川内「しまった! やられた!」

アール「ふははははは!! サラバダツ!!」

龍田「逃がさないわよ」ブンッ

アール「窓から逃げる……と見せかけて扉から逃げるぜっ!!」回避

龍田「っ!」

アール「それでは諸君、行ってくるぜ!!」

五十鈴「ま、待ちなさい!!」

in廊下

アール「よしっ!!このまま外へ出れば：俺の勝ちだ!!」

天龍「アールさん、そうはいかねえぜ!!」

摩耶「さぼろうたってここは通さねえぞ!」

曙「みんなでアールさんを捕えるわよ!!」

アール「えーい」つ三【けむり玉】

プシュー

摩耶「げっ!?躊躇なくけむり玉使いやがった!!」

天龍「まだあつたのかよ!」

曙「こらーっ!!ずるいわよ!!」

アール「はははは!けむり玉は10個まで持てるんだぜえ!」ダツ

龍驤「見つけたで!神妙に捕まってもらおうか!」

愛宕「うふふ、逃げちゃダメよ」ホンワカ

イク「アールさん!イクの悩殺ポーズで止めるのネ!」セクシー!

アール「おりゃ」つ三【けむり玉】

プシュー

愛宕「やーん、前が見ないわー。こうなったら勘で……えーいつ」ギューイク「難敵っ!? こうなったらイクが無理矢理捕まえるのネ!」ギュー龍驤「なんでや! なんでうちをはさむんねん!」モギユウ

アーロ「よーし、この調子で逃げるぜっ!!」ダッ

長門「む? 特別演習とやらか? よかろう、受けて立とう!」フンス

ビスマルク「や、これ違うから。アールさんを捕まえるだけだから」

山城「けむり玉を使われる前に止めるわよ!」

アール「そうは問屋が卸さねえってな!」つ三【けむり玉】

プシユウ

山城「くっ、やっぱり使って来たわね……!」

ビスマルク「これじゃあ逃げられるわよ!」

長門「……」

アール「それじゃああばよっ!!」ダッ

長門「!!……そこかっ!!」ブンッ

アール「ジエバンヌッ!」()。3。()……

ビスマルク「うそ!? 当たった!」

アール「チーン

長門「どうだ！これがビッグセブんだ！」フンス

ビスマルク「いやビッグセブン関係ないでしょ!？」

山城「ほら、はやくアールさんを執務室まで運ぶわよ」

長門「うむ!!」フンス

ビスマルク「：：うん、アドミラル達も人離れしてるものね。そりゃあビッグセブンも化けるものね：：」遠い目

龍田「反省しましたか？」

アール「はい：：」(・・ω・・)

山城「けむり玉は全部没収。変なもの使ったらダメですからね」

アール「はい：：」(・・ω・・)

長門「なに！あらゆる事態を想定した訓練とやらではないのか!？」
五十鈴「なんでそうなるんですか」

川内「またアールさん逃げだしそうな気がするなあ：：」

ビスマルク「はやく加賀と大井が帰ってきてくれないかしら：：」

荒潮「とうかなくてけむり玉を持ってたんですか？」

アール「ハンターだからさ」ドヤッ

山城「というか持つな！」スパーン

アール「ゴメンヌ!？」。3。)。…。

龍田「提督曰く、ハンターにとつて必需品なんですつて。モンスターに見つからないように使うのよ」

荒潮「…:ますます司令官がどんな人かわからなくなってきました」

【ROUND3】

アール（ぐぬぬ…うちの子達、すごく手強いぞ!?だが、だからと言って引き下がる俺ではない!ならば、ハンターの本領を見せてやろうではないか!!）

ガサゴソ

山城「む、アールさん!また何かしようとしてませんか?」ジトー

アール「ち、違うよお!おら、何もしてねえだよ!!」

川内&五十鈴（これ絶対何かするつもりだ…）

アール「ただ、机の整理をしてたんだ!ほら、こんな所に石ころとネンチャク草が出てきた!」

ビスマルク「いや、なんでそんなのが入ってるのよ」

アール「そういえば…:石ころとネンチャク草を調べると…:ほら、これが素材玉というやつだ」

五十鈴「過程が色々とおかしい。どうやって作ったのよ……」

アール「それから……ここにツタの葉があるじやろ？」

ビスマルク「だからどこから取り出したのよ」

アール「これを調合すると……」

長門「ふむふむ……」ワクワク

荒潮「何ができるんですか？」

アール「ほら、これでけむり玉の完成だ」

艦娘達「……」

アール「……」スツ

山城「させるかあッ!!」ブンッ

アール「おっと！」回避

ビスマルク「逃がさないわよ!!」ブンッ

アール「ぬんっ」回避

長門「なんのーっ!!」ブンッ

アール「うおっ!!」回避

五十鈴「な、なんていう回避率なの!？」

アール「これがハンター特有のスキル、フレイム回避!!」ドヤア

川内「しまった！こんな時こそ加賀さんがいたら……!!」

アール「ここは抜けさせてもらうぜ！あばよっ！」ダッ

ビスマルク「くっ……このままだとアールさんを止められないわよ！」

龍田「大丈夫ですよ」

長門「龍田、配置は万全か？」

五十鈴「え、ちよ、何？」

長門「アールさんは実力派だな。わざわざ自らが標的となり、特別訓練を請け負うとは……流石だ！」

龍田「みんな編成を組んで待ち構えていますよ。捕まえた組には間宮の食事券7日分をご用意しています」

長門「うむ、パーフェクトだ」

アール「うおおおっ!？」ダダダダ

島風「アールさん！鬼ごっこなら負けませんよー!!」ダダダダ

天津風「確実に捕えるわよ！」ダダダダ

長波「ま、待ってくれー！」トテトテトテ

秋雲「島風達もそうだけど……アールさんも走るの速いつてどういうことなの!？」

ゼーゼー

長波「スタミナが尽きない限りアール口さんは走るぜ？」

秋雲「いやだからそれが意味わかんないってば!？」

天津風「スタミナが切れた時が捕え時よ!!」

島風「おーっ!」

アール口「ぜえ…ぜえ…二人とも速過ぎ!このままだとこつちのスタミナが…こんな時こそ!!」つ【強走薬グレート】

天津風「あっ!!」

アール口「ヒヤツハー!!走り続けるぜーっ!!」ダカダカダカ

島風「ずつるーい!!」

in運動場

アール口「ふう…ここに隠れりや見つからねえだろ」

コソコソ

アール口「少し遠回りだが…このままいけばすぐに出ry」

ミケ「そこにいたニヤ!!」

クサモチ「捕まえるニヤー!!」

電「索敵成功なのです！」

暁&雷「わーっ!!」

アール「ふあっ!?!ミケ、お前等!?!」

ヴェールヌイ「ハラショー、流星はアイルーの索敵能力だ」

ミケ「ボク達アイルーは耳と目と鼻でモンスター居場所も特定できるニヤ。アールさんをを見つけるなんておちやのこさいさいニヤ」

アール「な、何故寝返りやがった!?!」

ブルー「龍田さんがマタタビくれたニヤ」

ミケ「龍田さんイズゴッドニヤ」

アール「お前らちよろすぎだろ!?!」

暁「ふふーん!これでアールさんを捕まえれば第六駆逐隊のだいしよーりね!」

雷「このまま捕まえるわよ!」

アール「くっつ、そうはいかんぜ!」つ三「マタタビ」

ミケ「し、しまったニヤああああ!!」フニヤー

クサモチ「か、体が勝手にいい!!」フニヤー

ブルー「くっつ、マタタビの誘惑には勝てないニヤ!」

アール「そして第六駆逐隊にはこれだっ!!」つ三「あめちゃん」

暁&雷「わーい」

電「はわわわ…」

アール「うし、このまま逃げ r y」

ゴゴゴゴゴゴツ

アール「うん？地面から…」

ムラサキ「＼(o?o)／」地面から飛び出す

アール「あぶねえっ!?!」緊急回避

曙「ちっ、惜しかったわね」

朧「アールさん、スゴイ反応だね」

潮「あわわわわ…」

アール「ちよ、お前からオトモンを使うのは卑怯だろ!?!」

雪風「このまま突撃です!!」

時津風「うおーはやーい!!」

初霜「あ、アールさん、ごめんなさいっ!」

アルちゃん「三三三(、ω、)突進

アール「うひいっ!?!」回避

皐月「突撃だーっ!」わーい

ろーちゃん「ペッコちゃんはやいですって！」ワイイ
 ペッコ「(ω *)三三三」テテテテ

アーロ「：：エスケープランナー！」ダダダダダダ
 臯月「あつ?!逃げるの速いよっ!？」

曙「どんだけ走れるのよ：：」

i n 母港

アーロ「ぜえ：：ぜえ：：こ、ここまでくれば大丈夫だろ：：!」

ブーン：：

アーロ「ん?あれは：：水上偵察機と艦載機!？」

利根「ぬはははは!!そこにおったか!」ドヤア

秋津洲「偵察機の索敵からは逃れられないかも!」

赤城「アーロさんずるいです。私も連れてってください!」

アーロ「：：」ガサゴソ

利根「神妙にせーい!!」ダッ

秋津洲「捕まえるかも!」ダッ

赤城「いえ、やはりここは私がケーキを買いに：：」

ズボツ

利根「ぬわっ!? 落とし穴じゃとおおっ!?」

秋津洲「なんでこんな所に落とし穴が!？」

アール「ふふふ、仕掛けさせてもらったぜ! それじゃああばry」

赤城「逃がしはしませんっ!!」 艦載機発艦

アール「ダニイ!？」

秋津洲「そうか…赤城さんもジャスト回避ができてましたね!」

利根「よ、よし! そのまま捕えるのじゃ!」

艦載機<ネライウツゼー! ババババツ

アール「うおおおっ!」 ダダダダ

赤城「ケーキの為なら一航戦の誇りに賭けて、全力で止めて見せます!」 艦載機発艦

!

アール「ちよ、マジになってるし!？」

衣笠「あ、いた! アールさんみつけ…ってあれ?」

加古「なんか、赤城さん本気にやってね?」

伊勢「おっ、砲雷撃戦してもいいの?」

比叡「それじゃあ…遠慮なく! やらせてもらいます!」 ドドーン!

那智「流石はアーロさんだな。遠慮なくかかってこいということか!…いくぞ!」ド
ドーン!

摩耶「よつしやあああつ!! どんどん撃つぜえ」ドドーン!

朝潮「アーロさん、ご教授ありがとうございます!!」ドドーン!

アーロ「ちよ、君達!?! 鎮守府内だからね!」ヒーッ

長門「おお、艦娘達の砲撃の雨霰を当てることなく避けるとは…」

山城「うん、練度を上げる訓練にはいいわね」

川内「アーロさん、回避性能すごいよね! 私もフレーム回避とかやってみたーい!」

ビスマルク「…これ、後で絶対に怒られるやつよね?」

大淀「…一応、なんとか弁明できるかどうかやってみますね」

天龍「ちよ、まじで当たらねえ!」

球磨「アーロさん、避けすぎだクマ!!」プンスカ

アーロ「よしっ!! もうすぐ出口だっ! これで俺の勝ちだぜえっ!!」ダダダダ

加賀「アーロさん、何サボろうとしてるんですか」アイアンクロー

アール「あがあああああつ!」

大井「つて、なんですかこれ!? あちこちで砲撃の跡があるし、煙がでてるし、何があったんですか!」

ザラ「しゅ、襲撃があつたんですか!」アセアセ

グレイ「うわー…なんじゃこりゃ」

北上「大井つちおかえり〜」ノシ

大井「き、北上さん!? 一体何があつたんです!」

北上「じつはねー…」

——北上説明中——

大井「へー…そんな事があつたんですかあ」ジーツ

アール「(; 旦、)」ガクガクブルブル

加賀「…アールさんの執念深さにはホント驚きです」ため息

大井「というか、仕事を済ましてから行こうとは思わなかったんです?」

アール「大井さん、天才か!」

大井「うおらあああつ!!」ナパーム・ストレッチ

アール「あばあああつ!」

青葉「決まったあああつ!! 大井さんのナパーム・ストレッチだーつ!」

雷&皐月「やったーっ!!」

アール「ぐ、ぐふう…大井さん強すぎ…」(； 3 (#)

加賀「それで、なんでアールさんは逃げ出そうとしてたのよ」

荒潮「事の発端はケーキなんです」

加賀「ケーキ？」

荒潮「はい、確か数量限定の期間限定のケーキだとか」

グレイ「…もしかして、夏の柑橘タルト？」

アール「なっ!?知っているのかグレイ!!」

グレイ「あ…うん、知ってるも何も帰りに買って食べたし」

アール「な、なんだって!？」

加賀「グレイさんの奢りでした」

グレイ「しかも二人分買って丁度売り切れたな…美味しかったな!」

ザラ「は、はい!」アセアセ

アール「【力尽きました。もう復活できません、クエストに失敗しました】

ザラ「あ、アールさん!」

グレイ「すごいな、真っ白に燃え尽きてやがる」

長門「うむ、いい訓練であつた!」

加賀「修理は各自でやってくださいよ？」

山城「高速修復材使ってもいいかしら？」

加賀「：：今回は大目に見ます」

足柄「はい、それじゃあ配るから皆で清掃するわよー」

駆逐艦達「はいい！」

in 執務室

アール「(ノ口、)。。。」シクシク

大井「ほら、しっかりしなさい。もう少して休憩だから頑張つて」

アール「ケーキ：：食べたかったなあ」シヨボーン

グレイ「いやー、美味しかったなあ、期間限定のケーキ」ドヤア

アール「(#^ω^)」ピキピキ

大井「グレイさんも弄らないの」

コンコン

初月「アールさん、捗ってるかな？」

ヴェールヌイ「おやつ持ってきたよ」

アール「お、おお、バリバリですぜ！」

大井「きりがいいところですし、休憩しましょうか」

初月「はい、これはアールさんの分だよ」

アール「!?こ、これは：：数量限定で期間限定のケーキっ!!」クワツ

グレイ「お？まだ売れ残ったのか？」

ヴェールヌイ「ううん、初月が買ひ物の帰りに買ってたんだ」

アール「は、初月：：」

初月「あ、アールさんが欲しそうなケーキだったし、買っておこうと思って買ったんだ。よかつたら食べてくれ」

アール「初月いいい!!ありがとオオオオ!!」ガバツ

初月「わあっ!?きゅ、急に抱き着くんじやない!!」アセアセ

グレイ「：：今日も鎮守府は平和ですな」

大井「いや、なに締めようとしているんですか」スパーン

———こうしてハンター対艦娘の戦いは終了した———

*アールが初月をふすふすしすぎて大井にアルゼンチンバックブリーカーされたのは後の話である

▲ ハンターイーター 前編

弥生「熱い……」グデー

コタロウ「(ハ、ハ、ハ)」

ナビル「モンソーネ平原を経たらすぐにあるのがクバ砂漠だ。砂漠は日中は暑くて夜になると急激に寒くなる。だからクバ砂漠を渡るときはクーラードリンクとホットドリンクを忘れないようにな！」

リヴェルト「輸送経路はまだまだ先だ。水分補給しつつ暑さにやられないように気を付けろよ？」

弥生「……むう」

リヴェルト「ん？クーラードリンクを忘れたのか？」

弥生「いえ、日焼け止めを持ってくればと思いましたが……」

ナビル&リヴェルト「乙女だなあ……」

コタロウ「(ハ、ハ、ハ)」

ナビル「さあ、砂漠の海を冒険だ！」

弥生「……」ワクワク

リヴェルト（この子、表情が硬いのか表情が豊かなのか分からないぞ…?!）

リヴェルト「——つてな感じで、クロードとアールロが笑顔でドスヘラクレスを両手に持ちながらこつちに走ってきた時は卒倒しかけたぜ…」

弥生「リヴェルトさんは虫が苦手なんですネ…」

ナビルー「弥生は虫もへっちゃらなのになあー」ニヤニヤ

リヴェルト「う、うるせえ、慣れねえものは慣れねえつての。ところで、弥生」

弥生「？」

リヴェルト「弥生はどうしてライダーになりたいと思つたんだ？」

弥生「…司令官が教えてくれたんです。自分の故郷の事、故郷には私の知らない自然や生き物が沢山いる事、その地では人と生き物と自然と共生、共存して生きている事、その均衡を保つために司令官達ハンターさん達が頑張っている事、海と深海棲艦と戦う事しか知らない私達に沢山の事を教えてくれました」

リヴェルト「…」

弥生「その中で、ライダーというモンスターと絆を結び、共に生きていく人達がいる事も教えてくれました。オトモンの乗って大地を、海を、空を駆け色んな所へ冒険できると…私はオトモンに乗ってみたいという憧れでライダーを目指しました」

ナビルー「うんうん、ナビルーもその気持ちよーくわかるぜ」

弥生「そして、コタロウに出会い、コタロウは私に空の景色を、海の景色を見せくれたり、共に戦ってくれました」ナデナデ

コタロウ「(＊・ω・)」

弥生「その時、司令官が言っていたライダーにはオトモンとの『絆』が必要だという意味が分かったんです…今は絆を深め、コタロウと共に司令官達の故郷や私の知らない世界を冒険したいと思ってライダーを目指してます」

リヴェルト「絆、か…なるほどな。ナビルーの前の相棒、リユートに似ているな。ナビルーと一緒にいてくるわけだぜ」

ナビルー「エツヘン！弥生はリユートに続いてすぐライダーになると思うぜ！」ドヤア

弥生「???」

リヴェルト「つと、そうこうしているうちに輸送経路が見えてきたぞ」

弥生「コタロウ、何か見える？」

コタロウ「(・ω・)(三)(・ω・)」キヨロキヨロ

ナビルー「うーん、まだ何も見えないみたいだな」

リヴェルト「よし、経路を渡って探してみるか。少し長い距離を渡るがヘツチャラか

「？」

弥生「大丈夫。暑さにもヘツチャラ、です」フランス

ナビルー「あつーい、疲れたー、冷やしドーナツ食べたーい」

リヴェルト「お前がへばるのかよ!? ナビする奴がへばつたらダメだろうが!？」

弥生「ナビルー、モフモフしてるから暑く感じやすいのかな?」

リヴェルト「アイルーは暑さも寒さもヘツチャラだが、こいつの場合は…まあ、ノリだろ」

ナビルー「コタロウ、乗せてくれー」

コタロウ「(――)」

弥生「頑張れだつて」

ナビルー「なんと殺生な…」

弥生「…」

リヴェルト「どうかしたか?」

弥生「…さつきから気になったのですが、道中に砂山がいくつもありますね」

リヴェルト「ああ、あれは風や流砂で盛り上がってできたんだ。この辺りは流砂の溜まり場が多い、それに崖もある」

弥生「でもハンターさんは高い所から落ちても大丈夫なんですよね？」

リヴェルト「お、おい、ハンターでも多少は怪我をするぜ…誰がそう言ったんだ？」

弥生「司令官とアールさんです」

リヴェルト「あいつらあああああつ!!」

コタロウ「(・ω・)(三(・ω・)」キョロキョロ

弥生「コタロウ、どうしたの？」

ナビルー「何か気配を感じたのかもしれないな！たったいまナビルーのお鬚のセン

サーもピンピンだぜ」

リヴェルト「気をつけろ、例のモンスターはもう近くに潜んでいるかもしれないねえ」

ゴゴゴゴゴツ

ナビルー「うおっ!?如何にも何か来そうな音がしてきたぞ！」

コタロウ「(、旦)」グルル……

ゴゴゴゴゴツ

弥生「どこからくるの…」

リヴェルト「正面や周りからモンスターの姿がねえ…っ!!っ—ことは…っ!」

ゴゴゴゴゴツ

リヴェルト「離れろ!!下から来るぞっ!!」

ナビルー「ええええっ!? 走るぞ弥生っ!」ダッ

弥生「うんっ!」ダッ

コタロウ「三(; ω ·)」ダダダッ

バフーローンッ!!

ハプルボツカ「(皿) /」砂から大口を開けて飛び出す

ナビルー「あれは……ハプルボツカだあああつ!!」

弥生「で、でかい……!!」

ハプル「ブオオオオオオオオオツ!!」

リヴェルト「あれはもしや……『ハンターイーター』か!」

ナビルー「知っているのかリヴェルトのおっさん!!」

リヴェルト「ああ、砂漠の海にハンターはおろかティガレックスをも丸?みにする程の巨大なハプルボツカが目撃された噂があつたんだが……まさか本当にいるとは思わなかつたぜ」

ナビルー「じゃあ今回の砂漠の輸送経路を襲撃した犯人はこいつだったのか!」

リヴェルト「間違いないな……!この大きさだとイビルジョー並みの被害が出る。悪いが倒させてもらおうぞ!」

弥生「コタロウ、いくよっ！」つ10cm連装高角砲

コタロウ「(、皿、)」「グオオオッ！」

ナビルー「気をつけるんだ！ハプルボツカの大口に噛まれたりしたら大変だ！それと砂ブレスに注意だぞ！」

ハプル「三三(、皿、)」「大口を開けて突進

リヴェルト「つて、いきなり来やがった!!走れっ!!」ダッ

ナビルー「ニヤフツ!?な、ナビルーを食べても美味しくないぞーっ!!」ダッ

弥生「コタロウ、火球ブレス！」

コタロウ「〇三三(、皿、)」「火球ブレス

＼BOMB!!／

ハプル「三三三(、皿、)」「怯まず突進

弥生「っ!!効いてない…!?!」

ハプル「三三三(、皿、)」「大口を開けて飛び掛る

リヴェルト「あぶねえっ!!」ガバッ

スザザッ!

弥生「リヴェルトさん…!」

リヴェルト「あのでかさじゃあちよつとやそつとの火球ブレスじゃダメージは小せ

え。厄介な相手だぜ」

ハプル「(、皿、) 三三三」往復突進

ナビルー「げげっ!? また来るぞっ!?」

コタロウ「三(、皿、) ㄥ」強襲キック

ハプル「Σ(、皿、) 怯み

リヴェルト「ナイスだ！俺達も続くぞ！」つ一虎刀

弥生「はい…！」

ナビルー「よし、いけーっ!! 前脚を狙ってこかせるんだ！」

リヴェルト「おらあっ!!」抜刀斬り

ハプル「(、皿、) 噛みつき

リヴェルト「うおっ!?」回避

バチンッ

リヴェルト「あ、危なかった…あのでかきで噛まれたらやべえな」アセアセ

ハプル「三(、皿、) 前進噛みつき

リヴェルト「つと!! 危ねえつての!!」斬り下がり

コタロウ「(、皿、) 三〇三〇三〇」三連火球ブレス

ハプル「(、皿、) 三(、皿、) 回転攻撃

リヴェルト「ぶっ!?」(、3)(…)

コタロウ「(…)(、)(」

弥生「このっ!!」ドーンッ!!

ハプル「()(、)(」砂の中へ潜行

弥生「っ!何処から来るの…!」

ゴゴゴゴゴッ

ナビルー「ニヤフッ!?こっちに来る!」

弥生「っ!」

リヴェルト「やらせるかよっ!」つ三【音爆弾】

キーンッ!!

ゴゴゴゴゴッ

ハプル「(、)(、)(」砂の中から飛び出す

ナビルー「よし、弥生!あいつの顔を狙って徹甲榴弾だ!」

弥生「うん!」ドドーン!

ハプル「Σ(、)(、)(」

コタロウ「(、)(、)(三三〇」火球ブレス

弥生「もう一発!」ドドーン!

ハプル「(、皿、) ; (」怯み

リヴェルト「よし！その調子だ!!」気刃斬り

ハプル「(、皿、 #) 三三三 飛び掛かり

リヴェルト「よっ！」回避

ナビルー「いい感じだ!!このまま畳み掛ければいけるぞー！」

ハプル「(、皿、) #) 砂の中へ潜行

弥生「また潜った…！」

リヴェルト「一先ず音爆弾を…ん？」

ハプル「(、皿、) (」這い出る

弥生「離れた場所に出てきた…」

ナビルー「お、大口を開けて突進か…？」ハラハラ

ハプル「(、皿、) #) ゴオオオオオオオツ

リヴェルト「あの大きさと大量の砂を吸い込んだ…まさかつ!!みんな伏せろ!!」

ハプル「(、皿、) #) 特大砂プレス

ナビルー「うわあああつ!?吹っ飛ばされるうううつ!!」

リヴェルト「くっ…!! 砂嵐よりもやべえぞ!!」

コタロウ「(；； 旦那、旦那)」

弥生「…っ!!」

ブワツ!!

弥生「きやあっ!?!」

ナビルー「しまった、弥生が吹っ飛んだ!」

コタロウ「(； 旦那、旦那)」

リヴェルト「弥生っ!! 大丈夫か!!」

弥生「いたたた…大丈夫、まだ戦えr y」

グラア

弥生「え…? 崖…?!」

ナビルー「まずい!! 弥生が崖から落ちる!?!」

リヴェルト「っ!! 間に合え…っ!!」 ダツシユ

弥生「…っ!?!」 フラア

ガシツ

リヴェルト「ふ…な、なんとか間に合った」

弥生「リ、リヴェルトさん…ありがとうございま r y」

ハプル「(皿 #)」地中から噛みつき攻撃

リヴェルト「あぶねえっ!? : あっ」サツ

弥生「え?」

ナビル「」

コタロウ「。(皿)」

リヴェルト「やべっ、すっかりつかまつてるおおおっ!」ヒューーーン……

弥生「きやああああああっ!!?」ヒューーーン……

ナビル「弥生いい!!リヴェルトのおっさああああん!!」

コタロウ「(;皿;)」

リヴェルト「こっちは何とかするから後で合流だああああっ!!」ヒューーーン

……

ナビル「「すげえ、落ちながら叫んでる…よし!コタロウ、ナビル達も一時離れるぞ!!」

コタロウ「(ω;ω;)」

ナビル「「めそめそするな!大丈夫、リヴェルトのおっさんがいるから弥生も無事だぞ!今は弥生達と合流するのが先決だ!!」

ハプル「(#、皿)」突進

ナビルー「さあ急いで俺達も弥生達を追いかけてよう！」コタロウにライド
コタロウ「こゝゝゝ」飛んで離れる

○9 くつころ系深海棲艦

i n 浜辺

「フフフ…ヤット着イタワ。ココが奴のいる島ネ？」

「遠カッタ…ホッポと遊ブ！」フンス

「それよりも先ズハ奴ヲ見ツケテカラ…」

戦艦棲姫「あら？そこにいるのは…欧州棲姫じゃないの」

レ級「潜水新棲姫も来たんだな。久しぶりー！」

潜水新棲姫「レ級…元気！」フンス

欧州棲姫「久しぶりね。随分と遠い海でのんびりと過ごしているのね」

戦艦棲姫「この海は楽しいわよ？長旅で疲れたでしょ、お茶とお菓子を持ってくるからゆつくりして頂戴」

潜水新棲姫「お菓子…！」キラキラ

欧州棲姫「そんな事はどうでもいいわ。私はウイルスという変な奴に会いに来たの」
レ級「ウイルスに？なんか用なのか？」

欧州棲姫「率直に言うわ。私はそのウイルスという輩を討ちに来たのよ！」

戦艦棲姫&レ級「ふーん…」

欧州棲姫「そう、私達深海棲艦に変な事をしていているという輩を討ち、貴女達の弛んだ精神を鍛え直し…って、反応薄っ!？」

レ級「まあねえ…最初あたしもそう思ってたし?」

戦艦棲姫「まあウイルさんですから…」

欧州棲姫「なんなの!?!そういう所が弛んでるのよ!!というかウイルとかいう輩はどこよ!!」

レ級「ウイルなら出掛けてるぜ?」

戦艦棲姫「たぶんもうそろそろ帰ってくる頃かと思うわ?」

欧州棲姫「もう!!折角来てやったと言うのに、いないとか礼儀が鳴ってない奴だわ!!」
プンスカ

レ級「アポなしで来た奴が言うセリフか?」

潜水新棲姫「ウイル…どんな人?」ハテナ

戦艦棲姫「ウイルさんは楽しい人ね。私達深海棲艦の為に体を張って頑張ってくれた人でもあるわ」

欧州棲姫「フン…バカバカしい。そもそも貴女達がソイツを始末すればこんな事にならry」

ザパア

ウイル「ういー、たっだいまー。今日も昆布が大量だぜ!!」 昆布まみれ

欧州棲姫「」

ホツポ「海のお散歩楽しかった!!」 フンス

重巡棲姫「お魚たくさん獲れた!! 今夜は焼き魚!!」

防空棲姫「釣りは得意なのに餌はへたっぴってどういうことよ…」

ウイル「あ、あれは生態調査だ! うん? 誰か来てたのか?」

ホツポ「あー! 潜水新棲姫だ!」 ノシ

潜水新棲姫「ホツポ…やっほー!」 ノシ

防空棲姫「欧州棲姫も来てるじゃないの? って、何口をあんぐり開けてるのよ」

ウイル「そうかそうか、ホツポのお知り合いって奴だな。俺がウイルだ、よろしry」

欧州棲姫「こんにちはは死ねえっ!!」 バシユツ

ウイル「あぶねえっ!? ぼ、ボウガンっ!?」 フレーム回避

欧州棲姫「ちよ、この距離で避けるの!?!」

ウイル「いやいや!?! 何してんの!?!」

欧州棲姫「貴様は彼女達を腑抜けさせている元凶!! 貴様を討ち、彼女達を解放させて

あげるわ!!」

ウイル「……っていう設定なの？」

防空棲姫「さあ？彼女、こう熱血なところがあるから……」

欧州棲姫「設定いうな！兎に角、貴様を今ここで撃たせてもらう！」

防空棲姫「今、ここで？ウイルを？」

欧州棲姫「そう!!今、ここでっ!!」

レ級「やめたほうがいいと思うんだけど？」

欧州棲姫「止めてくれるな！今討たなければ貴女達は腑抜けるばかり……」

戦艦水鬼「誰が腑抜けるって？」(#^ω^)^ピキピキ

空母棲姫「随分となめてくれるなあ？」(#^ω^)^ピキピキ

南方棲姫「ちよつと表こいや……」(#^ω^)^ピキピキ

欧州棲姫「」

港湾棲姫「けんか、ダメ……」アセアセ

重巡棲姫「ウイルを討たせない……!!」ガルルル

軽巡棲姫「ウイルさん、あれが噂のクッコロ系女子ですよ!!」

ウイル「あの……そんなことより……俺が先にブッコロになるんだけど？」メキメキメキ

駆逐棲姫「ああっ!!ウイルさんが重巡棲姫さんの艦装に巻きつかれてるっ!!」

戦艦棲姫「…とりあえず、御飯にしましょうか」ウフフ

ウイル「というか何で俺のせいであいつらが腑抜けてるって思ってたんだ？」

欧州棲姫「うるさい！仲間からの手紙にお前と腑抜けてるこいつらの写真があつたんだ！！」

ウイル「んなばかな」

深海海月姫「あ、送ったの私」ノシ

レ級「お前が原因かいっ!？」

深海海月姫「だってウイルさん面白いし、欧州棲姫も呼ぼうかなーって思ってたね」テヘペロ

欧州棲姫「兎に角!! 貴様を討たせてもらおう!くらえっ!!」バシユツ

ウイル「ほい」回避

欧州棲姫「このつちよこまかと!!」バシユツ

ウイル「あらよつと」フレーム回避

欧州棲姫「これならば避けられまいっ!!」全砲門掃射

ウイル「どっこいしょっ!!」絶対回避

欧州棲姫「なんなんだよこいつはーっ!？」ガクツ OTL

重巡棲姫「ウイル」

欧州棲姫「いや見ればわかるから!」

深海海月姫「ね?面白いでしょ?」ウフフ

ウイル「こちとら命狙われてるのだけど?」

ホツポ「ウイル!遊ぼつ!」

潜水新棲姫「ウイル:遊んで」

ウイル「おやおや、これまた可愛らしいのがいらつしやつたな」ナデナデ

ホツポ「潜水新棲姫!ホツポの友達!!」フンス

潜水新棲姫「とおせんぼが得意:」フンス

ウイル「潜水新棲姫か。せんちゃんって呼ぼうか」ナデナデ

せんちゃん「せんちゃん:。かっこいい」ドヤア

ウイル「よしホツポ、せんちゃん!何してあそぼつか!」

ホツポ「レップーごっこ!!」

せんちゃん「魚雷ごっこ:」

ウイル「うん、もうちよつと安全そうなのがいいな!」

ホツポ「じゃあ鬼ごっこ!!ウイルが鬼!」

せんちゃん「かけっこ、頑張る」フンス

ウイル「よっしや！待て待てーっ！」

ホツポ&せんちゃん「わーい」

欧州棲姫「おのれ…！こうやって仲間達を惑わすか…!!」グヌヌ

港湾棲姫「もしかして…まざりたい？」

欧州棲姫「ちやうわ!!」クワツ

港湾棲姫「あわわ…」アタフタ

欧州棲姫「あんな遊びに他の深海棲艦が付き合うわけないだろうが…！」

ウイル「はい、鬼追加！」タツチ

戦艦水鬼「フハハハ！さあ走れ走れーっ!!」ダダダッ

ホツポ&せんちゃん「わーい！」

ウイル「ヒヤツハー!!」ダダダッ

重巡棲姫「ウイル、私も遊ぶーっ！」ダダダッ

欧州棲姫「ズコーツ

戦艦棲姫「うふふ、楽しそうで何よりね」ウフフ

ウイル「(☒ω☒)スヤア」昼寝中

欧州棲姫「よし、この距離で狙撃して仕留めてやる……！」ジャキンッ

ウイル「スーヤスーヤ」(☒ ω ☒)

欧州棲姫「ふふっ、ちよろいもんだわ。油断しすぎで隙だらけね」

ウイル「むにやむにや……団長、それハチミツつすよ……！」(☒ ω ☒) スヤア

欧州棲姫「さあ、その綺麗なお顔をぶっ飛ばしてやるわ！兜で顔が見えないけどっ！」
バシユッ

ウイル「(☒ ω ☒) スヤア」

スコーンツ

欧州棲姫「え」

ウイル「ふごっ!? ……スーヤスーヤ」(☒ ω ☒) スヤア

欧州棲姫「ちよ、なんなのよあの装甲は!? ボウガンの矢を弾くとかおかしいでしょ!」

空母棲姫「そりゃあ、あの鎧は私達の砲撃にも耐えるのだから」

欧州棲姫「なっ?! そんなばかな」

空母棲姫「いい? 彼は私達の知らない力と技術を持った人なの。簡単に始末できるとは思わない方がいいわ」

欧州棲姫「ふ、ふぎけるな! 私達深海棲艦が人間ごときに従っていいものか!」

空母棲姫「……中には争いをもう望まない者もいる」

欧州棲姫 「っ…しかし…」

空母棲姫 「それに、ウィルがいないきや私達はこの島にはいられなかったわ」

欧州棲姫 「…: どういうことなの？」

空母棲姫 「この島だけじゃない、ウィルは私達の知らない自然や計り知れない生物がいる事も教えてくれたわ」

欧州棲姫 「な、なんなのよそれ…」

空母棲姫 「少し長くなるし、話すのめんどいから実際に知った方がいいわね」

欧州棲姫 「いやいやいや」

空母棲姫 「まあ…: 一つ言えるとなれば、ウィルは人間じゃなくて竜人族ってところね」

欧州棲姫 「…: ますます分からないわ」

欧州棲姫 (あのウィルという輩が深海棲艦に何をしたっていうの…: 本当によく分からないわ…:)

防空棲姫 「まーた難しそうな面してるわね…」

空母棲姫 「そのうち大人しくなる。今はそつとしておきましょう」

港湾棲姫 「だ、大丈夫かなあ…」アタフタ

欧州棲姫 「…: あれ？ウィルはどこ行ったのかしら？」

駆逐棲姫「ウイルさんならホッポちゃん達と探索しに行きましたよ？」

欧州棲姫「探索……？あのジャングルみたいな所へ？」

戦艦棲姫「夕方には戻ってくるって言ってたわ」

欧州棲姫「……！そうかそうか……ならば私も行くとするか」

駆逐棲姫「あ、危ないですよ！」

欧州棲姫「ふん、ジャングルに潜む生き物ごときに後れを取る私ではない！」

駆逐棲姫「で、ですが……」

戦艦水鬼「そうか、じゃあ行ってくるわ」といい

駆逐棲姫「!!戦艦水鬼さん！」

戦艦水鬼「そろそろ灸をすえてやってもいいだろう」

欧州棲姫「では、行ってくるぞ！」

i n 森林地区

欧州棲姫「ふふふ……これはチャンスだわ。ウイルを茂みの奥へと誘い込み、奇襲をかけて討つ！」

ガサガサ

欧州棲姫「そうすれば彼女達に平和が訪れて、腑抜けた根性を一から鍛え直せるわ!!」

ガサガサ

欧州棲姫「とうかきつきからガサガサと五月蠅いわね！」

ランポスA「……？」

ランポスB「……？」

欧州棲姫「な…なんなのこの鳥みたいなたカゲは？」

ランポスA<ハイネーチャン、オチャニシナイ？

ランポスB<イツシヨニアソボウゼー

欧州棲姫「しつこいわね！どっか行け！！」ブンブン

ランポスA<アブネツ！！

ランポスB<コイツハジャジャウマダ！ニゲロ！！

欧州棲姫「ふん…大したことないわね。この調子でさつきとウィルを見つけないら」

ネルスキュラ「(XWX)「ジーツ…

欧州棲姫「」

ネルスキュラ「キシヤアアアアツ！！」

欧州棲姫「きやああああああつ!?クモ!?でかすぎ!？」

ネルスキュラ「(XWX)「」爪攻撃

欧州棲姫「あぶなっ!?このっ!!」ドドーン!!

ネルスキュラ「((⊠W⊠)」ヒョイッ

欧州棲姫「なっ!! 躲された!?!」

ネルスキュラ「◎三三三(⊠W⊠)」糸飛ばし

欧州棲姫「しまっ…!!」糸に絡まる

ネルスキュラ「(⊠W⊠) (())」

欧州棲姫「ぐっ、と、取れないっ!! この糸頑丈すぎ!?!」

ネルスキュラ「グルアアアアツ」鋏角を出す

欧州棲姫「え、ちよ、ま、待って!?! かなり毒々しいのだけど!?!」

ネルスキュラ「グルアアアアツ!」鋏角を振りかざす

欧州棲姫「っ!!」

ウイル「そいやああああっ!!」ジャンプ斬り

ネルスキュラ「Σ(⊠W⊠) ;」

欧州棲姫「あ、あんた…!!」

ウイル「あつぶないな…ネルスキュラの縄張りに入りや襲われるっての」

欧州棲姫「くっ…ころせっ」

ウイル「いやそういう状況じゃないでしょ!?!」

ネルスキュラ「C(☒W☒ #)」爪攻撃

ウイル「うおつと!!」回避

重巡棲姫「ヴァアアツ!!」砲撃

ホツポ「これでもくらえつ!!」つ三三三「ドラム缶」

ネルスキュラ「Σ(☒W☒ ;)」

欧州棲姫「ホツポ、重巡棲姫!!」

ホツポ「ウイルなしで探索するのは危ないよ?」

重巡棲姫「ここ、でかい蜘蛛の巣。一人じゃ危険」

欧州棲姫「…ホツポ、どうしてあいつと一緒にいるの?」

ウイル「おらーっ!!」乗り攻撃

ネルスキュラ「(☒W☒ #)」ジタバタ

ウイル「ヒヤツハー!!お仕置きの時間だぜ!!」ザクザクザクザクツ

ホツポ「ウイルは色んな事教えてくれる!自然とか生き物とかいつばい!レップー一緒に探してくれたし楽しいの!」

重巡棲姫「こんがり肉もくれる!」

ホツポ「冒険も楽しいし、えーとそれから…大事なことを教えてくれる!」

欧州棲姫「大事なこと…?」

ホツポ「えーと、深海棲艦も艦娘も人も同じ自然に生きるものだって」

欧州棲姫「…」

ウイル「ほら、少しの間お散歩行ってこーい!!」つ三三【こやし玉】

ネルスキュラ「() (; ⊠W⊠)」クセーッ

ウイル「ふー…しばらくの間、大丈夫だ。けがはねえか?」

欧州棲姫「え、ええ…」

ウイル「そうかい。それならよかったよかった」

欧州棲姫「あの…」

ウイル「うん?」

欧州棲姫「…ま、まだ完全に認めたわけじゃないけど…一応、一応!仲間達を腑抜けさせてないってことは認めてあげるわ」

ウイル「…」

欧州棲姫「か、借りだから勘違いしないで頂戴!変な事しないよに監視するんだからね!」

ウイル「…なあこれって油断させて背後から襲い掛かってくるパターン?」

ホツポ「なんと!」

重巡棲姫「ウイルを守る…!!」ガルルル

欧州棲姫「ああもう面倒くせえなこいつ」

ウイル「まあ何はともあれ、さっさと帰ろうか」

ホツポ「うん！帰って御飯にしよう！」

重巡棲姫「ウイル、こんがり肉焼いて!!」

欧州棲姫「…本当に面白い人ね、フフツ」

ドドドドドツ

欧州棲姫「ちよ、何の音？」

ウイル「あ…すっかり忘れてた。みんな急いで走るぞ」

ホツポ「スリル満点の予感！」ウイルの背中にしがみつく

重巡棲姫「頑張る!!」

欧州棲姫「え、は？ど、どうということ？」

ティガレックス「三三三三(#、皿)ドドドドツ

欧州棲姫「(皿)。。。

ウイル「いやー…っというっかり昼寝中のティガの尻尾を思い切り踏んずけてしまっ
な」テヘペロ

ホツポ&重巡棲姫「逃げる逃げるー！」ワイー

欧州棲姫「いやああああああっ!?!」ダツシユ

——面白い奴と思っていたがやっぱり本当に面倒くさい奴だと改めて思った欧州棲
姫であつた

◇14 ようこそ海防艦

i n 執務室

アール「……」

グレイ「……」

アール「フフフ……3のスリーペア」ドヤア

グレイ「ストレートフラッシュユなんですけど」ニヤア

雷「フオーカードよ！」エツヘン

雪風「ロイヤルストレートフラッシュユです！」

アール「ダニイ!?!」

加賀「何ちやつかりポーカーしてるんですか」スパーン

アール「ゴメンヌ!?!」..:。(ε。(

雷&雪風「アールさーん!!」

大井「もう、仕事をしてると思ってたら遊んでるじゃないですか」

アール「しょ、書類整理が終わったんだもん……」タンコブ

グレイ「主に俺が」

加賀「主にダメじゃないですか」スパーン

アール「ブベラツ!?」…。(ε。ε)()

大井「はあ…しっかりしてください。大本営から新しい艦娘が着任するというのに、だらしのない所見せられないわよ」

アール「ぬ?新しい艦娘が着任?」

大井「はい、大本営から通達が来ていますよ」つ【手紙】

アール「どれどれ?…ふむ…」

雷「アールさんが渋そうな顔に…!」

雪風「きつとんでもない事がかかっているのかもしれない!」ドキドキ

グレイ「で、なんて書いてんだ?」

アール「…何て読むのこれ?」キョトーン

艦娘達「ズコーツ

大井「…殴っていい?殴っていいよね?」(#ωω)

雷「お、大井さん、落ち着いてください!」

アール「あの、これって何?うみぼうず娘?」

加賀「これは…海防艦ですね」

アール&グレイ「かいぼうかん?」(ωωω)(ωωω)?

大井「沿岸警備、船団護衛、対潜戦闘、漁業保護を主眼とする艦娘のことです」

アール「へー、遠征や近海警備が得意な艦娘なんだね！」

グレイ「…そのフリーズ、どっかで聞いたことがあるよな…はて？」

大井「潜水型の深海棲艦海の鎮守府襲撃もあるようで、各鎮守府に防艦の着任する様になったみたいですね。この子達の着任で鎮守府近海や鎮守府近海航路の警備や警護が強固になっていきますよ」

グレイ「こいつは頼もしいな！どんな艦娘がくるんだろうな…」

アール「きつと鎧一式を纏った頑丈そうな子かもな！」

加賀「たぶんそれハンターさんじゃないですか？」

大井「でも…遅いですね」

グレイ「ん？どういう事だ？」

大井「もうこちらに來ている時間なのですが…」

雷「もしかして道に迷っちゃったのかしら？」

雪風「それじゃあ探しに行きましょうー！」

天龍「アールさん、入るぜー」

アール「おう天龍、どした？」

天龍「鎮守府門前でアールを見て気を失つてた艦娘を見つけてさ、この鎮守府に着

任することになったってことで連れてきてやったぜ」

大井「まあ…そうよね。二足歩行で歩く喋る猫を見たら普通誰だつてビックリするわよね」

天龍「何とか執務室まで連れてきたんだけど…：…おーい、入って来ていいぜー」

アール「どんな子かな…」ワクワク

グレイ「戦艦や重巡並みにスリムな子かな…」ワクワク

シーン…

アール「…あれ？来てないぞ？」

グレイ「もしかして緊張して出てこれない？」

天龍「…：…二人とも、下。下を見ろつて」

アール&グレイ「へっ？」チラッ

択捉&松輪「」

アール&グレイ「…：…」(。D。)

アール「ちっちやつ!？」

グレイ「え!?!この子が海防艦!?!駆逐艦ぐらいちっちやいよ!?!」

加賀「海防艦ですもの」キリッ

グレイ「そういうことね!!よく分かんないや!」

択捉&松輪「」

アーロ「小つちやくても立派な艦娘だもんな……ごほん、気を取り直して……俺が今この鎮守府の提督代理を務めているアーロだ。よろしくな！」ズイツ

グレイ「それで代理補佐をしているグレイだ。この鎮守府は大変かもしれないが、気楽にやって行こうな」

松輪「(; ω ;)」ブワツ

アーロ「泣いた!?!」

グレイ「おい泣かしてどうする!!」

松輪「ひっ」ガクブル

択捉「ま、松輪……だ、大丈夫……と、取って食わない人……だと思っから……!」ガクブル
アーロ「……どうしてみんな怖がるのかなー」シヨンボリ

グレイ「態度がダメなんじゃないのか?」シヨンボリ

加賀「鎧のせいですね」

大井「絶対に鎧のせいですね」

天龍「アーロさん達の鎧姿を初めて見たら誰だっぴびるもんな……」

——数十分後

択捉「えと……怖がってすみませんでした」ペコリ

アール「ま、まあ気にしてないから大丈夫だよ……」(川「……」)

グレイ「いつものことだし……」(川「……」)

天龍「あれ絶対気にしてるな……」

加賀「豆腐メンタルですね……」

松輪「……っ」 択捉の後ろに隠れる

アール&グレイ「……ω……」 「ソナー」

大井「もう、いつまでしょげてるんですか。話が進まないですよ」

択捉「は、はい！ 択捉型一番艦、択捉です！ 船団護衛、沿岸警護ならお任せください
！」

松輪「あの……え、択捉型海防艦の松輪……です……」 ガクブル

アール「ふむふむ。この辺りの近海は普段の海とちよつと違うけども、力を合わせて
頑張つていこうな」

択捉「はい！ よ、よろしくお願いいたします！」

大井「ちよつと……？」

天龍「巨大な魚とかでかいスポンジドラゴンとかいるけど……ま、まあアールさん達
にとつてはいつもの事なんだろうしな……」

松輪「……」 ジーツ

アーロ「だ、大丈夫だぞ？怖くないよー」ニンマア

松輪「ひっ……!!ご、ごめんなさーい！」ダッ

扨捉「ま、松輪！まっ……!!」ダッ

アーロ「あっ……」

加賀「逆に怖がらせてどうするんですか」

アーロ「むう……どうすればいいのかなあ」

グレイ「まずは仲良くしなければいけないな」

天龍「つか兜と鎧はずせよ」

アーロ&グレイ「えー」

天龍「めんどくせえ……」

雷「そうだわ!!怖くないような恰好をすればいいのよ!」

アーロ「怖くない……?」

雷「そうよ、なんとというか……可愛い顔の兜とか着ぐるみとか!」

アーロ「……!!それだ!!」

——数十分後

扨捉「この鎮守府の皆さんが言ってたよ。見た目は怖そうだけど、とっても優しい人なんだって!」

松輪「う、うん…でも…」

沢村「大丈夫。私も一緒にいてあげるから」

松輪「が、頑張ってみる…し、失礼します」ガチャリ

アール「やあ、待っていたよ」ガーグアフエイク

グレイ「俺達と一緒に遊ぼう」アイルーフエイク

松輪「いやあああああつ!!」ダツ

沢村「松輪!ま、まってー!!」ダツ

アール&グレイ「…あるえ?」

大井「ダメに決まってるだろうがああああつ!!」ドドドドドツ

アール&グレイ「ぶべらあつ!!」(＃)・3、; ; ; ; ;

天龍「き、決まったーっ!!大井のハリケンミキサーだーっ!!」

雷&雪風「やったーっ!!」

大井「なんですですか!?!不気味すぎる兜をつけただけじゃないですか!」

アール「いやー…可愛いのって言うから」

グレイ「可愛いのはこれしかないんだよねー」

大井「不気味すぎるわっ!!」

加賀「というか事案ですよ」

アール「むう……ここはやはり、仲良くするためにユクモステップで迫るとか」

加賀「もつとダメです」

グレイ「!!……私にいい考えがある」キリッ

天龍「絶対ダメなやつじゃねえの……?」

in 母港

松輪「はあ……」

択捉「松輪、元気を出して」ポンポン

松輪「本当はアールさん達と仲良くしたいのだけど……緊張してしまつて……」

択捉「……一緒に頑張ろ。一緒に緊張なんて吹っ飛ばよ!」

松輪「う、うん……」

＼みんな……!／

松輪「あれ?なんか聞こえてくる……?」

択捉「何かこつちに来て……」

アール「みんな!!」両手にケーキを持って走ってくる

松輪「きやあああああつ!?」ダツシユ

択捉「ま、松輪ー!」ダツシユ

アール「あつ、怖くないよー!! まつてー」ダダダダツ

龍驤「…なんやあれ?」

高雄「アールさんが両手にケーキを持って海防艦の子を追いかけてる…」

長門「…!! その手があつたか…!!」クワツ

飛龍「長門さん?」

北上「…判定、加賀さん」

加賀「ギルティです」

大井「砲撃用意!! 標的、アールさん! てーっ!!」

ドドドドーン!

アール「まてー…つて? あれ? 何かこつちに弾が…: : : スワーツ!?」critical

!

択捉「だ、大丈夫ですか、アールさん…?」

アール「大丈夫、大丈夫。日常茶飯事だから慣れっこさ」プスプス

北上「あれは普通にアウトだったけどね」

グレイ「ワロス」 m 9 (^ 皿 ^)

アール「ああ？」

高雄「ここで喧嘩してたら余計に怖がられますよ？」

アール「すまん……」 ショボボン

択捉「でも、アールさんもグレイさんも松輪と仲良くなろうと頑張ってるのがよく分かりますよ」

アール「択捉……」

択捉「私も一緒に協力します！」

アール「択捉、お前ってばとってもいい奴だな……」 ナデナデ

グレイ「やばい、めっちゃ撫でまくりたい」 ナデナデ

択捉「ひやわっ! ? く、くすぐったいですよー」

大井「……」

龍驤「ステイ、ステイ。まだそういう状況じゃないで」

アール「しかし……どうやったたら怖がらせずにすむかなー？」

択捉「うーん……やっぱり、あれじゃないですか？」

アール&グレイ「あれ？」

i n 工廠

松輪「……はあ、また逃げ出しちゃった……」

択捉「松輪、ここにいたんだね」

松輪「あ、択捉ちゃん……」

アーロ「や、やつほ……」ヒョッコリ

グレイ「やあ」ヒョッコリ

松輪「つ!!」

択捉「大丈夫だよ。松輪、深呼吸して落ち着いて」

松輪「あ、あわわわ……」

アーロ「……」スタスタ

松輪「……!」

アーロ「よつこらせ」松輪の身長に合わせてしやがむ

松輪「……え?」

アーロ「すまなかった、怖がらせちゃったな」

松輪「あ、アーロさん……」

アーロ「俺はこの提督のクロードと違って不器用でさ、勢いでやつちまうところが多いんだ。それなりに頑張ってるけども……怖い思いをさせたのは司令官失格だな」ニガ

ワライ

松輪「……」ナデナデ

アーロ「？」

松輪「そ、そんな事ないです……：：：鎧を着て、大きい人だけ……本当は誰に対しても優しくて、一生懸命に頑張ってる人だっけ見てて分かります……」

アーロ「そっか……ありがとうな」ナデナデ

松輪「わわわ！く、くすぐりたいです……」

アーロ「もう、怖くねえか？」

松輪「は、はい……もう大丈夫です」ホホエミ

アーロ「よ、よかったー……！」プシュー

グレイ「なるほど、視線を合わせるってのも大事なのな」

択捉「松輪ちゃんは恥ずかしがり屋ですからね」

松輪「グレイさん、ご迷惑をお掛けしました」ペコリ

グレイ「なーに、いいってことさ。これで一件落着だな」

アーロ「工廠だし丁度いい、みんなで大型建造といきますか！」

松輪「ふええっ!?!い、いきなりですか!?!」

択捉「それじゃあお手伝いしますね！」

松輪「え、えっと頑張ります！」

アール「それじゃあ弾薬は……滅龍弾でいつか」

松輪「な、なんですかそれ!？」

グレイ「けっこうあるな……2つに分けてたんまり入れるぞ」

択捉「こ、こうですね！」

アール「鋼材は……アルティマ結晶を入れてみるか！」ポイポイ

松輪「こ、これ鋼材ですか……？」ハワワ

択捉「み、見たことがない大きさの宝石ですよね……？」

グレイ「ボーキの代わりにドラグライト鉱石だな。ボーキの節約にもなるし」

アール「燃料も入れて……隠し味に琥珀色の重牙と轟竜の天鱗、そして大タル爆弾G

も入れちゃうぞー！」

グレイ「よっ、太っ腹!!」

択捉「い、一体どうなっちゃうのかな……」

松輪「こ、これって大型建造……じゃないよね？」

アール「さてと!!これで建造開始して……高速建造材だーっ!!」ヒヤッハー!

松輪「か、片手で高速建造材を……!？」

アール「これで、完成！」

アール&グレイ「いえーい！」

大井「イエーイじゃねええええつ!!」ラリアット

アール「ぼへっ!?」critical!

加賀「アールさん、グレイさん、またやってしまいましたね」

グレイ「えへへー…つい？」テヘペロ

大井「ついじゃありません!!」プンスカ

龍驤「な、中身はどうなってるんや…?」

アール「と、兎に角、確認するしかねえな！きつとちやんと成功してるさ」

工場オーブン

アイオワ「Hi!!」ノシ

アール「ソットジ

加賀「……アールさん？」

アール「……うん、大丈夫。大丈夫だぜよ？」

天龍「やらかしたよな？ いま絶対やらかしたよな？」

大井「一体なにができてたのよ」オーブン

アイオワ「Hi！ MeがUSAのIowa級戦艦、Iowaよ！Nice to meet you！！」

大井「」

龍驤「」

グレイ「で、でけー…これが、セクシーダイナマイトっ！！」

アール「こ、金剛さんかな…？」

加賀「海外艦です」

アール「H A H A H A、愛宕さんかな？」

加賀「いいえ、海外艦です」

グレイ「ちなみに、出る確率は？」

加賀「普通、ありません」

アイオワ「Oh!!とてもirregularなarmorをしてるわネ！Youがこの艦隊のAdmiralなの？」

アール「へ、へ？えつと…俺は提督代理をしてて…」

アイオワ「Hum? Admiralはabsence? When does the
admiral come home?」

アール「た、助けて加賀えもーん!!」

加賀「仕方ないですね…」

——加賀さん説明中——

アイオワ「Ok、この鎮守府は他の鎮守府と少し違うのネ?」

アール「そ、そういう事ね…で、俺が代理をやってるアールだ。よろしくな」

アイオワ「Yeah!!とてもstrongなarmorをしてて逞しいわね。気に入ったわ!よろしくね、アールさん、グレイさん!」握手

アール「か、海外艦つて皆、でけえのな…」

加賀「どこ見て言ってるんですか」スパーン

アイオワ「Oh!!あれが所謂Manzai!!」

グレイ「ちよつと違うと思う」

松輪「あ、あの…まだもう一つあるんですけど…?」

大井「どうしよう…嫌な予感しかしないわ…」

アール「大丈夫、大丈夫!ここですげえのが出たんだからこっちは大丈夫のはず!」

オープン

ガングート「……ん？」ジロリ

アール「ガシャーンッ!!

択捉「す、すごい勢いで閉じましたね……」

天龍「またやっちまったんだな？」

アール「……どうしよう、でっかい響がいる」

大井「はあ?……って、まさかっ!!」

ガングート「ふん……会って早々いきなり閉めるとは、この鎮守府はどういう方針なのだ?」

グレイ「ほんとだ、でっかい響だ」

アール「つ、つまるところ、ヴェールヌイ亜種ってやつだな!」

加賀「現実逃避しないでください、海外艦です」

ガングート「ふん、私がロシア艦、Г а н г у т 級一番艦、Г а н г у т だ」

アール「どういう事だつてばよ？」

グレイ「ヴェールヌイのお姉さんってわけだな？」

加賀「ですから、海外艦です」

ガングート「それで、この鎮守府の司令官は誰だ？」

アール「クロードは今遠くに出掛けてな。俺が代理を務めているんだ」

ガングート「ほお？変わった軍服だな。それが貴様の制服か」

アール「まあ堅い事はなしで、仲良くやろうぜ！」ポンポン

ガングート「……」ズドンッ

アール「ぶっ!？」

択捉「う、撃った!？」

アイオワ「Oh, my god!?!アールさん!？」

アール「び、びっくりした……」ムクッ

ガングート「!!……成程、想像以上の装甲をしているのか。至近距離で撃つたのだがな」

天龍「イヤイヤイヤ!?!何してんだよ!？」

ガングート「気安い奴は銃殺刑ものだ」

アール「OK、OK、その悪かったなスキンシップは大事だが、気をつけるさ」

ガングート「…まあいい。文化交流も大切だが、次はないぞ」

龍驤「うん、アールさんならいくら撃たれてもヘッチャラな気がする」

北上「全弾直撃してもピンピンしてるもんねー」

グレイ「へー…ドイツにイタリア、USA、そしてロシア…海外艦ってたくさんいるんだな」

アイオワ「噂によるとイギリスやフランスの艦娘もいるみたいよ!!」

アール「そいつはすげえな!! いっちょ建造してみつか」

大井「やめんか!」シャイニングウイザード

アール「ごでいばっ!?!」

▲ ハンターイーター 後編

前回のあらすじ：調査のためリヴェルトと共にクバ砂漠へ訪れた弥生とナビルー、コタロウ。そこで出くわしたのは超金冠サイズのハプルボツカこと『ハンターイーター』。ハプルボツカの襲撃で弥生とリヴェルトは崖へ落ちてしまった。ナビルーとコタロウと別れてしまった弥生、果たして無事に再会できるのだろうか、『ハンターイーター』を討伐できるだろうか

i n 崖下

弥生「いたた：：だ、大丈夫ですか？」

リヴェルト「お、おう：それよりどいてくれると助かるんだが：」

弥生「わっ!?!ご、ごめんなさい」ヒヨイツ

リヴェルト「くー：久々に高所から落ちると体中が痛いな」コキコキ

弥生「そうですか？司令官やアール口さんはヘツチャラだと言ってましたが」

リヴェルト「うん、それはあいつ等は色々とおかしいからな。それにしても：：」見上げる

弥生「？」

リヴェルト「随分と高い所に落ちたな。ハプルから逃れたのはいいが、戻るには一苦勞するぞ」

弥生「コタロウとナビルーが心配です…」

リヴェルト「ナビルーがいるから大丈夫だろう。あいつ等ならきつと安全な場所へ避難してから俺達を探す」

弥生「…ここを登りますか？」

リヴェルト「スリンガーを使えば楽だが…：うーむ…：」

弥生「スリンガー…？」

リヴェルト「弥生にはまだ使いこなせないだろうし、しよってよじ登るには難しいな…：仕方がない、遠回りになるがこの道を通っていくか」

弥生「…：」ムスー

リヴェルト「…：どうかしたのか？」

弥生「…：私、そんなに重くないです」プンスコ

リヴェルト「…：お、おう」

i n k 巴砂漠上空

コタロウ「(・ω・、)三(・ω・)」キヨロキヨロ

ナビルー「なあー…弥生の事だから大丈夫だって、心配しすぎだぜ？」

コタロウ「(・ω・；ω・；)ブワツ」

ナビルー「ほら、泣くなよ。リヴェルトのおっさんがいるから崖から落ちても怪我はしてないって！」

コタロウ「(・ω・；ω・；)クーン・・・

ナビルー「兎に角、弥生を探さないと。崖の先を伝って行くしか…ん？あれは…」

ハプル「三三(皿)ドドドドドッ

ナビルー「あいつ、獲物を探して移動してるな。急いで弥生を見つけないと…！」

コタロウ「三(皿)急降下

ナビルー「わわわっ!?は、速まるなコタロウっ!!弥生は無事だから!あいつを倒すのは後だから!」グイグイツ

コタロウ「(皿、皿)ノ」ガルルル

ナビルー「お、怒るのは分かるが落ち着け!今戦って怪我でもしたら弥生が悲しむぞ!」

コタロウ「(・ω・)」クーン…
ナビル「は、早く探さなきゃ…」

弥生「…」グウ…

リヴェルト「腹が減ったか？」

弥生「は、はい…」

リヴェルト「生憎焼肉セットが崖から落ちた時に壊れちゃったからな…そうだ、ほ
れ」

弥生「…アオキノコ？」

リヴェルト「食い物が無い時はキノコがあれば大丈夫だ」

弥生「あ、あの、アオキノコって普通は食べられないんじゃないや…？」

リヴェルト「そうか？俺はキノコが大好物だからへっちゃらだが『キノコ大好き』な
ら普通に食べるぞ？」

弥生「いや食べれるんですか？」

リヴェルト「クロード達も平気で食うが…焼いとくか？」モグモグ

弥生「や、焼いていただきます…り、リヴェルトさんはそのまんま食べて平気なん
ですか？」

リヴェルト「?ハンターでもキノコを生で食べるぞ?」ムツシャムツシャ
弥生「」

※キノコを生食すると食中毒の恐れがあるので良い子の皆は真似しないでね

弥生「焼いたら美味しい」キラキラ

リヴェルト「そ、それは良かったが…なんでキラキラしてんだ…?」

弥生「?…艦娘だから?」ハテナ

リヴェルト「いやよくわかんねえよ!」

グウウウウウ…

リヴェルト「…もしかしてまだお腹空いてたりしてるのか?」

弥生「いえ…この音は私じゃありません」

リヴェルト「じゃあこの音は…」

グウウウウウ…

リヴェルト「吹き抜ける風の音か?いやでも結構響く音だな」

弥生「音の方はこつちですね…」スタスタ

リヴェルト「お、おい、そつちへ行くのか!?あーもうしやあねえな…」

―歩いて数分後

弥生「ここは…?」

リヴェルト「む、こんな所にオアシスがあつたなんてな。それにこの先に砂漠への出口が見える」

弥生「これでナビルーとコタロウを探せれる」ホッ

リヴェルト「出口は見つけたが、音の正体は……」キョロキョロ

弥生「リヴェルトさん、あれ……」

セルレギオス「(川、皿)」グウウウウウ……

リヴェルト「あれはセルレギオスじゃねえか!? こんな時につ」チャキツ

弥生「待つてください、何か様子がおかしいです」

セルレギオス「(皿、川)」

リヴェルト「なんだ? うずくまって震えているな」

弥生「とても気分が悪そう……」

リヴェルト「おい! 無暗に近づくとあぶねえぞ!!」

セルレギオス「(皿、川)」グルルル……

弥生「大丈夫……怖くないよ」

セルレギオス「(皿、川)」刃鱗を逆立てる

リヴェルト「気をつけろ。下手に刃鱗を触るなよ？体に刺さって裂傷でも起こしたら大変だからな？」

弥生「分かっています。でもこの子、体中に傷が」

リヴェルト「セルレギオスは縄張り意識が強く同種同士と常に縄張り争いをする。争いに負けた個体は深手を負い遠方へ遠ざけられ大抵は命を落とすんだ。この個体も恐らく縄張りから追い出されたと思うのだが…その様子じゃ傷以外に何か原因がありそうだな」

弥生「司令官みたいに触診できたら…」スツ

セルレギオス「(川、皿、)」ジタバタ

弥生「いたっ…！」

リヴェルト「無理すんな！いくら手負いとは言えども危険だぞ」

弥生「こんな怪我、被弾した時と同じくらいです…！」

リヴェルト「つたく、クロードみたいに意地っ張りだな…：：：しやあねえ、こつちに気を引かせる。その間になんとかしろ」

弥生「はいっ」

セルレギオス「(、皿、川)」グルルル…

リヴェルト「おら、こつちを見やがれ！」

弥生「……！リヴェルトさん！この子、胃腸のあたりが鳴っているようです。もしかしたら、何か変なのを食べたのかも……」

リヴェルト「食あたりかよっ!?ま、まあその可能性もあるな。そこら辺の生えてるものを見る」

弥生「?熱帯イチゴですか?」

リヴェルト「こいつは熱帯イチゴもどきサボテン。こいつは食用になる熱帯イチゴとよく似ててな、採取して暫くすると針が伸びて危険な上に食べると麻痺性の毒があるんだ」

弥生「……じゃあ間違えて食べたの?」

リヴェルト「だろうな。よほど腹が減っていたのだろう。このニガ虫と落葉草の根を調合させた漢方薬を飲ませれば治るぞ」

弥生「ありがとうございます。それじゃ早速……」つ【漢方薬】

セルレギオス「!(;(; 皿、(」 苦悶の表情

リヴェルト「まあかなり苦いんだけどな」

セルレギオス「(; 皿、)」

弥生「よかった、落ち着いてきたみたい」ナデナデ

セルレギオス「(; 皿、)」

弥生「あとは回復薬を……」

リヴェルト「?こいつの怪我を治すのか?」

弥生「すみません。艦娘としてどんな時でも誰かを見捨てることはできないんです……」治療中

リヴェルト「……まあいいさ。クロードも見捨てはしないでろうしよ。本当にあいつからしつかりと教わってんなあ」

弥生「ごめんね、食べれるものは焼いたアオキノコとおやつのもスジャーキーしかないの。治るまでこれで我慢してね」

セルレギオス「……」ジー……

リヴェルト「よし、そろそろ行くぞ。夜になる前にナビルー達と合流しねえとな。砂漠の野宿はかなり寒いぞ?」

弥生「はい。それじゃあ元気でね」ノシ

セルレギオス「(´ω´)」ジーッ

弥生「あの子、じつと見てますけど……?」

リヴェルト「油断はするな……傷が治った途端襲い掛かってくることもある。振り返らずに砂漠へ行くぞ」

i n 砂漠

弥生「ふう…砂漠ってかなり広いんですね…」フウフウ

リヴェルト「日も暮れそうだな。ここいらで休むか？」

弥生「いえ、もう少し歩きます…！」

リヴェルト「おう、その意気だ。それにしてもナビルーの奴、コタロウを連れて何処飛んでんだか…」

ゴゴゴゴゴツ

弥生「この音は…!!」

リヴェルト「下から来るぞ!!避けろっ!!」回避

ハプル「\、皿、/」下から飛び出す

リヴェルト「ちっ!!先にこいつが来やがったか…!!弥生、離れとけ!」つ一虎刀

弥生「援護します…!!」つ10cm連装高角砲

ハプル「、皿、)」噛みつき

リヴェルト「おらあっ!!」避けて袈裟斬り

ハプル「(、皿、)」連続噛みつき

リヴェルト「おつとと…!!あ、あぶねえ…」ヒヤヒヤ

弥生「これでどう…!!」ドーンッ

ハプル「Σ（、皿）Hit!!」

リヴェルト「よしっ！今だっ!!」気刃斬り

ハプル「（；、皿）」右前脚部位破壊、ダウン

リヴェルト「このまま畳み掛けるっ…!!」連続気刃斬り

ハプル「（皿、#）三（#、皿）」回転攻撃

リヴェルト「ぶべっ!?!」…（ε）（）

ハプル「（、皿、#）」ジロリ

弥生「っ!!」

ハプル「（、皿、#）三三三」大口を開けて突進

弥生「徹甲榴弾で…!!」ドドーン!

ハプル「（、皿、#）三三三」怯まず突進

弥生「!!効いてない…!?!」

リヴェルト「まずい、弥生!!走れ!!」

弥生（一か八か…もう一発っ!）ジャキンッ

ハプル「（、皿、#）三三三」間近に迫る

弥生（いけない…!!間に合わない…!!）目を瞑る

バスンツ!!

リヴェルト「弥生っ!!……む?」

ハプル「?」(皿 皿 皿 皿)「キヨロキヨロ

リヴェルト「食われてない……いや、あれは……!!」

弥生「……あれ? 痛くない……? 寧ろ何か浮遊感が……?」恐る恐る目を開ける
ヒューン

弥生「飛んでる!? いや、何かにつかまれて……」チラツ

セルレギオス「三三三(、ω、)」足で弥生を掴んで飛行

弥生「さっきのセルレギオス……!!」

リヴェルト「あの野郎!! やっぱり襲い掛ってきたのか……!!」

セルレギオス「(、ω、)っ」弥生を下す

弥生「えつと……」アセアセ

セルレギオス「クルルル……」猫撫で声

ハプル「(、皿、)」威嚇

セルレギオス「(、皿、)」刃鱗を逆立てて威嚇

弥生「た、助けてくれるの……?」

セルレギオス「○三○三、□、□」刃鱗飛ばし

ハプル「Σ(；、皿)」「怯み

セルレギオス「(、□)」「タツクル

ハプル「(#、皿)」「噛みつき攻撃

セルレギオス「(「(・、ω・ノ)ノ」飛んで蹴り攻撃

リヴェルト「…: どういう訳か分からないが、押ししてるぞ!! 俺も行くぜ!」抜刀斬り

ハプル「(；、皿)」「怯む

弥生「これならいける…!」ドーン!

ハプル「(#、皿)」「タツクル

セルレギオス「Σ(；ω、(「)」ヨロヨロ

弥生「いけない、まだ傷が治りきってない…!」

ハプル「(#、□)「(「)」ゴオオオオオッ

リヴェルト「つ!! 気をつけろ!! 砂ブレスがくるぞ!」

ハプル「(#、皿)「特大砂プレス

セルレギオス「(；□)「翼を広げて弥生を庇う

弥生「くうっ…!! 無理をしないで…!」

ヒューン… ○三三

ハプル「Σ（）、皿（）Hit!!

リヴェルト「あの火球は…!!」

ナビルー「おおーい!! 待たせたなっ!!」ノシ

コタロウ「三三（；▽；）」

弥生「ナビルー、コタロウ!」

リヴェルト「来るの遅いぞ!! けども助かったぜ!」

ナビルー「へへへん、主役は遅れてやってくるってな!…って、弥生の傍にいる奴つてセルレギオスじゃないか!」

コタロウ「(#。皿)「グルルルル…」

弥生「大丈夫、この子は助けてくれたの」ナデナデ

セルレギオス「(ωω)「クルルルル

コタロウ「(#。皿)「プンスコ

リヴェルト「おーい!? 再会の喜びは後にして、先にこいつを倒すぞ!!」

ハプル「三三（#、皿）「大口を開けて突進

弥生「また来る…!!」

リヴェルト「大タル爆弾があればあれを何とかできるんだが…!!」

ナビルー「こういう時こそナビルーに任せとけ! ただ遅れて飛んできたわけじゃない

からな！」

弥生「何か手があるの？」

ナビルー「まずはコタロウにライドオンだ！」

弥生「いくよ、コタロウ!!」ライドオン

コタロウ「((、ω)」弥生を乗せて低空飛行

ハプル「三三 (#、皿)」ドドドドドッ

ナビルー「あいつに大量のニトロダケを食わせるんだ」つ「ニトロダケ」

弥生「これをいっぱい投げれる…っ!!」つ三三「ニトロダケ」たくさん

ナビルー「そして次はカクサンデメキンをたくさんっ!!」つ三三「カクサンデメキン」

弥生「どんどん口の中に入れてく…!」つ三三「カクサンデメキン」

ナビルー「よし今だ!! あいつの口の中めがけて火球プレスをおみまいだ!!」

弥生「コタロウ、火球プレス!!」

コタロウ「〇三三 (、皿)」火球プレス

＼BOMB!!／

ハプル「(; ×皿×)」大ダウン

ナビルー「どうだ! あいつの口の中で大爆発だぜ!!」

弥生「すごい効いてる…!!」

ナビルー「あいつの口の奥にある球状の器官が急所だからな」

リヴェルト「ナイスだ!!こいつで引っ張り出してやるぜ!!」つ「釣り竿」

弥生「え!?何処から釣り竿を!?というよりもあれを釣り上げるんですか!？」

リヴェルト「うおおおおおおつ!!ハンターの底力、なめるなよおおおおつ!!」グ
イグイツ

ハプル「(; ×皿×)」釣り上げられる

弥生「あ、あんな大きいのを一人で釣り上げるなんて…」アングリ

ナビルー「ハンターは一本釣りが得意だからな」ウンウン

弥生「いやよく分からないんだけど…」

リヴェルト「よし、一気に叩き込め!!」

弥生「はい!コタロウ!!」

コタロウ「((、(、(、()」高く飛び上がる

ナビルー「このまま…ってあれ?」

セルレギオス「((、(、(、()」ついてきた

ナビルー「な、なんかついて来てるぞ?」

弥生「一気に行くよ…!!」

コタロウ「((、(、()」スカイハイフオール

セルレギオス「**」**（・、ω・）三三」強襲キック
ドドオオオンツ！

ナビルー「よっしやああ!!ダブルキックが炸裂だぜ!!」

ハプル「ブオオオオオオ……ツ!!」

ズズウウウン…

ナビルー「やったーっ!!弥生！ハンターイーター、金冠ハプルボツカを倒したぞ!!」

弥生「や、やった……コタロウ、ありがとう」ナデナデ

コタロウ「（*、ω、）」クルルルー

弥生「貴方も助けてくれてありがとう」ナデナデ

セルレギオス「（*、ω、*）」クルツクー

リヴェルト「やるな……流石はあいつの教え子だ」

弥生「リヴェルトさん……!」

リヴェルト「よく頑張ったな。お前とオトモンの絆の強さ、よく分かったぜ」ポンプン

弥生「これでクエスト達成……ありがとうございます」

ナビルー「弥生、砂漠の冒険はどうだったか？」

弥生「凄くドキドキした」キラキラ

ナビルー「他にもまだまだ砂漠のエリアは沢山あるからな。色んなところヘナビしてやるぜ！」

リヴェルト「後はギルデカランに戻って報告するだけなんだが……」チラツ

セルレギオス「♪（ω、ω、ω）」

リヴェルト「こいつ、ついて来てるんだけど……どうすんだ？」

弥生「もしかして、一緒に冒険したいの？」

セルレギオス「（（*、ω、ω、ω））」

ナビルー「まあライダーのオトモンは複数いても問題はないし、いい機会だから連れてっていいんじゃないか？」

コタロウ「Σ（； 皿、）」

弥生「……よろしくね」ナデナデ

セルレギオス「（（ω、ω、ω））」キユー

リヴェルト「随分と気に入られてるな」

弥生「焼いたアオキノコが気に入ったみたい」

リヴェルト「こいつキノコ好きか!？」

ナビルー「ところで、弥生。こいつの名前は決めたのか？」

弥生「うん……今日からあなたは『コテツ』ね」

コテツ「Σ(；ω^)!？」

コタロウ「!? (； 皿、)」

リヴェルト「なんか犬みたいだな名前だなおい!？」

弥生「よろしく、コテツ」ナデナデ

コテツ「(ω^ω^)(」ペロペロ

弥生「ひやっ」

コタロウ「Σ(、皿、)」

弥生「も、もうくすぐりたいよコテツ」

コタロウ「(ω^ω^)(」ペロペロ

弥生「コタロウまで! くすぐりたいって」

リヴェルト「…これは苦勞しそうだな……」

ナビルー「？」

△9 ちょっとした出会い、次の場所へ

i n ドンドルマ | ギルド本部

提督 「いやー着実に電探の素材が集まって来てるな」ホンワカ

霞 「司令官！そんなところで茶を飲んでる場合じゃないでしょ!!」スパーン

ベル 「陸路だから時間は掛かったけども結構な量でリストのチェックが追い付かないよー!!」

鹿島 「えと…これがコスモライト鉱石でこつちがマカライト鉱石で…あわわ、どれがどれだか分かんないですー！」

ジン 「…」コソコソ

瑞鶴 「ジンさん！勝手に資材を持って行っちゃだめでしょ！」

ジン 「いや、もしかしたらここで建造できるかなと…」

木曾 「もつとダメだろ!？」

明石 「…え、これ全部私で作るんですか…？」白目

提督 「…うん、皆頑張ってるね」ウンウン

霞 「納得してる場合かーっ!!」スパーン

提督「あべすっ!？」

霞「まったくもう、少しは弥生を見習いなさいな!」 プンスコ

ベル「いやホント凄いやね…弥生ちゃんが『ハンターイーター』を討伐したなんてビツクリしたよ」

ジン「おかげでクバ砂漠の輸送ルート of 安全も確保できた…」

提督「弥生は成長してるね。俺も負けてられんな…気合入れてやりますか!」

木曾「提督、ずっと書類と地図と睨めっこしてたようだけど何か考え事か?」

提督「うむ、完成した電探を何処に設置するかを考えててな、バルファルクの目撃情報や襲撃してきた場所とを比較してたんだ」

ジン「それで結論は出たか?」

提督「まあ…情報をまとめてみて恐らくだが、平地や雪原のような広大な土地、木々や山、岩場とか障害物の無い見晴らしのいい土地といった場所にしか降りてこないようだ」

ベル「そうとなると何処に設置するかは決まりそうかい?」

提督「うーん…まず遺群嶺のあたりかな? あそこは障害物の無い広い場所も多いし、最も高い円形状の山もある。そこを第一に設置すればより広い範囲を索敵できるんじゃないかな」

ジン「じゃあ次の移動する場所も決まりだな…」

提督「電探が完成次第すぐに出航。東へ進みユクモ村に、そしてそこから遺群嶺へと向かおう」

木曾「え!? すぐに出立するのか!!」

霞「それに合わせて支度をしないと…まあ司令官はマイペースだから私が手伝ってあげないとね!」

提督「いやはは、面目ない」

霞「それ以前にシヤキツとしなさいな!」

ジン「…あー俺もマイペースだから誰か手伝ってくんないかなー」棒読み

瑞鶴「ジンさんはもう支度すんでたでしょ?」

ジン「ガクッ」

瑞鶴「え、ちょ、ジンさん!? なんで力尽きてるの!?!」

ベル「…と、とりあえず俺達も仕事を済ましたら支度しようか」

鹿島「は、はい! って、ひゃあーっ!? 間違えてマカライトとコスモライト鉱石の箱を混ぜちゃいました!!」アワワ

ベル「…うん、終わるの時間かかるかも」白目

明石「…あの、私これ全部やるんですか?」

団長「勿論だとも！さあ我々と共に一緒に電探を造ろう！」ガッ
加工担当「久々に腕が鳴るな……！」ガッ

加工屋の娘「今日は徹夜だーっ！」イヤッホーイ

明石「ひ、ひえええええっ!!」

in ドンドルマ | 商店街

ルルカ「ね？このドンドルマケバブサンドは美味しいでしょ？」

金剛「Yes!!このデカさ、所謂G級ですネ！」

不知火「ぬい……しかし、お土産も屋台の料理もいただいてもよろしいでしょうか？」

ルルカ「いいのいいの！遠慮なく買って、食べなさいって。全部アーロに請求させとくから」

不知火「アーロさん……ゴチになります」敬礼

金剛「それにしてもこんなにも多いようですが、何かfestivalでもあるのですか？」

ルルカ「まあねー、今日は前にシエンガオレンを撃退できたっていうお祝いと……そろそろ『アレ』の時期が近づいて来てるから沢山のハンター達が集まって来てるから稼ぎ時ってわけ」

不知火&金剛「アレ？」

ルルカ「？クロード達から聞いてない？まあ今はバルファルクの事もあるし、それどころじゃないよねー；でも、折角のフェスティバルなんだから堪能して頂戴！」

金剛「Yes!! 提督のお土産もここで買っておきマース！」

不知火「不知火、存分に楽しみます！」

ルルカ「クロードの話だけど、次はユクモに向かうそうね」

不知火「ユクモですか？確かジンさんの故郷でしたね」

ルルカ「ユクモはいいわよ。なんとって温泉があるんですから」

金剛「？ルルカさんは一緒に行かないのですか？」

ルルカ「同行したかったのはやまやまなただけど、仕事が急遽できちゃってねー。なんとって『塵魔』の目撃情報がでちゃったから…」

不知火「『塵魔』？」

ルルカ「調査だけだし情報がガセだと信じたいわ…；さて湿っぽい話はここまでにして存分に楽しみましょ！」

金剛「ハイ！ルルカさん、あつちのドンドルマテチャとやらは何ですか？」

ルルカ「あ、あのお茶は体にいいけどスッゴイ苦いわよ？眠気覚ましにも効くけどね」

金剛「けれどいい香りデス！お土産に買っておきたいですネー」

ルルカ「よっしや任せて！アール口につけてもらおうから！」

不知火「アールさんの財布が：：おや？」

ルルカ「？不知火ちゃん、どうかしたの？」

不知火「いえ、あそこでキョロキョロしている女性の方：他の人達とは違う雰囲気のようにして：」

ルルカ「どこどこ？」

??? 「：：」キョロキョロ

ルルカ「ホントだわ、ハンターでもなさそうね：：」

金剛「Hum?何でしょうか：何処か私達艦娘と雰囲気がつくりデース：」

不知火「あの十字架のマーク：ドイツの海外艦でしょうか？」

??? 「：：！」

ルルカ「あ、気づいてこっちに来た」

金剛「あの艦娘、いましたっけ？」

不知火「そんなはずは。司令官達とここに来たのは私達だけですし：：」

??? 「ねえ、少しいかしら：？」

ルルカ「構わないけど、どうかしたの？（わーお、胸でけえな：：！）」

不知火「ルルカさん、目がエロいです。アールさんがふざけてる時みたいになつてます」

???「私の指揮官、何処に行つたか知らない？」

不知火&金剛「」

i n d o n d o r m a | ギルド本部、執務室

提督「ふー…何とか書類もまとまつたし、支度もできたな。早く済んだのも霞のおかげだ」

霞「ほんつと司令官はマイペースなんだから…これで少しはゆつくりできるわね」

提督「付きつきりですまなかつたな。霞も商店街へ行つて遊んできてもいいんだぞ？」

霞「えつ、あ、そう？それなら…」ゴニヨゴニヨ

提督「？」

木曾「素直じゃないなー」ニヤニヤ

ジン「ユー、はつきり言つちやいなよ。という訳で瑞鶴、俺達もry」

瑞鶴「ジンさん、まだ仕事残つてるでしょ？」

ジン「そんなー」(・ω・)

霞「外野うっさい!!」

提督「??」

霞「し、司令官!も、もしする事無かったら一緒に……」

金剛「ていとくうううううつ!!」ドロップキック

ルルカ「どういふことじゃおらあああつ!!」跳び蹴り

提督「プケプケエエエツ!」…・・(ε。(

霞「司令かああああん!」(; ㇿ)

瑞鶴「ど、どうしたの!」

金剛「提督ー!!私達に黙って勝手に建造してたんですか!」

ルルカ「どういう事よ!?浮気かコノヤロー!!」

提督「こ、こつちの台詞なんだけど!」

ルルカ『私の指揮官様』って言うし、指輪持つてるし、フタマタか!!不倫か!!重婚か

!!死ねえっ!」

提督「お、落ち着け…あばぶっ!」

木曾「ああつ!!ルルカさんになんだか殺意の波動のオーラが…!!」

霞「ちよ、ちよつと待つて!!司令官が浮気できるわけないでしょ!!マイペースだし、ど

こか抜けてるところがあるし、ホットドリンクとかすぐに忘れるし、朴念仁などころもあるし」

提督「」

金剛「NO! 提督、しっかりしてください!」

木曾「もうやめろ!! 提督のライフはもうゼロだ!!」

不知火「修羅場な展開になってますね」

瑞鶴「不知火! どういう事になってんのこれ!?!」

ジン「面白い事になってまいりました」

瑞鶴「うん、ジンさんはちょっと大人しくしてて」

ジン「(。ω。)」

不知火「何と言いますか: : 私達の他にこのドンドルマに艦娘がいました」

霞「は!?! べ、別の鎮守府からってわけじゃないの: :?」

不知火「そうかと思いましたが: : 全く知らない所から来たようで確かメ

ゼリ:y:」

???「お取込み中いかしら?」

不知火「あ、すいません。こちらの執務室にお連れいたしました」

??? 「……………」

木曾「うっそだろ…本当に艦娘か？」

瑞鶴「十字架のマーク…新しいドイツの艦娘？」

ジン「……………」

瑞鶴「ジンさん、今疚しい事考えてなかった？」

ジン「そのような事、あろうはずがございません」

不知火「それで貴女の探している指揮官殿はこちらですか？」

??? 「……………」

提督「あ、あの…何か？」

霞「ジロジロ見すぎよ！」 プンスコ

??? 「彼は私の探している指揮官じゃないわ。まあ、ちよつと抜けている様はどこかし

こ雰囲気は似ているけどもね」

霞「ちよつと!! 貴女誰よ!？」

プリンツ・オイゲン(アズ)「ごめんなさいね、申し遅れてたわ。私はアドミラル・ヒッ

パー級三番艦——プリンツ・オイゲン。よろしく」

提督&霞「……………ええええええええっ!？」

in | ドンドルマ、飛行場

ベル「食糧に資材に、調合分の回復薬と生命の粉塵と、イサナ号に積む荷物は全部入れたかな」

鹿島「はい、準備は万全です！」

ソフィア「後は電探を完成させて持ち込むだけですネ！」

鹿島「明石さん、大丈夫でしょうか……？」

ベル「大丈夫さ。団長と加工担当もいるんだし、アツと今に終わるだろうね。それまで鹿島もゆつくり休んでおきなよ？」

鹿島「はい、ありがとうございます！それにしても……」

ベル「？」

鹿島「バルファルクの襲撃の恐れもあるのに沢山の飛行船が停泊していますね」

ソフィア「各地からのハンターが集まって来てますし……ベルさん、『アレ』じゃないですか」

ベル「『アレ』かあ……もうそんな時期か、早いねー」

鹿島「アレ……？」

ベル「でも、バルファルクの件もあるから安全が取れるまで少し時間かかりそうだけどね」

鹿島「ベルさん、『アレ』って何ですか？」

ベル「ああ、それはね……」

???「はいいい!?!すぐには出られないって、どゆこと!?!」

近衛兵「すいません……飛行中にバルフアルクの襲撃もありますので、古龍観測所から安全の連絡が取れないと飛行船は飛ばせないんです……」

???「バルフアルクがなんぼのもんじやい!こちとらシャンティエンとかガルバダオラとか飛行船が危険な状況でも戦ったんだぞ!!あ、シャンティエンの時は墜落したけど」

近衛兵「で、ですが古龍ですし……」

???「こつちも古龍!!しやあない……こうなったらお前のセクシー大作戦で……って、あれ?あれえええつ!?!」

鹿島「……な、なんだか賑やかな人ですね。それに……凄く真つ白な鎧を着てますよ?」

ベル「あの鎧は……どうしたんだい?」

???「む?おお!あんたはハンターか?それともここのお偉いさんか?」

ベル「は、ハンターだけど?何か出立で困っているのかい?」

???「いやま……あの島に一番乗りで行きたかったんだがな、連れとはぐれちまってさ……おれのうっかりさん!」テヘペロ

ベル「ま、まあ『アレ』の時期も近いし、早く行きたいのは分かるけど……バルフアル

クは飛行船を木端微塵にするからさ、すぐには出れないよ」

??? 「そのバルフアルクって奴も大概だな……しゃあない、待ってやるかー。で、連れを探さなきゃなんねえんだけど……あいつドンドルマに来るの初めてだから迷ってるんじゃないかなー」

鹿島 「そ、それでお連れの方の特徴とかは……」

??? 「ん……んん？あんた……ユニオンか？いや……服は重桜の……いや、尻尾とか角とかない。あんた、いい美人さん連れてんじゃないの。彼女、将来いい奥さんになれるぜ？」

鹿島 「び、美人さん……！お、奥さん……！！」プシュー

ベル 「ちよ、鹿島落ち着いて!?そ、それで、連れの人って……」

??? 「ああ、プリンツってんだけど、知らない？」

鹿島&ベル 「……え？」

提督 「えええっ!?プリンツ!?うそお!？」

ジン 「俺の知ってるプリンツはこう……ふわふわしててプリプリしてたな」

木曾 「おい」

瑞鶴 「銀髪だし、色っぽいし……あ、胸はプリンツと同じくらいね」

木曾 「おい!？」

提督「天津風が大人になつたらこんな感じなのかなー」ホンワカ

木曾「もうツツコミ切れねえ!!」

霞「あ、貴女…本当にプリンツ・オイゲンなの!？」

プリンツ(アズ)「何度も言わせないでくれる?というよりも貴方達の知ってるプリンツとは違うわよ?」

ジン「主にどの辺りででしょうか?」ジーツ

木曾「そこまでだ」アームロック

ジン「あがあああつ!？」

金剛「それ以上、いけない!」

プリンツ(アズ)「はあ…こつちと同じくらい賑やかなね」ニガワライ
不知火「どうやら別の鎮守府の方のようですね」

ルルカ「あー焦ったわー。まさか一夫多妻制の陰謀かと思つたわー」

ジン「…焦り過ぎ」

ルルカ「死にたいらしいな」〔〔〔〕〕〕

ジン「ヒツ」

金剛「じゃ、じゃあその指揮官とかいう人はどんな人なんデス…?？」

プリンツ(アズ)「そうね…最初出会つた時は本当に彼が指揮官で大丈夫か凄く心配

だったわ。勝手に何処か行って勝手に怪我して、迷惑と分かった…でも、私達の為に戦って、怪我をしても尚私達を守ってくれたり励ましてくれたり、私達を兵器や怪物でなく、同じ人として見てくれて大事な事を教えてた、素敵な人…

不知火「あのデレ模様、似てますね」

霞「何故こっち見る」

瑞鶴「何故こっちを見るの」

ベル「あ、あのー…今入っても大丈夫？」

ジン「今いいとこなのに…」

提督「もう少し待ってなくてもなー」

ルルカ「ちっ…」

ベル「なんで俺怒られてんの…」(…ω…)

鹿島「そ、その、プリンツという人を探しているというハンターさんをお連れしたのですが…」

???「お？おおーっ!!プリンツ!!探したぜー!!」

プリンツ(アズ)「指揮官…フフ、まったく、すぐに迷子になるんだから」ギョツ

???「いやいや、お前さんは猫みたいに自由だからなー」ナデナデ

提督「あ、あのー…どちら様？」

アルト「おう！俺はパローネ鎮守府から来た、アルトだ！」アルテラ一式

提督「パローネ…ああ、パローネ…キヤラバンの！そりやあ違うわけだ」

霞「？どういう事？」

提督「こちらの方は別の大陸から来た人達なんだ。噂じゃ全く違う艦娘がいる鎮守府があるとか…」

アルト「そうさな、最初はセイレーンだとか重桜だとかユニオンだとかややこしくてな。バーってやってブワーってやって頑張ってまとめてるんだ」

ベル「うん、よく分からないのだけど!？」

アルト「俺もよく分からん！」キツパリ

プリンツ（アズ）「ふふふ、ほんと自由な人なんだから」スパーン

アルト「ひでぶっ!？」

木曾「…大井姉さんにしばかれてるアークさんを思い浮かぶんだが」

瑞鶴「奇遇ね…今頃アークさんも大井さんか加賀さんにしばかれるかも」

■ ■ ■ ■

アーク「アンジャナフツ!!」クシャミ

グレイ「凄いクシャミだな」

初月「風邪でもひいたのか？」

アール「ふ…今頃、クロード達が誰かに俺の雄姿を語ってるんだろうな」

大井「そんな事よりサボってないで書類整理しなさい！」スパーンツ

アール「ゴメンヌ!？」

■ ■ ■ ■ ■

霞「その別の大陸の人がどうしてこのドンドルマに？」

アルト「ああ、もうそろそろ行われる『古龍渡り』の調査をしようとしてな、次の島に備えてここに訪れたんだ」

艦娘達「古龍渡り…？」

提督「あ…もうそんな時期か。それで飛行船の数が多いわけか」

霞「司令官、古龍渡りって？」

提督「10年に一度、古龍が遙か彼方にある新大陸へと渡ることを言うんだ。何故古龍がその島へ渡るのかその謎の明かすために、または古龍の生息が明らかになる貴重な調査にもなるから多くのハンター達がその大陸へと向かう」

アルト「しかも最近じゃこっちの大陸の古龍もその新大陸へ渡るって分かったらしくてな、俺達も新大陸へと調査することになったんだ」

鹿島「鎮守府は開けて大丈夫だったのですか？」

アルト「大丈夫さ。俺の相方が切り盛りしてるから心配はねえ」

プリンツ（アズ）「寧ろよくなっているんじゃないの？」クスクス
アルト「そ、そんな馬鹿な…」白目

提督「まあ何はともあれ、そちらの大陸の指揮官とお会いできて光栄です」握手

アルト「おう、そっちの艦娘、とやらを指揮してる提督だな？よろしくな！という訳で何か食べに行こう」握手

プリンツ（アズ）「何言ってるの、まだ宿もとつてないし、やる事あるでしょ？」

アルト「おうふ…船はまだ出ないしな…考えてなかったぜ」テヘペロ

明石「で、できましたー…!!」ゼエゼエ

提督「おおっ!!完成したのか!!」

明石「きゅ、急ピッチで…もう、疲れましたよ…ドンドルマの技術、おかしすぎい…」ハナハナ

木曾「本当に電探だこれ…!!」

ジン「さすが明石さんだな」

アルト「こつちの明石さん…ずいぶんとでけえな」

プリンツ（アズ）「どこが？」ニッコリ

アルト「いだだだだだ!?足!足思いつきり踏んでる!!」

団長「はっはっは!! 沢山造っておいたぞ!!」

鹿島「だ、団長さん!! 持ってき過ぎです!?!」

団長「これが電探というやるだ、ほれ!」

ベル「わ、ちよ、団長!?! 投げちやダメですよ!?!」

加工担当「む? 初めて見る人もいるな」

ジン「明石さん、バケツいる?」

明石「せ、節約を…」ゲツソリ

霞「…喧しすぎるわよ…」

i n 飛行場

アルト「なんだー、もう行かなきゃいけないのな」

提督「申し訳ない、こつちもバルフアルクの事で急がなきゃいけないからね」

アルト「まあおかげでこつちもすぐに船が出せるようになったし…今度はゆつくり飲

みながら駄弁ろうや」

提督「そちらの大陸の冒険も聞きたいしね。また、よろしく」つ名刺

アルト「おう。あ、こつちの鎮守府の事も教えてな?」つ名刺

霞「い、いつの間に名刺交換を…」

プリンツ（アズ）「ふふふ、おもしろい提督さんね」
ベル「クロード、忘れ物ない？」

提督「ああ、大丈夫……」

明石「ちよ、提督ーっ!! 電探! 電探を忘れちゃダメじゃないですか!」ワッセワッセ
ルルカ「忘れるってレベルじゃねーよ!!」ワッセワッセ

提督「あ、いっけね」テヘペロ

霞「テヘペロ、じゃないでしょ!!」スパーン

提督「あばす!？」

木曾「やつばうちの提督もあつちに負けない程マイペースだな……」

不知火「それでも頼りになりますから」

提督「さ、さてもう忘れ物はないな！」

金剛「Yes!! バツチリデース!!」

提督「それじゃあ出発だ!!」

アルト「そつちの冒険も頑張れよー!!」ノシ

提督「ああ!! また会おう!!」ノシ

ベル「いやはや……ドンドルマはいろんな出会いがあるからいいよね」

提督「ああ……最初に4人が出会った時も、ウイルと出会った時もドンドルマだったもんな。アルトとはまた会えるだろうな」

木曾「次は……ユクモ村だな」

瑞鶴「ジンさんの故郷ね。温泉もあるし楽しみだわ！」

ジン「……温泉……」ニヤア

金剛「じ、ジンさん!? すっごいにやついてますヨ!？」

提督「温泉かー……村長に会うのも楽しみだな」

霞「そう言えば……アーロさん、よく『ユクモの温泉かと思つて』とか言つて入渠に入つて来てたわよね」

ジン「ギクッ」

瑞鶴「……ジンさんもしかして、ユクモの温泉つて……混浴?」ジトー

ジン「♪ (ε、 ;)」

瑞鶴「ジンさん? なんて視線をそむくの?」

ジン「♪ (ε、 ;)」

瑞鶴「ジンさん?」

アルト「……行っちゃまったな」

プリンツ（アズ）「ホームシックになった？」

アルト「ははは、プリンツがいたりやあ寂しくねえさ」

ルルカ「……お熱いわねー」ジーツ

アルト「なんの、元々お熱いからな。ほれ」

ルルカ「……!?!?そ、それは指輪!!ということは……!!」スツ

プリンツ（アズ）「？」

ルルカ「……こっちにも指輪……!!ま、まさかあんた達……っ!!」

アルト「結婚してて、新婚旅行兼ねての冒険さ」

プリンツ（アズ）「もつといい旅行はあったのに……まあいいわ」クスツ

ルルカ「ちくしよおおおおおっ!!」

◇15 サンマ、撮影開始

i n 鎮守府 | 中庭

ガングート「ふむ……」ジーツ

アルちゃん「……」ジーツ

ムラサキ「(V)(o?o)(V)」ジーツ

ペッコ「……」ジーツ

ガングート「なるほど……非常食か？」

アルちゃん&ムラサキ&ペッコ「!? (皿、 ;)」

臯月「違うよー！」プンスカ

潮「あわわ、た、食べちゃダメですー!!」

ガングート「？」

ヴェールヌイ「同志ガングート、この子達はオトモンだ」

ガングート「オトモン？なんだそれは？」

ヴェールヌイ「司令官達と一緒に戦ってくれたり乗せてくれたりするモンスターのご

とだよ」

ガングート「そういうことか：ハハッ、可愛いなりをして頼もしいではないか！」ポ
ンポン

アルちゃん&ムラサキ&ペッコ「（：：：）ドヤア

ガングート「この鎮守府には私の知らない事が多い。同志ちっこいの、案内をしてく
れて助かる」ナデナデ

ヴェールヌイ「：：ハラシヨ」テレテレ

梶月「こんどはボクが案内するよ！畑にはでつかいトウモロコシがあるんだ！」グイ
グイ

ヴェールヌイ「わ、私がやるからいい：！」グイグイ

ガングート「ははは、こらこら、引っ張るな」

アール「いやー、ヴェールヌイのおかげかガングートもすぐに大人しくなったな」

大淀「はい、ガングートさんもすぐに馴染んでくれてよかったですね」

ビスマルク「な、なんとこの順応の速さなの：」

アール「しっかしまー、ガングートとヴェールヌイの二人を見てると：：まるで仲良
し姉妹だな！」

大淀「あつ、アールさん」

アール「へ？」

暁「プルプル

アール「あ、やべっ。い、いいか暁？こ、これは言葉の綾ってやつで…」

暁「わ、私がお姉ちゃんなんでもおおん!! うわああんっ!!」ダツ

アール「ちよ、待ってくれーっ!! 誤解だー!!」ダツ

龍田&荒潮「…」スツ

龍驤「ステイー、ステイー。まだや、まだ大丈夫や」

in 執務室

グレイ「…」書類整理中

アイオワ「Hum…」ボイーン

グレイ「…」書類整理中?

ミケ「This is こんがり肉ニヤ。OK?」

アイオワ「Oh!! ワイルドなmeatネ!」バイーン

グレイ「…」チラッ

ザラ「グレイさん? さつきからアイオワさんを見すぎです!」

アイオワ「What?」ドタプーン

グレイ「だってセクシーダイナマイトだもーん!! ちよつとジャンプしてみた」

アイオワ「?こうデスカ?」 バインバイン

グレイ「グウレイトオっ!!」(ωー) b

加賀「ふざけてないで真面目にしてください」 アツパーカット

グレイ「ひでぶ!?!」(3。)...:

大井「はあ、これ大丈夫かしら...?」

加賀「耐性がつくまで2日3日は続くかもしれないね」

アイオワ「今のが噂に聞くショーリユークーンってやつネ!」キラキラ

ザラ「ち、違いますよ!?!」

グレイ「ソーソー、イツツジヨーク:...あ、もう一回だけジャンプr y」

ザラ「グレイさんの...ばかああああつ!!」 スパーン

グレイ「うわらばあ!?!」

加賀「今のは効果抜群ですね」

大井「業務に支障が出なきやいいけど...」

i n 母港

アール「ふう、なんとかアメちゃんです許してもらえたよ...」ヤレヤレ

グレイ「はあ、ザラちゃんに怒られちゃったよ...」 ションボリ

ガングート「む？なんだ、お前達か。何をしよげているんだ？」

アール「おおガングートか、もうこの鎮守府には慣れたか？」

ガングート「まあな。同志ちつこいののおかげだ……面白い所だな、驚く事ばかりだ」
アール「そら喜んでくれたのなら嬉しい限りだぜ」

ガングート「しかし、腑に落ちないところも有る。お前の言う外へ出かけてしまった提督という男といい、お前達といい、どうしてここの艦娘達は信頼しているのだ？」

グレイ「……ガングートは俺達は信用できないのかい？」

ガングート「いや、そういう訳でない。なにぶん、今までにない司令官を相手にしているのだからな。同志ちつこいのが言うにはお前達は狩人なのだろう？何故指揮をしているのだ？」

グレイ「どうなのアール」

アール「……考えた事無かった」ポカーン

ガングート「ズルツ

グレイ「難しい事は苦手なようです」ニガワライ

ガングート「ま、まあいいさ……同志ちつこいのもお前を信頼している。それなりの強さがあるのだろうか」

アール「うーん……言葉じゃ表せれないけど、楽しいからじゃね？」

ガングート「？」

アール「ま、そのうちわかるさ」

ガングート「……」

ヴェールヌイ「アールさん、いた」

アール「お、どうしたヴェールヌイ。というかその恰好本当にどうした？」

グレイ「ガチの釣り人じゃないか……」

ヴェールヌイ「大淀さんから聞いてないのかい？サンマ漁だよ？」

アール「サンマ……ほんまでっか！」フアーツ

グレイ「そっちのサンマじゃない」スパーン

ヴェールヌイ「大型建造で資材がかなり減ったからね、任務で資材を稼ぐためにもや

るんだ」

ガングート「確かに、かなり減っていたな……」チラッ

アール&グレイ「♪く(ε、;)」

島風「おっそーい！準備できたよー!!」ノシ

龍驤「かなり本気でやる感じやなー……」

球磨「サンマ沢山獲るクマ！」フンス

ヴェールヌイ「これから行く。同志ガングート、一緒に来るかい？」

ガングート「む？私もいいのか？こいつらはどうする？」

ヴェールヌイ「アールさん達も？」

長波「そうだ！いい事思いついた！」

島風「なになにー？」

長波「アールさん達って、ルアー垂らすだけですぐに釣れるだろ？しまいにや大漁になるしさ」

龍驤「それってまさか……」

in 北方海域

グレイ「俺達も来ちゃってよかったのかなー……」

長波「大丈夫大丈夫！寧ろ第二イサナ号も来てくれれば敵なしだし！」

龍驤「ま、まあ加賀と大井に怒られないようにしなきゃあかんけどなー……」

ガングート「ふむ、それなら私が言っておこう」

ヴェールヌイ「同志ガングート、助かるよ」

ガングート「それに、お前達もここで活躍すれば名誉挽回にもなるぞ？」

グレイ「お、おっしゃる通りです……」

アール「??？」キョートーン

龍驤「ひとり理解してないし」

ガングート「それでサンマ漁はどうするのだ？敵艦を倒して稼ぐのだろうか？」フンス
ヴェールヌイ「ポイントはここ、さっそく釣るよ」キャスト

ガングート「ズルッ

球磨「ヴェールヌイの勘はよく当たるクマ」つ釣り竿

ガングート「ま、まあいいだろう…」

島風「私が一番多く釣るんだから！」

長波「アールさん達が強敵だなー」

アール「競争か。俺も負けられんな！」

グレイ「というかこれでサンマ釣れるのかなあ…」

数十分後

グレイ「ハレツアロワナ、ハレツアロワナ、ハジケイワシ、ハレツアロワナ、ハジケ
イワシ、ハレツアロワナ、カクサンデメキン…」ポイポイポイ

長波「うわあ…グレイさんが作業化してる…」

龍驤「これら食えるのかいな…というかなんでこんな所でアロワナが釣れるんや」

球磨「クマ…サーモンしか釣れないクマ」つキングサーモン

龍驤「逆にそっちが凄いし!？」

島風「むーっ!! また餌取られたー!! 相手速すぎー!! 長波、つけて!」

長波「また取られたのかあ? しょうがないなー…」

ガングート「どうだ、私も釣ったぞ!」フンス

ヴェールヌイ「同志ガングート、それはサンマじゃなくてサヨリだよ」

ガングート「なにつ!? 違うのか!」

ヴェールヌイ「サンマはこっち」

サンマ(魚)「フアーッ ピチピチ

ガングート「むう、それがサンマか…」

龍驤「ヴェールヌイ、うまいなあ」

ガングート「これは負けていられない。気合い入れていくぞ!!」

龍驤「さ、サビキ釣りやけどな」

島風「やったー!! 私も釣ったよー!!」

サンマ(魚)「フアーッ

グレイ「カクサンデメキン、カクサンデメキン、ハリマグロ、ハジケイワシ、バクレツアロワナ、ハジケイワシ、ハリマグロ…」

龍驤「あかん! グレイさんが死んだ魚のような目をしてる!」

長波「そっかアーロさんは?」

アール「……」

長波「釣り糸垂らしたまま微動だにしてない!？」

龍驤「こっちは大仏のようになってもうてる……」

球磨「クマ?アールさん大丈夫クマ?」

アール「ふ、釣りとはなじつくり待つのが勝負なのさ。こうまたーりして待てつのだ」

長波「となりで 그레이さんが爆釣してるんだけど?」

クイクイ……

龍驤「アールさんの釣り竿にさっそくアタリが来てるで!？」

アール「慌てない慌てない……もう少し待ってから餌にかかるのを待てば……」

ググググッ!!

アール「うおっ!?めっちゃ引いてるがな!？」

球磨「スゴイアタリだクマ!!きつと大物クマ!!」

ガングート「スゴイ引きだな……!!このチャンスを逃すなよ!!」

ヴェールヌイ「アールさん、頑張つて!!」

アール「ふんっ!!ふんっ!!」グイッグイッ

島風「 그레이さん!アールさんに大物が!!」

그레이「ん?おおっ!?凄いじゃないか!……つて、アール?餌は何にしたんだ?」

ア—ロ「ん？釣りカエルだけど？」

グレイ「は!?それじゃあかかかっているのはまさか!？」

ア—ロ「きつとばかだけでえサンマだぞ!!うおりやあああつ!!」グイッ

ザツパアアアン

龍驤「」

長波「」

ガング—ト「」

ザボアザギル「——（、皿；三」

島風「おー…」

ヴェールヌイ「」

球磨「くまー…」

ザツパアアアン

ア—ロ「あれー？サンマジやねえのか」

グレイ「ザボアザギルじゃねえか!？」

ガング—ト「今のはなんだ!?サメか!?足が生えていたぞ!？」

ヴェールヌイ「同志ガングート、あれは両生類だよ」

ガングート「は!?カエルなのか!?とか訳が分からんぞ!!」

龍驤「そないな事よりさっきのサメ、こつちに向かつてきてるでえ!」

ザボアザギル「三三(＃、皿、)」ザザザザ

アール「捕まえよう」フンス

グレイ「ちよ、あれサンマじゃないけど!」

アール「大物なんだからきつと色付けてくれるさ!」

グレイ「ホントかなあ：：シビレ罨と捕獲用麻酔玉あつたつけかな?」

龍驤「二人ともやる気なんか!」

ガングート「なるほど：敵は深海棲艦だけではないという訳か。面白い!!」

ヴェールヌイ「ハラショー、爆雷はいつでもいけるよ」

球磨「クマ!!かかってこいクマ!!」

龍驤「こつちもこつちでやる気満々だし!」

アール「そーら、いくぞーっ!!」つデザートローズ

ガングート「!?氷海に飛び込んだぞ!大丈夫なのか!」

ヴェールヌイ「大丈夫、アールさん達は半永久的に潜れるし、ホットドリンクさえ飲

んでれば氷海もへっちゃらなんだ」

ガングート「どういう原理なんだ…」

ザボア「三三（#、皿、）」突進

アール「余裕っ!!」回避してから斬りかかり

グレイ「潜っている間にどんだん爆雷投げちゃって!!」

島風「はーいっ!」ポイポイ

長波「それぞれっ!!」ポイポイ

ヴェールヌイ「了解」ポイポイ

＼Bomb!!／＼Bomb!!／

ザボア「!?（；、皿、）!?」怯み

アール「つしやあ、追撃だオラーっ!!」斧モード叩き付け

ザボア「（#、皿、）三三三三」氷プレス

アール「あぶねっ!!」回避

ザボア「（#、皿、）」氷の鎧を纏う

アール「ちよ、水中でそれはずるい!!」

ザボア「三三（#、皿、）」突進

アール「あひっ!?（、皿、；）

島風「あ、アールさんが打ち上げられてる」

ザボア「三〔#、皿、〕」

ガングート「!?形が変わった!?」

ヴェールヌイ「氷の鎧を纏ったただだよ。攻撃を続けなければ崩せる」

龍驥「んなことよりアール口さん喰われそうなんやけど!?」

アール口「うおおお!?俺を食っても腹を下すぞー!?」

ザボア「三〔#、皿、〕大口を開けて突進

ガングート「任せろ!!全砲門、放て!!」ドドーン!

ザギル「Σ〔;、皿、〕」

ヴェールヌイ「ハラシヨ、氷の鎧が碎けてる」

ガングート「攻め手を緩めるな!ypaaaaaa!!」ドドドーン!!

ヴェールヌイ「ypaaaaaa!」ドーンツ!

龍驥「す、凄まじい……」

ザボア「三三〔#、皿、〕突進

ガングート「おっと!!ははは!!これは痛快だな!」

龍驥「た、楽しんでる場合じゃないで!」

球磨「またこっちに来るクマ!!」

ガングート「そう焦るな。心配はない」

アール「うららーっ!!」 水中から飛び上がって属性解放斬り

ザボア「(;、皿)!？」 怯み

アール「グレイっ!! 今だ!!」

グレイ「おっけー!! かかったぞ!!」 つシビレ罨

ザボア「((; 皿、))」 シビレ

グレイ「おらおらーっ!」 つ三三【捕獲用麻醉玉】

ザボア「((ω ω))」 スヤア

アール「っしやあ!! 捕獲完了!!」

グレイ「後は網にかけて持ち帰ろうか」

ヴェールヌイ「いいね。スパシーバ」

長波「ほ、本当に持って帰るんだ…」

球磨「これ、食べるクマ?」

グレイ「これは食べないんだなあ…」

ガングート「…アール、お前の言っていた通り、楽しいな」

アール「だろ? 退屈はせずにはすむぜ?」

ガングート「ふ…よろしく頼むぞ、アールさん」

ア—ロ「ああ、それじゃあ大物も獲れたし帰るとするか!」

島風「私が一番大漁なんだから!」

長波「サンマも獲れたし、一応任務は成功だな!」

ヴェールヌイ「サンマの塩焼き、楽しみだ」

ガングート「しかし、このサメもどきは報酬になるのか?」

ア—ロ「間違いねえ。これはサンマの数倍もの報酬になるぞきつと!!」

i n 母港

大淀「ダメです」

ア—ロ「ふあっ!」

グレイ「まあうん、そんな気がした」

ア—ロ「なんで!?!サンマよりすごいんだぞ!」

大井「こんなの貰っても困るだけじゃないですか!」

ザラ「というかなんでサメを持ち帰ってくるんですか!?!」

加賀「というか任務はサンマだけです、対象外です」

グレイ「このカクサンデメキンとか沢山釣ったんだけど…?」

大淀「対象外です。というか真面目にサンマを釣ってください」

アール「そ、そんなー…」グニャア

龍驤「アールさんが歪んでる」

ガングート「しかし持って帰ってしまったからにはこいつはどうするんだ？」

ザボア「（、皿）…」

加賀「サメですし、駆逐艦の子達には危険ですね…」

アール「加賀さん、こいつはカエルなんだ」

加賀「いや細かい所を言われても」

アイオワ「ワオ!?何ですかコレ!?ジヨーズ!？」

長門「凄いな、足が生えているサメか」

アイオワ「ダブルヘッドジヨーズやシャークトパスじゃなくて何ジヨーズなの!!」キラキラ

龍驤「随分シビアなところいくなあ…」

ヴェールヌイ「アールさん」クイクイ

アール「うん?どした？」

ヴェールヌイ「飼ってみない？」

大淀&大井「え、っ」

アール「うーん、逃がすつてもここじゃ危ないし。ギルドが来るまで待つのも何だし

な……まあいつか」

大淀「だ、大丈夫なんですか……？」

大井「さ、サメですよ!？」

グレイ「うーむ、まあ飼えなくもないってわけだしなあ……」

ザラ「ぐ、グレイさんまで!？」

大井「て、提督に怒られませんか？」

アール「ま、クロード達もあつちでなんか連れて帰るだろ。竜舎も広いし、狭くなるわけじゃねえしいいか！」

ガングート「私は賛成だな！戦闘にも心強い。深海棲艦を蹴散らすやもしれん」

ザラ「が、ガングートさん」

アイオワ「映画の撮影でもするの？艦これジョーズ？」ワクワク

加賀「……仕方ないですね。提督に怒られないようにしてくださいよ」

島風「やったー!!」

長波「弥生のコタローみたいにかっこいいのがオトモンになったな！」

ザラ「だ、大丈夫なんですか？食べられちゃうような事には……」

アール「まあ危ないようなことはさせないから大丈夫だ。此奴にも言っとくからよ」

ボンボン

ザボア「(、皿)？」

アール「テメエ、うちの子達を喰ってでもしてみろ……フカヒレじゃあ済まないくらの地獄の苦しみを味合わせてやるから覚悟しろ？」ゴゴゴゴ

グレイ「俺、標本作るの得意なんだよ。ホルマリン漬けがいい？それとも剥製？まあそうならないように……気を付けてね？」ニッコリ

ザボア「(；。)(；)(；)」ガクブル

ガングート「ふふ、私がシベリア送りをさせなくても済みそうだな……」

アイオワ「で、クライマックスは爆破オチにするの？」ワクワク

長門「サメって食べれるらしいな」

龍驤「みんなこわっ!？」

ヴェールヌイ「名前は何にしようか」

ガングート「同志ちっこいの、ドレッドノートはどうだ？」

ヴェールヌイ「同志ガングート、もう少し簡単な方がいい」

ガングート「ではヴォイテクはどうだ？」

ヴェールヌイ「クマじゃなくてサメだよ？こだわる必要はないと思うんだけど」

ガングート「ふーむ……じゃあどう名付ける？」

ヴェールヌイ「フカ丸」

フカ丸「(； 皿、) !?」

ガングート「ふむ、悪くないな。同志フカ丸、よろしくな！」

フカ丸「!? (へ 皿、；)」

アール「うんうん、フカ丸だけに絆が深まるってわけだ！」

加賀「誰が上手い事言えといたしましたか」スパーン

アール「ゴメンヌ!？」

グレイ「サンマはどうしようか」

ザラ「そうですね、間宮さんのところに持って行ってお料理しましょうか」

赤城「いつでも御飯は準備で来てます!! 今年サンマが食べれるわ、やったね赤城さ

ん!!」キラキラ

大井「赤城さん、はやすぎよ……」

加賀「そうでした：アールさん」

アール「ん? でした?」

加賀「孫娘提督から緊急のご連絡がありました」

アール「もしもしー? 今サンマ食べるとこなのー」

孫娘提督『報告しなくていいの!! : おほん、久しぶりね、アールさん』

アール「すっごい緊急ってことらしいけど、何かあったのか？前みたいにとつかの島が大変な事になったとか？」

孫娘提督『察しがいいわね…取りあえずこの事は先に貴方達に伝えた方が早いと思つて連絡したの』

アール「何かヤバそうだな」

孫娘提督『ええ、かなり大変な事よ…超弩級深海棲艦がとある鎮守府を襲撃してきたの』

アール「超弩級深海棲艦…いやちよい待つてくれ。オストガロア変異種は討伐したし、あの島を調査したが幼体も何もいなかったぞ？」

孫娘提督『確かにそうね…でも、今回のはかなり奇妙なことだね。その超弩級深海棲艦が鎮守府を襲撃した後、艦娘達やその提督は無事だったんだけど、弾薬や鋼材だけじゃなく鎮守府の建築物の残骸全てが根こそぎ消失したの』

アール「…なんじゃそりゃ」

孫娘提督『私達もその報告を受けて大本営から全艦隊出撃して探したわ。丁度別の鎮守府に襲撃した後でその超弩級深海棲艦を追跡したわ…でも、それが突然姿を消していなくなった』

アール「…え？」

孫娘提督『もちろん電探やソナーを使って周りや水中をも探したわ。でも、見つからなかった』

アール「：つまり、その超弩級深海棲艦の正体を暴けてことですね？」

孫娘提督『ええ：オストガロアのように深海棲艦とは別の生物の可能性もあるし、他の鎮守府に被害が出るかもしれない。私達も協力するし、力を貸して欲しいの』

アール「：わかりました。クロード達も絶対にOKするもんな。任せておきな」

孫娘提督『ありがとう、助かるわ』

アール「それで、最後に追跡した場所はどこだ？」

孫娘提督『南方の海域よ。きつとまた現れるかもしれないわ。また詳しい事は知らせる。それじゃあお願いね』

アール「：：」

ヴェールヌイ「アールさん、どうかした？」

アール「あいや、仕事の話だ。それより、サンマ御飯はまだあるかな？」

ヴェールヌイ「：：赤城さんが平らげちゃった」

アール「ふあーっ」バンバンッ!!

▲熱帯の古代林へ

i n ギルデカラン―町広場

ナビルー「ようやく帰って来たな！もうドーナツ食べたくてお腹ペコペコだ―」

リヴェルト「ドーナツ食うよりもギルドに報告すんのが先だ」

ナビルー「えー、ギルドに報告するのも大事だけどすぐにドーナツを食べたいぞ!!」プンスコ

リヴェルト「わかったわかった。じゃ報告してからドーナツな」

ナビルー「いやったー!!リヴェルトのおっさんの奢りだな!」

リヴェルト「なんでそうなる!!というかそれよりも…」チラツ

コテツ「(´ω´)」ペロペロ

弥生「きやつ、コテツくすぐりたいよ…」

コタロー「(#´ω´)」尻尾攻撃

コテツ「Σ(´ω´#)」ベシツ

コテツ&コタロー「…」

コタロー「(#。皿。)」グルルル：

コテツ「(、皿、 #)」グルルル：

弥生「こら、喧嘩しないの」

コタロー&コテツ「(、ω・、)」クーン：

ナビルー「コタローもコテツも仲良くしなきゃダメだぞ！」

リヴェルト「やれやれ、モてる子は大変だなあ…」

弥生「??」クビカシゲ

リヴェルト「そうだな、ギルドに報告する前に竜舎へ行ってコテツの登録でもしておくか」

弥生「竜舎ですか？」

リヴェルト「ギルデカランではライダーのオトモンの登録と預かりをやっているんだ。オトモンを複数連れてきているライダーは竜舎に預け、クエストやフィールドに合わせてオトモンの入れ替えをやっていたりする」

ナビルー「時と場合で入れ替えたり、複数連れていったり臨機応変ってことさ。コテツを登録した後、預けてもいいんだぞ？」

コテツ「Σ(； 皿、)」

コタロー「m9(、皿、)」

弥生「ううん、コテツも連れてく」

コテツ「(*^▽^*)」

リヴェルト「弥生は優しいなあ」

ナビルー「そうと決まればさっそく竜舎へレッツゴー！ついでにドーナツも!!」

弥生「買いません」

ナビルー「にやふっ!？」

in 竜舎

リリア「あ！弥生ちゃん!!おかえりー！」ノシ

弥生「リリアさん、ただいまです」

ナビルー「砂漠のクエスト、完璧にクリアしたぜ！」

リリア「伝書鳩の手紙でみたよ、あのハンターイーターを倒すなんてすごい!!弥生

ちゃんやるじゃん!」

弥生「えへへ…リヴェルトさんやナビルーとコタロー、それからコテツのおかげです

…」テレテレ

リリア「コテツ…?」

コテツ「(^ ω ^)」クルルー

リリア「セルレギオスだ！弥生ちゃん、この子をオトモンにしたの!?!凄いわね!」

コテツ「(^ ω ^)」

ナビルー「クロードの教え子だもんな！」エツヘン

リヴェルト「ナビルーが威張ってどうする」

リリア「じゃあさっそく登録と竜舎の手配をしなきゃね！」

弥生「リリアさんがですか？」

ナビルー「リリアは生物調査部隊の副隊長だけでなく、ここの竜舎の管理人も務めて
いるんだ！」

リリア「い、一応ね。シモーヌ隊長のお手伝いだけど、オトモンの観察とかもできる
から楽しいよ！」

弥生「かっこいい…」キラキラ

リヴェルト「それにしても…今日はやけに他のライダーのオトモンの預かりが多いな
？」

リリア「実はね、ギルデカランでも新大陸への調査の通達があつて…遂にライダーと
オトモンでの新大陸調査の募集が来たの！」

リヴェルト「遂にか！これは一大事だな」

弥生「新大陸…？」

リヴェルト「こことは別の大陸があつてな、昔から多くのハンター達が長く調査をし

ていたんだ」

リリア「そこにはこれまでとは違う生態を持つモンスターが沢山いるの！」

弥生「リリアさんも行くんですか？」

リリア「そうしたいのもやまやまなだけどねー私はお留守番……その新大陸への船を出さなきゃいけないんだけど、バルファルクの襲撃のせいもあってなかなか船が出せないんだって」

リヴェルト「バルファルクを何とかしない限り、新大陸へはいけないようだ……」

ナビルー「新大陸いってみたいなー！でもその前にドーナツを食べに行きたいぞ！」
コタロー「」（ハ、ハ、ハ）「ヤレヤレ」

i nギルデカラン | ギルド本部

弥生「これでクエストは完了だね」

ナビルー「砂漠での冒険は楽しかったか？」

弥生「うん、楽しかった……！」

リヴェルト「よっ、ご苦労様だったな」

ナビルー「リヴェルトのおっさん、戻ってくるの遅かったけどもどうかしたのか？」

リヴェルト「なに、次のクエストの話聞いてたのさ」

弥生「もう別のクエストを受けるんですか…!？」

リヴェルト「まあな。バルファルクの調査なんだが…何やら別の発見もあったらしい。俺はこのまま遺群嶺へ向かう」

ナビルー「遺群嶺…！随分と遠くまで行くんだな！」

リヴェルト「おかげで今日中に出立しなきゃならなくなった。弥生、短い時間だったがお前さんとの冒険は楽しかったぜ」

弥生「リヴェルトさん、ありがとうございます…」ペコリ

リヴェルト「おう、またこいつらと冒険しようぜ！」

コタロー「(、ω、)ノシ」

コテツ「(、▽、)」

リヴェルト「そうだ、マツホさんが呼んでたぜ」

ナビルー「何だろうか、ご褒美にドーナツをくれるとか！」

弥生「違うと思う…」

リヴェルト「たぶん別の依頼だろうな…じゃあ、頑張れよ弥生！」ノシ

弥生「はい…リヴェルトさんもお気をつけて」ノシ

マツホ「ほっほっほ、クバ砂漠でのハンターイーターの討伐ご苦労様じゃった」

ナビルー「えっへん！これが弥生とオトモンの絆のパワーでできたことだもんな！」

弥生「威張らないの」

マツホ「おかげで『でんたん』を製造するための素材が無事にドンドルマへと送られたようじゃ」

弥生「これで司令官達の電探の製造ができる…よかった」

マツホ「それで…おぬし達にやつてもらいたい依頼があるんじや」

弥生「依頼ですか…？」

マツホ「なに、ちよつとした探索クエストじや。熱帯の古代林へ行つて調査の手伝いをして欲しい」

弥生「古代林？」

ナビルー「生態や環境の原始の時代から変化がされていない密林のことだ。そこにも独特な生態を持つモンスターもいたりするんだ」

マツホ「詳しい事は彼女から説明してもらおう」

弥生「彼女…？」

???「おやおや、今回のクエストのお手伝いさんは可愛らしいお嬢ちゃんじゃないかい」
ナビルー「!?こ、この人は…!？」

弥生「ナビルー、あのおばあさんの事知ってるの？」

ナビルー「あ、当たり前だぞ！知る人ぞ知る40年前から新大陸の調査を行っている第一期団で新大陸の生態を総司令と共に編纂したハンター兼編纂者!! 人呼んでフィールドマスターだ!!」

弥生「凄い人なんだ…!!」

ナビルー「で、でもどうして第一期団のフィールドマスターがここに？」

フィールドマスター「そろそろ古龍渡りの時期でね、各地の古龍の観察と調査をしているの」

ナビルー「古龍渡りか…その時期になるとどの古龍も少し気が荒くなるもんなあ」
フィールドマスター「新大陸の拠点に戻る前にすこしばかり調査をしようと思って依頼をしたんだよ。ここではハンターの他にライダーというものがあるから見てみたくてね」

ナビルー「なら大丈夫だな！弥生はすっごいライダーだから任せておけ！」フンス

弥生「よ、よろしくお願いします…!」

フィールドマスター「うんうん、ハンターに負けず劣らずのいい姿勢ね。しっかり任せてもらおうよ！」

弥生「は、はい！」

マツホ「ほっほっほ、心強いのが。それでは弥生、ナビルー、頼んだぞ」

ナビルー「おうとも！ちよちよいのちよいで熟して見せるぜ！！」

―ギルデカラン門前

ナビルー「調査する熱帯の古代林ここから南。飛行船の出る拠点までコタローとコテツに乗って移動だ」

フィールドマスター「へー…リオレウスにセルレギオス、この子達に乗って飛べるなんて夢みたいだねえ」ナデナデ

コタロー「(C、A、)」

ナビルー「それで…弥生はどっちに乗るんだ？」

コタロー&コテツ「(、・ω・)！！」ドヤツ

コタロー「(#。皿。)」グルルルr

コテツ「(皿 #)」グルルルr

弥生「喧嘩しないの」

フィールドマスター「はっはっは!!随分と好かれてるわね!」

弥生「それじゃあ…今回はコテツに乗る」

コテツ「(C、A、)C」パアツ…

コタロー「(、・ω・、)」シヨポーン

ナビルー「それじゃナビルーとフィールドマスターはコタローに乗って行こう!」ラ

イド

フィールドマスター「こんなおばあさんだけでもよろしく頼むよ！」ライド

コタロー「(´ω´)」ガウツ

ナビルー「よし！じゃあ出発だ!!」

in 古代林

フィールドマスター「いやー、レウスの背中に乗って飛ぶのも快適だねえ！久々に楽しめたわ！」

弥生「ここが古代林：凄くでかいゼンマイが生えてる」

ナビルー「古代林は原始の時代から形を変えずに広がっているジャングルだ。迷わないようにナビルーについてくるんだぞ。古代林でも虫刺されにも気をつけるんだぞー」

弥生「それじゃあ調査を開始：ry」

フィールドマスター「さあ張り切って行くよ！古代林は奥が深いからね、道に迷わないように気をつけるんだよ！」スタスタスタ

弥生「は、はやい!?急がなきゃ！」

コタロー「(。Д。；) 三三」

コテツ「(。Д。；) 三三」

ナビルー「お、おーい!? ナビルーを置いて行かないでくれー!!」

フィールドマスター「ここなら見晴らしがいいかもねえ」

弥生「あんな高い木に登ってる…!!」

ナビルー「ふうふう…弥生、今回の調査はもしかしたら古龍に出会えるチャンスかもしれないぞ」

弥生「古龍に?」

ナビルー「フィールドマスター達、新大陸の調査団の中には古龍渡りを行う古龍の観察もするからな。そろそろ古龍渡りの時期だろうし、運が良ければ目の当たりにできるかも!」

弥生「古龍かあ…見てみたい」

フィールドマスター「おーい! 次に進むわよー!」ノシ

ナビルー「げっ!? もうあんなところに!?!」

弥生「は、はやいです…!?!」

in 古代林 | 奥地

フィールドマスター「ふむふむ…」メモメモ

弥生「この辺りはジメジメしてるね…」

ナビルー「奥地は古代の草木が多く茂っているからな。日光が遮られてなかなか入っ

てこないんだ」

フィールドマスター「おっ、ようやく見つけたわ……！」

弥生「何ですか？足跡……？」

フィールドマスター「これはオオナズチの足跡だよ」

ナビルー「オオナズチ！この古代林にもいたんだな！」

弥生「オオナズチを探しているんですか？」

フィールドマスター「何年も新大陸の調査や古龍渡りをしてきた古龍を調べてきたのだけでも……クシャルダオラやテオテスカトルと違ってオオナズチは中々姿を見せなくてね。唯一見つかっているのはオオナズチの足跡ぐらい。オオナズチはどうやって渡りをするのか、新大陸の奥地で潜んでいるのかも調べているの」

ナビルー「姿を隠すし、古龍の中でもキリンに続いて見つける事がかなり難しい古龍だからなー」

フィールドマスター「本当は瘴気の谷の調査が主だったんだけど、今回は調査はオオナズチの観測と……新大陸で『ある古龍』が渡りをしている個体がある可能性があらしいからそれを調べるのだけだね」

弥生「『ある古龍』……それは何ですか？」

コタロー「!!（、へ、）」

コテツ「(、ω、ω、ω)!!」

ナビルー「む?コタロー、コテツ、どうしたんだ?」

ヒューン・・・三〇三〇三〇

コタロー「C(、D、)」翼でガード

ナビルー「わっ!?何か飛んできた!!」

弥生「これは…鱗?」

フィールドマスター「流石はオトモンでも竜ね。気配に気付いたようだわ」

弥生「け、気配…?」

ガララアジャラ「(、皿、)」グルルルr…

ナビルー「あれは…ガララアジャラだ!!」

弥生「兎に角追い払わなきゃ…コタロー、コテツ、行くよ!」

コタロー「(、D、)」グルルルr

コテツ「(、ω、)」フンス

フィールドマスター「ハンターとは違うライダーの戦い方、拝見させてもらうわよ」

ナビルー「頑張れーっ!!ガララアジャラに巻きつかれないように気をつけるんだぞー

!!」

弥生「頑張る…!」

ナビルー「ところで、どっちにライドオンするんだ？」

コタロー「(、・ω・)()()」超絶アピール

コテツ「(、^ω^)()()」超絶アピール

弥生「わわっ?! い、今はガララアジャラに集中…!」

○10 西部探索 前

ウイル「うーむ……」

戦艦水鬼「む？珍しいな、ウイルがあそこまで悩んでいるのは久々に見る」

軽巡棲鬼「え!?ウイルさん悩んでいるんですか!?兜で顔が見えないんですけど」

レ級「ウイル、地図とずつとにらめっこしてどうしたんだ？」

ホッポ「もしや……宝の地図！」

重巡棲姫「お腹すいた？」

ウイル「うーん、ようやくこの島の生態調査、地図が半分出来上がったんだ」

空母棲姫「あらいい事じゃないの」

ウイル「これだけ探索してようやく半分なんだ。まだまだ調査していない場所も多い」

戦艦棲姫「それを考えるとこの島結構大きいのね……」

ウイル「俺達がいる島の東部……原生林、森林地帯はティガレックス、ナルガクルガの飛竜種を中心に鳥竜種、獣竜種、牙獣種、草食種等々バランスの取れた生態だ。そんな島の中心、高地地帯にやりオレウスとりオレイアの希少種の繁殖地になっている……と

まあここまでは学術院に論文を渡したところなんだが、この島の反対側と北側にはまだ調査をしていない」

防空棲姫「じゃあその反対側へすぐ調査しに行くの？」

ウイル「そうしたいのが山々なんだけどなあ……色々準備しておかないと」

ホツポ「準備？」クビカシゲ

ウイル「樹海の中を探索してたらいつの間にか砂漠についてたり、気が付けば火山があつたり、毒沼地獄かもしれないし……あるいは戻ってくるまで数週間かかるかもしれないからテントとか用意しなきゃと荷物が多い」

駆逐棲姫「す、数週間……」

戦艦棲姫「ウイルならやりそうね」ウフフ

ホツポ「大丈夫！ホツポもお手伝いする！」フンス

ウイル「おおそれは頼もしいな。じゃあさっそくハチミツ採取の……」

戦艦水鬼「なんかも慣れた手つきね」

空母棲姫「でもホツポが行くとしたら……」チラッ

重巡棲姫「ヴェア！ウイル、一緒に冒険！」

防空棲姫「対空砲、いるんじゃないの？」チラッチラッ

駆逐水鬼「モンスターと一戦交えるなら任せろ！」

空母水鬼「ねえウイルさん、あたしと危険な冒険するう?」

南方棲姫「そろそろ私の出番よね?」

欧州棲姫「ふっ、怪物退治ならあたしに任せなさい!騎士の名のもとに狩ってあげるわ!!」

双子棲姫(白)「お、お手伝いします!」

せんちゃん「ウイル、あそぶ…!」

泊地水鬼「…っ!」アタフタ

ウイル「ちよ、皆自己主張激しすぎ!?!というか押し寄せすぎで…:アーツ!」(…)

駆逐棲姫「うい、ウイルさあああん!?!」

レ級「またウイル押しつぶされちゃったよ…:」

in 島西部 | 沿岸部

ウイル「イビルジョー討伐の時しかこつち側に来てなかったが…:これより本格的な調査を行う!」

ホツポ&せんちゃん「おーっ!」フランス

重巡棲姫「にくーっ！」

駆逐水鬼「バトルが待っているっ！」

レ級「本当に大丈夫なのこれ」

ウイル「いやー、荷物が多くて運ぶの手伝ってもらったさー」

ホツポ「ハチミツいっぱい！」

せんちゃん「タルの中にハチミツたっぷり！」

レ級「それ置いて行け」

ウイル「何とご無体な!？」

ホツポ「無慈悲！」プンスコ

せんちゃん「それを捨てるなんてとんでもない……！」プンスコ

レ級「だからハチミツヨコセって未だに言われるんだもの……」

ウイル「と、いう訳でこれより探索へ出発する！ちやんとついてくるんだぞ！」

ホツポ&せんちゃん「はーい」

ウイル「よし、それじゃあ出発だ！」

ホツポ「ウイル、おやつのハチミツは？」

ウイル「10個まで持ち込み可！」クワッ

レ級「遠足じゃないんだからというか持ちすぎだつての」

古代樹林

ウイル「ほほう……どの木も植物も古代種のものばかりだな……」

ホツポ「でっかい蛾！」

せんちゃん「キノコ……」

ウイル「うむ、不老蛾と深層シメジだな……となると、古代林と同じ環境かな？ いやしかしゼンマイ種はない……というよりも古代樹の森だな」

レ級「随分と悩んでいるな」

ウイル「まさか東部と西部でこうも環境が異なるとは……高地の山を境目に二つの生態があるのかもな」

駆逐水鬼「む！ウイル、向こうに何かいるぞ」

イヤンクツク「（（。ヨ。））クウー

ウイル「あれはイヤンクツクだな……生息する生物はあまり変わらないのか？」

駆逐水鬼「一戦やるか？」

ウイル「やらなくていい。鳥竜種はガルルガを除いて臆病な性格の種が多いからこちらが手を出さない限り襲ってこないさ」

駆逐水鬼「む……」

重巡棲姫「ウイルーお腹すいたー」

ウイル「こんがり肉はもう少し探索してからな」

重巡棲姫「むー！」プンスカ

ウイル「…」キョロキョロ

レ級「ウイル、さつきから何を探しているんだ？」

ウイル「この辺りを縄張りにしているだろう飛竜種や獣竜種の縄張りの跡やここを大型モンスターが通った痕跡が無いか探しているんだ。その痕跡や跡があればどんなモンスターがいるのかをだいたいわかる」

せんちゃん「ウイル、物知り…！」キラキラ

ウイル「いやー照れちゃうなあ！いっちょ頑張つて探しちゃうぞー」テヘヘ

レ級「それじゃあ日が暮れそうだなー」

ウイル「今のところ東部にいたティガレックスやナルガクルガのような飛竜種の痕跡はないなあ…：…一つや二つあってもいいと思うんだが。後は希少種がいる痕跡とかも欲しいな…：…」

ホッポ「ウイル！変なの見つけた！」

ウイル「変なの？なんだ？」

ホッポ「あそこの岩に臭いのがついてる！」

ウイル「あれか：確かに岩に臭いのある粘液のような物がついてるな……」クンクン
駆逐水鬼「に、臭いを嗅いで大丈夫なのか……？」

ウイル「くちやい」

レ級「当たり前でしょうが」スパーン

ウイル「確かにこれは大型モンスターがマーキングした痕跡だ」

ホツポ「やったー！でかいの見つける！」フンス

ウイル「ティガでもないし：ナルガなら岩や木に翼刃で傷をつけたりするし……となると獣竜種？」

せんちゃん「じゅーりゅーしゅ？」ハテナ

重巡棲姫「ウイルー！お腹すいた！我慢できない!!」フンガー

ウイル「しょうがないなあ……はい」つ「こんがり肉」

重巡棲姫「ウイル大好き！」ムシヤムシヤ

レ級「でもどんな獣竜種なんだ？」

ホツポ「頭でつかち！」

ウイル「それはボルボロスな。えーと確かこういったマーキングをする奴を資料で見た事があるぞ」

ホツポ「どんなのどんなの？」

ウイル「確か名前が……」フリーズ

駆逐水鬼「……ウイル？」

レ級「きゅ、急に固まってどうしたんだ？」

重巡棲姫「(´・`・´) モグモグ」

ウイル「……マジで？マジで!？」

レ級「い、いきなり驚くし何があつたんだ!？」

ウイル「こいつあすげえ……新大陸にしかいないと聞いていたのに！これはマジで大発見だ!!」

重巡棲姫「(´・`・´) モグモグ」

ホッポ「凄い発見なの？」

ウイル「やべーよ、こんな奥地にいたとは。となると……この島は新大陸が近いのか？」

レ級「もつたいぶらないで教えなよ！」

ウイル「こいつは新大陸にしか生息していないと言われていた獣竜種が縄張りとしてマーキングした跡なんだ」

ホッポ「じゃあれつぷーみたいにすつごいレアなんだ！」キラキラ

ウイル「それがこの島の西部にもいるとなるとびっくりぽんだぜ！きつとギルド本部

も驚くだろうなあ」

駆逐水鬼「ウイルがここまで驚くとなると相当……ん？」

せんちゃん「……あ」

レ級「(。D。)」

ウイル「そうだともお前らも驚くほどすげえぞ！ なんとたつてこいつは……『蛮顎竜』ア
ンジヤナフという獣竜種がいる証拠になる！」

ホツポ「」

重巡棲姫「(ゝゝ) モグモグ」

ウイル「いやー、これは探すのが楽しみだなー!!」

レ級「うい、ウイル……」

ウイル「どうした？ そんなオバケでも見た様な顔して」

レ級「その……アンジヤナフとかいうのって……後ろにいる奴？」

ウイル「ん？」クルリ

アンジヤナフ「(皿)」「グルルル……」

ウイル「そうそう！ こんな羽毛が生えている奴がアンジヤナフだ！ しかも驚くなよ？
なんとこいつ火も吐けるんだぜ！」

アンジャナフ「ε三(、皿)」「フンスツ

ウイル「このように鼻孔をトサカのように膨らませることができ、これで獲物の匂いを嗅いで獲物を探すんだ」

アンジャナフ「(、皿)」「グルルルルル…」

ウイル「まさかそのアンジャナフがいるなんてなあ、しかも東部と西部とで生態のバランスが保たれているし、生態系が豊かすぎるぜ…つて、え？」

アンジャナフ「…」

ウイル「…」

アンジャナフ「…」

ウイル「…いい、いい、いい、いいか？落ち着いてゆ、ゆ、ゆつくりと後ろへ下がらんただだだだ」ガクブル

駆逐水鬼「うい、ウイル、かなり震えているぞ…」

レ級「なにあれメツチャ怖いんだけど…!!」

せんちゃん&ホツポ「…」

レ級「二人とも怖すぎて固まってるぞ…!!」

ホツポ&せんちゃん「カツコイイ…!!」キラキラ

ウイル「うん、純粹すぎる！」

アンジャナフ「(皿)」ジュルリ

レ級「あ、あいつ舌なめずりしたぞ…というか涎たれてるし!」

重巡棲姫「(モグモグ) モグモグ」

ウイル「それだ!絶対にそれだ!!重巡棲姫、早くそのこんがり肉を渡しなさい!」

重巡棲姫「…うん?」

アンジャナフ「…」ジーツ

重巡棲姫「…ハグハグハグ」ガツガツガツ

アンジャナフ「Σ(皿)」

重巡棲姫「あげない、これウイルがくれたものだもん!」プンスコ

ウイル「あげてやってもいいのよ!?!ああこいつ全部食いやがった!!」

アンジャナフ「…」ジーツ

レ級「ちよ、ちよっと待って。なんであたしを見るの!?!」

ウイル「…たぶん、レ級の尻尾美味しそうだなーって思ってるんじゃないかね?」

レ級「なツ!?!こ、これは美味しくないぞ!」

駆逐水鬼「というか私達を見て美味しそうだなと思ってるんじゃないのか?」

ウイル「まさかー、イビルなわけないしー」

アンジャナフ「…」ジュルリ

ウイル「あー：：今朝食ったこんがり肉の匂いがついてるのかなー」遠い目
ホツポ「どうするのウイル？」

ウイル「決まっているでしょう：：」ホツポとせんちゃんを担ぐ

アンジヤナフ「グオオオオオツ!!」咆哮

ウイル「逃げるんだよおおおつ!!」ダツシユ

レ級「た、食べないでーっ!!」ダツシユ

駆逐水鬼「くっ：：一度引くがいつか相手してやるぞ・・！」ダツシユ

重巡棲姫「まっつー」

アンジヤナフ「へ、皿、皿、皿」ドドドドドツ

レ級「いやああああ!! あいつめっちゃ追いかけてくる!」

ウイル「アンジヤナフは好戦的な性格で、狙った獲物は絶対に逃がさないとわんばかりの執念で追いかけてくるんだ!!」

ホツポ「はっやーい!!」キヤツキヤ

せんちゃん「ダイナソー：：」

駆逐水鬼「ウイル! 戦わせてくれ!!」

ウイル「ダメだ! アンジヤナフは『蛮顎竜』の呼び名の通り、噛む力はイビルにも劣

らない！大怪我じゃすまないぞ！！」

アンジャナフ「(、皿、) 三三三三」グオオオオツ！

ウイル「こういう時はこやし玉を……あれ？」

レ級「まさか……」

ウイル「忘れてしまったでゴザル」テヘペロ

レ級「だからハチミツは置いて行けて言つてたでしょ!?!」

ウイル「ハチミツは必需品だ！置いて行けるもんか！」

アンジャナフ「(、皿、) 三三三三」大ジャンプ

レ級&駆逐水鬼「と、跳んだあああつ!?!」

ホツポ&せんちゃん「キラキラ

ウイル「あぶねえつ!?!踏みつぶされるところだった……見かけによらずかなりの脚

力を持っているなー」

せんちゃん「ウイル、向こう崖!!」

レ級「崖か……」察し

ウイル「そこなら……みんなしつかり俺にしがみつけよーっ!!」

せんちゃん「どうするの……?」

ウイル「とぶのさああああつ!!」崖からダイブ

せんちゃん「えええええっ!?」

ホツポ「いやっほーっ!」

レ級「いつ見てもこわあああああ!!」

せんちゃん「落ちる落ちる…!」アワワワ

ウイル「よいしょー」スタツ

せんちゃん「え」

レ級「あー…怖かったー…」

ホツポ「とても楽しかった!」

駆逐水鬼「いててて、どうもウイルみたいに着地ができないな」

重巡棲姫「(・・・)うまく着地できたとドヤ顔

せんちゃん「ウイル、崖から落ちても平気?」

ホツポ「ウイルは高い所から落ちてもへっチャラ!」

ウイル「まー溶岩ダイブは無理だけどなー」

せんちゃん「…カッコイイ」

レ級「まあこれでうまく逃げきれた…」ホツ

ウイル「こんぐらの高さだ、流石にあいつもここまで追ってry」

アンジャナフ「(、皿、)ズウウウン
レ級」

ウイル「::すっげえ執念だわこれ」白目

▲古代林探索、謎の痕跡

弥生「いくよ、コタロウ！」コタロウにライド

コタロウ「(・ω・)」三「滑空

コテツ「(・ω・)」シヨボーン

ナビルー「ほらコテツも頑張れ！頑張れば弥生に褒めてもらえるぞ！」

コテツ「(・ω・)」フンス！

ナビルー「現金な奴だなー…」

ガララアジャラ「(皿)三三◎」鳴甲飛ばし

ナビルー「気をつけろ！ガララアジャラが飛ばす鳴甲は奴の咆哮に反応して破裂するからな！」

弥生「コタロウ、躲して！」

コタロウ「(・ω・)」回避

ガララアジャラ「(皿)っ」尻尾薙ぎ払い

弥生「!!長い…っ!!」

コテツ「」(・ω・)三「滑り込みキック

ガララアジャ「Σ（、皿）」

弥生「コテツ、ありがと！」笑顔

コテツ「（*、ω、*）」テレテレ

ガララアジャ「（、皿）」嘸みつき攻撃

コテツ「（；、皿）」麻痺

ナビルー「コテツーっ!?よそ見しちやダメだろ!？」

コタロウ「m9（、皿）」

弥生「コタロウ、火球ブレス!」

コタロウ「○三（、皿）」火球ブレス

ガララアジャ「Σ（；皿）」Hit!!

弥生「よし…!!これでっ!!」ドーンッ!

ガララアジャ「Σ（、皿）」Hit!

コタロウ「C（、皿）」尻尾攻撃

ガララアジャ「グルルルアアアッ!!」咆哮

弥生「っ!!耳が…っ!!」

コタロウ「（；、皿）」怯み

ナビルー「ニャフーツ!!ガララアジャの咆哮は鳴甲をすり合わせて耳に痛い音波を出

すんだ：：！！」耳を塞ぐ

フィールドマスター「結構五月蠅い音ね：：！！」耳を塞ぐ

ガララアジャ「三三三（#、皿）」コタロウと弥生をグルグルと囲む

弥生「囲まれた：：っ！！」

コタロウ「（（； 皿、（）」怯み中

ナビルー「まずいぞ！！どんどんと囲んで巻き付いて絞める気だ！！気をつけろ！！」

ガララアジャ「三三三（#、皿）」噛みつき攻撃

弥生「っ！！」

コテツ「┌」（、皿、#）」強襲キック

ガララアジャ「：：（、ε。（）」

弥生「コテツ！！」

コテツ「（、皿、）三」タツクル

ガララアジャ「Σ（； 皿、）」怯み

コテツ「●三●三（、皿、）」刃鱗飛ばし

ガララアジャ「（； 皿、）」怯み

ナビルー「コテツいいぞー！！」

弥生「コテツ、ありがと：：！！」笑顔

コテツ「(・・ω・・)」ドヤア

ガララアジャ「三三(＃、皿)」タツクル

コテツ「()。3。()・∴。」

弥生「コテツ!？」(∴、皿、)

ナビルー「まだだよ」

ガララアジャ「(＃、皿)つ」尻尾糺ぎ払い

コテツ「()；・・ω∴()」ガード

弥生「コタロウ、コテツを助けるよ!」

コタロウ「(、皿、)」「コヤレヤレ

弥生「これでどう!!」「ドーンツ!

コタロウ「(、皿、)」「空中キック

ガララアジャ「Σ(∴、皿、)」「

弥生「コテツ!!」

コテツ「(、皿、)」「三」強キック

ガララアジャ「Σ(∴、皿、)」「怯み

弥生「コタロウ、火球プレス!!」

コタロウ「〇三〇三〇三(、皿、)」「三連火球プレス

ガララアジャ「((; 皿、))」critical!!

ナビルー「よし！渾身の一撃だーっ!!」

ガララアジャ「(皿、 ;) 三三三」撃退

ナビルー「やった!!追い払えたぜ!!」

弥生「コタロウ、コテツ、頑張ったね」ナデナデ

コテツ「(^ ω ^ *)」ペロペロ

弥生「きやつ。く、くすぐりたいよ…」

コタロウ「Σ (。 皿。)」

コテツ「(. : ω .、)」

コタロウ「(# ^ ω ^)」ペロペロ

弥生「こ、コタロウもくすぐりたいよ…」アセアセ

フィールドマスター「なかなかやるじゃないの!!ライダーの戦い方、見事だったよ!」

弥生「い、いえ、私はまだまだ…」アセアセ

フィールドマスター「これなら第五期の調査団に参加するライダー達も頼りがいあり

そうだ」

ナビルー「いいなー…ナビルーも調査団に入りたいぞ」

弥生「私達はまだまだ一人前のライダーになってないから。まずは一人前にならない

と」

フィールドマスター「弥生ちゃんならすぐになれるわよ。さあて、探索を再開しようかね！」ダツ

ナビルー「ニヤフツ!? やつぱり駆け足いーっ!」

弥生「お、追いかけなきや…!!」

コテツ&コタロウ「(； 且、) 三三三」

古代林 | 更に奥

ナビルー「かなり奥地へと進んだな…」

コテツ「(、ω、)」

弥生「コテツ、このキノコは食べちゃダメ」

フィールドマスター「…ふむふむ…」ゴソゴソ

弥生「何をしてるんですか…?」

フィールドマスター「痕跡集めだよ」

弥生「痕跡集め…?」

フィールドマスター「どのモンスターも縄張りや通った跡としてフンや足跡、分泌物や鱗等を落とすの。新大陸でのハンターや調査隊達はこういったモンスタアの痕跡を

集め、モンスターを探して調査をするんだよ。こうやって痕跡を採取したら……この導蟲にその痕跡を落としたモンスターの匂いを記憶させる」

キラキラキラ：

弥生「緑に光ってる……まるで蛍みたい」

フィールドマスター「ふむ……この痕跡はナルガクルガのものだね。念のためにこの痕跡も記録しておこう」

弥生「……オオナズチの痕跡はありそうですか？」

フィールドマスター「うーん、なかなか見つからないわねえ……」

ナビル「ここまで進んでもないのかー」

フィールドマスター「古龍だからねえ。さあめげずにどんどんいこうじゃないの!!」
スタスタスタ

弥生「は、速いです……!?!」

コタロウ「!!」

弥生「コタロウ、どうかしたの……?」

コタロウ「(・ω・;)三(; ・ω・)()キヨロキヨロ

ナビル「何か気配を感じているのか?」

コテツ「(((; ・ω・))())」

弥生「コテツは鱗を逆立てて辺りを警戒してる…」

ズウウウンッ!!!

弥生「わっ!?地響き!?!」

ナビルー「ニヤツ!?遠くからのようだけでも結構派手な音がしたぞ!?!」

フィールドマスター「もしかしたらモンスター同士の縄張り争いかもしれないわね

…:調べに行くわよ!!」

ナビルー「ニヤフツ!?やっぱりハイーイ!!」アタフタ

弥生「わ、私も行きます…!!」アセアセ

古代林
|
???

フィールドマスター「確かこの先に…:おや?」

弥生「わっ!!霧…:!?!」

ナビルー「霞んで見えにくいぞ!?!」

弥生「まだ雨も降ってないのに…:」キョロキョロ

コテツ&コタロウ「(・ω・)三(・ω・)キョロキョロ

ナビルー「雨も降ってないのに霧がかかっているとしたら…:」

フィールドマスター「あたりを注意して見るんだよ!何が来るか分からない…:!!」

ドドドドドッ

弥生「え……?」

オオナズチ「三三（◎皿◎）」突進

弥生「!？」

コタロウ「（、皿 #）三」体当たり

コテツ「（、皿 #）三」体当たり

オオナズチ「Σ（◎皿◎）」

ナビルー「い、い、い、いたああああつ!? 『霞龍』オオナズチだーっ!!」

弥生「あれがオオナズチ、古龍……!!」

フィールドマスター「やっと思つけたわ!でも、何か様子がおかしいわね……」

オオナズチ「Σ（# ◎皿◎）」興奮状態

ナビルー「どういう訳か、かなり興奮しているな……?」

フィールドマスター「調査が目的だったけども……今は追いつけぬしかなさそうね」

弥生「コタロウ、コテツ、いくよ……!」

ナビルー「オオナズチの長い舌と毒霧プレスに気をつけるんだぞ!!」

オオナズチ「（◎皿◎）っ」舌攻撃

コテツ「()」；、ω、()」翼でガード

コタロウ「┌」(、□、)」強襲キック

オオナズチ「Σ (◎皿◎)」

弥生「これで狙う…!!」ドーン!

オオナズチ「(◎皿◎)・…」霧ブレス

コタロウ「(；□、)」毒状態

弥生「コタロウ!!」

オオナズチ「(◎皿◎)・…」拡散毒霧ブレス

弥生「きやあつ!!うう…毒が」毒状態

ナビルー「弥生! 毒状態になったら、漢方薬を使うんだ!」つ三【漢方薬】

弥生「う、うん! コタロウ、これを飲んで」つ【漢方薬】

コタロウ「(。□、)」ニガイ

弥生「うゝえ…: 苦い」ニガイ

コテツ「三(、□、)┌」空中キック

オオナズチ「◎皿◎」ステルス

弥生「消えた…!」

ナビルー「注意して見回すんだ! 死角から襲ってくるかもしれないぞ!!」

オオナズチ「(◎皿◎)「三三」突進

弥生「わっ!？」

フィールドマスター「これでもくらいな!!」スリンガー閃光弾

＼ カッ!! /

オオナズチ「(×皿◎) ;」眩暈

フィールドマスター「よし!」

弥生「あ、ありがとうございます!コテツ、コタロウ、やるよ!!」

コテツ「(、旦那)三三●三三」刃鱗飛ばし

オオナズチ「Σ(◎皿×)」Hit!!

コタロウ「(、旦那)三〇三〇三〇」三連火球プレス

オオナズチ「(◎皿◎) ;()」critical!!

ナビルー「いいぞ!!かなり効いてるぞ!!」

弥生「次はこの徹甲榴弾で: : !!」ジャキンッ

オオナズチ「C(◎皿◎)」バサッ

弥生&ナビルー「あっ」

オオナズチ「三三三C() ◎皿◎」空の彼方へ飛んでいく

弥生「: : 逃げちゃった」

ナビルー「あちやー……まあ古龍だし仕方ないな」

弥生「……古龍ってやっぱ強いんだね。古龍と戦える司令官達って本当にすごいんだ……」

ナビルー「大丈夫だって。弥生ならすぐに古龍と渡り合えるようになれるさ！」

フィールドマスター「そうとも。弥生達が戦ってくれたおかげで沢山のオオナズチの痕跡が手に入ったわよ！これで新大陸でのオオナズチの探索ができるわ！」

弥生「……えへへ」テレテレ

ナビルー「おつ、霧が晴れてくな！」

弥生「これで視界もはつきりと……って、ナビルー。あれは何？」

ナビルー「ん？……って、おわっ!?なんじゃありや!？」

弥生「木々が沢山なぎ倒されてる。まるで何かの勢いよく突撃したみたい……」

フィールドマスター「モンスター同士の縄張り争いの跡かと思うけどここまで派手にやるのは……もしかしたらオオナズチが何かと争っていたのかもしれないわね」

弥生「……？」

ナビルー「弥生、どうかしたのか？」

弥生「ナビルー、これなんだろう」

ナビルー「これは黒い棘……？なぎ倒された木々の辺りにあちこちあるぞ？」

フィールドマスター「!?この棘は……!!」

弥生「あの、知ってるんですか……?」

フィールドマスター「……これは渡りをしているかもしれない『ある古龍』のものだよ。まだこの辺りにいるかもしれない。これ以上の探索は危険だわ、今すぐに帰還しましょう」

ナビルー「そ、そんなに危険なのか……!?」

弥生「この棘から嫌な気が感じられる……フィールドマスターの言う通り、早く帰投したほうがいいかも」

ナビルー「だ、だな!コテツ、コタロウが何か焦ってたのはこれだったのか……でもこの棘はどのモンスターのものだ?」

inギルドデカラン | ギルド本部

フィールドマスター「弥生ちゃん、協力ありがとうね。おかげで痕跡も十分に集めることができたわ」

弥生「え、えと、こ、こちらこそ、ありがとうございます」アセアセ

ナビルー「えっへん!!弥生とナビルー達の手にかかればお茶の子さいさいだぜ!!」

弥生「な、ナビルー」

フィールドマスター「あははは、そうかもしれないわねえ！……そうだ、弥生ちゃん。今度新大陸の第五期調査団に入ってみないかい？」

弥生「え!? わ、私はまだ……それに他にも沢山のハンターさんやライダーさんでいっぱいでは……？」

フィールドマスター「実はね、推薦枠があるのよ。大団長も調査団総司令もオストガロア変異種を討伐したクロードくん達をぜひ第五期調査団にと呼ぼうと思っただけ……バルフアルクの件で忙しそうみたいだったしね。だから弥生ちゃんを推薦しようと思うの」

ナビルー「弥生！ まだ新大陸へ冒険できるチャンスがあるぜ!!」

弥生「で、でも……し、司令官にも聞かなきゃいけないし……」アタフタ

フィールドマスター「うんうん、焦らなくて大丈夫よ。バルフアルクの影響で飛行船も出れないみたいし、古龍渡りの時期もまだだからまだまだ時間はあるわ」

弥生「じ、じっくり考えて、またお伝えします……」

フィールドマスター「うんうん。お返事待つてるわね！ それじゃあ弥生ちゃん、また会いましょう！」ノシ

弥生「あ、ありがとうございます!!」ノシ

ナビルー「第五期調査団に入ったらよろしくなー!!」ノシ

コタロウ&コテツ「((*、ω、) 」

弥生「新大陸かあ……司令官、好きそう」

ナビルー「冒険好きだからなークロード」

弥生「ナビルー……私、すぐにでも一人前のライダーになって、新大陸へ冒険する」

ナビルー「おうさその意気だ弥生!! ナビルーと一緒にいればすぐに一人前のライダーになれるぜ!!」

弥生「そのためにも沢山クエストを熟さないと……!! コタロウ、コテツ、頑張ろうね」

コタロウ&コテツ「(、・ω・、) 」フンス

ナビルー「その前に……ドーナツを食べてから!!」

弥生「……ダメ」

ナビルー「そ、そんなー!？」

◇ 1 6 南方海域調査、襲来の青い稲妻

i n 執務室

皐月「アーロさーん！今日もあつそぼー!!」

暁「レデイが鬼ごっこに付き合つてあげるわよ!!」

松輪「きよ、今日もターザンごっこしたい、です…!」

ガラーン…

皐月「あれ？アーロさんとグレイさんがいない？」

暁「わかつたわ！今日はかくれんぼね！」

松輪「が、頑張つて見つけます！」

大淀「アーロさんとグレイさんでしたら外出中ですよ？」

鈴谷「今日は私達はお留守番つてわけ！」

北上「たまーにはのんびりするのでもいいわねー」

皐月「えー！アーロさん達だけお出かけなんてするーい！」
プンスカ

暁「レデイに黙つて外出なんてするいわ!!
プンスカ!!」

鈴谷「大丈夫大丈夫、きつとアーロさん達美味しいお土産とか持つてきてくれるかも

よ？」

松輪「そ、それなら楽しみです……！」

臯月「何がいいかなー、あまーいお菓子とかがいいな！」

北上「とうわけでのんびり遠征したり演習しておいで！」

臯月&曉&対馬「はい！」ドタドタ

鈴谷「……ふー、アーロさん達も無理矢理なんだから」ヤレヤレ

大淀「一応駆逐艦の子達が心配するからという訳で内緒に孫娘提督の下へと出掛けたようですが……」

北上「再び超弩級深海棲艦の目撃、かあ……こりや大変だわー」

鈴谷「大丈夫でしょ！アーロさん達は強いんだから！」

大淀「私達でも何かできる事があるはずですよ。私達なりに情報を集めてみましょう」

鈴谷「オツケー！山城さん達にも掛け合ってみるね！」

北上「大井っち大丈夫かなー……」

in 南方海域 | サーモン海域 泊地、会議室

アーロ「」ガクガクガクガク

孫娘提督「……あの、大丈夫なの？」

大井「ええ大丈夫です。いつものことですので」

大和「どうみても大丈夫じゃなさそうなんですけど……」

加賀「大丈夫ですよ。叩けば直るので」

孫娘提督「ラジオじゃなんだから!？」

アール「めっちゃ他の提督達が俺を見てるよ……ヤベー、ヤッペーイ」

初月「ほら、アールさんしっかり深呼吸して。そうすれば緊張なんて吹っ飛ぶから」

アール「そ、そうか? ひっひっふー、ひっひっふー」

孫娘提督「それ違う呼吸法だから!？」

グレイ「まったく緊張しすぎだつての。こんな大勢の人達に見られてる前で説明する

のは慣れてるし?」

ザラ「グレイさん、足かなり震えてますよ……」

ガングート「ほら、しっかりしろ」バンバン

アール「おうふ……ナイスガッツ。少しは緊張がくんずほぐれつだぜ」

大井「本当に大丈夫なの?」

アール「うし……じゃあ今回は突然現れた超弩級深海棲艦の追跡及び調査において、俺

から説明をする」

孫娘提督「今回の超弩級深海棲艦は各地の鎮守府を襲撃し、跡形もなく破壊し何処へ

消えていったわ。今後また現れて襲撃してくるかもしれないわ。各鎮守府の提督達は十分に注意してちょうだい」

長門「今回は艦娘どころか建物を狙って破壊していくと……かなり厄介な相手だな」
孫娘提督「あの時の超弩級深海棲艦……正体はオストガロアと呼ばれる古龍の仕業だったわ。今回も古龍の可能性はあるのかしら？」

アール「うーん、そこがまだはつきりしない。建物を根こそぎ消して、しまいにや姿も消すなんてあの巨大な体躯を消すことができる古龍なんて……」

グレイ「でも深海棲艦ではなくて別の生物の可能性もあることは考慮すべきだろうな。正体が分からないから言い切れるわけじゃないが」

孫娘提督「それで、アールさん。今回は追跡と調査で何か考えがあると聞いたのだけど？」

アール「おう。連合艦隊を組んで大規模な追跡を行う。つまりはじわりじわりと包囲する様に追跡をするんだ」

他提督達へザワザワ……

大和「包囲網を造り狭めて行って追いつめるわけですね？」

アイオワ「ワーオ!! 所謂、マグロ漁デスネ!!」

ザラ「あのち、違うと思いますよ……?」

ガングート「包围網をつくるのはいいが、どうやって対象を探すのだ？」

孫娘提督「その通りね……私達でも追跡はしたけども電探もソナーでも見つからなかったのよ？」

グレイ「対象を探す方法は他に方法がある。こいつを使うんだ」ゴトツ

長門「これはなんだ？ランプ……？」

加賀「ですが光が動いているように見えますね……」

初月「蛭みたいでとても綺麗だ……！」

孫娘提督「こ、これは何なの？」

グレイ「こいつは『導蟲』だ」

孫娘提督「む、虫!？」

大和「だ、大丈夫ですよ提督。カナブンみたいな形はしてませんし」

大井「虫を使って探すの……!？」

グレイ「こいつはただの蟲じゃあない。導蟲は特定の匂いや物質に反応して群がる習性があり、一度覚えたものは何処にそれがあるかを見つけ出す力があるんだ。あるハンターや調査団はこいつを使ってモンスターや鉱石や木の実、周辺環境生物の追跡に利用している」

アール「足跡や爪痕、分泌物といった痕跡を導蟲に覚えさせれば嵐の中でも火山の中

でも、空中や地中そして水中だって何処へでも追跡できるんだ」

ガングート「自然の追跡装置か。アール口さん達の故郷の技術は素晴らしいな!!」

孫娘提督「便利ね。鎮守府の匂いを覚えさせれば、はぐれた艦娘達も迷わずに無事に帰って来れることもできる……普及できたらいいわね」

グレイ「本来は新大陸へ赴くハンターとかに普及されるもんだが、書士隊にも普及されているんだ。俺が今まで使っていたものが幾つかある。今回はこれを使って超弩級深海棲艦を追跡して包囲する」

ザラ「ち、ちなみに深海棲艦の匂いとかも覚えてくれるのですか……?」

グレイ「試した事はないが……導蟲は人の匂いも記憶する。だから大丈夫だろうな」

アール口「まずは襲撃してきた場所で痕跡を集め、導蟲で追うぞ!!」

孫娘提督「ソナーや電探以外の方法でやる価値はあるわね……痕跡を回収し導蟲が誘導出来次第、連合艦隊で出撃するわよ!!」

他提督達「おおーっ!!」

アール口「……ふうー、緊張したー……」

初月「アール口さん、お疲れ。うまくできてたよ」

加賀「しかし導蟲とやらがあつたなんて……本当に提督達の故郷には驚かされますね」

アール「それにしてもグレイ、お前の導蟲って結構使ってたんだろ？大丈夫なのか？」
グレイ「問題ない。毎日ハチミツあげてるから超元気」
アール「：：ウイルが聞いたら発狂しそうだな」

某鎮守府 襲撃跡地

アール「ありやまー：：これはひどい荒れ様だな。更地？」
グレイ「本当に残骸も根こそぎ消滅されてるな……」

孫娘提督「私も最初見た時は目がテンになったわ：：これだけきれいさっぱり破壊して
いく深海棲艦なんて聞いたことないわ」

ザラ「これじゃあ痕跡の一つもなんじゃ：？」

グレイ「大丈夫。導蟲はかならず痕跡を見つける。見えにくい足跡もモンスター匂
いやフェロモンもどんな小さな痕跡さえも見逃さないんだ」

サアアア：

初月「緑色に光ってた導蟲が青色に光った!？」

グレイ「さっそく見つけたようだな。導蟲についていこう」

加賀「この辺りに止まりましたが：：どのあたりに痕跡が？」

アール「よく目を凝らせば見つかるぜ？」

グレイ「あつたぞ。足跡だ」

ガングート「かなりでかい足跡だな……」

アイオワ「そうとなると本体はかなり巨大デスネ……まるでカイジユウね」

グレイ「まず一つ回収できたな……」

アール「足跡についている微かな匂いを導蟲に覚えさせ、どんどんと痕跡を集めればまずは次の痕跡へ、そして対象への誘導をしてくれるんだ」

グレイ「よし、次の場所へ移動だ」

孫娘提督「この調子で集めて行けばいいのね！」

大井「ねえ、導蟲にアールの匂いを覚えさせればアールさんがどこでサボっているのかすぐに分かるっていうわけね？」

グレイ「おう、ハンターの誘導もしてくれるぞ」

加賀「それは便利ですね。さっそくやりましょうか」

アール「ひっ……!?!」

―― 痕跡回収中

グレイ「十分に痕跡は集まった。これで導蟲も記憶してくれたはずだ」

パアアアッ……

長門「最初の時よりもかなり強く光ったな」

アール「これで次の痕跡の場所或いは対象の誘導をしてくれるぜ」

孫娘提督「それじゃあこの導蟲たちを連合艦隊に配布して追跡を開始するわね！」

グレイ「あ、一つ言い忘れていた。導蟲はこう見えて臆病な性格だ。何か身の危険を感じ取ったら導蟲は赤く光り、瓶の中へと逃げる。安全が取れるまでもこもりつきりになるからその時は追跡はできないから注意してくれ」

孫娘提督「分かったわ、私達もできるだけ無理はしない。貴方達も気をつけて」

アール「おうよ！そんなじゃ俺達も導蟲を使って追跡、調査をするぞ！！」

大井「その前に、ちゃんと皆に事情を話してちゃんと編成を組んでから出撃でしょ？」

加賀「二人とも大慌てで来たんですから、まだ準備も整ってませんよ」

グレイ「いやー、導蟲を使うアイディアを思いついた時はスツゴイ大慌てしてたもんで」テヘペロ

アール「寝坊しかけてました☆」テヘペロ

加賀「アールさんは反省してください」スパーン

アール「べブシュ!?!」…：(ε。(

孫娘提督「ほ、本当に大丈夫なの…：?」ヤレヤレ

他提督A「孫娘提督殿!! た、大変です!!」ドタドタ

他提督B「南方海域近海の泊地が襲撃されています!!」

孫娘提督「なんですって!? もう現れたの!？」

他提督A「い、いえ今回は超弩級深海棲艦ではなく別の生物が突然飛来して泊地を襲撃、破壊活動をしているんです!!」

他提督B「青く光って電気を発して、ステンドグラスのような翼をしたドラゴンが……!!」

アール&グレイ「!？」

初月「あ、アールさん、どうしたの……?」

ザラ「グレイさんも、凄く緊迫した表情になつてますが……」

アール「それマジカー……マジでヤベエぞ」

グレイ「ああ……他の方は兎に角安全な場所へ避難をお願いします」

アール「やるしかねえなあ。孫娘提督さん、ちよつくら俺らで行つてくる」

孫娘提督「え? 援護とかやるわよ? 連合艦隊なら一気に支援砲撃で……」

アール「悪いな、こいつは俺達でやった方がいい。あいつは、『二つ名』相手じゃヤバすぎる」

グレイ「しかも相当危険な相手だ。これ以上被害が大きくなる前にやろう」

初月「でも……」

アール「心配すんなって。俺に任せとけ」ナデナデ

ガングート「いいのか？私やアイオワ、戦艦の火力にも十分頼ってもいいんだぞ？」

アール「お前達にも被害が及ばせたくないんだ。もしも何かあったら俺はクロード達に会わず顔がねえ」

大井「アールさん：無茶だけはしないでくださいね」

アール「おうよ。ちゃちゃつと片付けてやるさ！」ノシ

グレイ「それじゃザラ、行ってくる」ノシ

ザラ「：：：」

大井「大丈夫よ。アールさん達なら、きつと無事に帰って来てくれるわ：：」

ザラ「ですが：：グレイさんもアールさんもかなり緊張した様子でした」

長門「よほどの強敵なのかもしれん：：：」

i n 南方海域——珊瑚諸島泊地周辺

アール「：：：」

グレイ「：：：やっぱ心配か？」

アール「まあな。ちよつと嘘ついちゃったことに多少」

グレイ「：：正直俺も『アイツ』相手に怪我無く戦えた事がないし、一度命からがら退散した事もある」

アール「今回は流石に大怪我すつかもなあ。大井さんや初月たちに怒られるかも」

グレイ「その時は俺がしっかりサポートしてやるさ」

アール「頼んだ：：つて、くるぞつ!!」

バチバチバチィッ!!

グレイ「あぶねっ!?!いきなり雷球飛ばして来やがった!?!」回避

アール「本来自分のテリトリーにしかおらず、侵入してきた相手には容赦なく襲い掛かるあいつが飛来してきたなんて：：異常だ」

グレイ「今回の件に関連してるかもな!見えたぞ!!」

アール「二つ名、『青電主』ライゼクス：：!!」

青電主・ライゼクス「グルルル：：!!」

アール「二つ名は油断できない。ぜってえ止まるなよ!!」

グレイ「ああ!!アールもな!!」

青電主「キシャアアアアアッ!!」

◇17 ライトニンググリヴォルト

アール「二つ名ライゼクスの攻撃に気をつけるよ！」つタイラントブロス

グレイ「ああ!!アールこそ無茶すんじゃないぞ!!」つ叛逆斧バラクレギオン

青電主「(▼皿▼)三●三●三●」三連雷球ブレス

アール「よっ、まずはトサカを壊す!!」斬りかかり

グレイ「そりゃあっ!!」斧モード袈裟斬り

青電主「(▼皿▼)っ」尻尾振り回し

アール「ガードッ!!」ガードポイント

グレイ「余裕っ!!」回避

青電主「(▼皿▼)っ三三三三」尻尾からビーム

グレイ「それ来るの忘れてたーっ!?!」三(三)・四、;

アール「おおいっ!!こんにやろ!!」溜め二連斬り

青電主「(▼皿▼)三っ」連続翼爪薙ぎ払い

アール「ぬうっ!!」ガード

青電主「(▼皿▼)」キイイイン……

アール「げっあの溜め技は!?まさか!!グレイ気をつける!!」

青電主「(▼皿▼)□□□□□□」ライトニングブレード

グレイ「あぶなああっ!?」緊急回避

アール「うひーっ!!」緊急回避

グレイ「青電主のトサカを振り下ろして放つ必殺技…!!かなりの範囲だし威力も強力だ!!」

アール「ありやあ雷耐性あってもくらったら大事だもんな…!!」

青電主「(▼皿▼)」飛翔

グレイ「飛んだか!尻尾を狙って…」

青電主「(▲皿▲)」アクロバット雷球プレス

アール「はぶっ!?」(●)。(3)。(…)

グレイ「そうだった。こいつアクロバットに空中で側転しながらプレスしてくるんだった!」

青電主「(▼皿▼)」尻尾攻撃

グレイ「なんのっ!!」躲して剣モード連続斬り

アール「おらーっ!!いてえじやねえか!」斧モード叩き付け

青電主「キシヤアアアアアッ!!」尻尾を地面に突き刺す

アール「あつ!! 放電くるぞ!!」

グレイ「逃げ逃げ!! 離れろ!!」アセアセ
バリバリバリーイイ!!

アール「あぶねーっ!!」絶対回避

グレイ「あの放電も範囲が広いしな...!!」

青電主「C(▼皿▼)」三三三「強襲ダイブ

アール「うぬおおっ!」ガード

グレイ「ひえっ!!」ジャスト回避

アール「こいつをくえ!!」高出力属性解放斬り

青電主「Σ(▼皿▼)」怯み

グレイ「よし、いい調子だ!!」

アール「どンドン押しかけて行くぜーっ!!」連続斬り

青電主「キシヤアアアアアアッ!!」咆哮からの青電荷状態

アール「う、うるせーっ(; () () ()

グレイ「ここで避けて攻める!!」リアル回避からのジャンプ攻撃

青電主「(#▼皿▼)」翼爪叩き付け

アール「あぶばあああつ!」三三三。3。()...:

グレイ「アールが吹っ飛んだー!？」

青電主「C(▼皿▼#)」連続翼爪叩き付け

グレイ「あぶっ!?!アール、これでっ!!」回避からの生命の大粉塵

アール「た、助かった!」

青電主「三三(# ▼皿▼)」低空飛行タツクル

アール「あぶねえこっちききたー!?!」ガード

グレイ「このっ!!させるか!」飛天連撃

青電主「Σ(;▼皿▼)」怯み

アール「この隙に、もういっちょくらえ!!」高出力属性解放斬り

青電主「(#▼皿▼)っ」翼爪薙ぎ払い

アール「あでっ!」受け身

青電主「C(# ▼皿▼)っ」飛翔

グレイ「また飛んだっ!!」

青電主「C(# ▼皿▼)三◎」超電磁球

アール「あれは…武器をしまつて走れ!!磁力で引き寄せられるぞ!!」猛ダツシユ

グレイ「ひ、引き寄せられるーっ!!」ダツシユ

青電主「三C(# ▼皿▼)っ」旋回

グレイ「ちよ、こっち見んな!？」

青電主「C(▼皿▼)＃」C「キイイイン…」

グレイ「ちよ、待て!？」

青電主「△□□□□□□(▼皿▼)＃」C「ライトニングブレード」

グレイ「あぶねえええつ!？」緊急回避

アール「くそつ、トサカを壊さない限り閃光が効かねんだよな…!!」ダツシユ

青電主「C(▼皿▼)」C「放電ダイブ」

アール「今度はこっちかつ!!おりやつ!!」緊急回避

グレイ「この隙につ!!くらいやがれ!!」属性解放突撃

青電主「(▼皿▼)＃」つ「尻尾振り回し」

グレイ「決まったけど痛いーっ!？」(シ、皿、)

アール「おらーっ!!こっち向けえ!!」斧モード叩き付け

青電主「(＃▼皿▼)三三三▽」雷プレス

アール「あぐおっ!？」ガード

青電主「(＃▼皿▼)」C「翼爪叩き付け」

アール「が、ガードが削られるっ!？」ガード

グレイ「二発目はやらせないっての!!」ジャンプ攻撃

青電主 「(；▼皿▼)」 怯み

グレイ 「乗りいーっ!!」

アール 「よっしやナイス!!」

青電主 「(；▼皿▼)」 ジタバタジタバタ

グレイ 「ぬぐぐぐっ!! 暴れるなこの野郎!」 しがみつく

アール 「いいぞ!! 止まるんじゃないぞ!!」

グレイ 「任せとけ! おらおらおらおらおらああつ!!」 ザクザクザクザクザク

青電主 「(；▼皿▼)」 怯み

グレイ 「も一つおまけだーっ!!」 背中に属性解放突き

青電主 「(；▼皿▼)」 ダウン

アール 「ナイス!! 今のうちにありったけぶちこむぞ!!」 属性解放斬り

グレイ 「ぬおおおおおっ!!」 斧モード振り回し

青電主 「(；▼皿▼)」 起き上がり様に尻尾振り回し

アール 「ぶっ!?!」 受け身

グレイ 「くっ、カウンターかっ!!」 受け身

青電主 「(# ▼皿▼)っ」 翼爪叩き付け

グレイ 「じゃなくて起き攻めだーっ!?!」 (三)；(四)

アール「グレイ！いま使う！」つ「生命の大粉塵」

青電主「C（#▼皿▼）〇三三〇」飛んで超電磁球

アール「またか！走れ!!」ダッシュ

グレイ「ひ、ひえええつ!!」ダッシュ

青電主「(▼皿▼)#三三三」強襲ダイブ

アール「うひいっ!?!」緊急回避

グレイ「このつ…!!」剣モード連続斬り

アール「スリリングすぎるだろ！」盾突き

青電主「(#▼皿▼)つ」尻尾振り回し

アール「そいつ!!」ガードポイント

グレイ「なんのっ!!」ジャンプ攻撃

青電主「(#▼皿▼)つ三三三三三」尻尾からビーム

グレイ「ちよ、またっ!?!」三三三) 皿、;

アール「グレイ!!こんにやろてめ！」高出力属性解放斬り

青電主「(;▼皿▼)」左翼爪破壊

グレイ「で、でかした！」つ回復薬グレート

アール「おうよ!!ヘイトは稼ぐ。今のうちに立て直しとけ！」溜め連続斬り

青電主 「C(▼皿▼#)」翼爪薙ぎ払い

アール 「効かかったの!!」ガードポイント

青電主 「●三●三●三(▼皿▼#)」三連雷球ブレス

アール 「あぶっ」回避

グレイ 「今度は俺の番だ!!」ジャンプ攻撃

青電主 「C(#▼皿▼)C」バックジャンプで飛ぶ

グレイ 「ちっ、躲した!」

青電主 「キシヤアアアアアアツ!!」尻尾を地面に突き刺す

グレイ 「やぼっ、放電がくる!」

バリバリバリイイイツ!

アール 「あばばばーっ!?」痺れ

グレイ 「アール!」つ【生命の大粉塵】

青電主 「◎三(▼皿▼#)C」超電磁球

アール 「ちよ、こんな時に!」ズズズズズ

青電主 「(▼皿▼#)C」キイイイン…

アール 「げっ!?間に合え間に合え!」アセアセ

青電主 「△□□□□(▼皿▼#)C」ライトニングブレード

アール「あぶねええっ!?」緊急回避

グレイ「このっ!! さっさと降りて来い!」剣モード斬りかかり

青電主「C(＃) ▲皿▲」三▽三▽「アクロバット雷プレス

グレイ「へぶーっ!」)。D)。

青電主「三三(＃) ▼皿▼」強襲ダイブ

グレイ「俺狙いか! これを躲してカウンターを . . . !!」エリアル回避

青電主「C(▼皿▼) #」翼爪叩き付け

グレイ「ちよ、ちよっと待てえええっ!?」三三(＃)，3、；；；

アール「グレイ!」っ【生命の粉塵】

グレイ「ピヨピヨ . . .」気絶中

アール「気絶か!! 起きろ!!」

青電主「(▼皿▼) #」キイイイン . . .

アール「なっ?! まじでか!?! くそう . . . 間に合え!」ダツシュ

グレイ「ピヨピヨピ . . . はっ、あっ . . . !!」

アール「グレイ、離れろ!!」グレイを打ち上げる

グレイ「ぶっ!! あ、アール . . . !!」

青電主「△□□□□□□□(▼皿▼) #」ライトニングブレード

バリバリバリーイイツ!!!!

グレイ「アール!?」

アール「倒れている

グレイ「アール!!大丈夫か!？」

アール「

グレイ「おい!!返事をしてくれ!」

アール「

青電主「C(▼皿▼ #)」アール狙いで翼爪叩き付けようとする

グレイ「っ!!させるかあああっ!!」属性解放突き

青電主「Σ(▼皿▼ ;)」怯み

グレイ「アール、しっかりしろ:!!」アールを担ぐ

アール「

グレイ「くっ:このままじゃまずい!退こう!」ガサゴソ

青電主「(# ▼皿▼)」翼爪叩き付け

グレイ「っ!?モドリ玉、間に合え!」っ【モドリ玉】

バシユウウウ:

青電主「Σ(▼皿▼)」煙に驚く

グレイ「…っ、今のうちに…!!アール、すぐに手当てしてやるからな!!」フラフラ…

inサーモン海域泊地

グレイ「きゅ、急患だ!!誰か治療を…!!」ゼエゼエ

ザラ「グ、グレイさん!?その怪我は…:それにアールさん!?」

初月「そ、そんな…:アールさん、しっかりして!」

アール「」

大井「アールさん…!!お、起きてくださいよ。じよ、冗談じゃ怒りますよ…!!」

アール「」

加賀「…:嘘ですよアールさん…:起きてください…!」

ガングート「しっかりしろ…:!!お前はそこで倒れるわけがないだろ!」

孫娘提督「どうしたの!?!って、貴方達大丈夫!」

グレイ「俺は兎も角、アールを急いで治療してくれ!!」

孫娘提督「酷い怪我…:!!すぐに治療班に治療させるわ!!こっちに!!」

グレイ「頼む。今回ばかりはやばい…:!!」

孫娘提督「分かっているわ!貴方達も大事な仲間、絶対にいなくさせはしないわ!!」医

療班と共にアールを運んでいく

グレイ「……頼んだ」フラア

長門「グレイさん!? だ、大丈夫か!？」

ザラ「グレイさんも大怪我してるじゃないですか!？」

グレイ「俺は大丈夫だ。今はアールを……!! 俺のせいだ……!」

大井「グレイさんは悪くないわ……」

初月「アールさん……!!」グッ……

加賀「初月……」

初月「アールさんは怪我をして帰って来てもそれを見せずに笑顔で戻ってくる。だから今回もきつと笑顔で帰ってくるだろうと思ってた……でも、今回は違う……僕は、僕は……アールさんを守れなかった……!!」

グレイ「……っ」

初月「いますぐ僕も向かわなきや……!! 向かってアールさんを苦しめたアイツを……!!」

長門「ダメだ初月!!」ガッ

初月「いやだ! 止めないでくれ!!」

大井「落ち着いて初月!! アイツは私達だけじゃ危険すぎるわ!! 貴女が行ってもし何かあつたらアールさんは一生悔やむことになるわよ!!」

ガングート「今はアールさんの心配をすべきだ……」

初月「……………!!ちくしょう…畜生…!!」

グレイ「…すまない…」

ザラ「グレイさん…」

グレイ「…今は体勢を立て直す。落ち着いてから俺が再び戦いに行く…」

長門「……………」

○ 1 1 西 部 探 索 後

前回までのあらすじ——島の西側を探索していたウイル御一行。その最中に新大陸に生息していると言われていた『蛮顎竜』アンジャナフと遭遇した。そしてアンジャナフに襲われてひたすら逃げている最中であつた。

ウイル「うおおおおおおつ!! 走れ走れえええつ!!」

レ級「ま、まだ走らなきやいけないのおおつ!」

ホツポ「超スリリングつ!!」ウキウキ

せんちゃん「超エキサイティング…!」ワクワク

アンジャナフ「(皿) (三三三) ドドドドドッ

駆逐水鬼「まだ追いかけてくるぞ…!」

ウイル「あーくそつ、しぶてえ野郎だ!」

重巡棲姫「ヴェアツ!!もう追い払おう!」プンスコ

ウイル「どこか広い場所の方が…むっ!あの草は…!」

レ級「赤い実がついてる草がどうかしたのか?」

ウイル「あれははじけクルミ!!重巡棲姫、あのはじけクルミを取ってくれ!」

重巡棲姫「とつたー！」（、・ω・）ノ

ウイル「よし！それをry」

重巡棲姫「もぐもぐ」（、く、）モグモグ

ウイル「食べるんかい!？」

重巡棲姫「!？」バチバチバチ

駆逐水鬼「なんか頬袋を膨らませたハムスターみたいになってる…」

ウイル「はじけクルミは衝撃を与えると弾けるように中身が飛び散る。それをモンスターに投げつけたら怯むんだが…」

重巡棲姫「（、；ω；、）」

ウイル「おーよしよし、ビックリしたんだな。今度は気をつけよう、な？」ナデナデ
レ級「そんな事してる場合かいっ!？」

アンジャナフ「へ（、皿、）ノ三三」ジャンプ

ホツポ「跳んできたーっ!!」

ウイル「あぶねーっ!？」

ズウウウウン…

ウイル「あいたたた…皆大丈夫ry…」

アンジャナフ「三（、皿、）へッドバッド

ウイル「うおっ!?」回避

ホツポ「ウイル! 皆大丈夫!」ノシ

駆逐水鬼「何とか回避できたが……」

ウイル「丁度分断できたところか……うっし、俺が此奴の相手して時間を稼ぐ。お前らはその間に突っ走れ!」

レ級「ちよ、ウイルを置いて行けるかっての!」

駆逐水鬼「私も戦えるぞ!」

重巡棲姫「ウイルを食べさせない!!」フンス

ホツポ「……!」ピコーン

せんちゃん「ホツポ、何か閃いたの?」

ホツポ「ウイル、すぐにお助けするから!!」ダツシユ

せんちゃん「ホツポ、何処行くの?」ダツシユ

駆逐水鬼「ふ、二人とも何処行くんだ!?!」

レ級「お、追いかけないと……ウイル、無理しないでよ!!」ダツシユ

ウイル「……ちゃんと離れたみてえだな。こつから先は俺が遊んでやるぜ!」つエイム
Ofマジック

アンジャナフ「三(皿)噛み付き攻撃

ウイル「余裕！ 獵虫ちゃん、ゴーっ!!」回避

獵虫<ヤッテヤンヨ!! 三三三◎

アンジャナフ「Σ（、皿、）」

ウイル「先ずは赤！ どんどんエキスを取って頂戴！」振り下ろし攻撃

アンジャナフ「（、皿、）」タツクル

ウイル「おっと！」

獵虫<フンガー!! ◎三三三

ウイル「オレンジか。あとは白を……」

アンジャナフ「（、皿、）」尻尾振り回し

ウイル「ふべすっ!?!」受け身

アンジャナフ「三（、皿、）」ヘッドバツド

ウイル「うわっ!?!あぶねえなこの野郎!!」袈裟斬り

獵虫<コイツデドウヨ!! 三三三◎

アンジャナフ「Σ（、皿、）」

ウイル「つしやあ!! エキスが揃ってパワーアップだぜ!!」ペカー

アンジャナフ「（、皿、）」タツクル

ウイル「そいつ!!」ジャンプ回避

アンジャナフ「Σ（、皿）」

ウイル「からのー…くらいやがれ!!」ジャンプ攻撃

アンジャナフ「（；、皿）」怯み

ウイル「しやあ、のりーっ!!」

アンジャナフ「三三三三（；、皿）」ドドドドドドッ

ウイル「うおおおっ!?!めつちや暴れんやがる!」（；、皿）」

アンジャナフ「（、皿、；）」三三

ウイル「ぬおおおっ!!おらおらららららああああつ!!」ザクザクザクツ

アンジャナフ「（；、皿）」怯み

ウイル「こいつはおまけだーっ!!」叩き込み

アンジャナフ「（、皿、；）」ダウン

ウイル「ヒヤツハー!!攻め時だーっ!!」連続斬り&回転斬り

アンジャナフ「（、皿、）」足蹴

ウイル「あふん!?!起き上がるのはやつ!?!」尻もち

アンジャナフ「ブオオオオオツ!!」咆哮

ウイル「背中に折りたたまれている翼を広げ鼻孔のトサカを膨らませた…お冠ってか」

アンジャナフ「（、皿、#）三三」連続噛みつき攻撃

ウイル「わほっ、怒ると厄介だな！」回避して振り下ろし

アンジヤナフ「(皿 #)三」ヘッドバッド

ウイル「あでっ!? いったいなこのry」受け身

アンジヤナフ「(皿 #)三三三」強体当たり

ウイル「お、起き攻めえええっ!?」∴∴(ε。(

アンジヤナフ「(皿)三」ヘッドバッド

ウイル「連続でくらつてたまるかっての!!」ジャンプ回避

猟虫<エンゴダオラー ◎三三三

アンジヤナフ「Σ(皿)」怯み

ウイル「よっしや、こいつをくらえ!!」ジャンプ攻撃

アンジヤナフ「(皿 ;)」怯み

ウイル「まだまだ!!」回転斬り

アンジヤナフ「(皿)」タツクル

ウイル「当たんねえぜ!!」回避からの袈裟斬り

アンジヤナフ「ブオオオオオッ！」咆哮

ウイル「わっ!?! 吠えやがった」(皿 ; 皿、)

アンジヤナフ「グルルル」チリチリ

ウイル「喉元が赤く…炎熱蓄積状態か。炎を溜めこんだようだな」

アンジヤナフ「三（、皿）」嘔みつき

ウイル「当たらねえ…って、あつつい！あつつい！あつつい！炎を当ててくんなよ！」チリチリ

アンジヤナフ「三三三三（#、皿）」強体当たり

ウイル「あぶねええっ！」緊急回避

アンジヤナフ「（、皿 #）（）タツクル

ウイル「うひーっ！！当たってたまるかっての！！」連続斬り

アンジヤナフ「スーッ」

ウイル「あっ、鼻を思い切り吸ったってことは……」

アンジヤナフ「……>（、皿 #）」火の粉噴出

ウイル「鼻から火の粉ーっ！」緊急回避

アンジヤナフ「（、皿）」スツキリ

ウイル「あ、あぶなかつたー…」ホッ

アンジヤナフ「（、皿）三三三」飛び掛り

ウイル「ぬおーっ！！」回避してジャンプ攻撃

アンジヤナフ「Σ（、皿 ;）」怯み落ちる

ウイル「はっはー！！どうだコノヤロー！」

アンジャナフ「スーツ」

ウイル「あつ」

アンジャナフ「(#、皿、)」火炎プレス

ウイル「あつちいいいいいいっ!?」

ゴロゴロゴロゴロゴロウマルゴロゴロゴロゴロゴロ

ウイル「あつっう!?!メツチャクチャあつっ!?!」三(、ω、)三(、ε、)三(、ω、)

三(、:3、)三(、ω、)

ジュウツ

ウイル「あぶねー、危うくこんがり肉になる所だったぜ。なんとか炎やられを消して

…」

アンジャナフ「(、皿、#)」噛みつき

ウイル「ちょ、ちょっと待てーっ!!」アセアセ

アンジャナフ「!?!(、皿、;)」ビクッ

ウイル「お?な、なんだ?」

重巡棲姫「ヴェアアアツ!!ウイルを食べるな!」アンジャナフの尻尾にしがみつき噛み

つく

アンジャナフ「!?!(、皿、;)」!?!」

ウイル「何やってんのおお!!」

重巡棲姫「ウイルを食べようとする奴は私が噛み付いてやる!!」ガジガジガジガジ
アンジャナフ「(、皿、；)(三(；、皿、)」「ジタバタ

ウイル「ちよ、やめつ、やめておきなさい!すぐにぺっしなさいって!」

重巡棲姫「ガルル!!」ガブガブガブガブ

艦装ちゃん①<コノヤロウタバテヤル ガジガジガジガジ

艦装ちゃん②<鱗ガカテエ ガジガジガジガジ

ウイル「めっちや噛みつきまくってる!?!あ、あと食べるのはやめーい!!」

アンジャナフ「(#、皿、)」「尻尾を振り回す

ブンブンブンブン

ウイル「めっちや振り回してる!!見たこともないくらいめっちや振り回してる!?!」

重巡棲姫「ヴえあつ!」(；、皿、)三

ウイル「げっ!?!うおおお!!」猛ダツシュ

ドッスンノ

重巡棲姫「無事着地っ」

ウイル「俺が受け止めたんだけどな…」重巡棲姫の下敷きになる

アンジャナフ「(、皿、 #)三三」ドドドドドド

ウイル「ちよ、来てる来てる!! は、早くのいて!？」

ホツポ「ウイル! 助けにきたよ!!」 バツ

せんちゃん「お助け」 フンス

ウイル「ちよ、お、お前ら!？」

ホツポ「ウイル、これを使えばいいかも!」

ウイル「それは：：つて、お前らどんだけ魚を獲つて来たんだ!？」

せんちゃん「頑張った」 フンス

ウイル「えらいねー：：つて、そうじゃなくて何で魚!？」

ホツポ「恐竜さん、お腹空いてるなら満腹にさせればいい!!」 ドヤツ

レ級「ま、まあホツポの指示でこんな山程獲ってきたわけなんだが：：」

駆逐水鬼「こいつをあいつの口の中に放り込めばいいのだな!」 フンス

ウイル「た、確かに満腹にさせれば襲つてこない可能性はあるが：：」

アンジャンナフ「(皿 #) 三三三 タツクル

ウイル「物は試し用つてやつだ!!」 ジャンプ攻撃からの乗り

アンジャンナフ「Σ (皿 ;)」

ホツポ「乗つたー!!」 キラキラ

せんちゃん「完食」

ウイル「ふいー、こんだけ食べさせりや…」

アンジャナフ「(〇、川)」ゲフウ…

ウイル「まあそうなるわな」

レ級「ぜつたいに食べさせ過ぎだつて」

駆逐水鬼「これで大人しくなるな」

レ級「いやそのレベル超えてるつて」

重巡棲姫「むう、もうないのか」ムスー

ウイル「帰ったらこんがり魚沢山焼いてあげるから」ナデナデ

レ級「それでウイル、一応何とかなったけどこれからどうするんだ？」

ウイル「うーん…探索はここまでにして一度戻ろう。アンジャナフがいるつてことだ

けでも大発見だ。整理してからまた探索をする」

ホツポ「今日はここまでにして帰るんだ」

せんちゃん「また冒険したい…!」

重巡棲姫「美味しい物また見つけたい」

駆逐水鬼「なかなかいい修行になりそうだ。また頼むぞウイル」

ウイル「あーうん…ほどほどにね…?」

i n 東側密林

ウイル「……」

ホツポ&せんちゃん「♪」

重巡棲姫「おなかすいたー……」

ウイル「……」

レ級「……なあウイル」

ウイル「うん、後ろは見るな。絶対に気にしちゃいけない」

レ級「いやでも」

ウイル「何も見てない、いいね？」

レ級「嫌無理でしょ。だって……」

アンジヤナフ「(ω、ω、ω) (((「ノツシノツシ

レ級「めつちやついて来てるんだけど!？」

駆逐水鬼「起き上がってすぐに後からついて来ていたな」

ウイル「なんでや!?!なんでタイムできてんのや!?!」

駆逐水鬼「たぶんお腹空いてたからじゃないのか?」

ホツポ「おまえもウイルのこんがり肉が食べたいの?」

アンジヤナフ「(、ω、(」

せんちゃん「食べたいて」

ウイル「イヤイヤイヤ」

レ級「どうするんだよ？このままついてきたら皆絶対に驚くぞ？」

ウイル「オトモンにすりやあこれまた大発見になるのだが…安全の事を考えると野に放つのが一番…」

ホツポ&せんちゃん「ダメ？」ウルウルウル

ウイル「ううん、許しちゃう」キューン

レ級「ズコー

ホツポ&せんちゃん「やったー!!」

レ級「いいのよ!？」

ウイル「安心しろ、ホツポ達が怪我しないように俺がしっかりと面倒みてやるさ」

アンジヤナフ「(、ω、(」ガジガジガジ

レ級「ウイル、めっちゃ嘸まれてるんだけど？」

ウイル「ははは、こいつは多分じゃれてるのさ。多分じゃれてるのさ」

アンジヤナフ「(、ω、(」ガジガジガジ

ウイル「あつはつは、このやろー。おーよしよし」

駆逐水鬼「ふむ：：組手の練習相手にもできそうだな」

レ級「いやウイルスがめっちゃ嘸まれてるんだけど!? もう少しでマミリそうんだけど
」

重巡棲姫「ウイルスを食べちゃダメ！」

レ級「そ、そうだぞ!!」

重巡棲姫「こんがり肉が食べれなくなる！」

レ級「そつちかーい!?」スパーン

ホッポ「ただいまー!!」

港湾棲姫「ホッポお帰り：：って、それなに!?」アセアセ

駆逐棲姫「きやあああ!? ウィルさん食べられてるじゃないですか!?」

ホッポ「じやてれるだけだつてさ」

ウィル「やれやれ人懐っこくなりやがって：」ヨダレベトオ

空母棲姫「いや涎まみれになつてるわよ」

ウィル「ほれ、肉でも食べて大人しくしてな」つ生肉

アンジャンナフ「(* ' ω ')」

南方棲姫「あれ、意外と手懐けてるじゃないの」

ウイル「クロードの見様見真似だけだな。あいつならすぐに小型中型のモンスターを手懐けることができるぜ？」

レ級「いやクロードさん凄すぎでしょ……」

防空棲姫「これちゃんと飼うの？」

ホッポ「頑張ってお世話する!!」フンス

ウイル「まあ、俺が頑張つて竜舎を建てるさ。そつからだ」

軽巡棲姫「アイドルの仕事ね……! 私も手伝うわっ!!」

空母棲姫「止めときなさいって」

戦艦水鬼「ウイル!! 丁度帰つて来てくれたか……つて、何そのでかいトカゲは!？」

ウイル「世紀の大発見の証拠だ。何だか慌てているようだが?」

戦艦棲姫「ウイル、さつき鎮守府から緊急の電報が来てたの」

ウイル「緊急……? アーロからか?」

戦艦棲姫「いえ、長門さんからよ」

戦艦水鬼「アーロが『青電主』とやらとの戦いで重傷を負い倒れた、と」

ウイル「……なに!？」

◇18 青電主撃退作戦―前

in 鎮守府

ウイル「邪魔すつぞオラーっ!!」

ホツポ「ハチミツ沢山持つてきた!!」

大淀「ウイルさん!来てくれたんですね!」

夕張「色々と詳しくお伝えしなければいけないのに、今は皆焦つてて…」

ウイル「大丈夫だ、気にすんな。それよりもアークは何処にいる?」

大淀「南方海域から戻り、今は治療室に…」

ウイル「おう、すぐに案内してくれ」

臯月「ウイルさああああんっ!!」大泣き

暁「うわああああん!!」大泣き

ウイル「おつとと、お前ら大丈夫か?」

臯月「アークさんが、アークさんが…っ!!」

雷「昨日は笑顔いっぱいでも元氣だったのに…!!」

時津風「アークさん、いなくならないよね…!?!」

天津風「ウイルさんお願い…アークさんを助けて…!!」

ウイル「大丈夫、大丈夫だ。心配しなくていい。だからお前らは落ち着いて、あいつが起きるのを待つてやってくれ」ナデナデ

暁「う、うん…」ズビツ

夕張「ウイルさんの言う通りよ。アークさんなら大丈夫…みんな少し部屋で待つておきましょう？大淀さん、お願いします…」

大淀「夕張さん…すみません。ウイルさん、こちらへ」

ホツポ「ウイル、私みんなを元気にさせてくる！」

ウイル「頼んだぜホツポ。そんじや大淀さん、行きましようか」

i n 治療室

ウイル「おう邪魔するぜ。アークは何処だ？」

長門「…ウイルさん…!」

孫娘提督「よかった…来てくれたのね！」

ウイル「みんなの様子からしてかなりヤバそうだな」

黒丸「グレイさんの話によると青電主のあの電撃に直撃したんだニヤ」

ウイル「青電主…バカ野郎、二つ名相手にクロード達がいらないなら俺も呼べつて

の

孫娘提督「超弩級深海棲艦の追跡の最中に起きた事だったからすぐに対処しなきゃいけない事態だったのよ」

ウイル「超弩級深海棲艦……？どういう事だ？」

孫娘提督「貴方達にも後で詳しく説明しておくわ。でも、今は……」

ウイル「ああ、あのバカ野郎の容態だな。あれから治療はしたんだよな？」

加賀「はい、すぐに行ったのですが……」

鈴谷「ウイルさん……アールさん、し、死なないよね……？」

天龍「バツ、バカヤロウ!! そんな事を言うんじゃないやねえよ!! アールさんが死ぬわけねえだろ!？」

鈴谷「で、でも……!! アールさん……ずっと目を閉じたまま起きてくれないんだもん……!!」

川内「大井さんのラリアットを受けても、加賀さんにしぼかれても、龍田さんにしごかれても、ピンピンしてるのに……なんで、なんで今日はすぐに起きてくれないの……!」

龍驤「ウイ、ウイルさんが来てくれたからアールさんふざけとるんよな?……な……?」

大井「アールさん、いつものように起きてください。いつものように笑ってください

よ……」

北上「大井っち……」

ウイル「……お前ら、そんな萎れた薬草みてえな顔してつとこいつは起きねえぞ？」

天龍「ウイルさん……」

ウイル「こちとら一緒に冒険してきた仲だ。こいつはキリンの落雷に当たっても、テオ・テスカトルのスーパードヴァに巻き込まれても、屁の河童と言わんばかりにすぐに元気になる。だから休ませていけば大丈夫だ」

鈴谷「そ、そうだよね……？ 提督もすぐに元気になったんだもん！」

川内「私、アールさんが起きるまで待つよ！」

ウイル「そうそう。明るく待ってりや時期に起きるぜ」ウンウン

大淀「よかった……皆、少し元気になったみたいですよ」

長門「鎮守府の皆もこれなら大丈夫、か。後は……」

ガングート「失礼する。貴様がウイルか？」

ウイル「お、お。そうだが？」

ガングート「貴様の……ハンターとやらの意見を聞きたい。ついてきてくれ」ガツ

ウイル「え、ちよ、ええ!？」グイグイ

i n 執務室

ウイル「はああ!? 艦娘達だけでモンスターを倒せるかだあ!」

ガングート「危険なのは百も承知だ。だが……私はやられてばかりというのは嫌いな
のでな」

ウイル「危険すぎる。原種のモンスターならまだしも、相手は二つ名、そしてその中
でもひと際狂暴な『青電主』だぞ! 深海棲艦とはわけが違う!」

アイオワ「Meもガングートと同じヨ。居ても立つても居られないワ」

摩耶「全員で一斉掃射すれば、ぶっ倒せるだろ!」

ビスマルク「何もしないなんて苦痛よ……!!」

赤城「お願いします、ウイルさん……!!」

ウイル「いいか? 二つ名っていうのは特に危険な個体なんだ。ハンターでも下手す
りや大怪我ではすまされん……ましてやお前達を戦わせるとなるともしもの事があつ
たらアークやクロード達が悲しむだけだぞ」

ガングート「……私達は艦娘だ。艦娘というのは自分の提督を守らなければならな
い。私達は……提督を守れなかつたんだぞ!!」

ビスマルク「それは私達艦娘にとつてとても屈辱よ。何も出来ないなんて……!!」

足柄「私達艦娘にとって、指揮官や提督は大事な人……指揮官を、アークさんを守れ

なくて一番悔しい思いしているのは初月ちゃんよ」

ウイル「……」

長門「ウイルさん：：どうか私達が戦うことを許してくれないか？」

ウイル「：：艦娘に何かあっちゃいけないから、クロード達ハンターはその子達に被害が及ばないように戦って来た。クロードにも釘を刺されてっけどな」

艦娘達「……」

ウイル「：：撃退」

長門「え？」

ウイル「弱らせて撃退ぐらい、手伝ってもらおうかな？そうすれば追撃して討伐する俺達も楽にはなるぜ」

摩耶「や、やったーっ!! さっすがウイルさんだぜ!!」

足柄「そうとくれば全員に知らせておかなきゃね!」

ガングート「ウイル、感謝するぞ：：さあ報復の時間だ!」

ビスマルク「絶対に、徹底的に叩きのめしてやるわ!!」

アイオワ「そうときたらさっそく Revenge しなきゃネ!」

ウイル「げ、撃退だけだからな! 無理しないように俺が監督すっからな!!」

ウイル「と、いうわけで撃退作戦の説明をすつぞ」

山城「夜戦に持ち込んで叩きのめすのでしょ？」

イク「魚雷カッターは有効なの？」

秋津洲「エリアルでの攻撃は効きますか？」

飛龍「エリアル回避からの強弓でどこを狙ったらいですか？」

ウイル「お前らー？人の話を聞いてー。やる気満々で怖すぎなんですけど」

孫娘提督「当たり前でしょ？相手はアール口さんを傷つけた相手よ。皆怒るに決まってるじゃない」

ウイル「ええー。。。お願いだから無茶だけはしないで」

孫娘提督「で、支援砲撃もできるわよね？大和の三式弾で叩き落してやるわ」

ウイル「相手は二つ名だつてば!? 深海棲艦じゃないよ!？」

龍田「ウイルさん、作戦はどういった内容なのかしら？」

ヴェールヌイ「私達はどう動けばいい？」

ウイル「おっほん。。。まず、原種のライゼクスは鶏冠、翼、尾の各部位に発電器官を持つている。その発電器官が過剰に発達した強力な力を持った個体、それが『青電主』だ。各部位にある圧電甲に電気を溜めて青電荷状態になり、放電しながら強力な攻撃をしてくる。特に鶏冠から放つ一撃はかなり危険だ」

孫娘提督「何か弱点とかはないの？」

ウイル「ひとつ方法がある。青電荷状態つてのは強力な電力を持つ反面自分にも負担がかかっている。青電荷状態になっている部位は特に攻撃が通りやすくなっている、いわば諸刃の剣つてやつさ。青電荷状態になっている部位を攻撃し部位破壊さえ行えば、漏電を起こし更に自分の負担をかけさせることができるんだ」

ガングート「そこを狙えばどうにかできるわけだな！」

摩耶「そうとくりやあ早速出撃しようぜ！」

ウイル「飛竜種だから対空戦になるな。だが、原種でも危険だが二つ名はその上をいく。お前らが無茶しないよう俺が指揮をとるからな？無理だけはしないでくれよ？」

長門「任せておけ、私達も気をつけるさ」

孫娘提督「他の艦隊にも知らせておくわ。多い方が効率は上がるでしょ？」

ガングート「私達艦娘もやれるということを見せてやる！」

ウイル「ふうー、士気は元通りになったか。でもクロードが知ったら怒られそうだなー……」

大淀「ウイルさん、すみません……」

ウイル「大丈夫だ。責任は俺がとるさ。お前達は目一杯戦う事に集中してくれ……とところで、グレイは何処だ？」

i n 母港

グレイ「……」

ザラ「グレイさん、ずっと海の方を見てる……」

グレイ「……っ」

ザラ「……グレイさん」

グレイ「……お、おお？ザラか。先ほどウィルが来てたようだけど？」

ザラ「はい、ウィルさんに頼んで私達艦娘で撃退作戦を行うことになったんです」

グレイ「ぎ、ザラ達で!?それはいけない!! 二つ名を、いや青電主を甘く見てはダメだ

!!死ぬかもしれないぞ!」 ガツ

ザラ「ぐ、グレイさん……!!」 アセアセ

グレイ「あつ、す、すまん……俺は知っているんだ。二つ名がどれだけ危険なのか。あの砂漠には『塵魔』と呼ばれる二つ名のモンスターがいるんだ。そいつはとてつもなく狂暴で、生半可のハンターじゃ一瞬でやられてしまう」

ザラ「……」

グレイ「俺にハンターとして色々教えてくれた人がいたんだ。その人はとても強い有名なハンターだった……でも、その人は『塵魔』との戦いで俺を庇って亡くなった」

ザラ「……」

グレイ「どんなに強いハンターでも死んでしまうこともある……これ以上俺のせいで誰かが傷つく所なんて見たくない」

ザラ「グレイさん……」

グレイ「ウィルに伝えてくれ、俺一人で青電主と戦う」

ザラ「……っ！グレイさんのバカ!!」パチーン

グレイ「あだふっ!」(。3。)…ガッ

ザラ「え、あつ、ご、ごめんなさい!」アセアセ

グレイ「い、いや……い、意外と強くひっぱたいたのね……」

ザラ「グレイさん、自分を責めすぎです……私達は誰もグレイさんを責めませんよ」

グレイ「だけど、アークの事は……」

ザラ「私達は悔しいんです。何もできなかったことが、アークさん達に頼りっぱなしにしたことで起きたんだった事が、艦娘として悔しいんです」

グレイ「ザラ……?」

ザラ「ハンターさんが人々の生活や自然を守る為に戦うように、私達艦娘も提督や大事な人達のために戦っているんです……」グレイの手を握る

グレイ「……」

ザラ「だから、もう失わないように、今度こそ一緒に戦わせてください……」

グレイ「……ザラ、ありがとう。俺、ずっと自分を責め続けていた」

ザラ「グレイさん……大丈夫、私がいますよ」ギョツ

グレイ「ザラ……」

ウイル「アマイワー、すんげえアマイワー」

ホツポ「どれくらい甘いのか？」

ウイル「ハチミツぐらい？ いや、ハチミツの甘さには劣るがアマイワー」

グレイ「うわおっ!?! い、いたのかよ!?!」

ザラ「い、いつからいたんですか!？」

ウイル「出番が来るまでずっとスタンバっていました」

ホッポ「グレイが自分語りするところから」

グレイ「ザラ!! いますぐ俺を殴って!! すぐに忘れたーい!」

ザラ「ぐ、グレイさん落ち着いてください!？」

ウイル「落ち込んでるだろうなっと思っていたが、これなら大丈夫だな…」

龍田「ウイルさん、空気読みましようねー?」ウフフー

荒潮「雰囲気と状況を知らない人はどこかしらー?」ウフフー

那珂「ウイルさんのおバカー!! せっかくロマンティックだったのにー!!」

ウイル「ちよ、おまえら怖すぎ!？」

i n 治療室

初月「…アーロさん」

アーロ「」

初月「これから僕達は出撃するよ…必ずアーロさんの敵を取るからね」

アーロ「」

初月「今度こそ、今度こそ僕が守るんだ…!」

ガチャリ

ア—ロ—
「ピクツ

◇19 青電主撃退作戦一那珂

—— ウイル達が出撃してから数時間後

in 執務室

大淀「皆さん、無事に戻ってきてください……！」

夕張「みんな無理しないようにね……!!」

大井「……」ギョツ

ドタドタドタ

雷「大淀さん、夕張さん!! 大変よ!？」

電「はわわわわわ!! た、た、大変なのです!!」

ローちゃん「い、一大事ですっ!」

大淀「ど、どうしたの? 凄く慌てるようだけど……」

電「アーロさんのお見舞い行っただけですが……」

ローちゃん「アーロさんがいなくなってるですって!!」

雷「窓が開いてて、ベッドがもぬけの殻だったの!!」

夕張「ええっ!？」

大井「そ、それって……アールさんが……!?!」

in南方海域「珊瑚諸島泊地沿岸部

ウイル『いいか? あいつは縄張りに入った輩を屠るまで執拗に追いかけてくる。飛んだと同時に退くんだぞ?』

天津風「任せてちょうだい。こう見て結構速いんだから!」

島風「速さなら負けませんよー!」

長波「無茶しちゃダメだぞ島風?」

ヴェールヌイ「ウイルさん、対象見つけた……!」

ウイル『うし! 作戦開始だ! 無理は禁物だかな』

青電主「(▼皿▼)(())ズン……ズン……

長波「か、かなり迫力あるな……」

ヴェールヌイ「いくよ?」

天津風「ええ、狙いはばっちりよ!」

島風「いっくよーっ!!」ドーン!

天津風「えーいっ!!」ドーン!

長波「くらえーっ!!」ドーン!

ヴェールヌイ「ウラーツ!」ドーン!

ヒューン・・・ ○三 ○三

青電主「Σ(▼皿▼) Hit!

ヴェールヌイ「対象、命中。ここからだよ」

青電主「: : つ!!」ギロリ

島風「やーい!! 悔しかったらここまでおーいで!!」ノシ

長波「どうせ飛ぶの遅いんだろー! のろまー!!」ノシ

天津風「あ、あんたなんか遅すぎて相手にならないわ!!」ビクビク

ヴェールヌイ「T p y c!

青電主「キシヤアアアアアツ!!」咆哮して青電荷状態に

島風「おうっ!」ビクツ

長波「げっ!」ビクツ

天津風「きや、きやあ! お、怒ったー!」ガクブル

ヴェールヌイ「くる: : !!」

青電主「C(▼皿▼)#」バサッ

天津風「き、来たわ!!」

ヴェールヌイ「誘い込むよ!!」

長波「につ、につげろー!」

島風「私達に追いつけるかな!」ダッ

青電主「C(▼皿▼#)〇三三三」

天津風「こ、こつちにくるーっ!!」

ヴェールヌイ「振り向いちやダメ!今は海上を駆ける事に集中して!」

島風「やーい!おっそーい!!」

長波「ちよ!?これ以上怒らせたらまずいつて!?」

青電主「●三(▼皿▼#)」雷球プレス

天津風「きやあ!?なんか飛ばしてきた!?!」

島風「おうっ!?!は、はっやーい!?!」

ヴェールヌイ「もう少し：：!!」

長波「ひ、ひえーっ!?!」

青電主「C(▼皿▼#)〇三三三」

天津風「す、スピード上げてきたわよ!?!」

島風「も、もつと速く!!」

ヒューン・・・三〇 三〇 三〇

青電主「Σ(▼皿▼)」多段Hit!

天龍「おらーっ!!ちびっこ追い回してそんなに楽しいかこの鶏野郎!!」

摩耶「こっからは摩耶様達がぶちのめしてやるぜ!!」

那智「この戦い、負けられないぞ:!!」

鈴谷「こ、怖いけど:や、やってやるんだから!!」

足柄「いい?私達も陽動つてこと忘れちゃダメよ?」

川内「夜戦にもつてくの?」

那珂「姉さん!?夜戦はしないよ!」

龍田「天龍ちゃん、無茶しちゃダメよー?」

高雄「摩耶、熱くならないようにね?」

摩耶「わーっつてらあ!!いくぜーっ!!」ドドーン!

天龍「うおらーっ!!ぶちのめす!」ドドーン!

青電主「Σ(▼皿▼)Hit!

足柄「翼と角を集中して狙うわよ!!」ドドーン!

那智「反撃する隙も与えはしない!!」ドドーン!

川内「いつけー!!夜戦スペシャル!!」ドドーン!

那珂「姉さん!?やせんじやないってば!」

青電主「Σ(▼皿▼)Hit!

鈴谷「怖い…でも、私もやらなきや!!」ドドーン!

龍田「アーロさんを傷つけた分、お返しよー」ドドーン!

高雄「この…馬鹿めといつてやります!!」ドドーン!

青電主「(▼皿▼#)」威嚇

天龍「あんだけ当ててんのに怯む様子を見せねえとか…!!」

摩耶「舐めやがって!!飛んでないで降りてきやがれこの鶏頭!!」

川内「このー!夜戦だったらけちよんけちよんにしてるのに!」プンスカ

青電主「▽▽▽三(▼皿▼#)」雷プレス

天龍「おわっ!?こ、ここでも雷だせるのかよ!」

高雄「回避に専念して!!当たったら大破で済まされないわ!!」

足柄「十分挑発できたわ…:おびき寄せるわよ!」

鈴谷「は、はーい!」

青電主「(▼皿▼#)三三三」

龍田「ほーら、こっちにおいでー」

那智「そうだ、こっちにこい！」

高雄「よし：：沖合までおびき寄せれたわ。お願いします!!」 照明弾

龍驤「合図がきたで：：！」

加賀「あれが青電主：：皆さん準備はいいですか？」

大鳳「はい！」

飛龍「いつでも艦載機は飛ばせますよ！」

利根「我輩の瑞雲もばっちりじゃ！」

飛鷹「あの青いの：：す、すっごく怖いんだけど：：！」

葛城「こ、こっちに攻撃してこないですよね：：！」

赤城「加賀さん、やりましょう：：!!」

加賀「いきます：：艦載機の皆さん、思い切りやっってください」 艦載機発艦

赤城「か、加賀さんが凄く怒ってる：：！」 艦載機発艦

大鳳「艦載機の皆、お願い：：!!」 艦載機発艦

飛龍「多聞丸：：見ててね！」 艦載機発艦

龍驤「艦載機の皆——!!お仕事や！」 艦載機発艦

飛鷹「みんなやっちゃって!!」 艦載機発艦

葛城「えーい!! 兎に角メツタメツタにしてやるんだから!!」艦載機発艦

艦載機達<ウオオオオオオツ!!

青電主「Σ(▼皿▼)」

艦載機達<オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラアアアツ

ババババババツ

青電主「Σ(▼皿▼;)」多段Hit!

龍驤「よっしや!! ハチの巣やで!」

利根「瑞雲、出番じゃ!」瑞雲発艦!

瑞雲<ヤツテヤルデス!! ヒューン 三●

青電主「Σ(▼皿▼;)」Hit!!

飛鷹「いい一撃じゃない?」

赤城「ですがまだです…まだ翼の部位破壊もできてない…」

利根「ぐぬぬぬ、あれだけ当たってるのに怯みません!」

加賀「攻め手を緩めずに狙い続けましょう…!!」

青電主「◎三(▼皿▼#)」超電磁球

加賀「!! あれはいけない!!」

葛城「なにあれ!?! なにあれ!?!」

赤城「艦載機の皆さん、急いで戻ってきてください!!」
艦載機達<ヒエーツ!!

龍驤「あかん!?うちらも引き寄せられてる!?!」

大鳳「電磁球が消えるまで持ち堪えて!!」

青電主「(▼皿▼#)三三三」

利根「わわっ!?!こっちにくるぞ!?!」

加賀「: : :!!」

グレイ「今だ!!拘束バリスタ発射!!」

ウイル「くらいやがれ!!」

バシユツバシユツ!!

青電主「Σ(▼皿▼:;)」拘束

ウイル「おらーっ!!ざまあみやがれ!!」

龍驤「ウイルさん、グレイさん!!」

加賀「た、助かりました: : :!!」

ウイル「おう!後はこっちの番だ!!」

長門「漸く私達の出番か…!!」

アイオワ「ワーオ!! 特撮映画みたいに dynamite デスネ!!」

ビスマルク「ワイバーン…じゃあなさそうだけど、迫力あるわね」

比叡「さあ、気合!! 入れて!! ぶちのめします!!」

伊勢「深海棲艦じゃないから緊張するけど…やるしかないよね!」

榛名「今度は私達が頑張る番ですね…!」

山城「自業自得って言葉、思いつ切りぶつけてやるわ…:~:!!」

ガングート「やられたからには何百倍にして返す…:~:これが私の流儀だ。準備はでき

てるな?」

ザラ「は、はいっ!!」

秋月「対空砲バツチリです!!」

初月「いつでもいける…:~:!!」

ウイル「さあお前ら!! 拘束している間に全砲弾ぶちまけてやれ!!」

長門「任せろ!! 全砲門斉射!! てええええっ!!」ドドドーン!

アイオワ「FUUUUっ!! Fire!!」ドドドーン!!

ビスマルク「戦艦の火力を舐めたら痛い目見るわよ!!」ドドドーン!

比叡「金剛お姉様直伝っ!! バアアアニング!! ラアアアアブっ!!」ドドドーン!

伊勢「どンドン撃つわよー!!」ドドドーン!!

榛名「勝手は!! 榛名が許しません!!」ドドドーン!!

山城「休み手は与えさせないわ!!」ドドドーン!!

ガングート「報復の時間だ……!!」ドドドーン!!

ザラ「く、くらつて!!」ドドーン!

秋月「対空砲、斉射つ!!」ドドーン!

初月「アーロさんを傷つけたお前を……許さない!!」ドドーン!

ドドドドドオオオンツ!!

ウイル「うわー……すっげえ爆発」

グレイ「うちの鎮守府の全戦艦の一斉掃射に対空カットインだもの」

ウイル「これは手応えありだな……!!」

グレイ「俺達もバリスタと大砲を撃とう!」大砲発射

ウイル「おう、その調子だぜ」バリスタ発射

モクモクモク……

長門「……どうだ?」

ガングート「……」

青電主「キシヤアアアアアツ!!」咆哮

比叡「ひええええ!!?ま、まだピンピンしてますよ!」

山城「でも待って、両翼の部位が壊れてるわ!!」

ガングート「よし!次は鶏冠を狙うぞ!!あの部位さえ壊せばグレイたちの閃光玉が効くようだ!」

ザラ「この調子でいけば……!!」

青電主「(▼皿▼ #)「キーン……」

グレイ「この音は……まずい!!みんな離れる!!」

青電主「◁□□□□□□(▼皿▼ #)「ライトニングブレード

ウィル「おわっ!?!いきなりやってくるかよ」

ザラ「きやあ!?!あ、危なかったー……」

長門「あれがアールさんを傷つけた一撃か……!!」

グレイ「ここからは油断はしちゃダメだ!危なくなったら退いていいからな!」

ガングート「愚問!!当たらなければいいだけだ!!」ドドーン!

青電主「●三●三(▼皿▼ #)「アクロバット雷球ブレス

アイオワ「opus!! 掠っただけでもこの威力なのネ…!!」中破

ビスマルク「艦装は電撃に弱いからね…!!」

青電主「◎三(▼皿▼#)」超電磁球

ウイル「電磁球か!! 引き込まれないように踏ん張れ!!」

比叡「わわわわ!?! ひ、引つ張られるー!?!」

山城「どういう原理してんのよあれ!?!」

榛名「ま、負けません…:!!」

青電主「(# ▼皿▼)」キーン…

グレイ「まずい…!! あの子達が狙われてる!!」

ウイル「バリスタ撃つてヘイトを稼げ!!」バリスタ発射

グレイ「こっちだ!!」大砲発射

青電主「Σ(▼皿▼#)」Hit

ウイル「おっし、キャンセルできたぜー」

青電主「(▼皿▼#)」キーン…

グレイ「つて、こっちに狙ってくるぞ!?!」

ウイル「さすがにあれば第二イサナ号が両断されるかもな! 避けるからどつかしがみ

つけよ!!」

青電主「△□□□□□(▼皿▼#)ライトニングブレード

グレイ「どわわわっ!?」グラグラ

ウイル「あ、あつぶねー…ギリギリ避けれた」

青電主「(#▼皿▼)三▽三▽三▽三連雷プレス

アイオワ「キヤア!?!、威力がおかしすぎヨ!」大破

ビスマルク「くっ…!!あのビリビリ、動きが不規則すぎでしょ!」大破

青電主「●三●三●三(▼皿▼#)三連アクロバット雷球プレス

伊勢「ひやああ!?すんごい動きして撃ってきた!」大破

比叡「ひええええっ!?!び、ビリビリしますー!!」大破

山城「くうっ…痛すぎる…!!」中破

長門「…っ!!中破、大破した艦娘はすぐに退避だ!!」

青電主「◎三(▼皿▼#)超電磁球

ウイル「あんの野郎、逃がさねえつもりか!!」

グレイ「やらせるか!!」バリスタ発射

青電主「(▼皿▼)」高く飛んで翼を大きく広げる

グレイ「ま、まずい…!!思い切り飛び込んでくる!!」

ウイル「流石にあの子達が直撃したら一溜まりもねえ…!!グレイ、ちよいつと第二

イサナ号に無理させてもらうぜ!!」

青電主「C(▼皿▼#)「三三」強襲ダイブ

ザラ「こ、こつちに飛び込んできます!!」

長門「!!」

ウイル「おらおらーっ!!やらせるかつての!!イサナ号で体当たりだ!!」

第二イサナ号<ドッセイイ!!

青電主「三(；▼皿▼)」体当たり

ウイル「くっ…めっちゃ揺れるしめっちゃ痺れる!!」グラグラ

グレイ「いたたた…」グラグラ

青電主「(#▼皿▼)三●」雷球プレス

ガングート「やらせるか!!」イサナ号を庇って大破

長門「ガングートっ!!大丈夫か!?!」

ガングート「く…これぐらい!!アークが負った怪我と比べたらどうとことない!!」

青電主「(#▼皿▼)」キーン…

秋月「いけない…!!このままじゃガングートさんと長門さんが!!」

初月「…!!僕がやる!!」

ザラ「初月ちゃん!?!」

初月「まだだ！させはしない!!」ドドーン！

青電主「Σ(▼皿▼#)」キャンセル

初月「こつちだ!!」ダッ

青電主「(▼皿▼#)三三

長門「ダメだ!!一人で無茶をしてはいかん!!」

青電主「キシヤアアアアアアッ!!」咆哮

初月「このまま引き寄せて時間を稼げば皆の態勢が建て直せる……!!」

青電主「三(#▼皿▼)」

初月「これでもくらえ!!」ドドーン!

青電主「()(#▼皿▼)」アクロバット回避して一気に迫る

初月「そんな…っ!?!」

ザラ「初月ちゃん!!?」

青電主「(#▼皿▼)っ」鋏尾で突き刺そうとする

初月「っ!!」

ヒューン…

青電主「Σ(;▼皿▼)」怯み

初月「え……?」

ザラ「な、何かに当たって怯んだ……?」

グレイ「今のは……」

ウイル「……」

ガングート「む、向こうから何か飛んで来てる……!」

長門「あれは……」

ペッコ「C(> ω < ;) C ((()」

ピスマルク「ペッコ!」

山城「ペッコがなんでこんな所まで飛んできたの!」

伊勢「いやちよつと待って……誰か乗ってない?」

ウオオオオオオオオオオ……!!

比叡「しかも何か聞こえてきてますよ……?」

榛名「あれ……」

グレイ「あの喧しい叫び声は……!!」

ウイル「……」

アール「うおおおおおおおつ!!」

初月「あ、アールさん!？」

アール「おらーっ!! ペッコ、もっと気張れえ!! もっと早く飛んで青電主と肉薄しろ！」

ペッコ「(; ;) (; ; ;) (; ; ; ;)」

グレイ「アール!! あ、あいつ、大丈夫なのか!？」

アール「くおらあああっ!! この青鷄冠野郎!! 俺達の大事な子達を傷つけようとしやがって!! 落とし前つけたらああい!!」スリンガー爆発弾

青電主「Σ (▼皿▼ ; ;) 怯み

アール「ペッコもつと近づけ!! 後でうまい魚たんまり食わしてやつからな!!」

ペッコ「(・ω・) (; ; ; ;) 体当たり

青電主「(; ; ; ;) (; ; ; ;)」

アール「ソイヤっ!!」ジャンプ

青電主「Σ (▼皿▼ ; ;)」

アール「ここで叩き落してやる!!」ザックザックザック

青電主「C(▼皿▼;)」C三三」ジタバタしながら陸地に向かって飛ぶ

グレイ「あ、青電主に乗ったまま行っちゃった!？」

ウイル「グレイ、すぐに追うぞ。ここからは俺達、狩人の出番だ」

ザラ「グレイさん……!!」

グレイ「……ああ、今度は絶対にアークを助ける!!」

ウイル「いくぞおらーっ!!」

初月「アークさん……良かった……!!」

◇20 青電主撃退作戦―後

ア―ロ「ソイヤアアアッ!!」乗り攻撃

青電主「(▼皿▼;)」ダウン

ア―ロ「こんなにやろ！」属性解放斬り

青電主「(▼皿▼;)」ダウン中

ア―ロ「そろそろそろあああッ!!」高出力属性解放斬り

青電主「(# ▼皿▼)」翼爪薙ぎ払い

ア―ロ「うおつと…!!」フレーム回避

青電主「(# ▼皿▼)」連続ヘッドバット

ア―ロ「あぶつ」ガード

ズキッ…

ア―ロ「いつ…:…こんな時につ」フラア

青電主「(#▼皿▼)」翼爪叩き付け寸前

ア―ロ「あやば…:…」

ウイル「おらあああつ!!」ジャンプ攻撃

青電主「(；▼皿▼)」怯み

グレイ「張り付いてからの解放突きだつ!!」零距离解放突き

青電主「(#▼皿▼)」ジタバタ

アール「グレイ、ウイル!!」

ウイル「バカ野郎この野郎!また乙つてあいつら泣かす気か!?

アール「:すまん、つい熱くなつちまつた」

ウイル「一人で勝手に突つ込むのは構わないが、周りの事ちゃんと考えろよ?」

アール「ああ:::」

ウイル「そんで、初月ちゃん達にはちゃんと謝つとけ」

アール「ああ:::!!」

青電主「(#▼皿▼)」尻尾振り回し

グレイ「あーれー」ゴロゴロゴロ

ウイル「さあこつから俺達の反撃だ!ぶちかましていくぞ!!」

アール「おう!!アール怒りのリベンジだおらあああつ!!」

青電主「(#▼皿▼) □□□□□□□□」ライトニングブレード

ウイル&アール「あぶねええええつ!?!」緊急回避

ウイル「何が怒りのリベンジだ!?危うく2乙すところだったぞこの野郎!!」

アール「ああ!?てめえがハイト稼いでるからじゃねえのかこの野郎!!」

ウイル「なにい!?やんのかコラ!!」

アール「上等だ!病み上がりなめんな!」

グレイ「ちよつと!?真面目に戦って!?!」

青電主「(#▼皿▼) 三〇三〇三〇」三連雷球ブレス

ウイル「はぶす!?!」 || ○ () 。 3 () ……

アール「おぶす!?!」 || ○ () 、 3 () ……

グレイ「ほら言わんこつちやない!!」 つ 【生命の大粉塵】

ウイル「ま、真面目に行くぞ」

アール「お、おう」

青電主「(#▼皿▼) つ」翼爪叩き付け

ウイル「見てから回避!」イナシ

アール「2回目はやらせねえぜ!!」斧モード叩き付け

青電主「Σ (▼皿▼#)」

グレイ「狙うは…尻尾!」飛天連撃

青電主「(▼皿▼;)」尻尾部位切断

アール「ナイスカット!!」

ウイル「残すはあの鶏冠だ。攻め手を緩めるなよ！」

青電主「C(#▼皿▼)」 飛翔

グレイ「飛んだ！」

ウイル「こつちだつて跳んでやんよ!!」 ジャンプ攻撃

青電主「C(#▼皿▼)」 C三▽三▽」 雷ブレス

ウイル「ひいっ!?」(； 皿、)

アール「飛ぶ鳥落とすとはこのことか」

グレイ「違うと思うんだけど……」

青電主「◎三C(▼皿▼#)」 超電磁球

ウイル「ちい…走れ!!」 ダツシユ

アール「ぬおおおっ!!」 ダツシユ

青電主「C(▼皿▼#)」 C三三」 強襲ダイブ

アール「うひい!?!」 緊急回避

グレイ「そおおおい!?!」 緊急回避

ウイル「こ、こえええ!?!」 緊急回避

青電主「C(▼皿▼#)」 翼爪薙ぎ払い

ウイル「ぶっ!？」受け身

青電主「(▼皿▼#)」キイイイン……

ウイル「ちよつ、起き攻め!？」

グレイ「まずい!!ウイルが……!!」

アール「グレイ、いつけえええい!!」打ち上げ

グレイ「えええっ!？」スコーンッ

アール「お前なら出来る!!」b

グレイ「!!……おとおおおっ!!」剣モード空中斬り

青電主「Σ(▼皿▼#)」

グレイ「からのドタマに零距离解放突きだあああつ!!」ズドドドドド

青電主「(▼皿▼;)」鶏冠部位破壊

ウイル「よっし!!ついに鶏冠が壊れたぞ!!」

アール「これで閃光が効くぜ!!」

グレイ「やったるぞおらあああつ!!」斧モード振り回し

青電主「(# ▼皿▼)っ」翼爪叩き付け

グレイ「あぶばあああ!？」三。3。)。:.:

ウイル「ちよ、無理すんなー!!」っ【生命の粉塵】

アール「グレイの頑張りを見事にはしねえぜ!!」盾突き

青電主「C(＃ ▼皿▼)」飛翔

ウイル「もう閃光耐性がないんだぜっ!」つ三【閃光玉】

＼カツ／

青電主「(； ×皿×)」墜落

アール「チャンスッ!!そいや!!」属性解放斬り

ウイル「この隙に叩き込め!!」連続斬り

グレイ「おらおらおら!!」斧モード振り回し

青電主「C三(▼皿▼#)」尻尾振り回し

アール「ぬっ!!」回避

ウイル「ぶべっ」受け身

青電主「(▼皿▼#)」キィイイン……

ウイル「げっ!?そっちも零距离で撃つつもりか!？」

アール「そうはさせつかよ!!おらあああああ」エネルギーブレイド

青電主「(▼皿▼; ;)」怯み

アール「グレイ、決めろ!!」

グレイ「うおらあああああっ!!」属性解放突き

ズドドドドツ!!

青電主「ギユオオオオオ：：：ツ!!」

ズズウウウン：

ウイル「：：：」チラツ

グレイ「：：：」チラツ

アール「：：：」コクリ

ウイル&アール&グレイ「やったあああつ!!」ハイタツチ

ウイル「俺達の勝利だ!!」

グレイ「良かった：：：本当に良かった!!」

アール「おいおいグレイ、ここで泣いてはいかんぜ?」ニヤニヤ

グレイ「な、泣いてなんかないやい!武者震いだ!」

ウイル「これで艦隊の皆も安心してくれるだろうな」ウンウン

アール「探索も再会できる。これで無事解決だな：：：」

グレイ「アール、怪我の方は大丈夫なのか?けっこう無茶な動きをしていたのだけど」

アール「ハツチャラハツチャラ!俺はこう見えて頑丈なんだぜ?」

グレイ「そ、そうかなー：：」

アール「おうさ。こうやってピンピン：：おうふ」ガクリ

グレイ「え？」

アール「チーン

グレイ「え!?! ちよ、アール!?!」

ウイル「いかん。無理しすぎたか。こう時間遅れでこうなるパターンもあるからな」
グレイ「それ早く言つて!?! あ、アールしつかり!?!」

i n 鎮守府——治療室

アール「むにやむにや……もうこんがり肉は食べられないよ……」

ドゴツ

アール「はう!?!」ガバツ

ガングート「漸く目覚めたか」

アール「あれ? ここは……?」

ウイル「鎮守府の治療室だ」

グレイ「ここに到着するまでぐつつつつすり寝てた」

アール「あ、なるほど……えーと、ガングート達がめっちゃ睨んでるんだけど……?」

ウイル「そりやあまあ……な?」

艦娘達「アーロさあああああん!!」ダイレクトアタック
アーロ「ほふう!?!」

皐月「アーロさん!!よかった、無事だったんだね!」

暁「ぐすつ…心配したんだから!!」

響「おかえり、アーロさん」

ろーちゃん「アーロさん無事でよかったですって!!」

龍驤「ほんま心配したんだからね!」

天龍「ま、まあアーロさんなら大丈夫だと思つてたし?」

龍田「天龍ちゃん、目が赤いわよく?」ニヤニヤ

鈴谷「うわあああああん!!アーロさあああん!!」号泣

アーロ「ちよ、お、押し寄せてきすぎい!?!」

加賀「自業自得です…でも、無事でよかったです」

大井「アーロさん、もうちよつと自分を大事にしてください。本当に心配したんですからね…」

ガングート「ふん…貴様が倒れたらどれだけの艦娘達が悲しむか。よおく肝に銘じておけ」

アイオワ「とか言っちゃって、討伐から帰ったアーロさんが倒れた時終始心配してた

のは誰かしらね？」

アール「……ほんとうにすまんかった」

ウィル「アール、それでええのか？」

アール「……ひよ？」

グレイ「謝りフェイズはまだ終わってないぜ？」

長門「ウィルさん達の言う通りだな。一番に謝らなければいけない相手がいるのでは？」

アール「……あー、うん」

グレイ「そんじや俺達は退散ってわけで」

艦娘達「はい」ゾロゾロ

アール「あれこれデジャブ……？」

初月「……」

アール「……初月。あー……その、本当に心配かけたな。悪い」

初月「アールさん、僕は怒ってるんだからね」

アール「お、おう……」

初月「どれだけ心配したか……もう二度と起きてくれないかもと思ってしまうたりしたんだよ」

アール「……」

初月「僕にとってこの鎮守府はとても大事な場所……ここに誰一人欠けちゃいけないんだ」

アール「……怖い思いさせちゃったな」

初月「もういなくならないで……」ギユツ

アール「ああ、約束する……」ギユツ

――治療室前

ウイル「ふう、これで一件落着だな」

グレイ「まだまだやらなければならぬことはあるけど、今日はやすんでもいつか……」

ザラ「グレイさん、お疲れ様です」

グレイ「ありがとう、ザラ。さてと俺達は此処から退散して今後のことをry」

アール「クンカクンカ……ふうー、落ち着くぜえ」クンカクンカ

初月「え、ちよ、あ、あ、あ、アールさん!?」アセアセ

加賀「やはりもう少し反省してもらいましょうか…」

龍田「解禁よー」

大井「いけっ!! ゴー!! ゴー!! ゴー!!」

曙&満潮&荒潮「ラジャーッ!」ダッ

ザラ「ええええ!?!」

グレイ「病み上がりだから!! 手加減はしてね!?!」

孫娘提督「青電主の討伐、お疲れ様…と、言いたいんだけど、なんで前よりもひどくなってるの?」

アール「き、気のせいです…」ボロボロ

グレイ「調子に乗った末路、と言っても過言ではない」

孫娘提督「いや意味が分からないのだけど…まあそれはさておき、これえ超弩級深海棲艦の探索が再会できるわね」

ウイル「事情はグレイから聞いた。ある深海棲艦の目撃情報と合致するし、これはどえらい事態だな。この事はホッポ達に知らせて協力しよう」

孫娘提督「ありがとう、助かるわ。でも、アールさん達はしばらく療養して」

アール「え」

ウイル「あ」

グレイ「？」

孫娘提督「アールさんはあれだけの怪我を負ったのですもの、治るまでゆっくり休んで。導蟲を使った探索なら私達でもできるし」

アール「あ、あー：：その事なんだけど」

孫娘提督「アールさん、まだまだ体調は優れていないでしょ？」

アール（どうしよう：：秘薬飲んで治った、って言うタイミング逃したんだけど!?!）ヒソヒソ

ウイル（というかクロード達は大本営に秘薬やいにしえの秘薬の事話してねえのかよ!?!）

グレイ「え？それなら秘薬ry」

ウイル「当て身っ!!」

グレイ「あふん」ダウン

孫娘提督「え!?!ちよつとどうしたの!?!」

アール「あらまー、グレイも日ごろの疲れがたまってたようだなー」棒読み

ウイル「ほんと無茶しやがってー。しばらく休んだ方がいいなー」棒読み

孫娘提督「そう、それならなおさら療養してもらわなきゃね：：ところで、さつき秘

薬って言ってなかった？」

アーロ「あー！それならさつきすんごいお薬をいただいたからすぐに治りそうなんだー!!」アセアセ

孫娘提督「それなら安心ね。でも無茶しちやダメよ？それじゃあしつかり休んでなさいね」ノシ

アーロ「……どうしよう」白目

ウイル「……シランガナ」

△10 流されてユクモ村

i n イサナ号

ジン「ついに来た：：」ドヤア

ベル「いやいきなりドヤ顔されもどうつつこめばいいのか」

霞「ジンさん、かなり張りきってるわね」

不知火「今までにない程に上機嫌のようですし」

提督「故郷のユクモ村に久々に来れたからじゃないかな？」

瑞鶴「ジンさんの故郷：：」

ベル「遂にあの『片角』のアマツマガツチを討伐したのだから報告しないといけないしね」

瑞鶴「そうだったわね：：」シミジミ

ジン「：：」

提督「それに、ユクモ村は温泉で有名なところだ」

金剛「温泉！とても楽しみデース！」

鹿島「長旅の疲れを癒せますね！」

木曾「…あれ？　そういえばよくアールロさんが入渠に入り込んで『ユクモの温泉かと思つた』とか言つて大井姉さんにしばかれてたよな」

明石「ずっと気になつてたのですがユクモの温泉つて混浴があるですか？」

提督「うーん、ハンターの集会所には男性のハンターも女性のハンターも一緒に入る所があつたしな。俺達もよく入つてたし…」

霞&瑞鶴「え、っ」

団長「はっはっは!! 懐かしいなあ!! よくアールロとウイルが長湯して我慢比べをしてのぼせたり、女性のハンターが入るとベルが鼻の下伸ばしてたりしてたな!」

鹿島「…:」ジーン

ベル「むっ、昔の事!! だ、だ、団長!! ヤンチャだつた時の事は話さなくていいから!!」
不知火「ということは…: やはりジンさん、混浴をすごく楽しみにしているのではないですか?」

ジン「」ギクッ

瑞鶴「今ギクつてした!」

ジン「そそそそそんなことない。お酒、お酒が飲めるからだ」ガクガクガク

金剛「ジンさん、動揺しすぎデス…:」

提督「ユクモの地酒もかなり美味しいからねー」ホンワカ

明石「提督、マイペースすぎます」

霞「ほんともう……」

提督「さあ到着！ここがユクモ村だ」

——ドンドルマから更に東へ。山岳地帯にあり、新緑の山々に囲まれた場所にあるユクモ村。温泉の名所としてなによりも名が高く、湯治や観光で訪れる者が多く村は大勢の人で賑わう。秋になると紅葉で山々が紅に染まりより美しくなる。露天風呂の湯に浸かりながら見る景色は絶景だ。ユクモの湯、景色、景観で長旅の疲れを癒してくれるだろう。

b
y

提督の手記――

瑞鶴「すごく落ち着いた雰囲気のあるとろこね」

金剛「ワーオ!! 見てください！あちこちで湯気が！温泉がいっぱいデース！」

木曾「はやく温泉に入りたいな！」ワクワク

ジン「まあゆつくり見て行っていいぞ」モグモグ

瑞鶴「ちよ、ジンさん何食べてるの!？」

ジン「ユクモ村名物、ユクモ温泉タマゴ。食うか？」モグモグ

霞「食うかってお店の物勝手に食べていいの!？」

ベル「懐かしいなー。雑貨屋の前に置いてあるユクモ温泉タマゴはタダで食べれるんだ」

提督「ハンターの場合、クエスト達成しないと次もらえないんだけどね」モグモグ

不知火「これは…とても美味しいです」モグモグ

霞「もう食べてるし!？」

明石「どういう仕組みなんですかそれ」

团长「さてクロード、さっそく村長さんに挨拶しに行こうか」

提督「村長さん元気にしてるかなー」

团长「はっはっは!!ユクモ村の村長殿、お久しぶりですな!」ノシ

村長「あらあら…团长さん、それにクロードさん達まで、お久しぶりですわね」

霞&瑞鶴（ここの村長さんって女性だったんだ…）

提督「お久しぶりです村長さん。相変わらずですね」

村長「おほほ、クロードさんったら」

ジン「…ただいま」ペコリ

村長「ジン：おかえりなさい。ギルドの報告で聞きましたよ。よく頑張りましたわね
……」

ジン「……」コクリ

村長「あら？あなたは……」

瑞鶴「え？あ、は、はい……！」アセアセ

村長「……ふふふ、ジンったらこんな可愛い子を連れてくるなんて。ご両親もとても驚かれるでしょうね」

ジン「めっちゃ大好きです」

瑞鶴「じ、ジンさん!？」アセアセ

村長「皆さん長旅ご苦労様です。ユクモの湯に浸かって疲れを癒してくださいな」

提督「村長さん、ありがとうございます。是非とも堪能させてもらいますね」

ベル「ユクモ村の村長さんは温泉の女将も務めてるんだ」

不知火「女将：村長というのは何でもありですね」

提督「温泉街も賑わってるし、散策してもいいしこのまま温泉に行ってもいいぞ」

金剛「Yes!!さっそく温泉にいきましょー!」

ジン「そうとくれば」瑞鶴を抱っこ

瑞鶴「きゃっ!?ちよちよちよジンさん!？」顔真っ赤

ジン「いざゆかん」ダツシユ

瑞鶴「待ってええええ!？」

木曾「はやっ!？」

明石「というかあのまま混浴するつもり!？」

村長「あ、そう言えば……」

in 集会浴場前

瑞鶴「ままま待って!!ジンさん待って!？」

ジン「温泉混浴温泉混浴温泉混浴……!!」ダダダダ

瑞鶴「欲望が駄々洩れ!!というか心の準備が……っ!!」

ジン「石段を駆けのぼり、暖簾をくぐればそこに混浴が……!!」

「男湯」――「女湯」

ジン「（ 㐂 ）？？」

霞「そりゃあ当然でしょ……」

ベル「あれっ、仕切られてる!」

村長「数年前に観光客向けに集会所を改築して男湯と女湯に分けることにしたので、一応前の集会浴場はありますがあれはハンター専用ですので、一般の方はこちらをよ。」

利用してくださいね」ニツコリ

提督「おおー、随分と変わったんですねー」

ジン「／(？)？？)＼」ナンテコツタイ

瑞鶴「ちよ、ジンさん!? 顔! 顔が変な事に!」

ジン「ボーゼン

瑞鶴「ジンさんがこんなにも落ち込むの初めて見たわ……」

ベル「よっぽど入りたかったようだね」

ジン「仕方ない、俺は少し寄る所がある……」ノシ

提督「おう、いつてらっしゃい。さてと俺はどうしようかな」

団長「霞と二人で散策したらどうだ?」ニヤニヤ

霞「え!? だ、団長さん!」

提督「そうと決まればさっそく行こうか!」

霞「ちよ、ちよつと待ちなさいよ!」アセアセ

木曾「アマイワー」

明石「それじゃあ私は電探の調整をしておきますね」

鹿島「明石さん温泉いかないんですか?」

明石「ユクモを出たら遺群嶺に設置するのだからそれに備えておかないと。ちょっとした微調整です！すぐに戻りますよ」

団長「ふむふむ、その電探は今後の古龍調査にも使えそうだな。その仕組みをじっくり見させてくれないか？」

明石「もちろんですとも！図面も設計図もありますので是非見てください！」

木曾「あつちはあつちで盛り上がるだろうな……」

不知火「私達も楽しみましょうか。と、いうわけでベルさんあちらに温泉饅頭とやらがあるようですが」

ベル「ひよ？」

金剛「見てください！あちらにマツサージできる所があるみたいですよ！」

ベル「……いつの間にかこんなお店が、ってなんか俺が払うみたいになつてるような」

木曾「アオアシラの木彫り……球磨姉さんのお土産にしようかな」

ベル「……さよなら、俺の財布」 白目

鹿島「べ、ベルさああん!？」

霞「……司令官と一緒にユクモの村を散策出来るのは嬉しいわ。嬉しいのだけど……」
提督「お！射的のお店だ！懐かしいな。霞、いっちょやってみるか！」商品どつきり

霞「司令官！寄り道しすぎよ！」

提督「いやー、ユクモは縁日を毎日やってるからな。ついついはしゃいじやって」テ
ヘペロ

霞「もう、はしやぎすぎ。少しはry」

提督「霞ー、わたあめいる？」つワタアメ

霞「落ち着きなさいってば！」スパーン

提督「ゴメンヌ!？」

霞「少しは自重しなさい」プンスカ

提督「す、すみません…」

霞「…ん」スツ

提督「ん？手出してどうかした？」

霞「て…：手繋いでくれたら考えてあげなくてもないわ！」テレテレ

提督「?…：両手がわたあめで塞がれてるんだけどいい？」

霞「空気読め!!このクズ!!」ローキック

提督「あだふ!?ちよ、ジョーク！ジョークです!!」

霞「一本私に渡せばいいでしょ！」

提督「おおそうだったな。はい」

霞「分かればよろしい」スツ

提督「これでいいのか？」手を繋ぐ

霞「こうすれば司令官は勝手に寄り道しなくて済むわ」

提督「自重しますって。それじゃ行こうか」

霞「……えへへ」

i n 溪流 | 集落跡地

ジン「……ただいま。久々の里帰りだ」つ【花束】&【酒】

瑞鶴「あ、いた！」

ジン「ん……瑞鶴、こっそりついて来てたのか」

瑞鶴「ジンさん一人で溪流の奥に進んでいくから気になっちゃって」テへへ

ジン「……構わないさ」

瑞鶴「えと……ジンさん、ここって……」

ジン「ああ……かつて『片角』のアマツマガツチが襲来し滅ぼした集落の跡地だ。俺の本当の故郷でもある……」

瑞鶴「……ここにジンさんの昔の恋人さんや集落の人達が眠ってるのね」

ジン「長い年月が過ぎて随分と朽ちてしまったがな」

瑞鶴「……」人

ジン「瑞鶴……」

瑞鶴「ジンさんはみんなの敵をとつたよ……とても勇敢で、とつてもかつこよかつた」

ジン「……」

瑞鶴「ほら、ジンさんもお祈りして皆に報告しなきや」

ジン「……ああ、そうだな。嫁もできたと報告せにやらんし」人

瑞鶴「ぶっ!？」

ジン「さて次は親父達にも今すぐ知らせなくてはな」

瑞鶴「ちよ、ちよちよちよつと!?!いきなり!?!というか今すぐ!?!」

ジン「善は急げ」

瑞鶴「果報は寝て待てともいうけど!?!」

ジン「いざ」姫抱っこ

瑞鶴「またこれえええ!?!」

ジン「……じゃ、行つてくる」ノシ

inユクモ村「温泉【女湯】 *健全の為、憲兵さんのご指摘の下艦娘達にはユアミを着てもらっております

木曾「それでご両親にあいさつしに行つて瑞鶴の事紹介したらジンさんの親父さんが卒倒しかけたと」

瑞鶴「いきなり『俺の嫁さん』つて言うからもうビックリよ…この後めちやくちや祝われたし」

金剛「でも満更ではなさそうですネ」ニヤニヤ

瑞鶴「う、うっさい！こ、この話はもうお終い！」

不知火「露天風呂からの景色、司令官が絶賛するのも領けますね」

鹿島「とてもいい湯で癒されますー！」ホンワカ

明石「アーロさんがよく『ユクモかと思つた』というのが理解できたわ…」

金剛「おや？霞の姿が見当たりませんか？」キョロキョロ

鹿島「そういえば…どちらに行かれたのでしょうか」

不知火「村長さんに呼ばれて話をしていたようですしすぐにきますよ」

木曾「…だといんだけどなー」

i nユクモ村「温泉【男湯】」

ジン「(●?●)」

ベル「もう、じつと塀の方を見つめてないで現実を受け入れたら？」

ジン「ぐぬぬぬ」

ベル「欲望ダダ漏れだつてば」

ジン「ベル、お前は悔しくないのか……!?」

ベル「我慢しなさい」スパーン

団長「ハッハッハ!! そう落ち込むなジン。酒でも飲んだらどうだ?」つ【お酒】

ジン「有難い。温泉に浸かりながらの一杯、実に贅沢」ヒヤッハーツ

ベル「団長、飲み過ぎはダメですからね」

団長「心配ない。しつかり気をつけておるさ」

ベル「ほ、ホントですか?」ジトー

ジン「今日はとことん飲むぞ」

ベル「もう……って、そういえばクロードは?」

ジン「道草でも食ってるのか?」

団長「そういえば、クロードはハンター専用の集会浴場へ向かっておったぞ? あつち

でもゆつたりできてるだろうな」

ジン「集会浴場……その手があつた!!」ザパッ

ベル「村長さんがハンター専用って言ってたでしょ!?!」

ジン「いますぐ瑞鶴を呼んで集会浴場に……!!」

ベル「ちよ、こら!! その扉をよじ登ったらダメ!」

ジン「は、離せ……!!」

団長「はっはっは!!」

ベル「だ、団長も笑ってないで手伝ってくださいよ!」

in 集会浴場

提督「ふー……いい湯だなー」ノホホン

カポーン

提督「今日は他のハンターは来てないみたいだ。静かでゆつたりできるなー」ノホホン

モヤモヤモヤ……

提督「お?湯煙の中に人影が……」

霞「んー……ここの温泉って気持ちいいわね。司令官が言ってた通り、とても心地いいわ」ノビノビ

提督「このハンター専用の集会浴場はいろんな効能があるからね」

霞「へーそれでハンター専用なのね。司令官も……って、え?」チラ

提督「やっほー」

霞「」

提督「？」

霞「し、し、し、司令官!?!なんでここにいるの!?!」

提督「?ここ集会浴場だよ？」

霞「で、で、でも村長さんからこつちが女湯だって言ってたし…!?!」

提督「?万年変わらずここはハンター専用の集会浴場だけど。まあいつか」

霞「よ、よくないわよ!?!」

提督「そう?じゃあ俺は上がつとこうか?」

霞「い、いやかつ構わないわよ!」

提督「???」

カポーン

霞「:~:うう」ドキドキ

提督「いい湯だな~:~:」ノホホン

霞(どうしよう:~:こんな状況初めてだから緊張しちやってる…!!)

提督「ほいっほいっ」つガーグア人形

霞(司令官はいつも通りだし:~:というかそのガーグア人形どこから無限に出してるのよ)

提督「楽しいなあ:~:こやって一緒に色々な所に行って、一緒に冒険できて、一緒に

いられてすごく楽しい」

霞「司令官……」

提督「けれどまだまだ霞に見せてあげたいものが山ほどある。孤島の星空、聳え立つ大きな雪山、猛る火山の島……世界はすごい広くて神秘に満ち溢れている」

霞「……」

提督「提督のお仕事も大事だけど……二人だけで一緒に見て回りたいてのもあるんだ」

霞「……ふふ、その時は一緒について行ってあげる」

提督「それは嬉しいな。頼りにしてるよ」

霞（あ。そういうえばこの状況二人つきりじゃないの……って、何言っちゃってるの!? の、のぼせちゃったのかしら……!?)

提督「?」

霞「し、司令官……今、ふたりっきゃ」

提督「ドリンク屋さん今日のおススメのドリンクは?」

ドリンク屋アイルー「今日はココのあるミラクルマキアートがおススメだニヤ」

霞「」

提督「じゃあそれにしようかな。霞は何飲む?」

ドリンク屋「お嬢さんにはライフフルーツジュースがおススメだニヤ！」

霞「あ、あ、あの司令官：：？そのアイルーは：：？」

提督「ああ、ドリンク屋さんだ。集会浴場でハンターさん達にドリンクを売ってるんだ」

ドリンク屋「毎日新鮮なドリンクを提供だニヤ!!」フンス

霞「い、い、いったいいつからそこに：：？」

提督「？ずっとだけど？」

ドリンク屋「いやー、お熱いですニヤー」ニヤニヤ

霞「こ、こ、このクズウウツ!!」つ三三【桶】

提督「なんでえ!?!」(、3、)・・・

翌日

ジン「昨日、集会浴場で霞と入ってたようだな・・・」

提督「そうだけど？」スナオー

ジン「?(●?●)?」ゴゴゴゴゴ

提督「なんかすぐく怒ってるみたい」

ベル「もうそつとしてあげようね・・・」ポンポン

不知火「昨夜はお楽しみでしたね？」

霞「う、うっさい!!」ウガー

瑞鶴「……」

木曾「一緒に温泉入りたかったって思ってたか?」ニヤニヤ

瑞鶴「ち、違うわよ!」アセアセ

団長「それでクロード、今日はすぐに遺群嶺へ向かい電探を設置しに行くのか?」

提督「そうですね、ここユクモから近いですし、出立する準備を……」

明石「て、提督! 大変です!!」アセアセ

提督「おお明石さん、どうしたんだ? 何やら凄く焦ってるようだが」

明石「そ、その! 電探がうまく作動するかテストをしていたんですが……」

ジン「壊した?」

明石「壊してません!! その電探が……」

ピーピピピ、グルングルン、ピーピピピ

木曾「うわあ……すごい回転してる」

金剛「結構鳴り響いてますネこれ……」

ジン「これどうなってるんだ?」

明石「古龍の反応があれば作動する仕組みなのですが……」
ベル「と、言う事は……古龍がいるってこと!？」

提督「つまりはバルファルクが……!？」

団長「クロード! 大変だぞ!!」 ドタバタ

村長「飛行船で観測していた古龍観測隊から緊急です! 霊峰に空から赤い光が急降下したのを目撃……バルファルクが現れたようですわ!」

提督「ついに現れたか……!」

▲いざ火の山へ 鉦山編

i nギルデカラン | ギルド本部

弥生「調査クエスト？」

ナビルー「その通り！普段ギルドから受注される討伐クエストや狩猟クエスト、採取クエストとは異なり対象のモンスターを調査するクエストの事さ！」

弥生「それを私がやるの？」

ナビルー「おうともさ！ナビルーが選別に選んで選びあげたクエストだぞ！」エツヘン

弥生「ナビルーが？」ジトー

ナビルー「ニヤフツ?! ちや、ちゃんと真面目に選んだんだぞ！調査クエストの方が報酬も少し多いし、ハンターランクも少し上がりやすんだからな」

弥生「ドーナツはクエスト終わった後だからね」

ナビルー「にや、にやふう…」シヨポーン

弥生「対象のモンスターは？」

ナビルー「今回の対象はウラガンキンだ」

弥生「主任……？」

ナビルー「え？主任？」

弥生「よくアーロさんが遠征から帰ってくるたびに『もー折角沢山採取してたのにウラガンキン主任に邪魔されてパーだわー』って嘆いてたから」

ナビルー「あー……火山エリアの採取クエストから帰ってくるハンターさんもよく口にする奴だ……」

弥生「でもなんでウラガンキンなの？」

ナビルー「ドヴァン火山に生息するはずのウラガンキンがドヴァン鉱山付近まで出現するようになったんだ。これじゃあ危険だから調査をして原因を見つけて欲しいとのことだ」

弥生「なるほど……それを私達がやるの？」

ナビルー「おう！弥生直々にギルドから依頼が来たってことはかなり信頼されてることさ。頑張つてこなせば一人前のライダーになる日は近くなるぞ！」

弥生「うん……頑張る」フンス

in 竜舎

ナビルー「それじゃ今回連れてくオトモンを決めなきやな」

弥生「コタロー、コテツ、おいで」ノシ

コタロー「(・ω・)三」

コテツ「(ω^)三」

弥生「よしよし…」ナデナデ

ナビル「クエストには制限があつてな。今回はオトモンを一頭だけしか連れて行けない」

コタロー&コテツ「(;・:・)!?」

弥生「じゃあ…」

コテツ「(ω^)()」ペロペロ

弥生「ひやつ、コテツくすぐりたいよ…」

コテツ「(ω^)()」ペロペロ

弥生「もうダメだつてば…うふふ」

コタロー「(#、)」尻尾でぶつ

コテツ「(。3。)…」

コタロー「(#、^、^)」プンスカ

ナビル「コテツ、アピールしすぎだぞ？」

弥生「今回は…コタローと行く」

コタロー「ゞ(*、▽、*)ノ」

コテツ「(； 旦、) !？」

ナビルー「コテツはお留守番な！」

コテツ「(； ω；)」

弥生「お土産もってくるからね」ナデナデ

コテツ「(； ω；)」コクリコクリ

ナビルー「準備は整ったな？ それじゃあ出発だ！」

inフルクライトジオ

ナビルー「ここがドヴァン火山の麓にある街、フルクライトジオだ」

弥生「トロッコが沢山……」

ナビルー「この先にある鉱山から石炭だけじゃなく鉱石が沢山採れるから毎日多くのトロッコが行き交うんだ。最近はここで鉱石を加工して装飾品を生産してるみたいだ」

弥生「後でお土産に買っておこうかな……」

コタロー「(， ω，)！」

弥生「コタロー、どうかしたの？」

コタロー「(， ω，)」

弥生「ナビルー、向こうから誰か手を振って来てるよ？ 知り合い？」

ナビルー「うん？あれは……」

??? 「おーい！」ノシ

ナビルー「あれは……」ジー

??? 「おーい！」ノシ

ナビルー「あれは……えー……」ジー

??? 「おーい！」ノシ

ナビルー「……誰だっけ？」

??? 「なんでだよ！」ズコー

ナビルー「冗談だ冗談！久しぶりじゃないか！デブ……り！」

デブリ「デブリだ！スツと言え!! スツと！」

弥生「ナビルー、この人は？」

ナビルー「デブリはかつて一緒に冒険した仲間だ！今は……ドーナツ職人だっけ？」

デブリ「貿易商の手伝い兼見習いだ！なんでドーナツ職人なんだよ!？」

弥生「デブリさん初めまして、弥生といいます」ペコリ

デブリ「おお：滅茶苦茶礼儀正しい子じゃないか。どつかのナビルーとは違って滅茶苦茶礼儀正しいじゃないか」

ナビルー「なぜ二回いった」

弥生「それとこの子はコタローです」

コタロー「(、ω、)ノ」クルル…

デブリ「リオレウス…：やっぱナビルーはりオレウスと縁があるんじゃないか？」ニ
ヤニヤ

弥生「??」

ナビルー「それでデブリ、ドヴァン鉱山に現れたウラガンキンの調査をギルドに通して依頼したのはお前なんだよな？」

デブリ「おう！最近は大新大陸の拠点、アステラに送る物資を揃えたり用意したりしてるんだが…：急に鉱山に火山に生息しているはずのウラガンキンが現れて送らなきゃいけない鉱石が採取できなくなっちゃったんだ」

ナビルー「本来は火山にいるのに何で火山から下りて鉱山に移動したんだろうな…」

デブリ「バルファルクの件で飛行船も輸送船も送りにくくなってるからいち早くアステラに物資を届けなきゃいけないんだ。兎に角原因を探って解決してほしい」

ナビルー「むむむ、これはすぐにでも向かわなきゃいけないな。弥生、鉱山へ行くぞ！…：あれ？弥生？」

デブリ「あの子ならトロツコに乗っちまったぞ？」

弥生「これがトロツコ……！」キラキラ

ナビルー「弥生いいい!？」

コタロー「(； 旦、)」

i n 坑道

弥生「かなり広い坑道だね……」

デブリ「ここでは多くの炭鉾夫達が毎日採掘しているからな。おかげで道も結構入り組んでいるから迷わないように気をつけろ」

ナビルー「というかなんでデブリまでついてくるんだよ？」

デブリ「あれだ、久しぶりの冒険のにおいがしたからさ。俺もお供するぜ？」ドヤ

ナビルー「薄暗いからこけないようにな。あとバサルモスが擬態してる場合もあるから間違えて尻尾を踏まないように」

弥生「松明もってきた」つ【松明】

コタロー「((*、ω、))」

デブリ「話を聞けよ!？」

弥生「ナビルー、道は分かるの？」

ナビルー「任せておけ！あちこちを冒険して歩き回ったナビルーならこんな坑道ちよちよいのちよいだぜ！」

——数十分後

弥生「……」スタスタ

コタロー「……？」キョロキョロ

デブリ「……おい、どんどんと入り組んだ道に来てるみたいだが？」

ナビルー「……あ、あれ？えーと確か……あれ？」

弥生「……もしかして迷った？」

ナビルー「ち、違うぞ！久々すぎてちよつと道を間違っただけだ！」

デブリ「絶賛迷子じゃねえか!？」

ナビルー「ニヤフツ!？」

デブリ「しょうがねえ、ここは俺に任せておきな！」

弥生「デブリさんが？」

デブリ「ふつ、ナビルーとリユートと一緒にあちこち冒険したんだ。この坑道もしつ

かりと熟知してるぜ」ドヤア

ナビルー「大丈夫かなー」ジトー

——更に数十分後

デブリ「あるえー？」

ナビルー「余計迷子になってるじゃないか！」

デブリ「ち、違うぞ!!こ、今回は坑道の地図を持ってくるのを忘れただけだ！」

ナビルー「尚更ダメじゃないか！」

弥生「目印の石があるから：：次は左の道を通ればいいみたい」

ナビルー「や、弥生？本当か!？」

デブリ「よ、よくわかるな」

弥生「地図：：お店で買った」

デブリ「持ってたんかい!？」

ナビルー「というか売ってたのか!？」

デブリ「弥生って子、しっかりしてるな」

ナビルー「なんたってクロードの教え子だからな」

デブリ「クロードさんの!?!確かに納得できるな：：」

弥生「デブリさん、司令官をご存知のですか？」

デブリ「司令官：：？あ、ああ。クロードさんと初めて会ったのもこの坑道だった

な。確かあの時は：：鳥竜骨と鳴き袋で作った笛を吹きながら生肉を翳してイーオス

の群れと共に坑道を颯爽と走り回ってた」

弥生「さすが司令官：：！」キラキラ

ナビルー「ほんとあの人が自由すぎるよな：：：」

コタロー「(、・ω・・)!!」

弥生「コタロー、どうかしたの？」

ナビルー「モンスターの匂いを察知したみたいだ」

コタロー「(、・ω・・)」

弥生「匂いの下はこっち：：ナビルー、行くよ」ダツ

ナビルー「よし、行こう！もしかしたらウラガンキンかもしれない!!」ダツ

デブリ「ちよ、ちよと待ってくれー!!」ドタドタ

ナビルー「結構広い所に出たな」

弥生「コタロー、この辺りなの？」

コタロー「(、・ω・・)」キョロキョロ

デブリ「お、お前らちよと待ってっての」ゼエゼエ

弥生「ここ少し暑い：：」

ナビルー「火山から流れる溶岩が流れている所があるからな。ここから先はクーラー

ドリンクを飲んでおいた方がいい」

デブリ「モンスターがいる気配がしないんだけど何処にいるんだ……?」

ドドドドドツ

弥生「?何の音?」

デブリ「トロツコにしては音が大きいな?」

ドドドドドツ

弥生「こつちに近づいてるみたい」

ナビルー「これはまさか……」

三三三三◎

ドドドドドツ

弥生「何か転がって来た!?!」

ナビルー「急いで避ける!!」緊急回避

弥生「…っ!!」緊急回避

デブリ「うおわああっ!?!」緊急回避

コタロー「(…ω、)」回避

弥生「ナビルー、あれって……!」

ナビルー「ああ！間違いない、『爆鎚竜』ウラガンキンだ！」

ウラガンキン「（、皿）」ヴオオオオオツ！！

デブリ「さ、さっそく現れやがったな！」岩場に隠れる

ナビルー「早速隠れるなつての……」

弥生「あれが調査対象の……！」

ナビルー「弥生、コタロー、ウラガンキンの頑丈な顎の一撃は強力だ。気をつけるんだぞ！！」

だぞ！！

弥生「分かった。コタロー、行くよ……！」

コタロー「（、皿）」グオオオオツ！

◇ 2 1 入院も楽じゃない

i n 鎮守府「治療室

アール「：：ひま。まじでヒマ」ゴロゴロ

黒丸「仕方ないニヤ。数日程ベッドで寝てろってウィルに言われてるニヤ」
アール「でもよお、もう秘薬飲んで元気になってんだからいいじゃねえか」

黒丸「艦娘の子達も大本営の人達も秘薬の存在を知らないニヤ」

アール「だよなー：：とというかこの事知ったら：：」

——アール想像中——

天龍「はあ!?! 秘薬う!?!」ガチギレ

加賀「そんな物があるならさっさと言ってください」ゴゴゴ

鈴谷「マジ幻滅なんですけどお」ジロリ

長門「心配した私達が愚かだった：」

暁「アールさんの嘘つきい!!」

大井「貴方にはとても失望しました」

孫娘提督「とりあえず憲兵呼んでおいたわ」

初月「：：：っ」

赤城「それで、お味は？」

ガングート「貴様はシベリア送りだ」

アール「ガクブル

黒丸「た、たぶんあの子達はそんな事言わないと思うニヤ」

アール「だけどただこのままじっとしていられないっつての！」ジタバタ

初月「アールさん、体調の方はどうだい？」ガチャリ

アール「だ、大丈夫でございますぜ!!」ピタッ

初月「大丈夫と言えどもしばらくは安静にしないと。ほら、リング買ってきたよ」

アール「お、おお：：悪いな」

初月「時には体を休ませないと、アールさんはすぐに無理しちゃうんだから」ニガワ

ライ

アール「……今日は言葉に甘えておこうか」

黒丸「それが一番だニヤ」

初月「??」

龍田改二「黒丸ちゃんご苦労様、アールさんちゃんと安静にしてたかしら？」ノシ

黒丸「ぼつちりだニヤ！安静にしてたニヤ」ウインク

アール「おいおい、俺はそんなに無理しちやいねえって」

龍田改二「そう言っておきながらポロポロに帰ってくるのはどこの誰かしらねー」ウ

フフー

アール「ぐぬぬ……ぐうの音も出ねえ」

龍田改二「それじゃ黒丸ちゃん、交代ね」

黒丸「任されたニヤ」

アール「龍田さん今日は俺はゆっくりと……ん？」

龍田改二「どうかしましたか？」ニツコリ

アール「……」

龍田改二「……」

アール「いつの間に見た目変わってるううっ!？」

龍田改二「あやつと気づきました？」ウフフ

初月「龍田さん、改二になったんですね」

グレイ「いやー、改二になれるって聞いたからさっそく試したんだ」

アール「元凶でめえかーっ!？」

夕張「色んな素材も使いましたから攻撃力防御力、ステータスマシマシですよ!!」フ
ンス

龍田「うふふふ、力がみなぎるって言うのやつかしら？」

アール「あかん、龍田さんが更に怖くなった気がする……」ガクガクブルブル

天龍「おれ……いつか、改二になれるのかなあ……」マツシロ

アール「あつ!!先を越されてしまつて天龍が真っ白に!？」

黒丸「だ、大丈夫ニヤ!!いつか、いつか来るニヤ!!」

グレイ「ところでアール、どれくらい安静にしなきゃいけないんだ？」

アール「えっ、あー……も、もつて2、3日ぐらいかなー」

グレイ「?でもさ、お前ひやくry」

黒丸「当て身っ!!」

グレイ「あふん」バタリ

天龍「ぐ、グレイさんがいきなり倒れた!？」

アール「グレイの奴、もうちよっと休まないといけないみたいだなー」棒読み

初月「アールさん、グレイさんが秘薬って言ってたみたいだけど？」

アール「ギクッ

黒丸「あ、あれニヤ！オイラの作ったお薬の事ニヤ。すつごい苦いけど効果覲面なのニヤ！」

龍田「あらー、黒丸ちゃん凄いいじゃないの」

天龍「だからアールさんの体調が良さそうに見えるのか。やるじゃねえか」

初月「よかった……」ホッ

アール（ごめん、メツチャごめん）（……）

アール「暇……すつごくヒマ」

龍田「安静にしておかないとダメですよ」

アール「えー」

龍田「勝手にしようとしたら……うふふふ」

アール「はい大人しくしていますっ!!」

暁「アールさん、失礼するわね！」

電「失礼しますなのです」

雷「調子はどう？欲しいものがあつたら取ってくるわよ？」

ヴェールヌイ「顔色は良さそうだね。これならすぐに元気になりそうだ」

アーロ「おおどにかしたのか？」

雷「お昼ご飯を持ってきたわよ！」エツヘン

電「みんなで頑張つて作ったのです」

アーロ「それは嬉しいな！それでお昼ご飯はサンドイッチかな？カレーかな？」

暁「お粥を作つたわ！」ドヤア

雷「すぐに元気になれるよう体にいい物を沢山入れておいたわよ！」エツヘン

アーロ「おお：：人参や大根がそのまんま入つとる・・・」

雷「隠し味にハチミツも入つてるわ」

アーロ「フアツ!？」

電「ウイルスさんがアドライブスクれたのです」

アーロ（あのやろおとおつ!!）

暁「はいアーロさん、あーん」

アーロ「えっ」

電「たくさん食べて早く元気になってほしいのです」

雷「一生懸命心を込めて作ったの。うんと食べてね！」

アーロ「……たいらげたらあああああつ!!」ガツガツガツ

暁「すごい食いっぷり!」ワクワク

龍田「お腹空いてたんですね〜」ウフフ

アーロ(甘い……お粥がめっちゃ甘い……!!)

電「アーロさん、感動してるのです」

雷「まだまだ沢山あるから召し上がれ!」

アーロ「」

ヴェールヌイ「……アーロさん、ピロシキ置いとくね」

アーロ「も、もうハチミツは食べられぬう……」ウーン

摩耶「アーロさんなんで麗されてんだ?」

龍田「よっぽど疲れが溜まってたと思うわ」

大井「でもなんでハチミツなのよ」

ガングート「やれやれ、体の調子がどうか気にはしていたがこの様子では杞憂なようだな」

加賀「明日にでも元気に走り回ってそうですね」

大井「ほんと、心配したんですからね……」ニガワライ

アーロ「むにやむにや：：大井さん、その服は流石にキツイつすよ：：」寝言

大井「入院期間をもう少し延長させてもいいですよね？」ゴゴゴゴ

摩耶「待つて!?寝言だから!!寝言だから許してやって!？」

加賀「全く、どんな夢を見ているのかしら」ニガワライ

アーロ「スヤスヤ：：加賀さん、その弓の構えおかしいんじゃないですかね？プーク

スクス」寝言

加賀「：：曲射で爆撃ができるようになったんですが、試してみます？」ゴゴゴゴ

摩耶「アーロさん起きろ！早く起きて謝るんだ！」

アーロ「目が覚めたら爆撃されて大井さんに逆エビ固めされたんだが？」プスプス

山城「自業自得です」

アーロ「??？」

満潮「加賀さんと大井さんにしばかれる：：やっぱり休養してもいつも通りね」ヤレヤレ

アーロ「ところで連合艦隊の方は順調に探索できてるかな？」

時雨「電報によれば順調に進んでいるみたいだよ」

利根「導蟲を使つての調査で早々に包囲網が出来上がっているようだぞ？」

アーロ「それならいいんだが……」

山城「何か気になる事でもあるの？」

アーロ「対象のモンスターが移動すると導蟲が急に方向転換する時がある。気をつけて追わねえと道を間違っちまうからなー……」

山城&利根「えっ」

アーロ「えっ？」

満潮「それを早く言いなさいよ!」ボディーブロー

アーロ「ゴメンヌっ!」

山城「み、満潮、アーロさんまだ入院中だからっ」アセアセ

満潮「あ、ご、ごめんなさい」アセアセ

アーロ「お、おうふ……いいパンチじゃねえか。気にするな」フルフル

時雨「ま、まあ急に方向が変わったっていう知らせがないから大丈夫だと思っよ？」

アーロ「そうか……」

利根「やはりまだ何か気になるか？」

アーロ「……そいつの目的だ」

満潮「目的？」

アーロ「移動、縄張り、捕食、餌の確保、繁殖……どの生物にも行動には目的がある。」

超弩級深海棲艦と思われていたオストガロア変異種は捕食の為に現れて襲撃してきた。でも今回の超弩級深海棲艦の行動がよくわからん」

時雨「確かに深海棲艦でも鎮守府を襲撃してくる者もいるけど……建物を根こそぎ消失させるなんて聞いたことがないよ」

山城「アールさん、今回も他の生物の仕業と考えてるの？」

アール「俺はクロードみたいに頭は回らねえ。けどなんというか……勘？そんな気がするんだ」

満潮「もつと自信を持ちなさいよ。司令官やアールさん達、狩人さんの勘も頼りになるんだから」

アール「嬉しいなあ。こうしちやいらねえ、早く元気になって遅れた分を取り戻さねえと」

利根「だから今日一日ゆっくり休んで英気を十分に養うといいぞ」

島風「アールさん!! お見舞いに来たよー!」ダイブ

雪風「おやつ持ってきました!!」ダイブ

長波「アールさん、トランプして遊ぼうぜーっ!」ダイブ

時津風「あそぼあそぼー!!」ダイブ

アール「おぼふうっ!」

天津風「こらーっ！飛び掛ったらダメでしょー!!」

山城「……これじゃまた先送りされそうね」

アール「目が覚めたらもう日が落ちていたでゴザル」

初月「アールさん、大丈夫かい？」

アール「あーうん：：島風たちが飛び込んできたその先があんま覚えてないんだが」

初月「そ、その事は気にしなくて大丈夫だよ？」

アール「しっかしまあ寝たきりってのはやっぱ性に合わねえなー、書類整理でもしと
きやよかつたぜ」

初月「大丈夫、僕が全部済ましておいたよ」

アール「なんと。大変じゃなかったか？」

初月「グレイさんが代理を務めているし、加賀さんや大井さん達が手伝ってくれたから無理はしてないさ」

アール「そうかー：：しかし初月が俺の分まで頑張ってくれたんだ、何かご褒美やら
ねえとな」

初月「えっご、ご褒美？」

アール「なでなでしてやろう」（ωω）

初月「ぼ、僕は犬じゃないってば!？」

アール「そうかダメか：：」(・ω・)

初月「う：こ、今回だからな！」

アール「よしおいでおいでー」^^

初月「もう：仕方ないな」ヤレヤレ

アール「おーよしよしよしよしよし」ナデナデナデナデ

初月「んっ：く、くすぐりたいな：」

アール「よしよしよしよしよしよし」ナデナデナデナデ

初月「ひやつ!?ほ、頬を撫でるな!あ、顎も撫でるな!」アセアセ

アール「おおすまん、ワンコっぽいからつい」テヘペロ

初月「調子に乗るとすぐこれなんだから」ポンポン

アール「まったく可愛いやつめ」ワシヤワシヤ

初月「わー!わしやわしやするのもダメだ!」

アール「うっし元気出た」(・ω・)シヤキーン

初月「まだダメだよ。安静にしないで」

アール「：大丈夫だ。無茶な事はやらないさ」ポンポン

初月「アールさん：：」

アール「狩人故に無理はするけど、もう二度とお前を泣かせるような真似はしない」
初月「……うん、約束だよ？」

アール「おう。約束だ。ま、まあ時に無茶やらかすかもしんねえけど……」

初月「ふふっ、アールさんらしいや……ねえアールさん」

アール「お？どした？」

初月「……今日はもつと甘えてもいいかな？」

比叡「アールさん失礼します！」

磯風「失礼するぞ！」

初月「ひやわあっ!?ひ、比叡さんにい、磯風、どうしたんだい？」アセアセ

比叡「入院しているアールさんの為に晩御飯を用意しましたよ！」ドヤア

初月「えっ」

磯風「腕よりをかけて作ったんだ。是非食べてくれ」

アール「そいつは有難い。丁度腹が減ったところなんだぜ」

初月「あ、アールさん……」アセアセ

アール「それで今夜の献立はなんだ？」

比叡「気合い！入れて！作った自信作です!!どうぞ！」

＼オゴポコオ……／

アール「（旦那。。）」

初月「」

比叡&磯風「（……）」

アール「ナニコレ……黒く蠢いてるんだけどナニコレ」

比叡「やだなもー、カレーに決まってるじゃないですか！」エヘヘ

磯風「しかも野菜カレーだ」

アール「え、これ野菜カレー？あ、ちょっと待ってなんかデジャヴっぽいぞこれ」

比叡「さあさあこれを食べて元気になってください！」

磯風「おかわり自由だ」

アール「……初月」

初月「な、なんだいアールさん」

アール「黒丸にいにしえの秘薬持ってくるように伝えてくれ」遠い眼差し

——アールはカレーを完食したが休養期間が2、3日延長した

△11 赤い凶星 『天彗龍』バルファルク

i n 霊峰

提督 「みんなちゃんとついてきているか？」

ジン 「へっちやらだ」

ベル 「ちよ：：二人とも：：登るの速すぎ：：」ゼエゼエ

ジン 「最近ダラシネエナ」(・・ω・・)

ベル 「だ、だつてここの霊峰つて結構険しすぎるんだから：：」ゼエゼエ

提督 「もうそろそろ頂上だ。もうひと頑張りだぞ」

ジン 「がんばれがんばれ」ノシ

ベル 「ふ、ふんがーっ!!」

ジン 「ようやく登頂：：なんだが」

ベル 「あれ？どこにもバルファルクがないよ？」キョロキョロ

提督 「どこかへ飛んでいった？：：おや？」

ジン 「クロード、どうかしたのか？」

提督 「日が沈んでないのにほら、赤い星が……」
キラツキラツ ★ キラツキラツ

ベル 「確かにこんな晴天だつていうのに……」

キイイイイイン……

ジン 「というか……あれ、近づいてきてないか？」
提督&ベル 「ひよ？」

キイイイイイイン……!!

提督 「ていうかこつちに来てる!?! 避けろ!!」

ドドドドドツ

提督 「うおわああつ!?!」 緊急回避

ジン「なんとお!？」緊急回避

ベル「ひえええっ!？」緊急回避

提督「だ、大丈夫か!？」

ベル「げほっげほっ：：な、何なんだ今の!!」

ジン「驚いてる場合じゃないぞ：：!!あれを見ろ!」

バルファルク「グルルル：：」

提督「あれが：：『天慧龍』バルファルク：：!!」

ベル「恐ろしいほどの迫力だ：：」

ジン「それよりもかなり気が荒れてるぞこいつ」

バルファルク「キユオオオオオツ!!」咆哮

提督「：：これ以上被害を出さない為にもバルファルクを止めるぞ!」つエピタフニ
オテイタ

ジン「相手は古龍だ。油断はするな」つ真・狼牙刀【寂滅】

ベル「わかってるさ!」つネロ||ラーズ

バルファルク「三三（、皿）」高速低空突進

ベル「はっやあああい!?」。3。）。・・・

ジン「あぶなっ!?も、物凄く速かったぞ!?」アセアセ

提督「やはり残っていた文献の通り……翼脚から発せられる特殊なエネルギー『龍気』を噴射して高速で飛べるってわけか！」

ベル「そ、それを早く言ってるね……」つ【回復薬グレート】

バルファルク「●三●三●三（、皿）」龍気弾

ベル「翼の向きが変わったと思うたら今度は何か飛ばして来た!?」回避

提督「飛行したり攻撃したりと変幻自在か……！」回避

ジン「今度はこっちが攻める番だ!!」抜刀斬り

バルファルク「△三（、皿）」翼脚突き刺し

ジン「ぬっ!!」ブシドー回避

提督「続けて行くぞっ！」抜刀溜め斬り

バルファルク「〇三（、皿）」翼脚薙ぎ払い

提督「あぶっ!?」ガード

ジン「せいっ!!」一文字斬り

バルファルク「●三〇（、皿）〇三●」龍気弾両サイド爆破

提督「そんなのありっ!?」。(D)。。。。

ジン「へばぶっ!?」。。。(ε) ()

提督「か、体がビリビリする。。。この感じ、龍属性ヤラレか!」

ジン「く。。。龍気に当たらないよう気を付けなければ」っ「ウチケシの実」

ベル「こっちだっ!!」鬼人化斬りかかり

バルファルク「三(、皿(三)」反転翼脚突き刺し

ベル「おおっ!?は、はやっ!?」ジャスト回避

提督「ベル!こんにやろっ!」切り上げ

ジン「さっきのお返しだ!」気刃斬り

バルファルク「Σ(、皿()」

ベル「よし、こっちもどうだ!」鬼人乱舞

バルファルク「(、皿(三)」振り向きざまに翼脚薙ぎ払い

ベル「ひでぶっ!?」三(、3()。。。

バルファルク「(、皿(三三)」高速低空突進

提督「っ!?この至近距離でか!?」ガード

ジン「速すぎる。。。っ!!」ジャスト回避

バルファルク「三三(、皿()」往復高速突進

提督「ゆ、Uターンしてきた!」ガード

ジン「べぶっ!?!」(皿、)

ベル「ジンっ!これでっ!」っ【生命の粉塵】

提督「このおっ!!」溜め斬り

バルファルク「(皿、 皿、)」噛みつき

提督「なんのっ!!」タツクル

バルファルク「(;、 皿、)」怯み

ジン「たたみかける!」連続気刃斬り

ベル「こっちも反撃だ!」鬼人連斬

バルファルク「●三●三(皿、 皿、)」チャージ龍気弾

提督「あっちいつ!?!」(; 皿、 ()

ジン「くっ!」ジャスト回避

バルファルク「^三三三三三(皿、 皿、)」翼脚突き

ベル「あぶなっ!?!ってか長い!?!」ジャスト回避

バルファルク「^三三三三三(皿、 皿、)」二段突き

提督「うおっ!? もう二回目もあるのか!」ガード

バルフアルク「●三●三●三(皿)」拡散龍気弾

ベル「いっぱい飛ばして来たーっ!?」(； 皿、)

提督「切り抜ける!」ダツシユ

ジン「うおおおっ!!」ダツシユして抜刀斬り

提督「せいやつ!!」抜刀斬り

バルフアルク「(皿) ; (皿)」怯み

ジン「よし! もう追撃だ!」桜花気刃斬

提督「こいつもくらえ!!」地衝斬

バルフアルク「(皿) #」キユオオオオオオツ!!

提督「うるさーい」(； 皿、)

ベル「と、所々が真っ黒くなってる……!」

ジン「龍気の噴出量が濃くなったんだ。気をつける……!」

バルフアルク「(皿) #」翼脚薙ぎ払い

ジン「あばっ!?! はやつ……!!」.. . (ε) (皿)

ベル「こいつ! やったな!」回転斬り

提督「このっ!!」横薙ぎ

バルフアルク「(二)、皿、#)翼脚叩き付け

ベル「あぶ!」回避

提督「ぬう：：っ!!」ガード

ジン「さつきは痛かったぞこの野郎!!」一文字斬り

バルフアルク「●三((皿) () 三●」龍気弾真横爆破

ジン「くらうか：：!」ジャスト回避

提督「くらってます：：」(; 皿、 ()

ベル「おおい!」っ【生命の粉塵】

提督「サンクス!!反撃だ!!」抜刀溜め斬り

バルフアルク「(三三三三((皿) #)翼脚突き

ベル「ひえっ!」ジャスト回避

ジン「か、紙一重か：：!」ジャスト回避

提督「あ、焦ったー…」緊急回避

バルフアルク「(三三三三((皿) 三、皿) 三三三三<」翼脚回転斬り

提督「それで回転斬りすんの!」()、皿、 ;)

ベル「ここまで届くの!」()。3。*)

ジン「範囲ひろっ：：!?」。3。）。：：。

ベル「み、みんなこれでっ！」っ【生命の粉塵】

ジン「さ、流星は古龍だ：：強いな」

提督「その中でも滅多に出会えない古龍だからね：：だけど」

バルフアルク「(皿) # () 突進

提督「ぬうん!! 負けてたまるかってんだ!!」ガード

ググググ

バルフアルク「(皿) (皿) (皿) グググ

提督「うおおおおお!! 押し負けん!! ジン!!」グググ

ジン「任せろ!! 狙うは顔面：：!!」ダツシュ

ベル「ジン、昨日調査したての怪力の粉塵だよ！」っ【怪力の粉塵】

ジン「でかした。この隙にもう一撃：：!!」桜花気刃斬

バルフアルク「(皿) (皿) (皿) 怯み

提督「よし、ナイス!!」超溜め斬り

ベル「こいつもおまけだ!!」鬼人乱舞

ジン「クロード、俺の背中を踏み台に使え!!」

提督「よっ! ジャンプ溜め斬りをくらえっ!!」ジャンプ溜め斬り

バルファルク「(、皿、；)」ダウン

提督「よーし、乗った!!」ライド

ジン「いいぞいいぞ!!」

ベル「振り落とされないようにね!」

バルファルク「(、皿、#)」ジタバタジタバタ

提督「おおおっ!?しっかりしがみついてないと振り落とされそうだ!」アセアセ

ベル「が、がんばれーっ!」

提督「よおーし：：いくぞおおおっ!!」ザックザックザック

バルファルク「(、皿、；)」ジタバタ

提督「おらおらおらおらおらおらおら!!」

ガキンツ

提督「え?ガキン?：：うん?こいつの背中に何かついてry：：」

バルファルク「(、皿、#三#、皿)」ブンブンブン

提督「あゝれゝ」(；皿、)(

ベル「振り落とされた!」

ジン「クロード、大丈夫か!!」

提督「だ、大丈夫だ。というか突然かなり怒り出したぞ：：?」

バルフアルク「(、皿、#)」キユオオオオオツ!!!!

ベル「め、めっちゃ怒ってる!」

提督「:::」

バルフアルク「キユオオオオオツ!!」

ドウツ!!

ジン「飛んだ:::!?」

ベル「た、退却したの:::!?」

ゴオオオオオ

提督「いや:::違う。あれは:::」

ゴオオオオオ:::オオオオオツ!!

ジン「こつちに突っ込んでくるのか!」

ベル「いや、ちよ、あの速さじゃ当たったらシャレになんないよ!」

提督「危険すぎる:::こつから離れるぞ!!」

ベル「は、離れるったってここ霊峰だし:::」

提督「飛び降りるんだよおおつ!!」ジャンプ

ジン「三十六計逃げるに如かずっ!!」ベルを蹴とばしてから飛び降りる
ベル「ええええええええっ!」落下

ドドドドドドドドドッ!!

提督「うおっ!?!衝突の余波がここまで響くのか……!?!」ビリビリ
ジン「耳鳴りもする……当たったらヤバかったかもな」ビリビリ
ベル「いやそれよりも俺達落ちてるんですけどおおっ!?!」落下中

提督「いたたた……ジン、ベル、大丈夫か?」ボロボロ

ジン「ああなたとかな……」ボロボロ

ベル「孤島の崖から飛び降りた事はあるけど霊峰から飛び降りるのはもう二度とやらないからね……」

ジン「バルファルクは?」

提督「霊峰から赤い光が飛んでったのが見える……どうやら逃げられちゃったな」

ベル「かなり手強い相手だったね……」

提督「初見だ、仕方ない。次は対策を練って挑めばいいさ」

ジン「それよりも気になる事でもあったのか？」

提督「まあね……それはさておき、とりあえず帰って報告しに帰ろう」

ベル「ら、落下した時の痛みが響いてるのだけ……？」ヨロヨロ

ジン「……龍属性ヤラレだ」

提督「龍属性ヤラレだよ」

ベル「絶対違うよね!？」

inユクモ村

霞「……司令官、言わなきやいけないことがあるでしょ？」ゴゴゴゴ

提督「そ、そうでございましょうか……？」正座中

霞「私、言ったよね？無茶なことほしくないでって」ゴゴゴゴ

提督「あ、あははは……そ、そうだっけ？」

霞「む……」ゴゴゴゴ

提督「……これ、霊峰から飛び降りてごめんなさい」土下座

霞「バカなの!?なんで飛び降りるの!」

不知火「飛び降りたと聞いて卒倒した霞の姿は貴重でしたね」ニヤニヤ

霞「う、うるさい!!」

木曾「どうかそんな高い所から飛び降りても平気な提督達が人間離れしすぎてるのだと思うのだけど」

ジン「ハンター故、仕方ない」

瑞鶴「いや意味が分からないからね!?私も度肝抜かれたからね!」

ベル「もー、あれは死ぬかと思ったよ:」ゲツソリ

金剛「いやだからそれで骨折も大怪我もしてない提督達もどうかと思いません」

鹿島「でもベルさん達のご無事でよかったです」ホツ

霞「もう:心配したんだからね」

提督「ああ、すまんかった」ナデナデ

霞「こ、こら撫でるな!」アセアセ

団長「おお、クロード。バルファルクは手強かったか?」

提督「団長、流星は彗星の如く空を駆ける古龍。かなりの強敵ですね」

明石「そ、そんなに強い古龍なんですか:」

提督「それもあるが:ちよつと気になることもある」

霞「気になること？」

提督「まあまだはつきりしている訳じゃないんだけど……団長、これを」

団長「む？これは……もしやバルファルクの鱗か？」

提督「乗り攻撃をしている間に採取をしました。これを龍歴院に鑑定を」

団長「うむ。これは送っておこう。さて、そのバルファルクだが……」

提督「任せてください。次は勝ちます、勝つてみせます」

ジン「パターンはだいたいわかった……たぶん」

瑞鶴「た、たぶんじゃダメでしょ……」

ベル「それだけバルファルクは何処へ……」

明石「問題ありませんよ！この電探でしっかり索敵できてます!!」エツヘン

ジン「さつすが明石さん」

霞「これによると……北へ飛んでいったみたいね」

提督「北へ……遺郡嶺か！」

ジン「なるほど……確かにそこには標高の高い山があったな」

ベル「うへえ……また登るのかー」遠い目

鹿島「べ、ベルさん!？」

提督「そうと決まれば遺郡嶺へ向うぞ！そこが正念場になる。気合い入れていこう」

霞「今度は無茶はしないでよ……？」

提督「ああ。今度は心配かけなさせないさ」

瑞鶴「ジンさんも。無理は禁物だからね」

ジン「うむ……」（ん・ω・ん）

提督「よし！遺郡嶺に行こう！！……と、言いたいところだけど、その前に温泉浸かつてのほほんとしよっか」

艦娘達「ズゴーツ

霞「こ、このクズ!!」

◇ 2 2 フカ丸の考察

オイラはザボアザギル。名前はフカ丸。見た目は足の生えたサメの様な成りをして
いるけど、れつきとした両生種なのだ。

以前は北方の氷海で暮らしていたが、今は『鎮守府』というなんとも不思議な所に暮
らすことになった。ただのんびりと泳いでたらハンターに釣られ、捕獲されたのだ。捕
獲されたら解体されるのかと死を覚悟してたけどどういふ訳かここで飼われることにな
ったのだ。

ハンターなんかには飼われるなら今すぐここから逃げ出してやる!!と、思ってたのだけ
ど……

ヴェールヌイ「……」 ナデナデ

先程からオイラのお腹をナデナデしてくれているこの女の子はヴェールヌイという。
『艦娘』という海上を走るなんとも不思議な存在だ。オイラよりも遥かにちっこいのだ
が、この子は見た目によらず肝っ玉が据わっている気がする。オイラを怖がることな
く、寧ろ積極的にお世話してくれるのだ。

ヴェールヌイ「フカ丸、お散歩いこう」

毎朝早くにオイラを連れて浜辺へ散歩へ。浜辺を歩いて行くとヴェールヌイは途中で足を止めていつも朝日が昇る海の水平線の先をじつと眺める。この子が言うにはこの海の先に『提督』という人とその仲間達がいる、その仲間の一人でリオレウスに乗ったライダーの親友がいる。あの海の先で今日も頑張っているのだらうと、自分もその親友に負けなくらい頑張りたいとオイラだけに話してくれた。

この子は物静かに見えて人一倍の頑張り屋さんなのだ

ガングート「Доброе утро!! 同志ヴェールヌイ、いい朝だな！」

鎮守府に戻ると響き渡るくらい元気すぎる声で挨拶するのはガングート、艦娘の中で『戦艦』という艦娘というのだ。他にも『駆逐』、『軽巡』、『空母』等々色々というのだがオイラにはよくわからない。艦娘とやらは『鎮守府』を拠点に海を守る為に戦っているらしいのだ。

ヴェールヌイ「おはよう、同志ガングート。フカ丸のお散歩が丁度終わったところだよ」

ガングート「ご苦労、フカ丸の御飯は私がやっておくから第六駆の皆と朝ご飯食べに

行つてこい」ナデナデ

ヴェールヌイ「スパシーバ、それじゃ後はよろしく」

ヴェールヌイはオイラを撫でて戻っていく。この子とガングートは姉妹に見えるのだがどうやら違うのだ。むう、見た目が似ているのだが……

ガングート「さあ同志フカ丸、竜舎に戻ったら大好物の釣りカエルをやるう!!」

ヴェールヌイと一緒に世話してくれるガングートは爽快というか豪快快活というべきか。勢いあまつて持っているウオツカというお酒を飲まされそうになったこともあった。その後はヴェールヌイに正座させられ怒られた。

ガングート「1, 2, 3, 4……む、御飯の量が多すぎたか? アーロさんは与えすぎに注意と言っていたが、まあいつか! 今日私のサービスだ!!」

そ、その、嬉しいのだけど……釣りカエルはああ見えてかなり栄養価が高い。食べすぎると膨張形態になる必要がなくて太ってしまうのだ。ま、まあ好意は素直に受けるけど、次から気をつけて欲しいのだ。

朝から鎮守府は賑わう。訓練を行う者、出撃準備をするもの、遠征に出る者と様々だ。出撃がない者は自主訓練や座学等々自分で何かすることがないか見つけて自主的に行うようだ。

午前中の間はオイラは涼しい木陰で日陰で休んで彼女達の活動をじつと見るのが主だ。あの子達の賑わいはみてて飽きない

初雪「んぐぷにぷにしててひんやり〜」プニプニ

あから、いつの間に。オイラのお腹に寝そべって寛いでいる子は初雪という。オイラに出会ってお腹をプニプニしたその時『最高のクツションを手に入れた!』と物凄く嬉しそうにしてた。

曙「こらー!! まーたそんな所でサボろうとして!!」プンスカ

初雪「だって凄く居心地がいいもん」グデー

曙「ダメでしょうが!! 今日山城さんによる陣形の訓練なのよ!! 遅刻厳禁なんだから!!」

初雪「そうかつかしないでさー、曙もフカ丸のお腹をプニプニしてみなよー」

曙「うっ：だ、ダメったらダメよ?」

山城「そうね：：誘惑に負けちゃダメよねー」ニッコリ

曙「や、山城さん：：!!」

初雪「ヒツ：」

山城「それとも：：練習しなくても余裕ってところなのかしら?」ニッコリ

初雪「い、い、今から行きますー!!」猛ダツシユ

曙「ちよ、速っ!? 待ちなさいよー!!」ダツシユ

山城「はあ…フカ丸、ごめんなさいね。ゆっくりしてちようだいね」ナデナデ
 いえいえ、退屈しませんから構いませんよ。というか山城さんという人は恐れられて
 いるのだろうか? 時折『鬼の山城』と聞くけどそうは見えない…:

鎮守府近海の海域はオイラにとって少し暑い。なのでオイラは日陰でのんびるする
 か母港の海を泳ぐかで代替を過ごす。

しかし油断することなかれ、オイラのお腹をプニプニしたいのは初雪だけじゃない。

鈴谷「はあく、フカ丸のお腹ー、ひんやりしててプニプニしてて気持ちい〜♪」プニ
 プニ

加古「ああ〜これガチで寝れるう〜」フカブカー

北上「ごくらくごくらく〜」

とまあ、このように隙あらば時間あらばオイラに寄りかかってくるのだ。これだけの
 人数なら別に気にもしない。

大淀「長門さんっ!! ダメですって!!」ググググ

夕張「せめてダイブするなら艀装を外したほうがいいですって!!」ググググ

長門「うおおおつ!!わ、私もあのプニプニしたお腹に飛び込みたああいつ!!」グ
グググ

：：さすがにあの重たそうな装備をつけたまま飛び込んできたらオイラもあれはつ
らい。

愛宕「私も飛び込んじゃおつと!パンパカパ〜ンっ!!」ダイブ
ポヨヨンッ

愛宕「うふふ、ほんとプニップニねー」ポヨヨンッ

龍驤「くっ：：：!!」

なんだろうか、何故か因縁をつけられたような気がする：：：まったくの濡れ衣である

お昼になると艦娘達は訓練を終えてお昼ご飯をとる。その間にオイラはひと気の少
ない母港の海でひと泳ぎ。潜ったりひと回りしたり、うむこの海も中々いい。

シオイ「わっ!?フカ丸だ!!」

イク「サメみたいだからいつつもビックリしちゃうのね!」

この子達は『潜水艦』という艦娘達なのだ。水中を息継ぎすることなく縦横無尽に泳

ぎ回れるというなんとも不思議な子だ。まあハンターも水圧に耐えるし長時間潜り泳げるのだからあまり不思議ではないような気がするが…

ろーちゃん「ガルルー、フカ丸一緒に競争しよ！」

イムヤ「今日こそ追い越すんだから！」フンス

ごーや「まさかサメと一緒に泳げるとは思いもしてなかったでち」

イク「アーロさんが言うにはカエルなの」

シオイ「アーロさん達の故郷のカエルって凄まじいのかなあ…」

こちらのカエルと艦娘達を知っているカエルとは何か違いでもあるのだろうか？こちらにはオイラの亜種で砂漠棲むのとやたら顎がでかいカエルがいるのだから仕方ないか。

シオイ「それじゃ位置についてー…」

ろーちゃん「よーし、負けないですって！」フンス

イムヤ「コーナーが勝負の分かれ目ね…！」

イク「よーい、ドンっ!!」

はしやぎすぎた…潜水艦の子達も泳ぐのが意外と速い。あの『スクール水着』とい

う装備の効果なのだろうか。あの装備はラギアクルスかガノトトスの素材でも使っているかな？泳いだ後は少し日向ぼっこして一休み。

アイオワ「……」ジーツ

な、なんだろうか？物凄い期待の眼差しでこちらを見てきている。彼女はアイオワという『海外』とやらの出身らしい。

アイオワ「Sorry、お口を開けてくれませんか？」

フカ丸「……」アー

アイオワ「フフーン♪」っ【カメラ】

パシヤリ

アイオワ「Yes！中々いい見栄えネ！ジョーズより迫力あるワ！」ウキウキ

彼女はかなりのサメ好きのようだ。彼女が言うには自分の故郷には竜巻の中で飛ぶサメの大群やら、三つの首を持つサメやら、何故か湖で泳ぐサメやら、幽霊になったサメやら、サメが出る映画という物が多々あるという。色々とツツコミどころが多い。

雷「いた！フカ丸、見つけたわよ」ノシ

電「アイオワさん、こんにちはなのです」

アイオワ「Hai!!一緒にジョーズごっこでもする？」

電「ごめんなさい、この後遠征に行かないとけないのです」ペコペコ

雷「ジョーズごっこはまた今度ね！」

いやジョーズごっことはなんぞや？この二人は第六駆逐隊、ヴェールヌイの姉妹艦なのである。雰囲気は似ているのでさすが姉妹といものなのだ。

アイオワ「OK！また後で、ジョーズごっこかメガロドンごっこでもしましょうネ！」

電「そ、それじゃあ失礼しますなのです」ペコリ

雷「フカ丸、一緒についてきて！」

in 鎮守府近海

フカ丸「三三（、ω、）」ザザザザ

雷「さあどンドン進んでいくわよ！」フンス

電「はわわ、遠征にフカ丸を連れてつても大丈夫なのかなあ…？」

どういふ訳かオイラまで遠征に出撃することに…第六駆逐隊だけの編成任務とやらのようだが、オイラもその枠に入ってて大丈夫なのだろうか。

暁「お、怒られても知らないわよっ！」プンスカ

雷「問題ないわよ。フカ丸も私達第六駆逐隊のひとりなんだから！」

暁「いつ決まったのよ!？」

ヴェールヌイ「私が決めた」ドヤア

電「はわわわ、ひ、響ちゃんがフカ丸の上で仁王立ちしてるのです……!!」
 ヴェールヌイもどうやら結構楽しんでるようだ。それはなにより。ならばもつと
 楽しんでもらわなくては

フカ丸「三三三(*、ω、)「ザザザザツ

ヴェールヌイ「ハラシヨ―」

暁「ああっ!?フカ丸の泳ぐスピードが上がった!？」

雷「よーし、私も負けないわよー!!」

暁「あつ、待ちなさいー!!レディを置いていくなんてダメよ!!」

電「に、任務を忘れちゃダメなのですー!!」

この後遠征任務が失敗したので大淀さんに軽く怒られた

i n 中庭

フカ丸「とまあ、こんな事があって大淀さんに怒られちゃいましたよー」

ペッコ「任務つて意外と難しいみたいですよんねー」

ムラサキ「お二人とも一緒に行かれて羨ましいですよ。ボクなんか泳げないし飛べないから行けませんし：：臆がどうしても連れて行きたがつてるみたいで」

アルちゃん「あつしは長距離飛ばないですよんで、けれども乗って楽しんでもらえれ

ば構いませんよ」

中庭でペッコさんやムラサキさん、アルちゃんさんとオイラよりも前から鎮守府で暮らしている方々とのんびりおしゃべりして時間を過ごすのも日課だ。

ペッコ「おや？あそこにいるのはグレイさんですね」

ムラサキ「ザラさんとご一緒のようで、仲睦まじいですねー」

あのティガレックス亜種の素材で作られた装備一式を着ているハンターはグレイという。ハンターとしての腕だけではなく、書士隊の一人として生態調査や研究が得意な男だ。その隣で一緒にいるのはザラという艦娘だ。オイラがここに来る前からあの二人はいい雰囲気なのだ。

グレイ「それで燃料や鋼材、資材の在庫はこんなもんで……遠征で手に入る分を含めると今週は大本营から支給される分の量の申請はしなくていいかな？」テキパキ

ザラ「はい、これなら……あ、でも赤城さんや戦艦の艀装の改装や今後改二へと改装できる子の分が必要となりますので申請はいるかもしれません」

グレイ「そうか……超弩級深海棲艦の調査の長距離出撃もあるから申請分の資材の数も数えておこう。さてザラ、ちよつと休憩しないか？」

ザラ「は、はいっ！」

グレイ「へへー、今日はリットリオさんに教えてもらったんだぜ？ピザドックとかい

うやつだ」

ザラ「グレイさん、ありがとうございます！」キラキラ

グレイ「どうだ？うまいか？」ワクワク

ザラ「とつても美味しいです！」

うんうん、なんとも微笑ましいことか。見てるだけでもこつちもなんだかほんわかとしてきた。だがペッコさん達曰く、この鎮守府にはこんないい雰囲気になると『フラグブレイカー』とやらが存在するという。果たして一体……

島風「今日も駆けっこ負けないよー!!」ドドドドドツ

天津風「こ、こらー!!ちゃん和前をみなさーい!!」ドドドドドツ

長波「ま、まってくれー!!」トトトトト……

時津風「は、速すぎるよー……」トテトテ

島風「へへーん、みんなおっそーry」

グレイ「あわびゆっ!?!」..:。(ε。ε。)(=

長波「グレイさんが吹っ飛んだーっ!!」

天津風「ご、ごめんなさーい!!」

時津風「いつもよりも高々と飛ばされてるねー」

ザラ「ぐ、グレイさーーん!?!」(シ 旦、)

ペッコ「また跳ね飛ばされちゃいましたねー……」

ムラサキ「なんというか、まあ日常茶飯事ですもんねー」

アルちゃん「今日も鎮守府は平和です」

うん、二人に幸あれ……というか頑張れ。

日が暮れると艦娘達は遠征や出撃から帰ってくる。そしてその疲れを癒すように美味しい晩御飯を食べ、お風呂に浸かる。この時間帯になるとそろそろ騒がしくなる頃だ……

大井「アーロさん!!逃がしませんよ!!」

アーロ「はっはっはー!!強走薬グレートを飲んだ俺に追いつけるかーっ!!」ダツシユあのザボアザギル亜種の素材から造られる装備を着た男はアーロ。ここの鎮守府の提督代理を務めているという。見た感じからして今日もやらかしたんだろうなー

大井「だから何でいっつも入渠に入ろうとしてるんですか!?!ユクモじやないってあれ程いってるじゃないですか!」

アーロ「慣れって怖いね!」

大井「やかましいわ!!」

アール「ふはははは!!今の俺を誰にも止める事はできーん!!」猛ダツシユ

龍田「加賀さん、お願いしますねー」

加賀「…」ステンバリー、ステンバリー…

ヒュッ

アール「あふん」スコーン

龍田「お見事♪」

加賀「狙いははずさない」ビューティフォー

大井「まったたく、これに懲りたらもうやらないでくださいね」

アール「ええー…秋雲の持ってたウスイ本とやらじゃ一緒に入ってる鎮守府もある

とか」

大井「うちはうち!!他所は他所です!!」

アール「そんなー」(・ω・)

天津風「秋雲、ちよつと後で話があるわ」

荒潮「秋雲ちゃんなら今物凄い勢いで逃げてったわよー」

アール「あと加賀さんって狐の尻尾が生えてたとか」

大井「なんですかそれ!？」

アーロ「他にはツンデレだとか。俺にデレてもいいんだぜ？」

加賀「寝言は寝て言つてください」スパーン

アーロ「あべしっ!？」

なんともおちやらけていることか。この男が本当に提督代理で大丈夫なのだろうか
と時々思えてくる……

in 竜舎

夜も大分深くなると艦娘達は寝て、賑わっていた鎮守府は静かになる。今日も騒がしく楽しい一日だった。

アーロ「ういーっす、ちゃんと休めてるかー？」

アーロは毎晩、寝る前にオイラ達の様子を見てくる。オイラ達の生態管理をしつかり管理しており、艦娘達にも指導している。先程のようなおちやらけた様子はなく、真面目な様子だ。こっちが本当の顔なんだろう

アーロ「お前は氷海生まれだかな、慣れるまでもうしばらく辛抱してくれや」ナゲ
ナゲ

フカ丸「……」

アーロ「……ほれ、これをつけてやろう」

これは……ヴェールヌイが帽子につけている飾りと同じものだ。鞍につけると我ながら自信作だと自慢気に頷いてる……

アール「お前も暁やヴェールヌイ、雷や電と同じ第六駆逐隊の一人で、俺達鎮守府の家族の一員だ……あの子達は任せませ」ポンポン

フカ丸「……」

アール「……実はな、近々大本営から導蟲により超弩級深海棲艦の探索が終えて俺達に報告があるみてえだ。これからすんごい戦いになるかもしれない……クロードがいな
い間、俺はあの子達を守るか、しっかりと指揮できるか、ちよつとプレッシャーなんだ」
ああ見えて、アールはあの子達が不安にならないよう人一倍頑張っているのだ……

フカ丸「……」ツンツン

アール「お？ 励ましてくれるのか？ フカ丸、いかつい顔して意外と優しいなあおい」ナ
デナデ

フカ丸「……」コクコク

アール「よし、明日も頑張れる！ じゃあ明日もよろしくな!!」ノシ

この鎮守府には艦娘達やオトモン達、そしてハンター達と色々な人達がいる。そして明日のために頑張つて、共に励み共に笑つてと賑わっている。

だからオイラはここから出て行こうとは思わない。寧ろここに住みたいとおもうのである。

▲いざ火の山へ 爆鎚竜編

「前回までのあらすじ」

ドヴァン火山に生息するはずのウラガンキンがドヴァン鉱山にまで出現するようになったと報告を受け調査クエストを受けることにした弥生とナビルーとコタロー。

フルクライトジオでナビルーの親友であるデブリと出会い共にドヴァン鉱山へと向かう。迷いながらも坑道の奥へと進んでいくとウラガンキンに遭遇したのであった

デブリ「な、なあ、あの子達で大丈夫なのか？」

ナビルー「大丈夫だ、弥生とコタローは強い。あの二人はあのオストガロア変異種と戦ったんだ！弥生、コタロー！あいつの顎と繰り出してくる爆発性のある火薬岩に気をつけるんだぞー！！」

弥生「うん：：コタロー、やるよ！」

コタロー「(、 且、)「グオオオオツ !!」

ウラガンキン「●●●●●●(、 皿、)「火薬岩飛ばし

弥生「っ！」 回避

コタロー「三〇（、へ）二〇」低空飛行

ナビルー「火薬岩は衝撃を与えると爆発を起こす！ウラガンキンの攻撃や立ち回りに気をつけるんだ!!」

弥生「わかった……！」つ10cm連装高角砲

コタロー「（、四）三〇」火球プレス

ウラガンキン「Σ（、皿）」尻尾でガード

ナビルー「ウラガンキンの耐熱殻……マグマの高熱にも耐えうる外殻だ。上からの火球プレスには耐久性がある、耐熱殻のない所を狙うんだ！」

弥生「これでどう……!!」ドドン!!

ウラガンキン「Σ（、皿）」顔面にHit!

弥生「あまり効いてない……!!とても堅い……」

ウラガンキン「三三◎」ローリング

弥生「こつちに転がって来た……?!」回避

デブリ「うわああああ!!こつちに来たぞ!」アセアセ

ナビルー「よ、よけろーっ!!」ダッシュ

コタロー「三（、四）」強襲キック

ウラガンキン「三（、皿）；」横転

ナビルー「おおっ！ナイスだコタロー！」

デブリ「た、助かったあ：：」ホッ

ナビルー「弥生、ウラガンキンが転んでいる隙に貫通弾で撃ち抜け！」

弥生「うん！」ガシヤコンツ

ウラガンキン「(；、皿、)」「ダウン中

弥生「当たって：：！」貫通弾発射

ウラガンキン「Σ(、皿、)」「怯み

弥生「っ！凄い反動、まるで駆逐艦の身で重巡洋艦の砲撃をしてるみたい：：：」ビリ

ビリ

ウラガンキン「() (#、皿、)」「ズンズン

弥生「っ！」

ウラガンキン「三(#、皿、)」「顎スタンプ

弥生「わわ、す、すごい振動：：！」フラフラ

ウラガンキン「(、皿、)」「強力顎スタンプ

コタロー「(三(；、皿、)」「顔面に尻尾攻撃

ウラガンキン「!? (；、皿、)」「よろめく

弥生「コタロー、ありがと：：：！」

ウラガンキン「(皿) # () タツクル

コタロー「∴∴(ω) ()」

弥生「コタローっ！このっ∴∴!!」貫通弾発射

ナビルー「弥生！足下、足下!!」

弥生「え∴∴?」

火薬岩Aへよお

火薬岩Bへまた会ったな

弥生「しまっ∴」

＼Bomb!!／

弥生「あっつ∴∴!?!」火属性ヤラレ

ナビルー「装備についた火は転がって消すんだ!」

ウラガンキン「◎三三」ローリング

弥生「また来たっ∴!」回避

◎三三三三 ゴロゴロゴロゴロ

?クルツ三三三三◎ ゴロゴロゴロゴロ

弥生「も、戻って来たっ!?!」

コタロー「○三三(皿)」火球ブレス

ウラガンキン「三三三Σ（、皿；）」ずらされる

ナビルー「よし、弥生！ウラガンキンに水冷弾が有効だぞ！」

弥生「わかった！狙うとすれば：：耐熱殻のない腹部！」水冷弾装填

コタロー「（、皿）」「」空中キック

ウラガンキン「（、皿 #）」顎振り回し

弥生「これでどう！」ドドン！

ウラガンキン「Σ（、皿）」

ナビルー「かなり有効だぞ、コタローがカバーしている間にどんどん撃ち続けるんだ

！」

ウラガンキン「：：（、皿）：：」睡眠ガス噴射

ナビルー&デブリ「あ」

コタロー「（☒ω☒）スヤア」

デブリ「ね、寝たあ!？」

ナビルー「や、弥生！コタローを起こすんだ！」

弥生「むにやむにや：：」スヤア

デブリ「ね、寝ちゃってるーっ!？」

ナビルー「ガスの範囲内だったもんな!!」

ウラガンキン「(、皿、)」強力顎スタンプ5秒前

ナビルー「ま、まずい！このままじゃコタローがぺしやんこになる!!」

デブリ「え、えーっと何かないか何かないか!?」ガサゴソ

ナビルー「デブ：り！何かいいのはないのか!?」

デブリ「だからすつと言えよ!?あ、あつたぞ！閃光玉をくらえーっ！」つ三【閃光玉】
 \カッ!!／

ウラガンキン「Σ(×皿×、)」眩暈

デブリ「よ、よし今だ！」

ナビルー「おーい、弥生起きろー！」ペチペチ

弥生「う：ん：：わ、私、眠ってたの？」

ウラガンキン「(×皿×、)」ウロウロ

デブリ「コタロー！お前も早く起きろー！」ペシペシ

コタロー「Σ(。皿。；)」ハッ

ウラガンキン「(×皿、×；)三(×皿×)三(；×皿×)」3連顎スタンプ

コタロー「三(；、ω：)」デブリをくわえて回避

デブリ「あ、あぶなかったー：：サンキューなコタロー」

コタロー「(、ω：)」「ドヤア

ウラガンキン「(、皿、#、)「グオオオオツ!!

ナビルー「閃光の効果がきれたみたいだな…」

弥生「次は油断しない……!」

ナビルー「よし、その意気だ!」

弥生「コタロー、ウラガンキンの顔面に連続火球ブレス!」

コタロー「(、皿、)三〇三〇」連続火球ブレス

ウラガンキン「Σ(、皿、#、)「顔面に連続Hit!」

弥生「今度はこれで……」徹甲榴弾1v2装填

コタロー「三(、皿、)「」強襲キック

ウラガンキン「●三●三●三(、皿、#、)「尻尾攻撃&火薬岩ばら撒き

弥生「えいつ!」ドドンツ!

ウラガンキン「Σ(、皿、)「顎にHit!

弥生「つ…:反動が重い、でも撃ち続けないと」ビリビリ

コタロー「(、皿、)三◎」火炎ブレス

ウラガンキン「(、皿、#、)「」タックル

コタロー「(、へ、)三」回避

弥生「二発目……!」ドドン!

ウラガンキン「Σ(#、皿)つ三●三●」顎にHit!、火薬岩飛ばし

デブリ「わっ!?こつちにも火薬岩が飛んできやがった!」

ナビルー「爆発する前に離れないと：：：」

ウラガンキン「三三三◎」ゴロゴロゴロゴロ

ナビルー「きたあああっ!」

デブリ「しかも火薬岩を爆発しながら来やがる!」

＼Bomb!!／＼Bomb!!／＼Bomb!!／

弥生「あわわ：爆発が熱い：：」アセアセ

ウラガンキン「(、皿)(」近づいて顎スタンプ

弥生「わっ：：!!」緊急回避

コタロー「〇三〇三(、皿 #)連続火球ブレス

ウラガンキン「Σ(、皿 ;)怯み

弥生「今：：っ!」ドドン!

ウラガンキン「Σ(×皿× ;)」顎にHit!&スタン

ナビルー「いいぞ!!ナイススタン!!」

デブリ「今のうちに畳み掛けろーっ!」

コタロー「(、皿)三◎」高火力火球ブレス

弥生「このまま追い詰めます……！」貫通弾発射
ナビルー「もつと撃ちまくれ！」

弥生「やります……!!」ドドン!

ウラガンキン「(、皿、；)」顎部位破壊

ナビルー「よおし!! 自慢の顎を砕いてやったぜ!!」

ウラガンキン「(、皿、)」撤退

デブリ「あつ!逃げたぞ!!」

弥生「デブリさん、追わなくていいです」

デブリ「へ?いいのか?」

弥生「あくまで調査ですから。とりあえず撃退して原因を突きとめるのが目的です……」

デブリ「な、なるほどなー」

ナビルー「わかってなかっただろ?」

デブリ「な、なわけねーし!」アセアセ

弥生「コタロー、お疲れ様」ナデナデ

コタロー「(C、A、)C」

ナビルー「ウラガンキンを撃退することはできたし、どうして坑道にいるのか調べな

いとな」

弥生「ウラガンキンは火山帯の良質な鉱物を主食とする。でもこのあたりじゃウラガンキンの主食となる鉱物は火山と比べて少ないです」

デブリ「まあ溶岩の流れてるところじゃないといいもんが食べないしな」

弥生「となると……火山に原因が？」

ナビルー「可能性はあるな。自分達よりも強いモンスターに追い出されたとか」

デブリ「い、イビルジョーじゃないよな……？」

弥生「……ドヴァン火山に行つて調べてみよう」

デブリ「か、火山まで行くのか!？」

ナビルー「クロードさんの教え子だもんな、分かるまで徹底的に調べるぞ？」

弥生「よし、ナビルー行こう」

ナビルー「おおうっ！火山もかなり暑いからな、クーラードリンクはちゃんと飲むんだぞ？」

コタロー「(´・ω・)`」

デブリ「ほ、ほんとは行くのかよ!？ま、待ってくれよーっ」ドタドタ

i n ドヴァン火山

弥生「こ、ここがドヴァン火山……」

コタロー「(。 ㇏)」

ナビルー「おうとも、マグマが燃え滾る火山。ここがドヴァン火山さ」

デブリ「で、でもよー……」

弥生「暑い……」アセダク

デブリ「ま、前来たときよりも尋常じゃない暑さじゃねえかこれ？」

コタロー「(； ㇏)」ジワジワ

ナビルー「た、確かに前に来たときよりも暑いな……」

弥生「クーラードリンクを飲んでもこの暑さなんて……」アセダク

コタロー「(； ； ； ω・・)」翼で扇ぐ

ナビルー「弥生の場合はクーラードリンクの他に水分をしつかりとっておかないと

な」つ【タオル】&【水】

弥生「ありがとコタロー、ナビルー……もしかして原因はこれ？」

ナビルー「うーむ、暑さじゃないと思えるが……もつと調べてみないとな」

デブリ「お、奥まで進むのかよ!？」

弥生「うん、行こう」スタスタ

i n d ヴァン火山―奥部

弥生「……」アセダク

ナビルー「弥生、大丈夫か？」

コタロー「(・・ω・・)」

弥生「……大丈夫、司令官もこんな灼熱の場所を冒険したんだから私も頑張らないと……」

ナビルー「……よし、もう少し進んだ先にテントを張れる場所があったはず。あそこは陰になつてから少しは暑さをしのげると思うぞ？」

デブリ「だ、だけどこんなに暑すぎるのは少しおかしいだろ？」

ナビルー「そ、そうかな？ 噴火の前触れとか？」

デブリ「わかんねえよ。で、でも確かなんか聞いたことあるぜ」

ナビルー「なんかって？」

デブリ「火山とか砂漠とか普段以上に暑くなっているのはry」

コタロー「!!」

ナビルー「ど、どうした？」

デブリ「お、おい。あ、あれをしてみるよ……」

弥生「……何かこつちに飛んで来てる……?」

ナビルー「あの形そして周りが更に熱を帯びた感じ……あれはもしや……!!」
??「グオオオオオツ!!」

ナビルー「みんな避けろ!!」

デブリー「つ、突っ込んできやがったーっ!?!」

コタロー「(; . . ;)」

弥生「あれって……古龍!?!」

デブリー「おいおい嘘だろ!?!なんでこの火山に古龍がいるんだよ!?!」

ナビルー「ウラガンキンが鉾山に逃げたのも、火山がこんなにもすんごい暑くなつたのも……テオ・テスカトルが原因か!」

テオ・テスカトル「グオオオオオツ!!」

弥生「あれが『炎王龍』テオ・テスカトル……!?!」

△12 銀翼の流星

i n 遺郡嶺

ジン「ここが遺郡嶺か」フウ

ベル「け、結構険しい道のりだったね…」ゼエゼエ

ジン「最近ダラシネエナ？」（…ω…）

ベル「なんかこのくだりいるの？」

提督「この遺郡嶺にバルフアルクがいるのか…」

ジン「…霞達が心配か？」

提督「古龍との戦いになると危険だし仕方ないが…俺達よりもずっと心配しているだろうな。はやく決着をつけて無事に帰ろう」

ジン「ああ…油断はしない」

提督「よし、さつそくさらに高いところへ向かおう！」

ベル「ええっ!?もう行くの!？」

ジン「ダラシネエナ」

提督「ほら頑張れ、これが終わったら鹿島が美味しいコーヒー淹れてくれるってさ」

ベル「…」（。㊦。）

i n 遺郡嶺、高山エリア

ベル「さあ二人とも!!もつと高いところへ登っていくよ!!」（、㊦。）ノ

提督「ま、待ってベル!早すぎるだ!ペース配分考えて!?!」

ジン「現金な奴…」

ベル「ほらほら!どんどん突き進むよ!」スタスタスタ

提督「やれやれ…どこか途中で休憩しないとな」

ジン「…!クロード、何か聞こえないか?」

提督「む?」

キイイイイイン……

提督「この音、これってもしかや…」

キイイイイイン……!!

ジン「しかも近づいて来てる。どこだ…!」

キイイイイイン!!

提督「真上だ!ベル!!離れろ!!」ダッ

ベル「ひよ?っとうおわっ!?!」

ドドドドドドドツ!!

ジン「クロード! ベルツ!!」

ベル「こ、こっちは大丈夫!」ケホケホ

提督「か、間一髪だったな…」ヒヤヒヤ

ジン「というかまさか向こうから来るなんてな…」

バルファルク「キュオオオオオツ!!」咆哮

ベル「しかもやる気満々だね…!!」つネロ||ラーズ

ジン「望むところだ」つ真・狼牙刀【寂滅】

提督「さあいくぞ!」つエピタフニオテイタ

バルファルク「(皿) (皿) (皿) 高速低空突進

ベル「さっそく来たっ!」緊急回避

ジン「ふん…!」ジャスト回避

提督「よつと!」回避

ベル「ちよ、なんでもう軽々回避できるの!」

バルファルク「(皿) (皿) (皿) つ三三三三三三三」龍気弾

ベル「おつとつと…近づけさせないつもりだろうけど、そうはいかないよ!」近づい

て斬りこみ

ジン「まずはどうする…!!」一文字斬り

提督「取りあえずこかす!」抜刀斬り

バルファルク「へ三(皿)」翼脚突き刺し

ジン「ぶっ!」…ε。()

ベル「このっ!」鬼人化回転斬り

提督「もういつちよ!!」溜め斬り

バルファルク「(皿)三つ」翼脚薙ぎ払い

提督「が、ガードっ!」大剣ガード

ベル「あぶっ!」回避

バルファルク「(皿)っ」バツ

提督「まずっ!? サマーソルトかつ!」

ジン「させるか…!!」桜花気刃斬

バルファルク「(皿)」怯み

提督「ジン! ナイス!!」

ベル「助かったよ!」

ジン「まだだ! 手を抜くなよ!」

バルファルク「キュオオオオオツ!!」咆哮

ジン「ついに怒ったか…!!」

提督「こつから正念場だ!」

バルファルク「(、皿、#) 三三三三」高速低空突進

ジン「来たぞ!」回避

提督「うおっと!」

バルファルク「三三三三三(＃、皿、＃)」往復高速低空突進

ベル「もう二度目はくらわないよ!!」回避

提督「あべばーっ!」(、3、) ……

ベル「なんでええ!」っ【生命の粉塵】

バルファルク「(三三、皿、#)」翼脚突き刺し

ジン「つと、そいつ!!」回避して気刃斬り

ベル「これでもくらえっ!」乱舞

バルファルク「●三(、皿、)っ三●」龍気弾爆発サマーソルト

ジン「ふべしっ!」(、皿、) ……

ベル「ぎゃばすっ!」……(、ε、)

提督「ジン、ベルっ!!」っ【生命の粉塵】

バルファルク「(、皿、)」チャージ

ベル「ちよ、あいつなにか溜めこんでるよ!?」

ジン「息を大きく吸って龍気を溜めこんでるんだ！あれがたまる前に止める!!」

提督「うおおおっ！任せろ!!」ムーンブレイク

＼BOMB!!／

バルファルク「(、皿、)」大ダウン

提督「つしやあ！」

ベル「ナイス!!」

ジン「今のうちに畳みかける!!」

ベル「いけいけいけええっ！」乱舞

ジン「とにかく削れ！」氣刃大回転斬り

提督「これもくらえ!!」超溜め斬り

バルファルク「(三三、皿、#)」翼脚薙ぎ払い

ジン「つと！」ジャスト回避

提督「っ！」ガード

ベル「あひーっ!」回避

バルファルク「キュオオオオオッ!!」翼を広げる

ベル「げっ!?ま、まさかあの時みたいに飛んで突っ込んでくるやつか!」

ジン「それだけはまずい、止める!!」

提督「させるかああああつ!」ダツシユ

ベル「え、ちよっ」

提督「そいやっ!!」ジャンプしてライド

バルファルク「三三三(、皿、)っ」ドウツ!!

ベル「ちよ、ちよっと!?バルファルクの背中に乗って飛んでちやっただよ!」

ジン「クロード!今度は振り落とされるな!!」

ベル「いやいやいや!?かなりの速さで飛ぶんだよ!」

ジン「やるしかないだろ…」

ベル「…クロード、ガンバレ!!」

キイイイイイイン

提督「あばばば!?す、すっごい風圧!」グググググ

キイイイイイイン!!

提督「だが…ま、負けんぞおおおつ!」ヨジヨジ

バルファルク「三三三三三(、皿、)っ」高速飛行中してターン

提督「うおおおつ!?きゅ、急に曲がるんじゃない!って、こいつジン達のとことに急降

下するってか！」

ゴオオオオッ!!

提督「時間がない…!! 兎に角止めないと! 確か…あの時のアレは…あ、あつた! ここか…よし」

バルファルク「C(、皿、#)つ三三三三三三」彗星

ベル「げえっ!? こ、こつちに突っ込んでくるよ!?」アセアセ

ジン「クロードを信じろ…!!」

提督「うおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおあああつ!」ザックザックザックザックザック

バルファルク「Σ(、皿、;)」

ベル「な、なんか急に軌道がおかしくなったね…」

ジン「すごいグネグネしだな…」

提督「おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおあああつ!」ザクザクザクザクザクザク

バルファルク「三三三三三三(、;、皿、)」

ガキンツ

提督「よしっ! 取れry」

バルファルク「(； 皿、) 三三三三」急降下

提督「うそでしょおおおおおっ!？」

ベル「こ、こつちに落ちてくるよおおお!？」

ジン「走れ!」

ズザザザザザザ!!

ベル「げほげほっ…だ、大丈夫!？」

ジン「クロード!! 無事か!？」

提督「だ、大丈夫…な、なんとか…」ヨロヨロ

ベル「あんな高いところから急降下したらびっくりするよ!!」つ【生命の粉塵】

ジン「それでどうだ?」

提督「ああ…取りあえずは原因がわかったけども…」

バルファルク「キュオオオオオツ!!」

ベル「げげっ!? まだピンピンだよ!？」

ジン「っ…!」

ドウツ!!

ベル「と、飛んだ!?!…ってあれ? 軌道がこつちに飛んでこない?」

ジン「遠くへ飛んでったな。逃げたのか?」

提督「いや、おそらくだがもう大丈夫だ」

ベル「え? どういうことなの?」

提督「今後はもう被害はでない…だろうな」

ジン「そうか…なら追わなくていいか」

ベル「え? え? 本当にどうということなの!?!」

ジン「お前最近ダラシネエナ」

ベル「なんで!?!」

ドンドルマインギルド本部

霞「で? 何か言うことはないの?」ゴゴゴゴゴ

提督「(; 皿、)」正座

金剛「ワーオ…霞ちゃん、かなり怒ってマスね?」

木曾「まあしょうがないよなあ…」

霞「危ないことはしないでって言ったのに、何? ジンさんから聞いたけども高速で飛ぶバルファルクの背中に乗ったまま乗り攻撃してた? 一歩でも間違ってたら真逆

さまって?」ゴゴゴゴゴゴ

提督「で、でもそれはry」

霞「は?」ゴゴゴゴゴゴ

提督「な、なんでもございませぬ」

霞「何度も何度も私の心臓が止まるような事はしないでちょうだい」

提督「も、申し訳ございません」土下座

明石「完全に尻に敷かれてるわね…」

ジン「m9（^皿^）」

瑞鶴「ジンさんも人のこと言えないでしょ?後でお話があるからね?」

ジン「」

ベル「まあクロードだし仕方ないよ」苦笑い

鹿島「でも高速で飛ぶ龍の背中に乗ったまま戦うって危険じゃないですか?」

ベル「うん、めっちゃ危険だね…」

提督「(; ω ;)」

霞「……でも、無事に帰ってきてくれて嬉しかったわ。おかえりなさい、司令官」

ギユッ

提督「か、霞…ただいま」

不知火「やっぱりツンデレですね」

霞「う、うるさいわね！」

団長「はっはっは!! 何はともあれよくやった!! クロード、もうバルファルクの件は大丈夫だな」

提督「はい、原因が取り除けましたしもう被害は出ないでしょう」

明石「提督、そのどうしてバルファルクは暴れてたんですか？」

提督「それはな……ストレスだ」

艦娘達「……ええええっ!!」

瑞鶴「す、ストレスで!」

霞「イライラしてたってこと!」

金剛「む、無茶苦茶ですよ!」

提督「まあまあ、驚くとは思いますがバルファルクのストレスの原因がこれだったんだ」

木曾「黒いとげ……? というかかなり大きいな」

不知火「……? なんですかこれ？」

ジン「霊峰で戦っていた時にクロードが見つけたんだ。バルファルクの背中に突き刺さっていたんだと」

提督「どうしても手が届かないどうにもならない箇所には刺さってたんだ。例えば……背

中がかゆいけど手の届かない、そうになったらどう思う？」

瑞鶴「それはもどかしくなるわね。むしろイライラしちゃうかも」

鹿島「もしかしてその棘がどうにもならなくて気性が激しくなったんですか？」

提督「そう。人ならどうこうできるが自然界じやどうにもならない。背中に刺さった棘をどうにかしようとしてバルファルクは暴れていたんだ」

金剛「そのために飛行船や船に突撃してたのですか……？」

ジン「人にとつちや厄介な話だが生き物にしちやどうにかしたい話だ」

ベル「まあね……過去にも似たような話はあったしね」

団長「それに加えて……鱗から調べた結果、あのバルファルクはかなりの老齢だったんだ。このバルファルクにとって背中に刺さった棘はかなり悩まされていただろう」

霞「しこりが取れたなんとかし、無事に解決してよかったわね」

提督「ああ、でも……残った問題がある」

不知火「この棘ですか？」

提督「うむ。この棘はどの生物のものなのか、あの古龍であるバルファルクにつけたものだから相当な奴だろう……もしかしたらまだ何かあるのかもしれない」

霞「今度はそれを調べるのね？」

提督「そうだな……でもその前に」

霞「その前に？」

提督「今夜は飲むぞ！祝勝会だ！」

ジン「ヒヤッハー!! 待ってました！」三三＼(^ o ^)／

瑞鶴「ジンさん、飲み過ぎはだめよ？」ガッ

ジン「

鹿島「ベルさんもお疲れ様でした」っコーヒー

ベル「…いよっしやああああああっ！」三三三三＼(^ o ^)／

鹿島「べ、ベルさん!？」

明石「不知火、確保ね」

不知火「わかりました」ガッ

ベル「あべしっ!？」

鹿島「べ、ベルさあああん!？」

◇ 23 出撃準備!!

i n 執務室

アール「いやー、ついにやったな天龍！」

ふ

天龍改二「へへー!…:ようやく俺も改二になれたぜ!!」

龍田「天龍ちゃん、これでお揃いになったわね」ウフフ

グレイ「改二おめでとう、ザラ」

ザラ改二「えへへ、ありがとうございます」テレテレ

初月「普通の近代化改修でなんだかほつとしたような、何だか寂しいような…」

加賀「いつもはジンさんやアールさんが鉱石とか素材とか使つて改二になつてしまつたりしてましたからね…」

大井「今頃提督たちは何をしてるんでしようねー」

ポーラ「改二おめでとうザラ姉様ーっ!!今日は祝い酒だよーっ!」ヒヤッハー!

ザラ「ちよ、ポーラ!?!朝からお酒を飲んじやだめでしょ!!」

ポーラ「今日は無礼講でしょー?ほら、グレイさんも飲んで飲んで!!」っワイン瓶

グレイ「え、ちょ、まっ」

天龍「いやー改二になってうれしくてたまらねえぜ!!」

アール「うんうん、それにしても…」ジーツ

天龍「うん? そんなに見つめてどうかしたのか?」

アール「…」ジーツ

天龍「??」タユーン

アール「…でつかくなつたよなあ」

in 執務室前

孫娘提督「ふう、報告資料は忘れてない?」

大和「はい、持ってますよ。途中で買ったプーギー人形と一緒にちゃーんと」

孫娘提督「そ、それはいらないでしょ! もう…ようやく調査が完了したからアールさん達に確認を取ってもらわないと」

大和「ええ、アールさん達はと思うでしょうか」

孫娘提督「解決のカギは彼らにかかっているからね…それにしても執務室がやけに騒がしいわね」

大和「何かあったんでしょうか?」ハテナ

孫娘提督「と、取りあえず入りましょ。アールさん、失礼するわよ？」ガチャリ

龍田「うふふふ、天龍ちゃんを厭らしい目で見る輩は処刑よ」拷問コブラツイスト

アール「あがあああああつ!？」

初月「あわわわわ…」

天龍「た、龍田！許してあげてって!？」

加賀「今日も見事に絞められていますね…」

大井「ほんとおバカは…」呆れ

ポーラ「ほーらほら！ 그레이さん、もっともっと飲んで!!」グイグイ

그레이「」

ザラ「ポーラ!? 그레이さん白目むいてる!？」ググググ

孫娘提督「…なにこれ」

数分後

アール「いやはや…一時はどうなることやら…」フウー

加賀「自業自得です」

龍田「次変な事したら目つぶしですよ」

アール「怖いな!？」

ザラ「グレイさん、お水です」

グレイ「あ、ありがとう…」

ポーラ「日本酒も飲みます?」

ザラ「ポーラ!!」プンスカ

アール「それで…:…なんだっけ?」

孫娘提督「なんだっけ、じゃないでしょ!ほら、導虫による超ど級弩深海棲艦の追跡

調査の報告よ!!この間手紙送ったでしょ!？」

アール「あ…:え?」

初月「ほら、アールさんが醤油こぼして醤油漬けになっちゃった手紙」

アール「お刺身食べようとしてやっちゃったあれか」

大井「何してんのお前はああああつ!!」デンプシーロール

アール「ゴメン又っ!？」(; ε (; ;)

加賀「ほんともうすみません」

孫娘提督「いいのよ…:アールさんだし」

アール「ソナー」(・ω・)

グレイ「それで調査の方はどうなったのかな？」

孫娘提督「そうね：導虫をたどって航路を進んでいった結果ある海域にその超弩級深海棲艦がいる可能性があることがわかったわ」

グレイ「ある海域？」

大和「これが導虫が辿ったルートをまとめた海図です」

孫娘提督「ある海域に向かおうとしたら導虫が赤く光って動こうとはしなかったの」
アール「ふむ：この円を描いたように空いた箇所がその海域ってやつか？」

孫娘提督「ええ、おじいちゃ：元帥殿にも報告したら、この海域は本土より定められた近づいてはいけない海域だったの」

グレイ「どゆこと？」

孫娘提督「話によると50年前、ある商船がこの海域で消息を絶った。深海棲艦の襲撃かと艦隊を向かわせたら同じように消息を絶ち、更に各鎮守府による連合艦隊を編成し向かわつても帰ってこなかった」

天龍「なにそれ超こええな：」

大和「ただ、唯一帰ってきた艦載機の報告によると発艦して上空から見下ろすとその海域の中央には砂の小島が見えた。しかし発艦させた艦娘のもとへと戻ろうとした

ら海上に蠢く巨大な何かが見え、その場に艦娘の姿がなかったとも言っていました」

孫娘提督「あの海域に何か深海棲艦よりもおそろしいものがあるんじゃないかと大本营は考え、今後この海域には近づかないようにと決めたのよ」

グレイ「…砂…蠢く巨大なもの…」ブツブツ

加賀「グレイさん、どうかしましたか?」

孫娘提督「それでアールさんはどう考えるか意見を聞こうと思ってきたのよ」

アール「うし、早速行ってみつか」

大井「待てえええい!!」ラリアット

アール「シヨゴスツ!」

大井「話聞いてましたか!」

加賀「連合艦隊を編成しても無事に帰ってこなかったと、それほど危険な海域なのですよ?」

アール「だからこそだ。そいつの正体と真相を確かめねえと」

ザラ「ですが各地の鎮守府を襲撃している相手ですよ…?」

アール「その場合は俺達ハンターだけで向かうつもりだ。お前たちには危険な目には遭わせないようにするさ」

孫娘提督「でもそれじゃry」

初月「駄目だ」キツ

アール「ひよ？」

初月「アールさん、駄目だよ」

アール「は、初月さん？ちよ、ちよーつと怒ってます…？」

加賀「初月が怒るのも当然です」ウンウン

初月「言ったじゃないか、誰一人として欠けちやいけないって。いなくならないです。アールさんはすぐそうやって無茶してケガするんだから」

アール「だ、だが…」

初月「だがじゃない！」プンスカ

アール「(；；)(；；)」

グレイ「初月の言う通りだ、何も焦ることはない。俺達ハンターだけじゃない、艦隊に彼女達がいる。力を合わせるべきじゃないのか？」

孫娘提督「そうよ！こういう時こそ連合艦隊をもう一度結成させて迎え撃ってやろうじゃないの！」

大和「今回はアールさん達という心強い味方もいますもの！」

アール「…：…：そうだな、そうだよな。焦つちやいけねえ。連合艦隊を編成してその海域に向かおう」

初月「…うん！そこなくっちゃ」

長門「話は聞かせてもらった！」ドアから

ザラ「え、ええっ!?長門さん!」

アイオワ「Y e a !!全艦隊いつでも戦闘できるよう支度しておきマース!!」クロ
ゼットから

グレイ「ちよ、いつの間にも!」

ガングート「アールさん、指揮するのは貴様であろう?期待に応えられるよう練度は上げておく。期待しておけ!」天井から

大井「…皆さん待ちきれなかったみたいですね」

孫娘提督「何はともあれ、決まったからには各鎮守府にも伝えておくわ。今度こそ奴の正体を暴いて見せましょう!指揮は任せたわよ!!」ノシ

大和「ではまた後日お知らせいたしますね」ノシ

天龍「嵐のように去ってったな…」

龍田「うふふ、でもまた忙しくなるみたいね」

加賀「私達も急いで準備しなくてはいけませんね」

グレイ「うーん、ついでにウィルにも伝えておくか」

長門「うむ、ホップ達もいるとより心強い」

アール「……え、ちょ、待って、俺が指揮すんの!」

数日後

i n 母港

アール「えっほえっほ」つ大砲の弾

グレイ「ミケ、黒丸。バリスタの矢はこれで全部か?」

黒丸「はいニヤ!! 木箱に積んでまとめておいたニヤ」

ミケ「第二イサナ号に積めるだけ積んで、あとは他の鎮守府の船に配布するニヤ」

グレイ「うし、後はその鎮守府の船にバリスタが置かれるかどうかだな」

アール「えっほえっほ……つかお前らも大砲の弾運ぶの手伝えよ!」

ザラ「……なんですかあれ」

龍驤「第二イサナ号専用の大砲の弾とバリスタの矢や」

ザラ「いやですからなんでこう主砲とか副砲がないんですか!」

長門「アールさん達だからであろう」ウンウン

ザラ「いや納得されても……」

北上「でも提督曰く、その弾と矢で砂の海を駆ける巨大なクジラみたいな龍を撃退したことがあるってさー」

ヴェールヌイ「他にも山脈よりもでかいカニとか、ラオシャンロンとか」

ザラ「ますますわからなくなってきたわ…」

雷「アーロさん！私達が大砲の弾を運ぶの手伝うわ！」

電「お、重いのですうー…」プルプル

アーロ「あ、あまり無茶しちゃだめだからなー」

島風「おもーいけどおっそーい！」わっせわっせ

長波「こ、こけないようにしろよー？」

アーロ「そうだぞー。こけて落としたらそれ爆発するからな」

雷&電「えっ!!」

島風「おうっ!!」ツルツ 三●

アーロ「ぎゃーっ!!言ったそばからあ!!」ダツシユしてキヤツチ

長波「おおー、アーロさんナイスキヤツチ！」

アーロ「ふうー…あぶねえあぶねえ」

初月「アーロさん!!大変だ！」アタフタ

アーロ「おお?どうした初月?なんかの特売日か?」

初月「今日は卵が半額…ってそうじゃない!孫娘提督殿から電報が!!」

アーロ「なんだって!!今日は彼女の誕生日かつ!!」

大井「真面目に聞かんかああああつ!!」アームロツク

アール「あがあああつ!？」

北上「大井つち、それ以上いけない」

アール「そ、それでなんて…?」

初月「例の海域にいるであろう超弩級深海棲艦が急に出現したんだ!」

アール「まじでか!?!それで、そいつは今どこに!?!」

初月「現れたのがこの海域で、そいつは北上していつていつて」つ海図

加賀「……ちよつと待つてください、その超弩級深海棲艦が向かう進路の先は…」

長門「……!?!まずい、止めることができなかつたら奴は本土に向かうぞ!?!」

アール「な、なんだって!?!やばい、急いで出撃するぞ!!」